平成20年度放送大学学部開設予定授業科目講義内容

平成19年11月発行
第　25　版

放送大学学園
教務部教務課

目　　次

1．共通科目（一般科目）		頁	メディア	単位
番号	（人文系）			
1	こころとからだ（’０７）－人間を理解する－※	1	R	2
2	コミュニケーション論序説（’０７）※	4	R	2
3	哲学への誘い（’０８）※（平成２０年度開設科目）	7	R	2
4	日本語表現法（’０７）※	10	R	2
5	世界の名作を読む（’０７）※	13	R	2
6	歴史と人間（’０８）※（平成２０年度開設科目）	16	TV	2
7	人類の歴史・地球の現在（’０７）－文化人類学へのいざない－※	19	TV	2
8	心理学入門（’０６）	24	TV	2
9	認知心理学概論（’０６）	27	TV	2
10	精神分析入門（’０７）	30	R	2
11	心理臨床の基礎（’０８）（平成２０年度開設科目）	33	R	2
12	発達と教育の心理学的基盤（’０５）	36	R	2
13	社会心理学の基礎と応用（’０８）（平成２０年度開設科目）	39	R	2
14	基礎教育学（’０７）	42	R	2
15	学校教育論（’０８）（平成２０年度開設科目）	45	R	2
16	現代を生きる哲学（’０７）	48	R	2
17	倫理思想の源流（’０５）	51	R	2
18	生命と人生の倫理（’０５）	55	TV	2
19	現代思想の地平（’０５）	58	R	2
20	音楽理論の基礎（’０７）	61	TV	2
21	日本語学概説（’０６）－母語のすがた－	64	R	2
22	国文学入門（’０８）（平成２０年度開設科目）	67	R	2
23	文学の愉しみ（’０８）（平成２０年度開設科目）	69	R	2
24	東アジアのなかの日本文化（’０５）	72	R	2
25	人文地理学（’０８）（平成２０年度開設科目）	75	TV	2
26	博物館概論（’０７）	78	TV	2
	（社会系）			
27	生活とリスク（’０７）※	81	R	2
28	問題発見と解決の技法（’０８）※（平成２０年度開設科目）	84	TV	2
29	市民と社会を考えるために（’０７）※	87	R	2
30	市民と社会を知るために（’０８）－名著に触れよう－※（平成２０年度開設科目）	91	R	2
31	市民社会と法（’０８）（平成２０年度開設科目）	95	R	2
32	日本国憲法（’０５）	98	TV	2
33	社会と知的財産（’０８）（平成２０年度開設科目）	101	TV	2
34	政治学入門（’０７）	104	TV	2
35	経済社会の考え方（’０７）	107	R	2
36	経済学入門（’０８）（平成２０年度開設科目）	113	R	2
37	２１世紀の社会学（’０５）	116	TV	2
38	住まい学入門（’０７）	119	TV	2
39	社会福祉入門（’０８）（平成２０年度開設科目）	122	TV	2
40	社会調査（’０５）	125	TV	2
41	国際経営論（’０５）	128	TV	2
42	経営学入門（’０７）	131	R	2
43	グローバル経営戦略（’０６）	134	R	2
44	現代の会計（’０８）（平成２０年度開設科目）	137	TV	2
45	現代の生活問題（’０７）	140	R	2
46	仕事・所得と資産選択（’０８）（平成２０年度開設科目）	143	R	2
47	現代世界の結婚と家族（’０８）（平成２０年度開設科目）	146	TV	2
48	統計学入門（’０４）	149	R	2
49	社会統計学（’０７）	151	R	2

※は基礎科目を示す。　＊は総合科目を示す。

		頁	メディア	単位
	（自然系）			
50	初歩からの数学（’０８）※……（平成２０年度開設科目）…	154	TV	2
51	数学再入門（’０７）※……	156	TV	2
52	身近な統計（’０７）※……	159	TV	2
53	初歩からの物理学（’０８）－物理へようこそ－※　（平成２０年度開設科目）…	162	TV	2
54	物理の考え方（’０７）※……	166	TV	2
55	初歩からの化学（’０８）※……（平成２０年度開設科目）…	170	TV	2
56	初歩からの生物学（’０８）※……（平成２０年度開設科目）…	173	TV	2
57	科学的な見方・考え方（’０７）※……	176	R	2
58	エネルギー学の基礎（’０７）※……	179	TV	2
59	物質循環と人間活動（’０７）※……	182	TV	2
60	かしこくなる患者学（’０７）※……	185	R	2
61	初歩からの微積分（’０６）……	188	TV	2
62	線型代数入門（’０３）……	191	TV	2
63	確率・統計の基礎（’０５）……	193	R	2
64	解析入門（’０８）……（平成２０年度開設科目）…	195	TV	2
65	情報科学の基礎（’０７）……	198	TV	2
66	物理の世界（’０７）……	201	TV	2
67	基礎化学（’０６）……	206	TV	2
68	生物学の歴史（’０５）……	209	R	2
69	生物集団と地球環境（’０７）……	212	TV	2
70	疾病の成立と回復促進（’０５）……	215	TV	2
71	人体の構造と機能（’０５）……	218	TV	2
72	疾病の回復を促進する薬（’０７）……	221	TV	2
73	変化する地球環境（’０４）……	225	TV	2
74	宇宙とその歴史（’０４）……	228	TV	2
75	宇宙観の歴史と科学（’０８）……（平成２０年度開設科目）…	230	TV	2
76	惑星地球の進化（’０７）……	232	TV	2
77	実験科学とその方法（’０６）……	235	TV	2

２．共通科目（外国語科目）

	（英語）			
78	英語の基本（’０８）※……（平成２０年度開設科目）…	239	TV	2
79	英語基礎Ａ（’０５）－Welcome to Japan－……	242	R	2
80	英語講読（’０８）……（平成２０年度開設科目）…	245	R	2
81	英語中級Ｂ（’０６）－ＢＢＣドラマで学ぶ－……	247	TV	2
82	英語総合Ａ（’０５）－歴史・文化・社会－……	250	R	2
83	英語総合Ｂ（’０７）－Poem into Song－……	253	R	2
	（ドイツ語）			
84	ドイツ語入門Ⅰ（’０６）……	256	TV	2
85	ドイツ語入門Ⅱ（’０６）……	259	R	2
86	ドイツ語基礎（’０６）……	261	R	2
	（フランス語）			
87	フランス語入門Ⅰ（’０６）……	264	TV	2
88	フランス語入門Ⅱ（’０６）……	267	R	2
89	フランス語基礎（’０６）……	270	R	2

※は基礎科目を示す。　＊は総合科目を示す。

		頁	メディア	単位
	(中国語)			
90	中国語入門Ⅰ（’０５）……	273	TV	2
91	中国語入門Ⅱ（’０５）……	276	R	2
92	中国語基礎（’０８）…… （平成２０年度開設科目）…	279	R	2
	(ロシア語)			
93	ロシア語入門Ⅰ（’０５）……	281	R	2
94	ロシア語入門Ⅱ（’０５）……	284	R	2
	(スペイン語)			
95	スペイン語入門Ⅰ（’０７）……	286	R	2
96	スペイン語入門Ⅱ（’０７）……	289	R	2
	(韓国語)			
97	韓国語入門Ⅰ（’０６）……	292	TV	2
98	韓国語入門Ⅱ（’０６）……	295	R	2
	(日本語)			
99	日本語基礎Ａ（’０６）……	298	TV	2
100	日本語基礎Ｂ（’０７）……	301	R	2
	(アラビア語)			
101	初歩のアラビア語（’０６）－アラブ・イスラーム文化への招待－……	305	TV	2

３．共通科目（保健体育）

102	保健体育（’０５）－健康志向と競技志向の運動－……	309	TV	2

４．共通科目（主題科目）

	(主題科目)			
103	表象としての日本（’０４）－西洋人の見た日本文化－……	312	TV	2
104	情報と社会（’０６）……	315	TV	2

※は基礎科目を示す。 ＊は総合科目を示す。

５．専門科目

	生活と福祉	頁	メディア	単位
	（生活一般）			
105	生活の動態と経営（’０５）	317	R	2
106	家族のストレスとサポート（’０８）（平成２０年度開設科目）	320	R	2
107	人口減少社会の生活像（’０６）	323	R	2
	（衣・食・住）			
108	衣生活の科学（’０６）	326	R	2
109	服飾と心理（’０５）	329	TV	2
110	日本の食文化（’０４）	332	TV	2
111	食と健康（’０６）－食品の成分と機能－	335	TV	2
112	食品の安全性を考える（’０８）（平成２０年度開設科目）	339	R	2
113	暮らしの防犯と防災（’０６）	342	TV	2
114	住まいの構造・構法（’０４）	346	TV	2
	（健康科学）			
115	公衆衛生（’０５）	348	R	2
116	脳科学の進歩（’０６）－分子から心まで－	351	TV	2
117	感染症と生体防御（’０８）（平成２０年度開設科目）	355	R	2
118	がんの健康科学（’０６）	359	TV	2
119	リハビリテーション（’０７）	363	R	2
120	看護学概説（’０５）	366	R	2
121	基礎看護学（’０４）	369	TV	2
122	在宅看護論（’０４）	372	TV	2
	（社会福祉）			
123	少子化時代の児童福祉（’０７）	375	R	2
124	障害者福祉論（’０５）	378	R	2
125	高齢期を支える社会福祉システム（’０７）	381	TV	2
126	身体福祉論（’０７）－身体運動と健康－	384	TV	2
127	地域福祉論（’０６）	387	R	2
128	市民生活における社会保険（’０８）（平成２０年度開設科目）	390	R	2
129	アジアの社会福祉（’０６）	393	R	2
130	変動する社会と暮らし（’０７）＊	396	R	2
131	国際共生に向けた健康への挑戦（’０８）＊（平成２０年度開設科目）	400	TV	2
132	社会福祉における権利擁護（’０８）＊（平成２０年度開設科目）	404	R	2
133	欧米の社会福祉（’０７）＊	407	TV	2

※は基礎科目を示す。　＊は総合科目を示す。

	発達と教育	頁	メディア	単位
	(心理学)			
134	心理学研究法（’０８）……（平成２０年度開設科目）…	410	R	2
135	心理学史（’０５）……	413	TV	2
136	認知科学の展開（’０８）……（平成２０年度開設科目）…	417	TV	2
137	計量心理学（’０６）……	421	TV	2
138	基礎発達心理学（’０６）……	424	R	2
139	応用心理学（’０５）……	427	TV	2
140	神経心理学（’０６）……	430	R	2
141	感情の心理学（’０７）……	433	R	2
142	記憶の心理学（’０８）……（平成２０年度開設科目）…	436	TV	2
143	子ども・青年の生活と発達（’０６）……	439	TV	2
	(教育学)			
144	教育の社会史（’０８）……（平成２０年度開設科目）…	443	R	2
145	教育社会学（’０７）……	446	TV	2
146	大学と社会（’０８）……（平成２０年度開設科目）…	449	TV	2
147	道徳教育論（’０５）……	452	TV	2
148	地域教育の創造と展開（’０８）……（平成２０年度開設科目）…	455	R	2
149	生涯学習と自己実現（’０６）……	458	R	2
150	転換期の教師（’０７）……	461	R	2
151	特別支援教育基礎論（’０７）……	464	R	2
152	発達障害の教育支援法（’０６）……	467	TV	2
153	特別支援教育総論（’０７）……	470	R	2
154	幼児の教育と保育（’０４）……	473	R	2
155	生徒指導（’０６）……	475	TV	2
156	授業研究と談話分析（’０６）……	478	R	2
	(臨床心理学)			
157	乳幼児・児童の心理臨床（’０７）……	481	TV	2
158	カウンセリング概説（’０５）……	484	R	2
159	スクールカウンセリング（’０５）……	487	TV	2
160	保育カウンセリング（’０８）……(平成２０年度第２学期開設科目)…	490	R	2
161	人格心理学（’０４）……	493	TV	2
162	発達障害児の心と行動（’０６）……	496	TV	2
163	進化と人間行動（’０７）＊……	499	TV	2

※は基礎科目を示す。　＊は総合科目を示す。

	社会と経済	頁	メディア	単位
	(法律学)			
164	裁判の法と手続（’０８）……（平成２０年度開設科目）…	502	TV	2
165	市民生活の財産法（’０６）……	505	TV	2
166	雇用・福祉・家族と法（’０７）……	507	TV	2
167	企業の組織・取引と法（’０７）……	510	R	2
168	行政法と市民（’０６）……	513	R	2
169	刑法（’０５）……	516	R	2
170	国際関係法（’０６）……	519	R	2
171	著作権法概論（’０６）……	523	R	2
	(政治学)			
172	ヨーロッパ政治史（’０５）……	525	R	2
173	比較政治－中南米（’０８）……（平成２０年度開設科目）…	528	R	2
174	第三世界の政治（’０５）－パレスチナ問題の展開－……	530	R	2
175	現代の国際政治（’０８）－９月１１日後の世界－……（平成２０年度開設科目）…	533	TV	2
176	日本政治思想史（’０５）－「自由」の観念を中心に－……	536	R	2
177	西洋政治思想史（’０５）……	539	R	2
178	現代日本の政治（’０７）……	541	R	2
179	現代行政分析（’０８）……（平成２０年度開設科目）…	544	R	2
180	日本政治外交史（’０７）－転換期の政治指導－……	546	TV	2
181	現代東アジアの政治（’０４）……	549	R	2
	(経済学)			
182	現代経済学（’０５）……	551	TV	2
183	労働経済（’０８）……（平成２０年度開設科目）…	553	TV	2
184	財政学（’０５）……	556	TV	2
185	国際経済学（’０５）……	559	R	2
186	日本経済史（’０８）……（平成２０年度開設科目）…	562	R	2
	(社会学)			
187	現代コミュニティ論（’０６）……	565	TV	2
188	ジェンダーの社会学（’０８）……（平成２０年度開設科目）…	568	R	2
189	自我の社会学（’０５）……	570	R	2
190	フィールド社会心理学（’０４）……	573	R	2
191	社会階層と不平等（’０８）……（平成２０年度開設科目）…	576	TV	2
192	消費者と証券投資（’０７）＊……	579	TV	2
193	途上国の開発（’０７）＊……	582	TV	2
194	幸福の社会理論（’０８）＊……（平成２０年度開設科目）…	585	R	2

※は基礎科目を示す。　＊は総合科目を示す。

	産業と技術		頁	メディア	単位
	（経営学）				
195	２１世紀の女性と仕事（’０６）		587	TV	2
196	イノベーション経営（’０５）		590	TV	2
197	マーケティング論（’０８）	（平成２０年度開設科目）	593	R	2
198	管理会計（’０６）		596	R	2
199	簿記入門（’０６）		599	R	2
200	ビジネス･ファイナンス（’０８）	（平成２０年度開設科目）	601	R	2
201	アーツ・マネジメント（’０６）		603	TV	2
202	企業統治と企業倫理（’０７）		607	TV	2
203	企業戦略と企業文化（’０８）	（平成２０年度開設科目）	609	TV	2
204	ＮＰＯマネジメント（’０７）		611	R	2
	（産業論）				
205	日本の製造業の新展開（’０５）		614	R	2
206	ベンチャー企業論（’０５）		617	R	2
207	アグリビジネスと農業・農村（’０６）－多様な生活への貢献－		619	R	2
	（工学・技術）				
208	社会技術概論（’０７）		623	TV	2
209	エネルギー工学と社会（’０６）		626	TV	2
210	物質・材料工学と社会（’０５）		631	TV	2
211	バイオテクノロジーと社会（’０５）		634	TV	2
212	情報技術と社会（’０５）		637	TV	2
213	日本の技術革新（’０８）	（平成２０年度開設科目）	641	TV	2
214	コンピュータのしくみ（’０８）	（平成２０年度開設科目）	644	TV	2
215	デザイン工学（’０８）	（平成２０年度開設科目）	647	TV	2
216	都市と防災（’０８）	（平成２０年度開設科目）	650	TV	2
217	人間活動の環境影響（’０５）		653	TV	2
218	日本のマスメディア（’０７）＊		656	R	2

※は基礎科目を示す。　＊は総合科目を示す。

	人間の探究	頁	メディア	単位
	(哲学)			
219	ギリシャ哲学（’０３）……	660	R	2
220	自己を見つめる（’０２）……	662	R	2
221	仏教の思想（’０５）……	664	R	2
222	日本の思想（’０８）……（平成２０年度開設科目）…	667	R	2
	(文学・言語文化)			
223	日本語の歴史（’０５）……	670	R	2
224	日本語基礎Ａ（’０６）－文法指導法と学習－……	673	TV	2
225	日本語基礎Ｂ（’０７）－コミュニケーションと異文化理解－……	676	R	2
226	文献学（’０８）……（平成２０年度開設科目）…	680	TV	2
227	日本の古典－古代編（’０５）……	683	R	2
228	日本の古典－散文編（’０６）……	686	R	2
229	日本の古典－江戸文学編（’０６）……	689	R	2
230	近代の日本文学（’０５）……	692	R	2
231	日本文学における住まい（’０４）……	694	R	2
232	２０世紀の中国文学（’０５）……	696	R	2
	(歴史・地域文化)			
233	考古学と歴史（’０４）……	699	TV	2
234	日本の古代（’０５）……	701	TV	2
235	日本の中世（’０７）……	704	TV	2
236	日本の近世（’０７）……	707	R	2
237	近代日本と国際社会（’０４）……	711	R	2
238	中国社会の歴史的展開（’０７）……	713	R	2
239	前近代の東南アジア（’０６）……	716	R	2
240	中央アジアの歴史・社会・文化（’０４）……	720	R	2
241	古代地中海世界の歴史（’０４）……	723	TV	2
242	ヨーロッパの歴史（’０５）……	726	TV	2
243	近代ヨーロッパ史（’０５）……	729	TV	2
244	アメリカの歴史と文化（’０８）……（平成２０年度開設科目）…	731	TV	2
	(美学・芸術論)			
245	芸術の理論と歴史（’０６）……	734	TV	2
246	芸術・文化・社会（’０６）……	737	TV	2
247	西洋音楽の諸問題（’０５）……	740	TV	2
248	現代日本社会における音楽（’０８）……（平成２０年度開設科目）…	742	R	2
249	演劇入門（’０６）－古典劇と現代劇－……	744	TV	2

※は基礎科目を示す。　＊は総合科目を示す。

		頁	メディア	単位
	(比較文化・地域研究)			
250	文化人類学（’０８）…… (平成２０年度開設科目)…	747	TV	2
251	資源人類学（’０７）……	751	TV	2
252	博物館経営・情報論（’０８）…… (平成２０年度開設科目)…	754	R	2

自然の理解

	(数学)			
253	数学基礎論（’０８）…… (平成２０年度開設科目)…	757	R	2
254	自然と社会を貫く数学（’０７）……	760	R	2
255	数理モデルとカオス（’０５）……	763	TV	2
256	数学とコンピュータ（’０６）……	766	TV	2
257	統計学とその応用（’０５）……	769	R	2
	(物質科学)			
258	現代物理（’０８）…… (平成２０年度開設科目)…	772	TV	2
259	運動と力（’０５）……	776	TV	2
260	光と電磁場（’０５）……	778	TV	2
261	熱と温度（’０８）…… (平成２０年度開設科目)…	781	TV	2
262	量子力学（’０５）……	784	TV	2
263	物質の科学・有機化学（’０６）……	787	TV	2
264	生命と金属の世界（’０５）……	790	R	2
265	分析によって知る世界（’０７）……	794	TV	2
	(生物科学)			
266	植物の生理（’０４）……	797	TV	2
267	分子生物学（’０５）……	799	TV	2
268	生物界の変遷（’０６）……	802	TV	2
269	動物の行動と生態（’０４）……	805	TV	2
270	細胞生物学（’０７）……	808	TV	2
	(宇宙地球科学)			
271	進化する宇宙（’０５）……	811	TV	2
272	宇宙からの情報（’０５）……	813	TV	2
273	数理ファイナンス（’０８）＊…… (平成２０年度開設科目)…	816	R	2
274	技術革新を支える物質の科学（’０８）＊…… (平成２０年度開設科目)…	819	TV	2
275	バイオサイエンスで豊かな暮らし（’０８）＊…… (平成２０年度開設科目)…	822	TV	2

※は基礎科目を示す。 ＊は総合科目を示す。

６．夏季集中科目

司書教諭資格取得に資する科目

		頁	メディア	単位
276	学校経営と学校図書館（’０４）	825	R	2
277	学校図書館メディアの構成（’０５）	828	R	2
278	学習指導と学校図書館（’０５）	831	TV	2
279	読書と豊かな人間性（’０４）	833	TV	2
280	情報メディアの活用（’０５）	836	TV	2

看護師資格取得に資する科目

281	成人看護学（’０５）	839	R	2
282	老年看護学（’０４）	842	R	2
283	小児看護学（’０５）	845	TV	2
284	母性看護学（’０５）	848	TV	2
285	精神看護学（’０４）	851	R	2

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	基礎科目	科目コード	1113313	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　こころとからだ（‘07）＝（R）
－人間を理解する－

〔主任講師（現職名）：　岩永　雅也（放送大学教授）　〕
〔主任講師（現職名）：　滝口　俊子（放送大学教授）　〕
〔主任講師（現職名）：　佐藤　禮子（兵庫医療大学副学長）〕

講義概要

われわれにとって、人間という存在は最も身近な存在であり、かつ森羅万象のすべてを理解するための基礎となる基準でもある。しかし、一方、われわれにとって人間はあらゆる意味で最も不可解な対象でもある。そうした容易には理解することのできない人間をどう読み解いていくか‥‥それはまさに学問の根源にもつながる永遠の重要なテーマであるともいえる。この講義では、人間理解に際して欠くことのできない概念である精神と身体について、その基本的な意味と仕組みに関する基礎知識および視点と考え方について、初歩から学習する。さらに、こころとからだの発達とその障害についても、基本的な事柄を学習する。その意味で、本科目は生活と福祉および発達と教育に関わるすべての科目の履修の基礎となる科目である。

授業の目標

人間のあり方をこころとからだの両面から理解するための基礎的な諸概念を知り、さらにそれら相互の関係を理解してもらう。また、人間のこころとからだに関わる諸事象を調べ、検討し、考察するに際して必要とされる最も基本的な認識方法も概略学習する。その上で、人間の発達を巡る諸問題を具体的に検討し、人間理解の魅力と奥深さを感じ取って欲しい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	人間を理解する	人間を理解するとはどういうことか、人間を構成する肉体と精神をどのように把握したらよいのか、そもそも、人間とはどのような存在だと考えればよいのか‥‥人間理解の出発点として、そうした基礎的な枠組みを確認する。	岩永　雅也	岩永　雅也 佐藤　禮子 滝口　俊子
2	生物としてのヒト	いうまでもなくヒトは霊長類ヒト科の生物である。種々の生物の中で、ヒトはどのような系統に属し、どのように発生し、どのような特徴を持った生き物なのか、といった事柄を検討し、その上で、そのことがいかなる生物的生理的な特性となって今のわれわれに現出しているのかを探る。	松本　忠夫	松本　忠夫
3	体の成り立ち	ヒトの身体は、きわめて精密に組み上げられた有機的なシステムである。その全体像と、ヒトとしての特徴や機能特性を解剖・生理学的な視点から理解する。	仙波　純一	仙波　純一

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	こころのとらえ方	人間の精神は、生物学的にいえば脳の機能そのものである。しかし、「こころ」と表現される抽象的な存在とそのありようは、必ずしも脳内の物理的な物質移動や電位差では説明し尽くせない不可解さを持っている。そうしたこころの不思議さとそのとらえ方について、心理学的な理解を試みる。	滝口　俊子	滝口　俊子
5	社会の中の人間	人間が他の生物と決定的に異なるのは、生まれつきの性能部分がきわめて少なく、誕生後にその大半を所属する集団から与えられることである。ここでは「社会化」概念を中心に据え、ヒトが人間になることの基礎を学習する。	岩永　雅也	岩永　雅也
6	ライフサイクル	人間が生まれ、肉体的な成熟を果たし、子孫を残し、やがて死を迎えるというライフサイクルの中で、「成長」や「発達」という概念が何を意味するのか、また、それらが人間の一生にどう位置付けられるのかについて考察する。	岩永　雅也	岩永　雅也
7	からだの発達	人間にとって、体が発達するとはどういうことか‥‥成熟と成長という概念との関わりも視野に入れつつ、身体の発達の概念とそのプロセスについて、生活する人間としての観点から考察する。	佐藤　禮子	佐藤　禮子
8	こころの発達	人間にとって、こころが成熟するとはどういうことか‥‥発達と成長という概念との関わりも視野に入れつつ、精神的な発達の概念とそのプロセスについて、心理学的な観点から考察する。	星　薫	星　薫
9	社会化と教育	教育とは、体系化された社会化の一形態である。人間の発達と成長、生活全般、あるいは一生のすべてに関わる教育の意味と重要性、あるいは付随する問題点などを大局的に検討する。	岩永　雅也	岩永　雅也
10	健康と病気	人間の身体は必ずしも常に健康な状態にあるわけではない。そもそも健康であるということはどういうことなのか、それが阻害された状態、つまり病気の状態とはどのようなものなのか、医学的な観点に限定せず、心理的、社会的な側面も含めて概括的に検討する。	佐藤　禮子	佐藤　禮子

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	保健と医療	人間は、個人として身体の健康を維持するだけでなく、集団としても相互の関わりの中で健康を維持する活動を行う。また、ひとたび怪我をしたり病気にかかってしまったりした場合には、医療が施される。そうした保健と医療の基本的な考え方について学習する。	多田羅浩三	多田羅浩三
12	こころの健康	人間の諸相のなかで最も理解が困難だと思われる「こころ」も、また身体と同様に病んでしまうことがある。こころの「病み」とは何か、どのように規定されるのかを理解し、翻って、そうでない場合、つまりこころの健康とは何かについても考察を深める。	齊藤　高雅	齊藤　高雅
13	心理臨床の視点	心の病みに深く関わる分野が心理臨床である。ここでは心理臨床が対象とするクライエントのありようを、さまざまな事例を通して理解し、心理臨床的なまなざしの意味と有効性について基礎的な理解を試みる。	滝口　俊子	滝口　俊子
14	集団への不適応	人間は社会的に存在するという際立った特徴を持っている。たとえ個体として身体も精神もともに健康であったとしても、集団との関係性の不十分さや齟齬が、不幸な状況を引き起こしてしまうことは決して少なくない。ここでは、そうした集団や社会への不適応について、原理的に学習する。	岩永　雅也	岩永　雅也
15	自立と調和	人間は、一方で個としての自立を求め（求められ）つつ、他方で非常に強く集団内での相互の調和と相互依存を求める（求められる）存在である。そのバランスの上に、われわれ人間は生きているといっても過言ではない。しかも、そのバランスは、時代によって、また社会によって大きく異なっている。われわれはその二つの課題とそのバランスをどう考えていったらよいのか‥‥本講義の最後に、自立と調和という重い課題をディスカッションしていきたい。	岩永　雅也	岩永　雅也 滝口　俊子 佐藤　禮子

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	基礎科目	科目コード	1112317	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　コミュニケーション論序説（‘07）＝（R）

〔主任講師（現職名）：　大橋　理枝（放送大学准教授）〕
〔主任講師（現職名）：　根橋　玲子（明治大学准教授）〕

講義概要

「人から人へと何かを伝えるというのはどういうことか」「人から人には何が伝わるのか」という2点をテーマに、コミュニケーション学の枠組みを骨格に据えつつ分野横断的な内容を組み立てる。毎回のテーマにそったゲストをお呼びして、それぞれの分野で、何をどう伝えようとしているのか、何がどう伝わっているとみなされているのかを話して頂く。様々な分野への興味を開花させるきっかけとなるような話題の提供を心がけたい。

授業の目標

人間は生きている限り周囲とのメッセージのやりとりを行い続けているのだということにもっと自覚をもつことを第一の目標とする。また、普段何気なく使っている「コミュニケーション」という言葉をもっとはっきりとした意味をもった言葉として把握できるようになることを目指す。更に、コミュニケーションというものがいかに多様な分野と関わるものであるかを理解し、専門分野を学ぶ際にここで学んだことを活かせることが望ましい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	コミュニケーションとは：伝えること、伝わること	「コミュニケーション」という言葉の意味や、コミュニケーションについて考えるときに必要な概念などについて解説し、基本的な導入を行う。また、この科目の全体構想や、科目設立の意図について述べる。	根橋　玲子（明治大学准教授） 大橋　理枝（放送大学准教授）	根橋　玲子（明治大学准教授） 大橋　理枝（放送大学准教授）
2	自我とコミュニケーション：多様性の向こう側	社会学の立場から、コミュニケーションとは何なのか、という点や、私達人間にとってコミュニケーションが不可欠である理由などを検討する。	同上	同上 ゲスト：船津衛先生（放送大学教授）
3	身体とコミュニケーション：指差す先にあるものは	コミュニケーションは言語によって行われるものと言語を使わないものとがある。非言語コミュニケーションについて概観すると共に、日本の舞台芸術を例に、言語を使わずに何を伝えることができるのかを探る。	同上	同上 ゲスト：渡辺保先生（放送大学客員教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	被服とコミュニケーション:ファッションかしきたりか	自分がある衣服を着ることによって他人に何が伝わるのか、何を伝えようとして特定の衣服を選ぶのか、などを考えることを通じて、人は何のために服を着るのか、という問いに対する答えの一つである「服装を通じてのメッセージの発信と受信」に焦点を当てる。	同上	同上 ゲスト： 藤原康晴先生（放送大学教授）
5	建築とコミュニケーション:ホーム・スイート・ホーム	建築という分野において、「建物」という手段を使って人は何を伝えようとしてきたと考えられているのか、現代に生きる私達は過去の建築からどのようなメッセージを受け取り、またどのような影響を受けるのかなどを探る。	同上	同上 ゲスト： 香山壽夫先生（東京大学名誉教授）
6	演奏とコミュニケーション:人と人を繋ぐ音楽	私達は、絵画・写真・音楽などには作者の意図が込められており、その意図を受け取ることでコミュニケーションが成り立っていると思いがちだが、果たしてこの前提は正しいのか？コミュニケーションに対する新しい見方を紹介する。	同上	同上 ゲスト： 徳丸吉彦先生（お茶の水女子大学名誉教授）
7	非言語コミュニケーションのまとめ:メッセージは五感を通して	第3回から第6回で扱った分野を振り返りながら、非言語コミュニケーションについて再考しつつ、触れることのできなかった非言語コミュニケーション分野（時間学・近接学など）についても触れる。	同上	同上
8	言語学とコミュニケーション:都心で会うタヌキとは？	言語について概観すると共に、コミュニケーションの基本とされる対人コミュニケーションに於いて、私達は何をどうやって伝えようとし、相手からのメッセージにどのような内容を読み込んでいるのかを、認知言語学や談話分析の分野で扱っている内容に基づいて考える。	同上	同上 ゲスト： 坂原茂先生（東京大学教授）
9	マスメディアとコミュニケーション:表舞台の「裏」話	私達が日々接しているマスメディアでは、何がどのように伝えられようとしているのか。普段「情報源」として接しているマスメディアを「コミュニケーション」をキーワードに見た場合、そこで何が起こっているのかを探る。	同上	同上 ゲスト： 柏倉康夫先生（放送大学教授）
10	組織とコミュニケーション：理想の上司、嫌な部下	組織の中での対人関係には、多くの場合上司や部下、同僚といった役割が存在する。そのことがコミュニケーションにどのような影響を与えるのかを考えながら、私達の日頃のコミュニケーション行動を振り返る。	同上	同上 ゲスト： 山口生史先生（明治大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	外国語教育とコミュニケーション：ムニャムニャムニャ…が正しい場合	言語を学ぶことは文化を学ぶことだとよく言われるが、それはどういう意味なのか。外国語教育を通じて炙り出される言語と文化の問題に焦点を当てながら、コミュニケーション手段としての言語を考える。	同上	同上 ゲスト： 姫野昌子先生（放送大学教授）
12	言語コミュニケーションのまとめ：言葉の背後にあるもの	第8回から第11回で触れることのできなかった言語コミュニケーション分野に言及しつつ、これまでに扱った分野を振り返りながら言語コミュニケーションについて再考する。	同上	同上
13	教育とコミュニケーション：納得のための説得	学校や家庭で、子供は親や教師からどのようなメッセージを受け取っているのか、子供からのメッセージはどこに隠されているのかを探ると共に、説得について扱う。	同上	同上 ゲスト： 岡崎友典先生（放送大学准教授）
14	カウンセリングとコミュニケーション：伴奏（走）つきの自分語り	カウンセリングの現場では、カウンセラーがクライアントに向き合う際に受信する全てが情報として機能する。クライアントの言葉だけでなく、身体表現をも通じてメッセージを掬い取る、言語コミュニケーションと非言語コミュニケーションの融合の現場を垣間見る。	同上	同上 ゲスト： 佐藤仁美先生（放送大学准教授）
15	文化とコミュニケーション：コミュニケーションの根底にあるもの	コミュニケーションについてこれまでに扱い切れなかった部分に触れると共に、私達のコミュニケーションがいかに文化的な影響を受けているかを述べる。	同上	同上

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	基礎科目	科目コード	1110209	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 哲学への誘い （’０８）＝ （R）

〔主任講師（現職名）：佐藤康邦（放送大学教授）〕

講義概要

哲学を学ぶことが敬遠されがちなのは、その用語や思考法が、いわゆる哲学用語や哲学的概念の世界に閉じこもっており、それが部外者の理解を拒んでいるかのように見えるという理由からではないかと思う。しかし、哲学的なものに対する関心は多くの人々の心の中にあるはずである。この授業では、哲学以外の所に題材を求めながら、そこに哲学的な問題を探るという基本方針を取ることにする。対象は、多岐にわたるが、哲学の部分は、50%以下に留め、これまで哲学に触れたことがなかった人々にも哲学に触れるきっかけを与えるようにしたい。

授業の目標

全体の講義を、最初の部分では哲学の源流である古代ギリシャの文化的背景全体について展望し、そこからギリシャ哲学がいかにして生まれたかを考える。二番目では近代社会に生きる私たちの現実の問題が哲学という場面でどのように捉えられるのかを考える。そこでの知見は、私たちが日常の生活で出会う問題に対処する際にも有益なはずである。最後は、文学や芸術との関連で、哲学の問題を考える。文学作品においていかなる哲学主張がされているか、また、絵画を支える遠近法のような技法の持つ哲学的内容は何かについて考える。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	第Ⅰ部 古代ギリシャの知恵 (1)ヘロドトスとペルシャ戦争	歴史の父ヘロドトスの『歴史』は、古代ギリシャの最盛期の文化を成立させるきっかけになったペルシャ戦争についての記述である。それは、歴史学的に重要であるというだけではなく、その思想内容という点でも魅力的である。そのことを明らかにしたい。 【キーワード】 ヒュブリス（驕慢）への諫め	佐藤康邦（放送大学教授）	佐藤康邦（放送大学教授）
2	第Ⅰ部 古代ギリシャの知恵 (2)トゥキュディデスとペロポネソス戦争(上)	トゥキュディデスは、アテネとスパルタとの間におこったペロポネソス戦争の記述を行った。最後にはアテネの敗北に終わるこの戦争についてのトゥキュディデスの記述である『戦史』が、最盛期ギリシャの最高の知性の産物であるゆえんを明らかにする。 【キーワード】 歴史記述の客観性	同上	同上
3	第Ⅰ部 古代ギリシャの知恵 (3)トゥキュディデスとペロポネソス戦争(下)	いよいよ『戦史』の記述は佳境に入り、ペリクレスの演説、シシリー遠征を通じてギリシャ思想の心髄が示される。 【キーワード】 知性の悲劇	同上	同上
4	第Ⅰ部 古代ギリシャの知恵 (4)ギリシャ悲劇と哲学	ギリシャ悲劇はギリシャの生み出した文化遺産のなかでも最も魅力的なものの一つであり、アリストテレス、ヘーゲル、ニーチェ等の哲学者によって様々に論じられてきたものである。アイスキュロスの『アガメムノン』を題材にしてその魅力に迫りたい。 【キーワード】 運命	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	第Ⅰ部　古代ギリシャの知恵　(5)恋愛文学としてのプラトン、	プラトンのイデア論は西洋哲学史の最重要主題の一つであるが、イデアを論ずるにあたり、プラトンは、「エロス(愛)」について論じている。それは、古代文学最上の恋愛文学とも言えるものなので、もっぱらその側面からプラトンの思想を扱ってみたい。 【キーワード】 エロス	佐藤康邦（放送大学教授）	佐藤康邦（放送大学教授）
6	第Ⅱ部　近代国家の現実と哲学　(1)法の哲学	近代国家は所有の自由他様々の自由を擁護しているが、それは、どのような哲学的根拠を持つのか。ホッブズ、ロック、ルソー、カント等の自然法思想を参照しつつ、それと対比する形で、ヘーゲルの『法の哲学』を検討してみる。そこで、たとえば時効という法学概念も哲学的に検討される。 【キーワード】 法の哲学	同上	同上
7	第Ⅱ部　近代国家の現実と哲学　(2)道徳と自由、(3)家族	(2)では、近代国家における自由の問題を個人の内面の自由の次元に遡って検討する。(3)では、近代家族問題を扱う。双方において、自己決定の射程距離について検討する。 【キーワード】 自己決定の境界線	同上	同上
8	第Ⅱ部　近代国家の現実と哲学　(4)市民社会	近代国家を支える一方の柱は資本主義である。近代法もこの資本主義経済に対応する性格を備えている。その哲学的探究のために、ヘーゲルの市民社会を軸としつつ、スミス、マルクス、ウェーバー等の思想を検討する。 【キーワード】 経済と倫理	同上	同上
9	第Ⅱ部　近代国家の現実と哲学　(5)国家	近代の国民国家について検討する。一方で官僚制を始めとした国内体制について検討するとともに、戦争の問題を考える。カントの永久平和論と戦争を不可避のものと考えたヘーゲルとの比較を軸にすえながら考察を進める。 【キーワード】 国家と戦争	同上	同上
10	第Ⅱ部　近代国家の現実と哲学　(6)日本の近代国家	明治以降の日本という国家を哲学としてどう捉えるか。一方的なイデオロギーに流されることなく語ることはむずかしいが、できるだけ多面的で公平な観点から扱う。和辻哲郎の『倫理学』を軸に考える。 【キーワード】 和辻哲郎	同上	同上
11	第Ⅲ部　文学と哲学　(1)ロシア文学と哲学	日本近代に対しても、ロシア文学は単に文学的ということを超えた哲学的影響を与えた。そのなかでも、ドストエフスキーの存在は大きなものであった。彼の『地下生活者の手記』『死人の家の記録』等から哲学的主題を引き出してみる。 【キーワード】 不条理と反抗	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
12	第Ⅲ部　文学と哲学 (2)日本近代文学と哲学	森鴎外の「空車」という概念や小林秀雄のベルグソン解釈を通じて、日本近代において、哲学を専門とするわけではない人々の哲学的発言について考える。 【キーワード】 翻訳文化	佐藤康邦（放送大学教授）	佐藤康邦（放送大学教授）
13	第Ⅳ部　絵画空間と哲学　(1)絵画と遠近法	第Ⅳ部では、絵画における遠近法技法を介して、芸術と科学、さらに哲学との関係を検討する。始めは、ミメーシス(模倣)という概念を手がかりに、絵画様式についての検討をし、それと関連させながらルネッサンスにおける遠近法の成立について検討する。 【キーワード】 象徴形式としての遠近法	同上	同上
14	第Ⅳ部　絵画空間と哲学　(2)デカルトからセザンヌまで	絵画技法としての遠近法が、近代科学の成立の先駆的位置にあることを検証した後、最後には、セザンヌに代表される遠近法解体期の絵画について考察する。 【キーワード】 機械論的自然観	同上	同上
15	第Ⅳ部　絵画空間と哲学　(3)始源的奥行きの哲学	奥行き知覚についての哲学的考察を行った後で、現代絵画を含めた、東西古今の絵画における奥行き表現の比較検討をする。 【キーワード】 始源的奥行き	同上	同上

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	基礎科目	科目コード	1112503	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　日本語表現法（‘07）＝（R）

〔主任講師（現職名）：杉浦　克己（放送大学准教授）〕

講義概要

小論文やレポート類などを、考えを表現する文章ととらえ、その書き方を実作の分析を通じて学ぶ。特に生涯学習の観点から、表現したいことがらを持っていながら、それを意識して顕在化し具体的な言語表現としてまとめる術がわからない、という学生を念頭に置き、自らの考えを、読み手が理解しやすいように表現する方途の基礎を、【基礎】【応用】【発展】各５回の段階を追って身に付けていく。各段階は、模擬的な実作を分析・解説する形で進めると共に、表現の力と表裏関係にある、文章を読み取る力を養うことにも配慮する。

これらの学習を通じて、文章表現の基本的な手法を身に付けると共に、自らの言語表現に自覚的になっていくための視点を提供する。

授業の目標

漠然とした自らの考えを具体的な言語表現として文章に書き表すには、何をどのように考え、進めていけばいいのかについての具体な方途を身に付け、自覚的な言語表現のための態度と力を身に付ける。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	【基礎】 考えを書き表す	小論文やレポートの類を、「自分の考えを納得してもらえるように説明する」ための文章と位置づけ、典型的な文章の例を掲げてその特色を示す。実作の第一歩として、書こうとする文章の中心となる自分の「考え」を文として表現する最も基本的な形式として「○○は△△である。なぜならば～～」という形を示し、実際にその実作例を掲げて解説する。	杉浦克己（放送大学准教授）	杉浦克己（放送大学准教授）
2	【基礎】 納得してもらえるように説明する	文章を言葉の一単位としてとらえ、それを構成する要素として文を位置づける。文章の構成を考えるには、個々の文の働きを認識することが重要である。先ず大きく、考えを述べる文と理由を説明する文の二種に働きを大別し、自分の考えを筋道立てて説明するための第一歩として、考えを表す文の後に理由を説明する文を書き継ぐ方途を示す。	同上	同上
3	【基礎】 根拠を挙げる	考えは、考えの形で表現しただけでは読み手に理解されない。どのように説明を筋道立てていくかが小論文類の書き方の最も重要な方途であることを、実際の文章例を用いて示し、根拠となる事実等の挙げ方の典型を分析・説明する。これをふまえ、根拠となる事実をのべつ働きを担う個々の文の役割を理解し、実作例を通じて具体的な表現の仕方を学ぶ。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	【基礎】 構成を考える	考え・理由・根拠を、この種の文章を構成する要素の代表的な三種と位置づけ、どのような順序で全体を構成するかについて、基本となる「頭括式」「尾括式」及びその併用の形を、実際の文章例で示す。実作例の内容に応じて、効果的な構成を選ぶ具体的な方途を示し、文章全体の構成を立てるための考え方を示す。	同上	同上
5	【基礎】 全体をまとめる	１～４回で考えた事項を、実際に一編の文章としてまとめる際の様々な配慮事項を、実例に則して概説し、併せて細部を推敲する際の重要な着眼点を示す。実作例では、基礎編全体の総まとめとして、これまでに示した考え方を再確認し、細部の表現に留意しつつ整った一編の小論文としてまとめ上げる。	同上	同上
6	【応用】 問題提起と答え	文章構成の類型の一つとして、冒頭に問題提起を置き、それに答える形で全体をまとめる形式の特色と留意点を実際の文章例に則して示す。併せて、問題提起を外から与えられた上で、その答えを小論文にまとめるような要求に対する対処法を示す。これらを通じて、言語表現としての「問い」と「答え」を文章のレベルで考える。	同上	同上
7	【応用】 課題作文	特定のテーマ等の課題を与えられて書く場合の対処の仕方を、具体的な実作例を通じて分析・解説する。出題者の意図を短い課題文の中から的確に把握するための着眼点と、その対処法を具体的に考える。特に「自分のことばで」「～～について」「～～に即して」などの課題文に見られる常套句を的確に理解することに留意する。	同上	同上
8	【応用】 字数制限への対応	字数制限を課せられた場合の対処の仕方の基本的な要件を、具体的な実作例を通じて分析・解説する。特に字数制限は、単に長さの問題だけではなく、内容や構成、具体的な表現などにある特定の意図を持った要求として行われる場合が多いことに留意する。	同上	同上
9	【応用】 キーワード作文	特定のキーワードを用いること課せられた場合の対処の仕方を、具体的な実作例を通じて分析・解説する。キーワードをどのように用いるかを、論の中心となる考えをまとめる段階、構成を考える段階、具体的な表現の段階の各々で、実作例を通じて示し、キーワードにどのような役割を与えて行くことが重要なのかを考える。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	【応用】 読解型作文	ある文章を読んだ上で、その全体または一部について論ずること課せられた場合の対処の仕方を、具体的な実作例を通じて分析・解説する。課題となる文章の内容の的確な理解と課題の意図を把握する上での着眼点を示し、その上にたって、何についてどのように考えをまとめ、構成し、表現すべきかを考える。	同上	同上
11	【発展】 効果的な表現・構成	論じようとする内容に応じて、表現や構成にどのような工夫を凝らすことが必要か。様々な方途を実際の文章例で示し、各々の工夫とその効果、用いる上での留意点などを概説する。特に、それらが、読み手にはどのように映るかを、書き手の立場からどのように把握すればいいのか、について考え、推敲の重要性の様々な意味を自覚的にとらえる。	同上	同上
12	【発展】 補助資料の利用	論本文の補助となる図表や写真などの効果的な用い方を、実際の文章例で示し、図表や写真と文章との表現としての質的な違いを的確に把握して利用することを、具体的な例に即して考える。補助資料の有無で、文章表現の何がどのように変わってくるのかに着目する。	同上	同上
13	【発展】 要約	自らが書いた文章の要約、他から与えられた文章の要約の各々について、その方途を具体的な文章例で示すと共に、キーワード付けのための基本的な考え方と方途を併せて示す。要約文に必須な事項は何かを、要約という行為自体の意味を改めて考えることによって見いだしていく。	同上	同上
14	【発展】 口頭発表の技術	自らが書いた文章の内容を口頭発表する際の具体的な方途を、実際の文章例を用いて考える。特に、話し言葉と書き言葉、音声言語と文字言語の質的な違いを認識した上で、口頭発表のための基本的な必須事項を示す。併せて補助提示資料の有効な使い方についても考える。	同上	同上
15	【発展】 様々な表現法	１～１５回で学んできた事項を再確認し、それらを総合して、実際に小論文を書き表す、つまり、漠然とした自らの考えを具体的な言語表現として文章に書き表すには、どのように考えを進めていけばいいのかを改めて考え、鍵になる事項を、自分なりに見いだして行く。	同上	同上

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	基礎科目	科目コード	1115901	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　世界の名作を読む（‘07）＝（R）

〔主任講師（現職名）：工藤　庸子（放送大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：大石　和欣（放送大学准教授）〕

講義概要

文学講義の入門編。だれでもタイトルは知っているけれど、いきなり読むのは荷が重いという超大作から、はかりしれぬ含蓄のある珠玉の短編小説まで、それぞれの講師が、自分自身の読書経験に照らして作家と作品の魅力を語る。放送授業では、全体の３分の１程度を声優による朗読にあてた。生き生きとした朗読と講師の解説を通して作品の世界に親しみ、テキストを読み込んでゆくことの面白さを実感していただきたい。「世界の名作」とは、各自が身近なテーマを発見し、自分なりの「読書の愉しみ」を経験できるような文学作品をいうのである。印刷教材には朗読を収録したCD-ROM（MP3ファイルを使用）を添付し、大学のホームページにも補助教材を立ち上げた。

授業の目標

講義で取りあげられた作品を、履修者が自力で積極的に読むことが求められる。義務教育の「感想文」とは異なる「文学の読み方・語り方」とはいかなるものか。講師はその具体例を提案する。履修者は、授業の内容を十分に理解したうえで、それを考える材料にしていただきたい。この科目は、教養のための読書という意味で、文学好きの人はいうまでもなく、文学離れした若者世代も射程に入れて構成されている。また、教員、図書館司書、ヴォランティアなど、読書指導の現場にいる人たちが、指導の技法を学ぶためにも活用できる。通信指導および期末試験は、記述式で行う。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	セルバンテス『ドン・キホーテ』	・はじめに ― 文学作品を耳で愉しむ。 ・音読か黙読か ― 物語文学と翻訳の問題。 ・講談ヴァージョンで聴く「風車の冒険」 ― あまりにも有名なエピソードのどこが面白いのか。 ・アラビア人の原作者シデ・ハメテ・ベネンヘリと謎の「第二の作者」。	工藤　庸子（放送大学教授）	工藤　庸子（放送大学教授）
2	同	・『ドン・キホーテ』後篇を読む ― 錯綜する幻想と現実。 ・村の知識人サンソン・カラスコと従者サンチョ・パンサ。 ・講談ヴァージョンで聴く「森の騎士との決闘」。 ・狂気の終わりと主人公の死と物語の幕切れ。	工藤　庸子（放送大学教授）	工藤　庸子（放送大学教授）
3	エミリー・ブロンテ『嵐が丘』	・18世紀以降の女流小説の興隆。 ・語りの形態。 ・崇高美に見るロマン主義的風景。 ・屋根裏の女たち ― 特に財産権をめぐる女性差別の問題。 ・映画で観る小説の面白さと虚しさ。	大石　和欣（放送大学准教授）	大石　和欣（放送大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	ドストエフスキー 『罪と罰』	・ドストエフスキーの日本でのこれまでの読まれ方。 ・「犯罪小説」であると同時に、形而上的観念の小説でもある『罪と罰』。 ・ ドストエフスキーの独自のリアリズムと幻想。 ・ ペテルブルクを舞台とした都会小説。 ・ 繊細な言葉の芸術としてのテキスト。	沼野 充義（東京大学教授）	沼野 充義（東京大学教授）
5	チェーホフ 『ワーニカ』 『可愛い女』 『犬を連れた奥さん』	・ チェーホフの短編のうち特に『ワーニカ』『可愛い女』『犬を連れた奥さん』の３篇を取り上げ、その魅力と現代的意義について考える。 ・「手紙は届かない」「可愛い女は本当に可愛いか？」「愛はいつ始まるのか？」 ・ チェーホフは人情味豊かなユーモアとペーソスの作家だったのか？	沼野 充義（東京大学教授）	沼野 充義（東京大学教授）
6	メルヴィル 『バートルビー』	・ アメリカ精神の陰画。 ・ バートルビーとは何者か。 ・ 壁・墓場の意味。 ・ 語り手の（そして我々の）中で何が変わるか？	柴田 元幸（東京大学教授）	柴田 元幸（東京大学教授）
7	マーク・トウェイン 『ハックルベリー・フィンの冒険』	・南北戦争後のアメリカ ― 郷愁の発生。 ・トム・ソーヤーとハック・フィンの違い。 ・文体の新しさ・重要性。 ・ ユーモアとメランコリー。	柴田 元幸（東京大学教授）	柴田 元幸（東京大学教授）
8	プルースト 『失われた時を求めて』	・ 「記憶」とは何か ―「無意志的な記憶」と「知性の記憶」について。 ・ マドレーヌのエピソードを読む。 ・ 「見出された時」という奇蹟。 ・ 物語をいかに書き始めるか。 ・ 眠りと目覚めと「身体の記憶」。	工藤 庸子（放送大学教授）	工藤 庸子（放送大学教授）
9	同	・ 人生について考える「モラリスト」の小説。 ・ 身近な人間類型としての登場人物たち。 ・ 悲劇の描き方と喜劇の混在 ― 祖母の死をめぐって。 ・ 「心の間歇」 ― 悲しみと忘却と甦る記憶。	工藤 庸子（放送大学教授）	工藤 庸子（放送大学教授）
10	ヴァージニア・ウルフ 『ダロウェイ夫人』	・ 小説の技法としての「意識の流れ」。 ・ 女性小説の伝統とフェミニズムの曖昧さ。 ・ シネマトグラフィーの小説への応用。 ・ 大戦間のイギリスと文学。	大石 和欣（放送大学准教授）	大石 和欣（放送大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	カフカ 『変身』	・無名のサラリーマン作家としての生涯。 ・平凡な営業マンの日常におきた「変身」という事件。 ・虫男のおかしさ ― 変身ぶりの不思議と当人が不思議に思わぬことの不思議。 ・身近なテーマとしての「変身」。	池内　紀 （ドイツ文学者）	池内　紀 （ドイツ文学者）
12	カフカ 『断食芸人』	・実在した「断食芸」― 何もしない、食べることすらしないという芸。 ・なぜ断食は40日なのか。 ・カフカの笑い。 ・断食芸人の死と作者の死。	池内　紀 （ドイツ文学者）	池内　紀 （ドイツ文学者）
13	イタロ・カルヴィーノ 『魔法の庭』 『楽しみはつづかない』	・戦争体験はどのように物語となったのか。 ・子どものまなざしが教えるもの。 ・民話との出会いから空想と歴史の融合へ。 ・短篇か長編か ― 表現形式の選択をめぐって。	工藤　庸子 （放送大学教授）	和田　忠彦 （東京外国語大学教授）
14	同 『ある夫婦の冒険』 『ある詩人の冒険』	・小説という形式そのものへの問い。 ・「ポストモダン」という魔法の効き目。 ・果てしない断片化の先に待つ物語とは。 ・詩か小説か ―「不在」と「ことば」。	工藤　庸子 （放送大学教授）	和田　忠彦 （東京外国語大学教授）
15	（まとめ） 読書の愉しみ	・全体の復習をかねて「文学の読み方・語り方」を考える。 ・作品分析の基礎概念 ― 物語の構造と作中人物の描き方。 ・イタロ・カルヴィーノ ― 「古典」とは何か。 ・プルーストの読書論 ― 「友愛としての読書」。	工藤　庸子 （放送大学教授）	工藤　庸子 （放送大学教授）

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	基礎科目	科目コード	1110403	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 歴史と人間 （’０８）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：草光俊雄（放送大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：五味文彦（放送大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：杉森哲也（放送大学准教授）〕

講義概要

本科目は、歴史をつくる人間を通じて歴史について考える基礎科目である。歴史を考えるうえで最も親しみやすいのが人間の活動であることから、具体的な人物像を通じて、人間の諸活動が歴史にどう関わっていたのかを考えることとする。そこで、世界史・日本史上で顕著な活動を残した人物を取り上げ、その活動を追うとともに、それを調べ探るための史料や方法、その人物の生きた社会や時代像について講義する。また特論として人間を視点においた歴史のありかたを考える。

授業の目標

歴史については中学・高校と学習してきており、特に高校では世界史が必修となっているという現状を踏まえるならば、大学の基礎科目として何がふさわしいのかが問題となる。そこでこの科目では、歴史的なものの見方を養うことに重点をおくが、その際に歴史が人間の諸活動の所産であることから、具体的な人物を通して人間が歴史にどう関わっていたのかを探ってゆくものとする。こうした学習をとおして、専門科目を学ぶ前提としての基礎的な知識や方法を身につけることを目標とする。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	歴史と人間の関わり（特論1）	歴史を探る意味を考え、歴史がどう書かれてきたのかを中国・ヨーロッパ・日本の古代に生まれた歴史書で探って、歴史と人物との関わりについて触れる。歴史で人間というと英雄の名が思い起こされるが、民衆の存在も重視したい。 【キーワード】 歴史書・国家・戦争	五味文彦（放送大学教授）	五味文彦（放送大学教授）
2	司馬遷	司馬遷（前145～前86？）は、前漢時代の歴史家で『史記』の著者。秦漢統一帝国の形成という時代を背景に、それまでの歴史を総括し、紀伝体という独創的な歴史記述の形を考案して著述した。それは中国における歴史記述の基本的なスタイルとなり、中国の人々の歴史認識の基礎となった。その日本への影響にも触れる。 【キーワード】 司馬遷、史記、紀伝体	浜口允子（放送大学教授）	浜口允子（放送大学教授）
3	聖徳太子（厩戸皇子）	聖徳太子（574～622）の実像と虚像を通じて、歴史的に人間像がどのように作られていったのかを考える。用明天皇の皇子・厩戸皇子は古代国家の形成期において政治的・文化的に大きな足跡をのこしたが、皇子はその死後に聖徳太子といつしか称されるようになり、後世に大きな影響をあたえるようになった。その実情を探ることにする。 【キーワード】 聖徳太子　厩戸皇子　日本書紀　太子信仰	五味文彦（放送大学教授）	五味文彦（放送大学教授）
4	源頼朝と北条政子	武家政権を東国に形成したのは、源頼朝（1147～1199）と北条政子（1157～1225）の夫婦であった。夫婦で武家政権をどのように形成し、幕府として発展させていったのかを、二人の活動を詳しく記す幕府の歴史書『吾妻鏡』の性格を考えつつ探る。 【キーワード】 源頼朝　北条政子　吾妻鏡　武家	五味文彦（放送大学教授）	五味文彦（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	交流と人間（特論2）	歴史の転換点には、他の文明や文化との交流が大きな意味をもっていた。その交流のなかで大きな足跡を残した人物をとりあげ、その活動を追い、いかに後世に大きな影響をあたえたのかを考える。本章ではモンゴルの襲来をとりあげ、その攻防と影響について考える。 【キーワード】 フビライ　北条時政　モンゴルの襲来	五味文彦（放送大学教授）	五味文彦（放送大学教授）
6	ルターとクラナーハ	マルティン・ルター（1483～1546）は、ドイツの神学者・牧師で、宗教改革の中心人物である。このルターという人物をとおして、ヨーロッパにおける宗教改革の歴史的意義について考える。 【キーワード】 マルティン・ルター、宗教改革、プロテスタント	森田安一（日本女子大学教授）	森田安一（日本女子大学教授）
7	天正遣欧使節	1582（天正10）年、イエズス会東インド巡察師ヴァリニャーノは、日本の有力大名の名代という名目で4名の少年をヨーロッパに派遣した。これが天正遣欧使節であり、16世紀におけるヨーロッパと非ヨーロッパ世界の関係を考える上で重要な出来事であった。この天正遣欧使節を通して、16世紀のヨーロッパと日本の歴史について考える。 【キーワード】 天正遣欧使節、イエズス会、ローマ教皇	杉森哲也（放送大学准教授）	杉森哲也（放送大学准教授）
8	梅津政景	梅津政景（1581～1633）は、17世紀初頭に秋田藩の家老を務めた人物である。『梅津政景日記』という優れた記録を残しており、近世史研究のうえでは重要な人物として知られている。その生きた時代は、日本の歴史が戦国から近世へと大きく転換した時代であった。この梅津政景をとおして、人物から社会を考える意味をあらためて考える。 【キーワード】 梅津政景、日記、秋田藩	杉森哲也（放送大学准教授）	杉森哲也（放送大学准教授）
9	近代社会と人間（特論3）	「近代」という言葉を検討し、主としてルネサンス以降のヨーロッパ社会において、人間観がどのように変遷してきたかを探る。 【キーワード】 近代、ルネサンス、古代、中世、社交、懐疑主義	草光俊雄（放送大学教授）	草光俊雄（放送大学教授）
10	ブルネルとオスマン	ブルネル（1806～1859）は鉄道、橋梁、造船等の建設・建造においてイギリスの産業革命の成果を最大限に活用し、19世紀を代表する技術者。オスマン（1809～1891）はナポレオン3世治下、パリの都市計画を推進し、今日見られる都市景観を作り出した人物で、近代社会のインフラの整備における一つのモデルを提供した。実際に自らの知力と技術を駆使して近代社会を作り上げていった人々の代表として採り上げる。 【キーワード】 ブルネル、イギリス、産業革命、オスマン、パリ、都市計画	草光俊雄（放送大学教授）	草光俊雄（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	福澤諭吉	福澤諭吉（1834～1901）は、近代日本を代表する思想家・教育者であり、その人物像については改めて説明を要しないであろう。福澤諭吉が生きた19世紀という時代は、日本と東アジアにとって、それまでの比較的安定した体制が大きく変化した時代であった。福澤諭吉をとおして、主として19世紀の日本と世界の歴史について考える。 【キーワード】 福澤諭吉、19世紀、	小室正紀（慶応義塾大学教授）	小室正紀（慶応義塾大学教授）
12	山川健次郎	山川健次郎（1854～1931）は、東京帝国大学の総長を務め、日本の物理学の基礎を築いた人物である。会津藩の上級士族の家に生まれ、政府留学生としてアメリカのイェール大学に学んだ。妹の山川捨松は、津田梅子とともに明治政府によって派遣された最初の女子留学生である。山川健次郎とその兄弟をとおして、日本の近代化について考える。 【キーワード】 東京帝国大学、教育、会津藩	杉森哲也（放送大学准教授）	杉森哲也（放送大学准教授）
13	ケマル・アタテュルク	アタテュルク（1881～1938）は20世紀初頭のトルコ革命の指導者。トルコ共和国の初代大統領として独裁的な力をもち、日本の明治維新をモデルに言語、教育、文化にもおよぶ大胆な欧化政策をすすめ、脱イスラム国家化をはかった。その後の歴史とあわせ、イスラム世界における近代化のかたちについて考える。 【キーワード】 ケマル・アタテュルク、トルコ、イスラム	坂本勉（慶応義塾大学教授）	坂本勉（慶応義塾大学教授）
14	マハトマ・ガンディー	インドを大英帝国からの独立に導いたガンディー（1869-1948）。彼は、ナショナリズムを掲げた政治指導者か。人としての道徳と神への真摯な信仰を説いた精神的改革者か。党首や首相にはならず、「マハートマ（大いなる魂）」と呼ばれて尊敬され、「バプー（おじさん）」と呼ばれて親しまれた。そうした彼の人物像を20世紀史の中に位置づけてみる。 【キーワード】 ガンディー、インド、独立	竹中千春（明治学院大学教授）	竹中千春（明治学院大学教授）
15	まとめ―歴史と人間	講義全体のまとめとして、主任講師3名で討論を行い、歴史と人間について考える。 【キーワード】 歴史、人間	草光俊雄（放送大学教授）・五味文彦（放送大学教授）・杉森哲也（放送大学准教授）	草光俊雄（放送大学教授）・五味文彦（放送大学教授）・杉森哲也（放送大学准教授）

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	基礎科目	科目コード	1113909	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　人類の歴史・地球の現在（‘０７）＝（TV）
－文化人類学へのいざない－

〔主任講師（現職名）：　本多　俊和（スチュアート　ヘンリ）（放送大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：　棚橋　訓　（お茶の水女子大学大学院教授）〕
〔主任講師（現職名）：　三尾　裕子（東京外国語大学教授）〕

講義概要

この講義では、人間の探究専攻の学生、あるいは人類学を修める予定の学生だけを想定せず、全専攻の学生を対象とする基礎科目とします。世界各地を視野に人類学で蓄積されてきた多くの知見・データ・理論が私たちの日常生活に関与することを国内外の具体的な事例をとおしてみる授業です。古典的な理論と最先端の学説をまじえながら、人類の歴史からはじまり、さまざまな人間の行為をキーワードに、ほかの学問領域との接続を意識して、幅の広い知識と解釈を提供します。

授業の目標

なるべく多くの受講生に文化人類学的な考え方に接してもらい、人種、民族、宗教などの研究分野で他専攻生も活用されることを目標としています。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	文化人類学へのいざない 授業のねらい	「近代」とともに歩んできた文化人類学が、現在当然視されるさまざまな概念や観念、カテゴリー（人種、民族、国民、宗教、世界観など）を生み出した時代背景を紹介します。そして現在、文化人類学がどのように私たちの日常生活に関わり、役立つかについて、具体的な事例をまじえて考えます。	本多俊和（スチュアート　ヘンリ）（放送大学教授）	本多俊和（スチュアート　ヘンリ）（放送大学教授） ゲスト： 山下　晋司（東京大学大学院教授）
2	うまれる 生物としての人間の成立	人類の進化史を概観し、古典的な4段階発展論と、多地域進化説・単一起源説をめぐるミトコンドリア論争をとり上げます。これを基礎にして、人類の生物史の概略をふまえ「人種」概念を考察します。	本多俊和（スチュアート　ヘンリ）（放送大学教授）	本多俊和（スチュアート　ヘンリ）（放送大学教授） ゲスト： 海部　陽介（国立科学博物館研究員）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
3	うむ 生殖をめぐる視点と諸問題	「人間をうむ、うみだす」という現象を文化と社会の多様性の観点から考察し、「うむこと」を概観します。民俗生殖理論と近現代の生物医学の生殖理論を対比しながら、「人間をうむ、うみだす」という視点から現代の地球社会に生じている諸問題（例えば、生殖医療・技術、生命観・家族概念の変遷と転換など）に、どのように挑み得るのかを考えます。	棚橋　訓（お茶の水女子大学大学院教授）	棚橋　訓（お茶の水女子大学大学院教授） ゲスト： 上杉　富之（成城大学教授）
4	まなぶ 「ことば」と／でつくる世界	人間は「ことば」“を”学び、「ことば」“で”学びます。人間は「ことば」を生み、「ことば」は人間をつくります。“人間”と「ことば」の多元的な関わりを、文化の普遍性と多様性の視点から考えていきます。言語習得から人間の認知世界の形成までの過程を文化の側面から考え、言語の多様性をめぐる最新の議論にふれます。「ことば」の視点から現代世界の諸問題に接近していきます。	棚橋　訓（お茶の水女子大学大学院教授）	棚橋　訓（お茶の水女子大学大学院教授） ゲスト： 井上　京子（慶應義塾大学教授）
5	つくる・つかう 人とモノの関係	人間はさまざまな道具・技術を用いて、モノをつくりだしてきました。有形から無形まで、リアルからヴァーチャルまで、DIYから先端科学技術まで、モノはその時どきの知識・経験・技術の結節点となってきました。作り手や使い手はモノに意味を込め、社会的な役割を負わせます。ここでは、人間にとってのモノと技術の意味を考えていきます。	棚橋　訓（お茶の水女子大学大学院教授）	棚橋　訓（お茶の水女子大学大学院教授） ゲスト： 櫻井　準也（尚美学園大学教授） 朽木　量（千葉商科大学准教授）
6	そだつ 幼児から大人へ	人はどうやって社会の中で成長し、一人前になり、仕事を持って働き、社会を支え、そして支えられるようになっていくのでしょうか。ここでは、社会化の過程や通過儀礼などを見ていく中で、現在の日本の成人式をめぐる問題、パラサイト・シングル、ニートとよばれる若者たちの問題などの問題を考えてみましょう。	三尾裕子（東京外国語大学教授）	三尾裕子（東京外国語大学教授） ゲスト： 宮本みち子（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
7	つながる 社会的な存在としての人間	人間社会の基礎的要素は「家族」をはじめとする「親族」の関係と、それにもとづく集団です。「親族」のあり方は、狩猟採集段階から、初期農耕・牧畜をへて、産業社会へと至る人類史を貫いて、さまざまな形態をとりますが、その基本的構成には不変のものがあります。この講義では、人間社会の多様性と共通性を、家族と親族に的をしぼり、社会進化史的観点から見てゆきます。	内堀基光（放送大学教授）	内堀基光（放送大学教授） ゲスト： 山極寿一（京都大学大学院教授）
8	つどう 群れることで生みだす世界	「つどう」という人間の特質について総合的に考えます。母子関係にはじまる人間関係のネットワーク形成（社会組織）に関する理論研究を概観して足場を固め、そのうえで集団、民族、都市、国家の概念を再検討します。また、エスニシティ、境界性など、「つどう」ことが必然的に生みだしてしまう差別と排除のロジックについても考察していきます。	棚橋訓（お茶の水女子大学大学院教授）	棚橋訓（お茶の水女子大学大学院教授）
9	うごく 人の移動が生みだす世界	人は、古来、活発に移動し、さまざまな環境に適応してきました。移動はモノの交換や交易を生み、異なる集団との出会いが新しい文化を生みだしてきました。この回では、人の移動を歴史的に概観することから出発して、昨今の観光、トランスナショナリズム、グローバリゼーションなどの現象が生みだす多民族、多元文化状況、逆に文化の均質化などの人間の思考や文化の多様性を消し去りかねない側面について考えます。	三尾裕子（東京外国語大学教授）	三尾裕子（東京外国語大学教授） ゲスト： 床呂郁哉（東京外国語大学准教授） 陳天璽（国立民族学博物館准教授）
10	あらそう 戦争について	戦争はなぜ起こり、なぜ繰り返されるのでしょうか。このことについては、多くの説明が提示されてきました。その中の一つにシュンペーターの戦争論があります。本授業では、この戦争論を紹介します。この回のもうひとつの狙いは現代の戦争の特徴を提示する点にあります。それは非国家主体による戦争です。「民間軍事会社」やアルカーエダという NGO 的な組織活動などに注目したいと思います。	高橋和夫（放送大学教授）	高橋和夫（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	きりひらく 「開発」をめぐって	開発論、NGO・NPO活動、自然環境、資源論などを自然と社会、そして政治の側面から解きます。グローバリゼーション、「近代化」、エコ主義などの視点をまじえて「開発」の多様性を論じます。	本多　俊和（スチュアート　ヘンリ）（放送大学教授）	本多俊和（スチュアート　ヘンリ）（放送大学教授） ゲスト： 石井　洋子（聖心女子大学専任講師）
12	きずく 少数・先住民族の今	この回では、植民地的な状況における少数・先住民族の歴史を通観して、いくつかの地域や国家における少数・先住民族、エスニック集団の運動と現状について国内外の事例を紹介します。	本多　俊和（スチュアート　ヘンリ）（放送大学教授）	本多俊和（スチュアート　ヘンリ）（放送大学教授）
13	いやす 病と癒し	人々は、近代医療（バイオメディスン）が発達していなかった時代や場所でも、さまざまな方法で病に対処していました。文化人類学で扱う「病と癒し」は、医学的な疾患と治療よりもずっと広い概念です。わたしたちの身の回りにある「癒し」の体験を振り返ってみましょう。すると、バイオメディスン以外にも、いろいろの選択肢があることに気づくでしょう。	松岡　悦子（旭川医科大学准教授）	松岡　悦子（旭川医科大学准教授） ゲスト： 鶴岡　優子（自治医科大学）
14	まつる 信仰の世界	科学が発達していく中でも、人は、自分に降りかかる理不尽に思える災難を理解して克服していくために、人知を超えた力に頼ることがあるでしょう。また、自分の死を恐怖なく受け入れ、魂の永続性を得たいと願うこともあるでしょう。私たちは何を信じ、何に頼り、またそのような気持ちをどのような行動で表現するのか、神や祖先などの霊魂観、宗教、儀礼、系譜観念や葬制などを通して考えてみましょう。	三尾　裕子（東京外国語大学教授）	三尾裕子（東京外国語大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
15	総括・再び文化人類学へのいざない	以上の14回をふりかえながら要点を確認します。また、改めて文化人類学の方法論、性格、他の学問分野との関連性、現代的な意義などを整理するとともに、充分に議論し尽くすことができなかった問題にも展望を広げて全体を総括します。	本多　俊和（スチュアート　ヘンリ）（放送大学教授） 棚橋　訓（お茶の水女子大学大学院教授） 三尾　裕子（東京外国語大学教授）	本多　俊和（スチュアート　ヘンリ）（放送大学教授） 棚橋　訓（お茶の水女子大学大学院教授） 三尾　裕子（東京外国語大学教授）

＝　心理学入門（‘０６）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：　星　　薫　　（放送大学准教授）　　〕
〔主任講師（現職名）：　山口　勧　　（東京大学大学院教授）　　〕
〔主任講師（現職名）：　青木　紀久代（お茶の水女子大学大学院准教授）〕

全体のねらい

この授業は、初めて心理学に触れようとしている人を対象とする。心理学が人の心をどのように把握しようとしているのか、またどのような方法で、人の心に接近しようとしているのかについて、できるだけ身近で日常的な例を挙げながら紹介していく。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	心理学者が考えてきたこと	現代の心理学は、「科学」であることを標榜している。「科学的」であるためには、中立的であること、客観的であることが、心理学者には求められている。これを実現するために、具体的にどのように、そしてどのような対象に対して、研究が行われているのか紹介する。	星　薫（放送大学准教授）	星　薫（放送大学准教授） 山口　勧（東京大学大学院教授） 青木紀久代（お茶の水女子大学大学院准教授）
2	生物としてのヒト	心は単独で存在するわけではなく、必ず体と共にある。心と体との関係について考える。また、人間行動についての進化論的分析についても、考えよう。さらに、今日急速に進展してきている脳科学の知見を、人の心や行動に対応付けることの難しさについても、考えてみたい。	同上	星　薫（放送大学准教授）
3	社会の中の人	社会の中で人は他の人や集団の行動を理解するように努めている。また、他者や集団に働きかけたり他者から影響を受けたりしながら生活を営んでいる。このように社会的な存在としての人がどのように環境を理解し、その中で行動しているかについて考えることにする。	山口　勧（東京大学大学院教授）	山口　勧（東京大学大学院教授）
4	大きくなること、老いること	人の一生には多くの変化が伴う。こうした発達的変化は、連続的なものと考えるべきなのだろうか、それとも、不連続なものだろうか。また、人のこうした変化には、体の成長、おかれた環境の影響はどのくらいあるのだろうかといった、発達心理学の基本的な問いについて考える。	星　薫（放送大学准教授）	星　薫（放送大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	目で見る、脳で見る	人は、自分の安全の確保や生命の保持のために、感覚器官を通じて常に、自分の周囲にある物や人に対して、「それは何?」、「それはどこ？」、さらに「それは安全?」、「それは何かの役に立つ？」などのことを確認し続けている。こうした、知覚の働きの特徴について考える。	星　薫（放送大学准教授）	星　薫（放送大学准教授）
6	憶える・忘れる	記憶というのは、何でも放り込んでしまえる一つの大きな「袋」なのではなく、いろいろな種類からなる、複数の働きの集合であると、心理学では考えている。だから、忘れるといってもその様態は一通りではない。記憶の働きについて、心理学の考え方を紹介する。	同上	同上
7	学ぶ・習う	動物が芸を覚えるときには、「ご褒美」が必要である。動物の条件付け研究から出発した学習の考え方は、心理学の中では大きな位置を占めている。だが人間が勉強をしたり、新しい技能を身につけるときにも、同じように「ご褒美」が有効かといえば、そうでもない。人の学習の特徴についても考える。	同上	同上
8	考える	私たちは、与えられた問題の答えを見つけようとして考えたり(問題解決的思考)、今ある情報から、今は分かっていない何かを推理しようとしたり(推論)して、考える。また、考えるとき、私たちは概念を利用する。私たちが持つ概念とは、どのようなものなのか、どうやって形成されるかについても、考える。	同上	同上
9	知能と頭の良さ	ビネによって、世界で初めて知能テストが考案されて以来、知能テストが辿ってきた歴史を紹介する。また、「頭の良さ」と知能テスト得点とが、同じものなのかどうか、さらに知能テストで測定される要素以外に指摘されている「頭の良さ」の要素についても紹介する。	同上	同上
10	感情	感情は、いったい何種類に分類できるのだろうか。また、身体的変化とどう関係しているのだろうか。感情は、人の認知にどう影響するのだろうか。人は感情をどう表現し、人の感情表現をどう解釈しているのだろうか。さらに、攻撃性という感情の特徴についても考えてみたい。	同上	同上
11	人それぞれ	人の個性は、それぞれ独自のものでありながら、同時に他者と共通するところも多い。その人らしさをどのように説明すればよいか。特性か？タイプか？それを測るにはどうしたらよいか。さらに、パーソナリティはどのようにして形成されるのか？などについて考える。	青木紀久代（お茶の水女子大学大学院准教授）	青木紀久代（お茶の水女子大学大学院准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
12	希望と悩み	人は、希望を持つことで、未来に向かって前向きに生きることができ、またつらい体験も克服していくことができる。一方で、どんな人にも心の中に葛藤や悩みが生じる。これらの心の成り立ちや機能について、身近な例を取り上げながら考える。	青木紀久代（お茶の水女子大学大学院准教授）	青木紀久代（お茶の水女子大学大学院准教授）
13	心の不調	身体の健康と同じように、心の不調は誰にでも起こりうる。一生の間に起こりがちな心の不調には、どのようなものがあるかを整理する。そして、これらが生じる心のメカニズムを考え、心の状態を知るための方法について紹介する。	同上	同上
14	心理臨床的援助	人の心の健康と育ちを援助する場と方法は、多種多様な展開を見せている。ここでは、心理臨床的援助心理療法）の歴史、代表的な学派を解説しながら、その共通原理を考える。また様々な援助の場とその実際について、具体的な事例を紹介する。	同上	同上
15	文化と人	文化によって人の心の働きや行動は大きく異なると考えられているが、同時に多くの点で文化を超えた共通性も存在する。日本人は本当に異質なのだろうか。ここでは、文化的な視点から、西洋とアジアの違い、さらには日本人の心について考えてみる。	山口　勧（東京大学大学院教授）	山口　勧（東京大学大学院教授）

＝　認知心理学概論（‘０６）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：　高野　陽太郎（東京大学大学院教授）〕

全体のねらい

認知心理学とは何か。認知というのは英語の cognition, cognitive の訳で、これは「環境の状態や変化を知り、それを（個体の生存や種の維持に）利用する」、といった程度の意味である。これを司っているのが心（といっても、英語の mind のほう）だから、「心を実験的に研究する学問」でよさそうだが、これだとただ「心理学」というのと区別がつかない。そこでもう少し付け加えるとすれば、現在の心理学の主流で、人間の心を「認知系」の代表としてとらえ、そのふるまいや働きを広い意味での情報処理的モデルを用いて明らかにしようという立場をとる心理学、ということになる。

この科目では、実験心理学的知見を中心に、認知心理学の各分野においてどのようなトピックが研究されているかを概観し、そのうちの少数を選んで詳しく解説する。ただし、受講者の知的好奇心を刺激するよう、できるだけ日常生活から生じる疑問を最初に提示し、後でそれに対する理論的・実証的説明をおこなう、という方針を採用したい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	認知心理学とは何か？	認知心理学の紹介。主な研究分野、日常的なトピックスとの関連、情報処理アプローチと適応論アプローチなどについて論じる。認知心理学の研究・知見が、単に実験室という人工的な場面での人間行動の特殊な観測でもなく、常識の再確認に留まるものでもないことを、実例によりしめす。	高野陽太郎（東京大学大学院教授）	波多野誼余夫（元放送大学教授） 高野陽太郎（東京大学大学院教授）
2	イメージ ー認知心理学の研究方法ー	認知心理学を学ぶためには、ただそこで見い出されている事実を知るのでなく、そうした事実を見い出すための研究法を知る必要がある。ここではイメージ研究を例に、イメージの実験的研究の歴史を、認知心理学的研究法という視点から跡づける。	高野陽太郎（東京大学大学院教授）	高野陽太郎（東京大学大学院教授）
3	視知覚	知覚について概観したあと、視覚情報処理に焦点を合わせて、物体認知などパタン認識の機能を担う腹側系と空間における対象への働きかけや運動のための認知機能を実現している背側系の作用について論じる。	横澤　一彦（東京大学大学院教授）	横澤　一彦（東京大学大学院教授）
4	注意	視覚的注意に焦点をあて、前注意段階と選択的注意段階を想定する特徴統合理論のほか、分散的注意と焦点的注意の協調により視覚認知が成立するという相互作用理論についても述べる。最後に、注意の分割や自動化について、一般的な形で論じる。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	記憶の型と神経的基盤	さまざまな型の記憶（長期記憶／作動記憶、意味記憶／エピソード記憶、処理水準、潜在記憶）の実験的研究、モデル、神経的基盤などについて紹介する。	梅田　聡（慶應義塾大学准教授）	梅田　聡（慶應義塾大学准教授）
6	日常記憶	これまでの実験室での記憶研究から、日常記憶をも含めることによりどんな進展があったのか、目撃証言、自伝的記憶、展望記憶、虚記憶などの現象を取り上げる。合わせて、記憶の状況依存性にも触れる。	同上	同上
7	知識と表象	認知の構築材料ともいうべき、記号的表象と知識についての実験心理学的知見を要約するほか、高次の知識の単位である概念（カテゴリ）、命題、スキーマ（スクリプト）などについて説明する。あわせて、ここ20年ほどの間にめざましく発展した非記号パラダイムによる研究例について学ぶ。	波多野誼余夫（元放送大学教授）	波多野誼余夫（元放送大学教授）
8	言語・談話理解	単語認知、構文解析、談話理解に関しては、それぞれ膨大な実験的検討がなされてきた。ここでは、そのうちでとくに理論的に重要な研究例をみるとともに、その日本語への適用例について学ぶ。	同上	同上
9	言語と思考	言語（例えばある現象を表す語彙の豊富さ）により思考（その現象をどれほど分化して概念化しうるか）が決定されるという言語相対性仮説のほか、バイリンガルの知能、外国語で作業する際の同時処理課題での成績低下などをめぐる実験的証拠を総覧する。	高野陽太郎（東京大学大学院教授）	高野陽太郎（東京大学大学院教授）
10	言語と脳	神経科学との相互浸透・影響は、認知心理学の多くの分野において生じているが、なかでも言語の脳科学に注目が集まっている。脳損傷患者についての詳細な症例分析と脳画像計測・解析技術の進歩についての初歩的解説のほか、失語、失読、失書などの認知学的説明を行う。	福沢　一吉（早稲田大学教授）	福沢　一吉（早稲田大学教授）
11	問題解決	思考の研究では、問題解決が中心となる。初期の問題解決はもっぱら人工的問題を用いていたが、最近ではもっと自然な状況での問題解決も増えている。人工知能、エキスパート・システムとの関連についても触れるほか、洞察や創造の実験的研究も紹介する。	波多野誼余夫（元放送大学教授）	波多野誼余夫（元放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
12	推論	思考研究のもう１つの柱は、推論研究である。人間が演繹推論、帰納推論の課題を解く過程、進化心理学や文化心理学からの示唆などについて、実験的証拠に基づいて論じる。	山　祐嗣（神戸女学院大学教授）	山　祐嗣（神戸女学院大学教授）
13	意思決定	いくつかの可能な選択肢のうちから一つを選ぶまでの過程を意味する意思決定は、認知研究と経済、経営、社会などの研究との接点になっている。人間が行う意思決定にはさまざまな心理的要因やバイアスが働くため、「規範」からの逸脱が生ずることや、人間が最適解を求めるのでなくヒューリスティクスを用いることなどが知られている。	小橋　康章（大化社代表取締役）	小橋　康章（大化社代表取締役）
14	社会的認知	認知心理学と社会心理学の境界領域で、情報処理アプローチと適応論（進化的）アプローチが競合する分野でもある社会的認知を扱う。個人の所属する社会的カテゴリに関する知識や社会的事象に関する知識が果たす役割、社会的推論の方略など。	高野陽太郎（東京大学大学院教授）	高野陽太郎（東京大学大学院教授）
15	認知研究の将来	これまでの 14 回の講義を総括するほか、心理研究と脳研究の関係をめぐって議論をかわす。両者が無関係だとする論や、心理研究が脳研究に吸収されるとする論を退け、両者が相互に促進的な影響を及ぼしうる可能性を追求する。	波多野誼余夫（元放送大学教授） 高野陽太郎（東京大学大学院教授）	波多野誼余夫（元放送大学教授） 高野陽太郎（東京大学大学院教授）

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	共通科目（人文系）	科目コード	1113100	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　精神分析入門（‘07）＝（R）

〔主任講師（現職名）：　牛島　定信（東京女子大学教授）〕

講義概要

精神分析は、神経症の治療法として登場したが、実践を重ねる中で人間を理解する心理学理論となり、人格を探求する研究方法として発展した。20世紀の思想界に大きな影響を及ぼしたことは周知の通りである。その一方では、時の経過とともに人の人格のあり様が変貌する中で、精神分析的理論もまた大きく変化した。本講座では、精神分析がどのようにして生まれて実践に供されるようになったか、さらにその後の発展を辿ることにしたい。

授業の目標

・無意識を理解する
・精神分析的本能論を理解する
・自我の機能を理解する
・対象関係を理解する

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	フロイトの生涯と精神分析	学問が理論家の人格や生涯と密接にかかわることを発見したのは他ならぬ精神分析である。ここではフロイトの生涯を辿りながら、精神分析理論の展開を考える。	牛島定信（東京女子大学教授）	牛島定信（東京女子大学教授）
2	深層心理学（無意識の発見）	精神分析は無意識の発見に始まった。それは催眠療法を起点とするが、フロイトをして無意識の存在を確信させたのは「催眠後暗示」体験と、O・アンナの症例（ブロイエル）であるとされる。その経緯に触れ、無意識の力動をどう考えたかを説明する。	上別府圭子（東京大学大学院准教授）	上別府圭子（東京大学大学院准教授）
3	深層心理学（無意識へ至る道）	フロイトは、無意識に至る方法として、催眠、自由連想法、夢解釈、失策行為や症状行為の分析を上げ、その研究に勤しんだ。フロイトの夢理論、失策行為の精神分析を中心に具体的な形でその実践に触れる。	上別府圭子（東京大学大学院准教授）	上別府圭子（東京大学大学院准教授）
4	リビドー理論	フロイトが幼児にも性欲があると主張して世を驚かせたことは周知のところである。リビドー理論といわれるものであるが、口愛期、肛門期、男根期がそれである。それと関連した性格論がある。それらを具体的に説明していく。	生地　新（北里大学大学院教授）	生地　新（北里大学大学院教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	エディプス・コンプレックス	フロイトは人間存在の基盤にある普遍的葛藤としてエディプス・コンプレックスを発見した。これが精神分析理論の中核をなすことになる。その展開の中で明らかとなる男女差とともに、その後の女性心理に関する発展についても検討する。	平島奈津子（昭和大学准教授）	平島奈津子（昭和大学准教授）
6	神経症論	精神分析を生み出したのはヒステリーであるが、その一方では強迫神経症についても詳しい理論がある。神経症発生のメカニズム、さらには、各神経症の特徴などを「ドラの症例」や「症例鼠男」を通じて説明を行う。	平島奈津子（昭和大学准教授）	平島奈津子（昭和大学准教授）
7	精神病論	フロイトは精神分析を神経症に有効な治療であるが精神病には無効であるとした。しかし、うつ病や統合失調症に対する理論的展開にも怠りはなかった。シュレーバ症例等を通じてフロイトの考え方を論じ、その後の発展を論じる。	奥寺　崇（国立精神・神経センター武蔵病院精神科医長）	奥寺　崇（国立精神・神経センター武蔵病院精神科医長）
8	パーソナリティを理解する	無意識が意識の世界の下層に位置するという考え、本能（リビドー）活動が外界や自我との力関係の中でなされる、さらにはイド・自我・超自我といった構造論が展開するさまを説明し、さらに自我の防衛について触れる。	生地　新（北里大学大学院教授）	生地　新（北里大学大学院教授）
9	精神分析療法の実際	催眠療法から発展した自由連想法が確立されたとき、治療法として精神分析が確立した。その中でどのような展開があるか（抵抗、転移、洞察）を説明し、精神分析家の養成に触れる。その後の発展についても論じる。	奥寺　崇（国立精神・神経センター武蔵病院精神科医長）	奥寺　崇（国立精神・神経センター武蔵病院精神科医長）
10	文学、芸術を理解する	精神分析は、生きている人間心理に関する理解を越えて、世の仕組み（トーテムとタブー）や幻術作品の理解にも特有の世界を形成した。小説や芸術作品を通じて作者の心理を追求する病跡学の道を拓いたのである。これらの発展にも触れる。	生地　新（北里大学大学院教授）	生地　新（北里大学大学院教授）
11	精神発達理論をたどる	フロイトがリビドー発達として口愛期、肛門期、男根期を描いたことはよく知られているが、その後、クライン、ウイニコット、マーラー、エリクソンといった精神分析的発達論が展開された。これらを比較検討する。	上別府圭子（東京大学大学院准教授）	上別府圭子（東京大学大学院准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
12	米国における発展	フロイトの精神分析は、アメリカでもっとも発展したと云われている。自我、超自我という概念の完成に続いて発展した自我機能に関する研究（自我心理学）があり、フロイトが病的として自己愛を再評価した自己心理学の発展がある。	平島奈津子（昭和大学准教授）	平島奈津子（昭和大学准教授）
13	英国における発展	フロイトが終焉の地となった英国では、アメリカとは一味違った理論の展開があった。フェアバーン、クライン、ウイニコットといった人たちが発展させた対象関係論がそうである。我が国にもなじみのものである。	奥寺　崇（国立精神・神経センター武蔵病院精神科医長）	奥寺　崇（国立精神・神経センター武蔵病院精神科医長）
14	我が国における発展	我が国における発展にも特異なものがある。アメリカや英国からの輸入といった面が強い一方で、アジャセ王の悲劇にまつわる罪悪感、依存や甘え（土居）といった概念で語られる母子関係を前面に出した理論的発展もまた注目に値する。	牛島定信（東京女子大学教授）	牛島定信（東京女子大学教授）
15	現代と精神分析	精神分析は 19 世紀末のヒステリー患者の多発に刺激された学問であるとされる。20 世紀末はどうか。同じく境界性パーソナリティ障害の流行は今なお続いている。時代も大きく変わった。19 世紀から 20 世紀、そして 21 世紀において内的価値観（良心など）の変遷をたどりつつ、精神分析の意義を論じる。	牛島定信（東京女子大学教授）	牛島定信（東京女子大学教授）

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	共通科目（人文系）	科目コード	1110900	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 心理臨床の基礎 （’０８）＝ （R）

〔主任講師（現職名）：小野けい子(放送大学教授) 〕

講義概要

本講義では、心理臨床の基礎として、臨床心理学の4領域である臨床心理アセスメント・臨床心理的援助・コミュニテイ援助・研究法の基礎について学ぶ。

授業の目標

本講義を通じて、臨床心理学の広い領域についての理解を深める。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
1	心理臨床について	臨床心理学とは何か、臨床心理学の歴史、心理療法の基本原則について学ぶ 【キーワード】 定義、歴史、領域	小野 けい子(放送大学教授)	小野 けい子(放送大学教授)
2	心理臨床の基礎理論1発達心理学理論	心理臨床の基礎理論としての発達心理学理論について学ぶ 【キーワード】 同化と調節、アタッチメント、ライフ・サイクル	小野 けい子(放送大学教授)	小野 けい子(放送大学教授)
3	心理臨床の基礎理論2学習理論・認知理論	心理臨床の基礎理論としての学習心理学理論・認知心理学理論について学ぶ。学習心理学の領域では、2つの条件付け理論(古典的条件付け・オペラント条件付け)と観察学習、認知心理学の領域では感情ネットワークモデルを中心にとりあげる。 【キーワード】 条件付け理論 観察学習 感情ネットワークモデル	越川 房子(早稲田大学教授)	越川 房子(早稲田大学教授)
4	心理臨床の基礎理論3深層心理学理論	心理臨床の基礎理論として、深層心理学と呼ばれる精神分析理論と分析心理学理論について学ぶ 【キーワード】 無意識、精神力動、内向・外向	小野 けい子(放送大学教授)	小野 けい子(放送大学教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	臨床心理アセスメント1	心理臨床におけるアセスメントとは何かを3章にわたって概説する。その第1回目として、面接法と中心に、アセスメントのポイントを例示しながら解説していく。 【キーワード】 見立て　正常と異常　わかるということ	佐藤 仁美（放送大学准教授）	佐藤 仁美（放送大学准教授）
6	臨床心理アセスメント2	心理検査法について、知能検査と質問紙法を中心に、作業法・構成法・描画法なども織り交ぜながら概説する。 【キーワード】 知能検査　質問紙法　作業法	佐藤 仁美（放送大学准教授）	佐藤 仁美（放送大学准教授）
7	臨床心理アセスメント3	投影法について、ロールシャッハテストなどを取り上げ、テストバッテリーを含めて概説する。 【キーワード】 投影法　テストバッテリー　主観と客観	佐藤 仁美（放送大学准教授）	佐藤 仁美（放送大学准教授）
8	心理療法1 精神分析療法	フロイトによって創始された精神分析療法は、私たちの意識領域だけでなく無意識領域を重視し、その解明を目指すところに特徴がある。心理療法過程で生じるおもな現象やそれに対処するための技法について概説する。さらに、精神分析療法の発展形態として、遊戯療法、集団心理療法、家族療法についての簡潔に説明する。 【キーワード】 無意識 自由連想法 転移・逆転移	小田切 紀子（東京国際大学教授）	小田切 紀子（東京国際大学教授）
9	心理療法2ユング派分析療法	ユング派分析療法について学ぶ 【キーワード】 イメージ、夢分析、箱庭療法	小野 けい子（放送大学教授）	小野 けい子（放送大学教授）
10	心理療法3 クライエント中心療法・パーソンセンタード・アプローチ	クライエント中心療法の創始と発展について、基本になる自己理論およびカウンセラーの条件について概説する。さらに実際のカウンセリングの経過について具体例を挙げながら述べる。最後にパーソンセンタード・アプローチの概要について触れる。 【キーワード】 自己理論　人格変容のための必要・十分条件　エンカウンターグループ	田畑 洋子（人間環境大学教授）	田畑 洋子（人間環境大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	心理療法4認知行動療法	認知行動療法の基本理論と主要技法について学ぶ。認知的アプローチの基本理論としてABC理論を、情動的技法の基本理論として古典的条件付けと感情ネットワークモデルを、行動的技法の基本理論としてオペラント条件付けをとりあげる。主要技法としては、認知的再体制化、自己教示法、自己強化法などをとりあげる。 【キーワード】 ABC理論　学習理論　認知的技法　情動的技法　行動的技法	越川　房子（早稲田大学教授）	越川　房子（早稲田大学教授）
12	心理療法5遊戯療法	遊戯療法を成立させる“あそび”の意味やセラピストの基本的態度について考え、遊戯療法の経過と各時期において起こってくる事象について概説する。また、遊戯療法を支える親の役割について述べる。 【キーワード】 子ども中心療法　八つの基本原理　並行面接	田畑　洋子（人間環境大学教授）	田畑　洋子（人間環境大学教授）
13	コミュニテイ援助1学校と地域	コミュニティとは、コミュニティ援助とは何かを概説する。主に、学校教育場面・精神医療場面にかかわる地域援助について考えてみる。 【キーワード】 危機介入　協働　支援づくり	佐藤　仁美（放送大学准教授）	佐藤　仁美（放送大学准教授）
14	コミュニテイ援助2子育て支援	少子化や共働き夫婦の増加により、家族や家庭の中だけでの子育てが難しくなっており、心理臨床家による子育て支援が求められている。母親と子どもを取り巻く社会的状況にふれたあと、心理臨床家が子育て支援を行う意義と援助の具体的方法について、コミュニティ援助の視点から概説する。 【キーワード】 少子化、育児不安、予防活動	小田切　紀子（東京国際大学教授）	小田切　紀子（東京国際大学教授）
15	臨床心理学研究法	臨床心理学研究は、心理的援助の実践活動を通して研究を行うことが基本となるため心理学研究の中では独自な位置づけとなる。臨床心理学研究の方法とその社会的意義、および倫理問題を概説する。さらに、卒業論文などの学術論文を執筆する場合の具体的方法について解説する。 【キーワード】 守秘義務、実践型研究、事例研究	小田切　紀子（東京国際大学教授）	小田切　紀子（東京国際大学教授）

＝　発達と教育の心理学的基盤（‘０５）＝（Ｒ）

〔主任講師：　稲垣　佳世子（千葉大学教授）〕

全体のねらい

子どもがおとなへと変化をとげる、ある領域で熟達していく――人間におけるこのような「発達」（あるいは長期にわたる学習）を支えているのは生まれつきの仕組みと教育を含む社会的・文化的要因であることを心理学の理論や研究からの知見をもとに明らかにするとともに、現在の発達や教育における問題点を再考する。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	発達・学習・教育とは	「発達」「学習」「教育」についての心理学における概念を解説するとともに、学ぶ「動物」としてのヒト、文化を取り入れ発達する存在としてのヒト、学ぶヒトを助けるために教育する存在としてのヒトの特徴を明らかにする。	波多野誼余夫（元放送大学教授） 稲垣佳世子（千葉大学教授）	波多野誼余夫（元放送大学教授） 稲垣佳世子（千葉大学教授）
2	人はどのようなときに学ぶのか？	人は現実的必要があるときに学ぶだけでなく、それを超えて学ぶことができること、人は誰でもが比較的容易に学べる領域と長期にわたる意図的な努力がないと学べない領域とがあるように生まれついていることを示す。	稲垣　佳世子	稲垣　佳世子 波多野誼余夫
3	言語発達における生得的制約と経験の役割	生後数年という極めて短い時間で、人が比較的容易に言語を獲得できるのは、種としてのヒトにそれを可能にするような仕組みが備わっているからであるとともに、親密な周囲のおとなとの集中的な相互作用によることを示す。	小椋　たみ子（神戸大学教授）	小椋　たみ子（神戸大学教授）
4	概念的発達と変化	子どもはかなり早い時期から特別教えられないにもかかわらず、世界の重要な諸側面を切り分け、それぞれに異なる因果的説明を適用できるが、それだけでなく、情報を取り入れるたびに少しずつ自分のもつ知識の組替えもしているという点で、知的発達が構成活動を伴う能動的な変化であることを明らかにする。	稲垣　佳世子	稲垣　佳世子
5	初心者から熟達者へ	初心者と熟達者はどこがどうちがうのか。スポーツや芸術、趣味や職業場面での熟達者を例にしながら、初心者と熟達者の知識の構造や運用のちがいを明らかにするとともに、ある領域での熟達者になるためにはどのようなことが必要かについての知見を紹介する。	野島　久雄（成城大学教授）	野島　久雄（成城大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
6	熟達化の社会・文化的基盤	初心者が熟達者になっていく過程は、初心者が熟達者のコミュニティに実践活動を通じて参加していくことである。そこでは文化がつくり出した道具とともに、親方や兄弟子などを含む他の人々によって助けられている。さらに時代の変化とともに熟達の目標も変化しうることを示す。	大浦　容子（新潟大学教授）	大浦　容子（新潟大学教授）
7	表記法の発達	発達において内化される文化的道具のなかでもとくに重要なのが、読み書き、数量化などに関わる能力である。これらの習得がどのように文化的に準備・援助されるのか、それにより認知能力がいかに変化するかを明らかにする。	秋田　喜代美（東京大学大学院教授）	秋田　喜代美（東京大学大学院教授）
8	IT技能の熟達	今や新しいリテラシィであるIT技能の獲得には、階層差や性差が大きく、それがまた社会的不平等を再生産するといわれている。このような主張を吟味するとともに獲得の障害を克服する方途を探る。	野島　久雄	野島　久雄
9	発達の最近接領域	より成熟した他者との相互交渉を行うなかで、発達主体が外界を代表する情報を取り込み、洗練し、構造化していくという「発達の最近接領域」の考えに沿って、足場かけ、学習者の教師による再言語化の効果などをみていく。	當眞　千賀子（茨城大学准教授）	當眞　千賀子（茨城大学准教授）
10	学習における共同性	従来の学習・発達研究では、個体の知識獲得がもっぱら論じられてきたが、ヒトの学習は、ほとんどの場合、共同で行われる。学習において同輩の果たす役割を見ていく。	當眞　千賀子	當眞　千賀子
11	学校の役割：日常的認知を超える	日常生活での学びの限界を克服するための役割を担うものとしての学校の長所を明らかにするとともに、現行の学校での学びがもつ弱点にも光をあてる。さらにそうした弱点を克服するために、学校のなかでの学びをどのようにすればよいかを探る。	稲垣 佳世子	稲垣 佳世子
12	学校的でない「学校」での学び	伝統的な学校必要論と脱学校論ないし学校不要論との中間に、学校的でない学びを学校に求めるという選択肢がありうる。もう一つの学校としてのオープンスクール、教科の枠にとらわれない、学習者の能動性を引き出す活動の実践例をいくつか紹介する。	大浦　容子	大浦　容子 波多野誼余夫

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
13	障害と発達	障害とは何か、障害の種類、障害の発生原因について理解を深め、障害を発達心理学的観点から考えることの重要性を概説する。有機体がもつ生得的要因と環境要因の力動的なインタラクションにより領域固有な能力が形成されていく。ことばの獲得の障害を中心に発達のメカニズムに基づいた援助の方法を提案する。	小椋　たみ子	小椋　たみ子
14	学習のデザイナーとしての教え手の役割	ヒトの学習においては、教え手が重要な役割を果たすが、なかでもプロの教え手としての教師の影響は大きい。教え手としての熟達とはどんな変化なのか、そうした教え手はなぜ不可欠なのかを論ずる。	秋田　喜代美	秋田　喜代美
15	発達観・教育観と心理学理論	これまでの講義をふまえ、発達と教育をどのようにみるかを理論的に考えてみる。一般の人がもっている素朴な発達観・教育観を、心理学理論はどのように支持・批判・発展させることができるのだろうか。ピアジェの構成主義、ガードナーの多元的知能、などを例にとって心理学理論を学ぶ意義を論ずる	波多野誼余夫 稲垣　佳世子	波多野誼余夫 稲垣　佳世子

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	共通科目（人文系）	科目コード	1110705	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 社会心理学の基礎と応用 （’０８）＝ （R）

〔主任講師（現職名）：村田 光二（一橋大学 教授）〕
〔主任講師（現職名）：坂元 章 （お茶の水女子大学 教授）〕
〔主任講師（現職名）：小口 孝司（千葉大学 准教授）〕

講義概要

現代の社会心理学は、多くの領域で社会認知的視点を採用していること、他の研究分野との連携を推進していること、そして経済行動や政治行動など幅広い分野に応用が広がっていることに特徴がある。こういった社会心理学の全体像を初学者がよく理解できるように簡潔にまとめ、基本的な考え方と研究事例をわかりやすく紹介したい。そのために、前半では社会心理学の基礎を社会的認知を中心に紹介し、後半では社会心理学の代表的な応用研究を紹介する。

授業の目標

全15回の講義を通じて、社会心理学の基本的考え方と研究領域を理解してもらい、それが現代のさまざまな社会的現象の理解や社会問題の解決のために役立つ可能性を知ってもらうことがこの授業の目標である。また、社会心理学研究のおもしろさや楽しさを知ってもらい、心理過程にも焦点を当てながら社会的出来事の分析や解明をする方法を知ってもらうことも目標である。以上を通じて、受講者が自己理解を深めることにもつながるだろう。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	社会心理学への招待	現代の社会心理学について、その歴史的背景、中心となる社会認知的視点、実験や調査などの実証的方法論についてわかりやすく紹介する。そして、さまざまな分野に応用されていることを話し、この講義のねらいと構成について説明する。 【キーワード】 社会心理学、社会認知的視点、実験や調査、基礎と応用	村田光二（一橋大学 教授）	村田光二（一橋大学 教授）
2	社会的自己	自分自身によって捉えられた自分を自己という。自己を意識して捉えるためには他者が不可欠であり、自己は社会的文脈の中で明確になる。ここでは、自己定義に応じて社会的行動や認知が異なることについて、研究例を挙げながら解説する。 【キーワード】 社会的自己、自己と他者、社会的文脈、自己概念	村田光二（一橋大学 教授）	村田光二（一橋大学 教授）
3	社会的認知	社会的場面で遭遇するさまざまな他者や他者が生む出す出来事を、私たちはどのように認知するのだろうか。ここでは、対人認知を中心に他者に関する情報処理の過程とその帰結について、既有知識との関連を中心に紹介する。 【キーワード】 社会的認知、対人認知、情報処理過程、スキーマ	村田光二（一橋大学 教授）	村田光二（一橋大学 教授）
4	社会的推論	私たちは獲得した知識を元に、直接は知り得ない他者の未知の側面や、自己の将来について推測することがある。ここでは、簡便な方略を利用したり、自分に都合よくバイアスがかかるなど、必ずしも正確に推論されない点などについて議論する。 【キーワード】 社会的推論、ヒューリスティクス、バイアス	村田光二（一橋大学 教授）	村田光二（一橋大学 教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	社会的感情	社会生活では、喜怒哀楽といったさまざまな感情を経験する。ここでは、これらの基本的感情に加え、より高次の感情として、恥、罪悪感など自分に対する意識（自己意識）と他者との関係から生じる社会的な感情とその働きを解説する。 【キーワード】 社会的感情，恥，罪悪感，自己意識	木村晴（帝京大学専任講師）	木村晴（帝京大学専任講師）
6	対人コミュニケーション	人と人との関わりにおいてコミュニケーションは欠かすことのできない重要なものである。ここでは、言語的な対人間のコミュニケーションに焦点を当てて、その中でも特に自らのことを他者に伝える自己開示について考察する。 【キーワード】 対人コミュニケーション、非言語行動、自己開示	小口孝司（千葉大学 准教授）	小口孝司（千葉大学 准教授）
7	集団過程	社会心理学では、個人の社会的行動や対人関係の問題だけでなく、集団に関するさまざまな問題にも強い関心が持たれてきた。ここでは、集団に関する代表的な理論や研究のいくつかを紹介する。 【キーワード】 集団の形成、集団行動、集団意思決定	坂元章（お茶の水女子大学 教授）	坂元章（お茶の水女子大学 教授）
8	ジェンダーの心理学	社会的な性別を示す「ジェンダー」を理解することは、社会や私たち自身を理解するためにも重要である。ここでは、ジェンダーという社会の仕組みが人々の自己及び他者理解と社会的行動にどのように影響しているかを説明する。 【キーワード】 ジェンダー，社会的役割，ステレオタイプ，ジェンダー・アイデンティティ	坂田桐子（広島大学 准教授）	坂田桐子（広島大学 准教授）
9	社会的不適応の心理学	社会の中で適応的に生きるためには、他者とよい関係を築く必要がある。しかし、ときに私たちは、他者との関係を損なうような行動を自らとってしまう。ここでは、このような社会的不適応に関連する身近な話題を取り上げて、解説する。 【キーワード】 攻撃行動、対人不安、抑うつ	高比良美詠子（メディア教育開発センター 准教授）	高比良美詠子（メディア教育開発センター 准教授）
10	産業・組織の心理学	産業・組織心理学は、独自の心理学領域のひとつであるが、社会心理学との関わりが深い。ここでは、社会心理学にとっても興味深い話題である「組織行動」「人的資源管理」「消費者行動」を取り上げて、概説する。 【キーワード】 組織、人的資源管理、消費行動	小口孝司（千葉大学 准教授）	小口孝司（千葉大学 准教授）
11	広告の心理学	社会的情報による説得のひとつとして、広告コミュニケーションを取り上げ、広告の送り手の技法、受け手の心理過程や行動を、社会心理学の視点から説明する。また、説得場面で生じる受け手の意思決定の誤りについても解説する。 【キーワード】 広告コミュニケーション、説得メッセージ処理、広告表現	田中知恵（昭和女子大学専任講師）	田中知恵（昭和女子大学専任講師）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
12	インターネットの心理学	コンピュータ・ネットワークは、単に便利なコミュニケーションの道具にとどまらず、私たちの心理や行動を変容させうるものと考えられる。ここでは、こうしたインターネットの特質と役割について、社会心理学の視点から説明する。 【キーワード】 メディア、情報化、ネットワーク	坂元章（お茶の水女子大学　教授）	坂元章（お茶の水女子大学　教授）
13	環境問題の心理学	ゴミ問題や地球温暖化問題のように、解決すべき地球環境の課題は山積みである。しかし、必要な行動は必ずしも実行されていない。なぜだろうか。ここでは、環境配慮行動を普及させていく方法を心理学の視点から考察し、説明する。 【キーワード】 説得と態度変容，コミットメント，環境配慮行動，市民参加	杉浦淳吉（愛知教育大学　准教授）	杉浦淳吉（愛知教育大学　准教授）
14	観光の心理学	現代社会において観光は非常に大きな意義をもっている。観光は人が大きくかかわる現象であるために心理学とのかかわりも深い。ここでは、観光が社会心理学の観点からどのように研究されてきたのかを解題していく。 【キーワード】 プッシュ要因、プル要因、旅行者	小口孝司（千葉大学　准教授）	小口孝司（千葉大学　准教授）
15	異文化理解の心理学	日本人と外国人のように、異なる文化的背景を持つ人の間では誤解が生じやすく、意思疎通のために特段の注意が必要な場合がある。ここでは、そうした誤解の事例や異文化間のコミュニケーションに関する研究などを紹介する。 【キーワード】 コミュニケーション・ギャップ、異文化適応、国際理解教育	坂元章（お茶の水女子大学　教授）	坂元章（お茶の水女子大学　教授）

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	共通科目（人文系）	科目コード	1111604	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　基礎教育学（‘０７）＝（Ｒ）

〔主任講師（現職名）：　江原　武一（立命館大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：　山崎　高哉（佛教大学教授）　〕

講義概要

日本の教育は、今、「危機」に瀕していると言われ、様々な改革が実施されている。しかし、その改革は時代や社会の変化に適切に対応するとともに、教育の本質に適ったものであろうか。

転換期にある日本の教育改革の現状を検証し、そのゆくえを探るために、グローバル化・ＩＴ化・知識社会化が進むなかで、教育の「基礎・基本」をどう捉え、子どもと家庭や学校（大学を含む）、社会などをめぐる諸問題をどう解決するべきかについて多角的に考察する。

授業の目標

「基礎教育学」の授業は、私たちの身近なところに横たわっている教育の生きた現実や具体的事例から出発して、それらが何を私たちに問いかけ、呼びかけているかを明らかにし、受講者の教育および教育学への興味・関心を喚起するように進めたい。

授業の基本的な進め方としては、講師が各テーマについて質問者との対談の形で講義するとともに、今後の研究課題を提示したい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	教育と学習	今日、教育や学習の意義が曖昧になり、その必要性すら疑われている。そこで、「教育」と「学習」という言葉の分析を通して、教育とは何か、学習とは何かについて考察するとともに、人間が人間らしく生きていくために、教育と学習が不可欠であり、「いつでも、どこでも、誰にでも、学びたい時に学べる体制」をつくることが求められていることを明らかにする。	山崎高哉（佛教大学教授）	山崎高哉（佛教大学教授）
2	発達と教育	今日、「発達」という概念に様々な批判が寄せられている。そのような批判に応えるためにも、「発達」の概念について検討を加え、それには多様な位相と意味があることを明らかにするとともに、人間の生涯にわたる発達と教育の関係のあり方を探る。	山崎高哉（佛教大学教授）	山崎高哉（佛教大学教授）
3	子ども観と教育観（1）	今日、「子どもは変わった」と嘆き、どう子どもとかかわったらよいのか、分からないという声が大きくなりつつある。どのような「子ども一大人」関係を築いていけばよいのかを考えるために、ここでは、西洋の代表的な子ども観と教育観の変遷をたどりながら、その基本的な捉え方を明らかにする。	山崎高哉（佛教大学教授）	山崎高哉（佛教大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	子ども観と教育観（2）	今日、「子どもは変わった」と嘆き、どう子どもとかかわったらよいのか、分からないという声が大きくなりつつある。どのような「子ども一大人」関係を築いていけばよいのかを考えるために、ここでは、日本の代表的な子ども観と教育観の変遷をたどりながら、その基本的な捉え方を明らかにする。	山﨑高哉（佛教大学教授）	山﨑高哉（佛教大学教授）
5	家庭と教育	今日、家庭と教育をめぐって様々な問題が指摘されている。家庭の教育力の低下、児童虐待、ひきこもり、アダルト・チルドレン等々、挙げ始めると切りがないほどである。このような問題を未然に防ぐためにも、子どもの豊かな人間性をはぐくむ家庭のあり方と家庭に固有の教育課題について明らかにする。	山﨑高哉（佛教大学教授）	山﨑高哉（佛教大学教授）
6	学校教育の社会的役割	今日、学校は厳しい状況にある。2005年の調査では、学校に満足していない保護者は27.5%（文科省）ないし43.2%（内閣府）にも達する。不登校の子どもや、不就学の外国籍の子どもなど、学校に行っていない子どもも多い。こうした状況のなか、「なぜ学校に行くのか」を問い、学校教育の社会的役割を明らかにする。	片山勝茂（仁愛女子短期大学専任講師）	片山勝茂（仁愛女子短期大学専任講師）
7	多文化社会と市民性の育成	近年の大きな社会変化の一つは、多文化社会の進展である。そして（人種間の対立を含む）多文化社会の現実への対応として、市民性の育成が改めて注目されている。主に日英の市民性教育の状況を比較しながら、多文化社会における教育のあり方を考える。	片山勝茂（仁愛女子短期大学専任講師）	片山勝茂（仁愛女子短期大学専任講師）
8	教育課程と学力観	学校の教育目標を達成するために編成されているのが、教育の全体計画としての教育課程である。そして教育課程に示された教育内容をどの程度習得しているかによって規定されるのが、学力である。学力にかかわる社会の考え方がどのように変容してきたのかを明らかにし、教育課程のあり方を探る。	深堀聰子（京都女子大学短期大学部准教授）	深堀聰子（京都女子大学短期大学部准教授）
9	教育評価の構造	教育評価は、教育実践を通して児童生徒がどのような学力を獲得したのかを明らかにする取り組みであるが、その目的や方法は一様ではない。教育評価の構造を整理したうえで、教育課程や学力についての考え方とともに教育評価のあり方がどのように変化し、いかなる今日的課題を抱えているのかを明らかにする。	深堀聰子（京都女子大学短期大学部准教授）	深堀聰子（京都女子大学短期大学部准教授）
10	宗教と学校	今日の学校教育では、基礎的な教科を中心とした認知的教育と並んで、子どもが多文化社会にふさわしい知識や考え方を学ぶ価値教育を充実することが求められている。この価値教育の意義や課題を、世界の教育現場で宗教はどのように教えられているのかを調べることを通して考える。	江原武一（立命館大学教授）	江原武一（立命館大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	大学教育の改革	近年、大学教育の充実や各大学での個性的な教育の展開が叫ばれ、様々な改革が進められている。大学教育のあり方について、大学の機能、日本における大学教育の変遷、大学教育をめぐる評価といった観点から考える。	南部広孝（長崎大学准教授）	南部広孝（長崎大学准教授）
12	生涯学習の展開	1960年代に登場した生涯学習（生涯教育）という考え方は、今日の教育を考える重要な視点を提供している。生涯学習の理念と日本における展開をふまえて、今後生涯学習活動を進めていくうえでの課題を明らかにする。	南部広孝（長崎大学准教授）	南部広孝（長崎大学准教授）
13	国際化と教育	日本における国際化と教育をめぐる諸問題を、国際化のための教育（国際理解教育、外国語教育、日本語教育など）と教育システムの国際化（教育システムの標準化、海外子女教育・帰国子女教育、在日外国人教育、国際学校など）を中心に考察し、国際化時代における教育のあり方を考える。	江原武一（立命館大学教授）	江原武一（立命館大学教授）
14	転換期の教育改革	世界の多くの国ぐにでは、現在、大規模な教育改革が進められている。それは英国や米国、日本などの先進諸国だけでなく、発展途上諸国でも同時進行の形でみられる。この転換期の教育改革の背景を国際比較の観点から分析し、望ましい教育改革の方向を探る。	江原武一（立命館大学教授）	江原武一（立命館大学教授）
15	日本の教育のゆくえ	第二次世界大戦後の日本の教育改革の歩みをたどるとともに、これまでの講義の内容をふまえて、教育の基本的な捉え方、子どもと家庭や学校、社会などをめぐる諸問題を明らかにし、今後の日本の教育のあり方を展望する。	江原武一（立命館大学教授）	江原武一（立命館大学教授）

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	共通科目（人文系）	科目コード	1110608	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 学校教育論 （’０８）＝ （R）

〔主任講師（現職名）：田中　統治　（筑波大学大学院教授）〕
〔主任講師（現職名）：庄司　一子　（筑波大学大学院教授）〕
〔主任講師（現職名）：浜田　博文　（筑波大学大学院准教授）〕

講義概要

わが国ではこれまでになかったほど学校教育に注目が集まっている。特に、これまで看過されてきた学校内部の問題、たとえば、カリキュラム(学習内容)、学校・学級での生活や人間関係、そして学校改革の可能性などへの関心は高い。この科目では、学校社会学、学校心理学、及び学校経営学を専門とする立場から、学校教育をその基礎から理解し、現下の問題の本質と背景、発生のメカニズムを把握した上で、今後を実践的に展望する。

授業の目標

この授業では、学校教育の「在り方」を論ずるのでなく、その「在り様」をできるだけ客観的に深く理解することを目指す。このため、学校教育の抱える問題点を切り口としながらも、それが社会現象として、他の組織・集団・関係においても共通して現れる問題であることに注目し、その原因に迫れるように工夫した。受講者がテキストを端緒として、関連する参考文献を読み進めて、学校教育に関してより深い理解に達することを目標とする。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	学校教育を考える視点	学校教育は誰もが経験しているために、その経験を相対化して考えることが難しい。そこで、学校を研究対象とする学校社会学の立場を例に取り上げながら学校教育を考えるための視点を示し、講義の概要に触れる。 【キーワード】 学校教育学、学校社会学、学校経験、社会化	田中　統治（筑波大学大学院人間総合科学研究科・教授）	田中　統治（筑波大学大学院人間総合科学研究科・教授）
2	学校の社会的機能	学校教育が全体社会にとって果たしている役割について、社会的機能の観点から解説し、この機能が過去どのように変化してきたかを跡付け、現代の学校教育が直面している課題をマクロ(巨視的)な視点から考える。 【キーワード】 社会的機能、国民教育、人材の選抜・配分、逆機能	同	同
3	学校教育の過程	学校教育をその入力ー出力系で考えてきた機能主義に代わって登場した、ミクロ(微視的)な研究の立場を解説し、「教育過程」(教師ー教育内容ー生徒の三者による相互作用)の視点が注目する問題を検討する。 【キーワード】 教育課程、相互作用、ブラック・ボックス、生活世界	同	同
4	学校文化とカリキュラム	学校文化(学校に特有の生活・行動様式)の視点から、それが生徒や教師に及ぼす人間形成(社会化)作用とその実態を考える。そして、生徒にとってカリキュラムが学校文化を学習する経験であることを明らかにする。 【キーワード】 学校文化、カリキュラム、教師文化、生徒文化	同	同

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	隠れたカリキュラム	公式のカリキュラム(教育課程)に対して、学習者が結果的に学んでいる内容(隠れたカリキュラム)に注目し、その特徴を解説する。文化伝達の機関である学校が学習者のアイデンティティまで規定するメカニズムに迫る。 【キーワード】 隠れたカリキュラム、公式のカリキュラム、学習経験、アイデンティティ	田中　統治（筑波大学大学院人間総合科学研究科・教授）	田中　統治（筑波大学大学院人間総合科学研究科・教授）
6	居場所としての学校	子どもにとって学校は居場所としての機能を果たすが、現代ではとくに学校に通う上で重要な意味をもつ。では、居場所とは何か？子どもにとって学校は居場所になっているのか、またどのように居場所になりうるのか、その環境づくりについて考察する。 【キーワード】	庄司　一子（筑波大学大学院人間総合科学研究科・教授）	庄司　一子（筑波大学大学院人間総合科学研究科・教授）
7	学校生活とストレス	学校ストレスの研究から、学校は子どもに様々なストレスを与える場であることが明らかになっている。子どもにとって学校はどのようなストレスを感じる場であり、その結果、学校ストレスが子どもにどのような影響を及ぼすのか、その実態を考える。 【キーワード】	同	同
8	教師と生徒の関係	学校教育の場面で教師と生徒は多様な関係をもつ。それは彼らにどのような影響を及ぼしているのだろうか。ここでは教師による授業中の「雑談」をとりあげ、その影響を中心に考える。さらにこうした人間関係の悩みが教師に及ぼす影響についても論じる。 【キーワード】	同	同
9	生徒の内面世界	現代の学校は不登校、いじめ、非行、人間関係の問題などに直面している。学校関係者がこれらに対応するとき、生徒の内面を十分理解して対応することが求められる。では、生徒はどのような悩みを抱え、援助を求めているのか、ここではそれを考える。 【キーワード】	同	同
10	学校での教育相談	前四回で論じてきた、子どもにとっての学校、学校生活のストレス、教師と生徒との人間関係、生徒の内面世界に関して振り返り、これらを理解した上でどのような教育相談が求められ、配慮すべき点は何かについて解説し、事例をとりあげて検討する。 【キーワード】	同	同
11	現代学校の制度原理	「子どもはみんな学校へ通う」ということは、長い間、当然と見なされてきた。しかし近年、「不登校」現象など、そこに変化の兆しがみられる。ここではまず、現代の学校を成り立たせている制度上の基本原理について考える。 【キーワード】	浜田　博文（筑波大学大学院人間総合科学研究科・准教授）	浜田　博文（筑波大学大学院人間総合科学研究科・准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
12	教員職務の特徴と「やりがい」	教員は、「子どもに教えること」を専門的に担う職業として、学校制度とともに形成され発展してきた。ここでは、学校教育の要とも言える教員職務の特徴を理解するとともに、その課題状況と「やりがい」について考えてみたい。 【キーワード】	浜田　博文（筑波大学大学院人間総合科学研究科・准教授）	浜田　博文（筑波大学大学院人間総合科学研究科・准教授）
13	教員養成の仕組みとその課題	教員としての優れた専門的力量はどのような要素で構成されるのか。その養成教育では、どのような知識内容が習得されるべきか、そして、そのためにはどんな養成の仕組みが必要か。これまでの教員養成に関する諸論議から、これらの点について考える。 【キーワード】	同	同
14	「組織」としての学校とその特質	現代の学校は、一つの組織としての力をますます必要としている。学校を「組織」と見ることの意義は何か、学校という組織にはどのような「力」があるのか、学校はいったいどのような組織なのか、について考える。 【キーワード】	同	同
15	学校と親・地域との関係	近年、学校と親・地域の関係の有り様は変化している。これまで、学校と親・地域との関係について議論されてきたことを整理するとともに、これからの学校教育の在り方を考える上で、学校と親・地域との関係はどうあるべきかについて検討する。 【キーワード】	同	同

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	共通科目（人文系）	科目コード	1113607	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　現代を生きる哲学（‘07）＝（R）

〔主任講師（現職名）：佐藤　康邦（放送大学教授）〕

講義概要

哲学という言葉は、古代ギリシャのプラトンの語ったピロソピアという言葉に由来するフィロソフィーの日本語訳である。この言葉は「知を愛する」という意味を持つが、すでにプラトンの段階で、それには単に日常生活に役立つ知識とか専門科学の知識を超える知という位置が与えられていた。そのような哲学的知識および哲学的思索というものがそもそもいかなるものであるのかを、理論哲学、実践哲学、宗教哲学、芸術哲学の各場面に従って紹介するとともに、それが現代を生きる私たちにどのような意味を持つのかを検討する。

授業の目標

まず、哲学の基礎知識や基礎的考え方について、西洋哲学の歴史に現れた哲学者および日本近代の哲学者の思想内容を踏まえた上で学ぶ。といっても、単に哲学史についての知識を得るということに留まることなく、そのような哲学的思索が、今日の科学や社会や芸術、宗教について考える際に、私たちにどのような示唆を与えてくれるかという観点に立って学ぶことを目指す。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	序　哲学的知とはどのようなものなのか	哲学という学問の独自性を、他の専門諸科学と比較することによって示し、あわせて、哲学が包摂する理論哲学、倫理学、宗教学、芸術学の諸領域について説明する。その際、西洋思想史を概観した上で、今日の哲学の課題について考える。	佐藤康邦（放送大学教授）	佐藤康邦（放送大学教授）
2	第Ⅰ部　科学的知性と哲学 （1）自然科学的知性の目覚めと哲学	古代ギリシャにおいて最初の哲学的思惟は自然哲学として現れた。それに対する現代の科学者による評価を紹介した上で、プラトンのイデア論とアリストテレスの自然学を頂点とする古代科学、古代哲学の意義について考える。	同上	同上
3	（2）近代科学の成立と哲学	16、7世紀に西洋において近代科学のもとになるような自然研究が現れた。それを代表するガリレオおよびデカルト、ホッブズ、スピノザ等の自然観を検討するとともに、この新たな自然観がどのような哲学的思索と結びついたのかを検討する。	同上	同上
4	（3）カント『純粋理性批判』の検討	近代哲学を代表するカントの『純粋理性批判』は、ニュートンによって完成された近代科学を前提としながら、人間の立場からの哲学を展開したものである。その全貌を先駆者であるヒュームに遡って検討する。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	（4）近代哲学における有機体論の系譜	ガリレオ、デカルト以来近代科学を導いてきた機械論的自然観に対抗して、有機的生命の観点から自然を見る有機体論の系譜を、ライプニッツ、ゲーテ、カントの『判断力批判』等を踏まえた上で、現代のエコロジーと結びつけて考える。	同上	同上
6	（5）実証主義的科学の制圧と哲学の使命	１９世紀以降、自然科学は哲学者の手を離れて、専門科学者の実証主義的研究の支配下に置かれた。この系譜を、コント、ダーウィン、マッハ、フロイト等の実証主義的科学の主張に見るとともに、それへの反発の例を現象学の哲学に見る。	同上	同上
7	第Ⅱ部　社会的正義と哲学 （1）プラトンとアリストテレス	西洋の倫理思想についても、国家論についても、プラトン、アリストテレスを語らずにははじまらない。ソフィストに対するソクラテスの意義、プラトンの国家論、アリストテレスの徳と幸福の定義を通して西洋倫理思想の正系について見る。	同上	同上
8	（2）トゥキュディデスとマキャベッリ	トゥキュディデスのペロポネソス戦争の記述とマキャベッリの『君主論』は、この世の弱肉強食の実体を暴き出したことにより倫理学的思考のなかで独自の位置を占めている。これらを通じ、西洋倫理思想の反正統の系譜について見る。	同上	同上
9	（3）カントとヘーゲル	道徳的評価というものを個人の自由意志の上にすえる近代に特徴的な考え方をカントの道徳法則に見、それに対抗して、倫理の問題を個人を超えた社会的なものと考えた例をヘーゲルの人倫概念に見ることにする。	同上	同上
10	（4）スミスにおける倫理学と経済学	一方において、共感という感情の基礎の上に独自の倫理学を打ち立てたスミスは、近代における最も成功した社会理論である経済学の確立者でもあった。この両側面のつながりを哲学の観点に立って検討する。	同上	同上
11	（5）マルクスとウェーバー	今なお私たちの生活を決定づけるものである資本主義について、マルクスは否定的、マックス・ウェーバーは肯定的に評価を下した。この両者の思想を比較、検討してみることは、今日の社会を理解する上でも不可欠の課題である。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
12	（6）社会システムの時代の倫理学	私たちは、現代社会において、一方では自己決定の権利を与えられていながらも、他方では否応もなく社会システムのうちに組み込まれている。そのことの学問的解明の例を社会システム論に見る。	同上	同上
13	第Ⅲ部　哲学にとっての宗教と芸術 （1）宗教と哲学	哲学は、自然についての認識の真理の問題、社会的正義の問題に関わるものであるとともに、また、同時にそれらに解消しきれない個人の内面の問題も扱う学問でもある。ここでは宗教の問題を、実存主義思想などを参照しつつ検討する。	同上	同上
14	（2）芸術と哲学	プラトン、アリストテレスの昔から、哲学者は美や芸術の問題に深い関心を寄せてきた。ここでは、この二人に加えて、カント、シェリング、ヘーゲルの古典的美学の検討を踏まえた上で、現代における芸術の状況について考える。	同上	同上
15	第Ⅳ部　近代日本の哲学的自己主張	近代の日本人は、他の学問同様に西洋から哲学も受け入れてきた。しかしそれと同時に、それを通じて自己表現の途も探ってきた。そのことを、西田幾多郎、和辻哲郎、三木清等の思想を通じて検討する。	同上	同上

＝　倫理思想の源流（‘０５）＝（Ｒ）

〔主任講師：　関根　清三（東京大学大学院教授）〕

全体のねらい

西洋の倫理思想史の様々な潮流がそこに発する、ギリシアとヘブライの２つの源流に遡って、基本テクストを読解し、多様な思索に学びつつ、そこで何が問題となり、それが倫理学的にどのような意味を持つのか、について考察する。そのことを通して特に、愛・正義・超越・犠牲等、現代人の思索に挑む問題系の射程を見定め、特に「驚き」を基底に据えた倫理学の可能性について、何某かの展望を開くことを目指したい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	序論 ―「驚き」―	プラトン、アリストテレスが哲学の始めに「驚き」があることを指摘しているが、実践哲学としてのギリシアの倫理学もここに起点を持つだろうことを、様々なテクストを引きつつ、確認する。ヘブライの宗教倫理においても、「驚き」が鍵語となることについては、現代のユダヤ教哲学者ヘッシェルが、正当にも注目しているが、これについても、本論を先取りして、主要テクストを参照する。	関根　清三（東京大学大学院教授）	関根　清三（東京大学大学院教授）
	第Ⅰ部　古典ギリシアの実践哲学①ソクラテス前の哲学者たち（1）　―イオニア学派	紀元前６世紀、ギリシアの植民地イオニアに、澎湃として出現した哲学者たち、タレス、アナクシマンドロス、アナクシメネスは、万物の無限な原理を探り、さらにはクセノファネスはその原理を擬人神観的に捉えることを批判し、ヘラクレイトスは万物を操る叡慮について思索した。それらは哲学の嚆矢であると同時に、超越への驚きに基づく知的探求を善とする倫理学の誕生を告げるものである。		
2	② ソクラテス前の哲学者たち （2）―イタリア・トラキア学派	前５世紀のイタリア・トラキア学派では、憎しみが惹起する争いによる罪の意識とそれを償おうとする意志、更には愛の調和への復帰を語ったエンペドクレス、上機嫌や中庸の徳、さらには畏怖の重要性を指摘したデモクリトスが、倫理思想の上からは注目される。しかし両者に影響を与え、現代のハイデッガーに至るまで広汎な影響力を有する、パルメニデスの独創的な存在論も刮目に値する。	同　上	同　上
3	③ ソクラテスとプラトン （1）―ソクラテスからプラトンへ	プラトンの初期対話篇の主人公であるソクラテスと、中期・後期対話篇のプラトン自身の思想を分けて、それぞれを比較する。徳が幸福のために十分と考え、徳を知と同一視し、また霊魂不滅を信じたソクラテスに対し、徳は幸福に至る手段ではなく、また知識以上のものと考えたプラトンは、独自の正義論・愛論を展開する。また彼は霊魂不滅の信仰を論証しようと試みた。両者の比較を通して、倫理的な問答の真髄を探る。	同　上	同　上
4	④ ソクラテスとプラトン （2）―プラトンを中心に	プラトンにおける徳と正義、愛と快楽、霊魂とイデアといった中心問題を、中期の『国家』篇の読解を通し、適宜、中期の『パイドン』『パイドロス』『メノン』『饗宴』、後期の『テアイテトス』『フィレボス』その他の対話篇も参照しつつ、論ずる。	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	⑤ アリストテレス（1）－幸福と倫理的卓越性	以下3回にわたって、アリストテレス『ニコマコス倫理学』を読み解きつつ、ギリシア倫理学の到達点を見定める。先ずこの書の位置付けと構成を押さえた上で、プラトン倫理学との相違点を整理する。特にアリストテレスの視点からするプラトンのイデア論批判の妥当性を検討する。次に、善と幸福とは何か、から説き始め、最高善の指摘をもって結ばれる、『ニコマコス倫理学』全体の結構を俯瞰する。続いて倫理的卓越性（徳）論を整理する。	関根　清三	関根　清三
6	⑥ アリストテレス（2）－中庸と徳論	徳論の中心である中庸論とそれへの後世の批判、それらの評価について論じた後、勇気、正義、愛の三つの徳に絞って、その意味について考える。配分的・矯正的・相補的正義の解釈、自愛は総じて非か否かをめぐる議論等をめぐって、考察する。	同　上	同　上
7	⑦ アリストテレス（3）－知的卓越性と観照	まず倫理的卓越性に対する知的卓越性の諸相を、思慮（実践知）に焦点を合わせて論ずる。行為と責任、放埒と抑制といった問題圏から、独自の快楽論とその位置付けについて考察する。最後に、幸福としての観照をめぐるアリストテレスの結論部を分析し、プラトンとの比較、政治論への移り行きについて押さえる。またその理性尊重の基本姿勢とその包含する問題性、ギリシア的自由民の倫理からヘブライ的捕囚民への展望を開いて、第Ⅰ部の結びとする。	同　上	同　上
8	第Ⅱ部　古代ヘブライの宗教倫理 ⑧ 十戒（1） －第六戒から第九戒を中心に	第Ⅱ部の宗教倫理としてのヘブライ倫理についての論じ方をめぐって注意点を押さえた上で、旧約の第一部分「律法」から先ず十戒を取り上げる。殺人・姦淫・偸盗・偽証を禁ずる第六戒から第九戒をめぐって、ヘブライ語に遡った広狭二つの解釈の可能性を確認し、更にそれらが禁ぜられる根拠を探る。カントの定言命法からの根拠付けとヘーゲル以降の批判、和辻哲郎の信頼理解からの根拠付けとその当否について論ずる。	同　上	同　上
9	⑨ 十戒（2） －第一戒を中心に	前回見た和辻の第六戒以降の根拠付けは、第一戒から四戒、すなわち神関係の戒めを無視するところに、十戒解釈としては瑕疵が存することを指摘した上で、論者自身神関係の戒めを哲学的に解釈する可能性を模索する。それを踏まえて、和辻に代わる、十戒の根拠付けを試みる。倫理が突き詰めたところ、何らかの超越的原理と関わらざるを得ないことを、現代の象徴論などを考慮しつつ論じ、そこから古代の倫理に通底する「驚き」へと論じ進む。	同　上	同　上
10	⑩ 法集成 －「契約の書」「申命記法」「神聖法典」	「律法」中唯一の断言法たる十戒に対し、決疑法の代表的集成である、「契約の書」「申命記法」「神聖法典」の三つについて、倫理思想上の落穂拾いをする。捕囚民・社会的弱者へのアガペーの思想、愛敵の思想が、新約に先駆けて語られることに、注目する。	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	⑪ 知恵文書（1） －『箴言』	旧約聖書の第三の部分「諸書」中、倫理思想の上から逸することができないのは、所謂「知恵文書」である。その代表的三著『箴言』『ヨブ記』『コーヘレス書』について、以下三回にわたって学ぶ。『箴言』については、これを徳目表として読むというのが、論者の視点となる。しかもその錯綜した叙述を、ギリシアの『ニコマコス倫理学』の徳論との比較の視座を導入して、哲学的に整理しつつ読むというのが、ここでの方法である。そこから、ギリシア・ヘブライそれぞれの徳論に共通するものと独自のものの別も見えて来るはずである。なお『箴言』中にも愛敵の思想が顕著であることを、パウロと比較して付言する。	関根　清三	関根　清三
12	⑫ 知恵文書（2） －『ヨブ記』	『箴言』では基本的に応報信仰が保たれていたが、義人が苦しむ現実を前に、応報思想の破れを問題にした後期知恵文書が、『ヨブ記』である。キルケゴール、ユングなど後世の解釈を批判的に紹介した上で、『ヨブ記』作者のこの問題に対する独自の答えを読み解いて行く。	同　上	同　上
13	第Ⅲ部　ギリシア・ヘブライ倫理の帰趨 ⑬ ヘブライ宗教における応報倫理 －『コーヘレス書』を中心に	『ヨブ記』は例外的な義人の苦難を問題にしていたが、より一般的に応報の破れた現実を剔抉し、伝統的な信仰の革新を試みた最後期の知恵文書が、『コーヘレス書』である。全てを空、と断ずるその思想を、語の十全の意味でニヒリズムと規定すべきことを、ニーチェ・ハイデッガーのニヒリズム定義を参看しつつ論じた後、現代の哲学的に整理されたニヒリズム理解との比較において、『コーヘレス書』の迷路のようなテクストを読み解くことを試みる。特に倫理思想の観点から重要なのは、応報倫理の破れたニヒリズムを、個人のささやかな愉悦を楽しむことによって超克しようとする、コーヘレス独自の思想だが、そこには終始他者が忘れられていることも、他方限界として指摘せねばならない。	同　上	同　上
14	⑭ ヘブライの宗教倫理と贖罪思想 －預言者を中心に	応報の破れを率直に認めつつ、コーヘレスのようにエゴイズムに閉じこもることなく、他者関係に開いた新しい神の模索を、旧約の他のテクストに探って行くことが、ヘブライズムについての最終回である14回の課題となる。旧約中第二の部分「預言者」から先ずイザヤを取り上げ、彼の義の神とその限界、また歴史書と文学書からダビデのバテシェバ事件における愛の神の発見とその問題性を読み解いた後、義だけでも愛だけでもなく、両者の統合を贖罪思想において発見した、捕囚期の預言者第二イザヤに注目する。ヴェーバーの古代ユダヤ教理解を批判的に援用しつつ、第二イザヤこそ、応報倫理の破れを逆手に取って、却ってそこにこそ顕れる新しい神の働きを見出したことを確認する。それを踏まえて更には新約のイエスの十字架理解の系譜へと論じ進む。しかしこの贖罪思想の系譜こそ、カント、若きヘーゲル、またニーチェ、レヴィナスなどの諸家が激越な批判の対象とした、思想史上の争点でもあった。最後にそれぞれの視点からの批判と、贖罪思想からの応答の可能性を探る。	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
15	⑮ 愛と義をめぐるギリシア哲学の省察 ―アリストテレスに即しつつ	ヘブライの倫理思想の根本問題は、応報倫理の破れをどう解するか、という点に収斂したが、これに対するユダヤ・キリスト教の贖罪信仰からする解答を、より一般的な哲学の理性の言葉で敷衍するとどうなるであろうか。最終回は、『ニコマコス倫理学』に戻って、その行間にまで分け入りつつ、愛が贖罪にまで至り得、また至らざるを得ない事情について、何某かの展望を開き、あわせ哲学と宗教の相補的緊張関係について確認して、結びとする。	同　上	同　上
	結語と展望 ―再び「驚き」をめぐって―	ギリシア・ヘブライの倫理思想に底流するものとして、序論で確認し、本論でも適宜注意を喚起して来た「驚き」をめぐって、その現代的意義について省察するのが、最後の課題となる。謙虚、謎解き、愛、超越など現代人に挑む問題系を包含する驚きという概念の、倫理思想にとっての豊かな可能性を示唆し、聴講者の思索への誘い水とする。		

＝　生命と人生の倫理（‘０５）＝（TV）

〔主任講師：　清水　哲郎（東京大学大学院教授）〕
〔主任講師：　伊坂　青司（神奈川大学教授）〕

全体のねらい

生命操作技術の発展に伴って新たに生じた倫理的諸問題を対象とする生命倫理学と、人生全体の中で医療を位置づけつつその倫理を考える方向（ここでは「人生の倫理」と呼ぶ）との間を架橋しつつ、医療者と患者・家族とが出会う医療現場における倫理の方向付けを目指す。生物学的生命と物語られるいのち（人生）の間、また高度化した技術と日常的生活の間を行き来しつつ、諸問題を考えたい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	生物学的生命と物語られるいのち	私たちが《いのち》について考え、語る際に、二つの観点がある。身体に注目しつつ「生きている」という時に、注目している生命は、「生活し」「人生を送って」いる私たちのいのちを支えている。この二つの見方を説明し、本授業のタイトルの意味を提示するとともに、以下の授業内容を説明する。	清水　哲郎（東京大学大学院教授）	清水　哲郎（東京大学大学院教授）
2	生命操作の技術と倫理(1) 生命の誕生をめぐって	今回から４回に亙って、生命操作技術の高度化に伴って、新たなタイプの倫理的問題が起きてきた状況と、それに対処すべく成立した生命倫理学について概観する。今回はまず、人工授精や体外受精などの生殖補助技術、およびクローン技術をめぐる倫理的問題を考える。	伊坂　青司（神奈川大学教授）	伊坂　青司（神奈川大学教授）
3	生命操作の技術と倫理(2) 遺伝子の情報と操作	最先端の生命操作技術と目される遺伝子情報と操作をテーマとして、それが医療に有効に使われる可能性とともに、プライバシーについての新たな問題や、出生前診断による妊娠中絶の問題などを、倫理的側面から考える。	同　上	同　上
4	生命操作の技術と倫理(3) 脳死と臓器移植	脳死と臓器移植についての現状を理解し、倫理的諸側面を検討する。「脳死をもってヒトの死とする」という理解の妥当性、臓器移植をめぐる提供側（ドナー）、受け手側（レシピエント）のあり方等を検討し、人間全体を見る立場から問題にアプローチする。	同　上	同　上
5	生命操作の技術と倫理(4) 終末期と死の選択	耐え難い苦痛や人間としての尊厳を理由に、自らの死を選択する自己決定権の主張がされている。生死のコントロール技術が進んだことによって、問題は複雑になっている。そうした諸状況を概観し、終末期における安楽死や尊厳死の選択を考える手掛かりを探る。	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
6	個体としての人間	今回から3回に亘って、前回までに見てきた生命倫理の典型的諸問題の根本にある、《人間》をどう捉えるかという問題を考える。今回は、《個体・個人》がテーマであり「個体はどのようにして個体か？」を、生物学的視点から、および個体史の視点から考える。	清水　哲郎	清水　哲郎
7	人間とその尊厳	《人間》について、価値という面から考える。人格と尊厳、人権、自律、QOL（quality of life；生の質）、生命の価値、人生の価値等々について理解した上で、「（いろいろなことが）できないよりできたほうが良い」と「できなくても良い」という価値観が並存する可能性を探る	同　上	同　上
8	個人はどこまで自由か	生物学的生命体としての個々人は互いに独立している。が、人生の物語を生きる者同士の生は互いに絡み合い、浸透しあっている。そこで個人はできる限り自由であるべきだとはいえ、「私の身体なんだから、どうしようと私の勝手だ！」と言い切れない事情が生じる。この点を考える。	同　上	同　上
9	規範倫理学の諸理論	今回から3回に亘って、生命と人生の倫理を考える基礎となる諸理論を学ぶ。まず今回は、規範倫理学のさまざまな概念や立場（義務論、目的論、結果主義、功利主義、選好功利主義、状況倫理、徳倫理等々）を概観する。	同　上	同　上
10	倫理原則	「いかにすべきか？」を考えるにあたって、倫理規範を参照しながら考えるのが通常である。諸規範の中でももっとも基礎となり、他の諸規範を支えているようなものを《倫理原則》と呼ぶ。今回は倫理原則について、医療現場で医療従事者に課せられたものを中心に考える。	同　上	同　上
11	社会の中の個人	《社会倫理》をテーマとする。構成員それぞれの福祉のために、社会としてどのような体制をとるべきであるかといった問題の医療・福祉に関連する側面を探る。人権、正義、共同体、自己決定、個人主義、自由主義、共同体主義等の概念をとりあげる。	同　上	同　上
12	ケアという活動	今回以降は、人間同士が共同で進める活動としての医療や福祉のあり方について、倫理面からの考察をする。まず、《ケア》という活動への哲学的アプローチを試み、そこから医療・看護・福祉などに共通して倫理的に押さえておくべき点について基礎的なことを検討する	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
13	相手の最善を目指す	医療・福祉の活動においては、何をするかという意思決定のプロセスが倫理的に重要である。今回はそのプロセスの要の一つである「相手の最善を目指す」検討について考え、利害のアセスメント（一般的および個別化した）、益と害の双方が見込まれる時にどうするか（二重結果論、均衡性論）といった問題を検討する。	清水　哲郎	清水　哲郎
14	合意を目指すコミュニケーション	医療等の現場における意思決定のプロセスにおけるもう一つの要となる、当事者たちが合意を目指すコミュニケーションのあり方について考える。パターナリズムを脱して共同の決定を目指す場合、インフォームド・コンセント、事前指示、リビングウィルといった事柄をどう理解したらよいかを検討する。	同　上	同　上
15	全体のまとめ 医療現場の個別事例に臨む	最終回は、全体のまとめとして、最後の３回で検討したような倫理的視点から、生命操作技術を駆使した医療における決定について振り返って考える。いくつかの事例を提示して、これまでの検討を活かした検討を試みる。	同　上	同　上

＝　現代思想の地平（‘０５）＝（Ｒ）

〔主任講師：　石田　英敬（東京大学大学院教授）〕

全体のねらい

私たち現代人の人間としての存在の条件、社会の在り方、文化や環境の成り立ちについて、今日の知はどのような問いを立てているのか？現代世界は、思想にとってどのような問題圏として立ち現れてくるのか？現代思想の代表的な思想家の仕事を紹介しつつ、かれらの理論が現代世界の何を理解させるのかを、日常世界の具体的なテーマに取材しつつ明らかにする。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	「現代思想とは何か」：イントロダクション	― イントロダクション ― 今日の世界の根本的な思想状況を、1. ポスト・モダン、2. ポスト・グーテンベルク、3.ポスト・ナショナル、4.ポスト・ヒューマン、という四つの「ポスト」状況と定義して、「現代思想の問い」への導入を行う。	石田　英敬（東京大学大学院教授）	石田　英敬（東京大学大学院教授）
2	「言葉の世紀」の問い：ソシュールをめぐって	― フェルディナン・ド・ソシュールの『一般言語学講義』 ― ソシュールが20世紀の始まりに提唱した「一般記号学」の計画を検討し、「言語」を中心に人間の文化と社会を考えることの現代的意義、そして、「メディアとコミュニケーション」が全面化した20世紀以後の世界の条件を考える。	同　上	同　上
3	記号とイメージの時代：パースと現代記号論	― チャールズ・サンダース・パースと現代記号論 ― 20世紀に進行した「メディア革命」を考える理論としてパースの記号論を紹介し、「記号過程」や「記号分類」の概念を手がかりに人間の意味解釈や推論のプロセス、情報の処理について考える。	同　上	同　上
4	無意識の問い：「フロイトの発見」以後	― 「フロイトの発見」以後 ― フロイトによる「無意識」の発見がもたらした「理性批判」の射程とはどのようなものか。フロイトに始まる「無意識」の概念が現代思想にもたらした問いを、フーコーやサイード、そしてドブレを参照しつつ検討する。	同　上	同　上
5	文化の意味：「構造主義革命」以後	― 「構造主義革命」以後 ― 言語や記号をモデルに、人間の文化を意味の観点から理解しようとした「構造主義」の認識革命をレヴィ＝ストロースやバルトを手がかりに捉え返し、私たちの日常世界を構成する意味作用の原理にせまる。	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
6	「欲望とは何か」：欲望と主体	― 欲望の主体 ― ラカンの精神分析理論を手がかりに、人間はいかにして「欲望の主体」となるのか、身体イメージと自己、ことばと他者、欲動と無意識など、人間の主体のシンボリックな成り立ちについて考える。	石田　英敬	石田　英敬
7	「権力と身体」：権力と主体化	― 権力と主体化 ― 私たちはどのようにして国家や会社やその他の団体組織の成員となり、社会的身体の部分となっているのか。学校や軍隊や工場における集団生活の組織原理とはどのようなものか。ミシェル・フーコーの「規律社会」論を手がかりに、私たちの社会の編成原理について考える。	同　上	同　上
8	「社会とは何か」：象徴闘争と社会場	― 象徴闘争と社会場 ― ピエール・ブルデューの社会学を参照しつつ、「趣味」や「好み」といった個人的と思われる現象にもあらわれる社会的な意味作用を理解する方法を理解し、象徴闘争の場としての社会の成り立ちについて考える。	同　上	同　上
9	情報とメディアの思想：「メディアはメッセージ」	― マクルーハン「メディアはメッセージ」 ― 映画、ラジオ、テレビからインターネットまで、過去１世紀は人類がかつて経験したことのない「メディア革命」の時代だった。マーシャル・マクルーハンの「メディア理解」を参照しつつ、情報とメディアの問題圏を提示する。	同　上	同　上
10	文化産業と想像力－想像の未来－	― 想像の未来 ― TVドラマやアニメ、ゲームなどの「文化産業」に人びとの想像力が支配される時代に私たちは生きている。いま「想像すること」にどのような意味があるのか、ジョン・レノンの「イマジン」を題材に、アドルノ、ホルクハイマーの「文化産業批判」、フッサールの現象学、スティグレールの「象徴的貧困」論を参照しつつ考える。	同　上	同　上
11	「戦争について」－戦争はなぜ終わらないのか－	― 戦争はなぜ終わらないのか ― 人類が経験したことのない世界戦争の世紀ののち、21世紀は新たな戦争の世紀として開始された。なぜ戦争が現代人の根元的な「存在の問い」と結びついているのか、ハイデガーの存在論を参照しつつ、現代の戦争を考える。	西谷　修（東京外国語大学教授） 石田　英敬	西谷　修（東京外国語大学教授） 石田　英敬
12	「宗教について」：宗教の回帰を問う	― 「宗教の回帰」を問う ― なぜ現代生活において「宗教」が回帰するのか、フランスの法理論家ピエール・ルジャンドルの「ドグマ人類学」や、チュニジアの精神分析家フェティ・ベンスラマの著作を参照しつつ、「宗教の回帰」を問う。	西谷　修 石田　英敬	西谷　修 石田　英敬

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
13	ナショナリズムと国家：ナショナリズムを克服する	― 「ナショナリズム」を克服する ― グローバル化する世界と同時にせり上がってくるナショナリズム、ベネディクト・アンダーソンの『想像の共同体』以後のナショナリズム論を視野に収めたうえでナショナリズムの克服を考える。	小森 陽一（東京大学大学院教授） 石田 英敬	小森 陽一（東京大学大学院教授） 石田 英敬
14	差異と同一性の共生原理：ジェンダー、マイノリティ、クレオール、マルチチュード	― 「差異と同一性」の共生原理 ― 現代思想の諸理論は、文化差、性差、アイデンティティをどのように考えてきたか、それらの思想的パラダイムによってどのような共生の新しい原理を考えることが実践的に可能になったのか、現代思想の具体的成果を、ジェンダーとマイノリティの問題を手がかりに検証する。	石田 英敬	石田 英敬
15	総括と展望：新しい人文知のために	― 総括セッション「現代世界の思想的展望」― 講義で扱った現代思想の問題圏を振り返り、２１世紀の私たちの世界の思想課題を展望する。	同 上	同 上

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	共通科目（人文系）	科目ｺｰﾄﾞ	1114905	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　音楽理論の基礎（‘０７）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：笠原　潔　（放送大学教授）　〕
〔主任講師（現職名）：徳丸　吉彦（放送大学客員教授・お茶の水女子大学名誉教授）〕

講義概要

音楽を学ぶにあたって最低限必要な基本的知識を全15回にわたって講義する。西洋音楽のみならず、日本の音楽や世界の伝統音楽を理解する上で必要な概念について説明し、それを通じて世界の多様な音楽に対する理解を深めることを目標とする。講義は、多くの曲例を紹介しながら、また具体的な実演映像を交えながら進める。

授業の目標

全15回の講義を通じて、音楽研究を進める上で最低限必要な用語が理解でき、かつ、五線楽譜を読んだり、書いたりすることができるようにすることを目標とする。また、この講義を通じて世界の様々な音楽の概略が把握できるようになることを目標とする。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	「音」をめぐって	音楽で使用される「音」に関して、音高・音価（音の長さ）・強度・音色といった様相やその測定方法を紹介し、音楽によって重要な様相が異なることを説明する。	徳丸吉彦（放送大学客員教授・お茶の水女子大学名誉教授）	徳丸吉彦（放送大学客員教授・お茶の水女子大学名誉教授）
2	五線記譜法の基礎	西洋音楽の記譜に広く使われている五線記譜法に関して、音符や休符の書き方をはじめ、音部記号・臨時記号・調号の使い方、音価表記の仕方、拍子記号の使用法など、基本的知識を紹介し、五線楽譜が一応読譜・記譜できるようになるまでにする。	笠原　潔（放送大学教授）	笠原　潔（放送大学教授）
3	西洋の音律	音律に関して、音程の紹介から始まり、音程と周波数比との関係、西洋のピタゴラス調律や古代中国の三分損益法などを紹介した後、西洋の種々の調律法を実演を交えながら紹介する。	笠原　潔（放送大学教授）	笠原　潔（放送大学教授）
4	音律の問題	西洋以外の文化圏における音律の問題を紹介する。音律が意味をもたない音楽様式を含め、音律や音階、とりわけオクターヴ音階の概念の問題点を扱う。	徳丸吉彦（放送大学客員教授・お茶の水女子大学名誉教授）	徳丸吉彦（放送大学客員教授・お茶の水女子大学名誉教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	西洋の旋法	西洋音楽で使われてきた旋法に関して、西洋近代の音楽で使用された長調・短調という２種類の旋法をはじめ、それ以前に使用されていた「教会旋法」や、西洋近代の音楽で使用された長調・短調以外の旋法について、実例に基づいて論じる。	笠原　潔（放送大学教授）	笠原　潔（放送大学教授）
6	旋律の動かし方	旋律を示す用語の問題から、独立した旋律型をもつ長唄を扱い、さらに、イラン伝統音楽を例にして、旋律の動かし方が多様であることを学ぶ。	徳丸吉彦（放送大学客員教授・お茶の水女子大学名誉教授）	徳丸吉彦（放送大学客員教授・お茶の水女子大学名誉教授）
7	西洋近世の和声	西洋近代の調性音楽で使用された機能和声法の原理とその根幹にある現象について講義し、機能和声法の概略を紹介するとともに、機能和声法独特の考え方を説明する。	笠原　潔（放送大学教授）	笠原　潔（放送大学教授）
8	西洋の対位法	西洋中世以来の対位法音楽の歴史を追いながら、オルガヌム、モテートゥス、フーガ、カノン、クオドリベトなどその主要な創作ジャンルを紹介する。	笠原　潔（放送大学教授）	笠原　潔（放送大学教授）
9	人はなぜ「合わせる」のか	世界には、ポリフォニーやヘテロフォニー以外にも、様々な音楽の「合わせ方」がある。長唄における声と三味線の関係や、ガムランにおけるあわせ方、日本の「御祝」における謡と民謡の合わせ方など、具体的な例を紹介しながら、合唱と合奏の問題など、世界の音楽における「合わせ方」について学ぶ。	徳丸吉彦（放送大学客員教授・お茶の水女子大学名誉教授）	徳丸吉彦（放送大学客員教授・お茶の水女子大学名誉教授）
10	リズムと時間構造	音楽のリズムとその背後にある時間構造を巡って、西洋音楽を出発点に、パルス、拍、拍子、リズムの概念を明らかにする。	徳丸吉彦（放送大学客員教授・お茶の水女子大学名誉教授）	徳丸吉彦（放送大学客員教授・お茶の水女子大学名誉教授）
11	西洋楽譜の歴史	古代ギリシャ以来の西洋記譜法の歴史を辿りながら、西洋の各時代の記譜法（タブラチュア譜を含む）について学ぶ。	笠原　潔（放送大学教授）	笠原　潔（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
12	東アジアの楽譜	西洋と並んで楽譜の伝統をもつ東アジアを例にして、多様な楽譜を知り、楽譜によって、音楽のどのような様相が記録されるかを知る。	徳丸吉彦（放送大学客員教授・お茶の水女子大学名誉教授）	徳丸吉彦（放送大学客員教授・お茶の水女子大学名誉教授）
13	「唱歌（しょうが）」の世界	世界には、日本の「唱歌（しょうが）」や口三味線のように、「楽譜」を言葉で歌う技法がある。同様の技法は、西洋のソルフェージュにも見られる。実例によってそうした歌い方の例を学びながら、こうした技法がもつ意味を考える。	徳丸吉彦（放送大学客員教授・お茶の水女子大学名誉教授）	徳丸吉彦（放送大学客員教授・お茶の水女子大学名誉教授）
14	楽の器	「楽器」というと「音楽」を演奏するための道具と考えられがちであるが、「楽器」が開く音の世界はそれよりもはるかに多様であり、豊潤である。この講義では、人類の歴史の中の最初期の楽器の紹介に始まり、「楽器」が切り開く多様な音世界や音楽の演奏に使われる様々な媒体について紹介しながら、「音楽」という概念の再検討を試みる。	徳丸吉彦（放送大学客員教授・お茶の水女子大学名誉教授） 笠原　潔（放送大学教授）	徳丸吉彦（放送大学客員教授・お茶の水女子大学名誉教授）
15	「音楽」という概念	一口に「音楽」といっても、西洋でいう music と日本でいう「音楽」との間には概念上のずれがあるし、世界に目を向けると、さらに違った概念で「音楽」という現象を捉えている文化もある。全15回のまとめとして、世界における多様な「音楽」概念とそれらを知るための方法を考える。	徳丸吉彦（放送大学客員教授・お茶の水女子大学名誉教授） 笠原　潔（放送大学教授）	徳丸吉彦（放送大学客員教授・お茶の水女子大学名誉教授）

＝　日本語学概説（‘０６）＝（Ｒ）
—母語のすがた—

〔 主任講師（現職名）：杉浦　克己（放送大学准教授）〕

全体のねらい

日常に使っている母語を敢えて意識的に分析してみると、きれいな体系を持っていることに気付く。どのような点に着目し、どのような方法を用いるとそれがわかってくるかを、身近な用例を挙げて概説し、その結果明らかになる日本語の様々な特色と体系の一端を示す。日常的な言語生活の中から母語を見つめ直すという視点に立ち、できるだけ専門的な用語を避けた概説を基調とするが、研究・分析に進む興味・関心への発展にも配慮する。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	母語としての日本語	自らの中にありながら、意識的に分析し、形に表すことが難しい母語の体系を記述するための基本的な手法を紹介すると共に、これまで先人は母語である日本語をどのように見つめてきたかを概説し、本講義全体の考え方を示す。	杉浦克己（放送大学准教授）	杉浦克己（放送大学准教授）
2	方言	日常的な言語使用の中で、母語を顧みる機会の端的な例として方言をとらえ、実際にはことばのどのような点が方言として感じられるのかを考え、これを手がかりに、方言を分析的に考える方途をさぐる。さらにこれまでの方言研究を概観し、併せて標準語・共通語との関係、ことばの位相、近時の方言研究の新視点の実際例を紹介する。	同上	同上
3	敬語	日常的な言語使用の中で、自分の使っている言葉を意識する機会の端的な例として敬語をとらえ、その本質が言語使用上の人物に対する配慮であることを概説する。実際の敬語表現を整理すると共に、配慮の背景には、敬意だけではなく、身内か他人か、言語使用の場、など様々な要素があることを示す。	同上	同上
4	音	音を日常的な言語使用の中で分析的に意識することは難しいが、どうすればそれが可能か、敢えてそれを行うと何がわかるかを、実際に例を挙げながら概説する。またアクセントの実態を、基本的な性質である型の対応を中心に概説する。これらによって、自身が身につけている音が意識されないきれいな体系を持っていることを示す。	同上	同上
5	音の変遷	現代我々が用いている日本語の音は、様々な変化を経てきている。これを、漢字音の移入、外国語との接触、外来語の移入、などの外的要因と、日本語の音それ自体の内的要因の二つの方向から概説する。また、これを例として、ことばの歴史的な変化をたどる際の基本的な考え方を示す。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
6	文字	日本語では基本的な性質の異なる漢字と仮名を併用している。先ずこの点に着目し、漢字・平仮名・片仮名の文字としての特色と用いられ方の実態を考える。さらに日本語における文字使用の変遷を漢字と日本語との関係を軸に概観する。	杉浦克己（放送大学准教授）	杉浦克己（放送大学准教授）
7	語と意味	一般的な意味で、ことばについて考えようという際には、単語を単位とする場合が多い。これは意味を表す最小の単位として単語が先ず念頭に浮かぶ、ということによると思われる。この点を手がかりに、語と意味の関係はどのように分析・記述できるかについて、複数の考え方を示し、ことばの意味のとらえ方を概説する。	同上	同上
8	語の由来	ことばについて少し踏み込んで考えてみようとする時、語源やことばの意味の変化が意識される機会は多い。身近な語例を挙げ、語誌についての基本的な考え方や手法を示す。さらに、現代の日本語に見られる和語・漢語・外来語の各々の由来と特色を概説する。	同上	同上
9	文と語のはたらき	文は語と語を組み合わせて作られ、その組み合わせ方のきまりが文法である。そのきまりは、一つ一つの語の果たす役割と、文全体の組み立ての二つの視点からとらえることができる。ここでは主に前者から、簡単な用例を挙げて語が文の中でどのような働きをするかを概説し、日常のことばが、意識されないうちに一定のきまりに従って用いられていることの一端を示す。	同上	同上
10	文の組み立て	文の基本的な組み立てを担うものは何か。何に着目するとそれが明らかになるか。身近な例文を分析することでその一端を示す。さらに、現代の日本語の文の構造を考える手がかりの一つとして、古文と現代語を比較すると、文の組み立ての基本が大きく異なるっていることを概説する。	同上	同上
11	文章～的確な理解のために	単語と単語をつないで文が作られるように、文と文とをつないで作られるものが文章である。文章の構成にも一定のきまりがあり、個々の文の果たす役割がそれを担っていることを概説する。さらに、文章を的確に理解するためには、その構成と個々の文の役割を認識することが不可欠であることを、実際の文章例を分析することで示す。	同上	同上
12	文章～的確な表現のために～	的確に表現するためには、文章の構成について十分な配慮が必要である。そのためには個々の文の果たす役割を把握することが不可欠である。実際に文をその役割で分類し、それを考えに沿って構成することで文章が成り立って行く過程を示し、併せて様々な文章表現の諸相を概説する。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
13	表記と文体	実際にことばで表現する際、同じような内容であるのに複数の表し方があることを我々は経験的に知っている。このことを表記と文体の二つの面からとらえる。性質の異なる文字種を混用する日本語の表記の実体を概説する。また、文体を社会規範的な側面と個性に関わる側面の双方から、実際の例に基づいて概説する。	杉浦克己（放送大学准教授）	杉浦克己（放送大学准教授）
14	国語教育	生活のあらゆる場面で、意識するかしないかに関わらず、我々はことばを身につける機会に遭遇しているが、一方で母語を組織的・系統的に身につける機会として、国語科教育を受けてきている。国語科教育は何を目的に、どのように行われてきたかを概観し、日常のことばの使用との関係を考える。さらに今後どのようなことばの教育が必要とされるかについて、いくつかの考え方を示す。	同上	同上
15	国語問題とこれからの日本語	実際のことばの使用の上で生じる様々な障害が国語問題である。これまで主に取り上げられてきた国語問題を概説する。さらに、今後どのようなことに目を向けていくべきかを、主に情報通信技術の急速な進展と日常のことばの使用の関係から考える。	同上	同上

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	共通科目（人文系）	科目コード	1111000	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 国文学入門 （’０８）＝ （R）

〔主任講師（現職名）：林　達也（駒澤大学教授）〕

講義概要

国文学全般について広い視野から展望するとともに基本的な教養に必要な事項や定説とされる知見に関する情報を提供する。また、学問の基礎作業について注意を喚起する。さらに、先進的な問題をも紹介しつつ概説を超えて研究のスタイルについても参考となるように全体を歴史的に通観する。

授業の目標

日本という風土に生きてきた(あるいは現に生きている人々の生活感覚・風習伝統・感性・息吹をこの国の言葉に託して相対として表現した文学、それは、人間の根源の表現も言うべきものといえる。その日本の文学のありようを、古代から現代に至る流れを相対的に、系統的に学ぶことによって、私たちがどのような表現を獲得し、その可能性に真摯に向かい合ってきたか、私たちの祖先がどのように生きてきたかを把握し、現代に生きる私たちの依って立つ基盤の認識にいたることが、この授業の遠大な目標である。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	はじめに	本講義の目的と方法について述べる。時代別の構成をとらずに、韻文・散文・漢詩文の三分野を柱として講義を展開していることの理由を説くことからはじめて、全体の配置・構成を紹介する。そして、特に、日本古典文学における韻文の問題点がどのあたりにあるのかについて、基本的な考えを示す。	林　達也（放送大学客員教授・駒澤大学教授）	林　達也（放送大学客員教授・駒澤大学教授）
2	歌謡と和歌	韻文の初発に位置付けられる上代歌謡についてその特質を叙述し、万葉集和歌との連続と不連続について考察する中から、和歌原初の形質、万葉集和歌について考察する。さらに、平安から近世までの歌謡についても概観し、歌謡の特質と時代性について言及する。	同上	同上
3	勅撰集の時代	古今集から新古今集までの勅撰集の和歌に即しながら、平安から鎌倉初期に至る時代の和歌について、歌詞や和歌表現の形成、和歌と物語の関わり、和歌の詠まれる場、和歌と評論（歌論）等の諸問題を取り上げ、和歌の定着と展開、その価値について考える。	同上	同上
4	和歌の諸相	勅撰集では新勅撰集・玉葉集・風雅集を取り上げ、中世の自然詠・恋歌を概観する。さらに、応仁の乱以降の和歌について、貴族・連歌師・武人・地方歌人相互の関わりを通して考察し、近世の和歌については、堂上と地下との関連、儒学や国学との交渉の過程からいかなる状況が生じていたのかに言及し、幕末の和歌に及ぶ。	同上	同上
5	連歌と俳諧	平安末期の勅撰集『金葉集』にはすでに連歌が収録されているが、慰み物のであった連歌が、中世中期に至って文芸として盛行する過程を追いながら、連歌の文芸としての価値を見定める。また、連歌から派生し、江戸期に入って文芸の主流となった俳諧については、主要な俳諧師の活動を把握し、俳諧の文芸性、俳諧盛行の意味を考察する。	林　達也（駒澤大学教授）	林　達也（駒澤大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
6	王朝の漢文学	日本文学において漢文学の果たした役割を概観した上で、平安時代を中心に、奈良時代から鎌倉時代前期に至る、主に貴族が担い手となった漢文学について、ジャンルとの交流をも視野に入れつつ考える。	堀川　貴司（鶴見大学教授）	堀川　貴司（鶴見大学教授）
7	禅林の文学	鎌倉時代中期になって新たに漢文学の担い手として登場した禅僧たちの文学について、禅宗寺院という場と社会・政治、特に武家政権との関わりに注意しながら、その変遷をたどっていく。	同上	同上
8	近世の漢文学	儒学者たちによって担われた江戸時代の漢文学について、禅林の文学の継承と否定、同時代の中国の学芸との関わり、学問と文学の分離、漢詩の大衆化など、様々な視点から考え、近代文学との接点についても触れる。	同上	同上
9	ひらがな文学の成立と日記文学の流れ	どのようにしてひらがな体の文章が成立したか、『土佐日記』を例にして考え、以降の日記文学の流れをみる。	古橋　信孝（武蔵大学教授）	古橋　信孝（武蔵大学教授）
10	物語文学の流れ1	歌物語も含め『竹取物語』、『伊勢物語』に始まる物語文学の成立を考え、平安中期の『源氏物語』までの物語文学の流れをみる。	同上	同上
11	物語文学の流れ2	『夜の寝ざめ』など平安後期から江戸期の『雨月物語』までの物語文学の流れをみる。	同上	同上
12	説話文学と随筆文学の流れ	『日本霊異記』、『枕草子』に始まる説話、随筆文学の流れをみる。	古橋　信孝（武蔵大学教授）	古橋　信孝（武蔵大学教授）
13	歴史文学と語り物文学の流れ	『古事記』、『日本書紀』、『大鏡』など歴史文学と、『平家物語』など語り物文学の流れをみる。	同上	同上
14	近代の詩歌	明治以降、西洋の「ポエトリー」の概念が「歌ト詩トヲ総称スル」ものとして導入され、近代文学のジャンルとして誕生した「詩」の、成立と展開、口語自由詩への変容の過程を概観する。	勝原　晴希（駒澤大学教授）	勝原　晴希（駒澤大学教授）
15	近代の小説	明治以降、西洋文明の影響のもとに形成されてきた「小説」というジャンルは、近代社会のあり方に規定される一方で、たとえば言文一致体の創出のように、近代社会を支えてもきたし、さらには近代社会の批判者でもあった。近代社会との相互交渉という観点から、明治以降の小説の様々な様相を概観する。	高橋　博史（白百合女子大学教授）	高橋　博史（白百合女子大学教授）

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	共通科目（人文系）	科目コード	1111108	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 文学の愉しみ （’０８） ＝ （R）

〔主任講師（現職名）：柴田　元幸（東京大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：沼野　充義（東京大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：野崎　歓（東京大学准教授）〕

講義概要

専門を異にする複数の主任講師・分担講師によって、20世紀から現代を中心に、世界の文学を概観するリレー形式の講義。3人の主任講師はそれぞれの専門である英米文学、フランス、ロシア・東欧文学を中心に、それ以外の領域も視野に入れて講義をし、現代世界の様々な地域の文学をカバーする。またファンタジー、推理小説などの分野については分担講師が講義する。さらに現在活躍している日本の作家をゲストとしてお迎えして話をうかがい、書き手と読み手の対話を行なう。

授業の目標

現代世界の文学の多様性に触れ、その現代的意義を理解する。また、日本文学も世界文学の中に位置づけて考え、多様でありながら、同時に国境や文化の壁を越えて享受される文学のグローバルなありかたを探る。ただし、何よりも大きな目標は、授業で取り上げた作品を受講者が自分でできるだけたくさん読み、文学を読む愉しさを実際に体験することである。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	全体のイントロダクション＋英米文学①20世紀末の文学	1980～90年代アメリカの小説を取り上げる。1960年代くらいまでは現代文学といえば前衛、という風潮があったが、70年代なかばごろから、一見素朴なリアリズム小説が主流になってくる。レイモンド・カーヴァーなどの作品を取り上げ、その保守性・現代性を検討しながら、当時のアメリカ社会に流れていた空気もあわせて考えたい。 【キーワード】 ポストモダン、the me decade	柴田　元幸（東京大学教授）	柴田　元幸（東京大学教授）
2	英米文学②　21世紀の英米文学	世紀の変わり目ころから、リアリズム中心だったアメリカ文学が、急速に非リアリズム化してくる。それとともに、ポップカルチャーのさまざまなアイテムが小説の重要な要素となる場合も増えてきた。ポール・オースター、ケリー・リンクなどを取り上げて、近年のアメリカ小説における「現実」の変容について考える。 【キーワード】 ポップカルチャー	柴田　元幸（東京大学教授）	柴田　元幸（東京大学教授）
3	英米文学③　英語で読む現代世界文学	カズオ・イシグロのように英語で書く日系作家や、村上春樹のように英訳されて広く読まれている作家など、英語圏から見ても「日本」はさまざまな形で見えてくる。「日本」をはじめとして、英語圏からはどのように「世界」が見えるのかを考える。 【キーワード】 グローバリゼーション	柴田　元幸（東京大学教授）	柴田　元幸（東京大学教授）
4	推理小説	古典的探偵小説の代表的な例として、アガサ・クリスティーの『オリエント急行の殺人』を精読し、その小説技法を検討しながら、英米推理小説史の概略についても触れる。推理小説を題材にして、小説一般にも広く応用できるような読み方を提供したい。 【キーワード】 古典的探偵小説	若島　正（京都大学教授）	若島　正（京都大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	日本の作家を迎えて①ゲスト：川上弘美さん	川上弘美さんの代表的作品に即して、その創作方法や文学観をめぐって、書き手と読み手の間で対話を行い、作品の理解を深める。また、この授業で扱う世界の様々な文学を川上さんがどう読んできたか、語っていただき、授業の中間的なまとめとする。 【キーワード】 作家固有の文体、翻訳可能性、日本的幻想	柴田　元幸（東京大学教授）	（聞き手） 柴田　元幸（東京大学教授）
6	フランス文学とその他①	戦後のフランス小説の大きな傾向として、「わたし」による語りが顕著になったことがあげられる。カミュ『異邦人』をその一つの起源として、80年代のポストモダン小説から、近年の「オートフィクション」にいたるまで、フランス流「私小説」の多様さと一貫性を探る。 【キーワード】 オートフィクション、一人称、私小説	野崎　歓（東京大学准教授）	野崎　歓（東京大学准教授）
7	フランス文学とその他②	現代のフランス文学は、むしろ「フランス語文学」と呼ぶべき広がりを示している。旧植民地国出身の作家たちばかりでなく、さまざまな形で移民してきた作家、フランス語を選び取った作家たちが文学を活気づけている現況に焦点を当てる。 【キーワード】 移民、亡命、越境	野崎　歓（東京大学准教授）	野崎　歓（東京大学准教授）
8	フランス文学とその他③	忘れられた過去を掘り起こしたり、現代史のタブーに挑んだりする試みが、近年のフランス小説で注目すべき成果をあげている。文学作品が今日、共同体にとってはたしうる役割のありかを、それらの作品をとおして探ってみたい。 【キーワード】 記憶、現代史、文学と共同体	野崎　歓（東京大学准教授）	野崎　歓（東京大学准教授）
9	日本の作家を迎えて②ゲスト：辻原登さん	現代における「物語」の可能性を意欲的に探求し続ける辻原さんのこれまでの歩みを振り返りつつ、主要作品をめぐって対談を行う。また、辻原さんの文学創造にとって翻訳文学、世界文学を読むことがどのような刺激となってきたかを語っていただく。 【キーワード】 物語、翻訳文学、世界文学	野崎　歓（東京大学准教授）	（聞き手） 野崎　歓（東京大学准教授）
10	ロシア文学	20世紀後半のロシア文学の中から、何人かの傑出した作家や詩人を選んで、それぞれの代表的作品の主題や書き方について検討する。またソ連・ロシアの歴史的背景も視野にいれ、社会と文学の関係を探る。取り上げる作家は、ソルジェニーツィン、ブロツキー、ドヴラートフなど。 【キーワード】 社会主義リアリズム、「反体制」知識人、亡命文学	沼野　充義（東京大学教授）	沼野　充義（東京大学教授）
11	東欧文学	20世紀の東欧文学から、何人かの際立って興味深い作家の代表作をとりあげて、東欧的な特徴とその魅力について考える。取り上げる作家は、カフカ、クンデラ（チェコ）、シンボルスカ、レム（ポーランド）、パヴィチ（セルビア）など。 【キーワード】 中欧と東欧	沼野　充義（東京大学教授）	沼野　充義（東京大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
12	世界文学	現代世界の文学には、国や言語を越えて国際的に活躍した作家たちもいれば、その逆に狭い一国の中にとどまりながら、世界的な普遍性を獲得した作家たちもいる。その両者に注目しながら、現代の世界文学のありかたについて考える。取り上げる作家は、ナボコフ、イスカンデル、ガルシア＝マルケス、大江健三郎、リービ英雄、多和田葉子など。 【キーワード】 世界文学	沼野　充義（東京大学教授）	沼野　充義（東京大学教授）
13	ファンタジー	『ハリー・ポッター』、『ロード・オブ・ザ・リングス』、『ナルニア国物語』、『ゲド戦記』など、ファンタジー作品がなぜこれほど読み継がれ、隆盛をほこっているのか。現代社会とファンタジーの関係について振り返ってみる。 【キーワード】 現実と幻想、魔法、成長物語、聖杯探求	小谷　真理（評論家）	小谷　真理（評論家）
14	日本の作家を迎えて③ゲスト：池澤夏樹さん	世界文学に対する広い視野を持ち、世界各地を旅行し、ギリシャ、沖縄、フランスなどに居住してきた池澤氏に、自身の文学をそういった世界的な文脈で語っていただく。また外国語文学を読むことと、翻訳の役割について討議する。 【キーワード】 世界文学全集、「地理型」想像力と「歴史型」想像力	沼野　充義（東京大学教授）	（聞き手） 沼野　充義（東京大学教授）
15	まとめ（共同討議）	3人の主任講師（柴田・野崎・沼野）による共同討議。全体のまとめ。この講座でとりあげられた主要な話題について再検討し、最後に3人の講師それぞれの「文学の愉しみ」方を語って、聴講者に対するメッセージとする。 【キーワード】 日本文学と外国文学、翻訳、言語・文化の境界、文学における伝統とグローバゼーション	柴田・野崎・沼野（共同執筆）	柴田・野崎・沼野

＝　東アジアのなかの日本文化（‘０５）＝（Ｒ）

〔主任講師：村井　章介（東京大学大学院教授）〕

全体のねらい

東アジアとの交流のなかで歩んできた日本文化の姿を、さまざまなレベルでの「異文化接触」という視点から、エピソード中心に描く。とくに、その接触を支えた貿易船の往来に注目する。とりあげる時代は、おおよそ奈良時代から江戸時代初期までとする。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	遣唐使と中国文化の輸入	日本古代の律令体制は、遣唐使により唐の統治制度を輸入し、それを日本の実情に合わせて修正することによって作られた。717 年に遣唐留学生として渡海した阿倍仲麻呂と吉備真備の２人の事跡を通じて、文化面を中心に遣唐使の意味を考える。	村井　章介（東京大学大学院教授）	村井　章介（東京大学大学院教授）
2	破綻する「小中華帝国」	古代の日本は、朝鮮半島の諸国からの朝貢を受けることで「小中華」を自認していたが、統一新羅が対等の関係を求めるようになると、842 年に帰化を認めない政策に転じる。以後、日本を「神国」とし、中国と対等、朝鮮より上位という建前に固執することが、貴族層の対外姿勢の基本となる。	同　上	同　上
3	渤海使節と詩を競う	日本海の対岸に栄えた渤海王国は、９世紀半ば以降は日本と国交のあった唯一の国だった。渤海使節は日本海を越えて北陸の諸港に到着し、京都に来て菅原道真ら文人貴族と漢詩の贈答を行った。その詩の会は、両国が文化的能力を競いあう場となった。	同　上	同　上
4	生身の釈迦、海を渡る	東大寺の僧奝然は、建国後まもない宋に渡航し、印刷された大蔵経と釈迦の生前の姿を写したとされる仏像を携えて帰国した。嵯峨の清涼寺に現存する釈迦像は「生身の釈迦」として絶大な信仰を集め、鎌倉時代を中心におびただしい模写像が造られた。	同　上	同　上
5	刀伊の入寇、被害者の証言	1019 年に女真人の海賊が北九州を襲った「刀伊の入寇」に際し、賊に捕われたが高麗軍に救出され、生還した二女性がいた。京都の貴族の日記に見える彼女らの目撃談から、女真海賊の行動、高麗政府の対応、日本の支配層の関心、日本国内の情報伝達ルートなどを考える。	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
6	海に開かれた窓、博多と寧波	日本と中国が互いに相手に開いた窓であった博多と寧波という２つの港町をとりあげ、外交や貿易上の機能を見る。とくに近年の発掘成果に基づく中世都市博多の研究を紹介し、国家への帰属を超えた貿易商人の居住や営業の形態を復元する。	村井　章介	村井　章介
7	朝鮮渡来の海洋性陶器、カムィヤキの世界	11～13 世紀に奄美群島徳之島で大規模に生産され、九州島南部から先島までの広範囲に流通したカムィヤキという須恵器がある。その技術の系統、関与した人間集団や流通組織など、文字史料からは解明不可能な問題に、考古学研究がどこまで迫っているだろうか。	同　上	同　上
8	宋へ渡ろうとした鎌倉将軍	鎌倉幕府第３代将軍源実朝は、東大寺再建を指揮した中国人技術者陳和卿から医王山の高僧の再誕だと言われたことを契機に、宋への渡航を思い立ち、和卿に大船を造らせたが、進水させることができず挫折した。この事例から、造作技術や仏教信仰などの国境を超えた広がりを観察する。	同　上	同　上
9	蒙古襲来と異文化接触	博多湾岸における蒙古軍と鎌倉武士との戦いは、武器や戦法においてきわめて対照的で、家単位の軍団による個人戦で臨んだ武士たちは苦戦を強いられた。異文化接触とそれが日本人の意識に残した刻印という観点から、蒙古襲来の意味を考える。	同　上	同　上
10	看板としての寺社造営料唐船	14 世紀前半を特徴づける寺社造営料唐船は、従来日本の支配層が特派した貿易船と見られてきた。この通説を、新安沈船という考古遺物や禅僧の伝記史料から見直し、中国人商人の経営する貿易船に日本の公権力が与えた看板にすぎなかったことを提示する。	同　上	同　上
11	輸入文化としての禅宗	わび、さび、幽玄などの言葉で象徴され、日本文化の粋とされることの多い禅宗文化は、実はその初期においては典型的な輸入文化であった。その日本定着は、13～14 世紀に東シナ海をひんぱんに往来した貿易船に便乗した禅僧たちによって担われた。	同　上	同　上
12	文化史上の「日本国王源道義」	15 世紀初頭に足利義満が明皇帝の册封を受け入れて「日本国王」に封じられたことは、日本が 900 年ぶりに中国と正式の国交を結ぶという画期的事件であった。それは、倭寇という新たな質の人的接触がもたらしたものであり、朝幕の対外観を大きく揺さぶるできごとであった。	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
13	対馬のサバイバルゲーム	朝鮮半島へのゲートウェイに位置する対馬は、政治的には日本に帰属しつつも経済的には朝鮮半島に頼って生きてきた島である。その対馬が、16世紀末の文禄・慶長の役で侵略軍の先鋒役を担わされた結果、江戸初期には生き残りを賭けて朝鮮外交を展開することになる。	村井　章介	村井　章介
14	東アジア知識人の共有文化	中国周辺において文明の証は中国文化の保持であり、とくに儒学と漢詩は民族の異なる知識人がつきあう際の必須の教養となった。一方で中世の日本は東アジアでもっとも仏教が栄えた地域であった。江戸幕府が儒学を正統としたことで状況にどのような変化が生じたか。	同　上	同　上
15	明清交代を見すえる朝鮮と日本	「華夷変態」という言葉で要約される17世紀半ばの明清交代は周辺に波紋を広げ、朝鮮は正統的儒教の継承者として自己を規定し、江戸幕府は武力で明の復興を援助することを検討した。東アジア全体に世界観をめぐる深刻な動揺が拡がっていく状況を観察する。	同　上	同　上

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	共通科目（人文系）	科目コード	1111205	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 人文地理学 （’０８）＝（ＴＶ）

※この科目は「人文地理学(’04)」の一部改訂科目です。
改訂回は、1, 8, 9, 10, 11, 12, 14回です。

〔主任講師（現職名）：小林　茂　（大阪大学大学院教授）〕

〔主任講師（現職名）：杉浦　芳夫　（首都大学東京教授）〕

講義概要

グローバル化がすすむ今日、多様な人間社会はますます複雑に変動し、これをどう認識するかが大きな課題となっている。大学レベルの人文地理学初学者のための入門として、まずその古典的視角の解説からはじめて、人間の環境への適応や環境改変、立地論、人間の空間行動などに関する枠組みを概観するとともに、それにあわせて発展してきた計量的手法や地理情報システム(GIS)を紹介する。さらにそれを基礎として今日の世界や日本の多彩な問題の理解にむけた課題を検討する。

授業の目標

現代の人文地理学の理解に必要な知識を身につけるとともに、変化の急速な社会の理解に有用な地理学的枠組みや手法について概観をえる。またこれらの理解の上に、福祉やジェンダーなど、現代的問題へのアプローチの方法に接することもめざす。あわせて、高等学校までの地理のイメージのリニューアルをはかりたい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	変動する世界へのアプローチ―人文地理学とはどんな学問か― （※改訂回）	グローバル化がすすむ今日、地球上の多様な人間社会はますます複雑に変動し、これをどう認識するかは私たちの大きな課題となっている。近年の変化を大きく「時間と空間の圧縮」としてとらえ、人文地理学がその理解にどのように貢献できるか検討し、あわせて本講義の概要を示す。 【キーワード】 時間と空間の圧縮、国際化、流行病の拡散	小林　茂（大阪大学大学院教授）	小林　茂（大阪大学大学院教授）
2	地理的知識の発展と地図	世界の人びとは、自分たちの居住地に関する地理的知識を蓄積し、それをさまざまな手段で表現してきた。地図はそれらを視覚的に統合する媒体として大きな役割をはたし、正確さをましながら多彩に発展してきた。地理的知識の発展について、その地図的表現の歴史をみながら概観したい。 【キーワード】 地図、先住民、探検、測量、世界観	久武哲也（甲南大学教授）	久武哲也（甲南大学教授）
3	人文地理学の先駆者と古典理論	19世紀には、人文地理学の基礎となる3つの課題に関心が展開した。第1は人類の環境への適応および環境の改変で、アレクサンダー・フォン・フンボルトらによって展開された。第2は「地域の個性」の認識で、カール・リッターらによって推進された。第3は「空間と立地」で、フォン・チュウネン以降、立地論として進歩する。時代的背景と結びつけてこれらを概観する。 【キーワード】 環境、適応、地誌、立地論	久武哲也（甲南大学教授）	久武哲也（甲南大学教授）
4	環境への適応	人びとの環境への適応が、さまざまな戦略や方法で実現されてきたことを、具体例(ネパールの中間山地農村におけるマラリアに対する文化的適応と生物学的適応)を紹介しつつ解説する。その生活様式、民族分布、集落分布との関係など、関連する問題を概観し、環境への適応の意義を考える。 【キーワード】 マラリア、文化的適応、生物学的適応、集落立地	小林　茂（大阪大学大学院教授）	小林　茂（大阪大学大学院教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	資源利用と景観	環境への適応の一局面である資源利用が、景観の形成に密接にむすびついていることを、具体例(福岡県太宰府市の農業水利と里山利用)を紹介しながら解説する。また資源利用の変化が景観をどのように変化させるかについても具体例に即して示し、景観のもつ意味について考える。 【キーワード】 農業水利、里山、土地利用、都市化	小林 茂 (大阪大学大学院教授)	小林 茂 (大阪大学大学院教授)
6	農村・定期市・都市－中心地理論からみた地理空間－	農村空間を背景に都市的集落が成立するプロセスを中心地理論から説明する。まず経済発展の低い段階では定期市システムが成立することを、スタインのモデルを用いて説明する。ついで、定期市システムを克服して都市的集落の階層的配置(中心地システム)が成立することを、クリスタラーのモデルを用いて説明する。 【キーワード】 中心地、定期市、都市、商業	石原 潤 (奈良大学教授)	石原 潤 (奈良大学教授)
7	計量革命	1950年代中葉のアメリカ地理学界で起こった計量革命(地理学の理論化・数量化の動き)は、世界の地理学の学問内容を刷新した。計量革命の背景を当時のアメリカの社会や地理学界の現況と関係づけて説明するとともに、計量革命がめざした新しい地理学(「空間の科学」としての地理学)について概説する。 【キーワード】 戦時地理学、地域科学、コンピュータ、計量地理学	杉浦芳夫 (首都大学東京教授)	杉浦芳夫 (首都大学東京教授)
8	都市システム (※改訂回)	都市のシステム論的な記述・分析は、1960年代から人文地理学にとりこまれる。複数の都市間の機能的な関係を特定する都市群システムの視点と、都市内部の部門間の関係から1つの都市をシステムとみなす都市内部システムの視点から研究が推進された。これらにより、都市システムが、どのように記述・説明され、さらには予測されているかを述べる。 【キーワード】 都市群システム、都市内部システム、因子生態研究、都市モデル	矢野桂司 (立命館大学教授)	矢野桂司 (立命館大学教授)
9	GIS革命 (※改訂回)	1980年代後半に始まる地理情報システム(GIS: Geographic Information Systems)革命は、紙地図からデジタル地図というIT技術の地理学の導入にとどまらず、地理情報システムを地理情報科学へと展開させた。この革命がどのように進展したのかを紹介し、バーチャル空間などの新しい概念の地理学への影響などについても言及する。 【キーワード】 地理情報システム、地理情報科学、バーチャル空間	矢野桂司 (立命館大学教授)	矢野桂司 (立命館大学教授)
10	生活空間と福祉 (※改訂回)	生活の質(QOL)や福祉について、人文地理学に特徴的な見方(地域的不平等、空間的近接性、身体－環境関係など)が、福祉の問題の把握・理解・解決に有効であることを、具体例によりGISを使いながら説明する。 【キーワード】 福祉、地域的不平等、空間的近接性、身体－環境関係	宮澤 仁 (お茶の水女子大学准教授)	宮澤 仁 (お茶の水女子大学准教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	ジェンダーと都市空間 （※改訂回）	現代社会の理解にジェンダーの視点は欠かすことができない。それは、現代の都市空間とそこでの生活を理解する上でも同様である。ジェンダーの視点から、都市の空間構造や居住地選択、生活行動の時空間パターンなどの特徴を、GISによりながら明らかにする。 【キーワード】 ジェンダー、居住地選択、時間地理学	宮澤 仁 （お茶の水女子大学准教授）	宮澤 仁 （お茶の水女子大学准教授）
12	情報と現代空間 （※改訂回）	交通・通信技術の発展と普及は、移動やコミュニケーションにかかる時間を大幅に短縮することで、現代の経済活動と社会生活に利便性と大きな可能性を与え、その空間構造を変化させている。複数のトピック（産業立地や地域社会の再編、遠隔医療など）を取り上げ、情報と現代空間の関係に言及する。 【キーワード】 情報、バックオフィス、遠隔医療	宮澤 仁 （お茶の水女子大学准教授）	宮澤 仁 （お茶の水女子大学准教授）
13	発展途上国の都市生活	郊外化・情報化のすすむ先進国の都市に対して、発展途上国では、農村から都市への人びとの移動が継続し、そのなかには国境を越える場合もすくなくない。その結果発生してきた都市のスコッター地区の生活にくわえ、施設の未整備や不充分な行政サービスなどの問題を検討する。 【キーワード】 発展途上国　都市、スコッター、コミュニティー形成、	池谷和信 （国立民族学博物館准教授）	池谷和信 （国立民族学博物館准教授）
14	発展途上国の環境問題 （※改訂回）	自然保護思想が普及し、世界遺産（自然遺産）や国立公園のような自然保護区の面積が増えている。野生動物観光が盛んなアフリカでは、保護区の設立にともない住民は区外へ移住を余儀なくされたり、住民と政府との間で軋轢が生まれている。アフリカでの自然と人との関係の地域性に注目して、保護区における持続的な資源利用のあり方について考える。 【キーワード】 自然保護区、先住民、資源利用、観光	池谷和信 （国立民族学博物館准教授）	池谷和信 （国立民族学博物館准教授）
15	人文地理学と現代	現代社会における人文地理学研究の役割の例示にむけて、多摩ニュータウンを対象に、前章までに示された手法を援用して分析し、その人々の居住との関係を検討する。ベッドルーム・タウンとして開発されたニュータウンが、高齢者や既婚女性にとってはかならずしも住みやすくないことを示し、場所の理解にいたる人文地理学研究の道を示す。 【キーワード】 ニュータウン、高齢者、既婚女性、場所の理解	杉浦芳夫 （首都大学東京教授）	杉浦芳夫 （首都大学東京教授）

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	共通科目（人文系）	科目ｺｰﾄﾞ	1212907	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　博物館概論（‘０７）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：佐々木　利和（国立民族学博物館教授）〕
〔主任講師（現職名）：松原　茂（東京国立博物館上席研究員）〕
〔主任講師（現職名）：原田　一敏（東京国立博物館上席研究員）〕

講義概要

博物館には、大規模博物館と小規模の博物館とがある。博物館の基本は地域に根ざした小規模博物館にあると考えている。そして博物館が拠って立つ所以は「モノ」にある。「モノ」を見失った博物館は博物館ではなく、単なる人寄せの場でしかない。こうした観点にたって、博物館について考えていく。ここでは「博物館学」という講義の場ではない。「モノ」から離反したアームチェア・ムゼオロジーではなく、実態に即した博物館について、資料取り扱いを中心とした博物館の業務について講義し、あわせて実践的な活動を行っている小規模博物館をみながら、博物館の現実的なあり方を考える。

授業の目標

博物館員の資質は「モノ」について熟知していることである。「モノ」の熟知とは、そのもののもつ特性、来歴等をよく知り、かつ、十分に安全で確実な取り扱いができることである。加えて、そのものを現実の展示の中で、よく生かすことである。展示の基本である「モノをして語らしめよ」という視点から、モノと展示に関して過不足のない知識の享受してほしい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	博物館とは	博物館のさまざまな形態およびその運用の実際について講義する。博物館の拠って立つ基盤は「モノ」にあるということを意識しながら、博物館法などを読み、博物館のありかたについて考える。	佐々木利和（国立民族学博物館教授）	佐々木利和（国立民族学博物館教授）
2	博物館史	日本の博物館の歴史について略述する。この場合、日本の中央博物館として、特殊な存在形態であった帝室博物館について述べ、ついで、日本で最初の人類学博物館であった銅駝坊陳列館に触れて、日本初期博物館について考える。	佐々木利和（国立民族学博物館教授）	佐々木利和（国立民族学博物館教授）
3	博物館資料取扱論１（美術品）	博物館員にとってモノの取り扱いが正しくできるかどうかは、きわめて重要な問題だが、その技術を持つものは意外に少ない。ここでは日本美術や日本史の基礎資料である巻子（巻物）や掛幅（掛け軸）、屏風などの取扱法を学び、あわせてそれらの調書の取り方についても学習する。	松原　茂（東京国立博物館上席研究員）	松原　茂（東京国立博物館上席研究員）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	博物館資料取扱論2（彫刻）	日本彫刻は仏像によって代表されるが、それが信仰の現実的な崇拝の対象であることに考えが及ばないことがままある。ここでは仏像の取り扱い方法について講義する。あわせて調書の取り方についても考える。	岩田　茂樹（奈良国立博物館学芸課美術室長）	岩田　茂樹（奈良国立博物館学芸課美術室長）
5	博物館資料取扱論3（工芸品1）	日本工芸の一方を代表する金工品に着目し、その取り扱い法を講義する。あわせて、刀剣の取り扱い方、手入れについても論じ、効果的な展示方法についても述べる。金工品や刀剣の調書の取り方についてもふれてみたい。	原田　一敏（東京国立博物館上席研究員）	原田　一敏（東京国立博物館上席研究員）
6	博物館資料取扱論4（工芸品2）	日本工芸の代表するものとして人気の高い陶磁器を取り上げ、その取扱いについて伊藤嘉章が講義する。あわせて、漆工品についての取扱方法を竹内奈美子が講義する。そして調書の取り方についても触れる。	伊藤　嘉章（九州国立博物館企画課長） 原田　一敏（東京国立博物館上席研究員）	伊藤　嘉章（九州国立博物館企画課長） 竹内奈美子（東京国立博物館）
7	博物館資料取扱論5（工芸品3）	日本を代表する工芸のひとつでありながら、意外に取り扱いがむつかしい甲冑の取扱方法および展示法について池田宏が講義する。 また染織とりわけ小袖についての取扱法を小山弓弦葉が論ずる。そいてこれらの調書の取り方についても触れる。	池田　宏（文化庁美術学芸課主任文化財調査官） 原田　一敏（東京国立博物館上席研究員）	池田　宏（文化庁美術学芸課主任文化財調査官） 小山弓弦葉（東京国立博物館）
8	博物館資料取扱論6（考古・歴史資料）	日本考古学において比較的取り扱いがむつかしい土器および金属器について井上洋一が講義し、日高慎がそれを助けるかたちでの授業をおこなう。調書の取り方についても述べる。 歴史資料という範囲は広いが、その資料の多くは絵画や工芸と共通する取り扱いである。ここでは地図・絵図の取り扱いを中心に版本・写本についても述べる。また調書の取り方についても考える。	井上　洋一（東京国立博物館事業企画課長） 佐々木利和（国立民族学博物館教授）	井上　洋一（東京国立博物館事業企画課長） 佐々木利和（国立民族学博物館教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
9	博物館資料取扱論７（保存修復）	資料の保存について臨床保存学という観点から講義する。臨床保存学とは損傷した資料を安全に修理し、輸送や展示に際して環境変化から安全を確保する予防措置を施すことであるが、その具体例をあげながら保存、保護について考えていく。	神庭　信幸（東京国立博物館）	神庭　信幸（東京国立博物館）
10	博物館資料取扱論８（梱包法）	博物館活動において資料を貸借により移動することがままある。その際には梱包という作業が必要となり多くの場合、業者委託という手段がとられる。しかし、身の回りの素材を活用しながら、安全梱包を博物館員おこなうという観点から梱包方法について講義する。	佐々木利和（国立民族学博物館教授）	佐々木利和（国立民族学博物館教授） 岩淵　建夫（東京国立博物館）
11	地域博物館の活動１	地域博物館にはさまざまな活動を行っている博物館がある。それらの活動を紹介しながら博物館活動のありかたについて考えていく。 ここでは北海道白老町にある財団法人アイヌ民族博物館をとりあげ、日本における異文化とその伝承、展示について考えていく。	佐々木利和（国立民族学博物館教授）	佐々木利和（国立民族学博物館教授）
12	地域博物館の活動２	日本最北の博物館である利尻町立博物館を訪れ、その地域に根ざした活動および学芸員の仕事についてみていく。また、にかほ市立象潟民俗資料館は芭蕉との関連で著名な存在であるが、意外な地域活動を持っている。	佐々木利和（国立民族学博物館教授）	佐々木利和（国立民族学博物館教授）
13	地域博物館の活動３	日本最南端の八重山博物館および与那国民俗資料館にうかがい、琉球の先島の文化について考える。また、与那国民俗資料館はもっとも西に位置する私立博物館であり、その運営法についても学んでいきたい。	佐々木利和（国立民族学博物館教授）	佐々木利和（国立民族学博物館教授）
14	地域博物館の活動４	沖縄県に新しい県立博物館が誕生する。ここでは新たな博物館ができるまでのさまざまな活動についての方法を学んでいく。	佐々木利和（国立民族学博物館教授）	佐々木利和（国立民族学博物館教授）
15	博物館の現在的課題－教育・普及活動	博物館の現在的課題、地域住民と博物館とのありかた、あるいは地域ボランティア、住民のための陳列などといった視点からひとつの博物館に注目し、地域博物館の将来について考えていく。	佐々木利和（国立民族学博物館教授）	佐々木利和（国立民族学博物館教授）

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	基礎科目	科目コード	1222716	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　生活とリスク（‘07）＝（R）

〔主任講師（現職名）：　奈良　由美子（放送大学准教授）〕

講義概要

現代はリスク社会、危機の時代などと呼ばれ、また複数の世論調査が生活者の不安の高まりを報告している。生活上のリスクや危機について理解し対処することは生活を送るうえで優先順位の高い課題といえよう。この授業では、生活の安全・安心を阻害するリスクについてその概念と現代的特徴をおさえ、さらにリスクの発生局面と管理局面における生活の関わりを考えていく。

授業の目標

この授業科目のねらいは、現代における生活の特性や生活者のあり方について、「リスク」という切り口によって論じることで、受講者の気づき、理解、考察を引き出すことである。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	リスクを考える	現代はリスク社会であると言われる。リスクの本質・成分、発生のメカニズム、分類方法、安全と安心の違いなど、その概念をおさえたうえで、現代社会のリスクの特徴を、ハザード（危険事情）を整理しながら考察する。また、リスク研究についての基礎学と関連学問領域におけるアプローチを紹介する。	奈良由美子（放送大学准教授）	奈良由美子（放送大学准教授）
2	生活とリスクマネジメント	リスクを最少化するためのリスクマネジメントについて、その意義および具体的な方法を提示する。また、生活価値をふまえベネフィットやコストにも目配りするといった、生活においてリスクマネジメントを実践する際の留意点についても検討する。	奈良由美子（放送大学准教授）	奈良由美子（放送大学准教授）
3	自然災害と生活	阪神・淡路大震災を例示するまでもなく、わが国は世界有数の自然災害国である。また、都市化はさらに新たなリスクを生む。これらに対して社会と生活者はどのような対応をとろうとしているのか、その実態と課題を検討する。	奈良由美子（放送大学准教授）	奈良由美子（放送大学准教授）
4	犯罪と生活	日本の安全神話は崩壊したと言われる。生活者の体感治安が悪化していることも指摘されている。生活の安全・安心を脅かす犯罪について、その実態と課題を考察する。	奈良由美子（放送大学准教授）	奈良由美子（放送大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	交通事故と生活	生活者が自家用車を所有し運転することは、人身リスク・財物リスク・賠償責任リスクを負担することでもある。被害者だけでなく加害者の立場にもなる可能性がある生活者にとっての、交通事故の実態と課題を考える。	奈良由美子（放送大学准教授）	奈良由美子（放送大学准教授）
6	化学物質とリスク	医薬品を始めとして、現代の衣食住に化学物質は欠かせない。これらの多くは健康増進や生活向上のために開発され、実際に大きな利便性を私たちは享受してきた。一方で、それらが想定外のリスクをもたらす場合があることも経験してきた。私たちは化学物質にどのよう向かい合ったら良いのであろうか。いくつかの例を提示して考えたい。	濱田　嘉昭（放送大学教授）	濱田　嘉昭（放送大学教授） 奈良由美子（放送大学准教授）
7	家族とリスク	生活の基本単位のひとつである家族は、生活リスクに対処する単位である。家族構成員は互いにリスク対処資源を提供する。そのいっぽうで、家族はリスクの発生源ともなる。家族と生活リスクの発生局面と管理局面について考察する。	奈良由美子（放送大学准教授）	奈良由美子（放送大学准教授）
8	生活経済とリスク	わたしたちの生活は経済活動を伴うが、その過程ではさまざまなリスクが発生する。生活経済とリスクについて、失業、多重債務、消費者被害、死亡リスク、疾病リスクなどをとりあげながらその実態と対応の可能性について検討する。	奈良由美子（放送大学准教授）	奈良由美子（放送大学准教授）
9	食生活とリスク	高齢社会のわが国において、人々の健康に対する関心はきわめて高い。食習慣の改善によって、がんや動脈硬化、糖尿病などの生活習慣病発症のリスクを予防し、食による健康の維持・増進への期待は大きい。近年における O157, BSE（牛海綿状脳症）、偽装表示、の問題は消費者に対し、食品の安全性、表示などに関して強い不安や不信感を与えた。このような社会的背景の中で、食生活におけるリスクについて概説し、食の安全・安心確保のリスクアセスメント、リスク管理を考察し、消費者、生産者、流通関係者と行政が意見を交換する場・リスクコミュニケーションの重要性を論ずる。	中谷　延二（放送大学教授）	中谷　延二（放送大学教授） 奈良由美子（放送大学准教授）
10	建物の安全性とリスク	建物の耐震性能を取り上げ、建物の安全とは何かを考える。安全には様々なレベルがあること、そして費用対効果の問題でもあることを述べる。さらに耐震基準は、常に過去の被害を下に改定されてきた経緯があり、現行の基準に不適格な建物の危険性と耐震改修の必要性について述べる。	本間　博文（放送大学教授）	本間　博文（放送大学教授） 奈良由美子（放送大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
11	インターネットとリスク	インターネット空間では、リアルな空間と比べて顕著だと認識される特性（匿名性と非対面性）ゆえのリスクが発生する。それらの実態をおさえるとともに、情報社会に参画する生活者の課題を検討する。	奈良由美子（放送大学准教授）	奈良由美子（放送大学准教授）
12	ライフサイクルとリスク	わたしたちは生まれてから死ぬまでに様々なリスクを負担することになる。人間の生活について長期的な視点からライフサイクルを整理したうえで、各ステージに特有のリスクとしてとくに若者にとってのリスクおよび高齢者にとってのリスクについて考察する。	奈良由美子（放送大学准教授）	奈良由美子（放送大学准教授）
13	リスク文化と生活	リスクについての考え方や対処のし方は、集団や社会によって異なる。日本におけるリスク観やリスク対応の特徴およびその背景を考察しながら、リスク文化について考える。	奈良由美子（放送大学准教授）	奈良由美子（放送大学准教授）
14	リスクコミュニケーション	わたしたちは普段どのようにリスクをとらえ判断しているのか。ここでは、生活者によるリスク分析・評価の特徴を整理し、それらと専門家によるリスク分析・評価との相違を解説する。これをふまえ、リスクをめぐる関係者によるリスクコミュニケーションの意義と課題を検討する。	奈良由美子（放送大学准教授）	奈良由美子（放送大学准教授）
15	リスクに強い生活の構築に向けて	これまでに生活をめぐるリスクについて、その概念や具体的な実態、分析・評価のされ方や管理の方法等について述べてきた。最終回では、リスクに強い生活の構築にむけての課題を総括したい。ここでは３つの課題－①リスク情報のリテラシー、②安全目標の共有、③相互扶助体系への参画－について示す。	奈良由美子（放送大学准教授）	奈良由美子（放送大学准教授）

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	基礎科目	科目コード	1120409	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 問題発見と解決の技法 （’０８）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：柴山 盛生（国立情報学研究所准教授）〕
〔主任講師（現職名）：遠山 紘司（神奈川工科大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：東 千秋（放送大学教授）〕

講義概要

私たちは職場だけでなく、地域や個人の生活においてもさまざまな問題に直面し、何とか解決方法を見つけようと悩んでいる。問題解決の仕方に方法があるのであろうか。ここでは問題とは何かから始まり、問題の見つけ方、解決の手順、解決に必要な情報をどのように収集・整理し分析するのか、解決に必要な考え方とは何かなど一連の過程を通して解決策を見いだしていく科学的技法を学ぶ。また、その過程で思考や発想などを目的に沿って他人に伝え、理解してもらうための基本的な技術を習得する。そして、ここでの学習が実際に応用できることをねらいとして、さまざまな分野から問題解決の具体的な事例を集めて紹介する。

授業の目標

この授業の目標は、「問題とは何か、どのようなとらえ方が適切か、そしてどのようにして発想を広げ、必要な情報を収集・整理し、解決策を見出していくのか、そこにおける一連の科学的技法を学ぶ」ことである。また、「それらの過程において思考や発想などを目的に応じて伝達するための基本的な表現技術を習得する」ことも、この授業のねらいとしている。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	問題とは何か	私たちが仕事や生活の場で直面する事柄を通して「問題とは何か」問題の定義と捉え方を考える。さらに、それらをどのような形で解決へと進めるのか、概略を述べる。 最後に、この授業の構成を紹介した後、放送授業における事例紹介の見方について述べる。 【キーワード】 問題の定義、科目の構成、事例の視点	遠山 紘司（神奈川工科大学教授）	遠山 紘司（神奈川工科大学教授）
2	問題の発見	自分から問題を見つけるにはどうすればよいのか。問題にはどのような種類があるのか。また、問題を解決するためには問題を明確化する必要もある。問題が複数ある場合は何が重要なのか、緊急性等を考慮し、取り掛かる順番を決める。 【キーワード】 問題の発見、問題の種類、問題の明確化、優先順位	遠山 紘司（神奈川工科大学教授）	遠山 紘司（神奈川工科大学教授）
3	目標の設定	問題を見つけたら最終的にどのレベルに達したいのかという目標を設定する必要がある。ここでは目標設定の必要性、達成可能な目標をどう設定するか、目標設定にあたって制約される条件は何か等を述べた後、いくつかの基本的設定方法について述べる。 【キーワード】 目標の条件、達成可能目標、制約条件、目標設定の方法	遠山 紘司（神奈川工科大学教授）	遠山 紘司（神奈川工科大学教授）
4	問題解決の手順	組織の場合の問題解決を中心とし、目標に向けて、目的の明確化、情報収集、具体的立案、発表・伝達という問題解決の手順について説明する。特に企業戦略について触れる。個人の問題解決の手順についても説明する。 【キーワード】 問題解決の手順、企画、戦略、個人の問題解決	大林 康二（北里大学教授）	大林 康二（北里大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	情報の収集と整理	問題解決に向けて、必要な情報を集めそれらを整理・分析する。情報収集では、収集の目的、収集の方法、情報検索について説明する。情報の整理では、収集した情報の記録・整理方法について説明する。 【キーワード】 情報収集の目的、情報収集の方法、整理の視点	柴山 盛生（国立情報学研究所准教授）	柴山 盛生（国立情報学研究所准教授）
6	情報の分析	集めた情報を基に、データの質的・量的な意味を考えて問題解決に向けて分析する。情報分析の方法として有効な統計的な処理や推計について紹介する。 【キーワード】 情報分析の考え方、情報分析の方法、統計的処理、推計	東 千秋（放送大学教授）	東 千秋（放送大学教授）
7	発想の手法Ⅰ：発散的な手法	解を導く上で、事柄を発散的に考えたり、収束的に考えたりすることが有効である。発散的に考える例として、概念や分類、ものとものとの対応を考える思考について紹介し、代表的な発散的な技法としてブレーンストーミングなどを説明する。 【キーワード】 メタファー思考、アナロジー思考、ブレーンストーミング	柴山 盛生（国立情報学研究所准教授）	柴山 盛生（国立情報学研究所准教授）
8	発想の手法Ⅱ：収束的な手法	もう一つの発想の方法である収束的な手法について説明する。収束的に考える手法として、演繹的推論、帰納的推論、確率判断などについて紹介し、いくつかの収束技法を説明する。 【キーワード】 演繹、帰納、推論、確率判断	柴山 盛生（国立情報学研究所准教授）	柴山 盛生（国立情報学研究所准教授）
9	グラフによる表現	問題の解決で何故「表現が必要なのか、表現することの位置づけ」を述べた後、基本的なグラフとその活用法について述べる。比較する、時間的な経過を見る、内訳を知る、分布を見る、関連を探るなどの目的のためには、いろいろなグラフをどのように利用するのが適切か説明する 【キーワード】 数量表現、グラフの種類、グラフの見方、グラフの描き方	大林 康二（北里大学教授）	大林 康二（北里大学教授）
10	図解による表現	文章で書くと分かりにくい内容を一目見て全体像が理解できる図解について学ぶ。図解は詳細を説明するには必ずしも適さないが、全体像、概略を説明するのによい。自分や自分のグループの考えを聞き手に短時間で正確に理解してもらう手段として有効である。 【キーワード】 図解表現の目的、図解の種類、論理図解	遠山 紘司（神奈川工科大学教授）	遠山 紘司（神奈川工科大学教授）
11	コミュニケーション	人と人の情報伝達の基本であるコミュニケーションは、問題発見と解決において効果的でなければならない。コミュニケーションが効果的でないとき、さらに新たな問題も発生する。効果的なコミュニケーションはどうあればよいのか、文章による表現方法といろいろな場面でのコミュニケーションを考える。 【キーワード】 効果的なコミュニケーション、文章表現、いろいろな場面	東 千秋（放送大学教授）	東 千秋（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
12	プレゼンテーション	調べたことや自分の考えなどを発表するためのプレゼンテーションについて理解する。ここでは、効果的なプレゼンテーションにおける話し方、資料の作り方、口頭発表とそのまとめ方、質疑応答などを取り上げる。 【キーワード】 聞き手の分析、話し方、資料の作り方、口頭発表、まとめ方	東　千秋 （放送大学教授）	東　千秋 （放送大学教授）
13	評価	問題が解決したのか、またどの程度達成したのかを判断するための評価方法について学習する。ここでは、評価の対象と種類および数値的でない評価方法、数値的な評価法などの理論と手順について説明するとともに、それらに対応した例を考える。 【キーワード】 対象と種類、非数値的評価、数値的評価、評価の理論と手順	柴山　盛生 （国立情報学研究所准教授）	柴山　盛生 （国立情報学研究所准教授）
14	総合事例Ⅰ	組織や地域における問題の特徴、そこではどのような問題が起こりやすいか、それにどのように取り組み、どのように解決したかを説明する。事例として、商店街における町おこしと看護師教育を取り上げる。 【キーワード】 職場での問題解決、地域での問題解決	柴山　盛生 （国立情報学研究所准教授） 大林　康二 （北里大学教授）	柴山　盛生 （国立情報学研究所准教授） 大林　康二 （北里大学教授）
15	総合事例Ⅱとまとめ	大きな組織における危機管理を中心とした事例を取り上げ、その意味について検討する。最後に、この授業のまとめを行う。 【キーワード】 組織での問題解決、危機管理、授業のまとめ	遠山　紘司 （神奈川工科大学教授） 東　千秋 （放送大学教授） 柴山　盛生 （国立情報学研究所准教授） 大林　康司 （北里大学教授）	遠山　紘司 （神奈川工科大学教授） 東　千秋 （放送大学教授） 柴山　盛生 （国立情報学研究所准教授） 大林　康司 （北里大学教授）

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	基礎科目	科目コード	1223011	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　市民と社会を考えるために（‘07）＝（R）

〔主任講師（現職名）：天川　晃（放送大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：高木　保興（放送大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：浅川　達人（明治学院大学教授）〕

講義概要

本講義は「基礎科目」であり、「専門科目」への架橋を目指すという位置づけにある。そのために、講義は第1部「社会的な関心・興味を養う講義」と第2部「社会科学の各分野によって異なる基本テーマを取り上げる講義」という2部構成とした。第1部においては、①具体的な社会現象を取り上げ、現象の推移などについて簡単に紹介した上で、②その社会現象を理解するために必要な専門用語やアプローチの方法などについて概説し、③さらに理解を深めるために必要な文献や研究方法などについて説明する、という授業構成とした。第2部については、各分野・領域における基本的なテーマを取り上げ、専門科目への橋渡しを目指した。

授業の目標

本講義の目的は、社会科学の勉学に対する関心と意欲を引き出し、政治学・法学・経済学・社会学の各専門科目について、勉強してみたいという気持ちに導くことにある。したがって、学習の目標は、本講義受講後に、受講者自身が、自ら学びたい専門領域を自覚し、自らの力で学習の指針を構想できるようになることとなる。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	イントロダクション	この科目のねらいを明らかにするとともに、講義全体の概要を説明する。新聞やテレビ・ラジオなどを通じて接する社会の問題に関心を向けるところからはじまり、さまざまな社会的現象を社会科学の概念や理論と関連づけて理解することに至るまでの間に出てくる諸問題について説明をする。	天川　晃（放送大学教授）	天川　晃（放送大学教授） 高木　保興（放送大学教授） 浅川　達人（明治学院大学教授） ゲスト： 原島　良成（放送大学准教授）
2	秩序の形成と変動(1) －新しい政権の誕生	近代社会の発展過程において多くの国民国家が誕生し、その潮流は今日においても続いている。新しい政権が誕生した時、われわれはどのような観点からそれを見るのか、そこには共通した要素が存在している。この講義は、中華人民共和国の成立と現在形成されつつあるアフガニスタンの新政権に例をとりながらこの問題を論じる。政権成立の歴史、反対勢力の排除と権力の浸透、イデオロギー的方向性、制度化、国際的地位の確立などの要素が検討される。	山田　辰雄（放送大学教授）	山田　辰雄 高橋　和夫（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
3	秩序の形成と変動(2) －経済発展と民主化	経済発展をすれば民主化は必ず起こるのか、途上国は民主主義的でないほうが発展しやすいのか、を議論するために、民主主義、権威主義的政府、長期政権の是非などについて東アジアや東南アジア諸国の実例を挙げながら、異なった考え方があることを明らかにする。最後に、中国は近い将来民主化が期待できるかという多くの人が関心を持つが難しい問題も考えてみることにする。	高木　保興	高木　保興 山田　辰雄 山岡　龍一（放送大学准教授）
4	秩序の形成と変動(3) －メディアと社会	イラク戦争報道を題材にメディアが社会で果たす役割を検討する。ポイントの第一はメディアの変化である。カタールのアルジャジーラに代表されるような衛星放送局の多様化である。CNNやBBCなどの英語メディアによる寡占状況は過去のものとなった。またインターネットに代表される新しいメディアがジャーナリズムの風景を確実に変貌させてきた。第二は日本の大手メディアに見られる戦争報道の特徴である。具体的には大手メディア各社は協定によってイラク戦争開戦前に自社の社員をイラクから撤退させた。代わりにフリーのジャーナリストたちが危険を冒して大メディアのために現地から報道するという日本的なジャーナリズムの形が成立した。第三に「ワイドショー」と呼ばれる形態のテレビ番組の報道の特徴と人気の理由を考える。最後にメディアの問題を社会学者がいかに見つめてきたかを代表的な文献に言及しながら紹介する。	高橋　和夫	高橋　和夫 船津　衛（放送大学教授）
5	成長と環境(1) －豊かさと市民	私たちは、「豊かさ」を求めて経済成長を遂げた。所得は増大し、労働時間は減り、余暇が増えた。ところが、現実には「失業」問題や、「過労とストレス」の問題が起こってきている。市民として生活する上で、豊かさとはいったい何なのだろうか。豊かさの基本的な要件としての「働くこと」について、法学と経済学の観点から考える。特に、雇用関係のなかでの「過労死・過労自殺」という現代社会のトピックに注目にして、市民と社会に関する「豊かさ」のあり方と考え方を探究したい。	坂井　素思（放送大学准教授）	中嶋士元也（放送大学教授） 坂井　素思
6	成長と環境(2) －先進国と途上国	途上国の環境問題としてダム開発（インドのナルマダ・ダム）、森林破壊、大気汚染を採り上げ、異なった角度から見直すことでいろいろな解釈が可能なことを明らかにする。そして、途上国は特にひどいことをしているわけではなく、貧困から脱出しようとする工業化が環境悪化の主要原因となり、国際社会の一員として先進国や国際機関の勧告に従った政策が却って環境を悪化させていることがある点を指摘する。	高木　保興	高木　保興

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
7	成長と環境(3) －なぜ今でも成長か	産業革命以来経済成長を至上命題としてきた先進国経済は、これまでにも幾度か資源の限界や環境の制約に直面してきたが、その都度科学技術の発展とその応用で乗り越えてきた。しかし、経済発展が多数の国や地域に及び、世界全体として人口の拡大に歯止めがかからないいま、世界経済は改めて地球環境の制約のもとで持続的な発展の道を求めている。これからも成長は可能なのか。成長に代わる新たな目標はあるのだろうか。	林　敏彦 (放送大学教授)	林　敏彦 (放送大学教授)
8	自己と他者(1) －自分とは誰か	自我は自分一人ではわからない。他の人がどう見ているのか、どう評価しているのかを知ることを通じて初めて知ることができる。つまり、自我は他者の人間とのかかわりにおいて社会的に形成され、展開する。 このような人間の自我のあり方について、「鏡に映った自我」、「多面的・流動的自我」、「本当の自我、うその自我」、「役割形成」などの概念を通じて具体的に明らかにしていきたい。	船津　衛 (放送大学教授)	船津　衛 浅川　達人
9	自己と他者(2) －「市民」と「市民社会」	日本の近代化において、社会科学、特に政治学のなかに現れてきた人間観をたどることで、さまざまな領域で現在注目されている「市民」や「市民社会」といった言葉の意味を検討する。「臣民」「社会」「民衆」「階級」「民族」「大衆」といった言葉の意味を歴史的に解明することで、「人間」の見方が社会や歴史に規定されていることの意味と、「社会」の認識にとって人間論を提起することの意義を確認したい。	山岡　龍一	山岡　龍一 船津　衛
10	自己と他者(3) －グローバル化とローカル化	「グローバル化」「情報化」「ローカル化」などの言葉を、近年よく耳にする。これらは、どのような現象であり、相互にどのように関連しているのであろうか。これらについて、日常生活における具体的な例を通して、まずは考えてみる。次に、概念の整理を行い、それらの現象を捉えるための社会学的アプローチについて紹介する。最後に「グローバル化」した社会が抱えている問題を指摘し、それを乗り越えるための方途を、「ローカル化」というキーワードとともに検討する。	浅川　達人	浅川　達人 船津　衛
11	需要と供給の世界	「官から民へ」あるいは「政府から市場へ」は、政治的な新保守主義と軌を一にして、２０００年代日本の合い言葉となった。確かに、市場機構は人類最大の発明と呼ばれることもある。しかし、自由契約を基本とする市場経済は万能ではない。もう一度、需要と供給の世界で達成できることと達成できないことについて思いをめぐらし、市場制度を支え、それを補完するソーシャルキャピタルについて考えてみよう。	林　敏彦	林　敏彦

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
12	人間－この社会的なるもの	人間はたった一人でこの世に生きていくことができない。常に、人間は親、兄弟姉妹、友達、先輩、先生など他の人間とのかかわりにおいて生きている。人間は本質的に社会的存在である。 このことを「アベロンの野生児」や「ロビンソン・クルーソー」の行動に関して考察しながら明らかにするとともに、その具体的あり方として、「第一次集団」や「官僚制組織」などを中心に、人間と集団や組織との関係について、具体的に考えていきたい。	船津　衛	船津　衛
13	日常と人生の法－医者と法律はないほうが…	法・法学・法学者の価値に対する評判は，古今東西必ずしもはかばかしいものではない。しかし、「われわれが社会生活をいとなむことが価値あることであるならば、これを合理的に規律しようとする学問が無価値なはずはない」（山田晟『法学〔新版〕』6頁）と信じよう。信ずるだけではない。手始めに、日常（「起きてから寝るまで」と人生（「生まれるときから天に召されるまで」）において、法がいかにそれらと隣り合わせて存在し、社会生活上有価値なものであるかを検証し、法のあるべき姿を考えてみよう。	中嶋士元也 原島　良成（放送大学准教授）	中嶋士元也 原島　良成（放送大学准教授）
14	グローバル化と国際政治の新しい主役たち	国境を越えて活動するコストの低下が引き起こす様々な現象をグローバル化と定義すると、その影響は国際政治の面でも顕著である。これまで国家によって独占されてきた国際政治に、民間が、NGOが、地方自治体が参入している。たとえば2001年にアメリカで同時多発テロを行ったアル・カーエダは政府でも国家でもない、民間人の組織である。またイラクでは、アメリカやイギリスは民間軍事会社と契約を結び、その多数の「社員」が、施設の警備、要人の警護、警察の訓練などに当たっている。実質上、戦争が民営化されている。あるいはイスラエル軍と戦うヘズボラというレバノンの組織は、国家ではない。国家以外の組織が団体が個人が、国際政治に直接に関与する時代が到来している。こうした「国」際政治という言葉が表しきれなくなった状況を語ろう。	高橋　和夫	高橋　和夫 ゲスト： 山本　隆（ピースボート共同代表）
15	まとめ	この講義から伝えたいメッセージを明らかにし、各章がそれぞれどのような役割を果たしているかをまとめるとともに、社会科学に興味をもつ読者に、今後考えられる展開について、いくつかの選択肢を提供する。	高木　保興	天川　晃 高木　保興 浅川　達人 ゲスト： 原島　良成（放送大学准教授）

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	基礎科目	科目コード	1120301	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 市民と社会を知るために （’０８）＝ （R）

―名著に触れよう―

〔主任講師（現職名）：林敏彦（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：山岡龍一（放送大学准教授）〕

〔主任講師（現職名）：原島良成（放送大学准教授）〕

講義概要

最初の11回分で社会科学に接近するための「素材」を学生に提供する。学生は、各素材を担当講師がどう調理するかを追体験し、学問の醍醐味に触れる。素材は、学生の興味を引き易いものから順に並べる（物語・エッセイ→各分野の古典素材・純理論的素材）。
残りの4回では、テキストと学問体系との間の架橋という方法論の問題を「～学のあんな本・こんな本」として取り上げ（放送教材は座談形式もあり）、古典の読み方との対比で鮮明に印象付ける。また、自著を語るという形態で執筆の苦労話なども披露する。

授業の目標

「市民と社会を考えるために（’07）」は、社会における身近な現象と社会科学との密接な結びつきをややカジュアルな形で提示しつつ、学生の興味関心を引き出すものであった。本講義は、その一歩先の段階として（必ずしも「市民と社会を考えるために」の履修を前提とはしないが）、冒険物語から本格的な研究書まで多様なジャンルの著作を取り上げ、社会科学の問題関心を浮かび上がらせ、学問との架橋を図る。最終的には、様々な問題意識と方法による社会科学研究のカタログを学生に示すことで、各専門科目を学習する際の導きの糸となることを目指している。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	市民と社会を知るとは―著者に聞いてみる	日常的に観察されるさまざまな社会現象を、いざ学問的に切り分けて体系的知識として整理するとしたら、何を手がかりにすればよいのか。社会科学の諸分野から、理論化を目指した書物が著されているが、最初から難解な専門書にひとりで当たるのは苦痛である。親しみやすい物語・エッセイから入って、研究論文を読み解く各講師の職人芸に触れ、テキストを味わう学習方法を体験してみよう。 【キーワード】 社会科学の学習方法、文献解題	林敏彦（放送大学教授）	林敏彦（放送大学教授） 山岡龍一（放送大学准教授） 原島良成（放送大学准教授）
2	『ハジババの冒険』―文学と政治	19世紀に英外交官がイラン人をかたって出版した本書は、やがてペルシア語に翻訳され、当時の腐敗した政治を批判する道具とされた。また本書のストーリーの背景は19 世紀における欧州列強の中東をめぐる対抗関係であった。文学が当時の国際政治や国内政治の雰囲気の追体験を可能にする場合がある。本書は、そうした例である。つまり、ハジババは文学が政治に影響を与えた例であり、同時に文学から政治に接近する道筋を示唆している。」 【キーワード】 文学、政治、「翻訳」、国際関係、社会	高橋和夫（放送大学教授）	高橋和夫（放送大学教授）
3	『ロビンソン・クルーソー』と近代の生活	社会のなかで、ひとりの生活とふたり以上の生活と、どのように異なるのだろうか。近代のヨーロッパ人は、自分たちの世界がグローバルな規模に拡大していくときに、まず自分の生活が気になった。孤島でのひとりの生活との比較を通じて、近代の社会生活というものの特徴を考えてみたい。また、ちょうど英国では、バブル騒動が起きつつあるときに、この本が出版されている。本の内容と時代背景との関連についても考察してみたい。 【キーワード】 冒険、労働、経済人、近代、他者	坂井素思（放送大学准教授）	坂井素思（放送大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	我妻栄『法律における理窟と人情』	「法律」というものの評判は、古今東西あまり芳しいものではない。古くから、「法律は世間の不合理を合理化しようとする」、「良き法律家は悪しき隣人である」などの誹りを受けてきた。これは、一体どういうことか。法律を学ぼうとする者は、その意味を解明しなければならない。結論をいえば、これらは、とりもなおさず法律の社会的存在価値を示しているのである。そして、それらの格言は、法律を学び、法律を取り扱う者の「謙虚さ」を求めたものでもあろう。今回学ぶ名著の著者の我妻栄博士は、紛れもなく、日本の法学史上第一等の法学者であった。そして謙虚な方であったらしい。その第一人者が本著の冒頭に「追うべき兎は二匹いる」と恐るべきことをいわれた。不遜の故であろうか。いや、そうではないのだということを学んでみよう。法律の出発点（そして多分終着点）もここにある。 【キーワード】 追うべき兎は二匹いる、嘘の効用、法律論と常識論、綺麗な理屈と常識的結論、謙抑主義と介入主義	中嶋士元也（放送大学教授）	中嶋士元也（放送大学教授）
5	成果を左右する組織―堺屋太一『組織の盛衰』	新技術導入や制度変更はこれまでの組織を非効率にすることが多いが、組織を新たな状況に応じて適切に作り直すことは至難の業である。ある目的遂行のために作られた組織は、作られたときから組織を拡大し強化しようとするそれ自体の目的を持つようになり、本来の目的が軽視されるということも起こりうる。堺屋太一氏の組織論を参考にして、現代の問題点を探ってみたい。 【キーワード】 組織、共同体、機能体、成功体験	高木保興（放送大学教授）	高木保興（放送大学教授） ゲスト：原島良成（放送大学准教授）
6	岡義武著『近代日本の政治家』	政治リーダーが時代を作り、時代がリーダーを求める。近代日本を作ったのはどのような人物だったのだろうか。本書は、伊藤博文、大隈重信、原敬、犬養毅、西園寺公望という5人の政治家の生涯をたどりながら、政治家の性格や個性がその政策や経歴にどのように関係するか、日本の政治の発展の中で彼らはどのような役割を果たしたのか、を冷静に分析する。今日の政治と政治家のあり方を考える上にも示唆するところが多いだろう。 【キーワード】 リーダーシップ、政治家、伝記	天川晃（放送大学教授）	天川晃（放送大学教授）
7	民主政治のゆきすぎを警戒した先人―『ザ・フェデラリスト』	市民の生命財産を守り社会の安寧を確保するためには、権力を集約し政府を組織することが欠かせない。その政府権力は当然、民主的にコントロールされなければならないが、民主的であれば安心、というわけにもいかないようである。アメリカ連邦政府の結成過程で、建国の父たちは法（正しきこと、権利）の擁護にも意を尽くした。そのことは、彼らが市民に向けて語りかけた新聞紙上連載から窺い知ることができる。 【キーワード】 権力分立、連邦制、法の支配	原島良成（放送大学准教授）	原島良成（放送大学准教授）
8	マキャベリ『君主論』	「政治家は信義を護るべきなのか」「目的は手段を正当化するのか」「支配者は被支配者に愛されるべきなのか」、16世紀イタリアの思想家が発した問いは、現代の我々にとっても興味深いものだといえよう。『君主論』においてマキャヴェリが「統治＝支配」や「権力」について語ったことの現代的な意義を、本講ではその著作が書かれた時代の考察を通じて明らかにしたい。『君主論』は単に〈政治〉のみならず、〈人間〉や〈人間関係のあり方〉に興味のある人々にも、魅力的な著作であることを示したい。	山岡龍一（放送大学准教授）	山岡龍一（放送大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
9	『三民主義』と中国革命	孫文と彼が主張した三民主義は、大陸中国と台湾双方から支持されている。中国革命における国民党と共産党との激しい対立にもかかわらず、なぜ三民主義が両者によって尊重されているのか。ここに、現代中国を理解する鍵がある。 【キーワード】 孫文、三民主義、中国革命	山田辰雄（放送大学教授）	山田辰雄（放送大学教授）
10	社会的自我論の古典『精神・自我・社会』	自我は他者とのかかわりにおいて社会的に形成される。この自我の社会的形成について論じた本書は、G・H・ミード（1863-1931）のシカゴ大学での講義を受講した学生のノートを編集したものである。したがって、内容的にあいまいであるとか、一貫していないとか、また、むずかしいといわれてきている。しかし、丁寧に読んでいくと、時代を先取りしたミードの見識の広さと深さに大きく圧倒されてしまうことになる。 【キーワード】 ミード、自我、コミュニケーション	船津衛（放送大学教授）	船津衛（放送大学教授）
11	冷静な頭脳と温かい心情の『経済政策原理』	120年前ケンブリッジ大学に経済学研究を確立したマーシャルの大著を通して、冷静な頭脳の学問としての経済学と、温かい心情の実践としての社会的苦難との格闘について考えてみたい。同時代の問題とのマーシャルの戦から、今日の私たちは、何を学ぶことができるのだろうか。私たちは、マーシャルの意に反して、温かい頭と冷静な心を持ってしまったのではないだろうか。現代の私たちが取り戻すべきマーシャルの精神とは何だろうか。 【キーワード】 経済学原理　理論と現実　経済学と生物学　有機的成長、新古典派、需要と供給	林敏彦（放送大学教授）	林敏彦（放送大学教授）
12	法律学のあんな本・こんな本	法律学の学習においては、条文や判決文に直接あたることが求められる。しかし闇雲に法律を頭から読み下すのでは学習効果は薄く、その背景にある法的思考にまで触れることはできないであろう。今回は、具体的な裁判事例を実際に取り上げて読み解く中で、条文や判決文を読む際の作法を学ぶ。さらに、身近なトラブルと法律とのかかわり、その法的解決を引き受ける裁判官の悩みにまで接近し、学説を整理した体系書・教科書類の参照についても一言したい。 【キーワード】 裁判、六法、条文	原島	中嶋・原島
13	政治学のあんな本・こんな本	放送大学の印刷教材も含めた、政治学関係の著作への接近方法を考える。政治学を学習するうえでのコツをふまえて、政治学の著作や資料を読んでいく際に必要だと思える心得を紹介する。いくつかの具体例を挙げながら、本や資料の選択・利用の方法、知識のまとめ方等について、アドヴァイスもしたい。	山岡・高橋	山岡・高橋
14	社会学のあんな本・こんな本	社会学はとてもとりつきやすい学問であるといわれる。しかし、少し学んでいくと、とたんにわかりにくくなる。それは研究対象である社会現象の変化が急速であることともに、それを取り取り扱う社会学の見方が多様であり、ときには対立することもあることが、その大きな理由と思われる。そこで、ここでは、そのような社会学的見方を理解するために役に立つ文献をいくつか紹介していくことにしたい。 【キーワード】 社会学的想像力、リアリティ・コンストラクション、自我の社会学	船津	船津

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
15	経済学のあんな本・こんな本	一人の経済学者が出会った本を通じて、出会いの必然と偶然、さらに学問と社会との格闘の一端を紹介したい。取り上げるのは、学部・大学院時代に出会ったあんな本を4点と、著者となって世に送ったこんな本の3点である。最後に、主任講師3人で、本を読むことは社会を知るための著者との対話だということの意味について、考える。 【キーワード】 サムエルソン経済学、ヒックス価値と資本、熊谷尚夫経済政策原理、ミクロ経済学、需要と供給の世界、大恐慌のアメリカ、	林	林・山岡・原島

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	共通科目（社会系）	科目コード	1120808	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 市民社会と法 （’０８）＝ （R）

〔主任講師（現職名）：広渡　清吾(東京大学社会科学研究所教授)　〕

講義概要

「市民社会」という概念は、近代の世界の中で様々に解釈されてきている。法の世界、法のあり方を理解する上でも、「市民社会」の概念は、一つの重要な役割を果たすものである。「市民社会」とは、自由で平等、独立の個人が相互に交流し、自分たちの社会のあり方を決めていく社会であると考えられる。市民社会の概念をそのように位置づけたうえで、現代における社会と法のあり方について、一般的な問題から、具体的な問題まで多様にとりあげて、考察する。

授業の目標

市民社会概念の歴史的含意、社会と法のあり方にとっての市民社会概念の意義などを理解した上で、現代の社会において、社会と法のあり方を決定するのが社会の構成員としての「市民」であることを、法の形成と実現に関わる基礎理論や具体的な法領域毎の問題にそくして学ぶことを目標にする。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	市民社会という考え方について	本講義の初回として、「市民社会と法」というテーマの下で、何をどのように論じるのかを説明する。近代の市民社会を自由で、平等で、独立の市民から構成される社会であると定義した上で、そのような市民社会の考え方を出発点にすると、近代の法のあり方がどのように把握されるかについて考える。 【キーワード】 市民社会、市民と国民、市民の法の抽象的性格	広渡清吾	広渡清吾
2	市民社会と国家	市民社会の考え方にとって、市民社会と国家の関係をどのように位置づけるかはもっとも重要な論点である。これまで歴史的に論じられてきた市民社会の二つのタイプ、および最近の新しい市民社会論、ならびに戦後日本の法律学における市民社会論をとりあげ、そこにおいて国家がどのように位置づけられたかを検討する。 【キーワード】 civil society 、新しい市民社会論、市民社会と国家の一元論	広渡清吾	広渡清吾
3	法体系と市民社会	市民社会は自由を原理とするが、同時に平等の実現を課題とする。法の体系は、自由を原理とする法領域と自由を規制して平等を保障しようとする法領域の両者を含む。法はまた、公共の利益を確保することをも目的にする。このような多様な法領域の編成について考える。 【キーワード】 法体系、民法、商法、労働法、行政法、刑法	広渡清吾	広渡清吾
4	市民社会における裁判	裁判は、市民が自己の権利を擁護するプロセスであると同時に、社会の法秩序を具体的に実現するプロセスでもある。日本国憲法は市民に「裁判を受ける権利」を保障している。この権利の具体的実現のために、裁判制度がどのように展開しているかを検討しよう。 【キーワード】 裁判を受ける権利、三審制、違憲立法審査権、法律扶助	広渡清吾	広渡清吾

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	市民による司法の利用	市民は、自己の権利を擁護し、実現するためにどの程度、どのように裁判を利用しているだろうか。日本社会は裁判の利用が少ない社会であるといわれるが、今次の司法改革は、その状況を変えることを狙いとした。この改革の中身を検討し、とくに市民に一番身近な法曹である弁護士について考える。 【キーワード】 司法改革、法科大学院、訴訟嫌い、権利意識、弁護士	広渡清吾	広渡清吾
6	市民の司法参加	司法の職務は、国民主権に基づいて専門家としての裁判官が担っている。裁判官による司法、とくに刑事裁判に直接に市民が参加する制度が諸外国では設けられており、日本でも「裁判員制度」が実施されることになった。この新しい制度について考える。 【キーワード】 裁判と民主主義、陪審制度、参審制度、裁判員制度、	広渡清吾	広渡清吾
7	市民社会における行政	行政は、法律に基づいて市民のために公共的な活動を行うものであるが、しばしば市民に優越する1つの権力のように扱われ、振る舞っている。そこには、戦前来の「お上」的行政観が残存している。近年では、市民と行政のパートナーシップが強調されだした。このような状況を検討し、市民と行政の関係について考える。 【キーワード】 行政の法律適合性、行政訴訟、行政手続法、情報公開法	広渡清吾	広渡清吾
8	市民と地方自治	地方自治制度は、日本国憲法によって導入されたものである。地方自治における市民と行政の関係は、より直接的であり、協働して地域を形成するという側面が次第に重要になってきている。市民のボランティア組織の役割が期待されている。地方自治の意義と制度を検討し、そこにおける市民と行政の関係を考える。 【キーワード】 地方公共団体、地方分権、NPO，市町村合併、市民と行政の協働	広渡清吾	広渡清吾
9	市民社会と企業	企業は市民社会における経済活動の担い手である。多くの市民は、企業で従業員として働く。現代の企業は、会社の形式をとることが普通であり、日本ではほとんどが株式会社である。経済活動の担い手であり、市民の働く場所である、株式会社としての企業について考える。 【キーワード】 株式会社、株主、取締役、従業員、社員、経営参加	広渡清吾	広渡清吾
10	市民と労働者	労働者は使用者に対して実質上、従属的な関係に立たされる。そこで労働者を使用者と対等な立場にするために労働基本権が与えられ、労働法が整備されている。近年の労働法制の改革を検討しながら、労働者の権利と労働法の役割について考える。 【キーワード】 労働三権、労働組合、労働時間、正社員と非正社員	広渡清吾	広渡清吾

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	市民社会と消費者	市民は、自給自足をしないかぎり、消費者としてモノやサービスを購入する。購入するモノ・サービスの安全性、品質や価格などをめぐって消費者と事業者の間には様々な紛争が生じうるが、そこでは消費者が弱い立場に置かれている。消費者をめぐる問題と法制度について検討する。 【キーワード】 消費者の権利、消費者契約、消費者団体、約款	広渡清吾	広渡清吾
12	市民社会と外国人	日本の市民社会は、日本国籍をもつ市民のみならず、外国籍をもつ市民も居住している。外国人である市民は、滞在の目的や期間などを異にするが、日本国籍者である日本国民と区別される法的に限定された地位を与えられる。外国人市民の状況と法的地位、その問題性について考えてみる。 【キーワード】 国籍、帰化、在留資格、外国人登録、永住者、移民	広渡清吾	広渡清吾
13	市民社会と女性	市民社会の市民は、自由で平等とされるが、実際には様々な差別が存在する。その中でもっと基本的な問題は、男女の差別である。日本の歴史の中で、男女の平等が認められたのは、やっと日本国憲法によってであった。男女平等をめぐる問題と法の対応を考える。 【キーワード】 雇用機会均等、性別分業、セクシュアルハラスメント、男女共同参画	広渡清吾	広渡清吾
14	市民社会と家族	家族は、市民の生活の基礎単位であるが、その役割は男女の関係の社会的あり方に規定されている。日本の家族法は、戦後改革で根本的に変えられるが、それ以降大きな変化なしに現在に至っており、改革の必要性が高まっている。婚姻制度を中心にこの問題を考える。 【キーワード】 離婚、破綻主義、夫婦別姓、非嫡出子の差別、少子化	広渡清吾	広渡清吾
15	市民社会と平和	市民社会の平和と安全は、市民社会にとっての最高の目標である。日本国憲法は、戦争の放棄および戦力の不保持を規定し、平和確保への道筋を示しているが、その改正を求める意見も強まっている。あらためて憲法の平和のための道筋について考える。 キーワード 戦争放棄、戦争責任、自衛権、日米安保条約、PKO	広渡清吾	広渡清吾

＝　日本国憲法（‘０５）＝（TV）

〔主任講師：　大石　眞（京都大学大学院教授）〕

全体のねらい

比較憲法史や憲法の一般理論などの成果を踏まえつつ（１～３）、現行の日本国憲法が定めている統治構造（４～９）と権利保障（１０～15）について、主要な論点を取り上げながら検討を加えることを通して、憲法に対する理解をより深めることができるよう努めたい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	憲法の考え方	憲法の意味やそのあり方について概説する。すなわち、憲法の概念（実質的意味の憲法・形式的意味の憲法・立憲的意味の憲法）、その法源（憲法典・憲法附属法・憲法判例）、そして憲法解釈の方法などについて説明する。	大石　眞（京都大学大学院教授）	大石　眞（京都大学大学院教授）
2	明治立憲制の成立と運用	かつて公式に帝国憲法と略称され、今日一般に明治憲法といわれる大日本帝国憲法は、東洋で初めて制定された憲法典である。明治立憲制はこれを中心に成立するが、ここではその制定経緯や特色を明らかにし、実際の運用における問題点なども検討する。	同　上	同　上
3	現行憲法の制定と基本原理	ポツダム宣言の受諾に始まり、占領管理体制の下で進められた現行の日本国憲法の制定経過をたどり、その特色を浮き彫りにするとともに、基本原理といわれるものと憲法改正問題との関係などを検討する。	同　上	同　上
4	半直接民主制－国民と国会	日本国憲法の第一の特色を「半直接民主制」とみる立場から、国民と国会との関係を明らかにする。そのため、国民主権や参政権の内容をみた後、公民団（有権者団）の構成原理、国民発案・国民表決などの意義、具体的な国政選挙のあり方、政党の位置づけなどを検討する。	同　上	同　上
5	議院内閣制（１）－国　会	現行憲法の第二の特色を「合理化された議院内閣制」とみる立場から、国会と政府との関係を明らかにする。まず、両議院の組織や両院制のあり方について検討を加えるとともに、その立法・財政・政府統制などの権能や国会両議院の手続などを取り扱う。	同　上	同　上
6	議院内閣制（２）－天皇と内閣	政府を形づくる天皇と内閣の地位・権能・手続を概観する。具体的に言えば、皇位継承法や天皇の国事行為をめぐる問題点を探るとともに、内閣の構成（内閣総理大臣と閣僚）と権限（行政組織統轄権・総合調整機能など）について検討を加える。	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
7	司法審査制 －政治と裁判	現行憲法の第三の特色を「アメリカ型法の支配」とみる立場から、国会・内閣などの政治部門と司法裁判所との関係を明らかにする。そのため、司法組織の概要を説明した後、司法権の意味と限界、合憲性審査制度のあり方などを検討する。	同　上	同　上
8	財政民主主義 －国家と財政	財政立憲主義ともいわれる財政民主主義の原則を形づくる憲法規定の内容を概説する。ここでは、租税制度・予算制度をめぐる問題点を中心的に取り上げるが、財政作用に対する憲法上の制約などについても検討する。	大石　眞	大石　眞
9	地方自治 －国と地方自治体	地方自治の原理と構造について検討する。すなわち、地方分権の理念、地方自治体の組織と機関、国の法令と条例との関係といった伝統的な論点に加えて、自治事務と法定受託事務、地方自治体に対する国の関与のあり方といった最近の論点を検討する。	同　上	同　上
10	人権と権利保障	人権・基本権・基本的人権といったさまざまな観念を整理した後、権利主体、権利保障の方法・関係・限界といった権利保障に関する通則を検討するとともに、国際人権保障のしくみや人権条約などについて概説する。	同　上	同　上
11	包括的権利	現行憲法13条が包括的に定めている幸福追求権及び適正手続保障の具体的内容について検討するとともに、いろいろな場面で問題となる憲法14条が定めている平等原則のもつ意味や効果について、最高裁判所の主要な憲法判例を紹介しつつ、考察する。	同　上	同　上
12	人身の自由と 私生活の保護	いろいろな権利や自由の中で、最も基本的な権利に位置づけられる人身の自由を確保するための基本原理と人身拘束の典型的な場面に対する制約を意味する「憲法的刑事手続」の考え方を検討するとともに、私的生活を形づくる居住の自由と住居の不可侵、通信の秘密などについて検討を加える。	同　上	同　上
13	精神的自由	学問・教育といった人格形成に関する自由、宗教的自由、表現や放送といった情報に関する自由、そして集会・結社といった集団行動に関する自由について、主要な論点に着目し、最高裁の憲法判例を踏まえつつ、検討する。	同　上	同　上
14	経済的自由	職業の選択、財産権の行使、契約といった生活営為のための諸活動を検討するとともに、こうした経済活動に対する制約を予定している憲法規定（労働三権など）のもつ意味についても吟味する。	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
15	国務請求権	ここでは、国民が国家の不作為を求める自由権の保障とは異なって、国家の積極的な作為を求める場面を対象とする。すなわち、裁判請求権のような伝統的な国務請求権や、生存権などのように比較的新しい請求権などの概要について検討する。	同上	同上

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	共通科目（社会系）	科目ｺｰﾄﾞ	1542303	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 社会と知的財産 （’０８）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：妹尾　堅一郎（東京大学客員教授）〕

〔主任講師（現職名）：生越　由美　（東京理科大学教授）〕

講義概要

21世紀の情報社会(知識社会)における「知的財産」の意味を考え、工業社会とは異なる各産業や経営モデルにおける「知的財産」の現状と課題を概観する。また「創造」「保護」「活用」からなる知的創造サイクルを早く・大きく・強く回すための知財マネジメントのポイントを理解する。ただし、ここでいう知的財産とは、特許権、実用新案権、意匠権、商標権などの「産業財産権」を中心とするが、著作権、育成者権、不正競争防止法に基づく権利なども含む（著作権法については別科目を参照されたい）。

全15回の講義を通じて、前半においては、情報社会における「知的財産」の意味、現状と課題や政策における知的財産の役割に関する最低限必要な知識について理解する。後半においては、知財マネジメントについての基本的な考え方を学ぶ。修了後の受講生は、実生活や仕事における知的財産に関する一般知識を修得すると共に、新聞・雑誌・TV等の知的財産に関する報道等について概要を把握できるようになる。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	知的財産とは何か	日本は、2002年2月4日の小泉首相の施政方針演説以来、「工業社会」に誕生した知財制度を「情報社会・知識社会」に適合させるべく大改革を行っているところである。国家の産業競争力の基盤となると考えられている「知的財産」とは何か。知財政策における国会、与党・野党の会合、内閣官房などの中央省庁の役割を学ぶことにより、知的財産を支える国の仕組みの概要を理解する。 【キーワード】 知的財産、知的財産基本法、産業競争力、知財立国、知財改革、知財政策、国会、知的財産戦略本部、中央省庁	生越　由美（東京理科大学教授）	生越　由美（東京理科大学教授）
2	知財制度の概要	人間の知的活動から生み出された独創的な成果を総称して知的財産という。研究や製造現場から生まれる「発明」にはじまり、アニメや音楽、映画といった「著作物」、そして企業の持つ「経営・製造ノウハウ」など、いわば「知的な汗の結晶」である。 これらの権利がどのような要件を満たす場合に保護すされるか、また取り消されるかの概観を理解する。 【キーワード】 特許権、実用新案権、意匠権、商標権、著作権、育成者権、不正競争防止法にかかる権利、知的財産高等裁判所	生越　由美（東京理科大学教授）	生越　由美（東京理科大学教授）
3	第一次産業と知的財産	農作物に関するバイオ特許権、商標権、育成者権などの実例を学ぶ。農林水産業が推進している税関で種苗法違反の農作物を止めるDNA鑑別法に対する技術開発の現状を認識し、イチゴやさくらんぼの農作物の苗の流出問題などを通して、農林水産業を支えている知的財産の概要を理解する。また、特許権と育成者権の違いについても概略を学ぶ。 【キーワード】 バイオ特許権、育成者権、ブランド農作物、DNA鑑定、税関、農林水産省	生越　由美（東京理科大学教授）	生越　由美（東京理科大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	第二次産業と知的財産	日本を支える工業における知的財産の役割と問題点を理解する。自動車メーカー、精密機械メーカー、家電メーカーなどにおける特許権、実用新案権、意匠権、商標権の役割と営業秘密を守るための取り組みの現状と課題について学ぶ。 【キーワード】 特許権、実用新案権、意匠権、商標権、営業秘密、特許庁	生越　由美（東京理科大学教授）	生越　由美（東京理科大学教授）
5	第三次産業と知財マネジメント	日本は「製造業」単発から「製造業」と「サービス産業」の「双発エンジン」へと切り替えを目指している。サービス産業とは、農林水産業、工業以外の産業と定義されているが、具体的には金融、医療、福祉、司法、観光、エンターテイメント、教育などである。そこで、これらの分野における知的財産の現状と課題と取り組みについて学ぶ。 【キーワード】 ビジネスモデル特許、医療方法特許、電子商取引、サービス産業、経済産業省	生越　由美（東京理科大学教授）	生越　由美（東京理科大学教授）
6	文化産業(歴史資源)と知的財産	「クールジャパン」という言葉が普及したように、「文化」が産業創出、地域振興、企業経営に影響を与えることが理解されてきた。これは、「文化資本」が「社会資本」や「経済資本」としての側面を有するからである。今、「文化資本」である「歴史資源」、「地域資源」、「コンテンツ資源」を活用することが求められている。これらの時代背景と課題を、知的財産の視座から考える。 【キーワード】 文化産業、伝統文化、世界遺産、国宝、美術館、博物館、万国博覧会、文部科学省・文化庁	生越　由美（東京理科大学教授）	生越　由美（東京理科大学教授）
7	文化産業(地域資源)と知的財産	地域で特色のある農作物、酒、焼酎、伝統工芸品、伝統技術など「地域資源」から、知的財産を創造、保護、活用することが重要である。これらは単に物が売れて経済状況が好転するということに止まらず、地域の活性化、観光にも好影響が期待される。成功した各地域の取り組みを通じて、地域資源と知的財産の関係について学ぶ。 【キーワード】 地域ブランド、伝統工芸品、地域の特産品、地域団体商標、産業遺産、地方自治体、財務省・国税庁	生越　由美（東京理科大学教授）	生越　由美（東京理科大学教授）
8	文化産業(コンテンツ資源)と知的財産	アニメなど、日本のコンテンツは競争力が強いといわれているがまだまだ十分に生かされていない。アニメ以外でも、日本の伝統文化や祭りの価値がまだまだ知られていない。日本の「歴史・コンテンツ資源」と知的財産の関係を見ることにより、文化産業の広がりについて学ぶ。また、物を売る時代から時間を売る時代に変化している。観光立国の観点から知的財産の生かし方を考える。 【キーワード】 クールジャパン、コンテンツ産業、アニメ、映画・デジタルシネマ、無形文化遺産、オペラ、演劇、観光立国、総務省	生越　由美（東京理科大学教授）	生越　由美（東京理科大学教授）
9	情報社会・知識社会の到来と知的財産	後半は、経営における知財に焦点を合わせていく。まず、歴史的マクロの観点から、知的財産が21世紀の情報社会にとって重要な理由を探る。人類は、100年毎に科学技術の概念の発見を起点として社会イノベーションを起こす。19世紀の「物質」、20世紀の「エネルギー」に続き、21世紀は「情報」を重視する社会になる。情報の中で最も価値ある「知」の代表が「技術」と「ブランド」、つまり「知的財産」なのである。 【キーワード】 工業社会、情報社会、知識社会、技術、ブランド	妹尾　堅一郎（東京大学客員教授）	妹尾　堅一郎（東京大学客員教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	技術経営と知財マネジメント	産業ミドルの観点から、工業社会から情報社会への移行に伴って経営モデルが有形資産重視経営から無形資産（知的財産や人財）重視経営へと変化していくことを認識する。一方、事業の新陳代謝が活発にならないと産業生態系は枯渇する。そこで特に製造業における技術経営と知財マネジメントが両輪となって産業を活性化していかなければならない。 【キーワード】 技術経営、知財マネジメント、有形資産経営、無形資産経営	妹尾　堅一郎（東京大学客員教授）	妹尾　堅一郎（東京大学客員教授）
11	経営と知的財産（その1）	企業ミクロの観点から、経営やビジネスにおける知的財産の役割を検討する。事業戦略にどう知財を織り込むか。特許一つで企業の存亡が決まることもある。あるいはブランドがマーケティングの中核を占めることもこれまた少なくない。とくに、大企業がどのように知的財産を戦略的にあつかっているかを事例を中心に見ていく。 【キーワード】 大企業の事業戦略と知財戦略	妹尾　堅一郎（東京大学客員教授）	妹尾　堅一郎（東京大学客員教授）
12	経営と知的財産（その2）	前回に引き続き、企業の事業戦略と知財戦略の関係を事例を中心に見ていく。特に、世界的中堅・中小企業が知的財産を戦略的に活用している事例を中心にみていく。 【キーワード】 中堅・中小企業の事業戦略	妹尾　堅一郎（東京大学客員教授）	妹尾　堅一郎（東京大学客員教授）
13	経営と知的財産（その3）	前回に引き続き、企業の経営における知的財産をみていく。特に近年のイシューとして、企業の職務発明がどう扱われるているかが日本企業の課題となっている点を概観する。さらに、産学連携をはじめとした大学や研究機関との技術移転に伴う知財の扱い等についても触れる。 【キーワード】 職務発明、産学連携、技術移転	妹尾　堅一郎（東京大学客員教授）	妹尾　堅一郎（東京大学客員教授）
14	イノベーションと知的財産	イノベーションとは従来モデル（仕組み、仕掛け、仕切り）を新規モデルに替えてしまうことを言う。米国をはじめ先進諸国や企業はイノベーションを軸とした競争力強化に邁進を始めている。成長と発展、イノベーションと生産性、標準化とオープン化等に関する議論を整理し、特に技術起点型のイノベーションにおける知的財産の役割を吟味する。 【キーワード】 成長、発展、イノベーション、生産性、標準化	妹尾　堅一郎（東京大学客員教授）	妹尾　堅一郎（東京大学客員教授）
15	知財人財の育成	知財立国を推進するためには、知財の創出・保護権利化・活用を進める人財が必須となる。知財の専門家である中核人財ばかりでなく、周辺の人財のプロ化や、経営人財への知財教育等が求められる。さらに一般の人々や将来を担う子供たちへの知財教育による「知財民度」の向上（オリジナリティの尊重）が急務だ。最終回では、知財人財育成の問題と課題を概観し、全体のまとめを行う。 【キーワード】 知財人財、知財関連人財、知財民度	妹尾　堅一郎（東京大学客員教授）	妹尾　堅一郎（東京大学客員教授）

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	共通科目（社会系）	科目コード	1123807	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　政治学入門（‘07）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：小林　良彰（慶應義塾大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：河野　武司（慶應義塾大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：山岡　龍一（放送大学准教授）　〕

講義概要

「政治」を理解するうえで不可欠の、基本的な政治学的概念や理論について紹介することにしたい。特に、政治における重要なテーマである「民主主義」を軸にしながら、政治思想における重要な概念や民主政治を支える様々な制度、マスメディアや利益団体といった中間集団、選挙制度と投票参加・投票行動について説明していきたい。

授業の目標

履修者が、一市民として「政治」について自律的に理解し、判断できるようになるうえで必要な知識と考え方を紹介したい。さらには、政治学のより専門的な部門や、他の社会科学的学問を学習するうえで必要となる、基本的知識を提供することにしたい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	政治とは何か	「政治とは何か」という問いを、「政治学とはどのような営みなのか」という問いを出発点として提示する。政治学の方法論的特性に関して簡単に紹介し、探究の前提でありかつ目標である「政治的なるもの」の基本的な意味を、共通善、権力、正当性といった論点を中心に概観する。	山岡龍一（放送大学准教授）	山岡龍一（放送大学准教授）
2	政治の正当性Ⅰ－民主主義とは何か	「政治はいかにあるべきか」という規範的な問いを、政治を正当化する原理の考察によって考える。現代において最も支配的な政治の正当性原理である民主主義の思想を、歴史的変遷をたどりつつ、その主要な要素を明らかにすることで検討する。その上で、現代民主主義理論の展開についても紹介する。	山岡龍一（放送大学准教授）	山岡龍一（放送大学准教授）
3	政治の正当性Ⅱ－自由主義とは何か	もう一つの支配的な政治の正当性原理である自由主義の思想を、「自由」概念の解釈を軸に、歴史的展開をふまえて検討する。さらに、ロールズを中心とする現代自由主義理論とその批判の展開を紹介し、現代自由民主主義の課題について考察する。	山岡龍一（放送大学准教授）	山岡龍一（放送大学准教授）
4	政治の空間	我々が政治現象を総体的に捉える際、「政治的なるもの」の単位を不可避的に前提とする。この単位の変遷を、「政治的共同体」の現実と思想に関する歴史的類型を使って説明する。主として近代国民国家の形成と意義を考察し、それに対する現代的な挑戦として、市民社会論やグローバリゼーション論を取り上げる。	山岡龍一（放送大学准教授）	山岡龍一（放送大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	民主政治を支える諸制度	今日民主制の現実的形態としての代議制民主主義は、選挙と政党とを駆動させる両輪の輪としているが、この２つ以外にも、統治を委された者が恣意的に権力を行使し得ないように、様々な制度的仕組みを用意している。権力の分立の仕組みや情報公開、オンブズマン制度などである。ここではそのような民主制を支える制度的仕組みについて概観する。	河野武司（慶應義塾大学教授）	河野武司（慶應義塾大学教授）
6	政治過程における利益団体	ほとんどの市民の政治参加は選挙における投票によってなされるが、別の参加の形態として利益団体政治がある。一部の私的・特殊利益が組織化された集団としての政治参加に他ならないが、このような利益団体の存在は代議制民主主義にとってプラスの側面もあるがマイナスの側面もある。ここではそのような利益団体に関する理論を紹介する。	河野武司（慶應義塾大学教授）	河野武司（慶應義塾大学教授）
7	政治過程におけるマスメディア	新聞やテレビをはじめとするマスメディアには、政府の行動を監視する番犬としての役割を果たすことが期待されている。一方でそのようなマスメディアは、政治過程において独立した存在としての市民の思考や行動に大きな影響を及ぼすという単なる番犬以上の役割も果たしている。ここではマスメディアの政治的機能や影響力に関する議論を概観する。	河野武司（慶應義塾大学教授）	河野武司（慶應義塾大学教授）
8	政治過程における新しい中間集団	かつて政治過程において、いわゆる普通の市民の役割は選挙を通した代表の選出に留まっていた。しかし今日、市民社会と呼ばれる領域において、われわれと同じ普通の市民が、選挙に留まらず、国家と社会をつなぐ新しい架け橋を作りつつある。公共利益団体、ＮＰＯ、ＮＧＯなどである。ここでは、上記のような新しい中間集団の出現によって新たな展開を迎えている現代の市民社会の動態を理解する。	河野武司（慶應義塾大学教授）	河野武司（慶應義塾大学教授）
9	国家と社会の架け橋としての政党	これまで選挙と並んで代議制民主主義を駆動させる両輪の輪の一つとされ、国家と社会の架け橋という役割を担うことが期待されていた政党は、今日ではその機能不全から様々な問題点を抱えることになった。ここではそのような政党の歴史的発展の経緯、機能、分類、及び政党システムについて概観した後、その問題点を考察する。	河野武司（慶應義塾大学教授）	河野武司（慶應義塾大学教授）
10	多数決原理と民主主義－どうしたら多様な民意から社会的決定を生み出せるのか？－	民主主義社会においては、多様な個々人の意見から一つの社会的決定を作り上げなくてはならない場合があり、そのための方法として多数決原理を採用している社会が多い。しかし、多数決民主主義を確保するためには、この多数決原理の運用にあたって様々な慎重な配慮をしなくてはならない問題があることについて考察することにしたい。	小林良彰（慶應義塾大学教授）	小林良彰（慶應義塾大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	選挙制度と民主主義－どうしたら民意を反映することができるのか？－	有権者の意見を正しく政治に反映するために選挙制度がある。どのような選挙制度が民意を反映するのかを考えるために、選挙制度の分類を説明し、世界の主な国の選挙制度を紹介することで、各国が民意を反映させるためにどのような工夫をしているのかを考えることにしたい。	小林良彰（慶應義塾大学教授）	小林良彰（慶應義塾大学教授）
12	投票参加と棄権－人は何故、投票参加するのか？また何故、棄権するのか？－	折角、自分の意見を政治に付託する機会として選挙があっても、投票に参加しないで棄権してしまう有権者がいる。そこで、有権者の投票参加を促進する要因と阻害する要因について考察したい。また全国の自治体が行っている投票率を向上するための試みについて紹介することにしたい。	小林良彰（慶應義塾大学教授）	小林良彰（慶應義塾大学教授）
13	投票行動の決定要因－人は何によって投票を決めているのか？－	選挙に際して、有権者はどのような要因によって自分の投票行動を決めているのだろうか。また、そうした要因は時代とともにどのように変化しているのだろうか。これまでの政治学におけるコロンビア学派やミシガン学派などの研究を紹介しながら、社会的属性や政党支持、争点態度、業績評価などが投票行動の決定に与える影響について考えることにしたい。	小林良彰（慶應義塾大学教授）	小林良彰（慶應義塾大学教授）
14	地方自治と民主主義－地方自治体ではどのように民意が反映しているのか？－	民主主義は、国政だけでなく地方自治体においても重要な課題である。そこで、住民の民意がどのように地方自治体における行政に反映することができるのかを考えることにしたい。また首長と地方議会の関係や三位一体改革などの地方分権改革についても紹介することにしたい。	小林良彰（慶應義塾大学教授）	小林良彰（慶應義塾大学教授）
15	政治と非政治のあいだ	「政治的なるもの」とそうでないものを区別する境界線が、現在揺らいでいる。自由民主主義が前提としてきた「公と私」の区別に対する種々の挑戦を、ジェンダー、宗教、自然環境といったテーマをつうじて検討する。最後に「〈非政治〉の政治化」という観点から、現代政治の課題を考える。	山岡龍一（放送大学准教授）	山岡龍一（放送大学准教授）

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	共通科目（社会系）	科目コード	1128515	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　経済社会の考え方（‘07）＝（R）

〔主任講師（現職名）：坂井　素思（放送大学准教授）〕

講義概要

経済社会は変化の激しい社会である。このような社会のなかで、人びとはどのような考えを持ち、これらの考え方をどのように使っているのだろうか。わたしたちの働く場で、生活する場で、さらには公共の場で日々変化し作用している経済学の考え方を集めて比較検討してみたい。なぜ働くのか、なぜ生産を行うのか、なぜ消費するのかなどのような、日常に存在する思想を振りかえり、将来の経済生活を考える礎を提供したい。

授業の目標

経済社会の成り立ちと考え方について、人間関係の経済組織化という視点から把握する。経済は、物質と人間との間の営みであると同時に、人と人の連鎖的な関係であるという社会特有の性格をもっている。日常見られるわたしたちの経済活動が人間間の関係としてあらわれるのはなぜか、という点をこの講義では追究したい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	経済社会はなぜ変化するのか―どこまで広がりどこまで深まるのか	経済社会とはどのような社会なのか。変化に次ぐ変化をみせるなかで、「経済社会の考え方」とはどのような性質のものなのか。近代経済はどのような社会的基礎のもとに形成されてきたのかについて考え、さらにシュムペーターが指摘するようなヴィジョンなどの近代社会における経済的思考の広がりと深化の本質をみていく。 キーワード 理論と実践、実行文化と思考文化、ヴィジョン、イデオロギー、思考実験、思考習慣、時間効果、交換、互酬、経験と思考	坂井素思（放送大学准教授）	坂井素思（放送大学准教授）
2	消費者はどれだけ満足できるか―快楽は幸福を導くか	わたしたちが日常の経済生活のなかで、よく利用している考え方に「功利（Utility）」がある。楽しいことは良いことである、という論理であり、享楽的な行動を正当化するときにはつねに用いられる。たとえば、消費者は、商品・サービスから快楽を得ようと物を購入するが、そのことでどれだけ満足するのであろうか。 わたしたちの生活のなかで、ある行為は良いこと（善）であり、他のある行為は悪いこと（邪）である、という判断が求められる。このときに、最も使われる考え方のひとつが、功利思想である。この功利という考え方は経済社会の特徴を典型的に現わしている。はじめの段階で、この考え方が現代社会でどの程度有効であるのか取り上げてみたい。 キーワード 快楽主義、禁欲主義、功利主義、幸福、苦痛、便宜、効用、社会調和	坂井素思（放送大学准教授）	坂井素思（放送大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
3	商業が結ぶ人間関係とはどのようなものか	分業と交換がもたらす経済関係について、この章で考える。わたしたちの現代社会では、自給自足の社会とは異なり、自分の労働によって生み出された生産物だけでは、自分の必要とする生活品のごくわずかしか満たされないことを知っている。ほとんどの生活品は、他者の労働によって生み出された生産物を利用している。つまり、商業社会という仕組を利用しなければ、近代人は自分の生活が成り立たない。このような状況は、なぜ成立したのか。ここで、分業という仕組は、なぜ必要なのか。商業社会が形成される根本的な問題について、A.スミスを中心にして、現代にいたるまで続いている関係をこの章で考えていきたい。 キーワード 分業、交換、産業、商業、重農主義、重商主義、商業社会	坂井素思（放送大学准教授）	坂井素思（放送大学准教授）
4	市場とはなにか	経済は、どのように調整されるのだろうか。この調整の過程で、経済組織としての「市場メカニズム」が形成され、財貨の調整と同時に、需要者と供給者との間で社会的関係が結びつけられ、経済全体が秩序づけられることになる。この経済社会特有の考え方について考える。 市場というもののイメージには、どのようなものがあるのだろうか。最も具体的なイメージは、地方都市の道筋で商われている「朝市」のようなものかもしれない。最も抽象度の高いイメージは、L・ワルラスの「一般均衡」という考え方であろう。 市場では生産と消費を取引によって調整するには、たいへん不確実が伴うことも事実である。それにもかかわらず、これらの不確実な状態を乗り越えるためにこそ、人間は経済関係を結び直し、市場を形成してきたといえる。このような市場という仕組には、どのような特徴があるだろうか。この章では、市場を特徴付ける考え方について検討したい。 キーワード 市場、計画、調整メカニズム、需給一致、価格情報、自動調節、競争原理、分権、リスクと不確実性	坂井素思（放送大学准教授）	坂井素思（放送大学准教授）
5	なぜ人は働くのか	今日ほど、働くことが問われている時代はない。なぜ労働を行うのか。人びとは、労働を行うなかで組織へ参加し、社会を形成する。ジョン・ロックをはじめとする労働論を展望しながら、労働が経済社会の中で持つ意味を考える。「勤労という考え方」がいかに経済社会を形成していくのかをみたい。 人は働くことで、個人生活から出て、社会との結びつきを得ることになるが、そこで人びとを働く気にさせるものは何か、という点が重要である。勤労の成果をその本人の所有物にする、という考え方が	坂井素思（放送大学准教授）	坂井素思（放送大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
		起こってきたのが、近代からである。この結果、労働インセンティブは、利得観念や所有と関係を持つようになった。 働くことがこれほど問われているのはなぜだろうか。1980年代～90年代にかけて、労働とりわけ雇用の内容が多くの場面で変わってきた。この変化は、現在から将来にわたっての勤労社会というものを変質させる大きな要因となっている。現代において働くことは、何を意味しているのか、そしてどのようにわたしたちは働くのかについて考えたい。 キーワード 勤労、労働インセンティブ、帰属本位、業績本位、所有権、共有権、利得観念、世俗内禁欲、労働力商品		
6	生産は何を目指すのか	現代の経済社会のなかで、経済的な人間関係を拡大するうえで大きな機会を作り出しているのは、まぎれもなく「生産」のなかで取り結ばれる関係である。自給自足経済に始まる生産の変化は、効率性を最大限追求する「大量生産方式」を生み出すことになるが、この生産における経済関係で見られる考え方について、この章でみていきたい。 近代になって、生産の目的に、より多くの生産を行うことという考え方が加わった。生産の増大と生産性の高いことが望まれるようになるが、この中で19世紀から20世紀にかけて特別に追求された生産の考え方は、「規模の経済」という大量生産を目指す方式であった。 キーワード 規模の経済、範囲の経済、大量生産、収穫逓減、科学的管理法、動作研究、フォーディズム、適正規模	坂井素思(放送大学准教授)	坂井素思(放送大学准教授)
7	会社はどこまで人びとを支配できるのか	経済社会のなかでは、人が他者を支配し、また他者に支配されるという関係が見られるが、このとき利用されるのがヒエラルヒー(階層制)という考え方である。この章では、ウェーバーの「支配」という考え方とその後の展開を見ていきたい。 上下関係を原理とするヒエラルヒーは過去の遺物のように考えられる傾向があるにもかかわらず、現在でも経済社会を動かすエンジンの一部を形成している。とりわけ、組織的な動きを得意とする企業内では、このヒエラルヒーの考え方については盛衰があるものの、今日でも重要視され続けてきている。 なぜ近代においても、階層制が存在するのか、また階層制にはどのような限界が存在するのかなどの点について考えたい。じつは、このヒエラルヒーの考え方に変化が起こってきたことが、現代の資本主義の変質をも引き起こす原因にもなった。バーリとミーンズなどによって指摘された「所有と経営の分	坂井素思(放送大学准教授)	坂井素思(放送大学准教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
		離」現象などの議論についても検討を行いたい。 キーワード 支配、ヒエラルヒー、階層制、上下関係、権力、官僚制、専門性、動機づけ、信頼、プリンシパル、エージェント、所有と経営の分離		
8	組織社会はどのように考えられてきたのか	組織社会がなぜ生ずるのかについて、この章でみる。現代の企業組織の基礎に存在する「組織の考え方」を検討したい。そして、それが社会的な連関をどのようにして保持するのかについても考えてみたい。 組織全体を生き生きとした活動主体にするには、上下関係を合理的に設定すればよいというだけではない。貢献意欲、労働意欲、動機付けなどのような、いわば「機械のなかの幽霊」と呼ぶことのできるものの存在がここで問われている。これらの組織という考え方について、この章で考えてみたい。 キーワード 組織社会、有機体、貢献意欲、共通目的、協働、士気、取引費用	坂井素思（放送大学准教授）	坂井素思（放送大学准教授）
9	貨幣とはなにか	貨幣はどのような起源を持つのか、なぜ人は貨幣社会を形成するのだろうか。貨幣が社会のなかで担っている役割について考える。貨幣使用が他者の存在を意識しなければありえなかった現象であるという視点から考えると、貨幣は経済社会の結節点として重要な働きを行っている。 紙幣や硬貨の持ち主を次々にたどっていけばわかるように、その源泉は中央銀行の債務となって最後には消えることになる。また、そもそもその紙幣や硬貨でさえ、貨幣全体のわずかな一部を構成しているものでしかなく、貨幣全体をあらわすものではない。信用創造によって生み出された貨幣のように、紙や金属のような実体をもたない貨幣の方が、現代の経済社会ではより大きな力を持っている。しかしそのことは、貨幣が将来の生産可能性という、たいへん不確かなものなどによって成り立っていることを意味している。 キーワード 交換機能、支払機能、貯蔵機能、価値尺度機能、販売可能性、流動性、信頼性、信用	坂井素思（放送大学准教授）	坂井素思（放送大学准教授）
10	金融は人びとを幸福にするか	現代経済社会の特徴は金融という特性に現れているといっても過言ではないほど、生活のなかに金融システムが浸透している。金融は、はたして経済社会をどのような方向に導いていこうとしているのか。特に注目したいのは、将来の不確実性や危険（リスク）に対して、金融がいかに対処するのか、とい	坂井素思（放送大学准教授）	坂井素思（放送大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
		う観点である。高利論争など、利子の持つ意味などにはじまり、今日の金融社会のあり方について、歴史を振り返りながら、利得と利潤という考え方についてみていく。 キーワード 利得と利潤、家政術と貨殖術、ウズラ、リスクとリターン、企業欲、新結合、創造的破壊、企業結合		
11	経済社会ではどのような分配が行われてきたか	わたしたちが経済生活を行ううえで、「公正」な生活とはどのような状態のことを言うのであろうか。経済的正義という考え方がありうるならば、それは何を規準とするか、などについて、この章では考えてみたい。 成果主義、能力主義などの競争的な分配に対して、平等主義、社会民主主義的な分配法則についてもみる。経済的分配の考え方を整理し、さらに、ロールズなどの分配論の根拠となるような学説を考察する。 キーワード 福祉、配分的正義、矯正的正義、分配の公正、貢献原則、必要原則、メリットクラシー、パレート最適、格差原理	坂井素思(放送大学准教授)	坂井素思(放送大学准教授)
12	政府はどれだけ福祉を与えることができるか	政府は人びとの経済活動にどのような影響を与えるか。経済社会にとって、公共的な資源配分とはなにか。この章では、政府の経済的な役割について整理検討していくことにする。 また、政府活動は経済システムのなかで、どのように位置づけられるか。政府活動に現れる人と人の関係とはどのようなものか。福祉国家・福祉政策をめぐる経済システムのモデルを取り上げ、比較検討したい。そして、最も基本的なところでの政府活動の特徴を解明していくことにする。 キーワード 政府、ネットワーク組織、公共財、公共事業、公企業、規制、社会契約、黙約、アソシエーションとコミュニティ、一般意思、一般ルール	坂井素思(放送大学准教授)	坂井素思(放送大学准教授)
13	経済社会は環境を維持できるか	今日の経済社会は大きな広がりをもっている。かつてのように、個人は、物質的な幸福を追求するだけでは、経済社会に生きる妥当性は得られない。経済社会でも、「市場以外の取引」の重要性が認識されてきている。この章では、外部性の考え方を見るなかで、「コモンズの悲劇」や「コースの定理」などのエピソードに注目したい。今日の環境思想を辿りながら、現代の経済社会に見られる「環境問題」についての考え方を探ることにする。	坂井素思(放送大学准教授)	坂井素思(放送大学准教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
		キーワード 希少性、過剰原則、枯渇性資源、外部性、道徳的危険、コモンズの悲劇、コースの定理		
14	なぜ経済は社会組織を形成するのか	家族・コミュニティなどの社会経済組織がどのようにして社会関係を取り結ぶのかについて、この章では考える。なぜ人びとは社会のなかで集団を形成して、経済的な問題に対処しようとするのだろうか。家族の形成する家計集団や、地域で組織化される社会関係資本の考え方を見るなかで、人びとの間に生成される社会的ネットワークの役割を考察したい。 キーワード 分断、経済の分離、埋め込み、ゲマインシャフト、ゲゼルシャフト、家族、コミュニティ、プーリング、ソーシャル・キャピタル、ネットワーク、互酬性	坂井素思（放送大学准教授）	坂井素思（放送大学准教授）
15	経済社会はなにを目指しているのか	現代の経済社会を動かす要因について、この章で考える。サービス経済社会、情報社会、脱工業社会などの系譜を辿って、批判的に展望する。社会学者ベルなどによって提出されている経済社会の将来像について、比較検討を行う。そのなかで、経済社会があたかも見えざる目的を持っているかのように作用を及ぼす「経済秩序」という視点について、最後に見ておきたい。 キーワード 個人目的、経済社会の目的、経済秩序、機械の中の幽霊、サービス経済化、脱工業化、見えざる手、ネットワーク、不確実性、予期	坂井素思（放送大学准教授）	坂井素思（放送大学准教授）

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	共通科目（社会系）	科目コード	1120700	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　経済学入門　　（’０８）＝　（R）

※この科目は「経済学入門（’04）」の一部改訂科目です。
改訂回は、第12回です。

〔主任講師（現職名）：林　敏彦（放送大学教授）　〕

講義概要

経済学は生まれて230年の比較的若い学問ですが、一方で社会科学の女王と呼ばれるほどの論理的厳密性を追究すると同時に、他方で実社会の問題解決という要請に応えようとしてきました。この講義では現代経済学の基本的な考え方と、その応用の仕方について考えてみましょう。

授業の目標

履修生の皆さんは現実の経済については多くの知識をお持ちですが、この授業では、現象の意味を解釈したり、問題の本質を洞察したりするための「認識の枠組み」についてお話しします。ねらいは、経済学という学問への入門と、日本経済を見る眼を養うことの二つです。この講義のビフォーとアフターでは、世の中を見る眼が変わるかもしれませんから、ご注意下さい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	経済学の考え方	私たちは皆乏しさの中に生きています。お金がありあまっている人でも、許された人生は70万時間にすぎません。経済学はその乏しさの問題を解決しようとして誕生した学問です。では経済学を極めれば実社会で成功するでしょうか。経済学の頭脳とハートについても考えてみましょう。 【キーワード】 経世済民、希少性、選択、市場、価格	林　敏彦（放送大学教授）	林　敏彦（放送大学教授）
2	消費と消費者	経済の主役は消費者です。究極的に消費者を満足させられない経済活動は、消滅する運命にあります。では、消費者は何を求めて、どう行動するのでしょうか。消費者行動には法則性があるのでしょうか。また、大勢の消費者の動きは、市場にどのような情報をもたらすのでしょうか。 【キーワード】 需要法則、限界効用、文化、ネットワーク、道徳的危険	同　上	同　上
3	生産と企業	消費と並んで大切な経済活動は生産です。今の日本では毎日何億種類もの商品が生産され、消費されています。生産活動の担い手は企業ですが、企業は何を求めて、どのような技術を用い、何をどれだけ生産しようとするのでしょうか。企業ではどのようなコストの概念が重要なのでしょうか。 【キーワード】 会社、企業、最大利潤、限界費用、費用関数、独占、企業の社会的責任	同　上	同　上
4	市場の役割	多数の売り手と買い手が相まみえるのが市場です。市場の重要な役割は価格を決めることです。買い手と売り手、あるいは需要と供給の間で、市場価格はどう決まるのでしょうか。単にものの値段を決めるだけの仕組みが、どうして世界中の国が採用する経済システムとなったのでしょうか。 【キーワード】 市場均衡、最適資源配分、社会的余剰、料金規制、公益事業のジレンマ、ネットワーク競争	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	政府の役割	すべてを市場取引にゆだねるだけでは真の豊かさは実現されません。現代の社会では、政府の役割が高まっています。市場の失敗と呼ばれる現象はどのようなものでしょうか。政府はどこまで市場に介入し、あるいは市場に代わって人々のニーズに応えなければならないのでしょうか。 【キーワード】 市場の失敗、外部効果、公共財、分配の公正さ、安定性、政府の失敗	林　敏彦	林　敏彦
6	マクロ経済	個別の登場人物の動きを観察して社会全体を理解しようとするミクロ経済学に対して、国全体の総生産や所得水準の動きに法則性を見いだして社会全体を理解しようとするのがマクロ経済学です。GDP、失業率、国際収支、成長率など、マクロ経済学の考え方を見てみましょう。 【キーワード】 GDP、GNP、貯蓄と投資、消費関数、乗数効果	同　上	同　上
7	お金と金融	お金はものの生産、流通、消費の流れの逆方向に動いています。誰でも知っているはずのお金ですが、それはいったい何なのでしょうか。お金の流れをコントロールする仕組みはどのようなもので、銀行などの金融機関はどのような役割を果たしているのでしょうか。 【キーワード】 円の起源、支払い手段、価値貯蔵、銀行、金融仲介、預金者保護、金融システム、金融政策	同　上	同　上
8	物価の話	さまざまなものの値段の平均値を物価といいます。物価が持続的に上がることはインフレーション、下がることはデフレーションと呼ばれます。なぜ、物価は変動し、物価が変動するとどのような問題が起こるのでしょうか。日本銀行が物価の番人と呼ばれるのはなぜでしょうか。 【キーワード】 インフレ、デフレ、功罪、狂乱物価、バブル、物価の国際比較	同　上	同　上
9	景気の話	経済活動が活発になれば好景気、沈滞すれば不景気と呼ばれます。なぜ景気は変動するのでしょうか。景気の動きをなだらかにするために、政府や日本銀行はどのようなことができるのでしょうか。経済活動が国境を越えて広がった今日、景気対策には何か難しい問題が起こっているのでしょうか。 【キーワード】 景気動向指数、在庫循環、設備投資循環、長期波動、投資の二面性	同　上	同　上
10	日本の経済成長	長期にわたって経済活動が拡大していくことが経済成長です。1960年代から80年代はじめまでの日本の高度成長はなぜ起こったのでしょうか。高成長を可能にした社会的メカニズムの解明と、なぜ私たちは成長したかったのかという成長の社会心理についても考えてみましょう。 【キーワード】 成長と構造変化、高度成長、環境条件、内的条件、成長政策、高速道路の定理	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	バブルと恐慌	経済の累積過程はときにバブルと呼ばれる過熱現象を生みます。有名な1920年代のアメリカのバブルと30年代の大恐慌の顛末について振り返っておきましょう。同じ現象が日本の80年代から90年代以降についても、90年代から2000年代のアメリカ経済にも見られるのでしょうか。 【キーワード】 歴史的バブル、大不況、政策レジーム、平成デフレ	同　上	同　上
12	安全安心を求めて （※改訂回）	1985年の阪神・淡路大震災は、高度に発達した都市経済を直撃しました。市場経済の機能が部分的に麻痺したとき、どのような経済活動が人々の暮らしを支えたのでしょうか。自然災害、人為的災害、社会的災害にどう備え、生活の不安から逃れるためにはどうすればいいでしょうか。本当に安全安心は至高の価値でしょうか。 【キーワード】 リスクとハザードからの自由、不安からの自由、社会保険の考え方、リスクと不安との共存	林　敏彦	林　敏彦
13	世界の中の日本経済	今日企業活動は国境を超えて相互に入り組み、私たちは世界中のものを消費して暮らしています。GDPでは中国は日本を追い越して世界第2位の経済大国になりました。アジア諸国でも高度成長が始まりました。そうした中で、私たちの生活水準を維持するためにはどうすればよいのでしょうか。 【キーワード】 日本経済の貿易構造、経常収支、貿易理論、開放マクロ経済学	同　上	同　上
14	持続可能な開発	水、大気、種の多様性など、地球環境が成長の制約条件になってきました。これまで農業生産や資源の限界を乗り越えてきた人類は、これからも技術進歩によって唯一の地球の制約を乗り越えられるでしょうか。それとも池のメダカから鯨に成長した人類には、新しい考え方が必要なのでしょうか。 【キーワード】 成長の限界、持続可能な開発、グローバルな課題	同　上	同　上
15	幸せの経済学	経済学は乏しさを解消し、物質的に豊になることが個人にとっても社会にとっても幸せの前提条件だと考えてきました。それでは、所得が上昇すれば人々は幸せになるのでしょうか。実は、そうではないようです。経済学入門の最後に、究極の社会生活の目的である幸せの問題を考えてみましょう。 【キーワード】 豊かさ、幸福研究、幸せの経済学	同　上	同　上

＝　２１世紀の社会学（‘０５）＝（TV）

〔主任講師：　船津　　衛（放送大学教授）　〕
〔主任講師：　山田真茂留（早稲田大学教授）　〕
〔主任講師：　浅川　達人（明治学院大学教授）〕

全体のねらい

社会学とはどのような学問なのかを知るために、自我・自己　都市、集団・組織、集合行動、ジェンダー、宗教、情報、災害、高齢者、病い、死などの新しい社会現象について具体的に考察し、そこから、21世紀の社会学の課題を明らかにして、社会学への理解を深めることを目的とする。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	21世紀の社会学とは	21世紀を迎えた現代社会はグローバル化、地球規模の環境破壊、家族の少人数化・高齢化、情報化、また人々の自我の変容など、変化・変動がきわめて著しいものとなっている。このような中での21世紀の社会学の新しいあり方について考察する。	船津　衛（放送大学教授）	船津　衛（放送大学教授）
2	現代社会における自己の諸相	社会学自己論の潮流を、他者の視点を束ねて問題を解決してゆくミードの自己論、脱中心化され状況次第で流動するポストモダンの自己論、そして、流動性を持ちながらも状況を越えた行為を展開しようとする物語自己論などに整理し、その特徴を論じる。	伊藤　智樹（富山大学准教授）	伊藤　智樹（富山大学准教授）
3	都市空間の社会学	現代大都市が経験している社会変動の多くは手で触れ、直接目で見ることもできないが、人々の日常生活に及ぼした影響は痕跡として空間構造に刻み込まれている。都市の空間構造とその変化を可視化する道具として社会地図を用いて、都市社会の構造の変動を考えていく。	浅川　達人（明治学院大学教授）	浅川　達人（明治学院大学教授）
4	集団・組織と新しい関係性	集団・組織の役割は個人主義化が進行している現代社会においても、なお重要性を増している。他方、ネットワークや集合的アイデンティティなど、既存の集団や組織の枠を超え出た現象も見られるようになってきている。このような新しい動きを見据えながら、集団・組織現象の最前線に迫っていく。	山田真茂留（早稲田大学教授）	山田真茂留（早稲田大学教授）
5	集合行動へのアプローチ	パニック、流言、流行、リンチ、都市暴動、反戦運動や環境運動などの集合行動について、集合行動と日常行動との異同、集合行動の生成と進展を規定する社会構造、個人の信念や相互作用と集合行動のダイナミズムという観点から考察していく。	田中　　淳（東洋大学教授）	田中　　淳（東洋大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
6	共同性と公共性	19世紀から20世紀にかけての近代社会の成立期において、個人化の進展に直面して、「共に同じである」という意味での「共同性」をいかに再び確保するかが問題とされてきた。20世紀から21世紀にかけての近代社会の成熟期においては、個人化を前提としたうえで、「公を共にする」という意味での「公共性」をいかに新たに構築するかが問題となってきている。これから2つの概念を軸として、近代社会の変動にともなう社会編成のあり方について考察する。	澤井　敦(慶應義塾大学准教授)	澤井　敦(慶應義塾大学准教授)
7	ジェンダーと現代	まず、1970年代にジェンダーという言葉が登場したことの意味を論じ、次いで、ジェンダーには個人にとって違和感のあるものとそうでないものがあることを指摘する。そして、身近な事例を通して、潜在化しているジェンダーの問題を論じ、現代においてジェンダーが揺らぎの中にあることを明らかにする。	早川　洋行(滋賀大学教授)	早川　洋行(滋賀大学教授)
8	身体感覚とリアリティ	今日の癒やしブームに共通する点は人々の五感に働きかけ、希薄化した身体感覚のリアリティを快適さとともに回復することにある。このような観点からすると、現代はあらゆる活動が視覚中心に編制されている。本章では、近代における視覚による身体管理の系譜を辿りつつ、癒やしブームの意味について明らかにする。	出口　剛司(立命館大学准教授)	出口　剛司(立命館大学准教授)
9	世俗化と現代宗教	本章では宗教社会学の根本をおさえ、現代宗教がどのような様相を呈しているかについて考察する。世俗化のイメージとして宗教の衰退と見る視角と宗教の変容と見る視角の2通りがあるが、今日の状況を見たときどちらが妥当なのだろうか。伝統的に制度化された宗教だけでなく、新宗教運動の展開も射程におさめ、宗教と社会の関係性の今日的な位相を見定めていく。	山田真茂留	山田真茂留
10	情報とコミュニケーション	従来、パーソナル・コミュニケーションとマス・コミュニケーションが区別されてきたが、インターネットの普及によって、この区別が再検討されるべき段階に至っている。情報の過剰がもたらす弊害とコミュニケーション不全の問題に言及し、人が生きていく上で、情報とコミュニケーションがもつ意味を考える。	早川　洋行	早川　洋行
11	災害と社会	都市化や高齢化といった社会構造の変化が被害の大きさや形態に与える影響、地域構造や組織構造が対応行動に与える影響、社会が内包する災害文化が事前の準備度や避難に与える影響という側面から、災害の被害軽減に社会学が果たしてきた貢献と今後期待される領域について論じていく。	田中　淳	田中　淳

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
12	高齢者の社会関係	社会的に孤独な高齢者というステレオタイプが人々の意識の中に根強く埋め込まれているが、実証研究はそれはきわめてまれなことを明らかにしている。高齢者が他者との間に有意味な関係を維持していることを前提に、他者との関係を支配しているメカニズムや他者との関係が高齢者に及ぼす影響を考察する。	浅川　達人	浅川　達人
13	健全さと病いの物語	医療の発展によって、われわれは多くの恩恵を被る一方で、健全さと病気に関する偏った見方を抱くようにもなった。21世紀の社会において、近代社会に流通する回復の物語に生きがたさを感じる人々が、自分にあった物語を探っていくことを問題とする。	伊藤　智樹	伊藤　智樹
14	〈死〉の受容と〈生〉の技法	近代社会は死を合理的に身体的＝精神的活動の絶対的終焉とし、死にまつわる事柄をすべてタブーとし、身近な生活から死の痕跡を排除してきた。本章では、近代が成し遂げた死の無意味化について解明し、そこから現代における生の意味について考察する。	出口　剛司	出口　剛司
15	２１世紀社会のゆくえ―モダニティとポストモダニティ	社会学においては、近代社会の編成を「モダニティ」として整理し、モダニティを離脱、再編成しようとする動きを「ポストモダニティ」として把握する試みがなされている。本章では、モダニティとポストモダニティのせめぎあいを概観し、２１世紀社会の様相を展望する。	澤井　敦	澤井　敦

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	共通科目（社会系）	科目コード	1121804	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　住まい学入門（‘０７）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：　本間　博文（放送大学教授）〕

講義概要

住居は日常生活における基盤的な空間である。日常生活の安全性、利便性、快適性、保健性のあらゆる側面にわたって住居のあり方が関係している。さらに住居は住文化として生活文化の中核を占め、日本人の行動様式や生活様式を規定するなど、日常生活と一体的に成り立っており、不即不離の存在である。本講義は放送大学の共通科目として、はじめの５章で日本の伝統の住まいが確立した空間の構成原理を東アジアの中国、韓国のそれと比較し、わが国の住文化の特殊性を明らかにする。このような伝統をふまえた上で後半の１０章で住居に関わる現代的な課題、中でも話題性が高い項目をトピックス的にとりあげ概観する。このような構成を通して日常生活において常に伝統を意識しながら現代の住居に高い関心を持って暮らす生活慣習を涵養したい。さらには住居に関連する専門科目や総合科目の履修への導きになることを期待する。

授業の目標

住居は日常生活の基盤をなす空間であり、生活者に対して安全、快適で、健康な利便性の高い日常生活を保障する場を提供することが求められている。本講義は生活と福祉専攻の学生に限らず広く放送大学の学生が、住居に対する関心を高め、主体的に空間改善に取り組もうとする態度を養成することを目指している。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	日本の伝統の住まい	第１章では、はじめにこの講義全体の狙いと課題を解説する。その上で日本における伝統の住まいの二大様式の一つである寝殿造が平安時代に完成するまでの経緯を概説する。和風の住まいの基本的な空間構成はこの寝殿造に由来する。当時の文学作品や絵巻物などを題材として寝殿造の構成原理を探る。	本間博文（放送大学教授）	本間博文（放送大学教授）
2	書院造から和風の住まいへ	鎌倉時代以後寝殿造の原則を受け継ぎつつ時代の変化に対応して柔軟に構成を変えながら江戸初期の書院造りへと至り、「和風の住まい」が完成する。その変化の過程を通して、わが国の住まいの基本原理を探る。	本間博文（放送大学教授）	本間博文（放送大学教授）
3	中国の住文化	中国における漢民族の代表的な居住様式である四合院形式の住居を取り上げ、伝統的な漢民族の家族生活の様子を紹介する。さらに山西省のヤオトンや福建省に現存する客家の円楼（土楼）を紹介し、気候風土と住居との関連を考える。これら代表的な漢民族の住居形式を通して中国における住文化や住様式を規定する要件を探る。	本間博文（放送大学教授）	本間博文（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	韓国の住文化	韓国における住文化を現在に伝える代表的な民家集落である河回村を題材として取り上げ、韓国の伝統的な集落や民家がどのような構成原理によって成立しているかを検証する。木造で造られ、履き替えも行うなど一見日本の住まいと共通のルーツに思えるが、本質的に異なる韓国の住文化を考える。	本間博文（放送大学教授）	本間博文（放送大学教授）
5	東アジアの住文化と日本	中国や韓国の住文化とは異なる日本の住文化を探る。和風の住まいを構成する部材を通して、寝殿造りから書院造りへの変遷の過程で一貫して受け継がれた基本原理を明らかにする。さらに世界に例を見ない工業化住宅が江戸初期に完成していた一方で中国のカンや韓国のオンドルなどのような優れた暖房装置が普及しなかったのは何故かといったことを考える。これの作業を通してわが国の生活文化の中核を占める住文化の独自性を明らかにする。	本間博文（放送大学教授）	本間博文（放送大学教授）
6	住まいの計画学（1）～家族と住まい～	住文化は気候・風土・歴史の基盤に立ち、社会の変化に対応しつつ成り立っている。この半世紀、わが国では欧米の生活様式が急速に浸透してきたが、少子高齢化や経済など社会構造の変化で、住まいの様態も家族の実像も急速に変化しつつある。その変化を把握し、住まいの在り方と住まいづくりに今後求められる諸条件について考える。	福井正明（岩手大学特任教授）	福井正明（岩手大学特任教授）
7	住まいの計画（2）～近隣と住まい～	日常の生活環境は個人・家庭・近隣社会の相互関係で成り立っている。今日の超高層共同住宅や戸建住宅団地にあっても、住まいと近隣空間の相互関係が生活の質を規定する。その相互関係のなかに、より快適な生活環境を創り出そうとする数々の考え方を探り、わが国にはどのような近隣と住まいの計画が求められるかを考える。	福井正明（岩手大学特任教授）	福井正明（岩手大学特任教授）
8	環境と住居（1）	これからの住宅地には、屋外空間を含めて快適な生活ができ、周辺環境へできるだけ負荷を与えないことが求められよう。本章では、都市・建築気候に焦点をあて、ヒートアイランド現象を抑制でき、夏涼しく冬暖かい住宅地をつくり出すための規範を示すとともに、それを達成するための手法とそれらの効果を考える。	梅干野晁（東京工業大学教授）	梅干野晁（東京工業大学教授）
9	環境と住居（2）	8章に引き続き、本章では具体的な住居環境のあり方を考える。まず初めに、屋上緑化や壁面緑化、そして蒸発冷却手法など、いろいろな環境共生的手法を取り上げて、それらの効果を視覚的にわかりやすく示す。さらに、設計支援のための熱収支シミュレーション手法を紹介しながら、具体的な事例を取り上げて、環境共生的な住宅地のあるべき姿を考える。	梅干野晁（東京工業大学教授）	梅干野晁（東京工業大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
10	自立と共生の国・デンマークの障害者・高齢者	ノーマライゼーション理念発祥の地であるデンマークの障害者・高齢者の生活紹介を通して、ノーマライゼーション理念の神髄が「自立と共生」ということにあること、空間的には「居住の場」と「日中生活の場」という２つの生活空間の核を分けてもつという基本原則にあること等を解説する。また、「自立と共生」を支える社会の仕組みについて解説する。	桜井康宏（福井大学教授）	桜井康宏（福井大学教授）
11	わが国における新たな試み―グループホーム型居住施設―	わが国における高齢者および障害者福祉の動向と関連する居住施設の動向を概略し、制度的には未だ不十分な状況ではあるものの、ようやく本格的な居住施設の整備が始まりつつあることを述べ、今後の基本課題を解説する。その上で、ハード・ソフトの両面で「食」のあり方に着目して居住施設の改善に取り組む「グループホーム型居住施設」の事例を紹介する。	桜井康宏（福井大学教授）	桜井康宏（福井大学教授）
12	集合住宅の管理（１）―マンションのマネジメント―	集合住宅、なかでも区分所有集合住宅の管理のマネジメント方法を解説する。わが国でマンションと呼んでいる、区分所有集合住宅の所有方法、管理方法、具体的には以下について説明をする。マンションの定義、区分所有、区分所有法、専有部分と共用部分、管理組合、管理規約、総会、理事会、管理者、管理会社の役割、管理費と修繕積立金、マンション管理適正化法について。	齊藤広子（明海大学教授）	齊藤広子（明海大学教授）
13	集合住宅の管理（２）―マンションのメンテナンス―	集合住宅、なかでも区分所有集合住宅の管理のメンテナンス方法を解説する。わが国でマンションと呼んでいる、区分所有集合住宅の計画修繕、特に大規模修繕の進め方と具体的な事例を紹介する。	齊藤広子（明海大学教授）	齊藤広子（明海大学教授）
14	住まいの防災（１）	地震国であるわが国では、建物の耐震性能は極めて重要な住宅の性能である。地震が建物に及ぼす影響と建物が地震に抵抗するメカニズムと工夫を様々な建物の構造形式と合せて具体的に解説する。あわせて，現在の耐震設計法の概要を紹介する。	川口淳（三重大学准教授）	川口淳（三重大学准教授）
15	住まいの防災（２）	わが国における地震被害の歴史とそこから得られる教訓を解説し、あわせて耐震設計の変遷を解説する。また，わが国における地震のリスクを地球物理学的見地で概説する。さらに，わが国の地震防災対策の現状として，国の取組や地域の取組について実例を交えて紹介する。	川口淳（三重大学准教授）	川口淳（三重大学准教授）

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	共通科目（社会系）	科目コード	1120603	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 社会福祉入門 （’０８）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：大橋　謙策（日本社会事業大学教授）　〕

講義概要

経済的貧困を救済することを主たる課題として発展してきた社会福祉は、21世紀に入り、それとは異なる社会生活上何らかの援助を必要とする人々の地域での自立生活を支援することを目的に、新たな理念、思想と社会福祉援助活動とが求められている。

人々の社会生活を安寧にするための方策としては、教育や住宅、雇用の保障に関わる社会サービス、医療保険や年金等の社会保険もあるが、社会福祉はそれらの制度と密接な関わりももちつつ、それとは相対的に独立した、自立生活を送る上で困難を抱えている人々への対人援助を基軸とする援助活動であり、システムである社会福祉を学ぶ。

授業の目標

社会福祉の目的は、生活上の様々な困難を抱えている人や家族を援助し、それらの人々の自己実現を図ることである。したがって、社会福祉の制度を学ぶだけではなく、それらの社会福祉制度を活用しつつ、どのような対人援助の方法、技術が必要なのかについても学ぶ。また、社会福祉が求める社会哲学や福祉文化についても考察する。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	現代社会の生活と社会福祉	私たちの日常生活においても、また出生から死に至るまでのライフコースにおいても多様な事故に遭遇する危険を孕んでいる。人間は一人では生きていかれない。今日では、家族や地域の力だけでもそれらの事故に対応できず、生活の不安定さへの補強や万が一の生活上の事故に対する一種の保険として、「社会の制度」として多様な社会福祉サービスが作られている。ここでは生活上に起きる事故と「社会の制度」としての社会福祉との関わりについて学ぶ。 【キーワード】 生活上の事故、家族機能、ライフコース、社会の制度	大橋　謙策（日本社会事業大学教授）	大橋　謙策（日本社会事業大学教授）
2	「社会の制度」としての社会福祉の発展	人類の歴史において、「鰥寡孤独」は常に大きな課題であった。それらに対し、家族や村落共同体が有していた自然発生的な相互扶助機能では対応できなくなり、かつ個人的な慈善に頼ることもできず、「社会の制度」として社会福祉が確立されてくる。最近では、「介護の社会化」とよばれ、介護保険制度が作られてきたのもその一つである。人々が抱える自立生活上の困難な課題に対し、どのような「社会の制度」が確立してきたのかをヴィバリッジの“5つの巨人悪”等を参考に学ぶ。 【キーワード】 相互扶助、慈善、セーフティネット、「社会の制度」	同上	同上
3	社会福祉の目的と自立のとらえ方	社会福祉はなにを目的としているのか、社会福祉の語源の意味も探りながら、目的としている自立、自己実現について学ぶ。アブラハム・マズローの欲求階梯説や生きることと生命維持との違い等も含めて社会福祉が目的とする6つの自立のとらえ方について学ぶ。 【キーワード】 社会福祉の語源、自立	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	歴史にみる社会福祉の思想と社会哲学	社会福祉という言葉の響きからは、“良い行い”というイメージや貧困対策といったイメージが浮かぶ。しかしながら、歴史的にはそうとばかりはいえず、住民の弾圧、隔離の歴史も有している。社会福祉の思想にはどのようなものがあったのか、イギリス、フランス、ドイツ、デンマーク等での社会福祉の歴史や思想を取り上げて、社会福祉の思想について学ぶ。 【キーワード】 飴と鞭、博愛、ワークハウス、ノーマライゼーション、福祉国家	大橘　謙策（日本社会事業大学教授）	大橘　謙策（日本社会事業大学教授）
5	社会福祉の歴史（日本）	日本の近代以降の社会福祉は精神性と物質性の間を揺れ動いた歴史である。戦前の井上友一と小河滋次郎の考え方の違い、積極的社会事業と消極的社会事業といった考え方や民間社会事業実践のミッションについて学ぶ。戦後は憲法第25条の理念から、入所型社会福祉施設の整備、市町村における在宅福祉サービスの整備を経て、今日では地域福祉がメインストリームになっていることを学ぶ。 【キーワード】 風化行政、第25条、入所型社会福祉施設、地域福祉	同上	同上
6	社会福祉の歴史（外国）	外国の社会福祉の歴史の中で、イギリスを中心に学ぶ。1601年のエリザベス救貧法からはじまる社会福祉制度の歴史と1601年の慈善信託法によるボランタリズムの歴史とを比較しつつ学ぶ。戦後は、福祉国家体制の確立からコミュニティケアシステムへの変遷について学ぶ。 【キーワード】 救貧法、慈善信託法、ベヴァリッジ報告、コミュニティケア	同上	同上
7	社会サービス、社会保障と社会福祉	生活上の事故の予防や事故対策として様々な「社会の制度」が歴史的に整備されてくるが、社会サービス、社会保障、社会手当、公的扶助、社会福祉との関わりをどう整理したらいいのかについて、今日的な状況を鳥瞰して考える。少子・高齢社会における社会保障制度設計のあり方と社会福祉との関わりについて考える。 【キーワード】 社会サービス、社会保障、社会手当、公的扶助、社会福祉、国民負担率、ソーシャルキャピタル	同上	同上
8	社会福祉のシステム	社会福祉の今日的システムはどうなっているのか、社会福祉法制、社会福祉行政、社会福祉サービス体系について学ぶ。市町村の自治事務になった意味、規制緩和といっても全くの市場原理でないことの意味、在宅福祉サービスのとらえ方について特に考える。 【キーワード】 社会福祉六法体制、措置行政、地方分権、福祉供給組織の多元化	同上	同上
9	社会福祉におけるニーズの考え方と把握の方法	社会福祉活動を展開していく上で、何が生活上の困難なことなのかを明らかにすることが大きな課題であり、かつそれを誰が、どのような基準で、どのような方法で把握、判断するかを考えることが社会福祉そのものを学ぶことであるといっても過言ではない。イギリスのブラッドショウのソーシャルニーズの類型を参考にしながら、社会福祉ニーズの考え方、とらえ方を学ぶ。その際には、日本的文化の背景も大きいのでそれも含めて考察する。 【キーワード】 社会福祉ニーズの分類、世間体、タテ社会、ニーズキャッチの方法	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	対人援助としての社会福祉とソーシャルワーク実践	社会福祉は生活上困難な課題を抱えている人に対して、多様な社会福祉制度と保健、医療その他関連するサービスとを有機的に結びつけ、創意工夫して、総合的に援助する活動である。それは、国際的にはソーシャルワーク実践といわれる。国際ソーシャルワーカー連盟や全米ソーシャルワーカー連盟の考え方も含めて対人援助としてのソーシャルワークについて学ぶ。 【キーワード】 ソーシャルワーク、ソーシャルワークの展開過程、ジェネラルソーシャルワーク	大橋　謙策（日本社会事業大学教授）	大橋　謙策（日本社会事業大学教授）
11	地域自立生活支援とソーシャルワーク	日本の社会福祉は地域自立生活を支援する地域福祉がメインストリームになった。そこでは、世界保健機関（WHO）の国際生活機能分類（ICF）の視点に基づき、ケアマネジメントを手段としたコミュニティソーシャルワークが重要になってきている。ICFの視点に基づくケアマネジメントの考え方をアセスメント、援助法人の立て方を中心に学ぶ。 【キーワード】 生活課題分析、援助方針の立案、求めと必要と合意、ICF、ケアマネジメント、インフォーマルケア、在宅福祉サービス	同上	同上
12	ソーシャルケアサービス従事者の専門職制度と職業倫理	対人援助としてのソーシャルケアサービス従事者にはソーシャルワーカーとしての社会福祉士、ケアホーカーとしての介護福祉士等がある。それらの専門職制度の内容とそれら専門職としての社会的評価、職業倫理、行動規範、養成教育のあり方について学ぶ。 【キーワード】 社会福祉士及び介護福祉士法、倫理綱領、行動規範	同上	同上
13	地域トータルケアシステムとコミュニティソーシャルワーク	地域自立生活支援のためには、保健、医療等関連する領域の専門職によるチームアプローチを軸とした地域トータルケアシステムが求められている。また、そのためには社会生活全般を考えてのコーディネート機能が重要であり、コミュニティソーシャルワークアプローチが求められている。 【キーワード】 地域トータルケアシステム、チームアプローチ、コミュニティソーシャルワーク	同上	同上
14	市町村社会福祉行政とソーシャルアドミニストレーション	これからの社会福祉は市町村を基盤として、行政と住民との協働が求められる。住民参加による地域福祉計画づくり、地方分権と福祉アクセシビリティ、福祉サービス供給組織の多元化の中でのソーシャルアドミニストレーションのあり方を学ぶ。 【キーワード】 地域福祉計画、ソーシャルガバナンス、住民参加、福祉アクセシビリティ、ソーシャルアドミニストレーション	同上	同上
15	国際的なヒューマンセキュリティと博愛の哲学	国際化が進んでいる時代にあって、「福祉国家」としての一国ソーシャルセキュリティだけを考えていればいい時代ではなくなった。国連が提唱しているヒューマンセキュリティ（人間安全保障）を考えていくためにも、日本国民の福祉文化を見直し、博愛の哲学や寄付の文化の醸成をしていくことが必要である。福祉国家から福祉社会への転換と福祉社会づくりについて学ぶ。 【キーワード】 ヒューマンセキュリティ、博愛、寄付の文化	同上	同上

＝　社会調査（‘０５）＝（TV）

〔主任講師：原　　純輔（東北大学教授）〕
〔主任講師：浅川　達人（明治学院大学教授）〕

全体のねらい

現代社会を特徴づける人間活動の１つである社会調査について、その進め方（調査内容の決定、調査対象の決定、調査の実施方法、調査結果の分析方法とまとめ方）を知るとともに、その歴史と成果について学習する。個人が身の回りからさまざまな情報を得る場合と社会調査との違いに着目しながら、細かい技法よりも、基本的な考え方を修得することを目指す。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	現代社会と社会調査	人びとがさまざまな形で目にする社会調査結果が、おおよそどのような手順で得られたものであるかを知る。また、社会調査が備えるべき性格と今後の授業における基本的な視点について述べる。	原　純輔（東北大学教授）	原　純輔（東北大学教授） 浅川達人（明治学院大学教授）
2	社会調査の用途と歴史	社会調査をその用途によって行政調査、福祉調査、世論調査、市場調査、学術調査の５つに類別し、それぞれの歴史と相互の系譜関係について述べる。また、心理学実験との関係についても述べる。	同　上	原　純輔
3	調査内容の決定(1)	社会調査の方法は、基本的に調査票調査と聴取調査（非調査票調査）にわけられ、それぞれに長所と短所がある。調査票調査を中心にテーマ、調査項目の選び方について述べる。	同　上	同　上
4	調査内容の決定(2)	調査票を作成する場合の考え方と注意点について述べる。また、選択回答と自由回答、量的変数の作り方にも触れる。	同　上	同　上
5	調査対象の決定(1)	統計調査の中での全数調査と標本調査の特徴と関係を知る。とくに、標本調査における標本抽出の考え方と具体的方法、無作為抽出の考え方を紹介する。	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
6	調査対象の決定(2)	標本分布と統計的推測の考え方を把握し、いくつかの統計的推定や統計的検定に適用してみる。それを通して標本調査の特質を知る。	原　純輔	原　純輔
7	調査の実施と処理(1)	社会調査実施の具体的手順と、訪問面接調査、留置調査、郵送調査、電話調査、集合調査など、さまざまな実査方法を紹介する。とくに訪問面接調査の実際を知り、調査員の役割について考える。	同　上	同　上
8	調査の実施と処理(2)	調査終了後の点検（エディティング）、コーディング、データ・ファイルの作成、データ・クリーニング作業における留意点を知る。また、これらの作業や集計・分析において重要な役割を果たす、コンピュータ・ソフトについて紹介する。	浅川　達人	浅川　達人
9	結果の集計と分析(1)	量的データと質的データのそれぞれについて、集計の方法、基本統計量（代表値、分散、相関係数）について解説する。また、実例を示しながら、さまざまな基本統計量とデータのタイプとの適合性について考える。	原　純輔	原　純輔
10	結果の集計と分析(2)	クロス集計表のエラボレーションを例に、因果分析の方法と問題点について、実例を用いながら詳しく解説する。	同　上	同　上
11	聴取調査の方法	調査票を用いない聴取調査の方法を紹介し、問題点、留意点について解説する。また、優れた調査の実例を紹介する。	同　上	同　上
12	調査報告をまとめる	「調査結果を受けとる側」の視点から、表やグラフ、そして調査報告はどのようなものであるべきかについて、実例に即しながら考える。	原　純輔	原　純輔

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
13	さまざまな社会調査(1)	国勢調査をはじめとする行政調査とその役割について知るとともに、問題点について考える。また、代表的な大規模調査、継続調査、国際比較調査の例と成果を紹介する。	原　純輔	原　純輔
14	さまざまな社会調査(2)	さまざまな社会問題の告発と解明は、社会調査の起源の１つであったが、その役割は現代社会においても失われていない。社会問題についての代表的な調査研究の例と成果を紹介し、社会調査の社会的責務について考える。	浅川　達人	浅川　達人
15	調査者と被調査者	社会調査における被調査者は、単なる情報提供者ではない。調査という行為や調査結果は、被調査者に対してさまざまな影響を与える。「調査をされる側」からみた社会調査の意味と、調査に求められる社会的責任について考える。	原　純輔	原　純輔 浅川　達人

＝　国際経営論（‘０５）＝（TV）

〔主任講師：　吉原　英樹（南山大学教授）〕

全体のねらい

輸出、輸入、海外生産、海外研究開発など、一国の国境をこえて行なわれる国際経営は、いまや日本企業ではめずらしいことではない。その日本企業の国際経営をテーマにして、歴史、現状、課題、今後の動向などを、具体例をまじえて明らかにしていきたい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	国際経営とは	わたくしたちの身の回りにある国際経営の具体例をみたあと、国際経営とはいかなるものであるかを定義したい。そして、ひとつの企業のなかに多くの経済・政治・文化をかかえながら経営するのが国際経営の特徴であることを説明したい。	吉原　英樹（南山大学教授）	吉原　英樹（南山大学教授）
2	多国籍企業	国際経営を行なう代表的な企業は、多国籍企業である。多国籍企業とは、親会社と海外子会社から成る企業である。日本の多国籍企業とは具体的にどの企業であるかをみたうえで、親会社と海外子会社の特徴などを明らかにしたい。	同　上	同　上
3	国際経営戦略	国際経営の基本方針である国際経営戦略について、歴史的な発展を跡づけつつ、基本的なことを明らかにしたい。国内経営で蓄積される技術や経営ノウハウなどが国際経営の基盤であることを説明したい。国際化の理念の重要性についてものべたい。	同　上	同　上
4	国際マーケティングと国際調達	製造企業の輸出マーケティングがどのように発展して現在に至っているかを、日本独特の企業である総合商社の役割に関連づけながら明らかにしたい。最近、重要性を増している製品輸入および部品材料の輸入（国際調達という）もとりあげたい。	同　上	同　上
5	海外生産	海外生産の初期（1970年代ごろまで）には、海外工場は国内工場と比較して小規模なものだったが、現在では国内工場をこえる大規模な工場がみられるようになっている。なぜ海外生産が行なわれるかを歴史的に明らかにしたうえで、海外工場で実施されている日本的生産の特徴をみたい。	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
6	技術移転と海外研究開発	海外子会社の多くでは、日本の親会社で開発された製品を、日本の親会社から移転される生産技術を使って生産する。最近になると、海外子会社で研究開発が行なわれ、新しい製品や技術が開発されるようになっており、その一部は日本親会社に逆移転される。国際経営のいちばん新しい動きである海外研究開発の基本的なことを明らかにしたい。	吉原　英樹	吉原　英樹
7	国際経営組織と所有政策	輸出から海外生産へと国際経営活動の重点がシフトするにつれて、国際経営の組織は輸出部門、海外事業部、グローバル事業部制へと発展してきている。また、海外子会社の資本所有形態は、1970年代までは、合弁とくに総合商社がパートナーに加わる商社参加型合弁が多かったが、最近では完全所有子会社が多くなっている。	同　上	同　上
8	海外子会社の経営	海外子会社では、日本人の経営者や管理者が中心になって、親会社の経営戦略の枠組みのなかで、親会社から移転される技術や経営ノウハウを使って経営している。工場では日本的生産のもとで現地人が高いモラールで仕事をしているのにたいして、オフィスでは状況はよくない。海外の日本企業の明暗である。	同　上	同　上
9	国際経営と言語	親会社と海外子会社のあいだの、また、親会社や海外子会社で現地人が加わるコミュニケーションでは、英語がよく使われる。しかし、重要な事柄についてのコミュニケーションでは、日本語が中心的な言語になっている。日本語が使われるときには、現地人は情報のやりとりや意思決定に参加しにくい。	同　上	同　上
10	北米・欧州のなかの日本企業	日本企業の北米への進出は、当初は輸出のための販売子会社が多かったが、保護主義を克服する目的で輸出から現地生産への転換が行なわれ、製造子会社が増加した。最近では、市場内で生産することのメリットやコスト面の有利性を理由に、現地生産がなされるようになった。欧州への進出は、地域経済統合によって影響をうけている。	同　上	同　上
11	アジアのなかの日本企業	日本企業にとって、1980年代までは極東と東南アジアが主要な舞台だったが、1990年代からは中国の重要性が急激に高まっている。極東・東南アジア・中国の重点の置き方および分業と相互関連をどのようにするかが、アジア戦略のポイントになっている。	同　上	同　上
12	国際経営と国内空洞化	最近の海外生産の本格的な推進によって国内空洞化がはじまっている。この空洞化は、国内生産はふえているが海外生産の成長のほうが高い、国内生産が減少する、生産技術やノウハウが国内から海外に移っていく、この3種類にわけることができる。この空洞化は、企業と国家のあいだに緊張関係を生む。	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
13	外資系企業	日本企業の海外進出に比較すると外国企業の日本進出はすくない。外国企業の日本子会社である外資系企業には、現地人（日本人）社長、現地的（日本的）経営、好業績、イノベーション・センターなどの特徴がみられる。これらの特徴は、日本企業の海外子会社の経営にひとつのモデルを提供しているといえる。	吉原　英樹	吉原　英樹
14	国際経営戦略の今後の展開	海外生産のいっそうの推進が国際経営戦略のひとつの課題である。海外研究開発の本格化によって、新製品や新技術を生み出す海外子会社を育てることも必要である。また、日本親会社から技術など経営資源が一方的に海外子会社に移転する日本中心のワンウェイを、日本親会社と海外子会社のあいだに逆移転や水平移転もみられるネットワーク経営に変えていくことも課題になろう。	同　上	同　上
15	国際経営マネジメントの革新	世界中にある販売・生産・研究開発の海外子会社で国際経営活動が行なわれている。その国際経営活動は日本人が中心になって日本語によってマネジメントされている。日本人と現地人が英語で国際経営活動をマネジメントするように変えていくことが必要であり、そのためには日本親会社の国際化（内なる国際化）にも取り組まなければならない。	同　上	同　上

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	共通科目（社会系）	科目ｺｰﾄﾞ	1124307	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　経営学入門（‘０７）＝（Ｒ）

〔主任講師（現職名）：佐々木　弘（神戸大学名誉教授）〕
〔主任講師（現職名）：奥林　康司（摂南大学教授）　〕
〔主任講師（現職名）：原田　順子（放送大学准教授）　〕

講義概要

経営学入門として、経営学で明らかにしようとしている基本的な課題について解説する。企業はヒト・モノ・カネ・情報から成り立っている。従って、これらの経営要素を組み合わせる仕組みとしての株式会社制度や組織、もの作りの仕組みとしての生産システム、ヒトを動かす仕組みとしての人事労務管理、カネの動きを統制する財務管理、社会における企業の新しい役割などを企業経営の視点から学習することを目指している。

授業の目標

経営学の出発点として、経営の概念を明らかにする。経営学の基礎概念として企業、経営、管理、組織、経営効率、事業などを日常生活の中から明らかにする。そこから、経営学的視点はどのようなものかを示す。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	経営とは何か	経営学の出発点としての経営概念を明らかにする。経営学は経済学とどのように異なるのか。経営学的な視点はどのようなものか。更に、経営学の基本概念である企業、経営、管理、組織などについて説明し、本講義の全体像を紹介する。	奥林康司（摂南大学教授）	奥林康司（摂南大学教授）
2	株式会社の仕組みと組織	経営学の主要な対照となる株式会社制度について、その仕組みと基本的な特徴を明らかにする。株式会社は、行政の組織や学校などとどのように異なるか。株式会社は何を目指して運営されているか。誰にどのように役立っているか。なぜ株式会社は社会から注目を集めているかなどを学習する。	同上	同上
3	コーポレート・ガバナンス	会社を運営する経営者の役割とその行動を規制する仕組みを明らかにする。会社は誰のものか。誰が会社の運命を決定する権限を持っているか。経営者と株主はどのような関係にあるか。経営者はどのような考え方に基づいて会社を運営しているか。社会にとって良い会社の運営とは何かなどを学習する。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	企業集団とグループ経営	会社は他の会社とどのような協力関係を結んでいるかを学習する。住友・三菱系などの企業集団の意義と役割は何か。なぜ企業は集団を形成するのか。企業集団と区別された企業グループの特徴は何か。グループ経営の仕組みはどのようになっているか。会社はなぜ会計面でも結び付けられているかなどを学習する。	同上	同上
5	生産システム	商品を効率的に生産する方法とその基本的な考え方を明らかにする。製品を安く、かつ質も高く生産する方法としてどのような仕組みが工夫されてきたか。大量生産方式の特徴はないか。多品種少量生産方式といわれるセル生産システムの特徴は何か。それらがなぜ効率性を高めるかなどについて学習する。	奥林　康司	奥林　康司
6	企業の組織構造	企業がその目的を効率的に達成できるように工夫してきた組織について学習する。官僚制組織やフラット型組織、マトリックス組織などはどのような考え方に基づいて設計されてきたか。それらの組織はいかにして効率を上げているか。どのような条件の下で夫々の組織は効率性を発揮しているかなどを学習する。	同上	同上
7	企業組織における人間行動	企業組織の中で社員や管理者はどのような行動をしているかを明らかにする。社員はなぜ会社の中で一生懸命働くのか。社員は何を考えて熱心に働くのか。どのような管理者の下で部下は良く働こうと思うのか。部下の意欲を引き出すために管理者はどのような行動をするのがよいかなどを学習する。	同上	同上
8	賃金制度	我が国の賃金制度の特色について考える。年功的賃金制度とは、年齢とともに上昇する傾向があり、各種手当などの生活給要素を含むものである。第二次世界大戦後の賃金制度の変遷を概観し、いわゆる日本的賃金制度について学習する。さらに、1990年代以降の成果主義賃金についても解説する。	原田　順子（放送大学准教授）	原田　順子（放送大学准教授）
9	非典型労働者の雇用管理	正社員以外の雇用形態（パート、アルバイト、派遣等）で働く人は、劇的に増加している。従来、非典型労働者は女性に多かったが、近年では若年・高年齢の男性にも広がっている。その背景、問題点について考える。また、非典型労働者の積極的活用を行う企業の事情についても学習する。	同上	同上
10	企業の資金調達	資金は企業活動に投下され、さまざまな財やサービスに変換され、また次の資金として回収される。このように資金は企業活動を支える大切な資源としての大きな役割を担っている。 講義では、企業の資金調達について、その制度や資金調達方法を中心に解説する。	齋藤　正章（放送大学准教授）	齋藤　正章（放送大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
11	財務情報の活用	企業活動の成果は最終的に財務諸表という計算書類に集約される。したがって、財務諸表を理解し、その分析方法を知ることは企業活動の理解を深めることとなる。 講義では、まず財務諸表にはどのようなことが記載されているかを解説し、後に具体的な分析を行う。	同上	同上
12	企業評価	「よい企業」とはいったいどんな特色を備えた企業だろうか。また、「よい企業」があるとすれば、「悪い企業」はどのような症状に陥っているのだろうか。講義ではコーポレート・ガバナンスの視点から企業評価の手法について解説する。	齋藤　正章	齋藤　正章
13	グローバル経営	今日では、企業経営は世界市場を前提にして展開されている。海外で活躍している日本企業は日本で行っているのと同じ経営を行っているのか。海外で通用する日本的経営はどのようなものか。グローバルに活躍する日本企業はどのような経営を行っているのか。国際市場における日本企業の競争力の源泉は何かなどについて学習する。	奥林　康司	奥林　康司
14	良き「企業市民」としての企業	企業に対する人々の関心は近年大きく変わりつつある。「誠実な」企業、「環境にやさしい」企業、「志の高い」企業等が次第に高く評価され、かつ、業績も伸ばしつつある。本章では良き「企業市民」としての企業、「社会的責任投資」「フェアートレード」等の新しい動きを述べたい。	佐々木　弘（神戸大学名誉教授）	佐々木　弘（神戸大学名誉教授）
15	経営学のさらなるフロンティアを求めて	経営学の領域でこれまでに蓄積された知見やマネジメント的視点は非営利組織をはじめ、都市経営、病院経営、学校（大学）経営、協同組合の経営等、より広い組織体にも広く適用され、有用な分析用具として活用されつつある。 経営学はさらなるフロンティアを求めて、その外延を拡大しつつ発展している。講義ではこの辺の動向を説明してみたい。	同上	同上

＝　グローバル経営戦略（‘０６）＝（Ｒ）

〔主任講師（現職名）：　吉森　賢（放送大学教授）〕

全体のねらい

グローバル企業とは国境にとらわれず世界を単一の市場と考え、グローバル市場地位の持続的維持を目指す企業である。このためにグローバル企業は最も有利な条件を提供する市場で販売、生産、研究開発などに必要な経営資源を活用する。この講義では日本の視点からグローバル企業としての基本的戦略とその周辺領域を考察する。現在及び将来国際経営に従事ないし従事したいと考える受講生のために、できるだけ実務に適用できる具体的指針を日本企業、米欧アジア企業の実例に基づき提供する。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	グローバル企業への条件	グローバル企業を戦略的機能とこれを実現するための参入戦略の視点から定義する。実例に基づきグローバル企業の発展過程を考察し、各段階に要求される企業の戦略とその参入戦略を理解する。	吉森　賢（放送大学教授）	吉森　賢（放送大学教授）
2	日本企業の比較優位性と弱点	グローバル企業に必要な条件の一つは本国で確立される製品の比較優位性である。日本企業はいくつかの産業分野で世界的な競争力を堅持している。その要因を分析し、弱点をも理解する。	同　上	同　上
3	グローバル市場参入戦略	グローバル市場を製品・技術・サービスを提供する市場としてのみならず、必要な経営資源を調達する市場と定義し、基本的な市場参入戦略を示し、選択するための基準を明らかにする。	同　上	同　上
4	輸出とOEM	最も基本的なグローバル経営であり、ほぼ全ての企業のグローバル戦略はこれから始まる。直接および間接輸出、OEM、委託販売などについて理解し、この戦略の利点と限界を考察する。	同　上	同　上
5	ライセンス契約－1	特許、商標などの知的所有権やノウハウなどの実施権供与によるグローバル戦略である。日本企業と外国企業間のライセンス取引の戦略的利点と問題点を明らかにする。	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
6	ライセンス契約－2	ライセンス契約の内容について具体的に示す。またライセンス契約の一種であるフランチャイズ契約について具体的により理解する。また知的財産権に伴う法務リスクについて概観する。	同上	同上
7	合弁会社－1	合弁会社はより高度なグローバル経営戦略である。その利点と限界を参入企業と現地企業の視点および折半出資、支配的出資比率、少数出資比率の視点により理解する。	同上	同上
8	合弁会社－2	合弁会社の経営管理について企業統治、取締役会の構成、最高経営責任者の機能、経営計画、親会社との人的・取引関係、合弁会社契約の改定ないし解消の視点から検討する。	同上	同上
9	子会社設立	グローバル戦略と組織の関連性と発展段階、本社と子会社との関係、グローバルなネットワーク組織、管理と調整方式の類型、海外子会社の戦略的役割などを日米欧の事例に基づき考察する。	同上	同上
10	グローバル戦略提携	戦略提携は自動車、電子機器などの分野で広く実施されている戦略である。その目的、提携当事者間の関係、成功要因を理解する。典型的実例としてトヨタとGMの戦略提携NUMMIを取り上げる。	同上	同上
11	グローバルM&A戦略	現地企業の合併・買収は利点も大きいがリスクも大きい戦略である。これらを明確にし、M&Aの成功例と失敗例を日本企業と外国企業の事例により理解する。	同上	同上
12	グローバル・マーケティング戦略	グローバル企業は進出国に適した製品の適応化か、世界標準製品かの選択を迫られる。この矛盾をいかに克服するかを理解する。デファクト標準戦略の成功要因を日本のVTRの事例で理解する。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
13	グローバル生産戦略	グローバル企業の本国と外国との生産拠点の配置に関して考慮するべき戦略的要因を検討する。関連する領域として部品などの国際調達に関する戦略についても理解する。	同　上	同　上
14	グローバルリスク管理	グローバル企業は事故、製造責任、違法行為、知的財産権を巡る係争などさまざまなリスクに曝されている。これらに対処するための方策を事例により理解する。	同　上	同　上
15	グローバル企業の管理、統治、倫理	グローバル企業の管理と統治制度のあるべき姿、進出国における倫理的問題とその対応、企業の社会的責任の実践、グローバル企業への批判とその対応などについて考察する。	同　上	同　上

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	共通科目（社会系）	科目コード	1121006	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 現代の会計 （’０８）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：石川　純治（駒沢大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：齋藤　正章（放送大学准教授）〕

講義概要

最近、会計上のトピックスが一般紙にもしばしば登場してくる。会計および監査が今日ほど社会の注目を受けることはかつてなく、会計制度の大変革いわゆる「会計ビッグバン」が社会経済に大きなインパクトを与えているわけである。この大きく変容する現代の会計を読み解くため、「歴史」、「理論」、「社会」の3つの視軸をとおして講義を進める。

授業の目標

個々の新しい会計基準を知ることよりも、大きく変容する現代の会計をトータルに理解することがより大切である。変容の今日的なあり方はいかなるものか、その変容は何処からくるか、会計の基本的な考え方は大きく変わったのか、変容する経済社会のなかで会計がどのように機能しているか、といった点の学習が大切である。本講義をとおして、変容する現代の会計のトータルな理解と将来の予見に役立つことを目標とする。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	歴史のなかの会計 －温故知新－	本講義のプロローグとして、まず会計を歴史の文脈で学習することの大切さを知っていただく。現代の会計を真に理解するには、過去の会計を知ることが大切だからである。 【キーワード】 複式簿記の起源と伝播、口別損益計算、期間損益計算、近代会計、現代会計、会計士会計学	石川　純治（駒澤大学教授）	石川　純治（駒澤大学教授） 齋藤　正章（放送大学准教授）
2	複式簿記のサイエンス －簿記とは何か、何でありうるか－	会計の基礎には複式簿記があり、複式簿記のない会計は考えられない。講義では複式簿記のサイエンスという眼をとおして、簿記の常識・通念を根本的に問う「思考簿記」の面白さに焦点を当て、「検定簿記」の学習を相対化してみたい。 【キーワード】 単式簿記、複式簿記、複式簿記の内容と形式、展開表簿記、三式簿記	石川　純治（駒澤大学教授）	石川　純治（駒澤大学教授）
3	利益とキャッシュ・フロー －意見と現実－	利益とキャッシュ・フローの簿記会計、特にその「構造」に焦点を当てる。損益計算書、キャッシュ・フロー計算書、貸借対照表の3つの基本財務諸表の動的相互関連についての理解をうながす。 【キーワード】 間接法と直接法、財産法と損益法、構造と形態、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書	石川　純治（駒澤大学教授）	石川　純治（駒澤大学教授）
4	企業会計の基本的考え方 －「企業会計原則」の立脚点－	現代の企業会計の変容を考える際、議論の出発点をどこにおくかが極めて重要になる。そこで、その出発点をこれまでの会計ルールの基礎にある「企業会計原則」、とりわけその立脚点（基本的考え方）に求めて議論を進める。 【キーワード】 企業会計原則、動態論、静態論、会計思考	石川　純治（駒澤大学教授）	石川　純治（駒澤大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	会計ビッグバン －変容する会計－	「会計ビッグバン」にともない新しい会計基準が次々に導入された。講義では新会計基準の細かな解説ではなく、前回での「企業会計原則」の基本的考え方に照らして、それとの整合・非整合性の問題に焦点を当てる。 【キーワード】 実現主義、発生主義、金融商品会計、退職給付会計	石川　純治（駒澤大学教授）	石川　純治（駒澤大学教授）
6	変容の全体をどう見る －3つの見方－	従来の会計基準と新しい会計基準とからなる今日の企業会計の全体をどう見るか、その見方に大きくは3つあることを示す。そして、それが変容の度合いの見方の相違でもあることを明らかにする。 【キーワード】 拡張の論理、補完の論理、区別の論理	石川　純治（駒澤大学教授）	石川　純治（駒澤大学教授）
7	変容の形と方向 －ハイブリッド性－	今日の企業会計の変容がどのような「形」になっているか、さらにその変容がいかなる「方向」（ベクトル）を向いているかを、その基礎から明らかにする。 【キーワード】 会計計算の枠組み、配分と評価、ハイブリッド構造	石川　純治（駒澤大学教授）	石川　純治（駒澤大学教授）
8	新たな会計秩序を求めて －会計基準の憲法作り－	新たな会計秩序の構築に向けた概念フレームワーク作りを取り上げ、そこでの基本的な考え方をこれまでの考え方との比較において議論する。 【キーワード】 企業会計原則、日本版概念フレームワーク、2つの整合性問題	石川　純治（駒澤大学教授）	石川　純治（駒澤大学教授）
9	トライアングル体制のゆくえ －規範と現実－	企業会計と密接にかかわっている商法（会社法）および税法の変容をみることで、企業会計、商法会計、税務会計のいわゆる「トライアングル体制」の今日的変容を取り上げる。 【キーワード】 企業会計、商法会計、税務会計、確定決算主義、トライアングル体制	石川　純治（駒澤大学教授）	石川　純治（駒澤大学教授）
10	投資家資本主義と会計	第1回でふれたように会計は社会経済にあわせて発展変化する。講義では国内外で起きた会計・監査の不正事件などをとおして、今日の資本主義経済のなかでの企業会計のあり方を論議する。 【キーワード】 投資家資本主義、会計不信、不正監査	石川　純治（駒澤大学教授）	石川　純治（駒澤大学教授）
11	グローバル経済と会計国際化	経済のグローバス化に応じて、会計もグローバル化する。そこで、企業会計の国際化にまつわる事例をとおして、会計国際化の諸問題を取り上げる。 【キーワード】 国際会計基準、EUと2009年問題、会計外交	石川　純治（駒澤大学教授）	石川　純治（駒澤大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
12	金融システムの再生と会計	今日の社会経済ではモノ（実物）とともにカネ（金融）の経済が重要である。講義では金融システムの再生と会計とのかかわりをいくつかの事例をとおして論議する。 【キーワード】 銀行と不良債権、繰延税金資産、保険会社の利益開示、保険時価会計	石川　純治（駒澤大学教授） 齋藤　正章（放送大学准教授）	石川　純治（駒澤大学教授） 齋藤　正章（放送大学准教授）
13	中小会社と会計	株式会社の9割以上は中小の非公開会社である。公開大会社むけの企業会計が限りなく国際化するなか、それとは自ずと性格を異にする中小会社の会計を取り上げる。 【キーワード】 中小会社会計、非公開と会計、ダブルスタンダードとシングルスタンダード、会社法、会計参与、融資と会計	石川　純治（駒澤大学教授） 齋藤　正章（放送大学准教授）	石川　純治（駒澤大学教授） 齋藤　正章（放送大学准教授）
14	自治体と会計	今日、地方自治体の財政破綻が問題になっているが、東京都は発生主義など企業会計の手法を取り入れた新たな財務諸表を作成することにした。そこで、いくつかの事例をとおして自治体行政に会計がどこまで役立ちうるかを検証してみたい。 【キーワード】 自治体、行政、公会計	石川　純治（駒澤大学教授） 齋藤　正章（放送大学准教授）	石川　純治（駒澤大学教授） 齋藤　正章（放送大学准教授）
15	会計の未来	第1回では会計の過去から現在までの歴史にふれた。最終回はエピローグとして、これまでの議論もふまえて内外の研究者・実業家も交えて会計の回顧と将来を展望してみたい。	石川　純治（駒澤大学教授）	石川　純治（駒澤大学教授） 齋藤　正章（放送大学准教授）

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	共通科目（社会系）	科目ｺｰﾄﾞ	1223518	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　現代の生活問題（‘07）＝（R）

〔主任講師（現職名）：中川　清（同志社大学教授）〕

講義概要

今日われわれが直面している生活問題は、21世紀にはいって突然引き起こされたわけではない。この講義では、これまでの日本の生活経験を振り返ることによって、現代の生活問題を3つの視点から考えてみたい。まず、最も伝統的な貧困問題の系譜を取り上げ、現代の貧困の特徴を明らかにする。次に、ごく普通の生活がどのような問題を抱えながら今日にいたっているのかを検討する。最後に、誕生から死にいたる生涯のいくつかの局面が、そのまま新たな生活課題となりつつある現状を展望する。

授業の目標

4つの点に心がけたい。①理論的な説明にとどまらず、具体的なデータや記述などをできるだけ駆使して生活問題の理解を深める。②ある生活問題が解決されることによって、また新たな課題が生み出される。生活問題を固定的にではなく、絶えず変化していく課題として把握する。③日本での生活問題に絞って論じるが、東アジアの地域に共通する経験や課題にも注目する。④必要に応じて、生活問題と直接関係する政策や制度にも言及する。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	生活問題という捉え方―生活研究の伝統―	生活という言葉は曖昧で未分化な用語だが、日本では、生活構造論や生活学、生活科学や生活福祉などの生活研究が積み重ねられてきた。生活問題という捉え方も、このような伝統の延長に位置している。なぜ日本では、生活が研究や学問の対象となってきたのかを、この講義の導入として考える。	中川　清（同志社大学教授）	中川　清（同志社大学教授）
2	異質な生活世界への関心―貧困問題の系譜(1)―	貧困という概念が形作られる以前、あたかも「未開社会」に向うかのように、異質な生活世界への関心が喚起された。19世紀末から20世紀初めの「貧民窟踏査」の記述をとおして、生活問題への初発の認識について考える。貧困が多元化した今日、このような方法が再び見直されているからでもある。	同上	同上
3	近代の貧困概念の形成と展開―貧困問題の系譜(2)―	19世紀末から20世紀にいたる貧困の実態は、思いのほか大きな変化を遂げてきた。しかも、その変化の性格は、一般的な社会生活の変化とも密接に関係していた。ここでは、貧困状態の変化を分析するとともに、近代の貧困認識と政策基盤がどのように形作られてきたのかを考える。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	貧困への対応と生活保護法―貧困問題の系譜(3)―	戦争と戦後の混乱によって生活は大きな打撃を受け、とくに都市部では貧困というべき生活状態が拡がった。そのため1950年には、現行の生活保護法が成立し、最低限度の生活保障が制度化された。生活保護法以前の恤救規則や救護法を含め、日本における貧困への対応の歴史を振り返る。	同上	同上
5	「中流社会」と貧困の性格変化―貧困問題の系譜(4)―	高度成長以後になると、所得の低さによる生活状態から、変動への対応能力の不足へと、貧困認識の力点が移行するとともに、特定の地区や地域として貧困を捉えることが困難になる。この事情を、生活保護の実施状況や保護基準の変遷、さらに貧困調査の関心の推移などをとおして明らかにする。	同上	同上
6	多元化する貧困と社会生活―貧困問題の系譜(5)―	高齢単身者、ひとり親世帯、ホームレス、傷病や障害を抱える世帯、困難に直面する若者など。現在の貧困が、社会関係からの孤立や排除と深くかかわっていることを示し、貧困と社会生活一般との関係をあらためて考える。あわせて、相対的剥奪や社会的排除などの、貧困をめぐる新たな議論を紹介する。	同上	同上
7	生活構造の不安定さ―生活変動と生活問題(1)―	20世紀前半の生活変動は、近代という新たな環境に対応する緊張に満ちた過程であった。ごく普通の家計において、しばしばエンゲル法則が妥当しなかった事実から、この間の生活変動が構造的な不安定性をともなっていたこと示す。当時の生活言説が、貧困によって彩られていた理由でもある。	同上	同上
8	生活変動の転機と妊娠中絶―生活変動と生活問題(2)―	日本の生活変動の転機として、1950年代における出生率の半減、年間100万件におよぶ人工妊娠中絶を取り上げる。この時期を境に、生活問題はかつてのように直接外部化されるのではなく、生活の内部においても処理されるようになるからである。この転機は、日本社会の少子高齢化の先駆けでもあった。	同上	同上
9	「よりよい」生活への自己組織化―生活変動と生活問題(3)―	20世紀後半の生活変動は、世帯の規模を自らの手で縮小することで、豊かな生活を実現するという特徴をもっていた。この事情を、世帯人員別の家計データ、世帯規模や出生の動向などで確認する。生活を営む単位の自己組織化は、それまでの家族あり方や生涯像にも大きな影響を及ぼすことになる。	同上	同上
10	生活モデルの揺らぎと生涯像の主題化―生活変動と生活問題(4)―	20世紀後半には、男性稼ぎ手家族を生活モデルとして社会政策が体系化されるとともに、未曾有の少子高齢社会を迎え、21世紀には人口の減少局面に直面する。「よりよい」生活への努力と、政策展開が重ねられるほど、モデルとは乖離した状況が生み出され、生涯像が主題化される事情を検討する。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	産み育てることの変容と負荷―生涯像と生活課題(1)―	子どもを産み育てることが、生涯の当然の出来事ではなくなり、これほど意識的に選ばれる事柄となった時代はない。その背景と意味について、人生途上での選択の対象となる出産、子供を持つことの関係と意味の変容、産み育てることの負荷などの視点から検討するとともに、負荷という文脈からの離陸についても探ってみたい。	同上	同上
12	若者の「生きにくさ」と生涯デザイン―生涯像と生活課題(2)―	80年前後におよぶ長い生涯の確実さと、これまでの生活モデルの揺らぎと不確かさ。この乖離を最も鋭く感じているのが、子どもや若者にほかならない。しかも彼/彼女らは、かつてないほど「本当の自分」をと促されている。若者の「生きにくさ」という観点から、21世紀の社会像についても考える。	同上	同上
13	近代家族の揺らぎと家族の関係のゆくえ―生涯像と生活課題(3)―	近代家族という視点から20世紀の家族の特徴を整理するとともに、近代家族の特徴ゆえに引き起こされる課題について検討する。同時に、何らかの形での家族的な関係は、人が生まれ育ち、ケアを受け与え、それぞれの生き方を模索する場として、これからも代替が困難である事情を考察する。	同上	同上
14	高齢者の生活世界と社会的受容―生涯像と生活課題(4)―	未曾有の高齢化と長寿化について概観し、そこでの高齢者像や高齢社会像について検討する。様々な生活経験を積み重ねてきた高齢者の生活が、健康状態や社会的条件において、実に多様な性格を帯びていることを確認するとともに、かつてない長い生涯の社会的な受容について手がかりを得たい。	同上	同上
15	生活問題と生活課題―20世紀から21世紀へ―	20世紀の生活問題を2つの視点から整理し振り返ることによって、21世紀に直面する生活課題の特徴をあらためて考える。その上で、生涯のそれぞれの局面の主題化をとおして、21世紀社会の一つのあり方を展望してみたい。	中川　清（同志社大学教授）	中川　清（同志社大学教授）

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	共通科目（社会系）	科目コード	1120204	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　仕事・所得と資産選択　　（’０８）＝　（R）

〔主任講師（現職名）：大藪　千穂　（岐阜大学准教授）　〕

講義概要

会社に就職しまじめに働いていれば終身雇用が保証され年功序列型賃金体系のなかで給料は上がり、貯蓄をして、退職金をもらい年金を受給して‥‥という時代はもはや終わった。今日では、主体的に仕事と所得を考え、資産を選択することの必要性がますます高まっている。本科目では、主体的に生活およびその経済的側面のありかたをデザインするてがかりを受講者が得るための、知識の提供と検討能力の育成を行うことを目的とする。

授業の目標

全15回の講義を通じて、様々なライフステージ、ライフサイクル、ライフスタイルで必要となる生活とお金との関係を理解し、自ら自立した人間として、自分の生活とお金をコントロールできる力を養うことを目標とする。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	戦後の経済変化と生活	第二次世界大戦から60年以上が過ぎたが、その間にわが国は高度経済成長期、石油ショック、バブル経済を経て、長い不況期と好況期等様々な経済の変化を経験してきた。このような経済の変化によって生活は常に影響を受けている。経済の変化と生活は密接な関係にあることを解説する。 【キーワード】 高度経済成長、バブル経済、平成不況	大藪千穂(岐阜大学・准教授)	大藪千穂(岐阜大学・准教授)
2	外国の家計研究の歴史	外国の家計研究の歴史を、エンゲル以前、エンゲル、そしてエンゲル以後に分けて学び、エンゲル法則の活用について理解する。 【キーワード】 エンゲル、エンゲル係数、エンゲル法則、エンゲル関数	大藪千穂(岐阜大学・准教授)	大藪千穂(岐阜大学・准教授)
3	わが国の家計調査の歴史	家計簿が何のために何時ごろから使われ始めたのかをわが国の歴史から紹介し、どのように家計分析が国家経済のために活用されてきたかを理解する。また、現在よく使われる家計関連の調査とその活用方法を紹介する。 【キーワード】 政治算術、家計調査、生計費、家計	大藪千穂(岐阜大学・准教授)	大藪千穂(岐阜大学・准教授)
4	家計収支と家計簿の活用	国民経済の中の家計の位置を確認する。また、家計の収支関係に基づいて、一般的に用いられている家計簿のつけ方について紹介する。また家計簿を用いた家計分析について理解する。また家計をめぐる様々な法則について理解し、それらを家計チェックに活用できることを目指す。 【キーワード】 国民経済、家計収支、必需品、消費水準、消費者物価指数	大藪千穂(岐阜大学・准教授)	大藪千穂(岐阜大学・准教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	ライフサイクルと貯蓄、負債	人生にはそれぞれのライフステージがある。幼少時代、学校教育期間、就職、結婚、出産、熟年時代、退職、老後・・・・。人によって異なるが、一般的に通過するステージとその時にかかる費用を紹介し、生涯賃金との関係で貯蓄、負債の現状を理解する。 【キーワード】 ライフサイクル(生活周期)、ライフステージ(家族周期段階)、貯蓄、負債	大藪千穂(岐阜大学・准教授)	大藪千穂(岐阜大学・准教授)
6	社会保障と家計	一生、健康で元気に働ければよいが、人生には病気やケガなど予期せぬ出来ごとがおこるものである。そのような時のために、どのような保障があるのか、また自助努力で準備しなければならない保険にはどのようなものがあるか、その金額はどれほど必要なのかを紹介する。 【キーワード】 社会保険、社会福祉、公的扶助	大藪千穂(岐阜大学・准教授)	大藪千穂(岐阜大学・准教授)
7	若い人の仕事と生活設計	フリーターやニートという言葉が一般化してきたが、近年、若い人の就職が大きな問題となっている。日本型雇用制度が崩れている今、若い人の就職に対する意識、就職率、離職率の推移から、若年層のライフスタイルと経済について紹介する。そして自立した生活をするにはどのような生活設計をたて、またそれらの支援策はどうあるべきかを考える。 【キーワード】 フリーター、パート、アルバイト、ニート、ロストジェネレーション	大藪千穂(岐阜大学・准教授)	大藪千穂(岐阜大学・准教授)
8	結婚と離婚の経済	女性は24歳頃に結婚し、寿退職、専業主婦になり、子どもを育てる・・・という時代はほぼ終わった。今や女性の平均初婚年齢は27歳を超え、仕事を続ける女性も増えた。結婚は、経済的安定を得る方法ではなくなりつつある。また、女性の経済的安定ゆえか離婚率も上昇している。現在の結婚観と離婚観から、結婚と離婚の経済について紹介する。 【キーワード】 晩婚化、パラサイトシングル、熟年離婚、年金分割制度	大藪千穂(岐阜大学・准教授)	大藪千穂(岐阜大学・准教授)
9	共働き世帯と片働き世帯の経済	女性の自立や経済的安定のために共働き世帯が増加しているが、共働きと言っても、特に女性の就労形態によって、家計はかなり異なる。また、片働き世帯との家計の中身の比較を行うことによって、家計の何が違ってくるのかを理解する。 【キーワード】 共働き世帯、専業主婦世帯、母子世帯、父子世帯	大藪千穂(岐阜大学・准教授)	大藪千穂(岐阜大学・准教授)
10	教育と子への投資効果	子どもを生むだけでもお金はかかるが、近年は教育期間が長いので、大学まで卒業すると軽く1000万円を越す時代となった。どの教育段階で、どれほどの資金が必要で、その資金をどのように準備すればよいのか、また、それだけの投資効果は果たしてあるのか等、教育費が家計に与える影響について紹介する。 【キーワード】 義務教育費、学校教育費、学校外活動費、教育費の準備	大藪千穂(岐阜大学・准教授)	大藪千穂(岐阜大学・准教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
11	団塊世代と資産運用	団塊世代の大量退職が現実となってきているが、今後、その世代が消費や資産運用に及ぼす影響は大きい。団塊の世代の退職後の生活設計とそれを実現するために必要な資産運用について紹介する。 【キーワード】 団塊の世代、2007年問題、資産運用	大藪千穂(岐阜大学・准教授)	大藪千穂(岐阜大学・准教授)
12	高齢者世帯の生活と家計	高齢者世帯と言っても、勤労者の場合と無職の場合、単身の場合と夫婦の場合等、家計状態が様々であることを紹介する。また、高齢期の生活に必要な金額の算出方法を知り、どれほどの貯蓄が必要か、高齢期の生活設計の必要性を理解する。 【キーワード】 超高齢社会、少子高齢社会、社会保障費、消費者問題	大藪千穂(岐阜大学・准教授)	大藪千穂(岐阜大学・准教授)
13	生活者を取り巻く新たな経済・社会情勢	生活者は、綿密な生活設計をしていても、社会政策や経済変動など、手の届かない場所で生じする変化の影響を直接受けてしまう。近年の格差社会の出現はその例である。また、情報不足から、多重債務や自己破産などの消費者問題にも巻き込まれる人が増加している。このような新たな社会情勢について紹介する。 【キーワード】 格差社会、新しい貧困、多重債務、自己破産、電子マネー	大藪千穂(岐阜大学・准教授)	大藪千穂(岐阜大学・准教授)
14	情報化社会の生活	コンピュータやケイタイが広く普及した現在、情報は、日常生活のあらゆる局面を左右するに至っている。本章では、仕事や資産活用をはじめとして、生活の様々な事柄に対して、私たちは情報をどのように利用したらよいか、さらに、生活者の側から、どのような情報化社会を創っていけばよいかを考える。 【キーワード】 情報活動、意思決定、インターネット、セキュリティ、リスクマネージメント、デジタルデバイド、ユビキタス	杉原利治(岐阜大学・教授)	杉原利治(岐阜大学・教授)
15	持続可能な社会と生活	資源やエネルギー問題は家計と無関係ではない。21世紀が真に豊かな時代となるためには、私たちひとりひとりが、価値観やライフスタイルを見直す必要がある。本章では、日常生活の視点から、地域社会、そして地球規模の課題への生活者の寄与のあり方を考え、持続可能な社会を展望する。 【キーワード】 つながり、人的資産、社会的責任、社会的事業、パートナーシップ、持続可能性、ライフスタイル	杉原利治(岐阜大学・教授)	杉原利治(岐阜大学・教授)

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	共通科目（社会系）	科目コード	1120506	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 現代世界の結婚と家族 （’０８）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：宮本　みち子(放送大学教授)　〕

〔主任講師（現職名）：善積　京子(追手門学院大学教授)　〕

講義概要

先進国では、社会システムとしての結婚と家族の大きな変動が、その他の社会システムに大きな影響を及ぼし、人々の生活や人生の様相を変えつつある。晩婚化・同棲の一般化、婚外出産の増加、高い離婚率、出生率の低下、家族の脱制度化と個人化が進行し、いまや標準的な家族モデルは消失しつつあるといわれている。一方、経済発展の続くアジアの国々でも、結婚と家族の変容は顕著で、しかも変化のスピードは欧米諸国の経験より早い。そこで、この科目では、現代の結婚と家族の動向を比較文化の視角で見ていきながら、社会タイプの違いを超えて共通する傾向と、独自の特徴を整理する。

授業の目標

現代社会の動態と、それにともなってどのような課題があるかを学ぶ。授業を通して、結婚と家族のゆくえを広い視点から展望することを目標とする。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	人口統計からみた世界の結婚・家族	欧米の先進諸外国の後を追って、日本、そして他のアジア諸国でも人口転換による少子高齢化が進んでいる。世界の人口転換を概観した後に、結婚年齢・婚姻率・同棲率・世帯形態などの人口動態統計資料から、日本の結婚・家族の特徴と変容を世界の地域や欧米・アジア諸国との比較から考察していく。 【キーワード】 婚姻率、同棲率、世帯構成、少子高齢化社会	善積京子（追手門学院大学教授）	善積京子（追手門学院大学教授）
2	結婚と家族形成	欧米諸国でも工業化するアジアでも、晩婚化が進み、結婚の形態も変化している。そこで、若年層の結婚に関する意識と行動を日本・欧米・アジア諸国を比較しながらみる。また、子どもを持つことに関しても、大きな変化がみられる。その動向と、社会的背景を探る。	宮本みち子（放送大学教授）	宮本みち子（放送大学教授）
3	親密なパートナー関係の多様化と結婚	欧米諸国では、法律婚以外の親密なパートナー関係として、異性間や同性間の同棲やパートナーシップ登録が制度的に認められている。その変化の背景を概観し、法的保障の内容を紹介する。さらに、日本における法律婚以外の親密なパートナー関係に対する歴史的対応および現状を捉える。 【キーワード】 法律婚、事実婚、同性婚、パートナーシップ登録制度	善積京子（追手門学院大学教授）	善積京子（追手門学院大学教授）
4	グローバル化する家族	欧米諸国でもアジアでも、現代の家族はグローバル化の影響を強く受けている。外国人家事労働者の雇用が一般化している社会も多く、国際結婚も急増している。子どもの教育のための教育移民という現象もある。とくにアジアの事例を中心に紹介しながら、日本の現状を振り返る。	落合恵美子（京都大学大学院教授）	落合恵美子（京都大学大学院教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	子育て家族（1）―アメリカ―	子育ては私事として基本的に家族にまかされるアメリカ社会であるが、父親の育児参加率は北欧と並んで高く、民間の育児支援活動も盛んに行われている。育児期の男女がどのようにして家庭と仕事を両立させているのか、さまざまな階層や民族の背景に注目しながら具体的にみていく。	舩橋惠子（静岡大学教授）	舩橋惠子（静岡大学教授）
6	子育て家族（2）―フランス―	子どもは社会の宝として育児の社会保障を早くからすすめてきたフランス社会であるが、父親の育児参加率はアメリカや北欧と比べて停滞気味である。豊富な保育・教育制度を利用して、育児期の男女が家庭と仕事のバランスをとっていく様を、階層や歴史文化に注目しながら具体的にみていく。	舩橋惠子（静岡大学教授）	舩橋惠子（静岡大学教授）
7	子育て家族（3）―スウェーデン ―	スウェーデンでは子育ての社会化が進み、公的保育が公教育の一環として位置づけられている。子どもをもつ男女が仕事と家庭を両立させることができる社会制度と家族生活のあり方について、ワークライフ・バランスという視点から考察する。	高橋美恵子（大阪大学准教授）	高橋美恵子（大阪大学准教授）
8	子育て家族（4）―アジア・日本 ―	南欧や東アジアと並んで、日本は家族主義という類型にしばしば入れられる。ではそれらの社会の子育ての現状はどのようなものだろうか。アジアのいくつかの社会と日本の子育ての現状を比較しながら、家族主義がしばしば自由主義とセットになっていること、日本はその例外であることを明かにする。	落合恵美子（京都大学大学院教授）	落合恵美子（京都大学大学院教授）
9	高齢者と家族（1）アジア	アジアの高齢者は、依然として子どもを中心とした親族のケアに依存している。しかしそのケアのパターンは日本の常識と異なる部分がある。また、とりわけ外国人の介護労働者の雇用も日本との違いである。社会保障制度が未発達な家族主義体制下でのアジアの高齢者の現状を見る。	落合恵美子（京都大学大学院教授）	落合恵美子（京都大学大学院教授）
10	高齢者と家族（2）スウエーデン	高齢期を①介護を必要としない自立的な時期と②要介護の時期の2つに分けた上で、スウェーデンの高齢者の家族関係を実証的に論じる。とりわけ、②については、成人子との別居が基本のスウェーデンで、フォーマル・サポートとインフォーマル・サポートがどのように提供されているかを明らかにする。	西下彰俊（東京経済大学教授）	西下彰俊（東京経済大学教授）
11	高齢者と家族（3）日本	高齢期を①介護を必要としない自立的な時期と②要介護の時期の2つに分けた上で、日本の高齢者の家族関係を実証的に論じる。とりわけ、②については、同別居のライフスタイルが多様化している日本で、フォーマル・サポートとインフォーマル・サポートがどのように提供されているかを明らかにする。	西下彰俊（東京経済大学教授）	西下彰俊（東京経済大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
12	男性と家族	男性にとっての結婚と家族について、国際比較も交えて検討する。男性のライフステージとライフサイクルにそくして、恋愛、結婚、育児、介護の諸相を描き出す。その際に、仕事とのバランス、男性役割との関係、父性機能の発達の過程などの視点が重視される。	中村正（立命館大学大学院教授）	中村正（立命館大学大学院教授）
13	変容する家族問題	ドメスティック・バイオレンス、子ども虐待、高齢者虐待などの家庭内暴力、不登校、ひきこもり、デートバイオレンスなど、背景に家族の問題があるテーマを扱う。家族における関係性の病理としてこれらを考察する。暴力の心理社会的特徴、家庭内暴力対策の国際比較もおこなう。	中村正（立命館大学大学院教授）	中村正（立命館大学大学院教授）
14	貧困・社会的排除と家族	脱工業化、脱近代化が、家族の福祉追求機能を困難にし、新たな課題を提示している。また、これらの現象は、家族の多様化・個人化・脱制度化とも関係している。このような実態を、貧困、生活ストレス、相対的剥奪、社会的排除という切り口でみる。	宮本みち子（放送大学教授）	宮本みち子（放送大学教授）
15	結婚・家族のゆくえ	先進諸国を中心に、親密なパートナー関係・親子関係・家族のあり方がどのように変容し、また現在どのような問題を抱えているかについて、これまでの講義を踏まえて総括するとともに、結婚・家族の今後のゆくえを探る。 【キーワード】 近代結婚、婚姻制度	善積京子（追手門学院大学教授） 宮本みち子（放送大学教授）	善積京子（追手門学院大学教授） 宮本みち子（放送大学教授）

＝　統計学入門（‘０４）＝（Ｒ）

〔主任講師：盛山　和夫（東京大学大学院教授）〕

全体のねらい

現代社会の中でさまざまに使われている統計データと統計学知識とについて、一般教養レベルで知っておくことが望ましいと思われる事柄を、分かり易く、具体例をあげながら解説する。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	統計とは何か	統計の具体例を示しながら、統計というものの基本的な性質と特性を明らかにする。また、統計学の発達史を簡単にふりかえりながら、統計学が目指してきたものと、それが社会に対して持つ意義とについて概説する。	盛山　和夫（東京大学大学院教授）	盛山　和夫(東京大学大学院教授)
2	量的データと質的データ	統計データは基本的に量的データであるが、経験的データの中には質的なものも少なくない。経験的現象の探求にとって、量的データと質的データとがそれぞれはたす役割について解説する。	同　上	同　上
3	分布を読む	具体例を挙げながら平均、比率、中央値、分散などの統計データの基本指標を解説し、それぞれの特性を説明する。	同　上	同　上
4	関連を測定する	具体例を挙げながら、２変数のあいだの関連の仕方を測定するさまざまな指標を紹介する。カテゴリカル変数と量的変数の両方を含む。	同　上	同　上
5	データはどう収集されるか	統計データは実際にはどうやって収集されるのか。官庁統計、世論調査、学術的調査、保健データなどを中心に紹介し、物理－化学的データについても言及する。	同　上	同　上
6	確率で考える	確率に関する基本的な諸概念を説明し、統計データからなる現象を確立という概念によって理解することの基本的な意味を考察する。	同　上	同　上
7	確率変数とその分布	統計データの分析において頻繁に用いられる主要な確率変数とその分布および用いられ方について解説する。	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
8	検定という考え方	統計的検定の基本的原理を解説し、平均と比率についての検定法を述べる。	盛山　和夫	盛山　和夫
9	クロス表の読み方と検定	クロス表はどのように読まれるか。また、どのように提示すべきか。関連の仕方はどのように検定されるか。	同　上	同　上
10	回帰分析	多変量解析の基本をなす回帰分析について、その考え方、適用のしかた、結果の読み方を解説する。	同　上	同　上
11	計量モデルの意味	統計データを分析する手法としてさまざまに発展させられている計量モデルについて、その基本的意味を解説し、使用法の注意点と有効性とについて具体例を用いながら説明する。	同　上	同　上
12	生存時間分析	生存時間分析は時間的な流れの中で生起する現象を分析する手法として、計量モデルの中でもユニークな意義を担っており、社会学、人口学、医学、生物学などで重要な役割を果たしている。このモデルを解説し、使用法を説明する。	同　上	同　上
13	因果関係を考える	データの構造とメカニズムの構造との違いに注意しながら、統計的データから現象世界における因果関係についてはどのように接近することができるかについて解説する。	同　上	同　上
14	統計のウソにだまされない	統計データはしばしば誤って表示されたり理解されたりする。その実例をあげながら、統計のウソにだまされないためのいくつかの注意点を解説する。	同　上	同　上
15	社会における統計	統計データは今日の社会にとって、なくてはならない存在になっている。プライバシー問題や無駄なデータ集めなどに注意しながら、統計データを社会の中で有意義に利用することの重要性を述べる。	同　上	同　上

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	共通科目（社会系）	科目コード	1124102	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　社会統計学（‘０７）＝（Ｒ）

〔主任講師（現職名）：片瀬　一男（東北学院大学教授）〕

講義概要

社会調査や実験から得られたデータをもとに、統計的分析を行なうための基礎を学ぶ。その際、因果推論の方法、すなわちクロス表分析、ｔ検定、分散分析（F 検定）および回帰分析による仮説検定を中心に講義をすすめる。そして、初等統計学の基礎知識に関する理解を十分深めた上で、実践的な分析技法にすすむ。また、講義のなかでは、実際の分析例を数多く紹介し、受講者には単に講義を聞くだけでなく、例題や練習問題を解くことを課す。したがって、受講に際して、とくに３回目以降は、電卓（平方根を開く機能とメモリー機能のあるもの）および筆記具を用意すること。

授業の目標

社会調査や実験のデータに関して、基本的な統計的分析を行なうための技法を身につけることが主要な目標となる。そして、仮説の検定によって因果推論を行う思考力の習得を目指すとともに、統計的分析をもちいた既存の論文や報告書などを読みとる力を養う。さらに、実際の分析例に数多く触れることで、統計的分析をつうじて社会現象の背後にある因果関係を解明する愉しみを体験することも授業の目標となる。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	調査はどのように行われるか	社会調査の目的は何か、また調査から得られるデータにはどのような種類があるか、またデータ分析において理論や仮説がどんな役割を果たすのか説明した上で、さかのぼって調査の設計から因果図式・仮説の構成、質問文の作成など一連の社会調査の流れを解説する。	片瀬　一男（東北学院大学教授）	片瀬　一男（東北学院大学教授）
2	調査データをどう分析するか	社会調査データの分析における記述と説明を具体例をもとに解説し、度数分布や記述統計による記述、統計的説明の意味を示す。また、統計的説明において仮説の検定がもつ意味をサンプリングという考え方も踏まえて解説する。	片瀬　一男（東北学院大学教授）	片瀬　一男（東北学院大学教授）
3	度数分布表を作成する	社会調査データ分析の出発点となる記述の基礎として、度数分布表の作成、百分率（パーセンテージ）の計算法などを変数の性質（離散変数・連続変数）ごとに解説し、累積度数分布やパーセンタイル、分位数の概念についても理解を深める。	片瀬　一男（東北学院大学教授）	片瀬　一男（東北学院大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	度数分布を記述する	作成された度数分布表をもとに、これを記述する統計量として、代表値（最頻値・中央値・平均値）と変動の測度（多様性指数・範囲・分散・標準偏差）の計算の方法、またそれがもつ意味について紹介する。	阿部　晃士（岩手県立大学准教授）	阿部　晃士（岩手県立大学准教授）
5	クロス表を作成する	２つの離散変数の関係から因果推論をするために、クロス集計を行う方法について解説する。そして、標本に基づく母集団に関する推定の考え方を紹介しながら、仮説の統計的検定の意味について理解を促す。	片瀬　一男（東北学院大学教授）	片瀬　一男（東北学院大学教授）
6	クロス表を分析する：カイ二乗検定	クロス表から因果関係に関する仮説検定を行う技法として、カイ二乗検定の方法を学ぶ。カイ二乗検定統計量の標本分布から検定統計量のもつ意味を説明し、自由度の概念を理解したうえで、実際にカイ二乗検定による仮説の検討を行う。	片瀬　一男（東北学院大学教授）	片瀬　一男（東北学院大学教授）
7	２つの平均の差を検定する(1)：正規分布	標準誤差が既知の場合に、連続変数における２つの平均の間に、統計的にみて有意な差があるか検討するために正規分布を利用する方法を紹介する。正規分布の性質を理解したうえで、実際に正規分布を利用した仮説の検討を行う。	阿部　晃士（岩手県立大学准教授）	阿部　晃士（岩手県立大学准教授）
8	２つの平均の差を検定する(2)：ｔ検定	標準誤差が未知の場合に、連続変数における２つの平均の間に、統計的に有意な差があるか検討する方法としてｔ検定を紹介する。検定統計量としてのｔ分布の性質を理解したうえで、実際にｔ検定による仮説の検討を行う。	阿部　晃士（岩手県立大学准教授）	阿部　晃士（岩手県立大学准教授）
9	複数の平均の差を検定する：分散分析	複数の標本平均の間に差があるかどうかを検討するための統計的手続きとして、分散分析について学ぶ。連続変数全体のばらつきを、独立変数による群効果とそれ以外の誤差によるばらつきとに分離して、**F**比を求める手順や考え方を解説していく。	高橋　征仁（山口大学准教授）	高橋　征仁（山口大学准教授）
10	２つの連続変数間の関係を推定する(1)：回帰分析の基礎	２つの連続変数の関係から因果推論を行う方法として単回帰の基礎を学ぶ。散布図や回帰直線に関する理解を深めた後、最小二乗法により線形回帰方程式を推定する方法を実際の研究例を示しながら解説する。	阿部　晃士（岩手県立大学准教授）	阿部　晃士（岩手県立大学准教授）
11	２つの連続変数間の関係を推定する(2)：回帰分析の応用	回帰分析から計算される関連の測度である決定係数と相関係数がどんな意味をもつか説明し、併せてその検定の仕方を学ぶ。さらに、標準化された回帰係数（ベータ係数）を計算することの意味を解説する。	阿部　晃士（岩手県立大学准教授）	阿部　晃士（岩手県立大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	離散変数間の関連を測定する：関連係数	クロス表における２つの離散変数の関連の強さを示す関連係数とその計算法や使い方を説明する。具体的には最適予測係数、コンティンジェンシー係数、ファイ係数、ユールの関連係数などを取り上げる。	高橋　征仁（山口大学准教授）	高橋　征仁（山口大学准教授）
13	多重クロス表を分析する(1)：エラボレーション	独立変数と従属変数の関係を明らかにする方法として、第３変数を用いて多重クロス表を作成し、分析する方法――エラボレーションについて学ぶ。エラボレーションによって、疑似相関や付加効果、交互作用などの変数間の関連が解明されることになる。	高橋　征仁（山口大学准教授）	高橋　征仁（山口大学准教授）
14	多重クロス表を分析する(2)：エラボレーション	第３変数の影響を除去して２変数間の相関を捉える方法として、偏相関係数を取り上げ、その考え方や計算方法について学ぶ。また、この偏相関係数が、もとの単純関連（単相関）や分割関連、周辺関連とどのような関係にあるのかを明らかにする。	高橋　征仁（山口大学准教授）	高橋　征仁（山口大学准教授）
15	講義のまとめ：調査報告書や論文の読み方・書き方	現代の情報化社会における統計リテラシーという観点から、これまで学習してきたことを振り返り、比較・検討していく。そして実際に調査報告書や論文を読んだり、自分で作成したりする際の注意点を取り上げる。さらに、社会統計学や社会調査について、今後の学習指針を示す。	高橋　征仁（山口大学准教授）	高橋　征仁（山口大学准教授）

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	基礎科目	科目コード	1130803	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 初歩からの数学 （’０８）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：岡本　和夫（東京大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：長岡　亮介（放送大学教授）〕

講義概要

数学は、体系性を重んじる科学諸分野の中でも、際立って論理性を重視する学問である。そのために、論理的に積み上げていくという過程の1ステップを踏みはずしただけで、その後の展開がまったく理解できなくなってしまう、という側面があり（実はこれが全面的に正しいわけでは決してないのだが）、そのために数学を不得手と思い，その後の学習を諦める多くの人々を作ってきた。

さらに近年は、中等教育における数学の学習が「大学入試のために」を口実に，数学的には意味の乏しい些末な基本問題とその解法の技巧の機械的な暗記に傾く流れが全国的に定着してきたせいであろうが、大学において数学の基礎知識を必要とする分野を専攻する学生の中にも、その基礎となる数学の基本的な知識が十分しっかりしているとは言えない人が増えてきた。

本講義は、工学系、社会科学系をはじめ、数学的な知識と技術を必須とする専門分野を目指す人々、言い換えれば数学のユーザである人々に、微積分や線型代数の基本を、グラフィクスをはじめコンピュータの先進的機能を利用したり，知的で親しみやすい対話，鼎談を講義の基本スタイルとして採用することで分かりやすく、かつ、数学的に見通し良く解説するものである。

「三角関数、対数関数で躓いてしまったが、それまでは数学はそこそこであった」、「もう少し高校で頑張っておけば良かった」、そう思っている人々が講義で想定する学生である。

授業の目標

文部科学省「学習指導要領」に厳密に従うという意味ではないが、受講生には、高校1年生程度までの数学の知識（たとえば，1次，2次方程式，不等式の解法，1次，2次関数のグラフ，ピュタゴラスの定理（三平方の定理）などの初等幾何の基本的事実）を仮定し，他方，高校2年生以上の数学の知識に関しては．「多少記憶がある」という程度であってもしっかりと学習に取り組むことで十分理解できるように基本から解説する．

高校数学の範囲にある数学の基礎知識を，大学で役に立つレベルの確実なものとするのが目標である．

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	ベクトルと1次変換（1）	高校では「ベクトル」も「1次変換」も教科書にある単元であるが、両者を統合的に扱うことの意味はほとんど扱われてこなかったと言えよう．ここでは、ベクトルの考え，あるいは線型性の概念と方法が数学において如何に重要なものであるか述べる．	岡本　和夫（東京大学教授） 長岡　亮介（放送大学教授）	岡本　和夫（東京大学教授） 長岡　亮介（放送大学教授）
2	ベクトルと1次変換（2）	前回を受けて，やや発展的な話題を紹介する。コンピュータグラフィクスなどで必須の線型変換など、具体的な応用例を含めて紹介する．	長岡　亮介（放送大学教授）	長岡　亮介（放送大学教授）
3	多変数関数入門	高等学校では潜在的にしか扱われていない多変数関数を，2変数の場合に限定して，1変数関数と扱いの似ている部分、異っている部分を際立たせるように解説する．	同　上	同　上
4	三角比	三角関数の概念を確実に理解するために，測量の基礎となっている三角法の基礎を講ずる．	岡本　和夫（東京大学教授）	岡本　和夫（東京大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	三角関数	三角関数のグラフ，三角関数の間の諸関係を，公式暗記ではなく，理解することを目指す.	岡本 和夫(東京大学教授)	岡本 和夫(東京大学教授)
6	加法定理とその応用	三角関数の加法定理とそれに関係する諸公式を，それぞれの持つ数学的な意味が理解できるように解説する.	同 上	同 上
7	有限から無限へ	極限について解説し、微分法の学習への橋渡しとする. 関数の和に関する不思議な世界を紹介する.	同 上	同 上
8	微分法の基礎(1)	微分の基礎概念(微分係数、導関数、接線、増減、凹凸)を見通し良くまとめる. 積，商の微分公式と合成関数，逆関数の微分公式をもとに，有理関数，代数関数までの微分計算が出来るようにする.	同 上	同 上
9	微分法の基礎(2)	三角関数初等超越関数の微分法を講ずる.	長岡 亮介(放送大学教授)	長岡 亮介(放送大学教授)
10	微分法の基礎(3)	指数・対数関数をその定義から出発して、これらについて，微分法からのアプリーチを理解する.	同 上	同 上
11	積分法の基礎(1)	原始関数、不定積分、定積分、など積分のついての基本概念を講ずる.	長岡 亮介(放送大学教授)	長岡 亮介(放送大学教授)
12	積分法の基礎(2)	置換積分、部分積分など計算の発展的な基本技法を学ぶ.	同 上	同 上
13	積分法の基礎(3)	積分法の本来の意味である区分求積法的なアプローチを紹介する. 様々な図形の面積、体積、長さなどを求めるための基本的な考え方を理解する.	同 上	同 上
14	微分方程式入門	現象を数学的に記述するためのもっとも基本となる方法を初歩から講ずる	岡本 和夫(東京大学教授)	岡本 和夫(東京大学教授)
15	曲線とその表現	高校では、関数のグラフと曲線について体系的に扱っているとは必ずしも言えない. 曲線という幾何学的対象に対して、数学的に可能な様々なアプローチを紹介する.	同 上	同 上

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	基礎科目	科目コード	1135503	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　数学再入門（‘０７）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：　長岡　亮介（放送大学教授）〕

講義概要

小学校の中学年以下では算数は体育と並んで人気科目であるという。それが中学、高校へと進むに連れて「苦手」や「嫌い」な人が増えてくるという。確かに「数学はいったん分からなくなるとその先が続かない」という科目である。その内容が理解できない抽象的な議論の《理解という名の暗記》を‘勉めて強い’られたなら確かに数学の学習は苦痛でしかないだろう。「一体数学は何に役立つのか？」という問はしばしばこのような苦痛体験と重なっている。

数学が分からなくなるには、いろいろな理由がある。その中で特に深刻なのは、現代の学校における数学教育が、数学的な概念、理論、方法の意味のより深い理解というよりは、些末な数学的計算や問題解法の技巧の知識の伝達に傾かざるを得ないことである。確かに、外国語を習得するのと同じように、数学にも退屈な反復練習が必要であるが、肝腎なことは、数学の理論を広い視野から展望して意味を理解することである。そういう理解があってはじめて数学は美しさも有用性も分かってくる。

たまたま、理解の体験の機会に恵まれなかったために、本来であれば高等数学の世界を探訪できたはずの人々、数理的な知性や発想を仕事で活用できたはずの人々が、その可能性を高等学校くらいで自ら断ってしまっているとすればまことに残念なことではないだろうか。

本講義は、最初はわかっていたはずの中学数学、急に分からなくなった高校数学の内容を、大学の立場から俯瞰的に見直すことを通じて、個々の数学の主題のエッセンスの理解と数学的思考法の面白さと楽しさと威力の再発見を目指すものである．放送授業では、数学の技術的な修練には力点をおかず、数学的な思想と方法の豊かさを具体的な素材を利用して分かりやすく伝え、他方、印刷教材には難易の異なるレベルの演習問題を用意し、これに対して付属 DVD-ROM による映像解説をつけて多様な学力の学生諸君の多様なニーズに弾力的に応えることを目指している（一般的な DVD プレーヤーでは見ることができません。DVD-ROM ドライブを搭載したパソコンが必要です）。

授業の目標

本講義の目標は、様々な分野で活躍する放送大学の学生諸君が、数学の必要性を感じつつも「敷居の高さ」のために大学の数学の学習に逡巡している状況を考慮し、中学高校で学んだ数学を高い立場から見通し良く整理することによってより本格的な数学の勉強に向かう基礎知識と勇気をつけてもらうのが本講義の最終目標である。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	式とはなにか	数学が苦手な人は「数式が分からない」という人が多い。数式は、人工的な記号を使った数学の言語であるから、その意味がしっくりと分からないと単なる「抽象的で意味不明の記号」に映ってしまう。数を表す文字（未知数の考え方）、演算を表す記号（代数的記号法）の意味を考え直す。	長岡　亮介（放送大学教授）	長岡　亮介（放送大学教授）
2	数とはなにか	数学における基本対象は数である。しかし数と数を表現する記号(もっとも簡単なものは数字)の区別も曖昧な人も多い。ここでは数と数記号の基本を学ぶ。0.999999……=1 や正の数、負の数の積のような初等的な話題から超越数の話題まで、数についての興味深い話題を追い掛ける。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
3	方程式・不等式とは何か	方程式、不等式は、中学、高校では、その解法の習得に重点がおかれ包括的に意味を考える機会は滅多にない。ここでは、方程式、不等式の話題を現代の集合論の立ち場を踏まえて概観する。	同上	同上
4	関数とはなにか	関数は、変化を記述するための数学の必須の道具である。しかし、関数の捉え方は多様である。様々な関数へのアプローチを通じて、関数の概念を内容豊かに理解してもらうことを目指す。	同上	同上
5	指数・対数とはなにか	指数、対数は、自然や社会の現象にもっとも頻繁に登場する関数である。しかし、技術的な詳細に埋もれがちで、その理論的意味を正しく捉えることに失敗することが多い。ここでは、指数関数、対数関数の数学的な意味を講ずる。	同上	同上
6	三角関数とはなにか	「サイン、コサインから数学が苦手になった」という人は少なくない。指数関数、対数関数と並んで、三角関数は確かに特有の難しさをもつ。他方、応用面でのその重要性において三角関数は抜きん出ている。自然科学の諸領域で三角関数なしに記述できるものは存在しないといっても過言でないであろう。ここでは、「加法定理」をはじめとする三角関数の基本の理解を目指す。	同上	同上
7	解析幾何とはなにか	図形は数と並んで数学のもっとも基本的な対象である。しかし図形へのアプローチは多様である。ここでは、初等的な幾何の話題に対し、古典的な総合幾何のアプローチと近代的な解析幾何のアプローチを取り上げ、それぞれの特質を比較しながら、両者の基本的な理解を目指す。	同上	同上
8	ベクトルとはなにか	物理学をはじめ、自然系諸科学で必須のベクトルの概念を高等数学の立ち場を踏まえて紹介する。「大きさと向きをもった量」といった学校数学的な理解を深化させて大学で学ぶ線型代数を展望する。	同上	同上
9	場合の数とはなにか	ものごとを判断するにあたって、すべての可能性を列挙することは、しばしばもっとも重要な議論の出発点である。「すべての可能性を列挙する」ための効率的な方法が「場合の数」あるいは「順列組み合わせ」と呼ばれるものであり、これはいわゆる「有限数学」の基礎である。ここでは、順列組合わせの基本的な考え方を学ぶ。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	確率とはなにか	今日、確率は天気予報のような日常生活にも登場する数学的概念であるが、その意味を正しく捉えることは意外に難しい。ここでは「順列組み合わせ」に基づく初等的な組合わせ論的確率を中心に、確率の基本的な考え方を講ずる。	同上	同上
11	数列とはなにか	わが国の教育では、数列について、等差数列、等比数列ばかりに力点がおかれているが、ここでは微積分を視野において差分（階差数列）、和分（数列和）の考え方を講ずる。	同上	同上
12	数学的帰納法とはなにか	フランスでは「完全帰納法」と呼ばれるこの論法は、数学的な思考の原点ともいうべき重要なものであるが、自明な場合への適用練習を超えてその本質的な意味を理解するのは難しい。ここでは情報処理言語でも重要な再帰関数の考え方を視野に入れて数学的帰納法の考え方を学ぶ。	同上	同上
13	微分とはなにか	微分の基礎人類が手にいれた数学的な技法の中で微分ほど奥深くかつ単純なものはない。ここでは、微分の考え方に至る歴史を踏まえ、微分という計算（calculus）の根本の理解を目指す。	同上	同上
14	積分とはなにか	古来より面積や体積を求める問題は、実用的な意味からも多くの文化圏で研究されてきた主題であった。17世紀に発見された積分法は、このような伝統的なアプローチがすべて単なる無駄であったと総括されるほど革新的な方法であった。ここでは、近代数学の華ともいうべき微積分の意味の理解を目指す。	同上	同上
15	「数学再入門」を超えて	数学再入門の範囲の数学の限界を述べる。その先に開かれる目眩めくすばらしい数理世界を展望するため、最近は高校数学からも排除されてしまった微分方程式の話題を入門的に紹介する。	同上	同上

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	基礎科目	科目コード	1132903	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝ 身近な統計（‘07）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：熊原　啓作　（放送大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：渡辺　美智子（東洋大学教授）〕

講義概要

高度情報化社会が謳われる中で，私たちの身の回りにはテレビや新聞・雑誌・インターネット等を通して多種多様な統計情報があふれています。本講義では，統計の基本的な考え方，データの統計的活用の理論と方法を解説するだけではなく，諸種の統計情報が企業や行政の意思決定および社会・経済・自然現象の解明に具体的に活用されている事例を（VTR映像で）紹介します。また，更に具体的な理解を深めるため，身近なデータの表計算ソフトを使った簡単な分析方法も説明します。

授業の目標

統計の考え方と記述統計・推測統計の基礎を，理論だけではなく，具体的にそれらが社会で活用されている事例（実務家のショートレクチャーを含めた現場のVTR映像）や表計算ソフトを活用した分析操作を通して学んでいきます。とくに，諸種の具体的な統計グラフや統計数字に関して，具体的な意味を知り，そこから正しく情報を読み取ることができるようになることを目標とします。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	論より数字， 勘より統計 ～私たちの身近で活躍する統計情報～	スーパーの棚割の決定から新薬の認定，政府の行政施策，コンピュータウイルス・不正アクセス等の検出，プロスポーツの戦略分析，企業活動を支える品質管理活動など，社会で活用される統計の役割を紹介し，統計の一般的な定義と機能，Fact ControlやEvidence Based Practiceの考え方，情報化と統計環境の変化，統計分析とコンピュータソフトウェアの関係を解説し，科目の全体構成を説明します。	熊原啓作（放送大学教授） 渡辺美智子（東洋大学教授）	熊原啓作（放送大学教授） 渡辺美智子（東洋大学教授）
2	データのばらつきを表やグラフで要約する（質的データの場合） ～度数分布表とパレート図～	統計データの特徴と分布の意味，質的データに対する度数分布表とそのグラフ（パレート図）の作り方と読み方を解説します。とくに，ばらつきのあるデータをまとめることと，分布という視点を持てるようになることを目指します。 キーワード： 度数分布表（質的データ），ケースと変数，データのばらつきと分布， 質的データと量的データ，度数分布表と相対度数・累積度数，パレート図	同上	同上
3	データのばらつきを表やグラフで要約する（量的データの場合） ～度数分布表とヒストグラム～	量的データに対してそのデータのばらつきの様子（分布）を記述する方法とそこからの情報の読み取り方を解説します。具体的には，量的データに対する度数分布表とヒストグラムの作成方法，ヒストグラムの形状の特徴などを説明します。 キーワード： 度数分布表（量的データ），階級・階級値・階級幅，ヒストグラム，単峰性・多峰性，歪んだ分布，外れ値	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	データのばらつきを数字でまとめる ～平均値・中央値と箱ひげ図～	分布の特徴を数値で表すことの意味を理解し，代表値としての平均値，中央値，最頻値の特徴を説明します。この回では，それらを目的やデータの状況に応じて，使い分けができるようになることを目指します。また，簡単に分布の様子がわかる箱ひげ図を紹介します。 キーワード： 基本統計，平均値と中央値，四分位数，箱ひげ図	同上	同上
5	ばらつきの大きさを測る ～シグマ（標準偏差）の活用～	ばらつきの大きさの尺度である。分散と標準偏差を解説し，とくに，標準偏差の活用として，正規分布と１シグマ２シグマ３シグマの法則との関係，標準得点（ｚスコア），偏差値を説明します。 キーワード： 偏差，分散，標準偏差，標本分散（不偏分散），偏差値，１シグマ２シグマ３シグマの法則	同上	同上
6	格差を測る ～ローレンツ曲線とジニ係数～	分布の形状を測る基本統計量として，歪度と尖度を紹介します。 また，ばらつきの大きさを評価する指標として変動係数を解説し，とくに格差の尺度としても使用されるジニ係数やローレンツ曲線などを解説します。 キーワード： 歪度，尖度，変動係数，ジニ係数，ローレンツ曲線	同上	同上
7	不確実な出来事を確率で考える ～2 項分布～	確率の定義と身近な確率の使われ方，確率変数の定義とその期待値の意味を解説します。次に，理論分布としての 2 項分布を解説し，具体的な確率計算と適用場面を紹介します。 キーワード： 確率　大数の法則　確率変数　期待値　２項確率　２項分布	同上	同上
8	不確実な出来事を確率で考える ～正規分布～	確率分布モデルとしての正規分布を解説し，正規分布の確率計算の方法と活用の仕方を解説します。 キーワード： 正規分布　標準正規分布　上側(下側)確率　両側確率　統計数値表，NORMDIST 関数	同上	同上
9	統計を作る－部分から全体を知る ～標本調査～	母集団と標本，全数調査と標本調査，標本調査におけるランダムサンプリングの考え方と具体的な方法を解説します。 キーワード： 母集団と標本（サンプル），無作為標本（ランダムサンプル），無作為標本抽出（ランダムサンプリング），乱数	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	調査結果の誤差を知る ～推定値と標本誤差～	標本調査における誤差の評価の仕組みを解説します。具体的に，標本分布と標準誤差の関係を説明し，比率の調査，平均の調査を区別して標本誤差の求め方を学習します。 キーワード： 標本分布，標準誤差，標本誤差，母比率，母平均	同上	同上
11	標本から仮説の真偽を判断する ～統計的仮説検定の考え方～	母集団に関する仮説の真偽を判断するための統計的仮説検定のロジックを解説します。とくに，帰無仮説と対立仮説の違い，検定の方向性，検定統計量と棄却域，有意水準などの意味とランダムサンプリングとランダム割付の違いを学習します。 キーワード： 統計的検定，帰無仮説，対立仮説，2種類の過誤，有意水準，危険率，有意確率	同上	同上
12	データから関係を探る ～クロス集計表の読み方～	2変数の間の関係をデータから記述する方法として，とくに質的変数に対して，クロス表の読み方，列効果と行効果，交互作用効果の意味を解説し，独立性の検定としてカイ2乗検定の方法を説明します。 キーワード： 連関，クロス集計表，行（列）比率，特化係数，独立性，期待度数	同上	同上
13	関係のパターンを読む ～相関関係と傾向線～	量的データ間の関係を見るためのグラフとして散布図の読み方を説明し，とくに相関関係と相関係数を解説します。また，傾向線としての単回帰直線を学習します。 キーワード： 散布図，相関関係，相関係数，傾向線，単回帰直線	同上	同上
14	時系列データの分析 ～変化の記述と将来の予測～	時間に依存して取られるデータの記述の方法として，時系列グラフの描き方と読み方，時系列データの構成要素を説明します。また，傾向や変化の大きさをつかむための加工系列として，指数，移動平均を学習し，移動平均を利用した季節調整の考え方を学びます。 キーワード： 時系列データ，時系列グラフ，トレンド，季節変動，移動平均，季節調整	同上	同上
15	知識創造社会を支える統計 ～全体のまとめ～	高度に情報化とグローバル化が進む21世紀の知識創造型の社会の中で，既に私たちの身近な生活と深く係わっている統計の意義と活用の実態を講義のまとめを通して，再度，学習します。また，問題練習を通して全体の講義の要点を復習します。	同上	同上

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	基礎科目	科目コード	1130706	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 初歩からの物理学 （’０８）＝（ＴＶ）

－物理へようこそ－

〔主任講師（現職名）：生井澤　寛（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：鈴木　久男（北海道大学大学院准教授）〕

講義概要

物理によって私たちは、原子・分子やもっと小さな世界から宇宙のような大きい世界まで、長さの違いが60桁以上も違う範囲の自然の様子を理解することが出来るようになった。皆さんが日常的に使う携帯電話の仕掛けや、飛行機が飛ぶ理由、脳の働きや遺伝・発生などの生命現象も、物理の助けで判るようになってきた。世界は物理であふれているといってもよい。そこでこの科目では、物理に関するいろいろな謎を出していって、それらの謎がどう解かれていくかを見ながら、皆さんを物理の世界へ誘いたい。また、物理の基礎的概念を、単にその内容だけでなく、何故必要とされたか、どう発展していったかまでを含め、皆さんと一緒に理解して行くつもりである。そのために、身の回りの物で出来る実験を紹介したり、課題を出して行く。是非自分の力でやって欲しい。安全にかかわることについて、物理がいかに大切な働きをするかも見てゆこう。

授業の目標

高校から大学へ進む人たちが物理を学ぶときに感ずるギャップを埋めたり、物理を学んだことはない人や物理を知りたいが後込みしている人たちを、物理の世界に誘う招待状になることおよび物理の楽しみを味わうことを目標にする。内容としては、高校までで学ぶことになっている物理を、広い範囲で紹介するとともに、現代物理の柱となる相対論や量子の論理に触れる。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	物理は生きている	物理とはなんだろう。Q&A 形式と身近にあるもので皆さんも出来る実験をやりながら、日ごろ接するものや現象の中から、特に安全にかかわる事柄を取り上げ、物理がいろいろなところでいかに生き生きと活躍しているかを見てゆこう。たとえば音をとって考えよう。音とはなんだろうと考え、出来る範囲で実験してみる。物や現象について、なんだろう、なぜ、どうしてと問うのが物理の考え方なのである。記号や数式を怖がらずに物理と仲良くなろう。 【キーワード】 物理を知って安全な暮らしを、物理の考え方、音とは何だろう	生井澤　寛（放送大学教授）	生井澤　寛（放送大学教授）
2	力とはなんだろう	力の作用のうち、支える(つりあい)、動かす(運動)、形を変える(変形)の3つについて考える。つりあいを見ると、力には大きさと方向が大事な要素であること(力はベクトル)、広がりのある物体に作用するときは、作用点が大事であること(力のモーメント)、作用が面を通してのときは、面積あたりの力(圧力)が重要なことを、実験しながら見て行く。次に運動に移る。力は運動の何を変えるのだろうか。この疑問を突き詰めると、ニュートンに迫ることが出来、運動の基本法則に行き着く。運動の例として、等加速度運動、等速円運動を考え、重力と落下の謎を解こう。 【キーワード】 力、つりあい、運動、変形、ベクトル、作用点、支点、力のモーメント、圧力、パスカルの原理、速度、加速度、ボール回し(等速円運動)、等速直線運動、運動の基本法則、等加速度運動、重力、落下	生井澤　寛（放送大学教授）	生井澤　寛（放送大学教授）
3	力はいつも仕事をするか	実感に基づいて仕事の定義を与え,前回解いた落下運動を分析すると、自然に位置エネルギーと運動エネルギーという概念が出て、全エネルギーの保存則に導かれる。 キャッチボールをやりながら、運動するものを受け取る際の衝撃が、運動量という概念でうまく表せることを見よう。運動量が保存することを体験するとともに、運動量保存則が第3法則によることを示す。ロケットがなぜ飛ぶかも理解できる。 【キーワード】 仕事、エネルギー、運動エネルギー、位置エネルギー、エネルギー保存則、運動量、運動量保存則、ロケット	生井澤　寛（放送大学教授）	生井澤　寛（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	まわるコマはなぜ倒れないか	コマを作って回してみよう。速くまわるコマは、どうやれば出来るのだろうか。コマを手で倒そうとしてもなかなか倒れない。なぜかを考えると、自然と角運動量という量に行き着き、角運動量の保存則に導かれる。惑星の運動の経験法則（ケプラーの法則）、運動の基本法則と第2回のボール回し（等速円運動）で学んだ事柄を使うと、万有引力の法則を導くことが出来、ニュートンに行き着く。こうして落下の原因が判る。 【キーワード】 コマ、角運動量、角運動量保存則、惑星の運動、ケプラーの法則、万有引力、重力加速度	生井澤　寛（放送大学教授）	生井澤　寛（放送大学教授）
5	アインシュタインの考えたこと	走る電車の中でボールを投げれば、ボールの速さは電車の速さだけ増える。しかし、星からの光は、星が動いても速さは変わらない。なぜだろう。こう考えたアインシュタインは、時間と空間は絶対的ではなくて、運動によることを見出した（相対論）。相対論の世界では、質量がエネルギーのひとつの形であり、媒質のない真空でも光がドップラー効果を示すことが判る。光のドップラー効果は、宇宙とその起源を探る手がかりとなる。 【キーワード】 座標系、慣性系、ガリレイ相対性、速度の合成、光速不変、ローレンツ変換、静止エネルギー、ドップラー効果、赤方偏移	鈴木　久男（北海道大学大学院准教授）	鈴木　久男（北海道大学大学院准教授）
6	温度ってなんだろう	熱いお茶を湯飲みに入れると、はじめは温度は高いが、しばらく置くと下がり、やがて室温と同じになると、温度はずっと変わらない（熱平衡状態）。温度は熱平衡の指針なのである。物理で扱う温度は絶対温度と呼ばれ、いくらでも高くなれるが、低くはなれない（絶対零度の存在）。温度は実は分子の平均の運動エネルギーであり、運動が止まった状態が絶対零度なのである。 【キーワード】 熱、温度、熱平衡　理想気体、絶対温度、分子、絶対零度	鈴木　久男（北海道大学大学院准教授）	鈴木　久男（北海道大学大学院准教授）
7	自動車の燃費はどこまであげられるか	寒いとき手をこすれば、暖かくなる。熱は仕事つまりエネルギーのひとつの姿なのである。では、熱を含めてエネルギーの保存則が成り立つだろうか。また、前回見た熱いお茶に、低温の部屋から熱が移ったりはしないし、自動車のエンジの効率には限度がある。仕事はすべて熱に変えられるのに、なぜ熱エネルギーはすべて仕事に変えられないのか。この疑問を追究すると熱の物理が判り、エアコンの原理やエネルギー問題を考える手がかりが得られる。 【キーワード】 熱と仕事、ジュールの関係、熱機関、効率、熱力学の基本法則、エントロピー、不可逆変化、ヒートポンプ、開放系	鈴木　久男（北海道大学大学院准教授）	鈴木　久男（北海道大学大学院准教授）
8	波を見て場を知ろう	音でも光（電波）でも、情報伝達の主役は波である。では波とは何か、実験をしながら見てゆこう。池の真ん中に石を落とすと、円く波が広がって進むが、水面の小さな木の葉は上下に振動するだけで、波と一緒に進むことはない。媒質の場所ごとの振動が、次々に広がるのが波なのである。振動と波の基本的な性質を見て行こう。振動と波にかかわる現象の中で、安全に必要なことにも触れる。 【キーワード】 振動、波、振動数、波長、波の速度、重ねあわせ、回折、干渉、うなり、反射、屈折、ドップラー効果	生井澤　寛（放送大学教授）	生井澤　寛（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
9	光の正体は何か	普通に見る光は、直進し、物に影を作り、水やレンズで曲げられる。まず光のこの粒子的な局面を取り上げ、レンズやカメラの作用を考える。一方、シャボン玉や光ディスクのきれいな色模様は、前回見た干渉によるから、光は波でもある。実は光は、波長のごく短い波(電磁波)なのである。波なら、私たちは光を音と同じように感ずるのだろうか。遠い星の光まで見えるのはなぜか。この疑問は、量子の世界にかかわる。答は第14回までまとう。 【キーワード】 屈折率、レンズ、幾何光学、全反射、にじ、薄膜、偏光、回折格子、光速度、視覚	生井澤 寛(放送大学教授)	生井澤 寛(放送大学教授)
10	物はなぜ温度で姿を変える	物は、なぜ温度によって固体、液体、気体と姿(相)を変えるのだろう。温度は、分子の運動エネルギーの目安だったから、温度を分子の間の相互作用のポテンシャルエネルギーと比較すればよさそうである。相が違えば密度が変わり分子間の平均距離も変わることに注目して温度と相の変化を見て行こう。水の不思議な性質や、磁石、超流動・超伝導などの不思議な相についても見て行く。 【キーワード】 相、相転移、分子間相互作用、密度、対称性、相図、3重点、臨界点、水素結合、磁気相転移、超流動・超伝導	生井澤 寛(放送大学教授)	生井澤 寛(放送大学教授)
11	電気とは何だろう	異なる物体をこすったり、くっつけておいてはがすと、電気が生じ他のものをひきつけるという(摩擦・接触電気)。では、電気とはなんだろう。手軽に出来る実験を紹介するので、自分で電気のなぞに迫ってみよう。こうして電気現象は電荷によること、電荷は磁石と同様、場を作ることがわかる。電荷の間の力から出発すると、電場、電位・電圧などの基本的な概念が自然に出てくるだろう。 【キーワード】 静電気、電荷、静電誘導、分極、磁力線、磁場、クーロンの法則、電気力線、電場、電位、ガウスの法則、電荷の保存	鈴木 久男(北海道大学大学院准教授)	鈴木 久男(北海道大学大学院准教授)
12	電流はすごい	ボルタは、異なる金属の接触で、静電気と同じ効果が起こることから電池を発明した。電池は、電荷にエネルギーを与え、電荷を動かして電流を作る。電池で自由に電流が作れるようになると、電磁現象の理解と応用が広がった。電気分解・電気メッキ、ジュール熱、電流の磁気作用など自分で出来る実験で体感しよう。電流が磁場を作るなら、磁石の正体は電流なのか。答は第14回まで待とう。 【キーワード】 電池、電圧、電流、電気分解、電気メッキ、イオン、ファラデイ定数、電気抵抗、オームの法則、ジュール熱、アンペールの法則	鈴木 久男(北海道大学大学院准教授)	鈴木 久男(北海道大学大学院准教授)
13	電気をどう作るか	電流が磁場を作るなら、磁場も電流を作るのではないか。この疑問を追究したファラデイは、電磁誘導を発見した。ファラデイの実験をやってみよう。そうすれば、発電、モーター、変圧器の原理が判り、電気の便利さを実感できる。そして、望みの性質を持つ電気回路の基本法則が、電荷の保存とエネルギーの保存という物理の基本法則から自然に出ることを見る。電磁波と光についても見てみよう。 【キーワード】 電磁誘導、ファラデイの法則、発電機、モーター、変圧器、自己誘導、電気回路、キルヒホッフの法則、電磁波、光、光速	鈴木 久男(北海道大学大学院准教授)	鈴木 久男(北海道大学大学院准教授)

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
14	量子ってなに	電気分解やイオンの存在から、物質を作るのは電気力らしい。ではその源の電荷は何か。その主役が電子であり、原子が電子と重い核(原子核)から出来ることがわかって、ミクロの世界が開けた。では、原子はどうやって出来るか。この謎は、古典物理では解けなかった謎(原子からのとびとびの光、低温で0となる比熱、光電効果、熱放射)と合わせて、ミクロの世界ではエネルギーがとびとび(エネルギー量子)であることで解けることを見よう。量子の世界は、電子が波のように振る舞ったり、光が粒子のように振る舞ったりする不思議な世界である。 【キーワード】 電子、原子、原子核、とびとびの光、低温比熱、光電効果,温度と色、エネルギー量子、光子、ボーアの原子模型、電子スピン、周期表、ドブロイ波、電子の波動性、不確定原理、磁性の起源	生井澤　寛（放送大学教授）	生井澤　寛（放送大学教授）
15	世界はなにで出来ているか	原子がなにから出来ているかは判ったが、では原子核はなにから出来るのか。この疑問を、どんどん小さな世界にぶつけて行って得た現在までの結果を示そう。逆に、目を大きい世界に向けると、太陽を初めとする恒星がなぜ燃えるか、宇宙がどうやって出来たかなど、いくらでも疑問が出る。これらに対する物理の理解も示そう。鉄より重い元素が出来たのも、爆発や衝突を繰り返す星と銀河の歴史の産物であることが判る。私たちの体にもある重い元素が、いつ、どの星で出来たのかを想像するのも物理の楽しみ方のひとつである。 【キーワード】 核子、中間子、素粒子、基本的相互作用、クォーク、レプトン、重力子、核融合、恒星、銀河、宇宙、元素の起源	生井澤　寛（放送大学教授）	生井澤　寛（放送大学教授）

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	基礎科目	科目コード	1134507	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　物理の考え方（‘07）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：木村　龍治（放送大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：大石　和欣（放送大学准教授）〕

講義概要

物理学の入門講義。物理学に馴染んでいない文系の学生にも分かる内容を意図する。日常生活の中に現れるさまざまな物理的事象を取り上げ、日常的視点と物理学的視点を対比させることによって、物理学的思考の特徴を示す。放送大学では、既に、物理学関連の科目がいくつも開講されているが、本講義は、それらの前段階として位置付けられる。

本講義の特色は、理系の講師と文系の講師とのコラボレーションである。毎回、専門の異なる２人の対話形式で、講義を進める。講義の中に、「文学の目で見た物理学」のコーナーを設け、大石講師が文学的な視点からコメントする。

講義の構成

講義は、毎回、物理の原理と直結する特定のテーマを扱う。スタジオを喫茶コーナーと実験コーナーに分け、喫茶コーナーでは対話形式で講義を進める。実験コーナーではオリジナルな実験をスタジオで行う。スタジオの外で行う実験や施設見学も行う。大石講師のコーナーでは大石講師が文学の視点からコメントする。

授業の目標

これまで、物理学を学んでいない学生、物理学が嫌いな学生、物理学は自分と無関係と思っている学生に、物理学の面白さを伝えるのが目標である。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	物理学の発想法----舞台の表と裏	私たちは自然に取り囲まれて生活している。自分自身も自然の産物である。複雑で常に変化する自然は、一見、捕らえどころがないように見えるが、物理学の発想法では、私たちの目に映る世界は、舞台の表で演じられている自然の姿と見る。その裏には、演出家に当たるものが存在する。その演出に従って、舞台の面で、複雑な自然現象（私たちの存在も含めて）が展開されるのである。その演出家とは何か。それを探るのが物理学である。	木村龍治（放送大学教授） 大石和欣（放送大学准教授）	木村龍治（放送大学教授） 大石和欣（放送大学准教授）
2	バランス感覚----釣り合いと安定性	私たちはごく自然に二本足で歩くが、物理の目で見ると、二足歩行は、驚異的な現象なのである。その証拠に、本田技研は、二足歩行のロボットを開発するのに、10年以上の基礎研究が必要であった。二足歩行よりもさらに驚異的なのは、鳥のバランス感覚である。スズメは、何気なく電線に留まるが、そのようなことのできるロボットはまだ開発されていない。 この講義では、いかにバランスを取るか、という問題をテーマにして、力とは何か、力の釣り合いとは何か、釣り合いの安定性とは何か、考察する。	木村龍治（放送大学教授） 大石和欣（放送大学准教授）	木村龍治（放送大学教授） 大石和欣（放送大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
3	体重ゼロ‥‥重さと質量	無重力状態のスペースシャトルの内部にいる宇宙飛行士の体重はどのようにして測るのか。無重力状態にあるやせた飛行士と太った飛行士の身の動きは同じになるのだろうか。この問題は、重力質量と慣性質量の違いを教えてくれる。 この講義では、放送大学の8階の廊下に線路を敷いて、8階から落下するおもりの荷重で線路上を動く台車の実験を行うことにより、慣性力を理解させる。慣性を利用して無重力状態でも体重が測れることを示す。	木村龍治(放送大学教授) 大石和欣(放送大学准教授)	木村龍治(放送大学教授) 大石和欣(放送大学准教授)
4	慣性航法‥‥微分と積分の考え方	慣性航法とは、目的地に到達するために飛行機が自分の位置を検出しながら飛行する方法である。船の航海術と似ているが、船の場合は、星(天測)や人工衛星(GPS)など、外部との相対関係から自分の位置を検出する。それに対して、飛行機では、外部からの情報を全く使わないで、自分の現在位置が分かる慣性航法が用いられている。それは、飛行機の加速度を測定し、加速度を積分することによって、速度や飛行距離を求める方法である。この方法の基本になるのが、微分と積分の考え方である。逆に、慣性航法を通じて、微分と積分がどのような意味をもつのか理解することができる。	木村龍治(放送大学教授) 大石和欣(放送大学准教授)	木村龍治(放送大学教授) 大石和欣(放送大学准教授)
5	force‥‥力の原因を探る	この世界には、さまざまな力がある。その力によって、物体は引きつけられ、反発しあい、重力に逆らって空中を浮遊する。力の中には、筋肉による力のように、物体に接触して力を伝えるものもある。相撲はその一例である。ロケットの推進力のように、運動量の変化が力になることもある。重力、電磁気力など接触しないのに働く力もある。そのような力を遠隔力という。	木村龍治(放送大学教授) 大石和欣(放送大学准教授)	木村龍治(放送大学教授) 大石和欣(放送大学准教授)
6	宇宙の秩序を支配するもの‥‥万有引力と回転	月は地球の周りを巡っている。地球は太陽のまわりを公転している。太陽系の惑星は、すべて、太陽のまわりを公転している。銀河は渦を巻いているものが多いが、星の集団が回転していることを示している。宇宙には、回転しているものが沢山あるのはなぜだろうか。	木村龍治(放送大学教授) 大石和欣(放送大学准教授)	木村龍治(放送大学教授) 大石和欣(放送大学准教授)
7	永久機関‥‥エネルギーと仕事	燃料を全く使わないで無尽蔵に発電ができるような発電機があれば、大変便利である。現在はそのようなものはできないことがわかっているが、エネルギー保存則が発見される以前には、多くの人が永久機関の夢に取り付かれて無駄な努力をした時代があった。エネルギーとは、一見、人工的な概念であるが、あらゆる自然現象にエネルギー保存の性質が見られるのは不思議な感じがする。	木村龍治(放送大学教授) 大石和欣(放送大学准教授)	木村龍治(放送大学教授) 大石和欣(放送大学准教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
8	熱と温度‥‥ミクロがもたらすマクロな性質	私たちは、寒い暑いを感覚的に感じることができる。その感覚を数値で表すのが温度計であるが、温度とは何かと質問されれば、直感的には、よくわからないだろう。温度と熱の関係も分かりにくい。この問題は物理学の中でもかなり難しく、熱と温度の本質が理解されたのは19世紀になってからである。私たちが日常生活で当たり前と思っている熱と温度の本質について考察する。	木村龍治(放送大学教授) 大石和欣(放送大学准教授)	木村龍治(放送大学教授) 大石和欣(放送大学准教授)
9	流体の世界‥‥その法則を探る	水、空気など、流れるものを総称して流体という。流体は私たちの体内を循環する一方で、川の流れ、風なども流体の運動である。コップの水も流体、風呂の湯も流体である。このように考えると、この世界は、流体に満ちている。一見、つかみ所のない流体は、物理の目で見ると、どのような実体なのか。物理学は流体をどのように捕らえるのか。	木村龍治(放送大学教授) 大石和欣(放送大学准教授)	木村龍治(放送大学教授) 大石和欣(放送大学准教授)
10	波動を記述する言葉‥‥三角関数	タガメという水性昆虫のオスは、水面を独特のリズムでたたいて、遠くのメスに自分の存在を知らせるという。水面をたたくと、波が発生して、波紋を描いて、遠くに伝播していく性質を利用しているのである。水面の波は、水の上下振動が遠くに伝播する現象である。振動が伝播する現象は水面だけに限らない。音も光も波動なのである。そこには共通の性質がある。物理学は、自然界に存在するさまざまな波動を、波の振動数、波長、位相速度などの概念を使って、きわめて統一的に記述する。	木村龍治(放送大学教授) 大石和欣(放送大学准教授)	木村龍治(放送大学教授) 大石和欣(放送大学准教授)
11	波の基礎理論‥‥すべての波に共通する性質	一見、関係がない音波と地震波は、物理の目でみるとかなり似ている。音波は、気体、液体、固体内部を自由に伝わる波であり、地震波は、地震がきっかけで、地面の中に発生する音波のようなものである。動物の多くは、音声をコミュニケーションに用いるように進化した。人間の場合は、それが複雑な言語になり、文字によって記録することもできるようになった。音楽は人生の楽しみでもある。一方、地震波は、大きな災害をもたらすと同時に、その伝播の性質を調べることにより、地球の内部構造が見えるようになった。	木村龍治(放送大学教授) 大石和欣(放送大学准教授)	木村龍治(放送大学教授) 大石和欣(放送大学准教授)
12	音‥‥情報を伝える波	暗闇の中に置いたリンゴはリンゴの形をしているが、赤くない。バナナはバナナの形をしているが、黄色ではない。色は、形と同じような物体の属性に見えて、実は、違うものである。色は、私たちの視覚が作り出した感覚である。色の情報源になっている光とは何だろうか。光の中には、紫外線や赤外線など、私たちの視覚に捕らえられない光もある。光を物理の目で見ると、見えない光も見えるようになる。	木村龍治(放送大学教授) 大石和欣(放送大学准教授)	木村龍治(放送大学教授) 大石和欣(放送大学准教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
13	光‥‥暗闇のリンゴの色は何色か	この世界は物質から出来ている。もしも物質がなければ、地球もないし、私たちもいない。地球上には、無数の種類の物質があるように見えて、その素材を調べると約 100 種類の原子の組み合わせであることが知られている。原子とは何か。なぜ、100 種類なのか。素材の問題を考察する。	木村龍治(放送大学教授) 大石和欣(放送大学准教授)	木村龍治(放送大学教授) 大石和欣(放送大学准教授)
14	電子と電気‥‥現代社会の裏方	電気と磁気は、電場、磁場という力の広がりをもった現象である。その振動によって電磁波が発生し、その振動数によって、電波になったり、光になったりする。目に見えないので、直感的には分かりにくい現象であるが、発電機が発明されていなければ、夜がこれほど明るい生活はできないであろう。また、ＩＴ機器に囲まれた便利な生活を支えているのも電磁気である。その原理について考察する。	木村龍治(放送大学教授) 大石和欣(放送大学准教授)	木村龍治(放送大学教授) 大石和欣(放送大学准教授)
15	自然の階層性‥‥自然観の構築	自分とは何か客観的に認識するためには、自分を宇宙の中に位置付けることが必要である。そのためには、自然観をもつ必要がある。宗教の多くは私たちの経験を越えた世界を描くが、物理学にも似た側面がある。物理学の描き出す自然観を想像してみよう。	木村龍治(放送大学教授) 大石和欣(放送大学准教授)	木村龍治(放送大学教授) 大石和欣(放送大学准教授)

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	基礎科目	科目コード	1130609	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 初歩からの化学 （’０８）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：荻野　博　（放送大学副学長）〕
〔主任講師（現職名）：大野　公一　（東北大学大学院教授）〕
〔主任講師（現職名）：吉良　満夫　（東北大学名誉教授）〕

講義概要

化学の理解に必要な基礎知識を全15回にわたって講義する。この講義では物質の成り立ちとふるまいを解説し、それらを通じて化学そのものを学ぶとともに化学的なものの見方・考え方を学習する。講義には演示実験（デモンストレーション）や化学工場の現場ロケなども取り入れ、楽しく学習が進められるような配慮がなされている。

授業の目標

この講義は化学を全く学習したことのない人や、少し学んだことはあるが改めて学習し直し知識を確実なものにしたい人などが主な対象である。したがって、特に化学の予備知識なしに学習を始めても基本的な知識と考え方が身につくようにすることを目標とする。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	化学の世界	自然科学の中で化学は自然界のさまざまな物質に対する見方・考え方にもっとも大きな責任をもっている学問であるといえる。物質の成り立ちとふるまいを理解し、利用するための化学の方法論・基礎的概念を学ぶ。 【キーワード】 純物質、単体、化合物、元素、原子、分子、原子量、分子量、物質量	吉良　満夫	吉良　満夫 荻野　博 大野　公一
2	物質とは？ ～原子の構造と性質～	元素の周期律が原子核の周りに存在する電子の配置に関係することを学ぶ。また、原子番号順に元素を並べたとき、周期的な性質の変化が見られる例として電子親和力、イオン化エネルギーをとり上げる。 【キーワード】 周期律、電子配置、電子親和力、イオン化エネルギー	荻野　博	荻野　博 大野　公一
3	物質とは？ ～原子の結びつき～	原子やイオンどうしが結びついて結合ができる仕組みを学ぶ。また、イオンからなる物質や金属の構造、化学組成を示す組成式と式量の使い方などを学習する。 【キーワード】 共有結合、電子式、原子価、イオン結合、金属結合、結晶格子、組成式と式量	大野　公一	大野　公一 吉良　満夫
4	物質の状態 ～固体、液体、気体～	物質には固体、液体、気体の三態があることを密度や粒子の運動と結び付けて学ぶ。気体の諸法則を学び、理想気体と実在気体の違い、分子間力と融点・沸点との関係、蒸気圧と沸点の関係について理解する。 【キーワード】 物質の三態、気体の法則、状態方程式、理想気体、分子間力、水素結合、蒸気圧曲線	大野　公一	大野　公一 荻野　博

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	溶液とその性質	液体（溶媒）に他の物質（溶質）が溶け込んでできる溶液の基本的性質について学ぶ。また、溶液と関連して、コロイドの種類と性質について学ぶ。 【キーワード】 溶液、濃度、沸点上昇と凝固点降下、浸透圧、コロイド	大野　公一	大野　公一 吉良　満夫
6	化学反応と熱の出入り	熱エネルギーの授受と温度の関係を学習し、化学反応にともなって出入りするエネルギー（反応熱）に関連し、熱化学方程式とヘスの法則について学ぶ。 【キーワード】 比熱、反応熱、熱化学方程式、ヘスの法則	大野　公一	大野　公一 荻野　博
7	酸性・アルカリ性	酸と塩基との反応は化学の基本反応の一つである。酸・塩基と関連する酸性とアルカリ性（塩基性）あるいはpHについて学び、酸と塩基との反応である中和反応や反応の結果として生成する塩の性質について学ぶ。 【キーワード】 酸性、アルカリ性（塩基性）、水素イオン濃度、中和反応、塩	荻野　博	荻野　博 大野　公一
8	燃焼・さび・電池 ～酸化還元～	酸化還元反応も酸・塩基の反応と並んで重要な化学の基本反応である。酸化還元は物質の燃焼、金属の溶解やさびの発生、電池の中の反応などわれわれの生活と密接に関係する現象である。酸化還元反応が電子の授受によって理解できることを学ぶ。 【キーワード】 電気陰性度、酸化数、酸化剤と還元剤、イオン化列、電池、電気分解	荻野　博	荻野　博 吉良　満夫
9	化学反応の速さと平衡	化学反応の速さが、触媒、濃度、温度、圧力によって変わることを学ぶ。また、逆向きの反応が同時に起こる場合について、化学平衡の法則と平衡の移動を学ぶ。 【キーワード】 反応速度、活性化エネルギー、触媒、化学平衡の法則、平衡定数、ルシャトリエの原理	大野　公一	大野　公一 吉良　満夫
10	金属元素の単体と化合物	周期表上の元素の約80%が金属元素である。金属元素は典型金属元素と遷移金属元素に大別することができる。これら金属元素の単体（金属）と化合物の性質や用途について学ぶ。 【キーワード】 典型金属、アルカリ金属、アルカリ土類金属、遷移金属、錯体	荻野　博	荻野　博 吉良　満夫
11	非金属元素の単体と化合物	非金属元素は水素を除いて周期表の右側上方にある元素で、それ以外の元素はすべて金属元素である。ここでは非金属元素の単体と化合物の性質を学び、それぞれの元素のもつ個性を知る。 【キーワード】 水素、炭素とケイ素族、窒素とリン、酸素と硫黄、ハロゲン、希ガス	荻野　博	荻野　博 大野　公一

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	有機化合物とその構造	炭素は様々な元素と共有結合を作るので、炭素を中心元素とする化合物(有機化合物)の数は驚くほど多い。有機化合物を考える上で基礎となる炭化水素分子の結合の様式、立体構造、運動、基本的な反応について学ぶ。 【キーワード】 アルカン、アルケン、アルキン、正四面体構造、分子模型、コンホメーション	吉良　満夫	吉良　満夫 大野　公一
13	さまざまな有機化合物	アルコール、エーテル、ケトン、カルボン酸、アミンなどのように、炭化水素の水素を窒素、酸素、ハロゲンなどの原子やグループで置換した有機化合物の性質について学ぶ。 【キーワード】 官能基、極性、溶解度、不斉、極性反応、油脂、アミノ酸、天然物、有機金属化合物	吉良　満夫	吉良　満夫 荻野　博
14	ベンゼンとそのなかま	ベンゼンやポリアセチレンのように分子内を広く動きまわる電子(π電子)をもつ一群の有機化合物がある。これらの性質と反応の特徴を理解し、電気を通す有機化合物がどのようにして生まれたかを学ぶ。 【キーワード】 非局在化、芳香族性、フラーレン、カーボンナノチューブ、ポリアセチレン、有機伝導体	吉良　満夫	吉良　満夫 荻野　博
15	現代の化学とこれから	高分子化学の基礎を学び、私たちの日常生活を支える合成繊維、プラスチックなどの化学工業製品はどのようにしてつくられるのか、化学の知識がどのように応用されているのかを理解する。さらに、持続可能な社会をつくるためのこれからの化学の役割を考える。 【キーワード】 高分子化学、タンパク質、ナイロン、ポリエチレン、環境問題	吉良　満夫	吉良　満夫 荻野　博 大野　公一

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	基礎科目	科目コード	1130404	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 初歩からの生物学 （’０８）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：星　元紀（放送大学・教授）〕
〔主任講師（現職名）：松本　忠夫（放送大学・教授）〕
〔主任講師（現職名）：二河　成男（放送大学・准教授）〕

講義概要

生物学は20世紀後半に劇的な展開を見せ、今世紀は生命科学・生物科学の時代といわれるまでになり、生物学の基本的な知識なしには、日々直面する食料・医療・育児・環境などをめぐる問題に対処することすら出来なくなってきた。生命誕生以来現在まで絶えることなく続く生物の世界の成り立ちと、生命活動を支える精妙な仕組みとについて、基本的な事柄を中心に講ずる。講義にあたっては、なるべく日常生活に関わりのある生物科学上の題材をとりあげることとする。

授業の目標

本講義は、これまでに生物学を学ぶ機会の少なかった方たち、あるいはごく若い頃に生物学に接しただけの方たちに、現代生物科学の基礎を習得してもらうことを目標としている。看護師などの医療分野における専門技術者を目指す方たちには、専門的な教育の前提として必須な生物科学の基礎知識を身につけていただくことになる。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	なぜ生物学を学ぶか	この講義全体を通じて、ヒトは何処から来て何処に行くのかを考えるうえでのよすがとなることを目指している。初回は全体の序として、生物学を学ぶ意義について考えるとともに、生物学とはどのような学問分野であり、どのような歴史を経て形成されてきたのか、その大筋を学ぶ。 【キーワード】 生物学、生物学の略史	星　元紀（放送大学・教授）	星　元紀（放送大学・教授）
2	生命と生物	生命すなわち生きているということと、生物すなわち生きているものとは分かちがたく結びついており、しばしば同義に用いられている。生命・生物の世界が非生命・非生物の世界とどのように異なるのかを学ぶ。 【キーワード】 生命と生物、生きているものと生きていないもの	星　元紀（放送大学・教授）	星　元紀（放送大学・教授）
3	生物の誕生と歴史	太古の地球において最初の生物が誕生し、長い年月をかけて徐々に変化し、現在のような多種多様な生物たちが共存する世界が形成された。このような生物の歴史と、生物の時間的な変化、すなわち進化のしくみについて学ぶ。 【キーワード】 進化	二河成男（放送大学・准教授）	二河成男（放送大学・准教授）
4	多様な生物の世界(1)	現在の地球にはどのような生物が存在しているのか、大分類について説明する。2回にわたるが、この回では単細胞生物に関して、その栄養獲得様式と、生活型について説明する。また、多細胞生物では、光合成生物、従属栄養生物などにふれる。	松本忠夫（放送大学・教授）	松本忠夫（放送大学・教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	多様な生物の世界(2)	前回に引き続いて、現在の地球にはどのような生物が存在しているのか、特に動物についてその栄養獲得様式と生活型について説明する。さらに動物の形態、生理、生態などの適応放散にふれる。	松本忠夫(放送大学・教授)	松本忠夫(放送大学・教授)
6	細胞:生命の最小単位	私たちの体も、他の生物と同様に細胞からできている。細胞といっても多種多様なものが存在する。その一方で、細胞全般に共通するしくみもたくさんある。このような相違点と共通点について、細胞のかたちや中身などの構造面と、分裂などの機能面から理解する。 【キーワード】 細胞、細胞小器官、細胞骨格、細胞分裂、核	二河成男(放送大学・准教授)	二河成男(放送大学・准教授)
7	生命活動を支える物質	生物は細胞からできている。では、細胞は何から構成されているのであろうか。細胞も、われわれの身の回りにある物質と同様に分子から構成されている。細胞を構成する分子には非生物世界を構成する分子とは違った特徴があること、さらに地球上のすべての細胞は基本的には共通の分子を利用して共通のしくみで活動していることを学ぶ。 【キーワード】 分子、水、タンパク質、糖、脂質、核酸	二河成男(放送大学・准教授)	二河成男(放送大学・准教授)
8	生命活動を支える化学反応	さまざまな生命活動は、体内で営まれる物質代謝やエネルギー代謝などの、良く制御された複雑な化学反応の連鎖によって支えられている。生物が営む化学反応の特徴と、主な反応経路について学ぶ。 【キーワード】 代謝、光合成、呼吸、酵素	星 元紀(放送大学・教授)	星 元紀(放送大学・教授)
9	個体の統合と維持	多細胞体制においては、個々の細胞のみならず、個体全体がひとつのシステムとしてよく調節されており、その誕生から死に至るまで破綻することなく、個体としての統一性が維持されている。ここでは、個体としての統一性を支える仕組みについて学ぶ。 【キーワード】 組織、器官、内部環境、恒常性、統合、個体性	星 元紀(放送大学・教授)	星 元紀(放送大学・教授)
10	個体の再生産	種は同じような個体を再生産し、世代を超えた個体の連鎖として維持されている。ここでは、生物が次世代の個体をどのようにして形成しているのか、すなわち生殖と発生とについて学ぶ。 【キーワード】 生殖、性、発生	星 元紀(放送大学・教授)	星 元紀(放送大学・教授)
11	世代を越えた情報の伝達	子は親に似る。このことはすべての生物に共通に見られる現象である。これは遺伝情報を担ってるDNAが親から子に受け渡されるためである。この遺伝のしくみと、細胞がDNAの持つ情報を読み取る方法について学ぶ。 【キーワード】 遺伝、DNA	二河成男(放送大学・准教授)	二河成男(放送大学・准教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
12	情報の交換（1）～個体内の情報伝達～	細胞は、さまざまな分子を利用してお互いの間での情報伝達を行っている。その結果、われわれの体全体の細胞が協調して働くことができる。さらに細胞の中でも分子を介した情報の伝達が行われている。ここでは、いくつかの代表的な細胞間と細胞内の情報伝達について学ぶ。 【キーワード】 シグナル分子、受容体、神経	二河成男（放送大学・准教授）	二河成男（放送大学・准教授）
13	情報の交換（2）～個体間の情報伝達～	生物は個体間でさまざまな手段を使って情報交換を行っているが、その様相を同種間の場合、異種間の場合で説明する。そして、それらの情報交換の機能や進化的由来について考察する。	松本忠夫（放送大学・教授）	松本忠夫（放送大学・教授）
14	生物群集の成り立ち	生物は多数の種が競争、共生、寄生、捕食、擬態などの関係をもって同所的に存在して群集を構成している。そして、群集はさらにそれぞれのおかれた地域環境とともに生態系をなしている。群集の構造、安定性、遷移そして人間活動が生物群集に与える影響等について説明する。	松本忠夫（放送大学・教授）	松本忠夫（放送大学・教授）
15	ヒトは何処に行くのか	ヒトの活動が地球という環境にどのような影響を与えているのかを見た後に、人口問題を始めとする人類が直面している諸難問の解決に向けて、ヒトという生物の特徴を考えてみる。 【キーワード】 ヒト、人口爆発、環境問題、食糧問題	星　元紀（放送大学・教授）	星　元紀（放送大学・教授）

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	基礎科目	科目コード	1132407	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　科学的な見方・考え方（‘07）＝（R）

〔主任講師（現職名）：　濱田　嘉昭（放送大学教授）〕

講義概要

私たちの生きる環境はますます複雑になり、さまざまな情報が溢れている。意図的に本質を覆い隠すような宣伝もある。何が正しく何が根拠のないものであるかの判断が極めて重要になっている。科学的な見方・考え方が、そのような判断をする場合の有益な指針になると考える。特に自然科学で鍛えられ、経済現象や社会現象にも適用できる強固で確かな見方・考え方を身につけることが重要と考える。この講義では、自然科学での考え方を中心にしつつ、それ以外の分野でも重要と思われる事柄を、なるべく例を挙げながら考えていくこととする。

授業の目標

科学的・論理的な見方や考え方を実例に即して紹介し、日常生活にも役立つような見方・考え方を身につけることを目標とする。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	科学とは何か	科学的だから絶対正しいとか、科学ですべてがわかるわけではないとかいう議論がある。科学とはどのようなものか、またその守備範囲はどの程度かをはっきりさせておく必要がある。また科学の成り立ちや科学の現状を知っておくことも重要である。	濱田　嘉昭（放送大学教授）	濱田　嘉昭（放送大学教授）
2	科学的方法	日常生活で起こるさまざまな事柄や自然現象に規則性や法則性を見出して、なぜそのようになるのかを説明し、将来はどうなるのかを予測することが科学の役割の１つである。その場合に、どのような方法論があるかを紹介する。そして、それぞれの長所と短所を理解しておくことが大切である。	同上	同上
3	情報の分類	多くの現象では複数の要因が絡んでおり、それらの要因の質を見分けて分析することが重要である。日常生活においても、議論の前提あるいは対象を明確に区別しないで、物事を論じたり批判したりすることが意思不疎通の原因にもなっている。これらについて考えて見よう。	同上	同上
4	領域の拡大	私達の認識や言葉は五感を通じた情報をもとに形成されてきた。しかし、自然や現代社会の現象の範囲はそれ以上の広がりを持っている。見えないものを見えるようにするはどのような方法があるか、また独断や誤謬に陥ることを避けるにはどのような工夫があるのかを考える。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	原因と結果	複数の現象の間に関連があるかどうかを判定する必要が生じることがある。特に原因と結果の関係を導くときに注意しなければならない。環境問題のように複雑に絡み合った問題には、これらの混同あるいは検証なしの議論に陥りやすいように思われる。また、たくさんの要素は単純に集合し、勝手に運動しているのではなく、さまざまな原因で影響しあっていることにも注意する必要がある。	同上	同上
6	分析と統合	物事の成り立ちや働きを解析する場合、要素に分けてその性質を調べ、それらの結果を総合して判断するという「要素から総合へ」という科学の伝統的な方法がある。一方で、全体の性質あるいは目的を把握し、それはどのような成分が関わりあった結果であるかを分析する方法もある。これらのアプローチの仕方の違いについて考える。	同上	同上
7	真実とは何か	私達が見聞きし、そこから得た生の結果は事実であったとしても、必ずしも求める真実そのものとは限らない。測定にはさまざまな誤差が絡んでいる。また、求める真実の姿は予め明確になっているわけではない。真実に近づく方法について学ぶ。一方、そもそも真実とは何かについても、理科系的事柄と文科系的事柄では異なる場合があるので、それらについても考える。	同上	同上
8	モデル化	調査によってデータが得られたら、それらを説明するモデルを構築する。そのモデルが妥当なものかどうかは実際の現象によって判定される。一方、モデルに含まれるパラメーターをどの範囲まで拡張して良いのか、すなわち、モデルの適用範囲も検討する必要がある。モデルとは何かについても考えてみる。	同上	同上
9	抽象化と概念化	個別の現象は事実ではあっても、それらを無限に数え上げられるものではないし、物事を理解したことにはならない。本質的な部分を法則として確立しておき、具体的な説明や予測は、それに必要な条件を入れて実行できるはずである。抽象化あるいは概念化によって、個別の数え上げでは到達しえない地平に理解を拡張することができる。	同上	同上
10	要素とシステム	現実世界は多数の要素から成り立っている。それらは単なる集合ではなく、さまざまな要素とその集合が階層的に積み重なり、連動している。各階層では、独自の論理・法則が形成される。個人から社会への発展はその典型的である。これらの階層性が生じるメカニズムおよびシステムの特徴について考えたい。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
11	普遍性と多様性	少ない法則でたくさんの事柄が説明できれば、それだけ有効な説明手段を持ったことになる。一方、このような普遍性では汲みつくせぬ豊かで多様な世界もある。これは科学の部門による違いも反映しているが、現実のどの側面を見るかによっても異なってくる。	同上	同上
12	巨視的見方と微視的見方	巨視的見方と微視的見方はどの分野にも必要な観点である。自然現象のみならず、例えば、経済現象、社会生活といった場合でも、国、地域、家族や個人で問題の質が変わってくる。これらをどのように整理するか、分析するかで答えの出し方も異なってくるであろう。	同上	同上
13	科学と教育	科学は自然・社会現象を観察（実験・調査）して、データを分析し、法則を導き出す行為である。その結果は自然言語と数理論理で述べられる。したがって、科学の理解には自然言語論理および数理論理をどの程度駆使できるかが重要である。特に教育段階では、その影響は大きい。このような問題について、教育、言語などの立場からも検討する。	同上	同上
14	科学の使命	技術や科学の社会に対する影響に関して、否定的な意見もある。それは科学・技術がわれわれの日常生活に大きな影響を及ぼしていることの現われでもある。技術の進歩と社会が調和していないこと、環境問題など負の影響が出ていることによると思われる。科学の役割について考える。	同上	同上
15	役に立つ見方・考え方	科学的な見方や考え方は科学のための理論あるは解釈に留まるものではない。日常生活のあらゆる場面で用いることのできる優れたものである。どのように用いたら良いのか、実例を挙げて考えてみたい。	同上	同上

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	基礎科目	科目コード	1133900	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　エネルギー学の基礎（‘０７）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：吉岡　一男（放送大学准教授）〕
〔主任講師（現職名）：林　　敏彦（放送大学教授）　〕

講義概要

エネルギー資源や省エネルギーあるいは地球温暖化等、エネルギーに関わる問題は現在いろいろな方面で取り上げられており、その対策が論じられている。エネルギー問題は誰にとっても避けることのできない問題といえよう。本科目ではこの問題を考える際に不可欠な、エネルギーに関わる現象の科学的な基礎知識を与える。そして、その知識が現実の問題を考えるのに際してどのように適用されるのかを、産業、技術、社会、経済、日常生活のいくつかの場面での問題で示し、合わせてこれらの問題の理解を深める。講義はどの専攻の学生にも理解できるように、初歩的な事柄から話を進める。

授業の目標

エネルギーとその保存法則やエントロピーとその増大の法則あるいは熱平衡・非熱的平衡等の熱力学・統計力学の基礎的な概念や法則の本質を理解する。そして、これらの法則をもとに実際のエネルギー問題を考えるに際して、概念や法則を正しく適用し、ある程度の定量的な見積もりができるようにし、また、正しい適用と定量的な見積もりが重要であることを理解させる。物理化学的および数学的予備知識は、必要に応じて解説し、これらの知識に疎い学生も、エネルギーに関わる科学的知識の骨格を身に付けて、正しく応用できるようになることを目ざす。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	エネルギーとは何か？	「エネルギー」という用語がわれわれの生活でよく使われる。いろいろな場面における「エネルギー」の使われ方を吟味し、この用語の科学的な意味を辿る。そして、エネルギーの変換とエネルギーの保存則の理解が重要であることを示す。	林　敏彦（放送大学教授） 吉岡一男（放送大学准教授）	林　敏彦（放送大学教授） 吉岡一男（放送大学准教授）
2	熱や温度や仕事とは何か？	「熱」や「温度」や「仕事」という用語も日常生活でよく使われるが、これらの概念も必ずしも正しく理解されてはいない。いろいろな場面における使われ方を吟味し、「熱」や「仕事」がエネルギーの一形態であることについての科学的な理解を与える。さらに「温度」は、時間的に変化せずいつまでも保たれている状態（熱平衡状態）で成り立つ概念であることを述べる。	吉岡一男（放送大学准教授）	吉岡一男（放送大学准教授）
3	ミクロの世界から見た熱現象	これまではエネルギーに関わる現象を日常生活の尺度からのマクロな眼で考えてきた。これを原子・分子の尺度からのミクロな眼で眺めると、これらの現象の本質が理解できる。ここでは、ミクロの立場から解説する。	吉岡一男（放送大学准教授）	吉岡一男（放送大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	元に戻れる変化と戻れない変化	状態のいろいろな変化には、元の状態に戻ることが可能な変化と元の状態に戻ることの不可能な変化とがある。後者の変化には熱が関わっていることを学び、この変化を定める基礎的な自然法則も学ぶ。さらに、この法則が熱機関の効率の上限値を決めていることを解説する。	吉岡一男(放送大学准教授)	吉岡一男(放送大学准教授)
5	変化の方向を示すエントロピー	どの変化が元に戻ることが可能かあるいは不可能かの指針を与える量が「エントロピー」である。「エントロピー」という用語は日常生活にでもしばしば使われるが、ここでは、エントロピーの性質とその意味をミクロな立場からの理解も含めて学ぶ。	吉岡一男(放送大学准教授)	吉岡一男(放送大学准教授) ゲスト: 杉本大一郎(放送大学名誉教授)
6	変化のない状態で使われる物理量	熱平衡状態で成り立つ物理量は、温度の他にもいろいろある。ここでは熱平衡状態で成り立つ代表的な概念やそれらの物理量の間の関係を表す代表的な法則についてまとめる。さらにこれらの法則が、熱平衡状態を調べるのにどのように用いられているかについても述べる。	吉岡一男(放送大学准教授)	吉岡一男(放送大学准教授)
7	変化している状態とその法則	ここでは変化しつつあって熱平衡状態にない状態(非平衡状態)における現象を科学的に扱うために、どのような法則や概念が用いられているかを概観する。	吉岡一男(放送大学准教授)	吉岡一男(放送大学准教授)
8	異なる状態が共存するメカニズム	現実の世界では、異なる温度や密度等の物理量の熱平衡状態が共存している場合が多い。宇宙から日常生活に至るいろいろなスケールでの例を挙げて、このような状態が保たれるメカニズを考える。この知識は、地球温暖化問題を考える上でも重要である。	吉岡一男(放送大学准教授)	吉岡一男(放送大学准教授) ゲスト: 杉本大一郎(放送大学名誉教授)
9	エネルギーと生活文化	前章までに学んだ科学的知識をもとに、以後の章ではわれわれの生活から社会全体に至るエネルギーに関わる問題を考える。電化製品や交通機関あるいは発電等では、ある形態のエネルギーが他の形態に変換されている。エネルギーはどのような生活を支えているのだろうか?	林敏彦(放送大学教授)	林敏彦(放送大学教授) ゲスト: 豊田尚吾(大阪ガス㈱エネルギー・文化研究所主席研究員)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
10	エネルギーと食生活	われわれがものを食べる大きな理由は、生きていくために必要なエネルギーを得るためと見ることができる。ここでは食生活に焦点を当てて、いろいろな食料の生産から摂取や消化そして廃棄に至るエネルギーの流れから食料確保の問題等、「食」に関わる問題をエネルギーの観点から眺めてみる。	中谷延二(放送大学教授)	中谷延二(放送大学教授)
11	いろいろなエネルギー資源とその特徴	われわれが用いているエネルギー資源には、化石燃料、核燃料から水力、風力、太陽光等いろいろのものがある。ここでは、それらの代表的なものを取り上げて、その総量や利用効率あるいは廃棄物等の面での特徴を挙げて、その将来性を考える。	林敏彦(放送大学教授)	林敏彦(放送大学教授) ゲスト予定: 西村陽(大阪大学大学院客員教授)
12	原子力エネルギーの展望	関西電力や九州電力では、既に、発電量の44～45%を原子力に依存している。原子力発電は二酸化炭素排出量が少ないという利点も持っている。他方、原子力発電に対する社会的受容には大きな問題もある。原子力エネルギーの制御方法と社会的利用のあり方について考えよう。	林敏彦(放送大学教授)	林敏彦(放送大学教授) ゲスト: 浜口智志(大阪大学教授)
13	エネルギーの需要と供給	経済活動におけるエネルギーの役割、一次エネルギー源への国際的な需要と供給。エネルギー価格の長期的な推移。生活、生産、輸送、産業構造における省エネの意味やエネルギーリサイクル等についても考えてみる。	林敏彦(放送大学教授)	林敏彦(放送大学教授)
14	エネルギーと国際政治	中進国の工業化、先進国の生活水準の向上などの要因によって、エネルギー需要は拡大を続けると予想されるが、資源の存在地域と資源の需要地域とは地理的に隔たっている。そのためエネルギー資源をめぐっては国際紛争が起こりやすい。どうすればよいだろうか。	高橋和夫(放送大学教授)	高橋和夫(放送大学教授)
15	将来のエネルギー問題の展望	ここでは、これまで学んだことの整理と応用を兼ねて、近い将来起こることが予想されているエネルギー問題とその対策を中心に、遠い未来の予測も含めて考える。	林敏彦(放送大学教授) 吉岡一男(放送大学准教授)	林敏彦(放送大学教授) 吉岡一男(放送大学准教授)

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	基礎科目	科目コード	1135309	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　物質循環と人間活動（‘０７）＝（TV）

〔主 任 講 師（現職名）：東　　千秋（放送大学教授）〕
〔主 任 講 師（現職名）：鈴木　基之（放送大学教授）〕
〔主 任 講 師（現職名）：濱田　嘉昭（放送大学教授）〕

講義概要

生物の活動は、地球の陸水、海洋、大気そして土壌における物質循環に大きく依存している。一方、生物の活動、特に人間の活動もまた自然環境や物質循環に大きな影響を与えている。時間と空間をスケールとする物質循環をこの地球を舞台に生命との関係とりわけ人間活動との関係について、地球の誕生から現代に至るまで歴史的に把握し、さらにその将来をも展望する。この科目は、人間活動がもたらす環境問題を直接扱うものではないが、これからも生命活動が持続できるために人間は何を目指せばよいのか、その考え方の材料を提供する。

授業の目標

このテーマは、高等学校では地球と生態系における物質循環の内容で学習されている。このことを入り口として放送大学でのこの分野の学習テーマに結びつくようにする。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	物質循環と人間活動の視点	物質循環と人間活動について、この科目の視点は何か、そしてこの科目の全体像は何かを示す。	鈴木　基之 濱田　嘉昭 東　　千秋	鈴木　基之 濱田　嘉昭 東　　千秋
2	地球の成り立ち	生物の体をつくり、働きを決めているものは地球の物質である。どのような物質を利用できるかは、その構造と物質分布、すなわち地球の成り立ちに依存する。地球が微惑星の衝突によってできたことを説明し、物質の基本である元素がどのように生成し、分布したのかを学ぶ。	濱田　嘉昭	濱田　嘉昭 ゲスト出演： 杉浦　直治 （東大宇宙惑星講座教授）
3	生きている地球	火山や地震は地球が活発に運動していることの直接的な証拠である。地球内部の構造と運動について紹介し、その結果、どのような物質の移動や循環が起こるのかについて学ぶ。	濱田　嘉昭	濱田　嘉昭 ゲスト出演： 井上　　徹 （愛媛大地球深部ダイナミックスセンター准教授）
4	大気と海洋	大気の構造と運動、海洋の流れと物質運搬能力について紹介する。水を媒介として海洋と大気および大地の間に生じる物質循環について学ぶ。	濱田　嘉昭	濱田　嘉昭 ゲスト出演： 池田　元美 （北大地球環境科学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	生命の誕生	地球上の生物がどのような物質を前提にして発生したのかに関する最近の学説を紹介する。生命活動と物質環境・物質循環との関わりを考察する。	濱田　嘉昭	濱田　嘉昭 ゲスト出演： 小林　憲正 (横浜国大工学部教授)
6	生態系の成り立ち	生物社会における植物、動物の関係と役割、生物の絶滅の歴史を例に生態環境の変遷と生物社会の多様性の意味を知る。また、約500万～700万年前といわれる人類誕生当時の生物社会の様相を考える。	東　千秋	東　千秋 ゲスト出演： 濱田　隆士 (東京大学名誉教授)
7	土と生物	生物による大きな物質循環として土と生物が係わる炭素や窒素などの物質循環を知り、さらに土がどのようにつくられていったのか、また森と海洋生物の関係について知る。	東　千秋	東　千秋 ゲスト出演： 波多野隆介 (北海道大学大学院農学研究科教授)
8	農業の起こり	人類が自然の一部として進化し、約1万年前に何故に定着して農業を始めることになったのか。農業の特徴を生態系の視点で耕地生態系として自然生態系との比較で学ぶ。農業の多様性と農業の問題点を生態系の視点で物質循環とエネルギーの流れから考える。	鈴木　基之	鈴木　基之 ゲスト出演： 森田　茂紀 (東大農学部教授)
9	農業の発展	物質循環とエネルギーの流れから農業という人間活動をどのようにしていけばよいのか、ということについて考えていく。そこで耕地生態系における作物の栽培の問題を、物質循環とエネルギーの流れという視点で、エネルギーの流れ、炭素の循環、窒素の循環、リンの循環、水の循環から考える。	鈴木　基之	鈴木　基之 ゲスト出演： 森田　茂紀 (東大農学部教授)
10	農業と環境	農業の進展とともに、人口の増大を抱え、食料増産の必要性に端を発する近代工業的農業、化学肥料、農薬などの利用による農業がどのように物質循環を規定しているのかを知り、さらに農業は自然環境にどのような影響を与えているのか、農業で人間を支えることが可能なキャパシティーはどうなのか、農業と環境の関係を考え、農業の将来像を展望する。	鈴木　基之	鈴木　基之 ゲスト出演： 森田　茂紀 (東大農学部教授) および 稲永　忍 (国際農業水産研究センター理事長)
11	産業革命と工業化社会	産業革命の起こりとそれ以降の工業の発展の歴史から物質循環における産業革命と工業化社会の影響を考える。	東　千秋	東　千秋 ゲスト出演： 道家　達将 (東京工業大学名誉教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	現代産業活動と資源循環	20世紀後半から現代までの産業活動における資源循環について、水産資源などの生物資源、石油に依存する工業活動と資源循環、採掘資源と活用物質の関係を知り、資源の有限性と再生可能性を考える。	東　千秋	東　千秋 ゲスト出演：原田　幸明（独立行政法人物質・材料研究機構材料ラボ　ラボ長）
13	都市と物質循環	都市の形成と都市への人口集中、都市の物質循環とエネルギーの消費から都市と物質循環について廃棄される物質とその循環を中心に考える。	鈴木　基之	鈴木　基之
14	都市と水	現在の都市の活動における水の循環を産業活動、人間生活、都市周辺の生態系維持など多様な水の働きの観点から把握し、水道と下水道などの役割を含めて水の総合的な姿について考える。特に都市の発展との関連も重視する。	鈴木　基之	鈴木　基之 ゲスト出演：渡辺　義公（北海道大学教授）
15	持続可能な社会を目指して	この科目の総括として、持続可能性のためにこれから人間は何を目指せばよいのか、人間活動の抑制は可能か、そしてそのためのパラダイムシフトは何かを考える。	東　千秋	東　千秋 ゲスト出演：丹保　憲仁（放送大学前学長）

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	基礎科目	科目コード	1138200	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　かしこくなる患者学（‘０７）＝（Ｒ）

〔主任講師（現職名）：高柳　和江（日本医科大学医学博士，文京学院大学客員教授）〕
〔主任講師（現職名）：仙波　純一（さいたま市立病院総合心療科部長）　　〕

講義概要

かしこくなる患者学では，医療を患者の視点から考えていきます．初めの回の「エンパワメント」では，体の持つ健康を強めていくことを学びます．しかし，その基盤にあるのは生き物としての人間の自己治癒力です．この自己治癒力をしっかり理解し，笑いや統合医療などで高める方策を知ったうえで，わが国の医療のシステムの特徴を把握し，さらに医療情報の評価や選択の基礎を学びます．この科目の後半では「患者としての権利」，「EBMとNBM」，「患者から社会への発信」，「ヘルスリテラシー」さらにはヒトの「死」などを取り上げ，徹底的に人間の立場から，わかりやすく解説していきます．

授業の目標

人間として幸せに生きる心や身体を保持増進する方策を患者の視点から学習します．

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	エンパワーメント	病人を力づけるエンパワーメントや人間の尊厳などの概念を学習する．エンパワーメントの効果を学び、エンパワーメントの方法としてコーチングやアニメーションについても言及する．	高柳　和江	高柳　和江
2	生まれ，生き，そして死ぬ運命の細胞－自然治癒する身体	生まれ、自然治癒をしながら生き、そして死ぬ運命の細胞の営みを細胞レベルで学ぶ。このために細胞の生命、細胞の損傷と継続、細胞の死、さらに 免疫の仕組みと自然治癒の仕組みが理解できるようになる．こういう基礎知識の中で、 利己的な遺伝子、利己的な胎児、利己的ながんについて考えることができるようになる．	高柳　和江	高柳　和江
3	自己治癒力（1）－病気としてのストレスと自己治癒力	ストレスとしての病気について学ぶ．ストレスとストレッサーの違いがわかり、ストレッサーについて理解できるようになる．さらに、ストレスを低減するためのコーピングについて説明できるようになる．	高柳　和江	高柳　和江

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	自己治癒力（2）－環境と自己治癒力	患者をとりまく環境が自己治癒力に及ぼす悪い影響，またよい影響について考える．	高柳　和江	高柳　和江
5	笑い	笑いの基礎知識を学問的に学ぶ。このために、笑いを脳科学的，あるいは社会学的に分析するための基礎知識を学習し、笑いの医学的効果を知る．そして笑いの病人に対する影響を知り、応用が可能になるようにする．	高柳　和江	高柳　和江
6	統合医療と自己治癒力	ストレスを減らし，自己治癒力を高める統合医療についての一般的知識や，医学的根拠に基づいた伝統的統合医療，さらに今後の方向性などについて学ぶ．	高柳　和江	高柳　和江
7	医療サポート（1）－医療システムの利用の仕方	わが国の現在の医療システムについて学び，患者としての医療の利用法，問題となっている医療政策などを理解する．	高柳　和江	高柳　和江
8	医療サポート（2）－医学医療教育の質の変化	医療提供者に対する教育の質の変化を学ぶ．医学教育や医師国家試験の変貌，研修医制度や専門医制度の発展，およびコメディカルの教育内容の変化についても理解できるようにする．	高柳　和江	高柳　和江
9	医療の選択（1）－医療の情報	病院の情報は最近少しずつ公開されるようになってきたが，医療の結果（成績）の正確な評価とその公開は十分でない．そのため，いわゆる病院のガイド本やテレビの情報番組などでの健康情報などが氾濫している．かしこい患者として，医療情報の内容とその情報収集や選択をどのように行えばよいかを学ぶ．	仙波　純一	仙波　純一

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
10	医療の選択（2）－医療の質の安全と評価	医療の質を患者安全という視点で取り上げる．医療の質の評価とその利用法，患者安全のために患者自身がなすべきことなどを学ぶ．	高柳　和江	高柳　和江
11	患者としての権利	患者が主体的に医療に参加することが，かしこい患者となる第一歩である．ここでは，患者の権利，アドボカシー，インフォームド・コンセント，セカンド・オピニオンなどの概念とその重要性について学ぶ．さらに，権利だけでなく患者が果たすべき役割も考える．	仙波　純一	仙波　純一
12	EBM と NBM	医学が証拠に基づいた医療（EBM）と患者の語りを基盤とした医療（NBM）があることを学ぶ．EBM は医師の経験や勘によるのではなく，医学的な根拠に基づき医療を行おうとするものである．一方，NBM はナラティヴ・ベースド・メディシンの略である．患者個人の社会的背景や生活史などを理解し，患者の症状を固有の“ものがたり”としてとらえていくという立場である．両者は一見対立するようであるが，実際は医療を行う上で，EBM と NBM は車の両輪の役割を果たしている．	仙波　純一	仙波　純一
13	患者から社会への発信	患者アドボカシーについて考える．患者の側から直接あるいは間接に医療に参加することを学ぶ．模擬患者や医療におけるボランティア活動を理解する．	高柳　和江	高柳　和江
14	ヘルスリテラシー	ヘルスリテラシー（健康や医療情報の読み取り方）を高めるための基本的理解をめざす．医療情報を得た後，それをどう理解し評価するかは重要である．最近は，インターネット上から疾患の治療ガイドラインや薬剤情報などが容易に得られるようになってきた．健康診断の意義や病院情報をどう読み取るかも学習する．	仙波　純一	仙波　純一
15	死を前向きに考える	自然科学的死や社会的死のとらえ方を知り，人間の尊厳を理解し，よりよく死ぬための基礎知識を学ぶ．	高柳　和江	高柳　和江

＝　初歩からの微積分（‘０６）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：熊原　啓作（放送大学教授）　〕
〔主任講師（現職名）：押川　元重（放送大学特任教授）〕

全体のねらい

世の中を理解し積極的に対応しようとするとき，時間，長さ，広さ，重さ，物の量，価格などいくつもの変量を認識することは不可欠である。さらに一つの変量の値が決まれば，他の変量の値が決まるという関数関係を認識することも避けることは出来ない。二つの変量の間に関数関係があれば，それらの変化量の割合を記述するものとして，導関数を考える。微分するとは与えられた関数の導関数を求める演算のことであるが，その逆演算として積分がある。積分によって曲線で囲まれる図形の面積が計算できる。また導関数，関数，変量の間の関係を表現する微分方程式を解くことによって，それらを規定する関数関係を導くことができる。この授業科目では，高校で微分積分を学んでいることを前提としないで，大学レベルの微分積分を展開する。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	関数と導関数	関数とは何か，微積分を展開する準備として基本事項を解説する。 １．数から数への対応としての関数，２．関数の表し方，３．関数の定義域と値域，４．１対１関数，５．逆関数	熊原啓作（放送大学教授） 押川元重（放送大学特任教授）	熊原啓作（放送大学教授） 押川元重（放送大学特任教授）
2	上限・下限，関数の極限値	連続関数と極限値の基本性質を解説する。 １．数集合の上限と下限，２．有界な集合，３．実数の連続性の公理，４．関数の極限値，５．右極限値と左極限値，６．関数の連続性，７．関数の最大値と最小値	同上	同上
3	指数関数と対数関数	基本的な関数である指数関数・対数関数の導入とその性質を解説する。 １．指数関数 2^x．２．指数関数 a^x．３．対数関数 $\log_a x$．４．自然対数の底 e．５．指数関数 e^x と対数関数 $\log x$	同上	同上
4	三角関数と逆三角関数	基本的な関数である三角関数を複素数を用いて導入しその性質を解説する。 １．複素数の和と積，複素数平面，２．共役複素数と複素数の絶対値，３．$e^{i\theta}=\cos\theta+i\sin\theta$，４．サイン関数とコサイン関数のグラフ，５．サイン関数とコサイン関数の性質，６．タンジェント関数，７．アークサイン関数，アークコサイン関数，アークタンジェント関数	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	導関数	導関数の定義といくつかの関数の導関数の計算を解説する。 1．導関数とその表し方，2．導関数の値の意味，3．対数関数の導関数，4．三角関数の導関数，5．接線の傾きと「瞬間変化率」，6．単調増加関数と単調減少関数，7．逆関数の導関数，8．指数関数の導関数，9．逆三角間数の導関数	熊原啓作（放送大学教授） 押川元重（放送大学特任教授）	熊原啓作（放送大学教授） 押川元重（放送大学特任教授）
6	関数の生成	扱える関数を増やすため，関数の生成ということを解説する。 1．基本になる関数の性質 x^n, e^x, log x, sin x, cos x, tan x, $\sin^{-1}x$, $\cos^{-1}x$, $\tan^{-1}x$. 2．関数の和，定数倍，積，商による関数の生成，3．合成による関数の生成，4．和の関数 f+g，定数倍関数 cf，積関数 fg，商関数 f/g，合成関数 f∘g	同上	同上
7	微分と2階導関数	導関数の性質と導関数の計算を解説する。 1．関数の和と定数倍，積，商の導関数，2．合成関数の導関数，3．複雑な関数の導関数の計算，4．2階導関数	同上	同上
8	平均値の定理とテーラーの定理	高次導関数を用いての関数の多項式による近似とその応用を解説する。 1．関数の1次近似と2次近似，2．平均値の定理とテーラーの定理（2次），3．関数の増加・減少，4．テーラーの定理（高次）	同上	同上
9	不定積分	微分の逆演算としての不定積分の計算法を解説する。 1．微分の逆演算としての不定積分，2．部分積分法，3．置換積分法，4．速度と加速度	同上	同上
10	1階微分方程式	多くの現象が微分方程式を用いて記述されるが、その第1歩として1階微分方程式を解説する。 1．微分方程式とは，2．変数分離形，3．同次形，4．1階線形微分方程式	同上	同上
11	2階線形微分方程式	運動を記述する2階線形微分方程式の基本性質と解法を解説する。 1．指数関数の導関数（続），2，定数係数同次2階線形微分方程式，3．定数係数非同次2階線形微分方程式	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	定積分	面積・体積を求めるときに使われる定積分の定義と意味，計算法を解説する。 1．定積分の意味と計算法，2．定積分の定義，3．連続関数の定積分の計算	熊原啓作（放送大学教授） 押川元重（放送大学特任教授）	熊原啓作（放送大学教授） 押川元重（放送大学特任教授）
13	数列の極限値	数列の極限の議論を通して数学論理の展開の仕方を解説する。 1．正しい命題と正しくない命題，2．ε-N論法による数列の極限値の定義，3．ε-N論法の必要性，4．上に有界な単調増加数列は収束すること，5．数列の極限値と関数の極限値との関係	同上	同上
14	多変数関数への発展　I	複数の要因で決まる現象を扱うときに必要な多変数関数の入門第1歩を解説する。 1．2変数関数，2．2変数関数の偏導関数とその表し方，3．合成関数の偏微分，4．2次の偏導関数	同上	同上
15	多変数関数への発展　II	理工学のみならず社会科学でも必要な多変数関数の極値問題に行列と行列式を用いて迫る。 1．行列と行列式，2．固有値と固有ベクトル，3．実対称行列の対角化，4．2変数関数の極大，極小の判定	同上	同上

＝　線型代数入門（‘０３）＝（TV）

〔主任講師：　長岡　亮介（放送大学教授）〕

全体のねらい

数理科学諸分野の勉強を志す人に必要な線型代数の基本部分の確実な理解を主目標におきつつ、必ずしも技術的な知識にこだわらず、むしろ現代数学の方法論的特徴が実感できるような講義を目指す。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	線型代数入門入門	線型代数における基本的な問題意識と手法の基礎にある考え方を、歴史的な視座と大学以前に学んだ数学との対比を使って解説する。さらに講義の流れと目標について触れる講義全体の鳥瞰図的な把握を目標とする。	長岡　亮介（放送大学教授）	長岡　亮介（放送大学教授）
2	現代数学入門（1）	次の２回と会わせ、線型代数を理解する上で必須の現代数学の基礎概念について実用的観点と方法論的観点を両睨みにして入門的な解説を行う。今回は主として集合の基礎概念について述べる。	同　上	同　上
3	現代数学入門（2）	前回に引き続き、線型代数を理解する上で必須の現代数学の基礎概念について実用的観点と方法論的観点を両睨みにして入門的な解説を行う。今回は主として、写像と述語論理の基礎概念について述べる。	同　上	同　上
4	現代数学入門（3）	前回に引き続き、線型代数を理解する上で必須の現代数学の基礎概念について実用的観点と方法論的観点を両睨みにして入門的な解説を行う。今回は主として、代数構造の基礎概念について述べる。	同　上	同　上
5	ベクトルの基礎概念	解析幾何の必須基礎概念である座標の概念を反省的に捉え返し、これによって、線型代数の基本にあるベクトルの概念を導入する。また、規範的なベクトルとして、数ベクトルとその演算を学ぶ。線型従属、線型独立、次元という線型代数でもっとも重要な基礎概念はここで直感的に理解される。	同　上	同　上
6	行列の基本概念	ベクトルの演算を介して行列とその演算を導入する。行列の演算の``非日常的"な代数的構造を理解する。	同　上	同　上
7	逆行列の概念、正則行列の概念	現代代数学的な立場から逆行列を導入し、連立一次方程式を逆行列の立場から見る。また、正則性の概念の重要性を理解する。	同　上	同　上
8	連立一次方程式	掃き出し法と呼ばれる連立一次方程式の解法を通じて行列の基本変形を学ぶ。	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
9	階数 rank の概念	連立一次方程式の方程式の解法を通じて、解の自由度、さらには、階数の概念を講ずる。	長岡　亮介	長岡　亮介
10	行列式に向けて	置換の概念、対称式・交代式の概念をやや抽象的な立場も含めて講ずる。	同　上	同　上
11	行列式の概念	置換を用いた行列式の定義と、それと同値な行列式の多重線型性に基づく定義を与える。行列式の幾何学的な意味と具体的な行列式の計算を学ぶ。	同　上	同　上
12	行列式の計算	煩雑な行列式の計算を実際に行うための様々な工夫について述べる。	同　上	同　上
13	余因子行列の概念、Cramer の公式	逆行列に対する行列式の立場からのアプローチを紹介する。その副産物として、古来有名な連立一次方程式の解の公式を導出する。	同　上	同　上
14	線型写像と基底	線型空間の元や線型写像が基底を通じて数ベクトルや行列として“河蝕的に”捉えられることを学ぶ。	同　上	同　上
15	今後の課題と展望	本講義で未解決の問題を提起し、更なる発展の道筋を展望する。	同　上	同　上

＝ 確率・統計の基礎（‘０５）＝（Ｒ）

〔主任講師：釜江　哲朗（松山大学教授）〕

全体のねらい

確率とは何かを考え、それが世の中でどのように用いられているかを参照しながら、基本概念や計算方法に習熟して行くことを目的とする。さらに、統計の考え方を学び、検定・推定の意味を理解しつつ、現実のデータの統計解析を試みる。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	確率の考え方と歴史	確率とは何かについての考察を行う。パスカル以来のさまざまな考え方が紹介されるとともに、現在どういうところで確率が用いられているかを学ぶ。	釜江　哲朗（松山大学教授）	釜江　哲朗（松山大学教授）
2	場合の数と確率	配列の数、組合せ数を用いた場合の数の計算と、それに基づく確率の計算を例題を解く形で学ぶ。組合せ数に関する基本性質の復習も行う。	同　上	同　上
3	確率事象とその計算法則	確率事象とは何かを学び、それらの確率をもとにそれらの和や共通部分、排反事象の確率の導き方を学ぶ。確率事象の間の関係が集合の場合と同様に、ベン図式で表されることと、確率と面積の類似性を用いて、確率の加法性を導く。また、条件付確率が導入される。	同　上	同　上
4	確率変数とその期待値、確率変数列の独立性	確率変数の概念が導入される。実数値確率変数の和や積、期待値・分散について学ぶ。期待値の線形性や独立確率変数の積の期待値が期待値の積であることなどを学ぶ。	同　上	同　上
5	離散型確率変数の分布	２項分布、ポアソン分布、幾何分布、超幾何分布が導入され、それらの実例、平均と分散について学ぶ。	同　上	同　上
6	連続型確率変数の分布	一様分布、指数分布、正規分布が導入され、それらの実例、平均と分散について学ぶ。	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
7	大数の法則と中心極限定理	独立確率変数列についての大数の法則が導かれる。また、中心極限定理について学び、その意味を具体例とともに理解する。	釜江　哲朗	釜江　哲朗
8	ランダム・ウォークとブラウン運動	ランダム・ウォークに関する確率の計算や鏡像の原理を学ぶ。また、その極限としてブラウン運動が導かれ、ブラウン運動の応用として熱伝導方程式が論じられる。	同　上	同　上
9	統計の考え方と意味	統計学の歴史と統計についてのさまざまな考え方が紹介されるとともに、今日統計学がどのように用いられているかを学ぶ。また、母集団、母数、標本、統計量といった基礎概念を理解する。	同　上	同　上
10	仮説検定の考え方とその意味	統計的検定の定式化とその背後にある考え方、仮説、対立仮説、第１種過誤、第２種過誤、有意水準、検出力関数の意味や検定の良さの基準が具体例とともに論じられる。	同　上	同　上
11	推定の考え方とその意味	区間推定と点推定が論じられる。不偏性、一致性、最小分散性等の推定の良さの基準が導入される。また、具体例をもとにこれらの意味について学ぶ。	同　上	同　上
12	正規母集団に関する検定・推定	正規母集団における分散既知の場合の平均の検定・推定、分散未知の場合の平均の検定・推定、平均未知あるいは既知の場合の分散に関する検定・推定が論じられる。これに関係して、t-分布、χ^2-分布、F-分布が導入される。	同　上	同　上
13	適合度検定	χ^2-分布を用いた適合度検定を学び、具体例に対して適合度検定を行う。	同　上	同　上
14	分散分析	F-分布を用いた分散分析が導入され、母集団の同一性等の検定を行う。	同　上	同　上
15	最小２乗法	最小２乗法の意味を学び、その解としての正規方程式が導かれる。これによる未知母数の決定と回帰分析を行う。	同　上	同　上

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	共通科目（自然系）	科目ｺｰﾄﾞ	1131001	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 解析入門 （’０８）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：熊原啓作（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：河添　健（慶應義塾大学教授）〕

講義概要

偏微分と重積分は応用上重要であるにもかかわらず，1変数関数の微積分を仮定して講義されるため，取り付きにくいものになっている。この講義では常に1変数との対比をしながら出来るだけ平易に解説する。主として2変数関数を扱い，図などにより視覚化して偏微分と重積分の理解を深めるようにする。また平面を複素数平面と見ることにより複素関数を考えることは自然である。複素数や複素関数の簡単な性質についても解説する。全体にわたって出来るだけ実例，応用例，計算例を取り上げる。講義で扱う内容は理工系の自然科学ばかりではなく経済学・経営学などの社会科学でも重要な道具であることを明らかにする。

授業の目標

複数の要因から決まる関数関係－多変数関数－を理解すること，グラフや立体図形を理解し、空間概念を把握する能力を身につけること，偏微分と重積分の意味を知り簡単な計算が出来ること，複素数と複素変数関数の基礎的な性質を知ることを目標とする。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	なぜ多変数関数なのか	複数の要因に依存する事象を探し、それらを数式－多変数関数－によって表示する。とくに空間座標を用いることにより、2変数関数を可視化する。いくつかの代表的な数式と可視化した曲面を解説する。多変数関数の連続性についても考える。 【キーワード】 多変数関数，座標，定義域，グラフ，等高線，連続，不連続	熊原啓作(放送大学教授)・河添　健(慶応義塾大学教授)	熊原啓作(放送大学教授)・河添　健(慶応義塾大学教授)
2	多変数関数の微分とは	1変数の微分係数を復習し、その多変数化を述べる。とくに2変数関数の微分可能性の意味を探り，1変数関数の微分との相違点を浮き彫りにする。2変数関数を可視化した曲面と接平面の関係を分かり易く解説する。それにより微分とその幾何学的意味を理解する。 【キーワード】 偏微分係数，偏導関数，全微分可能，接平面，方向微分，勾配ベクトル	熊原啓作放送大学教授)・河添　健(慶応義塾大学教授)	熊原啓作(放送大学教授)・河添　健(慶応義塾大学教授)
3	偏微分を計算しよう	偏微分の計算に習熟することを目指す。とくに2次偏導関数とその計算方法を説明し，良い関数であれば連鎖法則が成り立つことを示す。また良い関数に対しては高次の偏微分係数は偏微分する順序によらないことを注意する。 【キーワード】 2次編導関数，高次偏導関数，微分の順序，連鎖法則，陰関数	熊原啓作(放送大学教授)・河添　健(慶応義塾大学教授)	熊原啓作(放送大学教授)・河添　健(慶応義塾大学教授)
4	テイラー展開してみよう	2変数関数の1次近似、2次近似を説明する。1次近似は関数の線形化であり、グラフの接平面に他ならないこと理解する。さらに高次近似であるテイラーの定理を1変数のテイラーの定理を用いて導く。 【キーワード】 1次近似，接平面，2次近似，テイラーの定理，テイラー級数	熊原啓作(放送大学教授)・河添　健(慶応義塾大学教授)	熊原啓作(放送大学教授)・河添　健(慶応義塾大学教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	極大と極小を探そう	2変数関数を2次関数で近似することによって、その極大・極小の判定、極大値・極小値を求めることが出来る。このとき極値を持つかどうか，極大か極小かの判定に使われるのがヘッシアンとよばれる2次偏導関数からなる行列式である。 【キーワード】 極大・極小，極大値・極小値，ヘッシアン，鞍点，楕円放物面，双曲放物面	熊原啓作(放送大学教授)・河添 健(慶応義塾大学教授)	熊原啓作(放送大学教授)・河添 健(慶応義塾大学教授)
6	制約条件があるときの極値を求める	経済・経営などの現実社会における極値問題は、特定の条件や制約の下において極値や最大値を求めるものである。いくつかの具体例とともに条件下で極値を探すのに有用なラグランジュの乗数法を解説する。 【キーワード】 近傍，開集合，閉集合，境界，連結，有界，条件付き極値，ラグランジュの乗数法	熊原啓作(放送大学教授)・河添 健(慶応義塾大学教授)	熊原啓作(放送大学教授)・河添 健(慶応義塾大学教授)
7	2変数関数の積分をどう考えるか	1変数関数の積分を定義する区分求積法を復習し、その手法を長方形領域で定義された2変数関数に拡張する。次に一般領域で定義された2変数関数の重積分を定義する。さらにこれらの重積分は1変数の積分の繰り返しによって求められることを示す。 【キーワード】 長方形上の重積分，一般領域の重積分，繰り返し積分，積分の順序	熊原啓作(放送大学教授)・河添 健(慶応義塾大学教授)	熊原啓作(放送大学教授)・河添 健(慶応義塾大学教授)
8	極座標に変えて積分しよう	重積分は1変数の積分の繰り返しによって求められるが、ある場合には直交座標を極座標に変換することによって計算が容易になることを示す。さらに一般の座標変換によって積分がどのように変化され計算されるのかをみる。 【キーワード】 平面極座標，単純角領域，扇面形，面積要素，変数変換，ヤコビアン	熊原啓作(放送大学教授)・河添 健(慶応義塾大学教授)	熊原啓作(放送大学教授)・河添 健(慶応義塾大学教授)
9	面積と体積を求める	領域で1という関数を重積分することによって、その領域の面積が求まる。その計算は1変数の積分を繰り返すことによって求められることを示す。また同様の考え方が立体図形の体積を求める場合にも適用されることを示す。実際、2変数関数の重積分によって体積が求められることを示す。 【キーワード】 多重積分，体積を持つ図形，体積要素，空間極座標，円柱座標	熊原啓作(放送大学教授)・河添 健(慶応義塾大学教授)	熊原啓作(放送大学教授)・河添 健(慶応義塾大学教授)
10	平面と複素数	複素数の四則演算を復習し、その基本的な性質を複素数平面での表示を用いて説明する。とくに次章につながる複素数の基本概念を準備する。 【キーワード】 複素数，実部，虚部，複素数平面，偏角，絶対値	熊原啓作(放送大学教授)・河添 健(慶応義塾大学教授)	熊原啓作(放送大学教授)・河添 健(慶応義塾大学教授)
11	複素数を変数とする関数	複素数を変数とする関数を考えその導関数を定義する。実変数の関数と異なり、複素数変数の関数の微分可能性がコーシー・リーマンの方程式によって記述されることを述べる。 【キーワード】 複素変数関数，複素関数の微分，コーシー・リーマンの方程式，正則関数	熊原啓作(放送大学教授)・河添 健(慶応義塾大学教授)	熊原啓作(放送大学教授)・河添 健(慶応義塾大学教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	級数と整級数	複素数列と級数の収束について基本的な性質を述べる。とくに各項が関数となった関数項級数の中で応用上もっとも重要な整級数について詳しく調べる。収束円、収束半径、一様収束、項別微分と項別積分など解析学の基礎に目を向ける。指数関数，対数関数，べき関数導入する。 【キーワード】 整級数、収束半径、ダランベールの定理、一様収束、指数関数、オイラーの公式、対数関数、べき関数	熊原啓作(放送大学教授)・河添 健(慶応義塾大学教授)	熊原啓作(放送大学教授)・河添 健(慶応義塾大学教授)
13	曲線の上で積分する	平面上の曲線に対して、その線上での2変数関数の積分を定義する。閉領域が与えられたとき、2変数関数の周上の積分と領域での積分の関係を表すグリーンの定理解説する。 【キーワード】 曲線の長さ，線積分，曲線に沿った積分，グリーンの定理	熊原啓作(放送大学教授)・河添 健(慶応義塾大学教授)	熊原啓作(放送大学教授)・河添 健(慶応義塾大学教授)
14	正則関数とコーシーの定理	正則関数は領域で微分可能な関数であるが、閉曲線上の積分によっても特徴付けられることを示す。コーシーの定理は解析学の中で最も美しい定理の一つである。 【キーワード】 単一閉曲線，コーシーの定理、コーシーの積分公式	熊原啓作(放送大学教授)・河添 健(慶応義塾大学教授)	熊原啓作(放送大学教授)・河添 健(慶応義塾大学教授)
15	正則関数の不思議な性質	コーシーの定理から導かれる正則関数の性質を述べる。とくに正則関数の整級数展開や最大値の原理などを説明する。 【キーワード】 整級数展開定理、最大値の原理、一致の定理	熊原啓作(放送大学教授)・河添 健(慶応義塾大学教授)	熊原啓作(放送大学教授)・河添 健(慶応義塾大学教授)

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	共通科目（自然系）	科目コード	1231502	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝ 情報科学の基礎（‘０７）＝（TV）

〔主任講師（現職名）： 川合 慧（放送大学教授）〕

講義概要

身近な情報機器であるパーソナルコンピュータの動き方や実際の仕組みを導入として，情報機器を実際に実現しているのは手順を記述するプログラムであること，実際のプログラムの概略，及びその動作能力の源泉である数学的万能性を，平易な例を用いて解説する．さらに，現実的なコンピュータ処理の複雑さとそれを実現するプログラムの大きさを理解することによって，現代の情報システムの全体像とその限界を示す．

授業の目標

情報社会を生きるにあたって利用せざるを得ない各種の情報システムについて，単なるブラックボックスの従順な利用者の視点ではなく，その根本的な原理や仕組みの概略を知ることによって得られる批判的な視点をもつことができるようにする．これにより，今や一般的な社会人にも求められている変化の激しい情報環境への適切な対応や，複雑な問題への容易な対処が可能となる．

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	活躍するコンピュータ	我々の生活が依存している身近な情報システムの機能を分解し，「計算するもの」が必要であることを認識する．その要素的な機能の単純さと情報システムが行う「計算」の規模とを対比し，コンピュータの高速性がそれを可能としていることを理解する．	川合 慧（放送大学教授）	川合 慧（放送大学教授）
2	ソフトウェア	単一の機械でさまざまな機能を実現するもの（ゲーム機，パーソナルコンピュータ（以後PC），ラジカセ，など）の振舞いを考える．PCにソフトウェアを導入する過程と結果とから，ソフトウェアが「記録され」かつ「実行される」ことを認識する．	同上	同上
3	動作指令書	レシピや楽譜を例として，操作指令書における用語と表現方法，および料理（音楽）を具体化するものについて考える．ソフトウェアは動作指令書であり，それが動く（効果を表す）ためには，PCのような実働部隊が必要であることを確認する．	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	実行する機構	「ソフトウェアが動く」ためには，それを解釈し実行する機構が必要であることを再確認する.「動く」ことの実態が，外界への働きかけ・外界からのデータの取込み・内部的な計算，であることをロボット等の例で調べる.	同上	同上
5	ソフトウェアの実態：プログラム	望みの結果を得るためのやり方として，状況を少しずつ変更してゆく方法を理解し，それを実現するための基本的な要素の例を学ぶ. 状況が時間の経過とともに変化してゆく様子を例を通じて把握し. 繰り返しやモジュール化の必要性も認識する.	高岡　詠子（千歳科学技術大学准教授）	高岡　詠子（千歳科学技術大学准教授）
6	プログラムの本質へせまる	プログラムを作ること（プログラミング）の意味を確認し，要求される結果を得るための状態変化の系列の設計であることを学ぶ. グラフィックな結果が得られる例題を使って、条件分岐や再帰的定義について学ぶ.	同上	同上
7	本格的プログラミング	問題ごとの解決パターンに着目できるようにするための多数の例題を通じて，より複雑な設計を要求される問題についてのプログラム作成の様子を理解する.	同上	同上
8	プログラムと抽象化	副手続きをモジュール化あるいは抽象化という面から捉えなおし，その重要性を把握する. より系統的なプログラム構築法としての構造化手法に結びつける. 思考方法に沿った素直な再帰の使用法などを学ぶ.	同上	同上
9	アルゴリズム	手順の明確な記述のためには使用する計算モデルを正確に定義しておくことが重要であることを認識し，その上での「記述された手順」の概念を明確に把握する. データとして扱える程度の精密な記述が求められることを学ぶ.	並木美太郎（東京農工大学大学院准教授）	並木美太郎（東京農工大学大学院准教授）
10	計算の手間	代表的なアルゴリズムを使って計算の手間（計算量）の考え方を理解する. ここで探索・検索系は基本として重点的に扱う. 「問題の大きさ」という概念を理解し、計算量の見積もり方を明確に把握する. 計算量のオーダの概念を学ぶ.	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
11	計算量と実用計算	アルゴリズムを実用的にするための計算量的考慮を学ぶ．思いついただけの原理的な解法では現実的な時間内では解けない例の改良過程を通じて，高速化の一般的な手法（無駄な計算の除去，差分計算，表の利用など）を理解する．	同上	同上
12	万能計算システム	プログラムが符号化によりデータとして扱えること．この符号化を逆に解釈するのが解釈系であることを再確認した後，符号化の解釈をするプログラムが構成できることを見る．さらにこのプログラムがどのような性質をもつかを検討する．	筧　捷彦（早稲田大学教授）	筧　捷彦（早稲田大学教授）
13	コンピュータの万能性	前回の内容を再度確認した後，集合論のパラドックスの説明を経て，停止判定プログラムが作成不可能であることを理解する．これは原理的な不存在証明であり，ゲーデルの不完全性定理の情報科学版の一つであることを学ぶ．	同上	同上
14	ソフトウェアの作成	完全な仕様記述がいかに難しいかを簡単な例によって認識した後，人間の不完全さを確認し，ソフトウェア作成の困難さを把握する．プログラム言語，作成手法，テスト技法などによる対処方法を学ぶ．	同上	同上
15	情報科学と社会	コンピュータ（計算機構）の発展の歴史の学習を通じて，プログラム内臓方式がもたらした本質的な展開の道筋を見る．数学的な基礎の存在を再確認するとともに，コンピュータの万能性がもつ能力をきちんと認識する．	川合　慧（放送大学教授）	川合　慧（放送大学教授）

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	共通科目（自然系）	科目コード	1137301	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア）＝　物理の世界（‘07）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：生井澤　寛（放送大学教授）　〕
〔主任講師（現職名）：波田野　彰（神奈川大学教授）　〕
〔主任講師（現職名）：小形　正男（東京大学大学院准教授）〕

講義概要

物理の世界('07)の精神は、敬遠され気味の物理を、少しでも身近なものに感じてもらえるよう、自然をとらえる「物語」として話を進めていく。物理を身近に感じ、理解を深めるためには、受け身な学習ではなく、普段から自然を良く観察し、なぜ、どうしてと問うことが要る。敬遠される主な理由が、記号や数式を使うからだ、と言うことは、かつて同じ大学で教鞭を執っていた担当講師３人の共通認識である。数式の使用は必要最小限にと努めるつもりだが、数式になじめないのは、いわゆる「食わず嫌い」から来ることも知っている。講義やテクストの流れの中に基本的な演習を組み込むので、自らの手で解くとともに、頭や目・耳だけで論理や数式を追うだけでなく、自ら手を動かしノートをとって、論理の展開や数式の扱いを再現したり、一歩進めたりして欲しい。さらに、実験も大切である。身の回りのものでやれる実験を用意するので、自分でやってほしい。そういう皆さんのなかから、自然の理解に新しい道を見いだす人が出ることが、我々の夢である。

授業の目標

経験や自分でやれる実験を通して、力やエネルギーなどの物理の基本的概念が、なぜ、どういう風に導入されるかを見ながら、それらの理解を深める。これによって、さらに高度な概念を把握するための素地や、未知の事柄を探求するための観察力と好奇心、またその際に必要な新しい考え方を自ら開拓する力を養う。さらに、現代物理の基礎をなす重要な考え方を示すことによって、現在までに物理によって解明されてきた自然観への道筋を示して、物理の世界への旅にいざなう。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	物理は、何を相手にするか	物理は、自然科学の基礎と言われる。では、物理は一体何を相手にする科学なのだろうか。自然を相手にするとき、色々な切り口があるが、この講では、長さの尺度を変えていって、物理の世界を旅して見ていこう。もっとも小さい相手（素粒子）ともっとも大きい相手（宇宙）を比べると、10の後に何10個もの0がつくほどの違いがあることが判る。それほど大きな違いのある世界を、物理でどの程度理解できているかを、ざっと見て行こう。	生井澤　寛	生井澤　寛
2	力って何だろう	あの人は力持ちだとか、政界に力があるなどと、私たちは日常的に力という言葉を使っている。力は、物を結合させたり、動かしたり、仕事をする。では、物理で言う力とは何だろう。実は、物理の最も重要な目標は、自然界に存在する力（相互作用）が何かを探りその力の原因を追究することだと言ってよい。だから物理では、力についの定義は、きっちり定められている。この講では、力と運動について、もっとも基本的なことを学ぶ。	生井澤　寛	生井澤　寛

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
3	力は何を産み出すか：運動と仕事	力が運動の何と結びつくかを、ボールにひもを結んでまわす実験で体感しながらつきとめる。そうすると、運動に関する基本法則が見えてくる。つぎに、力のする仕事について考える。仕事を物理の言葉できっちり定めると、エネルギーとその保存則という、物理でもっとも大切な概念に到達する。さらに、ニュートンによる力の基本法則とケプラーの惑星運動の観測結果から、万有引力の法則を導き、物体の落下の謎が解けることを見る。	生井澤　寛	生井澤　寛
4	熱とはなんだろう	「今日は風邪で熱がある」とか、「熱のこもった演説」などと言う。では、熱とは何だろう。「熱」には形容詞としての「熱い」と名詞としての「熱」という意味の二通りの使い方があることに気づく。つまり、程度と量としての使い方である。前者からは「温度」という概念が生まれ、後者は、第3講までに学んだ仕事と同じ、エネルギーの一形態としての「熱」という物理量であることが判る。この対応関係を追求すると、温度と熱について、みな当たり前と思われる性質がみえてくるとともに、その奥には、きわめて基本的な法則があることがわかる。	波田野　彰	波田野　彰
5	熱は全部仕事に変えられるか	第4講で熱は仕事と等価であることを知った。仕事は全部熱に変えられる。では，熱は全部仕事に変えられるのだろうか。実はこの答えは誰でも知っている。いかに燃費の良いエンジンを作り出すかというたゆみない努力が今日も続けられている。これは燃料の持つエネルギーのすべてを仕事に変えることができないために他ならない。熱を仕事に変える効率をより良くしようという努力が、熱についての重要な基本法則を導いた。そして、エントロピーという大切な概念の物理量を導き出した。	波田野　彰	波田野　彰
6	物体は夥しい数の分子からなる	物体は細かくしていくとやがて分子まで行き着く。逆に分子の世界から見ると物体は夥しい数の分子から成るといえる。第4講，第5講で熱の性質を学んだが，この熱の現象は分子の世界からたどって見るとどのようなものだろうか。「夥しい数」から何がどのように導き出されるかを、簡単な模型から出発して考えてみよう。さらに身近な例として水の水蒸気，水，氷という3つの姿を示す「相」についても考えてみよう。	波田野　彰	波田野　彰
7	波は場だ	バネに結んだ重りの運動をとくと、三角関数で表される振動となる（調和振動）。では、重りの数を増やし、その間をバネでつないでいったら全体ではどういう運動をするだろうか。答えは、重りの数がいくつであっても、波であることが判る。この波は、物体の形や性質を反映する固有の振動モードである。結合のバネの長さをどんどん短くして行くと、系は連続な場となり、波は場の時空の振動となる。振動や波は、物理に限らず自然界で、安定な状態を少し乱したときに必ず表れる普遍的な運動状態なのである。	生井澤　寛	生井澤　寛

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
8	光も波	レーザー光のペンライトで見ると、光は空気中をまっすぐ進むように見える。鏡にあたれば反射するし、水に入ると曲がる（屈折）。光は目に見えないほど小さな粒のようなものだと言えそうである。一方、光を受ければ、シャボン玉は虹色に輝き、水面の油の膜もやはり虹色に見える。これらは光が波であることを示す。ここでは、回折、干渉などの波の基本性質を見ながら、光と音を中心に波の理解を深め、光が波長の短い波であることをつきとめる。さらに、たくさんの波長の異なる波を重ね合わせて行くと、あたかも粒子のように振る舞う存在が作れることを見る。粒子のような波は、量子の世界を理解するための基礎となる。	生井澤　寛	生井澤　寛
9	電気無しでは生きられない	電気がなければ、ふだんの生活のみならず、生産活動も情報交換も出来なくなる。それどころではなく、そもそも身の回りの物質や我々自身も存在できない。では、電気とは何か。目に見えないのでわかりにくいが、身の回りのものを工夫して実験しながら、電気に関わるいろいろの疑問を謎としてあげて正体を探って行く。そうすると、だんだんミクロの世界がかいま見えてくる。実際、電気力が物を作り上げる基本的な力の一つであることが判る。また電気は、磁気とも親戚であり、場（電磁場）と考えることで理解を深めていこう。	生井澤　寛	生井澤　寛
10	電気を作る	電流が磁気を産み、磁場の時間変化が電場を産み出すことを理解すると、どうやって電気を作るかや、電気からどうやって仕事を取り出すかが解る。この理解のもとに、発電機とモーターを作ってみよう。さらに、場としての電場と磁場の時間・空間変化が互いに相手を作りあうことから、電磁波が解り、さらに光が電磁波であることも解る。そして、ミクロの世界の理解の手がかりがつかめると同時に、これまでに出した電気と磁気に関する謎が解けていく。	生井澤　寛	生井澤　寛
11	量子って何	これまでの講に出てきた物理は、その骨格がすでに 19 世紀の末までできあがっていて、古典物理と言われる。20 世紀になると、この古典物理では理解できない現象が次々に見つかり、現代物理の世界に入ることになった。その代表的な例として、高温物体から出る光の色と温度の関係（黒体輻射）、光を当てたとき金属から出る電子と光の波長の関係（光電子効果）、温度の低いときの比熱と温度の関係（低温比熱）、放射能を取り上げて、量子が何かを突き詰めていく。そして、量子の世界では、これまで粒子と考えられていた存在が、むしろ波のように振る舞うことを見る。さらに、この奇妙な量子の性質から、原子がどうやってできるかを見ると、元素の周期律が理解できる。	生井澤　寛	生井澤　寛

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	電子無しでは生きられない	通常の固体では、原子が規則正しく並んで結晶格子を作っている。原子の質量を担う原子核は、格子点の周りで熱振動するが、電子はいろいろな振る舞いをして、固体の性質を決める。そのうち自由に動ける電子をもつものが金属であり、動けないものが絶縁体である。またその中間がシリコンなど半導体である。これらの違いがどのようにして生ずるのかを、量子力学を用いて理解しよう。この理解から望みの機能を持つ素子を作れるようになり、素子の中の電子を自在にコントロールすることにより、コンピュータなど電子機器を動かすことが可能となった。さらに、電子にはスピンという磁気モーメントを持つ量子力学的な自由度があり、集まった電子スピンの相互作用から日常見る磁石ができることを見る。これで第9講の磁石の謎がとけたことになる。	小形　正男	小形　正男
13	有限温度の状態とは何だろう	量子力学によって、ミクロな世界の多くのことが理解された。しかし量子力学だけでは、氷が水や水蒸気になる相転移現象は理解できない。相の変化をミクロに理解するためには、有限温度の状態を記述する方法が必要である。これが統計力学である。前の方で学んだ熱力学を、ここでもう一度ミクロに考え直す。とくにエントロピーの微視的な意味を捉え直す。さらに相転移現象を統計力学から理解するための道筋を示すことにする。相転移現象は、粒子同士が相互作用することによって起こる。分かり安い例として磁石の相転移を用いて、「自発的な対称性の破れ」という考え方を理解する。この考えは、現代物理の背景にある重要な概念である。	小形　正男	小形　正男
14	不思議な流れ：超伝導、超流動	超伝導は電子、超流動はヘリウム原子が抵抗なしに流れているという状態で、ともに極低温で生じる不思議な流れであり、量子効果の巨視的な出現である。金属に電流が流れているとき通常抵抗があるが、温度を下げていくとある温度を境に急に抵抗ゼロの状態になるものがある。この超伝導状態への転移も相転移の一種である。超伝導状態が持つ不思議な現象、とくに超伝導体から磁場がはじき出されるマイスナー効果と、永久電流について述べよう。つづいて、ボース粒子によるボース・アインシュタイン凝縮について説明し、これをもとに超流動を理解する。最近、レーザー光を用いて各種原子気体を冷却しボース・アインシュタイン凝縮を示す実験が行われている。そのきれいな結果を紹介しよう。	小形　正男	小形　正男

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
15	ミクロの世界から宇宙へ	電子を通じて、ミクロの世界の一端を知り、電子が原子核とともに、原子や分子を作ることも見た。では、原子核は何で出来ているか。そして、この世界の究極の構成要素は何であり、どうやって、この世界が出来るのか。これらを突き詰めるのが素粒子の研究であり、これからの物理の大きな課題でもある。 20 世紀に、量子とともに現代物理を作ったもう一つの物理が、相対論である。相対論は、光の速度に近い高速で運動する物体の振る舞いを理解することから始まった。そして、古典物理の世界では互いに独立と考えられていた時間と空間が、互いに離れがたい関係にあることを示してくれた。さらに時間と空間を、統一した場の入れ物と考えると、素粒子のみならず重さのある物の間に働く重力の起源が理解できそうである。宇宙規模での世界の理解がどこまで進んだかを見ていこう。	生井澤　寛	生井澤　寛

＝　基礎化学（‘０６）＝（TV）

〔主 任 講 師（現職名）：荻野　博　（放送大学副学長）　〕
〔主 任 講 師（現職名）：渡部　徳子（青山学院女子短期大学教授）〕
〔主 任 講 師（現職名）：濱田　嘉昭（放送大学教授）　〕

全体のねらい

私達の身の回りで起こる自然現象は、すべて物質の性質と変化が関係している。見たり触れたりできるマクロの物質は、原子や分子というミクロの構造をもっている。これら物質の性質を理解し、コントロールし、新しい機能の物質を創るには、マクロとミクロの両方の観点から物質を理解する必要がある。これが化学の面白さであり、場合によると理解しにくい原因にもなっている。この科目では、現在の物質文明を支えている化学の基礎的な知識を提供するとともに、生命との関わりまでを紹介する。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	化学の成り立ち	物質の成り立ちを調べ、それを利用すること、そして望みの物質を作ることを目的として化学の知識と技術が発展してきた。化学が成立する歴史的な背景を科学および社会の進展のなかに位置づけて考える。	濱田	荻野、渡部、濱田
2	ミクロの世界 －原子と分子－	分子を作る素材は原子である。原子の大きさ、構造、性質を理解することが分子の理解に通じる。ミクロの粒子を理解するためのいくつかの基本的な考え方とその認識の歴史の過程を学ぶ。	濱田	渡部、荻野
3	原子から分子へ －化学結合の起源－	分子は原子が結合してできたものである。その化学結合力を生じさせる原因を学ぶ。化学結合力の大きさと方向が分子の形と大きさを決める。典型的な分子を取り上げ、結合の様相を調べてみる。	荻野	荻野、渡部
4	分子から物体へ －分子間力－	われわれが見たり触ったりする物体は分子の集合体であるが、これらの分子は単純に積み重なり、あるいは固まったものではない。１個の分子→複数の分子の集合体（クラスター）→マクロの物体となるには、分子同士を結びつける独特の力が働いている。この分子間力とそれによる物質の構造と性質について学ぶ。	濱田	濱田、荻野
5	物質の示す姿と性質 －気体・液体・固体－	物質は通常、気体・液体・固体のどれかの状態（相）で存在する。同じ分子であっても、その相によって性質が異なる。また、温度や圧力によって相の転移が起こる。地球上の水がその典型である。最近、液晶や超臨界も積極的に利用されるようになってきた。相の性質、その転移について学ぶ。	荻野	荻野、渡部

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
6	より複雑な物質の系へ ー混合と濃度ー	現実に存在する物質は、完全に単一の分子による純粋な系というより、何らかの異なる物質が混じっているものである。その混じり方、濃度によって純粋な物質にはない、新たな性質が生じる場合がある。物質の混合とその性質について学ぶ。	渡部	渡部、濱田
7	変化を起こす力 ーエネルギーとエントロピーー	分子はどうして別の分子に変化するのであろうか。物質の変化とその方向を決めているエネルギーとエントロピーについて学ぶ。特に一定気圧のもとでの化学反応を扱うときにはエンタルピーという物理量を理解しておくことが有効である。これによって、反応に伴う熱量の大きさがわかる。	濱田	濱田、荻野
8	化学反応の仕組み	原子の組み換えが起こることが化学反応である。電子を仲立ちとする力が化学結合の原因であることを第３回で学んだ。したがって、電子の組み換えが起こることは原子と原子の結びつけを換えることにつながる。これが化学反応である。化学反応の典型として、酸・塩基および酸化・還元反応を学ぶ。	荻野	荻野、渡部
9	反応の方向と速さ	化学反応の駆動力は第７回で学んだエネルギーとエントロピーである。しかし、実際の反応には、分子の立体的な形や反応を起こすエネルギーの供給の仕方にもよる。反応を考察する場合には、どの方向に進行するかだけではなく、どのような速さで反応するかも重要である。さらに、反応を制御する触媒の役割も重要である。	渡部	渡部、荻野
10	金属元素の創る広い世界	周期表の大部分は金属元素である。人類は金属を道具や建造物の素材として利用してきた。また、金属元素には金属錯体とよばれる多くの化合物が知られている。これら金属錯体の特徴、性質および働きを学ぶ。	荻野	荻野、渡部
11	金属と有機物の結合	金属元素は、金属‐炭素結合を介して有機化合物と結合し、有機金属化合物(あるいは有機金属錯体)とよばれる一連の化合物群を形成する。これら化合物の特徴と機能について学ぶ。	荻野	荻野、渡部
12	炭素の創る豊かな世界 ー有機化合物ー	炭素は結合の手が基本的に４本と考えてよい。このことが膨大な数の化合物を形成できる１つの原因になっている。有機化合物の分類、特徴、および性質を学ぶ。	荻野	渡部、荻野
13	生活を支える物質 ー機能性高分子ー	有機化合物は炭素数の多い高分子を形成することができる。プラスチックなど構造材としてだけではなく、さまざまな機能をもつ高分子が作られ利用されている。これらを通じて物質科学の中心としての化学の魅力を紹介する。	渡部	渡部、濱田

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
14	生命を支える物質 ー蛋白質・核酸などー	蛋白質や核酸は生命活動の物質的基礎をなしている有機高分子化合物である。これらがどのようにして生命の基礎的反応、構造を担っているかを学び、生命科学の基盤としての化学の重要性を認識する。	渡部	渡部、荻野
15	化学の未来と課題	化学は人類のさまざまな希望を物質レベルで実現した。さらに有益な物質の探求が進展している。同時に、人類の活動はエネルギーおよび資源の枯渇や環境問題などを引き起こした。人類が自然と共生し持続的な発展をしていくために、化学にはどのような課題があるのかを考える。	荻野	荻野、渡部、濱田

＝ 生物学の歴史（‘０５）＝（Ｒ）

〔主任講師：　溝口　　元（立正大学教授）〕
〔主任講師：　松永　俊男（桃山学院大学教授）〕

全体のねらい：

この講義では、とくに予備知識を必要とせず、人類の生物や生命についての思索や理解を古代から現代に至まで、通史的に辿りながら学習していく。また、生物学やその関連諸科目を学ぶ際の考え方や基礎知識、さらに現代の先端医療技術や自然保護問題を自ら検討する素材の提供も目指している。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	アリストテレスの生物学と近代の生物学 ― 目的論的自然観と機械論的自然観	万学の祖アリストテレス、目的論的自然観、アリストテレスの生物学、アリストテレスの後継者たち、科学革命と機械論的自然観、生物学の特徴	松永　俊男（桃山学院大学教授）	松永　俊男（桃山学院大学教授）
2	近代科学成立時の生物学ー生命単位の探究と生理学の誕生	近代科学への胎動とレオナルドの活躍、近代科学の誕生と肉眼観察、顕微鏡学者の登場、フックの「ミクログラフィア」と細胞の命名、ハーヴィと近代生理学の誕生、人間機械論、生理学の展開	溝口　元（立正大学教授）	溝口　元（立正大学教授）
3	リンネの分類学ー自然史研究の系譜	自然史と自然哲学、自然史と博物学、リンネの生涯、二名法、種と属、ビュフォンの自然史、分類学の発展、原型論から進化論へ	松永　俊男	松永　俊男
4	ラマルクとダーウィンー生物学の革新を目指して	ラマルクの生涯、「生物学」の提唱、ダーウィン以前の進化論、ダーウィンの生涯、ダーウィン進化論の意義、進化論とキリスト教	松永　俊男	松永　俊男
5	発生現象の探究ー観察・実験と論争	発生現象に対する肉眼観察から顕微鏡観察へ、発生の理論を巡る論争：精子論（精原説）と卵子論（卵原説）、前成説と後成説、論争の決着としての単為生殖や再生現象の発見、受精と自然発生、後成説の定着と胚葉説の確立	溝口　元	溝口　元

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
6	19世紀の生物学－1 ダーウィン進化論とその後	ハックスリー「自然における人間の位置」と人類の起源、生物進化論への批判、種々の進化の考え方、突然変異の発見、総合説の誕生	溝口　元	溝口　元
7	19世紀の生物学－2 社会ダーウィニズム	社会ダーヴィニズムと優生学、アメリカ、ドイツ、日本、北欧の優生思想とその具体的方策	溝口　元	溝口　元
8	19世紀の生物学－3 メンデルと遺伝の法則の発見	メンデル以前の遺伝研究、メンデルの略歴、メンデル遺伝の法則の特徴、病気の遺伝、ワイズマン「生殖質連続説」	溝口　元	溝口　元
9	20世紀初頭前後の生物学－1 メンデル以降の遺伝研究	メンデル遺伝の法則の再発見、メンデル遺伝の法則の普及－ベーツソンとヨハンセン、モーガンの遺伝子説、モーガン門下の遺伝学者たち、集団遺伝学、核酸研究	溝口　元	溝口　元
10	20世紀初頭前後の生物学－2 細胞説、発酵論争、免疫学・微生物学、生態学の成立	細胞説の確立とそれ以降の細胞研究、発酵の原因を巡る論争、酵素概念の形成、生化学の成立、免疫学・細菌学の成立、生物集団への関心、生態学の成立	溝口　元	溝口　元
11	20世紀初頭前後の生物学－3 実験研究の確立	実験室の誕生－ギーセン体制、ベルナール「実験医学序説」、実験発生学の誕生、研究機関の活動（ナポリ臨海実験所、ウッズホール臨海実験所、ロックフェラー医学研究所）実験発生学の誕生	溝口　元	溝口　元
12	日本の生物学－1 古代から幕末まで	本草学とは、中国本草書の伝来、日本の本草学の自立と小野蘭山「本草綱目啓蒙」、ツンベルクの来日と西洋植物学の導入、蘭学の誕生と展開	溝口　元	溝口　元

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
13	日本の生物学－2 明治期以降	お雇い外国人生物学教師の活躍－モースとホイットマン、初期の動物学者たち－箕作佳吉、石川千代松、谷津直秀、初期の植物学者たち－伊藤圭介、矢田部良吉、三好学、学会の成立	溝口　元	溝口　元
14	20世紀後半の生物学－分子生物学からバイオテクノロジーへ	分子生物学の源流、二重らせん構造の発見－ワトソン、クリック、ウィルキンズ、フランクリン、 遺伝暗号の解読、遺伝子組み替え技術、バイオテクノロジーと環境保全	溝口　元	溝口　元
15	現代の生物学－生物学の多様な拡がりと将来の方向	生物学と社会－アシロマ会議、エイズ研究、クローン生物、先端医療技術と生命倫理、がん研究・脳科学の展開	溝口　元	溝口　元

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	共通科目（自然系）	科目コード	1660705	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　生物集団と地球環境（‘０７）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：松本　忠夫（放送大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：福田　正己（北海道大学教授）〕

講義概要

自然界における生物の存在様式は、家族、群れ、群体、群落、個体群、群集などといったさまざまなレベルでとらえることができる。そして、そのような生物集団は、環境とさまざまな関係をもって存在している。本講義では、そのような生物集団の形成および地球環境との関連について解説するとともに，それらに対する人間活動の影響も解説する。

授業の目標

本講義は、地球環境における生物集団の影響の強さ、そして現在の地球では、生物集団の中でもとりわけヒトの影響が甚大であることを知ってもらうことを目標としている。中学程度以上の生物学の知識があれば理解できるように基礎的な事柄から講義を順次進めていく。また、野外ロケーションの映像を各所に取り入れていて、生物集団の影響の強さをできるだけ実感してもらう。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	生物集団の形成	生物集団は、無機環境、食物環境そして他生物とどのような関係を持って生活し、子孫を残しているか？個体が集合して集団となった時、そこでの法則性にどのようなものがあるのか？そして、繁殖に関係した社会性の発達とはどのようなものか？などについて説明する。	松本忠夫（放送大学教授）	松本忠夫（放送大学教授）
2	生物集団の自己組織化	生物集団には、環境との関係で特有のパターン形成が見られる場合がある。そのパターン形成は、自己組織化の論理で説明できる場合が多い。特に、社会性昆虫の集団の統合においては、リーダー、青写真、レシピの存在と言ったものよりも、この自己組織化で説明できる場合が多いことを説明する。	松本忠夫（放送大学教授）	松本忠夫（放送大学教授）
3	いろいろな群集の成り立ち	群集は異なる種の個体群からなる生物集団であり、様々な種間関係がみられる。中でも食う・食われる関係は、エネルギーの流れを生み出し、群集構造を決める最も重要な関係である。また、限られた資源をめぐる競争もニッチ分化を通じてギルド構造を生み出している。ここでは、特に食物連鎖に沿ったエネルギーの流れを中心に、群集の遷移と構造について解説するとともに、近年、群集構造を決める上で重要とされている中規模撹乱説などの非平衡群集論についても言及する。	東　正剛（北海道大学大学院教授）	東　正剛（北海道大学大学院教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	生物の地理的分布	世界の生物群集の地理的分布がどのようになっているのかを概観し、それを決めている要因、特に温度と降水量が重要であることをついて説明する。また、東アジアそして日本列島の生物相の特色はいかなるものか、さらに人間の影響がそれらの分布にどのような影響を与えているのかについても説明する。	松本忠夫(放送大学教授)	松本忠夫(放送大学教授)
5	島における生物	周囲の環境から孤立した島における生物相は、そこへの生物の侵入と、そこでの消失のバランスの上に成り立っていること、また、島においては大陸とは異なった固有の生物が進化しやすいことを説明する。さらに、島における生物の生態の理解は、生息地が分断された場所における生物群集の保全に役立つ知識となることを説明する。	松本忠夫(放送大学教授)	松本忠夫(放送大学教授)
6	熱帯域の生物	一年中、高温で多湿な熱帯域は、地球上で最も生物の種数が多く、また生物の生産活動が盛んなところである。そのような豊かな生物相はどのような要因で形成されてきたのであろうか?ここでは、熱帯域における生物生産と進化について説明する。	松本忠夫(放送大学教授)	松本忠夫(放送大学教授)
7	高山生態系のしくみと地球温暖化の影響	陸域生態系の末端部に位置している高山生態系の位置づけと構造について概説し、高山植物群落の成立要因や高山植物の環境適応と生活史特性について、主に積雪環境との関わりについて説明する。さらに、地球温暖化が高山生態系に及ぼす影響についても紹介する。	工藤岳(北海道大学大学院准教授)	工藤岳(北海道大学大学院准教授)
8	乾燥地の生物	現在の地球規模での砂漠化の現状を紹介する。高温で降雨量の少ない砂漠にも、多くの生物が生存していて、これらの生物は砂漠の厳しい環境に適応して特殊な外部形態及び生理学的な機能を持っている。ここでは、南アメリカとオーストラリアの砂漠を中心に、主として植物が極端な乾燥条件に適応している例を紹介し、それらがどのように環境と対応しているかを解説する。さらに、特殊な砂漠として、高山や高緯度にも砂漠が見られるため、それらの紹介も行なう。	増沢武弘(静岡大学教授)	増沢武弘(静岡大学教授)
9	淡水域の生物	陸地に焦点を当てた地球上での水循環を紹介する。陸上の淡水環境(湖沼、河川、湿原、地下水、氷河など)とその規模と分布、ならびに生物にとっての各々の環境の特徴、それぞれの淡水環境に分布する生物と生態系の特徴、魚類などの陸封現象や陸から海に運ばれた物質がサケなどの生物の回帰によって陸に戻される仕組みなども紹介する。自然度の高い四万十川とその流域の淡水環境を例にして取り上げる。	高橋正征(高知大学大学院教授)	高橋正征(高知大学大学院教授)

・回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
10	海洋域の生物	海水環境の特徴を淡水と比較、地球上での海洋環境の分布とその規模ならびに生物にとっての環境の特徴を紹介する。沿岸と外洋の海洋環境の特徴とそこに分布する生物ならびに生態系の特徴を説明。また、深海生物ならびに化学合成に依存する熱水生物群集についても紹介する。本担当者が参加して相模湾で行っている海域の肥沃化実験の例なども紹介する。	高橋正征(高知大学大学院教授)	高橋正征(高知大学大学院教授)
11	光合成と地球環境	地球上の多様な生命が生み出されたのは、大気中に十分な酸素が存在したからである。約30億年前の原始地球では、海で始まった生物の活発な光合成により、大気への酸素の供給が始まった。植物が獲得した光合成機能の特性とはなにかを解説する。	福田正己(北海道大学教授)	福田正己(北海道大学教授)
12	生物の絶滅と地球環境	生物は過去の何度も大絶滅を起こしている。そして、近年における地球上の様々な生物の絶滅の様相はすさまじい。ここでは、地球史の中での生物の大量絶滅と進化の関係を説明する。また、人間活動が盛んになって以後の、世界の各地および日本における生物の絶滅の様相を解説する。	松本忠夫(放送大学教授)	松本忠夫(放送大学教授)
13	生物に対する人為の影響 -マンモスの絶滅の謎-	最終氷期が終わり地球の温暖化が進行しはじめ1万1千年前に、極北シベリアに生息していたマンモスが忽然といなくなった。温暖化に伴って先史人類は極北シベリアに進出し、やがて新大陸へと渡った。人類との遭遇がマンモス絶滅の原因なのか、について考察する。	福田正己(北海道大学教授)	福田正己(北海道大学教授)
14	生物集団に対する人為の影響 -森林火災の悲劇-	近年、世界各地で森林が消失している。その多くは多発する森林火災が原因である。地球の肺といわれたシベリアタイガやアマゾン熱帯雨林でなにが起こっているのか、また地球温暖化にどのような影響を及ぼしているのか、について考察する。	福田正己(北海道大学教授)	福田正己(北海道大学教授)
15	生態系のはたらきと保全	生物群集と、それを取り巻く土壌、水界、大気などの物理環境を含めたまとまりを生態系という。地球は閉じた生態系であり、生物を構成する窒素、リン、炭素などの栄養塩類は大気と水の流れに乗って地球生態系を循環している。近年における地球環境問題は、いずれも人間活動が地球生態系の物質循環を撹乱した結果発生したものである。ここでは、地球生態系における一次生産力の分布と物質循環について理解し、生態系機能の保全について考察する。	東正剛(北海道大学大学院教授)	東正剛(北海道大学大学院教授)

＝　疾病の成立と回復促進（‘０５）＝（ TV ）

〔主任講師：　北村　聖　（東京大学教授）　〕
〔主任講師：　仙波　純一（さいたま市立病院総合心療科部長）〕
〔主任講師：　松尾　ミヨ子（大阪府立大学教授）　〕

全体のねらい

疾病の成立と回復の促進では、疾病のある状態を全人的にとらえ体内の環境変化から、生活過程の変化まで大きくとらえて理解する。その上で、病的状態からの回復に向けての生活調整の視点から、疾病を予防し回復を促進する要素を理解する。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	概論：何を学ぶのか	疾病の成立と回復促進のコースのオリエンテーションとなっている。疾病は臓器別の理解や病理的理解だけではなく、全人的な理解に基づいてとらえられなければならない。全人的理解によって初めて有効な回復を促すことができる。これがコースを貫く軸である。意欲を持って、自ら問題解決をするような学習を要望する。	松尾ミヨ子（大阪府立大学教授） 北村　聖（東京大学教授） 仙波　純一（さいたま市立病院総合心療科部長）	松尾ミヨ子（大阪府立大学教授） 北村　聖（東京大学教授） 仙波　純一（さいたま市立病院総合心療科部長）
2	疾病の成り立ち看護の立場から	健康から疾病にいたる変化のなかで、生体の反応、疾病からの回復、個人の反応について、生活との関連で述べる。疾病の誘因と日常生活への影響、生体の回復力と身体心理社会的因子、疾病の個人とその生活への影響に焦点を当てる。	松尾ミヨ子	松尾ミヨ子
3	疾病の成り立ち医師の立場から	医師と看護師は車の両輪となって医療を行う。医師の立場から、医学的視点で健康から疾病への変化をどのように考えるかを述べる。看護の視点からの理解と比較しながら学んで欲しい。	北村　聖	北村　聖
4	異常状態の特徴	健康状態と比較した疾病のある状態の特徴について述べる。急性の疾病と慢性の疾病の違いなど、異常のある状態に共通の特徴、個別の特徴、異常状態に適応する作用などについて学ぶ。	佐伯　由香（筑波大学大学院教授）	佐伯　由香（筑波大学大学院教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	疾病に対する診断および治療とそれに伴う変化	身体機能の異常をどのように検査し診断するか、それらをどのような方法によって治療するかについて看護の視点から述べる。治療法としては、薬物・手術・放射線などによるものがある。これらの効果と有害な作用などについてのべる。	仙波　純一	仙波　純一
6	感染と人体防御機構：看護の視点	人は微生物から多くの恩恵を受けており、人に感染症をおこすものはごく一部にすぎない。このような人と微生物のかかわりを正しく理解した上で、人に備わった微生物に対する防御のしくみと微生物がこれを突破して感染症をおこすメカニズム、さらに感染症を防ぐための手段について学ぶ	岡田　忍（千葉大学准教授）	岡田　忍（千葉大学准教授）
7	中枢神経機能の障害	脳機能の障害を引きおこすいろいろな疾患（循環障害・変性疾患・脳腫瘍・痴呆・脳炎・外傷など）をあげて解説する。これらの脳機能の障害は視覚・聴覚・知覚などの機能障害として表れる。	仙波　純一	仙波　純一
8	生命の危機・呼吸機能の障害	生命維持機能の障害を引き起こす生命の危機状態（ショック、多臓器不全、損傷など）について述べる。また生命維持への呼吸の関与と呼吸機能の障害（気道・肺の炎症、急性および慢性の呼吸不全など）を取り上げる。	松尾ミヨ子	松尾ミヨ子
9	循環機能の障害・造血機能の障害	体内の隅々に栄養や酸素を運び、末梢から老廃物を肝臓や腎臓に運ぶ血液。この血液と、血液を循環させるシステムとその障害について学ぶ。また、造血細胞の機能と障害についても学ぶ。	北村　聖	北村　聖
10	栄養摂取・吸収・代謝・排泄機能の障害1	消化管を通した食物の消化と吸収のしくみ、および消化吸収における肝臓の役割を説明する。摂取エネルギーの過不足や必須栄養素の不足の身体に与える影響、咀嚼・嚥下障害、代表的な消化管の器質的疾患の病態を説明する。	竹田津文俊（自治医科大学教授）	竹田津文俊（自治医科大学教授）
11	栄養摂取・吸収・代謝・排泄機能の障害2	消化、吸収、代謝に関与する肝臓、胆嚢、膵臓の器質的疾患を説明する。糖代謝異常の代表例である糖尿病を説明する。排泄器官である腎臓の器質的疾患を説明し、最後に排便障害を説明する。	竹田津文俊	竹田津文俊

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	内部環境調節機能の障害	人体の内的環境は、微妙な変化を伴いながら維持されている。この変化は様々なメカニズムによってコントロールされている。この恒常性の維持という仕組みをつかさどる内分泌機能と自律神経機能とそれらの障害について学ぶ。	山内　豊明（名古屋大学教授）	山内　豊明（名古屋大学教授）
13	運動機能および皮膚の障害	人体は四肢や体幹を動かすことで生命を維持し、活動をしている。骨や筋肉を中心として、運動のメカニズムとその障害について学ぶ。また、体を覆っている皮膚は最大の臓器ともよばれ、外界と内的環境を隔てる重要な働きをしている。皮膚の働きと障害について学ぶ	太田　節子（滋賀医科大学教授）	太田　節子（滋賀医科大学教授）
14	生殖機能をつかさどる器官の障害	生命の連続性をつくりだすために用意されている仕組み、すなわち生殖という機能を成り立たせている条件と、それらの障害によりこれらの機能が十分に果たせなくなる場合のメカニズムについて学ぶ。	山内　豊明	山内　豊明
15	まとめ：持続的な学習のために	１４回の講義による学びを基盤に、学生は自主的な学習を行う段階へと向かうであろう。本回は持続的な学習のための方法と留意点などついて概説する。	松尾ミヨ子 北村　聖 仙波　純一	松尾ミヨ子 北村　聖 仙波　純一

＝　人体の構造と機能（‘０５）＝（TV）

〔主任講師：　菱沼　典子（聖路加看護大学教授）　〕
〔主任講師：　北村　　聖（東京大学教授）　〕

全体のねらい

毎日の生活の中で普通に行っている様々な生活行動は何のために、どのような仕組みで行われているのかの視点から、人体の構造と機能を学ぶ。からだに興味を持ち、理解を深めていく基礎力をつけることをねらいとするが、さらにからだの機能に適した生活を工夫し、病気を理解する土台になることを期待する。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	生命と日常生活行動のつながり	一個の受精卵から人間が誕生する過程を含め、個体が外部環境と関係を保ちながら、内部環境を整え生命を維持していることを解説する。日々の生活行動と生命維持の関わりを理解してもらいたい。	菱沼　典子（聖路加看護大学教授）	菱沼　典子（聖路加看護大学教授）
2	食べる（1）摂食	生命維持のために外界から食物を取り入れる営みについて解説する。空腹感や食欲、摂食の過程（咀嚼、味覚、嚥下を含む）、消化・吸収について、消化器管・消化腺の名称、構造を含めて解説する。	菱沼　典子	菱沼　典子
3	食べる（2）消化・吸収と排泄	消化管の運動と消化腺の分泌活動、消化液の作用について、自律神経系とホルモンによる調節を含めて解説する。また便の排泄について、便意から排便行為までを解説する。	佐伯　由香（筑波大学大学院教授）	佐伯　由香（筑波大学大学院教授）
4	食べる（3）栄養分の代謝	吸収された栄養分の代謝について、肝臓と膵臓の機能を中心に解説する。肝機能障害や糖尿病など身近な疾患を例にして、病態から正常な機能の理解を深められるようにする。	谷亀　光則（東海大学准教授）	谷亀　光則（東海大学准教授）
5	体内の流通システム（1）心臓と血管	多くの器官、細胞から成り立っている人体内部の物質の流通路である血管系を解説する。心臓と血管系の構造と役割、心臓収縮のメカニズムとその調節機構を解説する。	山本真千子（宮城大学教授）	山本真千子（宮城大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
6	体内の流通システム（2） 血圧	生体内の流通を確保するのに必要な血圧について、その意味、血圧の決定因子と調節機構を解説する。今日血圧は一般的な生体情報となっており、高血圧の意味と対策についても言及する。	沓沢　智子（東海大学教授）	沓沢　智子（東海大学教授）
7	体内の流通システム（3） 血液	血液の組成および働きを解説する。細胞成分である赤血球・白血球・血小板について、骨髄における幹細胞からの分化を解説し、その機能および障害について言及する。	北村　聖（東京大学教授）	北村　聖（東京大学教授）
8	身を守る	免疫反応は細菌やウィルスなど外敵から体を守るだけでなく、移植片の拒絶反応や自己免疫疾患でも重要な働きを演じている。細胞の自己認識、他者排除の機構、細胞性免疫と液性免疫の機序を解説し、自己免疫疾患や免疫不全症候群などにも言及する。	北村　聖	北村　聖
9	息をする	換気・ガス交換に関わる呼吸器の構造と機能について解説する。また血液の酸塩基平衡にかかわる呼吸の役割を解説する。様々な呼吸器疾患が呼吸機能のどこに障害を起こすのかにも言及する。	沓沢　智子	沓沢　智子
10	トイレに行く	腎臓での尿の生成過程を、生体内の体液の調節の意義を含めて解説する。次いで尿の排泄について、尿意を感じ、排泄に至までの尿路の構造と機能を解説する。	谷亀　光則	谷亀　光則
11	見る・聞く・感じる	神経系が外部環境からの刺激に対し、即時的に反応し、適応する過程を解説する。主に視覚、聴覚、体性感覚について、感覚器の構造と機能と神経系の反応を取りあげる。	深井喜代子（岡山大学大学院教授）	深井喜代子（岡山大学大学院教授）
12	考える	神経系の概要ならびに中枢神経系の構造と機能を解説し、中枢神経系における情報処理過程から、「考える」ことを意識付ける。睡眠の生理や脳死にも言及する。	深井喜代子	深井喜代子

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
13	動く	骨格筋の運動における骨格と筋、関節の働き、ならびに筋の構造と収縮のメカニズムについて解説する。さらに運動に伴う心肺系の反応と調節機構を解説する。	山本真千子	山本真千子
14	ホルモン調節とストレス反応	内部環境の調節にホルモンがどのように関わっているかを、内分泌器官の構造を含めて解説する。また、常に個体が受けている刺激（ストレッサー）に対する反応について概説する。	佐伯　由香	佐伯　由香
15	ケアへの応用	1～14回までに学習した内容が、日常生活に結びついたかどうかを問いかけ、各人の健康生活や子ども、高齢者、病者の世話にどのように役立たすことができるか、例を挙げて解説する。	菱沼　典子	菱沼　典子

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	共通科目（自然系）	科目コード	1135104	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　疾病の回復を促進する薬（‘07）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：川原　礼子（東北大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：片野　由美（山形大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：仙波　純一（さいたま市立病院総合心療科部長）〕

講義概要

病気によって身体の正常な機能が障害されてしまった場合に，治療の一つとして薬物が使用される．薬物はいろいろな仕組みによって効果を発現し，身体を正常な状態にひきもどす．その一方，副作用として逆に身体に害になる作用をもたらすこともある．この講義では，薬物の働く仕組みだけでなく，薬物が医療の中でどのような役割を担っているか，また薬物がその有効な作用を発揮できるために医師・看護師・薬剤師などがどのように働いているかを学ぶ．この授業は，看護師学校養成所2年課程(通信制)に対応可能な科目としても作成されている．

授業の目標

疾病からの回復を促進する薬物について，その使用目的や作用機序に注目しながら，薬物についての一般的な知識と適切な使用法を学習する．また，そのために医療者が病院内でどのような働きをしているかについても学ぶことになる．

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	学習の進め方	この科目の目指すもの，学習の方法などについて主任講師全員によって説明する．	川原礼子（東北大学教授） 片野由美（山形大学教授） 仙波純一（さいたま市立病院総合心療科部長）	川原礼子（東北大学教授） 片野由美（山形大学教授） 仙波純一（さいたま市立病院総合心療科部長）
2	薬理学総論（1）	どんな薬でも用い方を誤ると毒にもなる．諸刃の剣であって，クスリはリスクにもなるのである．薬の効果や副作用は，用量，投与経路，年齢，体質，薬剤の併用などによって異なる．薬を正しく用いるために，まず薬理学の基本的な事項（毒薬，劇薬，普通薬とは，麻薬，覚醒剤とは，薬理作用に影響を与える因子など）について学ぶ．	片野由美（山形大学教授）	片野由美（山形大学教授）
3	薬理学総論（2）	薬理学総論（1）に引き続き，薬理学の基本的な事項（薬物の投与経路，薬物と生体の相互作用，薬物の代謝など）について学ぶ．	片野由美（山形大学教授）	片野由美（山形大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	神経に作用する薬：その基本機序について	神経系に作用する薬は薬物治療に非常に大切である．その理由は第一に神経系は生命を維持するために必要な機能を巧みに調節する．第二に神経系の情報は，多くの神経伝達物質が関わる化学・液性シグナルとして隣の細胞に伝えられる．従って，数多くの薬物が，例えば神経伝達物質の生合成や分解および薬理学的受容体にそれぞれ特異的に作用する．本講義では，中枢および末梢神経系全体の構造と機能の概略を先ず学ぶ．さらに，神経機能の基本単位であるニューロンやシナプス伝達の基本過程とそれらに作用する薬物を幾つか取り上げ，その薬理作用の基本機序を学ぶ．本講義ではいずれも代表的な薬物を取り上げ，その薬理作用機序，適応および臨床上の注意事項について学ぶ．	中山貢一(岩手医科大学教授)	中山貢一(岩手医科大学教授)
5	末梢神経に作用する薬（喘息治療薬を含む）	末梢神経は体性神経（運動神経と知覚神経）と自律神経（交感神経と副交感神経）より成り立つ．運動神経の興奮は骨格筋収縮をもたらす．一方，d-ツボクラリンなどの骨格筋弛緩薬がどのように作用し，骨格筋の収縮を抑制するかを学ぶ．リドカインなどの局所麻酔薬がなぜ知覚神経のうち痛覚を伝導する神経をより選択的に抑制し，局所的無痛を生じさせ，外科手術や診断・検査の目的に使われるかについて学ぶ．広く医療に使われる交感神経および副交感神経の興奮（作動）薬や遮断（拮抗）薬についてその基本知識をまとめる．また，気管支喘息の治療に使われる薬物についても学ぶ．	中山貢一(岩手医科大学教授)	中山貢一(岩手医科大学教授)
6	中枢神経に作用する薬	中枢神経系は脳と脊髄からなり，生命維持に重要な情報の受け取りと記憶や学習を含む情報処理や判断を行うコントロールセンターである．本講義では，神経機能を抑制することで作用する，モルヒネなどの麻薬性鎮痛薬，全身麻酔薬，催眠薬および抗てんかん薬について学ぶ．さらに向精神薬について精神抑制的に作用する統合失調症治療薬や抗不安薬と精神賦活作用のある抗うつ薬などについて学ぶ．また，記憶・学習の障害である認知症などに使用される医薬，中枢神経に作用する日常嗜好品であり，医薬との相互作用のあるカフェイン，アルコールおよびニコチンなどについても基礎知識を学ぶ．	中山貢一(岩手医科大学教授)	中山貢一(岩手医科大学教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
7	循環器系に作用する薬	心血管系は循環系とも呼ばれ，心臓のポンプ機能により血液を全身に送り，組織に酸素や栄養素を供給する．ポンプ機能の異常や血液の通路ともいうべき血管の異常は，心不全，狭心症，不整脈，高血圧などをもたらす．本講義では，これらの疾患の病態生理とそれぞれの代表的治療薬（心不全治療薬，狭心症治療薬，不整脈治療薬，高血圧治療薬，高脂血症治療薬）を取り上げ，その薬理作用機序，適応および副作用等の臨床上の注意事項について学ぶ．	片野由美（山形大学教授）	片野由美（山形大学教授）
8	血液に作用する薬	骨髄の造血幹細胞で作られる赤血球，白血球，血小板の機能について学ぶ．またこれらの機能異常はどのような疾患をもたらすかを学び，それらの疾患に用いられる代表的な薬物（貧血治療薬，血液凝固抑制薬と促進薬，血小板凝集抑制薬）を取り上げ，その薬理作用機序，適応および副作用等の臨床上の注意事項について学ぶ．	片野由美（山形大学教授）	片野由美（山形大学教授）
9	内分泌系に作用する薬（1）	ホルモンにはペプチド・蛋白質ホルモン，アミン系ホルモン，ステロイドホルモン等がある．そのホルモンの種類，作用等を簡単に紹介した後，甲状腺性ホルモン，ステロイドホルモン，性ホルモンについて生理・病態生理とその治療薬について学ぶ．本講義ではいずれも代表的な薬物を取り上げ，その薬理作用機序，適応および副作用等の臨床上の注意事項について学ぶ．	渡邊泰秀（浜松医科大学教授）	渡邊泰秀（浜松医科大学教授）
10	内分泌系に作用する薬（2）	糖代謝に関わるホルモンと糖尿病，腎臓の生理・病態生理と腎臓のホルモンであるアルドステロン・バソプレッシンとその治療薬について学ぶ．本講義ではいずれも代表的な薬物を取り上げ，その薬理作用機序，適応および副作用等の臨床上の注意事項について学ぶ．	渡邊泰秀（浜松医科大学教授）	渡邊泰秀（浜松医科大学教授）
11	抗炎症薬と化学療法	非ステロイド性抗炎症薬，抗菌薬，抗癌薬などの治療薬についてと多くの範囲にわたって学ぶ．非ステロイド性抗炎症薬については，非ステロイド性抗炎症薬の薬理作用機序，適応および副作用等の臨床上の注意事項について学ぶ．抗菌薬，抗癌薬について，薬物の薬理作用の標的が細菌，ウィルス，がん細胞となるため，他の薬物の薬理作用と比較しながら，抗菌薬，抗癌薬の代表的な薬物を取り上げ，その薬理作用機序，適応および臨床上の注意事項について学ぶ．	渡邊泰秀（浜松医科大学教授）	渡邊泰秀（浜松医科大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
12	消毒薬と外用薬	看護業務で使用する消毒液の種類や性質について、病院のみならず施設や在宅という看護の場を視野に入れながら紹介する。また、外用薬については、皮膚科外用薬と眼科外用薬および関節痛などに使用する非ステロイド消炎鎮痛薬の経皮用剤の種類、性質、適応疾患について紹介するが、皮膚外用薬については老人施設や在宅ケアの場での問題をも踏まえたものとする。	川原礼子（東北大学教授）	川原礼子（東北大学教授）
13	薬物中毒と救急医療	洗剤やタバコなどの家庭用品などを誤って摂取したり，故意に向精神薬などを大量服用したりすることにより，薬物中毒症状が引き起こされる．これはしばしば，症状が重篤となり，救急医療の対象となる．この章では，よく見られる薬物中毒の原因，引き起こされる症状や必要な処置法などについて述べる．	仙波純一（さいたま市立病院総合心療科部長）	仙波純一（さいたま市立病院総合心療科部長）
14	薬の安全な使用と薬剤師（1） －副作用の回避	薬が実際に使用される医療の場において、各職種が薬とどのような関わりをもっているのか、また、薬についてどのような問題があり、薬の有効性を最大限に生かすためにどのような対策がとられているのかを2回にわたって論じる。 医薬品をめぐる問題には、大別して医薬品そのものに起因する副作用と、誤った使用に起因する事故があるが、まず前者に関して、それを早期発見あるいは予防するための薬剤師の役割を中心に、処方の疑義照会、副作用モニター，薬物動態解析、薬剤管理指導などについて紹介する。	村井ユリ子（東北大学病院医療安全推進室副室長）	村井ユリ子（東北大学病院医療安全推進室副室長）
15	薬の安全な使用と薬剤師（2） －薬がかかわる医療事故の回避	前回に引き続き、医薬品をめぐる問題のうち、誤った使用に起因する事故を中心に取り上げる。病院内で医薬品はどのように使用されているのか、病院内の医薬品使用のプロセスと医師・看護師・薬剤師の関わり、および要注意薬について述べ、事故を予防するための薬剤管理指導、注射剤無菌調製など、薬剤師の業務を紹介する。	村井ユリ子（東北大学病院医療安全推進室副室長）	村井ユリ子（東北大学病院医療安全推進室副室長）

＝　変化する地球環境（‘０４）＝（TV）

〔主任講師：木村龍治（放送大学教授）〕

全体のねらい

グローバルな視点から地球の自然環境の仕組みを学習する。特に、自然環境の変化に着目して、変化のメカニズム、時間スケールに対する理解を深める。単に大気環境だけでなく、宇宙、海洋、地球内部、生物の作用など、大気環境を取り巻く世界にも目を向け、宇宙スケールから人間スケールまで、自然界の構造とその変化に関わる全体像を示す。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	地球科学の視点	1988年以来、地球環境問題が大きな社会問題になった。特に「地球温暖化」に対しては、さまざまな議論を生み、地球環境と調和する社会体制はどうあるべきか、というような政治的な問題に発展している。しかし、「地球温暖化」が気候の変化である以上、地球科学的な視点が欠かせない。地球科学的な視点で環境の変化の意味を検討し、この講義全体のパースペクティブを示す。	木村　龍治（放送大学教授）	木村　龍治（放送大学教授）
2	惑星の大気環境	太陽系の惑星は、ほとんど大気をもち、それぞれ、独自の気象の営みがある。地球はそのひとつに過ぎない。比較惑星気象学の視点から、火星、金星、木星の大気環境と地球の大気環境の違いを考察する。	同　上	同　上
3	宇宙から見た地球環境	地球環境は、非常に複雑な構造をもつが、地球から遠く離れて地球を見ると、意外に簡単な物理環境にあり、地球環境は安定な状態に保たれている。地球が吸収する太陽放射エネルギーと、地球からの放射される赤外線のエネルギーのバランスで宇宙から見たときの地球の温度が決まる。また、大気に温室効果気体が含まれるために、宇宙から見た地球の温度と地表面温度との間に違いが生じる。これが温室効果である。	同　上	同　上
4	大気循環	大気と海水の循環によって、太陽放射による加熱の地域差が再分配され、地球が受ける太陽放射に大きな地域差があるにもかかわらず、気温は平滑化されている。このような熱の再配分に重要な役割を果たしている大気循環の構造を学ぶ。	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	海水の循環	大気は地球全体を覆い、かつ、グローバルによく攪拌されている。一方、海洋は大陸によって仕切られているので、地域的な循環が卓越する。一方、全体の海水はひとつながりになっているので、長期的には、グローバルに海水が混合されている。海洋は、地球表層の貯熱槽として、気候の形成に大きな役割を果たしているのと同時に、エルニーニョ現象を発生させて、異常気象をもたらす。このような海水循環の構造を学ぶ。	木村　龍治	木村　龍治
6	水の循環	地球環境の最大の特徴は、水が大気中で気相から液相、固相に変化することであろう。そして、大気循環から分離して、地上にもどる。すなわち、降水現象が生じる。これに伴い、潜熱が解放され、大気が加熱される。また、地球の大気層の半分は、常に、雲に覆われ、太陽放射を反射するのと同時に、地球から宇宙に逃げる赤外線を吸収する。雲と降水の特徴は、きわめてゆらぎが大きいということである。そのメカニズムを学ぶ。	同　上	同　上
7	気候の形成	気候は地域によって大きく異なる。また、気候の変化にも地域性がある。気候の地域性は、降水量と気温に支配される。世界の気候区分は、主に植生によって分類されるが、植生は降水量と気温による所が大きい。気温は緯度と高度によって変化する。降水量は大陸の配置や大気循環の構造に支配される。また、都市域には、都市独特の局地的な気候がある。	同　上	同　上
8	地球環境のライフサイクル	生物の生活には、日変化、年変化などの環境の周期的な変化に対応したリズムがある。一方で、誕生、成長、成熟、死というような一過性のライフサイクルがある。地球環境も、生物と同じように、周期的な変化と一過性の変化が重なっている。ここでは、特に、約10万年周期の氷期と間氷期の交代を取り上げ、そのメカニズムについて考察する。	同　上	同　上
9	生物のいる惑星	地球の最大の特色は、生物が発生し、多様に進化してきたことである。過去の生物相は、従来、化石を基に再現されてきたが、DNAの発見以来、DNAの塩基配列の置換数を基に、生物の進化を論じられるようになった。生物に進化に関する最近の考え方を紹介する。	同　上	同　上
10	環境変化と生態系	生物の生存は環境の状態と密接に関連している。生物は進化の過程で、ある程度、環境に適応できる能力を獲得したが、限度を超えて環境が変化すると生物は絶滅する。ここでは、深海熱水系、エルニーニョなどの環境適応を例にして、環境変化と生態系の応答との関係を学ぶ。	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
11	地球内部の変動	長い時間スケールでみると、地球内部も常に変化している。過去の変化を調べるためには、過去の時間を計ることが必要である。地質学は、地層の積み重なりや化石の種類によって過去の年代を決定してきた。それに対して、地球物理学的な手法で過去の年代を決定する方法が開発され、地球内部の変動の様子がよく分かるようになった。同位体年代測定法や古地磁気学に基づいた絶対年代のデータが蓄積された結果、プレートテクトニクスの概念が生まれたことを学ぶ。	木村　龍治	木村　龍治
12	地震と火山	日本列島は、プレートの沈み込み帯に形成された弧状列島で、地震帯と火山帯の真上にある。日本列島の地表面の環境は、地震と火山が作ったといっても過言ではないであろう。一方、地震と火山噴火は大きな自然災害を生むので、その予測が強く望まれるが、現在では、成功していない。日本では避けることのできない地震と火山のメカニズムを学ぶ。	同　上	同　上
13	日本の気象	日本列島は、中緯度帯（温帯）に存在するが、英国やフランスに比較すれば低緯度にあり、亜熱帯気候と亜寒帯気候の影響を受ける。また、ユーラシア大陸の東の端に位置しているために、アジアモンスーンの影響も大きい。そのため、四季によって気象の支配要因が交代し、四季の変化が顕著に現れる。このような日本の気象を特徴つける気象のメカニズムを学ぶ。	同　上	同　上
14	大規模な気候の変化	太陽活動はきわめて安定しているので、地球上には大規模な気候の変化は起こらないようにみえる。しかし、地球表層には、過去に大きな気候の変化があったことがわかっている。その原因は何だろうか。地球が吸収する太陽放射量を変化させる要因としては、雲が重要である。また、大規模な火山噴火によって、大量の火山灰が成層圏まで吹き上げられ、日射を遮る。もうひとつの要因として、海水の深層循環の変動がある。このような大規模な気候変化を起こす要因について考察する。	同　上	同　上
15	人為的な環境変化	人口が増加し、人類の活動が活発になるにつれて、人類の存在が自然環境に与えるインパクトが次第に増加している。具体的には、２つの問題がある。ひとつは、地表面の性状を人為的に変えることによって、自然の営みに影響を与えることである。都市、水田、砂漠の灌漑、ダムなどがその例である。もうひとつは、工業生産や日常生活に伴う廃棄物を自然界に捨てることによって、大気環境や水環境に影響を与えることである。一方で、人工降雨など、人為的な気象の制御が試みられている。このような人間社会と自然環境の関係について学ぶ。	同　上	同　上

＝　宇宙とその歴史（‘０４）＝（TV）

〔主任講師：　杉本　大一郎（放送大学名誉教授）〕
〔主任講師：　吉岡　　一男（放送大学准教授）〕

全体のねらい

宇宙がどのように始まり、その中に天体が生まれ、天体や宇宙がどのように進化して現在われわれが見る物質世界が形成されたかが、中心的テーマである。その進化は物理法則に支配されて起こったものであり、実証的自然科学の対象として論じなければならない。この講義は自然科学の予備知識なしでも理解出来るようにするために、宇宙の始まりから現在までの時間的経過に沿ってではなく、理解のしやすさの順序に沿って話を展開する。この講義では、具体的な個々の天体の現象についての解説よりも、そのようなことを探求することの意義と科学上の意味について考える。個々の天体や現象に関する最新の詳しい情報については、対応する専門科目の講義を参照されたい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	地動説がもたらした科学	天動説でも惑星の運行は十分に正しく記述できた。それではコペルニクスからニュートンに至る地動説がもたらしたものは何か。それは天体（惑星）が有限の距離に存在する実体だということである。この天文学への距離概念の導入は、ニュートンによる万有引力の発見と近代科学への道を開いた。地上の力学法則と天上の法則が統一されたとも言える。	杉本　大一郎（放送大学名誉教授）	杉本　大一郎（放送大学名誉教授）
2	宇宙の広がりと天体の階層構造	遠くの天体までの距離が測られるようになって、宇宙の天体は階層構造をなして存在することが分かった。それらは、小さいほうから言うと、惑星・恒星・星団・銀河・銀河団・超銀河団・宇宙である。それらの間には、銀河系内のガス雲、銀河間ガスが瀰漫している。	同　上	同　上
3	宇宙の物質	分光学の進歩によって、原子の種類を観測的に決めることが出来るようになった。こうして天上の物質と地上の物質は同じものであることが分かった。さらに恒星の大気内で光のスペクトル吸収線などが形成される様子の研究から、宇宙における各元素の存在量が定量的に分かるようになった。こうして天上の物質と地上の物質も統一された。	同　上	同　上
4	宇宙からの情報の取得	宇宙の構造やそれぞれの天体についての情報は、それらからの光、赤外線、電波、X 線などの電磁波によってもたらされる。それらを受けてどのようにして情報を解読することが出来るかについて、基本法則に戻って論ずる。	吉岡　一男（放送大学准教授）	吉岡　一男（放送大学准教授）
5	星はなぜ光る	殆どの恒星の中心部では原子核反応が起こっており、それによって解放されるエネルギーによって恒星は光り続ける。そのことは恒星の内部構造論と原子核物理学とを結合することによって解明された。	杉本　大一郎	杉本　大一郎
6	進化する恒星	恒星のもつ原子核エネルギーは有限だから、恒星は有限の寿命を持つことになる。その寿命は殆どの恒星では宇宙の年齢よりも短いから、恒星は常に誕生し、進化して、死んでいくことになる。恒星の内部で原子核反応が起こると、元素は異なる種類のものに転換される。こうして、宇宙における元素の起源が説明され、物質世界の歴史が元素のレベルから天体のレベルまで解明される。	同　上	同　上
7	銀河の世界	星団の中の恒星と個々の恒星が千億個ほど集まって 1 つの銀河を構成する。宇宙の歴史においては、宇宙の中で銀河が誕生し、銀河の内部でそのような星団と恒星が誕生した。銀河どうしが衝突して合体したり、星が爆発的に誕生したり、巨大ブラックホールが形成されたりして、銀河は進化した。そして激しい活動をする銀河も観測される。	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
8	銀河で探る宇宙の膨張	遠くの銀河のスペクトルを調べると、銀河はわれわれからの距離に比例する速さで遠ざかっていることが分かる。宇宙という空間が膨張していて、銀河がその空間に乗っているのである。光の速さで銀河が遠ざかるところが、宇宙の果てに対応する。	杉本　大一郎	杉本　大一郎
9	宇宙と相対性理論	宇宙全体というか、大局的な宇宙を論ずる物理学は一般相対性理論である。それによって、光の速さに近い運動や、重力（万有引力）による空間の曲がりとそこを伝播する光などを論ずることができる。こうして、無限に広がっているかのごとくに思われる宇宙全体も、きちんとした物理学の形式にのせて取扱うことができる。	同　上	同　上
10	宇宙の始まりと進化	宇宙が膨張しているのなら、それを過去に向かって遡れば、宇宙の物質=エネルギーが狭い空間に閉じ込められていた時代、すなわち宇宙の始まりの時期があったはずである。そのような時期の存在は、どのようにして実証科学の対象として論ずることができるのであろうか。宇宙背景放射や宇宙の大規模構造と関連させて考える。	同　上	同　上
11	光と赤外線による宇宙の観測	前回までに述べた宇宙の構造と進化は、観測と物理法則に基づいて論じられる。光と赤外線による観測は精密な情報を与え、すべての観測の基本となるだけでなく、豊富な情報を与える。現代の精密科学的観測の到達点を見る。	吉岡　一男	吉岡　一男
12	電波による宇宙の観測	電波で観測すると、天体は光で見たのとは異なる側面を見せる。それは宇宙の低温の部分であったり、逆に高エネルギー電子の関わる激しく活動する部分であったりする。電波干渉計の方法によって、光による観測を凌駕する高分解能が達成され、宇宙の果てに近い銀河の構造も分かる。	同　上	同　上
13	X線やガンマ線による宇宙の観測	X線で観測すると、天体の 100 万度を超える超高温の現象が観測される。そのような超高温は中性子星やブラックホールなど、重力が一般相対性理論で扱わなければならないほど極めて強い天体と共にある。また超銀河団の空間にある高温ガスも観測され、宇宙論にもつながる。	同　上	同　上
14	電磁波以外の手段による宇宙の観測	宇宙の観測は、電波からガンマ線までの電磁波によるもの以外の手段を用いてもなされている。たとえば宇宙線は、陽子等の素粒子が、超新星残骸や活動銀河核などで高エネルギーに加速されたものである。また、透過力の強いニュートリノは、太陽や超新星の中心部の情報を直接与えてくれる。まだ検出されてはいないが、さらに透過力の強い重力波は、宇宙の奥深くの情報を与えてくれるものと期待されている。	同　上	同　上
15	天文学の理論	天文学では物理パラメターが実験室の範囲を大きく超えた極限的な状況が現れるので、理論の果たす役割は大きい。そこで重要なのは、自分自身の重力による非線形相互作用で、それによって天体の形態や構造が自発的に形成され、進化という現象が起こる。天文学の範囲内では、相互作用が重力(万有引力)という数学的に単純な数式で記述されるので、そのようなシステムでも、コンピュータを用いて定量的に解くことができる。このような視点は、より複雑な非線形システムへと理解を進めていくための模範になりうるであろう。	杉本　大一郎	杉本　大一郎

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	共通科目（自然系）	科目ｺｰﾄﾞ	1130900	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 宇宙観の歴史と科学 （’０８）＝（ＴＶ）

※この科目は「宇宙像の変遷と科学（’04）」の一部改訂科目です。
改訂回は、8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15回です。

〔主任講師（現職名）：中村 士（元国立天文台助教授） 〕

講義概要

宇宙に対する見方を体系化した学問である天文学、宇宙論は、人類文明の発祥と共に生まれ発展した最も古い学問の一つである。その歴史には、現代科学の方法や思考の基礎になっている様々なアイデアがちりばめられている。また近年は、宇宙論の思想が他の科学に影響を及ぼすことも少なくない。本講義ではそれらを時代を追って説明すると共に、現代の天文学・宇宙観にどう連なっているかを見てゆく。

授業の目標

全15回の講義を通じて、今では私達が当たり前のように思っている天文学・宇宙論の基礎概念、例えば、地動説、太陽の熱源、天の川銀河、膨張宇宙論、ブラックホールなどの考え方がどのようにして誕生したかが理解できるようになることを目標とする。また、この講座を履修することにより、関連する現代天文学、宇宙科学に対する興味と理解がより深まることをめざす。天文学の予備知識はなくてもよい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	古代の宇宙観(1)	人類史上において、最初の宇宙観・世界観がどのようにして誕生したかをまず概観する。ついで、最も古く天文学が発達したメソポタミア、エジプトの天文学について述べ、インド、中国の古代宇宙観の特質にも触れる。	中村士（元国立天文台・助教授）	中村士（元国立天文台・助教授）
2	古代の宇宙観(2)	現在の天文学、宇宙観のアイデアの源泉はギリシアにある。古代ギリシアの自由な学問的伝統は、天動説、地動説など様々な理論を生んだ。それらの特徴を比較し、現代天文学への影響を論じる。	中村士（元国立天文台・助教授）	中村士（元国立天文台・助教授）
3	中世の宇宙観からルネッサンスへ	ローマ世界の没落後、古代ギリシアの華々しい天文学の成果は中世ヨーロッパでは忘れ去られた。しかし、ギリシア天文学はアラビア・イスラム世界の人々によって温存、発展させられた。西欧天文学とイスラム天文学との関係についても述べる。	中村士（元国立天文台・助教授）	中村士（元国立天文台・助教授）
4	コペルニクス革命と地動説	イスラムの科学を通してギリシア天文学を再発見し、ルネサンスによって人々は中世アリストテレス思想の呪縛から解き放たれた。その象徴はコペルニクスが提唱した地動説（太陽中心説）であり、自転する大地という考え方だった。地動説の受容についても述べる。	中村士（元国立天文台・助教授）	中村士（元国立天文台・助教授）
5	精密観測と熟考の成果:ティコとケプラー	ティコとケプラーという二人の巨人が協力して明らかにした惑星運動の統一的解明は、近世天文学の出発点となった。改良した観測装置で精密なデータを蓄積し、そこから法則を見つけ出す近代科学の方法論を見てゆこう。	中村士（元国立天文台・助教授）	中村士（元国立天文台・助教授）
6	宇宙像の拡大:望遠鏡の発明と万有引力の法則の発見	17世紀のはじめ、望遠鏡を用いた天体についての様々な発見は、それまでの宇宙観を一変させた。また、ケプラーの仕事を元にしてニュートンが発見した運動法則と万有引力の法則は、地上の物体と天体の運動を統一的に説明することに成功した。そのために、ニュートン力学的宇宙観が広まった。	中村士（元国立天文台・助教授）	中村士（元国立天文台・助教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
7	地動説の検証から恒星天文学の誕生へ	地動説を検証する最も直接的な証拠は、星の年周視差の検出であると考えられた。年周視差検出の努力の過程で、天文学者の関心は徐々に変質し、太陽系を離れて恒星の世界に拡大していった。恒星天文学の誕生について述べる。 【キーワード】 年周視差	中村士（元国立天文台・助教授）	中村士（元国立天文台・助教授）
8	星の世界の物理学 （※改訂回）	それまでの星の空間的分布や運動の研究から、星の明るさ、色などに関心を転換することによって、天体物理学と呼ぶ新しい天文学が誕生した。太陽、星のスペクトルの組織的観測結果から、スペクトルの特徴に従って分類することが始まり、やがてヘルツシュプルング・ラッセル（HR）図によって、星には巨星、矮星などの区別があることが分かってきた。	中村士（元国立天文台・助教授）	中村士（元国立天文台・助教授）
9	星・太陽の物質の解明へ （※改訂回）	太陽大気中の元素とスペクトル線の対応から、恒星も太陽と似た元素からなることが確かめられた。やがて、量子力学、原子核物理学の進展によって、長年の謎だった太陽の熱源問題も解決され、星の進化に伴って重い原子核が次々に生成されるメカニズムも解明されていった。	中村士（元国立天文台・助教授）	中村士（元国立天文台・助教授）
10	銀河系と銀河の発見 （※改訂回）	宇宙の広がりと形を調べる研究は19世紀になってようやく銀河系の姿をおぼろげに描き出した。20世紀になると、銀河系と渦巻星雲の関係についての議論が起こり、渦巻き星雲は銀河系と同規模の星の集団（銀河）であることが判明して銀河からなる宇宙という現代の宇宙観の基礎ができた。この、銀河系と銀河の発見の歴史を解説する。	岡村定矩（東京大学・教授）	岡村定矩（東京大学・教授）
11	宇宙膨張の発見とビッグバン宇宙論 （※改訂回）	遠方の銀河ほど速い速度で我々から遠ざかるという「ハッブルの法則」は、宇宙全体が一様等方的に膨張していることを示す。膨張宇宙という概念と宇宙における元素の起源の研究から、ビッグバン宇宙論というパラダイムが誕生した。インフレーション理論を含めた現在の宇宙論への道のりを概観し、ダークマター、ダークエネルギーという新たな謎にもふれる。	岡村定矩（東京大学・教授）	岡村定矩（東京大学・教授）
12	太陽系像の変遷 （※改訂回）	天体物理学の隆盛に伴って太陽系研究はしばらく沈滞期に入る。しかしその後、惑星探査機の出現と新種の天体の発見によって、最近の太陽系像は一変しつつある。その有様を、近年急速に発展した科学的太陽系起源論と、系外惑星の探査の歴史と共に紹介する。	中村士（元国立天文台・助教授）	中村士（元国立天文台・助教授）
13	私たちはどこから来たか：地球外生命を求めて （※改訂回）	宇宙における生命の誕生と進化を理解することは、天文学、宇宙論研究の最終目標と言ってもよいテーマで、人間原理などにも関係している。電波天文学の誕生で始まった太陽系外生命の科学的探査の歴史についても述べる。	中村士（元国立天文台・助教授）	中村士（元国立天文台・助教授）
14	万物の尺度の探求：メートル法の制定と測地学の誕生 （※改訂回）	メートル法という統一した尺度が地球の大きさを基準にして18世紀末に生れた歴史的背景を探り、地球、太陽系の大きさの定量的把握にいかに影響したかを述べる。天文単位決定の歴史についても紹介する。 【キーワード】 天文単位	中村士（元国立天文台・助教授）	中村士（元国立天文台・助教授）
15	宇宙像の表現法：星表と星図の歴史的変遷 （※改訂回）	恒星宇宙の広がりや構造を表示する方法として、星図・星表による表現が昔から行われてきた。その古代から現代に至る歴史的変遷を、、西洋と東洋の場合について見てゆく。銀河系や電波源の様々な表現法についても触れる。 【キーワード】 星図・星表	中村士（元国立天文台・助教授）	中村士（元国立天文台・助教授）

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	共通科目（自然系）	科目ｺｰﾄﾞ	1660802	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　惑星地球の進化（‘０７）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：松本　良　（東京大学大学院教授）　〕
〔主任講師（現職名）：浦辺　徹郎（東京大学大学院教授）　〕
〔主任講師（現職名）：田近　英一（東京大学大学院准教授）〕

講義概要

地球は火星や金星などと同じ太陽系の一つの惑星ですが、豊かな水の存在と生命活動が他の惑星との違いを際立たせています。しかし長い時間軸で見ると、地球環境はいつも穏やかだった訳ではありません。地球は太陽エネルギーや潮汐などの外因エネルギーと地球内部の放射性核種の壊変に由来する内因エネルギーによって駆動されるシステムであり、これらのエネルギーやその他の原因（小天体の衝突など）により惑星地球はダイナミックに進化・変動してきました。　本講義では、知識の網羅ではなく、ダイナミックな地球を理解する上で特に重要な項目について詳しく解説します。　身近な地質現象の観察を手がかりとして、地球の成り立ちと進化について理解し、地球との共生について考えることを講義の目標とします。

授業の目標

講義は３つの章から構成されます。第１章「惑星地球の形成とダイナミクス」では、惑星地球の形成や地球の構成、地球を駆動するエネルギーについての解説を通じて、地球のダイナミクスを理解します。第２章「惑星地球システムを構成するもの」では、岩石、地層、化石から地球史を解読する方法を学びます。第３章「地球の変動と進化」では、生物の絶滅や劇的な環境変動に関する最新の成果から、地球変動のメカニズムを知り、資源や環境、地球の近未来について考えます。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
		第１章　惑星地球の形成とダイナミクス		
1	自分の地球観を持とう	講義が目指すもの、講義全体の構成、および学生諸君に望む事柄について説明する。人類社会と地球、環境問題、資源の問題、生物多様性の問題、持続的発展をテーマに、今日地球と人類が抱える課題について問題提起する。	松本　良 浦辺　徹郎 田近　英一	松本　良 浦辺　徹郎 田近　英一
2	太陽系と惑星地球の形成	地球と太陽系内の他の惑星との比較を通じ、それらの共通点や違いを明らかにすることによって、惑星地球の特徴を理解する。また、太陽系の形成過程を概観し、地球がどのように誕生したのかを理解する。	田近　英一	田近　英一

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
3	地球環境の形成と進化	地球環境は太陽からのエネルギーと大気の温室効果によって支えられている。地球史を通じて温暖な地球環境が維持されるためには、大気の進化が重要であった。大気中の酸素は生物起源であり、地球史半ばに酸素濃度が増加したらしい。これらのことを紹介する。	田近　英一	田近　英一
4	固体地球の成立と分化	惑星地球は、主として内因的エネルギーによる熱、圧力、マグマ活動などさまざまな要因で成層構造を持ち、分化して行く。また、大陸と海の区別ができ、地球の原型が形成される。そのような成層構造をいかにして調べるのか、大陸と海の違いは何かを紹介する。	浦辺　徹郎	浦辺　徹郎
5	地球内部ダイナミクス	現在の固体地球は内因的エネルギーに支えられてダイナミックに活動している。現在の地球の営みを規定しているのはプレートテクトニクスで、この理論により、それまで分からなかったさまざまな現象を統一的に理解することが出来るようになった。	浦辺　徹郎	浦辺　徹郎
		第２章　　惑星地球を構成するもの		
6	地球のサブシステムの成立	地球システム全体を考えた時、質量では固体地球が99%をしめるが、ものの“流れ”の大きさを比べると気圏、水圏、生物圏といったサブシステムの重要性が浮かび上がってくる。これらのサブシステム間の相互作用が、現在の地球を駆動している事を学ぶ。	浦辺　徹郎	浦辺　徹郎
7	熱水活動と鉱物資源の生成	プレートの拡大境界／収束境界に多くのマグマ活動が集中している。その熱は、地殻中に熱水循環を引き起こす。この熱水活動は、重金属で代表される鉱物資源の生成のほか、地下生物圏のエネルギー源となるなど、新たな地球像を見せようとしている。	浦辺　徹郎	浦辺　徹郎
8	堆積岩はどこで出来たのか？	固体地球の最外郭は堆積岩で覆われる。堆積岩は、河床やデルタ、大陸斜面から深海底と様々な環境で形成され、それぞれ特徴的な構造や組成を持つ。野外での観察を通じて堆積岩がどのような環境で形成されたか判定する手法を学ぶ。	松本　良	松本　良
9	海洋環境と深海堆積物	氷床の発達による海水準の低下、深層水の循環、海洋の成層構造の発達など、海洋の物理的、化学的進化と変動は、地球環境を大きく変える。一方、地球表層環境の変動は深海堆積物によく記録される。深海掘削コアを例に、深海堆積物の特徴と海洋環境の変動について解説する。	松本　良	松本　良

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
10	地球史の編年	生物の進化に基づく生層序、古地磁気や海水の組成変動など、全地球的に同時に変動する現象を手がかりとして、遠く離れた場所の地層の新旧の関係が明らかにされる。一方、放射性元素の壊変を利用して数値年代を知る事ができる。これらに基づき詳細な地球史が編まれてきた。	松本　良	松本　良
		第3章　惑星地球の変動と進化		
11	生物の大量絶滅	5億4千万年以降の顕生代において生物は5回大量絶滅という危機を経験した。大量絶滅の要因としては、天体衝突のほか、寒冷化、海水面の低下、海洋の貧酸素化など、様々なモデルが提案されている。最近の研究成果から、地球表層環境の劇的変動と生物の大量絶滅について学ぶ。	松本　良	松本　良
12	地球表層環境の変動	地球史において、暖かい時代（温室期）と寒い時代（氷室期）が数億年の周期でくりかえされたことが堆積物に記録されている。こうした長期的な環境変動の要因について考察する。また、氷室期に見られる短周期の氷期ー間氷期サイクルを、炭酸塩の酸素同位体組成の変動から解読する。	田近　英一	田近　英一
13	全球凍結イベントと地球環境の安定性	最近の研究によって、地球全体が凍結するという破局的な環境変動が過去に何度か生じたらしいことが分かってきた。この全球凍結（スノーボールアース）仮説について紹介し、地球環境の安定性について考える。	田近　英一	田近　英一
14	メタンハイドレート：環境と資源へのインパクト	メタンガスと水から成るメタンハイドレートが堆積物中に大量に存在する。メタンハイドレートが分解すると海洋の貧酸素化を促進し生物圏に致命的な影響を与える。将来のエネルギー資源としても期待されるメタンハイドレートについて考える。	松本　良	松本　良
15	惑星地球と人類社会の共生	講義の締めくくりとして、人類と地球の共生について考える。人類が登場してほんの 100 万年ほどの間に、人類活動の影響は拡大し、直接地球環境の変動に介入するようになってきた。46 億年の地球進化のなかで、人類はいかに地球との共生を図れるのか、考えよう。	松本　良 浦辺　徹郎 田近　英一	松本　良 浦辺　徹郎 田近　英一

＝　実験科学とその方法（‘０６）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：濱田　嘉昭（放送大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：菊山　宗弘（新潟大学教授）〕

全体のねらい

自然科学は人間の行う知的活動の一つであり、現実に生起している自然現象を観察に基づく経験や実験によって得られた結果を整理し、複雑な現象の中から一定の規則を見出し、それらを総合して法則や原理を導き出し、さらにそれらを統合してより基本的な法則を見出そうとする。このようにして得られた法則からは、物質世界の示すべき現象の予測が可能になる。これを技術と結びつければ、新しい性質を示す物質や装置を創造することもできるようになる。一方では、自然現象の整理の仕方を間違たり相応しくない方法を適用すると、間違った結論を導き出す可能性もある。本講義では自然科学の考え方、観察や実験を行う際の基本的に重要な項目について考えることにする。また、情報を収集し、論文にまとめ、発表する方法についても考える。最後に自然科学は専門家のものだけではなく、すべての人々が関心をもつべき事柄であることを強調したい。これによって、現在の私たちが直面する環境問題などに正しく対処できるようになると考えるからである。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	実験・観察による自然現象の探求	自然科学がどのように発展してきたのか、何を探求の対象として何を対象としないのか、他の学問分野との関係はどのようになっているのかなどを考える。現在の自然科学の現状について考える。実験と理論、シミュレーションの関係について考える。	濱田　嘉昭	濱田　嘉昭 菊山　宗弘
2	自然科学の戦略・戦術	さまざまな自然現象は一見複雑に、あるいはばらばらに生起しているように見えるが、一定の規則に従っている。すなわち法則性がある。法則がわかれば予測も可能となる。また、複数の法則を分析することにより、より基本的な法則を導くこともできよう。一方で、法則の適用限界をはっきりさせておくことは、法則の誤った適用を避けるためにも重要な要件である。実験や観測から、科学的法則を導き出す過程を説明する。	菊山　宗弘	菊山　宗弘 濱田　嘉昭
3	自然科学の領域の拡大	自然科学は五感で捉えられる範囲の自然現象を対象として発達してきた。しかし、自然現象はわれわれの感覚を越えた広大な領域でも生起している。これらを考察の対象とするには、実験・観察する道具・装置を開発する必要がある。また、物事を統一的に解釈する理論をもつ必要がある。日常、目で見たり手で触れられる物質・物体の運動を理解するには、それらの物質の性質との関係を知ることが重要である。いくつかの例を示しながら、マクロとミクロの視点の重要性を述べる。	菊山　宗弘	菊山　宗弘 濱田　嘉昭

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	測定結果から何を引き出すか	測定や観察をすれば、何らかの結果が得られる。この観測事実はそのまま、自然現象の示す真の姿であると言えるであろうか。事実と真実との関係を考える。また通常、観察や実験の結果は数値として得られるが、それにはさまざまな要因による誤差が含まれている。測定結果の数値的処理を正しく行わないと、間違った結論を引き出す可能性もある。実験精度と確度について考察する。	濱田　嘉昭	濱田　嘉昭 菊山　宗弘
5	自然科学における評価と判断、予測	実験結果は何らかの誤差を伴う。そのために統計的な考察をして実験の確からしさと誤差の範囲を決める。また、一定の法則が得られたならば、それに基づいて、新たな条件下での実験や観測の結果を予測することになる。統計や確率の基本的な考え方、扱い方を述べる。相関によって原因と結果を結びつける際の注意点を学ぶ。	林　譲	林　譲 濱田　嘉昭
6	自然現象の整理	実験や観察の結果から一定の法則が得られたならば、それらの法則をより基本的で統一的な原理にまで統合する必要がある。場合によると数理理論としてまとめる必要があろう。この統合化のプロセスと方法について考える。また、数式による表現がどういう意義を持つのかについても考える。	濱田　嘉昭	濱田　嘉昭 菊山　宗弘
7	情報の蓄積と収集	新たな疑問や質問が生じ、実験や観察あるいは調査をする場合、その問題あるいは関連する問題に関して、既に研究がなされているか、どのような結論が得られているのかを事前に調査する必要がある。すなわち、情報の収集である。また、自分の研究経過あるいは結果もデータとして蓄積する必要があろう。有用な情報をどのようにして得るか、活用するかについて考察する。	菊山　宗弘	菊山　宗弘 濱田　嘉昭
8	発表と討論	科学研究の結果は何らかの公的な場で発表し、批判や支持を得る必要がある。そのためには、その目的に適したプロセスや技術などが必要である。学習結果や卒業研究のまとめと発表にも同様のことが期待される。研究のまとめ方、発表の仕方、討論の仕方について述べる。	菊山　宗弘	菊山　宗弘 濱田　嘉昭
9	論文のまとめ方	実験や観察の研究結果から何らかの有益な知見が得られたなら、報告書や論文としてまとめ、公開する必要がある。この場合、研究の背景、方法、結論を得た筋道とその推移の妥当性、関連する現象と対比、問題点の考察などを、読者にわかるような表現で要領良く書く必要がある。これらについて考察する。	菊山　宗弘	菊山　宗弘 濱田　嘉昭

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
10	未来をつくる科学 － 色素化学の場合 －	物質と色の関係は古代からの興味の対象であった。そして、現在でもさまざまな色を作り出すことに向けて多くの研究がなされている。特定の色をもつ新しい有機化合物を開発する場合に、理論計算が有力な導きとなりうる。実験と計算の融合の例として色素化学を取り上げ、色に関するいくつかの例を紹介する。	時田　澄男	時田　澄男 濱田　嘉昭
11	未来をつくる科学 － 脳科学の場合 ・	観測・計測技術の発達によって自然科学の研究対象の拡大と深化が行われてきた。科学の進展がさらに新たな技術を生む。この例として脳科学の場合を考えた。脳機能のうち、味覚や嗅覚を取り上げ、従来の心理学的な手法を組み合わせ、どのような知見が得られつつあるかを紹介する。	小早川　達	小早川　達 濱田　嘉昭
12	未来をつくる科学 － 細胞生物学、分子生物学の場合 ・	２１世紀は生命科学が最も発達する時代と考えられている。生命科学においては、化学物質としての分子のレベルと、生命の最小単位としての細胞レベルとを統合的に考察し、扱うことが重要である。発生・分化・癌化などのプロセスで細胞が自らの運命をどのように決定・変換するかの実験について解説する。従来のグローバルな生物学的観点から、ミクロの物質の構成的な観点から生命を考えて見たい。	帯刀　益夫	帯刀　益夫 濱田　嘉昭
13	科学を育てる教育	理科離れが現代の大きな問題になっている。市民が科学の成果を共有し、また次世代の科学を育てるためにも、年少期からの教育、特に実験・観察することが重要である。科学への眼はどのように開かれるのか、あるいは科学・技術教育はどのようになされるのかについて考察する。科学的視点・論理的考察は自然科学だけに適用されるものではない。広く社会生活の中での科学的視点の重要性を述べたい。	濱田　嘉昭 土井　康作	濱田　嘉昭 ゲスト： 土井　康作
14	科学的批判 － 科学ジャーナリズムの役割 －	自然環境問題は人類の生き残りと発展の可能性とをかけた問題と捉えられている。この問題の解決には自然科学の基礎的な研究と技術に関する専門家の活動は欠かせない。一方で、環境問題の解決には自然科学的な側面だけでなく、政治・経済・社会のさまざまな要因が関係している。そして、その解決には市民一般の合意や行動が不可欠である。その際、科学の動向や科学政策を正しくわかりやすく伝えることが重要である。科学ジャーナリズムの役割について考える。	濱田　嘉昭	濱田　嘉昭 ゲスト： 青野　友里

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
15	市民としての科学	現代の文明社会では科学・技術が急速かつ広範囲に発展している。そして、市民生活にはその結果が直接的に関係している。本来、人類の豊かな生活のために開発された新機能物質や装置が逆効果をもたらすこともある。この逆効果は、使用者の無理解や誤解による場合もある。したがって、現代の文明を生きる市民には、科学や技術の正しい理解が求められることになる。生涯学習の観点から市民としての科学について考察する。	濱田　嘉昭 菊山　宗弘	濱田　嘉昭 菊山　宗弘 ゲスト： 長尾　明美 垣谷　江里子

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	基礎科目	科目コード	1310305	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 英語の基本 （’０８）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：大橋理枝 （放送大学准教授） 〕

〔主任講師（現職名）：斎藤兆史 （東京大学大学院准教授） 〕

講義概要

言語と文化は切っても切り離せない関係にあるという認識に基づき、背景となる文化事象の違いによる日本語と英語の発想の違いを主題とする印刷・放送教材を用い、受講者の英語力強化のための授業を行なう。授業においては、「旅」、「宿」、「食」をはじめ、文化的な主題に関するエッセイと、それに関する会話やインタビューの語学的・文化的解説などを中心的に行なう。

授業の目標

英語に関する基礎的な点を復習しつつ、受講者の英語力を総合的に伸ばすことを目標とする。エッセイを読む部分では、異文化理解までを可能ならしめる読解力（当然ながら、それを支える語彙力と文法能力）を育成し、インタビューの部分では、単なる日常会話を超えた文化的なやり取りを可能ならしめるような聴解力・会話力を養成することを目指す。授業内ではそのための勉強の指針などを随時提示する。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	課 (Lessons)	授業の趣旨、レベル設定などを概論的に説明したのち、本講義の受講に当たっての英語学習の心得を講じ、日常的に実践すべき英語の学習法（発音記号の読み方、音読、素読、暗唱、物まね発声など）を具体的に解説する。 【キーワード】 introduction、英語学習法	斎藤兆史 （東京大学大学院准教授）	斎藤兆史 （東京大学大学院准教授） 大橋理枝 （放送大学准教授）
2	業 (Studies)	本講義の受講に当たって知っておくべき文法上の概念などを具体的に解説する。 【キーワード】 文法学習	斎藤兆史 （東京大学大学院准教授）	斎藤兆史 大橋理枝
3	飲 (Drinking)	国や地域によって「飲む」（drink）という言葉の意味するものは違う。この回の授業では、「飲む」ということが何を意味するかや、何か飲み物を頼むときの注文の仕方などを題材として英語を学ぶ。 【キーワード】 drinking, drink, beverage, brewery	斎藤兆史 （東京大学大学院准教授）	斎藤兆史 大橋理枝
4	食 (Eating)	この回では、最近はやっているイギリスの料理や、伝統的なイギリス料理の作り方を紹介しながら、料理や調理にまつわる英語を学んでいく。 【キーワード】 eating, food, modern British, traditional cooking	大橋理枝	斎藤兆史 大橋理枝

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	飲食 (Review and Practice 1)	3, 4章の内容に基づき、飲食に関する英語を実際に使いこなす練習をする。	大橋理枝	斎藤兆史 大橋理枝
6	家 (Houses)	イギリス人の家に対するこだわりはかなりのものがあるようだ。この回ではごく普通のイギリス人が、自分の家を自分の好みに合わせていく姿を紹介しながら、家にまつわる英語を学んでいく。 【キーワード】 house, housing, remodeling, DIY	大橋理枝	斎藤兆史 大橋理枝
7	庭 (Gardens)	ガーデニングと言えば、イギリスの庭作りは有名だが、イギリス人の御自慢の庭は大抵家の後ろ側にあるのでなかなか外からは見られない。この回ではごく一般的な家庭の庭の姿や庭造りの極意を紹介しながら、庭にまつわる表現を学ぶ。 【キーワード】 garden, gardening, plants	大橋理枝	斎藤兆史 大橋理枝
8	家庭 (Review and Practice 2)	6, 7章の内容に基づき、家や庭に関する英語を実際に使いこなす練習をする。	大橋理枝	斎藤兆史 大橋理枝
9	旅 (Trip)	日本と英語文化圏における旅のイメージの違いや共通点を考察し、英語圏に旅行をするときに必要な英語表現などを勉強する。 【キーワード】 trip, travel	Tom Gally (東京大学教養学部特任准教授) ＜分担執筆担当講師＞ 斎藤兆史	Tom Gally (東京大学教養学部特任准教授) ＜分担執筆担当講師＞ 斎藤兆史
10	宿 (Accommodation)	宿、あるいは宿泊ということに関する日本と英語圏とのイメージの違いや共通点を考察し、英語圏で宿を取る場合に必要な英語表現を勉強する。 【キーワード】 accommodation, inn, hotel	Tom Gally 斎藤兆史	斎藤兆史 Tom Gally
11	旅宿 (Review and Practice 3)	9、10章の内容に基づき、旅行や宿泊に関する英語を実際に使いこなす練習をする。	斎藤兆史	斎藤兆史 大橋理枝

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	訳 (Translation)	最近の英語教育においては、翻訳という作業はあまり好まれない傾向にあるが、日本人が高度な英語力を求められるのは、外国人の言葉を日本側に伝えたり、あるいは日本の代表として外国と交渉をしたりという異文化状況であり、そのなかで翻訳能力は重要な語学力となり得る。この回では、英語学習・異文化理解における翻訳の意味を改めて考える。 【キーワード】 translation, interpretation	Tom Gally 斎藤兆史	斎藤兆史 Tom Gally
13	文 (Letters)	詩文を分析することで文学的なテクストの読み方を勉強したり、英文学の文豪について学ぶことで、文学を通じて英語を勉強する面白さを学ぶ。 【キーワード】 literature, poetry	Tom Gally 斎藤兆史	斎藤兆史 Tom Gally
14	訳文 (Review and Practice 4)	12, 13章の内容に基づき、文学翻訳に関する英語を実際に使いこなす練習をする。	斎藤兆史	斎藤兆史 大橋理枝
15	課業 (Conclusion)	いままで習った英語を現場で生かすため、発展的な自主学習のやり方を学ぶ。 【キーワード】 study, review	斎藤兆史	斎藤兆史 大橋理枝

＝英語基礎Ａ（‘０５）＝（Ｒ）
～Welcome to Japan～

〔主任講師：大石　和欣（放送大学准教授）〕
〔主任講師：大橋　理枝（放送大学准教授）〕

全体のねらい

聞く、読む、話すなどを中心に、初歩的な英語の学習を目的とする。日本人の女性がイギリス人男性とアメリカ人女性をホームステイで受け入れる、という設定のもと、まずは初対面時の挨拶からはじめ、その後の流れに合わせて段階的に英語を学習する。毎回、その回に出てきた文法項目を説明するコーナー、本編で出てきた表現を取り上げて特集するコーナー、主シナリオと類似しているが状況が異なる「裏シナリオ」で学習した表現を応用させていくコーナーなどを設けて、様々な角度から英語力の向上を図る。日本・アメリカ・イギリスの文化事象なども織り込みながら話題を展開させ、文化的差異から生ずるコミュニケーションの際の問題なども紹介することで英語の深い理解を促す。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	Departure from the Arrival Gate（到着ロビーからの出発）	初対面のときの挨拶などを通して、自己紹介の仕方などを扱い、初めて会う人間とのコミュニケーションのはかり方を学ぶ。	大石　和欣（放送大学准教授） 大橋　理枝（放送大学准教授） ジョン・ブロウカリング（法政大学教授）	大石　和欣（放送大学准教授） 大橋　理枝（放送大学准教授） ジョン・ブロウカリング（法政大学教授）
2	Stuck on Japan（日本で足止め）	日本に興味を持った理由や、来日の目的を聞くことなどを通して、個人的なことを質問する表現などを扱う。	同　上	同　上
3	Home away from Home（住めば都）	自分の家族の説明などを通して、親族名称などを扱う。	同　上	同　上
4	A Taste of Japan（日本の味わい）	好きな食べ物や飲み物の話などを通して、何かを注文するときの表現などを学ぶ。	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	Good Morning, Bad Morning (おはよう、だめよう)	健康に関する表現や、体調が悪いときに使う表現などを学ぶ。	大石　和欣 大橋　理枝 ジョン・ブロウカリング	大石　和欣 大橋　理枝 ジョン・ブロウカリング
6	Beautiful Words for Beautiful Words (美言に美言)	趣味に関する表現などを通じて、芸術作品を紹介する際の表現方法などを学習する。	同　上	同　上
7	All Work and No Play (良く働き、よく遊べ)	日本・イギリス・アメリカでの一般的なライフスタイルや余暇についての考え方などに言及しながら、それらを説明するための表現などを扱う。	同　上	同　上
8	Prim and Proper (おすまし、おめかし)	服装や服飾文化などを話題にしながら、パーティーの場での会話などを取り上げる。	同　上	同　上
9	The Modern Taste of Roppongi (現代風の六本木)	好き、嫌いなどの好みを文化的な文脈で表現する方法を扱う。	同　上	同　上
10	The Historic Charm of Kamakura (鎌倉の歴史的魅力)	日本の伝統文化や歴史について説明するような場面で使える表現などを扱う。	同　上	同　上
11	Celebrating with a Bang (ドドンと祝祭)	祝祭日に関する表現を手がかりにして、何かに感心した時の表現方法などを学ぶ。	同上	同上
12	Political Campaigns (選挙事情あれこれ)	日本・イギリス・アメリカの選挙運動の違いなどの話を通して、政治や行政に関する表現や、英語における政治的な言語文化性を話題に取り上げる。	同上	同上
13	Words and Ironies (皮肉に本音)	イギリス英語とアメリカ英語の違いをとり上げながら、言葉の使い方や婉曲表現に関する注意点を学ぶ。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
14	Exams Examined (入試問題)	日本・イギリス・アメリカの入試制度の違いなどの話を通して、大学や学校、教育に関する表現を扱う。	大石　和欣 大橋　理枝 ジョン・ブロウカリング	大石　和欣 大橋　理枝 ジョン・ブロウカリング
15	Manners in Japanese Harmony (和の個人主義)	現代日本の側面に関する話を通して、何かを批判する際の表現などを学びながら初歩的な英語の完成を目指す。	同上	同上

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	共通科目（外国語）	科目コード	1310208	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 英語講読 （’０８）＝ （R）

〔主任講師（現職名）：大橋理枝（放送大学准教授）〕

〔主任講師（現職名）：成田篤彦（埼玉工業大学教授）〕

講義概要

Lafcadio Hearn の書いた作品の中から短いものを3編選び、それらを読みながら英語を学ぶ。毎回の授業を、本文の読解・訳・文法事項の説明及び背景説明・比較文化的解説の二部に分け、多角的な視点からのアプローチで英語を学習するよう工夫する。

授業の目標

文学作品をきちんと精読していくという作業を通して、書き言葉としての英語とじっくり向き合うことを目標とする。また、外国人である Lafcadio Hearn が見た日本の姿を学ぶことを通して、異文化に対する眼差しの一つの在り方に触れると共に、日本文化を客観的に捉え直す機会とする。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	Ubazakura 1.	『怪談』に収録されている「乳母桜」の前半を読みながら、本文中に出て来る文法項目を学習すると共に、著者の略歴などを紹介する。	成田篤彦（埼玉工業大学教授） 大橋理枝（放送大学准教授）	成田篤彦（埼玉工業大学教授） 大橋理枝（放送大学准教授）
2	Ubazakura 2.	「乳母桜」の後半を読みながら、本文中に出て来る文法項目を学習すると共に、「乳母」に関する日英の捉え方の比較などを解説する。	同上	同上
3	The Story of Aoyagi 1.	『怪談』に収録されている『青柳の物語』を読みながら、本文中に出て来る文法項目の学習を続けると共に、英文学に出てくる「柳」の表象などを解説する。	同上	同上
4	The Story of Aoyagi 2.	『青柳の物語』を読み進めながら、本文中に出て来る文法項目の学習を続けると共に、「嵐」の表象の日英比較などを解説する。	同上	同上
5	The Story of Aoyagi 3.	引き続き『青柳の物語』を読みながら、本文中に出て来る文法項目の学習を続けると共に、「貧しいが美しい娘」というテーマの古今東西の共通性を論じる。	同上	同上
6	The Story of Aoyagi 4.	『青柳の物語』を更に読み進め読みながら、本文中に出て来る文法項目の学習を続けると共に、「恋愛詩」の形を英詩と和歌の比較を通じて論じる。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
7	The Story of Aoyagi 5.	引き続き『青柳の物語』を読み進めながら、本文中に出て来る文法項目の学習を続けると共に、ハーンの周りの女性達について紹介する。	成田篤彦(埼玉工業大学教授) 大橋理枝(放送大学准教授)	成田篤彦(埼玉工業大学教授) 大橋理枝(放送大学准教授)
8	The Story of Aoyagi 6.	引き続き『青柳の物語』を読み進めながら、本文中に出て来る文法項目の学習を続けると共に、「嫁入道具」(dowry)に関する日英の文化比較の解説を行う。	同上	同上
9	The Story of Aoyagi 7.	引き続き『青柳の物語』を読み進めながら、本文中に出て来る文法項目の復習を続けると共に、日英の領主と臣下の関係を比較する。	同上	同上
10	The Story of Aoyagi 8.	引き続き『青柳の物語』を読み進めながら、本文中に出て来る文法項目の復習を続けると共に、結婚式について日英の違いを紹介する。	同上	同上
11	The Story of Aoyagi 9.	引き続き『青柳の物語』を読み進めながら、本文中に出て来る文法項目の復習を続けると共に、自然と人とのつながり(植物の精、という発想)について考えてみる。	同上	同上
12	The Story of Aoyagi 10.	引き続き『青柳の物語』を読み進めながら、本文中に出て来る文法項目の復習を続けると共に、「弔い」ということに対する日英の共通点を考える。	同上	同上
13	Common Sense 1.	『骨董』に収録されている「常識」を読みながら、引き続き英語の文法事項を復習すると共に、ハーンが生活していた当時の日本の姿を紹介する。	同上	同上
14	Common Sense 2.	「常識」を読み進めながら、引き続き英語の文法事項を復習すると共に、150年前の日本を見る外国人の目と現代人の目に共通点があるのではないかという観点から論じる。	同上	同上
15	Common Sense 3.	「常識」の最後の部分をを読みながら、引き続き英語の文法事項を復習すると共に、全体を通したまとめを行う。	同上	同上

＝　英語中級Ｂ（‘０６）＝（TV）
－BBC ドラマで学ぶ－

〔主任講師（現職名）：　内野　儀　　（東京大学大学院教授）〕
〔主任講師（現職名）：　河合　祥一郎（東京大学准教授）　　〕
〔主任講師（現職名）：　大石　和欣　（放送大学准教授）　　〕

全体のねらい

イギリスの前衛劇場ロイヤル・コート・シアターと BBC テレビが提携して製作したキャリル・チャーチル作の戯曲『トップ・ガールズ』のヴィデオを鑑賞し、演劇関係者へのインタビューを交えて、詳しい解説とともに生きた現代英語の核心に迫ります。英語表現の練習のための Useful Expressions のコーナーも加えて、親しみやすい授業を目指します。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	『トップ・ガールズ』①	作品の背景について簡単な紹介をしたあと、第１幕の最初の部分を観て、特に注目すべき場面を抜き出して Questions & Answers を行いながら解説を加える。場面から表現を抜き出してゲストとともに Useful Expressions で英語表現の練習を行う。批評のコーナーでは作品を読み解く批評的視点について考察する。	内野　儀（東京大学大学院教授） 河合祥一郎（東京大学准教授） 大石　和欣（放送大学准教授）	内野　儀（東京大学大学院教授） 河合祥一郎（東京大学准教授） 大石　和欣（放送大学准教授）
2	『トップ・ガールズ』②	第１幕の続きを観て、特に注目すべき場面を抜き出して Questions & Answers を行いながら解説を加える。場面から表現を抜き出してゲストとともに Useful Expressions で英語表現の練習を行う。演劇評論家を招いて、作品について語り合う。	同上	同上
3	『トップ・ガールズ』③	第１幕の続きを観て、特に注目すべき場面を抜き出して Questions & Answers を行いながら解説を加える。場面から表現を抜き出してゲストとともに Useful Expressions で英語表現の練習を行う。演劇評論家を招いて、作品について語り合う。	同上	同上
4	『トップ・ガールズ』④	第１幕の続きを観て、特に注目すべき場面を抜き出して Questions & Answers を行いながら解説を加える。場面から表現を抜き出してゲストとともに Useful Expressions で英語表現の練習を行う。批評のコーナーでは作品を読み解く批評的視点について考察する。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	『トップ・ガールズ』⑤	第1幕の続きを観て、特に注目すべき場面を抜き出してQuestions & Answersを行いながら解説を加える。場面から表現を抜き出してゲストとともにUseful Expressionsで英語表現の練習を行う。批評のコーナーでは作品を読み解く批評的視点について考察する。	同上	同上
6	『トップ・ガールズ』⑥	第1幕の続きを観て、特に注目すべき場面を抜き出してQuestions & Answersを行いながら解説を加える。場面から表現を抜き出してゲストとともにUseful Expressionsで英語表現の練習を行う。批評のコーナーでは作品を読み解く批評的視点について考察する。	同上	同上
7	『トップ・ガールズ』⑦	第1幕の最後の部分と第2幕第1場を観て、特に注目すべき場面を抜き出してQuestions & Answersを行いながら解説を加える。場面から表現を抜き出してゲストとともにUseful Expressionsで英語表現の練習を行う。批評のコーナーでは作品を読み解く批評的視点について考察する。	同上	同上
8	『トップ・ガールズ』⑧	第2幕第3場の前半を観て、特に注目すべき場面を抜き出してQuestions & Answersを行いながら解説を加える。場面から表現を抜き出してゲストとともにUseful Expressionsで英語表現の練習を行う。キャリル・チャーチルの戯曲を演出するために来日したイギリス人演出家へのインタビューを聴く。	同上	同上
9	『トップ・ガールズ』⑨	第2幕第3場の後半を観て、特に注目すべき場面を抜き出してQuestions & Answersを行いながら解説を加える。場面から表現を抜き出してゲストとともにUseful Expressionsで英語表現の練習を行う。キャリル・チャーチルの戯曲を演出するために来日したイギリス人演出家へのインタビューの続きを聴く。	同上	同上
10	『トップ・ガールズ』⑩	第3幕の最初の部分を観て、特に注目すべき場面を抜き出してQuestions & Answersを行いながら解説を加える。場面から表現を抜き出してゲストとともにUseful Expressionsで英語表現の練習を行う。批評のコーナーでは作品を読み解く批評的視点について考察する。	同上	同上
11	『トップ・ガールズ』⑪	第3幕の続きを観て、特に注目すべき場面を抜き出してQuestions & Answersを行いながら解説を加える。場面から表現を抜き出してゲストとともにUseful Expressionsで英語表現の練習を行う。批評のコーナーでは作品を読み解く批評的視点について考察する。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	『トップ・ガールズ』⑫	第3幕の続きを観て、特に注目すべき場面を抜き出してQuestions & Answersを行いながら解説を加える。場面から表現を抜き出してゲストとともにUseful Expressionsで英語表現の練習を行う。批評のコーナーでは作品を読み解く批評的視点について考察する。	同上	同上
13	『トップ・ガールズ』⑬	第3幕の続きを観て、特に注目すべき場面を抜き出してQuestions & Answersを行いながら解説を加える。場面から表現を抜き出してゲストとともにUseful Expressionsで英語表現の練習を行う。イギリス人演劇評論家に、この戯曲について語ってもらう。	同上	同上
14	『トップ・ガールズ』⑭	第3幕の最後の部分を観て、特に注目すべき場面を抜き出してQuestions & Answersを行いながら解説を加える。場面から表現を抜き出してゲストとともにUseful Expressionsで英語表現の練習を行う。イギリス人演劇評論家に、この戯曲について語ってもらう。	同上	同上
15	『トップ・ガールズ』⑮	これまでのまとめとして、重要な部分を編集した総集編を通して観る。	同上	同上

＝ 英語総合Ａ（‘０５）＝（Ｒ）
～ 歴史・文化・社会 ～

〔主任講師：　草光　俊雄（放送大学教授）〕
〔主任講師：　大石　和欣（放送大学准教授）〕

全体のねらい

「英語総合Ａ（‘０５）～歴史・文化・社会」は、中級から上級レベルの学生を対象に、英語の歴史的・文化的な背景を理解しながら、英語を実際に運用することを学び、論理的な思考方法と議論の仕方を習得することを目標としています。講義では、英語の歴史、近世・近代の社会経済や思想哲学、ニュートンやダーウィンなどの自然科学思想、労働問題、都市と田園、英国紳士・、女性像の変遷など、歴史・文化・社会に関するさまざまなテーマについてのテクストを読み、専門家へのインタビューを聞きながら、自由に問題を考え、意見を表現する方法を身につけることをねらいとしています。卒業研究や大学院進学を目指す学生にとっても有益な講義のはずです。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	歴史の中の英語	英語を支えている歴史的・文化的な土台を探究する。英語は複雑な過去と背景をもった生き物のような言語であり、その発展と変化と多様性について考えてみる。	大石　和欣（放送大学准教授）	草光　俊雄（放送大学教授） 大石　和欣（放送大学准教授）
2	革命と進化	革命と進化という問題は歴史意識として重要である。本章では、エドマンド・バークの革命論やダーウィンの進化論などを読みながら、革命と進化の意味を探究する。	大石　和欣	草光　俊雄 大石　和欣
3	パックス・ブリタニカ	大英帝国は１７世紀から１９世紀にかけて全世界を股にかけ７つの海を支配した。財政軍事国家と呼ばれる国家構造の構築を経済史の視点を組み入れながら世界的視野で考える。	草光　俊雄 大石　和欣	草光　俊雄 大石　和欣
4	商業と工業	消費革命と技術革新は20世紀だけではなく18世紀にも起こっていたのだろうか？商工業や消費についていろいろな問題を取り上げてみる。それは現代のビジネスの場面にも重要な知識であろう。	草光　俊雄 大石　和欣	草光　俊雄 大石　和欣

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	都市と田園	近代英国は都市と田園という対比的環境を人為的に作り出した。現在でもその対比は国民生活意識において重要である。都市問題や西欧社会における田舎の歴史的・文化的・社会的意義を再考する。	大石　和欣	草光　俊雄 大石　和欣
6	慈善と福祉	世界に先駆けて福祉国家を築いたイギリスにおいては、現在でも慈善と福祉が重要な歴史的・文化的・社会的要素となっている。それは貧困問題などの社会問題とも不即離である。イギリスの慈善と福祉の実態を古今合わせて俯瞰しながら、その現代的意味を問う。	大石　和欣	草光　俊雄 大石　和欣
7	労働と社会	19世紀以降、労働の社会経済的比重は加速度的に高まっていく。一方、労働組合の創設や労働運動などはイギリスにおいて特有の社会主義を生み出していくことになる。労働に関する様々な問題を取り上げて考えてみる。	草光　俊雄 大石　和欣	草光　俊雄 大石　和欣
8	思想と哲学	経験主義が生まれたイギリスではさまざまな思想と哲学が展開した。経験主義とは何か、またその思想的系譜をスコットランドを中心とした啓蒙主義や道徳論に認めることができるか？そもそも英語でいう Philosophy とは何か？そうした問題を議論していく。	草光　俊雄 大石　和欣	草光　俊雄 大石　和欣
9	科学と技術	産業革命が起きた背景には科学技術への関心の高まりがあった。ベーコンやニュートンといった科学者からメアリー・シェリーの『フランケンシュタイン』までをとりあげながら、科学と技術の歴史的・文化的位置づけを確認する。	草光　俊雄 大石　和欣	草光　俊雄 大石　和欣
10	宗教と歴史	イギリスの歴史と文化の中で宗教はさまざまな対立をみた。ヘンリー８世の国教会設立からはじまった国教徒と非国教徒との対立は近代社会形成にとって不可避の過程であった。現代イギリス社会における宗教の意味まで追究する。	草光　俊雄 大石　和欣	草光　俊雄 大石　和欣
11	スポーツの母国	イギリスは近代スポーツの母国である。それだけにスポーツに関する語彙や表現は多い。競馬、狩猟、フットボール、ボート、テニス、クリケット等が生まれた歴史的・文化的背景とその意義を、現代の視点を含んで考える。	大石　和欣 リチャード・ビアード	草光　俊雄 大石　和欣

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	騎士と紳士	イギリスは紳士の国として有名であるが、一体「紳士」とは何者なのか？中世の騎士の時代からさまざまに変遷してきた紳士像を俯瞰することで、それぞれの時代の価値基準と人間観を明らかにし、近現代における紳士の意味を問う。	草光　俊雄 大石　和欣	草光　俊雄 大石　和欣
13	女性とフェミニズム	紳士と同様、いやそれ以上に女性像は時代ごとの歴史的また社会的制約を受けてきた。中世、近代において女性はどのような生活をしていたのか、女性は社会的にどう位置づけられていたのか？フェミニスト的な議論を紹介しながら、古今のイギリスの女性像を追う。	大石　和欣	草光　俊雄 大石　和欣
14	教育	イギリスの国家政策における教育の比重は高い。それだけに歴史的にも教育の問題は常に問題になってきた。本章では特に英語教育、現在施行されているナショナル・カリキュラムに焦点を当てて、イギリスにおける教育の歴史的･文化的意味を再考する。	大石　和欣	草光　俊雄 大石　和欣
15	戦争の悲哀	イギリスの歴史は戦争の歴史でもある。しかし、その裏には幾百万の人々の命が犠牲になってきたことも事実である。戦争に関する記述とそれへの民衆の反応、ウィルフレッド・オーウェンなどの戦争詩人の作品を読みながら、イギリス人の歴史的運命感、歴史意識を振り返って議論することで本講座の締めくくりとする。	草光　俊雄	草光　俊雄 大石　和欣

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	共通科目（外国語）	科目ｺｰﾄﾞ	1314416	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝ 英語総合Ｂ（‘０７）＝（Ｒ）
～Poem into Song～

〔主任講師（現職名）：草光　俊雄　　（放送大学教授）　〕
〔主任講師（現職名）：ティモシィ・ハリス（上野学園大学准教授）〕

講義概要

英語の勉強で大切なのは言葉を好きになることですが、そのための一つの方法は詩を声に出して読む、そしてできれば暗唱してみることです。その時に美しいメロディがあればより楽しいでしょう。放送授業では、詩を読む喜びを、詩の朗読を聞きその詩に書かれた音楽を聴くこと、さらにその詩によって喚起され連想を促された作曲家の心を想像すること、またその詩や歌が作られた時代の背景などを学ぶことなどを通して味わっていただきたいと思います。

授業の目標

何よりも英詩を楽しむことが第一の目標ですが、英詩をよりよく理解するために、詩のさまざまな形式、決まり事、押韻の法則なども勉強します。また放送授業では，歌手や演奏家をゲストに招いて，演奏の喜びや苦労についても話してもらうつもりです。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	A Round and a Dance	イギリスの詩を学ぶ上での基礎的な知識をまず講義する。また詩が音楽として新たな命をもって生まれ変わるときの読者の楽しみ方，演奏家の楽しい方などを紹介する。	草光　俊雄 ティモシィ・ハリス	草光　俊雄 ティモシィ・ハリス
2	Christianity: Carols and Hymns, Mediaeval to 17th century	古くから歌われてきた，宗教音楽の魅力を考える。詩と歌が宗教的な脈絡のなかでどのように密接な関係を持っているのか、またそれらが時代を経るにつれてどのように変遷してきたのかを考える。	同上	同上
3	The Classical Inheritance	ギリシャ、ローマの古典文学を題材にしたイギリス詩は多いが，それらのなかから主に１６，１７世紀の歌曲を味わう。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	Song in Shakespeare	シェイクスピアの詩や劇のために作曲された歌曲は多い。ハムレット，十二夜などのために作られた歌曲を検討する。	同上	同上 ゲスト： 松岡　和子 （翻訳家）
5	Love and Time	イギリス近世の作曲家のなかでも，最も人気のあるJohn Dowlandを始め、Campion、Herrickなどの歌曲を味わう。	同上	同上 ゲスト： 櫻井　茂 （上野学園大学准教授）
6	The Baroque	１７世紀の偉大な詩人たちのなかでJohn DrydenとJohn Miltonの名前は落とせない。彼らの詩にHenry PurcellやGeorg Frideric Handelが曲をつけたものを聴いてみよう。	同上	同上 ゲスト： 有村　祐輔 （上野学園大学教授）
7	Towards Romanticism and the Bourgeois Song	シェイクスピア、BenJonsonなどルネサンスの劇作家、詩人に惹き付けられたのは同時代の作曲家ばかりではなかった。Joseph Haydonなど１８世紀に活躍した作曲家たちの曲を味わおう。	同上	同上
8	Romanticism and the Beginnings of the English Musical Renaissance	ロマン主義の時代の詩人たちの詩を１９世紀後半から２０世紀はじめにかけての作曲家たちがどのような歌曲に作っていったのか、ロマン主義と音楽についても見ていく。	同上	同上 ゲスト： 伊木　和子 （上野学園大学教授）
9	Two Trees and a Carol	ロマン派から１９世紀後半の象徴主義的な詩人（Christina Rossettiなど）の詩人たちの歌曲を聴く。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
10	Home and Empire	１９世紀から２０世紀にかけて活躍した詩人、Thomas Hardy や Rudyard Kipling、WilliamButler Yeats などの詩をそれらの歌とともに考える。	同上	同上
11	The Housman Phenomenon	同じく１９世紀の後半から２０世紀にかけてイギリス人に最も愛された詩人の一人、A.E.Housman の「シュロップシャーの若者」がさまざまな作曲家によって作られたが，作曲家の読みと感性の違いを楽しもう。	同上	同上
12	The First World War	第一次世界大戦では多くの詩人が命を落とすか，心に大きな傷を負った。また Ivor Gurney のように詩人であり，また作曲家もであったものは珍しくなかった。彼らの詩や歌を読み，聴きながら，戦争が芸術に与えた意味を考える。	同上	同上
13	Towards the Modern	第一次大戦後、モダニズムの時代が到来する。モダニズムを準備したと考えられる１９世紀の Emily Dickinson や Gerald Manley Hopkins などの詩を２０世紀の作曲を通して味わう。	同上	同上 ゲスト： なかにしあかね （宮城学院女子大学准教授）
14	Forms of the Modern	モダニズムを経た２０世紀の詩人たちの詩と歌を通して現代を考える。	同上	同上 ゲスト： なかにしあかね （宮城学院女子大学准教授）
15	Popular Hits	最後の回ではポップスやミュージカルなどを楽しみながら詩を味わい，ジャンルは違っても歌曲の魅力について熱く語りたい。	同上	同上

＝　ドイツ語入門Ｉ（‘０６）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：鍛治　哲郎（東京大学大学院教授）〕
〔主任講師（現職名）：識名　章喜（慶應義塾大学教授）　〕

全体のねらい
ドイツ語の発音から始めて、動詞の現在形と命令形、名詞と冠詞、形容詞や前置詞など、文を構成する基本的な単位を学びながら、ドイツ語の文型の基礎を習得します。過去に関する時称はまだ出てきませんが、助動詞も学びますので、日常的な簡単な表現を理解でき、また平易な文を作ることもできるようになります。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	地名と挨拶 ～アルファベット～	アルファベットの書き方と読み方を学びます。ドイツ語では文字と発音との関係は難しくありません。原則さえ覚えれば、他の外国語に比べて簡単です。母音の発音と文字との対応を学ぶことが、この回の二つ目のポイントです。	鍛治哲郎（東京大学教授）	鍛治哲郎（東京大学教授）
2	値段と時刻 ～発音～	子音と文字の対応を学びます。子音は数がたくさんあります。今回はドイツ語独特の発音をするものを中心に学びます。発音練習には日常的によく用いられる単語や表現、数字を用います。	同上	同上
3	自己紹介 ～動詞の現在人称変化（１）～	動詞は主語によって変化します。主語の違いによって生じる変化の基本的なパターンを、主語となる人称代名詞の種類と合わせて学びます。さらにドイツ語の基本的な語順についても説明します。	同上	同上
4	休日のミュラーさん ～名詞と冠詞～	今回は名詞と冠詞がテーマです。ドイツ語の名詞には、文法的な性があり、男性か女性か中性に分類されます。また名詞には格があり、格とは文のなかでの役割のことです。性や格は、おもに定冠詞や不定冠詞によって表示されます。	同上	同上
5	喫茶店で ～sein と haben～	もっともよく用いられる動詞seinとhabenの現在人称変化と用法について学びます。この二つの動詞を学ぶことによって、表現の幅が大きく広がります。また、もう一つの重要な動詞 werden の変化と用法についても説明します。	同上	同上
6	居間で ～名詞の複数形～	名詞の複数形の作り方を学びます。複数形になると性の区別はなくなりますが、格は存在します。そのほかに、よく用いられる不規則な変化をする名詞と、動詞と格との結びつきについても解説します。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
7	路上で ～冠詞類～	冠詞と同じように名詞の前に置かれ、性と数、格によって変化する冠詞類について学びます。冠詞類には定冠詞と同じような変化をするものと、不定冠詞と同じような変化をするものがあります。この回は冠詞の変化の復習でもあります。	同上	同上
8	来客 ～動詞の現在人称変化（2）～	動詞の現在人称変化の基本的なパターンはすでに学びましたが、今回は少し不規則な変化をする動詞について学びます。	同上	同上
9	誕生日 ～人称代名詞～	ドイツ語の代名詞は名詞と同じように格によって変化します。この回では、人称代名詞、疑問代名詞に加えて、不定代名詞 man の変化と用法について学びます。	識名章喜（慶應義塾大学教授）	識名章喜（慶應義塾大学教授）
10	オペラ鑑賞 ～前置詞～	ドイツ語の前置詞は、それぞれ名詞や代名詞の何格と結びつくかが決まっています。これを前置詞の格支配といいます。この回では主な前置詞の用法と格支配について学びます。	同上	同上
11	待ち合わせ ～命令・依頼の表現～	命令形の作り方を学びます。命令や依頼は２人称で呼びかける相手に対してなされますが、それ以外にも、この回では自分を含めた１人称複数に対する「...しましょう」という促しの表現についても学びます。	同上	同上
12	駅にて ～分離動詞とドイツ語の語順～	ドイツ語では文末には、その文の動詞と結びつきが強い語が置かれます。分離動詞とは、不定詞の前の部分が分離して文末に来る動詞のことです。この回ではドイツ語文の語順の原則である枠構造についても説明します。	同上	同上
13	日本語は難しい？ ～語法の助動詞～	話法の助動詞とは、英語での can や will などに相当する言葉で、日常会話では潤滑油の働きをします。この回では話法の助動詞の現在人称変化と用法を学びます。また確実な未来や推量をあらわす助動詞 werden についても解説します。	同上	同上
14	ひらがなと漢字 ～従属の接続詞～	ドイツ語の接続詞は、文と文とのつなぎ方の違いによって、並列接続詞、従属接続詞、副詞的接続詞の３種類に分類されます。この回では、文の二つの種類、主文と副文について学び、副文を導く従属の接続詞の使い方を練習します。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
15	ゆかたと漫画 ～形容詞の語尾変化～	形容詞には述語的、付加語的、副詞的の３通りの用法があります。付加語的、つまり名詞を修飾して用いられる場合には性と数、格によって語尾を付けねばなりません。その語尾の付け方を学びます。	同上	同上

＝　ドイツ語入門Ⅱ（‘０６）＝　（Ｒ）

〔主任講師（現職名）：鍛治　哲郎（東京大学大学院教授）〕
〔主任講師（現職名）：識名　章喜（慶應義塾大学教授）　〕

全体のねらい

ドイツ語入門Ⅰの後を受けて、過去時称から始めます。過去形や完了形に続いて、受動文や関係文など、少し複雑な表現形態を学びますが、重要な事項に絞って解説します。
ドイツ語入門Ⅰと合わせて、ドイツ語の基本的な文法と表現パターンを習得することがねらいです。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	動詞の３基本形	現在人称変化については、ドイツ語入門Ⅰで説明しました。この回では過去と完了を表す文をつくる際のもとになる過去の基本形と過去分詞の作り方について学びます。	識名　章喜（慶應義塾大学教授）	識名　章喜（慶應義塾大学教授）
2	現在完了	完了形は sein または haben を助動詞とし、文末に過去分詞をおいてつくられます。その作り方を学ぶとともに、日常会話で頻繁に用いられる現在完了の用法についても説明します。	同上	同上
3	過去形	過去の人称変化を学びます。この変化は現在人称変化をしっかり覚えていれば難しくありません。また、過去形がどのような場合に用いられるかについても説明します。	同上	同上
4	現在分詞と過去分詞	過去分詞の作り方については第１回で学びました、この回では現在分詞の作り方と、二つの分詞の用法について解説します。	同上	同上
5	形容詞の名詞化	形容詞の変化についてはドイツ語入門Ⅰで学びました。形容詞は名詞としても用いられます。この回では形容詞の復習をかねて、名詞化を学びます。また現在分詞と過去分詞も形容詞と同じように名詞化されます。	同上	同上
6	形容詞と副詞の比較級・最高級	形容詞と副詞の比較級・最高級の作り方と用法を学びます。	同上	同上
7	再帰代名詞と再帰動詞	文の主語と同一であることを示す３・４格の代名詞を再帰代名詞といいますが、この回では再帰代名詞とともに用いられる再帰動詞についても学びます。	同上	同上
8	非人称の es	特定のものを受けない非人称の es を主語とする文は日常的にも頻繁に用いられます。この回ではさまざまな非人称表現について学びます。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
9	zu 不定詞の用法	不定詞が用いられる例としては、ドイツ語入門Ⅰ「話法の助動詞」の回で学びましたが、ここではおもに zu 不定詞の用法について学びます。	鍛治　哲郎（東京大学教授）	鍛治　哲郎（東京大学教授）
10	受動文	受動文は助動詞と過去分詞でつくられます。助動詞は werden か sein です。受動文の作り方、二つの助動詞の使い分け、能動文との違いについて説明します。	同上	同上
11	関係代名詞	関係代名詞は代名詞の一種ですので、性と数、格があります。その変化と関係文の作り方を学びます。	同上	同上
12	語順と構文	ドイツ語の基本的な文型が出そろいましたので、その復習をします。文中での動詞の位置、主文と副文などのほかに、今まで習ったよりも少し詳しい説明をします。	同上	同上
13	副詞と話法	話法とは、話し手や書き手が、話したり書いたりする内容に対して加える判断や考えです。話法の助動詞とはそのような意味合いを添える助動詞です。同じような役割を果たす言葉に、副詞類があります。この回は副詞類につていて学びます。	同上	同上
14	接続法（1）	接続法とは話法の一種です。用法によって接続法Ⅰ式とⅡ式に分かれます。今回は、おもに非現実のことを表す接続法Ⅱ式について学びます。	同上	同上
15	接続法（2）	今回は、間接話法や要求話法に用いられる接続法Ⅰ式についての説明をします。	同上	同上

＝　ドイツ語基礎（‘０６）＝（Ｒ）

〔主任講師（現職名）：　保坂　一夫　（日本大学教授）〕

全体のねらい

言語表現は文化そのものです。「ドイツ語基礎」はその観点に立って、単純な構造の文章から複雑なものへ、表現の仕方をたどりながら、段階的に徐々に高度な文章を理解するように組み立ててゆきます。採用する教材は、ドイツ文化の紹介をするもので、同時に、あまり難しくないものを選ぶ予定です。

ここでは、ドイツ語と日本語を比較しながら、言語の背後にひそむ文化の共通性と差異性について一般的に考え、それを通じて全体の導入とします。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	単純な文章（1）	ここでは単純な文章について基本的な考え方を学びます。ドイツ語では英語とも日本語とも異なって語順はかなり自由です。語順や構文の基準は動詞の位置ですが、平叙文を中心にしてそれを練習します。過去形はすでに学んでいますので説明の前提にします。	保坂　一夫（日本大学教授）	保坂　一夫（日本大学教授）
2	単純な文章（2）	ここでは前課の復習をしながら、疑問文や否定文における語順について学びます。特に否定の仕方の多様性についていくつか例を挙げて練習します。	同　上	同　上
3	名詞、代名詞と語順	ここではさらに一歩進んで、補足語を持つ動詞の使い方と、そうした動詞を用いて書く文章の語順について学びます。その際特に注意すべき点として補足語が名詞の場合と、代名詞の場合とを比較して練習します。	同　上	同　上
4	感嘆文と命令文	ここでは感嘆文と命令文の作り方を復習しながら感情表現について詳しく勉強し、あわせて動詞の現在形のさまざまな例外的変化についても詳しく学び直すことにします。	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	表現のニューアンス（1）	表現を複雑かつ多様にするのは助動詞です。ここでは話法の助動詞の中から„wollen“ と „sollen“を取り上げて、その意味と方向の違いについて学び、練習します。さらにそのときに生じる語順の変化についても詳しく考えます。	同　上	同　上
6	表現のニューアンス（2）	ここでは残りの話法の助動詞 „dürfen“, „können“, „mögen“, „müssen“ を取り上げ、それらの持つ意味の違いと守備範囲について学び、練習します。	同　上	同　上
7	枠構造と分離動詞	分離動詞はドイツ語が好きになるか嫌いになるかの分岐点です。それだけに、ドイツ語の構文や語順を考えるときに分離動詞を素材にして勉強するとかえって分かりやすいように思われます。ここでは、その点について学び、練習します。	同　上	同　上
8	非分離動詞と前つづり	ここでは分離動詞と比較しながら非分離動詞について勉強します。非分離動詞そのものにつてはすでに学んでいますから、この課の重点は、ここで使われる前つづりの意味と機能について理解を深めることに置かれます。	同　上	同　上
9	完了形の用法と意味	ドイツ語の完了形は英語とは違い過去の表現に用います。では過去形と完了形とはどこが違うのでしょうか。ここではそれについて、語形と構文と語順を中心に、さらに詳しく学びます。	同　上	同　上
10	複雑な文章（1）接続詞と配語法	表現を拡げるためには、単純な文章だけでは足りません。そこで接続詞を使ってより複雑に考えを表現することになります。ここでは、並列の接続詞と副詞の接続詞的用法を材料に、語順、構文の観点から詳細に勉強します。	同　上	同　上
11	複雑な文章（2）関係代名詞と関係副詞	ここではさらに関係代名詞、関係副詞を含めて従属の接続詞の使い方からさらに語順、構文の理解を拡げ、深めます。	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	能動態と受動態	文章表現には能動態と受動態がありますが、それらはどう使い分けられているのでしょうか。ここでは、それらの表現のヴァリエイションを紹介しながら、表現方法の使い分けについて学びます。	同上	同上
13	いろいろな動詞と不定詞	ドイツ語にはさらに再帰動詞、非人称動詞、不定詞などを用いてより表現を豊かにする途があります。ここでは、そのさまざまな表現とその異同についてもう少し詳しく学ぶことにします。	同上	同上
14	接続法第Ⅰ式の表現のいろいろ	接続法は表現をさらに豊かにするものです。ここでは第Ⅰ式の文章例を取り上げて、その可能性について学びます。願望や要求の表現だけでなく、間接話法についてもいろいろな例を取り上げて練習します。	同上	同上
15	接続法第Ⅱ式の表現のいろいろ	ここでは前課につづいて接続法第Ⅱ式の用例とその意味について学びます。含みの多い表現は理解しにくいものですが、逆に言うと、それがあって人間関係が潤滑に進むことになるわけです。その点を中心に接続法について考えて見ます。	同上	同上

＝　フランス語入門Ｉ（‘０６）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：　鈴木　啓二　（東京大学教授）　〕
〔主任講師（現職名）：　原　和之　（東京大学准教授）　〕
〔主任講師（現職名）：　オディル・デュシュッド（早稲田大学准教授）〕

全体のねらい

毎回３分ほどのスケッチ、「セバスチアン、フィリップ、アリスとその仲間たち」（３人の子供たちが繰り広げる物語）を見ながら、そこで用いられている表現を中心にフランス語の基礎を学習する。文法はフランス語入門Ｉ、入門ＩＩ全体で一通り完結させる。

スケッチは各回３度、はじめに日本語字幕付き、次にフランス語字幕付き、最後に字幕のついていないものを流す。反復練習や文法の解説、イラストを使った会話表現の学習、練習問題などを通じて、45分の授業の中で、少しずつフランス語の理解を深めていけるように工夫してある。

また授業の途中に、「Ma ville, mon quartier」（わが町、わが界隈）というコーナーを設けてある。パリ、ディエップ、ストラスブールなどのフランス６都市を一住民の視点から紹介するこのコーナーの目的は、フランス語の学習を通じて、より広くフランス文化全般に親しんでもらうことにある。毎回、それぞれの町に関係の深いテクストの朗読も行なう。

なお文法に関しては、放送授業では要点を絞りこんで説明しているため、必ず印刷教材を参照し、放送授業で学習した内容をより確実なものにしておいていただきたい。また印刷教材にはスケッチの全訳も掲載されているので、これも適宜利用していただきたい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	Colonie de vacances 林間学校	文法：様々なあいさつの表現（Bonjour, au revoir, merci, etc.）、alphabet、発音の基礎 「わが町わが界隈」：パリ、１回目 今日の会話表現："Pardon, je peux? "	鈴木啓二（東京大学教授） オディル・デュシュッド（早稲田大学准教授）	鈴木啓二（東京大学教授） オディル・デュシュッド（早稲田大学准教授）
2	Devinettes 言葉あてクイズ	文法：名詞の性、不定冠詞、定冠詞 「わが町わが界隈」：パリ、２回目 今日の会話表現："Attention!"	同上	同上
3	Balade à vélo 自転車での遠出	文法：動詞 être, avoir の活用、形容詞の性数変化 「わが町わが界隈」：パリ、３回目 今日の会話表現："Ça y est!"	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	Rodin ou Redon? ロダンかルドンか	文法：第一群規則動詞の活用(dessiner, donner, aimer など)、否定文の作り方 「わが町わが界隈」：ディエップ、1回目 今日の会話表現："On peut peut-être ...?"	同上	同上
5	Une recette très originale とてもユニークなレシピ	文法：部分冠詞、否定文中の不定冠詞・部分冠詞、第二群規則動詞の活用（finir, choisir など）、数字 「わが町わが界隈」：ディエップ、2回目 今日の会話表現："Ne t'en fais pas. ""Ne vous en faites pas."	同上	同上
6	Qui perd gagne! 負けるが勝ち	文法：動詞 aller, venir の活用, 近接未来、近接過去 「わが町わが界隈」：ディエップ、3回目 今日の会話表現："Ça te dit?""Ça ne te dit pas?"etc.	同上	同上
7	Départ groupé みな一緒の出発	文法：動詞 pouvoir, vouloir, partir, sortir の活用、付加形容詞の用法 「わが町わが界隈」：ストラスブール、1回目 今日の会話表現："Alors? — Ça va!" etc.	同上	同上
8	Retrouvailles inattendues 思いがけない再会	文法：疑問文の作り方、疑問副詞（où, quand, pourquoi, comment など）の使い方 「わが町わが界隈」：ストラスブール、2回目 今日の会話表現："Allons-y." etc.	原和之（東京大学准教授） オディル・デュシュッド（早稲田大学准教授）	原和之（東京大学准教授） オディル・デュシュッド（早稲田大学准教授）
9	Nostalgie ノスタルジー	文法：さまざまな動詞（faire, savoir, connaître, mettre, attendre, prendre, devoir）の活用と用法 「わが町わが界隈」：ストラスブール、3回目 今日の会話表現："C'est délicieux. — Tu trouves?" etc.	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
10	Objet perdu 忘れ物	文法：指示形容詞（ce, cette, ces など）、所有形容詞（mon, ma, mes など） 「わが町わが界隈」： リヨン、第１回目 今日の会話表現："Ce n'est pas vrai!" etc.	同上	同上
11	Souvenir de vacances ヴァカンスの想い出	文法：疑問代名詞（qui, qui est-ce qui, qu'est-ce qui, qu'est-ce que など）の使い方 「わが町わが界隈」： リヨン、第２回目 今日の会話表現："Eh bien dites donc!" etc.	同上	同上
12	Quels enfants ! なんて子供たちでしょう	文法：疑問形容詞 quel 、非人称の主語 il の使い方、時間の表し方 「わが町わが界隈」： リヨン、第３回目 今日の会話表現："Quelle merveille! " etc.	同上	同上
13	Visite au jardin botanique 植物園見学	文法：関係代名詞 qui, que 関係副詞 où の使い方 「わが町わが界隈」： エクス・アン・プロヴァンス、マルセイユ、第１回目 今日の会話表現："Qu'est-ce que c'est fatigant!" etc.	同上	同上
14	Un match de football サッカーの試合	文法：形容詞・副詞の比較級・最上級 「わが町わが界隈」： エクス・アン・プロヴァンス、マルセイユ、第２回目 今日の会話表現："Ça va aller, tu vas voir – J'espère." etc.	同上	同上
15	Restons calmes ! 落ち着こう	文法：動詞の肯定命令形・否定命令形、代名詞の強勢形、強調構文 「わが町わが界隈」： エクス・アン・プロヴァンス、マルセイユ、第３回目 今日の会話表現："Ils ont une de ces chances!" etc.	同上	同上

＝　フランス語入門II（‘０６）＝（Ｒ）

〔主任講師（現職名）：　工藤　庸子（放送大学教授）　〕
〔主任講師（現職名）：　原　　和之（東京大学准教授）　〕
〔主任講師（現職名）：　山上　浩嗣（関西学院大学准教授）〕

全体のねらい

パリのアパルトマンで共同生活を営む、さまざまな背景を持った４人の若者たち（アニェス、ブノワ、イザベラ、ジャン=リュック）を主人公にした会話のスケッチを題材として、フランス語入門Ｉに引き続き、フランス語の基礎を学ぶ。文法はフランス語入門Ｉ、IIの全体でその主要な部分を完結させる。さらに文法的な知識を踏まえつつ、スケッチの登場人物の会話を解説することで、実践的なフランス語運用能力の基礎となる知識を身につける。

また毎回、10 分ほどの「シャンソン」コーナーを設け、よく知られたフランス語の歌を取り上げて歌詞を詳しく解説し、その正確な理解を助けると共に、フランス語の「音」に親しむことを目指す。

スケッチ、例文については、印刷教材に全訳が掲載されているので、これを適宜利用していただきたい。また放送教材、印刷教材の学習にあたって、つねに辞書を手元においてこれを参照することは必要不可欠なので、必ず準備すること。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	Déménagement 引っ越し	文法：直説法複合過去 シャンソン：*Bonjour, madame Lundi*［『こんにちは、月曜婦人』］、*Bonjour, ma cousine*［『こんにちは、いとこさん』］	山上浩嗣（関西学院大学准教授）	山上浩嗣（関西学院大学准教授） 工藤庸子（放送大学教授）
2	Recherche d'un emploi 職さがし	文法：直説法半過去・大過去 シャンソン：*Meunier, tu dors*［『お眠りなさい、粉ひきさん』］	同上	同上
3	Reportage ルポルタージュ	文法：受動態 シャンソン：Juliette Greco, *Je suis seule ce soir*(1)［ジュリエット・グレコ、『今宵私はただひとり』(1)］	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	Fête パーティ	文法：現在分詞、ジェロンディフ シャンソン：Juliette Greco, *Je suis seule ce soir* (2) [ジュリエット・グレコ、『今宵私はただひとり』(2)]	同上	同上
5	Clients ennuyeux 迷惑な客	文法：指示代名詞、疑問代名詞 シャンソン：Henri Salvador, *Chambre avec vue* (1) [アンリ・サルヴァドール、『眺めのよい部屋』(1)]	同上	同上
6	Rencontre 出会い	文法：人称代名詞 I (直接目的、間接目的) シャンソン：Henri Salvador, *Chambre avec vue* (2) [アンリ・サルヴァドール、『眺めのよい部屋』(2)]	同上	同上
7	Des amis japonais 日本の友人	文法：人称代名詞 II (強勢形、命令文中の代名詞) シャンソン：*Au clair de la lune* (1) [『月明かりのもとで』(1)]	同上	同上
8	Un dimanche matin 日曜日の朝	文法：代名動詞 シャンソン：*Au clair de la lune* (2) [『月明かりのもとで』(2)]	同上	同上
9	Dans le métro 地下鉄で	文法：関係代名詞 dont、前置詞+関係代名詞 (lequel, laquelle, lesquels, lesquelles) の使い方 シャンソン： Lucienne Boyer：*Parlez-moi d'amour* (1) [リュシエンヌ・ボワイエ『聞かせてよ愛の言葉を』(1)]	原 和之(東京大学准教授)	原 和之(東京大学准教授) 工藤 庸子(放送大学教授)
10	Un jour de congé お休みの日	文法：直説法単純未来、前未来の活用と用法 シャンソン：Lucienne Boyer：*Parlez-moi d'amour* (2) [リュシエンヌ・ボワイエ『聞かせてよ愛の言葉を』(1)]	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
11	Courses 買い物	文法：代名詞 y, en, le、所有代名詞(le mien, la mienne)の使い方 シャンソン：Sylvie Vartan：*La plus belle pour aller danser* (1) [シルヴィー・ヴァルタン『アイドルを探せ』（1）]	同上	同上
12	Cadeaux de Noël クリスマスの贈り物	文法：使役動詞 faire、放任動詞 laisser、知覚動詞 voir, entendre などの使い方 シャンソン：Sylvie Vartan：*La plus belle pour aller danser* (2) [シルヴィー・ヴァルタン『アイドルを探せ』（2）]	同上	同上
13	Débat public 公開討論会	文法：条件法現在・条件法過去の活用と用法 シャンソン：Jacques Brel：*Les bonbons* [ジャック・ブレル『ボンボン』]	同上	同上
14	Un dossier oublié 書類の忘れ物	文法：接続法現在の活用と用法 シャンソン：Yves Montant：*Les feuilles mortes* (1) [イヴ・モンタン『枯葉』（1）]	同上	同上
15	Amitié 友情	文法：直接話法・間接話法の使い方 シャンソン：Yves Montant：*Les feuilles mortes* (2) [イヴ・モンタン『枯葉』（2）]	同上	同上

＝　フランス語基礎（‘０６）＝（Ｒ）

〔主任講師：工藤　庸子（放送大学教授）　〕
〔主任講師：エストレリータ・ヴァセルマン（東京大学外国人教師）〕

全体のねらい

文法中心の体系的な語学プログラムではなく、文化的なテーマによって導かれたモティヴェーション教育である。①書き下ろしのフランス語テクストや文学作品の講読＋文法解説＋表現練習＋簡単なフランス語会話　②日仏の交流の接点で活躍する方々のインタビュー・コーナー　③シャンソン・コーナーの３つの枠組みで展開される。放送授業ではメディアの特質を活かし、生きた言葉、多彩なフランス語の音声に触れる機会を可能なかぎり提供する。履修者は印刷教材のほかに、辞書を手元におき、常時参照すること。

「フランス語をスキルとして習得すること」「フランス語を通して異文化を学ぶこと」――２つの課題が共存し、また連動することで、学習者の意欲が高まることを願っている。想定される履修者は「フランス語入門Ⅱ」いわゆる「初級文法」を終えたレベルだが、かつてフランス語を学んだ方のリフレッシュや中級レベルの発展的な教材としても活用できるように工夫した。具体的な活用方法や、単位取得のための最小限の条件などは印刷教材に明示する。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	食と文化Ⅰ	テクスト：*L'aventure d'un chef cuisinier français au Japon*「あるフランス人オーナーシェフの物語」―南仏出身のシェフと日本との幸福な出会い。 インタビュー：フランス料理オーナーシェフ André Pachon Ⅰ シャンソン：Henri Salvador: *Jardin d'hiver Ⅰ*	工藤　庸子（放送大学教授） Ｅ・ヴァセルマン（東京大学外国人教師）	工藤　庸子（放送大学教授） Ｅ・ヴァセルマン（東京大学外国人教師）
2	食と文化Ⅱ	テクスト：« *Dessine-moi un mouton !* »「羊の絵を描いて！」―文化としての食を考える。 インタビュー：André Pachon Ⅱ シャンソン：Henri Salvador: *Jardin d'hiver Ⅱ*	同上	同上
3	市民社会Ⅰ	テクスト：*Médecins sans frontières (MSF)*「国境なき医師団」―ノーベル平和賞を受賞したＮＧＯの成り立ちと活動について。 インタビュー：国境なき医師団日本　前会長　寺田朗子 シャンソン：Carla Bruni：*Le Ciel dans une chambre*	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	市民社会Ⅱ	テクスト：*Guérande, « pays de l'or blanc »*「白い黄金の国ゲランド」―伝統的な製塩技術の復興と環境問題、地場産業の振興など。 現地ルポルタージュ：美術家・フリーライター　コリン・コバヤシ シャンソン：Jacques Brel：*Madeleine　I*	工藤　庸子（放送大学教授） E・ヴァセルマン（東京大学外国人教師）	工藤　庸子（放送大学教授） E・ヴァセルマン（東京大学外国人教師）
5	市民社会Ⅲ	テクスト：*Associations et vie associative en France*「フランスのアソシアシオンとその活動」―ＮＰＯに相当する多様な市民運動の歴史と現状。 現地ルポルタージュ：コリン・コバヤシⅡ シャンソン：Jacques Brel：*Madeleine　II*	同上	同上
6	童話を読むⅠ	テクスト：Pierre Gripari: *La sorcière de la rue Mouffetard　I*『ムフタール通りの魔女』―舞台はパリの市場、魔女にさらわれたベルベル人の少女を利発な弟が救出する物語。朗読は著者グリパリ。 インタビュー：ギタリスト　クロード・チアリⅠ シャンソン：Mistinguett/ Maurice Chevalier：*Ça, c'est Paris*	同上	同上
7	童話を読むⅡ	テクスト：*La sorcière de la rue Mouffetard　II* インタビュー：クロード・チアリⅡ シャンソン：Barbara, Moustaki：*La Dame brune　I*	同上	同上
8	童話を読むⅢ	テクスト：*La sorcière de la rue Mouffetard　III* （３回で童話を読了し、グリパリの朗読で全体を聴き直す。この回はインタビューなし） シャンソン：Barbara, Moustaki：*La Dame brune　II*	同上	同上
9	企業と女性とサイエンスⅠ	テクスト：*Le sexe des sciences*「科学には性差があるか」―女性科学者の進出を援助する UNESCO と企業の協同企画。 インタビュー：日本ロレアル　副社長　坪田秀子Ⅰ シャンソン：Camille：*Le sac des filles*	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
10	企業と女性とサイエンスII	テクスト：« *Le nez de Cléopâtre* » 「クレオパトラの鼻」—ルーブル美術館と企業の共同研究により甦った古代エジプトの香水と化粧品。 インタビュー：坪田秀子II シャンソン：Têté：*Flou*	工藤 庸子（放送大学教授） E・ヴァセルマン（東京大学外国人教師）	工藤 庸子（放送大学教授） E・ヴァセルマン（東京大学外国人教師）
11	旅と空間のデザインI	テクスト：*Le jardin du château de Vaux-le-Vicomte* 「ヴォー＝ル＝ヴィコント城の庭園」—ヴェルサイユをしのぐ名園の紹介。希少な水と広大な土地を劇的に演出する空間デザイン。 インタビュー：ランドスケープ・デザイナー 田中喜一I シャンソン：Georges Bizet, *Habanera [Carmen] I*	同上	同上
12	旅と空間のデザインII	テクスト：*La villa impériale Shûgakuin* 「修学院」—同時代の造園技術と日仏のコンセプトの相違。ゆたかな水を利用した「借景」の技法。 インタビュー：田中喜一II シャンソン：Georges Bizet, *Habanera [Carmen] II*	同上	同上
13	芸術作品に親しむI	テクスト：Camus, *L'Étranger I* 『異邦人』—平明な冒頭部分の読解。批評にも言及し文学テクストとは何かを考える。朗読はカミュ。 インタビュー：作曲家・ピアニスト 野平一郎I シャンソン：Jacques Dutronc：*Il est cinq heures, Paris s'éveille I*	同上	同上
14	芸術作品に親しむII	テクスト：*L'Étranger II*—「太陽のせい」で主人公が殺人の罪を犯す場面、そのクライマックスを読む。 インタビュー：野平一郎II シャンソン：Jacques Dutronc：*Il est cinq heures, Paris s'éveille II*	同上	同上
15	芸術作品に親しむIII	テクスト：*L'Étranger III*—獄中の主人公が反芻する「チェコスロヴァキア人の物語」を紹介。（3回分のカミュの朗読を聴き直す。インタビューなし） シャンソン：Salif Keita：*Je suis venu te dire que je m'en vais*	同上	同上

＝　中国語入門Ⅰ（‘０５）　＝（TV）

〔主任講師：　木村　英樹（東京大学大学院教授）〕
〔主任講師：　宮本　　徹（放送大学准教授）〕

全体のねらい

平易な会話文を読みながら、中国語の発音と最も基本的な文法項目を学習する。文法項目が単なる項目の羅列に終わらないよう、折に触れて復習を行い、体系的に把握できるように努めたい。

なお、この「入門Ⅰ」では、初修中国語で身につけるべき内容のおおよそ半分を学習したことになる。本科目を学習し終えた皆さんには、ぜひとも引き続き「中国語入門Ⅱ」を学習していただきたい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	「オーバーコートを買いますか？」	1.1　“普通話” 1.2　ピンインと声調記号 1.3　簡体字 1.4　声調（*tone*） 1.5　第３声の変調 1.6　単母音 1.7　人称代名詞(1)――単数 1.8　動詞述語文 1.9　否定の副詞“不” 1.10　疑問文(1) ――語気助詞を用いる当否疑問文	木村　英樹（東京大学大学院教授） 宮本　徹（放送大学准教授） 張　麗群（日本大学専任講師）	宮本　徹（放送大学准教授）
2	「革靴は一階にありますか？」	2.1　二重母音 2.2　軽声の発音 2.3　疑問文(2)――“呢”を用いる省略疑問文 2.4　副詞“也” 2.5　“不”の変調 2.6　所在動詞“在” 2.7　疑問文(3)――正反疑問文 2.8　数詞(1)――1から10まで	同　上	同　上
3	「スカーフは高いでしょ？」	3.1　三重母音 3.2　子音(1) 3.3　存在動詞“有” 3.4　形容詞述語文 3.5　語気助詞“吧”(1)――推量・確認を表す“吧” 3.6　数量詞からなる名詞句 3.7　“一”yiの変調	同　上	同　上
4	「これは何ですか？」	4.1　子音(2) 4.2　人称代名詞(2)――複数 4.3　指示詞(1)――場所を指し示す指示詞 4.4　“是”を用いる動詞述語文 4.5　指示詞(2) ――人や事物を指す指示詞 4.6　“的”を用いる名詞句(1)――「動詞＋“的”＋名詞」 4.7　疑問文(4)――疑問詞疑問文	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	「夕方六時半でどうですか？」	5.1 鼻音を伴う母音 5.2 “的”を用いる名詞句(2)——「名詞／代名詞＋“的”＋名詞」 5.3 受給者・受益者を表す前置詞 5.4 語気助詞“吧”(2)——勧誘・提案を表す“吧” 5.5 語気助詞“哇”⇒語気助詞“啊” 5.6 語気助詞“啊 a”——増幅機能を果たす“啊” 5.7 疑問数詞“几” 5.8 前置詞“在”	木村 英樹 宮本 徹 張 麗群	宮本 徹
6	「彼は本を返しに図書館へ行きました」	6.1 新事態の出現を表す“了” 6.2 連動文 6.3 “一会儿” 6.4 “的”構文 6.5 副詞“就”(1)	同上	同上
7	「本は返しましたか？」	7.1 主題化構文 7.2 完了を表す“了” 7.3 数詞「2」 7.4 疑問文(5)——選択疑問文 7.5 名詞連接による名詞句(1)——「種類/属性＋人/事物」 7.6 結果補語 7.7 禁止を表す副詞“别” 7.8 能願動詞“想”	同上	同上
8	「今日は土曜日です」	8.1 名詞連接による名詞句(2)——「人/事物＋空間」 8.2 指示詞からなる名詞句——「指示詞＋数詞＋量詞＋名詞」 8.3 経験を表す動詞接尾辞“-guo” 8.4 副詞“很” 8.5 名詞述語文 8.6 “～するとき；～したとき” 8.7 動作量と回数の表現 8.8 動作の方式を問う疑問副詞	同上	同上
9	「味はどうですか？」	9.1 指示詞(3)——程度・度合いを指す指示詞 9.2 前置詞“比” 9.3 比較差の強調する“～多了” 9.4 “又～又…” 9.5 疑問詞“多少” 9.6 単価(価格)の表現 9.7 数詞 (2) —— 11 以上の数字	同上	木村 英樹（東京大学大学院教授）
10	「作るのはあまり得意ではありません」	10.1 経過時間の表現 10.2 概数を表す“～多” 10.3 “的”を用いる名詞句 (3) ——「形容詞＋“的”＋名詞」 10.4 語気助詞“呢” 10.5 “～じゃないか；～ではないですか” 10.6 譲歩的認定を表す“～是～” 10.7 様態補語 ——「動詞＋“得”＋形容詞(句)」 10.8 能願動詞“会” 10.9 未知・不明の事物を問う疑問名詞	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
11	「私は田中と申します」	11.1 積極性を表す“来” 11.2 動作の起点を表す前置詞 11.3 姓名の尋ね方、名乗り方 11.4 接続詞“和” 11.5 時間詞 11.6 方位詞 11.7 動詞の重ね型	木村 英樹 宮本 徹 張 麗群	木村 英樹
12	「東京は上海ほど蒸し暑くありません」	12.1 副詞“挺” 12.2 “没有”を用いる比較表現 12.3 感情等が向かう対象を表す前置詞 12.4 能願動詞“可以” 12.5 二重目的語構文 12.6 語気助詞“嘛”	同 上	同 上
13	「もうすぐ 1 時だよ」	13.1 近接未来“了” 13.2 能願動詞“得” 13.3 副詞“再” 13.4 副詞“就”(2) 13.5 持続を表す“着”	同 上	同 上
14	「今後何かあれば遠慮なく言ってください」	14.1 “有”を用いる連動文 14.2 疑問詞の不定称用法 14.3 副詞“太” 14.4 兼語文 14.5 「なにをする？；どうする？」という意味を表す疑問動詞	同 上	同 上
15	「どうしてちっとも聞いたことがないんだろう！」	15.1 能願動詞“能” 15.2 “把”構文 15.3 “的”を用いる名詞句（4）——「名詞/代名詞/動詞/形容詞＋“的”」 15.4 事物や情報の受け手を表す結果補語 15.5 前置詞“跟” 15.6 代名詞からなる名詞句——「代名詞＋親族名称/所属先」 15.7 理由・原因を問う疑問副詞 15.8 “一点儿＋都” 15.9 否定の副詞“没(有)”	同 上	同 上

＝　中国語入門Ⅱ（‘０５）　＝（Ｒ）

〔主任講師：　木村　英樹（東京大学大学院教授）〕
〔主任講師：　宮本　　徹（放送大学准教授）〕

全体のねらい

「中国語入門Ⅰ」に引き続き、文法項目・語彙・表現の更なる習得を目指す。初修中国語として学ぶべき内容は、「入門Ⅱ」まで学ぶことによって初めて完結する。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	「準備はできましたか？」	1.1　結果補語の“好” 1.2　副詞“都” 1.3　結果補語の“在” 1.4　語気助詞の融合	木村　英樹（東京大学大学院教授） 宮本　徹（放送大学准教授）	木村　英樹（東京大学大学院教授）
2	「もう時間になりました！」	2.1　“别～了” 2.2　仮定を表す接続詞“如果” 2.3　能願動詞“会” 2.4　前置詞“到” 2.5　強意断定の“是” 2.6　様態・性質・内容等を指し示す指示詞 2.7　疑問文に用いる“呢” 2.8　能願動詞“～すべきである”	同　上	同　上
3	「彼女は飛行機を乗り間違えないでしょうか？」	3.1　集合体を表す接尾辞“-men” 3.2　能願動詞“要”(1) 3.3　結果補語の“到”(1) 3.4　副詞“有点儿” 3.5　〈完了済み〉を表す動詞接尾辞“-guo” 3.6　僅差を示す“（一）点儿”	同　上	同　上
4	「私たちのところはすべて順調です」	4.1　程度強調の“了” 4.2　使役構文 4.3　方向動詞 4.4　切迫表現の“了”	同　上	同　上
5	「二三センチ伸びただけです」	5.1　二重主語文 5.2　副詞“只” 5.3　副詞“可” 5.4　量詞の重ね型	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
6	「私たちはそれでもまだ幸せな方です」	6.1 方向補語 6.2 受身を表す接頭辞“被” 6.3 方向補語“下来”の派生用法 6.4 指示詞がつなぐ名詞句	木村 英樹 宮本 徹	木村 英樹
7	「どうしようもありません」	7.1 動作・行為の目的を表す前置詞 7.2 副詞“在” 7.3 存現文	同上	同上
8	「本当に懐かしくなります」	8.1 指示詞“每” 8.2 列挙に用いる“啦” 8.3 比喩・比況を表す“像～似的” 8.4 否定強調に用いる“再也” 8.5 可能／不可能を表す動詞句構造	同上	同上
9	「あなた方に良い知らせを持ってきました」	9.1 不定・匿名の“有人～” 9.2 副詞“都” 9.3 確認要求の“是不是” 9.4 原因を示す前置詞	同上	宮本 徹（放送大学准教授）
10	「これ以上嬉しいことはありません」	10.1 “一”の省略 10.2 方位詞“上”の派生用法 10.3 方向補語“出”の派生用法 10.4 方向補語“下去”の派生用法 10.5 疑問詞疑問文＋“好呢”	同上	同上
11	「数えてご覧なさい！」	11.1 状態詞“黄澄澄” 11.2 前置詞“从” 11.3 能願動詞“要”(2) 11.4 連用修飾語に用いる助詞“地” 11.5 直接引用の“～道” 11.6 伝聞の表現 11.7 試行を表す“～看”	同上	同上
12	「突然子供の泣き声が聞こえてきた」	12.1 方向補語“起来”の派生用法 12.2 「動詞＋“啊”」の重ね型 12.3 結果補語の“到”(2) 12.4 副詞“原来” 12.5 能願動詞“敢”	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
13	「ちょっと待っていなさい」	13.1 結果補語“着” 13.2 前置詞“往” 13.3 部分否定に用いる“不大”	木村　英樹 宮本　徹	宮本　徹
14	「果物はみんなで食べてこそおいしいものです」	14.1 「“一”＋臨時量詞」 14.2 動詞＋“了”＋二音節方向補語 14.3 副詞“才” 14.4 能願動詞“要”(3)	同　上	同　上
15	「今年の杏もまた熟しました」	文法のまとめ	同　上	同　上

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	共通科目（外国語）	科目コード	1351001	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　中国語基礎　　（’０８）＝　（R）

〔主任講師（現職名）：代田　智明（東京大学大学院教授）　　〕

講義概要

一通り中国語の基礎を学んだ方々のために、やさしいが本格的で、興味深い中国語の文章を読むことで、ステップアップのための機会を持ちたい。全15回の材料は、おもに近代中国知識人のラブレターから、一部を選りすぐり、当時の中国の背景やジェンダーの意識を探りながら、現代中国・現代日本との違いや、いまも変らぬ側面を確認する。題して「ラブレターは書きますか」。

授業の目標

全15回の講義を通じて、目標は第一に、中国語のことばに本格的触れる入り口となるような訓練の場とする。文章を読み解くとともに、簡単な表現力も身につくよう工夫したい。第二に、近代中国知識人について、初歩的な歴史的理解をもつとともに、恋愛・結婚という生身の出来事を通して彼らの生き方を考察する。そのことによって、時代の違いや共通点、文化的差異についても認識を深めたい。

	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	郁達夫と孫荃	中国近代文学形成期に貢献した文学グループ「創造社」の創立メンバーのひとりである郁達夫の小説『蔦羅行』の冒頭部分を読んで、当時の婚姻制度や父権的な家庭生活を垣間見る。小説ではあるが、現実を反映しているとも言われ、妻に暴力をふるっている「私」の悔悟が語られる。	代田智明（東京大学大学院教授、以下同じ）	代田智明
2	郁達夫から王映霞へ(1)	第1回では、親の決めた結婚に従わざるをえなかった郁の結婚生活を紹介するが、彼はその後、上海の親友の家に寄宿している令嬢、王映霞に一目惚れする。妻のいる男に気おくれしている王に郁がどんな弁解と口説き文句を語ったか。	代田智明	代田智明
3	郁達夫から王映霞へ(2)	第1回では、親の決めた結婚に従わざるをえなかった郁の結婚生活を紹介するが、彼はその後、上海の親友の家に寄宿している令嬢、王映霞に一目惚れする。妻のいる男に気おくれしている王に郁がどんな弁解と口説き文句を語ったか。第2回のつづき。	代田智明	代田智明
4	胡適から江冬秀へ(1)	中国近代の文化的著名人のひとりであり、文学革命に貢献した胡適も、旧式結婚をしたひとりであった。妻はいいところのお嬢さんであったが、何とか字が読める程度の教養しかなかった。1927年に講演のため渡米した胡適が妻の江冬秀に宛てた手紙を読む。1年前に病気で失った娘への悲しみが描かれている。	代田智明	代田智明
5	胡適から江冬秀へ(2)	中国近代の文化的著名人のひとりであり、文学革命に貢献した胡適も、旧式結婚をしたひとりであった。妻はいいところのお嬢さんであったが、何とか字が読める程度の教養しかなかった。1927年に講演のため渡米した胡適が妻の江冬秀に宛てた手紙を読む。1年前に病気で失った娘への悲しみが描かれている。第4回のつづき。	代田智明	代田智明

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
6	ウィリアムスから胡適へ(1)	胡適は結婚する前にアメリカに留学していた。留学先コーネル大学近くに住んでいた年上のクリフォード ウィリアムスと初恋を経験していた。ふたりは旧式結婚の慣例のため、引き裂かれたが、胡適が1933年に渡米した際に、恋心やみがたく、長い年月を隔てて結ばれる。しかし結婚はできない、そんな複雑な思いをウィリアムスが胡適に伝えた手紙を読む。	代田智明	代田智明
7	ウィリアムスから胡適へ(2)	胡適は結婚する前にアメリカに留学していた。留学先コーネル大学近くに住んでいた年上のクリフォード ウィリアムスと初恋を経験していた。ふたりは旧式結婚の慣例のため、引き裂かれたが、胡適が1933年に渡米した際に、恋心やみがたく、長い年月を隔てて結ばれる。しかし結婚はできない、そんな複雑な思いをウィリアムスが胡適に伝えた手紙を読む。第6回のつづき。	代田智明	代田智明
8	胡適からウィリアムスへ	第6・7回に見られるウィリアムスの矛盾した感情に対して、胡適はどう感じていたのだろう。その後胡適が、知的パートナーという親友として、ウィリアムスを受け入れようとすることばを、ウィリアムス宛ての手紙のなかから読み取る。	代田智明	代田智明
9	魯迅から許広平へ(1)	近代中国の文学者として、日本でも最も知られた文学者魯迅も母親の決めた旧式結婚に苦しんでいた。しかし1925年ころ、北京女子師範の魯迅の授業を聞いていた学生の許広平との間で恋愛関係になっていく。広東と廈門で別々に暮らしていたとき、17歳も年下の許広平に将来の悩みをぶつけ、光りを求める魯迅の手紙を読む。	代田智明	代田智明
10	許広平から魯迅へ(1)	第9回の魯迅の手紙に対する許広平の返信。できるだけ早く、「遺産」(正妻の朱安のこと)を放棄して、新たに人生をやり直すべきだと勧める。その情熱的なことばを読み取る。	代田智明	代田智明
11	許広平から魯迅へ(2)	第9回の魯迅の手紙に対する許広平の返信。できるだけ早く、「遺産」(正妻の朱安のこと)を放棄して、新たに人生をやり直すべきだと勧める。その情熱的なことばを読み取る。第10回のつづき。	代田智明	代田智明
12	魯迅から許広平へ(2)	最終的に許広平を受け入れ、新たな人生に踏み出そうとする魯迅の手紙。この部分は比較的知られた箇所である。様々な障害に悩みつつ、自分にも愛する資格があると宣言する魯迅の肉声を読み取る。	代田智明	代田智明
13	最後のラブレター	1980年代後半に書かれたと思われる、北京大学男子学生の手紙。彼が恋した女子学生はどうやら幼なじみのイケメンを彼氏にすることにして、この著者はふられてしまったらしい。将来きっと後悔するよと、食い下がる彼の気持ちは「女々しい」。	代田智明	代田智明
14	日中ジェンダー論の対話	社会学者であり、フェミニストで有名なふたりの日本と中国の研究者が自分の体験をもとに、それぞれの社会文化を問題にしながら日本と中国との意識の差異を語っている。最後に身近な現代的話題を考える。	代田智明	代田智明
15	日中ジェンダー論の対話	社会学者であり、フェミニストで有名なふたりの日本と中国の研究者が自分の体験をもとに、それぞれの社会文化を問題にしながら日本と中国との意識の差異を語っている。最後に身近な現代的話題を考える。第14回のつづき。	代田智明	代田智明

＝　ロシア語入門Ｉ（‘０５）＝（Ｒ）

〔主任講師：　安岡　治子（東京大学大学院准教授）〕
〔主任講師：　西中村　浩（東京大学大学院教授）〕

全体のねらい

ロシア語文法の基礎を勉強し、「読み、書き、話す」といった基本的な能力の獲得を目指す。文字と発音を覚え、それに慣れることからはじめ、その後ロシア語文法の要である格変化や動詞の変化を習得し、辞典を活用しながら簡単なテクストを読めるようになることを目指す。また、簡単な日常会話表現を身につける。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	文字と発音（1）	文字と発音の第１回目。日本語話者にとって比較的発音しやすい音価をもつ文字からはじめる。文法事項では、「これは～だ」、「～はここにある／いる」という表現を学ぶ。	安岡　治子（東京大学大学院准教授） 西中村　浩（東京大学大学院教授）	安岡　治子（東京大学大学院准教授）
2	文字と発音（2）	文字と発音の第２回目として、特にロシア語特有の硬音と軟音について説明する。文法事項では、否定文、疑問文について、そのイントネーションを含めて学習する。	同　上	同　上
3	文字と発音（3） 名詞の性	文字と発音の最終回として、日本語話者にとって発音しにくい、あるいは聞き取りにくい発音をもつ文字を学ぶ。また、文字と発音のまとめを行い、ロシア語のアルファベットを学ぶ。文法事項としては、名詞の文法的な性について、「私の、あなたの」という表現、「では～は？」というタイプの疑問文のイントネーションなど学ぶ。	同　上	同　上
4	人称代名詞と動詞の現在変化（1）	人称代名詞と動詞の不定形、および現在変化（第１変化）について学ぶ。さらに疑問文のさまざまなイントネーションの差を確認する。また、ロシア人の名前について説明する。	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	名詞の複数形 動詞の現在変化（2）	名詞の複数形、所有代名詞、指示代名詞の性数変化について学ぶ。動詞に関しては、現在変化（第2変化）を覚える。	安岡　治子 西中村　浩	安岡　治子
6	形容詞（長語尾形）の性数変化 感嘆文 格変化	形容詞（長語尾形）の性数変化を学ぶ。また、какойを使った疑問文と感嘆文のイントネーションの差を覚える。最後に格変化について、それがどんなものであるか概説する。	同　上	同　上
7	名詞単数の前置格ся動詞	名詞単数の前置格の形を学び、前置格とともに用いられる前置詞о，ь，наの用法を説明する。動詞лежать，стоятьの用法、житьの現在人称変化を覚える。最後にся動詞と呼ばれている一群の動詞の発音、現在変化、意味について説明する。	同　上	同　上
8	動詞の過去形 名詞の生格	動詞の過去形および、名詞と人称代名詞の生格形を学び、生格の用法として、「〜の」という意味や、所有の表現、否定生格について学ぶ。	同　上	同　上
9	名詞の対格 移動の動詞と表現	名詞と人称代名詞の対格とその用法を学ぶ。また、ロシア語独特の移動を表わす動詞の特性と、行き先の表わし方など、移動の動詞を用いたさまざまな表現を覚える。	同　上	同　上
10	動詞の未来形 名詞の与格	бытьの未来形、その他の動詞の未来形（合成未来）について学ぶ、また、名詞の格については、与格の形と用法を学習する。さらに、動詞の特殊な現在人称変化形としてдаватьの変化を覚える。	同　上	同　上
11	定動詞と不定動詞 形容詞短語尾形	ロシア語の移動の動詞には定動詞と不定動詞の区別があるが、その区別を理解する。また、形容詞の短語尾形の作り方とその基本的な用法について学ぶ。さらに、動詞の特殊な現在人称変化形としてрисоватьの変化を覚える。	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
12	名詞の造格 人称代名詞と形容詞の格変化 無人称文	名詞の単数格変化の最後として造格について学び、さらに人称代名詞と形容詞の格変化について整理する。無人称文について学び、動詞については、第２変化動詞の歯音変化、唇音変化、動詞の命令法について学ぶ。	安岡　治子 西中村　浩	安岡　治子
13	不完了体と完了体	ロシア語の動詞には完了体と不完了体という体（アスペクト）の区別があるが、第１３回は体の基本的な考え方、および体と時制について学ぶ。	同上	西中村　浩（東京大学大学院教授）
14	形容詞の比較級と最上級 関係代名詞	形容詞の比較級と最上級の作り方、およびその用法について学ぶ。さらに、基本的な関係代名詞について理解する。	同上	同上
15	数詞 仮定法	最終回は数詞と数詞を用いた表現（値段、時間、年齢など）、そして仮定法について学ぶ。	同上	同上

＝　ロシア語入門Ⅱ（‘０５）＝（Ｒ）

〔主任講師：　西中村　浩（東京大学大学院教授）　〕
〔主任講師：　安岡　治子（東京大学大学院准教授）　〕

全体のねらい

ロシア語の初歩的な知識をもっていることを前提とし、ロシア語の基礎的な理解・表現能力の向上を目指す。毎回ある程度まとまった内容の文章を読みながら、文法の知識と語彙力を伸ばし、ロシア語運用能力を高める。最後の６回は比較的長めの文章を用いて読解力の向上も目指す。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	名詞の格変化のまとめ 生格の用法	ロシア語Ⅰで学んだ基本的な名詞の格変化を復習し、さらに複数の格変化、мяで終わる中性名詞、ьで終わる女性名詞の格変化を学び、やや不規則な格変化も習得する。また、最初の３回で重要な格の用法を学ぶが、この回はまず生格の用法を習得する。	西中村　浩（東京大学大学院教授） 安岡　治子（東京大学大学院准教授）	西中村　浩（東京大学大学院教授）
2	代名詞の格変化のまとめ 与格と対格の用法	人称代名詞の格変化の復習をし、さらにいくつかの基本的な代名詞の格変化について学ぶ。 格の用法については、与格と対格の主要な用法を習得する。	同　上	同　上
3	形容詞の格変化のまとめ 造格の用法	形容詞の格変化を復習する。 格の用法については、造格の主要な用法を習得する。	同　上	同　上
4	定動詞・不定動詞と体	ロシア語Ⅰでは３つのペアの定動詞と不定動詞について学んだが、ここではその他の基本的な定動詞と不定動詞を学び、さらに不定動詞・定動詞と不完了体・完了体の関連について理解する。	同　上	同　上
5	順序数詞と時間に関する表現	個数詞と順序数詞の復習をし、数詞を用いた表現のなかでもとりわけ時間に関する基本的な表現を学ぶ。	同　上	同　上
6	比較級と最上級	ロシア語Ⅰでは主として形容詞長語尾形の比較級と最上級について学んだが、ここではさらに短語尾形の比較級・最上級についても学び、比較級・最上級を用いたさまざまな表現を習得する。	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
7	無人称文 不定人称文 普遍人称文	ロシア語でよく用いられる不定人称文、無人称文の基本を復習した後、その他のよく用いられる不定人称文、無人称文について学び、さらに普遍人称文の基本を理解する。	西中村　浩 安岡　治子	西中村　浩
8	関係代名詞と関係副詞	基本的な関係代名詞、関係副詞、およびчтоを用いた構文について学ぶ。	同　上	同　上
9	仮定法と否定代名詞	仮定法と接続詞чтобыを用いた重要な構文と否定代名詞の基本を学ぶ。	同　上	同　上
10	不定代名詞	チェーホフの初期の短編をやさしく書き直したものを3回に分けて読み、文法の復習をしながら、かつさらに新しいものを学ぶ。この課では不定代名詞について学ぶ。	同　上	同　上
11	副動詞	ロシア語の文章を読むのに不可欠な副詞の働きをする分詞（副動詞）について学ぶ。	同　上	同　上
12	さまざまな従属節	ロシア語のさまざまな従属節について整理する。	同　上	同　上
13	形動詞	形動詞とは何かを理解し、まず能動の分詞の働きをする能動形動詞について学ぶ。	同　上	安岡　治子 （東京大学大学院准教授）
14	被動形動詞と受動の表現	被動形動詞動詞やся動詞を用いたロシア語のさまざまな受動の表現について学ぶ。 初級ロシア語文法の知識を生かして、まとまったテクストを読む。	同　上	同　上
15	まとめ	今まで習った文法事項の総復習をしながら、引き続きまとまったテクストを読む。	同　上	同　上

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	共通科目（外国語）	科目コード	1363280	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　スペイン語入門Ⅰ（‘07）＝（R）

〔主任講師（現職名）：立岩　礼子　（京都外国語短期大学准教授）〕
〔主任講師（現職名）：丸田　千花子（慶應義塾大学講師）　〕
〔主任講師（現職名）：マリア・ホセ・ゴンサレス・ムニョス（京都外国語大学講師）〕

講義概要

スペイン語の美しい響きに親しみながら，初級文法の基礎を学ぶと同時に，スペイン語文化圏の多様性にも触れていきます。各授業で学ぶ文法事項は、日本でスペイン語圏の人たちと接する場面を設定したオリジナルのスキットを通して身につけていく工夫がされています。練習問題は授業で解く基本的なものと余力のある人が解く自習用の２種類を用意しました。発音、リスニング、会話も十分に練習できるように随所にアドバイスを施しています。また、語学の習得のみならず、音楽を通じてスペイン語圏に親しむほか、ゲストを迎えてスペインやラテンアメリカの魅力について語っていただきます。

授業の目標

スペイン語の初級文法の基礎の習得を目指します。具体的には①自己紹介ができる、②日常の話題についてスペイン語圏の人たちとコミュニケーションを保つことができる、という２つを主たる目標とします。また、辞書の使い方に慣れ、応用力を養うことも視野に入れています。さらに、スペイン語文化圏について関心を広げていくことにも重きをおいています。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	「こんにちは。」	スペイン語のアルファベット、発音、イントネーションに慣れる。挨拶をはじめとした日常会話に必要な表現を学ぶ。 ゲスト：Jair Moreno　（スペイン大使館商務部）	立岩礼子（京都外国語短期大学准教授） マリア・ホセ・ゴンサレス・ムニョス（京都外国語大学講師）	立岩礼子（京都外国語短期大学准教授） マリア・ホセ・ゴンサレス・ムニョス（京都外国語大学講師）
2	「私は少しスペイン語が話せます。」	主語（主格人称代名詞）、基礎となる一般動詞（-ar動詞）の規則活用（直説法現在）、現在時制の用法を学ぶ。 歌：La bamba (メキシコ民謡)	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
3	「今日はてんぷらを食べましょう。」	基礎となる一般動詞（-er 動詞）の規則活用（直説法現在）、名詞の性数、（肯定・否定・疑問詞なしの疑問文）を学ぶ。 ゲスト：Jair Moreno (スペイン大使館商務部)	同　上	同　上
4	「どこで携帯電話を買ったらいいですか。」	疑問詞、疑問詞を含む疑問文、数詞（1~10）、所有形容詞を学ぶ。 歌：Bésame mucho　（小野リサ）	同　上	同　上
5	「彼らにメールを書きます。」	スペイン語の性数一致に慣れながら，基礎となる一般動詞（-ir 動詞）の規則活用（直説法現在）、冠詞（定冠詞と不定冠詞）を学ぶ。 ゲスト：荒川夏枝（スペイン・ガリシア州政府経済・大蔵省ガリシア州経済開発公社（IGAPE)産業・投資上級担当官）	同　上	同　上
6	「彼はスポーツマンです。」	動詞 ser の活用と形容詞を学ぶ。 歌：Soy　(Willy Chirino)	同　上	同　上
7	「11 時半です。」	動詞 ser を使って時刻や日付の表現、数詞（1~31）と序数詞、接続詞を学ぶ。 ゲスト：荒川夏枝（スペイン・ガリシア州政府経済・大蔵省ガリシア州経済開発公社（IGAPE)産業・投資上級担当官）	同　上	同　上
8	「僕が暇なとき、君は忙しい。」	スペイン語の be 動詞である動詞 estar の活用（直説法現在）、指示形容詞、指示代名詞、指示副詞を学ぶ。 歌：La Cumparsita (Carlos Gardel)	同　上	同　上
9	「テレビの種類が豊富です。」	無主語動詞 hay、不定数量詞を学ぶ。 ゲスト：こじまかよこ（中南米文化交流考房「ケ・リーコ」代表）	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
10	「私はお寺に行きたいです。」	語幹母音変化動詞 (e→ ie)の動詞の活用(直説法現在)、直接目的格人称代名詞を学ぶ。 歌： La llorona (Chavela Vargas)	丸田千花子(慶應義塾大学講師) マリア・ホセ・ゴンサレス・ムニョス(京都外国語大学講師)	丸田千花子(慶應義塾大学講師) マリア・ホセ・ゴンサレス・ムニョス(京都外国語大学講師)
11	「一本いくらしますか。」	語幹母音変化動詞 (o→ ue)の動詞の活用(直説法現在)、40 から 1.000.000 までの数詞、前置詞を伴う直接目的語を学ぶ。 ゲスト:こじまかよこ(中南米文化交流考房「ケ・リーコ」代表)	同上	同上
12	「伝統料理を出すのですよね。」	語幹母音変化動詞 (e → i) の動詞の活用(直説法現在)、間接目的格人称代名詞を学ぶ。 歌:Te recuerdo, Amanda (Víctor Jara)	同上	同上
13	「今週土曜日、京都へ出発します。」	1人称のみ不規則動詞の活用(直説法現在)、間接目的格人称代名詞と直接目的人称代名詞の併用を学ぶ。 ゲスト:「オルティス・リベラ美由紀(コーヒー専門認証プログラム「ウツ・カフェ」日本市場担当)	同上	同上
14	「久保田さんからのメッセージがあります。」	不規則動詞の活用(直説法現在)、前置詞格人称代名詞、代名詞の重複を学ぶ。 歌:Salsa no tiene frontera (オルケスタ・デ・ラ・ルス)	同上	同上
15	「私は野球が大好きです。」	gustar 表現や gustar 型構文を学ぶ。 ゲスト:オルティス・リベラ美由紀(コーヒー専門認証プログラム「ウツ・カフェ」日本市場担当)	同上	同上

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	共通科目（外国語）	科目コード	1363344	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　スペイン語入門II（‘07）＝（R）

〔主任講師（現職名）：丸田　千花子　（慶應義塾大学講師）　〕
〔主任講師（現職名）：久野　量一　（法政大学准教授）　〕
〔主任講師（現職名）：サンドラ・モラーレス・ムニョス（早稲田大学講師）〕

講義概要

「入門Ⅰ」で学んだ初級文法の基礎を修了させると同時に，引き続きスペイン語文化圏の多様性にも触れていきます。文法解説、練習問題などで文法事項を確認したのち、オリジナルのスキットを通して，発音、リスニングを練習し、応用表現を学んでいきます。また「入門Ⅰ」に引き続き、さまざまな分野の専門家を迎えて，「入門Ⅰ」とは別の角度からスペイン語文化圏の文化にアプローチしていきます。

授業の目標

「入門Ⅱ」では様々な時制を習得することでスペイン語の表現に幅をもたせることを狙いとしています。時制それぞれの違いをきちんと認識し、活用の運用能力を高めていくこと、またネイティヴとのコミュニケーションを取れるようになることが授業の目標です。「入門Ⅰ」に引き続きさらにスペイン語文化圏についての関心を深めていくことにも重きをおいています。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	「君は何時に起きるの。」	再帰動詞を学ぶ。 ゲスト：八嶋由香利（慶應義塾大学経済学部准教授） 「アメリカ大陸に渡ったバスク人」	丸田千花子（慶應義塾大学講師） サンドラ・モラーレス・ムニョス（早稲田大学講師）	丸田千花子（慶應義塾大学講師） サンドラ・モラーレス・ムニョス（早稲田大学講師）
2	「とてもおいしそうです。」	se を用いた無人称表現、感嘆文を学ぶ。 ゲスト：八嶋由香利（慶應義塾大学経済学部准教授） 「アメリカ帰りのスペイン人～スペイン近代化に貢献した indianos」	同上	同上
3	「どのような製品を取り扱っているのですか。」	se を用いた再帰受身を学ぶ。 ゲスト：石井康史（慶應義塾大学経済学部准教授） 「『母をたずねて三千里』とブエノスアイレスのスペイン語」	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	「私はポップよりも伝統音楽が好きです。」	比較表現を学ぶ。 ゲスト：石井康史（慶應義塾大学経済学部准教授） 「アメリカ映画におけるメキシコ人のイメージ～パンチョ、ペドロと善隣外交」	同上	同上
5	「今朝、僕は忙しかったんだ。」	過去分詞、直説法現在完了を学ぶ。 ゲスト：久松佳彰（東洋大学国際地域学部准教授） 「アメリカとメキシコの経済関係」	同上	同上
6	「自分の部屋を片付けているのよ。」	現在分詞、直説法現在進行形を学ぶ。 ゲスト：久松佳彰（東洋大学国際地域学部准教授） 「アメリカ合衆国のヒスパニック」	同上	同上
7	「どのくらい私たちのところにいる予定ですか。」	直説法未来を学ぶ。 ゲスト：ヒガ・マルセーロ（フェリス女学院大学国際交流学部准教授） 「アルゼンチンにおける日本人のクリーニング屋 tintoría japonesa」	同上	同上
8	「彼らはもうレストランに着いているでしょう。」	直説法未来完了を学ぶ。 ゲスト：ヒガ・マルセーロ（フェリス女学院大学国際交流学部准教授） 「日本の中のスペイン語圏」	同上	同上
9	「昨晩、会社の近くで襲われた。」	直説法点過去の規則活用を学ぶ。 ゲスト：清水達也（アジア経済研究所） 「ラテンアメリカの輸出農産物」	久野量一（法政大学准教授） サンドラ・モラーレス・ムニョス（早稲田大学講師）	久野量一（法政大学准教授） サンドラ・モラーレス・ムニョス（早稲田大学講師）
10	「そのあたりの日本食レストランで食事をしましたか。」	直説法点過去の不規則活用を学ぶ。 ゲスト：清水達也（アジア経済研究所） 「ペルーの輸出農産物アスパラガスについて」	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
11	「夏休みになるとよく田舎に出かけたものです。」	直説法線過去を学ぶ。 ゲスト：西成彦（立命館大学大学院先端総合学術研究科教授） 「南米の日系人ー今と昔」	同　上	同　上
12	「タクシーを拾うことをお勧めいたします。」	直説法過去未来を学ぶ。 ゲスト：西成彦（立命館大学大学院先端総合学術研究科教授） 「移民と文学ーアルゼンチンのガウチョ」	同　上	同　上
13	「その映画ならもう観たことがあると彼女は言った。」	直説法過去完了を学ぶ。 ゲスト：杜将（フリージャーナリスト） 「コロンビアにおける平和の意味」	同　上	同　上
14	「そんなに早起きするなんて信じられないわ。」	接続法現在の規則活用を学ぶ。 ゲスト：杜将（フリージャーナリスト） 「コロンビアの国内問題」	同　上	同　上
15	「感想を言ってくれるのなら、本を貸してあげるよ。」	接続法現在の不規則活用を学ぶ。 ゲスト：杜将（フリージャーナリスト） 「コロンビアの環境、エネルギー問題」	同　上	同　上

＝　韓国語入門Ⅰ（‘０６）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：生越　直樹（東京大学教授）　〕
〔主任講師（現職名）：根本　理恵（東京大学非常勤講師）〕

全体のねらい

簡単な会話によって韓国の人とコミュニケーションができるようになること，掲示や簡単な説明文を読めるようになることをめざす。まず，発音・文字（ハングル）の練習を十分に行ったのち，基本的な表現を使って簡単な文章を作る練習を行っていく。あわせて，スキットなどを通して韓国の文化・習慣を紹介し，それらに対する理解を深める。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	文字と発音（１）－母音(1)，子音(1)－	基本的な単母音６つとヤ行系の重母音の発音，子音の一部，およびそれを表す文字の練習を行う。さらに，出会ったときなどに使うあいさつを練習する。	生越直樹（東京大学教授） 根本理恵（東京大学非常勤講師）	生越直樹（東京大学教授） 根本理恵（東京大学非常勤講師）
2	文字と発音（２）－母音(2)，子音(2)－	子音（平音，激音，濃音）の発音，ワ行系の重母音の発音，およびそれを表す文字の練習を行う。さらに，別れの時などに使うあいさつ表現の練習を行う。	同上	生越直樹（東京大学教授）
3	文字と発音（３）－終声・連音化－	音節末子音（終声）の発音，および終声に関わる連音化の練習を行う。さらに，呼びかけ，謝罪などのあいさつ表現を練習する。	同上	同上
4	高野由紀です。－名詞文の叙述・疑問・尊敬－	初めて会う場面のスキットを使いながら，「～です，ですか」「～でいらっしゃいますか」にあたる名詞文の叙述形・疑問形・尊敬形と「は」にあたる助詞の使い方を練習する。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	どこにありますか。 —存在文の叙述・疑問—	コンビニで物を探すスキットを使いながら，「ある，いる」「ない，いない」にあたる存在詞，「この，その，あの」にあたる指示詞の使い方を練習する。	生越直樹（東京大学教授） 根本理恵（東京大学非常勤講師）	生越直樹（東京大学教授）
6	午後に何をしますか。 —用言文の叙述・疑問，数詞(1)—	これからの予定を聞くスキットを使いながら，「～します(か)，～です(か)」にあたる用言文の叙述形・疑問形についての練習を行う。さらに，漢語系の数詞とそれとともに使う助数詞の練習も行う。	同上	同上
7	タバコは吸いません。 —否定形，数詞(2)—	喫茶店で話すスキットを使いながら，「～しません」にあたる用言文の否定形，「～ではありません」にあたる名詞文の否定形について練習する。さらに，固有語系の数詞とそれとともに使う助数詞の練習も行う。	同上	同上
8	ホテルで召し上がりますか。 —尊敬形—	ホテルのロビーでのスキットを使いながら，用言の尊敬形の作り方と使い方，特殊な尊敬形の使い方を練習する。	同上	同上
9	ドアを閉めてください。 —連用形—	韓国料理店で食事をするスキットを使いながら，連用形の使い方と「～してください」にあたる依頼表現の使い方を練習する。	同上	根本理恵（東京大学非常勤講師）
10	9時に学校に行きます。 —hayyo 体の叙述・疑問—	一日の生活を表すスキットを使いながら，「～します」にあたる文末の丁寧な形 hayyo 体の練習を行う。また，残りの連用形の縮約形の練習もする。	同上	同上
11	映画をよくご覧になりますか。 —hayyo 体の尊敬—	映画館に行く場面のスキットを使いながら，hayyo 体の縮約形と hayyo 体の尊敬形の使い方を練習する。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	先週何をしましたか。 —過去形—	友人の家で食事するスキットを使いながら，過去形の使い方を練習する。さらに過去形の縮約形，尊敬の過去形の練習もする。	生越直樹（東京大学教授） 根本理恵（東京大学非常勤講師）	根本理恵（東京大学非常勤講師）
13	できるだけ早く行きます。 —進行形，未来意志形—	バス停で電話する場面のスキットを使いながら，話し手の意志や推測を表す未来意志形の使い方を練習する。さらに，「～している」にあたる進行形の作り方と使い方を練習する。	同上	同上
14	狭いですが，あちらへどうぞ。 —接続語尾—	インターネットカフェで話すスキットを使いながら，いくつかの接続語尾と希望を表す表現の使い方を練習する。	同上	同上
15	まとめと復習	これまで学習した表現を，スキットの確認しながら復習していく。	同上	同上

＝ 韓国語入門Ⅱ（‘０６）＝（Ｒ）

〔主任講師（現職名）：生越　直樹（東京大学教授）　〕
〔主任講師（現職名）：根本　理恵（東京大学非常勤講師）〕

全体のねらい

韓国語Ⅰを終了した程度の実力を持つ学習者を対象とする。いろいろな表現を使って韓国の人とコミュニケーションができるようになること，新聞記事などを読めるようになることをめざす。基本的な表現のうち，韓国語Ⅰで学習しなかった事項について練習するとともに，スキットなどを通して，韓国の文化・習慣に対する理解をさらに深める。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
1	学校の前にあるレコード店　―動詞の連体形(1)―	ＣＤショップでのスキットを使いながら，用言の後ろに名詞が続くときの形，連体形の練習をする。この課ではまず動詞，存在詞の連体形のうち，現在連体形，過去連体形の作り方と使い方の練習を行う。	生越直樹（東京大学教授） 根本理恵（東京大学非常勤講師）	生越直樹（東京大学教授）
2	以前の記録があるはずです　―動詞の連体形(2)―	薬局でのスキットを使いながら，動詞，存在詞の連体形のうち，未来連体形，回想連体形の作り方と使い方を練習する。	生越直樹（東京大学教授） 根本理恵（東京大学非常勤講師）	生越直樹（東京大学教授）
3	簡単な韓国料理―形容詞の連体形―	市場で話すスキットを使いながら，形容詞，指定詞の連体形(現在，未来，過去)の作り方と使い方を練習する。	生越直樹（東京大学教授） 根本理恵（東京大学非常勤講師）	生越直樹（東京大学教授）
4	外国に住んでいる人　―ｒ語幹(1)―	屋台で食事しながら話すスキットを使いながら，特殊な活用をするｒ語幹の用言の使い方を練習する。さらに接続語尾・慣用表現のいくつかについて，その使い方を練習する。	生越直樹（東京大学教授） 根本理恵（東京大学非常勤講師）	生越直樹（東京大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	この近くにお住まいですか —r語幹(2)—	病院でのスキットを使って，引き続きr語幹の用言を使う練習をする。さらに接続語尾・慣用表現のいくつかについて，その使い方を練習する。	生越直樹（東京大学教授） 根本理恵（東京大学非常勤講師）	生越直樹（東京大学教授）
6	頭痛はすっかり治りましたか —s変則—	バスターミナルで話すスキットを使って，変則用言の一つ，s変則用言の活用と使い方を練習する。さらに接続語尾・慣用表現のいくつかについて，その使い方を練習する。	生越直樹（東京大学教授） 根本理恵（東京大学非常勤講師）	生越直樹（東京大学教授）
7	尋ねてみましょう —t変則—	地下鉄駅，車内でのスキットを使って，t変則用言の活用と使い方を練習する。さらに接続語尾・慣用表現のいくつかについて，その使い方を練習する。	生越直樹（東京大学教授） 根本理恵（東京大学非常勤講師）	生越直樹（東京大学教授）
8	発音がとても難しいです —p変則—	大学教室でのスキットを使って，p変則用言の活用と使い方を練習する。さらに接続語尾・慣用表現のいくつかについて，その使い方を練習する。	生越直樹（東京大学教授） 根本理恵（東京大学非常勤講師）	生越直樹（東京大学教授）
9	白い看板が見えます —h変則—	観光地で話すスキットを使いながら，h変則用言の活用と使い方を練習する。さらに接続語尾・慣用表現のいくつかについて，その使い方を練習する。	生越直樹（東京大学教授） 根本理恵（東京大学非常勤講師）	根本理恵（東京大学非常勤講師）
10	私が行って呼んで来ます —rwu変則—	列車の車内でのスキットを使って，rwu変則用言の活用と使い方を練習する。さらに接続語尾・慣用表現のいくつかについて，その使い方を練習する。	生越直樹（東京大学教授） 根本理恵（東京大学非常勤講師）	根本理恵（東京大学非常勤講師）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
11	どんなに忙しくても —wu 変則用言—	キャンプの場面のスキットを使いながら，wu 変則用言の活用と使い方を練習する。さらに接続語尾・慣用表現のいくつかについて，その使い方を練習する。	生越直樹（東京大学教授） 根本理恵（東京大学非常勤講師）	根本理恵（東京大学非常勤講師）
12	包装はしないでください —さまざまな表現—	デパートでおみやげを探すスキットを使いながら，よく使う熟語でまだ学習していない表現の使い方を練習する。	生越直樹（東京大学教授） 根本理恵（東京大学非常勤講師）	根本理恵（東京大学非常勤講師）
13	ご飯は食べたの？ —hanta 体，hay 体—	空港で友だち同士が話すスキットを使いながら，文末の形式のうち，ぞんざいな表現である hay 体，hanta 体の叙述・疑問などの形を練習する。	生越直樹（東京大学教授） 根本理恵（東京大学非常勤講師）	根本理恵（東京大学非常勤講師）
14	文章を読む —書き言葉の表現—	短い文章を読みながら，書き言葉でよく使われる表現を練習する。	生越直樹（東京大学教授） 根本理恵（東京大学非常勤講師）	根本理恵（東京大学非常勤講師）
15	まとめと復習	これまでのスキットを使いながら学習した表現を復習する。	生越直樹（東京大学教授） 根本理恵（東京大学非常勤講師）	根本理恵（東京大学非常勤講師）

＝　日本語基礎Ａ（‘０６）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：姫野　昌子（放送大学教授）　〕
〔主任講師（現職名）：伊東　祐郎（東京外国語大学教授）〕

全体のねらい

学習者のレベルは、初級後半程度を考えている。放送は、全部、やさしい日本語で行う。印刷教材は、２部に分かれている。第１部は、外国人学習者用の解説と課題、第２部は、日本人教師用の解説となっている。外国人学習者は、第１部だけ勉強すればよい。試験問題も日本人教師とは違うものを用意する。目的は日本人の社会と文化を紹介である。外国人留学生による日本人へのインタビューを通し、日本人の生活や働く姿を伝える。日本語能力試験３，４級レベルの文法事項、語彙、漢字の基礎的運用能力養成を図る。マルチメデイアの特色を生かしつつ、コミュニケーション能力を養成する楽しい講座をめざす。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	楽しい文法教室①	授業風景 ・動詞、形容詞、形容動詞の活用形 ・アスペクト、テンス ・「～て」形の用法 ・格助詞の用法「を」「で」「に」 ・漢字①線の形 ・日本の歌①「夏の思い出」	姫野昌子（放送大学教授）	姫野昌子（放送大学教授） 伊東祐郎（東京外国語大学教授）
2	スキット「発表の授業－準備－」	授業風景 ・自動詞と他動詞 ・変化「～くなる」「～になる」 ・変化「～くする」「～にする」 ・設置と処置　補助動詞「～ておく」 ・留学生によるインタビュー「漫画家　咲坂芽亜氏」 ・漢字②線と点の形 ・日本の歌②「だれもいない海」	藤村知子（東京外国語大学准教授） 姫野昌子（放送大学教授）	同上
3	スキット「発表の授業－漫画やアニメの始まり－」	授業風景 ・設置と処置の結果の状態　補助動詞「～てある」 ・単なる結果の状態　補助動詞「～ている」 ・誘発　感情動詞の他動詞化「人を～させる」 ・留学生によるインタビューと報告 ・漢字③構成要素 ・日本の歌③「雪の降る街を」	同上	同上
4	ドキュメンタリー「東京の森－人工林で木を育てる－」	授業風景 ・可能表現「～することができる」 ・動詞可能形「行ける」 ・留学生によるインタビュー「あきる野市　製材所経営者　田中定男氏」 ・漢字④「さんずい偏」 ・日本の歌④「北国の春」	小林幸江（東京外国語大学教授） 姫野昌子（放送大学教授	同上

5	ドキュメンタリー 「東京の森－東京の木で家を造る－」	・引用表現「～と言う」「～と思う」 ・伝聞形「～そうだ」 ・留学生によるインタビュー報告 ・漢字⑤「人偏」 ・日本の歌⑤「この広い野原いっぱい」	同　上	同　上
6	ドキュメンタリー 「自然の力を利用した家－太陽の熱や光などの利用」	授業風景 ・条件「～と」「～たら」 ・留学生によるインタビュー「自然食店　富士山の野菜塾店長　佐藤環氏」 ・漢字⑥「木偏」 ・日本の歌⑥「この空を飛べたら」	鈴木美加 （東京外国語大学准教授） 姫野昌子 （放送大学教授）	同　上
7	ドキュメンタリー 「自然の力を利用した家－雨水の利用－」	授業風景 ・条件「～ば」「～ても」 ・留学生によるインタビュと報告「朝霧高原の牧場」 ・漢字⑦「手偏」 ・日本の歌⑦「恋人よ」	同　上	同　上
8	楽しい文法教室② 復習	授業風景 ・文法事項復習（１～７回） ・留学生によるインタビュー「江戸紙切り名人　桃川忠氏」 ・漢字⑧「日偏」 ・日本の歌⑧「忘れな草をあなたに」	姫野昌子 （放送大学教授）	同　上
9	スキット 「お見合い－若い２人と仲人さん」	授業風景 ・様態　形容詞、形容動詞＋「～そうだ」 「痛そうだ、元気そうだ」 ・留学生によるインタビュー「大学生の結婚観」 ・漢字⑨「しんにゅう偏」 ・日本の歌⑨「冬が来る前に」	伊東祐郎 （東京外国語大学教授） 姫野昌子 （放送大学教授）	同　上
10	ドキュメンタリー 「お見合い－結婚相手紹介サービス会社」	授業風景 ・様態　動詞＋「～そうだ」「降りそうだ」 ・留学生によるインタビュー報告 ・漢字⑩「草かんむり、雨かんむり」 ・日本の歌⑩「旅人よ」	同　上	同　上
11	ドキュメンタリー 「文化を守る－丸岡の町－」	授業風景 ・授受動詞「もらう、あげる、くれる」 ・推移、変化　補助動詞「～てくる」「～ていく」 ・留学生によるインタビュー「歌舞伎役者　市川男女蔵氏」 ・漢字⑪「ウかんむり「門がまえ」 ・日本の歌⑪「心の旅」	荒川洋平 （東京外国語大学准教授） 姫野昌子 （放送大学教授）	同　上

12	ドキュメンタリー 「文化を守る－子ども歌舞伎」	授業風景 ・待遇表現「～てくれる」「～てもらう」「～てあげる」 ・留学生によるインタビュー報告 ・漢字⑫「訓読みが２つある字」 ・日本の歌⑫「恋人もいないのに」	同　上	同　上
13	ドキュメンタリー 「東京の水道－水を安全に届ける－」	授業風景 ・直接の受身「人を対象とする動詞」 ・非情主の受身 ・留学生によるインタビュー「岐阜県高山　オークヴィレッジ」 ・漢字⑬「音読みが２つある字」 ・日本の歌⑬「みずいろの雨」	柏崎雅世（東京外国語大学教授） 姫野昌子（放送大学教授）	同　上
14	ドキュメンタリー 「東京の水道－水を安全に守る－」	授業風景 ・「持ち主の受身」「迷惑の受身」 ・留学生によるインタビュー報告 ・漢字⑭「訓読みと音読みがある字」 ・日本の歌⑭「あのすばらしい愛をもう一度」	同　上	同　上
15	楽しい文法教室③ 総復習	授業風景 ・文法事項復習（１～14回） ・留学生の司会による「桃川忠氏江戸紙切り実演会」 ・漢字⑮「熟語」 ・日本の歌⑮「さとうきび畑」	姫野昌子（放送大学教授）	同　上

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	共通科目(外国語)	科目ｺｰﾄﾞ	1399535	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　日本語基礎Ｂ（‘０７）＝（Ｒ）

〔主任講師（現職名）：姫野　昌子（放送大学教授）　〕
〔主任講師（現職名）：伊東　祐郎（東京外国語大学教授）〕

講義概要

学習者のレベルは、初級後半程度を考えている。放送は、全部、やさしい日本語で行う。印刷教材は、２部に分かれている。第１部は、外国人学習者用の解説と課題、第２部は、日本人教師用の解説となっている。外国人学習者は、第１部だけ勉強すればよい。試験問題も日本人教師とは違うものを用意する。コミュニケーション能力をつけるため、いろいろな会話の表現を勉強する。いろいろな国の人に日本に来てから経験したことを聞き、異文化コミュニケーションについて考える。日本の都市を 12 選んで、その地理や、文化・歴史的な特徴などを紹介し、日本理解を深める。そのほか日本の詩歌も紹介し、説明する。会話やナレーションの中に出てきた大切な文法事項についても勉強する。

授業の目標

日本語の会話の特徴を理解し、コミュニケーション能力をつける。異文化について考える力を養う。同時に日本の都市や詩歌の紹介を通じて日本の文化について知識を深める。そのほか、初級後半から中級前半の文法事項について理解力と表現力を養成することを目指す。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
1	導入 各課の内容と全体の流れの説明	・「挨拶や会話」導入 ・「異文化コミュニケーションインタビュー」導入 ・「異文化メモ」導入 ・「地方紹介」 ・日本の詩歌：俵万智の短歌『サラダ記念日』所収 ・音楽：神山純一「旅立ちの時」	姫野　昌子 伊東　祐郎 田山のり子 （東京外国語大学教授） 藤森弘子 （東京外国語大学教授） 初鹿野阿れ （東京国際大学講師） 池田智子 （桜美林大学准教授）	姫野昌子 （放送大学教授） 伊東祐郎 （東京外国語大学教授）
2	会話① 異文化コミュニケーション① 北の街　札幌	・出会いの挨拶と会話の開始 ・外国人へのインタビュー①：出会いの表現 ・異文化メモ：出会いの挨拶 ・札幌の紹介 ・日本の詩歌：三好達治の詩「雪」『測量船』所収 ・音楽：さだまさし「北の国から」	同	同

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
3	会話② 異文化コミュニケーション② 森の都　仙台	・別れの挨拶 ・外国人へのインタビュー②：別れの表現 ・異文化メモ：別れる時の表現 ・仙台の紹介 ・日本の詩歌：石川啄木の短歌『一握の砂』所収 ・音楽：さとう宗幸「青葉城恋唄」	同	同
4	会話③ 異文化コミュニケーション③ 首都　東京	・電話の終了 ・外国人へのインタビュー③：電話で話した経験 ・異文化メモ：電話での話し方 ・東京の紹介 ・日本の詩歌：高村光太郎の詩「あどけない話」『智恵子抄』所収 ・音楽：喜多郎「キャラバンサライ」	同	同
5	会話④ 異文化コミュニケーション④ 北の小京都 金沢	・謝罪の会話 ・外国人へのインタビュー④：謝罪の経験 ・異文化メモ：謝罪の表現と態度 ・金沢の紹介 ・日本の詩歌：室生犀星「小景異情」『抒情小曲集』所収 ・音楽：倉本悠基「哀しみの空」	同	同
6	会話⑤ 異文化コミュニケーション⑤ 商業都市 名古屋	・言い訳の会話 ・外国人へのインタビュー⑤：言い訳の経験 ・異文化メモ：言い訳の表現と態度 ・名古屋の紹介 ・日本の詩歌：寺山修司「故郷の母のことを思い出したら」『人生処方詩集』所収 ・音楽：苫米地義久「ほのかな夜明け」	同	同
7	会話⑥ 異文化コミュニケーション⑥ 古都　京都	・依頼と承諾の会話 ・外国人へのインタビュー⑥：依頼の経験 ・異文化メモ：依頼の心遣い ・京都の紹介 ・日本の詩歌：与謝野晶子の短歌『みだれ髪』『恋衣』所収 ・音楽：城乃内ミサ「京の小道」	同	同
8	復習	復習 ・音楽：宗次郎「エンサールの森」	同	同

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
9	会話⑦ 異文化コミュニケーション⑦ 商業の街 大阪	・誘いと承諾の会話 ・外国人へのインタビュー⑦：間接的な誘いの経験 ・異文化メモ：誘いの表現法 ・大阪の紹介 ・日本の詩歌：茨木のり子の詩「六月」『見えない配達夫』所収 ・音楽：「宵待ち草」	同	同
10	会話⑧ 異文化コミュニケーション⑧ 平和を願う街 広島	・断りの会話 ・外国人へのインタビュー⑧：間接的に断られた経験 ・異文化メモ：断りの表現法 ・広島の紹介 ・日本の詩歌：峠三吉『原爆詩集』序 ・音楽：中国地方の子守歌	同	同
11	会話⑨ 異文化コミュニケーショ⑨ 俳句と温泉の街 松山	・感謝の会話 ・外国人へのインタビュー⑨：感謝の表現に関する経験 ・異文化メモ：感謝の表現法と習慣 ・松山の紹介 ・日本の詩歌：正岡子規の俳句『寒山落木』所収 ・音楽：宮城道雄「春の海」	同	同
12	会話⑩ 異文化コミュニケーション⑩ 異国への窓 長崎	・贈答の会話 ・外国人へのインタビュー⑩：贈答の経験 ・異文化メモ：贈答の習慣 ・長崎の紹介 ・　日本の詩歌：金子みすゞの詩「大漁」『金子みすゞ全集』所収 ・音楽：島原地方の子守歌	同	同
13	会話⑪ 異文化コミュニケーション⑪ 南国　鹿児島	・ほめやねぎらいの会話 ・外国人へのインタビュー⑪：ほめとねぎらいの経験 ・異文化メモ：ほめやねぎらいの表現と態度 ・鹿児島の紹介 ・日本の詩歌：若山牧水の短歌『海の声』所収 ・音楽：五木の子守唄	同	同
14	会話⑫ 異文化コミュニケーション⑫ 南の島々 沖縄	・苦情・不満の会話 ・外国人へのインタビュー⑫：会社勤めの体験と苦情の経験 ・異文化メモ：苦情・不満の表現法 ・沖縄の紹介 ・日本の詩歌：谷川俊太郎の詩「かなしみ」『二十億光年の孤独』所収 ・音楽：安里屋ユンタ	同	同

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
15	総復習	総復習 ・音楽：姫神「海道を行く」	同	同

＝　初歩のアラビア語（‘０６）＝（TV）

～アラブ・イスラーム文化への招待～

〔主任講師（現職名）：　鷲見　朗子（京都ノートルダム女子大学准教授）〕

全体のねらい

アラビア語は中東・北アフリカを中心とする２０以上の国と地域の公用語として、また国連の公用語の一つとして、とても多くの人々が使っている言語です。この科目のねらいは、アラビア語の読む・書く・聴く・話すことの基本を、アラブ・イスラーム文化に触れながら、楽しく習得することです。毎回、イスラームの文化事情やアラブの人々の暮らしを紹介した映像、インタビューなどを豊富に盛り込んで、アラブ・イスラーム文化について理解しながら、アラビア語の基本を学んでいきます。第１回から第６回では、28 文字からなるアラビア語のアルファベットをマスターします。同時に、簡単な表現も学習していきます。第７回から最終回までは、スキットに登場する基本フレーズを理解しながら、やさしいアラビア語の単語、表現、文法の学習を行います。練習問題にも挑戦して、応用力をつけていきます。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	開けゴマ！～アラブとは～	アラビア語の世界への扉を開く、文字と発音の第１回です。書き方（右から左へ）、28 文字からなるアルファベット、文字同士の結合の仕方など、アラビア語の特色を学びます。 【サカーファ】アラブ・イスラーム文化を楽しく紹介するコーナーです。第１回はアラブ、イスラーム、そして中東について、日本人アラブ研究者からやさしく紹介していただきます。	鷲見朗子（京都ノートルダム女子大学准教授） 依田純和（大阪外国語大学非常勤講師）	鷲見朗子（京都ノートルダム女子大学准教授）
2	ハビービー～フスハーとアーンミーヤ～	アルファベットの最初から順に、発音、書き方、文字のつなげ方を学んでいきます。母音記号と無母音記号も導入します。また、「ハビービー」（私の恋人）という単語の発音と書き方を学習します。 【サカーファ】エジプト、レバノン、カタールを訪ねて、実際にそれぞれの土地のアラビア語方言を聴きます。アラビア語の書きことば「フスハー」と話しことば「アーンミーヤ」を比べてみます。	同上	同上
3	私は元気です～アラビア書道の芸術～	ひきつづき文字と発音を少しずつ確実に覚えていきます。文字ごとに発音、書き方、文字のつなげ方の練習をします。また、「私は元気です」という表現を学びます。 【サカーファ】きわめて高い芸術性を備えたアラビア書道を紹介します。著名なエジプト人アラビア書道家の工房を訪問して、さまざまな書体や書道具をみてみます。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	おはよう～アラブ音楽の魅力～	アラビア文字を正しい発音でスムーズに読み・書きできるよう、繰り返し練習します。また、母音記号以外の補助記号の用法を学びます。今回は簡単な挨拶表現も学習します。 【サカーファ】リズミカルなアラブの歌の紹介です。レバノンの女性歌手にインタビューします。アラブの民族楽器「ウード」の演奏も鑑賞します。	同上	同上
5	元気ですか？～学校と教育事情～	文字と発音の第5回です。文字同士の結合の仕方と文字の発音をさらに練習します。「元気ですか？」の表現を覚え、書く練習をします。アラブの街角のカラフルな看板も読んでみます。 【サカーファ】カタールの高等学校を探訪した記録が素材です。男女別学も珍しくないカタールの学校の映像を通して、アラブの教育事情の一端をみてみます。	同上	同上
6	アッサラーム・アライクム～民衆のイスラーム信仰～	文字と発音の仕上げです。定冠詞の書き方と発音の仕方、アルファベット以外の文字や記号について学びます。「アッサラーム・アライクム」というイスラーム信徒がかわす挨拶表現を学習します。 【サカーファ】エジプトの庶民が集うモスクを通して、民衆のイスラーム信仰を紹介します。礼拝への呼びかけ「アザーン」の美しい響きがこだまします。	同上	同上
7	あなたの名前は？～コーヒー占いとヘンナ～	いよいよスキットの始まりです。スキットに出てくる基本フレーズを通して、文法と単語を学習していきます。アラビア語には男性と女性の2つの性があります。この使い分けも学びます。 【サカーファ】アラブ地域にみられるコーヒー占いと、ヘンナと呼ばれる植物染料を使った手足の装飾を紹介します。	同上	同上
8	僕はレバノン人です～アルハンブラ宮殿の美～	自分の出身を伝える表現を学びます。「○○人」という表現と独立人称代名詞を組み合わせて文章を作る練習をします。スキットでは、レバノン人男性が自分の出身を友人に伝えます。 【サカーファ】スペインにあるアルハンブラ宮殿の壮麗な建築装飾を紹介します。宮殿の壁面にアラビア書道で刻まれたアラブ詩にも注目してみます。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
9	僕は日本にいます～アラブの青年ハーニーさんの生活～	今回は定冠詞と形容詞を学習します。定冠詞、名詞、形容詞で文を作る基本を学びます。スキットは放送大学本部のある幕張（千葉県）が舞台です。 【サカーファ】カイロ在住のエジプト人青年ハーニーさんの生活を、職場の様子を中心に紹介します。エジプトの人々はどのような日常を過ごしているのでしょうか。	同上	同上
10	僕の家族はベイルートにいます～家族の絆～	家族を紹介する基本フレーズを学びます。接尾人称代名詞も導入し、自分の家族を紹介する練習もします。スキットは、地中海沿岸の美しい景色をもつレバノンの首都ベイルートへ舞台を移します。 【サカーファ】エジプトの一家族を訪問します。アラブの家族の絆の強さと互いの思いやりの深さを感じてみましょう。	同上	同上
11	あなたの夢の国～結婚事情～	名詞＋名詞の形をとり、「～の～」という意味を表すイダーファの構造を学びます。スキットはレバノンと日本間の国際電話での友達同士の会話です。 【サカーファ】エジプトの人々に結婚観を語ってもらいます。インタビューを通じて、現代のエジプトの若者たちの夢と苦悩の一端を知ります。	同上	同上
12	幸運を祈っているわ！～アラブのテレビ局アルジャジーラ放送局～	今回は主に複数について学習します。アラビア語には語幹複数と語尾複数があります。反復練習でいろいろな単語の複数形を覚え、語彙力アップにも努めます。スキットは日本留学を希望する娘と母の会話です。 【サカーファ】日本の中東情勢報道でもおなじみの「アルジャジーラ放送局」カタール本局を訪問します。同局でのインタビューを通じて、その報道精神やアラブのメディアについて知ります。	同上	同上
13	私はアラブの小説を読むのが好きです～詩と小説～	いよいよ動詞です。まずは未完了形からです。動詞活用を繰り返し練習して、さまざまな動詞に応用できる力をつけます。今回は留学のための面接試験がスキットの場面です。 【サカーファ】アラブ古典文学と現代文学に詳しいエジプト人小説家を訪ねます。アラブ文学の魅力を語ってもらいます。詩を朗読していただき、アラビア語の美しい響きを味わいます。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
14	私の旅行かばんはどこ？～ヴェールの意味～	動詞完了形を学習します。各人称に対応する動詞の活用を繰り返し練習します。成田空港へ到着したアラブ人女性がスキットの主役です。 【サカーファ】イスラーム女性信徒のシンボルともいえるのがヴェール「ヒジャーブ」。エジプト、カタール、レバノンの女性たちにとってヒジャーブとは何かを探ります。	同上	同上
15	いつまでもみなさんがお元気でありますように～料理ともてなしの心～	最終回は指示代名詞を学びます。また、主な疑問詞と自己紹介の表現を学ぶことで、これまでの復習を行います。スキットは料理によるもてなしの場面です。 【サカーファ】アラブ料理で最もおいしいとされるレバノン料理やエジプトの大衆料理を映像によって味わいます。アラブ人がとても大切にするもてなしの精神を感じとってみましょう。	同上	同上

＝ 保健体育（‘０５）＝（TV）
－健康志向と競技志向の運動－

〔主任講師：　宮下　充正（東京大学名誉教授）〕
〔主任講師：　臼井　永男（放送大学准教授）　〕

全体のねらい

アメリカの大学における教養課程のカリキュラムの必須科目としてあった Health and Physical Education が「保健体育」という科目として、わが国の新制大学に導入されて以来、半世紀が経過した。その間、わが国では知育、徳育、体育といわれた中国語の“体育”に代わって、ヨーロッパ語の“スポーツ”という言葉が生活の中に広く定着し始めてしまった。

この講義では、そのような“スポーツ”という言葉の普及という現状を踏まえ、「保健体育」に「健康志向と競技志向の運動」という副題をつけて、身体運動にかかわる現代的問題を幅広く取り上げ解説することにした。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名	放送担当講師名
1	「健康志向型運動」と「競技志向型運動」	スポーツという言葉が普及されるにつれ、健康スポーツ、生涯スポーツ、障害者（アダプテッド）スポーツ、軽スポーツ、レクリエーショナルスポーツなど、さまざまな言葉がかぶせられて使われるようになった。本章では、例えば“歩く”という身体運動でも、散歩を“健康志向型運動”とみなし、競歩を“競技志向型運動”とはっきり区分するという立場に立って、両者のあるべき姿を解説するとともに、本講義の概要を紹介する。	宮下　充正（東京大学名誉教授）	宮下　充正（東京大学名誉教授）
2	外国のスポーツの歴史	それぞれの民族には、身体的能力を競い合う独自の伝統があった。これらの伝統的催事を紹介するとともに、古代オリンピックで行われたスポーツ、近代スポーツが発祥したヨーロッパのスポーツ、アメリカに渡って変貌したスポーツ、そして、巨大化した現代オリンピックに包含されるスポーツを、文化人類学的に解説する。	寒川　恒夫（早稲田大学教授）	寒川　恒夫（早稲田大学教授）
3	わが国のスポーツの歴史	明治維新以前のわが国においても、スポーツとは呼ばれなかったが技を競う身体運動が存在してきた。それらの特徴を紹介するとともに、その後明治時代に導入された欧米のスポーツが独自の形でわが国に定着してきた過程を解説し、それらがもたらした問題点を指摘する。	寒川　恒夫（早稲田大学教授）	寒川　恒夫（早稲田大学教授）
4	運動するからだのエナジェティックス	身体運動は、神経・筋系および筋・骨格系の働きによって発現される。その筋活動発現の機構と、筋活動を一定時間保持するためのエネルギー補給（呼吸循環系および代謝系）の仕組みについて解説する。	田畑　泉（国立健康栄養研究所部長）	田畑　泉（国立健康栄養研究所部長）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名	放送担当講師名
5	体力向上の条件ートレーニングの原理ー	体力とは、からだが外部に働きかける能力であり、継続時間が長いときに発揮される“ねばり強さ”と瞬発的に発揮される“力強さ”とに大別される。トレーニングとは、運動するという生理的負荷をからだにかけて、体力を向上させることを意味する。“ねばり強さ”は、エアロビック・エクササイズとアネロビック・エクササイズとによって、“力強さ”はレジスタンス・エクササイズによって向上がはかられる。これらの生理学的背景と具体的方法を解説する。	臼井　永男（放送大学准教授）	臼井　永男（放送大学准教授）
6	運動するからだのバイオメカニクス	バイオメカニクスとは、生命を意味する bio と、力学を意味する mechanics とが合成された言葉である。身体運動の遂行に当たって、からだの大きさ、重さ、あるいはまた、使用する用具（ボール、ラケットなど）の大きさ、重さとの力学的関係が合目的的であることが望ましい。ここでは代表的身体運動をいくつか取り上げ、力学的にみて合理的な働きについて解説する。	平野　裕一（国立スポーツ科学センター主任研究員）	平野　裕一（国立スポーツ科学センター主任研究員）
7	運動技能向上の条件ー練習の原理ー	脳・神経系のネットワークの働きによって調節される身体運動は、反射動作、自動動作、随意動作とに分けられる。そして、反射動作を除いて、脳・神経系のネットワークは練習によって変化し、運動技能が向上する。その変化がパフォーマンス(運動成果)として、どのような形で表出されるかを解説する。	平野　裕一（国立スポーツ科学センター主任研究員）	平野　裕一（国立スポーツ科学センター主任研究員）
8	運動実践と“こころ”との関連	“あがり”と呼ばれることがあるように、身体運動の遂行にあたって、こころの状態はそのパフォーマンスに大きく影響を与える。また、定期的な運動実践が認知能力など高次神経活動に好ましい影響をもたらすことが明らかにされつつある。身体運動は、脳・神経系のさまざまなネットワークを動員して外部へ働きかけ、同時平行して脳・神経系は外部からの情報を受容し活性化される。これら身体運動と高次神経活動との関連を、さまざまな研究成果を紹介しながら解説する。	宮下　充正（東京大学名誉教授）	宮下　充正（東京大学名誉教授）
9	成長を促進させる運動実践	スポーツに熱中する子どもでは、運動のやり過ぎによって引き起こされる障害が多く見られ警告が発せられている。この点について、いくつかの事例を紹介する。他方で、一般の子どもに見られる運動不足が、からだの成長を阻害していることは明らかである。“たくみさ”、“ねばり強さ”、“力強さ”の発達を促がすために、年齢に応じた適切な運動実践が必要であることを解説する。	臼井　永男（放送大学准教授）	臼井　永男（放送大学准教授）
10	運動不足を解消する運動実践	生活習慣病と呼ばれる異常は、機械化、省力化によってもたらされた運動不足が主たる原因の１つと考えられる。すでに、多くの中年はそのことを知って運動を実践し始めているが、必ずしも適正でない場合が見られる。ここでは、いくつかの縦断的研究を紹介しながら、中年にとっての好ましい運動実践の方法を提示する。	田畑　泉（国立健康栄養研究所部長）	田畑　泉（国立健康栄養研究所部長）
11	社会的弱者と運動実践	社会的弱者と呼ばれる子ども、女性、高齢者、障害者は、ともすれば運動・スポーツとは疎遠な存在であった。しかし、運動の科学がもたらした知見は、女性の更年期障害を軽減し、高齢者の老化を抑制し、安全な用具や施設の開発を促進させた。また、ベテランズ、マスターズ、パラリンピックなどの競技会は、社会的弱者に対する従来の社会的偏見を消失させた。ここでは、社会的弱者との融合を踏まえ、それぞれに適した運動実践の方法を提示する。	海老原　修（横浜国立大学教授）	海老原　修（横浜国立大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名	放送担当講師名
12	スポーツ用具と運動施設	スポーツが盛んになると、それぞれに必要とされる用具の開発が要求される。スポーツの用具メーカーは、その要求に応じられるように用具に改良を加える。いくつかのスポーツ用具を選び、製造と販売という観点から解説を加える。他方でわが国の運動施設の整備が進行しているが、「健康志向型運動」用なのか、「競技志向用型運動」用なのか明確でないため、結果的に双方が使いづらく、余分な経費がかかる場合が多くみられる。運動施設の構造とその運営のあり方を解説する。	間野　義之（早稲田大学准教授）	間野　義之（早稲田大学准教授）
13	スポーツ・運動関連公益法人	わが国では、「健康志向型運動」は厚生労働省が、「競技志向型運動」は文部科学省がそれぞれ主導するという、縦割り行政が続いている。そして、それぞれの省が認可する公益法人が両省の外郭団体として細かい行政指導の役割をはたしている。本章では、代表的な公益法人である（財）健康体力づくり事業財団、（財）日本体育協会、（財）日本オリンピック委員会を取り上げ、その活動状況を紹介するとともに、問題点を指摘する。	間野　義之（早稲田大学准教授）	間野　義之（早稲田大学准教授）
14	総合型地域スポーツクラブ	わが国の学校に所属するスポーツクラブ、そして企業が支援するスポーツチームは、これまでのような機能を果せなくなって、文部科学省は“総合型地域スポーツクラブ”という名称の下に、スポーツクラブのあり方を、根本的に見直す施策を提案した。すでに、いくつかのモデルクラブが指定され、活動が始まっている。それらの事例を紹介しながら、地域に根ざした総合型スポーツクラブのあり方を論じる。	海老原　修（横浜国立大学教授）	海老原　修（横浜国立大学教授）
15	望まれる運動実践－米国を参考にして－	人工物に取り囲まれて生活する21世紀は、多くの人たちにとってからだとこころの健康の保持増進のための適当な運動実践は不可欠である。歴史的背景と運動生理学的知見に基づき、スポーツの先進国である米国の実体を参考にして、わが国での望まれる運動実践について提案する。	宮下　充正（東京大学名誉教授）	宮下　充正（東京大学名誉教授）

＝ 表象としての日本（‘０４）＝（TV）
― 西 洋 人 の 見 た 日 本 文 化 ―

〔主任講師：柏倉　康夫（放送大学教授）〕
〔主任講師：山内　久明（了徳寺大学副学長）〕

全体のねらい

明治以来、西洋人が見て読み解いた日本文化の表象は、同時代の政治的・経済的な力関係と、西洋世界にとっての文化的「外部」が発散する幻惑とが複雑に入り混じって、従来の日本人が自らの文化について抱いてきた表象とは大いに異なる表象を、しばしば新しい価値として打ち出してもきた。わかりやすい例で言えば、江戸時代の美の一つの凝縮でもあった日光を貶めて、桂離宮のみを日本美の精髄とする視線である。

こうして、西洋人の「眼差し」を通して形作られてきた「近代と伝統との文化的重ね絵」は、現代の日本人論にもさまざまなレベルでその痕跡を残している。「表象としての日本」を分析することは、日本人論の歴史的な系譜学としても、また現代の日本人がみずからについて抱く表象を批判的に捉え返すためにも、きわめて有効な作業であり、また、学際的なチームワークによって始めてその成果を挙げうる研究であって、本学の主題科目として相応しいと考えられる。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	表象としての日本	本主題の意味。比較文学・比較文化、異文化交流、国際社会論、表象文化論、諸外国における日本研究の系譜学等、「表象としての日本」がどのようなものであり、どのように形成され受容されたか。研究史と現在における問題提起。	柏倉　康夫（放送大学教授） 阿部　齊（放送大学名誉教授） 山内　久明（了徳寺大学副学長）	柏倉　康夫（放送大学教授） 阿部　齊（放送大学名誉教授） 山内　久明（了徳寺大学副学長） 司会 渡邊　守章（放送大学名誉教授・演出家）
2	先駆的まなざし（1）―アーネスト・サトウ	幕末から明治にかけて外交官としても足跡を残した欧米日本学の先駆者アーネスト・サトウの日本像。	山内　久明	山内　久明
3	先駆的まなざし（2）―ルイ・クレットマン	明治９年に創設間もない士官学校の教師として赴任したフランス人は理工科大学校を卒業した俊英であったが、２年間の滞在中に多くの写真、書簡、文書を残し、かつそれが近年発見されるという、世界に向かって開かれようとしていた明治日本の貴重な証人である。フランス人の目が読み解いた日本とはどのようなものだったのか。	柏倉　康夫	柏倉　康夫
4	先駆的まなざし（3）―ラフカディオ・ハーン	近代日本を知った欧米人の中でも、ラフカディオ・ハーンは特権的な位置を占める。アイルランドとギリシャという二重の文化的記憶を担って日本を固有の表象世界として書き表したからである。それらの言説は、ある意味では近代ヨーロッパにおける日本論のパラダイムを提供しているとも言える。（日本語字幕対応）	ジョージ・ヒューズ（東京大学元客員教授）	ジョージ・ヒューズ（東京大学元客員教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	１９世紀における東洋と日本－オリエンタリズムからジャポニズムへ	日本とその文化が西洋世界の地平に出現したのは、１９世紀という西洋世界の文化にとっても大きな変革期に当たっていた。近年サイードの名著「オリエンタリズム」によって開かれた新しい文化研究の視座と手法は、「表象としての日本」を読み解く上でも基本文献である。 単なる「美的趣味」のトポスを越えて、近代西洋世界における「日本の表象」の系譜学を企てる。	稲賀　繁美（国際日本文化センター教授）	稲賀　繁美（国際日本文化センター教授） ゲスト 渡邊　守章
6	表象としての日本音楽	19世紀後半以降、日本の音楽が西洋社会でどのように表象されてきたかを、学術的な記述を出発点にして考える。また、箏・三味線・尺八の演奏家の協力を得て、1901年以降に録音された音楽と五線譜に採譜された音楽を、表象の具体例としてふたたび音にする。	徳丸　吉彦（お茶の水女子大学名誉教授）	徳丸　吉彦（お茶の水女子大学名誉教授）
7	ハナコと貞奴の日本―身体の表象	絵画・骨董や音楽とならんで、いや場合によってはそれ以上に、西洋人の視線を捉えたのは日本人の「身体」であった。観光客の性的幻想の焦点としての肉体とは別のトポスで、演技する身体が西洋人に及ぼした幻惑とその結果を、ロダンを捉えた「ハナコ」と、日本の舞台表象として始めて認識された貞奴の場合に焦点を当てて分析する。	柏倉　康夫	柏倉　康夫
8	アーサー・ウェイリーあるいは理想化された平安朝文化	日本文学の紹介と翻訳の始まりを、イギリス人のアーサー・ウェイリーに焦点を当てて考察する。そこには、原典に忠実な翻訳か、一般読者にも受け入れられる翻訳かという古くて新しい「翻訳論」もたちはだかるだろう。謡曲の翻訳としては、ほぼ同時代にフランス語のノエル・ペリーの金字塔的訳業があるわけだから、これは外国文学を受容する側の文化や文学の記憶とも関わるだろう。	山内　久明	山内　久明
9	ブルーノ・タウトという視線	「日光 vs 桂」という美術史と美学のパラダイムを発明したブルーノ・タウトは、欧米人が日本文化について抱く表象だけでなく、何よりも近代の日本人が日本の伝統美について抱く表象を決定してしまった。ブルーノ・タウトの研究者では世界的に第一人者であり、数年前の「ブルーノ・タウト展」の監修者でもあったマンフレッド・シュパイデル教授に講義をして頂く。（日本語字幕対応）	マンフレッド・シュパイデル（アーヘン工科大学教授）	マンフレッド・シュパイデル（アーヘン工科大学教授）
10	ポール・クローデル―詩人大使の日本文化論	大正年間に大使として東京に滞在した詩人・劇作家ポール・クローデルは、現在から見ても、日本文化の理解において、独創的であるとともに普遍的な視座を提出している。特に中国に１４年間滞在した経験の上に立って日本文化を読み解く作業は、この授業にとっても重要な鍵を提出するだろう。ほぼ同世代の考古学者セガレンとの対比や、後のバルトとの対照も必要である。	柏倉　康夫	柏倉　康夫 ゲスト 渡邊　守章
11	アンドレ・マルローの日本	１９５８年に文化大臣として来日したマルローは、既に戦前の１９３１年に日本を訪れている。かつての革命の戦士である小説家は、第二次大戦後はド・ゴール政権の文化政策の担い手として、その美術論や芸術観を制度の領域にまで押し進めた特権的な知識人である。中国文化との対比で「空想の美術館」の批評家が読み解く日本の表象を論じる。	柏倉　康夫	柏倉　康夫

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
12	アメリカにおける日本論の系譜	異文化や外国語の研究は、無償の知的な探究に従って行われるとは限らない。というのか、実に１９世紀末のヨーロッパがアジアに関心を抱くようになったのも、その植民地帝国としての戦略と無縁ではなかったのだ。第二次大戦中からのアメリカ合衆国における「日本研究」は、その意味で文字通りに「戦略的な」ベクトルに貫かれていた。アメリカの軍部は、対日軍事戦略立案のため、あるいは戦後の占領管理のために、文化人類学者などに日本研究を委託していた。ルース・ベネディクトの「菊と刀」がその嚆矢であったが、その後知日派知識人による日本論が相次ぎ、アメリカの対日政策にも強い影響を与えた。ライシャワーの「日本人」（１９７９）や「今日の日本人」（１９８８）などがその代表であろう。アメリカにおける日本論の多様化とそれらを貫く共通性とを共に論じる。	阿部　齊	阿部　齊
13	共和国から見た天皇制	日本とアメリカのもっとも大きな相違点は、アメリカが純粋な共和国であるのに対して、日本が伝統的な天皇制の影響を強く受け続けていることである。昭和天皇の没後、天皇制そのものを対象とした労作が相次いで出版された。ノーマ・フィールド、ジョン・Ｗ・ダワー、ハーバート・Ｐ・ビックス等の最近の天皇制論を取り上げて、共和主義者の描く天皇像に迫る。	同　上	同　上
14	ロラン・バルトあるいは「虚構としての日本」	１９６０年代から７０年代にかけて、フランスを中心に大きな影響力を持った思想的潮流に「構造主義」があった。文芸批評におけるその代表者、ロラン・バルトは、１９６６年に始めて来日して、日本文化の虜となった。みずから「虚構としての日本」を論じたと言う。「表徴の帝国」を始めとする晩年の著作は、幻想の日本を自らの「言説生成」の戦略拠点としつつ、同時に、多くの読者に日本文化解読の鍵を与えてきた。バルトの日本文化論の系譜学を企てることで、「西洋における日本の表象」の生成装置を分析する。	稲賀　繁美	稲賀　繁美
15	欧米における日本研究の系譜と現在	欧米における日本研究は、既に１世紀以上の歴史を持つ。日本を研究対象とする専門家の研究が、どのような領域を特権視し、どのような手法に基づいているのか、他の文化研究との対比において現状を明らかにする。	柏倉　康夫 阿部　齊 山内　久明	柏倉　康夫 阿部　齊 山内　久明 司会 渡邊　守章

＝　情報と社会（‘０６）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：　柏倉　康夫（放送大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：　林　敏彦　（放送大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：　天川　晃　（放送大学教授）〕

全体のねらい

デジタル技術と情報通信技術（ICT）が可能にする高度情報社会は、社会生活のさまざまな局面に大きな変化をもたらしつつある。この講義ではICTが及ぼす経済、産業、個人生活、公共政策、都市、ポップカルチャー、教育、子ども、福祉などへの社会的インパクトについて、多くの専門家が分野横断的に講義することによって、高度情報社会の光と影について理解を進め、新しい技術を人間の幸福に役立てるための方策について考えることを目的とする。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	人・社会・技術	人類の誕生以来、人間と情報環境との相互作用は続けられてきた。情報通信技術の進展は社会のあり方を変えるのみではなく、人間そのものをも変える契機を宿しているのであろうか。	林　敏彦（放送大学教授）	＜ゲスト＞東倉　洋一（国立情報学研究所教授）
2	ユビキタス情報社会	通信技術とデジタル技術が可能にするユビキタス情報社会とは、どのような社会なのだろうか。経済、政治、教育、文化、生活などはどう変化し、社会はどのような潜在的な課題に直面するのだろうか。	林　敏彦（放送大学教授）	＜ゲスト＞今川　拓郎（総務省総合通信基盤局企画官）
3	情報化と消費	情報財・サービスの消費がなぜ増大するのか、その現状と可能性について、主として消費者の側から考察する。家庭内への「情報機器の普及」などの家庭への情報化浸透現象の要因と問題点を展望する。	坂井　素思（放送大学准教授）	坂井　素思（放送大学准教授）
4	情報と消費社会	情報メディアは、人びとの消費行動をどのように変化させてきたか。消費社会のなかで、情報はどのように人びとと物財・サービスを結び付けてきたか。通信販売、ネット販売などを取り上げたい。	坂井　素思（放送大学准教授）	坂井　素思（放送大学准教授）
5	情報経済の構造	高度情報化社会において、市場の機能はどのような影響を受けるのであろうか。ネットワーク効果、デジタル・コンテンツ市場の問題などについて考える。	林　敏彦（放送大学教授）	林　敏彦（放送大学教授）
6	情報と民主主義	情報技術の発達が、民主的決定に与える影響を考察する。直接民主政と間接民主政をめぐる議論をとりあげ、決定、討議、知識といった政治的判断の諸要素を再考し、情報社会における「討議的デモクラシー」の可能性をさぐる。	山岡　龍一（放送大学准教授）	山岡　龍一（放送大学准教授）

7	情報の保存と利用	情報の保存と将来の利用を行うための制度としてアーカイブズがある。国立公文書館や自治体その他のアーカイブズの事例を中心に、日本における情報の保存と利用に関する現状と問題を検討する。	天川　晃（放送大学教授）	天川　晃（放送大学教授）
8	プライバシーと個人情報保護	情報化社会の進展に伴い個人情報保護の必要性が強く認識されるようになり、わが国においても「個人情報の保護に関する法律」が制定されるに至っている。情報化社会におけるプライバシーと個人情報保護のあり方を考える。	砂押以久子（立教大学講師）	砂押以久子（立教大学講師）
9	企業の情報管理をめぐる法律問題	企業の情報管理には、さまざまな局面があるが、なかでも、従業員の個人情報の取扱いに関する問題、企業情報の従業員による漏洩・通報などの問題を取り上げ検討する。	砂押以久子（立教大学講師）	砂押以久子（立教大学講師）
10	情報と都市	情報化の進展は、空間的に離れた都市に暮らす諸個人間の社会関係の形成・維持を促した。その反面、地域社会に暮らす人々の中に格差と社会的距離を生み出した。情報化が都市社会にもたらした変化とその意味を、社会地図も援用しつつ明らかにする。	浅川　達人（明治学院大学教授）	浅川　達人（明治学院大学教授）
11	グロス・ナショナル・クール	日本のポップカルチャーは歴史的伝統と都市中産階級に根ざし、デジタル技術を得て国際的に注目されている。歴史上初めてクールな（カッコいい）国とされる日本のコンテンツ政策について考える。	中村伊知哉（慶應義塾大学教授）	中村伊知哉（慶應義塾大学教授）
12	子どもの創造性	デジタル技術とインターネットは、子どもたちの学習および表現環境に大きな影響を及ぼしている。新しい表現方法を見につけた子どもたちは、どのような想像力を発揮するだろうか。いくつかのワークショップの実践を通じて考える。	中村伊知哉（慶應義塾大学教授）	中村伊知哉（慶應義塾大学教授）
13	通信と放送の融合	地上波デジタル放送が始まり、通信と放送の融合が本格化する中で、社会生活にはどのような変化が生まれ、情報政策の課題はどのように変化するのであろうか。遠隔教育の新しいモデルの可能性についても考える。	柏倉　康夫（放送大学教授）	柏倉　康夫（放送大学教授）
14	情報と思想	電子信号としての情報は、人間の脳によって認識され、解釈されて知識となり、肉体に深く浸透して思想となる。今日、情報は物質、エネルギーと並んで社会を動かす要素となった。情報の社会的意味を問う。	柏倉　康夫（放送大学教授）	柏倉　康夫（放送大学教授）
15	情報社会の未来	それぞれの立場から高度情報社会の光と影について分析し、情報社会の未来へ向けての、技術、制度、経済、文化、国際関係などのガバナンスのあり方について討論する。	柏倉　康夫 林　敏彦 中村伊知哉	柏倉　康夫 林　敏彦 中村伊知哉

＝　生活の動態と経営（‘０５）＝（Ｒ）

〔主任講師：奈良　由美子（放送大学准教授）　〕
〔主任講師：石川　實　（奈良女子大学名誉教授）〕

全体のねらい

この授業では、社会の枠組みの変化が、生活の枠組み（＝生活システム）をどのように変容させ、ひいては個人にどのような影響を与えるか、そして個人は生活を通じて社会をどのように変容させるかをおさえながら、生活システムの構築としての生活経営について考える。全体として、大きな社会のなかの部分として位置づくひとりひとりの生活主体が、全体への影響を勘案しつつ個性豊かな生活を創るための手がかりとできるような内容にしたい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	生活の主体として生活を経営する	人間は誰しも生活する主体（＝生活者）である。生活者は個人として、家族の一員として、地域社会の一員として、さらにより大きな社会単位の構成員として生活を構築している。ここでは、人間にとっての生活の意味、生活の構成要素、生活経営の意義と方法について、その基本的概念をおさえる。	奈良由美子（放送大学准教授）	奈良由美子（放送大学准教授）
2	生活と文化・価値	文化や価値は、われわれの生活において、あたかも最初からそこにあったかのように意識されることが多いだろう。しかし、こうしたものは、実はわれわれが 生活していく中で常に創出・再生産・改訂されている。ここでは、そのプロセスがどうなっているかについての社会学的説明をふまえながら、個人と文化の関係について考えていく。	伊勢田哲治（名古屋大学准教授）	伊勢田哲治（名古屋大学准教授）
3	生活と倫理	倫理もまた生活の中で創出・再生産・改訂されていくが、社会を運営するための基本ルールとしての側面は時代や社会をこえて共通する。ここでは倫理学の知見をふまえながら、基本的な倫理原則としてどういうものがあると考えられているのか、それを生活の中で生かし、より豊かなものにしていくにはどうしたらよいか、ということについて考えていく。	伊勢田哲治	伊勢田哲治
4	生活の経済と生活設計	自己決定・自己責任が求められる現代社会。家計における妻と夫の経済関係を例に、個人が限りある生涯に主体的に生活設計をし、個性的な自分の可能性を表現しつつ、交換という市場経済システム以外の贈与・家族内の資産移転など自助・共助の生活選択により、新しい共同を形成する可能性を探る。	上村協子（東京家政学院大学教授）	上村協子（東京家政学院大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	生活と情報	個人が家族、地域、社会と関わる過程では、つねに情報のやりとりが発生している。情報は重要な生活資源となると同時に、生活者の価値観を形成する。生活者は、個々の具体的生活のなかで、多種多様な情報をどのように利用し生活を構築しているのか、その実態と課題について考える。	奈良由美子	奈良由美子
6	生活と時間	個人の生活時間は、社会における貨幣との関係で細切れに分断されてきた。生活時間の実態をもとに、生涯を過去・現在・未来と継続し一貫性のある個人の歴史として捉え、また、他者と時を共に過ごすことにより、生活の時間に広がりと重層性が創造され、さらには次世代へと繋がる生活システムを考える。	上村　協子	上村　協子
7	生活における職業・趣味	「仕事か遊びか」、「労働か余暇か」といった2分法により狭く押し込められた生活選択から脱却し、生活の糧を生産する新しい職業のあり方や、自発的な人と人の支えあいにより、確実な生活の拠点が形成され、また生活の場の境界線が緩やかに広がる生活の枠組みを探求する。	上村　協子	上村　協子
8	生活と安全行動	人間生活の営みは、安全を脅かすリスクを伴うものでもある。生活経営の安定を阻害する生活リスクについて、その本質や発生のメカニズムおよび現代生活のリスクの特徴を示すとともに、生活リスクを管理することの意義と手法を考える。	奈良由美子	奈良由美子
9	生活の基本単位の変化：世帯と家族	生活の基本単位としての世帯・家族について考える。次いで家族の本質を考え、親族のなかにおける家族の位置づけと家族そのものの変化について眺める。さらに家族の形態変化や現代における多様性とその背景についても考える。	石川　實（奈良女子大学名誉教授）	石川　實（奈良女子大学名誉教授）
10	生活の共同（その1）：家族の機能とその変化	家族成員や社会から家族というまとまりに期待されるのは、どのような働きか。伝統的家族の機能と現代家族の機能的縮小状況を眺め、生活の基本単位としての家族の機能縮小と潜在的機能ストレスを考察し、現代家族の脆弱性について考える。	石川　實	石川　實
11	生活の共同（その2）：家族成員の果たす役割と家族の関係	「機能」と「役割」の概念の違いを考えたうえで、家族内の地位と役割分担とその変化を眺め、家族内における意思決定の仕方の変化を考える。次いで、夫婦の関係の特性と現代的変化について考える。	石川　實	石川　實

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	家族・家族成員の生活：家族と個人の発達の視点からみた現代的特徴	家族と個人の双方の発達過程を追究する視点に立ち、家族の発達過程に現れた現代的ステージ（「エンプティ・ネスト」）とその課題、個人の発達過程に現れた現代的ステージ（「中年期」）とその課題について考え、家族の発達上の課題と個人としてのおとなの課題を考える。	石川　實	石川　實
13	家族生活と高齢化・少子化	わが国における高齢化と少子化が現代の社会と家族にどのような影響を与え、家族生活や個人の生活がどのように変化しているかを考え、個々の家族的課題と社会的課題を考える。	石川　實	石川　實
14	環境創造と生活経営　―地域と生活―	様々な生活課題の遂行の過程にあっては、自助・公助・互助・共助の体系が深く関わる。生活者は、それらの受益者であると同時に、生活資源環境を創造する主体でもある。地域社会のありかた、NGO・NPOまたボランティア活動等にも触れながらここでは生活の空間的な拡がりのなかでの生活経営の展開を探る。	奈良由美子	奈良由美子
15	次世代の生活主体の育成と生活経営　―持続可能性と生活―	生活経営のありようは、当該生活主体およびその時点での相互作用の相手だけに関係するのではない。次世代、次々世代の生活にも深く影響を及ぼす。国際的視点をふまえながら生活の時間的な拡がりのなかで持続可能な生活経営の展開を探る。	奈良由美子	奈良由美子

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	専門科目	科目コード	1511009	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 家族のストレスとサポート （’０８）＝ （R）

※この科目は「家族のストレスとサポート（’04）」を一部改訂した科目です。
改訂回は1，13，15回です。

〔主任講師（現職名）：石原　邦雄（成城大学教授）〕

講義概要

家族が大きく変化しつつあり、家族の捉え方も多様化しているなかで、ストレス論による家族のさまざまな局面を見ていく。それらの分析をふまえて、これからの家族像を多面的に描いてみる。

授業の目標

今日の家族の問題を、ストレスという観点から捉えなおし、家族の抱える困難や、直面する危機状況への対処の過程を検討するとともに、困難の克服あるいは危機の予防に働く各種のサポートのあり方を考える。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	家族への着目と社会学からの接近（※改訂回）	不況は脱したとされながら、各種の「格差」は拡大しているとも言われ、また国民的目標も拡散する中で、新しい世紀は不安な幕開けとなっている。人々は、家族を拠り所としようとするが、家族自体も変化し多様化しており、これもまた人々の不安材料になっている。家族の問題性を、社会学ではどのように捉えようとするのか。	石原　邦雄（成城大学教授）	石原　邦雄（成城大学教授）
2	ミクロ社会システムとしての家族	家族は、制度として、集団として、二者関係の複合として、さらには個人の意識や認知の次元など、様々なレベルで捉えられる。またこれを、動態的に捉える場合でも、社会全体の中での家族のあり方の変化、家族が示すある種の発達的・規則的な変化、さらには困難を抱えた家族が個別のケースとしてたどる変化過程など、様々な捉え方が錯綜することになる。これらを整理しておこう。	同　上	同　上
3	ストレス研究の諸概念	ストレス研究の諸概念（ストレッサー、ストレス、ディストレス、資源、対処など）を説明する。ディストレスの社会的パターンについて論じ、ストレッサーとしての家族、サポート源としての家族について説明する。	稲葉　昭英（首都大学東京准教授）	稲葉　昭英（首都大学東京准教授）
4	ネットワーク論からみた家族関係	ネットワーク論の基本的考え方を示し、家族関係とそれ以外の人間関係ネットワークとの関連を論じる。とくに、サポート資源とストレス源、あるいは機会と拘束というネットワークの二面性に焦点をあてる。	野沢　慎司（明治学院大学教授）	野沢　慎司（明治学院大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	ネットワークとサポート	育児する母親や父子家庭の父親などを対象にした研究例を紹介しながら、ネットワーク構造が個人の心理的な安寧にどのような効果を及ぼすかを検討する。最近のインターネット普及の社会的意義についても触れる。	野沢　慎司	野沢　慎司
6	家族ストレス論の形成	ストレスモデルの家族への適応としての家族ストレス論とはどのようなものであり、どのような背景の中で成立してきたのか。R. ヒルを中心とした、理論の形成を辿る。	石原　邦雄	石原　邦雄
7	家族ストレス論の展開	ヒルの家族ストレス論を継承発展させた、H.I.マッカバンの2重ABC・Xモデルを中心に解説し、併せて、これと異なる理論化の方向にも注目する。	同　上	同　上
8	自然災害の被災者家族	家族ストレス研究で早くから取り組まれ、日本でも各種の研究が行われている自然災害の例を中心に、多くの家族を巻き込む地域的な環境の急変にさらされた事態における家族の様相と対応形態について検討する。	同　上	同　上
9	難病・障害と家族の危機	家族メンバーの一人が回復の困難な難病や障害を持つことになった場合、家族は最も身近かな援助者、扶養者としてどのようにしてその困難に対処していくか。多くの研究例を見ながら考える。	同　上	同　上
10	経済的危機と家族	これも家族ストレス論の成立に関連の大きかった、世界大恐慌のもとでの家族生活の困難と、それへの対応過程について、G.H.エルダーの研究例を紹介するとともに、近年の不況とも重ね合わせながら見ていく。	同　上	同　上
11	結婚とディストレス	・婚姻上の地位とディストレスの関連を検討することで夫婦関係が男性にとって持つ意味と女性にとって持つ意味の差異を論じる。 ・配偶者からのサポートの性別非対称的な構造について論じる。	稲葉　昭英	稲葉　昭英

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
12	仕事と家庭の葛藤と調整	・育児期の女性のディストレス、学齢期の子を持つ時期の女性のディストレスに着目することで家族と職業の関連を考える。 ・crossover effect, spill over effectに関するアメリカの研究を紹介し、職業生活と家族生活がどのような関連にあるのかを考える。	稲葉　昭英	稲葉　昭英
13	ステップファミリーのストレスとサポート （※改訂回）	継親子関係を含む再婚家族（ステップファミリー）が日本でも増加していると推測される。血縁関係のない継親子関係、継きょうだい関係を意識的に構築しながら家族をつくることの困難とサポートの意義を探る。	野沢　慎司	野沢　慎司
14	親子関係のライフコースとストレス	家族規範が揺らぐなかで、なお多くの家族が高齢者の扶養を実際に担っており、世代間の扶養関係は、親族関係も巻き込んで家族生活上の困難を生じさせる大きな問題であり続けている。他方、初期の親子関係や青年期・中期の親子関係にも新たな問題が生じている。	石原　邦雄	石原　邦雄
15	家族する困難と家族の将来 （※改訂回）	家族が大きく変化しつつあり、家族の捉え方も多様化しているなかで、ストレス論による家族分析をふまえて、これからの家族像をどのように描けるだろうか。	同　上	同　上

＝　人口減少社会の生活像（‘０６）＝（Ｒ）

〔主 任 講 師（現職名）：宮本　みち子(放送大学教授)〕

全体のねらい

ポスト工業化、経済のグローバル化、少子・高齢化などの社会変動は、人々の生涯、地域社会、仕事の世界を秩序づけてきた構造を大きく変えつつある。なかでも人口増加社会から人口減少社会への転換、および成長型社会から定常型社会への転換は、これまでとは異なるインパクトを与えるであろう。その実態を、とくに世代とジェンダーという切り口から明らかにし、これからの暮らしと社会の新しい地平を展望する。

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
1	変動する社会の生活像	少子・高齢化、人口減少への転換という現象に着目しながら、現代社会の動向を整理する。また、半世紀にわたる暮らしの変遷を整理し、現代における暮らしを、家族・世代・ジェンダーという切り口で概観する。	宮本みち子（放送大学教授）	宮本みち子（放送大学教授）
2	少子・高齢社会のライフコース	近年の社会変動が、人々のライフコースにどのような影響を及ぼしているかをみていく。また、主体性と選択性という価値観が重要性を帯びているが、人々のライフコースにおいてそれがどのように発揮され、あるいは阻害されているのかを検討する。	宮本みち子（放送大学教授）	宮本みち子（放送大学教授）
3	個人と家族	人々の暮らしにとって、家族は重要な構成要素となっている。しかし家族の変化は著しく、これまでの暮らしの前提の見直しが必要とされている。そこで家族の実態とその歴史的変化を整理する。とくに、近年の労働力の女性化、非婚化、少子・高齢化、性役割構造の変化などを中心に、家族をめぐる状況変化を概観する。	宮本みち子（放送大学教授）	宮本みち子（放送大学教授）
4	親子と世代	子どもを産むこと、育てることをめぐる意識と行動の変化を家族というレベルでみていく。また、長寿化と少子化が進むなかでの老親のケアをめぐる意識と行動の変化についてもみる。また、人口構造および産業構造の変化のなかで世代間関係の実態をみていく。	宮本みち子（放送大学教授）	宮本みち子（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	仕事の世界と働き方	少子・高齢化や国際競争の激化するなかで、労働市場は激しく変化している。終身雇用制の崩壊、中高年者のリストラ、若年者の無業化やフリーター化、女性の就労化などがその例である。仕事の世界の変化は世代・階層・ジェンダーごとに、その暮らしとライフコースに大きな影響を及ぼしつつある。また、職業という形態をとらない有益な仕事の重要性も増している。これらの実態を整理し、これから時代の仕事と働き方を展望する。	宮本みち子(放送大学教授)	宮本みち子(放送大学教授)
6	仕事と家庭	少子化・高齢化にともなう社会の構造的変化は、(第1回から5回までで見てきたように)、家族と労働の場を貫くジェンダー関係の変化を促している。そこで、日本よりも早くからゆっくりと人口構造の高齢化を経験してきているヨーロッパの社会政策から、男も女も仕事も家庭もバランスよく生きられる社会へのヒントを探っていく。	舩橋 惠子(静岡大学教授)	舩橋 惠子(静岡大学教授)
7	男性の育児参加	急激な人口構造の高齢化を経験しつつある現代日本社会では、実際に、どのようにジェンダー関係の変化が生じているだろうか。早くも変わりつつある部分と変わりにくい部分に注目しながら、私たちのライフコースや暮らしのあり方が変わっていくとき、男女はどのような問題に直面し、いかなる課題があるのかを見ていく。	舩橋 惠子(静岡大学教授)	舩橋 惠子(静岡大学教授)
8	若者期の生活像	ライフサイクルの各段階でライフスタイルは多様化し、それにともなう問題や課題がある。若者期に関しては、高等教育の大衆化、若年労働市場の逼迫と流動化、若者の職業意識の変化、晩婚化・非婚化が著しい。そこで、若者期の暮らしの実態と意識や行動の特徴を検討し、そこでの問題や課題を探る。	宮本みち子(放送大学教授)	宮本みち子(放送大学教授)
9	現役世代の生活像	現役世代を、前半期と後半期に分けてみていく。前半は30代から40代前半の家族形成期であるが、未婚者や離婚経験者も増加している。その実態と課題を総合的に探る。後半は40代後半から50代の中年期であるが、この世代の家庭、仕事、ライフスタイルの実態を述べ、そこでの問題や課題を探る。	宮本みち子(放送大学教授)	宮本みち子(放送大学教授)
10	向老期・高齢期の生活像	まもなく本格的な高齢社会に入るが、向老期と高齢期の実態を、家族、雇用、社会保障、福祉と医療,社会活動等の切り口でみていく。また、親子関係に焦点をあてて交差する世代間の関係性を検討し、家族、社会保障、地域社会において、既存の世代区分、対立を超えた新しい世代間共同を作る課題を検討する。	宮本みち子(放送大学教授)	宮本みち子(放送大学教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
11	人口減少と生活リスク	人口増加社会から人口減少社会への転換、および成長型社会から定常型社会への転換は、ハザードを多様化・増大化させ、生活リスクのあり方に影響を与える。ここでは、人口減少社会における生活リスクの特徴と実態を、生活経済、生活関係等の視点から考察する。	奈良由美子(放送大学准教授)	奈良由美子(放送大学准教授)
12	生活課題とリスクへの対処	人口減少社会における生活リスクへの対処は、人口増加社会そして成長型社会におけるそれとは異なるものとなるだろう。この回では、高度経済成長期以降の生活環境の変化とその中での生活課題の変遷を概観しながら、人口減少社会におけるリスクへの対処を含めた生活の課題について検討する。	奈良由美子(放送大学准教授)	奈良由美子(放送大学准教授)
13	人口減少と地域の変容	少子高齢化はグローバル化や情報化とあわさって大きなうねりとなり生活に影響を及ぼす。その動態のなかで、地域もまた変容していく。生活者にとって地域が果たしてきた、子育て・教育の機能、生活文化伝承の機能、安全確保・リスク管理の機能などが、人口減少社会においてどのように変わっていくのか、その実態と課題を考える。	奈良由美子(放送大学准教授)	奈良由美子(放送大学准教授)
14	地域の価値と生活の質	人口減少社会における社会システムの設計には、パラダイムの転換と新たな合意形成手法の確立が求められることになる。このとき、生活価値も生活状況も異なる複数の個人の生活の範域である地域は、合意形成の行われる最も身近な社会実態となる。人口減少社会における地域を考えることで、新たな社会設計を考える手がかりを検討していく。	奈良由美子(放送大学准教授)	奈良由美子(放送大学准教授)
15	人口減少社会の生活の創造	高度経済成長を支えた基礎的条件の消滅によって、この時期に形成され定着した社会制度、社会意識、ライフスタイルは、標準的とはいえなくなった。新しい社会モデル、生活モデルとはどのようなものか、そのためにはどのような課題があるのかを考える。	宮本みち子(放送大学教授)	宮本みち子(放送大学教授)

＝　衣生活の科学（‘０６）＝（Ｒ）

〔主任講師（現職名）：藤原　康晴（放送大学教授）〕

全体のねらい

私たちは衣服を習慣的に着用し、その構造や性質について特に意識することがなく取り扱っているが、衣服はさまざまな領域の科学技術と関連しており、それらの進歩が衣服の多くの部分に反映されている。衣服は、形態や色・柄のような顕在的品質と水分や熱の移動、伸縮性、縫製などの潜在的品質を有している。衣服購入の際には、前者が重視される傾向が強いけれども、後者も合理的な衣生活にとっては欠かすことができない。この科目では、衣服の材料、縫製、着心地、洗たく、染色加工、繊維製品のリサイクル等の各事項を科学的な視点から捉え、私たちのもっとも身近にある衣服に対する科学的理解を深めることをとおして資源や環境など生活にかかわる諸現象に対する科学的な思考、判断につなげたい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	衣服の品質と表示	衣服の品質は、色、柄、形態、縫製仕上げなどの審美的品質、着用快適性、取り扱いやすさなどの機能的品質、ブランド、原産国などの外在的品質に大別される。審美的品質は、表示がなくてもその衣服を見てあるいは触れて評価でき、外在的品質は表示を見れば明確である。表示があっても複雑なのが機能的品質であり、使ってみてはじめてわかる品質、使ってもわからない品質がある。これらの品質と表示について概説する。	藤原　康晴（放送大学教授）	藤原　康晴（放送大学教授）
2	衣服および生活関連繊維製品の素材	化学繊維は、それが製造されるようになった当初は、衣料品に用いられている天然繊維の代替品であったが、製造技術の進歩によってさまざまな特性を持つ化学繊維が出現し、衣服はもとより、寝装品、インテリア用品、産業資材などに多く用いられている。今日の快適な生活を支えているこれらの各用品にどのような性能を持つ繊維がどのように用いられているかを概説する。	同上	同上
3	染色と染料	染色とは、染料を溶媒(通常は水)にとかして(分散させて)、繊維に色素を定着させることである。単に色のついた水がしみ込むこととは違うし、ペンキを塗ったり、紙に印刷することとも全く異なる現象である。染料とはどういう物質で、染色とはどういう現象なのかを明らかにする。	牛田　智（武庫川女子大学教授）	牛田　智（武庫川女子大学教授）
4	縫製の科学と技術(1) ―縫い合わせるとはどういうことかー	複数枚の布をつなぎ止める方法には、布同士の融着や接着剤により布をくっ付ける方法（接着縫製）が開発されているが、布の柔軟性を損なわないで縫い合わせるには縫糸を用いたミシン縫製が最も適している。ここでは、その通常の縫糸を用いたミシン縫製に限定して、縫いの原理と基本的構造、ミシン機構を概説する。	鎌田　佳伸（実践女子大学教授）	鎌田　佳伸（実践女子大学教授）

5	縫製の科学と技術(2) －縫製上に発生する各種の問題－	ミシンで縫われた布は縫目の力学的強度や仕立て映えと言われる外観の美しさ、さらには縫い易さなどの消費性能を十分に満たさなければならない。その消費性能は一般に「可縫性」と呼ばれている。可縫性は、シームパッカリングを始めとする、地糸切れ、目とびなどの「縫いの不良現象」を評価する用語である。ここでは可縫性について概説する。	鎌田　佳伸（実践女子大学教授）	鎌田　佳伸（実践女子大学教授）
6	衣料サイズと表示	既製服に対する消費者の不満の一つはサイズである。メーカーは着用者別、体型別にいくつかのサイズの衣服を提供しているが、適合しない場合も少なくない。この実態を解説するとともに、衣料サイズの JIS 規格を成人女子用の衣服について説明する。さらに、身体の三次元計測技術の最近の進歩とその計測結果と連動させた個人対応の衣服生産システムの概要を説明する。	藤原　康晴（放送大学教授）	藤原　康晴（放送大学教授）
7	人の体温調節と衣服	熱帯地方などの極高温環境（+40~+50℃）であっても、冬山や極地などの極低温環境（－40~－50℃）であっても、人が健康に生活を営むには恒体温を維持する必要がある。約 100℃もの温度範囲の中で人はどのようにして恒体温を維持しているのだろうか。ここでは、衣服による温熱的快適性を実現するための基礎となる人体－環境系の放熱メカニズムと体内における産熱、自律性体温調節のしくみについて解説する。	諸岡　晴美（富山大学教授）	諸岡　晴美（富山大学教授）
8	衣服の着心地(1) －快適な衣服内気候の形成－	人の行動性体温調節の一つである衣服による体温調節の観点から温熱的な快適性を実現するためには、人体と衣服との間の気候（衣服内気候）を快適域に維持することが重要である。ここでは、環境条件と人体側の条件を踏まえ、衣服素材、衣服構造、着衣形態との関わりから解説する。また、温熱的快適性に関わる最近の新素材についても述べる。	同上	同上
9	衣服の着心地(2) －圧的快適性と身体拘束－	コルセットや纏足など歴史を辿ってみると、身体を拘束して健康を害した例が多々見られる。現代においても、女性用の補整下着による過度の締め付けが原因の症状を訴える女性が少なくない。一方、弾力靴下やスポーツウェアによる圧迫の効用も報告されている。ここでは、日常的に身に着ける衣服による圧迫が健康と快適性に及ぼす影響について解説する。	同上	同上
10	衣服の汚れを落とす界面科学の力	衣服についた油汚れは水になじみにくく、その除去には、水と油を混じり合わせる力を持った界面活性剤が用いられる。この界面活性剤はさまざまな種類と特徴的機能を持っている。開発されてきた歴史的背景を学び、洗浄機能を理解するために必要な界面科学の基礎知識を学ぶ。	田村　隆光（ライオン㈱化学品研究所所長）	田村　隆光（ライオン㈱化学品研究所所長）

11	洗たくに役立つ洗剤の知識	日々の暮らしに衣類の洗たくは欠かせない。全自動洗たく機の普及とともに、私たちは洗たく浴中で行われている現象への関心が薄れてきたことは否めない。しかしながら、市販の衣料用洗剤には役割に応じたさまざまな成分が配合されている。快適な衣生活に向けた洗剤における汚れおとしの工夫を学ぶ。	田村　隆光（ライオン㈱化学品研究所所長）	田村　隆光（ライオン㈱化学品研究所所長）
12	漂白・増白	洗たく後や、繊維製品の生産の前段階として、繊維を白くするための漂白と増白が行われる。いずれも白くすることであるがその原理は異なる。白いとはどういうことかにも触れながらその原理およびそこに使われている薬剤について概説する。また、漂白・増白に関するトラブル事例についても触れる。	牛田　智（武庫川女子大学教授）	牛田　智（武庫川女子大学教授）
13	洗剤の安全性の評価と環境への配慮	衣服の洗剤を含め、家庭用品は安全に安心して使用されることが大切である。そのために、市販される前に製品性能とともに、環境および人体安全性についても確かめられている。洗剤の環境動態と環境問題の経緯と現状について学ぶ。	田村　隆光（ライオン㈱副主席研究員）	田村　隆光（ライオン㈱副主席研究員）
14	染色物の消費性能	衣服を選ぶ場合、色やデザインといった外観がまず重要な要素であるが、その色が簡単に褪せたり、変色したりしては困る。変退色の起こる要因や原理に触れるとともに、変退色のしにくさの尺度である「堅ろう度」について述べる。また、染色品にかかわるトラブル事例についても触れる。	牛田　智（武庫川女子大学教授）	牛田　智（武庫川女子大学教授）
15	繊維製品リサイクルの現状と課題	持続的な発展を可能とする循環型社会を構築するために、生活資材の再商品化、再資源化の推進を図る容器包装、食品、家電、建設、自動車リサイクル法が制定されている。しかし、衣服をはじめとした繊維製品については、リサイクル法は制定されていない。このような状況にあっても、繊維製品の３R(リデュース、リユース、リサイクル)は推進しなければならず、この現状と課題について考える。	藤原　康晴（放送大学教授）	藤原　康晴（放送大学教授）

＝　服飾と心理（‘０５）＝（TV）

〔主任講師：　藤原　康晴（放　送　大　学　教　授）〕
〔主任講師：　中川　早苗（神戸ファッション造形大学教授）〕
〔主任講師：　伊藤　紀之（共　立　女　子　大　学　教　授）〕

全体のねらい

私たちは毎日ごく当たり前のように衣服を着用し，髪を整えたり，化粧をしたりという行為を繰り返している。本科目では，このような着る・装うという行為が，人間にとってどのような意味をもっているのか，社会の中でどのような役割を果たしているのか，服飾と人間の心理，社会とのかかわりを考える。ここで取りあげる服飾は，今日における服装，化粧だけでなく，過去の時代における服飾（パッチワークキルト，小袖，浮世絵など）も対象とし，その当時の社会情勢，人々の願い，心情とのかかわりを考察する。この科目の受講をとおして服飾と心理とのかかわりについての理解が深まり，快適で心豊かな衣生活につながることを狙っている。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	服飾の心理的作用	衣服をはじめ手袋や靴下，帽子や靴，アクセサリーなど身体につけるものを被服と称している。ここでは，被服とともに髪型や化粧，身体加工などを含めて服飾と定義し，服飾と当人とのかかわり，服飾と他者とのかかわりなど服飾の多様な心理的作用について具体例をあげて考える。	藤原　康晴（放送大学教授）	藤原　康晴（放送大学教授）
2	服飾への欲求・動機	被服には多くの機能があるが，「被服は人間の身体以上に人間の心を保護している」といわれているように，社会的・心理的機能が重視されている。今日，服装の個性化が進行しているとはいえ，実際の個々人の服装では，当人の個性だけでなく，他者の評価を推し量って決められることが多い。この視点から，いくつかの服装に関する規範を取りあげ，それに作用する要因を考えることをとおして服飾への欲求・動機について理解を深めたい。	同　上	同　上
3	服飾の知覚と心理	私たちはいつも服飾を介して他者とのコミュニケーションを図っている。つまり服飾を介してお互いに見る・見られる関係にあるために，服飾が知覚に及ぼす心理的効果について知ることは，自己表現や印象形成などについて考える上でも重要な手かがりとなる。ここでは，形態や色彩が知覚に及ぼす心理的効果について錯視の問題も含めて述べるとともに，服飾の構成要素である形態と色彩が知覚に及ぼす心理的効果について考える。	中川早苗（神戸ファッション造形大学教授） 伊藤紀之（共立女子大学教授）	藤原　康晴（放送大学教授） 中川早苗（神戸ファッション造形大学教授） 伊藤紀之（共立女子大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	服飾が感情におよぼす効果	視覚によって知覚された形態や色彩は，それまでの経験や知識などの記憶とともに見る人の感情に強く働きかける作用がある。ここでは，形態や色彩が感情におよぼす効果について述べるとともに，服飾の形態，色彩，テクスチャーが感情におよぼす効果とそれによって形成されるイメージについて考える。	中川　早苗（神戸ファッション造形大学教授）	中川　早苗（神戸ファッション造形大学教授）
5	服飾の着装と心理	私たちはその日の服装や化粧，髪型などによって，気分がうきうきと華やいだり，リフレッシュしたり，引き締まったり，安らいだりといったことを経験する。ここでは着装する服飾によってどのような感情や気分が生起するのか，また着装する服飾によって感情や気分がどのように変化するのかについて考える。	同　上	同　上
6	化粧の心理的効果	肌の色や瞳の色、口元や目鼻立ちなど顔の構造は、容易には変えることができないために，古くから化粧が用いられてきた。化粧による心理的効用には，対人魅力の向上，変身願望の充足，気分の高揚，自己満足など計り知れないものがある。ここではこのような化粧の心理的効果について考える。	大坊　郁夫（大阪大学教授）	大坊　郁夫（大阪大学教授）
7	服飾に対する認知	情報伝達には，主に言語が用いられるが，表情や身振り，服飾なども性や年齢，社会的役割，状況などに関連した情報を伝達する。ここでは，対象者の服飾の評価およびその服飾を手がかりとして認知される事柄を対象者と観察者の関係の既知，未知別にまとめ，それぞれの事柄について実験室的研究を基に，日常生活における服飾に対する認知の実際を加えて考察する。	藤原　康晴（放送大学教授）	藤原　康晴（放送大学教授）
8	服飾の流行と心理	服飾の歴史は流行の歴史といっても過言ではない。つまりかっては流行といえば服飾の流行をさすほど流行は服飾の世界において顕著に見られた現象である。ここでは，流行がなぜ服飾の分野において顕著にみられるのか，その要因について心理的な面を中心に紹介するとともに，戦後の日本における服飾の流行について，色彩と素材の面から考察する。	中川　早苗（神戸ファッション造形大学教授）	中川　早苗（神戸ファッション造形大学教授）
9	戦後ファッションにみる世相と心理	ファッションは時代を映す鏡であると同時に心を映す鏡でもある。私たちは服装史に登場する数々のファッションにその時代の社会や文化の状況をみることができるが，同時にその時代の人々の服飾に求める心理をうかがい知ることができる。ここでは，真の洋装時代が始まったわが国における戦後の服飾の変遷をファッションの視点から概観し，それぞれの時代のファッションが表現する心理的，社会的，文化的な意味について考える。	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
10	パッチワークキルト―開拓時代の心―	アメリカのパッチワークキルトは使い古された衣服の残り裂を利用して作られたベッドカバーである。そこには家族の歴史，地域社会とのつながり，生活の姿が読み取れる。また，切り継ぎされた布は過去の繊維と染料の実物であり，貴重な服飾資料である。キルトから開拓時代の諸相を考える。	伊藤　紀之（共立女子大学教授）	伊藤　紀之（共立女子大学教授）
11	寄せ裂と刺し縫い―古布，古裂にみる心情―	生前愛用した着物を解き，供養のために縫い合わされた打敷，生まれた子どもの成育を願い，端裂を集めて作られた百徳着物，端裂で作られた盆踊りの衣裳や五穀袋。厳しい生活から生まれたこぎんや刺子，刺しで補強された粋な火事羽織。それらをとおして人々の願い，心情を考える。	同　上	同　上
12	小袖ときもの―反映された女性の心―	江戸時代の武家女性の小袖・帷子，町人女性が着用したと考えられる打掛，公家女性の小袖・帷子，明治時代のきものへの移り変わり，それらの服飾資料をもとに，当時の女性の心を考える。	長崎　巌（共立女子大学教授）	長崎　巌（共立女子大学教授）
13	ファッションプレート―憧れと伝播―	豊かな衣への憧れが，繊維を中心とした産業革命を発展させた。技術の向上と生産の拡大に歩調を合わせるように，流行を予想し，伝えるファッションプレートが生まれた。18 世紀末からファッションが大衆化する 20 世紀初頭まで継続したファッションプレートをとおして，服飾への憧れ，思いを考える。	伊藤　紀之（共立女子大学教授）	伊藤　紀之（共立女子大学教授）
14	浮世絵―定点からみた服飾変遷と心情―	浮世絵は庶民の生活をさまざまな視点で描いている。春信によって多色摺り木版画が完成されて以降，大量の作品が作られ，江戸の姿を今日に伝えている。明治になっても継続され，新たな視点から描かれた。浮世絵に描かれ続けた地域を定点観測地として，服飾の変遷と心情を考える。	同　上	同　上
15	服飾の心理学的研究の社会への応用	服飾と心理に関してさまざまな視点から学習してきた。これらの内容の社会的意義として，被服の製造，販売，購入への応用がある。最近，３次元人体計測器や被服を仮想的に着用できる情報技術の進歩が著しく，個々人の体型や好みにマッチしたオーダーメイドの被服を容易に入手できる環境が整いつつある。この現状と課題について解説する。	藤原　康晴（放送大学教授）	藤原　康晴（放送大学教授）

＝　日本の食文化（‘０４）＝（ＴＶ）

〔主任講師：　原田　信男（国士舘大学教授）〕

全体のねらい

日本における食文化の在り方を、世界的な視野で見直すとともに、その歴史的な背景を学ぶことで、我々の生活文化にどのような特色があるのかを理解する。食文化は、単なる民族の嗜好ではなく、むしろ日本社会の長い歴史のなかで形成されたものである。本講義では、食物の獲得と生産、食事作法、料理文化さらには地域差など、食文化のさまざまな位相について、日本のおける実態と特色を明らかにする。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	食文化の日本的特質	食を抜きにして、人間の生活や社会は存在しえないが、その実態と特質は余り知られていない。まず世界史的な視野から、東西の食文化の違いを認識し、その上で、日本が属する東アジアの風土と食文化の特色を考える。日本の食文化が、その地形・気候と幅広い文化交流のなかで成立したことを理解する。	原田　信男（国士舘大学教授）	原田　信男（国士舘大学教授）
2	食文化史Ⅰ・先史	日本列島における食文化の原像を考える。旧石器時代の食べ物や食料獲得の実態を押さえ、それが縄文土器の登場によってどのように変化したのか。また狩猟や漁撈の発展、さらには弥生における水田稲作の本格的展開、古墳時代の大陸文化の伝来によって、どのような食文化が展開したのかを理解する。	松井　章（奈良国立文化財研究所主任研究員・京都大学准教授）	松井　章（奈良国立文化財研究所主任研究員・京都大学准教授）
3	食文化史Ⅱ・古代	中国文化の影響を受けて成立した古代律令国家が、どのような食糧政策を採ったかを、法令や神話・祭祀などを通じて、米と肉の問題を中心に考える。また日本料理の成立について、どのような特色があったかを、大膳職・内膳司の問題や、平安貴族の饗宴である大饗料理の在り方などから検討する。	原田　信男	原田　信男
4	食文化史Ⅲ・中世	古代に成立した米を至上とし、肉を穢れたものとする価値観が、中世を通じて、どのように社会に浸透していくのかを明らかにする。また公家・武家・寺社家の料理文化を考えるため、庖丁流派の形成や茶の湯の発達、食品の全国流通などの問題を踏まえ、精進料理・本膳料理・懐石料理の特色を検討する。	同　上	同　上
5	食文化史Ⅳ・近世	近世における食生活の実態を考えるとともに、幕府法令などによって、どのような規制を受けていたのかを理解する。また、中世後期にほぼ完成した日本の料理文化が、近世にどのような展開を遂げるのかを、茶の湯・料理書・料理屋の問題を中心に検討した上で、化政期における盛況の実態を明らかにする。	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
6	食文化史Ⅴ・近代	西洋文明の流入によって、それまでの食生活がどのような変貌を遂げていくのかを明らかにする。西洋料理がどのような形で、日本に入り、肉食の問題を含めて、どのように人々の間に受容されていくのかを、日本の近代化という視点から、軍隊生活や学校教育・工場労働などの問題に触れつつ考える。	高田　公理（武庫川女子大学教授）	高田　公理（武庫川女子大学教授）
7	食文化史Ⅵ・現代	戦後日本の食文化について、食糧難の時代から、高度成長を経て、今日の飽食・グルメ時代に至る過程を振り返る。食糧統制や闇市の問題をはじめ、アメリカの食料援助、台所の近代化、インスタント食品・チルド食品の登場、グルメ番組などのメディア情報、ファミレスやコンビニ等々の問題を取り上げる。	同　上	同　上
8	北海道の食文化	日本のなかでも、長く異域としての位置にあった北海道では、アイヌの人々が狩猟・漁撈や採取による食生活を営み、一部では農耕も行っていた。その食文化の特色を、和人の食文化と比較しつつ検討し、北方に暮らす人々独自の生活の知恵を学ぶ。また近代以降に移住した和人の食文化についても触れる。	原田　信男	原田　信男
9	沖縄の食文化	沖縄もまた、日本からは長く異国として扱われ、独自に中国との交流を行ってきた地域である。このため沖縄では、中国料理や日本料理の影響を受けつつ、独自の食文化が形成された。日本のなかでは、北海道と同様に肉食文化が栄えた点が注目される。その食文化の形成と特色を、ヤマトとの比較で論じる。	同　上	同　上
10	考古遺物と食文化	これまで食文化の研究は、主に文献史料によって行われてきたが、近年発達が目覚ましい考古学の立場から、文献では抜け落ちてしまう問題を扱う。眼に見えにくい花粉や種子、少数ながら残存する動物の骨、トイレの糞に混じった食物の残滓などから、今まで知られなかった食文化の位相を明らかにする。	松井　章	松井　章
11	民俗慣行と食文化	日本の食生活では、四季折々に食べ物の変化があり、しばしば共同飲食が催される。また家々の年中行事や人生儀礼の場でも、さまざまな食べ物が用意されたり、村々の祭りにおいても、村人が寄り合って、芸能などとともに食を楽しむ風景が見られる。こうした食の民俗や、食事作法の問題についても論じる。	神崎　宣武（旅の文化研究所所長）	神崎　宣武（旅の文化研究所所長）
12	食器と食文化	食事をするための器は、単なる用具ではなく、彩りや盛付けに心を配って、食の美学の演出に重要な役割を果たしてきた。食事用具を構成する箸や膳、皿や椀などの機能と役割のほか、木器・土器・陶磁器・漆器など、材質による使い分けも、食文化を考える上で、重要な問題となる。それらの意義を検討する。	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
13	調理具と台所の文化	食べ物を調理する調理具もまた、食文化の重要な構成要素で、その系譜や歴史についても理解しておく必要がある。また調理の空間である台所も、時代や地域によって大きく異なり、それぞれの食文化の在り方と密接に関係している。ここでは日本における調理具と台所の文化を、世界各地との比較で論ずる。	山口　昌伴(GK 道具学研究所所長)	山口　昌伴(GK 道具学研究所所長)
14	アジアと日本の食文化	日本は、大きく見れば、やはりアジアの一部で、食文化についても、全く個別的に独自な発展を遂げたわけではない。あくまでもアジアの食文化圏のなかで考える必要があるが、その際に、アジア全体に共通するものと、地域的な限定を持つものとを比較検討し、アジアと日本の食文化の特質について論ずる。	森枝　卓士(札幌大学非常勤講師)	森枝　卓士(札幌大学非常勤講師)
15	和食と日本文化	これまでの講義を踏まえた上で、いわゆる和食と呼ばれるもの実態と本質を検討し、日本の食文化全体について考える。さらには食文化を中心に据えつつも、衣や住を含む生活文化の日本的な特質について、外来文化との関係から、その形成と展開を跡づける。和食から見た日本文化の特質について論じたい。	原田　信男	原田　信男

＝　食と健康（‘０６）＝（TV）

－食品の成分と機能－

〔主任講師（現職名）：中谷　延二　（放送大学教授）　〕
〔主任講師（現職名）：清水　誠　（東京大学大学院教授）〕
〔主任講師（現職名）：小城　勝相　（奈良女子大学教授）〕

全体のねらい

食品には栄養機能、嗜好性に関わる機能、生体調節機能がある。これらの機能を発現する成分を概説する。免疫系、消化系、循環系、神経系など生体調節の機構、有効成分について論じ、これらの成分を含む機能性食品を通じて健康の維持、がん、動脈硬化などの生活習慣病の予防への挑戦を述べ、理解を深める。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	食品の機能	食品には三つの機能がある。食品に求められる第一は生命活動の維持に不可欠な栄養素が含まれていること、これを栄養機能（一次機能）と呼ぶ。おいしさ，好みなどの嗜好性も求められる。二次機能の嗜好性にかかわる機能である。さらに生体リズムの調節、生体防御、疾病の予防・回復などの生体調節機能（三次機能）がある。高齢化社会における健康への関心が高い現在、食による疾病の予防を目指す食の科学を概説する。	中谷延二（放送大学教授）	中谷延二（放送大学教授）
2	糖　質	糖質（炭水化物）は主たるエネルギー供給源として重要である。ヒトが摂取する栄養素の中で最も摂取量の多い栄養素である。単糖類、少糖類（オリゴ糖）、多糖類の構造と化学特性を解説する。各種化合物の配糖体としても存在し機能性を発揮する。機能性オリゴ糖、機能性多糖類について多様な機能についても解説する。	中谷延二（放送大学教授）	中谷延二（放送大学教授）
3	脂　質	脂質（脂肪）はエネルギー効率の最も高い栄養素である。水に不溶で、エーテル、クロロホルムなどの有機溶媒で抽出されるものを粗脂肪と呼び植物ステロール、ワックス、脂溶性ビタミン、脂溶性色素なども含まれる。脂質の化学的特性と機能性を紹介し、代謝についても解説する。	中谷延二（放送大学教授）	中谷延二（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	タンパク質	ヒトの設計図である遺伝子に保存されている情報は、最初にアミノ酸の配列、即ちタンパク質に翻訳されるが、タンパク質は栄養素として摂取されたタンパク質の構成アミノ酸を基に構築される。生命活動の全てがそのタンパク質の機能に依存し、構造体、酵素として体成分の合成、代謝をつかさどり、免疫機能など多用で重要な機能を発揮する。タンパク質を構成するアミノ酸、ペプチド、タンパク質の化学、機能、栄養について解説する	小川　正(関西福祉科学大学教授)	小川　正(関西福祉科学大学教授)
5	微量成分(ビタミン・ミネラル)	これらは体内では合成できず、食物から摂取する必要のある栄養素である。ビタミンは、化学的性質はそれぞれ異なるが、すべて微量成分で、生命の維持・調節に不可欠な役割を持っている。ミネラルは1日あたり100 mg以上摂取すべきマクロミネラルと必要量がそれ以下のミクロミネラルに分類できる。体の中で1 kgも存在するカルシウムから、極微量しか存在しないセレンやコバルトまで多彩である。これらの化学と機能を解説する。	小城勝相(奈良女子大学教授)	小城勝相(奈良女子大学教授)
6	食品の嗜好成分(呈味成分、香気成分、色素)	食品には、ヒトの感覚(味覚、嗅覚、視覚、聴覚、触覚)を刺激して食欲やおいしさを左右する働きがある。ここでは、食品のおいしさを概説し、食品に含まれる嗜好性に関与する化学的因子に焦点をあて、味、香り、色の化学特性と機能性について解説する。	菊﨑泰枝(大阪市立大学大学院准教授)	菊﨑泰枝(大阪市立大学大学院准教授)
7	味覚のしくみの分子論	たべものの“おいしさ”の主要な原因となる味覚は、私たちの口中の味覚器官が食品中の味成分の刺激を受容することによって生じる感覚である。こうして生じた感覚は、次に神経を介して中枢に伝達され、“味”として認識されるのである。近年、味の受容から認識までの機構が分子レベルで詳しく解明され始めた。同時に、味覚の発生と連動して起こる生理応答についての研究もスタートした。これらに関する最新のトピックスをわかりやすく解説する。	阿部啓子(東京大学大学院教授)	阿部啓子(東京大学大学院教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
8	食品成分の免疫系調節機能	ヒトをはじめ高等な生物には外界の異物（自己以外の他己）の攻撃に対して多様な防御機構を備えており、その一つが免疫系と呼ばれる防御反応機構である。ヒトの摂取する食品（経口的に取り入れられ消化管を通過する物質）にはいわゆる栄養素以外に例えば乳酸菌、キノコ、食物繊維など多様な成分（生物体や非栄養素）が存在し、ヒトはその成分の機能を利用して、免疫系を調節したり、外界の異物（生物）を排除する能力を昂進したり賦活したりしている。そのようなヒトの免疫機能のメカニズムと食品成分の関わりについて解説する。	小川　正（関西福祉科学大学教授）	小川　正（関西福祉科学大学教授）
9	食品とアレルギー	食品はヒトの生命活動を維持するのに必要な種々の栄養素や機能成分を供給し、健康を維持する。しかし、食品素材はヒトにとってはすべて自己以外の生物（異物）である。従って、ある条件下でこれらの異物が消化されることなく消化管から（ある場合は気道や皮膚から）体内に入り、異物（抗原）として認識されて抗体（特にIgE抗体）の産生が誘導され、即時型と呼ばれるアレルギー症状を発症する場合がある。食品成分のタンパク質を原因物質として引き起こされるアレルギーについて、アレルゲンとそれによる感作、発症の機構、食品成分による抑制、防御などについて解説する。	小川　正（関西福祉科学大学教授）	小川　正（関西福祉科学大学教授）
10	消化系・代謝系・循環系調節機能（I）	生活習慣病等を予防する食品の多くが、栄養素の消化・代謝・循環を制御する機能を持った食品成分を利用して開発されている。腸管での糖質の消化吸収を阻害することによって血糖値上昇を抑制する食品、コレステロールや中性脂質の吸収を阻害することによって高脂血症を予防する食品など消化系を制御する食品に加えて、肝臓などでの代謝系を調節して肥満を抑制する食品を紹介し、その作用機構について説明する。	清水　誠（東京大学大学院教授）	清水　誠（東京大学大学院教授）
11	消化系・代謝系・循環系調節機能（II）	腸管でのミネラル吸収を促進する食品成分は骨の健康維持などに重要である。一方、骨の形成や溶解に関わる細胞を調節する食品成分など、骨代謝系を調節する食品成分も見出され、骨粗しょう症の予防効果が期待されている。また、食品成分の中には血圧を調節する作用を持っているものが多数見出されている。これらを題材に、消化系・代謝系・循環系そして食品成分が相互に関連しあいながら生体を維持していることを学ぶ。	清水　誠（東京大学大学院教授）	清水　誠（東京大学大学院教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
12	生体内酸化	地球上のほとんどの生命は酸素を使ってエネルギーを得ている。エネルギーを使って生命は高い秩序を維持することができる。さらに環境汚染物質や医薬品などは肝臓で酸素を使った酸化反応によって解毒しているし、体内に侵入した病原菌などは酸素を使って殺している。一方、酸素は細胞内で活性酸素になって、老化、癌、動脈硬化などいわゆる生活習慣病を引き起こすと考えられている。望ましい酸化と望ましくない酸化、両方について化学的に解説する。	小城勝相（奈良女子大学教授）	小城勝相（奈良女子大学教授）
13	がん予防に期待がもたれる成分	生活習慣によって大きく左右される疾病の一つに“がん”があり、近年、食品あるいは食品成分によるその予防が注目を浴びている。本講義では、いかなる食材に発がん抑制効果が期待できるかや、その効果を担う食品成分の化学的実体、さらには作用機序につき解説する。	大東肇（京都大学大学院教授）	大東肇（京都大学大学院教授）
14	動脈硬化・糖尿病と食品成分	現在、動脈硬化や糖尿病を根治する治療薬や治療法は確立されていない。当然、これら疾病の発症そのものを予防できたという食品成分の報告はまだない。よって、予防に関しては可能性の域を超えてないが、進展や合併症を抑制する食品成分については、すでに科学的な証明とともに実利用され始めている。食後の血糖値上昇を抑制する成分、中性脂肪やコレステロール値を下げる成分などの特定保健用食品をはじめ、直接的・間接的な抑制効果が期待される食品成分についても概説する。	森光康次郎（お茶の水女子大学准教授）	森光康次郎（お茶の水女子大学准教授）
15	食による健康維持・増進 これからの食生活（対談）	本講義を通じて食品の機能の理解が深められ、特に味覚の認識機構や生活習慣病発症の抑制など食品成分が生体に働く機能を学んだ。医食同源、薬食同源といわれる意味を食品の生体調節機能によって裏づけられている。高齢化の進んだわが国において、最も関心の高い健康に焦点をあて、「これからの食生活」をそれぞれの専門分野の講師から対談形式で考察していただく。	中谷延二（放送大学教授） 清水誠（東京大学大学院教授） 小城勝相（奈良女子大学教授） 菊崎泰枝（大阪市立大学大学院准教授）	中谷延二（放送大学教授） 清水誠（東京大学大学院教授） 小城勝相（奈良女子大学教授） 菊崎泰枝（大阪市立大学大学院准教授）

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	専門科目	科目コード	1511106	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 食品の安全性を考える （’０８）＝ （R）

※この科目は「食品の安全性を考える(’04)」を一部改訂した科目です。
改訂回は5，7，8，9，回です。

〔主任講師（現職名）：嘉田　良平（アミタ持続可能経済研究所 顧問）〕

講義概要

2001年9月に起きたBSE問題を契機として、私たちの食の安全・安心が揺らいできた。食の安全とは何であり、食料輸入大国である日本に求められる安全システムはいかにあるべきか。この講義では、欧米先進国での状況を踏まえつつ、食品リスクの現状と課題、食品の安全基準や表示のあり方、リスク管理とリスクコミュニケーションのあり方を論じ、農業や環境問題との関係性についても考える。

授業の目標

食品の安全・安心は私たちの暮らしの中で最も重要な価値のひとつであるが、食生活の変化や輸入の増加とともに大きく揺らいでいる。そこで本講義では、安全かつ健全な食料を確保するために何が必要なのかについて、わが国と諸外国を対象に食品リスク上の制度とリスク管理の実態の両面から学習する。とくに、リスク分析の考え方、食品安全の制度・政策、リスクコミュニケーションのあり方などについて、身近な食生活、食料・環境問題などの視点から捉えることを主な目標としたい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	なぜ今、食品の安全性を問うのか	BSE問題や食品偽装事件を契機として、食品の安全性に国民的関心が高まった。それは食品衛生上の科学的問題にとどまらず、消費者の安全意識や社会経済システムとも深くかかわっている。世界経済の国際化と規制緩和の中で食品安全は一体どうなるのか、そして今後どうあるべきかについて考える。 【キーワード】 食品安全性、規制緩和、グローバリゼーション	嘉田　良平（放送大学 客員教授）	嘉田　良平（放送大学 客員教授）
2	食品事故の歴史に学ぶ	食品事故は古くて新しい問題である。わが国で起きた森永砒素ミルク事件、カネミ油症事件、O157などの主要な食品事故について、その経緯と背景、原因と対策などをたどりつつ、また、諸外国の経験を通して、食品安全問題の歴史から私たちが何を学べるのかについて考える。 【キーワード】 食品事故、輸入食品の安全性	同　上	同　左
3	わが国の食品安全行政の構図	これまで、わが国の食品安全政策は主に食品衛生法（厚生労働省）と農薬取締法（農林水産省と環境省）に基づいて残留基準や安全使用基準などが定められ、対策が講じられてきた。日本の食品安全にかかわるこれまでの制度的枠組みとその特徴や変遷、そして今日的な課題について論じる。 【キーワード】 食品安全行政、食品衛生法、農薬取締法	同　上	同　左
4	食品安全の国際基準	世界共通の食品安全基準として、国連のFAOとWHO合同の食品規格委員会により定められるコーデックス基準（規格）がある。科学的データの分析に基づいて食品添加物や汚染物質の許容摂取量が示されるのであるが、国際貿易上のさまざまな対立も根深い。食品安全の国際基準のあり方を問う。 【キーワード】 コーデックス基準、食品添加物、許容摂取量	同　上	同　左

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	遺伝子組換え食品の安全性をめぐる諸問題 (※改訂回)	輸出入をめぐる国際間の競争と対立が激化する中で、バイオテクノロジー技術の進歩による新しい問題が浮上してきた。そこで牛成長ホルモンの使用の是非および遺伝子組換え食品の安全性評価をめぐる諸問題を取り上げ、そこから浮かび上がってくる問題の構図とわが国のあり方について考えたい。 【キーワード】 バイオテクノロジー、遺伝子組換え食品、安全性評価	嘉田 良平 (放送大学 客員教授)	嘉田 良平 (放送大学 客員教授)
6	HACCPとISOによる安全管理への取り組み	食品安全の確保のための国際的なハーモニゼション(整合化)にむけて、民間企業が自発的に取り組むHACCPという安全管理の手法、そしてISOにおける品質管理面や環境管理面での国際標準の取り組みが注目されている。本章ではこれらの現状と課題について述べる。 【キーワード】 HACCP、ISO、食品安全の国際標準	同 上	同 左
7	欧州におけるBSE対策と新たな食品安全政策 (※改訂回)	BSE問題は欧州全体に拡大し、パニックをもたらしたが、欧州連合(EU)はその反省と教訓から2002年1月、画期的な食品安全法を制定した。消費者保護を第一の目的とし、リスク評価を行う食品安全機関を設置し、新たなリスク管理を行ってきた。EUの食品安全対策における一連の改革の軌跡を追う。 【キーワード】 BSE問題、リスク評価、リスク管理	同 上	同 左
8	BSE事件とわが国食品安全政策の新たな展開 (※改訂回)	2001年9月に起きたBSE事件の後、食品安全への不信と大混乱が日本列島を覆った。安全管理体制の欠如、消費者軽視の姿勢などの反省から、政府は食の安全・安心づくりに向けて法制度と行政組織の抜本的な見直しをおこなった。わが国の食品安全管理体制の改革のプロセスと課題について論じる。 【キーワード】 食品安全委員会、食品安全基本法	同 上	同 左
9	食品表示問題と有機農産物の基準 (※改訂回)	BSE問題とともに、食品の不正・偽装表示も一大社会問題となり、企業のモラルの低下と行政の責任が問われるに至った。消費者の商品選択に役立つ適正な表示はいかにあるべきか、有機農産物の規格と表示の問題、さらにはJAS法の改正などについて論じる。 【キーワード】 食品表示問題、有機農産物基準	同 上	同 左
10	トレーサビリティー・システムの導入と課題	食品安全をより確かなものにするためには「農場から食卓まで」の顔の見える関係を構築することがきわめて重要である。そこで、わが国が牛肉を対象にはじめて導入したトレーサビリティー法、さらには原産地表示の意義と課題、そして米や野菜などへの各種表示の新たな潮流と問題点について論じる。 【キーワード】 トレーサビリティー、原産地表示	同 上	同 左

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
11	リスクコミュニケーションと企業・消費者の役割	食品安全政策においては、科学的分析に基づくリスク評価、食品衛生・表示等を実施するリスク管理に加えて、消費者や企業とのリスクコミュニケーションがきわめて重要である。リスクの評価・管理主体と消費者・企業との双方向の意見交換のあり方について、さまざまな事例を取り上げつつ考える。 【キーワード】 リスクコミュニケーション、企業のCSR、消費者の役割	同上	同左
12	食品安全の経済学	交通事故などと同様に、絶対に安全な(ゼロリスクの)食品はありえない。実際，消費者は限られた情報のもとで、安全の質や程度とコスト(費用)とのバランスの中で選択行動を行っている。なぜ食品安全では「市場の失敗」が起きるのか、効率的・効果的な食品安全政策とは何かについて論じる。 【キーワード】 ゼロリスク、費用対効果、市場の失敗	嘉田 良平 (放送大学 客員教授)	嘉田 良平 (放送大学 客員教授)
13	食卓からの安全・安心―スローフードのすすめ―	ファストフードが世界の食卓を変えつつある中、スローフードと呼ばれるイタリア発の食文化運動が国際的に注目されている。地域食材と伝統食を見直し、現代食のもつひずみを栄養・健康面、安全面、そして環境面から見直そうという「地産地消」運動である。その背景と意義、今後の展望を探る。 【キーワード】 スローフード運動、地産地消、伝統食	同上	同左
14	国産か輸入か―日本農業への期待―	世界有数の食料輸入大国であるわが国にとって、輸入食料の水際でのチェックは食品安全の重要ポイントであるが、国産農産物の安全検査と環境負荷面からの農法の見直しも不可欠である。より確かな安全・安心を得るためにも、日本農業を環境保全型へと転換せねばならない。その道筋を検討する。 【キーワード】 輸入食品の安全管理、環境保全型農業	同上	同左
15	食の安全をより確かなものとするために	生命の基礎をなす自然環境の悪化が地球規模で進む中、食品や食卓を取り巻くリスクもますます増大している。食品安全は、単に制度や政策を改めれば解決できるものではなく、市場システムや私たちのライフスタイルの転換をも求めている。食は生命と健康の基礎という原点に立って、今後を展望する。 【キーワード】 食育、地球環境問題	同上	同左

＝　暮らしの防犯と防災（‘０６）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：清永　賢二　（日本女子大学教授）　〕
〔主任講師（現職名）：大野　隆造　（東京工業大学大学院教授）〕

全体のねらい

我々の生活環境にはさまざまな犯罪や災害リスクが存在することを認識し、犯罪や災害の発生のメカニズムについての科学的な理解を通して、それらによる被害を防止あるいは減ずるための方法について考察し、それに基づく実践的な取り組みに向けて適切な行動ができるようにすることに本講義のねらいがある。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	暮らし・安全・危機 ～今日的課題としての防犯・防災問題～	２１世紀は様々な意味で「危機」から始まった。特に、犯罪や地震などの危機には深刻なものがあり、安全・安心な暮らしの確保が極めて重要な問題となって浮上している。暮らしの危機とは何か。安全とは何か。具体的に、いかなる取り組みが求められるのか。暮らしの安全学の基礎的枠組みについて考える。	清永　賢二（日本女子大学教授）	清永　賢二（日本女子大学教授） 大野　隆造（東京工業大学大学院教授） ゲスト：警察庁警察政策研究センター所長
2	犯罪からの安全・安心確保の基本原理 ～犯罪からの安全・安心な暮らしの作法～	犯罪はいかにして発生するのか。犯罪からの安全確保は果たして現実的に可能なのか。犯罪防止のためにどのような基本的手法が考えられるのか。犯罪発生のメカニズムを踏まえつつ、犯罪防止における社会的環境設計と物理的環境設計の２つの理論を歴史的視点も踏まえつつ整理し、その大枠を通し、犯罪防止の基本的手法とそのための現実的ツールを考える。	清永　賢二（日本女子大学教授）	清永　賢二（日本女子大学教授） ゲスト：後藤　久（早稲田大学客員教授）
3	犯罪者行動の諸相 ～犯罪行動生態学の展開～	犯罪者はどの様な心理で、どのような行動選択原理で犯罪行動を実行するのか。現実的犯罪防止論構築のための基礎教養である犯罪者の行動特性を考える。	清永　賢二（日本女子大学教授）	清永　賢二（日本女子大学教授）
4	安全・安心な家づくり ～安全な戸建て住宅づくりを目的とした物理的環境設計論の新たな構築～	犯罪の実行しやすい、逆にいえば、実行しにくい戸建て住宅は、どの様な特性を持っているのか。 犯罪の脅威から守られた安全な戸建て住宅づくりの基本設計指針を考える。	篠原　惇理（積水ハートフル研究所長）	篠原　惇理（積水ハートフル研究所長） 清永　賢二（日本女子大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	安全・安心な住棟づくり ～安全な集合住宅(街)づくりを目的とした物理的環境設計論の新たな構築～	犯罪の実行しやすい、逆にいえば、実行しにくい中・高層集合住宅は、どの様な特性をもっているのか。 犯罪の脅威から守られた安全な集合住宅づくりの基本設計指針を考える。	小出　治 (東京大学教授)	小出　治 (東京大学教授) 清永　賢二 (日本女子大学教授) ゲスト： 高野　公男 (東北造形大学教授)
6	安全・安心な街づくり ～安全な市街地づくりを目的とした物理的環境設計論の新たな構築～	犯罪の実行しやすい市街地は、どの様な空間特性を持っているのか。 犯罪の脅威から守られた安全な市街地形成の基本原理を考える。	平井　邦彦 (長岡造形大学教授)	平井　邦彦 (長岡造形大学教授) 清永　賢二 (日本女子大学教授) ゲスト： 尾田　清貴 (日本大学教授)
7	安全・安心と近隣社会 ～安全な近隣社会づくりを目的とした社会的環境設計論の新たな構築～	犯罪からの安全確保のため、「人」はどの様な心構えや生活態度で手を結び暮らして行くことが大切か。 地域社会の基本単位である近隣社会は、安全な生活確保にいかなる役割を果たし、現代社会に適合するようその近隣社会をどのように我々は構築して行くのか。 犯罪の脅威から守られた安全な生活確保を目的とした地域での日々の暮らしの作法と、それを支える近隣社会づくりについて考える。	重川希志依 (富士常葉大学教授)	重川希志依 (富士常葉大学教授) 清永　賢二 (日本女子大学教授) ゲスト： 石附　弘 (日本市民安全学会会長)
8	犯罪の脅威から守られた安全・安心な暮らしづくりの現在そして将来 ～市民・自治体・警察の三位一体的取り組み～	犯罪からの安全確保に向けて、様々な取り組みが急速に進行しつつある。 それらの取り組みを整理すると同時に、市民（NPO・企業等も含む）、自治体、警察が共同して、いかなる取り組みを今後進めねばならないかについて考える。	清永　賢二 (日本女子大学教授)	清永　賢二 (日本女子大学教授) ゲスト： 伊藤　滋 (東京大学名誉教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
9	災害の諸相	災害が自然および人間の活動の相互関係によって定義されることを述べ、国内外の災害事例を通覧してさまざまな自然災害および技術的災害の存在を再確認した上で、それらの種類と特徴を明らかにして、対処方法を考える基礎を学ぶ。	大野　隆造(東京工業大学大学院教授)	大野　隆造(東京工業大学大学院教授)
10	地象による災害	地震や火山噴火など、地象による災害発生のメカニズムを科学的に捉えるための基本的な事項について理解を深めた上で、それらによる被害を最小限にするための対策として、物理的、社会的環境の整備がどのように行われているかについて学ぶ。	大野　隆造(東京工業大学大学院教授)	大野　隆造(東京工業大学大学院教授) ゲスト： 翠川　三郎（東京工業大学教授）
11	気象・海象による災害	台風、大雨、津波、高潮など、気象および海象による災害発生のメカニズムを科学的に捉えるための基本的な事項について理解を深めた上で、それらによる被害を最小限にするための対策として、継承されてきた伝統的知恵および最新技術による生活環境の整備の方法について学ぶ。	大野　隆造(東京工業大学大学院教授)	大野　隆造(東京工業大学大学院教授) ゲスト： 福島　駿介（琉球大学教授）
12	火災	火災の発生および延焼拡大のメカニズムについて、燃焼の原理および熱や煙の挙動の現象を理解した上で、被害拡大の要因を考え、合理的な防火対策の基本について講じる。その上で、時代とともに変化してきている火災の様相について理解を深め、今後の防火安全への市民の取り組みについて学ぶ。	山田　常圭（消防研究センター研究企画部長）	山田　常圭（消防研究センター研究企画部長） 大野　隆造（東京工業大学大学院教授）
13	災害と情報	災害発生時に適切な行動により被害を最小限に抑えるための情報や、災害が発生する前にそれに備えるための情報として、どのような情報が必要とされ、それらが提供されるしくみについて理解を深め、災害に関わる情報を有効に正しく活用するための基本的な事項について学ぶ。	大野　隆造(東京工業大学大学院教授)	大野　隆造(東京工業大学大学院教授) ゲスト： 大月　一弘（神戸大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
14	災害と人間行動	災害に関連して考慮すべき人間行動としては、災害に備えるための平常時における準備・対策行動や緊急時の対応行動などがある。本講義では、それらの行動に影響する私たちの心理的・行動的な特性の理解を通して、災害に対して適切な姿勢と行動を取るための基本的な事項を学ぶ。	大野　隆造（東京工業大学大学院教授）	大野　隆造（東京工業大学大学院教授） ゲスト： 室崎　益輝（消防研究センター所長）
15	都市の現状と防犯・防災への取り組み	今日の大都市が抱える防災上の問題を具体的に指摘するとともに、今日行われている災害に対するハード面、ソフト面からのさまざまな取り組みについて紹介し、今後の防災的な社会のあるべき姿を考える。最後に、前半で扱った防犯についてのレビューを含めて、安全で安心な暮らしを定着させる道筋を考え、本講義全体のまとめとする。	大野　隆造（東京工業大学大学院教授）	大野　隆造（東京工業大学大学院教授） ゲスト： 翠川　三郎（東京工業大学教授）

＝　住まいの構造・構法（‘０４）＝（TV）

〔主任講師：　深尾　精一　（首都大学東京教授）〕

全体のねらい

住宅建築の構造・構法、すなわち、すまいの造り方について、視覚的な教材を多用し、解り易く解説する。講義は、戸建住宅と集合住宅の双方を取り上げ、共通点と相違点を理解できるようにする。
前半では、主として構造躯体について、多様な構造とその特徴の理解を目指す。後半は、屋根・壁・床・天井といった部位の構法について、性能と造られ方の関係を把握することを狙う。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	空間を構築する技術・架構法	・住宅の造り方の種類・構造に関する各種の分類 ・木造・鉄骨造・鉄筋コンクリート造の概要 ・力の流れ方による構造の分類と荷重・外力 ・各種の構造の歴史	深尾　精一（首都大学東京教授）	深尾　精一（首都大学東京教授）
2	躯体の材料とその性質	・構造躯体に作用する各種の力と構造材料の強度 ・鉄筋コンクリートの原理・柱と梁の断面形状 ・鉄筋コンクリート造・鉄骨造の工事の進め方	同　上	同　上
3	日本の構法と欧米の構法	・日本の住宅の構造・構法とその多様性 ・欧米の住宅との比較 ・住宅の構造・構法の歴史	同　上	同　上
4	戸建住宅の構造・構法	・戸建住宅の構造・構法の考え方 ・住宅の形状と構造・構法 ・戸建住宅の様々な構造方式	同　上	同　上
5	木造住宅の構造・構法―1	・木材の性質・樹種と特徴 ・木造在来構法の特徴 ・地盤と基礎・布基礎とべた基礎 ・木造住宅の構成要素・柱と横架材	同　上	同　上
6	木造住宅の構造・構法―2	・小屋組と床組･伝統的な構法と新しい構法 ・筋かいと耐力壁・貫構造 ・木造部材の加工・木造住宅の工事の進め方 ・新しい木造住宅と木質材料	同　上	同　上
7	枠組壁工法と工業化住宅	・枠組壁工法 ・工業化住宅 ・工業化住宅の種類と特徴	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
8	集合住宅の構造・構法	・日本における集合住宅の歴史と構造 ・集合住宅の設備と構造 ・集合住宅の内装と構造	深尾　精一	深尾　精一
9	ＳＩ住宅と超高層集合住宅の構造	・集合住宅の設備計画と構造計画 ・ＳＩ住宅の考え方 ・超高層住宅の平面計画と構造	同　上	同　上
10	屋根の構法	・屋根の形状・勾配屋根と陸屋根 ・屋根の葺き方・各種の葺き材と原理 ・瓦屋根の特徴・桟瓦葺きの考え方 ・陸屋根の防水・各部の納まり	同　上	同　上
11	壁の構法	・壁の位置による種類・壁の機能と性能 ・壁の種類・真壁と大壁 ・伝統的な壁の構法・小舞壁と板壁 ・様々な壁の構法・通気構法・断熱材	同　上	同　上
12	開口部の構法	・開口部の機能と性能・窓の歴史 ・開口部の開閉方式とその特徴 ・開口部の防水性能・雨仕舞の考え方 ・建具と建具枠・ガラス・建具金物	同　上	同　上
13	床の構法・天井の構法	・床の機能と性能・床の構成方法 ・各種の床の構法 ・天井の構法	同　上	同　上
14	階段と和風造作	・階段の形状と各部の名称 ・階段の勾配と寸法・階段の構成方法 ・伝統的な和風住宅の造作・内法まわり	同　上	同　上
15	まとめ	・住宅の性能 ・新しい集合住宅の試み ・新しい軸組構法の試み ・まとめ	同　上	同　上

＝　公衆衛生（‘０５）＝（Ｒ）

〔主任講師：多田羅　浩三（放送大学教授）〕
〔主任講師：瀧澤　　利行（茨城大学教授）〕

全体のねらい

公衆衛生制度は、産業革命が進む中で都市への人口集中を背景として生まれた、不衛生と疾病、貧困の悪循環という状況に対し、人間の健康を守るという観点から求められた、社会の関与の方式として生まれたものである。結果として、公衆衛生制度はカバーする領域は極めて広いものとなっている。各領域について、発展の過程、仕組み、現状、方法などを骨子として講義する

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	公衆衛生制度の誕生	公衆衛生制度は、不衛生と疾病と貧困という、社会環境の中にある人間の健康を守るという理解の上に、自治体の機能を中核として多様な役割を果している。公衆衛生制度の母国であるイギリスにおけるあゆみをもとに、フランクの社会による防衛、チャドウイックの予防、ラムゼイの福祉からの独立、シモンの衛生の規則と地方当局の規則などの点から、人類の公衆衛生制度の成立、発展の系譜について考えてみたい。	多田羅浩三（放送大学教授）	多田羅浩三（放送大学教授）
2	わが国の公衆衛生	わが国の公衆衛生は、ヨーロッパ諸国の例にならい、非常に優れた制度を有している。そのことが平均寿命世界一や世界一低い乳児死亡率の記録に現われている。そのような輝かしい記録を達成してきたわが国の公衆衛生のあゆみについて平均寿命世界一という状況に直面するなかで、わが国は新しい課題に直面しているといえる。そのような推移をふまえ、医制の発布、医療保険制度と保健所体制、自治体が担う体制、国民健康づくり計画、公衆衛生制度の展開などの項目を中心にアプローチしたい。	多田羅浩三	多田羅浩三
3	健康の指標	公衆衛生を学ぶ者の基礎知識として、人口、死亡率、平均寿命、将来人口、有病率、罹患率、国際疾病分類、国民の健康に関わる主要調査報告、疫学統計などについて学びたい。	瀧澤　利行（茨城大学教授）	瀧澤　利行（茨城大学教授）
4	母子保健	わが国は今日、深刻な少子高齢化時代を迎えている。その中で働く女性の母性の保護をどのように確保していくか、子どもの健やかな成長をどのように保証していくか、重大な課題に直面している。それらの点をふまえ、母性の保護、乳幼児の保健、母子保健事業、エンゼル計画、健やか親子21などの項目をもとに検討したい。	瀧澤　利行	瀧澤　利行

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	成人・老人保健	わが国は平均寿命世界一の記録を達成しているが、結果として後期高齢者人口が向こう 20 年間に 1100 万人の増加が予想されている。また生活習慣病による死亡が激増している。そのような動向をふまえ、悪性新生物、循環器疾患、糖尿病、難病、こころの健康、歯科保健などの現状と推移、またがん対策、循環器疾患対策の寝女房生活習慣病、循環器病対策、がん対策の推移、市町村の保健事業などの項目をもとに考えたい。	多田羅浩三	多田羅浩三
6	感染症	多数の人々の生命をあっという間に奪う感染症に対する闘いのの中で示された、スノーやパスツール、コッホの功績について、最初に確認したい。今日の激動する国際情勢の中で、感染症対策は、新興・再興感染症の国内への侵入対策は、SARS の例に明確なように、極めて重要な、社会防衛上の課題になっている。結核、性感染症についても、その対策の強化が望まれている。これらの動向をふまえ感染症の基礎知識、感染症の予防対策、感染症法などの項目について考えたい。	多田羅浩三	多田羅浩三
7	学校保健	近年、次代を担う、学童の健康状態や就学状況について、肥満、あるいはやせ願望、情緒不安、暴力など、深刻な課題に直面していることは周知のとおりである。これらの課題を念頭におきつつ、学校保健の仕組み、学童の健康状態、学童の心理、学校医、学校安全、学校体育、学校給食の面から考えてみたい。	瀧澤　利行	瀧澤　利行
8	産業保健	厳しい経済環境、日進月歩の技術開発、市場競争の激化の中で、働く人たちの健康状態について、とくにメンタルヘルス面における課題は、年々深刻になっている。これらの認識に立って、産業保健対策のあゆみ、産業保健の仕組み、働く人たちの健康状態、THP とメンタルヘルス対策、産業医、産業保健施設などの点を中心に検討を加えたい。	瀧澤　利行	瀧澤　利行
9	環境保健	温暖化の進行、都市開発、住宅造成、公共事業の強行など環境破壊につながる状況が続く中で、環境保健の確保は、極めて深刻な課題となっている。これらの点を認識し、地球環境、大気汚染、水質汚濁、騒音・振動、放射線、環境基本計画、環境アセスメントなどの面から考えてみたい。	瀧澤　利行	瀧澤　利行
10	生活環境	食品の外国産材料への全面依存、ファーストフード、外食産業への依存、多様な建材の使用、甚大な生活廃棄物の発生など、国民の生活は厳しい環境に取り巻かれている。より良い生活環境の確保は、公衆衛生の原点であり、生活衛生と健康、衣服の改良、食品の安全、住居の安全、生活廃棄物を中心に検討を加えたい。	瀧澤　利行	瀧澤　利行

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
11	医療制度	医療制度を担う専門職の中で、最も古い歴史を有しているのは医師であり、医師職の発展の系譜と各国の医療制度のあり方は深い関連を有している。わが国では、医薬分業が行われてこなかったことが、わが国の医療制度を国際的にも、非常にユニークなものにしてきたという経過がある。これらの点をふまえ、わが国の医療制度について、改正の推移、医療保険制度、医療施設、医療関係者、老人医療などの面から検討を加えたい。	多田羅浩三	多田羅浩三
12	地域保健体制	プライマリケア体制の構築という位置づけのもとに、最も古く、教訓に満ちた取り組みをすすめてきたのはイギリスである。この国でのあゆみから、何を学ぶことができるか、そのことを最初に考えたい。そしてわが国の地域保健体制について、中核を担ってきた保健所の推移と現状、保健センターを拠点とした市町村の保健事業の動向、健康増進法の制定をふまえ、わが国の地域保健体制の特徴、その課題、展望について考えたい。	多田羅浩三	多田羅浩三
13	介護保険制度	産業革命を背景にイギリスに生まれた、人類の福祉制度が、公費を財源として「劣等処遇」を原則として推進されてきたのに対し、高齢人口の急増に対し、高齢者を対象とした制度として、高齢者介護を福祉制度から独立させ、保険制度による運営に転換すべく制定されたのが介護保険制度である。制度制定の意義、制度の特徴、制度の仕組み、介護保険事業計画の事例などの面から、本制度のあり方、将来の展望などについて考えたい。	多田羅浩三	多田羅浩三
14	健康日本２１	平均寿命世界一の社会は、最も多様な健康状態の人たちが生活している社会であるが、人々の多様な健康状態、とくに生活習慣病による罹患、死亡の激増ということに対し、従来の制度依存型の対策では十分な成果をあげることが困難であることが明らかになってきた。そこで、「国民の責務」を問う、施策として実施されているのが、健康日本21である。その推進には、大きな期待が寄せられていると思われる。この運動の意義を中心に考えたい。	多田羅浩三	多田羅浩三
15	国際保健	国際交流の激増、開発途上国における政情不安、新興・再興感染症侵入の危険などの状況がある中で、WHO、平均寿命の国際比較、死亡率の国際比較、国際保健上注目すべき疾病、AIDSの現状、大都市の保健事情、医療費の国際比較などについて検討し、国際保健のあり方について考えたい。	多田羅浩三	多田羅浩三

＝　脳科学の進歩（‘０６）＝（TV）
－分子から心まで－

〔主任講師（現職名）：田中　啓治（理化学研究所脳科学総合研究センター領域ディレクター）〕
〔主任講師（現職名）：岡本　仁（理化学研究所脳科学総合研究センターグループディレクター）〕

全体のねらい

私達が物を見る、考える、覚える、行動する、これらは全て脳の働きです。脳には１００億個以上の神経細胞があり、１０兆個以上の結合によって相互に情報をやり取りしています。この情報のやり取りの中から全ての精神作用が現れてきます。この講義では、神経細胞の働きに関するいろいろな分子の解説から始めて、人にしか現れない高次な認知機能の仕組みまで、平易に解説します。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	総論	脳神経系は行動を効率的に行うために情報の伝達、処理、記憶を行うために発達したシステムである。脳神経系の構造を概観し、脳の何が不思議かを考える。	田中啓治（理化学研究所脳科学総合研究センター）	田中啓治（理化学研究所脳科学総合研究センター） ゲスト：糸原重美（理化学研究所脳科学総合研究センター）
2	神経細胞の働き（1）	神経系を構成する基本単位である神経細胞は、細胞の内外のイオン濃度の違いを巧みに利用して、電気的に興奮する。神経細胞が、電気的興奮によってどのように信号を伝達することができるのかについて学ぶ。	岡本　仁（理化学研究所脳科学総合研究センター）	岡本　仁（理化学研究所脳科学総合研究センター）
3	神経細胞の働き（2）	神経細胞同士は、シナプスという特別な構造を介して連絡しあっている。シナプスでは信号が化学的に伝達される。シナプスにおける信号伝達効率の変化は脳神経系の学習の基礎である。シナプスにおける情報伝達の仕組みを学ぶ。	岡本　仁（理化学研究所脳科学総合研究センター）	岡本　仁（理化学研究所脳科学総合研究センター）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	脳の発達	脳は、神経細胞がつながってできた精巧なコンピューターである。しかし、コンピューターと違って、脳は受精卵が分裂してできた多数の細胞から、ひとりでにできてしまう。それがどのような仕組みでおこるのかを学ぶ。	岡本　仁（理化学研究所脳科学総合研究センター）	岡本　仁（理化学研究所脳科学総合研究センター） ゲスト： 上口裕之（理化学研究所脳科学総合研究センター）
5	自律神経系とホルモン	我々はことさらに意識しなくても、呼吸数、心拍数、体温、血液のpHなどを環境の変化に応じて最適な値に調節することができる。このような生体機能が、自律神経系とホルモンによってどのように制御されているのかを学ぶ。更に脳内で分泌されるホルモン様の神経ペプチドが、食欲、睡眠、配偶者選択などの本能的行動にどのようにかかわっているのかを学ぶ。	岡本　仁（理化学研究所脳科学総合研究センター）	岡本　仁（理化学研究所脳科学総合研究センター） ゲスト： 荒田晶子（理化学研究所脳科学総合研究センター）
6	随意運動の制御	随意的な運動は脊髄の神経回路を大脳皮質運動関連領野が駆動して行われる。大脳の運動関連領野には脊髄に直接結合する第一次運動野とこれを上位から制御する高次運動野がある。大脳が随意運動を実行し、制御する仕組みを学ぶ。	田中啓治（理化学研究所脳科学総合研究センター）	田中啓治（理化学研究所脳科学総合研究センター）
7	小脳と大脳基底核	随意運動を行うときは大脳皮質ばかりでなく小脳と大脳基底核が働く。小脳は運動を予測制御する。大脳基底核はいくつもある行為の候補の中から状況にあった行為を選択したり、行為のスイッチを制御したりする。小脳と大脳基底核が運動を制御する仕組みを学ぶ。	田中啓治（理化学研究所脳科学総合研究センター）	田中啓治（理化学研究所脳科学総合研究センター） ゲスト： 永雄総一（理化学研究所脳科学総合研究センター）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
8	知覚と認識	感覚器で受容された感覚刺激を知覚し、記憶と参照して認識が成立する。知覚と認識には大脳皮質の感覚関連領野が働く。視覚を例にとって、網膜および大脳皮質第一次視覚野での情報処理、高次視覚野での情報統合の仕組みを学ぶ。	田中啓治（理化学研究所脳科学総合研究センター）	田中啓治（理化学研究所脳科学総合研究センター） ゲスト：Dr. Kang Cheng（理化学研究所脳科学総合研究センター）
9	選択的注意	感覚器から入ってくるたくさんの情報を全て知覚することはできない。注意を向けた空間位置、感覚モダリティーの情報だけを選択的に知覚する。選択的注意には大脳皮質の頭頂連合野が重要な働きをしている。選択的注意の現象と仕組みを学ぶ。	田中啓治（理化学研究所脳科学総合研究センター）	田中啓治（理化学研究所脳科学総合研究センター）
10	記憶・学習と神経系の可塑性	脳の神経回路は、生涯にわたって、おかれた環境に応じて柔軟に変化する。このような脳の可塑性が最も必要とされる学習と記憶に着目し、その仕組みを学ぶ。具体的には、条件反射や長期記憶において、神経系の結合の様式がどのように変化するか学ぶ。また、海馬が位置記憶や連想記憶とどのように関わっているのかを学ぶ。	岡本仁（理化学研究所脳科学総合研究センター）	岡本仁（理化学研究所脳科学総合研究センター）
11	行動の認知制御	行動が複雑になるにともない、時間を跨いで保持した情報を制御に用いる必要がある。後に遂行する行為のために特定の情報を選択して保持する機能を作業記憶と呼ぶ。作業記憶には前頭前野が重要である。作業記憶を中心に前頭前野が行動を計画し制御する仕組みを学ぶ。	田中啓治（理化学研究所脳科学総合研究センター）	田中啓治（理化学研究所脳科学総合研究センター）
12	情動、本能	恐怖、喜び、怒りなどの情動が、神経系のどのような仕組みで制御されているのかを学ぶ。具体的には、恐怖刺激に対する反応や行動における、扁桃体の役割を学ぶ。さらに、情動的神経回路をモノアミンがどのように制御しているかを解説し、抗不安薬の作用機序や、情動と認知機能の相互作用についても学ぶ。	岡本仁（理化学研究所脳科学総合研究センター）	岡本仁（理化学研究所脳科学総合研究センター）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
13	脳と言語	言葉は脳が作る。しかし同時に、言葉は社会が作るとも言える。わたしたち人間を特徴づける性質である言葉について、神経細胞の活動から遺伝子の発現まで、社会との関連を考えながら学ぶ。	岡ノ谷一夫(理化学研究所脳科学総合研究センター)	岡ノ谷一夫(理化学研究所脳科学総合研究センター) ゲスト: 馬塚れい子(理化学研究所脳科学総合研究センター)
14	神経疾患、精神疾患	脳は一度破壊されると修復が非常に困難である。いまや長寿高齢化社会になりアルツハイマー病には誰もがなる可能性がある。狂牛病のようなまれな病気ですら我々の食事から感染の可能性が出てきた。ストレス社会で心の病にもかかりやすい。このような脳の病気の症状、発症メカニズムについての最近の知見について学ぶ。	貫名信行(理化学研究所脳科学総合研究センター)	貫名信行(理化学研究所脳科学総合研究センター) ゲスト: 加藤忠史(理化学研究所脳科学総合研究センター)
15	脳科学から社会へ	現代社会において、私たちを取り巻く生活環境はめまぐるしく変化し、その中で、よりよい生活を獲得するためには、私たちの脳には最大限の適応能力が要求されている。あるいは、脳の様々な疾患は、そのような環境への適応を困難にする。これまでに学んだ、脳が作られ働く仕組みに関する知識が、現代社会における私たちの生活の向上に今後どのように生かされるのかを学ぶ。 具体的には、神経発生の知識が、脳の再生治療にどのように利用されるのか?脳科学の発展は、精神疾患のより統一的な理解に結びつくのか?脳と環境との相互作用が神経回路の生後発達にどのような影響を及ぼすのか?さらに、そのような知識が教育の改善のために還元できるのか?脳科学は、コンピュータ科学とどのように関わり合いながら発展していくのか?などの疑問について、ゲスト出演者によるいくつかの実例を示しながら今後を展望する。	岡本仁(理化学研究所脳科学総合研究センター)	岡本仁(理化学研究所脳科学総合研究センター) ゲスト: 笹井芳樹(理化学研究所発生・再生科学総合研究センター) Dr. Takao Hensch(理化学研究所脳科学総合研究センター) 谷淳(理化学研究所脳科学総合研究センター)

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	専門科目	科目コード	1511700	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　感染症と生体防御　　（’０８）＝　（R）

〔主任講師（現職名）：河原　和夫（東京医科歯科大学大学院教授）〕
〔主任講師（現職名）：岸本　忠三（大阪大学大学院客員教授）〕
〔主任講師（現職名）：岩本　愛吉（東京大学教授）〕

講義概要

本講義は、人間の健康について広範に論ずる「健康科学」の中の講義の一つとして実施される。
健康科学は人間生活に密接に関わる学問であることから、感染症関係では昨今の話題であるHIV、結核、プリオン病はもとよりSARS、新型インフルエンザ、ウエストナイル熱などの新興・再興感染症と医療現場での感染症問題に特に焦点を当てた。また、生態防御については、免疫システムの多様性と多型性、自然免疫と獲得免疫、自己免疫と免疫が関与する疾患などを中心に免疫学の最近の動向についてわかりやすく疾患との関係も踏まえながら講義を行う。

授業の目標

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	感染症と免疫システム・生態防御機構総論	疫（感染症）を免れるという体の免疫のしくみ、免疫系を構成する要素とその働きについて解説する。抗体の構造と機能、抗体の種類とその生物学的活性、抗体の多様性を生み出す遺伝子の再構成、抗体を作り出すリンパ球の種類とその機能、リンパ球の働きを調節する分子等ついて述べる。 【キーワード】 自然免疫と獲得免疫、抗体、抗体遺伝子の再構成、Bリンパ球、Tリンパ球	岸本　忠三（大阪大学大学院客員教授）	岸本　忠三（大阪大学大学院客員教授）
2	現代社会と感染症	わが国の感染症対策は明治維新以降の国家体制の整備とともにはじまり、医学の進歩等により感染症は急速に制圧されていった。しかし交通機関の発達や医学の進歩により克服されたと思われていた感染症は、薬剤耐性を獲得するなどして、その様相を変えて再び現代社会の脅威となっている。また、これまで知られていなかった新たな感染症も出現している。感染症対策には医療体制の整備など発生時の的確な対応のみならず、法制度等の整備による事前対応型対策の展開、国際協力などの政策が重要となる。また、対策を講じるにあたり関係者や国民の理解の促進も図らねばならない。講義では国民に脅威を及ぼしてきた感染症の変遷、そして対策の変化を理解する。 【キーワード】 感染症対策の三原則、抗生剤、予防接種、感染症法、薬事法、事前対応、国際協力	河原　和夫（東京医科歯科大学大学院教授）	河原　和夫（東京医科歯科大学大学院教授）
3	新興・再興感染症：総論	20世紀後半には、「感染症は克服された」という認識が支配した時期がある。しかし、実際にはその後さまざまな感染症が出現している。講義では、新興・再興感染症という考え方が提唱された時代背景、大規模な感染症が成立するための条件に関する歴史的考察、グローバリゼーションと感染症などに関して情報を提供し、感染症に関する理解を深める 【キーワード】 人口、交通、食経済、人獣共通感染症、グローバリゼーション	岩本　愛吉（東京大学医科学研究所教授）	岩本　愛吉（東京大学医科学研究所教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	ウイルス感染症を主とした新興・再興感染症：各論	ウイルス感染症を中心に新興感染症の各論を解説する。具体的には、高病原性鳥インフルエンザ、ウエストナイルウイルス感染症、重症急性呼吸器症候群（SARS）、ニパウイルス脳炎、ヒトパピローマウイルス感染症と子宮頸がんなどについて重要点を個別に解説する。また、制圧されたと考えられるウイルス感染症が再燃し、再興感染症となる用件について、麻疹ウイルス、肝炎ウイルス等を例に挙げて考察する。 【キーワード】 高病原性鳥インフルエンザ、ウエストナイルウイルス感染症、重症急性呼吸器症候群（SARS）、ニパウイルス脳炎、麻疹	岩本　愛吉（東京大学医科学研究所教授）	岩本　愛吉（東京大学医科学研究所教授）
5	寄生虫等感染症①	寄生虫感染症はウイルス、細菌などの感染症と比較して生物学的に、臨床的に、また公衆衛生学的にユニークな側面を有している。病原体自身が高度に進化した動物であるため、寄生適応にあたって複雑な宿主ー寄生虫相互作用を必要とするからである。この講義では寄生虫の中でも蠕虫と呼ばれる多細胞性寄生動物による感染と宿主応答に焦点をあてて解説する。蠕虫感染による宿主応答ではIgE抗体産生や好酸球などの白血球応答が特徴であるが、その誘導機構、生体防御における意義などを今日の知見を交えながら解説する予定である。 【キーワード】 蠕虫、人獣共通感染症、幼虫移行症、宿主ー寄生虫相互作用、Th2応答、免疫修飾	太田　伸生（東京医科歯科大学大学院教授）	太田　伸生（東京医科歯科大学大学院教授）
6	寄生虫等感染症②	原虫は単細胞動物であり、ヒトの感染症としてマラリア、アメーバ赤痢、トキソプラズマ症など重篤なものの病原体となるものが含まれる。その感染様式は複雑であるが、マラリアのように昆虫媒介性のものは地球温暖化による流行域拡大が懸念されている。原虫感染による宿主応答は、同じ寄生虫でも蠕虫感染とは異なり、一般的にはTh1応答が排除の効果を担う。ここでは原虫感染の際の宿主応答を概説し、宿主応答の誘導機序やワクチン開発の現状などについて述べる予定である。 【キーワード】 原虫、宿主ー寄生虫相互作用、地球温暖化、Th1応答、ワクチン	太田　伸生（東京医科歯科大学大学院教授）	太田　伸生（東京医科歯科大学大学院教授）
7	結核①	人類とともに歩んできた結核が、現在もなお世界の大きな保健医療上の課題となっている現状を認識させるとともに、感染症としての結核についてその病原体、感染伝播の様式、発病にいたる経過などについて基本的な知識を習得させる。 【キーワード】 結核　、結核菌、コッホ、抗酸菌、非結核性抗酸菌、飛沫核、　空気感染、感染、　発病、	楠本　一生（さいたま市保健所長）	楠本　一生（さいたま市保健所長）
8	結核②	結核の発病、診断、治療そして予防について基本的な知識を習得させるとともに、世界、日本の結核問題の現状とその対策そして、特に日本の結核問題の特徴について理解を深めることによって結核は単なる一つの感染症というだけでなく、大きな公衆衛生課題であることを認識させる。 【キーワード】 発病、化学療法、抗結核薬、QFT(クウォンティフェロン)、多剤耐性菌結核　長多剤耐性菌結核　DOTS	楠本　一生（さいたま市保健所長）	楠本　一生（さいたま市保健所長）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
9	HIV／AIDS① 世界流行の動向と背景	流行発覚後4半世紀の間に、HIV/AIDS流行は推定感染者数4千万人というパンデミックに発展し、現在東アジアで急速に拡大しつつある。流行は、医学的難題であると同時に、人類の抱える根深い社会矛盾（社会的脆弱性）を背景とする社会的難題でもあり、世界はまだ問題解決の展望を見出せずにいる。講義では、アジアを中心に流行の現状を説明し、HIV/AIDS流行があぶり出す社会矛盾に焦点を当てる。 【キーワード】 パンデミック、アフリカ、アジア、先進国、医学的困難、社会的脆弱性、流行予測	木原 正博（京都大学大学院教授）	木原 正博（京都大学大学院教授）
10	HIV／AIDS② 日本のHIV./AIDS流行の様相と背景	わが国は、多剤併用療法登場後も、HIV感染者とAIDS患者数が、未だに同時に増加を続けている稀な先進国である。アジア流行は周辺諸国に至り、近い将来にわが国への上陸が懸念されるが、それを防ぐ社会的力は貧弱に見える。講義では、流行の様相とともに、エイズ対策の遅れ、性感染症の蔓延、薬物蔓延、性産業の増殖など、わが国の今後のHIV/AIDS流行を左右する社会的脆弱性に焦点を当てる。 【キーワード】 東アジア、性感染、地域拡散、若者、社会的脆弱性、薬物、性産業、国際交流	木原 正博（京都大学大学院教授）	木原 正博（京都大学大学院教授）
11	プリオン病	プリオン病は、潜伏期間の長い致死性の感染症である。一度発病すれば、有効な治療法はない。この中でも、新興感染症として出てきた、ウシのBSEとそれがヒトに感染して起こるvCJDに関してどのような経緯でこの感染症が広がり、現在の対策上で問題になっている点に焦点をあてる。 【キーワード】 BSE（ウシ海綿状脳症），vCJD（バリアント型クロイツフェルト・ヤコブ病）、プリオン蛋白	北本 哲之（東北大学大学院教授）	北本 哲之（東北大学大学院教授）
12	院内感染症	院内感染症とは、医療施設のおける入院患者が原疾患とは別に新たに罹患した感染症および医療従事者が病院内において罹患した感染症である。近年、人口の老齢化により、糖尿病、悪性腫瘍など慢性病の増加が免疫機能を低下させ日和見感染に易感染性となり、院内感染を起こしやすくしている。また、薬剤耐性菌の出現により、院内感染症はさらに重大な問題となっている。日和見感染、薬剤耐性菌、院内感染対策、院内感染対策委員会、院内感染サーベイランス、ICTラウンドなどにつき概説する。 【キーワード】 薬剤耐性菌、院内感染対策、院内感染サーベイランス、ICTラウンド	河野文夫（国立病院機構熊本医療センター副院長）	河野文夫（国立病院機構熊本医療センター副院長）
13	輸血などの生物由来製品に伴う感染症	輸血は、近代医学に大きく貢献してきたが、現在行われている献血を基本とした輸血は、本質的には同種移植であり、自己移植と異なり感染症を初めとする副反応の可能性を常に伴う。輸血には、成分輸血と、血漿分画製剤がある。過去には、本邦においても、いずれの国も通った輸血後肝炎などの問題が存在した。しかし、現在日本の献血制度の輸血感染症に対するスクリーニングの制度は世界でもっとも進んでいる。しかし、エイズウイルスのウインドウピリオドなどの問題はなお完全ではなく、未解決の問題である。血漿分画製剤についても、献血に頼らないですむ、合成アルブミンが開発され実用化されようとしている。現時点での輸血由来感染症の問題点と将来についてを概説する。 【キーワード】 輸血由来感染症、ウイルス肝炎、HIV感染症	河野文夫（国立病院機構熊本医療センター副院長）	河野文夫（国立病院機構熊本医療センター副院長）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
14	感染症と健康危機管理	さまざまな感染症の世界的規模での流行が危惧される今日、これらに起因する健康被害の発生予防、拡大防止、治療対策を迅速に講じ、初期段階で感染症を制圧することが極めて重要である。感染症対策における健康危機管理の概念を整理するとともに対象となる事象を示す。震災後の感染症、SARS、トリインフルエンザ、ウエストナイル熱、変異型クロイツフェルト・ヤコブ病などの新興再興感染症、そして血液製剤や院内感染等の一部の医原性感染症が社会生活に及ぼす影響、国内外の対策、課題、今後の方向性を理解する。 【キーワード】 新興再興感染症、医原性感染症、感染症法、薬事法、移動手段の発達	河原　和夫	河原　和夫
15	感染症と生態防御機構の今後の展望	免疫系の調節機能が狂うことによって種々の病気（自己免疫疾患、癌、感染症）が誘発される。ここでは免疫調節機能の異常とその修復、今後の展望について述べる。特にアレルギーの発症機構、自己免疫疾患とその症状をひきおこすサイトカイン、抗体医薬という新しい治療法の出現、更に移植や再生医療についても述べる。 【キーワード】 アレルギー、自己免疫疾患、サイトカイン、抗体医薬、移植、再生医療	岸本　忠三	岸本　忠三

＝　がんの健康科学（‘０６）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：多田羅　浩三　（放送大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：門田　守人　（大阪大学大学院教授）〕
〔主任講師（現職名）：杉山　治夫　（大阪大学大学院教授）〕

全体のねらい

平成13年には、30万人の日本人の生命が、がんによって奪われた。がんは今日では、人類の最大の健康課題であり、各国の研究者や医療従事者が競って、がんの病態の解明、がんの発生と死亡の実態把握、予防の推進、新しい治療法の開発・普及、緩和ケアの充実に取り組んでいる。講義では、これらの取り組みの中で明らかになった知見について広く紹介し、がん克服に向けた展望を中心に話しをする。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	がんの社会医学	悪性新生物による死亡数は、昭和25年には全死亡数の7.1%であったが、平成14年には30.3%にまで増加がみられた。このような傾向をつくった要因は何か。どのようながん研究が行なわれて来たか。国はどのような対策を行ってきたのか。人々の生活環境の状況と悪性新生物死亡の関連はどうか。健康日本21の推進とがん克服の展望。これらの視点から、社会の中にあるがんという病気について考えてみたい。	多田羅浩三（放送大学教授）	多田羅浩三（放送大学教授）
2	がんの生物学Ⅰ	環境中に存在する種々のがん原性物質等により正常細胞ががん化する過程ではがん遺伝子やがん抑制遺伝子といった複数の遺伝子に異常が蓄積される。そして細胞は異常な増殖能を獲得し、アポトーシスによる細胞死の過程を回避して生存し続ける。発がんのしくみを細胞の増殖および生存のシグナル伝達異常に関与する種々の分子に焦点を当てながらながめてみたい。	濱岡　利之（大阪大学大学院名誉教授）	濱岡　利之（大阪大学大学院名誉教授）
3	がんの生物学 Ⅱ	正常細胞のがん化過程では、複数の遺伝子に異常が蓄積され、結果として細胞は異常な増殖能を獲得し不死化する。そして細胞は更なる悪性化へと突き進み、ついにはがんの浸潤性・転移性を獲得するに至る。がん細胞の無限の増殖性、浸潤性・転移性の獲得など、がん細胞の示す、きわだった生物学的特徴をながめることによって、がんの診断、治療に至る情報を得ることにしたい。	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	がんの疫学 I	疫学は「人間集団の生き様、特に疾病罹患者の過去における環境暴露特性を把握し、環境暴露と疾病罹患の関連性を解明し、さらに、環境暴露状況の改善による疾病予防を図り、その効果を科学的に評価し、疾病予防対策の策定に資する」ことを目的とする。 人間集団に流行する悪性新生物（がん）を生活習慣病として捉えると、主な危険要因や防御要因は食・生活習慣、喫煙・飲酒習慣、慢性感染暴露などに集約される。 本講義ではがん予防を睨んだ要因解明のための国内における疫学研究について解説する。	田島　和雄（愛知県がんセンター研究所副所長）	田島　和雄（愛知県がんセンター研究所副所長）
5	がんの疫学 II	がんの流行には地理的分布の特異性や同一集団であっても時間的変動が観察されるが、それは生活習慣の民族差や文化の時代的変遷などに密接に関連している。われわれは世界の各地域の文化的特異性に根ざしたがん予防を推進していくため、１０年前に新しい研究パラダイムとして「がんの民族疫学」を提唱した。そこでは「民族」を生活環境と宿主特性を共有する集団として捉え、その集団におけるがん流行の要因を解明していく。 本講義ではがんの民族疫学、つまり地球レベルで取り組む疫学研究について解説する。	同　上	同　上
6	がんの予防 I	がんの予防の柱は、1次予防（発生予防）と2次予防（早期発見）である。1次予防の効果はがん罹患率の減少により測定される。がん罹患率の測定は、死亡統計からは不可能であり、地域がん登録のシステムが必須である。わが国の地域がん登録から得られるがん罹患率、がん患者の生存率データに基づき、わが国における主要部位のがん予防のあり方について考えるところを述べる。なお、わが国には33の地域がん登録が存在しているが、その登録精度は、残念ながら、国際的基準に照らして低くとどまっている。わが国の地域がん登録の問題点を次に述べ、さらに、これを改善する方策について考えるところを述べる。	大島　明（大阪府立成人病センター部長）	大島　明（大阪府立成人病センター部長）
7	がんの予防 II	日本においては、喫煙の健康影響に関する疫学研究は、欧米先進国に比べて、質、量ともに劣っていないにもかかわらず、たばこ規制の取り組みは大きく立ち遅れ、このためがん罹患率・死亡率の減少という成果は上がっていない。これは、たばこ業界の利益を国民の健康に優先させる日本政府の態度によるものと思われる。このような困難を切り拓く役割は、医師組織・団体、医学会が担わなければならない。 2004年6月、日本政府はようやくWHOたばこ規制枠組み条約(FCTC)を批准した。今後は、FCTCの趣旨を十分活かすように、国内法等の整備に向けて、医師組織・団体、医学会は、政府、国会、メディアに働きかける必要がある。	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
8	がんの早期発見と検診事業 I	昭和57年度に老人保健法が施行されて以来、わが国における主要ながんに対する検診事業は、この法に基づく保健事業として実施されてきた。厚生省（当時）は平成8年度に老人保健推進費等補助金をもって「がん検診の有効性評価に関する研究」班（主任研究者　久道　茂）を組織し、各がん検診の検診精度や有効性の評価等を行った。また、平成12年度に、再び同補助金により「新たながん検診手法の有効性の評価」班（主任研究者　久道　茂）を組織し、その後の研究成果を取り入れて、各がん検診の有効性を再評価した。これらの研究に分担研究者として参加した経験から、わが国における主要ながんに対する検診事業の現状、その検診精度、有効性などについて概要を紹介する。	鈴木隆一郎（大阪府立成人病センター研究所特別研究員）	鈴木隆一郎（大阪府立成人病センター研究所特別研究員）
9	がんの早期発見と検診事業 II	わが国において肺がん死亡は、平成10年に胃がん死亡を上回って以来、がん死亡の最多部位（男女合計）であり続けている。また、老人保健法に基づく保健事業として実施されているがん検診事業のなかでも、肺がん検診は、導入2年目の昭和63年度以降、最大の年間受診者数を擁する規模で実施されている。地域における肺がん検診の実践とその有効性評価研究とに従事してきた経験から、かつて米国において有効性を証明できなかった肺がん検診が、わが国ではどのようにして「現行の肺がん検診は、適切に行うならば、死亡率減少に寄与する可能性が高く、継続して実施する相応の根拠がある」と評価されるに至ったかを解説する。なお、さらなる有効性向上を求めて試行されつつある胸部ＣＴ検診についても若干の解説を加えたい。	同　上	同　上
10	がんの臨床（外科）I	消化器がんなどの固形がんの治療は、未だ外科手術が中心である。最近の外科治療は大きく2極化している。治癒しやすいがんに対する機能温存を目指した縮小手術と、難治性のがんに対する根治性を求めた拡大手術の2つの方向である。さらに、後者に様々な治療法を付加する集学的治療法の開発がされ、実施されているので、これら外科治療の概説を行う。	門田　守人（大阪大学大学院教授）	門田　守人（大阪大学大学院教授）
11	がんの臨床（外科）II	がん、特に消化器がんの外科治療には100年以上の歴史がある。そして、その間目覚ましい進歩があり、術後生存率も次第に向上している。しかし、同じ手術あるいは治療をしても、患者によってその成績は異なる。残念ながら、その違いがなぜ生じているか未だに殆どわかっていない。最近がん細胞あるいは患者の個性を遺伝子を用いて調べ、それぞれのがんや患者に最も適した治療を行おうとするオーダーメイド医療が現実のものになろうとしている。そこで、個別化医療ついて現状と今後の展望を概説する。	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	がんの臨床（内科）I	癌の治療は、外科療法、化学療法、放射線療法を中心にしてなされてきたが、これらの治療法には、副作用が伴う。そこで、この副作用を軽減させるため、正常細胞を傷めず、癌細胞のみを殺す、分子標的療法が注目を集めている。講義では、癌の内科的治療法と数々の分子標的療法の概略をお話しする。	杉山　治夫（大阪大学大学院教授）	杉山　治夫（大阪大学大学院教授）
13	がんの臨床（内科）II	分子標的療法のうち、最も有力視されています数々の免疫療法について、非特異的免疫療法と特異的免疫療法に分けて、それぞれの原理、方法、効果についてお話する。最後に、分子標的療法、免疫療法の将来展望についてお話する。	同　上	同　上
14	がんの緩和ケアI	がんは1981年に本邦の死因の第1位となり、現在、3人弱に1人が、がんで亡くなっている。 癌腫の変遷や高齢化社会を迎え、その数はさらに増加しているが、最大の課題は、痛みなど、がんに伴うこころやからだの苦痛に苛まれている患者数が、今この瞬間でも150万人以上という我が国の現状である。 今回の講義では、がんに伴う心身の苦痛の治療・ケアが、手術や化学療法などの抗腫瘍治療と同じウェイトを持つ重要な領域であることについて理解を得るために、がん緩和ケアの実際を分かり易く解説したい。 今回は、緩和ケア病棟や緩和ケアチームの活動と、疼痛、呼吸困難感、倦怠感などの身体症状のマネジメントに関してお話する。	向山　雄人（癌研究会有明病院部長）	向山　雄人（癌研究会有明病院部長）
15	がんの緩和ケアII	始めに身体症状のマネジメントに関する治療法の進歩に関して最新の情報を提示したい。 次に、がんに罹患した患者は、診断された時点、再発・転移した時点、さらには終末期など、様々な時期に、心理・精神的変調を伴う頻度が高く、これらの心の側面に対する治療・ケアが重要である。近年、本邦でも精神腫瘍学(サイコオンコロジー)の重要性が認識され、薬物療法、支持的精神療法が確立されつつあり、その現状を解説したい。 終わりに、我が国におけるがん緩和ケアの現状と課題に関して総括し、問題提起としたい。	同　上	同　上

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	専門科目	科目コード	1814702	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　リハビリテーション（‘07）＝（R）

〔主任講師（現職名）：　里宇　明元（慶應義塾大学教授）　〕
〔主任講師（現職名）：　佐藤　禮子（兵庫医療大学副学長）　〕

講義概要

これまでリハビリテーションは理念的に語られることが多かったが、本来は優れて実践的かつ役に立つ学問、技術の体系である。少子高齢化の進行、疾病構造の変化、生活環境の変化が急速に進む中で、本講座では実学としてのリハビリテーションに焦点をあて、「障害を持った人々が、持てる能力を最大限に発揮し、人権が尊重され、生き甲斐を持った生活を送れるように、障害者やその家族を中心に共通の目標に向かってチームで援助する活動」としてのリハビリテーションについて実践的に考えてみたい。

授業の目標

1) リハビリテーション（リハ）に何ができるかを説明できる。
2) 障害のとらえかたとアプローチの方法を説明できる。
3) 早期からの予防的リハの重要性について説明できる。
4) 回復期、維持期のリハについて説明できる。
5) 高齢者、小児、運動器、内部障害のリハについて理解する。
6) 摂食・嚥下障害、排尿障害のリハについて理解する。
7) 義肢、装具、福祉機器について理解する。
8) リハ看護について説明できる。
9) リハの新たな展開について理解する。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	リハビリテーションに何ができるか	実学としてのリハビリテーションの観点から、その概念、歴史、流れ、対象、評価とアプローチ、リハビリテーションチームについて解説し、本講座全体を鳥瞰するとともに、リハビリテーションに何ができるかを提示する。	里宇明元（慶應義塾大学教授）	里宇明元（慶應義塾大学教授）
2	障害をどのようにとらえるか？	適切かつ有効なリハビリテーションを提供するためには、障害を持った人々の複雑かつ多岐に渡る問題点を的確に把握することが出発点となる。そこで、評価の概念的枠組み、障害のレベルごとの評価のポイント、問題点の抽出と評価のまとめ方について解説し、実際のアプローチに活かせるようにする。	辻　哲也（慶應義塾大学講師）	辻　哲也（慶應義塾大学講師）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
3	障害にどのようにアプローチするか	評価に基づくゴールの設定、障害のレベルごとのアプローチのポイント、リハビリテーションで用いられる治療手段とその選択、リハビリテーションプログラムの組み立て方、などを解説し、実践的なアプローチを行う上での一助とする。	長谷公隆(慶應義塾大学准教授)	長谷公隆(慶應義塾大学准教授)
4	早期からの予防的リハビリテーション	安静の取り過ぎにより生じる廃用症候群とその予防の重要性、早期からの予防的リハビリテーション介入により得られる効果、リハビリテーションを安全に行うためのリスク管理のノウハウなどについて解説する。	里宇明元(慶應義塾大学教授)	里宇明元(慶應義塾大学教授)
5	回復期のリハビリテーション	機能の回復を最大化するためのプログラムの組み方、高密度・高強度リハビリテーションの考え方、麻痺、失語症、嚥下障害、排尿障害、歩行障害など回復期で問題となる主な障害に対するアプローチのポイントを解説する。	園田茂(藤田保健衛生大学教授)	園田茂(藤田保健衛生大学教授)
6	地域リハビリテーション	地域リハビリテーションの考え方、システム、利用可能な資源を紹介するとともに、地域で生活する障害者の要介護状態の改善、獲得された機能の維持および本人と介護者の QOL 向上のためのノウハウを解説する。	長谷公隆(慶應義塾大学准教授)	長谷公隆(慶應義塾大学准教授)
7	高齢者のリハビリテーション	高齢化が急速に進行する中で、高齢者に対するリハビリテーションの重要性はますます高まっている。加齢、各種の疾病、環境など複合的な要因により要介護状態がもたらされるという高齢者特有の問題点を踏まえ、リハビリテーションを成功させるために押さえるべきポイントとアプローチのノウハウを解説する。	出江紳一(東北大学大学院教授)	出江紳一(東北大学大学院教授)
8	小児のリハビリテーション	小児は決して小さな大人ではなく、リハビリテーションにおいても、成長・発達途上にあることによりもたらされる特有の問題点がみられる。小児のリハビリテーションを成功させるために、ライフサイクルを通して押さえておくべきポイントとアプローチのノウハウを解説する。	里宇明元(慶應義塾大学教授)	里宇明元(慶應義塾大学教授)
9	運動器のリハビリテーション	運動器とは、骨関節筋肉とそれにまつわる神経など、身体を支えたり、動かしたりする器官の総称であり、その疾病は、生活機能障害をもたらす重要な原因となる。転倒・骨折、関節疾患、骨粗鬆症、スポーツ外傷など運動器疾患のリハビリテーションの考え方とノウハウについて解説する。	花山耕三(東海大学准教授)	花山耕三(東海大学准教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
10	内部障害のリハビリテーション	近年、呼吸器疾患、循環器疾患、糖尿病、悪性腫瘍などによる「内部障害」が増加しつつあり、近い将来、肢体不自由による障害を凌駕すると予想されている。これらの新たな領域としての内部障害に対するリハビリテーションの考え方とノウハウについて解説する。	辻　哲也(慶應義塾大学講師)	辻　哲也(慶應義塾大学講師)
11	摂食・嚥下障害のリハビリテーション	食べることの障害は、誤嚥性肺炎、窒息、脱水などの医学的リスクだけでなく、食べる楽しみの喪失というQOLの観点からも重要である。ここでは近年、注目されている摂食・嚥下障害の評価とアプローチのポイントについて解説する。	辻　哲也(慶應義塾大学講師)	辻　哲也(慶應義塾大学講師)
12	排尿障害のリハビリテーション	排尿障害があると、尿失禁による皮膚汚染、切迫性尿意による転倒リスクの増大、介助量の増加、社会からの孤立、在宅生活継続困難など、さまざまな影響がもたらされる。膀胱機能だけでなく、排尿動作、生活環境も含めた排尿障害の評価とアプローチのポイントを解説する。	里宇明元(慶應義塾大学教授)	里宇明元(慶應義塾大学教授)
13	義肢装具、福祉機器と最新テクノロジーの活用	リハビリテーションにおいては、失われた機能を補う手段として、さまざまな義肢装具、福祉機器等が活用され、障害を持った人々の機能の向上と社会参加の促進に役立っている。さらに、近年は、IT、ロボッティックスを駆使した先端的な機器も開発され、新たなブレークスルーをもたらすことが期待されている。これらの現状と今後の展望について解説する。	長谷公隆(慶應義塾大学准教授)	長谷公隆(慶應義塾大学准教授)
14	リハビリテーション看護の展開	疾病や障害からの回復過程で実施される看護活動は、身体機能の回復のみならず、低下した自尊感情を高め、自己効力感を涵養させる役割・機能を持つリハビリテーション看護である。術後の回復を促進させる早期離床や乳房切除後の訓練プログラムなどを通して、患者と協働するリハビリテーション看護の理念とゴールについて解説する。	佐藤禮子(兵庫医療大学副学長)	佐藤禮子(兵庫医療大学副学長)
15	リハビリテーションの新たな挑戦	これまで回復は困難と考えられていた成人の脳における可塑性への働きかけの可能性、再生医療の進歩に伴う新たなリハビリテーション医療の展開、長期宇宙滞在の現実化に伴う宇宙滞在中および地球帰還後のリハビリテーションの重要性の高まりなど、リハビリテーションの新たな挑戦が始まりつつある。最終回は、これらの近未来のリハビリテーションについて展望する。	里宇明元(慶應義塾大学教授)	里宇明元(慶應義塾大学教授)

＝　看護学概説（‘０５）＝（Ｒ）

〔主任講師：　佐藤　禮子（兵庫医療大学副学長）〕

全体のねらい

学習者が、看護学の主たる概念や諸理論に関わる先進的知識を幅広く獲得し、実践の科学である看護に対する理解を深め、自らの看護観を確かなものにしていくことを意図している。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	看護の本質となるもの	看護は、人が幸せにして健康な生活を営むことができることを目指す、生物ー心理ー社会的存在としての人間の健康生活に焦点を当てた働きをなす実践の科学である。このような科学的看護の本質について理解を深めるために、看護のｋｅｙ概念についてと看護実践とその基盤について詳述する。	佐藤　禮子（兵庫医療大学副学長）	佐藤　禮子（兵庫医療大学副学長）
2	看護学の発展とその方向性	看護学の専門分化が進んだ一方、看護学各分野の知見を共有することが困難になりつつある。今後の方向性を考える基盤として、医療の高度化と機能分化、人々の健康水準ともとめる健康の質、社会経済状況からの要請に対応しつつ、看護学が発展してきた過程について述べる。	吉本　照子（千葉大学大学院教授）	吉本　照子（千葉大学大学院教授）
3	生涯発達過程にある看護の対象者	人間はこの世に生を受けてから死に至るまで生涯発達の過程にある。看護は、人生のさまざまな局面にある人々に関わりながら、人々の健康や発達を支えることを目標としている。ここでは、看護の対象となる人々の健康との関連から、発達と看護について述べる。	岩﨑　弥生（千葉大学教授）	岩﨑　弥生（千葉大学教授）
4	健康を保つメカニズムと看護	健康とは何か、そして健康を保つために看護はどのような役割を果たしうるのかについて解説する。これにより健康のあらゆるレベルに対する看護の役割、機能について考察する。	宮﨑美砂子（千葉大学教授）	宮﨑美砂子（千葉大学教授）
5	環境との相互作用がもたらす健康問題	健康を支えるための環境づくりが地域、国、地球レベルで進みつつある。そうした活動の基盤となる概念として、物理化学生物的・社会的な外部環境と個人の内部環境、環境と人間の相互作用による適応、適応困難としての健康問題について述べ、看護職者の役割について述べる。	吉本　照子	吉本　照子

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
6	看護情報と看護過程の展開	看護過程は、看護情報に基づく問題解決のための分析的アプローチ法である。その中で、看護する人がどのような判断をし、何を問題として捉え、どのような活動を行っているのかについて解説する。	齋藤やよい（東京医科歯科大学大学院教授）	齋藤やよい（東京医科歯科大学大学院教授）
7	看護技術の意味	看護実践は対象との関わりの中で発展させていくものであり、対象にもっとも適した看護実践には、看護する者のしっかりした看護観とともに科学的根拠に基づいた看護技術が要求される。具体例とともに看護技術の意味と看護の実践力について説明する。	同上	同上
8	関わりと看護技術	看護は人と人との関わりの中で実現され、看護する人もされる人も関わりの中で変容する。看護する者が全体的存在として患者と共にあることの意味を述べ、看護における援助関係の構築や展開に関する看護技術も含め、関わりの看護技術について紹介する。	岩﨑　弥生	岩﨑　弥生
9	セルフケアを育てる看護	健康問題を解決し、健康を増進するために、人はさまざまな社会資源を活用し、セルフケア能力を育み、実践している。慢性疾患患者のセルフケアを例に、セルフケアを遂行するために必要な要件と、それを支える看護活動について説明する。	齋藤やよい	齋藤やよい
10	患者を含む一単位としての家族への看護	患者を含めた家族全体を一つの単位として看護の対象とする意義を概説し、個人の健康の回復と維持における家族の役割および家族成員の病気が家族全体に及ぼす影響について述べる。また家族全体を対象とした看護方法の概要を簡単に紹介する。	岩﨑　弥生	岩﨑　弥生
11	在宅療養を支える看護	在宅療養者及びその家族を支えるために、地域社会で機能している看護の諸活動の現状について説明する。また在宅療養を支える看護をさらに充実・発展させるための課題について述べる。	宮﨑美砂子	宮﨑美砂子
12	他職種との連携・協働と看護の継続	保健医療福祉における対象の多様なニーズに効率的に対応するために、多機関・多職種の連携・協働および看護の継続が重要になっている。各々の場の看護職者が調整的役割を遂行しながら、ケアシステムを発展させるための基盤として、連携・協働に関する概念と考え方について述べる。	吉本　照子	吉本　照子

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
13	地域住民と共働する看護	人々は、地域生活共同体の一員として、多様な人とつながりを持ちながら生活している。人々の健康や生活の豊かさを追究するために、看護が創出してきた、地域住民と共働する看護活動の方法及び意義について説明する。	宮﨑美砂子	宮﨑美砂子
14	人の死と看護	人の死とはについて、生物学的な死の概念から導入し、人の死と死に行くことについて理解を深め、特に、人が人生途上において、突然に死に直面せざるをえない事態に陥った時の苦悩する人々および死に逝く人々にかかわる看護の働きについて説明する。	佐藤　禮子	佐藤　禮子
15	看護における倫理	倫理とは何かという基本的な意味について、および専門職としての看護実践を導く判断の基盤であり道徳的な意思決定を行う時の行動の指針ともなる、倫理的な原則について説明する。また日々の看護実践における倫理的問題を理解するための講義展開を行う。	同　上	同　上

＝　基礎看護学（‘０４）＝（TV）

〔主任講師　：佐藤　禮子（兵庫医療大学副学長）　〕
〔主任講師　：三上　れつ（慶應義塾大学教授）　〕

全体のねらい

看護実践に必要な主要な知識・技術について理解を深め、専門職者として活動するための基盤並びに考え方を拡大することを意図している。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	専門職として求められる看護の機能と役割	看護が自律した専門職として、人々の健康や幸福に貢献するには、看護サービス利用者や他職種者と協働して、ケア技術や保健医療福祉におけるケアシステムを変革していくことが必要である。看護の歴史を振り返り、人々のＱＯＬの向上をめざして、対象のもつ力を強める看護の機能と役割について説明する。	佐藤　禮子（兵庫医療大学副学長）	佐藤　禮子（兵庫医療大学副学長）
2	患者の権利を擁護する方法	看護職者は、患者がもつ基本的な人権を尊重し、患者が自らの意思に基づき自己決定できるよう支え守る重要な役割を担っている。看護実践の場における患者の人権擁護に対しての多様な倫理的課題と看護職員としてのその対応方法について説明する。	大島　弓子（神奈川県立保健福祉大学教授）	大島　弓子（神奈川県立保健福祉大学教授）
3	看護行為と法の関係	看護は人の生命に関わる職業であり、法によって責任の在り方が問われる。どのような法令に基づき看護行為を遂行するのか、特に医事、薬事に関する法律を概説し、責任を問われる意味について述べる。また、看護行為の法的責任、看護師の医療行為の法的責任について具体的に説明する。	石井　範子（秋田大学教授）	石井　範子（秋田大学教授）
4	患者となった人の対象理解とは	看護における対象理解は、対象を全体的に統合された人間として理解することである。病気によって患者は新たな役割が付与され、制限された生活を余儀なくされるが、身体的・心理的・社会的・霊的存在として変化しつづける。人間の生命・生活・健康に関わる人間理解について、具体的な事例を通して説明する。	小松　万喜子（愛知県立看護大学教授）	小松　万喜子（愛知県立看護大学教授）
5	専門的援助関係を発展させるコミュニケーション技法	患者と看護師の関係は確かな意思によって結ばれる専門的援助関係である。このプロセスを通して看護師は自己理解と他者理解を深め、専門職者としての能力を高めていく。対人関係理論を概説し、患者との効果的なコミュニケーション技法を具体的に説明する。	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
6	看護判断の基盤となる身体的・心理社会的アセスメント	身体的・心理社会的アセスメントは、看護ケアの根拠と成果の測定、評価の指針となる情報を得るために欠かすことができない。身体的・心理社会的アセスメントの方法を概説し、特に身体的アセスメントの具体的方法について述べる。	三上　れつ（慶應義塾大学教授）	三上　れつ（慶應義塾大学教授）
7	エビデンスに基づく看護過程	看護過程は、看護師が対象の健康回復・維持・増進をめざして、意図的・系統的に行われる問題解決方法である。看護過程の6段階について説明し、エビデンス（根拠）に基づく看護ケアを実践するために、正確な診断・評価を方向づける患者情報の重要性と活用法について述べる。	同　上	同　上
8	セルフケアを促進させる教育指導方法	対象が健康的な日常生活を維持していくためには、看護師が一方的に援助するのではなく、患者・家族のセルフケア能力を高めていくことが不可欠である。セルフケア能力を促進するために必要な教育指導方法の実際について説明する。	佐藤　みつ子（山梨大学大学院教授）	佐藤　みつ子（山梨大学大学院教授）
9	看護基本技術：「食事」を支える口腔・嚥下ケア	口腔内汚染や誤嚥は、致命的な肺炎を引き起こす。 口腔の機能と嚥下のメカニズムから、体力の低下した高齢者や麻痺のある患者に対する「食事」を支える看護技術として、口腔ケアと嚥下ケアについて具体的に説明する。	三上　れつ	三上　れつ
10	看護基本技術：「自尊心」を守る失禁ケア	尿失禁には様々な種類があるが、そのメカニズムを知ることで、人々の排尿を適切にコントロールする介入が可能になる。これらの尿失禁のケアとして重要な「自尊心」を守る看護技術を中心に、トータルケアであるコンチネンスケアについて具体的に説明する。	大島　弓子	大島　弓子
11	看護基本技術：「自然治癒力」を促がす褥瘡ケア	新しい褥瘡ケアは、除圧、栄養、閉鎖式ドレッシング法、創の湿潤環境、デブリードメント法である。予防ケアの他、褥瘡の進行段階に応じた創の「自然治癒力」を増進するための看護技術として、創傷ケアについて具体的に説明する。	石井　範子	石井　範子
12	看護基本技術：「生命の危険」を回避する感染予防方法	医療・保健施設における院内感染に関する状況は厳しさを増しており、正しい知識の提供や予防手段を推進することが急務となっている。院内感染の現況と新しい感染管理の考え方について説明し、「生命の危険」を回避する看護技術として、具体的な感染予防方法について述べる。	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
13	看護の情報化から電子カルテまで	身近な存在となった医療情報のコンピュータ化社会を概観する。看護情報の意味、活用法について確認し、情報をどのように管理し保護するかについて説明する。さらに、電子カルテの本質と実際を紹介する。	大島　弓子	大島　弓子
14	チーム医療を発展させるリーダーシップのとり方	対象のニーズや疾病状況の変化に伴い、医療が専門分化し、看護師は他の専門職者とチームを組んでケアを提供している。チーム医療におけるリーダーシップについて概説し、看護独自の機能と看護師に期待される役割を説明する。	佐藤みつ子	佐藤みつ子
15	看護の質を保証するリスクマネジメントのあり方	看護が専門職として発展するために、提供する看護の質を保証し、組織全体のマネジメントの見直しを図ることについて概説する。また、臨床における看護のリスクマネジャーの活動を通して、看護管理として必須のリスクマネジメントのあり方を説明する。	佐藤　禮子	佐藤　禮子

＝　在宅看護論（‘０４）＝（TV）

〔主任講師：川村　佐和子（青森県立保健大学教授）〕

全体のねらい

疾病や障害および虚弱なために看護ニーズを持つ居宅生活者とその家族を理解し、ＱＯＬを向上させる目的にそって、問題を解決するための方策をたて、その実施に必要な知識と看護技術を学習する。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
第一部　訪問看護の概要				
1	訪問看護の必要性と制度の概要	人々が居宅で医療を受けながら生活し、その生活の質を向上させられるように支援することが、在宅医療・看護の提供理念である。訪問看護は1992年から制度化され、診療報酬制度も整備されつつある。本回は、訪問看護の役割、訪問看護提供施設、問題の所在と解決策の考え方について概説する。	川村　佐和子（青森県立保健大学教授）	川村　佐和子（青森県立保健大学教授）
2	訪問看護提供の考え方と業務	訪問看護の提供は、利用者との契約に基づいて、主治医の指示を得て開始される。また、利用者の居宅に出向いて単独で看護を提供するものであるから、利用者やその家族との関係や、主治医との関係、ケア提供チームメンバーとの関係を信頼性の高いものにしておくことが重要であり、看護の提供においては倫理的な行動が求めれている。これら　従来の医療施設内における看護提供法や技術提供の相違と留意点について概説する。	同　上	同　上
3	訪問看護過程と必要な能力	訪問看護では、利用者の居宅で看護を提供するために　より利用者の立場に立った看護を提供する必要がある。そこで、医師から受ける指示や報告について、考慮すべき諸点やそこで用いるツールについて概説する。あわせて、施設内基準（プロトコール）の作成や活用についても概説する。	同　上	同　上
第二部　基本的な訪問看護の技法				
4	訪問看護過程の展開：生活のニーズを中心に	在宅療養には、基礎となる生活の整備を必要とする。近年は少人数家族や子供の介護に依存しない在宅生活を希望する高齢者が多くなり、基礎的な生活の支援が重要となっている。そこで、在宅生活の実態を紹介し、そこから生じる支援課題について述べ、さらに、訪問看護師としての課題解決のための方策つまり、家族や福祉関係職員、ボランティア等との連携や共同活動について概説する。	近藤　紀子（日本赤十字武蔵野短期大学准教授）	近藤　紀子（日本赤十字武蔵野短期大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	基本的な生活を支える	訪問看護は療養者の自立を支援する。そのためにはまず、日常生活動作（歩行、食事、保清、会話）が維持できるよう支援する。さらには、生命維持機能（循環、排泄、神経系、呼吸）が保たれるよう支援する。生活の中で療養者・家族が継続して実行可能な訪問看護技術について実演をまじえて概説する。	近藤　紀子	近藤　紀子
6	療養環境の整備を支える	介護保険、その他身体障害者福祉の適応となる各種サービス（住宅改修、介護福祉機器の導入、訪問サービス、通所サービス、給食サービス等）その他民間サービスについて、さらに医療資材・器材の調達方法について概説する。さらに、本人・家族に在宅療養環境整備のための情報提供・と導入向けた支援、緊急時対応の必要性と具体的な方法について概説する、	同　上	同　上
7	家族を支える	在宅医療を受けている人々の傍らに常時いる家族介護者の役割は大きい。しかし、家族介護者に介護・看護を大きく依存してしまうと、家族はその負担に耐えかねて健康や生活に破綻をきたしてしまう。訪問看護師が家族介護者に対して行うべき、健康や生活上の問題の考慮の仕方や支援方法について概説する。	川村　佐和子	川村　佐和子
		第三部　医療を必要とする人々に対する訪問看護技法		
8	医療継続を支える	近年の医療技術の発達、社会環境の変化にともなって、がんを病む人々やＡＬＳなどにより人工呼吸器を装着するなど高度な医療技術を用いて療養する人々も在宅療養するようになってきている。これらの人々が安全で安楽な療養生活を送るためには、在宅で医療を継続することが欠かせない。在宅療養生活の実態にふれ、医療継続上のニーズとそれに対応する支援法について概説する。	近藤　紀子	近藤　紀子
9	在宅ターミナルケア	在宅ターミナルケアとは何か概念について説明し、地域における在宅ターミナルケアの実際を紹介する。また在宅ターミナルケアにおける家族支援・チームケア・死の看取り・グリーフケアについて具体的に概説する。	川越　博美（聖路加看護大学教授）	川越　博美（聖路加看護大学教授）
10	症状をコントロールする	在宅ターミナルケアでは、症状のコントロールが重要なケアであり、在宅における症状コントロール、特に疼痛管理に焦点をあて、訪問看護師に必要な知識と技術について学ぶ。疼痛管理の原則・薬剤による疼痛管理・代替療法・モルヒネの使い方と管理・チームによる疼痛管理について概説する。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	入退院を支える	療養生活中には本人の病状変化、家族の介護疲れ、時には支援者の再調整のために入院が必要となる。入院時には在宅での療養状況を引き継ぐ。退院時は病院に出向き病状の確認、本人家族の在宅療養の意思確認、在宅に向けて療養環境整備など入退院時の支援について概説する。	近藤　紀子	近藤　紀子
12	充実した日々を支える	生活の質（Quality Of Life:QOL）とは何か？について概説する。また、訪問看護師がQOL向上のためにできることは何か？について概説し、利用者のさまざまな努力や工夫について紹介する。	川村　佐和子	川村　佐和子
		第四部　訪問看護師の地域社会活動		
13	在宅チームの一員として機能する	在宅療養は、医師、歯科医師、薬剤師、看護師、保健師、ホームヘルパー、理学療法士、作業療法士、栄養士、介護支援専門員など多くの機関に所属する多くの職種からなるチームで支援することになる。訪問看護は療養者本人・家族が混乱しないよう、他職種と連携し、チームの一員として機能する。そのために他職種の機能を理解でき、個別のケアプランの中で、療養者自身の思いが反映されるよう調整する。これらの方法をいくつかの事例で具体的に概説する。	近藤　紀子	近藤　紀子
14	地域看護と訪問看護	地域や集団を対象とする地域看護の考え方および、地域看護と訪問看護の関連について概説する。	川村　佐和子	川村　佐和子
15	在宅看護のこれから	今後　わが国で訪問看護が発展していくために直面している課題、例えば、問題報酬制度の複雑性、保険適用の限界、ケアの高度化への対応、訪問看護提供施設の経営問題など、について討論し、今後の展望について討論する。	同　上	同　上

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	専門科目	科目コード	1881400	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　少子化時代の児童福祉（‘０７）＝（Ｒ）

〔主任講師（現職名）：　松原　康雄（明治学院大学教授）〕

講義概要

２００５年日本は人口減少を経験することになった。この大きな原因は述べるまでもなく出生数の減少である。少子化が進行する現代社会における児童及び家族の状況と、子ども・子育てに関する社会的支援について学ぶことが本講義の目的である。子ども・子育てに関する社会的支援は、教育、保健医療など多分野からなされる必要があるが、本講義では社会福祉分野における社会的支援に焦点を当てる。

授業の目標

子どもや家族の状況とニーズを把握することが基礎となる。これに対する社会的施策、特に児童福祉分野の諸法律、制度を理解することに加えて、児童福祉分野における現場実践についても一定の理解を得ることを目標とする。子どもの生活や育ちを支援することは、子どもの養育者への支援も視野に入れることになる。今後の課題と展望についても学生が自ら検討することができる力を養うことを望みたい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	児童福祉の視座	子どもや家族、養育者に対する社会的支援の必要性と、家族に対する社会的介入がどこまで可能かというとのバランスについて確認し、児童福祉施策の意義を検討する。さらに、社会福祉施策全体の動向を踏まえつつ、児童福祉施策を概観する。	松原康雄（明治学院大学教授）	松原康雄（明治学院大学教授）
2	現代の養育環境	出生数や出生率などを手がかりに、わが国の少子化状況を具体的に確認する。また、子どもや子育て中の親の状況、家族をめぐる地域社会の状況について学び、社会的支援に関するニーズを確認する。養育は、家族だけでは担いきれないことから、養育環境とは地域社会や子育て支援を実施する社会資源の状況にも連動する。	同上	同上
3	子どもの権利	権利主体としての子どもについて、子どもの権利条約に基づきながら学ぶ。子どもの権利条約は国連で採択され、日本も含めて各国が批准している。子どもの意見表明権、最善の利益の確保などが、実際の施策や実践の場面で実現されていくことが必要である。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	児童福祉法と関連法制	児童福祉法、母子及び寡婦福祉法をはじめとして、児童と家族に関する法律について概観する。法上の「児童」に関する規定はかならずしも統一されていないが、子どもの権利を擁護するという点では共通である。	同上	同上
5	児童福祉の行財政	児童福祉分野の行政、財政システムについて概観する。行財政改革の動向は児童福祉分野にとっても無縁ではない。また、様々な実践は、行財政という背景が存在するからこそ展開できる。予算状況や、地方自治体の役割関係などについても学ぶことになる。	同上	同上
6	児童福祉の実施機関、施設	児童相談所、各種児童福祉施設などについて、その機能と役割を学ぶ。児童相談所は、措置権を有した児童福祉の第一線機関であり、その機能と役割を理解することは重要である。児童福祉施設には、入所、通所、利用型施設が存在する。ここでは、それぞれの施設概要について学ぶ。	同上	同上
7	地域における子どもの育ちと子育て支援	地域における子どもの育ちを支える児童館の役割や、子育て支援の意義と実態について学ぶ。児童館は、利用型の児童福祉施設である。また最近では乳幼児とその養育者への支援にもかかわっている。乳幼児とその養育者の支援、すなわち子育て支援は多様であり、この点についての学習も含まれる。	同上	同上
8	保育	保育ニーズとそれへの対応、保育所の現状と課題を学ぶ。保育は、養育者の就労にともなう子育ての補完とともに、子どもの成長にとっても大きな役割を果たしている。多様な保育ニーズにどのように対応するのか、幼稚園や「総合施設」との関係についても学ぶ。	同上	同上
9	児童虐待への取組	児童虐待の状況と予防、対応、アフターケアについて学ぶ。児童虐待の把握は年々増加の一途をたどっている。死にも至る可能性があり、子どもの成長発達に重大な影響を及ぼす権利侵害である虐待に関する理解は予防、対応などにとって欠かすことはできない。	同上	同上
10	非行問題とその対応	非行問題について、児童自立支援施設の状況や少年司法との関連を学ぶ。少年犯罪への司法的対応と対比させながら、児童福祉分野での対応の特徴やあり方を考えていく。非行という問題を子ども個々の責任に帰してしまうだけではなく、社会環境との関連で理解することも重要である。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
11	障害児とその家族への支援	障害児の状況、在宅・施設での支援を学ぶ。障害を有することが、社会的生活の障害にならないような施策や社会環境が整備されつつある。差別を無くすことだけではなく、ともに生きる「共生社会」実現という観点から、諸施策を点検していく。	同上	同上
12	ひとり親家庭への支援	ひとり親の状況と、福祉施策の構成・課題を学ぶ。ひとり親の経済状況、子育てに関する悩みなどを理解するとともに、子育て支援全般を基盤としながらもひとり親固有のニーズに対応する諸施策の現状を学ぶとともに、児童福祉施設である母子生活支援施設の現況についても学ぶ。	同上	同上
13	児童や家庭支援の方法	児童家庭福祉実践の体系化とその理論について学ぶ。実践にはさまざまな手法（レパートリー）がある。個別的な対応からグループへの対応など、これまで実践を通じて体系化されてきたソーシャルワークを中心に、その原則や展開方法を学ぶ。	同上	同上
14	児童福祉の担い手	児童福祉サービスの担い手について、専門職や地域住民の役割を学ぶ。児童相談所で働く児童福祉司、施設で働く児童指導員や保育士などに加えて、地域には児童委員や主任児童委員という地域住民でありながら、厚生労働大臣の委嘱を受けて活動する人々も存在することを学習する。	同上	同上
15	少子化時代の児童福祉の課題と展望	少子化時代にあって、豊かな生育環境と養育環境を児童福祉サービスはいかに提供できるか、社会的施策の動向を踏まえてそれを展望するとともに、今後の課題についても明らかにし、さらなる学習についての方向性を示す。	同上	同上

＝　障害者福祉論（‘０５）＝（Ｒ）

〔主任講師：　大曽根　寛（放送大学教授）〕
〔主任講師：　小澤　　温（東洋大学教授）〕

全体のねらい

今日、障害者福祉は、国内的にも、国際的にも大きな変化が生じてきている。「障害者福祉論」の講義では、障害者福祉の歴史、理念、障害の概念と定義、障害者福祉の制度とサービスの体系、障害者をめぐる環境、障害者の権利、障害者自身の運動などのテーマを通して、障害者福祉の現状について学び、今後の課題と展望について理解を深めることを目的とする。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	障害者福祉の歴史的展開	１回目の講義では、歴史を通して、障害者福祉の全体像を理解することを目的とする。第２次世界大戦以降から現在にいたるまでの障害者福祉の歴史を、貧困対策制度から障害者福祉制度へ、障害種別の対策期、施設設置促進期、地域福祉重視期、措置から契約制度へ、の５つの時代区分に分けて理解する。	小澤　温（東洋大学教授）	小澤　温（東洋大学教授）
2	障害者運動の歴史的展開	２回目の講義では、障害者自身がどのような運動や社会的な活動を行い、障害者福祉の歴史を築いてきたのかを理解することを目的とする。これまで障害者福祉の歴史は、法・制度の歴史に焦点をあてたものが多く、障害者自身の運動や社会的活動を通して、障害者福祉の歴史のより深い理解をすすめる。	小澤　温	小澤　温
3	障害者福祉の思想と理念	３回目の講義「障害者福祉の思想と理念」では、障害者福祉について考える際のよりどころとなる思想や理念について、現代の問題状況をふまえながら検討する。近代社会における「障害」および「障害者」概念の位置を確認しながら基本的人権の理念が障害者福祉の原理になっていることを理解する。	大曽根　寛（放送大学教授）	大曽根　寛（放送大学教授）
4	障害の概念と国際生活機能分類	４回目の講義では、障害についての見方、考え方を理解することを目的とする。特に、国際障害分類から国際生活機能分類に改定された経過や背景を理解することによって、障害をどのように考え、障害によってもたらされる問題をどのように克服すべきかについて理解を深める。	小澤　温	小澤　温
5	障害者福祉の対象	５回目の講義では、障害者福祉制度の対象として、障害児、身体障害者、知的障害者、精神障害者、難病患者、を取り上げて、法・制度における対象の規定について理解することを目的とする。あわせて、法・制度における対象の規定の問題点や課題についても検討する。	坂本　洋一（和洋女子大学教授）	坂本　洋一（和洋女子大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
6	障害者福祉の制度体系	6回目の講義では、障害者福祉サービスの根拠となる障害児、身体障害者、知的障害者、精神障害者に関わる法律・制度体系を理解することを目的とする。あわせて、障害者の自立と社会参加を促進するための関連する多様な障害者施策についても理解を深める。	坂本　洋一	坂本　洋一
7	障害者福祉に関わるマンパワー	7回目の講義では、障害者福祉に関する「マンパワー」とはどのような種類のものであり、どのような特徴をもっているのかについて理解することを目的とする。また、「マンパワー」の教育や養成のあり方についても理解を深める。	坂本　洋一	坂本　洋一
8	施設福祉の現状と論点	8回目の講義では、障害者施設が誰の、どのようなニーズに応えようとしてきたのかという歴史的系譜をたどりながら、「生活保障としての意義と市民生活からの遊離」という観点から、施設福祉の現状と論点を整理し、「施設福祉」の有り様を考える契機とする。	加瀬　進（東京学芸大学准教授）	加瀬　進（東京学芸大学准教授）
9	地域福祉の現状と論点	9回目の講義では、地域住民としての暮らしを構成する諸要素を読み解き、それを充足する社会資源と「施設」を含めた福祉資源の関連を整理しながら、障害者の「地域福祉」および「地域生活」の現状と論点を整理し、目指すべき地域ケアシステムの理解を深める。	加瀬　進	加瀬　進
10	障害児の療育と教育	10回目の講義では、出生前から成人にいたるまでの「子どもの豊かな育ち」を軸に、療育と教育の現状と課題を理解することを目的とする。また、「特別支援教育」という新たな枠組みにおける障害者福祉との連携についても理解を深めることとしたい。	加瀬　進	加瀬　進
11	障害者の雇用・就労の現状と課題	11回目の講義では、職業と生活との関係を検討する。まず、現実の経済社会との関わりの中で、障害者の雇用・就労がどのような現状にあるかを把握する。その上で法的なシステムの仕組みと機能をふまえながら職業リハビリテーションの課題について学習する。	大曽根　寛	大曽根　寛
12	障害者をめぐる移動・交通環境	12回目の講義では、障害者を取り巻く移動、交通環境の状況とその課題について、内外のさまざまな具体的な事例を示しながら、考察を深めることを目的とする。また、交通バリアフリー法の意義とその課題についても検討し、よりよい交通、移動環境のあり方について理解を深める。	秋山　哲男（首都大学東京教授）	秋山　哲男（首都大学東京教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
13	障害者をめぐるまちづくり	13回目の講義では、移動、交通環境からさらに視野を広げて、都市、地域環境の整備を含んだ「まちづくり」の現状と課題について、さまざまな地域事例を紹介しながら理解を深めることを目的とする。あわせて、「まちづくり」の評価視点について何が必要であるのかを考察する。	秋山　哲男	秋山　哲男
14	障害者の居住環境	14回目の講義では、障害者の居住環境に焦点を当て、具体的な住宅状況にふれながら、住宅改造のあり方について理解を深めることを目的にする。また、住宅改造のあり方を通して、障害者にとってのよりよい住環境とそれを実現する住宅政策のあり方について理解を進める。	秋山　哲男	秋山　哲男
15	障害者福祉の課題と展望	15回目の講義では、これまで学んできた講義をふまえて、今後、日本の障害者福祉はどうあるべきか、どのような方向で改革を進めるべきなのかについて理解することを目的とする。特に、障害者差別禁止の国際的な動向や利用者中心の福祉改革の動向について考察を深める。	小澤　温	小澤　温

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	専門科目	科目コード	1513508	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　高齢期を支える社会福祉システム（‘07）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：　栃本　一三郎（上智大学教授）　〕
〔主任講師（現職名）：　浅野　仁　（関西学院大学教授）〕

講義概要

人口減少社会における高齢期を支える社会福祉システムを高齢者、サービス、政策のそれぞれレベルから検討していく。特にわが国は国民の1/3が高齢者となる一方、人口そのものが激減することになる。そのような社会にあって高齢期を支える社会全体のシステムは従来の常識や施策の発想からは生まれない。すでに人口減少社会となり、かつそのようななかで高齢者がつつがなく生活する仕組みを先行して構築しているヨーロッパと対比しながら、広い視点に立ってわが国のこれからの福祉システムのあり方を学ぶ。

授業の目標

これからの日本社会の正確な未来像を描くとともに、高齢期を支える仕組みとして日本に欠けたものを諸外国の例から知るとともに、一方人口減少社会においてわが国に適した地域に高齢期を支える社会福祉システムを地域住民が自ら考え、作るあげるための知識、方法を学ぶ。又、高齢社会を支えるための継続教育の重要性についても理解する。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	人口減少社会のなかでの高齢社会の展望	すでに20世紀末に人口減少社会に転じたヨーロッパと対比しながら、世界に類を見ない大規模・急激な人口減少に直面するなかで迎える高齢社会の特殊性を明らかにする。3000万高齢者が定常的に数十年に渡って存在する社会のイメージとそのなかでいかなる社会システム・経済システムが求められるかを明らかにする。そして、そのシステムが構築されないと将来衰退する社会となろうことを指摘する	栃本一三郎（上智大学教授）	栃本一三郎（上智大学教授）
2	高齢者に関する知識と誤解	高齢期における社会福祉システムの学習に先立って、その対象である高齢者に関する知識とイメージについて自己評価する。ここでの要点は、高齢者に対し誤解に基づく知識が多く、そのために否定的イメージをもつ傾向があることを解説する。さらに、高齢者自身の暦年齢よりも若い認知年齢についても紹介する。	浅野　仁（関西学院大学教授）	浅野　仁（関西学院大学教授）
3	高齢期の身体機能と介護予防	加齢に伴う心身機能の低下は老化と呼ばれるが、この機能低下をいかに先送りするかが「介護予防」として、現在重要な政策課題となっている。介護予防のためには、人々が老化の過程、特に要介護状態をもたらすことの多い病的老化や生活習慣病についての理解を深め、自ら介護予防の活動に参加することが重要である。要介護状態をもたらす脳血管障害、骨折、廃用症候群などについて学ぶと共に、介護予防の条件となる運動や食事の意義、人々が参加しやすい地域活動としての介護予防のあり方を考える。	黒田研二（大阪府立大学教授）	浅野　仁（関西学院大学教授） 黒田研二（大阪府立大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	心理・精神的機能と加齢の関係	人の行動が加齢によってどのような影響を受けるかは、感覚・知覚、知能、記憶、学習能力、パーソナリティなどの心理的機能の変化とその人を囲む社会環境によって異なってくる。そこで、本講義では高齢期の行動特性を心理的機能の変化と社会的な関係から概観し、高齢期の社会適応のあり方を探る。	藤田綾子(大阪大学大学院教授)	浅野　仁(関西学院大学教授) 藤田綾子(大阪大学大学院教授)
5	高齢期のQOLとスピリチュアリティ	高齢期は、これまでの人生を振り返り、「これからどう生きるのか」、また「どのように人生を統合していくか」という課題に向かい合う時期である。高齢期のクオリティ・オブ・ライフ(QOL)は、どのような内容か。まず、QOLの概念を整理した上で、QOLからみた高齢期の課題を明らかにし、さらにQOL概念を構成するスピリチュアリティの重要性を取り上げる。	藤井美和(関西学院大学准教授)	浅野　仁(関西学院大学教授) 藤井美和(関西学院大学准教授)
6	高齢者と世代間扶養	高齢者と子・孫世代との関係、さらに高齢者とその親世代との関係といった世代間関係は、経済的・身体的な扶養関係とともに世代間交流としても捉えていく必要がある。従来の私的扶養関係と社会保障などによる社会的扶養関係は家族を軸に、世代間交流は地域を軸に検討し、ヨーロッパにおいても日本においても今後とも高齢期を支える重要な社会システムであることを論じる	浅野　仁(関西学院大学教授)	栃本一三郎(上智大学教授)
7	高齢社会と高齢社会政策	今後の高齢社会に対する施策は従来のような狭義の老人福祉や既存社会保障の枠組みを超えた政策的視点が求められる。本講で、あらためて高齢期を支える社会システム・生産労働システム・社会福祉システム構築のための高齢社会政策について論じ、6回までを総括するとともに8回以降の個別政策の橋渡しをおこなう	栃本一三郎(上智大学教授)	栃本一三郎(上智大学教授)
8	高齢期を支える所得保障システム	年金が今後も公的な所得保障の中心として位置づけられるが、注目しなければならないのが最適生活を保障する全体的なシステムである。それには生活保護や就労なども含まれる。EUなどにおけるさまざまな制度、サービスを用いた最低生活保障の姿を明らかにするとともに、それらを基礎とした生活のあり方を展望する	栃本一三郎(上智大学教授)	栃本一三郎(上智大学教授) ゲスト：駒村康平(東洋大学准教授)
9	高齢期を支える医療と地域における保健医療システム	高齢者医療保険制度が新たに創設される。このシステムが介護保険制度とあわせて地域で高齢者が健康に過ごすための大きな柱となる。そこで行われるサービス、福祉との連携などについて論じるとともに、広くわが国の医療保険制度の課題と医療技術の先端についても紹介する	川渕孝一(東京医科歯科大学大学院教授)	栃本一三郎(上智大学教授) 川渕孝一(東京医科歯科大学大学院教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	高齢期の居住支援	単に、高齢者の住宅について論じるだけではなく、高齢者の取り巻く空間設計がどのようなものとして形作られているのか、持続可能な適正規模の自治体が既に形成されているヨーロッパと比較しながら、高齢者がつつがなく生活できる空間のあり方、生活基盤について解説する。その際、高齢期にあっても住居地を大きく変える動きが出てきている。これらについても紹介する	園田眞理子（明治大学准教授）	園田眞理子（明治大学准教授）
11	高齢期を支援する社会福祉サービス（1）	まず、国が提供している在宅福祉サービス（要援護高齢者対策・社会活動促進対策）と地域において実施されている在宅福祉サービスについて概観し、次に高齢者が一方的にサービスを受ける対象としてではなく、地域で生活する市民として社会参加をとおして社会貢献する重要性について指摘する。	浅野　仁（関西学院大学教授）	浅野　仁（関西学院大学教授）
12	高齢期を支援する社会福祉サービス（2）	施設福祉対策は入所施設と利用施設に大別されるが、従来の大規模型入所施設は介護保険制度のもとで、ユニットケアの導入や地域密着型サービスへの転換が図られている。最新の施設サービスのケアの取組みや地域に根ざした施設サービスの今後の方向について考察する。	浅野　仁（関西学院大学教授）	浅野　仁（関西学院大学教授）
13	介護保険制度のあり方	ドイツ、オランダとともに介護保険制度による高齢者介護のシステムを構築したわが国の介護保険制度について、各国のその後の法律改正および現場におけるサービスの質の維持のための新しい試みなど改正以降のサービスの変化、現場での対応、新しい取り組み、課題などについて検討する。	栃本一三郎（上智大学教授）	栃本一三郎（上智大学教授）
14	高齢者福祉サービスの提供組織と専門人材	高齢期を支える保健、医療、福祉、介護分野に従事する専門人材の現状と課題について解説する。介護保険制度の導入によって、サービスの質の向上が最重要課題となっていることから、より良いサービスを提供する専門職の養成に向けて、学校教育や現任訓練教育のあり方についても検討する。	浅野　仁（関西学院大学教授）	栃本一三郎（上智大学教授） 浅野　仁（関西学院大学教授）
15	これからの社会福祉システム	最終回の本講義では、福祉先進国の社会福祉システムを参考にしながら、高齢期を地域で安心して、生き生きと生活できる条件について、社会福祉政策の立場から論じる。具体的には、少子高齢社会の課題、社会福祉システムにおける国と地方自治体の関係、公私の役割分担、地域社会における高齢者の役割などについて考える。	浅野　仁（関西学院大学教授）	栃本一三郎（上智大学教授） 浅野　仁（関西学院大学教授）

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	専門科目	科目コード	1511904	履修制限	無	単位数	2

＝ 身体福祉論（‘07）＝（TV）
－身体運動と健康－

〔主任講師：　宮下　充正（東京大学名誉教授）　〕
〔主任講師：　臼井　永男（放送大学准教授）　〕

講義概要

福祉という言葉は、幸福な状態を意味する。近年、身体福祉論はからだに幸せをもたらす道筋を解き明かす領域として使われ始めた。本講義では、健康の保持・増進に重要な役目をはたす身体運動実践の理論と実際を解説する。特に実際面では、身体運動の中から、多くの人たちが興味を示す10種類の運動を取り上げ、それぞれの力学的、そして、生理学的特性を明らかにするとともに、実践の具体的方法を説明する。

授業の目標

身体運動は実践してこそ、健康に資するものである。この講義を通して、身体運動の重要性を理解し、運動を実践する習慣を日常生活の中に身につけることを願っている。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	からだの理解を通して福祉を考える	介護に疲れて病に伏す例は、度々耳にする話である。また、介護者のアンケート調査によると、身体的負担が大きいことを訴える人が多い。介護の仕事が負担となるかどうかは、介護者の体力水準との相対的な問題である。トレーニングによって体力水準を高めることと、適切な休養をとって疲労からの回復をはかることは、介護者にとって有利な条件となる。これまでの福祉施策に欠けていたこの面について解説する。	宮下　充正（東京大学名誉教授）	宮下　充正（東京大学名誉教授
2	運動不足病から生活習慣病へ	機械化・省力化が顕著になり始めたのは、1950年代からであり“運動不足病”という言葉が広まった。そして、高齢化が進行するとともに“成人病”という言葉が使われるようになった。20世紀末になってそれらは“生活習慣病”という名称でまとめられるようになった。そのような経過について調査・研究データを基に解説する。	樋口　満（早稲田大学教授）	樋口　満（早稲田大学教授）
3	身体運動の生理学的基礎	身体運動が健康に資するためには、実施する運動の強度、頻度、継続期間が適正でなければならない。特に、運動強度は、強すぎれば障害をもたらすし、弱すぎれば効果が薄れる。この点について、心拍数、血中乳酸濃度、主観的運動強度という観点から解説する。	臼井　永男（放送大学准教授）	臼井　永男（放送大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	成長と老化からみた身体運動能力	からだを自由に動かせる能力は、日常生活を送る上で欠かせない。この身体運動能力は、遺伝的要因によって成長とともに向上し、成熟後は加齢とともに退行する。しかし、環境的要因（運動実践のあるなし）で、その向上や退行の度合いが異なる。これらの点について、最新の研究成果に基づいて解説する。	樋口　満（早稲田大学教授）	樋口　満（早稲田大学教授）
5	運動実践による健康度の改善	年齢にかかわらず運動不足がさまざまな疾病を引き起こすことは、すでに明らかにされている。しかし、運動不足の影響は直ちに自覚されず、“沈黙の病気”ともいわれる。そして、いわゆる健康診断によって発見されることが多い。その多くは、運動を実践するようになって改善される。運動実践と健康度の改善について研究報告に基づいて解説する。	樋口　満（早稲田大学教授）	樋口　満（早稲田大学教授）
6	ストレッチングとレジスタンス・エクササイズ	ストレッチング・エクササイズとは、筋肉を伸ばす運動である。筋肉自体は伸びることができないので、他から力が加えられなければならない。その方法と効用について解説する。また、レジスタンス・エクササイズとは、適当な抵抗を負荷された状態で筋肉が活動することである。その際抵抗の大きさ、そして動作の様式が重要となる。それらの点について具体的に解説する。	水村真由美（お茶の水女子大学准教授）	水村真由美（お茶の水女子大学准教授）
7	手軽にできるウォーキングと山登り	運動不足が認められる人に対して、多くの医師は手軽にできるウォーキングをすすめる。しかし、どの程度のスピードで、どのくらいの時間歩けばよいかといった具体的な指示を与えることは少ない。ここでは、能力に合わせた歩き方を具体的に解説する。さらに、歩く能力に自信がつくと山登りを試みる人がでてくる。山登りは危険をともなうので、注意すべき点について解説する。	山本　正嘉（鹿屋体育大学教授）	山本　正嘉（鹿屋体育大学教授）
8	ジョッギングと市民マラソン	ジョッギングは自分のペースで走ることを指す。したがって、ジョッギング中に障害はそれほど発生しない。ジョッギングを継続し走能力が向上してくると、市民レベルのマラソン大会に参加する人がでてくる。市民マラソン大会といっても決められたルールに基づいて行われるため、ある種の緊張がもたらされマイペースを見失い、過度な疲労を招くことがある。どのような注意をすればよいのか解説する。	臼井　永男（放送大学准教授）	臼井　永男（放送大学准教授）
9	音楽と楽しむダンス・エクササイズ	エアロビック・ダンス、ジャズ・ダンス、民族舞踊など、さまざまなダンスが、健康の保持・増進のために実践されている。その中から、いくつかの種目を選んで、運動の強度、発生しやすい障害について解説する。	水村真由美（お茶の水女子大学准教授）	水村真由美（お茶の水女子大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
10	冬の楽しみ雪上ウォーク	冬季になると雪が積もって、野外での運動ができなくなる地域がある。そのような地域に住む人はもちろん、そうでない人でも、雪上を歩くという運動（クロスカントリースキー、かんじきウォーク）を実践している。そのような雪上での運動の用具、方法、強度などについて解説する。	福崎　千穂（東京大学大学院客員准教授）	宮下　充正（東京大学名誉教授）
11	だれでもできるアクア・エクササイズ	水中での運動（スイミング、水中ウォーキング、アクアビックスなど）は、浮力が作用するため、過体重の人、下肢に障害のある人が実践しやすい。それらの運動について、力学的特性と、生理学的特性を解説し、具体的な方法について紹介する。	福崎　千穂（東京大学大学院客員准教授）	宮下　充正（東京大学名誉教授）
12	仲間と楽しめるテニスとゴルフ	テニスもゴルフも、ボールを打つ練習は1人でもできる。しかし、より楽しむためには、テニスは2人か4人でゲームするし、ゴルフは2〜4人でコースを回る。そして、ある程度技術が身につけば、高齢になっても仲間と楽しむことができる運動である。この2つの種目では、用具が重要な役目をはたすので、その点も含めて、解説する。	渋谷　隆良（東洋英和女学院大学准教授）	宮下　充正（東京大学名誉教授）
13	自然を楽しむフィッシング	フィッシングといってもいろいろあるが、そのなかでもからだ全体を動かす“川釣り”と海浜での“投げ釣り”を中心に、用具、技術、その他注意すべき点について、解説する。	宮下　充正（東京大学名誉教授）	宮下　充正（東京大学名誉教授）
14	室内で行うマシン・エクササイズ	民間のフィットネス・クラブやアスレティック・クラブでは、さまざまなトレーニング・マシンが設置されていて、利用者はいろいろな運度が実践できる。また、地方自治体でも類似の施設を整備し始めている。これらのマシンの使い方と、利用上注意すべき点について解説する。	福崎　千穂（東京大学大学院客員准教授）	宮下　充正（東京大学名誉教授）
15	望ましい“次”を目指して努力しよう	子どもの体力の低下が指摘されているにもかかわらず、学校での体育の授業時間は短縮される。働き盛りの人たちは高度情報化社会の下で、これまでにないほどのストレスを受けることになる。加えて高齢者は増え続ける。このような時代に、各自が望ましい“次”を目指して努力していかなければ幸せな社会を持続できない。そのための方策について、指摘したい。	宮下　充正（東京大学名誉教授）	宮下　充正（東京大学名誉教授）

＝　地域福祉論（‘０６）＝（Ｒ）

〔主任講師：　牧里　毎治（関西学院大学教授）〕

全体のねらい

地域福祉が住民主体を基本とする地域社会をベースにしたサービスとケアのシステムであることを理解する。この場合、地域住民は、サービスの受け手であるとともにサービスを創出する担い手でもあることを学ぶ。国から地方への中央集権的，上意下達的な縦割り型の法令や補助金に拘束された官僚的福祉行政ではなく、生活者である住民の目線から自治体を含む様々な専門職団体や住民団体とともに多様な生活支援サービスや市民活動を横につないでいく取り組みであることを理解する。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	地域福祉の理念と概念	地域福祉とはなにか。その概念を説明します。 地域福祉の範囲と構成をアプローチの仕方によって説明します。大きくは社会構造の一つとしてとらえ、もう一つは社会的機能としてとらえるアプローチです。あわせてこれらの地域福祉システムを支えている理念、たとえばﾉｰﾏﾗｲｾﾞｰｼｮﾝやｴﾝﾊﾟﾜｰﾒﾝﾄ、あるいはｺﾐｭﾆﾃｨｹｱなどについても述べます。	牧里　毎治（関西学院大学教授）	牧里　毎治（関西学院大学教授）
2	地域福祉の源流	歴史的にみると、地域福祉はどのように進展してきたか。欧米での歴史的展開を含めて、とくに戦前日本の地域福祉の源流をたどります。地域福祉ではなじみの深いセツルメント運動や中央慈善協会、地方改良運動、方面委員制度など、日本的取り組みと欧米での歴史的展開を対比させながら説明をします。	永岡　正己（日本福祉大学教授）	永岡　正己（日本福祉大学教授）
3	戦後日本の地域福祉	戦後日本の社会福祉の歩みをみると、戦後復興から今日の地方分権まで、社会福祉体制の整備とともに地方自治体を中心とする地域福祉政策への指向が高まってきています。福祉政策の地域指向がどのように生じてきたのか、その変化と歩みおよび社会的背景を述べます。それとともになぜ地域福祉が台頭してきたのか理由をさぐります。	同　上	同　上
4	地域福祉の構成と範囲	地域福祉とは具体的にはどのような範囲と内容をもつシステムなのか、また、どのように構成されているのかを体系的に説明します。サービス体系としの在宅福祉サービスと施設福祉サービス、運営要件としての住民組織化活動、計画化機能などについて言及します。さらに地域福祉システムを支える自治体運営と住民参加の重要性につても述べます。	野口　定久（日本福祉大学教授）	野口　定久（日本福祉大学教授）
5	地域福祉におけるサービス供給組織	在宅福祉サービスおよび施設福祉サービスともに、これらのサービスは、様々な供給組織によって提供されている。この多元的なサービス供給の実態と課題について説明します。また、これらの多様なサービス供給組織の連携や統合の必要性についても言及します。特に介護保険の制度化にともなう地域福祉のあらたな政策・実践の課題についても述べます。	同　上	同　上
6	福祉施設と地域社会	施設福祉から在宅福祉へのシフトが地域福祉の主要な潮流とも言われてきましたが、施設建設反対運動のようなコンフリクトも起こっています。 地域福祉を実体として形づくっていくには、福祉施設が地域社会の福祉拠点にならなければならないことを述べます。福祉施設の社会化などをふりかえりながら今日的課題について説明します。	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
7	社会福祉協議会 NPO	地域福祉推進の中核的機関である社会福祉協議会の特質および戦後50年の実践を振り返りながら民間組織としての役割と課題について説明します。福祉施設などの社会福祉法人とは異なる市民参加型の法人としての展望にも言及します。NPOなどの新しいタイプの公益法人との連携や社会福祉協議会のNPO的運営についても述べます。	藤井　博志（神戸学院大学助教授）	藤井　博志（神戸学院大学助教授）
8	ボランティア活動と福祉教育	福祉コミュニティの形成にはボランティア活動や地域での助け合い活動など市民参加型のまちづくりを欠かせません。福祉社会を構成する主体者としての住民やボランティアの成長が望まれています。地域福祉に密接に結びついている福祉教育や福祉学習について住民の主体形成を促進する視点からこれらの実態と課題について述べます。	同　上	同　上
9	民生委員・児童委員の現状と課題	民生委員・児童委員は歴史的にも日本的地域福祉の原点でもあり、今日の地域福祉の主要な担い手でもあります。これら民生委員・児童委員の地域福祉に果たしてきた役割や活動実績について評価するとともに、あわせて地域社会で独自に制度化されている福祉委員の実態についても現状を説明します。	同　上	同　上
10	住民主体形成と当事者組織	地域福祉の主体者として住民がサービスの受け手でもあり担い手でもあることを説明します。住民が福祉における住民自治の主役にならなければならないことの重要性について述べます。住民の主体形成だけでなく、福祉問題を抱える様々な当事者についても受益者でもあり担い手でもある主体者としての成長の必要性を述べます。	同　上	同　上
11	福祉の情報提供相談・苦情解決のシステム化	生活圏としての地域社会にねざした地域ケアシステムは、サービス供給の仕組みづくりだけでなく福祉情報の提供や情報公開、ニーズ把握の実態調査や継続的な相談体制づくり、苦情解決などのシステム化が必要です。ニーズ発見、問題把握から苦情解決などまで市民参加による取り組みが求められていることにも言及します。	牧里　毎治	牧里　毎治
12	コミュニティワークと福祉のまちづくり	住民参加は、地域福祉にとって重要な本質的要素です。その参加・参画を促進するには専門職であるコミュニティワーカーによる支援が必要となります。住民福祉活動や福祉のまちづくり活動を支援する専門的方法をコミュニティワークといいますが、その現状と課題を説明します。コミュニティワークは、地域福祉の方法といえます。	同　上	同　上
13	地方自治体の地域福祉財政	地域ケアシステムの構築であれ、住民の福祉活動支援であれ、これらの諸活動を支える人材や組織を確保するには公的な財源がなければ成り立ちません。これらの地域福祉にかかわる地方自治体の財源がどうなっているかを説明します。あわせてこれらの地方自治体における財政状況や課題についても地域福祉にかかわる範囲で言及します。	山本　隆（立命館大学教授）	山本　隆（立命館大学教授）
14	地域福祉の民間財源	税金以外の地域福祉を支える民間財源について現状と課題について説明します。伝統的で代表的な民間財源としては共同募金と福祉基金などがありますが、これらの寄付による方法以外の財源調達の方法、たとえば利用料(料金)方式やあバザーなどのイベント型資金獲得などについても現状と課題を述べます。	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
15	地域福祉計画の策定と公私協働 ・官民協力	最後にまとめにかえて、これまでの社会福祉計画をふまえて新しい地域福祉計画の策定の意義と展望について説明します。地方分権時代の地域福祉にとっては地方自治をどのように発展させるかが重要な論点になりますが、その具体化には地域福祉計画をどう策定するかが大きな試金石になることを述べます。	牧里　毎治	牧里　毎治

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	専門科目	科目コード	1511807	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 市民生活における社会保険 （’０８）＝ （R）

〔主任講師（現職名）：堤 修三（大阪大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：品田 充儀（神戸市外国語大学教授）〕

講義概要

社会保険制度はあたかも生き物のごとく、様々な環境の変化に適応すべく変貌していく。そして、時代の変化が著しい昨今においては、その変貌の速度も加速している。本講義においては、市民が生活をしていくなかで、社会保険制度はいかなる機能を果たしているのか、またその本来の目的を達する上で何が障害となっているのかなど、変わり行く社会保険制度について、普遍的な部分と時代に適合していく部分の両方を意識しながら、その意義と将来像について検討していく。

授業の目標

わが国の社会保険制度の基本的な構造について理解するとともに、その本来の目的のためにあるべき姿や将来の展望について検討していく。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	社会保険を学ぶ意義	社会保険は、ライフサイクルのなかで生じてくる様々な事故に対して、事前に保険料を拠出することによって備えておこうという人間の英知の結晶である。少子高齢社会に突入し、将来の生活設計にかかる不安は高まりつつあるが、社会保険制度の現状とその可能性を知ることは現代を生きる市民にとって重要である。 【キーワード】 保険事故、保険者、被保険者、保険料	品田充儀（神戸市外国語大教授）	品田充儀（神戸市外国語大学教授）
2	社会保険の意義・特性とその根拠	社会保険とは、社会＋保険という文字どおり、社会的要請と私的契約に発する保険という異質な2つの要素が組み合わされたものである。この講義では、社会保険とは何か、その意義や特性を、私的保険との対比によって明らかにしたうえで、それがいかなる理由によって根拠付けられるかを考察する。 【キーワード】 保険原理・強制加入・比例保険料・被保険者自治	堤修三（大阪大学教授）	堤修三（大阪大学教授）
3	社会保険制度の構造と体系	社会保険制度は、社会保障制度体系の中にあってどのような機能を有するのか。また、社会保険制度は年々拡張し、また複雑化する傾向を辿っているが、その構造において共通する部分は何処にあるのか、検討していく。 【キーワード】 所得保障、拠出、社会保障	品田充儀（神戸市外国語大学教授）	品田充儀（神戸市外国語大学教授）
4	医療保険制度の構造	病気やけがをした時、私たちは健康保険や国民健康保険を利用して医師の診断や治療を受ける。今日では、医療保険は、私たちが健康に安心して社会生活を送るために欠かすことのできない制度となっている。第4回講義では、わが国の医療保険制度の基本的な構造を説明する。 【キーワード】 医療保障、健康保険、国民健康保険	石田道彦（金沢大学准教授）	石田道彦（金沢大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	保険診療の仕組み	医療保険の仕組みでは、保険医や指定医療機関は、健康保険法や療養担当規則に定められた様々なルールに従って患者に医療を提供する。また、診療をおこなった指定医療機関に対しては独自の審査体制に基づいて診療報酬が支払われる。今回の講義では、このような保険診療の仕組みについて学ぶ。 【キーワード】 保険診療、診療報酬、療養担当規則	石田道彦(金沢大学准教授)	石田道彦(金沢大学准教授)
6	高齢者医療制度と医療保険制度の課題	急速に進行する高齢化に対応するために、最近の医療制度改革では高齢者医療のあり方が重要な検討課題となっている。また、保険者の再編統合や生活習慣病への対応など医療保険制度には新たな課題が生じている。今回の講義では、新しい高齢者医療制度と今後の医療保険制度の課題を取り上げる。 【キーワード】 高齢者医療、老人保健制度、保健事業	石田道彦(金沢大学准教授)	石田道彦(金沢大学准教授)
7	介護保険制度の仕組み	2000年に誕生した最も新しい社会保険制度である介護保険制度は、どのような特徴を有するのか。変貌しながら発展していく介護保険制度の構造を学ぶ。 【キーワード】 介護保険、介護支援、居宅サービス、施設サービス	品田充儀(神戸市外国語大学教授)	品田充儀(神戸市外国語大学教授)
8	介護保険制度の課題と将来像	介護保険制度は誕生まもない現状において、将来を不安視される状況にある。高齢者を見守る地域のあり方、介護状態にならないための予防、行政単位で決定していく保険料額など、社会保険制度でありながら、新たな手法をもって将来を築こうとする同制度を展望する。 【キーワード】 地域密着、新予防給付、地域支援、地域包括支援	品田充儀(神戸市外国語大学教授)	品田充儀(神戸市外国語大学教授)
9	年金制度の成り立ちとその変容	年金制度は、同じ制度でありながら、給付と負担の関係を規定する基本構造が経済社会の変化に応じて変容していく不思議な制度である。年金制度の第1回目は、わが国の年金制度が、その基本構造をどのように変容させてきたかを辿り、給付と負担の関係はどうあるべきか、どう決められるべきかについて考察する。 【キーワード】 積立方式・賦課方式・給付建て・拠出建て	堤修三(大阪大学教授)	堤修三(大阪大学教授)
10	年金制度の概要	この講義では、現在のわが国の年金制度の概要を学習する。全国民共通の国民年金(基礎年金)・サラリーマンの年金である厚生年金のそれぞれについて、被保険者資格・年金給付の種類・受給資格・年金額と計算方法・保険料水準などの概要を説明する 【キーワード】 国民年金・厚生年金・基礎年金・1号被保険者・2／3号被保険者・年金保険料	堤修三(大阪大学教授)	堤修三(大阪大学教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
11	年金制度の論点	年金制度に関する国民の関心は極めて高い。少子高齢化の進行や国民年金(1号被保険者)の保険料未納などから、年金制度は将来とも大丈夫か、巨額の不良債務を負っているのではないかという疑問や、保険方式を止めて消費税を財源とする方式に改めたらどうかという意見もある。また、女性の年金と保険料負担を巡っても議論が続いている。この講義では、これらの問題について考えてみる。 【キーワード】 保険料の未納・年金の'不良債務'・保険料と税・3号被保険	堤修三(大阪大学教授)	堤修三(大阪大学教授)
12	雇用保険制度の概要	雇用保険は、失業時の生活保障のほか、就職の支援や失業の予防、教育訓練といったより広い意味での雇用保障を目的としている。これらの目的を念頭におきつつ、保険給付とそのあり方について学習する。さらに、雇用保険と密接に関係する雇用政策の発展と今後の課題について検討する。 【キーワード】 雇用保障、雇用保険、求職者給付	水島郁子(大阪大学准教授)	水島郁子(大阪大学准教授)
13	労災保険における業務災害補償制度	労災保険は、労働者の業務上もしくは通勤による災害に対する補償を内容とするものである。まず業務上の概念を確認したうえで、大きな社会的問題にもなっている過労死や過労自殺を中心に、認定基準や補償のあり方について検討する。 【キーワード】 業務災害、労働者災害補償保険、過労死、過労自殺	水島郁子(大阪大学准教授)	水島郁子(大阪大学准教授)
14	通勤災害保護制度と労災保険制度の課題	引き続き労災保険をとりあげるが、第14回では通勤災害について学習する。第13回、第14回の講義をふまえて、なぜ労働者について、このような特別な補償がなされるのか、労災保険の意義・目的、発展経緯、さらには今後の課題について検討を加える。 【キーワード】 通勤災害、災害補償、労働福祉事業	水島郁子(大阪大学准教授)	水島郁子(大阪大学准教授)
15	福祉国家の現在と社会保険	最終回は、最近の社会保障改革を巡る動きについて考える。グローバリズムや規制改革などにより格差の拡大が言われる一方、制度の維持可能性の名の下に社会保障改革が進められている。その中で大きなウエイトを占めるのが社会保険の給付抑制である。給付抑制の限界はどこか、私たちの社会的安全ネットはどうあるべきか、これからの社会保障ー社会保険の在り方について考察する。 【キーワード】 保険料と税・制度の維持可能性・制度の一元化	堤修三(大阪大学教授)	堤修三(大阪大学教授)

＝　アジアの社会福祉（‘０６）＝　（Ｒ）

〔主任講師（現職名）：萩原　康生（大正大学教授）〕

全体のねらい

アジアは政治的にも経済的にも変動の中にある。そして、その政治経済の変動の中で、社会福祉も大きく変わろうとしている。かつては、慈善救済的な福祉が主流であったが、現在は社会開発が重要な位置を占めつつある。また、社会保障もいくつかの国では、発展の段階に入っている。本科目では、これらのアジアの社会福祉の新しいうねりを学習する。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	アジアの社会福祉・社会保障の特徴と問題点	アジア諸国は、大きな変動の中にある。躍動する経済がある一方で、その経済成長から取り残される人々が多くいる。国際機関・団体と各国政府は、大なり小なりそれらの問題に対応しようとしている。本章では、政治経済の変動によって生成された社会福祉諸問題へマクロの視点からアプローチする。	萩原　康生（大正大学教授）	萩原　康生（大正大学教授）
2	貧困不平等と福祉	貧困と経済的不平等は経済的先進国であろうと発展途上国であろうと、国民生活を脅かす最大の問題である。特に社会的セーフティネットの十分整備されていないアジアの開発途上国では、多くの国民が貧困と不平等の重圧に喘いでいる。本章ではその実態を明らかにし、さまざまの対応策を検討する。	萩原　康生（大正大学教授）	萩原　康生（大正大学教授）
3	子どもと福祉	本章では、アジアの子どもの権利条約に基づく国際協力や協働、開発の現状と課題に焦点を置きながら、１．国内外におけるアジアの子どもの状況はどうなっているか。２．子どもの権利を救済・保障していくために現行法や制度はどこまで有効か、そして３．アジアの子どもの権利保障において、子どもの権利条約はどのような可能性をもっているか、その課題と展望について考察してみたい。そして、21世紀こそ真の「子どもの福祉の世紀」にするための手立てについて、アジアにおける児童福祉の共通した問題点や課題等について整理してみたい。	桂　良太郎（立命館大学教授）	桂　良太郎（立命館大学教授）
4	ジェンダーと福祉	アジアの女性が置かれている状況を、女性の人口、女性観、男性との間の経済的社会的格差の点から考察する。そのような状況の中から女性がエンパワーされ、ジェンダーの問題が広く取り上げられ、政策策定への参加にまで至るようになった軌跡をたどり、ジェンダーと社会福祉を検討する。	中西由起子（アジア・ディスアビリティ・インスティテート代表）	中西由起子（アジア・ディスアビリティ・インスティテート代表）

5	障害と福祉	アジアの途上国においても第１次、および２次のアジア太平洋障害者の十年によって障害分野で多くの発展がみうけられる。アジア各国での障害の社会的経済的状況をさまざまな観点から考察し、障害者をめぐる課題を論じる。また自助団体の育成、CBRや障害者条約など、障害者のエンパワーメントのための戦略にも言及する。	中西由起子（アジア・ディスアビリティ・インスティテート代表）	中西由起子（アジア・ディスアビリティ・インスティテート代表）
6	高齢者と福祉	高齢者の介護や福祉の問題は、社会的･文化的、歴史的背景の異なるアジアの国々においても共通した重要な社会問題となりつつある。本章では、急速に高齢化するそれぞれの国々の現状と、将来にむけてどのように対処しようとしているかについて、いくつかの国々(シンガポール、マレーシア、ベトナム、中国等)における取り組みを紹介しながら、特に多様な家族構造や機能および家族規範がどのように関わっているかという視点を加味し、アジアに共通した高齢者福祉の特徴や問題点について考察してみたい。	桂　良太郎（立命館大学教授）	桂　良太郎（立命館大学教授）
7	難民と福祉	人間の安全保障では、欠乏からの自由と恐怖からの自由が達成課題として掲げられている。これらの二つの課題を抱えて、最も危機的生活をおくっているのが難民である。本章では、それらの難民の実態と国際的な難民への対応の実態とあるべき姿を検討する。	萩原　康生（大正大学教授）	萩原　康生（大正大学教授）
8	社会的排除と福祉	貧しい人たちは、単に経済的に貧しいというだけではなく、社会的に差別をされ社会から疎外されている。貧困者だけではなく、多くの問題を抱えた人々が、社会に参加することを拒否されている。社会福祉の課題は、社会的に排除された人々が再び社会の主流に乗る支援をすることである。本章では、エイズ、失業等のさまざまな社会的排除とそれらへの対応を学ぶ。	萩原　康生（大正大学教授）	萩原　康生（大正大学教授）
9	エコロジーと福祉	経済開発の美名の下に、環境破壊が起こり、公害が人間を蝕む事態となっている。これを歪んだ発展という。人間の平和な生活＝福祉を阻害するのは経済開発を主眼として社会開発を取り入れなかった政策にある。本章では、歪んだ発展の結果もたらされる鉱害問題などを取り上げ、次世代に豊かな福祉を譲り渡す「持続的発展」のあり方を検討する。	萩原　康生（大正大学教授）	萩原　康生（大正大学教授）
10	社会開発と福祉	社会開発は、人々の生活を重視し、人間の生活環境を向上させる政策である。そこには、住民の参加や住民と政府との協力など、大きな政策課題がある。本章では、それらの政策課題を検討すると共に、社会開発の実践であるコミュニティ・ディベロップメントを検証する。	萩原　康生（大正大学教授）	萩原　康生（大正大学教授）

11	国際機関の活動と国際協力	本章では、国際援助に影響を与えた社会発展の考え方を考察し、今日の国際協力を行う上で重要な概念である「人間開発」を取り上げ、「人間の安全保障」の推進役であるユニセフ、難民高等弁務官事務所をはじめとする国際機関及び草の根の現場で活動するNGO のアジアにおける役割と課題を検討してみたい。	原島　博（ルーテル学院大学准教授	原島　博（ルーテル学院大学准教授
12	アジアの社会福祉・社会保障の制度政策①中国	中国政府は近年、社会保障・福祉制度の構造改革に積極的に乗り出した。それを受けて社会保障・福祉の政策と実践はさまざまな展開を見せている。本章では、中国社会保障・福祉の展開過程および実施状況から見られる都市部と農村部の格差を指摘しつつ、具体的に最低生活保障、高齢者福祉、コミュニティ・サービスなどを考察してみたい。	王　文亮（金城学院大学教授）	王　文亮（金城学院大学教授）
13	アジアの社会福祉・社会保障の制度政策②韓国	韓国での社会福祉・社会保障制度を概観し、その特徴と問題点などについて講義する。高齢化への対応、新しい公的扶助制度の整備、民主化と政策との関係など、韓国国内の状況についてだけでなく、在日コリアンへの福祉のような身近な問題にも触れたい。	株本千鶴（椙山女学園大学准教授）	株本千鶴（椙山女学園大学准教授）
14	アジアの社会福祉・社会保障の制度政策③タイ	1990年代の経済危機を脱したタイは、社会開発を政策課題に掲げ人間の生活の充実を目指している。医療保険制度の整備などがその一例である。本章では、変動を遂げつつあるタイの社会福祉・社会保障制度を明らかにするとともに、依然として人権問題となっている児童売春などの社会福祉問題の解明を試みる。	萩原　康生（大正大学教授）	萩原　康生（大正大学教授）
15	アジアの社会福祉・社会保障の制度政策④フィリピン	フィリピンの今日の社会状況を理解した上で、フリピン社会が直面している社会福祉問題を取り上げ、政府の社会福祉政策を地方分権の流れでおさえ、行政及びNGOの役割と課題を考察していく。日本とフィリピン間で生じている福祉問題を女性と子どもの人権の視点から考察する。	原島　博（ルーテル学院大学准教授	原島　博（ルーテル学院大学准教授

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	総合科目	科目コード	1511602	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　変動する社会と暮らし（‘07）＝（R）

〔主任講師（現職名）：藤原　康晴　（放送大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：中谷　延二　（放送大学教授）〕

講義概要

科学技術の高度化，情報化，急激な少子高齢化，経済社会のグローバル化など，社会の大きな変革のもとで私たちはどのような生活設計が可能であるのか。科学技術，情報技術の進展によって利便性，快適性がもたらされている反面，暮らしのさまざまな領域におけるリスクが大きくなっている。こうした状況下にあって，「消費者保護基本法」が改正されて，「消費者基本法」が施行され，消費者を保護する立場から自立を支援する方向に重点が移されているなど，自己責任の比重がますます大きくなっている。この実態を，食品，生活用品，住居，契約・取引，貯蓄と投資，働き方，健康および保健・福祉などの暮らしの各分野から解説する。

授業の目標

急激な社会の変動にさらされている暮らしの諸課題に対して，消費者個々人の自己責任がどのようにかかわっているかの理解を深め，生活の質の向上につながる生活設計ができる。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	変動する社会と消費生活	科学や情報技術の進展，少子高齢化，労働形態の多様化，家事労働の社会化，省資源・省エネルギー社会形成の推進などに伴う社会の変動に私たちの暮らしがさらされている。暮らしに対して光と影をもたらすこうした社会の変動の実態と消費生活への影響について全般的な観点から概説する。	藤原　康晴（放送大学教授）	藤原　康晴（放送大学教授）
2	消費者トラブルと消費者が直面する課題	現代の私たちは誰もが、市場を通じて事業者が提供する商品・サービスを購入することによって生活を営む「消費者」であらざるをえない。そのため消費者が抱える問題は，現代人が直面する重要な生活問題となっている。経済社会の変化とともに急増する消費者トラブルの実態を理解するとともに，消費者の権利が実現される経済社会を創り出すために，消費者に期待される役割と課題を考える。	安田　憲司（国民生活センター教育研修部）	安田　憲司（国民生活センター教育研修部）
3	暮らしの中のリスクを探る	暮らしのなかのリスク発生に対して，安全・信頼確保は，いかに行われるのだろうか。日本における家計の金融資産などに関する経済生活の不確実性が少子高齢化の進展で増大してきている。リスクは自己責任によって処理すべきなのか，それともリスク移転によって担うべき人に負担をシフトすべきなのか。経済生活のリスクと安全・信頼の重要性について，この章で考えていく。	坂井　素思（放送大学准教授）	坂井　素思（放送大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	近年の食生活の変化	我が国の食生活は，第２次世界大戦後の極度の食糧難の時代から飽食と呼ばれる豊かな時代を迎えている。世界でも類を見ない速度で最長寿国の一つになった現在，“日本型食生活”への評価が高い。この６０年間を中心に我が国の食生活の変遷を考察する。	中谷　延二（放送大学教授）	中谷　延二（放送大学教授）
5	食品の安全性	高齢社会を迎えた我が国では健康に対する関心が極めて高い。健全な食生活を営むことによって健康の維持・増進が期待される今日，O157, BSE などの食生活を脅かす深刻な問題が続発している。食生活における「安全・安心の確保」は大前提である。食品の安全性に関わる最近の事故，事件を概説し，その対策，安全管理について考察する。	中谷　延二（放送大学教授）	中谷　延二（放送大学教授）
6	生活用品の品質に関する情報とその収集	生活用品等の品質に関する情報は，マスコミ，口コミ，インターネットによる情報交換などをとおして得ることが多いが，この種の情報は科学的に正確なものばかりとは限らない。情報が伝達媒体間を行き来する間に次第にその内容が変容していく傾向にある。ここでは，生活用品の品質に関する表示の実態と品質に関する情報の収集を取りあげ，リスクコミュニケーションへのつながりを考える。	藤原　康晴（放送大学教授）	藤原　康晴（放送大学教授）
7	生活系ごみのリサイクル推進に向けた取り組み	「資源有効利用促進法」のもとに，容器包装，食品，家電，自動車，建設資材リサイクル法が制定され，多くの物品に対するリサイクルが推進されている。これを効果的に進めるためには，行政，企業，消費者の連携した取り組みが必要であるが，ここでは，生活系ごみのリサイクルを対象として，特に消費者としての取り組みに焦点を合わせ，その現状と課題を考える。	藤原　康晴（放送大学教授）	藤原　康晴（放送大学教授）
8	21 世紀の都市居住	２１世紀の都市居住を支えているのは様々な形態のマンションであり、その大半は区分所有法に基づき居住者が権利を共有する分譲マンションで占められている。分譲マンションはこの３０年ほどの間に急速に広がった新しい居住形態だが、それが老朽化し、建替えを検討する時期にどのようなプロセスでそれが可能なのか、ほとんど配慮されないままに大量に市場で流通している。居住者間の建替え合意が成立しないまま老朽化が加速し、管理が行き届かなくなった分譲マンションのスラム化の危険性が憂慮される。ここでは今世紀最大の都市居住の懸念材料であるマンション建替えについて考える。	本間　博文（放送大学教授）	本間　博文（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
9	環境と共生する住まいづくり	環境問題は決して他人事ではない。我々市民も被害者であり，加害者でもある。とりわけ住居に関わるエネルギー問題は深刻であり，周辺への負荷の軽減と消費エネルギーの軽減の両面から検討しなければならない。課題解決のための先端的な取り組みを紹介し，そのような取り組みを普及させるための困難な道筋を探る。	本間　博文(放送大学教授)	本間　博文(放送大学教授)
10	人びとの働き方に何が起こっているか	現代における人びとの働き方は，どのように変化してきているのか。今日の社会では，サービス経済化・情報経済化などに見られるように，産業構造が変化してきている。このことは企業労働のあり方や，家庭と職場との時間配分に影響を与え，非正規労働や女性労働の増大をもたらしている。この章では，このような労働の変質について考えたい。	坂井　素思(放送大学准教授)	坂井　素思(放送大学准教授)
11	機械化・省力化社会での健康の保持	睡眠中でもときどき寝返りをするなど，からだ自体は，ほとんど無意識のうちに動くことを要求する。他方で，からだは”疲れる”という状態を嫌うため，人間は筋肉の代替物である自動車など便利な機器を考案し運動不足に陥った。運動不足がもたらす障害から健康を守る方策について，身体運動を中心に解説する。	宮下　充正(東京大学名誉教授)	宮下　充正(東京大学名誉教授)
12	医療費・介護費負担を軽減する運動実践	少子高齢化がもたらす悪影響は容易に想像されるだろう。その中で，医療費・介護費の負担が最重要問題である。そのため壮年には”自立して生活が送れる高齢者”を，高齢者には”他人の手助けをできる　だけ短くして天寿を全うする”ことが求められる。それには運動実践が不可欠であることを強調したい。	宮下　充正(東京大学名誉教授)	宮下　充正(東京大学名誉教授)
13	改革期にある医療と保健と福祉(1)医療の動向	わが国は平均寿命世界一の記録を達成し，維持している。平均寿命世界一の社会は，世界一多様な健康状態の人々が生活する社会である。これに対して，これまでの医療保険制度では，症状のある人しか利用できないという限界があり，新しい視点に立った改革が余儀なくされている。その方向と内容について考えてみたい。	多田羅浩三(放送大学教授)	多田羅浩三(放送大学教授)
14	改革期にある医療と保健と福祉(2)保健と福祉の動向	人々の健康の増進に向けて平成 14 年に国民健康増進法が制定され，介護の社会化を理念として平成12年からは介護保険法が施行されている。ともに与えられるサービスではなく，自ら選択し，自らつくっていくサービスの推進を目指しているといえる。その方向と内容について考えてみたい。	多田羅浩三(放送大学教授)	多田羅浩三(放送大学教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
15	変動する社会で消費者に求められるもの	消費者の自立支援は，「消費者基本法」の基本理念の一つであり，これを推進する課題として「学校や社会教育施設における消費者教育の推進」があげられている。この消費者教育の狙いが，本科目の「授業の目標」と同じ方向であることを，食品，住居，経済生活，健康，福祉，就業などのかかわる暮らしのなかで指摘し，消費者に求められているものを考える。	藤原　康晴（放送大学教授）	藤原　康晴（放送大学教授）

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	総合科目	科目コード	1512005	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 国際共生に向けた健康への挑戦 （’０８）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：多田羅 浩三（放送大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：河原 和夫（東京医科歯科大学大学院教授）〕
〔主任講師（現職名）：篠崎 英夫（国立保健医療科学院長）〕

講義概要

今日、人々の生活は不可避的に地球規模で展開する経済環境の中で営まれている。世界中の人間がまさに、国境という枠を超えて「共生」しているといえるであろう。そのような中で、とくに健康の維持・増進、および感染症予防は、最も共通の重要な課題になっているはずである。そして、各国ともに取り組みの推進に固有の施策を続けていることは明らかである。しかし、そこには課題に共通したところがあり、学び合うことが可能な状況が生まれているのではないかと思われる。

アジア各国を対象として、「共生」しているという観点から、人々がどのようなヘルスケア・システムの中で生活しているのか。どのように課題に挑戦しているのか。また、経済、政治の各面でわが国との関係がとくに深いアメリカにおける健康づくりはどのような現状にあるのか。国際保健推進の世界の拠点機関であるWHOでは、どのような挑戦がすすめられているのか。

講義は、そのような観点をもとに、現地取材をふくめ、現状の報告を中心にすすめたい。

授業の目標

世界中の人間が、今日、国境という枠を超えて、共生しているという観点に立って、人々の健康増進、疾病の予防を目的にすすめられてきたヘルスケア・システム拡充の取り組みについて、国々の現状を紹介し、どのような課題に対し、どのような挑戦をしているか、その内容について理解を得るようにする。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
	アジア各国におけるプライマリケア			
1	タイ－健康増進へのあゆみ	タイでは、人々のヘルスケアの推進に対し、WHOが示した理念を受けて、ボトムアップを基本としたプライマリケア体制の充実につとめ、その実績をもとに総合ヘルスケア保障制度を実施し、さらに健康タイ政策によって、人々の健康増進計画をすすめている。そのような タイのヘルスケアの実績、健康増進に向けた取り組みについて、現地における訪問、その収録をもとに、講義する。 【キーワード】 ヘルスセンター、ヘルスボランティア、総合ヘルスケア保障制度、健康タイ政策	多田羅 浩三（放送大学教授） 福田 英輝（長崎大学大学院助手）	多田羅 浩三（放送大学教授） 福田 英輝（長崎大学大学院助手）
2	ベトナム－予防と治療・公と民・西洋医学と東洋医学の連携	ベトナムは、国のヘルスケア政策をもとに、計画的に地域のケア体制の充実を基盤とした施策が推進されてきた。そうした中で、予防医学と治療医学の連携、公的部門と民間部門の協力、西洋医学と伝統医学の連結の確保という課題に直面してきた。ここでは、現地を訪問して、ベトナムのヘルスケアの現状、課題に向けた取り組みの実態について、現地での収録をもとに、講義する。 【キーワード】 予防と治療、公的部門と民間部門 、西洋医学と東洋医学、コミューン・ヘルスステーション、ビレッジ・ヘルスワーカ	多田羅 浩三（放送大学教授） 福田 英輝（長崎大学大学院助手）	多田羅 浩三（放送大学教授） 福田 英輝（長崎大学大学院助手）
3	インド－人口との闘い	インドは、世界第2位という大きな人口、その人口の大きな増加と都市集中という極めて深刻な課題を背景に、人々のヘルスケア・システムを構築することが余儀なくされてきた。結果として、多様な課題に直面しているというのが現状である。それらの現状について紹介し、とくに人口増の推移、ヘルスケア体制の特徴、またヘルスケアを支えるべき健康保険制度の現状などを中心に、講義する。 【キーワード】 人口の増加、プライマリ・ヘルスセンター、アンガンワディ・ワーカ、健康保険制度	多田羅 浩三（放送大学教授） 福田 英輝（長崎大学大学院助手）	多田羅 浩三（放送大学教授） 福田 英輝（長崎大学大学院助手）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	インドネシアーマラリアの現状と対策を中心に	マラリアは単に熱帯の貧困層に多いというだけでなく、地域の環境に適したハマダラカによって媒介されるため、地域によりマラリア流行状況は大きく異なる。インドネシアは多民族国家であり、自然環境、生物相も島によって異なるため多様なマラリア流行状況が存在する。この多様性と私の行ったマラリアコントロールを中心に話を進める。 【キーワード】 マラリア、流行の地域特性、マラリア・コントロール、地域保健	神原　廣二(長崎大学名誉教授)	神原　廣二(長崎大学名誉教授)
5	アフガニスタンー目下の急務:公衆衛生分野の人材育成	様々な国の実例のなかから、本章ではアフガニスタンをとりあげ、以下のポイントを学習目標とする。①アフガニスタンの公衆衛生の現状をひとつの事例として、世界の多様性を現実として受け入れ、経済的・社会的・文化的多様性を、国際共生に向けた基礎知識として共有する。②人々の健康(パブリック・ヘルス)の向上のためには、保健医療分野だけでなく、人々の生活にかかわるあらゆる分野が相互に関係しているという広い視点を獲得する。③課題を解決し、将来への方向性を具体的に計画するには、統計や疫学的事実を積み重ね、それに基づいて問題の本質にせまり、限られた資源を効果的・効率的に活用して、現実を変えていくという公衆衛生手法を学ぶ。④以上をふまえたうえで、健康水準向上のための基礎として、公衆衛生の専門的人材育成が不可欠な要素であることを理解する。 【キーワード】 衛生統計、疫学調査、公衆衛生、予防接種、人材育成	高野　健人(東京医科歯科大学大学院教授)	高野　健人(東京医科歯科大学大学院教授)
6	フィリピンー医療制度改革とプライマリケア	フィリピンの医療制度改革の特徴、問題点および進捗状況を評価するとともに、そのなかでのプライマリ・ケアの位置づけ、行政組織の特徴と保健医療分野の行政計画を執行する際の行政の影響力、問題点などを理解する。また、フィリピン国民の立場からもこれら論点を考えていく。 【キーワード】 HSRA(Health Sector Reform Agenda),Formula 1、プライマリ・ケア、DOH、LGUs、バランガイ	河原　和夫(東京医科歯科大学大学院教授)	河原　和夫(東京医科歯科大学大学院教授)
7	日本ー長寿社会における取り組み	わが国のプライマリ・ケアは、国民皆保険体制、老人保健法による保健事業などを基盤に優れた成果を収めてきた。そのことの成果は、平均寿命世界一の記録を達成していることが最も端的に現している。結果として、極めて多様な健康状態の人たちを包摂する社会に直面することになり、わが国のプライマリケア体制は、根本的な改革期を迎えている。わが国のプライマリ・ヘルスケア体制の特徴、健康日本21、医療制度改革の意義を中心に講義する。 【キーワード】 人口の高齢化、プライマリケア体制、平均寿命世界一、健康日本21、医療制度改革	多田羅　浩三(放送大学教授) 福田　英輝(長崎大学大学院助手)	多田羅　浩三(放送大学教授) 福田　英輝(長崎大学大学院助手)
アメリカにおける健康づくり				
8	アメリカの公衆衛生システム:母子保健活動を例に	アメリカの公衆衛生事業は、連邦制度という枠組みの中で、州や地方自治体が個別に展開してきた背景がある。この章では、アメリカの公衆衛生の歴史全般と母子保健に関する歴史を四期に分けて紹介し、ニューヨーク州の例を織り交ぜながら、現在に至るまでの母子保健に対する概念とシステムの発展を解説する。 【キーワード】 アメリカ公衆衛生史　防疫政策　母子保健政策　補助金制度　連邦政府　ニューヨーク州	ホスラー晃子(ニューヨーク州立大学オルバニー校公衆衛生大学院准教授)	ホスラー晃子(ニューヨーク州立大学オルバニー校公衆衛生大学院准教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
9	生活習慣病予防とコントロールの方法	この章では、アメリカにおける糖尿病治療の歴史的背景、および現在の治療法、早期発見、予防法を紹介する。そして、ニューヨーク州の糖尿病への取り組みを紹介し、一次、二次、三次予防という公衆衛生の基本的枠組みや、地域、学校、医療組織、政策、といった「影響のレベル」の概念を織り交ぜて解説する。 【キーワード】 糖尿病の歴史、集中治療法、早期発見、一次予防、ニューヨーク州	ホスラー晃子(ニューヨーク州立大学オルバニー校公衆衛生大学院准教授)	ホスラー晃子(ニューヨーク州立大学オルバニー校公衆衛生大学院准教授)
10	大規模緊急災害に対する公衆衛生の危機管理	大規模緊急災害に対する危機管理は、アメリカが最も発達していると考えられているが、過去10年を振り返ると不備な面もあり、政治的な思惑や、突発的な大災害によって対策の焦点が移り変わっていった。この章ではアメリカの公衆衛生の危機管理のあらましを2001年9月の同時多発テロ以前の準備期と、その後の拡大期に分けて解説し、現在の取り組みと問題点を紹介する。 【キーワード】 対生物テロ、大規模緊急災害、危機管理、疾病管理予防センター,ニューヨーク州	ホスラー晃子(ニューヨーク州立大学オルバニー校公衆衛生大学院准教授)	ホスラー晃子(ニューヨーク州立大学オルバニー校公衆衛生大学院准教授)
11	マネジドケアの成果と今後	アメリカの増え続ける無保険人口と医療費高騰の打開策として、より多くの人々が加入できる低価格の医療保険制度をめざしたのがマネジドケアである。しかしながら市場経済の原理をもとに、商業ベースで展開するマネジドケアは未だに過渡期の中で、非常に流動的である。この章では、複雑なマネジドケアの仕組みを、歴史的な背景を交えて解説し、さらに公衆衛生とのかかわりをニューヨーク州を例に紹介する。 【キーワード】 政府医療保険、民間医療保険、マネジドケア、HMO, PPO	ホスラー晃子(ニューヨーク州立大学オルバニー校公衆衛生大学院准教授)	ホスラー晃子(ニューヨーク州立大学オルバニー校公衆衛生大学院准教授)
WHOにおける挑戦				
12	健康課題の現状	WHOの幅広い活動を母子保健、ターミナルケア等、子供から老人までのライフステージの視点や、国際疾病規則(IHR)、ICD、高血圧基準等、規則・基準づくりの視点等から解説する。また三大感染症であるエイズ・結核・マラリアや慢性疾患について世界の現状とWHOの取り組みついて解説する。さらにMDG(ミレニアム開発目標)についても解説する。 【キーワード】 三大感染症、たばこの規制に関する世界保健機関枠組み条約、MDG	篠崎 英夫(国立保健医療科学院院長) 遠藤 弘良(国立保健医療科学院企画調整主幹)	篠崎 英夫(国立保健医療科学院院長) 遠藤 弘良(国立保健医療科学院企画調整主幹)
13	健康課題への挑戦ーその体制	WHOの活動を支える、組織や予算の仕組みや、WHOの政策が立案から実行に至る過程を政治的な側面も含めて解説する。またWHOに対する日本の貢献(財政的、政策的、人的)についても講義する。 【キーワード】 国連社会経済理事会、世界保健デー、世界保健総会、執行理事会、地域委員会	篠崎 英夫(国立保健医療科学院院長) 遠藤 弘良(国立保健医療科学院企画調整主幹)	篠崎 英夫(国立保健医療科学院院長) 遠藤 弘良(国立保健医療科学院企画調整主幹)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
国際共生に向けた健康への挑戦				
14	エイズへの挑戦―ベトナム・タイ・インド・日本における現状	近年、新興感染症、あるいは再興感染症への対応は、国際共生という観点からも、極めて重要な課題となっている。とくにエイズへの対応は、各国において固有の取り組みが推進され、成果が挙げられてきた。タイ、ベトナム、インド、日本における実態について、現地訪問による調査、収録を含め講義する。 【キーワード】 同性間性的接触、異性間性的接触、静注薬物濫用、母子感染、	多田羅　浩三（放送大学教授）	多田羅　浩三（放送大学教授）
15	国際共生に向けて―到達水準と課題	タイ、ベトナム、インド、日本などにおけるヘルスケアの中で、それぞれの到達水準の中で、国々が直面している課題について、人口の増加、制度の充実、プライマリ・ケア体制、健康増進などの面から、国際共生という点に立って考察し、講義する。 【キーワード】 人口政策、ヘルスケアを支える体制、プライマリケア体制、健康増進計画	多田羅　浩三（放送大学教授）	多田羅　浩三（放送大学教授）

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	総合科目	科目コード	1512200	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 社会福祉における権利擁護 （’０８）＝ （R）

〔主任講師（現職名）：大曽根 寛（放送大学教授） 〕

講義概要

本教材は、社会福祉の世界において当事者の権利を守るという視点だけでなく、社会福祉の権利を創りだすという視点から、人権概念・権利概念を再検討するとともに、現代的な権利侵害に対する解決方法を考え、権利侵害の予防に役立つ実践的な課題にも応えようとする。介護保険法について2005年に大きな改革があり、同年、障害者自立支援法が成立している。このような制度改革と事業者、国家・自治体の政策責任、市民の権利との関係について議論する。この教材は、社会福祉利用者・従事者ばかりでなく、看護職、法律職などの関連職種、一般市民にも役に立つものとなるだろう。

授業の目標

本教材は、社会福祉の世界における当事者や家族、市民の声を正面から取り上げ教材に反映させるという手法を用いる。また、本教材は、現代的な権利侵害に対する解決方法を考え、権利侵害の予防の実践的な課題にも応えようとする目的をもっているので、現場で様々な問題と格闘している専門職（福祉職だけでなく、看護職、法律職、消費生活相談員など）の活動を取材し、学生の学習の素材とすることも効果的であろう。
第1の柱は、社会福祉の権利構造に関する。第2の柱は、権利擁護の実践に関する。第3の柱は、生活者としての市民の権利と国家・自治体の責任に関する。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	社会福祉と基本的人権	第1回は、社会福祉の世界において当事者の権利を守るという視点だけでなく、社会福祉の権利を創りだすという視点から、人権概念・権利概念を再検討することによって権利概念を理論的に再構築するとともに、現代的な権利侵害に対する解決方法を考え、権利侵害の予防の実践的な課題にも応えようとする。	放送大学 教授 大曽根寛	放送大学 教授 大曽根寛
2	現代社会における権利侵害の実態	第2回は、福祉施設や病院で起きる拘束や虐待などの問題を取り上げる。ただ、生存権だけでなく、自由権・人格権や平等権など市民にとっての基本的な権利も侵される事態が頻発していることを踏まえ、元ハンセン病患者への権利侵害の実例をとりあげつつ、歴史的な経過を追うだけでなく、現代における社会的排除の実情についても検討する。	放送大学教授 大曽根寛 愛知新城大谷大学 専任講師 三好禎之	放送大学教授 大曽根寛 愛知新城大谷大学 専任講師 三好禎之
3	社会・経済の構造変動と人権	第3回は、施設で起きる虐待、いじめなどの人権侵害だけでなく、地域社会・在宅においても生起している問題を、高齢者の生活実態を通して考える。たとえば、都市部におけるホームレスの実情、島嶼部における住民の暮らしを見ながら、近時急激に変化しつつある社会・経済の変容と社会福祉の関係をとらえ、人権侵害の構造について考える。	放送大学 教授 大曽根寛 愛知新城大谷大学 専任講師 三好禎之	放送大学 教授 大曽根寛 愛知新城大谷大学 専任講師 三好禎之
4	社会福祉構造改革と権利擁護の位置	第4回は、社会福祉政策の改革の動きと関連させながら、権利擁護システムの新しい動向を知ることは学習にとって不可欠となって いる。介護保険法については、2005年に大きな改革があり、同年、障害者自立支援法が成立している。このような制度改革と国家・自治体の政策責任、市民の権利との関係について議論しておく必要がある。	明治学院大学教授 山田 晋	明治学院大学教授 山田 晋

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	福祉契約の構造	第5回は、新しい社会福祉体系の基礎となる、福祉契約の概念、特徴、問題点などについて検討する。契約論もまた、歴史的に形成されてきたものであることを確認するとともに、権利擁護の現代的な課題との関連を考える。ここでは、情報の開示、説明と同意など消費者保護の観点も必要となるだろう。	放送大学教授 大曽根寛	放送大学教授 大曽根寛
6	社会的後見	第6回は、判断能力の不十分な高齢者、障害者、児童などへの支援の方向を模索する。現在は、成年後見制度、未成年後見制度が用意されているが、社会によって支援される制度としては多くの問題を抱えている。また福祉法制上、福祉サービス利用援助事業がある。これらについて学習しよう。	放送大学教授 大曽根寛	放送大学教授 大曽根寛
7	福祉サービスの外部評価	福祉サービスを対象とする外部評価は制度化されたばかりであり、福祉従事者にも外部評価の趣旨が浸透していない。第7回は、福祉サービスの外部評価が権利擁護のひとつとして位置づけられる意味や外部評価の種類について学習する。福祉サービスの特徴を踏まえた、実効性のある評価手法とは何かについて考えてみよう。	愛知県立大学准教授 吉川雅博	愛知県立大学准教授 吉川雅博
8	苦情解決システム	福祉施設では、苦情が少ないことがサービスの質が高いことの証明には必ずしもならない。第8回では、苦情解決が権利擁護のひとつとして位置づけられる意味や苦情解決体制、苦情の実情について学習する。苦情をめぐる、サービス提供者と利用者のそれぞれの課題と相互の関係について考えてみよう。	愛知県立大学准教授 吉川雅博	愛知県立大学准教授 吉川雅博
9	福祉労働者の権利の実現	要介護者の重度化やサービス提供の多様化などによって、今日、福祉労働者の労働環境は厳しい状況にある。なかでも、長時間に及ぶ労働や、夜間一人で数十人の利用者を見守らなければならないなど、福祉労働者に掛かる負担は大きい。利用者が安心して、快適な生活を得るためには、福祉労働者の労働環境を整備する必要があろう。第9回では、介護保険施設で働く福祉労働者らに着目する。	愛知新城大谷大学 専任講師 三好禎之	愛知新城大谷大学 専任講師 三好禎之
10	虐待とDV	第10回は、すでに防止法が制定されている児童虐待、高齢者虐待、DVの実情を中心に学習する。どんな暴力も許さないという社会的認識を高め、虐待やDVに対する周囲の無関心をなくすことが必要である。そのためには、どのような方法があるのか考えてみよう。	愛知県立大学准教授 吉川雅博	愛知県立大学准教授 吉川雅博
11	最低生活保障の権利	第11回は、生活保護制度や国民年金など、市民の最低生活を保障するシステムがどこまで機能しているかを確かめるとともに、基本所得、ベイシックインカムなど理論的問題にも言及する。権利としての最低生活保障の意味を考えてみよう。	明治学院大学教授 山田　晋	明治学院大学教授 山田　晋

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
12	社会福祉と行政法制	第12回は、社会福祉と行政法制の関係について概観する。種々の社会福祉サービスと行政手続法に基づく申請に関するプロセス、申請に対して行政によってなされた処分に対する不服申立てや行政訴訟の仕組みについて見ていこう。生活保護支給決定や介護保険に基づく要介護認定等の各種の行政決定が適切になされることが、人々の権利保障にとって重要であることを理解しよう。	南山大学 准教授 豊島明子	南山大学 准教授 豊島明子
13	社会福祉と国家賠償	第13回は、人々の権利保障にとって重要な国家賠償の仕組みについて学ぶ。公営の施設において生じた事故に対する国・都道府県・市町村の責任の問題もあるが、民間事業者に対する監督責任が問われることもある。また、民間事業者が行政から委託を受けている場合などは、民間の職員が国家賠償法上「公務員」として責任を問われることもある。誰が、どのような場合に、誰に対して、損害賠償請求を行うことができるのか、実例を通して検証しよう。	南山大学 准教授 豊島明子	南山大学 准教授 豊島明子
14	行政の公的責任	第14回は、「措置から契約へ」の流れの中で、行政の果たすべき公的責任のあり方に変化が生じている。措置制度と契約制度とで は、そこにおける行政の果たすべき役割にどのような違いが見られるのだろうか。また最近、行政の民営化の法的適否についての裁判が提起されており、これらの実例をもとに、サービス供給主体としての行政という観点からも、行政が果たすべき役割について考えてみよう。	南山大学 准教授 豊島明子	南山大学 准教授 豊島明子
15	課題と展望	第15回は本教材のまとめである。変容し続ける社会福祉制度との関係で、市民の権利はどのように守られていくか今後の課題が論じられる。福祉の産業化と行政責任の問題までを含め、総括する。これら権利擁護の新しい動向を知ることは社会福祉の学習にとって不可欠であることを確認する。	放送大学 教授 大曽根寛	放送大学 教授 大曽根寛

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	総合科目	科目コード	1618504	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　欧米の社会福祉（‘０７）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：　松村　祥子（放送大学教授）〕

講義概要

少子高齢化の進行による福祉ニーズの拡大と経済停滞下の財政難に直面して、欧米の社会福祉は大きな転換をせまられている。福祉国家体制を越えた社会福祉システムの構築を目指す欧米各国の現状と課題を明らかにする。更にヨーロッパ連合等でとりくまれている国をこえた福祉政策の動向についてもとり上げる。

授業の目標

従来わが国では欧米の社会福祉制度を部分的、表面的に取り入れる傾向が強かったが、自前の福祉改革を成功させるためには新たな姿勢で欧米から学ぶ必要がある。この講義では狭義の社会福祉だけでなく、広義の生活保障を視野に入れ、社会福祉を点検、評価、改善するための新しい視点と総合的方法を示す。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	欧米福祉社会の直面する課題 －揺らぎと代替－	経済的格差だけでなく、世代、男女、人種、雇用形態、地域等に多様な格差が広がり、そこに新しい形の生活困難が発生している。ここでは、福祉国家体制の限界に対する欧米諸国の福祉改革への取り組みと国を越えた社会福祉問題への対応について取り上げる。	松村　祥子（放送大学教授）	松村　祥子（放送大学教授）
2	貧困・社会的排除への対応	欧米諸国における貧困のとらえ方と貧困対策の歴史的展開を概観した上で、社会的排除に関する研究と政策の動向を紹介する。その上で、ワークフェアやベーシックインカムなど新たな視点からの貧困問題に関する政策的対応や政策構想の意義を検討する。	平岡　公一（お茶の水女子大学教授）	平岡　公一（お茶の水女子大学教授）
3	障害のある人への対応	多くの国で障害給付受給率が高まっている。しかし増大し多様化するニーズへの充足率は低い。差別禁止法の導入、雇用者責任の拡大等を含めた障害者福祉政策の改革と今後のあり方を検討する。	丸山　一郎（埼玉県立大学教授）	丸山　一郎（埼玉県立大学教授）
4	子ども期を支える社会福祉	欧米諸国における子どもの生活変化に対応する社会福祉をテーマとする。特に女性の雇用労働者化が進み、都市的小家族が一般化している欧米諸国において子育て支援の大きな柱とされている児童手当と保育サービスに関してスウェーデンとフランスの状況を中心に検討する。	松村　祥子（放送大学教授）	松村　祥子（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	高齢期を支える社会福祉	アメリカ、ドイツ、スウェーデンの高齢者介護政策について、比較福祉国家研究の視点から比較検討を行う。具体的にはそれぞれの国の制度概要を示し、特徴を明らかにする。また各国が抱える最近の課題をあげながら、日本の制度を点検する上での材料を提供したい。	斉藤　弥生（大阪大学准教授）	斉藤　弥生（大阪大学准教授）
6	雇用と社会福祉	多くの先進諸国が「福祉受給者に給付と引き換えに何らかの勤労を要求する」ワークフェア（workfare）政策を実施している。社会福祉が雇用政策と益々強く結びつけられるようになっている現状を国際比較しながら明らかにする。	新井　光吉（埼玉大学経済学部教授）	新井　光吉（埼玉大学経済学部教授）
7	地域と社会福祉	社会福祉にとって地域社会の意義を検討した上で、主にイギリスでの政策展開を紹介しながら、コミュニティケアの意義と発展段階について検討し、コミュニティケアの将来像を考える。	平岡　公一（お茶の水女子大学教授）	平岡　公一（お茶の水女子大学教授）
8	アメリカの社会福祉の現状と課題	1996 年福祉改革法は権利給付(AFDC)の廃止、期限付給付、勤労義務などを導入してアメリカの社会福祉を劇的に変化させた。そこで、主たる受給者であった母子家庭がどのような影響を被り、いかなる問題に直面しているのかを明らかにする。	新井　光吉（埼玉大学教授）	新井　光吉（埼玉大学教授）
9	スウェーデンの社会福祉の現状と課題	社民主義福祉国家レジームに分類されるスウェーデンの社会福祉制度の特徴を述べ、また分野ごとに制度の概要を整理する。また社会福祉制度をめぐる昨今の課題について論じる。	斉藤　弥生（大阪大学准教授）	斉藤　弥生（大阪大学准教授）
10	イギリスの社会福祉の現状と課題	1970年代に確立したイギリスの社会福祉サービスの提供体制の特徴を明らかにした上で、1990 年代初等のコミュニティケア改革と 1997 年以降のブレア政権下の改革で、それがどのように変化してきたのかを検討する。	平岡　公一（お茶の水女子大学教授）	平岡　公一（お茶の水女子大学教授）
11	フランスの社会福祉の現状と課題	年金・医療部門での財政難、高失業社会への対応の必要さらに家族政策への要望の高まり等に直面して、システム転換を試行する社会福祉の組織、方法、教育について述べる。	松村　祥子（放送大学教授）	松村　祥子（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	ドイツの社会福祉の現状と課題	介護保険制度など世界に先駆けた政策を実施しているドイツにおいても社会保障財政難や少子社会への対応上問題も多い。日本の社会保険のモデルとなったドイツの社会福祉・社会保障の特徴や課題の比較分析を通じて共通の課題を考察する。家族と社会福祉のあり方についても介護保険の例を通じて検討する。	田中耕太郎(山口県立大学教授)	田中耕太郎(山口県立大学教授)
13	障害に関する国連や専門機関・団体の動向	国連総会での「障害者の権利に関する国際条約」によって、新たな展開がなされることになった。障害問題解決における国連の役割は益々重要となったのであるが、国連専門機関や国際団体の活動とあわせてこのような前進がもたらされた経過を紹介したい。	丸山　一郎(埼玉県立大学教授)	丸山　一郎(埼玉県立大学教授)
14	新しい生活保障システムの構築(1) －最低生活保障と生活の質－	ライフステージの各段階で発生する生活困難を予防、緩和、解決する基盤的政策としての最低生活保障に関し、公的扶助の役割とその他の制度、とりわけ公的年金や失業扶助との役割分担やあり方について、ドイツの近年の改革動向の分析を通じて考察を行う。	田中耕太郎(山口県立大学教授)	田中耕太郎(山口県立大学教授)
15	新しい生活保障システムの構築(2) －家族、雇用、住宅、教育、文化領域との連携強化－	分断的、閉鎖的な社会福祉から横断的、開放的な方向へ転換するためには、雇用、住宅等の関連諸施策を含めた総合的施策が必要である。欧米諸国のとりくみと日本を比較して、今後の課題を明らかにする。	松村　祥子(放送大学教授)	松村　祥子(放送大学教授)

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	専門科目	科目コード	1520903	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 心理学研究法 （’０８）＝ （R）

〔主任講師（現職名）：海保 博之（東京成徳大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：大野木 裕明（福井大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：岡市 広成（同志社大学教授）〕

講義概要

①人の心と行動を実証的に研究する論理はどうなっているのか、②1世紀余にわたる心理学の研究の歴史のなかでその論理はどのような変遷をへて現在のようになってきたのか、そして、③今、心理学は、研究方法論の百花繚乱期をむかえているが、実験法から質的研究法まで、どのような方法論と技法が何を明らかにするためにどのように使われているかを紹介してみたい。

授業の目標

心理学の多彩な研究「技法」も個別研究も、事例として紹介されるが、それよりも、それらの背後にある、研究の方法論（論理）のほうに目を向けてほしい。自然科学と違って、心という科学的に非常に扱いにくい対象が、どうすれば科学になりうるのかを知ることが、受講生の方々みずからが、心についての妥当な認識を深めることにもつながると思うからである。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	心理学研究法概説	心理学研究法の歴史と論理をたどりながら、心がどうすれば科学的な対象として研究できるのかを考えてみる。そこでは、自然科学ではごく当たり前の実証をめぐっての苦闘の歴史があることを紹介する。	海保 博之（東京成徳大学教授）	海保 博之（東京成徳大学教授）
2	因果関係を探る —実験室実験法	心理学における実験の論理について学ぶ。心理学実験は自然科学における実験と変わらないところもあるが、人を相手の実験ではそれなりの工夫が必要となる。実験室的な実験では厳密さが保たれるが、より現場的な実験を行なうにつれて実験法の長所と限界が明らかになる。その工夫の数々が、本章の学びのポイントになる。 【キーワード】 確率論的な因果関係、独立変数、従属変数、統制群、実験計画法	大野木 裕明（福井大学教授）	大野木 裕明（福井大学教授）
3	心を説明するモデルを探る —モデル論的アプローチ	心にかかわるデータをいかに収集し処理するかに心理学は多彩な工夫をしてきたが、心のモデル化にはかなり慎重であった。20世紀後半、認知心理学がこれに果敢に挑戦してきた。記憶検索モデル、記憶貯蔵庫モデル、さらに情報処理モデルを事例として紹介しながら、モデル論的アプローチの仕組みを紹介してみる。	海保 博之（東京成徳大学教授）	海保 博之（東京成徳大学教授）
4	集団の意見や態度を探る —質問紙調査法	いろいろな社会現象に対する意見や考えはさまざまであるが、これをたとえば世代別や性別にみると、かなりそれら集団の人びとに共通の考えや態度が見られる。それを調べる方法の1つが質問紙調査法である。言語的なインタビューや社会調査で使われる質問紙で何がわかるのかを、前章の実験法との違いを考えながら学ぶ。 【キーワード】 社会集団、質問紙、社会調査、標本抽出法、相関関係、因果関係	大野木 裕明（福井大学教授）	大野木 裕明（福井大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	心の特性を探る ―心理尺度の構成法	心を測る最も一般的な手法として、使われているのが心理尺度である。心理尺度の作り方と、その背景にある論理、さらに、利用にあたっての留意点についても紹介する。	海保　博之 （東京成徳大学教授）	海保　博之 （東京成徳大学教授）
6	行動から心を探る ―観察法一般	人間の心への接近方法は現在多様である。ここでは客観的に観察することが可能である行動から心へ接近する手法である観察法について、その種類、使用上の留意点、得られた心理学上の知見について検討する。	比留間　太白 （関西大学教授）	比留間　太白 （関西大学教授）
7	現場から心を探る ―エスノメソドロジーとグラウンディッド・セオリー	近年、フィールド・ワークを中心とした質的研究が注目されてきている。ここでは、フィールド・ワークを通して人間の心理のどのような側面をどのような理論上の立場・視点から、どのような方法によって明らかとしようとしているのか、エスノメソドロジーとグランウンデットセロリーを事例として検討していきたい。	比留間　太白 （関西大学教授）	比留間　太白 （関西大学教授）
8	協働から心を探る ―教育的介入法	研究者が現場で活動する人と協働して、具体的な問題解決に取り組むことで、問題の背後にある心的機能に関する知見を検討することが可能である。ここでは教育場面における教育的介入法の事例を取り上げ、理論的背景、成果と方法論上の問題について検討していきたい。	比留間　太白 （関西大学教授）	比留間　太白 （関西大学教授）
9	社会を動かす心を探る ―アクションリサーチ	アクションリサーチは、社会問題を解決するために、それに関わる人々の意識や行動の規定因を解明し、それが望ましい方向に変わるように働きかける方法である。本章では、コミュニティでの環境保全の取り組みの事例を例にしながら、その方法の特徴を紹介する。	広瀬　幸雄 （名古屋大学教授）	広瀬　幸雄 （名古屋大学教授）
10	心の不具合を探る ―事例介入研究	個別または少数の事例について、個性を追求する方法が事例研究法である。心理臨床においては、実際に対象に援助や介入を行いつつ、人間心理を探る方法として独自の意味をもつ方向に発展してきた。この章ではそうした事例介入研究について紹介したい。	小笠原　昭彦 （名古屋市立大学教授）	小笠原　昭彦 （名古屋市立大学教授）
11	心の深層を探る―心理検査法	人間行動における個人差を知る上で有用な方法としての心理検査について、信頼性や妥当性を高めるために標準化の手続きを経て作られた標準検査と、心の深層を探るために発展してきた投映法検査の両面から紹介する。	小笠原　昭彦 （名古屋市立大学教授）	小笠原　昭彦 （名古屋市立大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
12	心の脳基盤を探る ―生理心理学的研究法	心は脳と神経系によって実現されると考えられる。この考えの基礎となる生理学的・解剖学的研究と環元主義的研究法を説明する。心の働きを脳と行動との関係からアプローチする3つの有力な研究方法―脳損傷法、脳活動記録法、脳刺激法―について説明する。	岡市　広成 （同志社大学教授）	岡市　広成 （同志社大学教授）
13	動物から人の心を探る ―比較心理学的方法	「動物に心があるか」という問いに応える古典的研究から、ネコやラットでの行動学的研究、および、最近、発展の著しいサルに至る比較認知研究の成果に基づいて考えてみる。さらに、背景にある、進化論的な考えも吟味してみたい。	岡市　広成 （同志社大学教授）	岡市　広成 （同志社大学教授）
14	心理学研究法；まとめと補足	13回にわたり、心理学研究法を網羅的に紹介してきた。この章では、それらの多彩な心理学研究法を類型化して知識の整理をしてもらうことが一つのねらいである。さらに、実証の意味を確認し、現在の心理学研究の一つの潮流ともなっている統計的推論の意義にも触れてみたい。	海保　博之 （東京成徳大学教授）	海保　博之 （東京成徳大学教授）
15	心理学研究法と心理学の研究の今後の展開	14回の講義を通じて、心理学研究の多様なアプローチとその論理や意義を理解していただいた。最後になる今回は、これらの研究法相互の働きかけによって、心の探究のためのあらたな方向が見つけ出され、いかに真理を究明する知的な好奇心がかき立てられるかを、3人の主任講師の対談を通じて考えていきたい。	岡市　広成 大野木　裕明 海保　博之	岡市　広成 大野木　裕明 海保　博之

＝　心理学史（‘０５）＝（TV）

〔主任講師：　西川　泰夫（放送大学教授）〕
〔主任講師：　高砂　美樹（東京国際大学教授）〕

全体のねらい

今あるような心理学はなぜそのようにあるのか。広く周知されている心理学であるがそもそも心理学とは何であり何でないのか。その起源をはじめどのような背景と経過の中で形成されてきたのか。またその立ち上げに直接間接にかかわる先達たちはどのような人物か。日本の心理学史に焦点を合わせ、その移入と定着、拡大展開の過程を世界の心理学の動向に重ね各役割を担った人物を通して紹介する。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
		Ⅰ　日本の心理学の起源―幕末から明治２１（１８８８）年まで―		
1	日本の「心理学史」への導入	主任講師、分担講師紹介。当科目受講に当たっての手引き。心理学史の位置づけ。全体の講義項目・概要紹介。 心理学成立前夜。哲学的心理学から新心理学（科学的心理学・実験心理学）へ。自然科学の興隆。擬人論から機械論へ。ものから生命へ、生命から心（意識・精神）へ。心をめぐって一二元論から一元論へ一。 日本の心理学の黎明期・前夜。幕末から明治初頭の海外留学生。西周の略歴（生育環境（島根県津和野）や森鴎外との関係）。西周の果たした役割。育英舎。百学連環。近代西洋科学の分類体系化。「心理学」という学名の起源と語源。その他の訳語。性理学と心理学。ジョセフ・ヘブンとその著作。大学教育制度の中の心理学。外山正一。お雇い外国人教師。哲学的心理学から科学的心理学へ。	西川　泰夫（放送大学教授）	西川　泰夫（放送大学教授） 高砂　美樹（東京国際大学教授）
2	「新心理学」の導き手とわが国への移入と定着を担った先達たち	哲学的心理学から科学的心理学への移行を担った人々。デカルトの心身二元論と心身問題への取り組み。ホッブスの一元論。ウエーバーの触２点弁別実験。フェヒナーの精神物理学と対数法則。ヘルムホルツの神経伝導速度の計測。アニマル・スピリッツの正体。ドンダースの反応時間減算法による心的構成要素の解明。 新心理学（科学的心理学、実験心理学）の開祖。W.ヴント、W.ジェームズ。新心理学をわが国へもたらした日本の心理学の開祖、元良勇次郎。クラーク大学総長に就任したG.S.ホールとその下で学んだ日本人たち。新心理学のわが国における定着と拡大に大きな役割を担った大学教育制度。東京大学（帝国大学、東京帝国大学）と私学（同志社、東京英学校・東京英和学校（青山学院）、慶応義塾など）。 ヴント、ジェームズ、ホール、元良略歴紹介。	西川　泰夫	西川　泰夫

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
3	元良勇次郎―わが国最初の心理学者―	元良勇次郎の人物像と心理学への貢献。略歴（兵庫県三田市生まれ。生家跡と記念碑。幼少期の知的環境。キリスト者としての勇次郎）。同志社進学からアメリカ留学まで。アメリカ留学。ボストン大学からジョンズ・ホプキンズ大学へ。G．S．ホール。 元良の学位論文。留学中の交友関係（一葉の写真、佐藤昌介、新渡戸稲造、長瀬鳳輔、元良勇次郎）。 帰国後の活躍について（前期・中期・後期）。帝国大学講師に就任。精神物理学の担当。帝国大学教授就任。著作と研究紹介。心理学の制度化。 注意の研究。禅の研究。 「精神物理学実験場（実験室）」開設。建物の概観。 二度目の外遊。晩年の研究。心理学者としての位置づけと弟子の育成。	佐藤　達哉（立命館大学教授）	佐藤　達哉（立命館大学教授）
4	松本亦太郎と千葉胤成―心理学の定着と広がり―	松本亦太郎経歴。千葉胤成経歴。日本で二番目の京都帝国大学の設置と松本亦太郎による心理学実験室の開設。心理学出身者の増大と社会的な認識の広がり。応用心理学。 世界の心理学との接点。ヴント。ヴント文庫（東北大学ヴント文庫）。スクリプチュア。ラッド。	高砂　美樹	高砂　美樹
Ⅱ　明治中期、大正期から昭和期前半―大学心理学の成立から日本心理学会設立まで―				
5	日本の心理学の広がり	大学心理学（アカデミック・サイコロジー）の確立から日本心理学会設立（１９２７（昭和２）年）のころまで。アカデミック・サイコロジーとフォーク・サイコロジー。帝国大学の拡充と整備。大学令（旧制、１９１８年公布）と私立大学の成立。心理学研究室（心理学実験室）開設拡大と整備。 大学制度の整備拡充に伴う心理学の拡大と担い手。 帝国大学制度の変遷と心理学。元良の弟子たち。松本亦太郎の略歴。東京大学文学部卒業生名簿から。 その他の海外留学生の役割。 日本心理学会設立の背景。機関誌の発行と研究大会（年次大会）の開催、会務の遂行。 名称としての「心理学会」などの変遷。「心理学会」、「心理学通俗講話会」（雑誌、心理学通俗講和）、「心理学研究会」（雑誌、心理研究）、「日本心理学会」（雑誌、日本心理学雑誌（京都大学版、東京大学版））、日本心理学会（雑誌、心理学研究。日本心理学雑誌と心理研究を廃止）。 「全日本心理学大会発起人有志者代表、松本亦太郎」 の呼びかけによる「全日本心理学大会」を改めて「日本心理学会」とする。 第１回日本心理学会大会の発表プログラム構成。 以後の簡単な変遷史。	西川　泰夫	西川　泰夫
6	久保良英、田中寛一、鈴木治太郎―知能検査と発達心理学の進展―	知能検査の日本への導入をめぐって。知能の操作的定義。知能検査法。知能指数。 ビネー。シュテルン。ターマンなど海外での知能研究を追い、その日本への導入者である久保良英、田中寛一、鈴木治太郎の経歴と考え方を追う。 発達心理学、教育心理学などの展開についても扱う。	佐藤　達哉	佐藤　達哉

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
7	森田正馬、中村古峡、寺田精一、内田勇三郎－異常・変態・犯罪への取り組み－	当時変態心理学と呼ばれていた臨床心理学の動向について。精神分析学、分析心理学、深層心理学など。クレペリン、フロイド、ユングなど海外の動向。 森田正馬、中村古峡、寺田精一、内田勇三郎の経歴と考え方を検討。内田・クレペリン・テストなどの検査法の開発。	佐藤　達哉	佐藤　達哉
8	増田惟茂、黒田亮	比較心理学。学習心理学。行動の心理学的研究。日本における動物心理学の発展。東京帝国大学心理学研究室。京城帝国大学心理学研究室。動物心理学会。 ダーウイン。ロマーニズ。パヴロフ。ワトソン。 増田惟茂経歴。黒田亮経歴。ソーンダイク。モーガン。	高砂　美樹	高砂　美樹
9	佐久間鼎、小野島右左雄	ゲシュタルト心理学とは。グラーツ学派。ベルリン学派。C．シュトゥンプ。ヴェルトハイマー。仮現限運動。プレグナンツの法則。ケーラー。レヴィン。トポロギー心理学、グループ・ダイナミックス。日本におけるゲシュタルト心理学の導入。 高木貞二。佐久間鼎経歴。小野島右左雄経歴。 九州帝国大学心理学研究室。建物の構造と概観。 レヴィン来日。	高砂　美樹	高砂　美樹
10	中島泰蔵、堀梅天、横山松三郎	クラーク大学で学位を取得した日本人たち。その他の海外留学生たち。 私立大学の心理学研究室（実験室）の創設者たち（その１）。実験心理学。実験機器。 早稲田大学の場合。中島泰蔵経歴。ミュンスターバーグ。ティチェナー。反応時間。情動反応の計測。 慶応義塾大学の場合。堀梅天経歴。横山松三郎経歴。 ホール。ボーリング。	西川　泰夫	西川　泰夫
11	城戸幡太郎、渡辺徹、今田恵―旧制私立大学における心理学の展開―	私立大学の心理学研究室創設者たち（その２）。そうした研究者が取り組んでいた応用領域、特に教育心理学、および障害とリハビリテーションの心理学の展開についても検討する。城戸幡太郎、渡辺徹、今田恵の経歴。また、戦争と心理学の関係についても考察を加える。	佐藤　達哉	佐藤　達哉
Ⅲ　日本心理学会設立から第二次世界大戦後の心理学の復興と新たな展開―				
12	日本心理学会の変遷を通じて見た心理学の位置	日本心理学会の変遷。設立以降から、戦前、戦中、戦後の復興、そして現在へ。「日本心理学会」から「心理学会」へ。「心理学会」の組織形態。役員。第二次世界大戦後の日本の心理学の復興。「心理学会」から「日本心理学会」へ。 日本心理学会大会の変遷。機関誌「心理学研究」の中断と復活へ。京都アメリカ研究セミナー。 グレアム教授（コーネル大学）による京都実験心理学セミナー（１９５７）。日程、参加者リスト、セミナーのテーマ、ならびに文献リスト。セミナーの戦後の日本心理学へ果たした役割。一心理学徒のルーツ。日本心理学会以外の多彩な学会の設立と活動。	西川　泰夫	西川　泰夫

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
		Ⅳ　日本の新心理学の内外での制約と境界領域をめぐって		
13	日本の女性心理学者	戦前における女性の高等教育。 日本の教育制度の中の女子高等教育。 原口鶴子の場合。その経歴。高良とみの場合。その経歴。女子教育と松本亦太郎。 海外での受け入れ教員となったソーンダイクなどアメリカ心理学者について。 その他の女性心理学者。実生すぎ。久保（黒瀬）艶子。波多野（畠山）勤子。	高砂　美樹	高砂　美樹
14	日本の心理学の境界画定作業―それぞれにユニークな研究者：井上・福来・古川の活動―	血液型と性格、念写・透視、心霊現象、妖怪、超感覚現象などにチャレンジした心理学者たちを追う。彼らは何を目指しどのような研究を行ったのか。そしてその帰結はどうであったのか。井上円了、福来友吉、古川竹二の経歴と考え方を扱う。クレッチマー、ジェームズなどの当時の世界の心理学者についても検討する。	佐藤　達哉	佐藤　達哉
		Ⅴ　日本の心理学の位置づけ		
15	心理学史からのまとめと課題	世界の心理学の潮流からみた日本の心理学。 さまざまな心理学派。機能主義と構成主義。戦後の日本における心理学教育。心理学の資格をめぐる問題。心理学史の資料収集と保存。心理学史アーカイヴズ。心理学史の教育をめぐって。	高砂　美樹	西川　泰夫 高砂　美樹

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	専門科目	科目コード	1520806	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 認知科学の展開 （’０８）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：西川　泰夫（放送大学・教授）〕

〔主任講師（現職名）：阿部　純一（北海道大学大学院・教授）〕

〔主任講師（現職名）：仲　真紀子（北海道大学大学院・教授）〕

講義概要

21世紀最大の課題の一つである、私たちの「心」をめぐる議論は、新たな局面を迎えている。その取り組みを包括して、認知科学（心の科学；cognitive science）とよぶ。当初、心の究明は、もっぱら哲学者の思索や思弁に委ねられていた。しかし、19世紀における生理学や物理学の興隆とともに、新たな現在の心理学（科学的・実験心理学）が立ち上げられたことに加え、以後、20世紀中頃からの情報理論、数理言語学、ならびにコンピュータの実現、さらには脳神経科学などの進展とともに、現在の認知科学がある。この分野の基本的なパラダイムの紹介とその広がりを代表的な心理事象をもとに紹介する。

授業の目標

「心」の探求は新たな段階を迎えている。その最先端では、多くの研究者を巻き込んで活発な実証研究、ならびに理論的整備が図られている。そして反証や理論をめぐって激しい論争が繰り広げられている。学問の最先端は、常に知的に過激で、興味尽きない。そうした新たな知の分野へ関心と興味をもたれる方々へ、自ら参加するためのまずこの分野の基本的な考え方をはじめ、その興味深い成果の一端を簡潔に紹介する。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	認知科学成立の背景	認知科学への道程を概観する。基本パラダイムである、心の記号論・計算論を中心に、その背景となる歴史的経緯を紹介する。記号論・計算論は、アリストテレスの形式論理学以降、ホッブス、ライプニッツ、ブール代数、そして現代論理学（命題論理学、述語論理学、フレーゲ、ラッセル、ヴィトゲンシュタインなど）の系譜をたどる。また、論理計算の機械化という観点からは、計算機の系譜をたどり、チューリング・マシン、現行のコンピュータへの概要の紹介を試みる。 【キーワード】 心の記号論・計算論。論理学。計算の機械化。コンピュータ。	西川泰夫（放送大学・教授）	同左
2	心は計算機	認知科学における基本パラダイムの紹介。「心は計算機である」という主張をめぐって。3つの前提。派生する第4の前提と、「人工知能研究」。「知」の機械化。チューリング・マシン。チューリング・テスト。人間の思考、知性とは。記号処理システムとしての脳（形式的ニューラル・ネットワーク）。脳神経科学の知見から。論理学から。 【キーワード】 人間の思考、知性。記号処理システム。計算機。ニューラル・ネットワーク。	西川泰夫（放送大学・教授）	同左
3	知識と表象	人間の知（認知、cognition）の基盤を他の動物との比較で考えてみると、それが「nature」よりも「nurture」によって特徴づけられていることが分かる。つまり、人間の知の能力は、生まれた後の様々な経験や学習によって培われた（広い意味での）知識によって支えられているということである。この知識が、日常生活の中でどのように利用されているのか、また、脳内でどのように表象（represent）されているか、を知ることは、認知科学の基本的課題となっている。この回は、人間の知識の利用と表象について解説する。 【キーワード】 知の力、知識の利用、知識の表象	阿部純一（北海道大学・教授）	同左

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	感覚	いわゆる五感と呼ばれる様々な情報をまとめて、効果的に外界を表現するのが感覚の役割である。感覚情報は相補的に機能するが、人間の感覚システムは視覚と聴覚を重視した設計になっている。たとえば視覚は限られた方位を精度良く処理するのに適するが、聴覚は全方位を粗くだが包括的に処理できるし障害物の影響も少ない。この視聴覚を中心にまわりの環境を認知しようとするのが、他の生物とは違う私たちなりの外界への接し方であり、捉え方なのだろう。ここでは私たち人間の感覚システムの特徴を中心に解説する。 【キーワード】 感覚、視覚、聴覚、環境	川端康弘（北海道大学・准教授）	同左
5	高次視知覚	私達が、視覚系を通じて、環境の情報をどのようにして抽出しているか、その過程について考える。初期視覚過程や受容野を基盤としたエッジ検出のモデルや奥行知覚、運動知覚の計算モデル、更にはもっと高次の知覚過程としての物体認知や顔認知の過程を説明する認知モデルなどを取り上げる。 【キーワード】 エッジ検出、奥行知覚、運動知覚、物体認知、顔認知	田山忠行（北海道大学・教授）	同左
6	注意	私達は、環境の中にある必要な情報を効率的に獲得するために注意の機能を備えている。この注意の基本的な機能として、選択的注意、空間的注意、視覚探索、分割的注意などがあり、それらを説明する代表的なモデルや理論を取り上げる。また、意識とも関連した脳内の注意ネットワークに関する神経科学的知見について紹介する。 【キーワード】 選択的注意、空間的注意、視覚探索、分割的注意	田山忠行（北海道大学・教授）	同左
7	認知発達	ここでは時間軸に沿った認知的機能の変化を取りあげる。まず，認知的発達に関するいくつかのモデルを示し，その上で，特に言語的な側面に焦点を当てて発達的変化を見ていくことにしたい。ここで取り上げるモデルは，特定の事象を予測し説明するメカニズムというよりは，発達の過程をどのように捉えるかという視点あるいは理念に近いものである。どのような視点あるいは理念をもつかによって，見えてくる現象が異なってくることを示したい。 【キーワード】 発達のモデル，遺伝と環境，初期知識，領域固有性，語彙獲得	仲真紀子（北海道大学・教授）	同左
8	記憶	ここでは記憶の過程を取りあげる。短期記憶と長期記憶，言語化できる記憶と言語化しにくい記憶，顕在的な記憶と潜在的な記憶，意味記憶やエピソード記憶といった長期記憶の特徴などを，そのモデルとともに見ていくことにしたい。近年では，偽りの記憶（実際には体験していないことが，あたかも体験したかのように想起される）や自伝的な記憶（自己に関する自伝的な記憶）が関心を呼んでいる。これらについても見ていくことにしよう。 【キーワード】 記憶のモデル，記憶の種類，偽りの記憶，自伝的記憶	仲真紀子（北海道大学・教授）	同左

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
9	推理判断	われわれの日常生活の多くは推理判断に基づいていると言える。日常的な推理判断も基本的には論理学の演繹、帰納、類推などに対応するが、当たり前過ぎて意識されないような推理判断を詳しく調べると、論理学的な形式性や妥当性の判断とは大きく異なっている。そのようなわれわれの推理判断の具体的な特徴を論理学的な背景とともに概観し、現象を説明できそうな認知科学的なモデルを紹介していく。 【キーワード】 推理、判断、演繹、帰納、類推	瀧川哲夫（北海道大学・教授）	同左
10	言語理解	言語機能は人間という動物を特徴づける代表的認知機能といえる。この回は、人間の言語理解過程の基本的性質について解説する。単語の認知、文の理解、文章の理解と、より大きな言語単位を把握して、その意味内容を捉えていく過程を解説する。 【キーワード】 単語、文、文章（談話）、統語処理、意味処理	阿部純一（北海道大学・教授）	同左
11	言語コミュニケーション	ここでは音声言語によるコミュニケーション，特に会話を中心に認知科学的な研究を紹介する。まず，交互に話す，フィードバックを与える，文脈を共有するといった，会話の特徴を整理する。その上で，発話の理解について検討しよう。発話の研究は，言語学との接点で行われてきた。オースティン，グライス，サールによる理論的枠組みを示し，これらの研究に触発されたいくつかの実証的研究を示す。さらに，イントネーションなどのパラ言語情報についても見ていくことにしよう。 【キーワード】 会話，フィードバック，文脈，発話行為	仲真紀子（北海道大学・教授）	同左
12	音楽認知	音楽の心的機能は、言語と同様に、人間に特徴的なそれといえる。音楽は一般に“芸術”や“感性”に関わる機能として認識されがちではあるが、その基本はやはり“認知”的であるといえる。この回は、人間の音楽認知の基本的メカニズムを解説する。その中核は、拍節的体制化と調性的体制化である。また、音楽における認知と感情との関係についても触れる。 【キーワード】 音楽認知過程の計算モデル化、知覚的体制化、認知と感情	阿部純一（北海道大学・教授）	同左
13	感情	感情は心のシステムのどのようなはたらきによってもたらされるのか、心理学と脳科学の知見にもとづきながら、学際科学としての認知科学の見解を学習する。環境への適応システムとしての感情、認知と思考と動機づけの統合システムとしての感情、感性や価値観につながる高次システムとしての感情など、感情のもつ多彩な側面について学ぶ。また、感情を持つロボットという、新しいアプローチからの成果についても議論する。 【キーワード】 一次感情、二次感情、情動、自律エージェント	徃住彰文（東京工業大学・准教授）	同左

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
14	認知科学と認知工学	認知科学によって人間の知の仕組みが解明されるならば、その知見を効果的に使って、人間にやさしい機械の設計が可能となるはずである。このような考え方からうまれたのが、認知工学である。人間が環境を認知する仕組み、推論、感情が導きだされる仕組みが、機械の効果的な設計にどのように貢献できるかを学ぶ。さらに、コンピュータやネットワークをはじめとするテクノロジーと切り離すことができない現代社会の設計に、認知科学がどのように貢献できるのか、議論する。 【キーワード】 インターフェイス、アフォーダンス、分散認知、Web工学	徃住彰文（東京工業大学・准教授）	同左
15	認知科学再考	当科目のまとめ。心を問い直す。反記号論・計算論者たちの反論。その前提となるパラダイム。二元論対一元論。感性と理性。行為と心的表象系。身体性。文脈。意図・志向性。応用認知科学。ヒューマン・エラーと安全性。認知科学の将来への展望。 【キーワード】 心を問い直す。反記号論・計算論。	西川泰夫（放送大学・教授）	同左

＝　計量心理学（‘０６）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：西川　泰夫（放送大学教授）　〕
〔主任講師（現職名）：沼野　元義（英知大学教授）　〕
〔主任講師（現職名）：大澤　　光（首都大学東京大学院教授）〕

全体のねらい

心理学の抱えている根本的な難しさは、直接の対象である「心」が各自の自覚や確信に反して、直接見ることも触れることもできない（インビジブル）ことである（この点は、すべての科学に当てはまるといってよい）。そこで、目にみえる形あるもの（心の作用結果の行動など）から、もとにある心を捉えることが問われる。この逆分析（結果から原因や仕組みを明かすこと）を行う、逆推定問題を解くためには、一定の手続きによる行動観察とその結果である測定データに内在する論理構造の解析、ならびに心が持つはずの基本的な数理的論理構造を前提（理論やモデル）とした仮説演繹法的な取り組みが必須である。科学的心理学が立ち上げられた以降、実験心理学の中心を占める「計量心理学」を、確率論を前提基盤にすえ、いくつかの身近な心理事象をはじめ具体的な適応、応用事例を平易に紹介する。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	Ⅰ計量心理学への導入。 計量心理学の位置づけ	はじめに。主任講師自己紹介。担当講義概要紹介。 計量心理学への導入。カントの呪縛。第１論点。第２・３論点。計量心理学の役割と意義。観察と観測。観察と計測、数量化。不可視な心の可視化。観察、観測に内在する誤差と仮説検証の役割。個人差。個人内変動。自然科学での可視化の経緯。みたものに形を与える、量化と数値に意味。	西川　泰夫（放送大学教授）	西川　泰夫（放送大学教授） 沼野　元義（英知大学教授） 大澤　光（首都大学東京大学院教授）
2	計量心理学への道程	精神物理学的測定法と精神物理学的関数。ウエーバーの触２点弁別閾の測定。精神物理学的測定法。閾値の操作的定義。確率分布（ガウスの誤差分布、正規確率分布）。極限法。調整法。恒常法。ウエーバーの法則。フェヒナーの精神物理学。フェヒナーの対数法則。新精神物理学。スティーブンスのベキ法則。量推定法。	同　上	西川　泰夫（放送大学教授）
3	心理学的測定法、心理尺度論、数の構造。	心理学的測定法。心理尺度論。名義尺度、順序尺度、間隔尺度、比率尺度。数とは。数体系。自然数。整数。有理数。無理数。実数。虚数。複素数。演算子。数の論理関係構造。集合論。要素の間の関係構造。変換。写像。群論。群公理。	同　上	同　上
4	確率変数、確率分布。	確率変数、確率分布。測定に伴い変動する数。理論分布と抽出標本変数と度数分布。確率変数と確率分布。確率密度関数。確率の公理。確率の演算、加法、乗法。条件付け確率。（標準）正規確率分布。確率分布の系統図。正規確率分布の適応例（大数の法則、中心極限定理）。閾値の操作的定義、ϕ（γ）関数仮説。閾値の測定と計測値。絶対閾。刺激頂。弁別閾。	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	正規確率分布モデルの適応―サーストンの１対比較法、および信号検出理論―	正規確率分布モデルの適応例。みえざる判断過程のリバース・エンジニアリング。サーストンの１対比較法。刺激対象次元、内的評価次元、比較判断時限。サーストンの解法、ケースⅤ．論理的判断尺度の内的整合性の検討。信号検出理論。ミスとフォールス・アラーム。臨界点。ｄ‘、ｃ。ＲＯＣ曲線。補足。仮説検定法。帰無仮説。対立仮説。危険率。有意水準。棄却域。第１種の過誤。第２種の過誤。	同　上	同　上
6	Ⅱ計量心理学の基礎 測定の数理（１） ―確率変数と期待値―	ひとり心理測定によらず、あらゆる測定理論の基礎となる確率変数と、その期待値について学ぶ。特に当科目後段で扱うテストの信頼性や妥当性については、基本的にすべて、確率変数の期待値に関わる議論となるから、その特性や操作にはよく習熟しておく必要がある。講義予定項目は、離散型及び連続型確率変数、分布関数と確率密度、期待値と平均、確率変数の関数、線形変換、分散と標準偏差、和と差の確率変数、平均の加法性などである。	沼野　元義（英知大学教授）	沼野　元義（英知大学教授）
7	測定の数理（２） ―確率変数と独立性―	前回に引き続きまず、多くの測定が前提とする確率変数の独立性とその意味について概説した後、この独立性と不可分な関係にある事項について学ぶ。すなわち、測定の母集団と標本、母数と統計量、個人間変動の母集団、確率変数の積、相関と線型関係、相関と独立性、分散の加法定理などである。	同　上	同　上
8	測定の構造（１） ―真値と誤差―	測定の信頼性に関わる議論の基礎となる測定誤差の問題を中心として、物理測定との対比において、心理測定に固有な条件について検討する。取り上げる項目は、真値と誤差、誤差分散と標準誤差、中心極限定理、大数の法則、履歴効果、テストの信頼性、信頼性係数と相関の希釈化などである。	同　上	同　上
9	測定の構造（２） ―信頼性の評価―	前回までに学んだテストの信頼性に関する議論を踏まえて、信頼性の多様な評価法を、それぞれの理論的前提を基に展開する。具体的には、折半法とSpearman-Brown の公式、Cronbach のα係数、KR-20、ＫＲ-21、Guttman 係数、Rulon の公式、Flanagan の公式などである。	同　上	同　上
10	心理計量の現場 ―テスト臨床―	計量心理学が適用される最も重要で広汎な実践領域、すなわち心理テストについて、臨床の現場を探訪し、知能検査、投影法など、実際のテスト施行場面を見聞する。併せて心理テストにまつわる様々な現実問題について、第一線の臨床家から生の声を聴く。	同　上	同　上
11	Ⅲ計量心理学の応用 心理モデルのシミュレーション（１）	実験、モデル、シミュレーション。乱数のはなし。乱数を生成してみよう。シミュレーターを作ってみる。	大澤　光（首都大学東京大学院教授）	大澤　光（首都大学東京大学院教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	心理モデルのシミュレーション（2）	モンテカルロ法とはなにか。モンテカルロ法によるシミュレーション。ランダムウオーク。製品の普及プロセス。サイコロを振って計算する(モンテカルロ積分)。乱数を利用した遺伝的アルゴリズム。	同上	同上
13	印象の工学	印象とはどのようなものか。「印象の工学」という試み。「印象の測定」はどう進めればよいか。「印象の測定」の限界（1）。「印象の測定」の限界（2）。	同上	同上
14	主観的確率とベイズの理論	主観的確率。ベイズの定理とベイズ推定。ベイジアンフィルター。シンプソンのパラドックス。モンティー・ホール問題。マルコフ連鎖モンテカルロ法(MCMC)。	同上	同上
15	不確実性と意思決定	不確実であるとはどんなことであるか。期待値基準による判断。期待効用による判断。不確実性の回避、損失回避。	大澤　光（首都大学東京大学院教授）	西川　泰夫（放送大学教授） 沼野　元義（英知大学教授） 大澤　光（首都大学東京大学院教授）

＝　基礎発達心理学（‘０６）＝（Ｒ）

〔主任講師（現職名）：氏家　達夫（名古屋大学大学院教授）〕
〔主任講師（現職名）：陳　　省仁（北海道大学教授）　　〕

全体のねらい

本講義は、発達心理学の基礎理論や研究を概説した上で、さまざまな研究領域における現状や新たな展開、実践への応用を展望することを目的とする。発達心理学の広い研究領域をできるだけ幅広くカバーし、生涯発達的展望に立って講義を行う。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	発達心理学と関連領域	第１回の授業にあたって、この科目を担当する講師全員が、授業の概略や受講の視点などを解説する。後半は１回目の担当者が、発達心理学の歴史を紹介し、日本の心理学教育における心理学史や欧米心理学に対する批判的姿勢の欠如を指摘する。人間普遍的問題の外に、日本社会の人間発達の問題についての研究を独自の視点から展開する必要性を説く。	陳　省仁（北海道大学教授）	陳　省仁（北海道大学教授）
2	歴史・文化の中の発達	行動発達を歴史・文化の中で展開される現象と捉える。社会の変化や文化の違いが発達にどのような影響を及ぼすのかを考察する。文化心理学や民俗学、人類学の知見についても紹介する。	同上	同上
3	関係の中での発達	乳幼児の行動状態の調整者としての養育者との関係、親子の情動的コミュニケーション特に注視、共同注意、間主観性や自己感の発達を取り上げ、乳幼児期の心の発達における関係性の役割やその重要性を解説する。	同上	同上
4	遺伝子と行動発達	行動発達における遺伝子の役割を解説する。行動遺伝学の代表的な研究を紹介し、行動遺伝学の基本的考え方や手法を解説する。遺伝と経験がどのように相互作用して行動発達を生み出していくのかを考察する。	氏家　達夫（名古屋大学大学院教授）	氏家　達夫（名古屋大学大学院教授）
5	脳と行動発達	行動発達と脳の関係を、最近の脳科学の成果にもとづいて解説する。発達心理学と脳科学とのコラボレーションといえる研究をいくつか紹介する。「脳科学で発達の問題を解く」という幻想についてもふれる。	星　詳子（東京都精神医学総合研究所・リサーチ・ディレクター） 陳　省仁（北海道大学教授）	陳　省仁（北海道大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
6	比較行動学と発達	霊長類の研究にもとづいて、人間の思考やことば、社会行動の起源をさぐる。発達の比較行動学研究を紹介し、行動発達の生物学的基礎を解説する。進化心理学についてもふれる。	氏家　達夫（名古屋大学大学院教授）	氏家　達夫（名古屋大学大学院教授）
7	言語の発達	言語発達は生物学的基礎、認知的基礎、社会的基礎に支えられ、乳児期からの他者との相互関係の中で発達する。子どもがどのように語彙や構文を発達させ、会話や語りの世界に入っていくのかを学ぶ。	秦野　悦子（白百合女子大学教授）	秦野　悦子（白百合女子大学教授）
8	認知の発達	人間が育っていく中でどのように物事をとらえ、自分を取り巻く世界を知っていくのかを学ぶ。乳児期の情報選択、幼児期の未分化な思考から統合化された思考へ、また社会的認識の発達や心の理論について理解を深める。	同上	同上
9	情動の発達	情動の脳理論や機能主義的理論を紹介する。情動が他者とのコミュニケーションの中でいかに社会化されるかを解説する。情動制御の発達についての研究を紹介する。自己概念の発達と情動の関係についてもふれる。	氏家　達夫（名古屋大学大学院教授）	氏家　達夫（名古屋大学大学院教授）
10	パーソナリティの発達	パーソナリティの定義、自己概念の発達、自我同一性の発達という３つの観点から解説する。また、知能の構造、多重知能について取り上げる。さらに、自己理解の発達モデルや自己受容性、自我同一性の発達とアイデンティティ・ステイタスについて詳しく説明する。	二宮　克美（愛知学院大学教授）	二宮　克美（愛知学院大学教授）
11	社会性の発達	社会性の発達、道徳性の発達、向社会性の発達という３つの観点から解説する。社会性の発達と遊び、道徳性の発達に関するピアジェやコールバーグの理論、社会的領域理論などを説明する。また、向社会性（思いやり）の発達について共感性や罪悪感との関連をまじえて取り上げる。	同上	同上
12	対人関係の発達	親子関係、仲間関係、対人関係能力の発達という３つの観点から解説する。アタッチメント（愛着）、社会的参照、親の養育態度を取り上げる。また、仲間関係の働きや友人関係の発達、社会的スキル、社会的情報処理モデル、対人交渉方略について説明する。	二宮　克美（愛知学院大学教授）	二宮　克美（愛知学院大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
13	成人発達とエイジング	成人発達を捉える理論的枠組みを紹介する。老化の生物学的モデルを紹介する。加齢に伴って何が変化するのか、その変化に対して人々がどのように適応するのかを考察する。サクセスフル・エイジングについてもふれる。	氏家　達夫（名古屋大学大学院教授）	氏家　達夫（名古屋大学大学院教授）
14	発達障害と臨床発達	臨床発達とは何かについて理解を深めるとともに、発達障害についての最近の考え方を解説する。精神遅滞、広汎性発達障害、ADHDについての解説を行い、障害の種別や子どもの発達段階に応じた臨床発達のあり方について解説する。	秦野　悦子（白百合女子大学教授）	秦野　悦子（白百合女子大学教授）
15	発達の病理と可塑性	不適応や精神病理を発達的に捉える視点を提供する。疫学的研究や縦断研究の実例を紹介し、病理の発達プロセスについての研究法を解説する。リスクとレジリアンス、防御要因についてもふれる。	氏家　達夫（名古屋大学大学院教授）	氏家　達夫（名古屋大学大学院教授）

＝　応用心理学（‘０５）＝（TV）

〔主任講師：　神作　博　（中京大学非常勤講師）〕

全体のねらい

臨床心理学・相談心理学・教育心理学・人間工学・看護・被服等他の科目で既に開講されているものを除いた応用心理学のうちから、生活に直結した主要なテーマを選び、その内容、現在のトピックス、応用心理学的にみた問題点などを解説し、受講生の視野の拡大と知見の充実に資する。
（特に、産業心理学、交通心理学については現今の生活の動きを考慮し、重視した。）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	応用心理学総論1	1　応用心理学とは 2　応用心理学の歴史 3　応用心理学の分野 4　応用心理学の社会的貢献	神作　博（中京大学非常勤講師）	神作　博（中京大学非常勤講師） 星　薫（放送大学准教授）
2	応用心理学総論2	1　この科目で扱う応用心理学の範囲 2　他の諸科目との関連 3　この科目の狙いと特徴 4　本章の内容	同　上	同　上
3	産業活動に関する心理学1	1　産業心理学の誕生と展開 2　作業研究の方法 3　動作分析 4　作業パフォーマンスの評価	向井　希宏（中京大学教授）	向井　希宏（中京大学教授） 星　薫
4	産業活動に関する心理学2	1　現代社会における生産と産業活動 2　組織における人間行動 3　職場集団の形成 4　快適な作業環境を求めて	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	日常行動と消費に関する心理学	1 現代社会と人間行動 2 人間と道具 3 欲求と人間行動 4 消費者行動の心理的メカニズム	向井 希宏	向井 希宏 星 薫
6	安全に関する心理学	1 事故防止と安全 2 事故生起の現状 3 人的要因事故 4 安全対策	神作 博	神作 博 星 薫
7	交通に関する心理	1 交通安全とは 2 交通心理学の歴史 3 交通状況の構成要因 4 運転行動・走行 5 運転行動モデル 6 運転者・歩行者の不安全特性 7 交通心理学における諸検討の方法 8 望ましい運転者像 9 事故多発運転者	同 上	同 上
8	交通に関する心理学2―交通事故の追究および人的要因事故―	1 交通事故の発生 2 交通事故の発生状況 3 人的要因事故の現況 4 人的要因事故の特徴 5 人的要因事故発生状況の具体例 6 人的要因事故の諸要因 7 事故の直接要因と間接要因	同 上	同 上
9	交通に関する心理学3―安全対策―	1 特性管理と助言指導 2 組織・職場へのアプローチ 3 安全教育 4 シミュレータ・トレーナなどの機器による体験・教育・訓練 5 人間工学的安全対策 6 環境の安全対策 7 運転者の心理的対策 8 法的強制・規制 9 交通文化の構築	同 上	同 上
10	生活に関する心理	1 職場・住環境に関するもの 2 建物内外の色彩の活用 3 チェックリストによるアセスメント 4 生活ネットワーク作り 5 心豊かな生活	同 上	同 上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
11	生活支援に関する心理学	1 自立支援 2 介護・看護 3 生活支援に関係する人材育成の主眼点 4 社会における生活支援態勢の諸問題	神作 博	神作 博 星 薫
12	生活の安全・保証に関する心理学	1 犯罪不安の心理 2 緊急事態における心理と行動 3 防犯に関する心理学 4 災害に対する心理学	同 上	同 上
13	環境に関する心理学1	1 環境と人間 2 作業環境のあり方 3 生活環境のあり方 4 景観 5 地下の環境 6 宇宙における環境	同 上	同 上
14	環境に関する心理学2―色彩・照明心理学―	1 照明環境と人間行動・心理 2 照明と色彩の関係 3 照明の明視性に及ぼす環境 4 色彩環境と人間行動・心理 5 色彩の機能	同 上	同 上
15	まとめ	1 再び応用心理学について 2 時系列的に見た応用心理学 3 人間中心の応用科学としての応用心理学 4 本講座をふりかえって	同 上	同 上

＝　神経心理学（‘０６）＝（Ｒ）

〔主任講師（現職名）：八木　文雄（高知大学教授）〕

全体のねらい

神経心理学，あるいは認知・行動神経科学の領域においてこれまでに得られている，健常者および脳損傷者を対象とした基礎的・臨床的事実にもとづき，ヒトの日常生活における種々の行為をその背後で支えている，言語，認知，記憶などの高次機能を支配する大脳皮質連合野の神経機構，およびそれらの機能にもとづく種々の行為を支配する随意運動制御の中枢機構に関する最新の知識の獲得を目指す。そして次の段階では，こうした高次機能の形成・獲得・変容を支える可塑的神経機構に関する理解を深め，高次機能の形成・獲得・変容，脳損傷後におけるその再獲得，および発達過程におけるそのつまづきなどの支援について，学習者がその具体的な方策を自分自身の力で構築することができるようになるために不可欠となる，自己課題設定・自己問題解決能力の育成・獲得を目指す。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	大脳皮質における機能局在	大脳皮質における機能局在が科学的事実として明らかにされるに至った歴史的背景，および最近のブレインイメージング法による脳機能解析の現状について講述する。 １．言語野の発見　２．ジャクソンてんかん ３．てんかん患者における大脳皮質刺激実験 ４．ブレインイメージング法による脳機能局在の解析	八木　文雄（高知大学教授）	八木　文雄（高知大学教授）
2	大脳皮質連合野の構造と機能	高次神経機能を支配する大脳皮質連合野の定義，区分，機能的特性，およびその損傷により出現する基本的な高次機能障害の特徴について講述する。 １．大脳皮質の発生形態学的分類　２．大脳皮質連合野の高次神経機能　３．大脳皮質連合野の区分	同上	同上
3	頭頂連合野の高次神経機能（1）	頭頂連合野に損傷を受けた場合に出現する主な高次機能障害を取り上げることにより，頭頂連合野が担う第一の機能としての空間認知機能について論議する。 １．視空間認知障害　２．２つの視覚系	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	頭頂連合野の高次神経機能 (2)	頭頂連合野に損傷を受けた場合に出現する高次機能障害の特徴にもとづき，空間認知機能の半球間左右差について論議する。 1．左半側空間無視　2．方向性注意の神経機構 3．方向性注意の大脳半球間左右差	同上	同上
5	頭頂連合野の高次神経機能 (3)	頭頂連合野が担う高次神経機能が，頭頂連合野のどのようなニューロン活動により達成されるのかを，種々の課題遂行中のサルにおいてこれまでに得られている実験的事実にもとづいて考えてみる。 1．視覚性随意運動制御モデル　2．体性感覚情報処理ニューロン　3．空間的視覚情報処理ニューロン　4．異種感覚モダリティ情報統合ニューロン	同上	同上
6	頭頂連合野の高次神経機能 (4)	頭頂連合野が担う第二の機能としての視覚性随意運動制御機能について，脳損傷の事例から論議する。 1．到達運動障害　2．操作運動障害　3．腹側視覚情報伝達系損傷事例 D.F.　4．背側視覚情報系損傷事例 R.V.　5．新２つの視覚系	同上	同上
7	頭頂連合野の高次神経機能 (5)	頭頂連合野における視覚性随意運動制御機能の神経機構について講述する。 1．到達運動関連ニューロン　2．３次元的視覚対象の認知に関連するニューロン　3．操作運動関連ニューロン　4．到達運動と操作運動の視覚性制御機構	同上	同上
8	頭頂連合野の高次神経機能 (6)	ブレインイメージング法による頭頂連合野の機能解析について講述する。 1．PET による脳機能解析　2．ヒトにおける手の運動の視覚性制御　3．手の視覚性運動制御における左半球優位性　4．線分の視知覚における右半球優位性　5．頭頂連合野における半球間機能差の PET による解析	同上	同上
9	高次運動野の運動制御機能 (1)	運動前野における随意運動制御機能について，脳損傷の事例から論議する。 1．ヒトにおける把握運動制御機構　2．運動前野損傷による運動制御機能障害	同上	同上
10	高次運動野の運動制御機構 (2)	運動前野および補足運動野における随意運動制御機構について，ニューロン活動の側面から論議する。 1．運動前野の運動選択機能　2．Canonical-Neuron System　3．Mirror-Neuron System　4．補足運動野の運動制御機能	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
11	側頭連合野の高次神経機能 (1)	側頭連合野が担う第一の機能としての形態認知機能について，脳損傷事例とニューロン活動の側面から論議する。 1．形態認知機能障害　2．下部側頭葉のニューロン活動　3．おばあさん細胞仮説　4．パターン表現仮説	同上	同上
12	側頭連合野の高次神経機能 (2)	ヒトの腹側視覚路における対象認知の神経機構について，ブレインイメージング法による解析，および損傷による機能障害の側面から論議する。 1．ヒトの腹側視覚路における対象認知関連領域　2．紡錘状回顔領域の高次神経機能　3．海馬傍回場所領域の高次神経機能	同上	同上
13	側頭連合野の高次神経機能 (3)	上側頭溝領域における社会的認知機能について，ブレインイメージング法による解析，および自閉症患者における機能障害の側面から論議する。 1．社会的知覚　2．道徳的判断に関連する脳領域　3．心の理論　4．自閉症児は心の理論をもつか　5．心の理論に関連する脳領域	同上	同上
14	側頭連合野の高次神経機能 (4)	側頭連合野が担う第二の機能としての長期記憶機能について，脳損傷事例とニューロン活動の側面から論議する。 1．両側側頭葉内側部切除事例 H.M.　2．両側海馬 CA1 領域損傷事例 R.B.　3．てんかん患者における側頭葉皮質刺激実験　4．両側 TE 野破壊サルにおける同時的複式物体弁別学習　5．視覚的再認記憶の神経回路モデル　6．視覚性記憶の神経機構	同上	同上
15	前頭連合野の高次神経機能	前頭連合野に損傷を受けた代表的事例における高次機能障害，および前頭連合野のニューロン活動から，前頭連合野が担う高次神経機能について考えてみる。 1．前頭連合野損傷症例における高次機能障害　2．前頭連合野損傷による高次機能障害の神経心理学的検索　3．ワーキングメモリの神経機構　4．前頭連合野ニューロンの機能的可塑性　5．最高次中枢としての前頭連合野　6．中枢神経系の可塑性と補償作用（今後の展望）	同上	同上

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	専門科目	科目コード	1628615	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝ 感情の心理学（‘07）＝（R）

〔主任講師（現職名）：高橋 惠子（聖心女子大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：河合 優年（武庫川女子大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：仲 真紀子（北海道大学大学院教授）〕

講義概要

感情には喜怒哀楽から恥や罪，プライドなどまでさまざまな種類がある．感情は文化を超えて人間に共通なものもあれば，感じ方やその表現において，文化に固有なものもある．感情は人間の適応にとって不可欠である．とっさの感情の判断が命を救うこともあり，学習を動機付けたり，人々を結び付けたりもする．この講義では，このような感情を心理学だけではなく，脳神経科学や生物学，医学などの近接領域の成果をも援用しながら，理解していく．

授業の目標

感情をとおして人間の理解を深めてほしい．古今東西，哲学，芸術，思索の対象であった感情が科学的に解明され始めたのは1980年代である．この講義では感情の心理学の最先端の知見を紹介し，この新しい研究領域への知的関心を高めることをねらいとしている．各章では引用文献，参考文献をあげているので，原著にあたってさらに知識を広げてほしい．

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	感情の心理学とは	感情の心理学は何を扱うかについて概観する．感情とはなにか．感情と認知の関連，感情の心理学の研究史にもふれながら，研究の課題を述べる．	高橋惠子（聖心女子大学教授）	高橋惠子（聖心女子大学教授）
2	感情の起源	感情がどのような生理的機能によって生じるか,その生物学的な起源について考える．感情の生物学的な適応力についても述べる．	河合優年（武庫川女子大学教授）	河合優年（武庫川女子大学教授）
3	感情の神経心理学	感情の処理に関与する扁桃体や前頭葉などの脳内メカニズムについて述べる．	大平英樹（名古屋大学大学院准教授）	大平英樹（名古屋大学大学院准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	乳児の感情	発達初期の感情表出について行動レベルから考える．人間の感情は快と不快という生存にとって基本的な情報の表出から始まるとされる．乳児の泣き声でこれが区別できるかなど，発達初期の感情について述べる．	河合優年（武庫川女子大学教授）	河合優年（武庫川女子大学教授） ゲスト： 山本初実（三重中央医療センター部長）
5	表情	表情の認知や表出における発達差、文化差などをもとに，いわゆる基本情動に関する論争の現状について述べる．	山田寛（日本大学教授）	山田寛（日本大学教授）
6	感情と記憶	感情と記憶をめぐり実験室内で行われてきた知見を中心に，感情の強さや種類と記憶との関係や，感情が伴う自伝的記憶について述べる．	仲真紀子（北海道大学大学院教授）	仲真紀子（北海道大学大学院教授）
7	目撃証言と感情	目撃記憶の信頼性に及ぼす感情の影響を中心に，証言時の感情の問題や，証言の信頼性を高めるための心理的配慮について述べる．	仲真紀子（北海道大学大学院教授）	仲真紀子（北海道大学大学院教授）
8	感情と心の理論	心の理論における感情の問題をめぐる，理論と実証的研究について述べる．	内藤美加（上越教育大学准教授）	内藤美加（上越教育大学准教授）
9	感情の理解の発達	感情についての理解の発達は、生得的な基盤のうえに、他者との感情のやりとりの経験に導かれ、対象について分析する力とともに展開していくプロセスであることを述べる。	久保ゆかり（東洋大学教授）	久保ゆかり（東洋大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
10	感情と自己	自己がいかに感情とかかわるかを，自己意識感情の発生，発達についての研究を紹介しながら述べる.	高橋惠子（聖心女子大学教授）	高橋惠子（聖心女子大学教授）
11	感情と人間関係	人間には他者と結びつきたいという感情が備わっている．そして，人間はソーシャル・ネットワークと呼ばれるような，人間関係の表象を持つようになる．それがどのような過程であるかを述べる.	高橋惠子（聖心女子大学教授）	高橋惠子（聖心女子大学教授）
12	感情と文化	生得的に準備されている感情の機構が，文化や社会という環境要因によってどのような影響を受けるかについて述べる.	河合優年（武庫川女子大学教授）	河合優年（武庫川女子大学教授）
13	感情と音楽	癒しの音楽というジャンルが定着してきた．音楽を聴くことによってストレスを解消できるのか．実際に音楽を聴きながらその仕組みなどについて述べる.	河合優年（武庫川女子大学教授）	河合優年（武庫川女子大学教授） ゲスト：マイケル ディスタシオ（NPO）
14	感情と家族内暴力	社会的背景とも関連づけながら、ドメスティック・バイオレンスと子ども虐待事例にみられる感情とその意味や機能について述べる.	内藤和美（群馬パース大学教授）	内藤和美（群馬パース大学教授）
15	「感情の心理学」の現在と課題	「感情の心理学研究」の現在について概観し、これからの課題について述べる.	高橋　惠子 河合　優年 仲　真紀子	高橋　惠子 河合　優年 仲　真紀子

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	専門科目	科目コード	1520709	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 記憶の心理学 （’０８）＝ （ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：太田　信夫（放送大学教授）　〕

講義概要

人間の記憶に関する心理学の知見を基に、講義内容を組み立てる。ここでいう記憶とは、経験や出来事、あるいは知識やイメージなど、常識的意味での記憶のみならず、私たちが生まれてからこのかた、経験により獲得してきたすべての知識や技能をさす。すなわち、話したり、歩いたり、服を着たりする日常的行動は、本人は意識してはいないけれども、学習したことを記憶しているからできるのである。このようなさまざまな記憶に関する研究において、今日まで解明されてきた多くの知見のうち、基本的事項をわかりやすく講義する。記憶のメカニズムやその理論、あるいは現代社会の諸問題に直結する応用的研究などについて、データを示しながら講義を進める。

授業の目標

人間の記憶に関する心理学の基本的知見を習得し、私たちの日常的行動や認知活動（頭の働き）における記憶の重要性を理解することを目標とする。また、記憶の心理学における実証的研究法の基本についても、理解できるようになることを、本授業の目標としている。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	記憶の不思議	記憶には、常識的に考えるものだけでなく、さまざまな記憶があること、その記憶には個人差が存在することを通して、記憶の不思議に言及する。また、記憶の心理学の基本的枠組みとして、2貯蔵庫モデルについて解説する。 【キーワード】 種々の記憶、2貯蔵庫モデル、記憶力、短期記憶、長期記憶	太田信夫（放送大学教授）	太田信夫（放送大学教授）
2	記憶のプロセス	プロセスを符号化、貯蔵、検索の3つの段階に分け、それぞれのプロセスで起きている認知活動（情報処理）と、それに影響を与えている諸要因について、説明をする。後半は、符号化特定性について、実験例を紹介しながら、解説をする。 【キーワード】 符号化、貯蔵、検索、符号化特定性、転移適切処理	太田信夫（放送大学教授）	太田信夫（放送大学教授）
3	ワーキングメモリ	ワーキングメモリのモデルにおける中央実行系や音韻ループ等の特徴と短期記憶との差異点を解説する。また、ワーキングメモリを測定するリーディングスパンテストや、日常生活におけるワーキングメモリの役割についても言及する。 【キーワード】 ワーキングメモリ、ワーキングメモリのモデル、リーディングスパンテスト、処理資源	豊田弘司（奈良教育大学教授）	豊田弘司（奈良教育大学教授） 太田信夫（放送大学教授）
4	記憶の測定 －再生と再認－	再生と再認のテストの手続きや、データの処理について説明する。次にいくつかの再認理論を、取り出し理論と生成理論に分けて紹介する。また再生理論についても、両理論に分け、意味ネットワーク理論やミネルバ2などについて解説する。 【キーワード】 再生、再認、信号検出理論、強度理論、意味ネットワーク理論、ミネルバ2、取り出し理論、生成理論	寺澤孝文（岡山大学准教授）	寺澤孝文（岡山大学准教授） 太田信夫（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	エピソード記憶と意味記憶	エピソード記憶と意味記憶の特質に関する理論やモデルを解説する。また、エピソード記憶を規定する符号化特定性原理や処理水準、意味記憶における活性化拡散とそれを具体的に示したプライミング効果等について言及する。 【キーワード】 処理水準、符号化特定性、活性化拡散モデル、プライミング	豊田弘司（奈良教育大学教授）	豊田弘司（奈良教育大学教授） 太田信夫（放送大学教授）
6	潜在記憶と顕在記憶	顕在記憶と対比しながら、潜在記憶を中心に講義する。潜在記憶を測定する直接プライミングの実験について解説し、直接プライミングの諸特徴について、実験例を示しながら説明する。最後に、潜在記憶の理論を紹介する。 【キーワード】 潜在記憶、顕在記憶、直接プライミング、複数記憶システム、単語完成テスト	太田信夫（放送大学教授）	太田信夫（放送大学教授）
7	非言語情報の記憶	人間の記憶には、聴覚、味覚、空間、運動の記憶のように、「ことばの記憶」以外の記憶も存在する。そうした非言語的記憶の存在を知る実験を紹介しつつ、こうした非言語的記憶が言語的記憶とどのような相互作用をしているかを示す。 【キーワード】 感覚モダリティ、二重符号化仮説、空間的記憶と視覚的記憶、運動の記憶、言語隠蔽効果	原田悦子（法政大学教授）	原田悦子（法政大学教授） 太田信夫（放送大学教授）
8	学習と記憶	学習と記憶の関係について解説し、日々の学習や体験が、語彙習得や人間の理解・思考に与える影響を紹介する。また、ドリル学習の積み重ねを、個別にフィードバックする実践事例を踏まえ、記憶研究が教育に果たす役割に言及する。 【キーワード】 潜在記憶、非宣言的記憶、理解、個別学習支援、E－ラーニング	寺澤孝文（岡山大学准教授）	寺澤孝文（岡山大学准教授） 太田信夫（放送大学教授）
9	自己と記憶	記憶という認知活動において、自己がどのように関わっているのかを、記憶における自己の特殊性、自己にとっての記憶の重要性、という二つの側面から解説する。記憶はアイデンティティーを形成し、保つために、必要不可欠である。 【キーワード】 自伝的記憶、自己参照効果、アイデンティティー、偽記憶	伊東裕司（慶応義塾大学教授）	伊東裕司（慶応義塾大学教授） 太田信夫（放送大学教授）
10	日常記憶	私たちが日常用いている記憶は、従来実験室で研究されてきた記憶とは、異なったものである場合が多い。近年、記憶研究者たちは、さまざまな工夫をして日常記憶に迫っているが、そのようないくつかの記憶について説明する。 【キーワード】 展望記憶、ソースメモリ、記憶補助、記憶の更新、目撃証言	伊東裕司（慶応義塾大学教授）	伊東裕司（慶応義塾大学教授） 太田信夫（放送大学教授）
11	記憶と感情	記憶と感情の関連について、感情が記憶に与える影響、記憶による感情のコントロール、という二つの側面から解説する。感情研究の方法、実験的に得られる記憶と感情の相互作用を示す現象を中心に検討を行う。 【キーワード】 気分、情動的ストレス、気分状態依存、気分一致効果、気分不一致効果	伊東裕司（慶応義塾大学教授）	伊東裕司（慶応義塾大学教授） 太田信夫（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	人物の記憶	人物の記憶を成立させるさまざまな要素の記憶の中から、ここでは特に、顔、名前、性格特性、行動の記憶に焦点をあて、理論やデータを示しながら、いくつかの基本的内容を解説する。 【キーワード】 顔の記憶、名前の忘却、顔認識モデル、対人認知、ネットワークモデル	森津太子(甲南女子大学准教授)	森津太子(甲南女子大学准教授) 太田信夫(放送大学教授)
13	記憶の生涯発達	人が生まれてから死ぬまでの生涯発達において、記憶の量や質、記憶方略及びメタ記憶が年齢と共にどのように変化するのか、そして、これらの要因が記憶成績に及ぼす影響について、データに基づいて講義する。 【キーワード】 生涯発達、記憶の発生、メタ記憶、記憶方略、高齢者の記憶	豊田弘司(奈良教育大学教授)	豊田弘司(奈良教育大学教授) 太田信夫(放送大学教授)
14	現代社会における記憶の問題	社会の高齢化、情報化、高密度化が進むなか、人にとっての記憶負担は大きくなってきている。一方、情報技術を用いた記憶支援の可能性も開かれてきている。こうした現代社会において、人の記憶とそれを取り巻く社会との関係についてた多角的に考える。 【キーワード】 高齢化社会、情報化、活動の高密度化、記憶支援、思い出	原田悦子(法政大学教授)	原田悦子(法政大学教授) 太田信夫(放送大学教授)
15	記憶研究の大切さ、難しさ、面白さ	本講義のまとめとして、記憶研究の観点から、その歴史について、ず解説する。次に、研究の難しさ、面白さなどについて、一方では実験的研究の立場から、他方ではフィールド研究(応用研究)の立場から、今後の動向も含め、説明をする。 【キーワード】 記憶研究、研究の歴史、実験、フィールド、応用、エビングハウス	太田信夫(放送大学教授) 伊東裕司(慶應義塾大学教授) 原田悦子(法政大学教授)	太田信夫(放送大学教授) 伊東裕司(慶應義塾大学教授) 原田悦子(法政大学教授)

＝ 子ども・青年の生活と発達（‘０６）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：藤崎　春代（昭和女子大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：武内　　清（上智大学教授）　　〕

全体のねらい

近年、子ども・青年のかかえる問題状況への関心が高まっている。保護者や教育関係者をはじめ大人全体が，子ども・青年をどう捉えればよいのか，どうかかわればよいのか，当惑している。そして、捉える枠組みの提供，かかわり方への示唆を求めて，心理学への関心・期待が急速に高まっている。こうした状況の中で，本番組では，HOW　TO の提供ではなく，改めて現代に生きる子ども・青年の生活を丁寧にとらえなおし，生活とかかわらせて発達を検討していくことを目指す。生活からとらえなおすということは、こころを個人の中だけで検討するのではなく，社会の中で生きている存在としてとらえることを意味する。本講義の第１の特徴は，心理学のみでなく，社会学特に教育社会学の視点も含みこみつつ、発達を考えることである。一方で、生活への注目は，人は生物学的存在でもあることに気付かせてくれる。系統発達的な視点，身体への注目なども含みこむのが第２の特徴である。講義を通して，周囲の子ども・青年の様子を丁寧に見、検討するきっかけとしてほしい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	生涯発達の中の子ども・青年期	発達という概念は，従来，子ども・青年期にのみ当てはめられてきていた。しかし、考えてみれば、子ども・青年期に人生のすべての事柄に対処できる準備が整うはずはなく、大人も，日々発達していかなければならないし、現に発達していることに気付く。生涯発達という視点からは，子ども・青年期はどのように位置付けられるのかを整理する。その上で，講義全体の内容・ねらいについてのガイダンスを行う。	藤崎　春代（昭和女子大学教授）	藤崎　春代（昭和女子大学教授）
2	動物の子どもと親子関係	ヒト以外の動物でも誕生から成体になるまでに、発達のための子ども期がある。ここでは、動物の子どもたちが、どのように親を識別し，仲間関係を築き、生息環境について学び，繁殖のために準備するかを説明する。	長谷川寿一（東京大学教授）	長谷川寿一（東京大学教授）
3	子どもが生まれるということ	子どもは，生物学的存在として誕生するとともに，親世代のさまざまな思いの中に誕生する。子どもが生まれるということは、かつてどのようにとらえられてきたのか，そして、現在とらえられているのかに注目する。	藤崎　春代（昭和女子大学教授）	藤崎　春代（昭和女子大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	母子関係・父子関係	母子関係は家族に関する研究の中心的テーマであるが、母親とは異なる身体的特徴や社会的役割を持つ父親もまた、子どもの発達に大きな影響を与えていることが明らかになっている。親子で遊ぶ様子や子育てインタビューのビデオを通して、以上の点について講義を進めていく。	新谷　和代(帝京大学助教)	新谷　和代(帝京大学助教)
5	社会への第一歩としての入園	家庭で，基本的な生活の成り立ちを身につけた子どもは，園というもう一つの生活の場を持ち始める。保護者も保育者も友達同士の楽しい関わり合いを園生活に期待するが，入園とは、親子共にとって不安なことでもある。園生活を開始する子どもの様子，それを支える保護者の様子から、社会への第一歩としての入園を検討する。	藤崎　春代(昭和女子大学教授)	藤崎　春代(昭和女子大学教授)
6	乳幼児の遊び	放っておいても，子どもは勝手に遊ぶと考える人は多い。しかし、保育の場では，遊べない子どものことが問題視されるし，乳幼児とどうやって遊べばよいのかと悩む保護者も多い。乳幼児の遊びを検討しつつ，遊びの意義や大人のかかわりについて考える。	同　上	同　上
7	友達関係	子ども・青年にとって，友達の存在は大きい。しかし、かかわりは最初からうまくいくわけではなく，乳幼児期から多くのいざこざを経験する。いざこざの中で何が起きているのかを検討しつつ、友達関係の発達を捉える。また、友達の存在と一口にいっても，その中身はさまざまなものが考えられる。個人と他者（集団）とのあり方も整理したい。	同　上	同　上
8	子どもの学校生活	子どもの生活の中心が家庭から学校に移行するのは、小・中学生の時期である。家庭と学校では、そこで働く原理が大きく違う。家庭とは違う学校という場に子どもはどのように適応し、何を学び、どのような成長をとげているのであろうか。子どもの学校への適応、学力形成、人間形成に焦点をあて、さらに校外生活や家庭生活との関連も考察参照しながら、小中学生の時期の生活と発達を考える。	武内　清(上智大学教授)	武内　清(上智大学教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
9	子どもの生活と遊びの歴史	戦後の子どもの生活史を中心に生活と遊びのウオッチングを行いたい。生活のリズムを１５年周期に捉え「遊び」「お手伝い」「勉強」がどのように変化していくか追っていく。そして今日的な放課後の世界はどうなっているかも合わせて子どもの姿を追う。なぜ子どもの放課後が失われ、それに対してどのような改革がなされているか映像を使って説明する。たとえば、通学合宿、シングルマザーの親子キャンプ、横浜のキッズクラブの姿を紹介する。	明石　要一(千葉大学教授	明石　要一(千葉大学教授)
10	高校生の生活とアイデンティティ	高校生の時期の生活と発達について考察する。高校生の生活をみると、勉強だけでなく、学校行事、部活動、友人関係と活動範囲は広がっている。心理的にも悩み、成長する時期である。同時に、自分とは何かというアイデンティティの探索や将来の進路を考える時期でもある。 高校生の学校生活を中心に、高校生の実際の生活の様子を映像でみると同時にさまざまな調査データからもみていく。	武内　清(上智大学教授)	武内　清(上智大学教授)
11	青年期の恋愛	現代では、恋愛を経験した上で配偶者選択に至るケースが多い。しかしながら、コミュニケーションの得手不得手や仕事との時間のやりくりの困難から、恋愛を経験しない（できない）20 代の青年たちも存在する。この回では、「大学生」の恋愛に関する意識や実態を、大学入学前の年代や社会人と比較していく。高校まではおもに調査データを使用し、社会人については複数の当事者の声などによって実態を捉えるとともに、恋愛しない（できない）青年の実情についても、インタビューによって把握する。	河野　銀子(山形大学准教授)	河野　銀子(山形大学准教授)
12	身体・ファッション	身体やファッションへの関心は、アイデンティティの確立と共に高まると考えられる。一方で、高校までの学校教育は、児童・生徒の「おしゃれ」などへの過度な関心や実践を規制する傾向がある。自己表現と統制の間で、どのようにして子どもや青少年が身体やファッションへの関心をもち、実践しているのか、考察する。女子学生を主たる読者層とする雑誌や、ジュニア向けコスメなどの実態も参考にしながら分析する。	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
13	キャンパスライフ	大学進学率は5割近くなり、青年の多くが青年期を大学で過ごすようになっている。授業、サークル活動、アルバイト、交際、趣味活動などの大学生の生活（キャンパスライフ）は、青年文化の主要な担い手になる。キャンパスライフの実際を、映像とデータから示し、大学教育や社会の文化と青年とのかかわりを考察する。	武内　清(上智大学教授)	武内　清(上智大学教授)
14	青年文化の変容	ここ40年間ほどの青年文化の変化を、対抗・消費・自己という視点でおさえつつ、現代の青年たちの意識と行動を自他関係・メディア・社会観などから考察する。	藤村　正之(上智大学教授)	藤村　正之(上智大学教授)
15	青年期の社会的成長、自立（まとめ）	これまでの、子ども・青年の生活と成長に関する講義の要点をまとめる。青少年自身が、自立・成長するために何をなすべきかを考える。また、教育機関や子ども・青年にかかわる大人達は、どのような支援をすればいいのかを考察する。	武内　清(上智大学教授)	武内　清(上智大学教授)

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	専門科目	科目コード	1520300	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 教育の社会史 （’０８）＝ （R）

〔主任講師（現職名）：辻本　雅史（京都大学教授）〕

講義概要

現代の教育の問題群に、歴史学の方法によるアプローチをこころみる。そのために、学校に収斂させるのではなく、社会に埋め込まれた人間形成のあり方に視点をすえて「教育の社会史」を描く。おもに17世紀以後の日本の教育史をたどるが、なかでも知を伝達するメディア、身体や時間の近代化、試験の歴史、教育におけるジェンダー、移民社会にみる異文化教育の特質など、高度情報化とグローバル化を見通した主題に留意する。

授業の目標

近代は「学校教育の時代」であったが、今や「学校困難の時代」であるかに見える。歴史の側に視点をすえて、過去からのまなざしによって、今の教育の諸問題を考察してみたい。それは結局、近代学校教育が抱え込んだ歴史的特質を浮き彫りにすることになる。総じて日本教育を、歴史の視点からトータルに理解し、今後の展望を考えようとする学習者に、有益となることをめざしている。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	「文字社会」の成立まで―古代・中世から近世へ―	まず歴史の視点から教育を考える意義を示す。次いで文字が生活の中に組み込まれた17世紀「文字社会」の成立を、日本の教育史を二分する画期ととらえ、そこに至る古代・中世の文字学習の歴史を概観する。さらに近世「文字社会」の要因とその特質を探ることで、近世の教育文化の諸相を明らかにする。 【キーワード】 文字社会、文字文化の共通化、書札礼	辻本　雅史（京都大学教授）	辻本　雅史（京都大学教授）
2	日本の近世社会の人間形成	近世社会における、人間形成の在り方について講ずる。日本においては、村を中心とした地域社会が基本的な共同体となった。子どもが一人前になる過程は、すなわち、この地域社会に参画する過程でもあった。また近世社会においては、「小さな家」が民衆レベルで確立し、そのもとで子どもを育てていくことが常態化していった。地域社会と「小さな家」における人間形成について考える。 【キーワード】 村　地域社会　小さな家　子育て　人間形成	八鍬　友広（新潟大学准教授）	八鍬　友広（新潟大学准教授）
3	文字を学ぶ人々	近世日本における民衆の文字学びについて講ずる。近世は、日本の歴史の中で、文字学習が広く社会に普及することになる時代でもある。また出版も盛んになり、ものを書き本を読むということが、人々の間に広く普及した時代でもあった。人々がどのようにして文字を学んでいたのか、またどれぐらいの人が文字を読むことをしたのかなどについて講ずる。 【キーワード】 文字学び　リテラシー　寺子屋　出版	八鍬　友広（新潟大学准教授）	八鍬　友広（新潟大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	17世紀日本の「メディア革命」と教育	17世紀日本で、民衆層が不可欠のメディアとして文字を受容し、商業大量出版が始まったことは、一種の「メディア革命」と見なされる。メディア革命は、文字文化の共通化と知の商品化をもたらし、学習テキストや日本の「古典」を成立させ、近世人の「教養」を形作った。近世の教育をメディアの視点からとらえることで、近世人の学びの諸相を考える。 【キーワード】 メディア革命、出版書肆、学習テキスト、知の商品化	辻本　雅史（京都大学教授）	辻本　雅史（京都大学教授）
5	学びの文化とその思想―貝原益軒から考える―	「教え」よりも「学び」に視点をすえた「学びの文化」の源流を近世に探る。手習いと儒学の、身体を介した学びの原理に、近世教育の文化的特質を見いだし、それを貝原益軒の『和俗童子訓』の言説によって確認する。それと対比的に、近代学校の学習や教育の特質が明らかになるであろう。 【キーワード】 『和俗童子訓』、貝原益軒、素読、身体知	辻本　雅史（京都大学教授）	辻本　雅史（京都大学教授）
6	民衆教化とそのメディア	18世紀以後、社会の動揺を前に、「政治」が「教育」を「発見」していった過程と、民衆の自己教育による困難克服の諸相を、とくに教化メディアの視点から探り、近代日本との関わりを展望する。 【キーワード】 関谷学校、『六諭衍義大意』、寛政異学の禁、石門心学	辻本　雅史（京都大学教授）	辻本　雅史（京都大学教授）
7	近代学校の身体と時間	近代学校がもとめる「近代的」な身体と時間の規律について考える。なぜ、日本の学校は隊列を組んだ「行進」を重視したのか。さらに時間割、運動会、学校儀式などについて考える。 【キーワード】 教場指示法、行進、運動会	森川　輝紀（埼玉大学教授）	森川　輝紀（埼玉大学教授）
8	教育をめぐる自由と統制	国民教育の確立をめぐる自由(自治)主義と統制主義について考える。田中不二麿、森有礼の教育論、教科書の国定化、大正自由教育などについて、考える。 【キーワード】 森有礼、国定教科書、大正自由教育	森川　輝紀（埼玉大学教授）	森川　輝紀（埼玉大学教授）
9	出席と進級の社会史	日本の近代学校は、試験進級制=等級制を編成原理として出発した。それが、なぜ出席主義に変容したのかを考える。なかでも試験と考査、課程主義と年齢主義とは何か、となどの問題について考察する。 【キーワード】 等級制、課程主義、考査	森川　輝紀（埼玉大学教授）	森川　輝紀（埼玉大学教授）
10	近代学校の表徴	擬似洋風学校、御真影、教育勅語、二宮金次郎、日の丸など、近代学校を表徴することがらについて考える。表徴の意味を検討することによって、近代学校の諸特質が明らかになるに違いない。 【キーワード】 教育勅語、御真影、二宮金次郎	森川　輝紀（埼玉大学教授）	森川　輝紀（埼玉大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	教育の近代化とジェンダー	近代日本における教育という営みが、性別カテゴリーによってどのように差異化されているのか、それが階層性を伴いつつ、どのような関係性として構築されていたのかについて考える。 【キーワード】 ジェンダー、裁縫科、男女別学、良妻賢母、高等女学校	小山　静子（京都大学教授）	小山　静子（京都大学教授）
12	女学生の誕生	女子中等教育の制度的確立にともなって女学生が本格的に登場するが、女性が義務教育以上の教育を受けることにどのような社会的な意味があったのか、そして女学生はどのようにとらえられていたのか考える。 【キーワード】 学歴の地位形成機能、学歴の地位表示機能、学生服、女袴、女学生批判	小山　静子（京都大学教授）	小山　静子（京都大学教授）
13	移民教育と異文化理解(1)	民族や文化を異にする人々が共存し、相互に理解する際に、教育の果たす役割を探りたい。そのために、とくに日本人の海外移民の歴史と、海外へ移民する日本人のために行われた事前教育や移民教育論を取り上げて、この問題を考察する。 【キーワード】 官約移民、出稼ぎ移民、移民補習学校、	沖田　行司（同志社大学教授）	沖田　行司（同志社大学教授）
14	移民教育と異文化理解(2)	海外における日本人移民を対象とした日本人学校の創設と、排日運動期における日本人学校から日本語学校への変容を明らかにし、日本の文化を世界に開くことの意味を考える。 【キーワード】 日本語学校、外国語学校取締法、日系二世教育	沖田　行司（同志社大学教授）	沖田　行司（同志社大学教授）
15	歴史から教育を考える	20世紀を「学校教育の時代」と見、近世・近代を連続する「文字社会」と見ることで、現在進行中の「メディア革命」が内包する教育史上の意味をとらえ、あわせて21世紀の生涯学習社会への展望をこころみる。教育を、大きな歴史の眼で見ることの有効性を考えたい。 【キーワード】 国民教育、学校化社会、学習社会	辻本　雅史（京都大学教授）	辻本　雅史（京都大学教授）

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	専門科目	科目コード	1524909	履修制限	有	単位数	2

＝　教育社会学（’０７）＝（TV)

〔主任講師（現職名）：　岩永　雅也（放送大学教授）　〕
〔主任講師（現職名）：　稲垣　恭子（京都大学大学院教授）〕

講義概要

人は生まれながらにして人間であるわけではない。家族という基礎的な小集団の中に生まれ、親密な人間関係を通じて自我の基礎を形成し、やがて一般化された人間関係が縦横に展開する社会集団との接触を通してその社会の文化と規範を身に付けることにより、一個の自律的な人間となるのである。その意味で人間はすぐれて社会的な存在であるといえる。本講義では、人々が生まれ、育ち、学び、働き、さらに自らの子ども達を育て、自己を実現していくというプロセスを縦糸とし、人々がそのプロセスの各段階で関わっていくさまざまな教育の在りようを横糸として、社会的な営みとしての教育の意味と本質を解き明かす。あわせて最近の教育状況とそれを巡る環境の変化および今後の課題や展望についても検討する。

授業の目標

まず何よりも、学校や家庭、地域社会といったさまざまな場面で展開する「教育」あるいは「社会化」を社会の中の他の事象と同じ社会事象として一般化して捉えていく姿勢を身につけて欲しい。そのためには、特定の価値観に偏った見方を排し、できうる限り客観的で柔軟な視点から教育事象を理解しようとする態度が不可欠である。その上で、現代社会が直面する教育上の諸問題について、その要因や背景、そして本質の的確な理解を目指して欲しい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	教育社会学の視座	教育社会学とはどんな学問領域なのか、どのような方法を用い、何を研究対象として研究を進めるのかといった、教育社会学をめぐる基本概念について考察する。あわせてこれまでの研究史や近年の研究動向にも概略的に言及する。	岩永　雅也	岩永　雅也
2	自己の形成と変容	人は生まれながらにして自分自身、つまり自我を持っているわけではない。人の成長の核となる自我の基礎は何を要素としてどのような背景と条件のもとに形成されるのか、Ｉと me、役割取得の概念などを手掛かりに自我の形成について考える。	稲垣　恭子	稲垣　恭子
3	家族文化と社会化	子ども達がまず最初に出会う基礎的集団である家族がどのように彼らの自我を変容させ、社会化していくか、家族とはどのような機能を持ち、いかなる文化を伝達していく存在なのか、社会化の基礎概念とあわせて検討する。	稲垣　恭子	稲垣　恭子

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	仲間との関わり	学齢期にさしかかった子ども達は、家族という第一次集団から近隣の地域社会や幼稚園、保育園といった第二次集団へと生活空間を拡大していく。そこには家族とは異なる他者からなるピアグループが形成される。他者の拡大と仲間集団および就学前教育が持つ社会的意味について理解する。	住田正樹(放送大学教授)	住田正樹(放送大学教授)
5	学校教育への参加	近代化の進んだ社会において、すべての子どもが同質性の高い学校教育に参加していくということの意味を考える。特に初等段階の学校が持つ社会化機能の本質や内面化される規範の性格などについて詳しく検討する。	稲垣　恭子	稲垣　恭子
6	教師・生徒・カリキュラム	子ども達の生活空間としての教室を、教師役割と生徒(児童)役割との相互作用の場としてとらえ、教室という場が持つ社会化力の本質について動態的な視点から考察し、理解を深める。特に、カリキュラムと教師文化、生徒(児童)文化、保護者等の文化、およびそれらの関わりの中で形成される「隠れたカリキュラム」に注目する。	稲垣　恭子	稲垣　恭子
7	分岐点としての中等教育	初等教育に続く中等教育は、社会化機能の上からも、発達段階においても、また社会的階層分化という点から考えても、あらゆる意味で「分岐点」というに相応しい存在である。ここではその構造と機能を体系的に考察する。	岩永　雅也	岩永　雅也
8	教育におけるジェンダー	「社会や文化がつくりあげる性」としての「ジェンダー」は、男女平等を前提とする学校教育にあっても「隠れたカリキュラム」という形をとって入り込んでしまう。ここではそのように「ジェンダー化」された学校教育と、これを克服しようとする試みを社会学的に考察してゆく。	稲垣　恭子	稲垣　恭子
9	教育の病理	現代の学校には、さまざまな形の逸脱現象が見られる。その中には恒常的に繰り返される「通常の」逸脱も、特殊な時代的背景を持つ現象もある。それを類型的に整理しつつ、今日の教育的病理現象を考える。	岩永　雅也	岩永　雅也
10	教育改革と公教育問題	今日、日本のみならず世界の各地において教育改革が論議され、実践に移されている。また、「学力」に関する論議も盛んである。その背景には、新自由主義という時代風潮および公教育の社会的意味と効果に対する理念の対立が共通して存在する。そうした教育改革と公教育に関する議論を整理し、理解した上で、現状を把握する。	岩永　雅也	岩永　雅也

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
11	若者と職業をめぐる問題	近代社会におけるフォーマルな学校教育は、雇用市場への人材の提供を主要な機能の一つにしてきた。しかし、近年学校の持つ人材形成機能に関して種々の問題が生じてきている。若年失業やニート・フリーター問題、あるいは希望の格差といった問題について考えていく。	本田由紀(東京大学大学院准教授)	本田由紀(東京大学大学院准教授)
12	高等教育の現代像	初等・中等の学校システムとは異なる背景のもとに、職業的専門性との関わりの中で形成されてきた高等教育は、今日著しい大衆化の圧力にさらされている。そのことが高等教育機関を多様なものにし、また大学改革を促進する大きな要因ともなっている。ここでは、現代における大学大衆化とそれをうけた大学改革について考える。	米澤彰純(大学評価・学位授与機構准教授)	米澤彰純(大学評価・学位授与機構准教授)
13	メディアと教育	現代社会を解く鍵の一つがメディアである。教育という領域もその例外ではない。メディアと学校教育は現在どのように関わっているのか、それが現代の教育のあり方にどのような影響を与えているのか、また、今後その関係はどう変化していくのか、といった点について実証的に論じる。	田口真奈(メディア教育開発センター准教授)	田口真奈(メディア教育開発センター准教授)
14	生涯学習社会の展望	生涯学習社会は、あらゆる学習機会を統合し、有機的に結合することによって実現することができるとされている。生涯学習社会における教育、とりわけ学校教育はどのようなあり方を求められるのか、またそこに至るまでにはどのような問題点を解決し、課題を克服していく必要があるのか、総体的な視点から展望する。	三輪建二(お茶の水女子大学教授)	三輪建二(お茶の水女子大学教授)
15	現代の教育課題	今日の学校および教育そのものが直面する具体的な問題を実態に即して取り上げながら、その背景と解決への糸口を探る。あわせて今後わが国の教育がどのように展開していくのか、その近未来像を展望する。	岩永　雅也	岩永　雅也

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	専門科目	科目コード	1520407	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 大学と社会 （’０８）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：安原　義仁(広島大学大学院教授)〕
〔主任講師（現職名）：大塚　　豊(広島大学大学院教授)〕
〔主任講師（現職名）：羽田　貴史(東北大学大学院教授)〕

講義概要

今日、大学は学問の研究や高等教育の場としてほとんどの社会に普及しており、いずれの社会のどの大学にも大学としての共通点がみられる。しかし、それぞれの社会に存在する大学は多種多様で、大学と社会との関係もさまざまである。本科目では、ヨーロッパ中世社会に誕生した大学が近代日本に導入される歴史的経緯をふまえ、現代日本における大学と社会との関係を、グローバル化や高度情報化、学習社会化など社会変化というマクロな観点から学ぶとともに、大学の活動と機能について理解を深める。大学の組織・運営や大学改革の動向と課題についても学習する。

授業の目標

中世ヨーロッパから現代日本に至る大学の歴史および社会制度としての大学に関する基本的知識を習得すること、大学が展開する諸活動ならびに大学が社会において果たす役割・機能について理解すること、そしてそのうえで、現代日本における大学と社会との関係について幅広い視野から批判的に考える力を涵養すること。この授業の目標は以上の三点である。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	大学の誕生と発展	大学という社会制度は、高度な知識を学び教える人々の組合・団体(ウニヴェルシタス)としてヨーロッパ中世社会に誕生した。ボローニア大学とパリ大学がその嚆矢であった。やがて、この二つの大学を原型にして大学はヨーロッパ各地に拡がっていった。 【キーワード】 12世紀ルネサンス、ウニヴェルシタス、ストゥディウム、タウンとガウン、学部、国民団、学寮、学位、討論裁定	安原義仁(広島大学大学院・教授)	安原義仁(広島大学大学院・教授)
2	大学モデルの移植と受容	大航海時代とそれに続く16世紀には、宗教改革や新大陸先住民の征服と植民の影響下に、大学はヨーロッパ世界からアメリカ新大陸へ移植されていった。さらに19世紀帝国主義の時代、ヨーロッパ大学モデルはアジア・アフリカ世界にも伝播していった。 【キーワード】 大航海時代、植民、宗教改革、イエズス会、修道会、サラマンカ大学、サントドミンゴ大学、ハーヴァード・カレッジ	安原義仁(広島大学大学院・教授)	安原義仁(広島大学大学院・教授)
3	アジアにおける高等教育の伝統	ヨーロッパの近代大学よりはるか以前に、古代文明の発祥地であるインド、中国では高度な学術研究・教育活動が展開され、ナーランダの学舎や国子監・太学・書院など当時の「大学」が花開いていた。 【キーワード】 ナーランダー、国子監、太学、書院、科挙、大学寮、寄宿制、サント・トーマス大学、アズハル大学	大塚豊(広島大学大学院・教授)	大塚豊(広島大学大学院・教授)
4	アジアの近代化と大学の役割	アジア各国は近代化実現のために国家主導で大学を創設した。また、アジアに共通な特色である植民地経験の中で、各国は教育面でも列強の影響を受け、欧米や日本の大学モデルの伝播が起こった。 【キーワード】 外国大学モデル、宣教と大学、台北帝大、京城帝大、教授用語	大塚豊(広島大学大学院・教授)	大塚豊(広島大学大学院・教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	日本の近代化と大学	日本の大学は，ドイツをモデルに創設された「帝国大学」が理想型といわれてきた。しかし，実際には多様な大学像とモデルがあり，様々な葛藤を経ながら成立した大学像が，現在の大学の基礎を形作っている。 【キーワード】 帝国大学、旧制高校、大学令、専門学校、高等教育計画	羽田貴史(東北大学・教授)	羽田貴史(東北大学・教授)
6	戦後日本社会と大学改革－大衆化への離陸－	戦後，占領軍と日本政府は，多様な高等教育機関を大学に一元化し，全国に配置した画期的な改革を行った。そして，団塊の世代が大学進学年齢を迎えた60年代に大衆化が進行し，世界でも稀な成長を遂げた。 【キーワード】 教育使節団報告書、一般教育、大学大衆化、大学紛争、46答申	羽田貴史(東北大学・教授)	羽田貴史(東北大学・教授)
7	戦後日本社会と大学改革－計画から規制緩和へ－	団塊の世代が通過した後の大学は，地方分散や質の充実を図る「計画の時代」を迎えた。その後，80年代から行政改革によって次第に規制緩和が進められ，大学は今「市場の時代」をどう生きるかを迫られている。 【キーワード】 臨時教育審議会、私学助成、大学審議会、国立大学法人化	羽田貴史(東北大学・教授)	羽田貴史(東北大学・教授)
8	グローバル化する社会と大学	ヒト、モノ、カネが国境を越えて移動する自由度が飛躍的に増した近年、留学生の増加のみならず、複数国協働による人材養成や大学自体が国境を越えるなど、大学をめぐる環境も大きく変貌してきた。 【キーワード】 グローバリゼーション、ICT、英語教育、国境を越える教育	大塚豊(広島大学大学院教授)	大塚豊(広島大学大学院教授)
9	高度情報化社会と大学	高度情報化社会の到来によって、大学における研究・教育は、その形態はもとより、内容も変貌を迫られている。大学における研究は、他の研究機関と協働・競合を余儀なくされ、教育は知識基盤社会に適合したものとなるよう求められているのである。 【キーワード】 知のモード論(モード1とモード2)、オンライン・ジャーナル、eラーニング、大学資本主義(アカデミック・キャピタリズム)	成定薫(広島大学大学院・教授)	成定薫(広島大学大学院・教授)
10	生涯学習社会の中の大学	生涯学習社会においては、大学にも生涯学習機関としての役割が期待される。そこで、ひとつには、生涯学習者たるに必要な自己主導的学習能力の育成、他のひとつには、成人に対する継続学習機会の提供という観点から、大学のあり方を検討する。 【キーワード】 自己主導的学習、成人学生、リカレント教育、学習支援	小池源吾(広島大学大学院・教授)	小池源吾(広島大学大学院・教授)
11	大学の組織と運営	不思議なことに，大学は洋の東西，歴史を問わず，学長，評議会，教授会など似た組織と運営方式をとり，「企業とは異なる」といわれてきた。ところが，この20年間，各国の大学には企業モデルの運営方式が導入されてきた。 【キーワード】 大学の自治　教授会　理事会　学長	羽田貴史(東北大学・教授)	羽田貴史(東北大学・教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
12	変貌する大学教師	大学教師はもともと教育者であったが、19世紀になって研究者としての役割が付加された。その後、国家や地域社会、企業などへのサービスも期待され、役割は多重となった。大学や教員の評価が行われるようになった今日、役割葛藤は増大し、役割分業も進んでいる。 【キーワード】 大学教師、教授、研究者、教育者、役割	山崎博敏（広島大学大学院・教授）	山崎博敏（広島大学大学院・教授）
13	多様化する学生	18歳人口の減少、進学率の上昇とバブル経済の崩壊を同時に経験した1990年代以降、学生の学習行動、職業への移行とキャリア形成の分化や多様化が一層進行し、大学は入口と出口の双方での対応に迫られている。 【キーワード】 学習行動、就職、キャリア形成	小方直幸（広島大学大学院・准教授）	小方直幸（広島大学大学院・准教授）
14	大学と社会貢献	いまや、社会とのパートナーシップなくして大学の存在意義はない。ここでは、大学の社会貢献という理念が成立をみる歴史と、社会貢献をめぐる今日的状況と課題、そして今後の展望について考察する。 【キーワード】 大学拡張、大学開放、大学の「第三の機能」、大学と社会のパートナーシップ	小池源吾（広島大学大学院・教授）	小池源吾（広島大学大学院・教授）
15	21世紀の大学－政策的観点から－	大学と社会との関係変化を踏まえ、21世紀知識基盤社会における大学のあり方を展望する。その際、これに大きな影響を及ぼす現在の各種政策の動向を解説するとともに、その効果や今後の方向性にも触れることとする。 【キーワード】 生涯学習社会、大学の機能・役割、知識基盤社会、政策	山本眞一（広島大学大学院・教授）	山本眞一（広島大学大学院・教授）

＝　道徳教育論（‘０５）＝（TV）

〔主任講師：新井　郁男（上越教育大学名誉教授）〕
〔主任講師：犬塚　文雄（横浜国立大学教授）〕
〔主任講師：林　泰成（上越教育大学大学院教授）〕

全体のねらい

道徳性を身に付けることは、人間の発達における重要な課題の一つである。特に、青少年時代における道徳性を身に付けるための教育は、生涯学習の土台を形成するという意味において極めて重要である。この科目では、このような観点から、学校、家庭、地域という環境における道徳教育の実態、在り方、課題などについて考える。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	道徳教育の意義	道徳教育が現代社会において、どのような意味で重要であるのか、青少年の人間形成および社会の存続といった観点から考える。	新井　郁男（上越教育大学名誉教授）	新井　郁男（上越教育大学名誉教授） 犬塚　文雄（横浜国立大学教授） 林　泰成（上越教育大学大学院教授）
2	道徳教育の歴史	明治時代に近代的な学校制度が始まってから現在にいたるまで、日本の道徳教育はどのように変遷してきたのか。制度論や思想史などさまざまな観点から検討する。	林　泰成	林　泰成
3	学習指導要領と道徳教育	学校における道徳教育は、法的拘束力をもつと考えられる学習指導要領によってその目標や内容が定められている。その歴史的変遷と現行の学習指導要領の規定について考える。	同　上	同　上
4	道徳的社会化	社会が望ましいと考える価値観、態度などを個々人が内面化する過程としての社会化のメカニズムについて、社会学的な観点から検討する。	新井　郁男	新井　郁男
5	道徳性の発達	道徳性とは何か。また、それはどのように発達するのだろうか。ピアジェやコールバーグらの心理学的な研究に依拠して、そのメカニズムを検討する。	林　泰成	林　泰成

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
6	理性の道徳教育	学校において道徳の授業はどのように行われているのだろうか。具体的な道徳授業のやり方として、まず、道徳的判断力の育成を目指すモラルジレンマ授業を取り上げる。	林　泰成	林　泰成
7	感性の道徳教育	道徳授業でめざすべきものは判断力の育成だけではない。感性を育むこともまた重要視されなければならない。そこで、感情を育む方法として、感動資料を用いた道徳授業と、価値明確化による授業を検討する。	同　上	同　上
8	行動の道徳教育	道徳性は内面的なものであるととらえられるが、それを実践に結びつけるにはどうしたらよいのだろうか。具体的に行動のしかたを学ばせる必要はないだろうか。そうした指導法のひとつとして、モラル・スキル・トレーニングと、そこで用いられる技法としてのロール・プレイングについて検討する。	同　上	同　上
9	道徳教育と教育臨床	「始めにペーシング（子どもたちのペースに寄り添う）ありき」の観点から、思いやり行動を発揮することが困難な子どもたちの状況とその背景を明らかにし、道徳教育の目指す方向を具体的に提示する。	犬塚　文雄	犬塚　文雄
10	道徳教育と生徒指導	学校における道徳教育の主体である教師のマルトリートメント（不適切な関わり）が子どもたちの思いやり行動を育成する上で阻害要因となっている諸相と背景を明らかにし、その問題の解決策ともなるカウンセリングを基盤としたガイダンスの在り方を具体的に提示する。	同　上	同　上
11	道徳教育と特別活動	教師の不適切な関わりと並んで、子どもたちの思いやり行動を育成する上で阻害要因となっているピアプレッシャー（仲間関係における同調圧力）の諸相とその背景を明らかにし、特別活動において、ピアプレッシャーの緩和と思いやり行動育成を目指した集団活動として行われている実践の具体例を提示する。	同　上	同　上
12	道徳教育と教科・総合的な学習	道徳教育は道徳の時間だけに行われているものではない。教科の学習を行っているときにも、また、総合的な学習の時間にも、道徳教育的な働きかけは存在する。そのかかわりについて検討する。	林　泰成	林　泰成
13	道徳性と社会・文化	道徳性が社会や文化によってことなることを、日本の文化を「恥の文化」であるとしたルース・ベネディクトの『菊と刀』などを取り上げて、考える。	新井　郁男	新井　郁男

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
14	地域・家庭における道徳教育	子どもたちは、学校においてだけでなく、家庭、地域において、また、テレビなどを通して、道徳性を身に付けたり、反道徳的、非道徳的な態度や行動を身につけたりしている。そのような様相を明らかにし、地域や家庭の道徳的教育力について考える。	新井　郁男	新井　郁男
15	道徳教育の課題と展望	第1回から第14回までの考察・検討などを踏まえて、道徳教育の課題を考え、これからの時代・社会における道徳教育を展望する。	林　泰成	新井　郁男 犬塚　文雄 林　泰成

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	専門科目	科目コード	1520601	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 地域教育の創造と展開 （’０８）＝ （R）

〔主任講師（現職名）： 岡崎友典（放送大学准教授）〕
〔主任講師（現職名）： 高島秀樹（明星大学教授）〕
〔主任講師（現職名）： 夏秋英房（国學院大学准教授）〕

講義概要

学校・家庭・地域の連携・協力・融合が今日的な課題になっている。本科目では、学校教育、社会教育そして家庭教育が地域社会のなかでどのような形で実践されているかについて「地域教育」という新たな概念を用いて考察する。地域社会が急激に変動するなかで、さまざまな「教育問題」が多発化している。学校や家庭だけでは解決できない多様かつ深刻な問題の解決を探るために、今、「地域の教育力」が求められている。専門科目として、教育学、教育社会学の理論を学ぶとともに全国各地の実践事例を詳細に検討しつつ、その解決の糸口を探りたい。学校の教員、教育行政担当者、PTAをはじめ地域の教育関係者の「生の話」を通してさまざまな教育問題の解決に向けての課題を展望する。放送メディア（ラジオ）の特性を生かして、受講者が自らの経験的実践を踏まえて、その経験的実践と教材を対比しつつ考え、地域住民としての生活実態・教育ニーズに即した形での実践的学習を深めてくれることを期待している。

授業の目標

家庭での子育てや学校教育をめぐり、様々な問題が提示されているが、「家庭崩壊」や「学校崩壊」などセンセーショナルな表現で指摘される教育問題は、家庭や学校単独で起きる現象ではないのではなかろうか。

本科目のねらいは、人間の成長・発達といった社会的な作用（教育）を中心的に担う家庭・学校と人間の共同生活の場面としての「地域社会」との関係を、生涯学習・教育の視点から明らかにすることにある。とくに人間のもっとも基本的な教育環境である家庭と学校が地域住民の諸組織や機関との連携協力により、どのような形で地域社会形成の担い手（主体）を生み出しているかについて、「地域の教育」を社会学の手法を用いて分析してきた「地域教育社会学」の研究成果・調査資料と、全国各地の具体的な事例（放送番組）を通して、現代日本の教育課題として提示することを目的としている。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	地域社会の変動と教育 －教育環境としての地域社会－	第二次世界大戦後のわが国の地域開発政の展開過程に即して、地域社会と教育の関係について、地域社会の教育環境を類型化することによって、そこに内在する学習上の課題について提起する。 【キーワード】 地域社会　都市化　地域開発　教育環境の構造　環境要因	岡崎友典	岡崎友典 高島秀樹 夏秋英房
2	生涯学習と地域教育	家庭教育、学校教育、社会教育が人々のライフステージによって、どのような形で展開していくか。生涯教育・学習といった視点とともに、日常生活場面で展開される教育を、「地域教育」といった新たな観点から考察する。 【キーワード】 家族周期　地域教育　郷土芸能の伝承　後継者と地域社会	岡崎友典	岡崎友典
3	教育の機会と地域社会	初等,中等、高等教育、それぞれの段階における教育機会について、学校選択の自由と機会の平等といった視点から、地域社会における教育政策上の課題を検討する。 【キーワード】 教育の機会　通学区　学校選択　学歴社会　学校階層	岡崎友典	岡崎友典
4	開かれた学校と地域社会	社会化・教育・学校教育と地域社会の概念を明らかにしたうえで、学校と地域社会の関係について、近代学校の成立過程における地域社会の関与と、現代的状況（通学区域弾力化、学校評議員制度、学校評価制度）の二つの側面から検討する。 【キーワード】 近代学校の成立と地域社会　学校と地域社会の連携　通学区域の弾力化　学校評議員　学校評価	高島秀樹	高島秀樹 岡崎友典

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	学校教育の内容と地域社会	人間の発達段階に即して社会生活に必要な知識・技術,価値や態度・信念などの資質が形成されるが、それは地域社会の特性とどのように関連しているか。教育内容と教育課程のなかに地域がどのように取り込まれているかについて、その代表的な考え方や、具体的な実践事例を通して両者の関係について検討する。 【キーワード】 教育課程　コミュニティ・スクール　郷土教育	高島秀樹	高島秀樹 岡崎友典
6	子どもの校外生活	急激に変動する社会にあって、子どものをめぐってさまざまな問題が引き起こされている。子どもの成長・発達にとって地域社会の果たす役割について明らかにするとともに、子どもの放課後の校外生活の実態と子どもを指導する地域住民組織の役割について検討する。 【キーワード】 仲間集団　子ども会　住民組織	高島秀樹	高島秀樹 岡崎友典
7	PTAと地域住民組織 —おとなの教育責任—	保護者によって組織されるPTAを、子どもを媒介とに成立する成人の学習組織と捉え,さらに保護者が地域社会の中堅世代として地域社会形成に主要な役割を担うといった視点から、大人の教育責任について検討する。 【キーワード】 PTAの現代的役割　大人の教育責任　親父の会	岡崎友典	岡崎友典
8	地域福祉と教育～子育て支援～	福祉が社会的な課題となる社会(福祉社会)において、教育を成り立たせる条件としての福祉について、現代家族の特徴を踏まえたうえで、とくに児童に関わる福祉施設(児童養護施設、母子生活支援施設など)の地域レベルでの実践を通して考察する。 【キーワード】 児童福祉、地域福祉　児童養護施設,　母子生活支援施設	夏秋英房	夏秋英房 岡崎友典
9	地域社会の活性化と教育事業	地域社会がその自然的・社会的条件を生かして,自治体としてその活性化を目指して,全国各地でさまざまな実践を行っている。とくに「生涯学習とまちづくり」、「都市と農山村の交流事業」などが、地域社会の教育機能を生かして行われている事例を分析する。 【キーワード】 まちづくり　山村留学　地域間交流　グリーンツーリズム	夏秋英房	夏秋英房 岡崎友典
10	国際化と地域社会	国際化が急激に進展するなかで、地域住民にどのような教育と学習が求めれれているかについて、学校における「国際理解教育」、また自治体や民間の手によるさまざまな「交際交流事業」の実践を検討することによって、教育上の課題を明らかにする。 【キーワード】 地域社会の国際化　国際交流　異文化間教育	夏秋英房	夏秋英房 岡崎友典
11	人材の養成と移動 —職能形成の過程—	社会人としての能力とくに職業人としての能力(職能)京成が、学校教育を土台としてどのような過程を経て行われるかについて、義務教育終了後の個人のライフコースに知って具体的な携帯・内容について検討する。 【キーワード】 人口の地域分布変動　職種　移動と定住　Uターン	岡崎友典	岡崎友典

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
12	地域社会の再編と学習運動	人口の流動性の高まり、また近年の地方自治体の再編（平成の大合併）など、地域住民の生活環境は大きく変化している。とくに地域コミュニティレベルにおける住民の「学習運動」が新たな地域社会の創造につながる可能性について考察する。 【キーワード】 居住区の再編　新旧住民の交流　住民の学習運動	高島秀樹	高島秀樹 岡崎友典
13	コミュニティアートと地域スポーツ	学習活動としての芸術とスポーツが，地域住民の自主的な活動として展開されることにより，新たな地域社会が形成される過程を考察する。 【キーワード】 地域活動　コミュニティアート　地域スポーツ	夏秋英房	夏秋英房 岡崎友典
14	地域文化の創造と継承 ―地域定住と文化活動―	地域生活のなかから生み出される「生活文化」について、文化の基本的な概念を押さえたうえで、文学や地域の産業（地場産業や観光）などの具体的な事例、とくに新たに創造される文化の果たす役割を中心に考察する。 【キーワード】 伝統文化　伝統工芸　ものづくり　地場産業	岡崎友典	岡崎友典
15	学習社会の成立と教育の課題 ―地域社会の教育的再編―	地域社会の教育が、学校と家庭そして地域住民との共同作業・営みによって続けられることの必要性を、各回で学習した内容をもとに、「地域教育の創造」と「学習社会」における「地域社会の教育的再編」といった視点から「教育の課題」として提示する。 【キーワード】 学習社会　生涯教育　教育の再生　教育改革	岡崎友典	岡崎友典 高島秀樹 夏秋英房

＝　生涯学習と自己実現（‘０６）＝（Ｒ）

〔主任講師（現職名）：堀　　薫夫（大阪教育大学教授）　　〕
〔主任講師（現職名）：三輪　建二（お茶の水女子大学教授）〕

全体のねらい

生涯学習社会への移行が叫ばれる今日、生涯学習は、私たちをどこへ導いてくれるのだろうか。本講では、人間の自己実現というひとつの方向目標を手がかりとして、発達論と学習論を軸に、生涯学習をめぐる問題を考えていきたい。あわせて、生涯学習社会がかかえる今日の社会的な問題をもともに考えていきたい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	生涯学習の理念	生涯学習論や生涯教育論が、どのような学習観や教育観にささえられてきたのかを考えてみよう。また社会教育や成人教育、学習社会といった概念との関連も考えていこう。	堀　薫夫（大阪教育大学教授）	堀　薫夫（大阪教育大学教授）
2	成熟からの生涯学習と経験からの生涯学習	生涯学習の原理的問題を、生物としての人間が環境に適応していく営みと経験によって行動が変容していくプロセスとにまでさかのぼって考えてみよう。生物的にみても、生涯学習は人間にとって本質的な営みであるということを述べていきたい。また、生活経験からの生涯学習の問題を、デューイや森有正らの経験論とともに考えていきたい。	同上	同上
3	生涯発達とエイジング	生涯学習は、生涯にわたる成長・発達や自己実現をめざす営みだといえる。ここでは、生涯発達の考え方を、エイジングの問題と重ね合わせつつ考えていく。そして、自己実現としての生涯発達の考え方に注目していく。	同上	同上
4	成人期における知的能力の変化	生涯発達と生涯学習を結ぶひとつの視点として、「成人期における学習能力の変化」の問題をあげることができる。流動性知力－結晶性知力論、多元的知能論、実用的知能論といった考え方をもとに、成人期以降の学習能力の変化に目を向けてみる。あわせて自己実現に近い概念でもある「知恵」の問題も考えていく。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	高齢者の学習の成立条件	生涯学習と生涯発達の完成期である高齢期における学習のあり方を考えていく。高齢期における学習は、人生の他の時期における学びとどこがちがうのであろうか。その特徴をいくつかのデータをもとに議論していく。	堀　薫夫（大阪教育大学教授）	堀　薫夫（大阪教育大学教授）
6	死への準備教育	生涯学習の問題をデス・エデュケーション（死への準備教育）の観点からとらえてみよう。人間の死は、大きく老いや病と結びついた死と社会や文化と結びついた死（事故死、他殺など）に分けられる。両方の視点と教育の視点とを結びつけるとどうなるのだろう。考えてみよう。	同上	同上
7	生きがいと自己実現（1）人間的欲求の解放	人間の自己実現の問題を「人間的欲求の解放」という視点から考えてみよう。人間に固有の欲求とは何か？という問いかけをつきつめていくことが、自己実現とは何か？への回答につながっていくのではないだろうか。	同上	同上
8	生きがいと自己実現（2）意味への意志	ここでは、ヴィクトール・フランクルの提唱した「意味への意志」という視点から人びとの自己実現の問題を考えていく。限界状況における人間的価値や生涯にわたって成就される価値、そして自己実現と生涯発達の関連についてもあわせてふれ、これらを統合した、人生の意味づけとしての自己実現の問題を考えていきたい。	同上	同上
9	成人の特性を活かした学習援助論	生涯学習の中核をしめるのは成人教育であろう。ここでは成人教育を成人の特性を活かした教育、あるいはアンドラゴジーととらえたうえで、リンデマン、ノールズらの理論が提起したこととその今日的意義を考えていく。	同上	同上
10	生涯学習における学習者像と学習支援	生涯学習の主な担い手は、社会人などの成人学習者であり、受講者であるあなた方である。成人学習者の特性を活かした学習支援について、アンドラゴジー論のその後の展開をもおさえつつ、自己決定性、経験、意識変容などをキーワードに考えてみよう。	三輪建二（お茶の水女子大学教授）	三輪建二（お茶の水女子大学教授）
11	生涯学習の国際的動向	諸外国の生涯学習について、基本理念や日本の社会教育・生涯学習に直接・間接に影響を及ぼしてきたものを検討してみよう。さらに、OECDやユネスコ、アジア諸国の動向についても概観してみよう。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	地域社会と生涯学習	生涯学習は、地域社会によって規定されるとともに、地域社会の課題に取り組むものも多い。農山村や都市において生涯学習がどのように展開されているか、またそれぞれの課題についての学習・活動がどのように行われているか、事例を含めて考察したい。	上杉孝實（畿央大学教育学部長）	上杉孝實（畿央大学教育学部長）
13	人権問題と生涯学習	人権についての学習は、生涯学習において重要な位置を占める。具体的な人権問題に取り組むことによって、人権文化の構築が可能になる。生涯学習としての人権学習について学ぶとともに、人権としての生涯学習として、識字等をとりあげ、考察を深めたい。	同上	同上
14	生涯学習政策の動向	生涯学習の政策は、国をはじめ都道府県や市町村レベルでも展開を見せている。臨時教育審議会以降の政策動向を、生涯学習振興法や生涯学習審議会答申などを手がかりに概観してみよう。	三輪建二（お茶の水女子大学教授）	三輪建二（お茶の水女子大学教授）
15	生涯学習社会の近未来：キーワードをひもとく	わが国における生涯学習化の動向にはどのような道標があるのだろうか。学校教育の弾力化、職業教育・訓練制度の改革、IT化と高度情報化への対応、男女共同参画社会、NPOの役割などを手がかりに、ともに考えてみよう。	三輪建二（お茶の水女子大学教授） 堀薫夫（大阪教育大学教授）	三輪建二（お茶の水女子大学教授） 堀薫夫（大阪教育大学教授） 上杉孝實（畿央大学教育学部長）

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	専門科目	科目コード	1525107	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　転換期の教師（‘07）＝（R）

〔主任講師（現職名）：　油布　佐和子（福岡教育大学教授）〕

講義概要

教育改革の進展に伴って、教師の資格や職場環境・役割、教師という職業も変容しつつある。本講義では、第一に、現代社会の中で、教師・教職がどのような状況に置かれているのか、教師が直面している諸問題について検討する（第1回～第5回<**第一部　問われる教師**>）。第二に、教育改革の中で教師という職業がどのような変容を遂げようとしているのか、教職の過去と、改革による課題や今後の方向を考える（第6回～第10回<**第二部　教師・教職の過去と現在**>）。さらに、改革が進行・定着する将来にむけて、教師を支援し、どのような新たな教職像を創り上げるべきかを考察する（第11回～第15回）<**第三部　教職の未来と教師への支援**>。

授業の目標

現在教職は、制度的に大きな転換点にある。本講義では、教師・教職が直面している問題を取り上げ、社会の変化や制度的改革を踏まえつつ、教師・教職が今後どのような方向に向かっていこうとしているのかについて、考察することを目的とする。また、「教師」を対象にした議論は、ややもすれば理念的で、現実の諸条件を度外視した理想像の「語り」に陥りがちであるが、教師の悩みや不安等に寄り添いながらも、データに即して、客観的に議論を展開する。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
第一部　問われる教師				
1	教師のストレス・教師の多忙	教師の多忙化と「病める」実態を紹介し、そうした問題を引き起こす教職生活についての理解を深める。また、近年の教育改革によって、教師の教育活動や教職生活がどのように変わってきたのかを検討する。	油布佐和子（福岡教育大学教授）	油布佐和子（福岡教育大学教授）
2	日本における教師の特徴	日本では、どのような人々が教師として働いているのだろうか。教師の年齢構成や性別構成とその変化、教職の職階や給与、雇用形態の特徴とその変化など、について、種々の統計データを示し、特に、諸外国との比較をとおして、日本の教師の特徴を浮き彫りにする。	佐久間亜紀（上越教育大学准教授）	佐久間亜紀（上越教育大学准教授）
3	生徒指導の変化と困難	戦後の教師－児童・生徒関係の変化について概観し、近年の児童・生徒の変容と、指導に伴う諸問題について論じる。また、子どもの<心>に注目が集まり、カウンセラーが配置される中での教師の役割について検討する。さらに、今後必要とされる生徒指導の課題について考察する。	油布佐和子（福岡教育大学教授）	油布佐和子（福岡教育大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	教師－地域・保護者の関係の現在と課題	職業威信調査を手がかりに、人々が教師をどのように見ているのかについて、また、社会の高学歴化が進む中で、保護者と教師の関係、地域社会と教師の関係がどのように変化しているかについて検討する。さらに学校運営協議会やコミュニティスクールなどの事例から、今後の学校・教師－地域・保護者の新しい関係を考える。	油布佐和子（福岡教育大学教授）	油布佐和子（福岡教育大学教授）
5	教師の逸脱・マスメディアの中の教師	教師は法に守られ、法に縛られている。教師に対する社会のまなざしが厳しくなる中で、教育公務員としての服務管理を厳正に行うことが求められている。教師の服務にはどのような内容が課され、これを逸脱するとどのような処分が下されるかについて概観する。	元兼正浩（九州大学准教授）	元兼正浩（九州大学准教授）
第二部　教師の過去と現在				
6	教師像の歴史的変遷	近代日本に教師が登場して以来今日までの歴史を、戦前～高度成長期～豊かな社会という区分に従って概観し、教師の地位・役割、生活がどのように変わったのかを検討する。時代ごとに社会的に要請されてきた教師像を考察し、その特徴を論じる。	陣内靖彦（東京学芸大学教授）	陣内靖彦（東京学芸大学教授）
7	教師を支える財政基盤とその行方	教員評価、専門職大学院、免許更新制、義務教育費の国庫負担問題など、近年の教育改革を概観する。特に、義務教育費の国庫負担、公務員制度の改革、人財確保法案の廃止など、教員を支える基盤となる財政的な側面を検討する。	油布佐和子（福岡教育大学教授）	油布佐和子（福岡教育大学教授）
8	教員養成のこれまで／これから	近年、教員養成が改革の激動期を迎えている。戦後60年の教員養成について概観し、また近年の変貌するその実態を示すとともに、専門職大学院の設置など、今後教員養成がどこに向かおうとしているのかについて考察する。	陣内靖彦（東京学芸大学教授）	陣内靖彦（東京学芸大学教授）
9	教員養成の国際比較	「優れた教師」はどうしたら養成できるのか。これは、世界中で長年模索されてきた問いである。本章では、日本の教員養成制度と免許制度について、過去の経緯をふまえて現在の制度の特徴と問題点を明らかにする。同時に、諸外国の動向も視野に入れながら今後の改革の方向性について論じる。	佐久間亜紀（上越教育大学准教授）	佐久間亜紀（上越教育大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
10	情報化社会の教師	情報メディアの発達は、専門家と素人のボーダーを消失させ、教師は今や知識の独占者でも、唯一の伝達者でもなくなった。一方、ITが普及する中で、子どもへの指導のあり方と、またその操作自体に苦しむ教師も少なくない。こうした情報社会において教師が抱える問題について考察する。	油布佐和子(福岡教育大学教授)	油布佐和子(福岡教育大学教授)
	第三部　教職の未来と教師への支援			
11	管理職の役割 ー校長のリーダーシップを考えるー	教育の今日的改革動向は国内外を問わずスクール・ベイスドな経営改革が中心をなし、改革のキーパーソンとして校長職の地位と役割に関心が集まっている。果たして校長にはどれほどの権限がもたらされ、どのようなリーダーシップが発揮可能なのかを考える。	元兼正浩(九州大学准教授)	元兼正浩(九州大学准教授)
12	教師集団の変容と組織化	職業集団としての教員団体について論じた後、教師の職場集団について検討する、その際、同僚性や教員文化に着目しながらその意義について考察し、またその変容を考える。さらに「教師評価」が導入され、教師組織の階層性が明確化されつつある現状での変化の実態を検討する。	油布佐和子(福岡教育大学教授)	油布佐和子(福岡教育大学教授)
13	「ゆとり」と「学力向上」の狭間	「総合的学習の時間」の導入に伴う教師の困惑と、「基礎学力の向上」という課題に直面している教師たちの実態を紹介しながら、「学力向上」の課題の中で、教師は「学力」をどのように捉えているのかを検討し、変容する時代の「知」の意味について考察する。	油布佐和子(福岡教育大学教授)	油布佐和子(福岡教育大学教授)
14	教師の学びとその支援 ーこれからの教員研修	教師の力量とは、いったいどのような力量のことだろうか。それは、どのような授業観と結びついているのか。本章では、教師の「指導力」や「専門性」をめぐる諸理念を、授業の具体的事例をもとに比較検討し、これからの教員研修の可能性を考察する	佐久間亜紀(上越教育大学准教授)	佐久間亜紀(上越教育大学准教授)
15	学校の改革と教師役割の行方	教師の役割は、学校が社会において果たすべき役割と無関係ではない。学校機能についての諸説を整理しながら、教師の役割の諸類型を検討し、今後の教職・教師の在り様について論じる。	油布佐和子(福岡教育大学教授)	油布佐和子(福岡教育大学教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	肢体不自由児の理解	肢体不自由児の指導を進める上で必要な理解の内容・方法等について解説する。 また、教育の実際について紹介する。	伊藤　鉄夫（淑徳大学教授）	伊藤　鉄夫（淑徳大学教授）
6	病弱児の理解	病弱児の指導を進める上で必要な理解の内容・方法等について解説する。 また、教育の実際について紹介する。	坂田　紀行（前東京都立田無養護学校長）	坂田　紀行（前東京都立田無養護学校長）
7	重複障害児の理解	重複障害の定義、重複障害児の指導を進める上で必要な理解の内容・方法等について解説する。 また、教育の実際について紹介する。	吉田　昌義（帝京大学教授）	吉田　昌義（帝京大学教授）
8	自閉症児の理解	自閉症児の指導を進める上で必要な理解の内容・方法等について解説する。高機能自閉症等の理解についても解説する。 また、教育の実際について紹介する。	緒方　明子（明治学院大学教授）	緒方　明子（明治学院大学教授）
9	ＬＤ児の理解	ＬＤ児の指導を進める上で必要な理解の内容・方法等について解説する。 また、教育の実際について紹介する。	佐々木徳子（明治学院大学非常勤講師）	佐々木徳子（明治学院大学非常勤講師）
10	ＡＤＨＤ児の理解	ＡＤＨＤ児の指導を進める上で必要な理解の内容・方法等について解説する。 また、教育の実際について紹介する。	鳥居　深雪（植草学園短期大学准教授）	鳥居　深雪（植草学園短期大学准教授）
11	特別支援学校の教育の実際　Ⅰ	特別支援学校には、いろいろなタイプがある。 その例を紹介し、教育の実際を紹介する。	吉田　昌義（帝京大学教授）	吉田　昌義（帝京大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	特別支援学校の教育の実際 Ⅱ	特別支援学校の分校等を小学校、高等学校の中に設置している例がある。その実際を紹介する。 また、特別支援学校のセンター的機能の実際を紹介する。	吉田 昌義（帝京大学教授）	吉田 昌義（帝京大学教授）
13	特別支援学級の教育の実際 Ⅰ	特別支援学級の現状、教育の実際について紹介する。	大南 英明（帝京大学教授）	大南 英明（帝京大学教授）
14	特別支援学級の教育の実際 Ⅱ	特別支援学級と通常の学級における「交流及び共同学習」の実際、連携の実際について紹介する。	大南 英明（帝京大学教授）	大南 英明（帝京大学教授）
15	小学校、中学校等における特別支援教育の実際	小学校・中学校等において、特別支援学級、通級指導教室、特別支援学校と連携し、ＬＤ等の児童生徒への指導及び支援をしている実際を紹介する。	緒方 明子（明治学院大学教授）	緒方 明子（明治学院大学教授）

事務局記載欄	開設年度	平成19年度 第2学期	科目区分	専門科目	科目コード	1580400	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝ 特別支援教育基礎論（‘07）＝（R）

〔主任講師（現職名）：大南 英明（帝京大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：緒方 明子（明治学院大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：吉田 昌義（帝京大学教授）〕

講義概要

特別支援教育は、これまでの特殊教育の対象であった障害に加え、ＬＤ、ＡＤＨＤ、高機能自閉症等を対象とすることとなる。本科目においては、特別支援教育の意義、対象となる障害に対する理解、教育の現状について解説する。

授業の目標

特別支援教育の意義、在り方等を理解し、一人一人のニーズに応じた教育の実現を目指す。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	特別支援教育の現状	特別支援教育の意義、学校教育法の一部改正による、特別支援学校・特別支援学級への転換、校内委員会・特別支援教育コーディネーターの設置・活動の状況、個別の教育支援計画の作成と活用の状況等を解説する。	大南 英明（帝京大学教授）	大南 英明（帝京大学教授）
2	視覚障害児の理解	視覚障害児の指導を進める上で必要な理解の内容・方法等について解説する。 また、教育の実際について紹介する。	伊藤 鉄夫（淑徳大学非常勤講師）	伊藤 鉄夫（淑徳大学非常勤講師）
3	聴覚障害児の理解	聴覚障害児の指導を進める上で必要な理解の内容・方法等について解説する。 また、教育の実際について紹介する。	落合 勇（東京都就学相談室相談員）	落合 勇（東京都就学相談室相談員）
4	知的障害児の理解	知的障害児の指導を進める上で必要な理解の内容・方法等について解説する。 また、教育の実際について紹介する。	吉田 昌義（帝京大学教授）	吉田 昌義（帝京大学教授）

＝　発達障害の教育支援法（‘０６）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：　太田　俊己（千葉大学教授）　〕
〔主任講師（現職名）：　宮崎　英憲（東洋大学教授）　〕
〔主任講師（現職名）：　中坪　晃一（植草学園短期大学教授）〕

全体のねらい

近年、障害のある児童生徒の教育は、一人ひとりのニーズに応じた教育支援を行う特別支援教育に移行しつつある。障害のある児童生徒の中でも、知的障害を中心とした発達障害の児童生徒の占める割合は高く、また多様な場において教育支援が行われている。本科目では、今後の特別支援教育への専門的対応も視野におき、種々の教育の場で、一人ひとりの多様な教育ニーズに応じて実践される発達障害のある児童生徒への教育支援法について、映像も用いた実際的な解説を行う。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	発達障害の教育と教育支援法	発達障害とはどのような状態で、学校教育では、どのようなニーズに応じた教育、教育支援が行われているかなど、発達障害の基本的な概念、学校・学級での教育の仕組み、またそこでの教育支援や指導の方法などについて解説する。	宮崎英憲（東洋大学教授）	宮崎英憲（東洋大学教授）
2	発達障害教育の教育課程と教育支援法	発達障害教育における学校・学級の教育課程（カリキュラム）はどのようであり、教育支援法・指導法はどのように役立てられているかなど、学習指導要領との関係も含め、発達障害の教育における教育課程と教育支援法のあり方およびその活用などについて解説する。	同上	同上
3	一人ひとりに応じた計画とその活用	発達障害の子どものもつ一人ひとりのニーズはどのようか、対応する教育支援の計画やその実践はどのようなものかなど、ニーズのとらえ方や個別の教育支援計画、個別の指導計画のあり方とその活用などについて解説する。	太田俊己（千葉大学教授）	太田俊己（千葉大学教授）
4	個のニーズへの教育支援	発達障害教育における一人ひとりに応じた教育支援の実際とはどのようか、個別の計画との関連はどうすべきかなど、種々の実践場面での個に応じた教育支援の意義と実際、またその実践の特徴などについて解説する。	同上	同上
5	発達障害の教育支援法（1） 生活単元学習とその実際	知的障害教育を中心として実践される教育支援法のうちの生活単元学習をとり上げる。生活単元学習の意義、特色、実践上の留意点などについて、実践の様子をおりまぜながら解説する。	中坪晃一（植草学園短期大学教授）	中坪晃一（植草学園短期大学教授）

6	発達障害の教育支援法（2） 作業学習とその実際	知的障害教育を中心として実践される教育支援法のうちの作業学習をとり上げる。作業学習の意義、特色、実践上の留意点などについて、実践の様子をおりまぜながら解説する。	同上	同上
7	発達障害の教育支援法（3） 遊びの指導・日常生活の指導とその実際	知的障害教育を中心として実践される教育支援法のうち、遊びの指導および日常生活の指導をとり上げる。両者の意義、特色、実践上の留意点などについて、実践の様子をおりまぜながら解説する。	同上	同上
8	発達障害の教育支援法（4） 教科別の指導とその実際	知的障害教育や発達障害の児童生徒に実践される教科別の指導等をとり上げる。各教科とその目標・内容、発達障害教育の場と教科別の指導等に関する実践上の留意点などについて、実践の様子をおりまぜながら解説する。	大南英明（帝京大学教授）	大南英明（帝京大学教授）
9	発達障害の教育支援法（5） 自立活動とその支援の実際	障害児の教育における独自な領域である自立活動をとり上げる。自立活動とその考え方、知的障害および発達障害の教育における自立活動、自立活動の教育支援と実践上の留意点などについて、実践の様子をおりまぜながら解説する。	同上	同上
10	通常の学級における発達障害への教育支援（1）	通常の学級に在籍する発達障害の児童生徒への教育支援・対応の基本をとり上げる。通常の学級にいる支援の必要な発達障害等の児童生徒の状況、教育支援のあり方やその留意点などについて、実践の様子をおりまぜながら解説する。	緒方明子（明治学院大学教授）	緒方明子（明治学院大学教授）
11	通常の学級における発達障害への教育支援（2）	通常の学級に在籍する発達障害の児童生徒への教育支援の実際をとり上げる。通常の学級で必要となる支援の具体、個別のニーズに応じた教育支援の実際などについて、実践の様子をおりまぜながら解説する。	同上	同上
12	固有のニーズへの教育支援（1） 自閉性障害を伴う場合	自閉性障害を伴う場合に、特に必要となりやすい固有ニーズと支援についてとり上げる。自閉性障害とそれに伴いやすいニーズ、それに対する教育の場での教育支援の実際などについて解説する。	緒方明子（明治学院大学教授）	緒方明子（明治学院大学教授） （聞き手/太田俊己）

13	固有のニーズへの教育支援（2）肢体不自由を伴う場合	肢体不自由を伴う場合に、特に必要となりやすい固有ニーズと支援についてとり上げる。肢体不自由とそれに伴いやすいニーズ、それに対する教育の場での教育支援の実際などについて解説する。	木舩憲幸（広島大学大学院教授）	木舩憲幸（広島大学大学院教授） （聞き手/太田俊己）
14	固有のニーズへの教育支援（3）感覚障害を伴う場合	視覚障害、聴覚障害を伴う場合に、特に必要となりやすい固有ニーズと支援についてとり上げる。視覚障害、聴覚障害とそれに伴いやすいニーズ、それに対する教育の場での教育支援の実際などについて解説する。	加藤元繁（日本医療科学大学教授） 林　安紀子（東京学芸大学准教授）	加藤元繁（日本医療科学大学教授） 林　安紀子（東京学芸大学准教授） （聞き手/太田俊己）
15	進路・移行支援への対応	発達障害教育における進路・移行支援の意義、あり方と現状、個別移行支援計画ならびに移行支援の実際などについて解説する。	宮﨑英憲（東洋大学教授）	宮﨑英憲（東洋大学教授）

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	専門科目	科目コード	1582402	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　特別支援教育総論（‘07）＝（R）

〔主任講師（現職名）：　大南　英明　（帝京大学教授）　〕
〔主任講師（現職名）：　宮崎　英憲　（東洋大学教授）　〕
〔主任講師（現職名）：　木舩　憲幸　（広島大学大学院教授）〕

講義概要

特殊教育から特別支援教育への転換が準備の段階から本格的な展開に向けての移行の段階へと推移しつつある。特別支援教育は、これまでの特殊教育の対象であった障害に加え、LD,ADHD,高機能自閉症等の障害を対象とすることとなる。本科目では、特別支援教育の意義、対象となるそれぞれの障害の教育内容・方法等について解説する。

授業の目標

特殊教育から特別支援教育への転換の意義、目的を理解し、一人一人のニーズに応じた教育が展開できるようにする。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	特別支援教育の意義、概要	特殊教育から特別支援教育への転換、特別支援教育の意義、特別支援教育コーディネーター、個別の教育支援計画（重複障害・ＬＤ等を含む）、校内支援体制、特別支援学校、特別支援学級、教員免許等について解説する。	大南　英明（帝京大学教授）	大南　英明（帝京大学教授）
2	一人一人のニーズに応じた教育 －視覚障害Ⅰ－	視覚障害教育の歴史、視覚障害児に対する教育の内容・方法等について解説する。	千田　耕基（国立特別支援教育総合研究所上席総括研究員兼教育支援研究部長）	千田　耕基（国立特別支援教育総合研究所上席総括研究員兼教育支援研究部長）
3	一人一人のニーズに応じた教育 －視覚障害Ⅱ－	特別支援教育における視覚障害児の教育、交流及び共同学習の在り方等について解説する。	千田　耕基（国立特別支援教育総合研究所上席総括研究員兼教育支援研究部長）	千田　耕基（国立特別支援教育総合研究所上席総括研究員兼教育支援研究部長）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	一人一人のニーズに応じた教育 －聴覚障害Ⅰ－	聴覚障害教育の歴史、聴覚障害児に対する教育の内容・方法等について解説する。	濱田　豊彦 (東京学芸大学准教授)	濱田　豊彦 (東京学芸大学准教授)
5	一人一人のニーズに応じた教育 －聴覚障害Ⅱ－	特別支援教育における聴覚障害児の教育、交流及び共同学習の在り方等について解説する。	濱田　豊彦 (東京学芸大学准教授)	濱田　豊彦 (東京学芸大学准教授)
6	一人一人のニーズに応じた教育 －知的障害Ⅰ－	知的障害教育の歴史、知的障害児に対する教育の内容・方法等について解説する。	宮﨑　英憲 (東洋大学教授)	宮﨑　英憲 (東洋大学教授)
7	一人一人のニーズに応じた教育 －知的障害Ⅱ－	特別支援教育における知的障害児の教育、交流及び共同学習の在り方、等について解説する。	宮﨑　英憲 (東洋大学教授)	宮﨑　英憲 (東洋大学教授)
8	一人一人のニーズに応じた教育 －肢体不自由教育－	肢体不自由教育の歴史、肢体不自由児に対する教育の内容・方法、特別支援教育における肢体不自由児の教育（重複障害への対応）等について解説する。	木舩　憲幸 （広島大学大学院教授）	木舩　憲幸 （広島大学大学院教授）
9	一人一人のニーズに応じた教育 －病弱教育－	病弱教育の歴史、病弱・身体虚弱児に対する教育の内容・方法、特別支援教育における病弱児の教育、交流及び共同学習の在り方等について解説する。	山本　昌邦 (横浜国立大学名誉教授)	山本　昌邦 (横浜国立大学名誉教授)
10	一人一人のニーズに応じた教育 －言語障害教育－	言語障害教育の歴史、言語障害児に対する教育の内容・方法、特別支援教育における言語障害児の教育の在り方等について解説する。	松村　勘由 (国立特別支援教育総合研究所総括研究員)	松村　勘由 (国立特別支援教育総合研究所総括研究員)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
11	一人一人のニーズに応じた教育 －情緒障害教育－	情緒障害教育の歴史、情緒障害児に対する教育の内容・方法、特別支援教育における情緒障害児の教育、交流及び共同学習の在り方等について解説する。	大南　英明（帝京大学教授）	大南　英明（帝京大学教授）
12	一人一人のニーズに応じた教育 －重複障害教育Ⅰ－	重複障害教育の歴史、重複障害児に対する教育の内容・方法、特別支援教育における重複障害児の教育の在り方等について解説する。	木舩　憲幸（広島大学大学院教授）	木舩　憲幸（広島大学大学院教授）
13	一人一人のニーズに応じた教育 －重複障害教育Ⅱ－	特別支援学校(盲学校、聾学校、養護学校)における重複障害児に対する教育の現状及び指導の実際について紹介し、課題を明らかにして、今後の在り方について解説する。	木舩　憲幸（広島大学大学院教授）	木舩　憲幸（広島大学大学院教授）
14	一人一人のニーズに応じた教育 －発達障害教育Ⅰ－	発達障害の定義、これまでの発達障害児に対する教育の経緯等について解説する。ここでいう発達障害とは、知的障害、自閉症、学習障害（LD）、注意欠陥多動性障害（ADHD）、アスペルガー症候群を含むものとする。	柘植　雅義（兵庫教育大学大学院教授）	柘植　雅義（兵庫教育大学大学院教授）
15	一人一人のニーズに応じた教育 －発達障害教育Ⅱ－	発達障害のうち、特に自閉症及び高機能自閉症について、現状を紹介し、課題と今後の在り方について解説する。	柘植　雅義（兵庫教育大学大学院教授）	柘植　雅義（兵庫教育大学大学院教授）

＝ 幼児の教育と保育（‘０４）＝（Ｒ）

〔主任講師：　林　　信二郎（川口短期大学教授）〕
〔主任講師：　岡崎　友典　（放送大学准教授）　〕

全体のねらい

すべての子どもは、家庭に生まれ、地域との接触をもちつつ、その多くが保育所か幼稚園をも生活の場として幼児期を過ごす。未成熟という発達的特徴をもつ幼児期には、養護と教育が一体となって進められなければならない。それらの場がそこで生活し育つ幼児自身にとって望ましい生育環境としてあるためにはどのような発達条件が整なうことが必要かを考察する。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	幼児を育てること	まず、幼児を育てることにかかわる用語としての保育と教育についての概念を整理する。次いで、幼児期には何を育てるべきかをめぐっての様々な立場からの願いを、育つ主体である幼児の立場をも視点において取り上げる。	林　信二郎（川口短期大学教授） 岡崎　友典（放送大学准教授）	林　信二郎（川口短期大学教授） 岡崎　友典（放送大学准教授）
2	幼児期の発達的特徴と保育	幼児期の教育・保育のあり方を特色づけるものは、その発達的特徴によるところが大きい。発達とは何か、幼児期の発達的特徴をいかにとらえるべきか、幼児期の発達の課題と保育、幼児教育の方法的特質などを取り上げる。	林　信二郎	林　信二郎
3	家庭での生活とそこでの育ち	現代の家族はその構造、機能の両面にわたって大きな変化を経験している。母親の役割、父親の役割、しつけ、育児不安と過保護、母親による管理など、家庭における子育ての現状と課題、望まれる在り方などを取り上げる。	岡崎　友典	岡崎　友典
4	幼稚園教育の特質	意図的教育の場としての幼稚園が幼児に対してどのような生活の場として用意されているのかを、その目的、内容、方法から明らかにする。合わせて、幼稚園教育の現状が多様な姿で存在していることの実態を明らかにし、その問題点をも取り上げる。	林　信二郎	林　信二郎
5	保育所保育の特質	児童福祉施設としての保育所が乳幼児に対してどのような生活の場として用意されているのかを、その目的、内容、方法から明らかにする。合わせて、保育所の源流と課題、社会事象としての保育所の役割についても取り上げる。	同　上	同　上
6	地域と幼児の生活	幼児の生活の場の一つである地域社会が変容してきた姿を明らかにし、現在子どもたちがそこでどのような育ちをしているのかを、子どもたちの遊び環境の様子から、プレーパークなどの具体的事例などを取り上げる。	岡崎　友典	岡崎　友典
7	環境を通しての教育	幼児教育の基本とされている「環境を通して」行うという間接教育の原理の意味するものを明らかにし、幼児を取り巻く環境の変化を捉え、保育における環境構成のあり方を、物的、人的、空間的、雰囲気的などから取り上げ考察する。	林　信二郎	林　信二郎

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
8	遊びを通しての教育	幼児の生活の極めて大きな部分を占める遊びのもつ意味を、遊びをめぐる諸理論や実際の姿から、子どもはなぜ遊ぶのか、遊びを成立させるものは何か、遊びを豊かにし、成長発達的意味をもつものとするにはどのような配慮が必要かなどを取り上げる。	林　信二郎	林　信二郎
9	幼児教育の遺産(西欧、日本)	幼児期の教育・保育を考えるに当たって、その歴史から学べるものが少なくない。幼児期の教育のあり方を系統的に論じ、その基礎付けをした先駆者と、そのもつ教育思想を実践し、幼児教育施設を開設した先駆者たちを取り上げる。	同　上	同　上
10	幼児を理解するということ	指導にあたって、幼児理解が不可欠であるにとどまらず、真の理解はすでに優れた指導である。どのような幼児観、子ども理解をもつかは、その保育のあり方を大きく左右する。良さを見取る目を大切にしつつ幼児理解のあり方を取り上げる。	同　上	同　上
11	望ましい保育者の資質とは	保育者の役割の取り方をめぐっては、その指導性を強く求める立場と、それを控えて見守るべきとする立場とがある。保育をする者に求められるものとは何か、保育者論とその専門性などについて、特性的側面と状況的側面から取り上げる。	同　上	同　上
12	幼稚園・保育所と小学校の連携	家庭、幼稚園 or 保育所を経験した全ての幼児が小学校へと進んでいく。入学を境とするその前後の生活環境がそこを通過する幼児(児童)にとって充実した意味のあるものであるにはどうあるべきか、その現状と望ましい連携のあり方について取り上げる。	同　上	同　上
13	地域における子育て支援	育児支援が必要とされるにいたっている諸要因を探るとともに、国や地方公共団体の子育て支援計画、幼稚園や保育所における相談援助活動、地域で自主的に活動を展開している子育て相談ネットワークなどを取り上げる。	同　上	同　上
14	多文化化と教育・保育	国際化の進展の中で、文化的背景を異にする様々な人々が私たちの身のまわりに生活するようになっている。自国の文化、価値観への同化を求めるのではなく、相互理解、相互依存性の育成が求められている。	岡崎　友典	岡崎　友典
15	幼児の教育と保育をめぐる現状と課題	幼児期の保育・教育をめぐっては様々な期待や困難が制度上、立場上存在している。具体的には知的教育をめぐってもその一つであるが、保育における様々な両義性ともいえるものをめぐっての現代的課題を取り上げる。	林　信二郎 岡崎　友典	林　信二郎 岡崎　友典

＝　生徒指導（‘０６）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：　住田　正樹（放送大学教授）　〕
〔主任講師（現職名）：　新井　郁男（上越教育大学名誉教授）〕
〔主任講師（現職名）：　岡崎　友典（放送大学准教授）　〕

全体のねらい

生徒指導は、学校教育において教科教育と同様、あるいは場合によってはそれ以上に重要視される不可欠の要素である。近年、学校内外で児童、生徒の問題行動が多発し、また内容的にも深刻化する中で、生徒指導の重要性はますます高まってきている。しかし、今日、わが国の学校で実際に行われている生徒指導が高い評価を得られているかといえば、それは疑問である。本講義では、生徒指導の特性と意義および機能を学校教育システム全体との関わりの中で明らかにし、問題行動の現状と生徒指導の実際とを理解した上で、生徒指導のあるべき姿を具体的に検討していく。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	生徒指導の理念と歴史	生徒指導とは何か、その概念はどのような背景のもとで、いつ、どのように形成されたのだろうか。また、その理念は学校教育の体系の中にどう位置付けられ、展開されてきたのだろうか。ここでは、まず生徒指導の概念を整理し、その形成の背景と理念の変遷を跡付けることで、生徒指導を学校教育全体の視点から積極的に検討し評価するという姿勢を明確にしていく。	新井　郁男（上越教育大学名誉教授）	新井　郁男（上越教育大学名誉教授）
2	学校機能としての生徒指導	学校の持つ諸機能の中にあって生徒指導が果たす基本的な役割とその意味、あるいは学校教育システム全体の中での位置付けについて、総合的な視点から明らかにしていく。	新井　郁男	新井　郁男
3	学校文化と生徒集団	生徒を理解するためには、生徒あるいは生徒集団に特有の行動様式や価値志向、つまり生徒文化を理解しなければならないが、さらに生徒の行動を規制したり、促進したりする学校文化をも理解しなければならない。この回では生徒理解の方法について考察していく。	住田　正樹（放送大学教授）	住田　正樹（放送大学教授）
4	教師生徒関係	教師と生徒の関係のあり方は生徒指導の内容や効果を左右する重要なファクターである。教師のどのような指導態度に生徒はどのように反応するのか、生徒指導の効果を高めるために教師はどのような立場に立ち、どのような態度をとればよいのかについて考察する。	住田　正樹	住田　正樹

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	学習指導と生徒指導	生徒指導の役割と意味に関して、特に教科教育（学習指導）との関係という観点から明らかにする。	新井　郁男	新井　郁男
6	キャリア教育	学校教育は職業生活への準備段階としてもきわめて重要な意味を持っている。キャリア教育あるいは職業教育という側面から、生徒指導を考える。	新井　郁男	新井　郁男
7	小学校における生徒指導	実際の生徒指導のあり方は、初等・中等の諸学校段階によっても異なる特性と内容を持っている。ここでは、まず小学校段階における生徒指導の実際を概観し、実践の具体的なあり方について検討する。	柳生　和男（文教大学教授）	柳生　和男（文教大学教授）
8	中学校における生徒指導	前回の小学校段階に続き、中学校における生徒指導の実際を概観して、その実践の具体的なあり方について検討する。	柳生　和男（文教大学教授）	柳生　和男（文教大学教授）
9	高等学校における生徒指導	前二回の概観と検討をうけ、高等学校における生徒指導の実際を紹介して、実践の具体的なあり方について考察する。とくに不本意就学、中途退学への対応について検討する。	岡崎　友典（放送大学准教授）	岡崎　友典（放送大学准教授）
10	生徒指導と家庭との連携	生徒指導は、十分な家庭との連携があってはじめて効果を発揮するものである。学校と家庭との間でどのような連携があり得るのか、擬似的な家族・親子関係の実践を検討する。	岡崎　友典	岡崎　友典
11	生徒指導と地域社会との関わり	教科教育と異なり、生徒指導にとっては地域社会との密接なつながりも非常に重要な意味を持っている。学校と地域の連携について大都市周辺地区の事例を検討する。	岡崎　友典	岡崎　友典

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	問題行動の現状	子どもたちの問題行動への対応は、生徒指導に不可欠の要素である。ここでは、まず生徒指導に先立つ子どもたちの問題行動の現状について、具体的な統計資料や事例をもとに理解を深める。	岩永　雅也	岩永　雅也
13	問題行動の理解とカウンセリング1	児童・生徒たちの問題行動は、どういう意味をもっているのだろうか。問題行動の提起している意味は何なのかを臨床心理学の立場から考察し、解決への方法を考える。	小野けい子（放送大学教授）	小野けい子（放送大学教授）
14	問題行動の理解とカウンセリング2	問題行動をめぐって、児童・生徒に、また父母に、どう接し、どうしてゆけばいいのか、教育相談とスクールカウンセリングの実際を通して、そのあるべき姿を考える。	小野けい子	小野けい子
15	生徒指導の課題	社会が急激に変化していくなかで生徒の考え方や行動も多様化し、またさまざまな問題行動が生じるようになった。こうした状況に対応していくために学校はどのような指導体制をとればよいのか、また教師はどのような指導活動をしていけばよいのか、また社会は学校や教師に対してどのような役割を期待しているのかについて考え、今後の生徒指導のあり方を考える。	住田　正樹	住田　正樹 新井　郁男 小野けい子 岡崎　友典 岩永　雅也

＝　授業研究と談話分析（‘０６）＝（Ｒ）

〔主任講師（現職名）：秋田　喜代美（東京大学大学院教授）〕

全体のねらい

授業は児童期・青年期における教育と学習の場の中心である。授業をどのように研究し分析できるのかを近年の教育心理学や学習科学の視点を中心にして明らかにすることによって、共同の中で学ぶ過程、授業をデザインする過程について考えていく。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	授業をとらえる視座	授業は学校教育において学習を形成する要である。授業はどのような視点から分析することができるのか。その概要と、授業をめぐる今日の教育課題をふまえて解説する。	秋田喜代美（東京大学大学院教授）	秋田喜代美（東京大学大学院教授）
2	授業研究の展開	授業を改善するために、教師たちの手によって、あるいは行政や研究者の手によって行われてきた授業研究にはどのようなアプローチがあるのか、授業研究の歴史と各アプローチの特色を考える。	同　上	同　上
3	カリキュラムと授業のデザイン	授業は教育課程に基づいて実施される。カリキュラムと授業のデザイン、学習環境のあり方について、学習科学が近年示してきている知見をもとにして、デザインの原理を考える。	同　上	同　上
4	教室談話の特徴	授業は話しことばのやりとりで成り立っている。そうしたやりとりは教室談話とよばれ，授業や教室，学校に独特の言い回しやルールをもつ。教室談話を捉える視点，コミュニケーションを切り口として授業を研究するための視点を考える。	藤江　康彦（関西大学准教授）	藤江　康彦（関西大学准教授）
5	教室談話と学習	教室での話し合いについて、学習や理解という認知活動の側面に関して考える。教室の中で話し合いを通して子どもたちはどのように学習を深めていくのか、構成主義や社会文化アプローチという視点から考察する。	秋田喜代美（東京大学大学院教授）	秋田喜代美（東京大学大学院教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
6	リテラシーの習得と談話コミュニテイの形成	教科の授業では、その学問原理固有の考え方や概念、表現や表記方法といったリテラシー、たとえば読み書きリテラシー、科学リテラシー、数学リテラシー等を子どもたちは学んでいく。授業におけるリテラシーの習得過程について検討する。	秋田喜代美（東京大学大学院教授）	秋田喜代美（東京大学大学院教授）
7	テキストの理解過程	教科書など教材の文章を理解することは学習において重要だが、では「文章を理解する」とは、具体的にどういう状態なのだろうか。文章の理解には「文章を覚えている」「内容を活用できる」の両者があり、それぞれについて文章理解研究の近年の知見をもとに解説する。	深谷　優子（東北大学大学院准教授）	深谷　優子（東北大学大学院准教授）
8	テキストからの学習	前時間につづいて「内容を活用できる」という面について、考える。テキストから学習するために、心の中でどのような心理的活動が行われているのか、またテキストからの学習を支援するための学習環境のあり方について検討する。	秋田喜代美（東京大学大学院教授）	秋田喜代美（東京大学大学院教授）
9	学習意欲を高めるテキストと活動	学習への意欲にはある教材や授業への興味関心を継続的に喚起していくことが必要である。興味や好奇心はどのようにして生じるのかという心理過程と、そのためにはどのような教材と配列の条件が必要なのか、どのような活動が好奇心をもたらすのかを考えていく。	同　上	同　上
10	協働学習の過程	多くの授業では、個人、小グループ、一斉学習が組み合わさって授業が実施される。仲間と共に学びあう学習の過程はどのように進むのか、授業においてどのように集団を組織すると有効であるのかを解説する。	同　上	同　上
11	メデイアを活用した授業	コンピュータやインターネットを活用した学習は、従来の教授・学習形態の代替物というよりも、むしろ選択の幅を増やし補うものだと考えられる。新しいツールによる学習の例を取り上げながら、紙媒体での文章からの学習との共通点および相違点を整理する。	深谷　優子（東北大学大学院准教授）	深谷　優子（東北大学大学院准教授）
12	授業における学習評価のあり方と方法	授業における評価は，教師には実践を省察するための，生徒には学習をモニタリングするための手がかりをもたらす。今日のカリキュラムの多様化に応じ，よりよい学習環境を創出するための評価活動のあり方やその方法を学ぶ。	藤江　康彦（関西大学准教授）	藤江　康彦（関西大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
13	教師の即興性と実践的知識	授業中の子どもたちの発言など、予期せぬできごとに教師はどのように対応しているのだろうか。教師の即興性を成り立たせている実践的知識のあり方について考え、教師の専門性とは何かを明らかにする。	秋田喜代美（東京大学大学院教授）	秋田喜代美（東京大学大学院教授）
14	授業研究と学校文化	教師の専門性開発としての授業研究のあり方について、アクションリサーチという概念を中心に考える。また学校全体で校内研修として授業研究を行う際にどのようなシステムを考えることができるのかを学校文化という視点から考えていく。	同上	同上
15	教師の生涯発達と授業づくり	授業を行うことに熟達化していくとはどのような変化が心理的に生じることだろうか、デザイン、実施、評価の過程における変化を考える。熟達化と生涯発達という視点から、授業と授業研究のあり方を考えていく。	同上	同上

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	専門科目	科目コード	1827103	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　乳幼児・児童の心理臨床（‘07）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：　滝口　俊子（放送大学教授）〕

講義概要

人生の基盤となる乳幼児期・児童期に関する心理臨床の理論と実際を紹介する。親・親代理者、保育・教育に関わる人、地域社会の関係者、心理臨床を目差す学生など、子どもに関心のある多くの方々と、人間の成長発達の基盤である乳幼児期・児童期について考え合いたい。全ての回の講師は、子どもに関わる心理臨床の第一人者である。

授業の目標

乳幼児・児童の心理臨床の理論と実際を学び、子どもたちの健やかな成長に寄与する。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	子どもの心理臨床の基盤	京都大学名誉教授河合隼雄先生をゲストにお迎えし、子どもの心理臨床の基盤であるクライエントと臨床家との関係性の理解を深めることを目差す。	滝口俊子（放送大学教授）	滝口俊子（放送大学教授）
2	成長と発達の臨床理論	子どもと臨床場面で接するために必要な、発達的な視点をもった代表的な臨床理論を紹介する。	妙木浩之（東京国際大学教授）	妙木浩之（東京国際大学教授）
3	子どものアセスメントの理論と実際	アセスメントの方法である、行動観察、面接、心理検査等を概観する。また実施上の留意点、目的に添った検査の選択、組み合わせ、医学的診断情報の活用、投影法的質問の仕方についても紹介する。	藤掛明（聖学院大学講師）	藤掛明（聖学院大学講師）
4	遊戯療法の理論と実際	遊戯療法（プレイセラピー）についての理論と、実際上の留意点について概説する。	妙木浩之（東京国際大学教授）	妙木浩之（東京国際大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	箱庭療法の理論と実際	岡田康伸教授をお訪ねして、我が国の心理臨床において効果を上げている箱庭療法について、紹介する。	滝口俊子(放送大学教授)	滝口俊子(放送大学教授)
6	コラージュ療法の理論と実際	放送大学准教授佐藤仁美氏をゲストに、コラージュ療法の我が国における発展・工夫、現場での活用法を紹介する。	滝口俊子(放送大学教授)	滝口俊子(放送大学教授)
7	動作法の理論と実際	鶴光代教授をゲストに、動作法の理論と実際、子どもへの適用について、紹介する。	滝口俊子(放送大学教授)	滝口俊子(放送大学教授)
8	不登校の心理臨床	不登校の子どもたちへの新たなアプローチとして、従来の相談室モデルに基づく心理臨床に加えて、地域援助モデルに基づく訪問カウンセリングの可能性を探る。ゲストに京都文教大学准教授香川克氏を迎える。	高石浩一(京都文教大学教授)	高石浩一(京都文教大学教授)
9	保護者・関係者との関わり	専修大学教授吉田弘道氏をゲストに、乳幼児・児童の心理臨床において重要な保護者・関係者との関わりについて紹介する。	滝口俊子(放送大学教授)	滝口俊子(放送大学教授)
10	赤ちゃんと家族の出会いの心理臨床	赤ちゃんのこころを育み、家族の発達を支える心理臨床について紹介する。	橋本洋子(山王教育研究所スタッフ)	橋本洋子(山王教育研究所スタッフ)
11	地域における子育て支援	福岡市の大学の生涯学習施設「みんな塾」における、心理臨床と保育をマッチした支援活動の展開を紹介する。	一ノ瀬節子(筑紫女学園大学教授)	一ノ瀬節子(筑紫女学園大学教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	児童養護施設における心理臨床	昨今増加している被虐待児を多数受け入れるようになって、児童養護施設は従来の生活支援に加えて、虐待治療の心理臨床機能を併せ持つ必要性が高まってきている。組織の中で、また生活の場で心理臨床をいかに行うか、原理的な面からその実際までを学習する。	高石浩一(京都文教大学教授)	高石浩一(京都文教大学教授)
13	スクールカウンセリング	東京都のスクールカウンセラー坂倉重雄氏をゲストに、教育現場における心理臨床であるスクールカウンセリング活動と課題について紹介する。	滝口俊子(放送大学教授)	滝口俊子(放送大学教授)
14	保育カウンセリング	福岡市の保育カウンセラー村山尚子氏をゲストに、子どもが育つ基礎である乳幼児期に関わる保育カウンセリングの実際について紹介する。	滝口俊子(放送大学教授)	滝口俊子(放送大学教授)
15	たましいの働き	河合隼雄先生をお訪ねし、児童文学・音楽・絵画・映画など心理臨床の周辺に視野を拡げ、たましいの働きに目を向ける。	滝口俊子(放送大学教授)	滝口俊子(放送大学教授)

＝　カウンセリング概説（‘０５）＝（Ｒ）

〔主任講師：　馬場　謙一（中部大学教授）　〕
〔主任講師：　橘　　玲子（新潟青陵大学大学院教授）〕

全体のねらい

カウンセリングについて方法や理論、効果などについて概説する。カウンセリングの基本であるクライエント・カウンセラー関係を重視し、ここで起こる心の動きや成長の過程を考える。この講義では特定の学派に立つものではないが、しかし重要な理論については紹介する。なお個人カウンセリングだけではなく、児童の心理療法、グループカウンセリングやコミュニティにいかされるカウンセリングについても若干ふれたいと考えている。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	カウンセリングの歴史と定義	カウンセリングの成立に至る歴史を述べ、次いでフロイトの精神分析とロジャーズの理論がいかに生まれたかを述べる。	馬場　謙一（中部大学教授）	馬場　謙一（中部大学教授）
2	カウンセリングの適用と倫理	カウンセリングがおこなわれている領域、言葉の問題やクライエントの復原力について述べる。さらにカウンセラーの倫理についてもふれる。	橘　玲子（新潟青陵大学大学院教授）	橘　玲子（新潟青陵大学大学院教授）
3	カウンセリングの理論と方法	カウンセリングの方法、カウンセリングの学派について述べる。	馬場　謙一	馬場　謙一
4	カウンセラーの態度	フロイト、ロジャーズによって提案されているカウンセラーの態度、さらにカウンセラーが目指すものについても述べる。	馬場　謙一 橘　玲子	馬場　謙一 橘　玲子
5	カウンセリングの準備	カウンセリングを始めるまでに、カウンセラーはどのような準備を整えるべきか、カウンセリング開始前のインテーク面接はどのようになされるべきかを述べる。	馬場　謙一	馬場　謙一

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
6	カウンセリングにおける見立て	クライエントの病状、病態について把握し、疾病の契機や経過について理解をもって、カウンセリングをおこなうことの大切さを述べる。	馬場　謙一	馬場　謙一
7	カウンセリングの約束	カウンセリングの開始にあたって、時間や料金、場所、期間などの具体的な取り決めをしなくてはいけない。この約束を取り交わすことの重要性について述べる。	滝口　俊子（放送大学教授）	滝口　俊子（放送大学教授）
8	カウンセリングの実際（1）	力動的な立場から見た場合、カウンセリングの過程はどのように展開するかを述べる。	馬場　謙一	馬場　謙一
9	カウンセリングの実際（2）	ロジャーズのクライエント中心療法から見た場合、カウンセリングの過程はどのように展開するかを述べる。また、カウンセラーの応答についてもふれる。	橘　　玲子	橘　　玲子
10	カウンセリングの実際（3）	カウンセリングを進めていると、クライエントの間にいろいろなことが起きてくる。これらの具体的な事柄とその対応について考える。	同　上	同　上
11	カウンセリングの理論（1）	フロイト、ユング、ロジャーズによるパーソナリティの理解と無意識の考え方などを述べる。	同　上	同　上
12	カウンセリングの理論（2）	認知・行動療法についての考え方や方法について述べる。	神村　栄一（新潟大学教授）	神村　栄一（新潟大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
13	児童の心理療法	児童には言葉でカウンセリングをおこなうことは難しいので、遊びや絵画などの言語によらない心理療法をおこなうが、児童の心理療法の歴史や方法について述べる。	橘　玲子 佐藤　仁美(放送大学准教授)	橘　玲子 佐藤　仁美(放送大学准教授)
14	グループ・カウンセリングについて	カウンセリングは個人に対しておこなうだけではなく集団でおこなうこともある。集団でおこなわれる場合の特徴や方法について述べる。	橘　玲子	橘　玲子
15	コミュニティ・アプローチ	学校臨床、ＨＩＶ患者への支援、被害者へのサポートなど、地域での支援とカウンセリングの関係について述べる。	神村　栄一	神村　栄一

＝　スクールカウンセリング（‘０５）＝（TV）

〔主任講師：　滝口　俊子（放送大学教授）〕
〔主任講師：　倉光　　修（東京大学大学院教授）〕

全体のねらい

学校において行われている、カウンセリングの実際を紹介する。公立の全中学校に配置されたスクールカウンセラーは、教師・親・地域と密接に連携しつつ、子どもたちの健やかな成長に取り組んでいる。スクールカウンセリングは決して密室のカウンセリングのみではなく、学校教育の中での児童・生徒に適する方法を模索しているのである。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	カウンセリングと教育	京都大学名誉教授 河合隼雄先生をゲストにお迎えして、教育とカウンセリングの共通点と差異点をお話いただき、教師とカウンセラーと親と社会との協働について考える。	滝口　俊子（放送大学教授）	滝口　俊子（放送大学教授）
2	個と集団	教育におけるカウンセリングを考えるに当たって重要な視点である「個と集団」について、河合隼雄先生にお話いただき、スクールカウンセリングの意義を明確にする。	滝口　俊子	滝口　俊子
3	不登校	すでに紹介されたケース、あるいはモデルとして提示されたケースを素材にして、カウンセリングの技法を説明する。ボランティアによるロールプレイを交える予定である。ゲストに西井恵子氏を迎え、不登校の事例を検討する。	倉光　修（東京大学大学院教授）	倉光　修（東京大学大学院教授） ゲスト 西井　恵子（谷町こどもセンターセラピスト）
4	問題行動	すでに発表されているケース、あるいはモデルとして提示されるケースを教材にして、カウンセリングの技法を説明する。俳優によるロールプレイを交える予定である。ゲストに三船直子氏を迎え、問題行動の事例を検討する。	倉光　修	倉光　修 ゲスト 三船　直子（山口県立大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	発達障害	すでに発表されたケース、あるいはモデルとして提示されたケースを教材にして、カウンセリングの技法を説明する。ボランティアによるロールプレイを交える予定である。ゲストに大島剛氏を迎え、ADHDの事例を検討する。	倉光　修	倉光　修 ゲスト 大島　剛 (神戸親和女子大学准教授)
6	保護者のカウンセリング	すでに発表されているケース、あるいはモデルとして提示されるケースを教材にして、カウンセリングの技法を説明する。俳優やボランティアによるロールプレイを交える予定である。ゲストに鵜養啓子氏を迎え、保護者とのかかわりを検討する。	倉光　修	倉光　修 ゲスト 鵜養　啓子 (昭和女子大学教授)
7	教師のコンサルテーション	すでに発表されたケース、あるいはモデルとして提示されたケースを教材にして、カウンセリングの技法を説明する。ボランティアによるロールプレイを交える予定である。藪添隆一氏をゲストに迎え、教師に対するコンサルテーションを検討する。	倉光　修	倉光　修 ゲスト 藪添　隆一 (和歌山県立教育研究センター教育相談室長)
8	危機対応	学校の集団の中では、さまざまな危機が発生する。鹿児島大学教授久留一郎氏をゲストにお迎えして、学校におけるさまざまな危機への支援やPTSDについてとりあげ、スクールカウンセラーの役割について考える。	岡本　淳子 (立正大学教授)	岡本　淳子 (立正大学教授)
9	スクールカウンセラー配置の実際	東京都教育委員会への取材を通して、文部科学省によるスクールカウンセラー配置事業を地方自治体がどのように進めているのか、行政はスクールカウンセラーにどのようなことを期待しているのかなどについて明らかにする。また、臨床心理士会によるスクールカウンセラーへのサポートシステムについても紹介する。	岡本　淳子	岡本　淳子
10	外部関係機関の機能と連携	スクールカウンセラーの活動は、学校内部だけではなく、他の関係専門機関との連携を必要とする。児童相談所・子ども教育支援財団・スクーリングサポートセンター・こども心身医療研究所・少年鑑別所の元技官などをゲストに迎えて、連携のあり方を考え合う。	馬殿　禮子 (兵庫県立但馬やまびこの郷所長)	馬殿　禮子 (兵庫県立但馬やまびこの郷所長)
11	スクールカウンセラーのバックアップ体制	スクールカウンセラーが第一線の学校現場で十分に機能するには、後方におけるカウンセラーの教育と支援が不可欠である。スクールカウンセラーに対する研修会、スーパーヴィジョン、カンファレンス、サポートグループなどで、スクールカウンセラーの指導にあたってきた経験をもとに、バックアップ体制の必要性、その実際、その問題と課題のどについて知見を紹介する。	野島　一彦 (九州大学大学院教授)	野島　一彦 (九州大学大学院教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
12	学級担任との連携	教師とスクールカウンセラーが互いに専門家として認め合い話し合うことが、連携の基本である。よりよい連携を築いてゆくために、スクールカウンセラーの活用、その内容や基本的態度、教師による教育相談、生徒指導における立場と基本的態度、善人・悪人を投影されることなどについて考えたい。	山下　一夫（鳴門教育大学教授）	山下　一夫（鳴門教育大学教授）
13	スクールカウンセラーの体験	スクールカウンセラーとして活動しておられる方々とその任務のやり甲斐や楽しさ、話し合う。子どもたちの成長に貢献できるスクールカウンセラーの任務を、明らかにすることを目ざす。	滝口　俊子	滝口　俊子
14	幼稚園（保育所）でのカウンセリング	幼稚園・保育園において子育て支援の一環として行われているカウンセラーの活動を取り上げ、その役割とこれからの可能性について、スクールカウンセリングと比較しながら紹介する。	菅野　信夫（天理大学教授）	菅野　信夫（天理大学教授）
15	今後の課題と展望	平成７年度以来、スクールカウンセリング事業を推進してきた三団体（日本臨床心理士資格認定協会・日本臨床心理士会・日本心理臨床学会）スクールカウンセラー（学校臨床心理士）ワーキンググループ代表村山正治先生をゲストに迎えて、これまでの活動を振り返り、スクールカウンセリングの意義と課題について話し合う。	滝口　俊子	滝口　俊子

事務局記載欄	開講年度	平成20年度（第2学期）	科目区分	専門科目	科目コード	1521004	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 保育カウンセリング （’０８）＝ （R）

〔主任講師（現職名）：滝口　俊子（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：山口　義枝（放送大学准教授）〕

講義概要

昨今、幼児の心身の問題に親も保育者も戸惑うことが多く、保育場面へのカウンセラーの配置が求められています。すでに大阪府私立幼稚園のキンダーカウンセラー、日野市の保育カウンセラー制度のカウンセラーなどが活動しています。本講座では、保育カウンセリングの基本的知識と活動の実際を紹介します。

授業の目標

カウンセリングを学ぶためには、さまざまな学習を必要としますが、本講座では保育カウンセリングの理解に必要な情報を提供します。職業として保育カウンセリングに従事したいと望む方は、大学院において心理臨床学の全貌を学ぶことが必要です。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	保育カウンセリングとは	保育現場でのカウンセリング活動の実際について紹介する本講座の全体を見渡し、学習の目的を明確にする。 【キーワード】 保育カウンセリング　子どもの成長　子育て支援　保育者支援　関係性	滝口　俊子（放送大学教授）	滝口　俊子（放送大学教授）
2	今日の幼児教育	幼児教育の現状と課題について、篠原孝子氏（文部科学省幼児教育課教科指導官をゲストに迎え、お話をうかがう。 【キーワード】 今日の幼児教育	同上	同上
3	教育委員会の施策	保育カウンセラーを制度化した日野市の取り組みを、五十嵐俊子氏（日野市教育委員会）に、お尋ねする。 【キーワード】 保育カウンセラー制度	同上	同上
4	乳幼児の発達、発育、身体疾患	保育カウンセリングに従事するには、子どもの発達、発育、あるいはよく見かける身体疾患について、ある程度の知識が要求されよう。ここでは、それらに関する基本的な知識を習得することを目的とする。 【キーワード】 乳幼児の発達　発育　身体疾患	平竹　晋也（梅花女子大学准教授）	平竹　晋也（梅花女子大学准教授）
5	いわゆる軽度発達障害をめぐって	昨今、いわゆる発達障害といわれる疾患群に関して、耳にすることが多いと思われる。ここでは、それらに関する基本的な知識（正しい疾患理解、対応の仕方など）を習得することを目的とする。 【キーワード】 軽度発達障害　高機能自閉症　アスペルガー症候群　学習障害　注意欠陥多動性障害	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
6	幼児理解1 （乳幼児観察）	乳幼児観察とは、子どものもつ原始的心性や感情についての理解を深める、心理療法家の訓練の一つである。乳幼児観察を通して、乳幼児のコミュニケーションの特徴を紹介する。 【キーワード】 乳幼児観察　心理療法家としての訓練　非言語的交流　原始的心性	山口　義枝 （放送大学准教授）	山口　義枝 （放送大学准教授）
7	幼児理解2 （幼児のプレイセラピー）	プレイセラピーとは、言葉による内省・交流がまだ十分ではないクライエントに対して、遊びを使って交流する心理療法の一種である。幼児のプレイセラピーについて紹介し、心理的援助について考える。 【キーワード】 心理療法　発達の視点　遊びの治癒力	同上	同上
8	幼児理解3 （保育の場における幼児）	安心できる保育の場において、幼児は自己を発揮して能動的に遊び、友達と気持ちを合わせて楽しみを作り上げたり、気持ちがぶつかり合う葛藤場面を乗り越えるなど、さまざまな体験を重ねて成長していく。その途上で保育者が気になる子どもの行動はどのような心の現れなのかを考えることから、幼児理解を試みる。 【キーワード】 保育場面　気になる行動　幼児理解	坂上　頼子 （日野市保育カウンセラー）	坂上　頼子 （日野市保育カウンセラー）
9	保護者との関わり	保育において、保護者とのかかわりは重要である。保育カウンセラーによる個別相談・子育て懇談会・講演会などの外にも、送迎時の小さな気がかりを相談できることが保護者の安心感につながっている。事例を交えて関わりのあり方を考える。 【キーワード】 個別相談　子育て懇談会　講演会　送迎時の関わり	同上	同上
10	保護者会の持ち方	保護者同士と教師が交流を深め、話やすい雰囲気の保護者会の持ち方を紹介する。出会いのワークで初対面の緊張を和らげたり、子育てのストレスを緩和するリラクセーションを行うこともある。保護者が楽しく学べる保護者会の工夫を紹介する。 【キーワード】 出会いのワーク　共に成長する場	同上	同上
11	外部機関との連携	地域の園相互の連携はもとより、保健センターや子ども家庭支援センターなど、子育てを支援するさまざまな地域資源とのつながりをもつことは重要である。専門的な発達支援を行う療育機関・医療機関との連携が必要になることもある。それぞれの機関の役割を活かし合う社会的支援のネットワーク作りについて考える。 【キーワード】 子育て支援　発達支援　社会的支援　連携　ネットワーク作り	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
12	保育の責任者との協働	保育の現場の責任者と保育カウンセラーとの連携について、渡辺明子氏（日野市立幼稚園園長）と話し合い、課題について考える。 【キーワード】 保育とカウンセリング　保育者と保育カウンセラーの協働	滝口　俊子（放送大学教授）	滝口　俊子（放送大学教授）
13	保育臨床フィールドワーク	永年にわたって保育現場に保育相談員として関わってこられた大場幸夫氏（大妻女子大学教授）に、保育臨床フィールドワークについてお話しいただく。 【キーワード】 保育臨床保育者支援、保育相談、巡回相談	同上	同上
14	外国の保育カウンセリング	外国における保育カウンセリングの実際を、三林真弓氏（京都文教大学講師）に、お聞きし、我が国の保育カウンセリングの更なる発展を考える。 【キーワード】 国際的な状況　将来への視点	同上	同上
15	保育カウンセリングの展望	保育カウンセリングの現状と、今後の課題について考える。 【キーワード】 保育カウンセラーの資質　発展に向けての留意点	滝口　俊子 山口　義枝	滝口　俊子 山口　義枝

＝　人格心理学（‘０４）＝（TV）

〔主任講師：　榎本　博明（名城大学教授）　〕
〔主任講師：　桑原　知子（京都大学大学院教授）　〕

全体のねらい

私たちのパーソナリティは、どこまでが遺伝で決まるのか。パーソナリティ形成に影響する文化・環境的要因にはどのようなものがあるのか。人生の流れのなかで、パーソナリティはどのように発達していくのか。私たちの自分らしさというのは、どのように保たれるのか。パーソナリティはどのようにとらえることができるのか。パーソナリティの病理にはどのようなものがあり、どんな対処が必要なのか。このような疑問を解明すべく、パーソナリティについてさまざまな角度から考えていきたい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	パーソナリティ概念の問題	心理学で広く使用されているパーソナリティ（人格・性格・気質）の概念について、詳しく考察する。パーソナリティ概念は、本来「構成概念」であるが、使用される研究領域によっては、実体概念のようにも扱われており、研究上の混乱の一因にもなっている。そこで、従来の代表的な研究を通じて、パーソナリティ関連概念について整理し検討する。	若林　明雄（千葉大学教授）	若林　明雄（千葉大学教授）
2	パーソナリティの類型論と特性論	パーソナリティの理解の仕方として代表的な類型論と特性論について、代表的な理論を紹介しながら、その考え方の基本理念を検討するとともに、現在の動向を解説する。特に、ビッグファイブ理論から導かれた最近のタイプ理論についても、紹介する。	同　上	同　上
3	対人関係にあらわれるパーソナリティ	個人のパーソナリティの特徴は、対人関係の中に端的にあらわれる。対人的な開放性や他者のパーソナリティの認知、他者の目に映る自分と自己呈示など、対人関係場面におけるパーソナリティの問題を取り上げて解説する。	榎本　博明（名城大学教授）	榎本　博明（名城大学教授）
4	パーソナリティ発達の諸要因	パーソナリティの発達を規定する遺伝的要因および環境的要因については多くの研究が行われてきている。その中から代表的な研究例や議論を紹介し、また遺伝とも環境とも言いがたい自己形成的要因についても解説する。	同　上	同　上
5	親子関係とパーソナリティの発達	人のパーソナリティの発達にとって親子関係は大きな影響を持つと考えられている。発達初期の段階はもちろんのこと，青年期においても，親からの自立を含め青年自身のあり方が問われることになる。本講義では，これらの点について代表的な理論を紹介したい。	岡田　努（金沢大学准教授）	岡田　努（金沢大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
6	友人関係とパーソナリティの発達	親子関係とならんでパーソナリティの発達と関わりの深い友人関係について取り上げる。児童期から青年期にかけて，友人関係の質的な変容と，パーソナリティの関連についての理論を紹介する。	岡田　努	岡田　努
7	ライフサイクルとパーソナリティの発達	人生の各ステージによって社会的に求められる発達課題が異なってくる。私たちは、そうした社会的要請や期待に応えるかたちで自己を形成していく。とくに問題となる移行期に求められるパーソナリティの再編に焦点を絞って解説する。	榎本　博明	榎本　博明
8	想起される自己と自己物語	私たちは過去のさまざまな経験を抱えつつ現在を生きている。時間軸上で拡張される自己は、記憶機能によって同一性が保証されている。そうした自己の同一性の問題を自己物語という観点から検討し、人生を導く自己物語の文脈というものについて解説する。	同　上	同　上
9	自己の変容における語りの役割	私たちは他者との関わりを通して自己を社会につないでいく。私たちの自己の社会性の基盤は、聞き手の存在にある。自己の変革も他者に自己を語ることを通して行われていく。そのような自己物語の心理学の立場から、自己物語法についての解説を行う。	同　上	同　上
10	文化とパーソナリティ	パーソナリティ形成に及ぼす文化の影響は、さまざまな地域における異なった文化が研究対象となるにつれて、重要な要因であることが明らかになってきている。この講義では、文化とパーソナリティについての理論の変遷と、現代における文化的要因の意味について紹介する。	堀　正（群馬大学准教授）	堀　正（群馬大学准教授）
11	精神分析的心理療法への誘い	こころの悩みを抱えてセラピストのもとに訪れるクライエントが、一回の面接、数回の認知療法で良くなる場合もあるが、より深い理解・洞察を必要とする場合も少なくない。それを可能にする、無意識、転移、抵抗などの概念を軸とする精神分析的心理療法を紹介する。	滝口　俊子（放送大学教授） 丸田　俊彦（埼玉県立精神医療センター病院長）	滝口　俊子（放送大学教授） 丸田　俊彦（埼玉県立精神医療センター病院長）
12	精神分析的心理療法の最先端ーこころの量子論ー	心理療法において、いかに努力しようと、いかに訓練を積もうと、完全に相手の身になって感じ、考え、理解することはできない。可能なのは、「限りなく相手の視点に近づこうと努力すること」であり、その努力が治療的に働く。	丸田　俊彦	丸田　俊彦

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
13	ユングの人格理論	ユングはフロイトといったんは意気投合したのだが、その後考え方の違いを無視できなくなり、独自の理論を構築していく。ユングの人格についての考え方を、「元型」や、「普遍的無意識」といった概念をとり上げながら紹介する。	桑原　知子（京都大学大学院教授）	桑原　知子（京都大学大学院教授）
14	心理アセスメント1	自分を知るために心理テストなるものが存在する。心理テストにはどのようなものがあり、また、どこまで人格理解を助けるのであろうか？この回では質問紙法とよばれる心理テストを中心に紹介し、その扱い方についても解説する。	同　上	同　上
15	心理アセスメント2	この回では「投影法」とよばれる心理テストについて主に紹介する。心理テストにおいて重要だと考えられる、「妥当性」「信頼性」の概念、及び、心理療法の中でどのように心理テストが使われていくのかという点についても述べたい。	同　上	同　上

＝　発達障害児の心と行動（‘０６）＝（TV)

〔主任講師（現職名）：太田　昌孝（心の発達研究所長）〕

全体のねらい

発達障害は人生の早い時期に社会的諸関係のなかで現れ、その原因は脳機能障害にあり、知的障害、言語と学習障害、自閉症、注意欠陥／多動性障害（ADHD）等がある。本講座では知的障害等の発達障害を持つ子どもの心と行動を理解するために、発達的観点と学際的観点を基本に置き、心理・生理・病理を解説し、教育的支援の実践的基礎となることをねらった。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	発達障害とはなにか	発達障害は人生の早い時期に社会的諸関係のなかで現れ、その原因は脳機能障害にある。知的障害および言語と学習障害は認知機能に、自閉症、ADHDは行動に基づいて診断される。発達障害の概念、診断、支援についての概論を述べる。	太田昌孝（心の発達研究所長）	太田昌孝（心の発達研究所長）
2	アセスメント1 心と行動の理解	発達障害児の心と行動は、子ども側の要因と環境的要因の相互作用として現れる。子どもの認知発達段階と固有の不均衡さ、それに相応する情緒などの把握の仕方、さらに働きかけとの関連で如何に心と行動を客観的に理解するかについて述べる。	永井洋子（静岡県立大学教授）	永井洋子（静岡県立大学教授）
3	アセスメント2 心理機能と発達アセスメント	発達アセスメントをおこなう上で，心理機能の測定は不可欠である。知能、言語などの心理機能について、代表的な測定方法について論じる。	小池敏英（東京学芸大学教授）	小池敏英（東京学芸大学教授）
4	アセスメント3 脳の機能と生理	脳機能は、入力系、情報処理系、出力系に区分される。人の脳機能を無侵襲で評価可能な方法が、近年、種々開発されてきた。脳波、MRIなどの人の脳機能計測について触れ、発達障害に関する所見との関連で論ずる。	小池敏英（東京学芸大学教授）	小池敏英（東京学芸大学教授）
5	学習理論と発達支援	学習理論は、教育的働きかけの組み立てを考える上で、その枠組みを与えてくれる。学習理論は、行動主義的立場と認知論的立場に大きく分かれるが、障害の程度や内容を考慮した働きかけを行うためには、各理論の主張を理解することが求められる。	小池敏英（東京学芸大学教授）	小池敏英（東京学芸大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
6	発達障害の早期発見と対応	出生時のマススクリーニングは、知的障害（精神遅滞)の予防に貢献している。発達障害については本態的な医学的治療が可能でないことが多いが、早期発見と早期からの適切な親に対するガイダンスと子ども自身に対する発達援助の意義は大きい。	太田昌孝（心の発達研究所長）	太田昌孝（心の発達研究所長）
7	行動障害の理解と支援	自閉症、ADHDなどは、とりわけ多くの行動障害を持ちやすく、その対処に苦慮することが多い。子どもの認知や情緒の特徴を捉えた上で、人間的な成長を促す中での基本的な対処の考え方、さらに個々の行動障害への直接的な対処法などについて述べる。	永井洋子（静岡県立大学教授）	永井洋子（静岡県立大学教授）
8	知的障害の理解と支援　1	知的障害（精神遅滞)の定義，診断と分類，原因と病理について説明する。	太田昌孝（心の発達研究所長）	太田昌孝（心の発達研究所長）
9	知的障害の理解と支援2	知的障害の一つの臨床型であるダウン症候群について取り上げる。定義、医学的原因、分類、運動特性、言語特性、健康上の問題等についてまとめ、支援のあり方を考える。	奥住秀之（東京学芸大学准教授）	奥住秀之（東京学芸大学准教授）
10	重症心身障害児の理解と支援	重症心身障害児は、重度肢体不自由とともに重度知的障害を伴う。指導に際しては、視覚機能と聴覚機能の他覚的評価が大切である。また、働きかけに対する期待反応を理解し、さらに期待反応を促進する働きかけの中で、コミュニケーション活動を形成することが重要な課題となる。	小池敏英（東京学芸大学教授）	小池敏英（東京学芸大学教授）
11	自閉症の理解と支援	自閉症は、対人関係の障害、相互的意思伝達の障害、興味や活動範囲の狭さと常同性の３つで診断される。その背後にある特有な認知の歪みと発達段階の観点から、自閉症の状態像と療育目標や課題、留意点など、理解と対応の仕方について述べる。	永井洋子（静岡県立大学教授）	永井洋子（静岡県立大学教授）
12	注意欠陥/多動性障害(AD/HD)の理解と支援	AD/HD とは不注意と多動と衝動性の３組の行動症状からなる症候群である。AD/HD の特徴、検査と評価について述べ、それにもとづいた働きかけを学際的な観点も含めて述べる。	太田昌孝（心の発達研究所長）	太田昌孝（心の発達研究所長）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
13	学習障害の理解と支援	学習障害児は、聞く、話す、読む、書く、計算する、推論するなどの特徴を持つ。また、言語性LD、非言語性LD、包括性LD、注意・記憶性LDなどの分類があげられる。ここでは，定義、特徴，教育的配慮などについて述べる。	奥住秀之（東京学芸大学准教授）	奥住秀之（東京学芸大学准教授）
14	医学的治療1 精神医学的状態と薬物療法	発達障害の薬物療法の目的は、①本態的治療の為の薬物、②情緒障害、異常行動の改善を目的にする薬物　③経過で出現しやすい精神医学的状態に対する薬物に分けられる。行動の障害にしばしば使われる向精神薬について主として解説する。	太田昌孝（心の発達研究所長）	太田昌孝（心の発達研究所長）
15	医学的治療2 てんかんと関連する状態	発達障害にはしばしばてんかんが合併する。てんかんとその治療・対処法についての正しい理解は、発達障害児の教育的支援上不可欠である。	小林繁一（静岡県立子ども病院）	小林繁一（静岡県立子ども病院）

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	総合科目	科目ｺｰﾄﾞ	1628216	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　進化と人間行動（‘０７）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：　長谷川　眞理子（総合研究大学院大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：　長谷川　寿一　（東京大学大学院教授）　〕

講義概要

人間は明らかに生物界の一員であり、霊長類の中の一種である。しかし、社会通念としては、人間は他の動物とは異質な、あるいは超越した存在であるとみなされる場合がほとんどである。しかし、実際のところ、人間と他の動物との間の断絶はどれほど深いのか？　われわれが進化的な存在であるとすれば、現代人は進化的過去をどのように背負っているのか？　この講義では、一介のサルにすぎない「ヒト」と、テクノロジーを携え無数の文化を花開かせて、地球の征服者にのし上がった「人間」の間に横たわる諸問題を、進化と適応という観点から考えていきたい。

授業の目標

この講義では、次の事項について学ぶ。１）進化生物学の基本的な考え方と代表的な理論、特に自然淘汰と適応について。２）霊長類と人類の進化史、ヒトの心が進化した環境について。３）血縁関係の進化理論とヒトの家族関係をめぐる実証的研究。４）協力行動の進化理論、ヒトの社会的交換・公正感情・倫理観の生物的基盤。５）性淘汰の理論と実証的研究、ヒトの繁殖システムについて。６）言語と文化の起源と進化、ヒトはどのように特別なチンパンジーなのか。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	人間の本性の探求	人間の心理や行動に対して、伝統的な人文社会科学だけでなく、自然科学からアプローチすることの意義について解説する。「人間の本性」を巡る考え方の中では、「氏か育ちか」ということがくり返し問題にされてきたが、ここでは両極端の誤りを示し、二分法を越えた人間理解の道筋を示す。	長谷川眞理子（総合研究大学院大学教授） 長谷川寿一（東京大学大学院教授）	長谷川眞理子（総合研究大学院大学教授） 長谷川寿一（東京大学大学院教授）
2	進化と適応	進化とは生物の遺伝的な性質が時間と共に変化する過程である。ここでは中立進化と自然淘汰の２つの進化メカニズムを説明し、特に適応的な性質を生み出す自然淘汰について実例を挙げながら解説する。	長谷川眞理子（総合研究大学院大学教授）	長谷川眞理子（総合研究大学院大学教授）
3	行動の進化	行動を規定したり行動に影響したりする遺伝子について、行動遺伝学の研究例を示しながら解説する。行動はどのようにして進化するのか、行動と遺伝子の関係、またそこに作用する環境要因について考える。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	「種の保存」論と「利己的遺伝子」	動物の行動がなぜ進化するのかという問いに対して、しばしば「種の保存のため」という説明がなされてきた。ここでは種の保存論がなぜ誤りであるかを示し、自然淘汰が遺伝子とその乗り物である個体に対して作用することを説明する。	同上	同上
5	霊長類の進化と適応	ここではヒトを含む分類群である霊長類の進化、生態、適応について説明する。具体的には手足、眼（立体視・色覚）、生活史、脳の進化について解説する。脳の進化をめぐっては「社会脳仮説」を紹介する。	長谷川寿一（東京大学大学院教授）	長谷川寿一（東京大学大学院教授）
6	ヒトの心を生んだ進化環境	人類はチンパンジーの祖先と約 600 万年前に分岐した。ここではこの 600 万年間を、1）猿人の時代、2）初期のヒト属とエレクトスの時代、3）ネアンデルタールとサピエンスの時代に分けて説明し、我々の心の進化適応を生み出した環境について考察する。	長谷川眞理子（総合研究大学院大学教授）	長谷川眞理子（総合研究大学院大学教授）
7	血縁淘汰	近縁者間の協力行動の進化を考える理論的枠組みである血縁淘汰説について説明する。具体例としてアリやハチなどの社会性昆虫、鳥類や哺乳類のヘルパー行動を紹介する。	長谷川寿一（東京大学大学院教授）	長谷川寿一（東京大学大学院教授）
8	ヒトにおける血縁淘汰と家族関係	ヒトにおいて血縁淘汰は働くか？　家族、親族のきずなが血縁淘汰説でどこまで説明できるのか、さまざまな時代、社会、民族の援助行動や利他行動について、例を挙げながら説明する。また家族の間で生じる資源をめぐる対立関係についても述べる	同上	同上
9	協力行動の進化	ヒト以外の動物でも非血縁者どうしの間でしばしば協力行動がみられる。非血縁者間の協力行動の進化の枠組みを、相互扶助、共生、互恵的利他行動の観点から解説する。協力行動の代表的な進化ゲームとして、囚人のジレンマを用いた研究についても説明する。	同上	同上
10	ヒトの協力行動を支える心理	ヒトはどの動物にもまして非血縁者の間で協力行動が見られる。そのような協力行動がどのように築かれ、維持されるのか。また、裏切り者や社会的寄生にどう対抗するのか。ヒトの協力行動を支える心理や社会感情について説明する。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	ヒトにおける生活史パターンの進化	ヒトという生物は、子どもの成長期間が非常に長く、寿命も長い。多くの他の霊長類と異なり、離乳したあとも、ヒトの子どもが一人前になるまでには多くの世話を必要とする。また、ヒトの寿命は非常に長く、女性は、繁殖可能性がなくなったあとも長く生きる。このような生活史のパターンの変化と、ヒトの社会性や文化の発達との関連を考える。	長谷川眞理子（総合研究大学院大学教授）	長谷川眞理子（総合研究大学院大学教授）
12	性淘汰の理論	雄と雌はなぜ違うのか。性差はダーウィン以来、性淘汰の問題として取り上げられてきた。ここでは繁殖をめぐる競争関係を、配偶者獲得競争、配偶者選択、配偶者防衛行動などの観点から論じ、同性どうし、雌雄間の対立について説明する。	同上	同上
13	ヒトの繁殖と配偶システム	ここでは、他の動物との比較を通してヒトの繁殖行動の特徴を考察する。ヒトの配偶システムとして、一夫一妻、一夫多妻、（まれに）一妻多夫がみられるが、それぞれの生態学的要因について説明する。ヒトの子育ての特殊性についても論じる。	同上	同上
14	ヒトの配偶者選択と配偶者防衛	ヒトの配偶（夫婦、恋人）関係をめぐっては協力と対立が多様な形で現れる。ここではヒトの配偶者選択、恋愛感情、配偶者防衛、男女の対立と権力関係、性的嫉妬などについてみていく。	同上	同上
15	言語と文化	ヒトは遺伝的にはチンパンジーに非常に近いが、社会、文化的には両種の間には著しい隔たりがある。この違いをもたらす人間性の本質は、とくに言語と文化にあると言われる。では言語や文化はどのよう誕生し、進化したのか。近年の知見に基づき説明する。	長谷川眞理子（総合研究大学院大学教授） 長谷川寿一（東京大学大学院教授）	長谷川眞理子（総合研究大学院大学教授） 長谷川寿一（東京大学大学院教授）

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	専門科目	科目ｺｰﾄﾞ	1530801	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 裁判の法と手続 （’０８）＝（ＴＶ）

※この科目は「裁判と法の手続（’04）」の一部改訂科目です。
改訂回は2，4，5，6，9，12，14回です。

〔主任講師（現職名）：酒巻　匡（京都大学大学院教授）〕

〔主任講師（現職名）：山本　和彦（一橋大学大学院教授）〕

講義概要

法と裁判、とくに司法制度に関する現代的な課題を中心にとりあげ、現在何が問題とされ、どのような改革の課題が提出されているか、これに対して、現在進行形の制度改革の動きを取り入れながら、その将来を展望する。新しい問題を扱う場合が多いが、その前提として、法と裁判制度の現状や歴史的な背景をも説明する。

授業の目標

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	法の解釈・適用と裁判	裁判はいわゆる法的三段論法によって行われるものであるが、その内容を理解するとともに、現代的訴訟等で特に明らかになるその限界を考える。	山本　和彦（一橋大学大学院教授）	山本　和彦（一橋大学大学院教授）
2	司法権の範囲と機能（**※改訂回**）	国家三権の1つである司法権の他の国家権力及び自治的団体等との関係を、いわゆる審判権の範囲に関する判例や違憲法令審査権等を中心に考える。	同　上	同　上
3	裁判の歴史と日本の司法制度の近代化	現代日本の裁判制度は、西欧近代の裁判制度を移植しこれを発展させてきたものである。その過程を跡付けると共に、母法とされた西欧諸国の裁判の歴史についても概観する。	酒巻　匡（京都大学大学院教授）	酒巻　匡（京都大学大学院教授）
4	裁判を受ける権利と民事裁判（**※改訂回**）	憲法32条が保障している裁判を受ける権利の意義について、特に欧州諸国における戦後の発展などを受けて、公開原則等とも関連づけながら考える。 民事訴訟制度に要するコストとその負担の問題について、司法予算のあり方、法律扶助、弁護士費用の敗訴者負担などの個別の論点にふれながら考える。	山本　和彦	山本　和彦
5	裁判所の種類と機能（**※改訂回**）	最高裁判所・高等裁判所・地方裁判所・家庭裁判所・簡易裁判所それぞれの役割と現代的な意義について、上告受理制度・人事訴訟の家裁移管・少額訴訟制度等の問題にふれながら考える。	山本　和彦	山本　和彦
6	裁判外紛争解決（ADR）（**※改訂回**）	仲裁・調停などADRと言われる制度の現状・課題を検討し、民事訴訟の機能との関係でその充実・活性化の必要について、立法化の動き等とともに考える。	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
7	民事訴訟制度の現代的機能	民事訴訟の目的について従来の議論を紹介するとともに、行政改革・規制緩和が進む新たな日本社会において民事訴訟に期待されている役割について考える。	山本　和彦	山本　和彦
8	民事訴訟制度の改革と現代的課題	民事訴訟制度について、司法制度改革の中でも言及された様々な課題について、その迅速化・国際化・専門化などの要請に応える方策について考える。	同　上	同　上
9	刑事司法制度(1) 刑事法の機能と司法制度 （※改訂回）	刑事司法制度全体の仕組みと流れを解説すると共に、そこで適用実現されることになる刑法の基本的な原則と働きについても触れる。合わせて少年非行に対する少年法の扱いについても言及する	酒巻　匡	酒巻　匡
10	刑事司法制度(2) 犯罪と捜査	犯罪捜査に関する基本的な手続の概要を解説すると共に、とくに新しい捜査手法とその法的な統制に関する立法や議論について検討する。	同　上	同　上
11	刑事司法制度(3) 犯罪と裁判	刑事裁判手続の基本的な流れについて解説すると共に証拠に基づく事実の認定や証拠法の基本原則と犯罪捜査手続との関連についても解説する。	同　上	同　上
12	刑事司法制度の改革と現代的課題 （※改訂回）	司法制度改革の中心の一つである「裁判員制度」構想の概要について説明すると共に、これに伴う刑事司法制度改革案の全体像について説明する。 合わせて諸外国の国民の司法参加制度についても紹介する。	酒巻　匡	酒巻　匡
13	法律家の種類と機能	裁判官・検察官・弁護士のそれぞれの役割と現代的な意義について、司法制度改革における様々な制度改革にふれながら考えるとともに、その他の法律関係職種にもふれる。	山本　和彦	山本　和彦
14	法学教育の改革と法曹養成制度 （※改訂回）	司法制度改革の中で最大の争点の1つとされた法曹養成制度について、歴史的な経緯や諸外国の動向などにもふれながら、新たな法科大学院・司法試験・司法修習等の意義について考える。	同　上	同　上
15	司法制度の将来展望	講義の全体を踏まえて、司法制度改革と将来のあるべき司法の姿について、司法制度改革審議会委員であった方の参加を求める。	同　上	酒巻　匡 山本　和彦

＝　市民生活の財産法（‘０６）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：野村　豊弘（学習院大学教授）〕

全体のねらい

民法は、私人間の関係について規律する基本的な法である。民法全５編は、財産に関する総則、物権、債権の３編と家族に関する親族、相続の２編とに大別できる。本講義は、このうち、財産法について概観するものである。限られた時間で、民法の条文のすべてについて、詳細に説明することはできないので、重要な制度・仕組みを紹介するにとどまらざるを得ないが、民法以外の特別法についても、可能な限り、言及する。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	民法と民法典	まず、この講義全体の目的、民法の学び方などを述べる。次いで、民法の意義、民法の歴史、比較法の視点について述べる。	野村　豊弘（学習院大学教授）	野村　豊弘（学習院大学教授）
2	日本の民法典	明治期における民法の制定までの経緯(特に、ボアソナードによる旧民法および穂積・梅・富井による現行民法の起草に重点を置く)、その後現在に至るまでの主な民法改正・特別法の制定について述べる。特に、昭和22年の家族法改正、平成16年の現代語化に言及する。	同　上	同　上
3	人に関する法(1)～人と物～	人に関する法の第１回目として、民法における人と物の位置づけ、民法における人の扱いについて概観する。特に、民法が人を権利の主体、者を権利の客体としていることを述べるとともに、その２分法が科学・医学の発達によって揺らいでいることに言及する。	同　上	同　上
4	人に関する法(2)～権利の主体～	人に関する法の第２回目として、人が権利・義務の主体となることについて述べる。具体的に、権利能力、行為能力、制限能力者(未成年者・被後見人・被保佐人・被補助人)について解説する	同　上	同　上
5	団体に関する法	人(自然人)と並んで権利義務の主体となる法人について概観する。民法における社団法人・財団法人だけでなく、特別法による法人(中間法人法による中間法人など)も取り上げ、それらの違いについて明らかにする。	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
6	物に関する法(1) ～物とは何か～	物に関する法の第1回目として、物の意義、物権と債権の区別について述べる。具体的には、民法では、有体物を物といい、不動産(土地およびその定着物)と動産(不動産以外の物)に分けられることなどについて述べる。	同上	同上
7	物に関する法(2) ～所有権とその他の物件～	物に関する法の第2回目として、物の所有権およびその他の物権について述べる。所有権は、目的物の使用・収益・処分をその内容とし、権利の中でも、もっとも完全な権利と観念されており、それ以外の物権が所有権を制限するものであることを説明する。	同上	同上
8	物に関する法(3) ～所有権の移転～	物に関する法の第3回目として、所有権の移転について述べる。すなわち、所有権が当事者間では合意のみによって移転するが、第三者に対してそのことを対抗するためには、登記(不動産について)、引渡し(動産について)を必要とすること(対抗要件主義)について説明する。	同上	同上
9	契約に関する法(1) ～契約の成立～	契約に関する法の第1回目として、契約の成立について述べる。具体的には、契約の意義(意思表示・法律行為・契約自由の原則など)、契約の成立(申込みと承諾)、契約の有効要件、契約の解釈、代理制度について説明する。	同上	同上
10	契約に関する法(2) ～契約の実現～	契約に関する法の第2回目として、契約の実現について述べる。具体的には、契約の履行、契約の不履行(債務不履行に基づく損害賠償・契約の解除)について説明する。	同上	同上
11	契約に関する法(3) ～契約の履行確保～	契約に関する法の第3回目として、契約の履行確保について述べる。具体的には、契約が確実に履行されることを確保する手段である物的担保(留置権・先取特権・質権・抵当権など)、人的担保(保証)について説明する。	同上	同上
12	契約に関する法(4) ～売買契約～	契約に関する法の第4回目として、売買契約について述べる。民法は、13種類の典型契約を定めているが、売買契約は、物の所有権を移転することを目的とし、有償・双務契約の最も代表的なものである。そこで、売買契約における売主と買主の権利義務関係について説明する。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
13	契約に関する法(5) ～賃貸借契約～	契約に関する法の第5回目として、賃貸借契約について述べる。賃貸借契約は、物の貸し借りを目的とするものである。そして、借主が賃料を支払うことをその内容としている。そこで、賃貸借契約における賃借人と賃貸人の権利義務関係について説明する。特別法である借地借家法にも言及する。	同上	同上
14	不法行為に関す法(1) ～不法行為の基本原則～	不法行為に関する法の第1回目として、不法行為に関する基本原則について述べる。すなわち、不法行為制度の意義、不法行為の成立要件(故意・過失、因果関係、責任能力など)、効果(損害賠償、差止請求など)について説明する。	同上	同上
15	不法行為に関する法(2) ～不法行為の具体的類型～	不法行為に関する法の第2回目として、不法行為の具体的類型を取り上げて、それぞれについて説明する。民法に定める類型だけでなく、製造物責任法、自動車損害賠償保障法などについても言及する。	同上	同上

事務局記載欄	開設年度	平成19年度 第2学期	科目区分	専門科目	科目コード	1637401	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝ 雇用・福祉・家族と法（‘07）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：中嶋　士元也（放送大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：堀　勝洋（上智大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：大村　敦志（東京大学教授）〕

講義概要

『雇用・福祉・家族と法』は、人間の営みを支える生活関係である雇用関係、社会保障関係、家族関係をとりあげ、それらを主として法律学の側面から考察しようとするものである。そこでは、企業、国家、家族という現代の代表的な集団のあり方とそこに暮らす人々との係わりあいが法制度ないし法思想を通して明らかにされていく。

授業の目標

２１世紀がもたらすと予測されている社会の変容、特に少子高齢化に伴う雇用社会、福祉国家そして家族共同体の変容は急激であり、かつ顕著であるとみられている。そしてその変容はいかなる姿をもって現われようとしているか。この講義では、雇用・福祉・家族というそれぞれ異なる集団を一つの流れの中で取り上げて勉強することによって、社会の変容と法の関係を学ぶことを目標とする。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	雇用・福祉・家族と法の課題	雇用社会、福祉国家そして家族共同体は、現代に暮らす人々が何らかの形で必然的に係わりを有する代表的な集団である。それらは、それぞれの固有の目的を有する社会であると同時に「生活の保全」という目的に向けて相互に関連性を有して展開されていく。その観点から行われる本講義の目標をそれぞれの講師が予め明らかにする。	中嶋士元也	中嶋士元也 堀　勝洋 大村　敦志
2	雇用関係の成立－就業形態の多様化と法規整	雇用（労働）関係は契約の締結から出発する。どういう契約を成立させるかによって、被用者（労働者）の雇用社会における法的地位や待遇に大きな差異を生ずる。ここでは、契約の成立段階ならびに就業形態の多様化に伴う法的規整につき考察する。	中嶋士元也	中嶋士元也
3	雇用関係の展開（１）－労働条件の決定と変更のルール	雇用は成立を経て展開段階に入る。展開過程においては、多くの課題が生ずるが、まず労働者の「適正な労働条件の決定」が行われなければならない。しかし、使用者は、しばしば労働条件の変更を行おうとする。それらの際のルールはどのようなものであるかを探る。	中嶋士元也	中嶋士元也
4	雇用関係の展開（２）－賃金・労働時間・労災補償	雇用関係も民法上の契約自由の原則に従いつつも、労働条件の中核をなす賃金・労働時間・労災補償に関しては、特に労働者保護の観点から強い法的規制を行っている。これらにつき考える。	中嶋士元也	中嶋士元也

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	雇用関係の展開（3）－人事異動と企業内秩序	雇用関係は、契約に基づく使用者の指揮命令権の行使によって日常的に展開していく。雇用社会に一般的にみられる人事異動にはどのような根拠が必要であるか、その限界はどこにあるか。そのような課題を考察する。	中嶋士元也	中嶋士元也
6	雇用関係の終了－失業の予防と救済	継続的に展開してきた雇用関係もいつかの時点で、退職・定年によって終了し、場合によっては解雇・倒産等によっても終了する。他方、法はできるだけ、雇用の継続をもくろみ、また失業者の救済措置を講ずる。それらのことを考えてみよう。	中嶋士元也	中嶋士元也
7	社会保障のあらまし	社会保障は、いまや人々が安心して暮らすために必要不可欠になっている。また、社会保障は医療、年金、福祉など非常に広い範囲をカバーし、それに要する費用も膨大な額にのぼっている。本章では、このような社会保障について、総論的な問題を考察する。	堀　勝洋	堀　勝洋
8	医療の保障	人々が病気やけがをした場合には、医療が必要となる。医療保障制度は、すべての人が安心して医療を受けられるようにする仕組みである。本章では、このような医療保障制度の意義などについて考察する。	堀　勝洋	堀　勝洋
9	所得保障の仕組み	人々が高齢者や障害者になったり、失業したりした場合には、働けなくなって給料がもらえなくなる。このようなときに金銭給付を行う仕組みとしての、年金保険制度、雇用保険制度などの所得保障制度について学ぶ。	堀　勝洋	堀　勝洋
10	高齢者の介護保障	人間は誰しも年をとると、老化や慢性疾患などにより、介護が必要となることが多い。介護保険制度は、高齢者が介護を受けやすくするための仕組みである。本章では、高齢者の介護保険制度などについて考察する。	堀　勝洋	堀　勝洋
11	最低生活の保障	憲法25条は、国民に健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を保障している。このため生活保護制度が設けられて、あらゆる手段を講じても生活できない人々に対し、最低生活を保障するその原理・原則や給付について説明する。	堀　勝洋	堀　勝洋

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	家族の効果	親子・夫婦など家族関係にあることから生じる相互の権利義務について検討する。家族には、拘束的な側面があると同時に、生活保障的な側面があるが、この両面に留意する。	大村　敦志	大村　敦志
13	家族の成立	親子・夫婦などの家族関係がどのように成立するかについて検討する。あわせて、生殖補助医療による親子の形態についても言及する。	大村　敦志	大村　敦志
14	家族の病理	家族の病理・崩壊について検討する。一方で、児童虐待・DV、不貞、子どもの奪い合いなど人身・人格にかかわる問題を、他方、慰謝料や生活費・養育費など金銭にかかわる問題を取りあげる。	大村　敦志	大村　敦志
15	家族の変遷	カップルの多様なあり方について検討する。婚姻前の関係からスタートし、結婚・離婚・再婚と時系列にしたがって見ていく。	大村　敦志	大村　敦志

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	専門科目	科目コード	1638009	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　企業の組織・取引と法（‘０７）＝（Ｒ）

〔主任講師（現職名）：　布井　千博（一橋大学大学院教授）〕
〔主任講師（現職名）：　福原　紀彦（中央大学大学院教授）〕

講義概要

本講義は、企業の組織を規律する会社法と、企業の取引を規制する商法を中心に講義を行う。この分野における法律は、近年の大改正により大きく変貌を遂げた。本講義では、企業組織法および企業取引法の分野で新たに生起している問題に焦点を当てつつ、これらの分野の体系的な理解を目的とする。

授業の目標

企業の組織と取引を規律する法律について、法律の具体的な内容を理解するとともに、各法律がどのような利益を保護しようとしているかについて理解を深める。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
1	総論	企業組織法としての会社法の対象と特徴並びに企業取引法としての商法その他の法律の対象と特徴を概観する。	布井千博（一橋大学大学院教授） 福原紀彦（中央大学大学院教授）	布井千博（一橋大学大学院教授） 福原紀彦（中央大学大学院教授）
2	会社法の基本構造	わが国における会社の種類と特徴を概観したうえで、会社法における基本原理である、法人性、債権者保護の法理、出資者保護の法理の検討を行う。	布井千博（一橋大学大学院教授）	布井千博（一橋大学大学院教授）
3	株式会社の設立	株式会社の設立について、発起設立と募集設立の相違や、定款の作成からはじまり設立登記に終わる会社設立の過程について検討する。	布井千博（一橋大学大学院教授）	布井千博（一橋大学大学院教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	株式会社の経営機構（1）	株式会社の経営機構については多様な選択肢が設けられている。公開会社における経営機構と非公開会社における経営機構の異同について概観した後、取締役会・代表取締役・執行役の権限・組織・運営について検討する。	布井千博（一橋大学大学院教授）	布井千博（一橋大学大学院教授）
5	株式会社の経営機構（2）	株式会社の経営が適切に行われるためには、経営を監督・監視する仕組みが重要である。株式会社の業務監査および会計監査を担う機関である、監査役（会）、委員会（監査委員会・指名委員会・報酬委員会）、会計監査人について検討する。	布井千博（一橋大学大学院教授）	布井千博（一橋大学大学院教授）
6	株主総会	株式会社の最高意思決定機関である株主総会の権限および運営につき検討する。	布井千博（一橋大学大学院教授）	布井千博（一橋大学大学院教授）
7	コーポレート・ガバナンスにおける株主の役割	株式会社における経営の規律を確保する上で、株主の役割は重要性を増しつつある。株主が会社の経営についてどのようにして情報を収集し、株主に与えられた権限を行使するのかにつき検討する。	布井千博（一橋大学大学院教授）	布井千博（一橋大学大学院教授）
8	会社の資金調達	株式会社の資金調達手段が間接金融から直接金融へと移行する中、株式や社債を用いた資金調達の重要性が高まっており、会社法は多様な株式や社債の発行を認めている。今回は、株式による資金調達について検討する。	布井千博（一橋大学大学院教授）	布井千博（一橋大学大学院教授）
9	会社の計算と剰余金の分配	会社の財務内容を正確に把握することは、会社を経営する上でも、株主が経営者に信任を与える上でも、さらには、債権者が会社と取引をする上でも重要である。会社の計算制度を概観した後、剰余金の分配規制や自己株式の取得規制につき検討する。	布井千博（一橋大学大学院教授）	布井千博（一橋大学大学院教授）
10	組織変更と事業再編	企業は、その発展の過程において、持分会社から株式会社に組織を変更したり、合併や買収により規模を拡大する必要が生じる。会社法は、かかる需要に対応するために組織変更や事業再編について多様な規定を設けている。ここでは、そのような制度の仕組みについて検討する。	布井千博（一橋大学大学院教授）	布井千博（一橋大学大学院教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
11	企業取引の主体と補助者	企業取引の主体と補助者に関する「商法」および「会社法総則」の主要な規定を対象にして、商人の名称としての商号に関する法制度と、商人の信用維持と企業取引の円滑化のための商業登記制度を検討するとともに、商法上の企業補助者制度を比較検討する。	福原紀彦(中央大学大学院教授)	福原紀彦(中央大学大学院教授)
12	各種の企業取引と法規制	企業取引の特色を明らかにして、伝統的な企業取引に関する商法(商行為編)上の諸規定を概観し、併せて、各種金融取引および現代的企業取引の法規制を検討する。	福原紀彦(中央大学大学院教授)	福原紀彦(中央大学大学院教授)
13	企業取引の決済と手形・小切手	企業取引の決済の各場面における法律関係と法規制を明らかにするとともに、手形・小切手の意義・機能および法制度(手形法と小切手法)を検討する。	福原紀彦(中央大学大学院教授)	福原紀彦(中央大学大学院教授)
14	消費者取引	消費者取引の特色と問題点を明らかにして、消費者取引をめぐる被害の予防と解決のために整備されてきた各種の法規制を検討する。	福原紀彦(中央大学大学院教授)	福原紀彦(中央大学大学院教授)
15	高度情報化社会の取引と支払決済	高度情報化社会において登場して普及しつつある新たな取引方法と支払決済手段を概観して、ＩＴ化に伴う課題を明らかにしつつ、その法的対応を検討する。	福原紀彦(中央大学大学院教授)	福原紀彦(中央大学大学院教授)

＝　行政法と市民（‘０６）＝（Ｒ）

〔主任講師（現職名）：稲葉　馨（東北大学大学院教授）〕

全体のねらい

行政法（総論）の入門講義を行う。行政法は、行政組織法・行政作用法・行政救済法から成るが、後二者に重点をおいて、全体を概観する。特に、行政（役所とその仕事）抜きでは生活できないが、受動的な行政「客体」にとどまるわけではない私たち「市民」の目を大事にしたい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	行政法とは－序論	受講者の方に行政法に関するイメージを形成していただくための序論。行政法は、三大法分野のひとつであり、行政法自身も３つの分野からなること、また、行政法の代表的な定義によりながら行政法の特質を探り、憲法と行政法との関係についても考える。	稲葉　馨（東北大学大学院教授）	稲葉　馨（東北大学大学院教授）
2	行政組織	行政組織法の基礎を学ぶ。まず、国の行政組織と地方公共団体の行政組織を概観し、地方自治の意義にふれる。ついで、行政主体・行政機関・行政庁など、これからの学習のためにもマスターしておかなければならない基礎概念と行政組織の基本法理について説明する。	同　上	同　上
3	行政活動の基礎原理	行政作用法の第一弾として、その基礎にある原理と行政活動に広く適用される一般的な原則について講ずる。法律（条例）に基づく行政、裁判による救済・行政統制、権限・権利濫用の禁止原則、公正・透明・説明責務、信頼保護などの諸原則をとりあげる。	同　上	同　上
4	行政活動の諸態様	私たちが社会・経済生活で接する役所（行政）の活動にはどのようなものがあるか。活動の基準づくり（ルール策定行為など）と具体的な活動とに分け、さらに後者については、準備的な行政調査のほか、行政契約・即時強制にふれる。	同　上	同　上
5	行政処分	各種の許可・免許・給付（資格）決定（その停止・取消）など、私たちの権利・義務を左右する具体的な行政決定を意味する「行政処分（行政行為）」は、様々な行政活動の中でも、きわめて重要な「行為形式」である。ここでは、その要点を学ぶ。	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
6	行政指導	行政処分とは異なり「任意の協力」によって行政目的を達成する手段である「行政指導」をとりあげる。「日本的行政スタイル」とも言われる行政指導がなぜ多用されるのか、法的統制のあり方をどのように考えたらよいか、検討する。	稲葉　馨（東北大学大学院教授）	稲葉　馨（東北大学大学院教授）
7	義務履行確保手段	私たち市民の中にも、税金を滞納したり、駐車違反をしたりと、行政上の義務を果たさない者がいる。行政（規制）の機能不全を防ぎ、市民間の公平性の担保にも資する義務履行確保手段にはどのようなものがあるか、概観しておく。	同　上	同　上
8	公正・透明な行政手続	今日、様々な場面で関係者や市民と行政とのコミュニケーションを密にすることが求められている。中でも、行政決定のプロセス自体の公正・「透明」化を図ることは、法治主義の徹底という点からも不可欠である。ここでは、行政手続法が定める処分手続を中心に、事前手続保障の基本を学ぶ。	同　上	同　上
9	情報公開・個人情報保護	今日、行政法でも重要なキーワードになっている「情報」をめぐる法制度について、行政機関情報公開法・個人情報保護法を中心に学習する。公開は、市民の行政参加・監視と信頼確保につながり、個人情報保護制度は、行政による個人情報の取扱いをコントロールしようとするもの。	同　上	同　上
10	行政過程における参加・監視・争訟	ここでは、これまでに学んだ制度のほかに、市民・関係者が行政に対して「もの申す」手段としてどのようなものがあるか、主要なものにふれる。とりあげるのは、行政過程への市民参加、行政監視制度、行政上の苦情処理、そして行政不服申立制度である。	同　上	同　上
11	行政事件訴訟（その１）	約４０年振りの行政事件訴訟法改正で、行政訴訟は変わるのだろうか。市民にとっても大きな関心事であろう。改正点も含め、行政事件訴訟にはどのようなタイプ（類型）があるかという点を中心に、行政訴訟の利・活用方法を考える。	同　上	同　上
12	行政事件訴訟（その２）	行政事件訴訟の主要類型である抗告訴訟について、これまで「狭き門」の要因となってきた訴訟要件（訴えの利益）、機能不備が指摘されてきた「仮の救済」制度をとりあげ、さらに、判決の種類・効力などにも言及する。	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
13	国家賠償法概説	これまでのところ、市民（私人）が行政相手に起こす訴訟としては、行政事件訴訟よりも国家賠償請求訴訟の方が多い。まず、制度の概要を理解していただくため、国家賠償法の条文（６カ条）に沿って、解説する。	稲葉　馨（東北大学大学院教授）	稲葉　馨（東北大学大学院教授）
14	国家賠償法の主要論点	前章の基礎編を踏まえ、その応用編として、国家賠償法１条と２条の重要論点のうち、３つのテーマ（１条の「違法性」をめぐる議論、行政の規制権限が適切に行使されない場合の問題、そして河川管理をめぐる責任のあり方）を中心に、検討する。	同　上	同　上
15	損失補償制度	国家賠償制度と共に「国家補償」制度の両輪をなす損失補償制度について、その要点を学ぶ。この制度の基礎にある理念、憲法２９条３項の意義、主要な論点である（憲法上の）補償要否の基準、補償の内容と方法についてふれる。	同　上	同　上

＝ 刑法（‘05）＝（R）

〔主任講師： 川端 博（明治大学教授）〕

全体のねらい

犯罪と刑罰に関する法律である刑法は、私達の日常生活に密接にかかわる法典である。それゆえ、刑法は、市民に理解され行為規範として機能すべきであるにもかかわらず、刑法学は難解であるとの印象を与えている。そこで、本講義では、犯罪の理論的把握、刑罰の根拠や刑法の機能などの基本的問題について分かりやすく説明して、刑法学が誰にも理解できる身近な法律学であることを明らかにしていきたい。刑法典を中心に講義を進めていくが、経済刑法やコンピュータ犯罪法など社会生活上、重要な意義を有する特別刑法についても触れることとする。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	刑法とは何か	本講においては、刑法の意義について法規範としての特徴の観点から説明して、刑法の全体像を明らかにする。刑法の種類を説明した上で、基本法たる刑法典の歴史とその内容を明らかにする。犯罪の法的効果である刑罰についても概説する。 1 刑法とは何か 2 刑法の種類 3 刑法典の歴史 4 刑罰の種類と内容	川端 博（明治大学教授）	川端 博（明治大学教授）
2	刑法はいかにして実現されるか	本講においては、実体法としての刑法が現実にどのような手続きによって「適用」されるのかについて説明する。まず、近代刑法における刑事裁判の基礎理論を講述した上で、刑事手続の概要を明らかにする。 1 刑事裁判の基礎理論 2 刑事手続の概要 3 刑法の基本原則	同上	同上
3	刑法の基本原則	本講においては、刑法の基本原則を説明する。まず近代刑法の大原則である罪刑法定主義の意義と思想的背景を明らかにした上で、その論理的必然的結果として認められる派生的原則について講述する。 1 罪刑法定主義の意義と思想的背景 2 慣習刑法の排斥 3 刑法の効力の不遡及 4 類推解釈の禁止 5 明確性の原則 6 刑罰法規の適正	同上	同上
4	刑法の機能と適用範囲	本講においては、まず刑法の機能について説明する。制裁の手段として刑罰を用いる刑法が有する３つの機能とその相互関係を明らかにする。その後に、刑法の適用範囲について講述する。刑法の適用範囲は、刑法の効力の問題にほかならないから、その観点からも説明する。 1 規制的機能 2 秩序維持機能 3 自由保障機能 4 時間的適用範囲 5 場所的適用範囲 6 人的適用範囲	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	犯罪論の体系	刑法は犯罪論と刑罰論とから成る。本講においては、なぜ犯罪論が必要となるか、犯罪論にはどういうものがあるのかについて説明する。そして犯罪論の概要を講述して、本講以降の理解に役立てるようにする。 1　犯罪論とは何か 2　犯罪論の概要	川端　博	川端　博
6	構成要件該当性	本講においては、犯罪の第1の成立要件である構成要件該当性について詳しく説明する。まず構成要件の概念と機能について述べた後、構成要件の重要な諸要素について説明する。すなわち、行為、主観的要素たる故意及び過失、錯誤、不作為について詳しく講述する。 1　構成要件の理論 2　行為論 3　構成要件的故意 4　構成要件的事実の錯誤 5　構成要件的過失 5　不作為犯論	同　上	同　上
7	違法性	本講においては、犯罪の第2の成立要件である違法性について説明する。まず違法性の実質を明らかにした上で、違法性に関する基本概念について概説する。違法性を阻却すべきか否かが検討されるが、それは観点を変えて言えば、構成要件に該当する行為の正当化の可否の問題にほかならない。代表的な正当化事由の種類と根拠を明らかにする。 1　違法性の基本概念 2　正当化事由の意義と種類 3　一般的正当行為 4　正当防衛 5　緊急避難 6　自救行為 7　正当化事情の錯誤	同　上	同　上
8	有責性	本講においては、犯罪の第3の成立要件である有責性・責任について詳しく説明する。まず責任に関する基本概念について概説した上で、責任の前提である責任能力、責任の要素である違法性の認識とそれを阻却する違法性の錯誤、責任を限界づける期待不可能性について詳細に講述する。 1　責任の基本概念 2　責任能力 3　違法性の認識と違法性の錯誤 4　期待可能性	同　上	同　上
9	未遂と共犯	犯罪遂行の態様ないし構成要件の修正形式としての未遂及び共犯について詳しく述べる。まず犯罪を完全に実現する形態である既遂犯に対して、未遂犯は、犯罪を不完全に実現する形態であるから、その処罰根拠と要件が問題となる。また共犯は、複数の者が犯罪の遂行に関与する形態であるから、単独犯とは異なる取扱いがなされる。そこで共犯原理を明らかにする必要があるのである。 1　未遂犯 2　共犯	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
10	罪数と刑罰	本講においては、犯罪の成立要件を具備して犯罪の成立が認められた後、その個数を問題にする罪数論と犯罪の法律効果である刑罰に関する本質を問題にする刑罰論について詳しく説明する。また刑の適用についても講述する。 1　罪数論 2　刑罰論 3　刑の適用	川端　博	川端　博
11	個人的法益に対する罪（1）――生命・身体に対する罪	本講においては、まず刑法各論の意義と特徴を明らかにする。その後、個人的法益に対する罪として、生命・身体に対する罪について、各種犯罪類型の特徴と内容を講述する。 1　刑法各論の意義 2　生命に対する罪 3　身体に対する罪	同　上	同　上
12	個人的法益に対する罪（2）――自由・名誉等に対する罪	本講においては、個人的法益に対する罪のうち、自由に対する罪、住居侵入罪、名誉に対する罪、信用・業務に対する罪、秘密に対する罪について、各犯罪類型の特徴と内容を講述する。 1　自由に対する罪 2　性的自由に対する罪 3　住居侵入罪 4　名誉に対する罪 5　信用及び業務に対する罪 6　秘密に対する罪	同　上	同　上
13	個人的法益に対する罪（3）――財産に対する罪	本講においては、個人的法益に対する罪のうち財産犯について詳しく説明する。まず財産犯一般について総論的に概説した上で、各犯罪類型の特徴と内容を明らかにする。財産犯は、古い犯罪類型から非常に新しい犯罪類型まで包含しており、財産犯論においてはきわめて精緻な解釈論が展開されているので、各論点の相互関係についても講述する。 1　刑法における財産の保護 2　財産犯の分類 3　窃盗の罪 4　強盗の罪 5　詐欺及び恐喝の罪 6　横領罪及び背任罪 7　盗品等に関する罪 8　毀棄及び隠匿の罪	同　上	同　上
14	社会的法益・国家的法益に対する罪	本講においては、社会的法益に対する罪及び国家的法益に対する罪について概説する。社会的法益に対する罪として、公共危険罪、各種偽造罪及び風俗犯の犯罪類型と内容を明らかにする。国家的法益に対する罪として、特に国家の作用に対する罪について詳しく講述する。 1　公共の安全に対する罪 2　公共の信用に対する罪 3　風俗に対する罪 4　国家の作用に対する罪	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
15	コンピュータ犯罪と経済犯罪	本講においては、コンピュータ犯罪と経済犯罪について説明する。コンピュータの普及には目覚しいものがあり、現在社会はまさにコンピュータ社会といえる状況にある。コンピュータ・システムは重要な役割を果たしており、それに対する侵害行為は放置されるべきではない。そこで刑法典の中にもコンピュータ犯罪が新設されており、さらにコンピュータ犯罪に関する特別刑法もある。コンピュータ犯罪の特徴及び各種犯罪類型について講述する。 ところで、経済取引に関して刑法典は、一定の観点から規制を加えている。特に財産犯として規定されている犯罪類型も、経済刑法の視点から捉え直すと、新たな様相を見せる。その点を明らかにした上で、特別刑法としての経済刑法について概説し、各種の犯罪類型とその内容について講述する。 1　コンピュータ犯罪の特徴 2　電磁的記録不正作出罪 3　電子計算機損壊等業務妨害罪 4　電子計算機使用詐欺罪 5　支払用カードの偽造・変造 6　不正アクセス禁止法の成立 7　経済刑法 8　自由で公正な競争秩序を侵害する罪 9　證券取引法における罰則 10　商法罰則の罪 11　倒産犯罪	川端　博	川端　博

＝ 国際関係法（‘０６）＝（Ｒ）

〔主任講師（現職名）：横田　洋三（中央大学法科大学院教授）〕

全体のねらい

国境を越えた人々の活動を規律する法の総体である国際関係法を、国内法、国際法、国際機構法の三つの法体系に分けて論ずる。その中でも、もっとも国際社会において重要な地位を占める国際法について、詳しく検討する。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	国際関係法の枠組み	国際関係における法の役割、国際関係法の種類、国際関係法の具体的作用について検討する。	横田洋三（中央大学法科大学院教授）	横田洋三（中央大学法科大学院教授）
2	国際法の成立	１６、７世紀のヨーロッパに形成された近代国際法の成立の経緯とその内容を、制度史と学説史の両面から考察する。	同上	同上
3	国際法の発展	１８、９世紀に産業革命と市民革命の影響を受けて地理的、内容的に発展した国際法を検討し、また、その時代に活躍した国際法学者についても考察する。	同上	同上
4	国際社会の組織化と法	２０世紀に入り、国際社会は組織化の時代を迎える。そこにおいて、国際法は、定立、執行、適用のいずれに関しても、国際機構の設立と発展の影響を受け、大きく変容する。その変容の内容と背景を考察する。	同上	同上
5	国際法と国内法の関係	人間活動のグローバル化に伴い、国際法と国内法が同一事象を同時に規律する場面が増えてきた。その場合、国際法と国内法の関係をどのようにとらえるかを、理論と実践の両面から考察する。	同上	同上
6	国際機構法の意義と役割	伝統的法理論によれば、法は国際法と国内法に二分される。しかし、近年、国連総会や安全保障理事会の決議のように、国際機構に独自の法文書がひんぱんに作られ、国際関係において重要な役割を果たすようになった。こうした法現象を国際機構法として体系化し、その固有の存在と役割を考察する。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
7	戦争と法	国際関係において重要な問題である戦争について、国際法がどのように規律を及ぼしてきたかを歴史的に考察する。また、現代の戦争について、法による規律の実態と限界を指摘し、より有効な規律の可能性を検討する。	横田洋三(中央大学法科大学院教授)	横田洋三(中央大学法科大学院教授)
8	国連の平和活動と法	国連を通して行われるさまざまな平和活動を法的、実際的に考察し、その限界と改善の可能性を検討する。また、国連の平和活動に対する日本の貢献についても論ずる。	同上	同上
9	開発援助と法	今日国際社会が直面する大きな問題として、貧困や経済格差がある。この問題解決のために法が果たす役割を理論と実践の両面から考察する。	秋月弘子(亜細亜大学教授)	秋月弘子(亜細亜大学教授)
10	国際企業活動と法	国際企業活動を規律する法を、国内法、国際法、国際機構法の三つの体系に分けて論ずる。	横田洋三(中央大学法科大学院教授)	横田洋三(中央大学法科大学院教授)
11	人権の国際的保障	人権の国際的保障の必要性を検討し、人権の促進と保護に関する国際的活動を、基準設定および監視を中心に論ずる。	滝澤美佐子(桜美林大学准教授)	滝澤美佐子(桜美林大学准教授)
12	人道的支援と法	難民や国内避難民など、人道的に支援する必要がある人たちに対する法的対応とその問題点を、検討する。	同上	同上
13	国際犯罪と法	集団殺害、大規模な人権侵害、テロなどの国際犯罪を取り締まり、責任者を処罰するための法および裁判について、検討する。	横田洋三(中央大学法科大学院教授)	横田洋三(中央大学法科大学院教授)
14	地球環境と法	地球環境を保護するための国際的取組みについて、法的側面から検討する。	秋月弘子(亜細亜大学教授)	秋月弘子(亜細亜大学教授)
15	国際社会の将来と法	２１世紀に入り、国際社会はますます緊密化し、国境を越えた人々の活動も活発化するようになった。それに伴い、戦争、内戦、テロ、貧困、環境悪化、感染症などの人類の生存をおびやかす地球的課題に国際関係法がどのように効果的に取り組むことができるかを考察する。	横田洋三(中央大学法科大学院教授)	横田洋三(中央大学法科大学院教授)

＝　著作権法概論（‘０６）＝（Ｒ）

〔主任講師（現職名）：作花　文雄　（文部科学省学校健康教育課長）〕
〔主任講師（現職名）：吉田　大輔　（文化庁審議官）　　〕

全体のねらい

知的財産は社会の発展にとっても、また、人々の職業若しくは日常の活動にとっても重要なものであり、知的財産の創造を促進し、また、有効かつ適切に活用されるようにするためには、知的財産権に関する法制度が重要な役割を果たす。この講義では、知的財産権制度の中にあって、小説や音楽、レコード、映画、アニメ、コンピュータ・プログラムなどの著作物等を保護する著作権法について、情報社会の進展やコンテンツ産業の振興という観点から重要性を増していることを踏まえつつ、制度を理解する上での基本的な事項及び実際的な課題について総合的に解説する。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	著作権制度の仕組み	著作権法の目的や知的財産権制度全体における位置づけを解説するとともに、著作権制度において保護の対象となるものや権利の主体となる者、権利の内容、権利の制限など、第２回目以降の講義の導入として、制度全体の仕組みについて概説する。	作花　文雄（文部科学省学校健康教育課長）	作花　文雄（文部科学省学校健康教育課長）
2	著作物	知的成果物には文芸作品や学術作品、娯楽作品、あるいは産業技術関係のものなど様々なものがあるが、著作権法の保護対象となる「著作物」とは何か、保護の対象でないものは何かについて解説する。また、翻訳物や編曲などの二次的著作物や新聞や百科事典などの編集著作物の概念について解説する。	同　上	同　上
3	著作者	著作権法により権利の主体となる「著作者」とはいかなる者であるのかについて解説する。また、複数の者が共同して一つの作品を創作する場合があるが、共同著作者となる場合の要件や職務上作成される著作物について法人著作が成立する場合の要件について解説する。	同　上	同　上
4	著作者人格権	著作物は著作者の思想・感情の表現であり、著作権制度では著作物の利用にあたって著作者の人格的利益を保護するために著作者人格権を定めている。判例等にも触れながら、著作者人格権の内容、限界、その他の特色について解説する。	吉田　大輔（文化庁審議官）	吉田　大輔（文化庁審議官）
5	著作権(その１)	著作物の利用に関して著作者の経済的利益を確保するために設けられている財産権としての著作権のうち、複製権並びに複製物等の流通に関わる頒布権、譲渡権及び貸与権について、判例等にも触れながら、その具体的内容を解説する。	吉田　大輔（文化庁審議官）	吉田　大輔（文化庁審議官）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
6	著作権(その2)	財産権としての著作権のうち、著作物の上演、演奏、上映等に関する諸権利、放送、有線放送、インターネット送信等に関する権利、著作物の翻訳・翻案等に関する権利、二次的著作物の利用に関する原著作者の権利の具体的内容を解説する。	同上	同上
7	著作隣接権	著作者と並んで、著作権法では実演家、レコード製作者、放送事業者及び有線放送事業者を著作隣接権制度によって保護を与えており、著作隣接権の重みは増しつつある。著作者の権利と比較しつつ、実演家等の権利の具体的内容を解説する。	同上	同上
8	権利の制限(その1)	著作権制度においては、著作物を権利者の許諾を得ることなく利用できる様々な場合が規定されており、それぞれの場合における適法な利用の要件や留意点について、2回にわけて解説する。この回では、私的使用のための複製、図書館での複製、引用、教育機関での複製などについて解説する。	作花　文雄(文部科学省学校健康教育課長)	作花　文雄(文部科学省学校健康教育課長)
9	権利の制限(その2)	前回に続き、著作物の自由利用ができる場合として、非営利目的の上演等、裁判手続き等のための複製、公開の美術の著作物の利用、プログラムの所有者による複製などについて解説する。	同上	同上
10	著作権の保護期間と登録制度	著作権及び著作隣接権は法定の保護期間内に限って存続する。著作権・著作隣接権の保護期間とその算定方法、外国著作物に係る特例等について解説する。また、著作権法上の登録制度の趣旨、効果及び登録手続について解説する。	吉田　大輔(文化庁審議官)	吉田　大輔(文化庁審議官)
11	著作物の利用	著作物等の利用に際しては、利用許諾契約等により正当な利用権原を取得することが原則である。著作物等の利用に関する各種の方法を解説するとともに、著作権等の管理を業とする者を対象とする著作権等管理事業法の仕組みを解説する。	同上	同上
12	権利侵害に対する救済	著作権等が侵害された場合は、民事上の救済を受けることができるとともに、侵害者に対して刑事上の制裁も科せられる。著作権制度においては、民法に加えて、損害賠償や差止請求についての特別な規定が設けられており、その内容を解説するとともに、著作権制度上の刑事罰の内容について解説する。	作花　文雄(文部科学省学校健康教育課長)	作花　文雄(文部科学省学校健康教育課長)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
13	著作権に関する条約	著作物等の国境を越えた利用に対応するため、国際的な保護規範を定めた条約の整備改善が続けられてきており、その流れは国内法制の整備にも大きな影響を与えている。著作権及び著作隣接権に関する主要な条約の経緯、内容等を解説する。	吉田　大輔(文化庁審議官)	吉田　大輔(文化庁審議官)
14	著作権制度の歴史	著作権制度の発展の歴史を全体的に捉えるとともに、近年において、貸レコード問題への対応やプログラム・データベースの保護、インターネット送信への対応、コピー・プロテクション回避への規制、還流レコードへの規制など、我が国の著作権制度は間断なく改正がなされてきているところから、これらの改正動向について解説する。	作花　文雄(文部科学省学校健康教育課長)	作花　文雄(文部科学省学校健康教育課長)
15	現代社会における課題	現代社会においてはインターネットなど情報伝達技術の飛躍的な発展を背景として、また、中古ソフト販売や漫画喫茶など著作物の多様な利用形態が登場してきたことにより、著作権制度は様々な課題に直面している。これらの課題についての概況や論点について解説する。	同　上	同　上

＝　ヨーロッパ政治史（'０５）＝（Ｒ）

〔主任講師：平島　健司(東京大学教授)〕
〔主任講師：飯田　芳弘(学習院大学教授)〕

全体のねらい

近代から現在に至る西欧の政治発展を、国家の観点から考える。西欧における国家は、民主政治を実現する上での枠組みであると同時に、経済的繁栄と社会的公正を確立するための装置でもあった。しかし、第２次大戦後に開始され、グローバル化とともに加速された国家統合は、それを推進した国家を逆説的に相対化しつつある。西欧諸国家がたどった多様な歴史的発展と、グローバル化と国家統合の中で変容するその姿をたどる。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
1	問題の設定と全体の構成	まず、講義全体の構成を時間軸に沿って確認する。民主化や産業化の過程において変化した国家と社会の関係の観点から、フランス革命から第１次大戦前後、戦間期、大恐慌とファシズム、第２次大戦後の復興と高度成長、70年代、80年代以降の時期に区分する。	平島　健司（東京大学教授）	平島　健司（東京大学教授） 飯田　芳弘（学習院大学教授）
2	ヨーロッパにおける国家建設と近代初期の国家	近代化開始までのヨーロッパにおける国家形成を概観する。ヨーロッパが一定の領域を支配する国家によって分割されていく過程を、国家構造の特徴（集権性や連邦制的性格）に注目しながら考察したのち、各国家に成立した政治体制を、議会や官僚制の地位・役割に着目して比較する。	飯田　芳弘（学習院大学教授）	飯田　芳弘
3	フランス革命と産業革命	フランス革命・ナポレオン改革と産業革命を、19 世紀の国家と社会の関係を形作る二つの重要な要因ととらえ、それらの各国への影響ー体制の議会化・国家官僚制による社会改革・ナショナリズムの動員や、産業化の時期に応じて異なった各地の国家の役割ーを比較考察する。	同　上	同　上
4	ブルジョワと自由主義の時代	国家と社会を改革する 19 世紀最大のプロジェクトとしての「市民社会」の理念が、「二重の革命」の影響下におかれた各国において、誰によって、またどの程度まで実現したのかを比較考察する。とくに、その最も重要な推進勢力となった、国ごとに多様な自由主義の台頭と変質に注目する。	同　上	同　上
5	「国民国家」の時代	19 世紀後半にショナリズムによって正統化されるようになった国家について、とくにナショナリズムと結びついた自由主義者が求めたドイツとイタリアの統一国家の性格を比較しながら考察する。両国の市場統合と国家統一の関係、国家構造と政治体制の連関、「国境」や「市民権」の概念の特徴に注目する。	同　上	同　上
6	自由主義国家の変質ー保護主義と初期社会政策	19 世紀後半の自由主義的国家の変容を考察する。1870 年代の大不況にともなう保護主義・干渉国家への転換、産業化の進展や労働者階級の台頭を背景とする福祉政策の開始などにみられた各国の対応を比較したのち、この時期の対応がその後の各国における国家と社会の関係に与えた影響を検討する。	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
7	政治社会の変容と議院内閣制化	世紀転換期以降に急速に進捗した、政治の大衆化による国家と社会の関係の変化について考察する。各国における古典的議会政治の変容や議院内閣制化問題を比較検討したのち、市民社会における軍事的価値や急進的なナショナリズムの広がりに注目し、総力戦を準備した各国社会の変容について考える。	飯田　芳弘	飯田　芳弘
8	第一次世界大戦と戦後体制	第一次大戦後、ほぼすべてのヨーロッパの国は民主体制をもつようになった。大戦下の国家の社会への介入体制を概観したのち、戦後に生まれた各地の民主体制の特徴を、総動員体制の遺産、社会集団の政治過程への参入、「民意」と議会との関係、大統領制への期待、団体と議会との関係などに注目して検討する。	同　上	同　上
9	経済危機と政治	世界大恐慌への各国の対応を検討する。両大戦間期の各国の民主体制の命運を整理したのち、民主体制を維持しえた国々でみられたプラニスムやケインズ主義的政策による国家介入を検討する。また、農民や労働者を統合した連合体制が、戦後の民主体制を準備した事例を検討する。	同　上	同　上
10	戦後復興、高度成長と福祉国家の建設	戦争による破壊を克服した各国は、政治体制と政治経済の安定の上に、さまざまなタイプの福祉国家の建設を進めた。その類型に注目しつつ、さまざまな福祉国家体制の安定を可能にした共通の条件（冷戦やアメリカを基軸とする国際通貨、自由貿易体制など）について考える。	平島　健司	同　上
11	ローマ条約への道	ドイツやフランスなど西欧六カ国は、福祉国家体制を築く一方で、石炭鉄鋼の一セクターから経済統合そのものへと共同体の建設に着手した。統合の条件、構想、制度について説明する。	同　上	同　上
12	1970年代の国家と社会－オイルショックへの対応	1973年の第1次オイルショックに直面した各国は、物価と雇用の安定を維持するための対応をせまられた。その対応の成否と、国家と社会団体の間に築かれたコーポラティズム的枠組みとの連関を比較検討する。また、低成長時代に入った各国で生じた、国家に対する社会の意識変化について考える。	飯田　芳弘	同　上
13	1980年代の国家と社会－新自由主義の台頭	80年代のイギリスのサッチャー政権下の新自由主義的改革は戦後福祉国家に対する最も大胆な挑戦であったが、大陸の右派政権は市場原理主義をイギリスほどに貫徹できなかった。この相違を、非社民陣営のイデオロギー的性格や政権の政策的行動半径を制約する制度的要因の違いに注目して検討する。	同　上	同　上
14	1990年代の国家と社会－グローバル化と統合の中の福祉国家	進展する統合・冷戦の終焉・グローバル化という大きな変化の中でヨーロッパの国家・民主体制が経た変容について考察する。市場統合とその後の統合過程を概観したのち、各国の議会・政党政治の変容（それを補完するリンケージの模索の動き）と福祉国家の構造的な変容について考える。	同　上	同　上
15	総括と展望－国家とEU	西欧諸国は、少子高齢化やポスト産業社会への移行という長期的問題に加え、安全保障などの新たな問題にも直面している。その上、東欧を初めとする周辺諸国の加盟によって、EUも質的転換を遂げようとしている。近代以降の長期的歴史過程の中で形成されてきた国家の将来を展望して総括とする。	平島　健司	平島　健司 飯田　芳弘

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	専門科目	科目コード	1530704	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 比較政治ー中南米 （’０８）＝ （R）

〔主任講師（現職名）：恒川惠市（東京大学大学院教授） 〕

講義概要

かつて独裁と革命と軍事クーデタの代名詞だった中南米は、今日民主主義の大陸に変身している。しかし長期の経済停滞と市場経済化による格差の拡大や雇用不安のゆえに、市民の間に不満が広がり、選挙を通して左派的な政権が登場する国も出ている。この講義では、民主化が中南米の歴史上かつてないほど広がり、長く持続するようになったのはなぜなのかを、比較政治学の理論と中南米政治史の分析を組み合わせることで明らかにすると同時に、現代中南米の政治的特徴は何か、中南米の民主主義は今後も続きうるのかについて検討する。

授業の目標

民主主義体制から権威主義体制へ、逆に権威主義体制から民主主義体制へという政治変動を説明する比較政治学の理論を学び、それを中南米の経験にあてはめることで、中南米のこれまでの政治変動と、現代の民主化について、体系的に理解できるようにする。この授業は、中南米という地域の政治や経済についての知識を深めると同時に、比較政治学における体制変動についての理論を学ぶことを目標とする。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	中南米の現状	70年代までは軍事政権や独裁的政権が多かった中南米で、80年代に大規模な民主化が起こったこと、それが決して有利とは言えない経済社会状況の中で長期に持続していること、同時に、不安定な生活への不満から抗議行動や犯罪が増えていることを明らかにした後、本講義を通して学ぶべき主要なポイントを指摘する。 【キーワード】 民主化　市場経済化　比較政治学	恒川惠市（東京大学大学院教授）	恒川惠市（東京大学大学院教授）
2	比較政治学の中の中南米（1）権威主義体制論	第二次世界大戦後の中南米は、一時民主化が進むかと思われたが、60年代以降次々に軍事クーデタが起こり、民主主義国は絶対的少数派に転落した。中南米が比較政治学の素材としてよくとりあげられるのはなぜなのかを明らかにした後、権威主義体制に共通する特色と3つの異なったタイプについて講義する。 【キーワード】 政治体制　権威主義体制	恒川惠市（東京大学大学院教授）	恒川惠市（東京大学大学院教授）
3	比較政治学の中の中南米（2）民主化論	比較政治学における大きな理論枠組みには、構造主義、合理主義、構成主義の3つがあり、それぞれに対応した民主化論がある。この3つのアプローチについて学ぶ中で、現在の中南米の民主化を説明する有力な理論として、構造主義・合理主義に属する「労働者階級」弱体化論と構成主義に属する民主主義学習論の2つがあることを明らかにする。 【キーワード】 構造主義　合理主義　構成主義	恒川惠市（東京大学大学院教授）	恒川惠市（東京大学大学院教授）
4	ポピュリズム体制：起源・展開・崩壊	現在の民主化を理解するためには、第二次大戦前後から50年代にかけて各国に広がったポピュリズムと呼ばれる政治潮流を理解する必要がある。ポピュリズムはそれまでの寡頭支配に代わる民主主義の担い手としても期待されたが、工業化政策に行き詰まり、60年代から70年代にかけて、次々と軍事政権に代わられていった。中南米最初の民主化の試みの意義と限界について解説する。 【キーワード】 寡頭支配　ポピュリズム　輸入代替工業化	恒川惠市（東京大学大学院教授）	恒川惠市（東京大学大学院教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	権威主義体制の時代	権威主義体制の時代と呼ばれる時期(60年代半ば～80年代半ば)に、どのような種類の権威主義体制があったのかをポピュリズムとの関係で探る。また各国の政府がどのような政策をとり、その経済的社会的結果は何だったのか、多くの国が累積債務危機に見舞われるようになったのかはなぜかを明らかにする。 【キーワード】 軍事政権　新安全保障原理　累積債務危機	恒川惠市(東京大学大学院教授)	恒川惠市(東京大学大学院教授)
6	ポピュリズム政権をもたなかった国々	中南米には、19世紀以来の寡頭支配層が、ポピュリズムの挑戦を退けて、軍部や独裁者の力を借りながら支配を続けた国がある。これらの国ではポピュリズムが下層階級の要求の受け皿になれなかったために、社会の中にストレスがたまり、左派ゲリラの勢力が伸長して内戦にまで至ることもあった。この間の経緯を、ポピュリズム政権以後に権威主義体制に至った国々と比較しながら分析する。 【キーワード】 個人独裁　中米紛争　ゲリラ	恒川惠市(東京大学大学院教授)	恒川惠市(東京大学大学院教授)
7	民主化の進展	80年代半ば以降中南米では、かつてポピュリズム政権を持った国でも、持たなかった国でも、おしなべて民主化が進展した。この時期に中南米地域に広く民主化現象がみられるようになった経緯を、民主化パターンの違いに留意しながら明らかにする。また同時期に起こった経済面での大変動である国家介入型から市場経済型への転換の意味と、民主化との関連にも触れる。 【キーワード】 民政移管　ｺﾝﾀﾄﾞｰﾗ・ｸﾞﾙｰﾌﾟ　ﾍﾃﾛﾄﾞｯｸｽ政策	恒川惠市(東京大学大学院教授)	恒川惠市(東京大学大学院教授)
8	アルゼンチンの政治	寡頭支配からポピュリズム、軍事政権、そして民主化へという中南米で典型的な道を歩んだアルゼンチンに注目して、その政治史を跡づける。アルゼンチンのポピュリズムは労働組合と結びついたために右派の反発も強く、軍政と民政が交互に入れ替わるようになったこと、その中で民主主義的価値観の学習が進んだことを明らかにする。 【キーワード】 急進市民連盟　ペロン　アウストラル・プラン　ドル化	恒川惠市(東京大学大学院教授)	恒川惠市(東京大学大学院教授)
9	ブラジルの政治	ブラジルのポピュリズムは、寡頭支配層の内紛の結果、上から樹立されたという特徴をもつこと、したがって政策は穏健で、ポピュリズム後に登場した軍事政権も、選挙によって正当化を図るなどしたこと、民政移管も交渉により古い政治家が復活する形で進んだこと、しかし民主化後は労働組合や農民運動を基盤とする新しい政党が伸長したことを解説する。 【キーワード】 ヴァルガス　レアル・プラン　労働者党　ルーラ・ダ・シルバ	恒川惠市(東京大学大学院教授)	恒川惠市(東京大学大学院教授)
10	メキシコの政治	メキシコは、ポピュリズム政権が崩壊して軍事政権に代わられることがなかった例外的な国である。メキシコではポピュリズム自体が権威主義的色彩が濃い形態をとっていた。このような特殊性がなぜ生まれたのかを明らかにすると同時に、そのメキシコでも90年代に民主化が進むようになった経緯について説明する。 【キーワード】 メキシコ革命　ラサロ・カルデナス　PRI　PAN　NAFTA	恒川惠市(東京大学大学院教授)	恒川惠市(東京大学大学院教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	ペルーの政治	ペルーは、軍事政権が自らポピュリズムを担おうとして短期間に失敗したという意味で例外的な国である。ペルーでは民主化と累積債務危機を経た後に文民勢力によるポピュリズム政権が登場し、大混乱を引き起こした。そこに新しい政治指導者として登場したのがフジモリであった。こうしたペルー政治の動向を分析する。 【キーワード】 アヤ・デ・ラ・トーレ　アプラ党　フジモリ　アラン・ガルシア	恒川惠市（東京大学大学院教授）	恒川惠市（東京大学大学院教授）
12	ニカラグアの政治	ニカラグアでは、寡頭支配層がソモサ一族の個人独裁の形で長期支配を続けたが、支配層の内紛に乗じた左翼ゲリラが勢力を伸ばしてソモサ打倒に成功した。80年代には左右が衝突する内戦が勃発したが、数万人が犠牲となった内戦を経て民主化を遂げた後は、右派と左派が選挙で競争するようになっている。この間の政治史を解説する。 【キーワード】 ソモサ　サンディニスタ民族解放軍　レーガン政権　ダニエル・オルテガ	恒川惠市（東京大学大学院教授）	恒川惠市（東京大学大学院教授）
13	現代の焦点（1）：民主主義の持続	現代の中南米で決して良好とは言えない経済的社会的状況の中で民主主義体制が持続しているのはなぜかを、各国での長期世論調査のデータを用いて分析する。人々が経済状況と民主主義を直接結びつけるのではなく、民主主義のルールを遵守すること自体を重視していることや、過去の紛争と抑圧の経験が民主主義評価につながっていることなど、構成主義的な説明の有効性を確認する。 【キーワード】 ラティノバロメトロ　民主主義コミットメント　紛争	恒川惠市（東京大学大学院教授）	恒川惠市（東京大学大学院教授）
14	現代の焦点（2）：先住民の政治的復権	現代の中南米政治の特色の1つは、長い間社会の最下層に押し込められ、政治的にも時に反乱を起こす以外は受け身の存在であった先住民系国民の政治的覚醒である。彼らは絶望的な反乱にとどまるのではなく、合法的な先住民団体や政党を組織して政治参加をめざすにいたっている。エクアドルとボリビアを中心に、先住民の政治運動について解説する。 【キーワード】 先住民　CONAIE　MAS　エボ・モラレス	恒川惠市（東京大学大学院教授）	恒川惠市（東京大学大学院教授）
15	現代の焦点（3）「左派」の復活	中南米では、選挙を通して左派寄りの勢力が政権に就く例が増えている。ベネズエラ、ブラジル、ウルグアイ、ボリビアなどの例に触れると同時に、なぜそのような現象が見られるのか、左派政権の登場は中南米の民主主義にとってプラスなのかマイナスなのか、そして今後中南米の民主主義は生き残れるのかといった問題を考察する。 【キーワード】 ウーゴ・チャベス　タバレ・バスケス　ラファエル・コレア　カラカス大暴動	恒川惠市（東京大学大学院教授）	恒川惠市（東京大学大学院教授）

＝　第三世界の政治（‘０５）＝（Ｒ）
－　パレスチナ問題の展開　－

〔主任講師：　高橋　和夫（放送大学教授）　〕

全体のねらい

パレスチナ問題という発展途上世界を代表する地域紛争の歴史的な展開を振り返りつつ、その将来を展望する。その過程を通して、大国の関与、様々なイデオロギーの興亡、民族主義の相克、人権思想の広がりなど現在の第三世界の政治を特徴付ける要因を現実の政治の中に位置づける。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	パレスチナへ	ヨーロッパにおけるユダヤ人迫害の歴史を踏まえつつシオニズムの発生と発展を振り返る。その焦点はパレスチナという土地を巡るシオニストとパレスチナ人の対立である。	高橋　和夫（放送大学教授）	高橋　和夫（放送大学教授）
2	戦うユダヤ人国家	イスラエルの成立から 1956 年のスエズ動乱を経て 1967 年戦争に至る時期の情勢の展開を論じる。キーワードを並べれば、ナセル、アラブ民族主義、スエズ運河国有化、6 日戦争である。	同　上	同　上
3	アラブ世界の反撃	第三次から第四次中東戦争の時期を振り返る。1967年の敗戦後に歴史の中央舞台に登場したパレスチナ解放運動の動向が、そのポイントである。さらに、第四次中東戦争と石油危機を、もう一つの焦点としよう。	同　上	同　上
4	イスラエル社会の変貌	イスラエルは、中東社会からの移民の受け入れによって大きな社会変動を経験してきた。それが、第四次中東戦争の以降に政治に反映されるようになった。シオニズムの主流を占めて来た労働党に代わってリクードが台頭してきたからだ。イスラエル社会の変容とその政治的意味を考える。	同　上	同　上
5	レバノン戦争	カーター大統領に仲介によって成立したキャンプ・デービッドの合意がイスラエルとエジプトの平和条約を生んだ。そしてエジプトの圧力から解放されたイスラエルは、レバノンに侵攻した。キャンプ・デービッド合意とレバノン戦争の関連を跡付ける。	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
6	ペレストロイカの影で	ゴルバチョフの新思考外交が中東政治の枠組みを変えた。その過程とパレスチナ問題への影響を考える。	高橋　和夫	高橋　和夫
7	インティファーダ	1987年末に自然発生的に起こった占領地でのパレスチナ人の一斉蜂起は、インティファーダとして知られ、イスラエルの占領政策を揺さぶった。このインティファーダこそ、その後のオスロ合意への伏線となった。	同　上	同　上
8	湾岸戦争と中東和平	パレスチナ情勢は、周辺諸国の動向に常に影響を受けてきた。1990 年代の湾岸危機、と湾岸戦争はPLO へ大きな打撃を与えた。そのメカニズムと意味を論ずる。	同　上	同　上
9	和平プロセスの構図	湾岸戦争の勝利で威信を高めたアメリカはマドリッドに中東和平国際会議を招集して中東和平に乗り出した。その背景にあったアメリカとイスラエルの間での激しい外交面でのせめぎあいを描写する。	同　上	同　上
10	ラビン/その栄光と暗殺	参謀総長としてイスラエルを 1967 年戦争で歴史的な勝利に導いたラビンが、1990 年代には首相としてPLO との和平に取り組んだ。ラビンという人物の生涯を通じて中東の現代史を語る。	同　上	同　上
11	ネタニヤフとバラク	ラビン暗殺後の選挙で首相となったネタニヤフとはいかなる人物なのだろうか。そしてラビンの子飼いであり、ネタニヤフを次の選挙で破って首相となったバラクとは。二人の人物像を通じて、ラビン以降のパレスチナ問題の展開を振り返る。	同　上	同　上
12	スフィンクスの謎/シリアの故アサド大統領	イスラエルと対立路線を堅持するシリアは特殊な国である。30 年にわたる長期政権を維持したアサド大統領の政治を外交と内政の両面から照射する。	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
13	革命はビートルに乗って/ヤセル・アラファト	PLOの指導者として君臨するアラファトの人物像を語りながら、パレスチナ解放運動の歴史を振り返る。	高橋　和夫	高橋　和夫
14	アメリカ/中東で一番重要な国	第一に中東の政治を規定する最大の力であるアメリカの中東政策を紹介する。第二にアメリカの中東政策の決定のメカニズムを考える。第三にその将来に影響を与える要因を考える。	同　上	同　上
15	シャロンとアル・アクサ・インティファーダ	クリントン大統領の最終和平への仲介の失敗の後の情勢の展開を論じる。ポイントはシャロン政権の誕生と、その占領地政策である。	同　上	同　上

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	専門科目	科目コード	1530607	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 現代の国際政治 （’０８）＝（ＴＶ）

－９月１１日後の世界－

〔主任講師（現職名）：高橋 和夫（放送大学教授） 〕

講義概要

アメリカ、イスラム、アジア、欧州連合の拡大、エネルギー、環境というキーワードを使って現代の国際政治を描く。まず、唯一の超大国アメリカの外交に焦点を当てる。分析の第二の視点はイスラムである。アメリカが2001年以来の同時多発テロ以来アフガニスタンとイラクで二つの戦争を戦っている。いずれもイスラム地域である。アメリカの中東・イスラム地域への政策はいかに展開してきたのだろうか。いかなるメカニズムで動いてきたのだろうか。逆にイスラム地域からアメリカはどう見えるのだろうか。単に両者を対立の構図でとらえるのではなく、アメリカで進行するイスラム教徒の増大という現象にも目を向けよう。第三にアジアで台頭するインドと中国に注目する。両国はどのような関係を相互に打ちたてようとしているのだろうか。また超大国アメリカと両国はどのような関係を切り結ぼうとしているのだろうか。アメリカ、インド、中国の関係がアジアの構図を規定する大きな要因となろう。第四に冷戦後に拡大の勢いを強めるEU（欧州連合）の意味を考える。第五にエネルギーと環境という問題を国際政治という視点から分析する。つまり、複数の視点を交差させて国際政治の新しい風景を描き出す。

授業の目標

国際政治を理解するための基本的な構図を提示する。詳細ではなく、太いタッチで全体像を描く。したがって細密画ではなく、墨絵のような国際政治像となろう。強調したいのは、考えるという主体的な行為である。与えられる情報を批判的に分析する能力を獲得していただきたい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	テレビと国際政治/もうだまされないために	イラク戦争の報道で劇的な形で示されたように、テレビの映像は国際政治で大きな役割りを果たす。しかしながら、映像とは客観の顔をした主観に過ぎない。映像は、それを創り出し送り出す側の意図に左右されるからである。そうした視点から、テレビが国際政治に影響を与えるメカニズムの幾つかを提示する。 【キーワード】 部分と全体、主観と客観、ニクソンのワナ、衛星テレビ、アル・ジャジーラ	高橋 和夫（放送大学教授）	高橋 和夫（放送大学教授）
2	スーパー・パワーの世界戦略	世界の国々はアメリカとその他に分類できる。そのアメリカの世界戦略を歴史的な視野から振り返る。同時に、その力の源泉と外交の特徴を紹介する。つまり冷戦後の唯一の超大国の国際政治での姿を太いタッチで描写する。 【キーワード】 小国としてのアメリカ、第一次世界大戦、第二次世界大戦、5M	同上	同上
3	アメリカの中東政策	第二次世界大戦後のアメリカの中東政策の展開を跡付ける。またアメリカの中東政策を突き動かす国内政治のダイナミズムを分析する。 【キーワード】 三つの目標、ソ連の封じ込め、石油、イスラエルの安全保障、 AIPAC	同上	同上
4	アフガニスタン(1)大国のはざまで	1979年のソ連軍の侵攻、そして2001年のアメリカのターレバン攻撃など戦争の際に一瞬だけ光を浴びては、また忘れられる。現代史におけるアフガニスタンは、そのような運命を甘受してきた。光を浴びていない時期を含めたアフガニスタンの近現代史を解説する。 【キーワード】 ナポレオン、グレート・ゲーム、デュランド・ライン、パシュトゥーン	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	アフガニスタン(2)対ターレバン戦争	アフガニスタンの隣国パキスタンの置かれた位置は微妙である。アメリカの同盟者であると同時にかつてはターレバンの保護者でもあったパキスタンは、カシミールを巡ってインドと対立している。また同じようにアフガニスタンに隣接するイランは、この戦争においてアメリカに協力したにもかかわらず、「悪の枢軸」の一員とされた。周辺諸国の動向を視野に収めながら、1990年代のターレバンのアフガニスタン制圧、2001年のアメリカのアフガニスタン攻撃とターレバン政権の崩壊とその後の情勢を跡付ける。 【キーワード】 ターレバン、パイプ・ライン、中央アジア、アルカーエダ	高橋 和夫(放送大学教授)	高橋 和夫(放送大学教授)
6	イラク(1)サダム・フセインの時代	アメリカの対イラク政策は、フセイン政権の利用に始まり、その封じ込めに転じ、そして転覆へと帰結した。イラクの歴史から説き起こし、フセインの時代、そしてイラク戦争への道を振り返る。 【キーワード】 バース党、フセイン、イラン革命、イラン・イラク戦争、化学兵器、	同上	同上
7	イラク(2)「戦後」の風景	2003年のアメリカによるイラク攻撃は、フセイン政権の終わりではあってもイラク情勢の安定の始まりではなかった。イラク戦後のイラクの風景を描き、将来のシナリオを提示する。ポイントの一つはイラク北部のクルド地域の動向である。 【キーワード】 三分割、シーア派、スンニー派、クルド民族、バルカン、オスマン帝国	同上	同上
8	イラン／超大国と地域大国	イラクに影響力の強い国はアメリカとイランである。この両国関係の展開がイラクの将来を左右しかねない。そのアメリカ・イラン関係の核心にあるのが、イランの核開発である。平和利用を主張する地域大国とイランの軍事的野心を疑う超大国アメリカの間の緊張が高まっている。 【キーワード】 ウラン濃縮、軍事力行使、経済制裁、イスラエル、ヘズボッラー	同上	同上
9	アメリカのイスラム(1)9・11の影で	アメリカでイスラム教徒が急増している。その流れの一つは、黒人の間に広まった教えを広めたネーション・オブ・イスラムという組織である。第二の流れは白人の改宗者である。そして第三の、そして一番大きな流れはムスリム(イスラム教徒)の移民の急増である。アメリカのそのメンバーはブラック・ムスリムと呼ばれる。アメリカの多様なイスラムの姿を伝える。 【キーワード】 イライジャ・ムハマッド、マルコムX、ムハマッド・アリ、アビゼイド将軍	同上	同上
10	アメリカのイスラム(2)政治への衝撃	2000年の大統領選挙の勝敗を分けたのはフロリダ州であった。そのフロリダ州でのブッシュの「勝利」にイスラム教徒は大きな役割を果たした。また2006年にはイスラム教徒の連邦下院議員が誕生した。このようにムスリムの急増がアメリカの政治にインパクトを与え始めた。 【キーワード】 公開されない証拠、パレスチナ問題、エリソン議員、アラブ人とイスラム教徒	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	ヨーロッパのパラドックス／統合と分離	EU（欧州連合）の拡大が続いている。逆にスコットランドや北イタリアなどでは、現在の国家の枠組から離脱しようとの運動がある。国家の単位を超えた統合への希求と国家から離脱を目指す傾向が並存している。一見矛盾する二つの流れが何故に存在するのだろうか。ヨーロッパに典型的に観察される矛盾する二つの流れの背景を探る。 【キーワード】 マイクロ・ナショナリズム、グローバリゼーションの二つの顔	高橋 和夫（放送大学教授）	高橋 和夫（放送大学教授）
12	巨象と昇竜/インドと中国	アジアにおける大きな構図はインドと中国の台頭である。長期的には両者の関係がアジアの国際政治を規定する重要なベクトルとなるだろう。発展する両国の経済が世界の資源需給に殊にエネルギー供給に重い負担となりつつある。また両国の影響力が触れあい、摩擦を起こす場面も見えてきた。両国の発展の意味は何か、国際政治への影響は何か、昇竜と巨象の関係を見つめながら、将来への展望を探る。 【キーワード】 中印国境紛争、経済成長、製造業、ソフト、在米インド人	同上	同上
13	エネルギー	ペルシア湾岸が世界の心臓である。世界経済の血液に当たる石油を各国に輸出しているからである。また2000年代に入ってからのエネルギー価格の急騰は、ロシアの国際政治への大国としての復活をもたらした。ロシアがエネルギー大国だからだ。こうした例を取り上げながら、エネルギーが国際政治に与える意味を考える。 【キーワード】 GCC、北極海、カスピ海、新エネルギー、「爆食」	同上	同上
14	環境保護の政治力学	環境問題のエッセンスは、環境保全の費用を誰が、いつ、どのような形で負担するかにある。環境問題の難しさは、科学的な不確定さを背景として議論される点にある。環境問題の特徴は、NGOの果たす役割の大きさである。 【キーワード】 地球温暖化、CO2、環境技術の移転、	同上	同上
15	国際政治の新しい風景	外交とは国家が外務省を通じて行うとの通念が壊れて来た。「国内官庁」、自治体、企業、NGOさらには個人まで外交に関与する時代が到来している。また戦争は国家が軍によって行うという概念も過去のものとなった。イラクで展開する民間軍事会社の「企業戦士」は2万人と言われる。外交にも戦争にも種々のアクター（行動主体）が参加している。21世紀の国際政治の風景である。 【キーワード】 DN、アルカーエダ、インターネット	同上	同上

＝　日本政治思想史（‘０５）＝（Ｒ）
－「自由」の観念を中心に－

〔主任講師：宮村　治雄（成蹊大学教授）〕

全体のねらい

日本に於ける「自由」という観念は、西欧思想との出会いをきっかけにして、〈liberty〉や〈freedom〉という西欧語の訳語を通して受け入れられ、流布し、定着していった、とされる。たしかに、そうした経緯が重要な意味を持っていることは否定できない。しかし、その訳語となった「自由」や「自在」といった言葉は、それ自身の長い歴史をもっていたことも見逃されてはならない。それは、肯定的な意味においても、否定的な意味においても、多様な内包を持ち、またそれぞれの意味についてもさまざまの議論が積み重ねられてきた。そうした言葉と観念の歴史をふりかえり、視野に入れることで、西欧思想との出会い以降の「自由」の歴史にも、また新たな展望と示唆とを引き出すことができると思われる。講義では、そうした見通しの下に、古代から近世までの「自由」や「自在」をめぐるさまざまの局面を検討し、あわせて明治期以降の議論を見直していきたい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	日本における「自由」の思想史――さまざまの接近と本講での視座	津田左右吉と丸山真男 ドバリーと網野善彦 本講での視座	宮村　治雄（成蹊大学教授）	宮村　治雄（成蹊大学教授）
2	「自由」と「専擅」――「人主独擅」と「天皇事（ｽﾒﾄﾞﾜｻﾞ）」の間	「自由」と「専擅」との親和性 「人主独り擅なる所以」―― 韓非子の思想 「天皇事」における「自由」の不在	同　上	同　上
3	「自由」と「法」の内外―― 律令・武家法・太政官布告	中田薫の見解 「律令」における「法」と「自由」 「御成敗式目」における「法」と「自由」（1）――「自由」の否定と「道理」 「御成敗式目」における「法」と「自由」（2）――「於去留者宜任民意也」 「法度」の過剰と「自由」 「法」の内の「自由」―― 「人権宣言」としての「徴兵告諭」	同　上	同　上
4	「自由」と「不自由」――「仏教」受容の意味について	「仏法」による「王法」の定立 ――「十七条憲法」の意味 「仏法」における「自由」の行方 ―― 最澄・法然・親鸞・道元 仏教的「自由」の世俗化 ―― そのいくつかの形態について	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	「真実が汝らを自由に為すべし」――キリシタン思想の挑戦	キリシタン文献の思想史的意義 「御自由自在の御主」 「心の自由」 「自由に為す」ことの両義性	宮村　治雄	宮村　治雄
6	「自由」と「主宰」――近世儒教における「自由」の意味	儒教経典における「自由」の不在の意味 —— 法家・仏教との比較において 近世における「自由」の浸透の諸相 儒学の側からの応答 —— 「自由」と「主宰」	同　上	同　上
7	「兵学」的「自由」と「万民自由」――徂徠学の課題	「軍法」と「治国」—— 「自由」の原型の分極 「旅宿の境界」と「自由」の瀰漫 「先王の道」と「心の儘なる支配」――「制度」と「自由」 徂徠の「解決」	同　上	同　上
8	「自由便利」の両義性――「商業」と「都市」	徂徠的世界像の反転 —— 石田梅岩の思想史的位置 本居宣長の「自由」 支配層からの応答	同　上	同　上
9	「権」と「自由」――経世策における近世から「維新」へ	「物ノ利ヲ自由ニスル権利」 「権」の多様化の諸相 「権」「自由」「法」—— 海保青陵の思想 幕末における「権」の言説 —— 政治的実践へ 「権」と「力」の相剋 —— 「自由」の再定義	同　上	同　上
10	「天賦自由」の二類型 —— 西洋的「自由」における<natural><civil><political>	福沢諭吉の場合 加藤弘之の場合 福沢と加藤の分岐	同　上	同　上
11	「天賦自由」から「民権自由」へ —— 自由民権における「自由」の急進化と狭隘化	植木枝盛と馬場辰猪 —— 共通性と対照性 「天賦自由」から「民権自由」へ 「民権自由」の思想基盤 「民権自由」における「政治」の収縮	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
12	「立法」と「道徳」―― 「功利主義」における「自由」の逆説	「最新思想」としての「功利主義」 「法ハ皆自由ヲ妨グル者ナリ」―― 「功利主義」と「立法」 「三宝道徳ノ彝倫学」―― 西周における「利学」と「道徳」 「立法」と「道徳」の間 ―― 「各人ハ其ノ自家ノ利害ノ最良判事ナリ」	宮村　治雄	宮村　治雄
13	「文明」と「自由」―― 福沢諭吉における「自由」の分極	「野蛮」から「文明」へ ―― 二つのパースペクティブ 「文明の自由」の二側面 「二つの自由」の間 ―― 共働の基盤と条件 「文明の自由」の分岐 ―― 「士民の集会」と「兵士の調練」	同　上	同　上
14	「心思ノ自由（リベルテモラル）」と「立法」―― 中江兆民の思想	兆民の軌跡 「ルソー批判」に抗して「ルソー」へ ―― 『民約訳解』の成立 「所謂自由権を棄つるの正道」―― 「政」における「正」（1） 「立法」における「所謂議事の正道」―― 「政」における「正」（2） ルソーと兆民の間 ―― 「理学」をめぐる隔たり	同　上	同　上
15	「専擅政府」と「自由政府」―― 兆民の到達	「議会」と「代表」―― ルソーと兆民の間・再論 「無限委任」と「有限委任」 「生産的動物」から「政治的動物」へ ―― 「自治の俗」の京成 思想史の旅を振り返って	同　上	同　上

＝　西洋政治思想史（‘０５）＝（Ｒ）

〔主任講師：　川出　良枝（東京大学教授）〕
〔主任講師：　山岡　龍一（放送大学准教授）〕

全体のねらい

政治とは何か、特に、より善き政治とは何であり、それはどうすれば実現可能なのか、といった問いを、西洋政治思想の歴史を振り返ることで検討する。本講は思想の歴史的継承や文脈に留意しつつも、むしろいくつかの重要な論点を選び、その理解を通じて、西洋政治思想史の現代的な意義を明らかにする。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	西洋政治思想史とは何か	西洋政治思想史という学問の全体像を簡単に示し、その学習と研究の方法と意義を考える。	川出　良枝（東京大学教授） 山岡　龍一（放送大学准教授）	川出　良枝（東京大学教授） 山岡　龍一（放送大学准教授）
2	統治の諸形態	いかなる統治の形態が理想であり、また、現実に建設可能であるかという問題は、政治学という学問をギリシアに成立させた最も本質的な原動力であった。当時において展開された政体論を紹介し、さらにそれが近代においてどのように受け継がれ、変貌を遂げたかをみていく。	川出　良枝	川出　良枝
3	法の支配Ⅰ―古代・中世	政治を規制し指導する原理としての法に訴えるという姿勢は、政治思想史の起源にまで遡れる。この法の支配という思想を、古代ギリシアと古代ローマを中心に論じ、その展開を、自然法思想、立憲主義等に留意しつつ、中世まで素描する。	山岡　龍一	山岡　龍一
4	キリスト教の衝撃	政治と宗教の関係は根源的な問題の一つである。ここではキリスト教思想の政治思想への影響を、人間観、権力論、共同体のイメージ等を中心に概観する。	山岡　龍一	山岡　龍一
5	権力	政治秩序はデ・ファクトな物理的強制力によって維持されるという発想が前面に押し出されたとき、近代の政治思想は離陸したと言われる。代表的な権力国家論をマキャヴェリやボダンの思想に探るとともに、ホッブズの登場により、個々人の合意によって国家に権力を委譲するという社会契約説の論理が成立したことの意味を探る。	川出　良枝	川出　良枝
6	富と所有	富と所有をめぐって、政治的なものと経済的なものの関係がいかにして論じられてきたかを古代ギリシアから近代まで概観する。その上で、特に近代社会において私的所有が正当化されたり批判されたりする論理を明らかにする。	山岡　龍一	山岡　龍一
7	迫害と寛容	宗教的寛容の要求を端緒に、異質な価値との共存を肯定するという寛容思想がいかにして発展してきたのかを、特に近代国家が成立・発展していく次期に焦点を絞りながら、考察する。	山岡　龍一	山岡　龍一

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
8	権力批判の論理	近代国家による権力の独占が進むにつれ、強大化した国家権力をいかにすれば制限できるか、という問題が立てられる。それは、一方では、支配の正統性を問い、正統性なき権力には抵抗すべきであるという抵抗権の議論として展開される。他方で、いかなる権力も必然的に堕落するという認識の下で、権力相互の均衡と抑制によって、権力の暴走を抑制すべきであるという権力分立の発想も生み出される。	川出　良枝	川出　良枝
9	公共の利益	私的欲望の追求は、必然的に公共精神の衰退を招くのか。個人の利益と結びつかない公徳心や愛国心はありうるのか。政治に関わる市民（公民）の徳性をめぐる議論は、政治学にとって重要な問題であり続けた。市民の徳を高く評価する共和主義の伝統を概観するとともに、ある意味ではそれと真っ向から対立する18世紀の文明社会論を検討する。	川出　良枝	川出　良枝
10	政治とレトリック	政治を構成する要素として、「言語」は重要な意味をもつ。政治的な影響力は、単なる物理的強制力のみによってではなく、さまざまなシンボルを駆使したレトリックによっても行使される。レトリックが政治的教養の中心にあった古典古代からルネッサンス期の議論を概観し、その語の政治的レトリック論の展開も検討する。	山岡　龍一	山岡　龍一
11	法の支配Ⅱ―近代・現代	法の支配、または立憲主義は、近代憲法の根幹をなす原理である。近代的な「法の支配」の原理は、どのような経緯で成立したのだろうか。また、そもそもそこで問題とされる「法」とは何なのか。中世的な「法の支配」が、近代的な立憲主義へと変貌していった過程を、グロティウス、プーフェンドルフ、ロック、モンテスキューらの「法」をめぐる理論に探る。また、法実証主義の成立による「法の支配」の原理そのものの変質という問題にも考察をくわえる。	川出　良枝	川出　良枝
12	参加と統合	近代デモクラシーの成立過程で大きな画期となったのは、ルソーの一般意志論（人民主権論）の登場である。それにより、すべての人民の政治への直接参加が、政治的統合にとって不可欠であることが示される。しかし、ルソーの構想がそのまま実現することはなく、実際には、間接参加型（代表制）民主制が定着する。	川出　良枝	川出　良枝
13	社会的連帯の基礎	資本主義の急速な発展がもたらした貧困や搾取、地域共同体や家族の変貌、男女や民族の間の差別といった社会問題がクローズアップされるにつれ、国家の役割の見直しがさまざまなかたちで訴えられるようになる。	川出　良枝	川出　良枝
14	政治と教育	善き政体には善き市民が不可欠であるが、善き市民の形成には善き政体が必要である。この根本的な問題をめぐってどのような議論が展開されてきたのかを、政治思想史のなかに探っていく。	山岡　龍一	山岡　龍一
15	正義と善	正義とは何か。正義と善（利益）の関係はいかなるものであるべきか。正義はどのようにしたら発見できるのか。こうした問いは政治の考察において根本的なものである。ここでは特に「公正／権利」と「効用／善」という観点に留意しつつ、正義論の展開を古代ギリシアから現代にまで概観する。	山岡　龍一	山岡　龍一

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	専門科目	科目コード	1538705	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　現代日本の政治（‘07）＝（R）

〔主任講師（現職名）：久米　郁男（早稲田大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：田中　愛治（早稲田大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：河野　勝　（早稲田大学教授）〕

講義概要

現代日本の政治を理解するために、選挙制度や、政党、議会、官僚制など日本の政治制度と政治アクターについて説明を行った上で、それらの制度や政治アクターが、実際の政策過程においてどのような働きをし、どのような形で日本政治の特徴を形づくってきたのかを説明します。

授業の目標

現代日本の政治現象について、我々は新聞やテレビなどのマスメディアを通して簡単に情報を得ることができます。しかし、それらの現象を、単に評論するのではなく客観的に理解するには、政治学の理論の助けが必要です。この授業は、日本の政治を政治学の理論に基づいて体系的に理解することを目標とします。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	日本政治を見る視点	現代日本政治を政治学の理論に従って理解することの意味について説明します。	久米　郁男	久米　郁男 田中　愛治 河野　勝
2	政府への期待	人々は政府にどのようなことを期待してきたのかを世論調査データを用いて説明した上で、政府の守備範囲に関する理論（小さな政府・大きな政府）について説明します。	久米　郁男	久米　郁男
3	民意とは何か：世論と選挙	人々がどのようにして自分たちの代表としての政治家を選んできたのか、政治家はどの程度民意を反映してきたのかを説明します。	田中　愛治	田中　愛治
4	政党と政治	日本の政治における政党の役割、政党を支持しない無党派の出現が日本政治に及ぼしている影響について説明します。	田中　愛治	田中　愛治

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	選挙制度と政党システム	選挙制度のあり方と政党システムの関係を解説し、日本の選挙制度の変遷も詳しく述べます。	田中　愛治	田中　愛治
6	議会の役割	日本の政治における議会の役割について説明します。	久米　郁男	久米　郁男
7	内閣と官僚制	日本の議員内閣制と官僚制の関係について説明します。	久米　郁男	久米　郁男
8	マスメディアと政治	マスメディアの政治への影響について述べ、日本の政治におけるマスメディアの役割について解説します。	田中　愛治	田中　愛治
9	利益団体と政治	日本の政治における利益団体の役割について説明します。	久米　郁男	久米　郁男
10	財政・金融政策	日本の政治アクターが、財政・金融政策にどのように関わってきたかを説明します。	久米　郁男	久米　郁男
11	福祉政策	日本の政治アクターが福祉政策にどのように関わってきたかを説明します。	久米　郁男	久米　郁男

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	地方分権と政治	地方分権をめぐる政治過程について説明します。	久米　郁男	久米　郁男
13	公共事業と政治	日本の政治において公共事業がどのような意味を持っていたのかを説明します。	河野　勝	河野　勝
14	外交政策	戦後日本の外交政策について説明します。	河野　勝	河野　勝
15	外交と内政	戦後日本に於いて外交と内政がどのような関係にあったかを説明します。	河野　勝	河野　勝

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	専門科目	科目コード	1531000	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 現代行政分析 （’０８）＝ （R）

※この科目は「現代行政分析（’04）」の一部改訂科目です。
改訂回は3，4，5，11，12，14，15回です。

〔主任講師（現職名）：真　渕　　勝（京都大学大学院教授）　　〕

講義概要

日本の行政に仕組みを概観すると同時に、それがどのように作動しているかを経験的な分析に基づいて明らかにする。

授業の目標

日本の行政の仕組みについて基本的な知識を身につけると同時に、それに関する理論的な疑問を提起し、それを解く能力を身につける。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	社会科学としての行政学	行政学は行政を研究対象とする社会科学である。それでは、どのようにアプローチすればよいのか。社会科学の研究の方法および行政学への適用の仕方について具体的な例を挙げながら検討する。	真渕　勝（京都大学大学院教授）	真渕　勝（京都大学大学院教授） ゲスト： 久米　郁男（早稲田大学教授）
2	国家公務員制度1－採用と昇進	「国家公務員制度」では採用から退職にいたるプロセスを追う。 2では、国家公務員の採用と昇進のプロセスを概観することを通じて、日本の国家公務員制度の特徴を明らかにする。キャリアとノンキャリア、事務官と技官、男性と女性などを対比させて論じる。	同　上	真渕　勝 ゲスト： 稲継　裕昭（早稲田大学教授）
3	国家公務員制度2－退職と再就職 **（※改訂回）**	天下りの実態を記述した後に、天下りがどのような機能を果たしているのかを分析する。批判されることの多い慣行であるが、一定のポジティブな機能を果たしていたことも明らかにする。	同　上	同　上
4	国家行政機構1－議院内閣制と省庁制 **（※改訂回）**	「国家行政機構」では狭義の行政機構だけでなく、民間との関係をも視野に入れた講義の行政機構について講義する。 4では、2001年の中央省庁再編の前後を比較して、何を変えようとしたのか、そして何が変わったのか、何が変わらなかったのかを検討する。首相のリーダーシップの限界、縦割り行政などが焦点になる。	同　上	真渕　勝
5	国家行政機構2－行政ネットワーク **（※改訂回）**	国家行政機構と特殊法人や民間団体との関係を明らかにすることによって、日本の行政のダイナミズムを明らかにする。特殊法人改革とエージェンシー化、官民関係の変容など最近の動きをどのように理解するかについても触れる。	真渕　勝	真渕　勝 ゲスト： 松並　潤（神戸大学大学院教授）
6	行政改革1－行政改革と行政管理	「行政改革」では、その意味や効果を、経験的側面ならびに理論的側面から検討する。 6では、行政管理はどのように行われているのかを記述した後に、これと行政改革の関係を経験的に分析する。行政改革は行政の実態にどのような影響を及ぼしているのかを明らかにするのが目的である。	同　上	真渕　勝

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
7	行政改革2－改革の理論	行政改革を含む政治の仕組みの改革はどのような理由やタイミングで行われるのかを合理的選択論の視点から説明する。地方制度改革についても射程にいれる予定である。	同上	同上 ゲスト: 建林 正彦 （同志社大学教授）
8	政策過程1－議題設定と政策決定	「政策過程」では議題設定から評価にいたる流れを理論的に概観すると同時に、予算編成を素材にその実態を明らかにする。 8では、政策過程の理論の前半部分に関する諸理論を紹介する。ある潜在的な問題が政府の取り上げるところになるのはどのようなプロセスを経てであるか、なぜある問題は放置され続けるのかについて、マスメディアの役割に言及しながら、解明する。	同上	真渕 勝 ゲスト: 久米 郁男
9	政策過程2－実施と評価	政策過程の理論の後半部分に関する諸理論を紹介する。政策が期待された効果を発揮しないことがあるが、それはなぜか、それに対してどのような策が講じられているのかについて検討する。	同上	真渕 勝 ゲスト: 秋月 謙吾 （京都大学大学院教授）
10	政策過程3－予算編成過程	現実の政策過程のあり様を予算編成過程を概観することによって描く。政策の優先順位はどのようにつけられているのか、政治家や国民は予算編成にどのように係わっているのかを見る。	同上	真渕 勝
11	官僚制論1－国民、政治家、官僚 （※改訂回）	「官僚論」では、官僚の役割を、官僚と国民・政治家との関係、上級及び下級官僚の行動様式という3つの観点から検討する。 11では、行政官の役割をいわゆる本人代理人論の観点から整理する。一方で官僚にその能力を十分に発揮させ、他方で官僚の行動を監視するにはどのような方法があるのかについて考えたい。	同上	真渕 勝 ゲスト: 久米 郁男
12	官僚制論2－上級官僚の機能と役割 （※改訂回）	キャリアの官僚に焦点をあてて、彼らの役割意識と行動様式について検討する。	真渕 勝	真渕 勝
13	官僚制論3－第一線公務員の行動様式	ノンキャリアの官僚に焦点をあてて、彼らの役割意識と行動様式について検討する。	同上	真渕 勝 ゲスト: 北山 俊哉 （関西学院大学教授）
14	中央地方関係1－法的関係 （※改訂回）	「中央地方関係」では、中央政府と地方政府との関係を法的関係、財政的関係、人的関係の3つの側面から検討する。 14では主に法的関係について検討する。中央政府はどのように地方政府を法的に統制しているのか、地方はどのように独自性を発揮しようとしているのかが焦点である。	同上	真渕 勝 ゲスト: 秋月 謙吾
15	中央地方関係2－財政的関係と人的関係 （※改訂回）	中央地方関係の残る2つの側面を見る。中央政府はどのように地方政府を財政的、人的に統制しているのか、地方はどのように独自性を発揮しようとしているのかが焦点である。市町村合併についても言及する。	同上	真渕 勝 ゲスト: 北山 俊哉

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	専門科目	科目コード	1538802	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　日本政治外交史（‘07）＝（TV）
—転換期の政治指導—

〔主任講師（現職名）：　天川　晃（放送大学教授）　〕
〔主任講師（現職名）：　御厨　貴（東京大学教授）　〕
〔主任講師（現職名）：　牧原　出（東北大学大学院教授）〕

講義概要

近現代の日本政治外交史で大きな転換期をとりあげ、リーダーとそのパーソナリティ、集団とその性格を、指導者を取り巻く状況や行動を制約する制度などとの緊張関係の中で位置づけ、近代日本の政治指導の特質を考える。主任講師の講義に加えて、テーマに関する専門家をゲストに迎える予定。

授業の目標

日本政治外交史の大きな流れをつかむと共に、現代日本の政治的リーダーシップのあり方と特質について考える。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	転換期の政治指導	講義全体のイントロダクション。近現代の日本政治外交史のなかで大きな転換期をトピックとしてとりあげ、その時に直面した課題と解決方法の特質について概観する。	天川　晃	天川　晃 御厨　貴 牧原　出
2	明治の国づくり	幕末から維新政府の創設を経て、明治の国家体制を作り上げてゆく過程を、伊藤博文と山縣有朋らを中心に描いてゆく。	天川　晃	天川　晃
3	戦争と政治指導	明治中期の日本は、日清戦争、日露戦争、第一次大戦と、次々に戦争に乗り出してゆく。この過程での戦争と政治の関係を、陸奥宗光、小村寿太郎などの外交を中心に振り返る。	御厨　貴	御厨　貴
4	転換期の大正	大正期に入ると、外では帝国主義的経営と内ではデモクラシー状況の展開という新たな課題に直面する。この転換期における内政と外交の舵取りを行った原敬と後藤新平を対比させつつ論じる。	御厨　貴	御厨　貴

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	軍縮と軍拡	大正期から昭和前期の政治の焦点は軍縮と軍拡をめぐる国内の動きであった。陸軍と海軍、それぞれの内部における集団と政党、世論が複雑に交錯する動きを跡付ける。	牧原　出	牧原　出
6	宮中と政治	政党が力を失い、軍部が力を持ち始めると、これに対抗する力を持ち始めたのが宮中の勢力である。最後の元老の西園寺公望、首相となった近衛文麿、内大臣の木戸幸一らの動きを中心に戦前・戦時の宮中と政治の動きを通観する。	御厨　貴	御厨　貴
7	天皇と天皇制	天皇に関する制度は明治憲法期と現行の日本国憲法期では大きく異なる。昭和天皇はこの大きく変貌した二つの憲法環境を一身で経験した。昭和天皇の役割を中心に昭和の時代を振り返る。	御厨　貴	御厨　貴
8	戦後体制の形成	敗戦から占領、そして講和条約と安保条約の締結。これらを通じて第二次大戦後の政治体制は作られた。この章では吉田茂と岸信介を中心に戦後体制の形成過程を検討する。	天川　晃	天川　晃
9	高度経済成長期の政治	１９５０年代から始まる高度経済成長は日本社会のあり方を大きく変えた。池田勇人内閣の「所得倍増」と佐藤榮作内閣の「社会開発」を中心に、高度経済成長期の政治家・官僚・ブレーンの役割について検討し、経済成長の政治的影響を考える。	牧原　出	牧原　出
10	民主政治の源流	日本政治の民主化の過程を、政治の舞台装置である議会の形成と議会・政党人の歩みを中心にフォローしつつ、戦前日本の議会と政党政治の特質を考える。	御厨　貴	御厨　貴
11	戦後政党システム	戦後の政党システムは戦前の遺産を引き継いで発展してきた。戦後の議会制度の枠組みの変化と政党の人的系譜をたどるとともに、諸外国の戦後政党システムとの比較をも試みる。	天川　晃	天川　晃

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	政治と司法	政治と司法のあり方も戦前と戦後で大きく異なる。司法の政治介入と政治の司法介入の歴史を辿りつつ司法権の独立の政治史的意義を考える。	牧原　出	牧原　出
13	自治体と改革	自治体首長の直接公選制度は多様な人材を自治体の首長に受け入れることを可能にした。１９６０年代以降、自治体におけるさまざまな実験が日本の政治に影響を与えてきた。「改革派」首長の役割を考える。	天川　晃	天川　晃
14	保革伯仲と派閥政治	高度成長以後、成長の成果の分配が政治の主題となり、成長と分配をめぐって与野党間でも与党の自民党内でも争いがあった。この保革伯仲期の派閥政治について、田中角栄内閣から大平正芳内閣について検討する。	牧原　出	牧原　出
15	大統領的首相	派閥抗争の展開は国民から政党への支持を低下させる。政党内の基盤の弱い指導者は直接に国民から支持を調達して政権の運営を図ろうとする。大統領的首相の登場の意義を中曽根康弘、小泉純一郎らの政治スタイルとともに考える。	牧原　出	牧原　出

＝　現代東アジアの政治（‘０４）＝（Ｒ）

〔主任講師：　山田　　辰雄（放送大学教授）〕
〔主任講師：　小島　　朋之（慶應義塾大学教授）〕
〔主任講師：　小此木　政夫（慶應義塾大学教授）〕

全体のねらい

第二次世界大戦終結後の東アジアの政治発展の軌跡、現状、およびその構造的特徴を講義する。ここでは東アジアを狭義に定義し、中国、台湾、香港、韓国、北朝鮮を中心とする。それは、いわば日本にとっても最も関係の深い近隣諸国・地域の政治の理解を目的とする。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	現代東アジアの政治を学ぶ	現代東アジアの政治は常に大きく変動している。この講義が目指すのは、変動を捉えるとともに、目前の変化にとらわれない東アジア政治理解の基本的枠組を提示することである。歴史・構造・比較・関係の 4 つの視角から東アジアの政治を見る。	山田　辰雄（放送大学教授）	山田　辰雄（放送大学教授）
2	中国（1） 中華人民共和国の成立	中華人民共和国成立当初の最大の課題は、政治・経済体制の確立であった。政治制度の樹立と正統性の確保、憲法の公布、共産党権力の浸透、反革命勢力の排除、経済の復興、社会主義経済への改造、国際的地位の確立などがそれである。	同　上	同　上
3	中国（2） 毛沢東の時代	1958 年以来毛沢東は人民公社・大躍進・社会主義総路線からなる急進的「三面紅旗」を展開した。この政策の失敗を是正すべく劉少奇らは「調整政策」をとったが、権力の喪失を恐れる毛は 66 年からプロレタリア文化大革命を発動した。	小島　朋之（慶應義塾大学教授）	小島　朋之（慶應義塾大学教授）
4	中国（3） 鄧小平の時代	1978 年 12 月中共 11 期 3 中全会は鄧小平の指導下に文革から現代化への路線転換を行った。改革は計画経済から市場経済への移行を、開放は先進諸国からの資金と技術の導入を意味した。しかし、経済は改革したものの政治的には党の指導は放棄されず、89 年の天安門事件はその現れであった。	同　上	同　上
5	中国（4） 江沢民の時代	天安門事件直後党総書記に抜擢された江沢民は国家と軍の最高のポストも独占し、鄧小平の路線を継承した。彼は経済発展に伴う社会の多元化に直面し、2000 年に「三個代表」を提起、私営企業家まで取り込み、中華民族の偉大な復興をも鼓吹した。	同　上	同　上
6	韓国・北朝鮮（1） 朝鮮解放と分断体制の成立	太平洋戦争終結後、日本の統治から解放された朝鮮は、即時独立ではなく、38 度線を境とする米ソの分割占領下に置かれた。冷戦の勃興につれ 1948 年朝鮮半島の南北に大韓民国と朝鮮民主主義人民共和国が誕生、50 年には朝鮮戦争を招来した。	小此木　政夫（慶應義塾大学教授）	小此木　政夫（慶應義塾大学教授）
7	韓国・北朝鮮（2） 分断国家の二つの道	朝鮮戦争終結後南北朝鮮間で熾烈な建国競争、そして体制間の生存闘争が展開された。朴正熙将軍のクーデター後韓国では開発独裁体制下で輸出主導型の工業化が進展したが、社会主義の北朝鮮では「南朝鮮革命」を通じた朝鮮統一が追求された。	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
8	韓国・北朝鮮（3） 韓国の民主化と冷戦の終結	南北朝鮮の体制間競争は、冷戦が終結する1980年代末までに決着をみた。重化学工業化を達成した韓国が民主化に成功したのに対し、北朝鮮は経済的に破綻し、政治的にもますます硬直化した。ソ連・東欧諸国と中国は韓国と国交を樹立した。	小此木　政夫	小此木　政夫
9	台湾（1） 国民党一党独裁体制の成立と強化	中共との内戦に敗れた国民党は、冷戦の展開と米国の支援によって台湾で復活した。国民党は蒋介石の個人的権力を極端に強化し、党組織を社会の隅々まで浸透させ、市民を抑圧し、台湾本省人の政治的地位を低く抑えた一党独裁体制を実現した。	松田　康博（防衛研究所主任研究官）	松田　康博（防衛研究所主任研究官）
10	台湾（2） 民主化・台湾化と台湾問題の国際化	米中国交正常化の中で蒋経国政権は国際的孤独と民主化運動への対処に悩まされた。後の李登輝政権は台湾化、新大陸政策、民主的改革を推進した。以後内外政策における台湾独自路線が定着したため、中国の反発を招き台湾問題は国際問題化した。	同　上	同　上
11	香港－返還をめぐる政治	英領植民地香港が1997年中国に返還された。これを契機に香港の内政と外交は大きく変化した。返還を望まぬ香港、「一国二制度」の背景、イギリスの返還戦略、香港の民主化運動、中国の香港管理、中国式民主主義などの問題を取り上げる。	戸張　東夫（産能大学教授）	戸張　東夫（産能大学教授）
12	東アジアにおける日本	20世紀の東アジアと日本との関わりは1945年までの戦争期、冷戦期、冷戦後に分けられる。東アジアの経済発展における日本モデルの意味も比較の観点から重要である。近年の日本の対東アジア政策はグローバル化の中で重要性を増しつつある。	国分　良成（慶應義塾大学教授）	国分　良成（慶應義塾大学教授）
13	東アジアの国際関係とアメリカ	20世紀東アジア国際関係では日米中三国の関係が重要な要素であった。冷戦後のアメリカの東アジア戦略は、クリントン政権とブッシュ政権とで異なるところが目立つが、共通した部分はないのか。朝鮮半島・中台関係などを考える時アメリカの要素を抜きに考えることはできない。	同　上	同　上
14	東アジアの地域主義と日本	第二次世界大戦後の冷戦期にあって、1960年代ＡＳＥＡＮの誕生は地域主義の萌芽であった。冷戦後ＡＰＥＣ，ＡＲＦ、地域経済圏構想が注目されたが、最近ではＡＳＥＡＮ10カ国と日中韓3カ国の去就が今後のＦＴＡ（自由貿易協定）と絡んで重要である。	同　上	同　上
15	中国共産党第16回全国代表大会	放送期間における東アジアの主要な政治変動について述べる。今回は、中国ならびにアジアの政治に大きな影響を与える、2002年11月に開催された中国共産党第16回全国代表大会を取り上げて論じる。	山田　辰雄	山田　辰雄

＝　現代経済学　（‘０５）＝（TV）

〔主任講師：　賀川　昭夫（東京経済大学教授）〕

全体のねらい

私達の欲望に限りはないが、資源には限りがある。その限られた資源を様々な欲望を充足するために配分しなければならないが、私達は市場経済という経済体制を用いることで、それを無意識のうちに行っている。市場経済とは多くのお金を支払う人が多くを消費できるという経済システムであり、ミクロ経済学とマクロ経済学という2つの分析手法を用いて、市場経済の果たす資源配分について考えていく。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	資源配分と市場経済	どのような社会にも「誰がどの資源を使ってどのような生産手段で何をいくら生産し、誰が何をいくら消費するか」という問題がある。市場経済では、価格を媒介にした市場取引を通じてその問題を解決している。このような市場経済の基本的性質について説明する。	賀川　昭夫（東京経済大学教授）	賀川　昭夫（東京経済大学教授）
2	需要・供給・市場均衡	簡単な例を用いて、需要曲線と供給曲線を導出する。需給がバランスするとき、市場は均衡しているというが、そこでは社会的余剰が最大になっている。これらについて説明する。	同　上	同　上
3	消費者の合理的行動	消費者は、限られた予算の範囲内で、効用を最大にするように財の購入量を決定する。これが消費者の合理的行動仮説であり、これからどのような結論が得られ、それらが現実の観察結果と整合的かどうかについて説明する。	同　上	同　上
4	企業の合理的行動	企業は、保有する生産技術の下で、利潤を最大にするように生産計画を立てる。これが企業の合理的行動仮説である。この仮説の下では、企業の生産要素に対する需要と生産物に対する供給がどのように決まるのかについて説明する。	同　上	同　上
5	競争市場の均衡と効率性	財・サービスについての需要と供給が出会う市場で、需給のバランスした状況を均衡とよぶ。競争経済における市場均衡では、資源が効率的に配分されていて、市場経済が効率的であることを説明する。	同　上	同　上
6	不完全競争市場	価格をコントロールする経済主体がいれば、市場は独占、寡占、独占的競争など不完全競争市場となる。そこでは、資源配分の効率性が実現しないことなどを説明する。	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
7	市場の失敗	市場経済で資源が効率的に配分されないとき、市場が失敗するという。外部性、公共財、情報の偏在などは、市場の失敗を引き起こすので、それらを是正するために、政府は何らかの政策をとる。これらについて説明する。	賀川　昭夫	賀川　昭夫
8	経済循環と国内総生産	国内総生産（GDP）や失業率は、一国全体の経済活動を集約して表す変数である。マクロ経済学は、これらがどのような水準に定まるのかを明らかにする分野であるが、まずはGDPという基本概念を説明する。	同　上	同　上
9	GDP水準の決定	現代マクロ経済学の創始者であるケインズは、生産水準は需要の大きさから定まると考えた。この考え方の下ではGDPがどのような水準に定まるのか、そのとき失業が存在するのかどうか、などを説明する。	同　上	同　上
10	投資関数	企業が将来の生産能力を拡大するためにを行う設備投資で、たとえば、ある機械を購入するかしないかを、どのように判断するのか、そしてまた一国全体の投資量がどのように定まるのか、を説明する。	同　上	同　上
11	貨幣への需要と供給	貨幣とは何か、現金を保有していても、それから収益を得ることはないもかかわらず、人々が現金を保有しようとするのは何故かなど、貨幣に関する基本的なことについて説明する。	同　上	同　上
12	財政政策と金融政策	財市場と貨幣市場の2市場が同時に均衡する状況を考える。財政政策や金融政策の結果、その均衡はどう変化するのか、それらの比較から政策の有効性を説明する。	同　上	同　上
13	インフレーションと失業	財市場、貨幣市場、労働市場の3市場を考え、物価水準がどのように決まるのかを考える。そして、どのような状況にあるときに失業が存在するのか、どのような状況の時にインフレーションが生じるのか、などについて説明する。	同　上	同　上
14	開放経済のマクロ分析	外国との取引を考えた開放経済を考える。外国通貨との交換比率である為替レートはどのように決まるのか、あるいは、開放経済における財政政策と金融政策の有効性などについて、説明する。	同　上	同　上
15	経済変動と経済成長	時間と共に経済は変化している。経済動学は、時間の経過につれて経済がどのように変化していくかを分析するものである。この章では、経済変動や経済成長の代表的な考え方について説明する。	同　上	同　上

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	専門科目	科目コード	1530305	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 労働経済 （’０８）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：松繁　寿和（大阪大学教授）〕

講義概要

この授業では、まず労働経済学の基礎理論を学ぶ。労働市場の動きを労働供給と労働需要に分け、それぞれがどのように決まるかを説明する。その後、現実に起きている問題、例えば、若年労働、仕事と家庭との両立、少子高齢化などを紹介するが、できるだけ具体的な例を取り上げて問題を認識し易くする。その上で、それらの問題が理論的にどのように分析できるかを議論するとともに、制度や政策が労働市場に与えている影響も検討する。

授業の目標

第一に、労働経済の基礎理論を理解し、労働問題に接近するための経済学的考え方を身につける。第二に、現実の問題に関する理解を深める。第三に、政府やエコノミストが唱える政策がどのような理論・実証的背景を持っているのかを理解する能力を身につける。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	労働力	労働力に関する用語の定義と労働市場の状況を捉えるための指標を紹介する。また、これらの指標は、生活のどのような側面を反映しているかを考える。 【キーワード】 労働力、失業、非労働力化	松繁寿和（大阪大学・教授）	松繁寿和（大阪大学・教授）
2	賃金と労働供給	労働市場の分析は、労働供給の動きと労働需要の動きによって決定されるので、まず、労働供給がどのように決定されるかを説明する。なかでも重要な要因である賃金と労働供給の関係を考える。 【キーワード】 労働供給曲線、余暇、名目賃金、実質賃金	松繁寿和（大阪大学・教授）	松繁寿和（大阪大学・教授）
3	賃金以外の要因と労働供給	勤労所得以外の所得の存在が、労働供給に与える影響を考える。例えば、宝くじに当たったような場合、労働者の働き方がどのように変化をするかを理論的に考える。 【キーワード】 非勤労所得、セーフティーネット	松繁寿和（大阪大学・教授）	松繁寿和（大阪大学・教授）
4	賃金と労働需要	企業が利潤をもとめて行動することにより、労働への需要がどのように導きだされるかを理論的に説明する。労働供給の議論との対称から、まず、賃金と労働需要の関係を考える。 【キーワード】 生産関数、利潤最大化、労働需要曲線	松繁寿和（大阪大学・教授）	松繁寿和（大阪大学・教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	労働時間	労働時間の決定に影響をおよぼす要因を、経済的要因と制度的要因の両方から探る。また、それぞれの要因によってどのようなことが労働市場で起きているのかを分析する。 【キーワード】 長時間労働、超過勤務手当、裁量労働	松繁寿和(大阪大学・教授)	松繁寿和(大阪大学・教授)
6	機械と労働	生産要素としての労働と資本、すなわち労働と機械設備との関係を取り上げる。最初に基礎的な理論を紹介し、その後、労働を熟練と不熟練の二分し、機械化がそれぞれの需要にどのような影響を与えるかを議論する。例えば、IT化がどのような層への需要を喚起している可能性があるかなどを議論する。 【キーワード】 労働生産性、生産要素間の代替、資本と技能の補完	松繁寿和(大阪大学・教授)	松繁寿和(大阪大学・教授)
7	海外との競争	企業が世界規模での競争を余儀なくされていることに注目し、日本企業の海外移転がどのような影響を日本の労働市場に与えているかを検討する。また、たとえ企業が海外に移転しなくても、生産物の競争によって、間接的に海外の労働価格が国内の労働価格に影響をおよぼすことを説明する。 【キーワード】 海外移転、産業空洞化、コストダウン、	松繁寿和(大阪大学・教授)	松繁寿和(大阪大学・教授)
8	若者と労働	若者の就労意識の変化や不安定な就労の恒常化などの問題を、労働経済学の視点から供給面での変化と需要面での変化に分けて整理し、どのような要因によってそれらが生じているかを検討する。 【キーワード】 ニート、フリーター、就職活動	松繁寿和(大阪大学・教授)	松繁寿和(大阪大学・教授)
9	女性と労働 I	最近増加している非正規雇用の問題を、特に女性就労の点から取り上げる。中でも、派遣とパートに注目する。派遣に関しては、派遣労働者を取り巻く環境と仕事の中身を紹介する。また、パートに関しては、パートの長期化や基幹パートの存在に注目する。 【キーワード】 非正規雇用、派遣、パート、	松繁寿和(大阪大学・教授)	松繁寿和(大阪大学・教授)
10	女性と労働 II	まず、結婚出産で仕事を辞め家庭に入るという現象を紹介する。また、少子化がどのように進んできたのかを観察し、女性の労働力化との関係を探る。さらに、近年注目されているファミリーフレンドリー(ファミ・フレ)施策を紹介し、どのような効果が期待されているのかを議論する。 【キーワード】 M字カーブ、少子化、ファミリーフレンドリー施策	松繁寿和(大阪大学・教授)	松繁寿和(大阪大学・教授)
11	高齢者と労働	人事・処遇制度の中身を詳しく説明し、年功的賃金と昇進が、どのようなメカニズムで生じるのかを明らかにする。また、年功に経済合理的意味を与えた労働経済学の理論も紹介する。一方、そのような人事・処遇制度において生じる高齢者雇用の問題を取り上げる。 【キーワード】 年功、定年、年金	松繁寿和(大阪大学・教授)	松繁寿和(大阪大学・教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	人事制度と労働意欲	まず、労働意欲を向上させるための、報酬・処遇制度における工夫を紹介する。その後、成果主義と言われる人事制度がどのような改革であったのかを考える。また、そのような施策の有効性と限界を考える。 【キーワード】 労働意欲、報酬、成果	松繁寿和(大阪大学・教授)	松繁寿和(大阪大学・教授)
13	中小企業、開・廃業	まず、日本における賃金の規模間格差を観察する。さらに、労働の受け皿としての中小企業の役割や日本の製造業の競争力を支える中小企業の技術力を見ることで、経済全体におけるにおける重要性を考える。さらに、開業率や廃業率の推移をみることで、経済の新陳代謝の問題を考える。 【キーワード】 中小企業、開業、廃業	松繁寿和(大阪大学・教授)	松繁寿和(大阪大学・教授)
14	コーポレートガバナンスと労働組合	企業経営における経営者、株主、従業員の役割をみることで、企業は一体誰のものであるかを考える。また、従業員の利益を守ってきた組合を取り上げ、その変遷と現在抱えている問題を議論する。 【キーワード】 コーポレートガバナンス、ステークホルダー、組合	松繁寿和(大阪大学・教授)	松繁寿和(大阪大学・教授)
15	格差とセーフティーネット	これまでに見てきた各テーマを格差の視点から捉え直すことで、どのような側面で格差が問題とされているのかを整理し直す。また、セーフティーネットが政策的にどのように変更されたか知り、その影響を検討する。 【キーワード】 格差拡大、ワーキングプア、セーフティーネット	松繁寿和(大阪大学・教授)	松繁寿和(大阪大学・教授)

＝　財政学（‘０５）＝（TV）

〔主任講師：　井堀　利宏（東京大学大学院教授）〕

全体のねらい

本科目では財政学を初めて学ぶ人を対象として、財政学の基礎的な概念を説明する。また、単なる財政学の講義にとどまらず、今後の財政構造改革、税制改革上の重要な諸問題について、少子化対策、官と民の役割分担、民営化や地方分権、社会保障制度改革のあり方など、幅広い視点からわが国の現状をふまえながら政策的な議論することで、日本財政の基本的な解説も試みる。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	財政学とは何か	財政学ではどのような内容の講義をするのか、実例を取り上げながら、これからの講義の構成を説明する。	井堀　利宏（東京大学大学院教授）	井堀　利宏（東京大学大学院教授）
2	予算の制度	財政制度の中心的な役割をもっている予算について、日本の制度を念頭に置きながら説明する。また、予算ができるプロセスについてもふれる。	同　上	同　上
3	政府支出の現状	政府の経済活動の役割を、支出面から説明する。財政の果たすべき機能を取り上げるとともに、日本の政府支出の概要を説明する。	同　上	同　上
4	財政運営のマクロ理論	財政運営のマクロ理論の考え方を、マクロ経済の安定化政策を中心として説明する。また、政府支出が経済成長の与える効果についてもふれる。	同　上	同　上
5	公共財の理論	市場では必ずしも適切に供給されない公共サービスである公共財の理論を説明するとともに、市場経済における政府の役割をまとめる。	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
6	民営化と財政	民営化がどのような経済的意味を持つのかについて、市場と政府を比較しながら、検討する。民営化が財政に与える影響も考える。	井堀　利宏	井堀　利宏
7	所得税	わが国の所得税の仕組みを説明するとともに、労働所得税、利子所得税の経済的な効果や、そのあるべき姿を検討する。	同　上	同　上
8	法人税	わが国における法人税の現状を説明するとともに、その経済的な効果を検討する。また、企業課税の役割にいても取り上げる。	同　上	同　上
9	消費税	個別消費税の負担と転嫁を説明するとともに、一般的な消費税の経済的な効果を検討する。	同　上	同　上
10	税制改革	わが国の税制改革の流れを説明するとともに、消費税と所得税の相対的なメリットとデメリットを比較検討する。	同　上	同　上
11	公債発行とその負担	公債発行がマクロ経済にどのような影響を与えるかを説明する。また、公債発行と世代間の負担の関係についてもふれる。	同　上	同　上
12	財政赤字と財政破綻	わが国における財政赤字の動向を説明するとともに、財政破綻を招かない財政運営のあり方を考える。	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
13	社会保障	財政支出に占める社会保障の比重は大きい。日本の公的年金の概要を説明するとともに、高齢化社会での社会保障の問題点にふれる	井堀　利宏	井堀　利宏
14	地方財政	日本の地方財政制度の概要を説明する。地方交付税の役割や地方税の構成などもふれる。また、地方分権のあり方も取り上げる。	同　上	同　上
15	財政の課題と展望	２１世紀を展望したときの日本の財政問題を説明する。公共部門の規模と役割、公債発行の大きさ、社会資本整備のあり方、国際化、高齢化社会の財政問題などを論ずる。	同　上	同　上

＝　国際経済学（‘０５）＝（Ｒ）

〔主任講師：　大山　道広（東洋大学教授）〕

全体のねらい

現在世界の大学で教えられている国際経済理論の主要内容を、基礎的な経済理論を習得した初学者を対象として平明に解説する。まず国際貿易理論と国際金融理論について述べ、その理解に基づいて貿易政策、財政・金融政策、地域経済統合、国際貿易・金融体制などの国際経済の重要な問題を論じる。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	国際経済学の課題と方法	国際経済学は国家間の経済取引を分析する学問である。グローバリゼーションの時代にあっても、国際経済の最小単位としての国民経済の意義は失われていない。国際貿易論はその実物的側面に、国際金融論はその金融的側面に光をあてる。その概要について述べる。	大山　道広（東洋大学教授）	大山　道広（東洋大学教授）
2	国際貿易の均衡	国際貿易理論の基本的なモデルとして、２国２財の一般均衡モデルの仕組みを明らかにする。生産フロンティア、社会的無差別曲線、各財の供給曲線、需要曲線、各国の孤立状態の均衡、さらには自由貿易均衡について順次説明する。特殊ケースとして、よく用いられる部分均衡モデルと余剰分析も解説する。	同　上	同　上
3	国際分業と労働生産性	国際貿易とは何か。その内容を例示し、現実に行われている国際貿易の特徴を概観する。ここでは、気候・風土、生産技術による労働生産性の国際的差異に注目して国際分業を説明するリカード・ミルの比較生産費説をとりあげ、比較優位、貿易利益の概念を明らかにする。	同　上	同　上
4	国際分業と要素賦存	労働、資本などの生産要素の賦存状況は国ごとに異なっており、このこともまた国際分業の重要な根拠となる。ここでは、要素賦存に注目するヘクシャー・オリーンの国際貿易モデルによって、国際分業，国内所得分配がいかに決定されるかを見る。また、レオンティエフの逆説的な実証結果を紹介し、解説する。	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	国際分業と収穫逓増	産業に収穫逓増の現象が見られるとき、比較優位の差異がなくても国際分業が行われ、貿易利益が得られる。(アダム・スミスの分業理論の復活)。製品差別化の概念を導入して、現代の国際貿易に重要な地位を占める産業内貿易を説明する。	大山　道広	大山　道広
6	経済成長とトランスファー問題	これまで学んできた国際貿易のモデルは、現実の国際経済の理解に役立てることができる。そのための重要な分析用具として、比較静学がある。その方法を用いて、先進国から途上国への経済援助や一国の経済成長が国際貿易にいかなる影響を及ぼすかについて考える。	同　上	同　上
7	国際投資と技術移転	国際貿易はいわゆる商品貿易に限られるものではない。資本や労働のサービスも貿易の対象となる。ここでは、国際資本移動を間接投資と直接投資に大別して、その要因と効果を検討する。特に、近年盛んに行われている直接投資について、その技術移転効果に注目し費用削減型と品質改善型という２つのケースに分けて考察する。	同　上	同　上
8	貿易政策の理論	政府が実施する経済政策を国内政策と貿易政策に分類し、その政策手段を説明する。貿易政策の代表的な手段である関税政策をとりあげ、国際交易条件、国内価格などに及ぼす効果を明らかにする。さらに、貿易政策のもうひとつの手段である輸入数量割り当てについて、関税と比較しながら検討する。	同　上	同　上
9	資源配分と保護貿易	自由貿易論はいっさいの保護貿易政策の撤廃を主張する。その経済学的な根拠は、一定の条件のもとで自由貿易が世界の希少資源の最も効率的な利用を保障するという命題によって与えられる。これに対する保護貿易論の反論を紹介し、批判的に検討する。関連して、政策目的が与えられたとき、その実現のために最適な政策手段は何かを論じる。	同　上	同　上
10	保護貿易の政治経済学	自由貿易論にしても保護貿易論にしても、単純に経済学的な根拠だけで理解できるものではない。そこには、国内の所得分配に関わるさまざまな政治的要因が絡んでいる。保護貿易の政治経済学的分析を紹介し、例解する。	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
11	国際金融と国際収支	実物的な財・サービスの国際移動が実現するためには、代金の受け払い（決済）が必要である。国際金融を含む国際経済取引の総合的記録体系としての国際収支表の見方を解説する。最後に、国際収支の均衡とは何かを明らかにし、不均衡の調整メカニズムに触れる。	大山　道広	大山　道広
12	為替レートの理論	国際的な経済取引の決済には異なる通貨の交換が必要とされる。通貨の交換比率、すなわち為替レートはどうのように決められるのであろうか。多くの諸国が採用している変動レート制度のもとで為替レートがどう決定されるかについて、購買力平価説、フロー理論とストック理論などの諸学説を解説する。	同　上	同　上
13	国際マクロ経済と財政金融政策	国際的なマクロ経済の連関を解明するためには、為替レートを組み込んだ国際経済のマクロモデルが必要である。ここでは、その代表的なモデルを解説し、財政金融政策が為替レートや内外経済に及ぼす効果と国際収支の調整過程を考察する。	同　上	同　上
14	地域経済統合	近年、地域経済統合の動きが活発になった。その動向を概観し、経済効果について考える。地域経済統合は、自由貿易地域、関税同盟、経済同盟など種々の形態、段階のものがある。地域経済統合の理論的理解の基礎となる関税同盟の理論を解説する。	同　上	同　上
15	世界の貿易・金融体制	現代の世界では、国際経済関係が緊密になり、さまざまなレベルで国際的な政策協調が必要とされるようになった。国際経済協調の基本的な理念を明らかにし、世界の貿易・金融体制について考察する。具体的には、貿易体制としてのGATT/WTO、金融体制としてのIMF・IBRDの成り立ちと経済的意義を論じ、その将来を展望する。	同　上	同　上

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	専門科目	科目コード	1530208	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 日本経済史 （’０８）＝ （R）

〔主任講師（現職名）：宮本 又郎（関西学院大学大学院教授） 〕

講義概要

江戸時代から今日にいたる日本経済の展開過程を全15回にわたって講義します。まず基本的な経済諸量の動きから、長期の経済発展の過程を概観します。ついで各時代の重要な経済史的トピックスについて解説しますが、そのさい、マクロ経済の動きや産業組織、経済諸制度や経済政策の動向とともに、企業や企業組織、企業家の活動、家計と消費、技術と労働などの側面に言及します。講義はできるだけ具体的な資料や事例を紹介しながら進めます。

授業の目標

全15回の講義を通じて、江戸初期以降今日までの約400年において、日本の経済がどのような足跡を辿ってきたのか、どのような節目があったのか、そして、今日我々はどのような到達点に立っているのかについて、理解できるようになることを目標とします。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	日本の経済発展の長期的概観ー世界との比較ー	まず最初に、世界経済の歩みのなかでの日本経済の位置を明らかにすることを目的として、西暦1年～2001年における世界各国の人口、実質GDP（国内総生産）、1人当たりGDPの動きを観察し、その対比において日本の経済発展を長期の視点から展望します。次いで、有史以来の日本の人口動向とその地域分布を検討し、日本経済の発展の様相と地帯構造の変化を明らかにします。 【キーワード】 世界経済2000年史、人口、実質GDP、1人当たりGDP、人口変動の4つの波、人口重心	宮本 又郎（関西学院大学大学院教授）	宮本 又郎（関西学院大学大学院教授）
2	江戸時代の経済と社会	歴史学上「近世」と呼ばれる江戸時代が、古代・中世と比べてどのような歴史的特質をもっていたかを解説します。次に、人口、耕地面積、石高、物価などの動きから、江戸時代の経済発展の過程を観察し、江戸時代は大きく3つの局面に分けられることを明らかにします。また、この経済発展の過程で、農村や都市でどのような変化が生じたのかを検討することにしましょう。 【キーワード】 近世、人口爆発、大開墾、貨幣経済、物価、経済成長、三都	宮本 又郎（関西学院大学大学院教授）	宮本 又郎（関西学院大学大学院教授）
3	近世から近代へー幕末開港と明治維新	ペリー来航を契機に日本は開国し、開放経済体制へ移行しました。開港によりマクロ経済、ミクロ経済にどのようなことが生じたのか、それはその後の日本経済の進路にどのような影響を与えることになったのかを解説し、あわせて明治維新期の諸変革について論じます。	宮本 又郎（関西学院大学大学院教授）	宮本 又郎（関西学院大学大学院教授）
4	近代経済成長	Modern Economic Growth（MEG）とはどのような概念か、諸外国と比べて日本のMEGはどのような特徴をもっていたかを解説し、ついで、戦前の日本のマクロ経済の変化を数量的に概観します。	宮本 又郎（関西学院大学大学院教授）	宮本 又郎（関西学院大学大学院教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	近代化の進展と伝統的要素	江戸時代以来の伝統的要素が近現代の日本経済にいかに継承され、変容していったのかを考察します。それは衣食住などの個人消費や、企業経営のあり方などに大きな影響をもたらし、日本の経済発展に個性を加えました。	阿部　武司（大阪大学大学院教授）	阿部　武司（大阪大学大学院教授）
6	産業革命	1880年代後半に始まる「企業勃興」以降、日本経済は資本主義的な企業が主導する経済発展を始めます。躍動的な資本主義経済を支えたのは資本市場、金融市場、労働市場といった市場制度と、効率的な生産組織でした。それらの形成と相互関係を検討します。	中林　真幸（大阪大学大学院准教授）	中林　真幸（大阪大学大学院准教授）
7	戦間期における長期不況とその克服	第1次大戦期から戦間期の日本の経済発展をマクロ的側面から解明します。大戦中・後のバブル、その崩壊と長期不況、そこからの回復という景気動向、それと深く関わる政府の経済政策、その間に進行した都市化の影響などが主なトピックです。	阿部　武司（大阪大学大学院教授）	阿部　武司（大阪大学大学院教授）
8	戦間期の産業と企業	第1次大戦期から戦間期のミクロ経済の動向を考察します。大企業体制や財閥組織の成立、電鉄・デパート・新消費財などの都市型産業の勃興、新興重化学工業の台頭、日本企業の海外進出や外資の日本進出について論じます。	宮本　又郎（関西学院大学大学院教授）	宮本　又郎（関西学院大学大学院教授）
9	工業化の担い手一企業組織と企業家	明治期から昭和戦前期にいたる会社制度の展開過程、企業組織の変化、財閥の発展過程を論じ、あわせてその間に登場したさまざまなタイプの企業家、経営者の企業者活動を紹介します。	宮本　又郎（関西学院大学大学院教授）	宮本　又郎（関西学院大学大学院教授）
10	戦前日本の技術発展	明治期から昭和戦前期にいたる技術と労働のあり方について、技術導入と自主開発の関係、技術教育の展開、技術者の技能形成、間接的管理から直接的管理への移行、労働運動の展開と協調的労使関係の形成などを中心に検討します。 【キーワード】 高等工業学校、研究開発、試験研究機関、間接的管理、直接的管理、	沢井　実（大阪大学大学院教授）	沢井　実（大阪大学大学院教授）
11	戦時統制経済と戦後改革	日中戦争期から高度成長前夜までの経済統制の時代＝「動員」と「復員」のおよび市場経済への復帰の時代を対象にして、日本経済と日本企業はいかに変貌したのか、その際にアメリカ主導で遂行された戦後改革がどのような影響を与えたのかを考察します。 【キーワード】 戦時統制経済、戦後経済改革、ドッジ・ライン、朝鮮戦争ブーム、産業合理化政策	沢井　実（大阪大学大学院教授）	沢井　実（大阪大学大学院教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	高度経済成長	日本は1950年代半ばに、戦後復興をほぼ完了し、55年ごろから70年代初頭まで、世界史上にも稀にみる高度経済成長を実現しました。どのようにして高度経済成長が成し遂げられたのか、需要側と供給側、双方から要因を分析します。ついで、高度成長がもたらした帰結について論じます。	宮本　又郎(関西学院大学大学院教授)	宮本　又郎(関西学院大学大学院教授)
13	バブルから構造改革へ	産業政策に基づいて政府が資金配分の調整を行う間接金融体制は高度成長の終焉とともにその歴史的使命を終えました。1980年代に始まる金融自由化からバブルの崩壊、さらに橋本龍太郎政権下の金融制度改革を経て完結しつつある金融制度の変化を検討します。	中林　真幸(大阪大学大学院准教授)	中林　真幸(大阪大学大学院准教授)
14	技術革新と労働の変化	国公立試験研究機関、大学、民間企業によって構成される研究開発体制の変化、科学技術政策の展開と通産省・科学技術庁の役割、技術導入から自主開発への動き、戦後労働運動の変遷、技術革新と労働内容の変化などについて論じます。	沢井　実(大阪大学大学院教授)	沢井　実(大阪大学大学院教授)
15	日本型経済システムのゆくえ	1990年初頭におけるバブル崩壊後の「失われた15年」を経て、日本経済はようやく立ち直りの兆しを見せ始めました。立ち直りはどのようになされたのか、かつて喧伝された「日本型経済システム」はもはや過去のものになったのか、今日の日本経済が直面している問題はなにか等々について検討してみましょう。	宮本　又郎(関西学院大学大学院教授)	宮本　又郎(関西学院大学大学院教授)

＝　現代コミュニティ論（‘０６）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：船津　　衛（放送大学教授）　　〕
〔主任講師（現職名）：浅川　達人（明治学院大学教授）〕

全体のねらい

都市化、少子・高齢化、グローバル化、情報化などの大きな社会変動の中で、現代のコミュニティは日々変容を遂げている。その変容の内実を明らかにし、２１世紀のあるべきコミュニティのイメージを明示化し、新しいコミュニティ論の構築を目指す。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	コミュニティとは	コミュニティの概念について、マッキーバーやパークなど、これまでの研究者の見解を検討しながら、「地域性」と「共同性」というコミュニティの特性について考察する。	船津　衛（放送大学教授）	船津　衛（放送大学教授） 浅川達人（明治学院大学教授）
2	コミュニティの変容	1960年代に、日本社会が土着社会から流動社会に変化することによって、「コミュニティ」がどのように変容したのかを明らかにし、その上で、「コミュニティ」の再生のあり方について検討する。	同上	船津　衛（放送大学教授）
3	２１世紀のコミュニティ	少子・高齢化、グローバル化、情報化など、社会が変化・変容する中で、コミュニティは今後どうあるべきかを検討し、２１世紀のコミュニティのあり方について考察する。	同上	同上
4	大都市コミュニティの社会構造(1)	現代社会が経験している社会変動の多くは、手で触ることも直接目で見ることもできない。しかしながら、それらが社会構造に及ぼした影響は空間構造に刻み込まれている。それらを可視化する道具として東京圏の社会地図を用い、社会と空間の変容を読み解くことを試みる。	浅川　達人（明治学院大学教授）	浅川　達人（明治学院大学教授）
5	大都市コミュニティの社会構造(2)	東京圏の社会地図を用い、職業階層・産業動態などの空間分布を描き出し、コミュニティの社会構造とその変容を明らかにする。その上で、構造変容が大都市コミュニティにどのような影響を及ぼしているのかを、比較都市研究という観点もあわせて検討する。	浅川　達人（明治学院大学教授）	浅川　達人（明治学院大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
6	コミュニティの社会関係(1)	社会構造および空間構造の変容は都市社会で暮らす人々の人間関係にどのような影響を及ぼしているのであろうか。都会人の人間関係に関する3つの仮説を検討した上で、東京のローカル・コミュニティで展開されてきた社会関係について紹介する。	同上	同上
7	コミュニティの社会関係(2)	地方中小都市においては中心市街地の衰退が大きな社会問題となっている。そのような現在、コミュニティの再生を目指すまちづくりが緊急の課題となっている。地方中小都市におけるコミュニティの社会関係を、このまちづくりという事例を通して考察する。	同上	同上
8	都市的相互作用	都市的相互作用について、親密でパーソナルな関係、買物客と店員との相互作用、そして、「ストレンジャー・インターアクション」について考察する。	船津　衛（放送大学教授）	船津　衛（放送大学教授）
9	住民組織	コミュニティ活動の担い手である住民組織の代表は町内会・自治会である。ここでは、町内会についての先行研究を整理するとともに、東京下町の町内会活動について紹介する。また、イタリアの都市（シエナ）の住民組織を取り上げ、町内会との差異について検討する。	浅川　達人（明治学院大学教授）	浅川　達人（明治学院大学教授）
10	コミュニティ・イメージ	コミュニティ・イメージがどのように作られ、また変化しているのかを具体的に明らかにし、それがコミュニティづくりに果たす役割について考察する。	船津　衛（放送大学教授）	船津　衛（放送大学教授）
11	コミュニティ意識	コミュニティに住む人々のコミュニティ意識について問題とし、それを認識レベル、感情レベル、行為レベル、アイデンティティ・レベルにおいて把握する必要があることを明らかにする。	同上	同上
12	コミュニティ文化	コミュニティにおける文化のあり方を考察し、現在の「コミュニティ文化」の問題点と今後のあり方について検討する。	船津　衛（放送大学教授）	船津　衛（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
13	コミュニティ・メディア	コミュニティ・メディアとして、CATVとコミュニティFM放送を主として取り上げ、その現実と問題点を明らかにする。	同上	同上
14	コミュニティ・コミュニケーション	コミュニティにおける日常的なコミュニケーションがどのようになされているのかについて考察するとともに、災害時におけるコミュニケーション過程の問題を明らかにする。	同上	同上
15	情報コミュニティ	情報化の進展に伴ない、新たに生み出されてきている「情報コミュニティ」のあり方について考察し、その意義と問題点を明らかにする。	同上	同上

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	専門科目	科目コード	1530402	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　ジェンダーの社会学　　（’０８）＝　（R）

〔主任講師（現職名）：伊藤　公雄（京都大学大学院教授）　　〕

講義概要

まず、生物学的な視点や歴史の展開、文化論などとの関連のなかで、ジェンダーという視点について整理します。続いて、性差別、性暴力、労働、家族、教育といった現代社会をめぐる諸問題を、ジェンダーという視点から考察していきます。最後に、国際社会の動きを見据えつつ、ジェンダーの視座からの21世紀前半の日本社会のゆくえについて考えていきたいと思います。

キーワード：ジェンダー、性差別、男女共同参画

授業の目標

ジェンダー問題は、身近な課題であるとともに、現代社会を生きる上で不可欠な諸問題と深くかかわりをもっています。授業を通じて、ジェンダーという視点を身につけていただくことで、現代社会のかかえている諸課題に対して、自分なりの観点からの問題点の発見とその解決策を見出していただきたいと思います。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	ジェンダーと社会学の視点	まず、ジェンダー概念の登場およびこの概念が生み出した学問上の影響力について解説を行ないます。続いて、社会学におけるジェンダー研究の位置について説明を加えます。	伊藤公雄（京都大学大学院教授）	伊藤公雄（京都大学大学院教授）
2	生物学的性差とジェンダー	ジェンダーの視点を生物学的性差との関連で位置づけます。なぜオス、メスがあるのかといった議論や性の多様性についてふれた上で、社会的に構築されたものであるジェンダー視点の意義について考えます。	伊藤公雄（京都大学大学院教授）	伊藤公雄（京都大学大学院教授）
3	文化のなかのジェンダー	社会的な構築物であるジェンダーは、文化の違いによって変化をみせます。男が「文化」で女は「自然」といった議論も出されています。文化とジェンダーのかかわりについて考察を加えます。	伊藤公雄（京都大学大学院教授）	伊藤公雄（京都大学大学院教授）
4	歴史のなかのジェンダー	ジェンダーは、歴史的変化にともなって、その様相を変化させます。前近代の日本社会のジェンダー構造や、近代社会が生み出したジェンダーの変容について考えます。	伊藤公雄（京都大学大学院教授）	伊藤公雄（京都大学大学院教授）
5	性差別とジェンダー	現代社会において、性による差別は重要な人権問題です。ジェンダーと人権という課題を、フェミニズムの登場や性差別問題の議論を通じて考察します。	伊藤公雄（京都大学大学院教授）	伊藤公雄（京都大学大学院教授）
6	性暴力とジェンダー	ドメスティック・バイオレンスやセクシュアル・ハラスメントなど主に女性に対する暴力の問題がクローズアップされたのは、ごく最近のことです。こうした性暴力の問題をジェンダーの観点から解剖します。	伊藤公雄（京都大学大学院教授）	伊藤公雄（京都大学大学院教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
7	「女らしさ」という課題	「女らしさ」というジェンダーの縛りについて、その形成のされ方や、それがかかえてきた諸課題、さらに女性のエンパワーメントについて考えます。	伊藤公雄（京都大学大学院教授）	伊藤公雄（京都大学大学院教授）
8	「男らしさ」のゆくえ	現代社会におけるジェンダーのゆらぎのなかで、男性たちもまたさまざまな問題と直面しています。男性性の危機や男性学、さらに男性運動などにもふれるつもりです。	伊藤公雄（京都大学大学院教授）	伊藤公雄（京都大学大学院教授）
9	労働とジェンダー	労働における男女間格差の問題や、男性の長時間労働の問題などを分析しながら、男女ともに社会参画と家庭参画が可能なワークライフバランス社会について問題提起したいと思います。	伊藤公雄（京都大学大学院教授）	伊藤公雄（京都大学大学院教授）
10	家族のなかのジェンダー	家族というテーマにジェンダーの視点から光を当てます。多様な家族の形態や近代家族の成り立ち、さらに、少子高齢社会の中出の家族の変化について考察します。	伊藤公雄（京都大学大学院教授）	伊藤公雄（京都大学大学院教授）
11	教育とジェンダー	学校教育や社会教育におけるジェンダー問題について考えます。隠れたカリキュラムの問題や女性研究者のかかえている課題などについても言及するつもりです。	伊藤公雄（京都大学大学院教授）	伊藤公雄（京都大学大学院教授）
12	スポーツとジェンダー	基本的に男性主導で発展してきた近代スポーツが、今、大きく変わろうとしています。スポーツという身体文化とのかかわりのなかでジェンダー問題について分析していきます。	伊藤公雄（京都大学大学院教授）	伊藤公雄（京都大学大学院教授）
13	セクシュアリティとジェンダー	性的マイノリテイの問題もまた、現代社会の重要な人権問題です。多様な性という視点をふまえて、セクシュアリテイの問題を考えていきたいと思います。	伊藤公雄（京都大学大学院教授）	伊藤公雄（京都大学大学院教授）
14	国際社会とジェンダー	1970年代以後、国際的に大きく広がったジェンダー平等の動きについて考えます。戦争と平和の問題、発展と平等の課題など、現代世界の大きな変化について考えます。	伊藤公雄（京都大学大学院教授）	伊藤公雄（京都大学大学院教授）
15	ジェンダー政策のゆくえ	戦後日本の男女平等理念の登場から、現代の男女共同参画政策まで、国際的な動きもふまえつつ、日本社会におけるジェンダー政策の可能性を探ります。	伊藤公雄（京都大学大学院教授）	伊藤公雄（京都大学大学院教授）

＝　自我の社会学（‘０５）＝（Ｒ）

〔主任講師：　船津　衛（放送大学教授）〕

全体のねらい

現代人の自我について社会学的に考察する。人間の自我が孤立的ではなく、他者とのかかわりにおいて社会的に形成されることを「鏡に映った自我」、「役割取得」、「一般化された他者」などの概念を用いて明らかにし、「役割コンフリクト」、「役割距離」、「役割形成」などの現象を通じて現代人の自我の変容の様相について具体的に問題としていく。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	「自我の社会学」とは	現代の若者において「自分が何であるのかわからない」という「アイデンティティの喪失」を訴える人が少なくない。このような自我のあり方について、従来のイメージである孤立的な「近代的自我」では十分に捉えられなくなってきている。自我は他者とのかかわりにおいて社会的に形成され、展開していくことを明らかにすることが「自我の社会学」である。	船津　衛（放送大学教授）	船津　衛（放送大学教授）
2	鏡に映った自我	アメリカの社会学者であるC・H・クーリーによると、人間の自我は他者を鏡として、鏡としての他者を通じて知ることができる。自我は「鏡に映った自我」として、①他の人がどのように認識しているかについての想像、②他の人がどのように評価しているかについての想像、③それらに対して自分がもつ感情から成り立っている。	同　上	同　上
3	自我の社会性	日本人の自我のあり方について、「柔らかい個人主義」（山崎正和）、「人と人との間」（木村　敏）、「間人主義」（浜口恵俊）などの概念によって特徴づけがなされてきている。いずれも、自我が他者の存在を前提として、自他の関係において自我を捉えているといえる。つまり、そこでは自我の社会性が強調されている。	同　上	同　上
4	親密な他者、疎遠な他者	自我にかかわる他者には親密な他者だけではなく、疎遠な他者も存在している。M・ブーバーによれば、他者には「汝」と「ソレ」が存在し、自他の関係は「ワレと汝」関係と「ワレとソレ」関係からなっている。したがって、自我は「ワレ―汝」的ワレと「ワレ―ソレ」的ワレの２つが存在することになる。	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	一般化された他者	アメリカの哲学者であり、社会心理学者であるG・H・ミードは自我の孤立説を否定して、自我の社会説を主張した。そして、人間の自我は他者の「役割取得」を通じて社会的に形成されることを明らかにした。とりわけ、子どもの自我は「プレイ」と「ゲーム」の段階を経て形成され、「ゲーム」段階において、複数の他者の期待が組織化された「一般化された他者」とのかかわりにおいて自我が最もよく発達することを主張している。	船津　衛	船津　衛
6	ホモ・ソシオロジクス	ドイツの社会学者 R・ダーレンドルフによると、現代社会学の人間のイメージは「ホモ・ソシオロジクス」である。それは社会の期待に外から拘束されて、自己の行為を受け身的に行う人間を指している。しかし、それはあまりにも社会化過剰の人間観である。人間は社会的存在ではあるが、完全に社会化されてしまった存在ではないといえる。	同　上	同　上
7	役割コンフリクト	相異なる複数の、両立不可能な期待に直面して悩み、苦しむことを「役割コンフリクト」という。「役割コンフリクト」には役割内コンフリクト、役割間コンフリクト、パーソン・ロール・コンフリクトとの３つのタイプが存在する。このような「役割コンフリクト」の解決法として、①主要役割の選択、②役割調整、③役割コンパートメント化などが存在している。	同　上	同　上
8	ラベルされる自我	ひとが「犯罪者」や「逸脱者」などとレッテルを貼られることを「ラベリング」という。もともとは犯罪に関する事柄であったが、他者や社会によるレッテルによって人々の自我が大きく左右されることを表している。「ツッパリ」、「落ちこぼれ」、「優等生」などのマイナスやプラスのレッテルが自我に影響を与えている。	同　上	同　上
9	自己表現	自己表現は自分の意見、気持、また職業や地位を表現し、そのメディアとして言葉、身振り、手振り、顔の表情などがある。そして、自己表現は一定の表現形式に従う必要がある。また、こんにち、表現様式の学習や新しい表現形式の形成が必要とされてきている。	同　上	同　上
10	外見による表現	身振り、顔の表情、髪型、装飾品、携帯品など、言葉以外の外見は他者の視覚に訴えて、自己を意識的に表現することを可能とする。外見は言葉では十分表現できないときや言葉では不適切の場合に多く用いられ、言葉以上のものを表現し、言葉に代わる自己表現メディアとなりつつある。	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
11	印象操作	アメリカの社会学者 E・ゴフマンによると、人間の行為は演技である。人間の行為は他の人間を意識してなされ、また、他の人間によい印象を与えるように行われる。印象操作には他者に対してよい印象を与える積極的・攻撃的タイプと悪い印象を回避する消極的・防衛的タイプとが存在する。	船津 衛	船津 衛
12	役割距離	人間は他者の期待に完全に同調し、それに全面的に従うわけではない。他者の期待から少しずれた形で行為することを役割距離という。そこに本当の自分を示そうとする気持が示される。役割距離行動は人間が他者の期待から相対的に自由であり、受け身的、消極的ではなく積極的、主体的存在であることを表している。	同 上	同 上
13	役割形成	従来、「全能のマスコミ、無力の大衆」といわれたように、人々は受け身的存在として考えられてきた。しかし、こんにち、マスコミに対して積極的にかかわり、情報を発信する積極的な送り手・作り手となっている。このように、既存の役割期待の枠を越えて新たに人間行為が展開することを「役割形成」(R・H・ターナー)という。	同 上	同 上
14	自我のコンストラクション	人間の自我は社会的に構築される。とりわけ言語的に構築される。そう主張するのが「構築主義」である。そして、自我は物語論的に捉え、自我の変容や再構成を行うのが「ナラティブ・セラピー」である。いずれも自我がコンストラクトされることを問題としている。その際、受け身的ではなく、自我の積極的コンストラクションを考えていく必要がある。	同 上	同 上
15	自我の社会学の課題	自我は社会的に形成され、同時に人間は主体的に行為を形成する。ミードは自我が「客我」と「主我」からなると考えた。「客我」は他者の期待をそのまま取り入れた自我の側面を表し、「主我」はそれに対する反応であるとした。この「主我」の解釈として、本能・能動説、残余説、行動的反応説、そして創発的内省説などが存在している。	同 上	同 上

＝　フィールド社会心理学（‘０４）＝（Ｒ）

〔主任講師：　大橋　英寿（放送大学教授）〕

全体のねらい

社会心理学は、パーソナリティ・社会・文化の３視点を統合して人間生活を理解しようとする人間科学である。社会心理学の方法の一つは、人々が生活している現場（フィールド）へ出向き参与観察やインタビューによって得たデータを分析・解釈していくフィールドワークである。本講義では、担当講師がそれぞれに実践してきたフィールドワークの概要を順次紹介していく。取り上げるテーマは、病気と治療をめぐる人々の対応行動、動物やロボットを用いた介護活動、大震災後の復興での住民の合意形成過程、被災者による記憶の語り、都市の再開発をめぐるコンフリクトとその解決、漁村の過疎化・高齢化から派生する問題、南米の日本人移住地での文化変容、アフリカの牧畜民にみられる独特の生活論理や感情の処理法などである。人間生活が営まれている現場に密着していくフィールド社会心理学。そこで扱われるテーマの多様性と研究法の柔軟性を理解することに本講義のねらいがある。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	社会心理学の課題と方法	境界科学である社会心理学は発展をとげながらも、方法や技法をめぐって多様な立場が併存しており、いまなお流動的である。人間諸科学の中で社会心理学という学問分野がどのような位置にあり、何を固有の課題とするのかを確認し、取り扱われている研究テーマ、研究のデザイン、データの収集法について整理する。	大橋　英寿（放送大学教授）	大橋　英寿（放送大学教授）
2	フィールドワークの実践	フィールドワークとは人々が実際に生活している現場（フィールド）に出向き、参与観察やインタビューを主たる技法にして、テーマに即したデータを収集し、それを分析し解釈していく方法であり、近年多くの学問分野で用いられている。社会心理学におけるフィールドワークの特徴、手順、留意点について概説する。	同　上	同　上
3	地域住民の保健行動 —現代医療と民間療法—	心身の不調にたいし、人々は一般的にその状態を自己判断し、主体的に治療法を選択している。たとえば些細な心身不調の場合、家庭のなかだけで対処することが多いが、より重篤な疾病の場合には医療を利用するとともに、さまざまな民間療法にも依存する。このような心身不調への対処の諸相を調査データにもとづいて解説する。	安保　英勇（東北大学大学院准教授）	安保　英勇（東北大学大学院准教授）
4	野のカウンセラー —シャーマンと地域社会—	トランスとよばれる変性意識状態や霊感を駆使してカミや死者霊と交流しながら占いや予言、病気治しができる特異能力者とみなされているシャーマンが世界各地で活動している。地域社会におけるシャーマンの実態を沖縄の「ユタ」とそのクライエントの相互作用の事例研究を通して明らかにし、シャーマンが伝統文化にそくしてカウンセラーの役割をはたしている事実に注目する。	大橋　英寿（放送大学教授）	大橋　英寿（放送大学教授）
5	医療化社会の病気対処—「アトピー」をめぐって—	高度医療化社会とは健康第一主義が普及し、医療資源や保険制度が整備された豊かな社会である。そこではマスメディアの情報や多様な治療者のもとで、病者は主体的な病気対処が求められる。アトピーを例にとって、新聞記事や母親の「語り」から、高度医療化社会の病気対処の一面を明らかにする。	作道　信介（弘前大学教授）	作道　信介（弘前大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
6	動物・ロボット介在活動 —新しいヒューマンケアの可能性—	現在、医療・教育・福祉の分野で、動物介在活動、ロボット介在活動が注目を集めている。ここでは、ある自律運動型ロボット(AIBO)を、高齢者福祉施設におけるレクリエーション活動に利用したケースを紹介しよう。とくに、ロボット単体の効果ではなく、ロボットの導入により、AIBOの操作者、福祉施設スタッフ、高齢者からなる場（フィールド全体）が変容する様子に注目したい。	矢守　克也（京都大学准教授）	矢守　克也（京都大学准教授）
7	都市再開発をめぐるコンフリクト—京都駅ビルの高層化—	近年、地域計画や都市再開発事業をめぐって、当事者間で様々な利害対立（コンフリクト）が頻発し、その解決が重要課題となっている。ここでは、京都駅ビルの高層化をフィールドにし、そのコンフリクトの「対立の構図」を「コンフリクト解析」というゲーム理論に基づいて分析する。	永田　素彦（三重大学准教授）	永田　素彦（三重大学准教授）
8	住民の合意形成過程 — 阪神大震災後のマンション復興 —	大災害が発生した後は、生活環境を復興し、日常生活を再構築することが急務となる。そのためには、住民の合意形成が必要となる場面も多い。合意形成がうまくいかなければ、それだけ復興が立ち遅れるからである。ここでは、阪神大震災後の分譲マンション復興をフィールドにし、住民の合意形成過程の特徴を「診断」する方法を考える。	同　上	同　上
9	被災者の語り—阪神大震災の記憶—	「グループ 117」は阪神・淡路大震災（1995 年）の被災者が、震災の記憶を語り継ごうと結成した市民団体である。筆者が数年間にわたって本団体のメンバーとして活動する過程で感じとったこと — 第1に、過去の出来事を後世に伝達することの意味、第2に、研究者が一般の人々とともに実践的な活動に参加することの意味 — を紹介し、フィールド社会心理学の意義について検討しよう。	矢守　克也	矢守　克也
10	地域社会の変容—漁村の過疎・高齢化—	高度経済成長下の人口流出がもたらした農山漁村地域の過疎化、その後の著しい過疎高齢化の問題にたいしては、地域構造論、農業・水産経済論、地域活性化運動論などの立場から多様なアプローチがこころみられている。ここでは、こうした現象の典型事例ともなる地域輪郭の明瞭な離島漁村をモデルとしてとりあげ、伝統的社会化システムの変容と解体という視点から話をすすめていく。	大江　篤志（東北学院大学教授）	大江　篤志（東北学院大学教授）
11	伝統漁労の再編—アワビ漁の現在—	各地の漁村で昔から営まれてきた漁労活動の多くが深刻な過疎・高齢化のもとで危機的事態に直面している。ここでは、このような事態に至る経緯を伝統的な存続システムの失調過程からみていき、次いで後継者不在のなかで、心身機能の衰えをさまざまな技能を編み出し補完しながら伝統漁労を支えている年老いた漁師たちの漁場での姿を追っていく。	同　上	同　上
12	異文化への適応過程—南米の日本人移住地—	高度経済成長を機に日本は移民の送出国から外国人労働者の受け入れ国へと変わった。南米ボリビアのオキナワ移住地はそうした送出時代にアマゾン最源流に入植した移住地のひとつである。開拓から40年を経て、世代交代と文化変容が進行している。同移住地で行ったフィールドワークをもとに、移住者の言語や宗教など生活の諸側面の現状を紹介しながら異文化への適応を考える。	安保　英勇	安保　英勇
13	牧畜民の生活論理 — 北西ケニア・トゥルカナの“ねだり”—	私たちは「もらったらお返しをする」という互酬性を前提とした社会に暮らしている。ケニアの牧畜社会、トゥルカナでは、要求することから始まる交渉が生活の中心にある。私たちからみると、彼らの生活は”ねだり”が中心で、”お返し”という観念にとぼしい。この独特の生活論理は調査者にとって大きなストレスをもたらす。フィールドワークの過程で、この“ねだり”がどのように理解されていったかを示す。	作道　信介	作道　信介

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
14	「怒り」の民族心理―トゥルカナのサンダル占いから―	アフリカの牧畜民、トゥルカナの人びとは、病気など対処できない問題に出会うと、家族・親族など身近な人の「怒り」を疑い、占い師のもとにおもむく。他者の「怒り」は人を殺すといわれる。占いでは誰がなぜ怒ったのかが問われ日常生活の再検討がおこなわれる。トゥルカナ社会における「怒り」のはたす役割を考える。	作道　信介	作道　信介
15	社会心理学とエスノグラフィー	フィールドワークで集めたデータを分析し解釈した最終報告書がエスノグラフィー（民族誌）である。社会心理学でのエスノグラフィーの意義を明らかにし、テキストで取り上げた１２のエスノグラフィーを通してフィールド社会心理学の特徴と有効性を確認する。	大橋　英寿	大橋　英寿

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	専門科目	科目コード	1530500	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 社会階層と不平等 （’０８）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：原　純輔（東北大学大学院教授）〕
〔主任講師（現職名）：佐藤　嘉倫（東北大学大学院教授）〕
〔主任講師（現職名）：大渕　憲一（東北大学大学院教授）〕

講義概要

本講義は、社会階層と不平等を実証的に研究することを目的としています。まず社会階層と不平等をめぐる基礎概念、理論、方法論を概観した上で、(1)日本社会の階層と不平等、(2)アジア社会の階層と不平等、(3)エスニシティやジェンダーと階層・不平等との関係、(4)公正な社会のあり方に関する考察、という大きく4つのトピックを議論します。

授業の目標

社会階層と不平等をめぐる基礎概念、理論、方法論を理解したうえで、階層と不平等の問題を歴史的にまた国際的に理解・把握できるようにします。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	社会的不平等と人間・社会	現代日本社会および現代世界における不平等の状況を概観するとともに、「不平等」というものが人間と社会にとってどのような意味をもっているのかを検討します。また、不平等の研究が追求すべきことがらについても検討を加えます。 【キーワード】 貧困、基礎的平等化、保有・機会の不平等	原　純輔（東北大学教授）	原　純輔（東北大学教授）
2	社会階層・不平等研究の歴史	不平等を社会の仕組と結びつけるための概念が「社会階層」です。具体的にどのように概念化されてきたのかを、思想史・研究史の中からさぐります。また、とくに第二次世界大戦後に社会科学としての研究がどのように進められてきたのかを理解します。 【キーワード】 身分、階級、階層、格差、SSM調査	原　純輔（東北大学教授）	原　純輔（東北大学教授）
3	結果の不平等	不平等には結果の不平等と機会の不平等があります。この回では、前者に焦点を当て、特に所得と資産の不平等について現状とその要因を検討します。 【キーワード】 所得格差、資産格差、ジニ係数	佐藤　嘉倫（東北大学教授）	佐藤　嘉倫（東北大学教授）
4	機会の不平等	社会階層研究では、機会の不平等は主に世代間移動（親から子供への階層移動）の閉鎖性によって測定されます。測定に用いる指標を説明するとともに、現実の機会の不平等について考察します。 【キーワード】 社会の閉鎖性・開放性、オッズ比	佐藤　嘉倫（東北大学教授）	佐藤　嘉倫（東北大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	不平等の国際比較	階層研究の主要研究テーマの一つが国際比較です。現代日本の結果の不平等や機会の不平等を見るだけでは、それらが世界の中でどの程度の不平等を示しているのか分かりません。このため、社会階層研究では国際比較が盛んです。この回では、国際比較の方法と問題点を検討します。 【キーワード】 国際比較の方法、国際比較の問題点	佐藤　嘉倫（東北大学教授）	佐藤　嘉倫（東北大学教授）
6	日本近世の身分・階層・ジェンダー	日本の近世（江戸時代）における身分制の仕組み、身分格差や経済格差にもとづく社会階層のあり方、およびジェンダー構造について述べ、この時代の社会の特質に迫ります。 【キーワード】 日本近世、身分、階層、ジェンダー	大藤　修（東北大学教授）	大藤　修（東北大学教授）
7	教育と階層・不平等	学校教育制度は機会の平等を達成するための近代における最大の社会的装置です。わが国における学校制度がどのようにその役割を果たしてきて現在に至っているのかを、歴史的資料とさまざまの調査データから検討します。 【キーワード】 複線型学校制度、大衆教育社会、制度的連結	原　純輔（東北大学教授）	原　純輔（東北大学教授）
8	韓国社会の両極化と中間層	1997年の経済危機以降、韓国では社会階層の両極化が進行していると言われています。またもともと高かった雇用の流動性も高まっています。中間層に焦点を当てながら、韓国社会の階層と不平等を考察します。 【キーワード】 中間層、流動性	佐藤　嘉倫（東北大学教授）	佐藤　嘉倫（東北大学教授）
9	台湾の新しい不平等	90年代以降、グローバル化が急速に進むにつれて、台湾企業の国際化と海外進出、外国人労働者や外国籍花嫁の流入により、台湾社会の民族構成や階層構造も大きく変化し、新しい経済的・文化的不平等が生まれている様子を概観します。 【キーワード】 グローバル化、外国人労働者、国際結婚	沼崎　一郎（東北大学教授）	沼崎　一郎（東北大学教授）
10	現代中国の階層と不平等	社会主義体制を維持しながら急速に市場経済化している現代中国の階層と不平等の特徴について考えます。その際、他の東アジアでも見られる特徴と、中国でのみ見られる特徴を、国際比較の視点から見てみます。 【キーワード】 現代中国、社会主義、市場経済化	園田　茂人（早稲田大学教授）	園田　茂人（早稲田大学教授）
11	アジアメガシティ・ジャカルタの階層構造と不平等	ジャカルタをフィールドにして、アジア・メガシティが抱えている階層格差と不平等の問題を明らかにします。特に、スラムとかゲーテッドコミュニティのような空間形態のもつ社会的意味をさぐる中で問題の所在を明らかにします。 【キーワード】 アジア・メガシティ、スラム、ゲーテッドコミュニティ	吉原　直樹（東北大学教授）	吉原　直樹（東北大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	キャリア・ジェンダーと不平等	キャリアとジェンダーにかかわる日本人の行動と態度の近年の大きな変化と多様な問題について、社会制度、法制度、企業などと個人のマクロ―ミクロの相互的な関係を検討しながら、国際比較のデータを交えて社会学的・社会心理学的に概観します。 【キーワード】 キャリア、 ジェンダー、 ワーク・ライフ・バランス	鈴木 淳子(東北大学教授)	鈴木 淳子(東北大学教授)
13	エスニシティと階層・不平等	日本における階層研究では、エスニシティの問題はほとんど扱われてきませんでした。しかしエスニシティは不平等を生み出す一つの要因です。この回では移民に焦点を当てながら、階層とエスニシティの問題を考察します。 【キーワード】 エスニック関係、移民	佐藤 嘉倫(東北大学教授)	佐藤 嘉倫(東北大学教授)
14	不平等と公正	不平等が常に不公正とされるわけではありません。どのような不平等を不公正とするか、人々の公正判断の仕組みを3種類の分配基準(衡平、平等、必要性)に基づいて論じます。また、基準の選択が社会理念を反映することや日本人の公正観についても考察します。 【キーワード】 公正判断、分配的公正、手続き的公正	大渕 憲一(東北大学教授)	大渕 憲一(東北大学教授)
15	公正な社会をめざして	公正な社会は個人間・集団間の差異と不平等をどのように包摂するべきでしょうか。階層、ジェンダー、エスニシティに関して蓄積されてきた社会科学的理論と知見を元に、この課題に対する提言を試みます。 【キーワード】 公正、階層、ジェンダー、エスニシティ	大渕 憲一(東北大学教授)	大渕 憲一(東北大学教授)

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	総合科目	科目コード	1533304	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　消費者と証券投資（‘０７）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：　林　　敏彦（放送大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：　坂井　素思（放送大学准教授）〕
〔主任講師（現職名）：　佐賀　卓雄（㈶日本証券経済研究所理事兼主任研究員）〕

講義概要

日本の金融システムは１９９０年代以降、グローバル化と度重なる制度変更によって大きな変化を遂げてきました。他方、日本の家計部門は安定的な経済成長の中で高貯蓄率を維持しながら、金融資産の蓄積を進めてきました。いま少子高齢社会の到来を迎え、社会保障制度も改革が迫られている中、消費者はどのような金融市場を活用した資産運用を心がければよいのでしょうか。この科目では、社会人にとって不可欠な証券投資の問題を、消費者の生活設計の視点から考えてみることにします。

授業の目標

２００７年から２０１０年にかけて退職する「団塊の世代」のみならず、成熟社会の消費者家計にとって、退職金や貯蓄などの金融資産をいかに運用するかは重大な関心事です。この科目では、消費者の視点から見た賢明な資金運用のあり方、中でも証券投資に関する知識を習得すると共に、消費者の行動が経済社会全体の中でどのような役割をはたすのかについても学習します。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	証券とは何か	証券にはどのような形と種類があり、どのような金融機関が取り扱っているのでしょうか。ネット証券で買った株式の株券を見たことがありますか。証券を売買するとき、私たちは、本当は何を売買しているのでしょう。	林　敏彦（放送大学教授）	林　敏彦（放送大学教授）
2	日本の家計資産に何が起こっているのか	１４００兆円とも言われる日本の家計金融資産で、いま何が変化しているのでしょうか。少子高齢化、金融経済の浸透などの社会変化によって、日本人の貯蓄意識は変化し、そのため資産の保有状況も変わってきています。この回では、金融資産保有と循環の現状と問題点について、家計の視点から見てみましょう。	坂井素思（放送大学准教授）	坂井素思（放送大学准教授）
3	生活に潜むリスクに向かい合う	消費生活は多種多様な純粋リスク・投機的リスクを伴っています。資産運用だけでなく資金調達にもリスクは生じます。また、様々な消費者被害も社会問題化しています。この回では、生活の諸場面で消費者がどのようなリスクに直面するのかを考えると同時に、リスクの管理局面における課題についても検討します。	奈良由美子（放送大学准教授）	奈良由美子（放送大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	ライフプランと資産運用	個人や家計は人生設計をどのように行い、それを実現するためにはどのような資金的裏付けを必要とするのでしょうか。豊かな暮らしを実現するための資金調整のあり方を、資産運用の視点から考えてみましょう。	戸井佳奈子(安田女子大学准教授)	戸井佳奈子(安田女子大学准教授)
5	投資を考える基礎	資金を投下し、一定期間後にその成果を回収しようとする行為が、投資です。投資には、リスクが伴いますが、そのリスクをどう把握し、いかに対処したらよいのでしょう。こうした点を考える基礎となる視点と概念の枠組みを説明します。	池尾和人(慶應義塾大学教授)	池尾和人(慶應義塾大学教授)
6	投資と証券市場	それぞれの個人が投資をすることは、社会や経済全体の中でどんな役割を果たすことになるのでしょう。一人一人は自覚していなくても、投資を通じた経済活動への貢献があることと、それを実現する仕組みについて説明します。	池尾和人(慶應義塾大学教授)	池尾和人(慶應義塾大学教授)
7	バブルの教訓	株式や土地などの資産の価格は、１００年に一度ぐらいの割合でバブルと呼ばれる異常な動きを示すことがあります。バブルには功罪があるのでしょうか。現代の金融市場のルールには、過去のどのようなバブルの教訓が生かされているのでしょうか。	林敏彦(放送大学教授)	林敏彦(放送大学教授)
8	証券販売チャネルの拡大と投資者保護	今や、個人投資家の株式売買注文の８０％以上がインターネット経由で行われています。また、証券仲介業の導入により、会計事務所、フィナンシャル・プランナーに止まらず、コンビニエンス・ストア、自動車ディラーなど、あらゆる業態が証券販売に参入し始めています。郵便局での投資信託の販売も始まりました。他方では、チャネルの拡大に伴い、悪質な業者の参入も予想されます。証券取引に対する投資者保護の制度・仕組みの整備・強化が必要であることはもちろんですが、投資家は正確な金融・投資知識を身につけ自己防衛に努める必要性も高まっています。	佐賀卓雄(㈶日本証券経済研究所理事兼主任研究員)	佐賀卓雄(㈶日本証券経済研究所理事兼主任研究員)
9	株式投資の魅力を考える	株式に投資すると、他の金融商品と比べて、どのようなメリットがあるでしょうか。株価はなぜ大きく変動するのでしょうか。株価は企業の業績とどのように関係しているのでしょうか。株式投資の基本的な特徴を説明し、株式投資の魅力について考えます。	髙橋文郎(青山学院大学大学院教授)	髙橋文郎(青山学院大学大学院教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
10	どのような株式に投資すべきか	株式投資には長期的に高いリターンが得られるという魅力とともに、株価が低下するリスクもあります。価格変動のリスクを必要以上にとらずに、高いリターンを得るためには、どのような点に着目して銘柄を選択すべきかについて考えます。	髙橋文郎(青山学院大学大学院教授)	髙橋文郎(青山学院大学大学院教授)
11	債券投資の基礎	国債や社債などの債券は、預金や株式と並んで、個人投資家にとって重要な投資対象の一つです。債券価格はどのような要因によって決まるのか、債券の利回りはどのように計算されるのか等、債券投資の基礎知識について説明します。	髙橋文郎(青山学院大学大学院教授)	髙橋文郎(青山学院大学大学院教授)
12	債券投資のリスクとは	債券投資は株式投資に比べると安全性が高いと言えますが、それでも景気や金利の影響を受けて債券価格は変動します。また、個々の債券の安全性が違えば、価格や利回りの水準が異なります。債券投資のリスクをどのように考えるべきかについて説明します。	髙橋文郎(青山学院大学大学院教授)	髙橋文郎(青山学院大学大学院教授)
13	投資信託の基礎	投資信託は、共同投資により少額の資金にも分散投資の機会を提供します。近年は販売チャネルが拡大し、私たちにとって身近な存在となりつつあります。今回は投資信託の歴史、制度、仕組み、商品の種類や選択基準などを眺め、その国民経済的な意義を考えてみましょう。	髙橋元(作新学院大学大学院教授)	髙橋元(作新学院大学大学院教授)
14	新しい金融商品の登場	金融の自由化を背景に、多様な金融商品が出現しています。その多くは金融理論の進歩や投資技術の高度化などを背景としていることから、一般には仕組みを理解することが難しく、思わぬリスク負担を伴うものもあります。それらに投資する際の留意点を考えてみましょう。	髙橋元(作新学院大学大学院教授)	髙橋元(作新学院大学大学院教授)
15	証券投資を取り巻く新たな動き	証券投資に関する法律や制度は時代やテクノロジーとともに変化を続けます。取引ルール、商品開発、販売チャネルなど、最新の動きはどうなっているのでしょうか。消費者が証券投資のことをもっと良く知るためには、どうすればよいでしょうか。	佐賀卓雄(㈶日本証券経済研究所理事兼主任研究員)	林敏彦(放送大学教授) 坂井素思(放送大学准教授) 佐賀卓雄(㈶日本証券経済研究所理事兼主任研究員)

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	総合科目	科目コード	1599380	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　途上国の開発（‘07）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：髙木　保興（放送大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：河合　明宣（放送大学教授）〕

講義概要

この講義の目的は、開発途上国と呼ばれる生活水準の低い国が未だに世界に100カ国以上存在し、いろいろな問題に直面していることを理解し、途上国に興味を持ってもらうことです。講義は、途上国の現実の紹介とどうすれば生活水準がベターになるかの解説を平行して進めます。どちらが欠けても望ましい理解は期待できないからです。

授業の目標

途上国問題を理解し対策を議論するには、途上国を知り興味を持つことが早道です。授業では、現実を紹介するコーナーを河合先生が担当し、途上国が直面する問題の解説コーナーを高木が担当します。現実を見ながら問題を理解できるように、二つのコーナーを平行して進めます。机上の空論にならないように、経験だけで理解できると思わないように、現実と理論のバランスをとることを目標にします。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	途上国の生活水準	途上国の貧困はなぜ国際問題になるのでしょうか。貧しさの程度は何を見てどれくらいと判断できるのでしょうか。	髙木　保興	髙木　保興 河合　明宣
2	経済的貧困と政治・社会的貧困	経済的貧困はどのようにして計測されるのでしょうか、経済的要因以外でも命を落とす人が途上国では少なくないが、人間の安全保障とはどのように考えればいいのでしょうか。	髙木　保興 河合　明宣	髙木　保興 河合　明宣
3	食糧不足段階の開発	不足する食糧はどのようにして確保すればいいのでしょうか。一次産品輸出や食糧価格支持政策は農民の生活にどのような影響を及ぼすのでしょうか。食糧自給体制の確立に向けて考えられる政策とは。	髙木　保興 河合　明宣	髙木　保興 河合　明宣

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	マイクロ・ファイナンス	農村の高利貸しは農民が貧困から抜け出せない一因になっているのでしょうか。グラミン銀行の成功の原因は。マイクロ・ファイナンスに問題はないのでしょうか。	髙木　保興 河合　明宣	髙木　保興 河合　明宣
5	食糧充足後の開発	農業のポテンシャルは開発すべきでしょうか、それとも、工業化のほうがベターなのでしょうか。農業開発と工業化の比較検討は重要になってくる。	髙木　保興 河合　明宣	髙木　保興 河合　明宣
6	工業化の基本方針	発展の原動力は資本蓄積か輸出か、それとも何か外に考えられるのでしょうか。政府の望ましいサイズは、バランスの取れた発展か、アンバランスでも早い発展のほうがベターか、工業化に際して必要な検討事項を議論します。	髙木　保興 河合　明宣	髙木　保興 河合　明宣
7	工業化の体制整備	工業化にとって必要な組織は何か、途上国が活用できる資源とは何か、工業化をスタートさせるにはどうすればいいか、工業化に際して必要な体制整備を議論します。	髙木　保興 河合　明宣	髙木　保興 河合　明宣
8	工業化戦略	自国企業と外国企業の差は、輸入代替と輸出指向の相違点は、多国籍企業の誘致に問題はないのか、低金利政策は工業化にベターか、具体的な工業化戦略が課題となります。	髙木　保興 河合　明宣	髙木　保興 河合　明宣
9	農業から工業への資源移動	途上国で余っている資源とは、農業と工業の間に見られる二重構造とは、工業化過程で発生する副産物のスラム問題とは、工業化をマクロの視点から眺めます。	髙木　保興 河合　明宣	髙木　保興 河合　明宣
10	政府主導の落とし穴	政府主導は理想に流されやすいか、理想と現実のギャップが生み出すものは何か、現実に発生した債務問題とは、大きな政府の問題がなぜ発生したのかを検討します。	髙木　保興 河合　明宣	髙木　保興 河合　明宣

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
11	産業構造高度化への障害	後発途上国に軽工業から締め出され、先進国に重化学工業への進出を邪魔される。軽工業で工業化に成功した途上国は、この難関をどうすれば突破できるのでしょうか。東アジアの奇跡と通貨危機とはどんな教訓を与えてくれるのか、スタートに成功した途上国の問題を議論します。	髙木　保興 河合　明宣	髙木　保興 河合　明宣
12	経済共同体構想	冷戦後の安全保障を途上国はいかにすれば確保できるか、東アジア地域の共同体構想は生きているか、FTA（自由貿易協定）と地域共同体との違いはどこにあるのか、工業化と安全保障との関係を検討します。	髙木　保興 河合　明宣	髙木　保興 河合　明宣
13	社会の変容と社会（関係）資本	農業社会から工業社会への移行は何をもたらしたのか、社会（関係）資本の変容は人々の暮らしを豊かにしたか、工業化の過程で変容する社会に光を当て、工業化によってわれわれが目指していたものは何であったかを問い直してみることにします。	髙木　保興 河合　明宣	髙木　保興 河合　明宣
14	「小さな政府」と「賢明な政府」	政府の役割として議論された代表例として、債務問題発生後に展開された「小さな政府」と東アジアの奇跡で評価された「賢明な政府」を紹介し、途上国政府の役割として何が期待されているか探ってみます。	髙木　保興 河合　明宣	髙木　保興 河合　明宣
15	政府の役割－発展段階に応じた優先順位	政府の役割は段階ごとに変化してくる。変化しないベストな体制は存在しないからです。途上国政府は何をどの段階ですればいいのか議論してみます。	髙木　保興	髙木　保興 河合　明宣

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	総合科目	科目コード	1531409	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　幸福の社会理論　　（’０８）＝　（R）

〔主任講師（現職名）：髙坂　健次（関西学院大学教授）　　〕

講義概要

現代社会に生きる人間の「幸福」および「不幸」のあり方について、こんにち、さまざまな論議がなされています。本講義では、「幸福」と「不幸」の客観的状況と主観的状況、ならびにそれら相互の間の関係について具体的に明らかにし、その問題点を明らかにするとともに、将来のあり方について考察しながら、「幸福の社会理論」の構築を目指します。

授業の目標

全15回の講義を通じて、「幸福」と「不幸」に関する過去と現代の理論としてどのようなものがあったか、過去の時代や他の民族社会においてどのように捉えられてきたか、現代日本社会の状況と具体的現象や事例を念頭に置いたときの幸福の条件とは何か、グローバル化した世界における私たちは何をなすべきか、について概略が分かるようになることを目標としています。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	幸福の理論史	功利主義批判として出発した社会学がいちはやく幸福について考えようとしていたこと、それにもかかわらずその後の動きが頓挫した事情について述べます。また、現代における「幸福の社会理論」の復活の兆しについてさまざまな研究動向を通して言及します。	髙坂健次（関西学院大学教授）	髙坂健次（関西学院大学教授）
2	不幸の減算	「幸福の加算」だけを考えていると常に不幸な人々が残ってしまうことに着目し、人類の進歩を幸福の加算にではなく、「不幸の減算」の側から見ていくことも大切であることを市井三郎の議論を手がかりに考えます。また、客観的幸福と主観的幸福の関係について論じます。	髙坂健次（関西学院大学教授）	髙坂健次（関西学院大学教授）
3	幸福の民俗理論	伝統社会における幸福観や、幸福を得るために人々が発達させてきた知恵や工夫について学習します。社会的ネットワークを築くための婚姻の規則や、儀礼の役割、昔話に表現された幸福観などについて考えます。	山泰幸（関西学院大学准教授）	山泰幸（関西学院大学准教授）
4	不幸の民俗理論	伝統社会における不幸観や、不幸に対処するために人々が発達させてきた知恵や工夫について学習します。災害や病気の説明システムや、社会的不均衡がもたらす葛藤を解消し、社会的紐帯を維持するシステムについて考えます。	山泰幸（関西学院大学准教授）	山泰幸（関西学院大学准教授）
5	死者の幸福	伝統的社会における幸福や不幸の捉え方は、死後の霊魂の行方、あり方と密接に関係しています。死後の世界をどのようなものとして思い描き、死後に幸福を得るために、人びとはどのような生き方をしてきたのかについて学習します。	山泰幸（関西学院大学准教授）	山泰幸（関西学院大学准教授）
6	幸福の測り方	幸福の測り方を「主観的な意識」に注目する方法、「客観的な状態」に注目する方法、「主観的な意識」と「客観的な状態」をつなぐ中間項としての「生き方の幅」に注目する方法、の三つに分けて解説します。また社会状態を比較する基準であるパレート最適という考え方を学びます。	浜田宏（関西学院大学准教授）	浜田宏（関西学院大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
7	幸福感の現状	心理学や経済学や社会学における幸福感の計量調査の代表的な知見を紹介します。個人や国家のあいだで主観的幸福感がどのように異なっているのかを比較しつつ、幸福感がどのような要素から形成されているのかを解明します。	浜田宏(関西学院大学准教授)	浜田宏(関西学院大学准教授)
8	幸福な社会のデザイン	幸福な社会をわれわれ自身の手で作りあげることができるのか、という問題を「ユートピア」というキーワードを手がかりに考えます。社会的選択理論や映画作品で描かれたユートピア像を参考にして、幸福な社会をデザインすることの可能性を検討します。	浜田宏(関西学院大学准教授)	浜田宏(関西学院大学准教授)
9	承認と幸福	自分らしさ＝アイデンティティの確立にとって「他者からの承認」が持つ意義について、今日的な社会・文化現象を交えながら論じます。現代社会に生きる私たちが「自分らしくある幸せ」を実感するうえで、他者による承認が二重の意義を持っている点を明らかにします。	阿部潔(関西学院大学教授)	阿部潔(関西学院大学教授)
10	監視と自由	現代社会では、「安全・安心」が至上命令と化しています。そうした社会情勢のもとで、人々の「自由」にはどのような制約が課されているのでしょうか。セキュリティ確保を目指す監視社会に潜む問題点を明らかにすることを通して、「自由である幸せ」をめぐる課題について考えます。	阿部潔(関西学院大学教授)	阿部潔(関西学院大学教授)
11	公共圏と他者	現在、社会問題への解決策として「公共性の復権」が叫ばれています。ですが、そこで目指される「公共性」の内実は、必ずしも明らかではありません。誰にとっての／どのような公共性が求められているかについて、「他者とともにいる幸せ」という視座から考えます。	阿部潔(関西学院大学教授)	阿部潔(関西学院大学教授)
12	災害の不幸	阪神・淡路大震災を例にとって、災害のもたらすさまざまな不幸について、どうすれば回避ないし軽減できたかという視点で振り返ってみます。とくに、震災の事前、事後の「想定外」がもたらした結果に着目し、社会科学が果たしうる貢献について論じます。	髙坂健次(関西学院大学教授)	髙坂健次(関西学院大学教授)
13	グローバル化	グローバル化の意味について理解を深めながら、その時代に特有の不幸について述べます。とくに、「圧倒的な非対称(格差)」の増大、世界的な暴力の拡大、科学技術の発展がもたらした「取り返しのつかない」不幸など、21世紀型の不幸について分析します。	髙坂健次(関西学院大学教授)	髙坂健次(関西学院大学教授)
14	取り逃がした機会	「自己に責任のない不条理な苦痛」としての不幸を回避ないし軽減しうる可能性を、「取り逃がした機会」として概念化します。その上で、ベトナム戦争やJR福知山線列車事故の具体例を通して本研究分野を将来に向けての社会学的救済論として確立します。	髙坂健次(関西学院大学教授)	髙坂健次(関西学院大学教授)
15	理論と実践	「幸福の社会理論」で学んだ事柄を理論、歴史、経験、方法のそれぞれの側面からさらに理解を深めるとともに、私たちが、社会の幸福に向けて具体的にできることは何か、また何をなすべきかについて、講師全員で議論します。 ＊最終回は、主任講師と分担協力講師の全員(4名)でディスカッション形式をとります。	髙坂健次(関西学院大学教授)	髙坂・阿部・山・浜田＊

＝　２１世紀の女性と仕事（‘０６）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：大沢　真知子（日本女子大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：原田　順子　（放送大学准教授）　〕

全体のねらい

経済のサービス化や経済の国際化が進むに従って、働き方や生き方も大きく変化する。なかでももっとも大きな変化は、女性の社会進出の進展だろう。女性が結婚しても就業を続けるようになれば、社会のしくみもそれにあわせて変わらざるをえない。なぜ経済が発展すると、女性の社会進出が進むのか。それが家族形成にどのような影響を与えるのか。そのような変化に女性や企業はどう対応しているのか。職場での男女の平等な扱いに対してどのような法制度を用いてそれを支えているのか。

９０年代に進展している経済のグローバル化は、従来とは違う多様な働き方を生み出している。このような仕事のなかには、家庭と仕事の両立がしやすい働き方も多い。２１世紀には共働き世帯が主流になる。そのなかで、わたしたちは、男性と女性がともに働き、家事や育児を分かち合える新しい働き方をしていく必要がある。

本講義では、同じような変化を経験している他の先進国の例などを紹介しながら、２１世紀の日本の女性の生き方と働き方について、１５回の講義をつうじて考えていきたい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	静かな革命―女性の社会進出はなぜおきたのか	経済の発展と女性の労働参加にはどのような関係があるのだろうか。どのような経済要因によって女性の社会進出は進展するのか。働く女性がふえるとなぜ出生率は低下するのか。少子高齢社会がもたらす経済社会への影響は何か。そのなかで社会はどのように制度を整えていったらいいのか。	大沢真知子（日本女子大学教授）	大沢真知子（日本女子大学教授）
2	日本の近代化と女子労働	日本の近代化に伴う女子労働の歴史的変遷を概観する。明治の文明開化とともに、我が国の近代化が本格的に始まり、各地に工場が設立された。そんな中、農村出身の女性達が生糸を紡ぐ女工になるなど、女性の働き方にも大きな変化が訪れた。 明治から昭和まで、女子労働の場の変化を考える。	原田順子（放送大学准教授）	原田順子（放送大学准教授）
3	結婚の変容と少子化	女性の社会進出が進むについて、結婚のあり方も大きく変化する。夫婦の分業によって成り立っていた結婚から、夫婦が仕事と家事や育児を共に担う社会へと変化するなかで、晩婚化や結婚しない若者もふえている。経済学の分析をつうじて最近の結婚の変化がなぜおきたのか。また、少子化の経済要因について考察する。	大沢真知子（日本女子大学教授）	大沢真知子（日本女子大学教授）
4	女性の就業と社会制度	戦後の日本の女性の就業パターンはどのように変化したのかその要因をさぐる。また、既婚女性が社会進出をしてくいなかで、社会制度をどのように整えていったのか、諸外国の実態を紹介する。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	男女間賃金格差	日本は先進国のなかでもっとも男女間の賃金格差が大きい。なぜ賃金格差が生じるのか。その理由はなぜなのか。女性の社会進出が進む中で、それは改善されているのだろうか。 最近の研究成果から、男女間の賃金格差の実態を諸外国との比較で探る。	大沢真知子(日本女子大学教授)	大沢真知子(日本女子大学教授)
6	男女の雇用機会均等と法	男女の雇用機会の均等と法について学ぶ。「女性」という集団的な属性ではなく個人として尊重されたいと思っても、女性労働者は、仕事につく前や就職したあとでも、さまざまな偏見やステレオタイプ化された差別に出会うことがある。法は、男女差別を是正しようという立場から、各種の方策を講じている。ここでは男女雇用機会均等法を中心に、男女差別を是正する現行の法規制の内容を検討し、さらに新しい差別是正の考え方も学ぶことにする。	浅倉むつ子(早稲田大学大学院教授)	浅倉むつ子(早稲田大学大学院教授)
7	職場のセクシュアル・ハラスメント防止と法	職場の中のセクシュアル・ハラスメントは、被害を受けた人の人格権を侵害して働く意欲を奪うだけでなく、職場の環境をこよなく悪化させて、企業組織の正常な運営や活力まで阻害してしまう。この授業では、法的な観点から、職場のハラスメントはなぜ起きるのか、これらを防止するにはどうしたらよいのか、使用者の責任の内容とは何か、などについて考えることにする。	同上	同上
8	仕事と社会	もし、女性が採用や昇進で平等に扱われたとしても、男女の教育水準が異なる限り、女性の平均賃金は男性並みにならないであろう。また、もし長時間仕事に集中できる人が望ましいというビジネス・カルチャーがあれば、結局、育児休業をとる男性は少なくなる。社会的背景の女性と仕事への影響を学ぶ。	原田順子(放送大学准教授)	原田順子(放送大学准教授)
9	女性の人事管理	男女雇用機会均等法が施行された頃から、総合職、一般職など、コースによる人事管理が大企業を中心に見られるようになった。しかし、現在でも女性総合職や管理職の比率は低い。女性の登用は産業によっても特色が見られる。コース別雇用管理を含め、民間企業における女性の人事管理の実態に迫る。	同上	同上
10	非典型雇用と法	パートタイム、派遣、有期など、非典型雇用の女性が増えている。非典型雇用は、正社員ではないという点でかなり似通った実態にあるが、法的には、それぞれが異なる内容をもつ契約であって、規制される法律も異なっている。この授業では、非典型雇用という働き方の実態に注目しつつ、労働者派遣法、パートタイム労働法などの内容を学びながら、この問題に法的な観点からアプローチする。	浅倉むつ子(早稲田大学大学院教授)	浅倉むつ子(早稲田大学大学院教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
11	非典型雇用の戦力化	非典型雇用（パート、アルバイト、派遣社員など）は不況による人件費の圧縮、サービス産業化などにより飛躍的に増加したと言われている。このような雇用形態で雇われる人には女性が多いが、彼女達の年齢・仕事観等は多様である。その実態を明らかにする。加えて、パート・アルバイトの活用を図る企業の事情を探る。	原田順子（放送大学准教授）	原田順子（放送大学准教授）
12	非典型雇用と組織化	人事や賃金を論じる際に、労働組合の影響を考えることは必要である。労使の安定は日本の発展に寄与してきたと言われている。 従来、組合は正社員のものだった。パート・アルバイト等の非典型雇用には女性が多いので、その組織化について考える。	同上	同上
13	経済のグローバル化と多様化する雇用形態	９０年代に日本経済にもっとも大きな影響を与えたのは、経済のグローバル化であろう。この変化に先進国はどのように対応したのか。先進１０か国の比較研究の成果を通じて、雇用の柔軟化を働き方の多様化に結びつけるためにどうしたらいいのかを考える。	大沢真知子（日本女子大学教授）	大沢真知子（日本女子大学教授）
14	新しい働き方としてのNPO	９８年にNPO法が施行されて以来、NPOに認定される団体数がうなぎ上りである。NPOにはどのような可能性があるのか。NPOの発展の鍵となるのは、行政と対等な関係が作れるかということにある。それに成功しているデンマークやオランダの例を紹介しながら、この分野の日本での発展を展望する。	同上	同上
15	ワークライフバランス社会	最近は仕事中心社会からワークライフバランス社会へとしくみを変える国がふえている。とくにヨーロッパでは、雇用の保障や権利において雇用形態間の差をなくすことによって、多様な働き方が選べる社会を作ろうとしている。また、会社も両立支援策に力を入れている。そういった諸外国の実例を紹介する。	同上	同上

＝　イノベーション経営（‘０５）＝（TV）

〔主任講師：亀岡　秋男（北陸先端科学技術大学院大学特任教授）〕
〔主任講師：古川　公成（慶應義塾大学名誉教授）　　〕

全体のねらい

如何にしてイノベーションを促進し、新産業・新技術を創出するかが現代日本にとって最大の課題である。この課題の解決には、創造的な目標を構想し、イノベーションを起動させ、これを積極的に推進する技術マネジメントが不可欠である。本講座の目標は、技術イノベーションを促進するプロデューサーの養成にある。画期的な技術を開発し、これを事業化し、世界経済の発展に寄与する新産業の創出につなげるという、重要な役割を担うプロデューサーに求められる基本的な知識や考え方を指摘し、イノベーションの推進にチャレンジする意欲の高揚をはかることに本講座の狙いがある。

回	テーマ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
		I.　イノベーション概論		
1	「イノベーション経営」序論	技術立国日本の産業にとって、技術的なイノベーションを推進する人材の育成が急務である。この章では、技術的なイノベーションが小さく芽生え、徐々に開花して大きな産業に発展するまでのプロセスの全容を概観し、この科目の構成を鳥瞰する。	亀岡　秋男（北陸先端科学技術大学院大学特任教授）	亀岡　秋男（北陸先端科学技術大学院大学特任教授）
2	イノベーションと科学技術－その歴史的展望－	産業革命以降、今日に至まで、世界経済の発展は産業技術の進歩に依存するところが多かった。新しい技術が新たな産業の創出につながった歴史上の具体例をいくつか分析しながら、イノベーション推進の条件を考察する。	原　陽一郎（長岡大学教授）	原　陽一郎（長岡大学教授）
3	イノベーションのプロセス－最近のイノベーション理論とマネジメントの意義－	新たな技術が大きな産業に発展するまでの長期的かつ広範囲にわたるプロセスを代表的な幾種かの実例について分析し、イノベーションを促進する要因、阻害する要因を指摘し、望ましいマネジメントのあり方を考察する。	原　陽一郎	原　陽一郎
4	イノベーションと産業のダイナミズム	イノベーションの創生から新産業創出・発展のプロセスを分析する。繊維・鉄鋼・自動車・化学産業からデジタルＡＶ・携帯電話・ロボット、時計・液晶・プリンタさらには、医療産業など標準化も含めて産業のライフサイクルとして生成過程を捉える。	原　陽一郎	原　陽一郎

回	テーマ	内　　容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
		Ⅱ　企業のイノベーション・マネジメント		
5	イノベーター人材の創出 －目標創設型リーダーの育成－	技術と社会、経済、文化等、広い視野から将来のあるべき姿を構想し、これを実現する具体的に目標コンセプトを創出し、かつ現実的なアプローチの方法論を提示し、これを実践する「テクノプロデューサー」の育成と活動環境について考察する。	亀岡　秋男	亀岡　秋男
6	技術・市場の予測と新コンセプトの創出	産業の基盤技術、需要構造、企業間競争などに変化の潮流を察知し、画期的な新製品や新産業のコンセプトを提示してみせる、ビジョナリー・リーダーがいる。そうしたリーダーの発想と新産業創出のプロセスを分析する。	亀岡　秋男	亀岡　秋男
7	新製品の創出	画期的な新製品には、忍耐強く、その需要をゼロから開拓する努力が必要になる。新製品が新事業を支える主力製品に成長するまでには、既存製品との競合があり、代替技術との競争があり、新規参入企業との競争もある。	古川　公成（慶應義塾大学名誉教授）	古川　公成（慶應義塾大学名誉教授）
8	経営戦略と技術戦略 －戦略ドメインとコアテクノロジー－	自社が得意とする技術力をどのようにして効果的に企業経営に活かすかについて、事業戦略ドメイン、コア・コンピタンス、コア・テクノロジー、および事業活動の組み合わせ（ポートフォリオ）などの視点から考察する。	許斐　義信（慶應義塾大学大学院教授）	許斐　義信（慶應義塾大学大学院教授）
9	技術戦略推進のプロセス	画期的な産業技術が出現すると、新技術に置きかえられる恐れおそれがある既存製品や既存技術の市場地位を守る努力が始まる。市場での、変化への抵抗に対処しながら、新技術の市場地位を確立する方策の選択肢を考察する。	古川　公成	古川　公成
10	研究開発投資とリターン －R＆D生産性の向上－	R&D 投資の経済効果や、投資リスクはどんな基準で評価できるかについて、定性的および定量的な考え方を比較検討する。さらにR＆D投資の効果を高める工夫と、R＆D活動を管理運営する際の幾通りかの考え方を探る。	許斐　義信	許斐　義信

回	テーマ	内　　容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
11	知的財産の戦略 －世界戦略の主軸に－	技術的な知的財産にかかわる蓄積と管理の仕方は、技術立脚型企業の存続と発展に直接の影響を与える。知的財産権の確立に伴う国境を越えた熾烈な競争と、画期的新産業技術を巡る国際標準化の競争の代表例を分析する。	許斐　義信	許斐　義信
12	知識創造経営－個人・グループ・組織の知の創造－	知識創造(Knowledge creation)がイノベーションの源泉である。科学技術にも経営にもナレッジマネジメントが重要となる。知識創造理論を中心に、個人、グループ、組織の知の創造、特に暗黙知と形式知との転換プロセスとその場を理解し実践に生かす方法論を示す。	野中郁次郎（一橋大学名誉教授）	野中郁次郎（一橋大学名誉教授）
	Ⅲ　国レベルのイノベーション			
13	製品アーキテクチャと組織能力	設計思想としてのアーキテクチャという概念を説明し、組織能力とアーキテクチャの相性が現場の競争力を左右する、という仮説を、実例を説明し検討する。中国の産業競争力に関するアーキテクチャ分析も試みる。また、現場の競争力が収益に結びつきにくい日本企業の特徴を踏まえ、アーキテクチャの位置取り戦略も紹介する。	藤本　隆宏（東京大学大学院教授）	藤本　隆宏（東京大学大学院教授）
14	ナショナル・イノベーションシステムーイノベーション促進への産学官・社会の役割	経済のグローバル化が進む中で、競争力のある企業の立地には、極端な偏りがある。この状況をナショナル・イノベーション・システムという考え方に添って分析し、技術革新の促進に政府が果たす役割を考察する。	霍見　芳浩（ニューヨーク市立大学教授）	霍見　芳浩（ニューヨーク市立大学教授）
	Ⅲ　　イノベーション経営：まとめ			
15	イノベーションのマネジメントー総集編	グローバルに展開する技術イノベーションを効果的に推進するイノベーターに求められる考え方や知識、資質や能力、発想や行動パターンを概観する。そうした技術プロデューサーに期待される発想・思考形態や意思決定・行動様式を総括し、この科目の目的を整理する。	古川　公成	古川　公成

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	専門科目	科目コード	1540807	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ マーケティング論 （’０８）＝ （R）

〔主任講師（現職名）：恩蔵　直人（早稲田大学教授）〕

講義概要

今日のビジネス活動を考える上で、マーケティングは欠くことの出来ないものとなっている。マーケティングの考え方やフレームワークは、営利企業だけではなく、大学、病院、自治体など、非営利組織においても注目を集めている。その一方、マーケティングを断片的に捉えたり、誤って理解している人々も少なくない。この講義では、マーケティングの基本的な概念から、実際のビジネス・ケースまでを体系的に解説し、マーケティングの全体像を明らかにしていく。また、必要に応じて実務家を招き、実際のビジネスにおけるマーケティングについて語ってもらう予定である。

授業の目標

今日のビジネス環境において必要とされるマーケティングの知識を身につけることを目標としている。マーケティングとは何か、マーケティングの要素にはどのようなものがあるのか、といったマーケティングの本質を理解した上で、講義で紹介する概念やフレームワークを実際のビジネス・シーンに応用できるようになるのが理想的である。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	マーケティングの本質	マーケティングとは何か。生産や販売とどのように異なるのか。どのような課題を担っているのか。本章では、こういった疑問に答えることで、マーケティングの本質について解説する。また、マーケティング・ミックスの考え方を紹介する。 【キーワード】 マーケティング・コンセプト、マーケティング・ミックス、マーケティング・マイオピア	恩蔵　直人（早稲田大学教授）	恩蔵　直人（早稲田大学教授）
2	マーケティングのSTP	マーケティングでは、STPという骨子が広く知られている。企業は、マーケティング活動を展開する前にSTPに関して検討しておかなくてはならない。本章では、STPのそれぞれについて解説を加える。 【キーワード】 セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング	同上	恩蔵　直人（早稲田大学教授） ゲスト：トヨタ
3	顧客価値と顧客満足	顧客価値や顧客満足といった概念はマーケティングの基本的な概念である。本章では、マーケティングにおける顧客価値の重要性を説明するとともに、顧客価値を基礎に置いた企業活動を解説する。 【キーワード】 顧客価値、顧客満足、顧客育成	同上	恩蔵　直人（早稲田大学教授） ゲスト：シンガポール航空
4	マーケティングと消費者	消費者を理解することはマーケティングにおける重要な課題である。本章では、マーケティングと消費者行動の関係性を説明した後、消費者行動に関する基本的な概念を紹介する。 【キーワード】 関与、知覚、ブランド・カテゴライゼーション	同上	恩蔵　直人（早稲田大学教授） ゲスト：ミツカン

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	マーケティングと市場志向型戦略	マーケティングでは、常に市場と向き合わなくてはならない。したがって、市場に対応した全社的な戦略策定や資源配分が重要となる。本章では、市場を強く意識したマーケティング戦略について解説する。 【キーワード】 ミッション、SWOT分析、成長ベクトル、ポートフォリオ	恩藏 直人(早稲田大学教授)	恩藏 直人(早稲田大学教授)
6	マーケティングと競争戦略	市場の成長が見込めない成熟市場においては、常に競合他社へ目を向けなければならない。自社が成長するためには、他社のパイを奪わなければならないからである。本章では、特に競争を意識した戦略的マーケティングについて解説する。 【キーワード】 リーダー、チャレンジャー、フォロワー、ニッチャー	同上	同上 ゲスト:ハーレーダビッドソン・ジャパン
7	リサーチによる顧客価値の発見	顧客価値を発見するために、企業は消費者に対し、様々なリサーチを実施する。本章では、データの種類について説明した上で、リサーチに用いられる測定尺度、サンプリング、集計方法などについて説明する。 【キーワード】 1次データ、2次データ、質問法、観察法、実験法	同上	恩藏 直人(早稲田大学教授) ゲスト:ビデオリサーチ
8	製品による顧客価値の創造	製品は顧客価値の中核をなしている。マーケティングで考える製品とは何か。新製品開発はどのように進められるのか。本章では、これらの疑問に答えるとともに、製品ミックスの考え方や製品ライフサイクルの概念を紹介する。 【キーワード】 製品、製品ライン、製品ライフサイクル、計画的陳腐化	同上	恩藏 直人(早稲田大学教授) ゲスト:花王
9	ブランドによる顧客価値の創造	顧客価値をより一層高めるものとして、ブランドがある。ブランド戦略は今日のマーケティングにおける重要課題の一つともなっている。本章では、ブランド・エクイティ概念について整理し、ブランド拡張やブランド変更など、ブランド戦略の主要な課題について考察する。 【キーワード】 ブランド・エクイティ、ブランド・リポジショニング、ブランド拡張	同上	恩藏 直人(早稲田大学教授) ゲスト:東急エージェンシー
10	サービスによる顧客価値の創造	顧客価値を創造するのは、有形物だけではない。サービスも顧客価値を創造する重要な要因である。本章では、有形の製品と比較した場合のサービスの特性、サービス産業のマーケティング課題について検討する。 【キーワード】 無形性、品質の変動性、不可分性、消滅性、需要の変動性	同上	恩藏 直人(早稲田大学教授) ゲスト:日立製作所
11	流通による顧客価値の伝達	流通チャネルは顧客価値を企業から顧客へと伝達する。本章では、流通チャネルの存在理由やチャネルの段階数について整理する。また、チャネル設計やチャネル管理について説明する。 【キーワード】 取引数の削減、垂直的マーケティング・システム、パワーとコンフリクト	同上	恩藏 直人(早稲田大学教授) ゲスト:明治安田生命保険

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	営業による顧客価値の伝達	顧客価値は営業によっても伝達される。本章では、これまで科学的に議論されることの少なかった営業をマーケティングという大きな枠組みの中での検討する。その上で、営業管理や営業革新について考察する。 【キーワード】 営業、人的販売、企画提案、顧客満足	恩藏　直人(早稲田大学教授)	恩藏　直人(早稲田大学教授) ゲスト:カゴメ
13	価格による顧客価値の説得	価格は提供物のベネフィットに見合うだけのコストであるかどうかを示すことで、顧客に対しての価値を説得している。本章では、価格設定の基本方針について整理するとともに、消費者心理や製品ミックスを考慮した価格戦略について説明する。 【キーワード】 固定費、変動費、損益分岐点、需要の価格弾力性	同上	恩藏　直人(早稲田大学教授) ゲスト:総合警備保障(ALSOK)
14	コミュニケーションによる顧客価値の説得	いくら優れた製品であっても、コミュニケーションによって価値を説得していかなくては売上げには結びつかない。本章では、マーケティングにおけるコミュニケーションの基本的な考え方について解説する。 【キーワード】 媒体、AIDAモデル、統合型マーケティング・コミュニケーション	同上	恩藏　直人(早稲田大学教授) ゲスト:資生堂
15	広告、SPによる顧客価値の説得	広告やSPは顧客価値を説得していく上で、重要な手段となる。本章では、様々ある広告の種類を整理し、効果測定や予算の考え方を紹介する。SPについても、その種類や目的について解説する。 【キーワード】 広告、リーチ、フリークエンシー、セールス・プロモーション	同上	恩藏　直人(早稲田大学教授) ゲスト:　D2コミュニケーションズ

＝ 管理会計（‘０６）＝（Ｒ）

〔 主 任 講 師（現職名）：佐藤　紘光（早稲田大学教授）〕
〔 主 任 講 師（現職名）：齋藤　正章（放送大学准教授）〕

全体のねらい

管理会計の目的は、企業で行われる様々な経営意思決定と業績管理に有効な会計情報を提供することにある。本講義では管理会計の役割を意思決定を支援する役割と業績を測定・評価して企業価値を高める行動を動機づけるコントロールの役割に分けて、それぞれの理論を解説する。

回	テ ー マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	管理会計概論（1） －管理会計とは－	①管理会計の意義と目的 ②企業の目的とエイジェンシー問題 ③経営管理プロセスと管理会計の実践主体 ④意思決定プロセスと管理会計の体系 ⑤会計情報基準 ⑥財務会計との相違点	佐藤紘光（早稲田大学教授）	佐藤紘光（早稲田大学教授）
2	管理会計概論（2） －財務諸表と財務業績の測定－	①財務諸表 （貸借対照表，損益計算書，キャッシュ・フロー計算書） ②財務業績の測定 ③原価の諸概念 ④機会原価と埋没原価	同上	同上
3	管理会計概論（3） ―意思決定とコントロールの組織―	①意思決定モデル ②予測情報の価値 ②決定権限の配分とコントロール・システム ③デシジョン・マネジメントとデシジョン・コントロール 付録：効用関数	同上	同上
4	資本予算（1） 投資決定ルール.	①資本予算の意義と目的 ②貨幣の時間価値 ③将来価値と現在価値 ④現在価値法と内部利益率法 ⑤投資案の順位づけ ⑥その他の投資決定ルール	齋藤正章（放送大学准教授）	齋藤正章（放送大学准教授）
5	資本予算（2） 資本コスト	①資本コストの意義 ②源泉別資本コスト ③加重平均資本コスト ④部門別資本コスト	齋藤正章（放送大学准教授）	齋藤正章（放送大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
6	株主価値を高める事業戦略	①企業価値に適合する業績指標 ②EVAを増加させる4つの類型 ③M&Aの経済分析 ④リストラの経済分析	佐藤紘光(早稲田大学教授)	佐藤紘光(早稲田大学教授)
7	株主価値と経営計画	①長期計画による株主価値の創造 ②SVAモデルとFCFモデルによる分析 ③EVAモデルによる分析	同上	同上
8	原価の測定と原価情報の活用(1) ー全部原価計算と直接原価計算ー	①全部原価計算(形態別・部門別・製品別) ②直接原価計算 ③全部原価情報と直接原価情報	齋藤正章(放送大学准教授)	齋藤正章(放送大学准教授)
9	原価の測定と原価情報の活用(2) ーCVP分析とプロダクト・ミクスー	①CVP分析 ②原価予測 ③不確実性下のCVP分析 ④プロダクト・ミクス ⑤在庫管理 ⑥品質管理	同上	同上
10	原価の測定と原価情報の活用(3) ー標準原価計算ー	①標準原価計算の意義 ②標準原価計算の目的 ③標準原価計算の手続き ④標準原価の分類 ⑤原価差異の算定と分析	同上	同上
11	予算管理システム	①予算の意義と体系 ②予算編成のプロセス ③予算システムと組織設計 ④予算と実績の差異分析 ⑤予算の反機能とエイジェンシー・コスト	佐藤紘光(早稲田大学教授)	佐藤紘光(早稲田大学教授)
12	部門別業績管理	①責任会計と責任センター ②コスト・センターの業績管理 ③収益センターの業績管理 ④プロフィット・センターの業績管理 ⑤インベストメント・センターの業績管理 ⑥管理可能性原則と情報有用性原則	齋藤正章(放送大学准教授)	齋藤正章(放送大学准教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
13	振替価格と原価配分	①事業部間取引と振替価格 ②振替価格の実務的ルール ③原価配分（本社費・共通費） ④原価配分（結合原価）	佐藤紘光（早稲田大学教授）	佐藤紘光（早稲田大学教授）
14	業績管理会計の理論（1） －業績管理会計の分析枠組み－	①分析の枠組み ②プリンシパル・エイジェント・モデル ③リスク・シェアリング ④動機づけ ⑤業績情報の価値	同上	同上
15	業績管理会計の理論（2） －インセンティブ・システム－	①予算参加の意義 ②部門業績評価と全社業績評価 ③業績の期間比較	同上	同上

＝　簿記入門（‘０６）＝（Ｒ）

〔主任講師（現職名）：齋藤　正章（放送大学准教授）〕

全体のねらい

簿記はおよそ500年前から存在し、「ビジネスの言語」ともいわれ、今日の企業社会においても欠かせないものとなっている。本講義では、商業簿記に関する知識・技術の網羅的な習得を目標としている。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	簿記の目的と基本概念	簿記の意義や役割、またその種類について解説する。併せて、簿記の基本構造を構成する資産・負債・純資産（資本）、収益・費用について説明する。また、貸借対照表と損益計算書についても簡単に触れる。	齋藤正章（放送大学准教授）	齋藤正章（放送大学准教授）
2	複式簿記の基礎	財産法と損益法という２つの利益計算法を明らかにする。 簿記における取引の定義を示し、勘定および勘定記入のルールについて述べる。さらに具体的な取引の記録方法である仕訳と転記について解説する。	同上	同上
3	帳簿記入と決算手続き	仕訳帳、元帳への記入方法について説明し、それらの記入が正しかったかどうかを確認するための合計残高試算表について解説し、続いて決算手続きまでの一連の流れについて説明する。	同上	同上
4	現金・預金に関する記帳処理	今回より具体的な勘定科目の記帳処理方法に関する解説を行う。まず、貸借対照表の資産項目である現金・預金の定義およびその記帳処理について説明する。	同上	同上
5	商品売買に関する記帳処理	貸借対照表の資産項目である商品の記帳処理方法である分記法、三分法、総記法について各方法の短所と長所の比較を行いながら説明する。	同上	同上
6	債権・債務に関する記帳処理	貸借対照表の資産の部に記載される債権と同じく負債の部に記載される債務の記帳処理について解説する。具体的には商品売買に関する売掛金と買掛金、営業外取引に関する未収金と未払金等についてである。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
7	手形に関する記帳処理	まず、手形について説明し、貸借対照表の資産の部に記載される受取手形と負債の部に記載される支払手形の記帳処理について解説する。その他、営業外手形や金融手形、手形の決済や不渡時の処理等についても言及する。	齋藤正章（放送大学准教授）	齋藤正章（放送大学准教授）
8	有価証券および固定資産に関する記帳処理	貸借対照表の資産項目である有価証券について、その分類、取得価額と評価方法、評価基準等について解説し、有価証券売買の記帳処理について説明する。また、固定資産の取得、減価償却、売却についても併せて解説する。	同上	同上
9	純資産（資本）および収益・費用に関する記帳処理	貸借対照表を構成する純資産（資本）に関する諸取引の記帳処理について解説する。また、損益計算書を構成する収益・費用の認識・測定についても説明する。	同上	同上
10	決算の簿記	第３回の決算手続きについて復習し、それから精算表の作成方法について述べ、一連の決算予備手続に関する説明する。また、決算本手続（決算仕訳と帳簿締切）について解説する。	同上	同上
11	財務諸表の作成	これまでの決算手続きを受けて、財務諸表の作成について解説する。また、財務諸表作成を取りまく会計諸法規についても説明する。	同上	同上
12	帳簿組織（１）	帳簿システムの意義について触れ、補助記入帳、補助元帳、伝票会計について解説する。	同上	同上
13	帳簿組織（２）	現金出納帳や仕入帳および売上帳等をもちいた特殊仕訳帳システムについて解説する。	同上	同上
14	株式会社の簿記（１）	今回から、２回にわたり、株式会社の簿記について解説する。 第１回目は、資本の分類、株式会社の設立、増資や減資の会計処理、利益処分の会計処理について説明する。	同上	同上
15	株式会社の簿記（２）	引き続き、株式会社の簿記について解説する。 第２回目は、自己株式の取得、社債の発行による資金調達等について説明する。	同上	同上

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	専門科目	科目コード	1540700	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　ビジネス・ファイナンス　　（’０８）＝　（R）

〔主任講師（現職名）：菊 井 高 昭（上智大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：宮 本 順 二 朗（帝塚山大学教授）〕

講義概要

ビジネス・ファイナンスに関する情報を収集・分析して、その意思決定・活動を合理的に行う過程を理論的に論じる。さらにわが国におけるさまざまなファイナンス環境の実状・変化にも配慮しつつ、各受講者が実践的にも応用が図れるように努める。ときおり、公共財政（パブリック・ファイナンス）や、家計ないし個人レベルでのお金の管理（パーソナル・ファイナンス）の場合の問題解決との相違にも触れながら、ビジネス・ファイナンス固有の問題に焦点を絞る。

授業の目標

授業の中では、より現実的なビジネス・ファイナンスを理解するのに役立つような具体的な例示により、受講生が各自に身近な問題と受け止めて、学べるように努める。説明のために用いる数式・記号・外国（来）語などは、不要なアレルギーが出ないように、必要最小限な程度に抑える工夫する。その上で、ビジネス・ファイナンス領域における問題解決方法を理解することによって、パブリック・パーソナル等その他のファイナンス領域においても通用するような考え方を習得出来るように目指す。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	ビジネス・ファイナンスの意義・目的	まず、パブリック・ファイナンス（公共財政）やパーソナル・ファイナンス（家計ないし個人資産管理）との違いを明確にしていきながら、ビジネス・ファイナンスとは何かを説明し、さらにその目的について受講者の理解を促す。 【キーワード】 ビジネス・ファイナンス（企業ないし経営財務）、パブリック・ファイナンス（公共財政）、パーソナル・ファイナンス（家計ないし個人資金管理）	宮本順二朗（帝塚山大学・教授）	宮本順二朗（帝塚山大学・教授）
2	ビジネス・ファイナンスの基礎（1）キャッシュ・フローの概念とその計算	ここでも、パブリック・ファイナンスとパーソナル・ファイナンスの場合にも共通して、重要な概念である“キャッシュ・フロー”について、とくにビジネス・ファイナンスにおいてその必要な考え方と計算の仕方について述べる。その際、実践的にも応用可能なような具体例に基づいた計算演習を行うように努める。 【キーワード】 キャッシュ・イン・フロー、キャッシュ・アウト・フロー、営業キャッシュフロー、財務キャッシュフロー、投資キャッシュフロー、フリー・キャッシュフロー	宮本順二朗（帝塚山大学・教授）	宮本順二朗（帝塚山大学・教授）
3	ビジネス・ファイナンスの基礎（2）キャッシュ・フローの評価；将来価値と割引価値	ビジネス・パブリック・パーソナルのいずれのファイナンスにおいても、キャッシュ・フローの把握が如何に重要であるかを学ぶ。すなわち、資金の調達・運用の両面においてキャッシュフローの評価・計算の方法とそれぞれの諸問題点を見ていく。 【キーワード】 時間価値、将来価値、現在価値、割引計算、割引率、資本コスト、目標利益率、内部収益率	宮本順二朗（帝塚山大学・教授）	宮本順二朗（帝塚山大学・教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	ビジネス・ファイナンスの基礎(3)リスク・リターン	ここでも、パブリック・ファイナンスとパーソナル・ファイナンスの場合にも共通して、重要な概念である“リスク”・“リターン”について説明を行う。とくにビジネス・ファイナンスにおいて必要な考え方とそれぞれの把握方法について述べる。その際、実践的にも応用可能で身近に生じるような具体例に基づいた計算演習を行うように努める。 【キーワード】 不確実性、期待(平均)値、標準偏差(分散)、相関関係、共分散、システマティックリスク、アンシステマティック・リスク、リスク回避、リスク分散	宮本順二朗(帝塚山大学・教授)	宮本順二朗(帝塚山大学・教授)
5	ビジネス情報の収集;会計的情報と市場情報	ビジネス・ファイナンスの情報源としての財務諸表の種類、構造、見方を説明し、さらに資本市場に関する各種データの種類・意味について説明する。 【キーワード】 財務諸表、会計的利益率(ROA, ROE)、株価、一株当たり利益(EPS)、株式市場指数、株式収益率	菊井高昭(上智大学・教授)	菊井高昭(上智大学・教授)
6	ビジネス情報の分析;会計的情報と市場情報	企業の財政状態や経営成績を各種の財務指標(財務比率)を通して把握するための方法について説明する。いわゆる経営分析の知識の習得を目的とする。 【キーワード】 流動性、収益性、活動性、成長性、PER、PBR、PCFR	菊井高昭(上智大学・教授)	菊井高昭(上智大学・教授)
7	ビジネス・ファイナンス情報の統合・評価;会計的情報と市場情報	各種の財務指標(財務比率)を統合・評価するための方法について述べ、さらに実数分析としての損益分岐分析、企業評価の方法としてのEVA等について説明する。 【キーワード】 交差分析、レーダー・チャート分析、損益分岐分析、EVA、企業評価ランキングなど	菊井高昭(上智大学・教授)	菊井高昭(上智大学・教授)
8	ビジネス資金の運用(1);投資決定	実物資産に対する投資の観点から、投資案の経済性計算について学習する(第8回目と第9回目の2回)。第8回目では、経済性を評価するために必要な基礎データについて述べる。 【キーワード】 将来キャッシュフロー、複利現価係数、年金現価係数、回収期間法、会計的利益率法	菊井高昭(上智大学・教授)	菊井高昭(上智大学・教授)
9	ビジネス資金の運用(2);投資決定(続)	投資案の経済性を評価するための代表的方法について個々に説明し、さらに各種方法の比較検討を行う。出来る限り具体的に、数値例を用いながら説明する。 【キーワード】 回収期間方、会計的利益率法、現在価値法、収益性指数法、内部収益率法	菊井高昭(上智大学・教授)	菊井高昭(上智大学・教授)
10	ビジネス資金の運用(3);ポートフォリオ理論とCAPM	金融資産に対する投資の観点から、ポートフォリオ理論についての基本的な考え方を説明し、さらに資本資産のリスクとリターンの関係を表す資本資産価格決定モデル(CAPM)について述べる。リスクとリターンに関する基本的知識(第4回目の執筆・講義)が十分理解されていることを前提に執筆し、講義を進める。 【キーワード】 リスク(危険)回避、ポートフォリオ、分散投資、最適組み合わせ投資、リスク・プレミアム、CAPM、指数モデルなど	菊井高昭(上智大学・教授)	菊井高昭(上智大学・教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
11	ビジネス資金の調達(1);そのデータ収集と分析	ビジネスの資金調達に関する意思決定のうえで必要なデータを、如何に収集しかつそれらを分析していくのか、適切な処理手法について解説し、具体的・実際的な演習を試みる。 【キーワード】 金利(資本コスト)・長短期資金調達・デッドファイナンス(他人資本調達)・エクィティファイナンス(自己資本調達)・証券化	宮本順二朗(帝塚山大学・教授)	宮本順二朗(帝塚山大学・教授)
12	ビジネス資金の調達(2);そのデータ統合と評価	ビジネスの資金調達に関する意思決定のうえで必要なデータを、収集かつ分析したのちに、さらに行う適切な統合・評価手法について解説し、ここでも具体的・実際的な演習を試みる。 【キーワード】 混合資金調達(ミックス)、レバレッジ、加重平均資本コスト	宮本順二朗(帝塚山大学・教授)	宮本順二朗(帝塚山大学・教授)
13	ビジネス・ファイナンスの資本構成と成果配分	資本構成と企業価値の関係について述べ、さらに企業の成果配分という観点から、配当、株式分割、ストック・オプション、従業員持株制度などについて説明する。 【キーワード】 デッド・ファイナンス(他人資本調達)、エクイティ・ファイナンス(自己資本調達)、最適資本構成、企業価値、配当割引モデル、株式分割、ストック・オプション、ESOPなど	菊井高昭(上智大学・教授)	菊井高昭(上智大学・教授)
14	ビジネス・ファイナンスの特殊問題(1);ベンチャー・ビジネス・と財務戦略	ベンチャー・ビジネス(起業)のために、とくに必要な資金調達の諸問題を中心に、かつ、その一面で資金運用の計画について述べる。さらに、わが国におけるベンチャービジネスの諸制度やそれらの活用上の諸問題などにも言及していこう。 【キーワード】 ベンチャーキャピタル、エンジェル、ジャンク・ボンド、セーフティ・ネット	宮本順二朗(帝塚山大学・教授)	宮本順二朗(帝塚山大学・教授)
15	ビジネス・ファイナンスの特殊問題(2);企業再編と財務戦略	2000年代に入り、ますます活発になってきたM&Aをはじめ、さまざまな形態での企業再編について述べていく。まず、起業再編の諸方法につき解説した後、出来るだけ具体的な事例をいくつか取り上げ、実証的な分析にまで及ぶよう努める。 【キーワード】 M&A, TOB, 企業分割(セル・オフ、スピンアウト)、セグメント別資金管理など、	宮本順二朗(帝塚山大学・教授)	宮本順二朗(帝塚山大学・教授)

＝　アーツ・マネジメント（‘０６）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：清水　裕之（名古屋大学大学院教授）〕
〔主任講師（現職名）：菊池　誠　（元東京大学総合研究博物館客員教授）〕

全体のねらい

アーツマネジメントを「芸術と社会をむすぶ仕事」と位置づけ、特に公立文化施設、美術館、博物館とのかかわりを中心に、その意味や具体的な活動について考察する。文化施設と地域・住民との関係や具体的な展覧会制作活動、施設のハードウェアの側面にも光をあてる。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	導入：アーツマネジメントとは	海外の大学教育のカリキュラムなどを参照しながらアーツマネジメントとはどんな概念か、どんな仕事なのかを概括する。	清水　裕之（名古屋大学大学院教授）	同　左
2	美術館の整備状況	公立美術館を中心に、我が国の文化施設の整備状況について概括する。	菊池　誠（元東京大学総合研究博物館客員教授）	同　左
3	公立文化施設の活動を見る	公立文化施設の根拠はなにか、我が国に特徴的な多目的ホールによる貸し館運営はどのように成立したか、地域にどのような活動を提供しているか、どんな人が働いているかを概括する。	清水　裕之（名古屋大学大学院教授）	同　左
4	公立文化施設におけるアーツマネジメントの実際	ドイツの劇場、イギリスの劇場と日本の公立文化施設の仕事を具体的に比較しながら、世界的な視野でアーツマネジメントとの仕事を考察する。さらに、公立文化施設のアーツマネジメントとしてどのような業務があるか、カテゴライズして紹介する。 我が国の事例として長久手町文化の家と第一生命ホール（NPO 法人トリトンネットワーク）の活動を具体的に観察する。	清水　裕之（名古屋大学大学院教授）	同　左
5	公立文化施設とボランティア活動	近年、盛んになってきているホールボランティアの活動の活動実態を紹介しながら、ボランティアの意味、ホールスタッフとボランティアとの関係などを考察し、ボランティアの枠組みを理論化し、課題を取りまとめる。 具体的な事例として、喜多方プラザ文化センター、たんば篠山田園ホール、知立市民会館パティオウエーブ、武豊町民会館のボランティアの実際を紹介する。	清水　裕之（名古屋大学大学院教授）	同　左

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
6	美術館の活動と施設	美術館においては、どんな活動があるのか、どんな人々が働いているのかを概括する。またそのための建築施設について触れる。	菊池　誠（元東京大学総合研究博物館客員教授）	同左
7	展覧会制作のマネジメント――『メディアとしての建築』展を例として	東京大学総合研究博物館で開催した『メディアとしての建築』展を例に引き、展覧会の企画から制作までのプロセスと展覧会制作のマネジメントを見る。	菊池　誠（元東京大学総合研究博物館客員教授）	同左
8	美術館を巡る危機と新しい動き	美術館の閉鎖、事業の縮小など危機が訪れているが、それを転機として、どのような新しい美術館のあり方があるかについて考える。	菊池　誠（元東京大学総合研究博物館客員教授）	同左
9	歴史的建造物を再生利用した大学博物館	東京大学総合研究博物館小石川分館を例にとり、歴史的建造物を博物館として新たに再生させた試み、またそこで行われている展覧会活動を紹介する。アーティストとミュージアム・スタッフ、ボランティアや学生まで含んだコラボレーションにも焦点をあてる。	菊池　誠（元東京大学総合研究博物館客員教授）	同左
10	市民参加をファシリテートする	可児市文化創造センターの建設における市民参加を具体的に振り返りつつ、公立文化施設の建設を市民とともにおこなうことの意味を考察する。ＮＰＯ論、市民参加論もここで扱う。古い施設を市民の力で復活させた事例として NPO 法人福井芸術・文化フォーラムも考察する。	清水　裕之（名古屋大学大学院教授）	同左
11	文化活動と地域コミュニティ	地域と文化活動とが連携してユニークなまちおこしを行っている事例を紹介し、文化活動と地域コミュニティの関わり、文化によるまちの活性化などについて論じる。 行政側からの町おこし、地域の組織からの町おこし、そして、アートＮＰＯ(都市型、事業体としてのアートＮＰＯ）のそれぞれの特徴を比較考察する。 岩手県湯田町銀河ホール、やまのて音楽祭、ＮＰＯ法人コンカリーニョ（札幌）、ＮＰＯ法人 Japan Contemporary Dance Network などを紹介する。	清水　裕之（名古屋大学大学院教授）	同左
12	美術館と地域コミュニティ	地域とアーティストや美術館が連携してユニークなまちおこしを行っている事例を紹介しながら、アートによる町の活性化などについて論じる。	菊池　誠（元東京大学総合研究博物館客員教授）	同左

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
13	国際交流とアーツマネージメント	海外との芸術文化交流をされている方をお招きして、その業務をアートマネージメントと言う観点から論じてもらう。 海外交流の理念と目的、意義 海外交流の手法（単独招聘、共同制作、合同制作、フェスティバルなど）	塩谷　陽子（ジャパン・ソサイエティー〔在ニューヨーク〕舞台公演部部長）	塩谷　陽子（ジャパン・ソサイエティー〔在ニューヨーク〕舞台公演部部長）
14	非営利投資とファンドレイジング	支援する側、支援される側 支援する立場から見たファンド・レイジングのキーポイントを説く。 非営利投資のリターンとは何かを考える。	加藤　種男（横浜市芸術文化振興財団専務理事）	加藤　種男（横浜市芸術文化振興財団専務理事）
15	文化政策の現状とこれから（国から地域から）	総括として、これまでの文化政策の流れを振り返り、地方分権時代の文化政策のあり方を示すとともに、官民市民協働の文化活動の要として公立文化施設のプラットフォーム機能の充実と、そのためのステップを考察する。	清水　裕之（名古屋大学大学院教授）	同左

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	専門科目	科目コード	1543300	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　企業統治と企業倫理（‘０７）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：　吉森　賢（放送大学教授）〕

講義概要

企業統治と企業倫理は続発する企業不祥事により日本において益々その重要性が強調されている。この講義は企業人あるいは企業に関心を有する受講生を対象とし、従業員が誇りとする企業、高い企業成果により他の利害関係者や株主が満足する企業を実現するために、企業統治と企業倫理が果す役割を究明する。米欧との比較により、日米英独仏の研究者とのインタビューにより、各国における企業統治と企業倫理の現状と問題点を理解し、その有効性を向上させるための諸改革の成果を分析、評価する。これにより日本企業が改善すべき問題は何かを明確にし、改善対策を考える手段を提供する。この講義は２００５年閉講した「日米欧の企業経営」を最新の状況に基づき、内容を更に発展させたものである。

授業の目標

この講義課目は現在または将来、日米欧において経営戦略、国際経営、法令順守・倫理規範の制度化、株主関係などを担当する社員、管理者を対象とする。また最高経営責任者や取締役会の補佐として、あるいは研究者として広い国際的視野により企業統治と企業倫理の現状とあるべき姿を設計するための実践的指針の提供を試みる。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	企業統治と企業倫理 －ヘンリー・フォードの光と影	世界最大の自動車企業を創業したヘンリー・フォードの成功要因を企業理念、企業倫理、企業戦略の視点から分析し、１９２７年GMとの競争に敗れた原因を企業統治と企業倫理により説明する。	吉森　賢（放送大学教授）	吉森　賢（放送大学教授）
2	企業統治と企業倫理 －その意義と変革	日米欧における２０００年以降に生じた重大な企業不祥事の原因分析により、企業統治と企業倫理が重視されるようになった背景を理解し、日米欧における問題解決の方向を概観する。	同上	同上
3	企業は誰のものか －日本・アメリカ・イギリス	日本の従業員至上主義および米英の株主至上主義のそれぞれの建前と実態を実例により検討する。アメリカでも従業員至上主義により高業績を誇る企業があることを実例により紹介する。	同上	同上
4	企業は誰のものか －ドイツ・フランス	ドイツ、フランス、日本は従業員の雇用と会社自体の繁栄を重視するが、アメリカ・イギリスの株主利益至上主義による挑戦を受けている。いずれが企業価値を向上するのかを考察する。	同上	同上
5	所有構造と法的形態 －企業統治との関連性	大企業の所有構造は一国の歴史を反映し、異なる。それが会社の法的形態と中心的利害関係者にどのような影響を及ぼしたか、について５か国の比較による理解する。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
6	取締役会改革 －アメリカ	サーベンス・オクスリー法に基づきアメリカの取締役会による企業統治有効性の改善成果とその限界を実証研究と研究者とのインタビューにより検証する。	同上	同上
7	取締役会改革 －イギリス	イギリスの取締役会改革の特質を概観し、アメリカとの相違を明確にし、それがドイツ、フランスに与えた影響を分析する。外取締役の独立性に関するヒッグス報告の意義を検討する。	同上	同上
8	取締役会改革 －ドイツ	ドイツの二層型取締役会と共同決定制度が企業統治の有効性に与える影響力を考察し、２００２年の「ドイツ企業統治規範」の実施状況とその有効性を評価する。	同上	同上
9	取締役会改革 －フランス	フランスの取締役会の固有性を単層型取締役会と二層型取締役会の選択性、最高経営責任者による取締役会会長職の兼務ないし分離の選択性と規定し、企業統治の有効性向上への影響を検証する。	同上	同上
10	取締役会改革 －日本	２００３年の商法改正による日本の取締役会改革の成果を検証すると同時に、その限界を指摘し、上記の米欧の改革の経験に照らして学ぶべき点と改善すべき点を提案する。	同上	同上
11	企業統治の効用 －有効性と経営成果	これまでの総括として、企業統治はどの程度その役割を果たすことができるのか、そして経営成果との間には関連性があるのか、という疑問について検討を加え、今後の課題を提示する。	同上	同上
12	内部統制制度 －目的と導入	企業統治の焦点は取締役会と同様に内部統制制度にも向けられつつある。その背景、目的、制度の内容そして実現の状況について概観し、今後の課題を展望する。	同上	同上
13	企業買収 －企業統治の視点	アメリカ的な企業買収が日本やドイツ、フランスにおいても増加しつつある。企業統治の視点から企業買収、特に敵対的買収が企業価値向上に果たす役割を考察する。	同上	同上
14	企業倫理 －その制度化	企業倫理の制度化は最高経営責任者の責任であるとの前提により倫理・行動規範の策定、企業倫理の担当部門の設置、教育と浸透、倫理監査、内部告発などに関する制度化の方法を提示する。	同上	同上
15	企業倫理 －実践と経営成果	企業倫理がどのように実践されているかをアメリカとドイツの企業の実例により示し、それが経営成果にどのような影響を与えるのかを理解し、魂のある企業とは何かを考える。	同上	同上

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	専門科目	科目コード	1541200	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 企業戦略と企業文化 （’０８）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：吉森　賢（放送大学教授）〕

講義概要

企業戦略は五つの経営者機能の中で長期的企業成果に重大な影響を及ぼす意思決定である。企業文化は企業理念と共に戦略の妥当性、策定と実施過程を決定付ける。この講義では経営環境の分析から、これに対応する事業領域の策定、企業活動の境界を決定する統合戦略、多角化、戦略提携、合併・買収、市場取引、グローバル戦略、そして企業文化と企業理念との関連を理解する。理解を容易にするため多くの日本および外国の事例、成功・失敗例を中心に説明する。この科目は開講中の「企業統治と企業倫理」(TV‘07)と関連性をもって設計されており、これにより経営者に要請されるすべての経営者機能の履修を完結する。

授業の目標

この科目は現在または将来、経営者の視点からグローバルな企業戦略の策定と実施、その推進母体としての企業文化と企業理念の形成と共有に活動に従事する経営者、管理者、戦略部門担当者、人的資源担当者、社員および研究者と社会人を対象とする。履修内容は企業戦略と企業文化における高度専門職業人のための実務上の指針として設計された。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	経営者機能	経営者機能における企業戦略と企業文化の意義と他の機能との関連性を理解する。長期的繁栄を実現してきた企業および破綻した企業の戦略と文化の共通性を解説する。	吉森　賢（放送大学教授）	吉森　賢（放送大学教授）
2	経営環境	企業戦略策定の第一歩は企業を取り巻く経営環境の分析と予測である。分析すべき環境要因を明らかにし、企業にとっての事業機会と脅威は何かを認識する技術を習得する。	同上	同上
3	事業領域	環境変化を事業機会に活用し、脅威を克服するために企業の人、物、金の現有資源の強み、弱みを把握し、特に中核技術を中心とする対応策を決定する過程を理解する。	同上	同上
4	垂直統合	最初に統合戦略の一般論を提示し、その諸形態を説明し、その一形態である垂直統合とそれから派生する上方統合と下方統合の戦略的利点とリスクを理解する。	同上	同上
5	準統合	準統合は日本の自動車、電気産業において多用される統合形態であり、垂直統合と市場取引の中間に位置する統合戦略である。その利点とリスクを理解する。	同上	同上
6	水平統合	水平統合は盛んになりつつある同業社間の合併、統合であり、これを規模の経済の実現、過剰設備の統合、廃棄そして敵対的買収に対する防衛対策などの視点から考察する。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
7	競争戦略	企業間の競争が生じる要因を新規参入、代替品の出現、売手と買手の交渉能力その他の視点から分析し、企業が策定すべき競争戦略を事例により説明する。	吉森 賢（放送大学教授）	吉森 賢（放送大学教授）
8	多角化	多角化戦略とは製品・事業の寿命と企業の寿命を絶縁することである。多角化を成功させる要因を現有中核技術その他の経営資源と新規分野との関連性の視点から考察する。	同上	同上
9	戦略提携	戦略提携は競合企業間の協力関係という特異な戦略である。国際的にも国内でも多く生じている。その形態を理解し、戦略的利点とリスクをトヨタとGMの戦略提携により分析する。	同上	同上
10	合併・買収	企業買収は他社の経営資源と市場地位を迅速に自社に取込む手段として多用される。しかしこれは多くのリスクを内包する。成功するための企業買収戦略の要因を理解する。	同上	同上
11	市場取引	OEM、ライセンス、フランチャイジング、アウトソーシング、生産委託など契約により事業機会を捉え、費用を低減する戦略についてその利点と限界を理解する。	同上	同上
12	グローバル戦略	グローバル戦略を輸出、OEM，国際ライセンス契約、合弁会社、子会社設立、現地企業買収などの視点からその選択基準とそれぞれの戦略的利点およびリスクを考察する。	同上	同上
13	企業文化と企業理念	企業文化と企業理念の関連性を明らかにし、企業文化を実例により説明する。官僚制化により危機的状況に至った企業の実例を通じて企業文化の重要性を理解する。	同上	同上
14	企業文化―策定と共有	環境変化と企業の大規模化により革新的企業文化にも風化が生じる。これに対応するため企業文化はいかに刷新され、組織内に浸透されるかを成功事例により理解する。	同上	同上
15	最高経営責任者	企業戦略と企業文化における最高経営責任者の役割を整理し、これまでに取り上げた企業の事例から何を学ぶかを最高経営責任者の視点から総括する。	同上	同上

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	専門科目	科目コード	1543407	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　NPOマネジメント（‘07）＝（R）

〔主任講師（現職名）：河合　明宣（放送大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：齋藤　正章（放送大学准教授）〕

講義概要

今日、今までにない速度で社会が変化し、明治近代国家誕生後に形成された既存のシステムでは対処できない様々な問題が生まれている。なかでも政府・自治体がこの変化に対応できず、公的サービスの提供に限界が見え、担い手の多様化が強く求められている。こうした中で地域社会における福祉施設の経営等のサービス供給、まちづくりや環境保全、国際協力等を進める民間非営利組織(NPO：Non-Profit Organization)の活動が活発に展開されてきている。こうした背景と組織経営の実態及び課題を理解する。

授業の目標

公的サービスの担い手として日々に重要性を増しているNPOの設立、経営、業績評価等について、具体例の紹介を通して説明する。住み易く豊かな地域社会が多数の住民の参加によって実現する道筋を考えてみたい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
1	民間非営利組織とは	わたし達の生活は、法律に基づいて国や自治体が実施する行政や司法の大きな枠組の中で営まれている。各世帯は町内会や自治会等の地縁組織を媒介して行政が提供する様々なサービスを受け取ってきている。一方、こうした既成の枠組に囚われずに、ボランティア活動や、市民（住民）活動を進める組織が誕生し、時には行政と連携し様々な活動を行い、その存在感が大きくなっている。こうした市民（住民）活動が生まれる背景を述べる。	河合　明宣（放送大学教授）	河合　明宣（放送大学教授）
2	法人格を取得した非営利組織の活動	わが国においてボランティア活動が育ってきた背景を社会福祉協議会との関連で説明する。次に、行政と連携した活動を行うNPO法人の事例として環境ネットワーク埼玉を取り上げ、事業内容や組織運営について述べる。	同上	同上
3	非営利組織のアカウンタビリティ	非営利組織が社会に広く受け容れられるには、その目的（活動理念）を明確にし、その活動の成果を開示する説明責任があると考えられる。また、非営利組織といえども必要経費をカバーする位の採算性が求められるであろう。 会計学のアプローチを用いて非営利組織の特徴をカネの面から明らかにしていく。	齋藤　正章（放送大学准教授）	齋藤　正章（放送大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	特定非営利活動法人の経営と事業評価(1)	特定非営利活動促進法(いわゆる NPO 法)に基づく狭義の NPO 法人の特徴を捉える。NPO 法が定める非営利の内容、NPO 法人の設立、組織構成、人材の確保等組織の経営や税法上の特色について述べる。また、認定 NPO 法人についても学ぶ。	齋藤 正章(放送大学准教授)	齋藤 正章(放送大学准教授)
5	特定非営利活動法人の経営と事業評価(2)	第4回の議論を受けて、内閣府国民生活局のデータ等を使いながら、経営内容の分析を行う。 また、申請受理数の推移、組織の規模、活動領域別法人数、活動内容、社員数の規模、及び情報公開の状況等の分析も併せて行う。	同上	同上
6	非営利組織支援のためのインフラ整備	NPO 支援のためのインフラ整備の概要を述べる。活動に資金を提供する助成団体として公益法人や NPO を支援する NPO の目的、運営、経営、財政等の要点を述べる。	同上	同上
7	まちづくり等地域に密着した活動	7回から 10 回までは、主たる活動分野別に具体例を通して、組織の経営、運営の課題を考える。身近な生活の場において NPO 法人が設立された背景、自治体や他の組織との連携等を見る。 7回では、景観の保全やまちづくり、地域の活性化等を主たる活動分野とする NPO を扱う。また、NPO と行政との連携を考える。	河合 明宣(放送大学教授)	河合 明宣(放送大学教授)
8	保健・医療・福祉の増進	社会教育の推進、子どもの健全育成や福祉施設等を経営するサービス供給型等の NPO について概略を述べる。 地域における生活支援活動に携わる福祉 NPO を取り上げ、理念、経営のあり方や課題について考察する。	同上	同上
9	環境の保全を図る NPO	環境の保全活動を行う二つの任意団体を紹介する。環境と調和した適正技術や社会技術の研究・普及等を主要活動分野とする NPO について経営の課題を探る。 地域の中小規模水道に対する水道技術サービス提供や運営支援を行う NPO を取り上げる。	同上	同上
10	国際協力	発展途上国を対象とした国際協力では、NGO(非政府組織)と呼ばれる民間非営利組織の活動がある。 農村貧困層の組織づくり、人づくりの観点からバングラデシュ、ネパールで活動している NGO・シャプラニール等を中心に、国際協力の分野での組織運営の課題を検討する。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
11	ボランティア・グループ、市民(住民)活動団体	11回から13回までは、NPO法により法人組織化されたものとは別の組織形態による非営利組織の特色を考える。 11回は、主に住民の日常生活の範囲で生活に根ざした活動を行う任意団体を取り上げる。佐渡において、トキとその生息地の保護活動を目的とするボランティア・グループについて、地域住民組織の特徴と意義を述べる。	河合　明宣(放送大学教授)	河合　明宣(放送大学教授)
12	公益法人の活動とその特徴	社団法人は、「一定の目的のもとに結合した人の集合体で団体としての意思、組織を持ち、社員と別個の社会的存在として団体の名において行動するもの」である。財団法人は、「一定の目的のもとに拠出され、結合されている財産の集まりで公益を目的に管理運営されるもの」である。日本山学会(自然保護委員会)と日本自然保護協会を事例として取り上げる。	同上	同上
13	生活協同組合	消費者が自らの生活向上を目指し、資金を出し合い生活物資の購買等の事業を運営する協同組合組織がある。これは1948年施行の消費生活協同組合法により設立された。地域生協と職域生協がある。協同組合組織の概略を述べ、生協の課題について検討する。	齋藤　正章(放送大学准教授)	齋藤　正章(放送大学准教授)
14	非営利組織の経営改革	任意団体であれ、法人格を取得した組織であれ、構成員が主体的に参加し、組織が目的としている活動を持続させるのは容易ではない。構成員が生き生きと活動し、組織が再生産されるために財政上の安定と魅力ある理念を掲げるリーダーシップが必要である 今日の非営利組織経営改革の課題について述べる。	同上	同上
15	民間非営利組織が目指すもの	日本の町内会や自治会等の既成の住民組織とか地縁組織でなく、非営利で社会貢献を目的とする新しい組織の凝集力や永続性は何に依存するのか。事例のまとめを通して非営利組織経営の課題を整理し、地域社会と国際社会の展望を考える。	河合　明宣(放送大学教授)	河合　明宣(放送大学教授)

＝　日本の製造業の新展開（‘０５）＝（Ｒ）

〔主任講師：　森谷　正規　（LCA大学院大学教授）〕
〔主任講師：　小田切　宏之（一橋大学大学院教授）〕

全体のねらい

日本の製造業は、第二次世界大戦後にまず生産技術力を向上し、次いで技術開発力を高めて大きく発展してきた。しかし、１９９０年代に入るころから、経済が不振を続けるのに伴って、多くの製造業がかつての強さを失っているように見える。それは、革新技術が生まれがたい技術状況とともに、中国、韓国などアジア諸国が工業国として力を強めてきていることが影響している。そこで、日本の製造業は、蓄積してきた技術力を活かして、新たな方向での展開を目指さねばならない。それがいかなる展開であるかを、産業ごとに歴史的な発展と現在の状況を踏まえて、国際的な視野から展望する。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	国際的な視野から見た日本の製造業の現状	経済不振による国内需要の減退、アジアの登場による輸出競争力の低下によって、多くの製造業が厳しい状況にある。しかし、日本企業の技術力は高いはずであり、それを活かした新たな発展が期待できる。いまの日本の製造業の全体について、国際的な競争に目を向け、各産業の特性の違いを考慮しながら現状を把握する。	森谷　正規（LCA大学院大学教授）	森谷　正規（LCA大学院大学教授）
2	サイエンスにもとづいた新産業の発展	科学研究の進歩による技術革新は、天文学の農業への応用、冶金学の金属生産への応用など、古くから行われてきたが、近年におけるエレクトロニクス、ナノテクノロジー、ライフサイエンスなどの急速な発展は、それらを応用した各種産業の爆発的な生成と拡大をもたらした。そうした「サイエンス型産業」の発展を概観し、知的財産権制度、産学連携、ベンチャー企業など、関連する諸問題を説く。	小田切　宏之（一橋大学大学院教授）	小田切　宏之（一橋大学大学院教授）
3	電子機器産業の世界市場形成と日本のアジア生産展開	世界の電子機器産業は、PC、携帯電話、デジタル家電などによって高い成長を示し、今後もブロードバンド、ユビキタス化でさらに成長していく。デジタル技術革新を背景とした製品多様化や市場構造変化の中で、日本企業は、標準化が支配した情報通信分野で競争力を低下させたが、デジタル家電の研究開発、積極的なアジア生産展開を図り、世界市場での復権を目指している。日本企業のアジア生産による競争力確保を中心としたグローバル展開を示す。	御手洗　久巳（野村総合研究所上席コンサルタント）	御手洗　久巳（野村総合研究所上席コンサルタント）
4	電子機器産業の競争力とアジアに対峙する日本の課題	80年代には圧倒的な国際競争力を誇った日本の電子機器産業も近年地盤沈下が著しい。電子機器産業における競争力要因（製品技術特性、生産・流通システム、経営意志決定システムなど）を分野毎に分析し、SCM、EMSなど新たなビジネスモデルの普及進展や韓国、中国などアジア新興勢力との競合関係を踏まえながら、トップマネジメントの役割、研究開発活動の振興、アジアとの国際分業化など、今後の日本企業の展開方向と課題を示す。	御手洗　久巳	御手洗　久巳

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	次世代技術で復権を目指す電子デバイス産業	DRAM で世界を制した日本の半導体は、90 年代に技術・製品開発や投資判断のミスが重なり国際競争力を低下させたが、DRAM 偏重から脱し、新ビジネスモデルやアライアンスを軸に、デジタル家電に必要なシステム LSI で競争力を確保しつつある。液晶でも競争力が低下し、生産のアジア移管が進んでいる。世界の半導体、液晶産業の需給構造や業界構造の変化、次世代技術開発に向けた国家プロジェクトなどから日本の電子デバイス産業の発展方向と課題を示す。	御手洗　久巳	御手洗　久巳
6	バイオテクノロジー関連産業の展開	この産業は、発酵技術を用いたみそ・醤油醸造の伝統的産業から、高度な機械設備とコンピュータを駆使した遺伝子やタンパク質解析に基づく医薬開発まで、広範にわたっている。このため、食品、医薬品、機械メーカーからソフトウェア会社、総合商社まで、幅広い企業が単独で、あるいは提携しながら事業展開している。こうしたバイオテクノロジー関連産業について、その現状と問題点を概説する。	小田切　宏之	小田切　宏之
7	国際的研究開発競争の中での日本の医薬品産業	研究開発費の売上高に占める比率は、製造業全体では４％未満だが、医薬品産業は８％を超えていて、飛び抜けて研究開発集約的な産業である。しかも新薬の製品化には膨大な費用の臨床試験が必要で、逆に製造費用は比較的小さく、安全性確認のための事後調査が欠かせないなど、特異な産業である。その医薬品産業の特性を概説し、バイオテクノロジー技術の発展や国際競争の激化が日本の医薬品産業をどのように変えてきたかを示す。	同　上	同　上
8	物づくりの競争力は揺るがない自動車産業	日本の産業の競争力が低迷している中で、自動車産業の競争力は健在である。なぜ自動車は強かったのか。その鍵は、組織能力と設計思想（アーキテクチャ）にある。日本企業はものづくりの組織能力に関して絶えず切磋琢磨する「能力構築競争」を続けたこと、また自動車という製品の設計思想が日本企業の得意とする「擦り合わせ型」であったことが、日本企業の強さが続いた理由である。	藤本　隆宏（東京大学大学院教授）	藤本　隆宏（東京大学大学院教授）
9	自動車産業の将来、進化か革命か	２１世紀の前半に、自動車産業はどのように変化するのだろうか。組織能力の累積的な進化が続くのか。あるいは、これまで蓄積した組織能力が通用しなくなるような革命的な変化が来るのだろうか。エンジン等の製品技術、設計思想、生産システムなどに関して将来を展望する。しばらくは累積進化の時代が続くと予想し、その中で「バランス」の良い企業を目指すことの重要性を指摘する。	同　上	同　上
10	トップの座を守る工作機械産業	工作機械産業は２０年連続で世界一の座を維持し、工作機械大国としての確固たる地位を築いている。しかし、近年はドイツ勢が日本が得意とする汎用機市場に攻勢をかけており、アジアではコスト競争力のある台湾、中国メーカーが低級機市場を押さえにかかっている。ＩＴを活かしたソリューションビジネスに力を入れる日本メーカーの動向とマザーマシンの将来展望を描く	吉本　陽子（ＵＦＪ総合研究所主任研究員）	吉本　陽子（ＵＦＪ総合研究所主任研究員）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
11	総合力を活かす半導体製造装置産業	半導体製造装置は光学、物理、化学、機械、電気、材料、ＩＴなどの総合技術の塊であり、８０年代には半導体産業の発展に伴い、装置産業も特定分野では独占的な地位を占めるに至った。９０年代に入ってからは、モジュール化への対応が後手に回り国際競争力の低下が懸念されているが、産学官連携によるイノベーションや要素技術を活かした発展が期待されている。	吉本　陽子	吉本　陽子
12	多様に展開するする大型機械システム産業	総合力を持つ大型機械システム産業は、量産製品産業に代わって日本の技術の強さを示しうる有力な分野である。造船は再編成で競争力を確保し、航空機ではいよいよ小型ジェット機の開発に取り組む。宇宙開発でも、ロケットで国際市場に乗り出していく。エネルギーの分野においてもさまざまな新技術を開発して実用化に進んでいる。	森谷　正規	森谷　正規
13	社会からの要請に応える社会機器システム産業	環境破壊、廃棄物処理、防災、介護などの社会問題が激しくなっていて、各産業における機械・システムの創出によって対応することが求められている。その市場は非常に多様であり、新たな有力な産業分野になってきている。もっとも、市場の形成がスムーズにいかない場合も多く、企業は技術開発に努力しながら、政策などによる市場の拡大に期待をかけている。	同　上	同　上
14	再編成で競争力を高める鉄鋼産業	鉄鋼産業は、技術力は世界で最高水準にあるが、世界的に供給過剰の状況であり、国際的な競争が激烈で、経営は厳しい。そこで、５大企業は大きな再編成に進んだが、それがどのような成果を上げ、競争力を強め得るか。これからアジア諸国との競合および提携の関係が複雑に展開していくと予想されるが、そうした国際的な状況を踏まえて将来を見通す。	同　上	同　上
15	日本の製造業の新たな発展	２０世紀の後半に、日本の製造業は大きく発展したが、日本をめぐる環境が大きく変わる２１世紀には、製造業も大きな改革に進まねばならない。それは、より高級な高度な製品を目指す、核となる部品や材料に力を注ぐ、社会に新たな市場を創っていく、国際的な連携を深めていくなどであり、日本の製造業が進んでいく新たな方向を示す。	同　上	同　上

＝ ベンチャー企業論（‘０５）＝（Ｒ）

〔主任講師：柳　孝一（早稲田大学ビジネススクール教授）〕
〔主任講師：長谷川博和（グローバルベンチャーキャピタル株式会社社長）〕

全体のねらい

２１世紀はベンチャー企業の時代であると期待されている。ベンチャー企業とは何かから始まり、ベンチャー企業の現状を日米の比較をしながら明らかにする。さらにベンチャー企業を支援するベンチャーキャピタル等についてもふれながら、ベンチャー企業について体系的な理論、知識、見識を身に付けてもらうことがねらいである。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	ベンチャー企業の時代へ	ベンチャー企業の定義を示し、中小企業との違いを明らかにする。産業構造が大変革する中でなぜベンチャー企業が注目されるのかを明らかにする。さらに既存の大企業や中小企業が、新規事業への多角化のために起こす、企業革新型ベンチャーについても言及する。	柳　孝一（早稲田大学ビジネススクール教授）	柳　孝一（早稲田大学ビジネススクール教授）
2	日本のベンチャー企業の歴史	戦後生まれたソニーや本田技研もベンチャー企業から出発した。今まで日本では、3 回のベンチャーブームがあった。今回は 95 年に制定された「中小企業創造法」が契機となっている。今までの歴史をふりかえりながら、今後の展開方向を探りたい。99 年の中小企業基本法の改正後の状況についても言及する。	柳　孝一	柳　孝一
3	ベンチャー企業経営論（Ⅰ）（構造的アプローチ）	ベンチャー企業は、新規事業への挑戦を行うためリスクが高い。リスクを下げるためには成功したケースから、体系化された経営理論を構築し、それを学ぶ必要がある。まず成功時点に立って、当該企業の主要成功要因を抽出し一般化して「四面体理論」を形成した。	柳　孝一	柳　孝一
4	ベンチャー企業経営論（Ⅱ）（成長ステージ別アプローチ）	ベンチャー企業は、昆虫の“変態”に例えられるほど、成長ステージごとにマネジメントを変革する必要がある。成長ステージ別に変革するには、経営要素の内容を変えると共にウエイトも変化させなければならない。その変革の力は、経営資源の自己回転力による。また「矛盾のマネジメント」のエネルギーによる“変態”について明らかにする。	柳　孝一	柳　孝一
5	アメリカのベンチャー企業の歴史・活躍の現状	第二次大戦後、米国に輩出したベンチャー企業の代表例を紹介しながら、ベンチャー企業の活躍の歴史を西海岸、東海岸の違いを中心に述べる。また、米国でベンチャー企業の産業に与えた役割の大きさについても分析する。	長谷川　博和（グローバルベンチャーキャピタル株式会社　社長）	長谷川　博和（グローバルベンチャーキャピタル株式会社　社長）
6	アメリカのベンチャーキャピタル	ベンチャー企業の発展を支えたベンチャーキャピタルの歴史、仕組みとともに、ベンチャーキャピタル業界のパフォーマンスについても説明する。	長谷川　博和	長谷川　博和

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
7	日本のベンチャーキャピタル	日本のベンチャーキャピタルの歴史を振り返るとともに、現状の業界の動向、特徴について概観する。また、独立系VCの設立やコンサルティング型VCなど、最近の新しい変化についても述べる。	長谷川　博和	長谷川　博和
8	技術開発型ベンチャー企業の成長の壁と克服策	最近増加している技術開発型ベンチャー企業は従来型のベンチャー企業と事業構造や成長の仕組みが大きく異なり，また、このようなハイテク企業を支援する戦略・方法も従来より進化したものである。技術開発型ベンチャー企業の成長過程での３つの障壁（魔の川、死の谷、ダーウィンの海）とその回壁策について述べる。	長谷川　博和	長谷川　博和
9	ベンチャー企業の現状	ベンチャー企業が期待されるにしたがって、多くのベンチャー企業が生み出されてくる。全体として、どのような事業や業種、業態が多いのか。又支援制度との関係や問題点なども明らかにしたい。またインターネット関連等最先端の働きも紹介してみたい。最近の大学発ベンチャーの動向なども紹介したい。	柳　孝一	柳　孝一
10	ベンチャー企業の経営者	ベンチャー企業の成功要因で最も重要なことは、起業家の能力、すなわち「起業力」ということになる。ここでは、ベンチャー企業で成功した経営者の能力を分析し、これからの起業家に役立つ内容としたい。起業力を身につけるにはどうするかについても含めたい。「起業力」をアンケート調査により検証した内容を明らかにする。	柳　孝一	柳　孝一
11	ベンチャー企業と株式公開	ベンチャー企業にとっての株式公開の意味を考える。株式公開市場の新設と（ナスダックジャパンの）撤退、株式公開後の株価低迷・業績の低迷などを触れながら、株式公開の光と影について考える。	長谷川　博和	長谷川　博和
12	ベンチャー支援策・制度	ベンチャー企業の成長を支援する政策・制度が充実してきている。昨今増加する公的支援制度の概要、産学官連携体制の充実、大学発ベンチャー１０００社構想、エンジェルの役割などについても紹介したい。	長谷川　博和	長谷川　博和
13	日本のベンチャー企業のケーススタディ	最近注目されているベンチャー企業について業種等を考えながら４社ほど取り上げ、ケーススタディを行う。起業の動機、成功要因、起業力の自己評価、経営的な危機、支援制度の活用等について明らかにし、成功要因、課題などを深く分析する。	柳　孝一	柳　孝一
14	アメリカ企業のケーススタディ	米国で活躍しているベンチャー企業として、デル、アマゾンドットコム、グーグルなどをとりあげ、その起業から公開までの推移、成長の要因などを分析する。	長谷川　博和	長谷川　博和
15	ベンチャー企業の将来	21世紀の日本経済の突破口は、相変わらず見えていない。突破口のひとつがベンチャー企業の輩出である。政府、地方自治体、大学、民間等の支援制度も整って来た。大企業の人員削減から起業家になる人や、大学生の意識も変わって来ている。現在の課題と将来への展望を述べる。	柳　孝一	柳　孝一 長谷川　博和

＝　アグリビジネスと農業・農村（‘０６）＝（Ｒ）

―多様な生活への貢献―

〔主任講師（現職名）：稲本　志良（龍谷大学教授）　〕
〔主任講師（現職名）：桂　　瑛一（信州大学名誉教授）〕
〔主任講師（現職名）：河合　明宣（放送大学教授）　〕

全体のねらい

一方で経済のグローバル化、他方で食料消費の多様化・高度化、新しいライフスタイルへの期待を背景として、様々な観点からアグリビジネスの重要性が増大している。そのアグリビジネスは、農業、資材産業、食品加工業、流通業、外食産業などの各種の生産及びサービス産業を包摂し、それらは相互の連関を密接にしている。

また、豊かな食生活や心の豊かさを育むグリーンライフにも貢献するアグリビジネスは、農業を核とした展開が求められている。しかし、そのために解決すべき課題も少なくない。

本講義は、以上の諸点を体系的に述べることを内容とするが、アグリビジネスを構成する個々の産業の実体、なかでも農村の実体にも立ち入り、生活実感にも結びつくよう配慮するとともに、国際的な視点も交えて論じることを狙いとしている。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	現代のアグリビジネスを考える	現代社会における食生活は多くの産業によって支えられており、それらをアグリビジネスという総体として捉えることが重要になっている。この間、アグリビジネスは、それを構成する国内産業の発展とそれらの間の連関を深め、国際的次元では競争と連携を強めてきている。また、アグリビジネスにおける農業・農村の役割に注目することが重要になってきている。これらのことに注目して、消費者の安心・安全で多様な食生活を持続的に実現していくという観点から基本的問題を取り上げて解説する。	稲本　志良（龍谷大学教授）	稲本　志良（龍谷大学教授）
2	統計でみるアグリビジネスの世界	先ず、広範な産業領域を含むアグリビジネスの世界を統計によって把握する方法について概説する。その上で、アグリビジネスを川上（農業資材産業）、川中（農業）、川下（農産物及び食品の通・加工、外食産業）の流れに沿って把握し、実際の公表統計から得られる具体的な統計数値・指標を基にアグリビジネスにおける産業の有り様と連関とを経済計算に着目しつつ概観する。	小田　滋晃（京都大学教授）	小田　滋晃（京都大学教授）
3	アグリビジネスのなかの農業	アグリビジネスのなかで、農業はどのような産業的特質を有し、川上・川下産業とどのような産業的連関をもって展開しているか、更に、農業はそのなかでどのような役割を担っているか。また、アグリビジネスのなかで農業が有するこれらの産業的特質、産業的連関、産業的役割は時代とともにどのように変化してきているのだろうか。これらのことについて現実を示しながら概説する。	稲本　志良（龍谷大学教授）	稲本　志良（龍谷大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	技術革新と新しい農業の展開	品種、栽培・飼養技術、肥料・機械施設などの開発・改良といった技術革新は、農業の発展にとって最も重要な要因の１つである。その技術革新は、公的機関、農業者自身、川上・川下産業による技術開発など、多様な形態で行われている。このような技術革新が契機になって、多様な方向の新しい農業が展開している。これらの諸点について具体的事例に注目しながら概説する。	稲本　志良（龍谷大学教授）	稲本　志良（龍谷大学教授）
5	多角化と新しい農業の展開	農産物の生産を中心に農業経営を行ってきた農家は、近年になって、農産物の生産だけでなく、加工、直売、農家レストラン・民宿など、事業の多角化を進めている。また、このような事業の多角化は、大規模な共同農業法人が登場し、これらと食品加工産業、食品流通産業、外食産業との連携が契機になって進められている。これらの点について具体的事例に注目しながら概説する。	稲本　志良（龍谷大学教授）	稲本　志良（龍谷大学教授）
6	多様な新規参入と新しい農業の展開	従来、農家においては、その長子による経営継承が一般的であった。しかし、近年、農家における非長子子弟、子女による経営継承、非農家子弟の農業参入による農業経営の創設、大規模な共同農業法人における雇用という形態での農業参入などの新規参入も進んでおり、新しい農業の展開がみられる。これらの点について具体的事例に注目しながら概説する。	稲本　志良（龍谷大学教授）	稲本　志良（龍谷大学教授）
7	グリーン・ツーリズムと農村振興	グリーン・ツーリズムを楽しむ人にモノやサービスを供給するのがアグリビジネスとしてのグリーン・ツーリズムである。農村の文化や自然に触れ、心豊かなものを育もうとする気運の高まりを背景に台頭してきた。ここでは、グリーン・ツーリズムとは何であるかを考え、わが国におけるグリーン・ツーリズムの動向を概観し、農村振興に貢献するグリーン・ツーリズムのあり方について検討を加える。	桂　瑛一（信州大学名誉教授）	桂　瑛一（信州大学名誉教授）
8	アグリビジネスのなかの農協	農協は、農業者の共同経済活動の事業体であり、農業者の競争力を強化し、取引相手と対等に取引することを可能にし、必要に応じて経済活動を垂直的に統合することを目的とする。農業者自らが出資し、経営する仕組みになっており、一般企業とは相対的に異質の機能を発揮する存在である。農協の歴史と現状を概観し、農協の特質や直面する問題点、今後の方向について概説する。	桂　瑛一（信州大学名誉教授）	桂　瑛一（信州大学名誉教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
9	産地のマーケティングと消費者	消費者のニーズに応え、高い評価を得るために、農業者が個別または共同で営む活動が産地のマーケティングである。マーケティングを適切に行うには、ニーズを正しく把握するだけでなく、産地の情報を消費者に的確に伝えることが重要である。産地マーケティングの現状を検討し、産地マーケティングの特質と戦略課題を明らかにするとともに、産地と消費者の利害関係について解説する。	桂　瑛一(信州大学名誉教授)	桂　瑛一(信州大学名誉教授)
10	食品流通業の発展と取引活動	食品流通業は、卸売業と小売業に大別され、両者は取引関係を形成している。流通業は、生産者、消費者とも取引で結ばれており、取引活動を通して食品を流通させることに貢献している。ここでは、食品流通において流通の段階が果たしている役割を明らかにし、小売業者と卸売業者の取引活動の現状と特質ならびに今後の課題について述べる。	桂　瑛一(信州大学名誉教授)	桂　瑛一(信州大学名誉教授)
11	食品製造業の発展と食品の多様化	食品製造業は、品目により大企業寡占と多数小企業の原子的な競争構造にわかれ、技術の状態も異なる。そして、各部門間の結びつきも多様である。このような産業組織下での、製品の多様化や高付加価値化、衛生・安全性などの品質問題、原料生産者との取引関係、さらに輸入原料への依存構造について述べる。	新山　陽子(京都大学教授) 清原　昭子(中国学園大学講師)	新山　陽子(京都大学教授)
12	外食産業の発展と食生活の変貌	一大産業となった外食産業には、個人経営による食堂・喫茶店のような小規模な飲食店と、ファストフード、ファミリーレストランチェーンにみられるような国内外の大規模資本とそのノウハウによって発展したチェーン店がある。近年は弁当・惣菜業に代表される中食部門の伸長が著しい。このような部門や業態の拡大と食生活の変化、食材の調達にみる農業とのつながりについて述べる。	清原　昭子(中国学園大学講師) 新山　陽子(京都大学教授)	清原　昭子(中国学園大学講師)
13	食の安全とフードシステム	現代社会では、病原性微生物による食中毒、人畜共通感染症、化学物質による食品汚染など、食品由来の人間の健康へのリスクが著しく高くなっており、農場から食卓までの一貫した食の安全確保システムの構築が求められている。そうしたリスクへの対処の考え方や必要なシステムについて説明する。	新山　陽子(京都大学教授) 清原　昭子(中国学園大学講師)	新山　陽子(京都大学教授
14	アグリビジネスの展開と国際化―欧米諸国の場合―	わが国のアグリビジネスが発展する過程で、欧米諸国のアグリビジネス、特に多国籍企業との間で、一方では競争関係の激化、他方では業務の連携関係の強化が進んでいる。こうした欧米諸国におけるアグリビジネスの動向と特質について述べる。	河合　明宣(放送大学教授)	河合　明宣(放送大学教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
15	アグリビジネスの展開と国際化ーアジア諸国の場合ー	わが国のアグリビジネスが発展する過程で、アジア諸国への食品産業の工場進出が活発に展開しており、現地諸国の農業や食品産業との競争や連携が強まっている。こうしたアジア諸国におけるアグリビジネスの動向と特質について述べる。	河合　明宣（放送大学教授）	河合　明宣（放送大学教授）

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	専門科目	科目コード	1548808	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　社会技術概論（‘07）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：小林　信一（筑波大学大学院教授）〕
〔主任講師（現職名）：小林　傳司（大阪大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：藤垣　裕子（東京大学大学院准教授）〕

講義概要

科学技術は、真理の探究や新技術の開発など、社会とはあまり関係のない活動のように思われがちである。だが、今日の高度に発展した科学技術は社会に多大な影響を及ぼしている。今後は、科学技術と人間生活が調和しつつ、ともに発展していく必要がある。本講義では、真理探究ための科学技術や産業のための科学技術とは異なる「社会の中の科学技術、社会のための科学技術」という観点から、科学技術と社会の相互関係について考える。

授業の目標

いくつかの事例や歴史の理解を通じて「社会のための科学技術」の考え方を学ぶとともに、科学技術コミュニケーション、科学技術リテラシー、科学技術と市民参加、科学技術と倫理などの横軸となる視点を理解する。また、これらの基盤となる理論側面についても理解を促す。これらのテーマを通じて、社会技術の基本的事項について理解することを目標とする。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	社会の中の科学技術、社会のための科学技術	科学技術は人々に利便性をもたらすと同時に、生活や環境に悪影響を及ぼす可能性もある。また、社会的問題の解決に科学技術の貢献が求められる場合も少なくない。ここに「社会の中の科学技術、社会のための科学技術」が登場する。	小林信一（筑波大学大学院教授）	小林信一（筑波大学大学院教授）
2	BSEの経験	科学技術と社会の相互関係の事例として、1990年代にイギリスで発生したBSE問題を取り上げる。BSE問題において科学者・行政はどのような役割を演じたのであろうか。また、その後、日本で発生したBSEについての対応にも触れることにする。	小林傳司（大阪大学教授）	小林傳司（大阪大学教授）
3	安全な社会をデザインする	人々が安全に生活する上で、食品、医薬品、化学物質の安全、交通安全、災害対策、感染症対策など多様な安全対策のためのシステムが必要である。これらのシステムを構築するために科学技術はどのような形で貢献しているのだろうか。	小林信一（筑波大学大学院教授）	小林信一（筑波大学大学院教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	先端科学技術と社会	先端的な科学技術は、ときとして人々の価値観とのあいだで葛藤を引き起こす。ナノテク、バイオ、脳科学、ユビキタス技術などの分野で危惧されていることは何か。それらの問題に対して科学技術自身、社会はいかに対処すべきか。遺伝子組換え食品、ナノテクノロジーを例に考える。	小林信一(筑波大学大学院教授)	小林信一(筑波大学大学院教授)
5	社会のための科学技術−その歴史	冷戦の終焉により、社会における科学技術の位置づけは大きく変わった。1999年の世界科学会議では科学技術者自身が「社会の中の／社会のための科学」を提唱するにいたった。社会技術の考え方を歴史的に捉える。	小林信一(筑波大学大学院教授)	小林信一(筑波大学大学院教授)
6	科学技術と社会のコミュニケーションをデザインする	科学技術は高度な研究活動であるが、同時に多くの人々の生活に大きな影響を与える。専門家は社会とどのようなコミュニケーションを図っていくべきであろうか。日本で始まったいくつかの取り組みを具体的に紹介する。	小林傳司(大阪大学教授)	小林傳司(大阪大学教授)
7	これからの科学技術リテラシー	科学技術が生活に浸透した社会で一般市民にはどのような科学技術リテラシーが求められるだろうか。それは従来のリテラシー観とどこが異なるのか。これからの科学技術リテラシーを考えることは、どのような市民社会を標榜するかということと強い関係があることも含めて考える。	小川正賢(神戸大学教授)	小川正賢(神戸大学教授)
8	科学技術と市民参加	科学技術が社会で利用される際に、市民はどのような関わり方をすべきであろうか。日本で行われたコンセンサス会議や市民と専門家の間のさまざまな対話の試みを紹介し、その現状と課題を考える。	小林傳司(大阪大学教授)	小林傳司(大阪大学教授)
9	科学技術と民主主義	科学および技術と民主主義がそもそもどのような関係にあるのかを理論的に考えてみる。さまざまな利害関係者によって構築される「公共空間」の考え方を示し、第8回の授業で扱った「市民参加」の意味をもう一度とらえ直す。	藤垣裕子(東京大学大学院准教授)	藤垣裕子(東京大学大学院准教授)
10	知識・権力・政治	科学者にとっても解明途中であり、科学者にも長期影響が予測できないようなグレーゾーンで、何らかの公共的意思決定を行う必要がでてきている。知識が権力として作用することの意味、知識政治学について概説する。	藤垣裕子(東京大学大学院准教授)	藤垣裕子(東京大学大学院准教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
11	社会に役立つ知識とは	グレーゾーンにおける社会の意思決定において役立つ知識とは、どのようなものなのか。モード論、社会的に頑強な知識、サービス科学、規制科学、といったいくつかの概念を紹介しながら考え、これら知識のもつ責任についても考察する。	藤垣裕子(東京大学大学院准教授)	藤垣裕子(東京大学大学院准教授)
12	科学技術と公共政策	社会技術と政策との関係について検討する。社会技術の実現のためには、従来の科学技術振興政策とは別に、「政策のための科学技術」の振興や「社会の中の／社会のための科学技術」そのものの振興が必要になってくる。	小林信一(筑波大学大学院教授)	小林信一(筑波大学大学院教授)
13	海外の社会技術	「社会の中の／社会のための科学技術」を指向したさまざまな活動が世界中で展開されている。それらを紹介しながら、「社会の中の／社会のための科学技術」の意味を再評価する。	藤垣裕子(東京大学大学院准教授)	藤垣裕子(東京大学大学院准教授)
14	科学技術と倫理の新次元	科学技術の発展と人々の価値観や倫理観とのあいだの葛藤は科学技術の発展に抑制的に働くこともあれば、新しい倫理観の構築が必要になる場合もある。科学技術と社会の調整過程に出現する新しいタイプの倫理問題とその実現のための方策について考える。	小林信一(筑波大学大学院教授)	小林信一(筑波大学大学院教授)
15	社会技術のこれから	これまでに紹介されなかった論点について概観するほか、「科学技術は誰のものか」「誰が専門家か」といった、社会技術が既存の科学技術活動、社会経済活動に投げかける問題について総合的に論ずる。あわせて残された課題を指摘する。	小林信一(筑波大学大学院教授)	小林信一(筑波大学大学院教授)

＝　エネルギー工学と社会（‘０６）　＝（TV）

〔主任講師（現職名）：内山　洋司（筑波大学大学院教授）〕

全体のねらい

産業活動と人々の生活を支えているエネルギー。私たちは、普段、エネルギーを空気や水のように無意識に使っている。世界のエネルギー消費は20世紀に入って急増し、過去100年間で15倍以上にまで増大している。そのエネルギーの大半は化石燃料で供給されており、燃料価格の高騰や将来の資源枯渇、それに燃焼による大気汚染や地球温暖化が懸念されている。増加の勢いが止まらない経済発展と世界人口、21世紀の世界が持続可能な発展を遂げていくには、原子力や再生可能エネルギーといった代替エネルギーの開発、それにエネルギーの供給と消費において無駄のない工夫が求められている。本講義は、エネルギーに関心のある人々を対象にエネルギー工学の立場から社会のエネルギー問題について理解を深めてもらうことを目的としている。

Ⅰ．総論

第１章　人類とエネルギー

Ⅱ．エネルギー需要

第２章　社会のエネルギー消費

第３章　エネルギー消費構造と省エネルギー

Ⅲ．エネルギー供給

Ⅲ－１　供給の要件と変換理論

第４章　エネルギー供給の基本要件

第５章　エネルギー変換と熱力学

Ⅲ－２　資源と技術・システム

第６章　資源分類と化石燃料資源

第７章　化石燃料の特性と転換技術

第８章　核燃料と原子力発電

第９章　核燃料サイクルと放射線

第10章　再生可能エネルギーと発電技術

第11章　エネルギーの輸送と貯蔵

第12章　新エネルギーと分散型技術

第13章　エネルギーシステムの総合的分析

Ⅳ．エネルギー問題と将来展望

第14章　地球環境問題と温暖化対策

第15章　エネルギーと持続可能な発展

回	テーマ	内容	執筆担当講師名 （所属・職名）	放送担当講師名 （所属・職名）
1	人類と エネルギー	エネルギーは、社会の産業活動と人々の生活に不可欠となっている。産業革命以降の経済発展はエネルギーの大量消費に依存している。人類はその長い歴史の中で、エネルギーをどのように利用して社会を発展してきたか、エネルギーの歴史について述べる。また増加し続けるエネルギー消費によって現代社会が直面しているトリレンマ問題について解説する。	内山　洋司 （筑波大学大学院教授）	内山　洋司 （筑波大学大学院教授）
2	社会の エネルギー消費	エネルギーは現代社会の物質的豊かさと快適さを維持する源となっている。機械化、自動化、情報化など省力化が進む工場や事務所、車、ジェット機など高速化が進む輸送機関、冷蔵庫、エアコン、テレビなど電気製品の普及・・・。現代社会の発展のほとんどが、エネルギーに依存している。今日の経済活動は、こういった技術や製品の進歩によって営まれており、経済の発展は社会のエネルギー消費の増大につながっている。私たちの身近な生活で使われているエネルギーと、わが国のエネルギー消費の実態について説明する。	同上	同上
3	エネルギー消費構造と省エネルギー	第２回目の講義に引き続き、わが国のエネルギー消費構造を産業、民生、運輸の各部門について詳しく説明する。エネルギーの無駄を少なくしていくためには、省エネルギー型の社会基盤施設の整備、高効率機器の普及、そして人々のライフスタイル変化が必要になる。また、産業、運輸、民生の各部門における省エネルギー対策と実現の可能性について解説する。	同上	同上
4	エネルギー供給の基本要件	エネルギー資源には化石燃料、核燃料、再生可能エネルギーがある。それらを使って社会に安心できるエネルギーを供給していくためには、資源の採掘、輸送、貯蔵、変換、利用、さらに廃棄物処理などの工程で安全かつ効率的な技術を開発していかなければならない。ここでは、各種エネルギー資源についてエネルギーの基本要件からそれぞれの特徴を解説する。	同上	同上

5	エネルギー変換と熱力学	エネルギー資源は、熱、動力、電気など二次エネルギーに変換され利用されている。社会で利用されている動力機械の多くは熱機関である。ここでは、エネルギー変換の基礎的な物理法則と熱力学を学び、各種熱機関の熱サイクルと熱効率の求め方を理解する。	同上	同上
6	資源分類と化石燃料資源	エネルギーは資源面から化石燃料、核燃料、再生可能エネルギーに大別できる。化石燃料と核燃料は枯渇性資源であるが、再生可能エネルギーは非枯渇性資源である。エネルギー資源の中で、化石燃料は現在、主要なエネルギー供給源となっており、その資源の分布や埋蔵量、あるいは可採年数などを理解することが大切である。ここでは、エネルギー資源の分類方法を説明するとともに、枯渇性資源である化石燃料の埋蔵量と枯渇問題について解説する。年々増加し続けている世界のエネルギー消費。また、石油、天然ガス、石炭について世界の消費、生産、貿易の現状を理解する。	同上	同上
7	化石燃料の特性と転換技術	世界のエネルギー消費の約９割は化石燃料である石炭、石油、天然ガスによって供給されている。化石燃料は、今後とも社会の主要燃料として位置づけられている。ここでは、化石燃料の変換・転換技術について、技術の特徴と開発動向を説明する。また、脱硫、脱硝など環境対策技術について解説し、エネルギー効率の向上を図る具体的な技術開発について展望する。	同上	同上
8	核燃料と原子力発電	原子力発電はわが国の電力量の約３割を供給する主要な電源である。ここでは、最初に核燃料の特徴と資源量を説明する。次に、核分裂の簡単な基本原理を学び、軽水炉発電技術とその安全対策について説明する。また、将来の原子力技術として期待されている高速増殖炉と核融合炉を紹介する。	同上	同上
9	核燃料サイクルと放射線	天然ウランの99.3%を占めるウラン(238)を有効に使っていくためにはプルトニウムの利用が不可欠となる。ここではプルトニウムを有効に使う核燃料サイクルの仕組みと開発動向について解説す	同上	同上

		る。また、使用済燃料に含まれている放射性物質から放出される放射線とその取り扱い方法についても解説する。		
10	再生可能エネルギーと発電技術	地球に降り注ぐ太陽エネルギーの量は、世界が消費しているエネルギー消費量の約１万倍にもなる。太陽エネルギーは、水力、風力、太陽光などの形でエネルギー源として利用されているが、その利用量はまだわずかである。環境問題から太陽光、風力、水力、地熱、バイオマスなど再生可能エネルギーの利用に関心が高まっている。ここでは、再生可能エネルギーの発電技術について、技術特性と開発状況、それに普及方策と将来の展望を解説する。	同上	同上
11	エネルギーの輸送と貯蔵	石炭、石油、ガス、電気、熱といったエネルギーについて輸送と貯蔵の役割を考えてみる。石油、天然ガス、石炭といった化石燃料、および電力の輸送について説明する。電力貯蔵については、揚水発電、圧縮空気貯蔵、蓄電池、フライホイール、超電導の特徴と開発動向を紹介し、貯蔵効率や経済性について解説する。	同上	同上
12	新エネルギーと分散型技術	新エネルギーは環境面にすぐれたエネルギーとしてその導入が期待されている。その多くは分散型技術であり、エネルギーを消費している地域に大量に普及されれば新産業を創出することにもなる。ここでは新エネルギーと分散型技術についてその種類と特徴を紹介し、どのような導入方法が望ましいかについて解説する。	同上	同上
13	エネルギーシステムの総合的分析	エネルギーは、資源の採掘、精製、輸送、貯蔵、利用、廃棄物の処理処分など一連のシステムから成り立っている。安心できる社会を築いていくためには、エネルギーシステムを効率性、環境性、経済性などから総合的に評価していく必要がある。ここでは、エネルギーシステムの総合評価手法であるエネルギー収支、ライフサイクル評価、産業連関分析法、経済評価法について解説し、それぞれのエネルギーシステムの課題がどこにあるあるのかを理解する。	同上	同上

14	地球環境問題と温暖化対策	化石燃料の大量消費によって二酸化炭素の排出量が増大し、地球温暖化が問題となっている。ここでは、地球温暖化のメカニズム、温室効果ガスと発生源、気候変動の影響、対策方法について解説する。また、地球温暖化問題の経緯と防止に向けて制定された京都議定書と京都メカニズムについて説明する。	同上	同上
15	エネルギーと持続可能な発展	２１世紀は、開発途上国、特にアジア地域の経済成長と人口増加によってエネルギー消費が急増すると予測されている。世界のエネルギー消費の増加によって、化石燃料の価格高騰や供給途絶不安、それに酸性雨や温暖化といった地球環境問題が懸念されている。ここでは、世界の将来のエネルギー需給を展望し、世界が持続可能な発展である「経済成長」、「エネルギーセキュリティ」、「環境保全」を同時に達成していくためには、今後どのような対策が必要になるのか、そして日本が果たす役割は何かについて考えてみる。	同上	同上

＝　物質･材料工学と社会（‘０５）＝（TV）

〔主任講師：　岸　　輝雄（独立行政法人 物質・材料研究機構理事長）　〕
〔主任講師：　小口　信行（独立行政法人 物質・材料研究機構量子ドットセンター長）〕
〔主任講師：　塙　　隆夫（東京医科歯科大学教授）　〕

全体のねらい

材料は身の周りのあらゆる所で利用され、今日の豊かな社会生活を築く上での基盤となっている。しかしながら、通常、人が実生活の中で材料の価値を意識することは殆どないのが現状であろう。本科目では、材料がどのようなところでどのように使用され、役立っているかを知ることで、材料の重要性と面白さを認識することを目指す。

全１５回講義のうち、前半では、材料を金属、セラミックス、高分子、半導体、複合材料の５つに大別し、材料の基礎的事項を学ぶ。後半では、材料を情報通信、環境、資源・エネルギー、安心・安全などの用途に分け、材料の機能と利用方法について学ぶ。特に、次世代の究極の材料技術として注目されているナノテクノロジーなど、最先端の材料研究開発の現状も知る。講義全体を通じ、社会の中での材料の役割について考える。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属･職名）	放送担当講師名（所属･職名）
1	材料開発と人類の歴史、持続的社会との関わり	人類文明の歴史は材料開発の歴史とも言える。人類は材料を自在に加工し役立てることで、今日の豊かな社会生活を築いてきた。人類が将来に渡り、持続的に発展するには、新しい材料の高度利用が不可欠である。材料開発の歴史を振り返り、今日のナノテクノロジーに辿り着くまでの道のりを概説する。	岸　輝雄（物質・材料研究機構・理事長）	岸　輝雄（物質・材料研究機構・理事長）
2	物質の構造、材料の特性と信頼性	物質は多数の原子と電子から構成されている。そして、物質の性質（物性）は、元素種、原子の結合様式、結晶構造、高次構造の違い、さらには、その結果として生じる電子状態の違いなどにより決定される。材料の特性と信頼性を、物質の微視的な構造と性質に立ち返り、解説する。	同　上	同　上
3	金属材料、セラミックス材料	金属材料とセラミックス材料は社会のさまざまなところで広く使われている代表的な工業材料である。金属やセラミックスの製造方法やその性質を学習し、巨大な建造物から身近にある品物まで、多様な工業生産物が金属やセラミックスの持つ特徴を上手に利用して製造され、使われていることや、リサイクルされることを学ぶ。	吉原　一紘（物質・材料研究機構・名誉顧問）	吉原　一紘（物質・材料研究機構・名誉顧問）
4	高分子材料、複合材料	身近な繊維・プラスチック・ゴムから半導体集積回路を作製するためのフォトレジストまで、高分子材料の範疇は極めて広い。蛋白質や核酸も高分子の一種である。本講義では、低分子化合物とは異なる高分子物質の特徴や性質を解説する。さらに、高分子をベースとした同種・異種材料との複合化による多彩な機能についても触れる。	岸　輝雄	岸　輝雄 及川　英俊（東北大学准教授）
5	半導体材料	半導体材料は、現在の高度情報化社会を支えている重要な材料である。本講義では、シリコン、ゲルマニウム等の単元素半導体、およびガリウムヒ素、窒化ガリウム等の化合物半導体を中心に、これらの材料の特徴や性質を説明し、半導体を用いる基本的な各種電子デバイスの構造、動作原理について概説する。	小口　信行（物質・材料研究機構量子ドットセンター・センター長）	小口　信行（物質・材料研究機構量子ドットセンター・センター長）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
6	セメント、コンクリート、木材	コンクリートとは、骨材と呼ばれる岩石・砂などをセメントで固めた材料である。任意の形状に作ることができ、硬化に水のみを用いる安定性の高い材料で、古くから使用されてきた。木材は日本史を代表する建設材で、大規模建造物や橋梁などへの適用で再び注目を浴びている。いずれも社会資本の整備に不可欠な材料として使用され、環境との共生や維持管理への取り組みも行われている。これらの歴史と現状を紹介する。	岸　輝雄	岸　輝雄 大津　政康(熊本大学大学院教授)
7	情報化社会を支える材料技術	シリコンを基盤とした半導体デバイスとそれを用いたコンピュータの発展は、２０世紀における社会の変革に多大な役割を果たしてきた。しかし、これらの性能をさらに向上させていくことは、既に限界に近づいているとも言われている。本講義では、高度情報化社会を支える材料技術の歴史と現状、および今後の展望について概説する。	小口　信行	小口　信行
8	ナノ材料と原子・分子レベル加工	物質・材料はナノメートル（10億分の１メートル）まで寸法を小さくすると一変して新規な性質を見せ始めるが、それは何故だろうか。それらの新規な性質を積極的に利用すると、どのようなナノテクノロジーの未来が拓けるだろうか。これらについて述べると共に、ナノメートル寸法の構造を原子・分子レベルの精度で構築する最近の先端技術について解説する。	青野　正和(物質・材料研究機構ナノテクノロジー基盤領域・コーディネータ)	青野　正和(物質・材料研究機構ナノテクノロジー基盤領域・コーディネータ)
9	地球環境と資源循環	物質や材料は人間社会を支えてきたが、逆に地球環境にはどれほどの影響を与えてきたのか、また、その影響を低減させながら持続可能な社会を支えるために材料技術に何ができるかについて概説する。特に、わが国の目指している循環型社会を、自然との物質の循環の観点からいかにとらえ、いかに進めていくべきかについて考察する。	原田　幸明(物質・材料研究機構材料ラボ・ラボ長)	原田　幸明(物質・材料研究機構材料ラボ・ラボ長)
10	環境とエネルギー材料　－光触媒、電池材料－	社会にとって道具やエネルギーは不可欠である。しかし、それらを作り出すことが地球環境に負担を掛け、我々生き物の安全への脅威となりつつある。本項では我々の最も身近なところで、環境浄化やクリーンエネルギー創出に貢献している光触媒や電池材料の開発とそれらの具体的応用について説明する。	渡辺　遵(物質・材料研究機構・監事)	渡辺　遵(物質・材料研究機構・監事)
11	未来のエネルギー材料　－超伝導材料－	超伝導材料を一定の温度以下に冷却すると、電気抵抗が完全に消失し、ロスなしで大電流を流すことが可能になる。このような特異な性質ゆえに、超伝導材料は２１世紀のエネルギー関連技術において重要な役割を果たすものと期待されている。超伝導の基礎を踏まえた上で、超伝導材料の具体的応用について説明する。	室町　英治(物質・材料研究機構ナノスケール物質領域・コーディネータ)	室町　英治(物質・材料研究機構ナノスケール物質領域・コーディネータ)
12	安心な生活空間のための材料　－構造材料－	生活空間に安心をもたらすために構造材料に必要な性質と技術をまとめる。わが国は、地震、台風、高温多湿など、欧米と比べて厳しい地理的条件にある。また、乗り物には、軽量化、衝突安全性が要求される。材料の強さと寿命を延ばす技術、材料を成形する技術、部材同士を接合する技術などの基本と応用例を述べる。	岸　輝雄	岸　輝雄 長井　寿(物質・材料研究機構環境・エネルギー材料領域・コーディネータ)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
13	医療診断・治療と材料工学	DNA、タンパク質などの人体の中にある分子を利用した新しい材料技術と、これらの分子を利用した新しい診断技術、ドラッグ・デリバリー・システム（DDS）による遺伝子治療など、ナノテクノロジーと材料の進歩によって可能になった医療技術について考える。	塙　隆夫（東京医科歯科大学教授）	塙　隆夫（東京医科歯科大学教授）
14	人工臓器・再生医学と材料工学	加齢、事故、疾病などによって失われた身体機能を回復させるための治療や臓器を再生させる技術には、多くの材料が貢献している。これらの材料の問題点を学び将来を展望する。	同　上	同　上
15	材料・環境・社会、これからの材料開発の方向	前回までの講義で、材料を理解する上での基礎的事項と材料の用途・機能を学んだ。最終回では、今後の材料開発はどうあるべきかについて考える。特に、環境や資源、安全など、地球規模での問題の解決には新規材料の開発と利用が不可欠であろう。２１世紀社会における材料の果たすべき役割について考える。	岸　輝雄	岸　輝雄

＝　バイオテクノロジーと社会（‘０５）＝（TV）

〔主任講師：　軽部　征夫（東京工科大学教授）〕

全体のねらい

バイオテクノロジーのいろいろな分野への応用が注目されている。この基礎となる技術について解説し、これらの医療・福祉、生活、産業、農林水産業などへの応用の具体例やこの技術のもつ倫理的問題について述べる。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	ＤＮＡ,遺伝子と染色体	遺伝子の本体がＤＮＡであることがわかり、ＤＮＡの化学構造、遺伝子と染色体との関係が明らかになった。これらの遺伝子情報に基づいてタンパク質が合成される（遺伝子機能の発現）。そして、ヒトゲノムの解析が終了し約３万個の遺伝子があることがわかった。	軽部　征夫（東京工科大学教授）	軽部　征夫（東京工科大学教授）
2	組換えＤＮＡ技術	生物は共通の遺伝子の本体として DNA を用いている。これらのＤＮＡを組み換えて、異種の生物にそのＤＮＡを導入し、発現させる技術が開発された。この技術を応用すると全く新しい医薬品等の製造ができる。	同　上	同　上
3	細胞と胚の操作	細胞を培養する技術やその細胞の中に遺伝子を導入する技術、またその細胞の集合体である胚の培養技術や組織の再生技術など、細胞と胚の操作技術やその応用分野が著しく広がっている。	同　上	同　上
4	クローン・キメラ動物	クローン羊「ドーリー」の誕生によってクローン動物が世界中の注目を集めた。この問題はクローン人間の問題へと発展し、大きな社会問題となっている。また、異種動物の遺伝子を導入したキメラ動物を作り出すことも可能になっている。	同　上	同　上
5	バイオ医薬品	組換えＤＮＡ技術を応用すると、われわれの体の中で重要な働きをしているペプチドやタンパク質などの医薬品を生産することが可能である。このようなバイオ医薬品のマーケットは急速に拡大している。	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
6	先進医療	遺伝病は4000以上あると言われている。これらの遺伝病のうちの一部は遺伝子を補うことによって治療することができる。このような先進医療や組織再生など最近の医療におけるバイオテクノロジーの応用が広がっている。	軽部　征夫	軽部　征夫
7	医療工学	胚性幹細胞（ES細胞）の樹立に成功し、いろいろな細胞に分化する幹細胞が容易に入手可能となった。これらの幹細胞にＤＮＡや核を導入して種々の細胞に分化させる技術が開発されており、これらの技術を用いて将来、臓器再生が可能になると思われる。また、人工臓器の研究や医療用ロボットなどの研究が進展している。	同　上	同　上
8	生活に役立つバイオ	食品を効率的に製造したり食品の機能を高めたりすることがバイオテクノロジーの応用によって可能となった。また、化粧品分野でも遺伝子レベルから美白を実現したり、皮膚の老化を防ぐなどの革新的な化粧品が誕生している。	同　上	同　上
9	産業に役立つバイオ	アミノ酸やアルコールの生産の効率を上げるために、組換えＤＮＡ技術を利用して改良した微生物が利用されている。また、バクテリア・リーチングと呼ばれ、銅などの精錬に微生物が応用されている。さらにバイオマスエネルギーも注目されている。	同　上	同　上
10	バイオとエレクトロニクスの融合	生物の機能をエレクトロニクス分野に応用しようとする研究がある。例えば、生物の分子識別機能を応用したバイオセンサーが開発され、医療計測や環境計測に応用され、注目されている。また、脳を指向したコンピュータなども研究されている。	同　上	同　上
11	新しい農業	遺伝子組換え作物が注目されている。除草剤に耐性の遺伝子などを導入することによって除草剤の効果を上げたり、収穫量を上げることが可能である。また、医薬品として有効な成分を作物に組み込むなどの研究も行なわれている。	同　上	同　上
12	海洋とバイオテクノロジー	海洋生物を対象とするバイオテクノロジーが注目されている。例えば、魚類の性をコントロールすることによって資源の復活を図ったり、海洋生物から新しい医薬品や工業原料を生産する研究が行なわれている。このような分野の研究はマリンバイオテクノロジーと呼ばれている。	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
13	環境修復と保全	環境に負荷を与える物質を、生物の機能を利用して分解するバイオレメディエーションが注目されている。この技術により、タンカーなどの沈没で流出する重油や原油を分解することも可能である。また、砂漠の緑化を可能にするキメラ植物の作出なども行なわれている。	軽部　征夫	軽部　征夫
14	生命倫理	組換えＤＮＡ技術の安全性から始まり、胚などの操作やクローン人間の問題など生命倫理に関する議論が高まっている。また遺伝子治療や臓器の再生医療における倫理問題などもある。これらのバイオテクノロジーに関する生命倫理の問題について議論する。	同　上	同　上
15	新しいバイオテクノロジー	ナノテクノロジーの１つのモデルとして生物機能が考えられており、ナノバイオテクノロジーと呼ばれる分野の研究が盛んになってきた。一方、ロボットやエレクトロニクスの分野への生物機能の応用も進んでおり、この分野は「バイオニクス」と呼ばれている。	同　上	同　上

＝　情報技術と社会（‘０５）＝（TV）

〔主任講師：　大岩　　元（慶應義塾大学教授）〕
〔主任講師：　辰己　丈夫（東京農工大学准教授）〕

全体のねらい

情報技術(Information Technology)は、21世紀の社会を築く基盤となったが、その本質について必ずしも理解されているとは言いがたい。コンピュータと情報ネットワークを支えるデジタル技術について、ものごとの本質を見極める時に役立つ本質的な知識を選び出して、その理解と具体的な応用例を示す。さらに、これからの社会がどのように変って行くか予測して、それに対処するには人々が何をしなければならないかについて考察する。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	情報技術と21世紀の社会	1940年代に姿を現わしたコンピュータは、50年代に商用化され、70年代以後は、その基盤となる半導体産業の劇的な発展をうながした。その結果、コンピュータの費用対効果は著しく増大してインターネットを生み出し、21世紀の社会の根底を支えるまでになった。その中心を担うコンピュータには、パソコンのように目に見える形のものと、ビデオやカメラ、自動車などに内蔵されている目に見えない形のものがある。	大岩　元（慶應義塾大学教授） 辰己　丈夫（東京農工大学准教授）	大岩　元（慶應義塾大学教授） 辰己　丈夫（東京農工大学准教授）
2	見える情報技術	世界最初のコンピュータの考えられているENIACは、1946年に米国のペンシルバニア大学で完成し、砲弾の軌道計算に使われた。どんな計算をするかを決めるプログラムを記述するのに、配線盤が使われたために、計算は砲弾の飛行より早かったが、配線に1週間もかかった所が問題であった。これを解決して、高速記憶装置にプログラムを書きこむようにしたのが、英国のケンブリッジ大学で開発されたEDSACである。ハードウェアとしてのコンピュータは、大型計算機からミニコン、ワークステーション、パソコンと大きさが小さくなると一方で、その能力は増大し、巨大なプログラムを必要とするようになった。プログラムを書くことは、予想以上に困難であり、現在の巨大なソフトウェア産業を生むことになった。	大岩　元 富樫　雅文（群馬大学非常勤講師）	大岩　元
3	見えない情報技術	コンピュータの開発当初は、人間が必要なデータを集めてコンピュータに入力し、さらに、コンピュータによる計算出力に従って機械を操作したり、命令を出していた。その後、自動的にデータを入力・収集する機器や、他の機器を制御する機器が開発されると、さまざまな機械・システムの制御が、人間の手を介さずにコンピュータで行なわれるようになってきた。例えば、小口の荷物に付けられたバーコードリーダは目の代わりをし、読み込まれたデータを入力としてコンピュータで計算された結果を元にベルトコンベアが制御され、荷物は、方向別にトラックやコンテナに収納される。このようなコンピュータを用いたシステムの導入が進んだことで、物流システムが変わり、さらに、工場立地や産業構造にまで影響が及んでいる。ここでは、さまざまな「見えないＩＴ」の仕組みを明らかにしながら、情報技術が社会に与えた影響について議論する。	辰己　丈夫	辰己　丈夫

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	コンピュータと電卓は何が違うのか	電卓はどのような仕組で計算を行なっているかと示す。算数では乗除算が加減算より優先されて計算されるように教えられるが、普通の電卓ではなぜそのように計算されないかを説明する。世界最初の電卓である HP 社の電卓を紹介し、括弧を使わずに複雑な計算が行なえるかを示し、日本語の語順との関連性を示す。コンピュータが計算する仕組みは電卓と同じであることを説明し、電卓では使用者の頭の中にある計算順序に従って計算が進んで行くのに対して、コンピュータの場合には計算順序をあらかじめプログラムとしてメモリに書きこんでおくことによって、超高速に計算が行なわれる。コンピュータによる情報処理は、本質的に電卓の計算と同じである。	大岩　元	大岩　元
5	デジタル技術とアナログ信号	デジタル技術はアナログ信号を用いて実現される。デジタル技術の基礎となる 2 進法の原理について説明したあと、アナログ情報をデジタル信号でどのように表現するのか、デジタル信号をアナログ信号にもどした時の精度の問題を雑音の存在と関連させて議論する。コンピュータへの性能要求に答えて半導体技術が発展し、これに支えられて、情報技術も発展をとげてきた。こうして発展したデジタル技術はコンピュータにとどまらず、CD や DVD のような民生機器にも応用され、応用の拡大にともなって使えるほとんど全ての場面で使われるようになってきた。なぜデジタル技術がアナログ技術に比べて有利なのか、デジタル化でどんな問題が生じるかを論じる。	大岩　元 富樫　雅文	大岩　元
6	人間と機械の情報処理(1)	その大きな脳によって高度な情報処理能力を有するようになった人間と、小さくて高速な電子的機構によって情報を処理する機械としてのコンピュータは、さまざまな面から共通点や異なるところを見ることができる。情報処理システムとしての人間という見方と記憶し判断するものとしてのコンピュータを考えることによって、生活と社会のなかにコンピュータをどのように組み込んでいったらよいのかについて議論する。そのために、情報の入力としての感覚器官のはたらきとコンピュータの入力装置、脳のはたらきとコンピュータの計算処理、また、情報出力としての運動とコンピュータの出力装置などを対比させながら、広い意味での情報処理がどのように行なわれていくのかを見る。また、人間が身体の延長として用いてきた道具と、脳の延長線上に位置付けられるコンピュータではその作りや使いかたにおのずから異なるところが出てくる。人間を中心に考えたとき、道具－機械－コンピュータという発達の流れのなかでこれらを使うための作法がどのように変化していくのかについて考察する。	大岩　元 (慶應義塾大学教授) 富樫　雅文 (群馬大学非常勤講師)	大岩　元 (慶應義塾大学教授)
7	人間と機械の情報処理(2)	生物そして動物としての人間は「もの」によって構成された世界のなかで生きており、「もの」の知覚や操作には長けている。一方、情報は「もの」とは異質な存在であって、体を使って直接に見たり触れたりすることができないために、コンピュータの中で行なわれる情報処理を実感することが困難である。コンピュータ本体に接続されるさまざまな周辺装置やソフトウェアの技術が、この情報と「もの」のあいだの距離をつめて人間による情報の操作を本来得意だった「もの」の操作に近づけるるために発達してきた。コンピュータにおける「ヒューマンインターフェース（Ｈｕｍａｎ　Ｉｎｔｅｒｆａｃｅ）」の知識と技術によって、情報をどのようにして「もの」に見立て、また、情報の操作をどのようにして「もの」の操作に置き換えていくのかについて見ていく。このことによってあらためて情報で構成される世界というものについて考えてみる。	大岩　元 富樫　雅文	大岩　元

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
8	情報ネットワーク	ドアを直接ノックする、糸電話をつかうというアナログ方式の通信と、送り手と受け手が0と1の違いをあらかじめ約束して情報を符号化して通信を行なうデジタル方式の通信の比較をしながら、通信技術の基礎について議論を行なう。次に、バス型と呼ばれるネットワーク通信の仕組みについて議論を行なう。そして、インターネット技術の基礎であるパケット通信、ポート番号、TCP、UDP、経路制御、名前空間について取り上げ、それらの応用である電子メール、WWW、IP電話、ビデオチャットなどについて紹介をし、通信プロトコルの重要性について議論を行なう。	辰己　丈夫	辰己　丈夫
9	記号論から見た情報概念	情報技術が社会生活に与える影響として文化や生活様式の多様化が指摘される。特にコンピュータネットワークの普及による情報源の多数化やコミュニケーション機会の増大といった要因が、高度経済成長が達成された後の社会において、文化・生活様式の多様化の流れをさらに加速する力として作用している。このような文化的・社会的状況を生きるにあたっては、「情報の価値」の問題に対する敏感さが要求される。すなわち文化・生活様式が多様化した社会とは、他者の価値観や感受性のあり方が見えにくい社会である。そのような社会においては、いかなる情報にいかなる価値が見いだされるかという点についての自明性が成立しづらい。したがって、他者との不用意な摩擦を回避しよりポジティブな社会関係を構築するためには、日常生活の様々な場面で情報の価値に対する見方の相違について、常に慎重な判断を下すことが要求される。上記の問題意識をふまえ、情報の価値の問題を記号論の立場から考察する。記号論は「記号＝人間が意味や価値を見いだすあらゆるもの」を考察の対象とする学問である。特に今回は記号論の立場から情報の価値と個人の価値観の関係や、価値観の形成と共有を通した個人と社会集団の関係を論ずる。また、文化・生活様式が多様化した社会において求められる想像力と判断力について考察する。	斎藤　俊則（慶応義塾大学非常勤講師）	斎藤　俊則（慶応義塾大学非常勤講師）
10	メディアと情報による人間の心の操作	個人の価値観の形成とメディアの影響力について議論する。個人の価値観は社会的な過程によって形成されるが、各種メディアによってもたらされる情報はその際のより所として大きな影響力を持つ。そこから、メディアはしばしば、特定の価値観を集団的に内面化させるための道具として用いられる。このような例として最も典型的なのは政治権力によるマスメディアへの介入とプロパガンダの流布であるが、その他にも様々な例が存在する。たとえば企業による広告は、メディアを介してターゲットとなる個人の価値観に訴えかけることにより、広告主である企業の意図に基づいて各個人を集団的に動員するための装置であると見なすことができる。このような状況において個人が“個”としての自律性を尊重しながら生きるためには、メディアからの情報に対する批判的な距離を保つことが重要となる。ここでは、個人がメディアを通して特定の価値観を内面化するプロセスを考察するとともに、メディアに接しつつも批判的な距離を保つことの可能性を議論する。	同　上	同　上
11	情報技術とルール	現在は、大量の情報を容易に収集・複製・転送ができるようになった。「見えないＩＴ(情報技術)」の回で述べたように、我々の現代社会システムには、情報技術、特にコンピュータとインターネットの影響を受けたものが多い。しかし、著作物や個人情報を扱う場合には、それをどのように収集するか、どのように複製できるか、誰に転送をして良いかというルールの形成が必要となる。これらのルールに反すると、過失の場合は事故、故意の場合は犯罪となるが、法的な制裁を受けることになる。ここでは、情報に関連する法令や取り決め・ルールなどについて述べ、その存在意義について議論を行なう。	辰己　丈夫	辰己　丈夫

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	個人情報と情報危機管理	情報社会の発展にとっては、前回に述べた法的な抑止のみならず、技術的な抑止、あるいは制度・教育・人事・財産的な抑止も重要である。例えば、情報社会においても、一般社会と同様に、何らかの意図を持ってルールを意図的に破ろうとする犯罪者が存在する。セキュリティ技術とは、このような犯罪を防ぐ技術のことである。また、障害を未然にできるだけ防ぐ方法、障害が起こったときの対応、障害が起こったときのための準備、障害が起こった後の見直しといった危機管理の考え方も大切である。ここでは、情報社会における危機管理の一般的な手法について議論を行なう。	同上	同上
13	情報システムとモデル化	情報化社会における重要な道具であるコンピュータを使いこなすためには、コンピュータに適したものの見方や理解の仕方を身につけておかなければならない。コンピュータはソフトウェアとして与えるモデル（模式）に従って計算する機械にすぎない。最も単純なモデルは数式であり、数式を計算する道具として"コンピュータ"(計算するもの)が開発された。しかし、計算の手順を書いた"プログラム"の存在によって、コンピュータで計算できるモデルは数式以外のものに拡張されることになった。ここでは、より高度なモデルとして状態機械モデル、及び、オブジェクトモデルを取り上げる。コンピュータに適したモデルとはどのような性質を持つものかを理解することで、コンピュータに複雑な計算をさせるにはどうしたらよいかを学ぶ。これを踏まえ、コンピュータでできる計算の可能性と限界について考察する。	大岩　元 中鉢　欣秀(産業技術大学院大学准教授)	大岩　元 中鉢　欣秀(産業技術大学院大学准教授)
14	現実世界と形式世界	現実世界にある様々な問題をコンピュータで解決しようとすると、現実をどのようにモデル化するべきなのかという問題が常に発生する。コンピュータの世界は、モデル化された現実を記述した論理の世界であり、これを形式世界と呼ぶことにしよう。これに対して人間は、論理だけでは説明できない非形式的なことを含む世界に生きている。このため人が現実世界でコンピュータを活用するには、非形式的な世界の中から形式化できる部分をモデルとして取り出す作業を行わなければならない。さらに、その作業の結果は、コンピュータを利用する社会全体にとって恩恵をもたらすようにすべきである。ソフトウェア工学における要求分析を例に挙げて、その難しさをどのようにして克服する方法があるかを、具体的な作業手順とともに示す。	大岩　元 中鉢　欣秀(産業技術大学院大学准教授)	大岩　元 中鉢　欣秀(産業技術大学院大学准教授)
15	これからの情報社会	情報技術は、当初は半導体技術の発展に支えられてきた。しかし、半導体の微細化が物理学的限界に近づきつつある現在、情報社会は複雑なソフトウェア、完成されたシステム、人と組織の深化、社会における情報技術の普及と地位向上を必要とするようになった。ところが、プログラム作成者、システム設計者、プロジェクト管理者、情報教育に携わる教員は世界中で不足していて、これが情報化の進展を妨げる最大の要因となっている。特に日本では、このことが深刻な問題になっている。 今後の情報化の進展は、我々の社会をどのように変えていくのか、そのために社会は何をする必要があるのかを、情報社会のあり方を見据えて議論する。	大岩　元 辰己　丈夫	大岩　元 辰己　丈夫

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	専門科目	科目コード	1541803	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 日本の技術革新 （’０８）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：清水　慶一（国立科学博物館理工学研究部室長）〕

〔主任講師（現職名）：三上　喜貴（長岡技術科学大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：野城　智也（東京大学教授）〕

講義概要

明治期から現在に至るまでの日本の技術革新経験について全15回にわたり講義する。日本の技術革新は世界史的にみても稀有に属するテンポと広がりを持っており、この過程を総論（1－3回），人的・組織的要因（4－7回），生活・社会・環境との相互作用（8－12回）といった各側面から紹介するとともに，技術革新史研究の方法論と成果の活用（13，14回）について学習する。

授業の目標

全15回の講義を通じて，日本の技術革新経験の特徴やこれを支えた人的・組織的諸要因、生活・社会・環境との相互作用、技術革新史研究の方法論などについての基本的な理解を得ることを目標とする。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	日本の技術革新経験-世界史の中で-	日本の技術革新経験を世界史的な視野から位置づけて，その特徴を紹介するとともに，産業革命との関係，国際環境との関係，途上国への合意などの各側面から論じる。	清水　慶一（国立科学博物館理工学研究部室長）	清水　慶一（国立科学博物館理工学研究部室長）
2	日本の技術革新の特徴1	技術革新過程における日本の特色－現場と研究者の密接な連携、市場重視、長期的視野、すりあわせ型の技術統合等－を具体的な事例、当事者へのインタビューなどを通じて解説する。	清水　慶一（国立科学博物館理工学研究部室長）	清水　慶一（国立科学博物館理工学研究部室長）
3	日本の技術革新の特徴2	技術革新過程における日本の特色－現場と研究者の密接な連携、市場重視、長期的視野、すりあわせ型の技術統合等－を具体的な事例、当事者へのインタビューなどを通じて解説する。	清水　慶一（国立科学博物館理工学研究部室長）	清水　慶一（国立科学博物館理工学研究部室長）
4	工学教育	日本の技術革新を人的・組織的側面から特色付ける。まず、技術革新を支えた技術者像を、事例紹介、当事者へのインタビューなどを通じて理解する。チームワーク重視のメンタリティ、日本企業の組織的、経営的特徴についても解説する。	清水　慶一（国立科学博物館理工学研究部室長）	清水　慶一（国立科学博物館理工学研究部室長）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	技術革新と技術者	技術革新を生み出す最大の資源は人材である。開国・明治期におけるお雇い外人にはじまる人材育成の歴史をたどりつつ，技術革新を支えた技術者教育の歩みと，技術革新を支えた技術者像について紹介する。	清水　慶一(国立科学博物館理工学研究部室長)	清水　慶一(国立科学博物館理工学研究部室長)
6	大規模プロジェクト	ダム、高層建築、新幹線などの大規模プロジェクトの実例を紹介しつつ、技術の統合、プロジェクトマネジメントなどの側面から大規模プロジェクトが日本の技術革新に及ぼした影響について解説する。	野城　智也(東京大学教授)	野城　智也(東京大学教授)
7	技術革新と知的財産権	技術革新の過程における知的財産権制度の意義について理解するとともに、日本の技術革新において特許制度や著作権制度の果たした役割について具体的事例に沿って紹介する。 【キーワード】 知的創造、知的財産権、特許権、著作権	三上喜貴(長岡技術科学大学・教授)	三上喜貴(長岡技術科学大学・教授)
8	日本の伝統・文化と技術革新	近代技術の体系はグローバルな性格を有し，それぞれの社会における伝統的技術や文化を平準化し，収斂させる作用も持つが，他方で伝統的技術思想や文化的背景は技術革新の方向に影響も与える。これを陶磁器や繊維等の実例を紹介しつつ論じる。 【キーワード】 ワグネル，万国博覧会，石炭窯、洋食器、日本陶器	亀山哲也(産業技術総合研究所・産学官コーディネータ)	亀山哲也(産業技術総合研究所・産学官コーディネータ)
9	技術革新と生活の変容	技術革新は様々な形でわれわれの生活の変化と深く結びついている。そこで、本講義では家庭生活の中心となる台所に注目し、戦前戦後の台所の変化の過程を概観し、とりわけ、戦後に台所がダイニング・キッチンという新しい生活の場に変容するなかで、大きな力となったステンレス流し台の誕生の過程を技術革新の事例として紹介している。 【キーワード】 台所、ダイニング・キッチン、ステンレスの流し台、大量生産	内田青蔵(埼玉大学・教授)	内田青蔵(埼玉大学・教授)
10	日本の自然・風土と技術革新	新しく開発された技術が、どのように社会で受け入れられ、どのように展開していくのかは、国や地域ごとに違いがある。この違いを生む原因のひとつに、自然・風土との関係がある。日本の自然・風土と関わりの深い具体的な技術を例に、海外との比較も行いながら、日本の技術革新の特徴を学ぶ。 【キーワード】 外来技術、伝統技術、開発、普及、社会受容	後藤治(工学院大学・教授)	後藤治(工学院大学・教授)
11	技術革新と環境	技術革新の過程で日本もさまざまな環境汚染を経験したが，逆にこれを乗り越える努力は新たな技術革新を生み出す原動力ともなった。いくつかの事例を通じて，こうした技術革新と環境問題のかかわりについてのダイナミックな関連を紹介する。 【キーワード】 水俣病、国の規制、苛性ソーダ、水銀法、イオン交換膜法	亀山哲也(産業技術総合研究所・産学官コーディネータ)	亀山哲也(産業技術総合研究所・産学官コーディネータ)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	技術革新と安全	日本がフロントランナーとして安全技術の革新に取り組んできた事例として大型タービン技術と新幹線技術を取り上げ、安全と技術革新のダイナミックな相互作用について理解する。 【キーワード】 安全、事故、危険源、フロントランナー	三上喜貴(長岡技術科学大学・教授)	三上喜貴(長岡技術科学大学・教授)
13	技術革新史研究の方法と史料	技術革新史に関する基本的な研究アプローチの考え方を，技術の内在的変化，社会的コンテクストでの分析，経済学や経営学の見方など，多面的に紹介し，あわせて，技術史研究に必要な各種史料の位置づけや調査方法などについて紹介する。	竺　覚暁(金沢工業大学教授)	竺　覚暁(金沢工業大学教授)
14	技術革新史研究の成果の活用	技術革新史研究の成果を如何にして社会に還元するかについて論じる。欧米における技術史博物館のあり方，企業における技術史資料の保存や展示，初等教育から技術者教育，生涯教育における活用事例などを具体例を示しつつ紹介する。	清水　慶一(国立科学博物館理工学研究部室長)	清水　慶一(国立科学博物館理工学研究部室長)
15	まとめ	15回の講義のまとめとして各回のポイントを整理するとともに，考察すべき論点を提示して課題を与える。	清水　慶一(国立科学博物館理工学研究部室長)	清水　慶一(国立科学博物館理工学研究部室長)

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	専門科目	科目コード	1542109	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ コンピュータのしくみ （’０８）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：岡部　洋一　（放送大学副学長）　〕

講義概要

現在、コンピュータは、各種電算機処理のみならず、インターネット上のサーバーや一般家庭にもパソコン、家電製品内のマイコンという形で、オールマイティの情報処理を行う正に頭脳の役割をしているが、その内容についてはあまり理解されていない。ここではコンピュータの構造、動作原理といったしくみについて全15回にわたって講義する。もっとも簡単な回路である論理回路、さらに過去の履歴に依存してその動作を変えていくシークエンス回路を基礎として、これらを組み合わせた電卓の構造と動作原理を示し、さらに何でも処理できるコンピュータについて学習を進めていく。

授業の目標

全15回の講義を通じ、一見複雑そうに見える情報処理機械が実は簡単な回路の大規模な合成によって構成されていることを理解し、またコンピュータを動かすプログラムとの関連を理解することを目標とする。コンピュータを単なるブラックボックスとして理解するのではなく、その原理を理解することにより、どんな情報処理機械でも設計できるようになることを最終の目標とする。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	デジタルとアナログ（第1章）	わかっているようでわかっていない「デジタル」という用語を「アナログ」との比較から説明し、デジタルでは各種の物理的情報をどう表現し、どう処理するかについて概念的な理解を深める。さらに、現在、急速にデジタル処理が増えてきた理由、デジタル処理の歴史について説明する。 【キーワード】 デジタルとアナログ、連続量と不連続量、トランジスタとLSIの発展	岡部　洋一（放送大学副学長）	岡部　洋一（放送大学副学長）
2	スイッチ素子（第2章－第3章 3.2節）	論理回路の要素となるスイッチ素子について紹介し、現在のコンピュータがトランジスタの集合体である集積回路で構成されていることを学ぶ。さらに、基本論理回路でもっとも重要なNOTをトランジスタを使ってどう実現するかを示す。 【キーワード】 スイッチ素子、トランジスタ、集積回路、基本論理、NOT	岡部　洋一（放送大学副学長）	岡部　洋一（放送大学副学長）
3	基本論理回路と組合せ論理回路(第3章 3.3節－第4章 4.3節)	論理を作るための基本構成要素であるAND、ORについて、その動作を理解し、これらがトランジスタで実現しやすいNAND、NORとどう関係しているかを学ぶ。さらに、こうした機能要素を組み合せて実現できる組合せ論理回路という概念をEORや加算器を例に理解する。 【キーワード】 AND、OR、基本論理回路、NAND、NOR、組合せ論理回路、EOR、加算器	岡部　洋一（放送大学副学長）	岡部　洋一（放送大学副学長）
4	組合せ論理回路の構成法（第4章 4.4節－4.6節）	多入力多出力を持った任意の論理回路を実現する一般的方法を示し、これらがNOT、AND、ORの組合せだけで構成できることを示す。さらにAND、ORをNANDで置き換えることにより、どんな組合せ論理回路もNANDだけで構成できることを示す。 【キーワード】 ドモーガンの法則、組合せ論理回路、真理値表、AND-OR回路、NAND-NAND回路	岡部　洋一（放送大学副学長）	岡部　洋一（放送大学副学長）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	状態遷移図、状態遷移表とシークエンス回路(第5章 5.1節 - 5.2節)	回路が内部状態を持ち、出力が入力のみでなくその内部状態に依存して決定される回路をシークエンス回路と呼ぶが、その原理を理解する。またどんなシークエンス回路も状態遷移図および状態遷移表を作成することにより、組合せ論理回路および遅延回路の組み合せで実現できることを示す。 【キーワード】 シークエンス回路、内部状態、遅延回路、状態遷移図、状態遷移表	岡部 洋一(放送大学副学長)	岡部 洋一(放送大学副学長)
6	遅延回路とパストランジスタ(第5章 5.3節 - 5.7節)	1クロックだけ遅延させる遅延回路として、Dフリップフロップの動作原理を学ぶ。また、Dフリップフロップと同じような原理で動作する記憶回路である各種レジスタ、プリチャージ論理回路などについても説明する。 【キーワード】 Dフリップフロップ、パストランジスタ、レジスタ、プリチャージ論理回路	岡部 洋一(放送大学副学長)	岡部 洋一(放送大学副学長)
7	二進加減算(第6章 6.1節 - 6.4節)	コンピュータの中では数値データはどう扱われるのか。また加減算といった算術計算は二進数でどうなされるのか、それに必要なコンピュータのしくみについて学ぶ。 【キーワード】 内部表現、二進表現、符号なし整数、符号あり整数、算術計算、加算、減算	岡部 洋一(放送大学副学長)	岡部 洋一(放送大学副学長)
8	二進乗除算とデータの内部表現(第6章 6.5節 - 6.8節)	前回に引き続いて、算術計算の乗除算が二進数でどうなされるのか、それに必要なしくみについて学ぶ。さらに小数、文字、文字列はどうように扱われるのかを理解する。 【キーワード】 乗算、除算、小数、文字、文字列	岡部 洋一(放送大学副学長)	岡部 洋一(放送大学副学長)
9	コンピュータの概要(第7章)	コンピュータの構成の概要について学び、中央処理装置を中心に、外部メモリー、周辺装置のあることを学ぶ。また中央処理装置の中にはデータ処理部と制御部があるが、データ処理部に必要な部分回路、データ処理部と制御部の関係について理解する。 【キーワード】 コンピュータの構成、中央処理装置、外部メモリー、周辺装置、データ処理部、制御部	岡部 洋一(放送大学教授)	岡部 洋一(放送大学副学長)
10	プログラム(第8章)	コンピュータの動作になくてはならない機械語のプログラムとは何か。それを構成している命令にはどのようなものがあるか。コンピュータはこれら命令をどのように実行していくのか。現在のコンピュータの基本である蓄積プログラム方式とは何か、その特長と合せて説明する。 【キーワード】 プログラム、機械語、命令、蓄積プログラム方式、高水準プログラム言語	岡部 洋一(放送大学副学長)	岡部 洋一(放送大学副学長)
11	データ処理部1(第9章 9.1節 - 9.4節)	コンピュータのデータ処理部の具体的な回路の構造について学ぶ。バス、レジスタ、入出力といった部分回路について詳細な説明を行う。 【キーワード】 バス、レジスタ、入出力回路	岡部 洋一(放送大学副学長)	岡部 洋一(放送大学副学長)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	データ処理部2(第9章 9.5節 - 9.6節)	前回に引き続き、コンピュータのデータ処理部の具体的な回路の構造、特にその中核となる算術論理回路ALUおよびそれと関連の深いシフタの構造について詳細な説明を行う。 【キーワード】 シフタ、算術論理回路、ALU	岡部 洋一(放送大学副学長)	岡部 洋一(放送大学副学長)
13	制御部1(第10章 10.1節 - 10.3節)	コンピュータ全体の頭脳ともいうべきデータ処理部を動かす制御部の役割について学ぶ。特に歴史的進化を追って、電卓の動作までを説明する。 【キーワード】 命令レジスタ、プログラムカウンタ、フェッチ、電卓	岡部 洋一(放送大学副学長)	岡部 洋一(放送大学副学長)
14	制御部2(第10章 10.4節 - 10.8節)	コンピュータを大きく進化させた蓄積プログラム方式について、その動作を学ぶ。さらに、その後のコンピュータに大きな影響を与えたマイクロプログラム、RISC、パイプライン処理、SIMDといった概念とともにアーキテクチャの意味を習得する。 【キーワード】 蓄積プログラム方式、マイクロプログラム、RISC、パイプライン処理、SIMD、アーキテクチャ	岡部 洋一(放送大学副学長)	岡部 洋一(放送大学副学長)
15	今後の発展(第11章)	コンピュータは今までのようにどんどん進化していくのか。何らかの限界があるのかといったコンピュータの進化論と合わせて、将来のコンピュータについて概説する。 【キーワード】 コンピュータ、進化、スケール則、汎用コンピュータ、専用コンピュータ	岡部 洋一(放送大学副学長)	岡部 洋一(放送大学副学長)

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	専門科目	科目コード	1542001	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ デザイン工学 （’０８）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：福田　収一（スタンフォード大学コンサルティング教授）〕

講義概要

多様化、知の時代となり、工学設計も大きく変化してきている。その最大の変化は、モノから人への焦点の移動である。これまでは、いかに必要なモノを提供するかが主眼であったが、これからは、いかに満足を提供できるかが重要となってくる。そのため、人の欲求、個性、感情、感覚、相性、コミュニケーション、など、これまで、あまり工学設計では考慮されてこなかった人間の特性に関する考慮が重要となってきた。
本講義では、大きく変貌しつつある工学設計の動向を紹介し、それを実現する技術について述べる。

授業の目標

本講義では、大きく変貌する設計とその技法について基本を理解する。とくに、グローバル化する市場に対応するための設計、新しい産業創出のための設計についての理解を深める。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	創造する人間	創造は、人間の本質であり、それが文化を生んだ。デザインは人間の創造したい欲求に基づいている。人間の欲求とは？人間とは？について考察し、そこからデザインを考える。 【キーワード】 創造、文化、Homo Faber、人間の定義、 人間の欲求（Maslow）	福田　収一（スタンフォード大学コンサルティング教授）	福田　収一（スタンフォード大学コンサルティング教授）
2	こころとデザイン	21世紀は知の時代と言われるが、無味乾燥な知識の時代ではない。こころの時代であり、いかに感動を呼び、同じ価値感をもつ仲間を増やすかが問われる。自然物を加工した20世紀との相違について社会、デザインの視点で考える。 【キーワード】 知の時代、こころの時代、感覚、感性	同上	同上
3	個性とデザイン	多様化の時代となり、個性の追求がデザインの課題となった。既存マーケット対象ではなく、同じ価値感を持つ仲間を増やし、新マーケットを創造することが、これから重要となる。そのためには、専門領域を超えた協調が必要となる。 【キーワード】 価値感、感性、マーケット創造、チームデザイン、性格	同上	同上
4	意図理解	設計においては、まず目標を明確にする必要がある。とくに多様化、チームの時代となり、設計意図の明確化が不可欠となってきた。スケッチ、アニメ、QFD、CADなどの方法を紹介する。 【キーワード】 設計意図、スケッチ、アニメーション、物語、QFD(品質機能展開)、CAD	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	プロトタイピング －意図からかたちへ－	設計は、意図をかたちに変換する行為である。かたちを計算機で処理する方法 CAD，かたちが適切かを検討する手法 プロトタイピングについて解説する。さらに、プロトタイピングを基本とする製品開発方式PBLについて紹介する。 【キーワード】 CAD、ラピッドプロトタイピング、ペーパープロトタイピング、PBL	福田 収一（スタンフォード大学コンサルティング教授）	福田 収一（スタンフォード大学コンサルティング教授）
6	かたちの決定 － 強さ、変形 －	ハードウエアの設計においては、かたちを決めても、外力により壊れないか、変形が大きすぎないかを検討する必要がある。その検討を行う代表的な方法である有限要素法の基本的考え方を説明する。 【キーワード】 詳細設計、有限要素法、バネの原理、強さ、変形	同上	同上
7	うごきと設計	機能はうごきとして動詞で表現される場合が多い。望むうごきを実現するための方法QFDなどを紹介する。さらに、うごきは身体知の視点からも重要である。また、このような物理的うごき以外の最近の非物理的うごきについても考える。 【キーワード】 機能、物理的うごき、QFD、動詞、身体知、非物理的動き、通信、イメージトレーニング、シミュレーション	同上	同上
8	触覚とデザイン	物理的世界は作用－反作用の世界である。最近、触覚に関する技術が発達し、仮想現実(VR)で利用され、加工、医療などで活用されている。触覚は身体知の視点からも重要である。 【キーワード】 作用一反作用、加工、医療、VR、認識、身体知	同上	同上
9	音と設計	これまでの設計は、製図、CADに代表されるように、論理的、左脳的であった。しかし、日本語は、擬音語が多い。また画像の代わりに音を利用する方法も出現している。音をいかにデザインに取り入れるかを考える。 【キーワード】 欧米と日本の相違、擬音語、右脳、VR、視覚と聴覚	同上	同上
10	未体験の体験化	技術の進歩が急速であり、未経験、未体験技術が多く出現してきている。これが社会に受け入れられるためには、技術の可視化が重要となる。またそのための技術は、技術伝承、新しい世界への導入などにも役立つ。 【キーワード】 未体験技術の体験化、技術伝承、新世界への導入、 ナノの世界、VR、気付き	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	コミュニケーションとデザイン	社会が広域化、多様化し、状況理解がきわめて重要となってきた。これまでは、「考えてから歩く」時代であったが、今後は「歩きながら考える」必要があり、コミュニケーションが重要となる。コミュニケーションは人と人の間だけではなく、人とモノ、人と環境の間にも存在する。 【キーワード】 人と人、人とモノ、人と環境のコミュニケーション、群知能、状況理解、協調活動の重要化	福田 収一（スタンフォード大学コンサルティング教授）	福田 収一（スタンフォード大学コンサルティング教授）
12	感情とデザイン	感情は知性を構成する重要な要素として最近注目されている。とくにコミュニケーションにおいて大きな役割を果たし、人間ーシステム系の設計が大きく変化する可能性がある。感情抽出、感情表現の研究を紹介し、さらに、愛着の問題も考える。 【キーワード】 Emotional Intelligence、コミュニケーション、感情理解、人間ーシステム系、感情抽出、感情表現、愛着	同上	同上
13	自己実現とデザイン	人間の最大の欲求は、自己実現にある。芸術は自己実現であり、工学と芸術の融合が進んでいる。自己実現は、挑戦への欲求でもある。ゲーム、登山、F1、スポーツの世界と設計について考える。ハンディキャップへの対応も自己実現への対応である。 【キーワード】 芸術、ゲーム、登山、スポーツ、ハンディキャップ	同上	同上
14	ライフとデザイン	これまでの工学設計は、生活を便利にすることに主眼があった。しかし、今後は、豊かな人生が焦点となる。すなわち、物質から精神へと対象が大きく変化する。そのような時代を迎え、新しく期待される産業について考える。 【キーワード】 便利な生活、豊かな生活、Life Science, 思い出産業、物語産業、街づくり	同上	同上
15	デザインの将来 －成長、劣化、進化、退化－	将来のシステムは、ハードウェアとソフトウェアが融合し、一体化して、個別には、ユーザーとともに成長し、劣化する。また全体としては、進化し、退化すると予想される。そのような時代のデザインについて考える。 【キーワード】 成長し、劣化するシステム、進化し、退化するシステム	同上	同上

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	専門科目	科目コード	1541706	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 都市と防災 （’０８）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：目黒　公郎（東京大学教授）〕

講義概要

都市災害とは日々進化しつづける都市を映した鏡のようなものである．本講義は，都市を災害から守るための取り組み方とその変遷について全15回にわたって講義する．包括的に都市防災の体系を修得するための総論（第1回から第5回），災害発生のメカニズムとその対策について学ぶ「都市災害の事例」（第6回から第10回），都市防災上の取り組みと事例について学ぶ「各論」（第11回から第15回）の3部から構成される．

授業の目標

都市と災害・防災に焦点をあてた全15回の講義を通じて，都市防災研究を進めるうえで最低限必要な用語が理解でき，かつ数々の都市災害と対策の事例から都市防災の基本を修得することを目標とする．また，この講義を通じて過去に発生した災害とそこから得られた教訓がどのように都市の防災に反映されてきたかを把握できるようになることを目標とする．

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
第1部　総論：包括的に体系を修得させる				
1	講義の概要紹介と我が国の都市防災	我が国は，その立地特性により世界有数の災害大国であり，都市部の人口密度も高いため脆弱性が極めて高い．一方，今やGDP世界第2位を誇るわが国は，その技術により災害による負の遺産を数々の教訓へと昇華させ，防災先進国へと推進させてきた．ここでは，わが国における災害史と世界に誇る防災技術の概要とともに，これから始まる講義内容を学ぶ。 【キーワード】 プレート・テクトニクス，自然災害のデパート，火山大国，地震列島，台風，津波，火災，紙と木の建築文化，防災技術，国際貢献，シュープリーム，ユレダスなどのリアルタイム地震防災，ほか	目黒公郎（東京大学教授） 村尾　修（筑波大学大学院准教授）	目黒公郎（東京大学教授） 村尾　修（筑波大学大学院准教授）
2	都市・災害・都市防災	安心できることを大前提として造られてきた都市の歴史をふりかえり，都市に住まうことの意味について考えるとともに，現在我々の環境を脅かす都市災害の特徴についてもふれ，都市防災の意義について習得する． 【キーワード】 都市，災害，防災，都市防災，世界遺産，都市空間，ほか	目黒公郎（東京大学教授） 村尾　修（筑波大学大学院准教授）	目黒公郎（東京大学教授） 村尾　修（筑波大学大学院准教授）
3	都市災害の歴史と法制度の変遷	災害の様相は都市の歴史とともに変化する，また災害は過去に気づかなかった様々な部分を浮き彫りにする，我々は過去の災害から多くを学び未来の都市のために災害に関する法制度を整備してきた．その変遷を理解する． 【キーワード】 各種災害，伊勢湾台風，防災法制度，災害対策基本法，阪神・淡路大震災，ほか	目黒公郎（東京大学教授） 村尾　修（筑波大学大学院准教授）	目黒公郎（東京大学教授） 村尾　修（筑波大学大学院准教授）
4	我が国の防災体制	中央防災会議から地域にいたる組織構造，我が国で災害が発生した時のしくみ，法制度など，我が国の防災体制の基本を学ぶ． 【キーワード】 中央防災会議，災害対策基本法，内閣府（防災）組織，防災計画，ほか	目黒公郎（東京大学教授）	目黒公郎（東京大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	防災対策の基本と災害対応の循環体系	発災ー緊急対応（Response）ー復旧・復興（Recovery）ー被害抑止（Mitigation）ー事前準備（Preparedness）という災害対応の循環体系（Disaster Life Cycle）を説明し，防災対策の基本を習得する． 【キーワード】 災害対応の循環体系，緊急対応，復旧，復興，被害抑止，事前準備，リスクマネージメント，クライシスマネージメント，災害予知，早期警報，ほか	目黒公郎（東京大学教授）	目黒公郎（東京大学教授）
第2部　都市災害の事例：災害発生のメカニズムとその対策				
6	気象災害とその対応	古来から，人間の生活に影響を及ぼしてきた気象災害の事例を通して，その発生メカニズムと被害，そして各種災害への対応策について学ぶ． 【キーワード】 大雨・台風・強風・竜巻・河川洪水・内水氾濫，斜面崩壊・地すべり・土石流・冷害・干ばつ・雪氷被害，ほか	目黒公郎（東京大学教授）	目黒公郎（東京大学教授）
7	地震と地震災害の基本	地震災害は総合災害・複合災害と呼ばれるように多様な様相を示す．ここではこれまでに発生した大地震の事例を通じて，地震や津波が発生するメカニズムを理解する． 【キーワード】 関東大地震，阪神・淡路大震災，新潟県中越地震，津波，地震，液状化，ほか	目黒公郎（東京大学教授）	目黒公郎（東京大学教授）
8	進化する地震災害と被害相互の連鎖関係	大地震が発生するとそれに引き続き，地盤災害，構造物被害，人的被害，経済的被害へと，災害の連鎖が表れる．ここでは地震によりもたらされる被害の事例を通じて，それらの対応を学ぶ． 【キーワード】 構造物被害と死傷者，震後火災，ライフライン被害，情報災害，トリアージ・災害医療，ほか	目黒公郎（東京大学教授）	目黒公郎（東京大学教授）
9	火山災害とその対応	日本には多くの火山が存在するため，各地に温泉や観光名所を産み出してきた．一方で火山災害とも隣合わせてきた．ここでは，火山災害の事例を通じて，その発生メカニズムと被害の特徴，そしてその対応策について学ぶ． 【キーワード】 温泉，観光，雲仙普賢岳，有珠山噴火，三宅島噴火，火砕流，降灰被害，火山ハザードマップ，ほか	目黒公郎（東京大学教授）	目黒公郎（東京大学教授）
10	延焼火災とその対応	日本はその気候風土により，紙と木の建築文化を築いてきた．江戸時代には，「火事と喧嘩は江戸の華」と言われるように，火災は庶民生活にとって大変身近な存在でもあった．ここでは延焼火災の事例を通して，その発生メカニズムと被害事例，そして都市レベルの対応策について学ぶ． 【キーワード】 木造密集地帯，出火，延焼，都市大火，江戸の大火，酒田大火，白鬚防災拠点，シカゴ大火，ロンドン大火，ほか	目黒公郎（東京大学教授） 村尾　修（筑波大学大学院准教授）	目黒公郎（東京大学教授） 村尾　修（筑波大学大学院准教授）
第3部　各論：都市防災上の取り組みと事例の紹介				
11	都市の被害抑止対策	災害対応の循環体系（Disaster Life Cycle）の中の被害抑止の事例を通じて，その意義について理解する． 【キーワード】 被害抑止（Mitigation），建築基準法，耐震対策，活断層上の建築規制，脆弱性評価，被害想定と地域危険度評価，地震・災害保険，ほか	目黒公郎（東京大学教授）	目黒公郎（東京大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	被害軽減のための事前準備	災害対応の循環体系(Disaster Life Cycle)の中の事前準備の事例を通じて，その意義について理解する. 【キーワード】 防災教育，防災訓練，防災マニュアル，研修，自主防災組織，各地での取り組み，ほか	目黒公郎(東京大学教授)	目黒公郎(東京大学教授)
13	都市の復旧と復興	数百年という都市の歴史の中で災害・復興という過程は劇的な意味を持つ．災害対応の循環体系(Disaster Life Cycle)の中の復旧・復興の事例を通じて，その意義について理解する．シカゴ19世紀の大火，ロンドン，サンフランシスコ，東京などを事例に，東京の事前復興，神戸などの復興事例と難しさについても学ぶ. 【キーワード】 避難所，仮設住宅，震災復興，復興都市計画，台湾，スマトラ沖津波，，ほか	目黒公郎(東京大学教授) 村尾　修(筑波大学大学院准教授)	目黒公郎(東京大学教授) 村尾　修(筑波大学大学院准教授)
14	情報とコミュニケーション	災害時には適切な情報伝達の仕組みが重要である．また来るべき災害に備えるうえで各レベルでのコミュニケーションが欠かせない．ここでは情報伝達の仕組み，リスクコミュニケーションの必要性，情報技術を用いた各地での取り込みについて習得する. 【キーワード】 災害情報システム，リスクコミュニケーション，ハザードマップ，情報技術，GIS，GPS，啓発活動，行政無線，デジタル地上波，緊急地震速報，ほか	目黒公郎(東京大学教授)	目黒公郎(東京大学教授)
15	これからの都市防災	都市災害は都市の成長，社会の成長とともに進化する．21世紀を迎えた今，我々が考慮しておかなければいけない新たな災害とその対応について考える．また全15回にわたって行われた講義を総括する. 【キーワード】 地震動予測地図，テロ，静かな災害，地球温暖化，異常気象，水位上昇による影響，地球シミュレーター，ほか	目黒公郎(東京大学教授) 村尾　修(筑波大学大学院准教授)	目黒公郎(東京大学教授) 村尾　修(筑波大学大学院准教授)

＝　人間活動の環境影響（‘０５）＝（TV）

〔主任講師：　鈴木　基之（放送大学教授）　〕
〔主任講師：　原科　幸彦（東京工業大学大学院教授）〕

全体のねらい

人間と環境の相互の調和を図り、持続的な人間活動のあり方を考えていくためには、種々の人間活動が自然環境にどう影響を与えどれがどのように将来の人間生存に影響してくるのかを評価する必要がある。この講義においては多様な人間活動が与える環境へのインパクトの評価がどのように行われているのか、今後の持続的社会を構築する上でどのような考え方が必要かを理解する。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	人間活動の環境への影響	人間活動の環境影響を考える上で、環境問題として現れる種々の事象に関してその構造をどう考えるのかを理解する。すなわち、発生の原因となる事象・その事象の及ぼす環境への圧力・環境状態の変化・その人間活動などへの影響・我々側からの対応という切り口で理解する考え方を示す。また本講義の全体の流れについて解説を行う。	鈴木　基之（放送大学教授）	鈴木　基之（放送大学教授）
2	生態系アセスメント	人間による自然改変の影響は大きなものから小規模のものまでいろいろな面で散見される。ここでは米国のカリフォルニアにおける小河川を例にとり、その自然生態系回復の試みの実際に即して、住民・政府などの取り組み例を見てみよう。	鈴木　基之	鈴木　基之
3	世界水アセスメント	人間活動の増大の影響を受け、世界的に限られた水資源は量の不足、質の劣化の一途をたどり、健全な生態系を維持する上でも問題が生じている。水は乾燥地帯においては勿論、人口密集地域においても貴重な資源になりつつあるがその状況をどのように把握し、評価し、問題解決に役立てようとしているのかを示す。	鈴木　基之	鈴木　基之 /Andeas Szollosi-Nagy（UNESCO）
4	化学物質の生態系への影響ー水生態系の現状を中心に	多くの化学物質が環境中に排出され、そこに生息する生物に影響を与えている。直ぐに環境中で光や微生物により分解するものもあるが、長期間環境中に残留するものもある。我が国の水生態系の現状を示すと同時に、環境中に流出した化学物質が生物にどのような影響を与えているかを水生態系を構成する動植物を例に論ずる。	若林　明子（淑徳大学教授）	若林　明子（淑徳大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	化学物質の生態系への影響－化学物質の影響をどう評価・管理するか	個別の生物への影響は、その生物が構成している地域の生態系のバランスを崩し、時には不可逆的な生態系変化を与えることがある。生態系への化学物質の影響をどのように評価するか、どのように化学物質の与えるリスクを考慮し、その管理を行なっていくかを示す。	若林　明子	若林　明子
6	産業活動の環境影響－ライフサイクルアセスメント（ＬＣＡ）の考え方とその方法	「ライフサイクルアセスメントの考え方」工業製品を設計・製造するに当たりその原料調達の段階から廃棄の段階までの環境に与える影響を評価するという目的でライフサイクルアセスメント（LCA)という考え方が導入された。この諸段階における環境影響をどのように評価しているか一般的な手法と企業での実施例を示す。	稲葉　敦（東京大学教授）	稲葉　敦（東京大学教授）
7	産業活動の環境影響－ＬＣＡの企業での活用	現在の環境影響の評価に用いているライフサイクルインパクト解析は如何に未熟で不完全であるかを考察しながら、なおこの方法の有用性を各企業などの活動に生かされている実例を紹介しながら示していく。	稲葉　敦	稲葉　敦
8	産業活動の環境影響－ＬＣＡにおける環境影響の統合化手法	ライフサイクルインパクト解析がより進んでいくと、産業活動から人間が受けるベネフィットと環境インパクトのバランスを考えることが可能となるであろう？その際に種々の環境へのインパクトをどのように統合的にアセスすることが可能なのか、多様性、異質性を含み、時間軸が異なる環境影響をＬＣＡではどのように統合評価しているかを解説し、その限界について述べる。	稲葉　敦	稲葉　敦
9	諸事業の環境インパクト評価－環境影響とその緩和	土木事業など、大規模な土地利用改変に伴う環境影響が過去においてどのような問題を引き起こすことになったか、大都市を事例に考察する。問題解決には人間活動の管理という考えが必要で、持続可能な発展のための主要手段が環境アセスメントであることを環境政策の変遷もたどりながら考えて行く。	原科　幸彦（東京工業大学大学院教授）	原科　幸彦（東京工業大学大学院教授）
10	諸事業の環境インパクト評価－環境アセスメントにおける科学的手法としてのシステム分析	現在の「環境アセスメント」という行政手法には科学性と民主性が必須条件であるが、まず科学性を満たすための方法論的基礎として、システム分析があることを学ぶ。目的の定式化、現状分析、代替案作成、予測、評価、解釈という６段階のステップがアセスではどのように進むかを理解する。	原科　幸彦	原科　幸彦

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
11	諸事業の環境インパクト評価－環境アセスメントにおける住民参加	民主性はシステム析を社会に開かれたものとして行うために必要である。このプロセスに住民がどのように参加していくことになるのが望ましいのか。現状から将来への展望と住民の価値観を如何に科学的な世界と整合化できるか、環境影響を住民の個別の要求とどのように整合させて行くことが必要か。	原科　幸彦	原科　幸彦
12	諸事業の環境インパクト評価－環境アセスメントにおける代替案評価	環境影響の評価と事業自体が生むと考えられる利便の両者を如何にしてバランスさせるか。マクロな観点で行われる長期的なコスト・ベネフィット・リスクの評価と管理、ミクロな住民の視点との整合性をどのように考えて行くことが必要かに関する考え方を示す。	原科　幸彦	原科　幸彦
13	諸事業の環境インパクト評価－戦略的アセスメント	事業よりも上位の計画や政策段階での環境配慮の手段として注目されている「戦略的環境アセスメント（SEA）」とは何か、世界の事例を紹介し、今後の方向、そこにおける「人間活動の環境影響の評価方法」のあるべき形を考察する。SEAは国際協力の分野でも重要になっている。	原科　幸彦	原科　幸彦
14	環境影響の地球的つながり	地球上では、生物種が急速に絶滅に至っている。特に生物多様性が危機に瀕している地域をホットスポットと呼ぶが、「ハンバーガーコネクション」を例にとり、我々の日常的な生活の中での行動がどのように世界的な環境問題につながっているのかを示す。	鈴木　基之	鈴木　基之 /Norman Myers
15	アセスメントの概念・まとめ	持続的な人間・環境系を設計する上での環境評価の重要性を再確認し、2000-4年の間に行なわれたミレニアム生態系アセスメントを紹介し、統合的なアセスメントの一例とする。本講義の全体をまとめ、アセスメントと重要性を認識する。	鈴木　基之	鈴木　基之 /Zakri Hamid

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	総合科目	科目コード	看護1545302 その他1644408	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　日本のマスメディア（‘07）＝（R）

〔主任講師（現職名）：柏倉　康夫　（放送大学教授）　〕
〔主任講師（現職名）：佐藤　卓己　（京都大学大学院准教授）〕
〔主任講師（現職名）：小室　広佐子（東京国際大学准教授）　〕

講義概要

『日本のマスメディア』では19世紀以降に発展をとげた日本の新聞、雑誌、ラジオ、テレビといったマス・コミュニケーション手段の特質と、それが日本の社会にもたらした変革に焦点をあてて論じる。各メデイアが発達した現在、マスメディアが社会にとって重要なことがらを決定する力、いわゆる「アジェンダ決定能力」の大きな部分を担っているといわれる。私たちの社会のあり方を考察する上で、マスメディアの本質を理解することは決定的に重要である。授業では歴史的視点を重視しつつ、マスメディアの過去と現在を分析する。

授業の目標

私たちは日々、情報の洪水にさらされている。その多くはマスメディアを通して流されるもので、そうした情報の真偽を検証するには、個々の「メディア・リテラシー（メディアを読み解く能力）」、とりわけ新聞やテレビが伝える内容を批判的に読み解く能力を高める必要がある。
１５回の授業では、日本社会のあり方を左右した歴史状況を取り上げて、そこにメディアがどうかかわったかを検証する。この作業を通して「マスメディアに強くなる」ことを目標とする。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	マスメディアの現在	20世紀後半に登場したパーソナル・コンピュータとそれをつなぐネットの発展は、私たちの情報環境を一変させた。これによってパーソナル・コンピュータはコミュニケーションの道具と考えられるようになり、閉鎖的な空間は一気に世界と結びつくことになった。当然こうした変化は、19世紀以来発展し続けてきた新聞、雑誌、ラジオ、テレビといったマスメディアの機能と役割に大きな変化をもたらさずにはいない。講義の第一回は、21世紀の情報環境を概観し、今日マスメディアが直面する課題を検討する。	柏倉康夫（放送大学教授）	柏倉康夫（放送大学教授） 佐藤卓己（京都大学大学院准教授） 小室広佐子（東京国際大学准教授）
2	新聞の誕生―「かわら版」から「新聞」へ	江戸時代末期、世の中の情報は口から口へと流布され、一方で「かわら版」が事件や災害、奇譚などを伝えて庶民の好奇心を満たした。こうした「書きジャーナリズム」は、明治になって登場した英字新聞や日刊新聞の誕生で一変する。この回は黎明期の新聞のあり方を検証する。	柏倉康夫（放送大学教授）	柏倉康夫（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
3	ジャーナリズムの成立―報道か論説か	ジャーナリズムとしての新聞は、英国人ジョン・ブラックが創刊した「ジャパン・ヘラルド」や「日新真事誌」がさきがけとなり、やがて自由民権運動の台頭とともに新聞も隆盛をみた。その間、新聞の機能をめぐって「報道」か「論説」かの議論がおき、加えて権力の側は「新聞紙条例」で表現の自由を制限しようとした。言論機関としての新聞の役割を考える。	柏倉康夫(放送大学教授)	柏倉康夫(放送大学教授)
4	多メディア時代の新聞―ライバル・メデイアの出現	日本の新聞は戦争とともに読者を増やした。日露戦争の結果、新聞社は積極的に戦争報道に乗り出し、その結果1924年には発行部数が100万部をこす新聞が出現した。だがその翌年のラジオの出現は、新聞にとって速報競争の点で大きな脅威となった。多メディア時代を迎えた新聞の戦略をとりあげる。	柏倉康夫(放送大学教授)	柏倉康夫(放送大学教授)
5	戦時下の新聞報道	第二次世界大戦は、国民すべてを巻き込んだ総力戦であり、影響力の大きいマスメディアは当然のことながら、戦時体制に組み込まれることになった。情報は統制され、新聞各社の記事の独自性は次第に狭められていった。この回では、新聞を含めた戦時下の日本の言論体制を論じる。	柏倉康夫(放送大学教授)	柏倉康夫(放送大学教授)
6	新聞は誰のものか	戦後日本のマスメディアは、アメリカの占領政策のもとで大きくさま変わりした。GHQの関心は新聞、雑誌、ラジオなど、あらゆるメディアに及んだが、とりわけ影響力の大きい新聞のあり方が問題とされた。その過程で「編集権」をめぐる論議が起き、これをきっかけに新聞の経営主体が明確化され、新聞社の寡占体制が確立された。この経緯を取りあげる。	柏倉康夫(放送大学教授)	柏倉康夫(放送大学教授)
7	雑誌メディアの成立―国民化と広告化	マス・メディアとは「広告媒体」の意味で使われ始めた言葉である。新聞や放送と比べて広告規制が少ない雑誌は、大衆社会において純粋メディアの性格を備えている。新聞と雑誌の曖昧な関係を新聞紙法と出版法の定義から考察し、日本における雑誌の源流『西洋雑誌』(1867年創刊)にさかのぼって概観する。明治期に雑誌が国民文化形成に果たした役割を、近代的出版社・博文館と広告代理店・博報堂を通じて検討したい。	佐藤卓己(京都大学大学院准教授)	佐藤卓己(京都大学大学院准教授)
8	国民雑誌の公共性―動員=参加のメディア	第一次世界大戦後、都市的な大衆文化が花開いた。普通選挙法が成立し、ラジオ放送が始まった1925年(大正14年)、日本初の百万雑誌『キング』が大日本雄弁会講談社によって創刊された。「大衆」という言葉が「マス」の意味で使われるようになったのも、同じ時代である。この国民雑誌を中核とする「講談社文化」が大衆政治に与えた影響は絶大である。大衆雑誌が担った大衆ナショナリズムの機能を、「岩波文化」と称された教養主義エリート文化との関係から考察する。	佐藤卓己(京都大学大学院准教授)	佐藤卓己(京都大学大学院准教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
9	戦時体制と言論統制	15年戦争の時代は「出版暗黒時代」とみなされている。確かに、左翼機関誌は姿を消し、自由主義雑誌も厳しい検閲にさらされた。しかし、日中戦争勃発による戦争景気の中で婦人雑誌や少年少女雑誌を含む雑誌の売り上げは急増を続けた。1941年(昭和16年)の対米戦争は「出版バブル」に沸く高揚感の中で開始された。雑誌メディアの戦争責任を考えるならば、「言論弾圧」のみを強調するだけでは不十分である。言論統制の実態を直視することで、女性の社会参加や少国民の政治化も促進した戦時雑誌の機能も再検討しなければならない。	佐藤卓己(京都大学大学院准教授)	佐藤卓己(京都大学大学院准教授)
10	情報化の中の細分化メディア	敗戦直後、総合雑誌とともに数多くの「カストリ雑誌」が生まれた。しかし、戦後の世論を組織したのは、新たに台頭した大衆週刊誌であった。激しい社会変動は雑誌刊行の主流を月刊から週刊へと加速化し、また高度経済成長が実現した消費社会の中でカタログ雑誌が続々と創刊された。しかし、インターネット普及とともに、戦後拡大の一途をたどった雑誌市場も衰退局面を抑えている。電子ジャーナルやメール・マガジンなど新しい試みも注目されている。	佐藤卓己(京都大学大学院准教授)	佐藤卓己(京都大学大学院准教授)
11	ラジオが主役だった時代	大正天皇の大葬儀、昭和天皇の御大礼などのメディア・イベントを通じて、ラジオ放送は国民に広く普及した。2.26事件の「兵に告ぐ」、戦時中の大本営発表、終戦の「玉音放送」などがラジオ史の一こまとして記憶されるが、ラジオは必ずしも誕生時に報道としての機能が期待されたわけではなかった。ラジオが主役だった時代に持ち合わせた役割を検証する。	小室広佐子(東京国際大学准教授)	小室広佐子(東京国際大学准教授)
12	テレビ―現実を映す鏡という神話	テレビ報道の一面性を、戦争報道を通して描く。ベトナム戦争は、「テレビに映し出された最初の戦争」といわれたが、のちの湾岸戦争では開戦の模様が衛星生中継され、戦闘を同時進行で体験したような錯覚を視聴者に与えた。さらに10年後のイラク戦争ではアメリカ発の映像だけでなく、中東のもう一方の側から見た映像が送られ、日本で見ているテレビ映像は一方的にきりとられた映像であったことを私たちに気づかせた。	小室広佐子(東京国際大学准教授)	柏倉康夫(放送大学教授) 小室広佐子(東京国際大学准教授)
13	ゆらぐ取材倫理	記事の捏造、倒錯、語法、過剰な映像演出による「やらせ」、集中的な過熱取材など、新聞記事や放送番組、ひいてはマスメディアそのものの信頼性をそこなう事態が相ついでいる。背景には、取材機材の進化も手伝い、マスメディアにますます速報性がもとめられ競争が激化し、「特ダネ」が伝え手の大きな関心事になっているという事情もある。そうした時代に求められる取材倫理について考える。	小室広佐子(東京国際大学准教授)	小室広佐子(東京国際大学准教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
14	放送と通信の融合	放送と通信は別の技術体系として異なる産業が担って発展し、異なる法律・役所の預かるところで、研究領域としても別個のものであった。しかし道具(ツール)としての放送と通信の融合は現実のものとなっている。マスメディアとしての放送とパーソナルなメディアとしての通信の融合は、日本のマスメディアにどのような変革をもたらすのか、マスメディアの将来像を論じる。	小室広佐子(東京国際大学准教授)	小室広佐子(東京国際大学准教授)
15	マスメディアとどう向き合う―メディア・リテラシー―	これまでの講義で明らかになった、マスメディアには語法や捏造という個々の記事、番組レベルの誤りがあるだけでなく、時の権力による統制があり、あるいはメディア自身による自己規制がある。またメディアはそもそも現実の一部しか伝えることができないことも見てきた。こうした幾重にも重なる制限の中で表現されたマスメディアを読み解くにあたり、私たちはどうしたら賢い読者、視聴者になれるのかを、3人の講師とともに考える。	小室広佐子(東京国大大学准教授)	柏倉康夫(放送大学教授) 佐藤卓己(京都大学大学院准教授) 小室広佐子(東京国際大学准教授)

＝ ギリシャ哲学（‘０３）＝（Ｒ）

〔主任講師：　天野　正幸（東京大学教授）〕

全体のねらい

哲学（philosophy）の濫觴は古代ギリシャの「知恵の愛求」（philosophia）であるが、古代ギリシャにおいて「知恵の愛求」はどのように生まれ、成長したのか。それを解き明かし、哲学をその原点に立ち帰って理解するための手懸りを提供すること、それが本講義の全体のねらいである。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	ソクラテスの「知恵」（『ソクラテスの弁明』）	プラトンの『ソクラテスの弁明』を手懸りにして、哲学者ソクラテスにとって「知恵の愛求」としての哲学とは、あるいは彼が愛求した「知恵」とは、どのようなものであったかについて考察する。	天野　正幸（東京大学教授）	天野　正幸（東京大学教授）
2	ソクラテスのエレンコス（プラトン初期対話篇）	プラトンの初期対話篇を手懸りにして、ソクラテスがおこなった「知恵の愛求」の活動としてのエレンコス（論駁）とはどのような議論であったかを具体的に紹介し、ソクラテスの「知恵の愛求」について考察する。	同　上	同　上
3	プラトンは超越的イデア論者か	プラトンのイデア論は、彼の弟子のアリストテレス以来、「超越的イデア論」と一般に理解されているが、このような理解には問題があり、むしろ「仮説的イデア論」と理解すべきである、ということを明らかにする。	同　上	同　上
4	仮説的イデア論（『パイドーン』）	『パイドーン』において初めて一個の理論として提示された「仮説的イデア論」について、それはどのような理論であるかを紹介し、その内容について詳しく考察し、プラトンのイデア論の実体を明らかにする。	同　上	同　上
5	善のイデア（『国家』）	『パイドーン』において確立された仮説的イデア論は『国家』において善のイデアの導入によって発展させられたが、その『国家』における仮説的イデア論について、「太陽」・「線分」・「洞窟」の譬喩を手懸りにして考察する。	同　上	同　上
6	イデア論の再検討（『パルメニデス』）	『パルメニデス』においてプラトン自身がおこなったイデア論の批判的再検討を紹介し、『パイドーン』において確立された仮説的イデア論の問題点を明らかにするとともに、プラトン自身の解決の方向について考察する。	同　上	同　上
7	「エピステーメー」概念の再検討Ⅰ（『テアイテートス』）	『テアイテートス』においてプラトンがおこなった「エピステーメー」概念の徹底的な再検討を２回にわたって取り上げる。今回は、感覚はエピステーメーではないということを示す議論の意義について考察する。	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
8	「エピステーメー」概念の再検討Ⅱ（『テアイテートス』）	前回に続き、『テアイテートス』における「エピステーメー」概念の再検討を取り上げる。今回は、ドクサにある限定を加えたものがエピステーメーだという考え方を批判する議論を紹介し、その意義について考察する。	天野　正幸	天野　正幸
9	分割法（『ソフィステース』『ポリーティコス』）	『ソフィステース』において新たに導入された「分割法」を紹介し、この方法について考察する。また、「分割法」は『ポリーティコス』、『ピレーボス』においてどのように評価されるようになったかについても考察する。	同　上	同　上
10	イデアのコイノーニアー（『ソフィステース』）	『ソフィステース』において、虚偽の言明がいかにして成立し得るかを説明するために導入された「イデアのコイノーニアー（結合あるいは分有）」という考え方を紹介し、その意義について考察する。	同　上	同　上
11	アリストテレスにとっての「哲学」（『形而上学』）	『形而上学』第１巻第１・２章における「知恵」の規定および第４巻第１・２章における哲学の規定を手懸りにして、アリストテレスにとって「知恵の愛求」としての哲学とはどのような学であったかを考察する。	同　上	同　上
12	「ト・オン・レゲタイ・ポラコース」（『形而上学』）	アリストテレスの存在論の根本前提である「ト・オン・レゲタイ・ポラコース」（「あるもの」は多義的である）というテーゼについて、『形而上学』第５・６・７巻を手懸りにして、その意味と意義を解説する。	同　上	同　上
13	本質をめぐる議論Ⅰ（『形而上学』）	アリストテレスの形而上学の精髄とも言うべき『形而上学』第７・８・９巻について、２回に分けて講義する。今回は、実体の存在の原因としてのウーシアーを取り上げ、ウーシアーの候補である基体と本質について解説する。	同　上	同　上
14	本質をめぐる議論Ⅱ（『形而上学』）	前回の続きとして、本質の定義をめぐるアリストテレスの議論を紹介し、「定義は質料への言及を含むか」、「定義の対象はいかにして単一であるか」、「本質（形相）は普遍か個物か」、という問題について考察する。	同　上	同　上
15	論証理論（『分析論後書』）	本講義の締めくくりとして、アリストテレスにとっての厳密な意味での「知（エピステーメー）」の概念とその獲得法としての「論証」について、『分析論後書』に基づいて解説する。	同　上	同　上

＝　自己を見つめる（‘０２）＝（Ｒ）

〔主 任 講 師：　渡邊　二郎 (放送大学名誉教授)〕

全体のねらい

人生の現実のなかに立って生きる自己自身を見つめてみたい。公共的な学問の世界では扱ってくれないが、しかし私たちが実際にこの世の中を生きていくときに深く実感する人生論的な諸問題を取り上げてみたい。哲学的な人間論のひとつの試みを行うのが狙いである。

回	テ ー マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	経　　験	人生の現実は、経験してみなければ分からない。ひとは、それぞれ、さまざまな人生経験をして生きる。経験するとは、いったい、どういうことなのであろうか。	渡邊　二郎（放送大学名誉教授）	渡邊　二郎（放送大学名誉教授）
2	時　　間	経験の蓄積は、時間のなかで行われる。起こった出来事を経験し、それを苦い思いとともに、記憶する。しかし、次に来るべき新しい未来に期待をつなぐ。こうした時間の流れのなかで人生を生きる。	同　上	同　上
3	境　　遇	そのとき、それぞれの人は、異なった境遇と環境のなかを生きる。生まれ育った境遇、それぞれのかけがえのない人生、それらはみな、変えようのない宿命を帯びた状況のなかにある。そのなかで、人生の営為は行われる。	同　上	同　上
4	遍　　歴	ひとは、みな、そうした境遇のなかで、それぞれなりの人生遍歴をする。そのなかで、ひとは磨かれ、また変貌する。長い旅路と遍歴のなかで、来し方と行く末を思うことが、生きることの実態をなす。	同　上	同　上
5	自　　己	そのようにして生きているのが、かけがえのない自己である。自己自身を見つめ、引き受け、そのなかで人生の充実を図ることが、生きるということである。	同　上	同　上
6	生　き　甲　斐	ひとはみな、生き甲斐を求める。それなりに、生きる目標、役割、意味を見定めなくては、人生設計は成り立たない。しかし、たんに目的を設定しただけでは、生き甲斐は達成されない。ほんとうに生きた甲斐のあった人生が大切。	同　上	同　上
7	仕　　事	そのためには、仕事をしなければならない。人生は、仕事に尽きるとも言える。仕事と課題、任務と役割を果たすこと、これが、それぞれの持ち場での大切な使命となる。	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
8	孤独	人生の途上で襲ってくる最も痛切な実感は、孤独ということであろう。むろん、誰もが共同社会のなかで生きている以上、まったくのひとりということはありえない。そうではなく、そうした共同存在のなかでの孤独の実感が人生の真実であろう。	渡邊　二郎	渡邊　二郎
9	愛	ひとは、愛を求める。愛する人を大切にしたい。また、みずからも愛の交わりを求めている。これが、人間の真実であろう。愛と人生は切り離しがたいものである。	同　上	同　上
10	他者	他者こそは、人生の謎である。不可解な、捉えがたい他者とともに、この人生を送らなければならないことほど、人を苦しめるものはない。自己と他者の問題こそは、人生の最大の難問である。	同　上	同　上
11	世間	世の中の動きは、見通しえないものをもつ。不特定の世間一般の動向が、個人の生き方を左右する力をもつようになった。日本では特に、世間や世の中の動きに注意し、それに順応して生きることが求められる。大勢順応と事大主義が、人生の前景をなす。	同　上	同　上
12	運命	ひとは、長い人生行路を生きるとき、やむをえない運命、変えることのできない宿命、そうした限界のある、非力な自分を自覚する。自己の人生の意識は、自己の運命の意識でもある。運命意識が、自己の根底に伏在する。	同　上	同　上
13	不幸	ひとが、人生の過程のなかで発する問いは、結局、自らの不運と不幸の宿命についての疑問であろう。ひとは、幸福と、幸多き人生、この世の至福を希求する。しかし、それは何を意味するのであろうか。	同　上	同　上
14	老い	人生の宿命は、老いの宿命でもある。年輪を加え、老成し、年老いてゆくのが、人間の宿命である。もはや、繰り返せぬ一回きりの人生は、こうして、成熟し、円熟し、やがて枯れてゆく運命を免れがたい。	同　上	同　上
15	死	老いの果てに見えるものは、死である。むろん、若い人も、突然、病に襲われて死ぬことがある。事故死もある。しかし、一般には老いとともに死が訪れる。この死によって人生は終わる。死こそは、人生の重大事件である。	同　上	同　上

＝　仏教の思想（‘０５）＝（Ｒ）

〔主任講師：　木村　清孝（国際仏教学大学院大学教授）〕

全体のねらい

約２５００年に及ぶ歴史の中で、仏教は、思想的・文化的に多様化しながら、アジア地域を中心に世界各地に広まり、現在に至っている。本講では、その仏教の思想的変容のすがたとそれがもつ意味を明らかにしていきたい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	仏教の成立	仏教は、約２５００年前に、北インド（現在のネパール）の釈迦族の王子として生まれたゴータマ・シッダッタがブッダ（悟った人）となって開いた教えである。ここでまず、そのブッダ出現の背景、ブッダの生涯、ブッダの立場、その教えの特徴などについて学ぼう。	木村清孝（国際仏教学大学院大学教授）	木村清孝（国際仏教学大学院大学教授）
2	部派仏教の展開	ブッダの死後１００年ないし２００年後のアショーカ王の時代に、仏教教団は大きく二派に分かれた。以後、さらに両派ともに細分化していったが、それらの諸部派ではそれぞれ独自にブッダの教えの究明が行われ、その中で多くの思想的成果が生み出された。ここでは、それらの諸点を明らかにしよう。	同　上	同　上
3	仏教の革新―大乗仏教―	ブッダの時代から３００～４００年を経た西暦紀元前後になると、「智慧」と「利他」を最大の眼目とする新しい仏教運動が起こってきた。大乗仏教である。ここでは、初期大乗仏典のいくつかを取り上げ、実際にその一部を読みながら大乗仏教の特徴を学んでいこう。	同　上	同　上
4	中観派とその思想	大乗仏教の発展に伴って、その哲学的な考察も次第に深まっていった。ここでは、大乗の「空」の思想の理論的基盤を築いたナーガールジュナ（龍樹）とその継承者たちの思想的営為や「空」の意味について考えよう。	同　上	同　上
5	瑜伽行派の形成と展開	「空」の思想は、知と存在の本質をあらわにしたが、現実の世界がなぜ成り立つのか、修行にはどういう意味があるのかといった問題に充分に答えることはできなかった。これらの点を解明し、世界を意識の所産とみなすのが瑜伽行派である。ここでは、この派の形成・展開とその思想の特徴を学ぼう。	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
6	大乗から密教へ	大乗仏教はやがて、凡夫と仏との一体性を強調する如来蔵思想を生み出した。さらにこのことが媒介となって、インド固有の思想・信仰と融合した、新大乗仏教ともいえる密教が誕生した。ここでは、この動きの背景と経緯を検討するとともに、密教の諸性格について考察しよう。	木村　清孝	木村　清孝
7	テーラヴァーダ仏教の伝統	かつてアショーカ王の頃に分裂した仏教教団のうちの保守派をテーラヴァーダ（上座部）という。この流れは、スリランカ・タイなどに伝わり、今もおおむねその伝統を維持している。ここでは、その伝統を概観するとともに、現代という時代にそれがもつ意義についても学んでいこう。	同　上	同　上
8	仏教東漸―中国仏教の形成―	仏教は、いわゆるシルクロードを通って西暦紀元前1世紀頃から中国に伝わっていたが、仏典の漢訳・紹介を伴って本格的に伝来するようになったのは、2世紀の後半からである。ここでは、仏教東漸の実際と、それに根ざして中国仏教が独特の性格を持ち始める状況について考えよう。	同　上	同　上
9	「新仏教」の展開	隋・唐代に至って中国仏教は、社会的には天台宗・華厳宗・禅宗などの学派・宗派に分立しつつ、総じて「新仏教」と呼ぶことができる一大勢力を形成するが、やがて諸宗融合、三教合一へと方向を逆転する。ここでの主題は、その間に生み出された思想的・文化的諸成果の分析・検討である。	同　上	同　上
10	韓国（朝鮮）の仏教	韓半島（朝鮮半島）には4世紀の後半から仏教が伝わり始め、次第に独自の仏教を育て上げ、今日に至っている。とくに古代の日本仏教は、韓国仏教に負うところが大きい。ここでは、その韓国仏教を概観し、インド仏教などと比較しながら、それがもつ思想的特徴について学ぼう。	同　上	同　上
11	日本仏教の濫觴	日本に初めて仏教が伝来したのは、記録の上では6世紀の前半である。しかし、それから約半世紀、聖徳太子が現れるに及んで、仏教は政治の上でも大きな意味をもつものとなった。ここでは、聖徳太子と仏教との関わりを中心に、奈良時代までの日本仏教のすがたを明らかにしていこう。	同　上	同　上
12	平安仏教の形成と展開	平安時代に入ると、仏教界にもさまざまな新しい動きが生まれた。中でも、最澄・空海による天台・真言両宗の移入と定立は、大きな意味をもつ。また、中―後期に至り、無常感の深まりとともに浄土教が興隆してくることも重要である。ここでは、この平安仏教の動きについて考察しよう。	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
13	「鎌倉新仏教」の出現	貴族社会から武家社会への変化に伴って、鎌倉時代には民衆の救済を眼目とする新しい仏教諸派が現れた。それらを総称して「鎌倉新仏教」という。他方、伝統仏教界にも革新の運動が芽吹いた。ここでは、いわゆる「鎌倉新仏教」とその周辺の諸問題を明らかにしよう。	木村　清孝	木村　清孝
14	近世・近代の日本仏教	近世から近代にかけて、仏教は極度に民衆化・世俗化が進み、本来の精神を失っていく。江戸時代には、檀家制度などによって全体として幕藩体制に組み込まれ、明治維新後には神仏分離令の洗礼も受けた。ここでは、現代の日本仏教のあり方を準備したともいえる時代の仏教を検証していこう。	同　上	同　上
15	仏教の現在と未来	現在、仏教は世界に広まり、その諸教団の国際活動もかなり盛んである。ユダヤ教・キリスト教とイスラム教との激しい対立の中で、仏教に期待する声も少なくない。ここでは締めくくりとして、現代の仏教を総括するとともに、仏教思想がもつ可能性を展望しよう。	同　上	同　上

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	専門科目	科目コード	1550209	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 日本の思想 （’０８）＝ （R）

〔主任講師（現職名）：清水　正之（東京理科大学教授）〕

講義概要

日本の思想は、大陸あるいは朝鮮半島を経由して、受容されたその時々の先進文明や文化を、自らのものとするという宿命をもって、作り上げられてきた。そこにはおのずから、異文化をとりこみ独自の形で、展開させるという事態をともなった。古来の習俗は、仏教・儒教の受容、あるいはまたキリスト教や蘭学という西洋の文化とも対峙しながら、近代化へとつづく。本授業は、この日本を場として展開してきた諸思想を、哲学・倫理思想史的な観点から総覧し、日本の思想とはなにか、その展開、特質を考えてみる。日本の思想はまた、時代のなかでの論争、あるいは時代をこえた過去の参照によっておりなされてもいる。その点もとくに学びの対象としたい。

授業の目標

日本の思想という領域で知っておくべき基本的な文献、あるいは思想の基本的な知識を得ると共に、それらを素材に、思想史的な観点から、日本の思想の歴史を見る眼を育てる。本授業では、この日本を場といして展開してきた諸思想を、哲学あるいは倫理の観点から広く学び、日本の思想とはなにか、その内容、特質を考えてみる。日本の思想はまた、時代のなかでの論争、あるいは時代をこえて過去の思想を参照することで作り上げられてきた。私たちの現在を考えるためにも、日本の思想の歴史から多くの手がかりをえられる。とくにその点を重視してみたい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	神話の思想 －日本の地理的位置と自己意識の成立－	日本の思想の研究といわれるものは、明治期に始まったといえる。日本の思想を学問的に研究することの意味、なにを対象とするかを考える。また、中国史書等、他者のまなざしによって描かれた日本という状況から、自らの自己意識をもつにいたった経緯を古代の思想、とくにいわゆる神話の思想から考える。 【キーワード】 倭、古事記、日本書紀、古神道	清水　正之（東京理科大学教授）	清水　正之（東京理科大学教授）
2	上代歌謡と『万葉集』にみる「古代の思想」	古代の思想を、記紀の歌謡、また万葉集の歌を中心に考える。また神道の祭祀・祝詞等にもふれる。 【キーワード】 記紀歌謡・万葉集	同上	同上
3	仏法の伝来・受容 －古代の仏教－	公式の仏教の伝来よりも前に、渡来人によって私的な信仰の対象として伝わっていた仏教。この異国の「神」をめぐって、日本の思想は新たな展開を示す。東アジアのなかでの日本仏教の特質、仏教以前の日本の宗教などとの関係も含め考察する。また奈良平城京の南都仏教、民間布教をした行基などの事績から古代仏教の展開と思想をみる。 【キーワード】 聖徳太子、排仏と崇仏、日本霊異記、南都仏教	同上	同上
4	平安仏教の思想 －最澄と空海－	平安仏教の基礎を築いた最澄と空海をとりあげ、奈良仏教との対立の意味、古代仏教のあらたな展開とその思想をみる。 【キーワード】 最澄、空海、密教	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	王朝の文化と思想 －国風文化の感性の表現－	遣唐使の廃止は、日本の国風文化の発達をうながす。その時代を背景に和歌等を通じて美意識が形成される。それは後世にも影響を与えている。その背景と思想を考える。 【キーワード】 和歌と漢詩、仮名の発明、土佐日記、紫式部	清水　正之 （東京理科大学教授）	清水　正之 （東京理科大学教授）
6	歴史物語・中世歴史書にみる思想 －貴族の栄華と武士の登場－	武士の歴史への登場は、貴族に変わるあらたな時代の担い手の登場を意味した。そうした王朝から武士の時代の転換をしめす時代の変化をうかがうことの出来る作品から、思想史の論点をさぐる。 【キーワード】 大鏡、四鏡、愚管抄、神皇正統記	同上	同上
7	浄土教と鎌倉仏教の思想	平安人の心に徐又に浄土への希求がめばえる。浄土教の浸透とその中から芽生えるあらたな仏教思想の展開の意味を考える。浄土信仰をきっかけに展開した鎌倉仏教の思想を、その祖師たちに焦点をあててみていく。 【キーワード】 浄土信仰、念仏、法華信仰、禅、鎌倉仏教	同上	同上
8	室町文化と芸道論	室町時代の文化の背景にあるものは禅などの仏教的世界観の新たな受けとめ方と、その芸術等への影響であった。歌道・能楽・茶道の背景にある思想、室町文化の諸相を探る。 【キーワード】 幽玄、わび・さび、徒然草、能狂言	同上	同上
9	近世の学問と思想	日本と西洋文化の出会いは、中国的な文化の圏内にあった日本文化への衝撃でもあった。キリシタンの伝来とその意味、また武士的なものの時代変化、近世学問の生成の背景などを考えてみる。 【キーワード】 デウスの信仰、切支丹、朱子学、林羅山、武士と近世	同上	同上
10	儒教の展開：朱子学と反朱子学	江戸幕府は儒教の一派朱子学をもって公式の学問とした。他方ではやくも17世紀には朱子学への批判的立場をとる思想が形成される。その後の儒教は多彩な展開をとげる。その思想的展開の概略を学び、その意味を考える。 【キーワード】 貝原益軒、伊藤仁斎、徂徠	同上	同上
11	国学の思想とその周辺	国学という思想の形態は、本居宣長でまずは完成するが、その淵源と展開を追いながら、主要な学問であった儒教あるいは仏教との関係を考える。 【キーワード】 国学、本居宣長、賀茂真淵、平田篤胤	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
12	農民・町人の思想および蘭学	支配階級である武士の思想に対して、身分制度の上では下位におかれた農民・町民からも独自の思想がうまれた。それらから代表的な思想を概観する。一方、蘭書の解禁によって、知的好奇心は西洋の文物にむかう。蘭学の知識は、日本の近代化に貢献した。 【キーワード】 心学、二宮尊徳、新井白石、蘭学	清水　正之（東京理科大学教授）	清水　正之（東京理科大学教授）
13	近代日本の思想1	開国は、西洋化という近代化を目標としたあらたな文化・思想の構築の開始であった。啓蒙主義をはじめ、西洋に範をとる思想を受容することで、思想史はあらたな展開をしていく。その過程を振りかえる。 【キーワード】 文明開化の思想、明六社、福沢諭吉、学問のすゝめ	同上	同上
14	近代日本の思想2	明治及び明治以降の思想は、公と私の相克という視点からとらえることができる。キリスト教、社会主義、大正デモクラシーと、その中での個人の思想家を中心に学ぶ。 【キーワード】 キリスト教、社会主義、大正デモクラシー、国民道徳論	同上	同上
15	日本近代の哲学	とくにこの回では、近代日本の哲学的思索・思想を代表的思想家をとりあげて、ふりかえってみたい。また、これまで学んだ日本の思想史と哲学の関係を、考え、日本の思想を学ぶ意味をあらためてふりかえっておきたい。 【キーワード】 西田幾多郎、和辻哲郎、日本思想史研究の意味と方法	同上	同上

＝　日本語の歴史（‘０５）＝（Ｒ）

〔主任講師：　近藤　泰弘（青山学院大学教授）〕
〔主任講師：　月本　雅幸（東京大学大学院教授）〕
〔主任講師：　杉浦　克己（放送大学准教授）〕

全体のねらい

古代から現在に到る日本語の変遷の実態を明らかにし、過去の日本語に対する基本的な知識と理解を与えることを目的とする。そして現在の日本語の諸問題や広く日本文化全体の理解にも資するように配慮する。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	漢字の移入	上代の日本に漢字が伝わることによって、初めて日本語を文字によって記録することが可能になった。漢字移入の時期・実態・影響について実例を挙げながら述べ、併せて他の言語の文字を日本語に適用する際の問題点についても考える。	杉浦克己（放送大学准教授）	杉浦克己（放送大学准教授）
2	奈良時代の日本語　音韻・語彙・文体	奈良時代には中国の影響を受けて文化が発展し、『万葉集』所収の歌が詠まれ、また『古事記』『日本書紀』などの文献が編まれるようになる。これらの文献から奈良時代の日本語の姿を見ると、そこには後世と大きく異なった点があることが分かる。音韻などについてそれを考える。	同上	同上
3	奈良時代の日本語　文法	奈良時代の日本語の文法体系は平安時代のものとは大きく異なっており、形容詞の活用など、まだ十分に発達していないものもあった。実例と共にその実態を概観する。	同上	同上
4	平安時代の日本語　文字・音韻	平安時代に入ると次々に日本語の歴史にとって重要な変化が発生する。平仮名・片仮名の発生がその一つであり、また種々の音韻変化は表記の多様性をもたらして仮名遣いの問題が発生する。これらについて考える。	月本雅幸（東京大学大学院教授）	月本雅幸（東京大学大学院教授）
5	平安時代の日本語　語彙・文体	平安時代には奈良時代と比べると和語による表現が多彩になり、漢語も急速に浸透して行った。また、平仮名・片仮名による新しい文体が作り出され、多様な文体によって多くの文章が書かれるようになった。そのあり方を概観する。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
6	平安時代の日本語　文法	平安時代には形容詞の活用の完成、助動詞の発達など文法上の重要な変化が起こった。長く後世から規範とされた平安時代語の文法の特徴を明らかにする。また、高度に発達した敬語についても考える。動詞のテンス・アスペクトの体系の特徴についても触れる。	近藤泰弘（青山学院大学教授）	近藤泰弘（青山学院大学教授）
7	鎌倉時代の日本語　文字・音韻・語彙・文体	鎌倉時代には貴族中心の時代から武士の時代となって、言葉の上でも大きな変化が生ずる。和漢混淆文が盛んに行われ、新しい語形の登場、漢字音の日本語化などが顕著であり、これについて見て行くことにする。	月本　雅幸	月本　雅幸
8	鎌倉時代の日本語　文法	文法事項においても鎌倉時代の言葉は平安時代のものから大きく変化しつつあった。終止形と連体形の合一化、係り結びの混乱などがそれである。また敬語においても「候ふ」の発達などが見られる。言語資料の多様化の問題と合わせこれらの変化を論ずる。	近藤　泰弘	近藤　泰弘
9	室町時代の日本語　文字・音韻・語彙・文体	室町時代には「抄物」や「キリシタン資料」と呼ばれる資料があり、当時の口頭語の姿をよく記録している。これらの資料を見ながら当時の発音の状況を初め、室町時代の日本語の実態を概観する。	久保田篤（成蹊大学教授）	久保田篤（成蹊大学教授）
10	室町時代の日本語　文法	室町時代語はますます中世語としての性格を強め、係り結びの衰退、可能動詞の発生、各種助動詞の消長など、重要な変化が次々に起こって江戸時代の言葉への橋渡しをしている。これらの変化の諸相について述べる。	近藤　泰弘	近藤　泰弘
11	江戸時代前期の日本語	江戸時代の日本語は、上方語と江戸語という方言差、武士と町人という階級差など、種々の対立によって特徴付けられる。江戸時代前期の文化の中心であった上方の言葉について、音韻・文法など種々の面から見て行く。	久保田　篤	久保田　篤
12	江戸時代後期の日本語	１８世紀も後半になると、文化の中心は江戸に移り、文学作品である「洒落本」「滑稽本」には江戸の言葉が生き生きと記録されている。ここに見られる江戸語のありさまを概観する。	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
13	明治時代以後の日本語　文字・音韻	明治時代になると、日本語を書き表すための文字についての議論が起こり、それはやがて漢字制限へと向かうこととなる。また、急速に入ってきた外国語の影響でそれまでの日本語にはなかった音節も使用されるようになった。これらについて論ずる。	鈴木　英夫（前白百合女子大学教授）	鈴木　英夫（前白百合女子大学教授）
14	明治時代以後の日本語　語彙・文体	明治時代には西洋から大量の文物が流入し、それらの概念を日本語で表すための翻訳語（新漢語）が作られた。また、話し言葉を基本とした言文一致の口語体が成立した。このような大きな変化の跡をたどって行く。	鈴木　英夫	鈴木　英夫
15	明治時代以後の日本語　文法	明治時代以後の文法体系は基本的には前代のものを引き継いでいるが、それでも種々の面で変化が数多く見られ、それは現在の我々が明治の文章を読む際にも感じられることである。この変化を実例と共に概観する。	同　上	同　上

＝　日本語基礎Ａ（‘０６）＝（TV）
－文法指導法と学習－

〔主任講師（現職名）：姫野　昌子（放送大学教授）　〕
〔主任講師（現職名）：伊東　祐郎（東京外国語大学教授）〕

全体のねらい

対象は、原則として日本語教育に関心を持つ日本人および上級の日本語能力を持つ外国人学習者である。放送教材は、すべて、日本語力が初級後半程度のレベルの学習者を対象とするが、この教材の構成、提示法を通して日本語教育の教授法の実際に触れる。印刷教材は、２部に分かれ、前半部は外国人学習者用の解説と課題、後半部は、日本人教師用の解説となっている。試験問題は、「外国語科目」の枠で履修する外国人学習者とはまったく別の内容・程度のものとなる。「専門科目」の枠で履修する者に対しては、印刷教材後半部を中心とする出題となる。内容は、日本の社会と文化の紹介、日本人の生活や働く姿の紹介、日本語能力試験３，４級レベルの文法事項、語彙、漢字の基礎的運用能力養成である。マルチメデイアの特色を生かしつつ、コミュニケーション能力を養成する楽しい講座を目指す。授業風景、実際的な練習場面、スキットやドキュメンタリーの視聴覚教材などを通して日本語指導法を示す。媒介語を使用しない直接法による授業、教材作成、学生の誤用の分析など、日本語教育学に関し、豊富な研究資料を提供する。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	楽しい文法教室①	授業風景 ・動詞、形容詞、形容動詞の活用形 ・アスペクト、テンス ・「～て」形の用法 ・格助詞の用法「を」「で」「に」 ・漢字①線の形 ・日本の歌①「夏の思い出」	姫野昌子（放送大学教授）	姫野昌子（放送大学教授） 伊東祐郎（東京外国語大学教授）
2	スキット「発表の授業－準備－」	授業風景 ・自動詞と他動詞 ・変化「～くなる」「～になる」 ・変化「～くする」「～にする」 ・設置と処置　補助動詞「～ておく」 ・留学生によるインタビュー「漫画家　咲坂芽亜氏」 ・漢字②線と点の形 ・日本の歌②「だれもいない海」	藤村知子（東京外国語大学准教授） 姫野昌子（放送大学教授）	同上
3	スキット「発表の授業－漫画やアニメの始まり－」	授業風景 ・設置と処置の結果の状態　補助動詞「～てある」 ・単なる結果の状態　補助動詞「～ている」 ・誘発　感情動詞の他動詞化「人を～させる」 ・留学生によるインタビューと報告 ・漢字③構成要素 ・日本の歌③「雪の降る街を」	同上	同上

4	ドキュメンタリー 「東京の森－人工林で木を育てる－」	授業風景 ・可能表現「～することができる」 ・動詞可能形「行ける」 ・留学生によるインタビュー「あきる野市　製材所経営者　田中定男氏」 ・漢字④「さんずい偏」 ・日本の歌④「北国の春」	小林幸江（東京外国語大学教授） 姫野昌子（放送大学教授）	同　上
5	ドキュメンタリー 「東京の森－東京の木で家を造る－」	・引用表現「～と言う」「～と思う」 ・伝聞形「～そうだ」 ・留学生によるインタビュー報告 ・漢字⑤「人偏」 ・日本の歌⑤「この広い野原いっぱい」	同　上	同　上
6	ドキュメンタリー 「自然の力を利用した家－太陽の熱や光などの利用」	授業風景 ・条件「～と」「～たら」 ・留学生によるインタビュー「自然食店　富士山の野菜塾店長　佐藤環氏」 ・漢字⑥「木偏」 ・日本の歌⑥「この空を飛べたら」	鈴木美加（東京外国語大学准教授） 姫野昌子（放送大学教授）	同　上
7	ドキュメンタリー 「自然の力を利用した家－雨水の利用－」	授業風景 ・条件「～ば」「～ても」 ・留学生によるインタビュと報告「朝霧高原の牧場」 ・漢字⑦「手偏」 ・日本の歌⑦「恋人よ」	同　上	同　上
8	楽しい文法教室② 復習	授業風景 ・文法事項復習（１～７回） ・留学生によるインタビュー「江戸紙切り名人　桃川忠氏」 ・漢字⑧「日偏」 ・日本の歌⑧「忘れな草をあなたに」	姫野昌子（放送大学教授）	同　上
9	スキット 「お見合い－若い２人と仲人さん」	授業風景 ・様態　形容詞、形容動詞＋「～そうだ」 「痛そうだ、元気そうだ」 ・留学生によるインタビュー「大学生の結婚観」 ・漢字⑨「しんにゅう偏」 ・日本の歌⑨「冬が来る前に」	伊東祐郎（東京外国語大学教授） 姫野昌子（放送大学教授）	同　上
10	ドキュメンタリー 「お見合い－結婚相手紹介サービス会社」	授業風景 ・様態　動詞＋「～そうだ」「降りそうだ」 ・留学生によるインタビュー報告 ・漢字⑩「草かんむり、雨かんむり」 ・日本の歌⑩「旅人よ」	同　上	同　上

11	ドキュメンタリー 「文化を守る－丸岡の町－」	授業風景 ・授受動詞「もらう、あげる、くれる」 ・推移、変化　補助動詞「～てくる」「～ていく」 ・留学生によるインタビュー「歌舞伎役者　市川男女蔵氏」 ・漢字⑪「ウかんむり「門がまえ」 ・日本の歌⑪「心の旅」	荒川洋平（東京外国語大学准教授） 姫野昌子（放送大学教授）	同　上
12	ドキュメンタリー 「文化を守る－子ども歌舞伎」	授業風景 ・待遇表現「～てくれる」「～てもらう」「～てあげる」 ・留学生によるインタビュー報告 ・漢字⑫「 ・日本の歌⑫「恋人もいないのに」	同　上	同　上
13	ドキュメンタリー 「東京の水道－水を安全に届ける－」	授業風景 ・直接の受身「人を対象とする動詞」 ・非情主の受身 ・留学生によるインタビュー「岐阜県高山　オークヴィレッジ」 ・漢字⑬「２つの訓読みを持つ漢字」 ・日本の歌⑬「みずいろの雨」	柏崎雅世（東京外国語大学教授） 姫野昌子（放送大学教授）	同　上
14	ドキュメンタリー 「東京の水道－水を安全に守る－」	授業風景 ・「持ち主の受身」「迷惑の受身」 ・留学生によるインタビュー報告 ・漢字⑭「訓読みと音読みを持つ漢字」 ・日本の歌⑭「あのすばらしい愛をもう一度」	同　上	同　上
15	楽しい文法教室③ 総復習	授業風景 ・文法事項復習（１～14回） ・留学生の司会による「桃川忠氏江戸紙切り実演会」 ・漢字⑮「熟語」 ・日本の歌⑮「さとうきび畑」	姫野昌子（放送大学教授）	同　上

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	専門科目	科目コード	1554204	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　日本語基礎Ｂ（‘０７）＝（Ｒ）
－コミュニケーションと異文化理解－

〔主任講師（現職名）：姫野　昌子（放送大学教授）　〕
〔主任講師（現職名）：伊東　祐郎（東京外国語大学教授）〕

講義概要

対象は、原則として日本語教育に関心を持つ日本人および上級の日本語能力を持つ外国人学習者である。放送教材は、すべて、日本語力が初級後半程度のレベルの学習者を対象とするが、この教材の構成、提示法を通して日本語教育の教授法の実際に触れる。印刷教材は、２部に分かれ、前半部は外国人学習者用の解説と課題、後半部は、日本人教師用の解説となっている。試験問題は、「外国語科目」の枠で履修する外国人学習者とはまったく別の内容・程度のものとなる。「専門科目」の枠で履修する者に対しては、印刷教材後半部を中心とする出題となる。放送教材は、機能別モデル会話、外国人の異文化体験談インタビューと解説、日本の代表的な都市と紹介、日本の詩歌の朗読と解説から構成されている。

授業の目標

外国人日本語学習者のコミュニケーション能力と異文化理解能力を養成する教授法を示す。会話能力の養成、異文化コミュニケーションに関する考察、代表的都市の地理的条件、文化・歴史的特徴などの理解、詩歌紹介を通した日本人の感性理解、初級から中級前半にかけての文法習得など諸事項の指導法提示を目標とする。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	導入 各課の内容と全体の流れの説明	・「挨拶や会話」導入 ・「異文化コミュニケーションインタビュー」導入 ・「異文化メモ」導入 ・「地方紹介」導入 ・日本の詩歌：俵万智の短歌『サラダ記念日』所収 ・音楽：神山純一「旅立ちの時」	姫野　昌子 伊東　祐郎 田山のり子（東京外国語大学教授） 藤森弘子（東京外国語大学教授） 初鹿野阿れ（東京国際大学講師） 池田智子（桜美林大学准教授）	姫野昌子（放送大学教授） 伊東祐郎（東京外国語大学教授）
2	会話① 異文化コミュニケーション① 北の街　札幌	・出会いの挨拶と会話の開始 ・外国人へのインタビュー①：出会いの表現 ・異文化メモ：出会いの挨拶 ・札幌の紹介 ・日本の詩歌：三好達治の詩「雪」『測量船』所収 ・音楽：さだまさし「北の国から」	同	同

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
3	会話② 異文化コミュニケーション② 森の都　仙台	・別れの挨拶 ・外国人へのインタビュー②：別れの表現 ・異文化メモ：別れる時の表現 ・仙台の紹介 ・日本の詩歌：石川啄木の短歌『一握の砂』所収 ・音楽：さとう宗幸「青葉城恋唄」	同	同
4	会話③ 異文化コミュニケーション③ 首都　東京	・電話の終了 ・外国人へのインタビュー③：電話で話した経験 ・異文化メモ：電話での話し方 ・東京の紹介 ・日本の詩歌：高村光太郎の詩「あどけない話」『智恵子抄』所収 ・音楽：喜多郎「キャラバンサライ」	同	同
5	会話④ 異文化コミュニケーション④ 北の小京都 金沢	・謝罪の会話 ・外国人へのインタビュー④：謝罪の経験 ・異文化メモ：謝罪の表現と態度 ・金沢の紹介 ・日本の詩歌：室生犀星「小景異情」『抒情小曲集』所収 ・音楽：倉本悠基「哀しみの空」	同	同
6	会話⑤ 異文化コミュニケーション⑤ 商業都市 名古屋	・言い訳の会話 ・外国人へのインタビュー⑤：言い訳の経験 ・異文化メモ：言い訳の表現と態度 ・名古屋の紹介 ・日本の詩歌：寺山修司「故郷の母のことを思い出したら」『人生処方詩集』所収 ・音楽：苫米地義久「ほのかな夜明け」	同	同
7	会話⑥ 異文化コミュニケーション⑥ 古都　京都	・依頼と承諾の会話 ・外国人へのインタビュー⑥：依頼の経験 ・異文化メモ：依頼の心遣い ・京都の紹介 ・日本の詩歌：与謝野晶子の短歌『みだれ髪』『恋衣』所収 ・音楽：城乃内ミサ「京の小道」	同	同
8	復習	復習 ・音楽：宗次郎「エンサールの森」	同	同

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
9	会話⑦ 異文化コミュニケーション⑦ 商業の街 大阪	・誘いと承諾の会話 ・外国人へのインタビュー⑦：間接的な誘いの経験 ・異文化メモ：誘いの表現法 ・大阪の紹介 ・日本の詩歌：茨木のり子の詩「六月」『見えない配達夫』所収 ・音楽：「宵待ち草」	同	同
10	会話⑧ 異文化コミュニケーション⑧ 平和を願う街 広島	・断りの会話 ・外国人へのインタビュー⑧：間接的に断られた経験 ・異文化メモ：断りの表現法 ・広島の紹介 ・日本の詩歌：峠三吉『原爆詩集』序 ・音楽：中国地方の子守歌	同	同
11	会話⑨ 異文化コミュニケーショ⑨ 俳句と温泉の街 松山	・感謝の会話 ・外国人へのインタビュー⑨：感謝の表現に関する経験 ・異文化メモ：感謝の表現法と習慣 ・松山の紹介 ・日本の詩歌：正岡子規の俳句『寒山落木』所収 ・音楽：宮城道雄「春の海」	同	同
12	会話⑩ 異文化コミュニケーション⑩ 異国への窓 長崎	・贈答の会話 ・外国人へのインタビュー⑩：贈答の経験 ・異文化メモ：贈答の習慣 ・長崎の紹介 ・　日本の詩歌：金子みすゞの詩「大漁」『金子みすゞ全集』所収 ・音楽：島原地方の子守歌	同	同
13	会話⑪ 異文化コミュニケーション⑪ 南国　鹿児島	・ほめやねぎらいの会話 ・外国人へのインタビュー⑪：ほめとねぎらいの経験 ・異文化メモ：ほめやねぎらいの表現と態度 ・鹿児島の紹介 ・日本の詩歌：若山牧水の短歌『海の声』所収 ・音楽：五木の子守唄	同	同
14	会話⑫ 異文化コミュニケーション⑫ 南の島々 沖縄	・苦情・不満の会話 ・外国人へのインタビュー⑫：会社勤めの体験と苦情の経験 ・異文化メモ：苦情・不満の表現法 ・沖縄の紹介 ・日本の詩歌：谷川俊太郎の詩「かなしみ」『二十億光年の孤独』所収 ・音楽：安里屋ユンタ	同	同

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
15	総復習	総復習 ・音楽：姫神「海道を行く」	同	同

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	専門科目	科目コード	1551400	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 文献学 （’０８）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：杉浦　克己（放送大学准教授）　〕

講義概要

現存する様々な文献資料類を、実際例を掲げて紹介しながら、その特質を概説し、それをふまえた読み取り方の実際を概説する。書写者の意図が、資料上の様々な点に表されていることを、その多様な工夫の跡たどることによって指摘し、意図を的確に読み取っていくことの重要性を考える。さらに、資料の保存・伝承の実際を紹介し、資料を利用する者としての基本的な考え方を概説する。

授業の目標

古文献資料類の文字・文を読み取るための基本的な知見を概説し、実際の資料例に基づいて読むための練習を行う。
料紙や装丁など文献資料の外形上の特質やその変遷を紹介し、資料を扱う上での基本的な考え方と実際の配慮事項を概説する。
資料から書写者の意図を的確に読み取るための考え方を、様々な資料実態に基づいて考える。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	文献学の世界	「文献学」という学問領域の概要とその手法を紹介し、書誌学、文献言語学、古典学などを比較しながらその性格と目的を概説する。文献学的な資料の見方の基盤として、文字のとらえ方を、「字形」「字体」「書体」に整理して説明し、全15回の講義の端緒となる視点を確立する。 【キーワード】 文献学　書誌学　文献言語学　古典学　字形　字体　書体　翻字	杉浦克己（放送大学・准教授）	杉浦克己（放送大学・准教授）
2	平仮名資料(1)	現代の文字資料に慣れた目では読むことが難しい変体仮名資料を読み取る最も初歩的な例として、版本の平仮名資料を取り上げ、平仮名一文字一文字を読む上での基本的は知識と着眼点を示す。内容的に広く知られた物語や読本類を例示資料とすることで、古文献資料により親しみやすくなるように配慮する。 【キーワード】 平仮名　変体仮名　物語　読本	同上	同上
3	平仮名資料(2)	平仮名資料として手写本の例を取り上げ、平仮名の成り立ちとその元になった字母漢字に着目した読み方を概説する。字母漢字の違いによる異字体の仮名の使い分けが存在することを、実例を挙げて示し、そこに表された書写者の意図を読みとことの意義を考える。 【キーワード】 字母漢字　字体　変字法　語頭　語末	同上	同上
4	平仮名資料(3)	平仮名資料を、文字の単位ではなく文の単位でとらえ、読み取っていくことを、漢字平仮名交じり文の散文資料を例にして解説する。特に、文の切れ続きや構造を明示するための工夫の跡をたどることによって、そこに表された書写者の意図を読み取ることの意義を考える。 【キーワード】 漢字平仮名交じり文　文節　構文	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	漢字資料(1)	現代の文字資料に慣れた目では読むことが難しい行書・草書漢字の資料を読み取る最も初歩的な例として、版本の漢字平仮名交じり資料を取り上げ、漢字一文字一文字を読む上での基本的は知識と着眼点を示す。内容的に広く知られた読本類を例示資料とすることで、平仮名書きの部分を手がかりにして、漢字に取り組みやすくなるように配慮する。 【キーワード】 漢字　行書　草書　漢字平仮名交じり文　振り仮名	同上	同上
6	漢字資料(2)	実際の資料例を掲げて、手写資料に見られる草・行書漢字を、部首の類型や頻用文字に着目することで確実に読み取る方途を概説する。特に、現代では理解されにくい漢字・漢文と日本語との密接な関係について、多様な漢字の用法の実際の資料例を上げて紹介し、漢字を使って書き表すことの意義について考える。 【キーワード】 漢字　部首　漢語　漢語　音読み　訓読み　万葉仮名	同上	同上
7	漢文資料	漢字書き資料を、文字の単位ではなく文の単位でとらえ、読み取っていくことを、漢文資料を例にして解説する。特に、文頭の文字で表される定型句や頻用される助字類に着目することで、漢文の文構手がかりとして内容解釈する方途を概説する。また古典席からの引用の用いられ方なども併せ、漢文で書き表された意図を読み取ることの意義を考える。 【キーワード】 定型句　助字　対句　引用　類書	同上	同上
8	漢文訓読資料	漢文を訓読した資料の実際例を示し、訓点類の実相とその読み取り方を概説する。併せて漢文訓読の中で発達した片仮名と片仮名書き資料の実際例を紹介する。漢文を敢えて訓読することの日本語の変遷との関わりと変遷をふまえ、加点者の意図がどのように実際の訓点類に表されているかを探り、それを読み取ることの意義を考える。 【キーワード】 訓読　訓点　返り点　ヲコト点　片仮名　抄物　漢文訓読体	同上	同上
9	辞書	古辞書類の実際例をその性格や年代で分類して紹介し、文献資料としての辞書の位置づけを考える。編著者の意図を、形態や配列、注記の内容や表記方法から探り、それを十分にふまえた上での辞書類の利用法を考える。 【キーワード】 古辞書　部立て　出典　注記	同上	同上
10	歴史文書	公式令様式の文書類の典型例を掲げてその様式を概説する。漢文、和文の書状の実際例を上げて、その様式の実態や変遷を概説する。これらによって、実用文書類が、送り手と受け手の間であらかじめ了解された定型性に従うことで円滑な伝達を図っていることを示し、定型的な表現の意義を考える。 【キーワード】 文書　公式令　書状　書札令　散らし書き　懐紙　往来物	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	本文校訂	諸伝本間の本文の異動を精査し、あるべき本文の姿を見極めていく本文校訂作業の実際を、実例を挙げて紹介し、著名な大規模校本を紹介してその編纂の意図を概説する。原著者、書写者の意図が校訂作業の中でどのように読み取られていったのかを、校訂本文を利用する者の立場で考える。 【キーワード】 校合　校訂本文　校本　本文　異本	同上	同上
12	文献資料の外形	文献資料を構成する要素として、紙や書紀材料について、その製法や各種材質の特質を紹介する。紙の製法の実際を、工房を訪ねて紹介し、その促成と製法との関係を概説する。書籍の形態を取る文献資料類について、その形態を装丁の実際を実物や図解を用いて概説する。これらの知見に基づき、その特質を考え、書紀内容と相俟ってある意図を表していることを示す。 【キーワード】 紙　料紙　書紀材料　装飾　装丁	同上	同上
13	資料の保存・修補	資料の損傷の実態を、実例を掲げて示し、損傷を最小限に防ぐための保存上の配慮の実際を紹介する。また損傷を修補する技術の実際を、それに従事する専門家の工房を訪ねて概説する。それらをふまえ、資料を取り扱う際の注意事項を指摘すると共に、資料利用の基本的な考え方を示す。 【キーワード】 損傷　保存　修補	同上	同上
14	古筆	文字資料類を芸術作品としての書としての観点から考える。実際の古筆の名品類を紹介し、日本美術史の観点から位置づけ、その特色を解説すると共に、伝達媒体としての文字の高度に昇華したすがたである書作品としての文献資料を鑑賞する意義について考える。 【キーワード】 古筆　古筆切れ　古筆手鏡　料紙装飾　古筆家　極め書き	同上	同上
15	情報伝達媒体としての文献資料	本講義で取り上げてきた様々な文献資料類を改めて振り返り、それが単純に一定の音や意味を表す文字としてだけではなく、様々な文字種のきめ細かい使い分けや、微細な字形の違い、筆致や墨継ぎ、字配り、余白、さらには料紙や装飾、装丁など様々要素が、筆者者の意図を表す役割を担い、それらがまとまって一つの情報伝達媒体として機能していることを改めて考える。 【キーワード】 情報　表現　媒体　筆致　字配り　余白　墨継ぎ	同上	同上

＝　日本の古典 —古代編（‘０５）＝（Ｒ）

〔主任講師：　鈴木　日出男（二松学舎大学大学院特任教授）〕
〔主任講師：　多田　　一臣（東京大学大学院教授）〕
〔主任講師：　藤原　　克己（東京大学大学院教授）〕

全体のねらい

言葉によって世界を把握する過程で、人々が文学の言葉の力を発見したその始原から、漢文学の受容も加わって和歌・物語・日記などの文芸が形成され、相互に交流しながら展開した様相を、特に言葉の働きに注目して明らかにする。古典の言葉のもつ力、その豊かさとこまやかさが忘れられかけているこんにち、改めて日本古代文学の「古典」としての意義を闡明したい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	古代文学の創造と言葉	文学の発生に関して、ここでは特に言葉の働きに注目したい。たとえば、枕詞や神名がつくり出され、歌や伝承がゆたかに形成されていた。そのように、言葉との関連を通して、古代の文学のあり方を考えようとする。	鈴木日出男（二松学舎大学大学院特任教授）	鈴木日出男（二松学舎大学大学院特任教授）
2	フルコトの世界—『古事記』とその周辺	内容：古来、語りの場で伝えられてきた聖なる詞章をフルコトと呼ぶ。古代の叙事文学は、このフルコトを基本にして成立している。『古事記』の書名も、訓読はフルコトブミである。ここでは、『古事記』を中心に、フルコトから展開した語りごとの世界を見渡してみたい。	多田　一臣（東京大学大学院教授）	多田　一臣（東京大学大学院教授）
3	『万葉集』（1）—古代歌謡から和歌へ—	『万葉集』は日本最古の宮廷歌集だが、そこに収められた歌は、どのような表現水準をもっているのか。歌謡から和歌への道筋をたどりながら、古代の和歌表現が達成した世界をながめてみたい。	同　上	同　上
4	『万葉集』（2）—古代和歌の展開—	『万葉集』の歌は、ほぼ一世紀半にも及ぶ長い時間の中で作られている。その表現の変化もまた著しい。ここでは、そうした変化の様相を具体的にたどることで、『万葉集』の世界を大きく見渡してみたい。	同　上	同　上
5	古代説話の誕生—『日本霊異記』の世界	内容：古代説話は仏教説話として誕生した。それは仏教が律令制度に見合う普遍性をもつ宗教だったからである。ここでは、わが国最古の説話集『日本霊異記』の世界をながめることで、そこに表現された人びとの生活意識について考えてみたい。	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
6	古代前期の漢文学	今日では忘れられかけているが、明治初期まで、政治家・知識人の第一級の文芸は漢詩であった。そうした日本漢文学の開幕としての古代漢文学の意義を考える。『懐風藻』から菅原道真までを扱い、古今集歌風との関連も考える	藤原　克己(東京大学大学院教授)	藤原　克己(東京大学大学院教授)
7	『古今和歌集』	前章の古代漢文学との関連を見据えながら、規範的な四季の秩序と抒情の様式を樹立した『古今集』が勅撰されたことの日本文化史上の意義を考え、さらに恋歌や雑歌が平安朝の日記や物語の表現の基盤になってゆく様相を見通す。	同　上	同　上
8	物語の成立	『伊勢物語』『竹取物語』『落窪物語』『うつほ物語』を通して、物語における色好みと愛の主題や、反俗的精神の主題について考える。また『うつほ物語』の長編化によって、物語の描き出す人間関係にどのような深化が生まれたかについても考える。	同　上	同　上
9	女流文学の成立—日記・随筆	女流の和歌、また『蜻蛉日記』などの日記文学、さらに随筆文学とみられる『枕草子』をとりあげて、平安朝文学に特有の女流文学の本質を考える。いずれも、言葉を駆使しながら、自己の内面を見つめる文学である。	鈴木日出男	鈴木日出男
10	古代後期の漢文学	主として10世紀の源順、源為憲、菅原文時、慶滋保胤、そして紫式部の父藤原為時を扱い、『源氏物語』の世界形成にも深く関わった平安朝漢文学の意義を明らかにする。『うつほ物語』にも再度ここでふれる。また句題詩的美意識と和歌との関連や、平安後期の無題詩の世界にもふれる。	藤原　克己	藤原　克己
11	『源氏物語』(1)	『源氏物語』第一部を扱い、光源氏の理想性にいかに古代漢文学や初期物語の思想が息づいているか、この物語は時代社会をどのように写し取っているのか、といったことを考察し、この物語が達成した驚嘆すべき諸相を明らかにする。	同　上	同　上
12	『源氏物語』(2)	若菜巻以後、第一部とは対照的に人と人との共感の不成立という事態が深刻化する様相を明らかにし、物語の表現技法の先鋭化と思想の深化とが連関していることを分析する。平安後期物語についてもふれ、後期物語から失われていったものを考える。	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
13	和泉式部―和歌史の変革	十一世紀はじめの和泉式部のきわめて主観的な表現の和歌は、斬新な抒情性をたたえていて、和歌史を画すことになった。その新風を契機として、以後の和歌がどのように変革されていくかを展望することになる。	鈴木日出男	鈴木日出男
14	王朝の光と闇―『大鏡』と『今昔物語集』	内容：王朝の栄光が薄れる中、しだいにその闇の部分が浮かび上がって来る。とくに、「侘シキ」者たちの世界が迫り出してきた意味は大きい。その光と闇とを、『大鏡』と『今昔物語集』の世界を通じて明らかにしてみたい。	多田　一臣	多田　一臣
15	古代文学の研究	後世の人々には、古代の文学が日本古典の典型として受けとめられてきた。特に、そこに日本の純粋な精神を見出した近世の国学の考え方にふれながら、古代文学のあり方を振りかえり、それを本講義のまとめとする。	鈴木日出男	鈴木日出男

＝　日本の古典 —散文編（‘０６）＝（Ｒ）

〔主任講師（現職名）：　三角　洋一（東京大学大学院教授）〕
〔主任講師（現職名）：　松尾　葦江（國學院大学教授）　〕
〔主任講師（現職名）：　島内　裕子（放送大学准教授）　〕

全体のねらい

日本の中世文学の散文作品の展開を、より広く前後の時代を含めて遠望したり、文学を産み出す土台や背景にまで遡って観察したり、新しい枠組みや系譜の中で検討するなどして、ユニークな中世文学史の試みを提示する。幅広く多くの作品を取り上げ、代表的な作品についてはその内容も紹介していきたい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	平仮名文とその散文作品	平仮名文の特性と、平仮名文の文体の四タイプにつき考察し、代表的な作品を鑑賞していく。	三角洋一（東京大学大学院教授）	三角洋一（東京大学大学院教授）
2	片仮名文とその散文作品	片仮名文の特性について考察したのち、片仮名文による文学作品や学問の書について展望し、さまざまな表記法による片仮名文の作品にふれてみる。	同上	同上
3	和文と漢文の交流と散文作品	中世になると、仮名文と漢字文との間に互換性さえ生じている。このような事例に注目して、文学と文体と表記の関係について考察するとともに、和漢混淆文体の作品を鑑賞する。	同上	同上
4	平家物語の文体	中世の和漢混淆文の代表といわれる平家物語の文体について見ていく。諸本による相違、平曲との関連などを見ながら、平家物語の文体の魅力の淵源を考えたい。	松尾葦江（國學院大学教授）	松尾葦江（國學院大学教授）
5	平家物語の構造	平家物語の世界を支える叙述の骨格と、歴史を語る論理構造、批評性について分析する。歴史文学の説得力は何によってもたらされるかについて覚一本巻四を例として述べる。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
6	二つの平家物語	中世の軍記物語の流れには二つの傾向があることなど、基本的な問題を概説した上で、同じ作品でありながら、異方向の文学の可能性を諸本群の中に抱え込むという、平家物語の特性について、延慶本巻四を例としてふれる。	松尾葦江(國學院大学教授)	松尾葦江(國學院大学教授)
7	紀行文学の系譜	中世の時代にとりわけ盛んになった紀行文学を、前後の時代も視野に入れて概観する。	島内裕子(放送大学准教授)	島内裕子(放送大学准教授)
8	伝記文学の系譜	個人の人生が文学作品の中でどのように描かれるのか、「伝記」という視点から、さまざまな作品を取り上げて概観する。	同上	同上
9	書簡文学の系譜	文学作品にあらわれる書簡(手紙)とその役割、さらには書簡体の作品などを取り上げ、文学における手紙の機能を概観する。	同上	同上
10	説得の文学	武力闘争と滅亡の文学と考えられがちな平家物語であるが、じつはことばの力によって人を動かし、事態を変える名場面も少なからず含まれている。それらの例を挙げながら、説得の文学という側面を見ていき、物語中の漢文体の機能を延慶本巻四で見ておく。平曲についても概説する。	松尾葦江(國學院大学教授)	松尾葦江(國學院大学教授)
11	鎮魂の文学	鎮魂とは何か。平家物語の鎮魂は、現代の我々にどう関わってくるのかを、覚一本巻四と灌頂巻とを例として考える。平家物語の成立と鎮魂との関係についてもふれる。	同上	同上
12	『嵯峨のかよひ』に見る王朝の残照	飛鳥井雅有の日記に描かれた王朝古典文学習得の様子を中心に、王朝文化が中世の時代にどのように受け継がれていったかを概観する。	島内裕子(放送大学准教授)	島内裕子(放送大学准教授)
13	『徒然草』に見る批評の誕生	『徒然草』において、どのような文学の領域が新たに切り開かれたか、「批評」という観点から概観する。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
14	女性の教養と幼学の書	平安朝の女性の教養と娯楽について概観し、中世にいたる女流文学の流れとそれを支えた知識、思考について見ていく。	三角洋一(東京大学大学院教授)	三角洋一(東京大学大学院教授)
15	学問と有職故実	平安朝貴族や中世知識人の精神的基盤となった学問と、特に初学者の教科書類について概観し、文学と関連するさまざまな問題を考察する。	同上	同上

＝　日本の古典 ―江戸文学編（‘０６）＝（Ｒ）

〔主任講師（現職名）：揖斐　高　　（成蹊大学教授）　〕
〔主任講師（現職名）：鈴木　健一　（学習院大学教授）〕

全体のねらい

従来の枠組みにとらわれず、長い射程距離を持った上で、新たに近世（江戸）文学を概観することを目標とする。そのため、各章はトピック的な表題とし、これまで以上に近世文学の面白さを自由に伝えられるようにする反面、テキストとしての性格も考慮して、最低限の重要な文学史の流れは盛り込むように配慮したい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	総論	近世文学全般の大まかな流れと特徴について述べ、以下の各論に対する導入とする。出版との関連や、雅俗の問題もここで論じる。章立ての意味についても、ここで触れる。	揖斐　高（成蹊大学教授）	揖斐　高（成蹊大学教授）
2	花鳥風月―俳諧	芭蕉・蕪村・一茶の俳諧作品を取り上げて、近世が描いた「花鳥風月」の特徴について論述する。発句や俳文を具体的に掲げ、丁寧に分析するよう、心掛けたい。	鈴木健一（学習院大学教授）	鈴木健一（学習院大学教授）
3	花鳥風月―和歌・漢詩	後水尾天皇・加藤千蔭などの和歌や服部南郭・六如などの漢詩作品を取り上げて、近世が描いた「花鳥風月」の特徴について論述する。具体的な作品を何首か掲げ、丁寧に分析するよう、心掛けたい。	同上	同上
4	旅	『おくのほそ道』や『東海道中膝栗毛』、その他の紀行文（たとえば大田南畝・菅江真澄）などを題材として、「旅」の描かれ方について論述していく。	揖斐　高（成蹊大学教授）	揖斐　高（成蹊大学教授）
5	恋	仮名草子、西鶴の好色物（『好色五人女』）、人情本などを題材として、「市井」の「愛と性」の描かれ方について論述していく。	篠原　進（青山学院大学教授）	篠原　進（青山学院大学教授）
6	遊里	仮名草子、西鶴の好色物（『好色一代男』『好色一代女』）、洒落本、人情本などを題材として、「遊里」の「愛と性」の描かれ方について論述していく。	篠原　進（青山学院大学教授）	篠原　進（青山学院大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
7	怪異と伝奇Ⅰ	仮名草子(『伽婢子』『狗張子』)、『西鶴諸国はなし』などを題材として、「怪異と伝奇」の描かれ方について論述していく。	木越　治(金沢大学教授)	木越　治(金沢大学教授)
8	怪異と伝奇Ⅱ	『西山物語』、『雨月物語』『春雨物語』、『南総里見八犬伝』『桜姫全伝曙草紙』などの読本の世界を題材として、「怪異と伝奇」の描かれ方について論述していく。	同上	同上
9	笑い	黄表紙(『孔子縞于時藍染』『無益委記』)や笑話集『醒睡笑』、狂歌・狂詩などを題材として、「笑い」の描かれ方について論述していく。	鈴木健一(学習院大学教授)	鈴木健一(学習院大学教授)
10	学問と思想	国学(契沖、賀茂真淵、本居宣長ら)と儒学(林羅山、荻生徂徠ら)の展開を軸に近世における「学問と思想」の特質を論述していく。	同上	同上
11	町人と経済	西鶴の町人物(『日本永代蔵』『世間胸算用』)を題材として、「商人と経済」の描かれ方について論述する。	白石　良夫(文部科学省主任教科書調査官)	白石　良夫(文部科学省主任教科書調査官)
12	武士と忠義	武士道における忠義とは何か。朱子学者室鳩巣著作の教訓書『明君家訓』から読み解く。そして、それが和文の随筆『駿台雑話』にどのように作品化されているかを論述する。	同上	同上
13	ノンフィクション	仮名草子のルポルタージュ物や伝記・日記・回想録・随想などを取り上げて、「ノンフィクション」の特質を論述していく。	揖斐　高(成蹊大学教授)	揖斐　高(成蹊大学教授)
14	絵画と江戸文学	画賛・題画詩(俳諧・和歌・漢詩・狂歌など)や黄表紙・合巻、小説の挿絵・見立絵本などを通して、近世文学における「絵画との関わり」を論述していく。	鈴木健一(学習院大学教授)	鈴木健一(学習院大学教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
15	異国	中国や朝鮮、西洋などとの関係のなかで「異国」はどのようにとらえられていったのかを、さまざまなジャンルの作品を題材として論述する。	揖斐　高（成蹊大学教授）	揖斐　高（成蹊大学教授）

＝　近代の日本文学（‘０５）＝（Ｒ）

〔主任講師：野山　嘉正（放送大学名誉教授）〕
〔主任講師：安藤　　宏（東京大学大学院准教授）〕

全体のねらい

明治期から現代に至る近代の日本文学の全体像を描くのがねらいである。通常の文学史の枠に必ずしもとらわれることなく叙述し、主としてジャンル別に流れを辿り、さらに、相互の関連を意識しつつ考察する。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	はじめに ―近代とは何か	本講義の目的と方法について述べる。年代順に整理せずにジャンル別に構想したことの説明から始めて、全体の配置を紹介する。最後に近代文学とは何であったのかを考えるのが目的であることを明らかにする。	野山　嘉正（放送大学名誉教授）	野山　嘉正（放送大学名誉教授）
2	詩歌Ⅰ―詩歌の新時代・近代の始動	詩歌における旧時代から新時代への変化を叙述し、漢詩・和歌・俳諧が漢詩・新体詩・短歌・俳句へと姿を変える様相を描写する。こういう推移の過程から、日本の近代文学の方向が規定されることを論ずる。	同　上	同　上
3	詩歌Ⅱ―口語詩の確立と短歌・俳句	明治末期から大正期・昭和期戦前における、口語詩の確立と短歌・俳句の変貌を、それぞれのジャンルごとに素描しつつ、詩歌としての文学状況を把握する。	同　上	同　上
4	詩歌Ⅲ―戦後詩歌へ	昭和十年代の、いわゆる戦時下の詩歌のありかたから、敗戦による反省と回生をまず総括する。次いで第二芸術論による打撃からの短歌・俳句の立ち直りの過程を辿り、現代詩歌考察の手がかりを提示する。	同　上	同　上
5	小説Ⅰ―文明開化と「文学」の変容	西洋文明の移入、言文一致運動の動向、メディアや出版形態の変化などに留意しつつ、現在「小説」と名付けられているジャンルがどのように成立したのかについて考察する。明治の初頭から、二十年代の尾崎紅葉、幸田露伴までを中心に扱う。	安藤　宏（東京大学大学院准教授）	安藤　宏（東京大学大学院准教授）
6	小説Ⅱ―明治中期の小説文体	日清、日露戦争期にあって、ナショナリズムの台頭、浪漫主義的な傾向、社会の現実を直視して行く傾向が、それぞれ小説にどのような形で表れてくるかを考察する。樋口一葉、国木田独歩、泉鏡花らを中心に、明治二十年代、三十年代を扱う。	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
7	小説Ⅲ―自然主義文学と漱石・鴎外	明治二十年代から四十年代にかけて、西洋の自然主義文学がそのような形で受容されたのを、島崎藤村、田山花袋を中心に考察する。これらに関連して、「写生文」の動向、大正初頭にかけての夏目漱石、森鴎外の活動状況について考察する。	安藤　宏	安藤　宏
8	小説Ⅳ―大正文壇の成立	明治の末期、反自然主義的な文学動向が表れ、それがどのように大正文壇を形成して行くかについて考察する。大逆事件の影響、永井荷風、谷崎潤一郎ら耽美派の動向、白樺派の活動、芥川龍之介のデビューなどを扱う。	同　上	同　上
9	小説Ⅴ―マルキシズムとモダニズム	大正後半から昭和初頭にかけての状況を、ソビエト文化とアメリカ文化の受容に注視しつつ考察する。心境小説の成立、関東大震災の影響、メディアの変容と大衆文学の成立、新感覚派の文学運動、プロレタリア文学の展開などを扱う。	同　上	同　上
10	小説Ⅵ―第二次世界大戦と文学	モダニズム文学の消長、転向文学、昭和十年前後の「文芸復興」などについて触れた上で、第二次世界大戦との関わりを、ナショナリズム、ファシズムの日本的な形態の特色、アジアの中の日本文学、といった観点から考察する。	同　上	同　上
11	小説Ⅶ―戦後文学の展開	昭和二十年代から三十年代にかけての文学状況を、「無頼派」の作家たち、第一次戦後派の動向、「第三の新人」たちの作風などについて叙述することから開始する。三十年代以後の展開も流れとして解明し、文学にとって「戦後」とは何であったのかを考える。	同　上	同　上
12	演劇Ⅰ―旧劇から新劇へ	近世演劇から近代演劇の発生への過程を辿り、大正期に至る多彩な演劇運動の特質を解明する。さまざまな層位の活動を視野に取り込み、文学と演劇との関連をも包摂しつつ、近代における演劇全体の様態を展望する。	林　廣親（成蹊大学教授）	林　廣親（成蹊大学教授）
13	演劇Ⅱ―戦前から戦後へ	思想運動としての演劇が盛んであった大正末～昭和戦前にかけての新劇の流れを辿り、戦時下の演劇統制のありようを見た上で、戦後社会の発展にともなう演劇状況の変化について考察しながら、現代演劇に及び、文化論的展望をも含めた視界を開く。	同　上	同　上
14	近代批評の出発	西洋文化の移入と文学の内外についての自覚が深い関係にあることから説き起こし、坪内逍遙・森鴎外らの立場を中心に考察する。これが昭和初期に至る西洋文学研究の進展につれて変化していくさまを叙述する。	野山　嘉正	野山　嘉正
15	近代批評のゆくえ	小林秀雄の位置から戦後批評に至る流れを全体として把握し、その後の変質についても素描を試みる。昭和十年代の古典復興が文壇や学界を支配したさまや、その戦後への影響をも論じ、近代文学の全体像への基礎を提示する。	同　上	同　上

＝　日本文学における住まい（‘０４）＝（Ｒ）

〔主任講師：島内　裕子（放送大学准教授）〕

全体のねらい

日本文学に描かれた住まいの諸相を、古典から近代まで辿り、どのような人生観や美意識が表現されているかという「住まいの文学史」を通観する。それによって、二つの文学の系譜、すなわち、方丈記の影響力の表れとしての「閑居記」の系譜と、王朝文学の影響力の表れとしての「廃園文学」の系譜とを浮かび上がらせたい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	草庵・閑居・廃園の文学史	日本文学に描かれた住まいを概観し、住まいに着目することによって、文学史を新しい観点から眺望することの意味と意義について述べる。日本文学を貫く系譜に、二つの方向性があることを、最初に視界に入れる。	島内裕子（放送大学准教授）	島内裕子（放送大学准教授）
2	王朝貴族の住まいと庭園	王朝文学にみる住まいについて、伊勢物語や池亭記などを取り上げ、住まいの文学の原点を示すと共に、以後の章で取り上げることの比較的少ない漢詩文や和歌に詠まれた住まいにも触れる。	同上	同上
3	王朝女性たちの美しい住まい	枕草子と源氏物語を中心に取り上げ、王朝女性たちにとって、どのような住まいが理想的であったかを明らかにし、住まいとそこで展開される暮らしの美意識を考察する。	同上	同上
4	草庵記の誕生	方丈記を中心に、この作品の出現の文学史的意義を考える。方丈記は短い作品であるが、そこに含まれる二重性、すなわち、社会批判と閑居の楽しみについて述べる。	同上	同上
5	住居観と人間認識	徒然草を中心に、ここで描かれたさまざまな住まいのありさまを概観する。そのうえで、徒然草が「住居観と人間認識」を明示した作品であることを明らかにする。	同上	同上
6	中世文人の造園趣味	南北朝期から室町時代にかけての文学者を取り上げ、住まいとその周囲の庭を含めた空間を、どのように宰領しながら、自分たちの理想の住まいを作り上げたかを考察する。それらの住まいは草庵であっても、美的な要素も含まれている。	同上	同上
7	近世前期の住居記	近世前期の文人たちを取り上げ、彼らの住居記がいかに方丈記の影響の元にあるかを浮かび上がらせると共に、そこにも二つの系譜、すなわち、芭蕉に代表される「人生論的な住居記」と、季吟に代表されるような「風雅な閑居記」があることを述べる。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
8	閑居記の成立	近世中期以後の文学者を取り上げ、住居記の多様性に触れる。この時期の住居記は、閑居の理想空間として、孤独な独居としての住まいであるよりも、むしろ交友を楽しむ場所としての機能も描かれるようになることに注目する。	島内　裕子	島内　裕子
9	豪奢と幻想の大名庭園	江戸の大名庭園を描く「お庭拝見記」をいくつか読みながら、大名庭園が王朝時代の大貴族の邸宅を描いた散文作品や和歌とどのように関連するか、その「豪奢と幻想のパノラマ」を文学史の中に位置づける。	同上	同上
10	廃屋と陋巷	明治時代の文学にみる住まいについて、主として樋口一葉と泉鏡花の作品の中から、荒廃した屋敷や陋巷の住まいがどのように描かれ、近代以前の文学とどのような連続性をもっているかを考察する。	同上	同上
11	市隠への憧憬	森鴎外と夏目漱石などの住居観を作品の中に探り、彼らの隠遁志向と近代人としての社会性がどのように関わっているかを考察し、中世の隠者文学との類同性にも着目する。	同上	同上
12	近代詩歌にみる廃園の美学	北原白秋や三木露風などの詩歌にみられる廃園趣味を取り上げ、王朝文学以来の文学伝統の中で近代詩歌に表れた「廃園の美学」を考える。	同上	同上
13	住まいをめぐる景観の喪失と再生	永井荷風の東京散策記や、西脇順三郎の武蔵野散策記を中心に考察する。それらを「住まいとその周縁の文学」として把握し、そこに近代以前の景観への喪失感が表れていること、および、彼らの作品によって喪われた景観が文学の中に再生することの意義を見出す。	島内　裕子	島内　裕子
14	現代文学にみる草庵記の継承	森茉莉の作品を中心に、方丈記に表れていた「社会批判と閑居の楽しみ」が、現代文学の中にも息づいていることを確認し、「方丈記の系譜」の現代性について考察する。	同上	同上
15	住まいの文学のゆくえ	吉田健一の作品を中心に、風雅と反俗の精神によって「住まいと風土」「住まいと人生」などがどのように認識され、表現されているかを捉え、日本文学における住まいに視点を置くことが、どのような新たな文学認識を生み出すかということについても述べたい。	同上	同上

＝ 20世紀の中国文学（‘０５）＝（Ｒ）

〔主任講師：　藤井　省三（東京大学大学院教授）〕

全体のねらい

中国文学は中国における近代的国民国家建設と歩を同じくして誕生した。上海・北京の南北二都を手がかりに近代中国および20世紀中国文学を読み解いてみよう。その際、キーワードはメディア＝知の媒体と都市の社会学である。中国本土だけではなく、広く中国語圏を視野に入れて、香港・台湾でのアイデンティティ形成と文学との関わりや、明治・大正・昭和の日本や現代東アジアにとっての中国文学についても考えてみたい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	現代中国文学を学ぶ、ということ	3500年の歴史を持つ中国の文学を、温泉饅頭に喩えてみよう。饅頭のあんこに当たるのは詩文、つまり唐詩や『史記』など文語文の古典で、その外側の小麦粉の皮が古典俗文学、主に宋代12世紀以後の講談や演劇の台本として発展した。そしていちばん外側のつるっとした薄皮が現代文学なのである。近代史は約1世紀にすぎないが、「国民〔ルビ：ネーション〕」としての「中国」、それを人々に想像させる「文学」という2つの概念を焼き付けた薄皮が本体を覆ってこそはじめて、美味しい温泉まんじゅう、すなわち国民文学としての中国文学が成立するのである。	藤井　省三（東京大学大学院教授）	藤井　省三（東京大学大学院教授）
2	租界都市上海の誕生とジャーナリズムの出現	上海・北京を手がかりに近代中国およびその文学を読み解いていく際、キーワードはメディア＝知の媒体と都市の社会学である。すなわち新聞・雑誌などのマスメディア、学校・留学などの教育制度と、このメディアを構築するとともに作家や編集者、評論家そしてほかならぬ読者を培養した都市の諸制度に注目したい。	同　上	同　上
3	上海の変法運動から東京の革命運動へ――梁啓超の『新小説』と魯迅・蘇曼殊のロマン主義文学	上海ジャーナリズムは1890年代には清朝改革派のメディアに成長した。戊戌政変（1898）後に維新派のリーダー梁啓超は東京に亡命して明治日本の影響を受け、一国の民を新たにするには一国の小説を新たにすべし、と論じた。それまでは暇つぶしのための読み物と見なされてきた小説が、世紀の転換期に改革・革命のための社会的・政治的効用という視点から再評価されたのだ。やがて魯迅の欧州ロマン派詩論などを経て、内面と自我が発見されていく。	同　上	同　上
4	“文化城”北京と文学革命	辛亥〔ルビ：しんがい〕革命（1911）後に成立した中華民国は混迷を続ける。かつて皇帝の都として全国に君臨した北京は、“文化城”に変身して全土の青年の前に姿を現わし、この文化城の頂点に立ったのが北京大学であった。アメリカ留学中に恋愛と文学とを身を以て体験してきた胡適がこの北京大学に教授として着任し、中国の文学革命が始まるのである。	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	5・4 時期の新興知識階級	1917年の文学革命から20年代後半の国民革命までを、反日反軍閥の国民的政治運動である5・4運動（1919）にちなんで5・4時期と称す。新文化運動の中心的役割を果たした『新青年』雑誌およびブルジョワ派の新月社、魯迅ら辛亥革命世代の語絲派、民国初期の日本留学生による創造社という3大サロンを通じて、5・4文学における恋愛と革命というテーマを考えてみたい。	藤井　省三	藤井　省三
6	国民革命と狂熱の30年代上海	中華民国では辛亥革命後も袁世凱の帝政復活、軍閥割拠などの混乱が続いていたが、20年代半ばには国民革命の上げ潮に乗って国民党が北伐戦争（1926～28）により中国統一に成功する。同党指導者の蒋介石は南京に遷都し、一党独裁体制下で経済建設を押し進めたため、新聞雑誌の発行量が激増し、文芸を愛好する知識層・市民層が増大、職業作家、職業批評家が続々と登場して、上海が北京を遥かに凌ぐ出版文化の中心となった。映画もまたサイレントからトーキーへと変身して上海映画の黄金時代を迎えている。	同　上	同　上
7	30年代文学の爛熟――京派、新感覚派、東北エミグラント文学から中国の『風と共に去りぬ』まで	30年代文学を考えるとき、政治経済から強い影響を受ける上海文化界と異なり、5・4時期以来の“文化城”の伝統を持つ北京の文壇も忘れてはならない。また雲南や東北地方（旧満州）など、辺境を舞台にしたローカル・カラー文学が上海文壇に登場したのも特徴的である。	同　上	同　上
8	共和国の興亡と文学成熟期の40年代文学	中国ナショナリズム勃興による既得権益喪失を恐れた日本は、満州事変（1931）を経て37年にはついに中国への全面侵略を開始する。これにより30年代中華民国の繁栄の夢は打ち砕かれ、中国は国民党支配の“大後方”（だいこうほう）、共産党支配の“解放区”そして日本占領下の“淪陥区”（りんかんく）の3つに分かれ、戦時下ながらも大後方と淪陥区では30年代の繁栄を受けて文学が成熟していく。その淪陥区上海に彗星のように現れた女性作家が張愛玲であった。	同　上	同　上
9	毛沢東時代と文化大革命	日本の敗戦（1945）、国共内戦を経て1949年に共産党が大陸を統一し中華人民共和国を建国、暗黒の30年が始まる。独裁党である共産党のそのまた独裁者であった毛沢東は、反右派闘争（1957）から文化大革命（1966～76）まで次々と政治キャンペーンを発動し、文学・芸術には毛沢東賛美を任務として与えたのである。	同　上	同　上
10	鄧小平時代の文芸復興	文革が終息し80年代の鄧小平体制下で改革・開放政策が本格化するにつれ、文学・芸術は再生し、世界的レベルを回復していく。最初に登場したのが北島ら『今天（チンティエン）』派の若き詩人たちであり、80年代半ばには文革世代の若い作家たちが一斉に「ルーツ探求の文学」を唱え始め、莫言のような中国の魔術的リアリズムが出現している。	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
11	6・4「血の日曜日」事件からオルターナティヴ作家まで	1989年にはあの悲惨な「血の日曜日」事件が勃発、鄭義ら大量の作家が海外に亡命し、世界各地で中国エミグラント文学が出現している。そのいっぽうで、鄧小平の大号令で90年代に再び改革・開放政策が推進され高度経済成長が実現されると、旧来の共産党統制下の“単位”社会は崩壊し始め「新富（ニューリッチ）」階級が台頭し、インターネットを駆使する衛慧らオルターナティヴ作家が続々と登場している。	藤井　省三	藤井　省三
12	香港文学史概説	アヘン戦争以来イギリスの植民地であった香港では、中国返還（1997）が現実化し始める80年代から、香港アイデンティティが急速に形成され、李碧華の恋愛歴史小説、也斯のポスト・コロニアルな詩と小説などを中核として香港文学が形成されている。香港映画との関わりも重視すべきであろう。	同　上	同　上
13	台湾文学史概説	台湾は日本統治期（1895～1945）と国民党統治期（1945～90頃）という2つの外来政権の支配を体験したため、戦前は日本語、戦後は北京語という2つの「国語」を、統治者に対し抵抗しつつ主体的に受容してきた。北京語文学のばあい、美麗島事件（1979）を契機に“台湾意識”を全面に押し出した作品が多くなったが、その中でも政治とエスニシティとセックスとをテーマに描き続けている李昂ら女性作家の活躍は、日本や欧米でも注目を集めている。	同　上	同　上
14	日本人はいかにして現代中国を読んできたのか――20世紀の中国文学読書史	中国・香港・台湾という中国語圏の文学を、日本人はどのように受容してきたのだろうか。5・4新文学から40年代文学までを同時代文学として紹介した東京外語グループと中国文学研究会、あるいは日本占領下の上海で張愛玲を翻訳していた室伏クララ、同時期に東京・仙台で魯迅の伝記を書いていた太宰治らにスポットを当ててみたい。	同　上	同　上
15	村上春樹と中国語圏――日本文学が国境を越える時	20世紀東アジアの3大作家といえば、魯迅（1881～1936）・張愛玲（1920～95）・村上春樹（1949～）を挙げられよう。台湾では『ノルウェイの森』（1987）が大流行して「村上春樹現象」が生じ、やがて「村上現象」は90年代初頭の香港、90年代末の上海・北京へと伝播した。上海の衛慧、台湾の絵本作家幾米（ジミー）らは中国の「村上チルドレン」といえよう。都市と農村という視点からこの3大作家を考察し、中国語圏文学における村上春樹の受容のされかたを考えてみたい。	同　上	同　上

＝　考古学と歴史（‘０４）＝（TV）

〔主任講師：白　石　太一郎（奈良大学教授）〕

全体のねらい

考古学は、人びとが生きるために大地に働きかけた跡である遺跡と、そこから発見されるさまざまなモノ、すなわち遺物から人間の歴史を明らかにする学問である。考古学の方法の概要を示すとともに、日本の考古学が先土器時代から中世に至る日本列島の歴史をどこまで明らかにしたかを紹介し、考古学の役割とその特質を理解させる。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	考古学への招待	考古学が遺跡・遺物を資料として歴史を考える学問であり、文献による文献史学、伝承資料による民俗学ともに、広義の歴史学を構成することを解説する。考古学の新しい動向についてもふれる。	白石　太一郎（奈良大学教授）	白石　太一郎（奈良大学教授）
2	考古学の方法	発掘調査にはじまる考古学の研究方法を概説する。特に層位学・型式学など歴史学である以上欠かすことの出来ない独自の年代決定法や、分布論など考古資料の分析法などについて述べる。	同　上	同　上
3	自然科学と考古学	最近著しく進展している放射性炭素法、年輪年代法などの理学的年代決定法や、鉛同位体による資料の産地同定法など、自然科学と提携した新しい研究法とその問題点を解説する。	今村　峯雄（国立歴史民俗博物館教授）	今村　峯雄（国立歴史民俗博物館教授）
4	先土器時代から縄文時代へ	日本列島における先土器文化研究の特質と先土器文化から縄文文化への変遷過程やその意義について述べる。日本列島の先土器文化や草創期の縄文文化の世界史的な位置付けにもふれる。	今村　啓爾（東京大学大学院教授）	今村　啓爾（東京大学大学院教授）
5	縄文文化の実像	縄文文化の展開過程を概観するとともに、その特質を世界の先土器文化から新石器文化へ転換のあり方と比較し、縄文文化の世界史的位置づけを試みる。	同　上	同　上
6	弥生文化の成立	水田稲作に基礎を置く弥生文化の成立過程を、東アジア史的視点で考える。弥生人の成立や縄文人との相違にもふれる。日本列島の初期農耕文化の特質を明らかにする。	宇野　隆夫（国際日本文化研究センター教授）	宇野　隆夫（国際日本文化研究センター教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
7	弥生時代の社会と文化	最近の考古学的調査の成果にもとづき、激動の時代であった弥生時代の人びとの生活と文化の実像をわかりやすく示す。銅鐸など青銅製祭器から想定される弥生人の精神生活にもふれる。	宇野　隆夫	宇野　隆夫
8	弥生時代から古墳時代へ	弥生時代から古墳時代への転換を、特に大型墳丘墓の変化のあり方から考える。特に東アジアとかかわりをも踏まえて、政治的社会の形成と倭国の成立にもふれる。	白石　太一郎	白石　太一郎
9	古墳時代の社会と文化	最近の考古学的調査の成果を踏まえて、古墳時代の人びとの生活や精神文化の実像を示す。5 世紀初頭以降の東アジア文化の本格的な受容とその歴史的背景や文化史的意味にもふれる。	同　上	同　上
10	古墳時代から飛鳥時代へ	古墳の終末の課程、大規模な都宮の造営、仏教文化の発展などから、日本列島における中央集権的な古代国家と古典文化の形成過程を、東アジアとの関わりから考える。	同　上	同　上
11	律令時代の社会	日本の律令古代国家の構造や支配の仕組みを考古学の研究成果にもとづいて考える。律令国家の世界史的位置付けや、それがその後の日本の歴史に与えた影響についてもふれる。	宇野　隆夫（国際日本文化研究センター教授）	宇野　隆夫（国際日本文化研究センター教授）
12	律令社会の産業と文化	最近の考古学の成果にもとづき、律令時代におけるさまざまな生産活動や流通の仕組み、さらに生産に従事する人びとのあり方など、この時代の人びとの生活の実態や文化のあり方にふれる。	同　上	同　上
13	中世の人びとのくらし	考古学の調査・研究が、中世史の研究にも大きな役割を果たしていることを示す。各地の発掘の成果から明らかにされた、中世の人びとの暮らしや文化の実相を示す。	小野　正敏（国立歴史民俗博物館准教授）	小野　正敏（国立歴史民俗博物館准教授）
14	中世の社会	考古学の立場から、中世を特徴づける都市をめぐる問題、さらに東国と西国の相違などを具体的に示し、中世社会の特質を鮮明にする。また中世から近世への転換についてもふれる。	同　上	同　上
15	もう二つの日本文化	縄文時代以降、北海道と琉球列島は、本州・四国・九州とはまた異なった歴史を歩む。考古学が明らかにした北と南のもう二つの文化や、それらと中の文化の関わりについて述べる。	藤本　強（国學院大学教授）	藤本　強（国學院大学教授）

＝　日本の古代（‘０５）＝（TV）

〔主任講師：　佐藤　信（東京大学大学院教授）　〕

全体のねらい

日本列島の古代史像は、様々な新資料の発見によって変わりつつある。活発に越境した国際関係、掘り起こされた各地域の歴史や古代都市の実像が明らかになり、多元的に古代史が見直されている。こうした研究動向をふまえ、東アジアの国際関係のもと史料と史跡に焦点をあてながら、あたらしい日本列島の古代史をたどりたい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	史料と史跡が語る古代史	文献・出土文字史料や遺跡・遺物など古代史が対象とする多様な歴史資料を紹介し、考古学など学際的な視野の必要性を語る。また、国際関係、中央と地方の関係、古代都市像などをめぐり、一元的にとらえられない日本列島の古代史像の新動向を整理する。	佐藤　信（東京大学大学院教授）	佐藤　信（東京大学大学院教授）
2	邪馬台国の時代	『漢書』『後漢書』「魏志倭人伝」が伝える古代社会像と、集落・祭祀・戦いをめぐる弥生時代の新しい発掘調査成果とをつき合わせ、弥生時代の列島の社会像を提示する。「魏志倭人伝」・吉野ヶ里遺跡・加茂岩倉遺跡などの史料と史跡に焦点をあてる。	倉本一宏（駒沢女子大学教授）	倉本一宏（駒沢女子大学教授）
3	地方豪族と倭国の大王	古墳時代の鉄剣銘文や「宋書倭国伝」が語る列島世界を明らかにし、磐井の戦いにも焦点をあて、５～６世紀の地方豪族と大王の関係を、国際関係の中で複眼的に見直す。稲荷山古墳鉄剣・「宋書倭国伝」・大山古墳・三ツ寺遺跡などの史料と史跡に焦点をあてる。	同　上	同　上
4	飛鳥の王権	７世紀前半の大王推古時代を中心に、隋・唐が成立する国際関係の中で、蘇我氏や厩戸王（聖徳太子）の政治像や、仏教受容（寺院の建立）などの文化動向を明らかにし、倭王権の支配構造を整理する。『隋書』・飛鳥寺などの史料と史跡に焦点をあてる。	同　上	同　上
5	律令国家の形成	７世紀後半の緊張する国際関係下、「大化改新」、白村江の敗戦、壬申の乱を経て天武・持統天皇により藤原京・律令が作られ律令国家が形成される過程を、地方豪族の動向と併せたどる。『日本霊異記』・木簡・藤原京・寺町廃寺などの史料と史跡に焦点をあてる。	佐藤　信	佐藤　信

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
6	奈良時代の政治史	奈良時代の変乱があいつぐ政治史を、皇位継承を軸にしながら藤原氏や他氏族の動向をたどり、この時代が貴族たちにとって決して安穏な時代ではなかったことを明らかにする。『続日本紀』・恭仁京・紫香楽宮・難波宮などの史料と史跡に焦点をあてる。	佐藤　信	佐藤　信
7	古代の宮都と地方官衙	平城宮・平城京や長屋王邸宅の生活やその経済基盤を、木簡や発掘成果から明らかにし、国司による地方支配に注目しつつ、国府・郡家などの地方官衙と在地の社会との関係について整理する。長屋王家木簡や平城宮・国府・郡家などの史料と史跡に焦点をあてる。	同　上	同　上
8	遣唐使と天平文化	遣唐使の困難な行程を吉備真備などの人物からたどり、彼らがもたらした政治・文化を位置づけ、中央の東大寺大仏・正倉院や地方寺院遺跡などの文物から文化的広がりを考える。『東大寺要録』・正倉院・大宰府跡・国分寺などの史料と史跡に焦点をあてる。	同　上	同　上
9	平安王朝への道	奈良時代の天武系にかわる天智系の新しい皇統の登場、桓武天皇による対蝦夷戦争と新都造営、そして桓武晩年の徳政論争による両者の停止など、平安新王朝確立への歩みを概観する。『続日本紀』・多賀城・長岡京などの史料と史跡に焦点をあてる。	同　上	同　上
10	平安京とその文化	嵯峨天皇による新たな政治・文化の展開と平安京の確立を整理し、都市平安京の成熟や平安新仏教やカナの展開など、その後の日本文化に影響を与えた平安初期の文化について明らかにする。『池汀記』・平安京・東寺などの史料と史跡に焦点をあてる。	同　上	同　上
11	藤原北家の台頭	9世紀半ばからの藤原北家の台頭を、相次ぐ他氏排斥事件とともに整理する。天皇と「前期摂関」との関係を軸としつつ、宇多天皇時代の政権構造や菅原道真左遷事件など、摂関政治に至る政治過程を整理する。『伴大納言絵巻』などの史料と史跡に焦点をあてる。	同　上	同　上
12	摂関時代の政治と文化	摂関政治の構造を地方支配のあり方をふくめて概観し、摂関時代の貴族の政務や生活のあり方を紹介する。摂関と天皇との関係の実情や、国風文化の意義についても明らかにする。『小右記』・『源氏物語絵巻』・平等院（寝殿造り）などの史料と史跡に焦点をあてる。	佐々木恵介（聖心女子大学教授）	佐々木恵介（聖心女子大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
13	受領と地方社会	１０世紀から地方支配の要となった受領に焦点をあて、受領の任国支配、受領と地方豪族との関係などについて明らかにしつつ、承平天慶の乱など中央と地方との関係も概観する。尾張国郡司百姓等解・『時範記』・『将門記』・国府などの史料と史跡に焦点をあてる。	佐々木恵介	佐々木恵介
14	院政の時代	後三条天皇から院政に至る政治過程を整理し、院政期の院・天皇・摂関・受領たちの関係に焦点をあてて政治構造を明らかにするとともに、浄土教・平泉などこの時代の文化について考える。『今昔物語』・鳥羽・平泉などの史料と史跡に焦点をあてる。	同上	同上
15	日本列島の古代史	日本列島の古代史を律令国家一元論で見るのではなく、蝦夷・北海道の歴史や琉球における統一国家の形成を視野に入れた上でとらえ直す観点を提示する。そして、講義全体のまとめを行う。	佐藤　信	佐藤　信

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	専門科目	科目コード	1553909	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　日本の中世（‘０７）＝（TV)

〔主任講師（現職名）：五味　文彦（放送大学教授）　〕
〔主任講師（現職名）：本郷　和人（東京大学大学院准教授）〕
〔主任講師（現職名）：中島　圭一（慶應義塾大学准教授）〕

講義概要

日本の中世は古代や現代とは違って権力が中央に集中していなかった。その歴史を、成り立ちや展開の姿、特に列島の各地の動きや対外関係に注目しながら考えることにする。そのためには中世史の研究を行うための主な材料や研究方法などを吟味するとともに、列島の各地からのレポートを載せて、多様な地域、多彩な人物のあり方を浮き彫りにすることにしたい。

授業の目標

単に受け身で視聴して学ぶのではなく、自らの手で調べて考え、各地に赴いて実感したくなるような授業をめざしたい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	中世を考える	日本の中世史を考えるうえでの方法や、時代区分、研究の現状などを解説して、中世社会への誘いとする。	五味　文彦（放送大学教授）	五味　文彦（放送大学教授）
2	中世のかたち	中世社会のかたちがどのように形成されてきたのか、その成立期を中心にして考える。院政という政治形態や、家という社会の単位、また宗教や文化の形成について考える。	同上	同上
3	武士政権の誕生	東国の武士たちは、朝廷や国衙の苛酷な要求から自分たちの利益を守ってくれる存在を欲するようになった。その求めにもっとも良く応じた者こそが源頼朝であった。武士たちは頼朝のもとに集結し、新しい権力を構成する。鎌倉幕府の誕生である。	本郷　和人（東京大学大学院准教授）	本郷　和人（東京大学大学院准教授）
4	中世前期の国家像	鎌倉時代に国家の存在を想定するならば、その担い手としては幕府と朝廷の名を挙げるのが妥当であり穏当である。では、両者はどのように関わっていたか。具体的な史実を挙げながら、分かり易く説明する。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	統治の行方	関東に政権を立ち上げた武士たちは、否応なく「統治」を担う存在として成長していくことになる。そうした動向の中心にあったのが、源頼朝の妻、政子の実家である北条氏であった。北条氏の盛衰と統治の進展とを学習する。	同上	同上
6	中世の仏と神	鎌倉時代において、仏教とは何だったのか。「顕密体制」という考え方を紹介しながら、「易しい」仏教としての浄土の教えと、「武士の」仏教である禅の位相を探る。また仏と共に歩んだ神のすがた、さらに公家と武家に共有された思想についても述べる。	同上	同上
7	古文書を読む	古文書には定められた形式があり、その形式及び変遷を学んでおかないと、古文書の正偽さえ判断できないし、歴史学研究に役立てることができない。武家様文書の大まかな約束事を勉強しよう。	同上	同上
8	二人の天皇がいた時代	足利尊氏は武士たちを率いて京都に新たな幕府を開き、北朝の天皇を戴いて全国の統治を試みた。しかし、勢力は衰えながらも、吉野の南朝も抵抗を続けていた。南北朝の相克を追いながら、当時の天皇の存在を問い直す。	同上	同上
9	室町殿の王権	3代将軍義満の下、室町将軍家は日本全体に君臨する「唯一の王権」としての立場を固めていった。ここでは、義満による覇権確立の過程を押さえながら、公武それぞれに対する室町幕府の支配体制の実像を見てゆく。	中島　圭一（慶應義塾大学准教授）	中島　圭一（慶應義塾大学准教授）
10	自立する村、繁栄する都市	室町時代から戦国時代にかけて、村や町の住人が団結してしばしば一揆を起こすようになる。その基盤となったのは、村や町における住人相互の結びつきや日常生活のあり方であり、その等身大の姿を探ってみたい。	同上	同上
11	東アジアの海の道	中世は東アジア世界との海上交通が盛んに行われた時代であった。ここでは沈没船や港町の遺跡を手がかりに、宋／元／明、高麗／朝鮮、琉球、北方などの諸地域との交流の実態を明らかにしてゆく。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	応仁の乱―近世への第一歩	応仁の乱は、単に政治史的な意味でだけ、戦国時代が幕を開ける契機であったのではない。中世的秩序の行き詰まりの結果として起こった、より広汎な社会変動の一つの表出として、この戦乱をとらえ直してみる。	同上	同上
13	文化からみた戦国社会	戦国時代の文化の水平的な広がり（地方への普及）と垂直的な広がり（都市における町衆への普及）という二つの特徴を通じて、この時代の社会の動向を考えてみたい。	同上	同上
14	戦国大名の領国支配	中世的秩序の解体とともに成立し、近世的権力へとつながる戦国大名が、領国の支配においてどのような課題に直面し、どのような方策を打ち出したのか、具体例に即して見ていく。	同上	同上
15	中世社会と現代	中世社会と現代社会の関わりを通じて、歴史を学ぶ意味を考えるとともに、中世社会の位置づけを改めて考えてみたい。	五味　文彦（放送大学教授）	五味　文彦（放送大学教授）

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	専門科目	科目コード	1554000	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　日本の近世（‘０７）＝（Ｒ）

〔主任講師（現職名）：　杉森　哲也（放送大学准教授）〕

講義概要

日本の近世（16～19世紀）とはどのような時代なのか、その特質について講義することを基本的な課題とする。５つの分野（政権論および国家論、朝廷論および朝幕関係論、村落論、商業・流通論、都市論）を取り上げ、各分野毎に、①研究状況の概観、②高校教科書の記述に代表される一般的な理解と現在の研究状況の違い、③各分野の最先端の研究成果、などについて講義する。

授業の目標

日本の歴史の中で、近世（16～19世紀）という時代がいかなる特質をもつ時代なのかについて理解することを基本的な目標とする。教科書的な通史による講義ではなく、近世史研究の中の５つの分野を取り上げるという方法で、講義を構成する。近世史研究がどのように進展してきたのか、そして現在の最新の研究がどのようなものであるのかについて、分かり易くかつ高水準の内容となる講義を行いたい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	近世という時代	近世（16～19世紀）という時代は、日本の歴史の中でどのような位置にあるのだろうか。日本国内のみならず、隣接する東アジアさらにヨーロッパとの関係も視野に入れながら、この時代の特質について考える。また、本講義の序論としても位置づける。	杉森哲也（放送大学准教授）	杉森哲也（放送大学准教授）
2	信長・秀吉の国家構想	長く続いた戦国の世に終止符を打った織田信長・豊臣秀吉の諸政策を、彼らの国家構想に重点を置いて考える。特に、(1)天皇・朝廷との関係、(2)朝鮮侵略を取り上げる。	堀新（共立女子大学准教授）	堀新（共立女子大学准教授）
3	幕藩制国家の成立	関ヶ原の戦いから「鎖国」の成立までの幕府の諸政策を中心に説明する。特に、(1)幕政・藩政の成立、(2)「鎖国」の成立を取り上げる。	堀新（共立女子大学准教授）	堀新（共立女子大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	近世武家官位	誰でも知っているけれども詳しいことはあまり知られていない武家官位。その詳細を説明するとともに、武家官位から見た幕府・藩・朝廷の関係について説明する。	堀新(共立女子大学准教授)	堀新(共立女子大学准教授)
5	統一政権の成立と朝廷の近世化	京都の朝廷は、天皇・公家衆等により構成され、日本の古代・中世・近世を通じて存在し、王政復古と明治維新を経て近代に解体された集団である。本章では、豊臣政権から江戸幕府の成立に至る近世前期(16世紀末～17世紀)の政治過程を、朝廷との関係に即して検証し、①朝幕藩体制の基本的枠組、②天皇・朝廷の政治的宗教的機能、③天皇・公家集団の近世化の特質について考察する。	山口和夫(東京大学准教授)	山口和夫(東京大学准教授)
6	朝廷と公家社会	近世の権力の成立に寄与し、編成を受容して存続した天皇・公家身分集団について、①構成員(人、家)、②組織(機構、職制、結合)、③洛中の公家町や洛外の知行地(空間、場)、④活動(朝儀、神事、仏事、人事、配分、組織編制、規範)等の諸要素の実態を復元し、近世中期(17世紀半ば～18世紀)以降の通時的な変容を再構成する試みを事例紹介する。	山口和夫(東京大学准教授)	山口和夫(東京大学准教授)
7	近世朝幕関係の論じ方	①諸事件から朝幕間の対立・確執や天皇・院(上皇・法皇)の反幕府感情や行動を重視する古典的で今日なお踏襲される見解、霊元天皇(院)と摂家近衛基熙(左大臣、関白)との二つの路線の相克を主張する学説、朝幕関係の変化・逆転の画期を検出・提唱しようとする動向等の研究史を整理し、②朝廷を主導した天皇・院・摂家たちが朝廷・幕府観を示した諸史料を検討し、③幕府・将軍への期待・依存の共通性と、近世朝廷の幕府との不可分な関係と構造・体制の強固さを再確認する。	山口和夫(東京大学准教授)	山口和夫(東京大学准教授)
8	兵と農の分離	兵農分離をどのように捉えるか。近年の研究成果をふまえて、在地社会においてどのように兵と農が分離していったか、山城国(現、京都府)を事例として、その歴史的事実を明らかにしていく。そして、近世の村に居住し続けた「武士」、武士を志向し続けた「百姓」の意識について考察する。	吉田ゆり子(東京外国語大学教授)	吉田ゆり子(東京外国語大学教授)
9	村の形成	近世の村はどのようにして形成されていくのか。中世ー近世移行期の村落史研究の動向を紹介しながら、村切り、村の自律性について説明する。その上で、戦国時代の村から近世の村が形成されていく過程を、村人の精神的支柱であった神社と村との関係に注目しながら、山城国や信濃国(現、長野県)を事例として述べていく。	吉田ゆり子(東京外国語大学教授)	吉田ゆり子(東京外国語大学教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
10	村と身分的周縁	近世の村は、百姓身分の人々から構成されていると考えてよいのか。近年注目されている身分的周縁に関する研究動向を紹介しながら、こうした身分的周縁に注目することで明らかになる地域社会像を、具体的に信濃国下伊那郡を取り上げて述べていく。	吉田ゆり子(東京外国語大学教授)	吉田ゆり子(東京外国語大学教授)
11	新興流通勢力の登場	18世紀中期、全国的な流通再編の動きのなかから登場してくる新しい海運流通勢力があった。江戸と上方を結んだ「尾州廻船(びしゅうかいせん)」、北海道と上方を結んだ「北前船(きたまえぶね)」、そして北海道・東北と江戸を結んだ「奥筋廻船(おくすじかいせん)」がそれである。ここではそれぞれの船・船主の実像とそれらを生んだ地域の特徴を紹介しつつ、こうした新興勢力を必要とするに至った近世後期の経済的背景を考える。	斎藤善之(東北学院大学教授)	斎藤善之(東北学院大学教授)
12	新興海運勢力と全国市場	尾州廻船・北前船・奥筋廻船は、いかなる積荷を、どこからどこへ運んでいたのか。それらの相互の関係はどうなっていたのか。こうした疑問に答えることで、新たな港町のネットワークの展開を検証し、近代に国際貿易港として発展する函館・神戸・横浜がここから生まれてくる必然性を明らかにするとともに、新興海運勢力が作り出した商品流通市場の全国的な構造を考える。	斎藤善之(東北学院大学教授)	斎藤善之(東北学院大学教授)
13	新興海運勢力をめぐる技術と文化	新興海運勢力の展開は、近世後期の様々な技術の成熟によって支えられていた。例えば大型船(千石船)の建造技術、それを運航するための航海術や通信手段などは、いずれも伝統的な技術ではあるが、絶え間ない改良によって長足の進歩を遂げた結果、新興海運勢力を成立させる重要な基礎になった。いっぽう新興海運勢力によって安く大量にもたらされた新たな商品は、庶民生活に革新をもたらし、和風を代表する近世後期の成熟した生活文化を生み出していった。ここではそのような新興海運勢力を支えた技術と、それが近世社会にもたらした影響を生活文化の成熟といった側面から考える。	斎藤善之(東北学院大学教授)	斎藤善之(東北学院大学教授)
14	東アジアの「首都」	近世の日本の周囲には、清(中国)、朝鮮、琉球という三ヵ国が存在した。日本とこれら三ヵ国の都市、具体的には「首都」の比較を通して、東アジアという視点から日本の近世都市について検討する。	杉森哲也(放送大学准教授)	杉森哲也(放送大学准教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
15	近世から近代へ	19世紀は、日本の歴史が近世から近代へと大きく転換する時期である。近世の都市がどのようにして近代を迎えたのかについて、この回では開国という視点から論じる。具体的には京都を取り上げ、そこに展開していた大規模な手工業である西陣機業の動向を通して、近世から近代へという時代の転換について検討する。	杉森哲也(放送大学准教授)	杉森哲也(放送大学准教授)

＝　近代日本と国際社会（‘０４）＝（Ｒ）

〔主任講師：小　風　秀　雅（お茶の水女子大学教授）〕

全体のねらい

幕末の開国・開港によって開始される日本の近代化は、西洋化に止まらない国際化・世界化（グローバリゼーション）の過程であった。欧米・アジアとの国際関係の変化を通して日本の近代化を考えていく

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	欧米外圧の再考	近年欧米列強のアジア政策の実態の研究が進展するなかで、その歴史的現実とアジアの側のイメージとのギャップが明らかとなってきた。西洋とアジア双方の視点から、ウエスタン・インパクトの実態を考える。	小風　秀雅（お茶の水女子大学教授）	小風　秀雅（お茶の水女子大学教授）
2	天皇の外交儀礼	欧米との外交関係の締結は、維新後、君主としての天皇の外交儀礼を必要とした。欧米の外交官との謁見は、見える君主としての新たな天皇像の形成でもあった。外交儀礼を通じて、日本の国際意識の形成過程を考える。	ジョン　ブーリン（ロンドン大学准教授）	ジョン　ブーリン（ロンドン大学准教授）
3	交通革命と東アジア	国際社会との関係といっても、時期によってその実態は大きく異なる。欧米と日本との関係が急速に接近したのは１８６０年代以降、とくに１８７０年代に入ってからである。国際化の前提となる技術革新とそれにともなう社会的変化を明らかにする。	小風　秀雅	小風　秀雅
4	対日外交の担い手たち	ハリス、オールコック、ロッシュ、パークス、など、幕末・維新期の欧米外交官は個性的な人物が多かった。彼らが対日外交に果たした役割をその個性とともに考える。	吉良　芳恵（日本女子大学教授）	吉良　芳恵（日本女子大学教授）
5	自由貿易と国益	近代に成立した外交関係は何よりもまず経済・貿易関係を主としたものであった。横浜、長崎、函館などの開港場で展開された自由貿易が、日本経済に及ぼした影響について考える。	井川　克彦（日本女子大学教授）	井川　克彦（日本女子大学教授）
6	アジアの国際秩序と日本	アジアの伝統的国際秩序である中国を頂点とした攘夷秩序は、明治初期の日本外交にとって大きな壁となった。東アジアの国際関係の焦点となった朝鮮と琉球をめぐる日中関係について考える。	小風　秀雅	小風　秀雅
7	蚕糸業と世界市場	日本の輸出貿易を支えたのは生糸貿易であった。生糸は世界的に東アジアの特産物であり、その点で日本が優位を占めた輸出品であったが、それを拡大したのは生糸産地の貿易商たちであった。彼らの活動を通して日本と世界の関係を探る。	井川　克彦	井川　克彦

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
8	海外情報戦略の展開	海外情報に敏感であった日本は、在外公館や商社のどの情報収集活動により積極的に情報を収集していた。海外の経済活動を通じて世界と向き合おうとしていた日本社会について考える。	本宮　一男（横浜市立大学教授）	本宮　一男（横浜市立大学教授）
9	憲法発布と国際関係	日本の近代化は、政治（憲法体制の確立）、経済（産業革命）、社会（国民化―ナショナル・アイデンティティーの確立）の３つの柱によって達成される。第一と第三の柱における国民化の実態を、国民の形成の視点から考察する。	小風　秀雅	小風　秀雅
10	日本文化の国際化―ジャパノロジーの誕生―	幕末以来、ジャポニズムを筆頭とする日本への関心の高まりのなかで、日本研究が開始された。欧米が日本に寄せた関心のあり方を通じて、日本と西洋との係り方について考える。	吉良　芳恵	吉良　芳恵
11	日清戦争と20世紀の国際関係	日清・日露の戦争がアジアおよび世界に与えた影響を考える。とくにアジア世界の近代化に対して日清戦争が及ぼした影響は大きい。流動化するアジア情勢のなかで、日本がどのような位置を占めていたのかを考える。	小風　秀雅	小風　秀雅
12	大日本帝国の完成と第一次大戦	大国ロシアとの戦争に勝った日本は、極東アジアの盟主となり、幕末以来追い求めてきた帝国国家として完成した。さらに辛亥革命、第一次大戦は日本に一層の自由行動を許容した。しかし、この時こそ国際社会から日本の真価が問われることとなった。	季武　嘉也（創価大学教授）	季武　嘉也（創価大学教授）
13	ワシントン体制と日米対立の予感	日露戦後、いよいよビッグパワー・アメリカがアジアに進出すべく中国市場に参入してきた。その最大ライバルが日本である。加州移民、対中２１か条要求、シベリア出兵と対立を繰り返す日米間の将来像を巡って様々な意見が噴出する中、ワシントン体制が成立していく。	同　上	同　上
14	通商問題と経済外交	戦間期の日本は、中東やアフリカなどの新たな海外市場を開拓する。一方、通商自由化を求めて国際的な経済外交を展開していた。その後の経済摩擦の発生を見通しつつ、日本が抱えていた通商問題について考える。	本宮　一男	本宮　一男
15	両大戦間期の日中関係	近代の日中間の国際関係を集約した都市が、大連と上海である。大連は日本の満州経営の拠点、上海は欧米の中国進出の拠点であるとともに日本の経済進出の根拠地であった。この両都市との関係のあり方が日中関係に果たした役割について考える。	小風　秀雅	小風　秀雅

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	専門科目	科目コード	1555308	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　中国社会の歴史的展開（‘07）＝（R）

〔主任講師（現職名）：岸本　美緒（東京大学教授）〕

講義概要

中国史の概説であるが、中国社会の特質、及び東アジア的視点に留意する点を本講義の特色としたい。「中国」の意味を考える第一回を除き、時期を追って論じてゆくが、長期にわたり存続していく中国の社会や文化の特質――例えば「家」や「儒教」「士大夫」「民衆反乱」など――は時期を追った記述のみではつかみにくいと思うので、そうした点はコラムのなかで適宜論じる。また、毎回の講義において関連する史料を挙げ、具体的なイメージをつかむことをめざす。

授業の目標

① 中国史の流れを、政治のみならず社会の変遷に重点を置いて大局的に理解する。
② 中国社会の動きを、東アジアや世界日本など、広い視点から把握する。
③ 現代中国の社会状況を長期の歴史的視野のもとでとらえる。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
1	「中国」とは何か	・現在の中華人民共和国の地理的概況と民族構成 ・「中国」観念の形成 ・華夷思想の世界像 ・近代ナショナリズムと「中国」観念 （焦点）中国文化とは？ （史料）梁啓超の「中国」論	岸本美緒（東京大学教授）	岸本美緒（東京大学教授）
2	中国初期王朝の形成	・中国文明の多元性 ・地域統合と初期国家の成立 ・初期王朝の形成 ・周王朝と封建制 （焦点）「革命」とは何か （史料）『書経』にみる殷周革命	同上	同上
3	春秋戦国から秦の統一へ	・春秋・戦国の動乱 ・小農経済と都市・商業の発達 ・「諸子百家」と秩序問題 ・秦の統一と皇帝政治の始まり （焦点）「封建」と「郡県」 （史料）『史記』秦始皇本紀	同上	同上
4	漢帝国と周辺地域	・前漢初期の政治 ・漢代の匈奴問題 ・武帝の拡張政策と財政問題 ・後漢の国家と社会 （焦点）封建と郡県 （史料）『史記』匈奴列伝	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	分裂と融合の時代	・ 中国の分裂と北方民族の進出 ・ 北朝における胡漢の融合 ・ 六朝政権と江南の開発 ・ 魏晋南北朝期の東アジア (焦点) 東アジア世界論 (史料) 陶潜「桃花源記」	同上	同上
6	隋唐帝国の形成	・ 南北の再統一 ・ 国家制度の整備 ・ 唐と周辺諸地域 ・ 国都長安と外来文化 (焦点) 新しい生活文化の定着 (史料) 李白の詩にみる唐代社会	同上	同上
7	宋と北方諸民族	・ 北方諸民族の動向 ・ 唐宋変革とは何か ・ 対外危機と宋代社会 ・ モンゴルの登場 (焦点) 士大夫の倫理と生活 (史料) 『東京夢華録』に見る開封の繁栄	同上	同上
8	元から明へ	・ 元朝の中国統治 ・ 明の建国 ・ 明王朝と周辺地域 ・ 「北虜南倭」の時代 (焦点) 銀と中国経済 (史料) 鄭若曽『籌海図編』	同上	同上
9	清朝の平和	・ 東アジアの新興勢力 ・ 清朝の中国占領 ・ 清朝と周辺地域 ・ 清代の社会と経済 (焦点) 宗教と民衆反乱 (史料) 雍正帝『大義覚迷録』	同上	同上
10	清末の動乱と社会の変容	・ 清代中期までの中国と欧米勢力 ・ アヘン戦争 ・ 太平天国と列強 ・ 洋務運動 (焦点) 上海の発展 (史料) 魏源『海国図志』	同上	同上
11	中国ナショナリズムの形成	・ 中国分割の危機と戊戌変法 ・ 義和団事件 ・ 改革と革命 ・ 辛亥革命 (焦点) 清末の風俗改革 (史料) 康有為「京師保国会での演説」	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	五四運動と中国社会	・辛亥革命後の状況 ・第一次世界大戦と中国 ・五四運動と革命の広がり ・北伐と中国統一 (焦点) 新文化運動と「家」批判 (史料) 李大釗「庶民の勝利」	同上	同上
13	抗日戦争と中国革命	・国民政府の近代化政策 ・共産党と農村社会 ・抗日民族統一戦線 ・抗日戦争と社会変容 (焦点) 中国農村と地主制度 (史料) 毛沢東の農村調査	同上	同上
14	社会主義建設の時代	・中華人民共和国の成立 ・農業集団化 ・大躍進政策と人民公社 ・文化大革命 (焦点) 社会主義と中国伝統思想 (史料) 文革期の少女の日記	同上	同上
15	現代中国の直面する諸問題	・改革開放政策への転換 ・民主化の課題 ・国家統合 ・社会主義市場経済のゆくえ (焦点) 都市と農村 (史料) 鄧小平「南巡講話」	同上	同上

＝　前近代の東南アジア（‘０６）＝（Ｒ）

〔主任講師（現職名）：桜井　由躬雄（東京大学大学院教授）〕

全体のねらい

かつて東南アジアは石油やゴムなどの第一次産品の輸出地域として知られ、近年ではその政治的な不安定にもかかわらず、急速な経済発展をした地域、また日本から一番近い熱帯観光地と、あるいは“エスニック”料理の故郷として知られる。そこには、一貫して東南アジアに住んでいる人々の姿がない。あったとしても、それは“癒し”とか“醇朴”とか、実態とはかけはなれた思いこみのイメージでしか語られない。本講義は、東南アジアの近代以前の歴史を解説することを通じて、東南アジアの人々が経てきた二千年の経験と、その結果としての現代を考える。それは東南アジアをモノとしてはなく、人の世界として、認識する。あたりまえであって、忘れられていた方法である。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	東南アジアとは	文明と文化の相違について考える。文化とは、生態環境に対応して生まれた人々の生活システムである。東南アジアの人々は、高温多湿で植物が卓越する生態環境のもとに、文化的統一性をもっている。東南アジアの生態環境は熱帯の海の世界―海域東南アジアと、サヴァナや照葉樹林帯からなる陸の世界―陸域東南アジアからなる。東南アジアの陸は長く入り組んだ海岸線、深く山中にまで食い込んだ河川によって、どこでも海と関係づけられる。その海は島々や半島によって、複数の海区に分けられ、それぞれに特色ある文化と歴史を形作っている。	桜井由躬雄（東京大学大学院教授）	桜井由躬雄（東京大学大学院教授）
2	文化と文明	東南アジアの「熱帯の海」の中に、アルプスヒマラヤ造山運動が陸地を盛り上げる。陸の東南アジアである。その延長は東南アジア島嶼部をつくりあげる。陸地の北には雲南山地が広がる。山地の盆地、盆地を下って平原、デルタ、そして島嶼部へと、陸はさまざまな景観を示し、その景観に対応する農業、社会を作っていく。陸の東南アジアの文化はドンソン文化が代表する。	同上	同上
3	海の熱帯	海は東南アジアの外の世界とつながる。世界史の中に東南アジアを位置づける。２世紀ごろ、東西の海の交渉が始まる。東西両世界での都市文明の発展とともに、海の東南アジアが第一には東西交渉の中継地として、第二には熱帯産物の供給地として世界史の中に登場してくる。世界と東南アジアを結ぶ政体が最初の「港市国家」としての都市文明を作り上げる。それが、現在の南ベトナムにあって南シナ海とタイ湾を結んだ扶南、また南シナ海の中央にあって、沈香を供給した林邑が出現する。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	陸の東南アジア	海の東南アジアの発展は、自給的な農業社会だった陸の東南アジアを海に近づけ、海を核とするネットワークを作り上げた。それぞれの陸のネットワークは、固有の言語集団、固有の文化をもった集団によって担われた。陸の東南アジアの民族的な分割が始まった。	桜井由躬雄(東京大学大学院教授)	桜井由躬雄(東京大学大学院教授)
5	原史時代の東南アジア	世界史は１１世紀から海の時代に突入する。本来、海を核として形成された東南アジアの陸海域は、いっせいに活性化する。海の国際化を保障するシステムが生まれてくる。陸では集配システムが帝国的に編成される。しかし、海域の国家群は中国など外の文明世界との関係を強化し、一方、陸域の国家群は在地の文化性を強める。両者の対立が激しくなる。海と陸が分裂する。独立した海の国家群は、人口と領域をもった陸域の国家に統合されようとする。アンコール、ハノイ、パガン、マジャパヒトのような陸域国家群が、東南アジアの分割を開始する。	同上	同上
6	初期国家の成立	１５世紀はじめ、鄭和の遠征を境に、東南アジアの海の交易は沸騰する。中国の対南海政策の基本は海域の国家群との関係を強化し、海の力が陸を圧倒する。マラッカ、パガン、アヨドヤ、チャンパなど海の国家群が陸の国家群を圧倒する。海の沸騰の中に、新たに西方のポルトガル勢力が参入し、海の中心、マラッカ王国のネットワークを崩壊させる。この結果、中心性は拡散し、海の交易活動が多角化する。	同上	同上
7	古代的歴史圏の成立	１６世紀後半、ポルトガルは、東シナ海に進出する。折から日本の金銀生産が急成長する。メキシコ銀がアジアにもたらされる。対東アジア交易はアユタヤ、プノンペン、クアンナムを中心に、また対西アジア、欧州交易は島嶼部を中心に発展する。１７世紀、商業に沸騰する海の世界に、オランダ東インド会社が参入する。オランダはその軍事力と商業力で東南アジアの海を独占しようとする。しかし、１７世紀の後半、欧州市場での南海産物の大暴落にともない、交易の時代は終焉する。	同上	同上
8	海の時代	１７世紀の末から、欧州でコーヒー、サトウキビなどの新しい商品市場が生まれる。オランダ東インド会社は、交易中心の機構から、陸の生産地の支配に転ずる。生産物の収集と強制的な生産調整を兼ねた供出制度が展開され、強制栽培制度に発展していく。東インド会社は１８世紀を通じて、ジャワ・マドゥラの支配地を拡大する。スペイン領フィリピンでも、ガレオン交易から、タバコなど諸島内生産物の輸出に移行していく。海の市場経済が直接、陸の人々の生活を規定していく。陸でも海でも東南アジアの諸地域が、その特性を主張して歴史に参加してくる。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
9	大建築の時代	東インド会社が対欧州渡洋(トランスオーシャン)交易を担ったのに対し、スラウエシのブギス人たちが域内交易を担ってオランダと対抗した。ブギス人はマラッカ海峡やマレー半島の諸港市国家の建設に関与した。また東南アジア産品の最大の市場である中国との交易は華人商人に担われた。さらに華人移民は商品生産を開始した。華人たちは各地に華人港市国家を建設した。華人の経済力が優越する東南アジア経済の原型が生まれる。	桜井由躬雄(東京大学大学院教授)	桜井由躬雄(東京大学大学院教授)
10	大交易の時代前期	１８世紀後半、海の復興が始まる。イギリス東インド会社の船がインド、中国、欧州を結んで走り回る。東南アジアには会社の委託を受けた私商人(カントリートレーダー)が活躍する。ブギス、華人、カントリートレーダー達の多角的な活動は、東南アジアの各地方を活性化させ、その中から新しい統合運動が生まれた。東インド会社の統合運動はその一つと考えられる。同時期にアユタヤ、ペグー、クアンナムなどの港市国家群の陸域への拡大運動が始まる。この流れの中にイギリス東インド会社は、東南アジア進出の拠点としてシンガポールを建設する。	同上	同上
11	大交易の時代後期	しかし、諸港市国家の拡大運動は生産地を支配する陸の国家群に阻止される。この結果、農民を基盤とし、卓越した軍事力と官僚群を保持し、環境圏をこえた広い領域を中央集権的に支配する「大国」が、諸港市を支配する。ベトナムのタイソン阮朝、阮朝とビルマのコンバウン朝で始まったこの拡大運動の結果が、現在の陸域東南アジアの各領域を決定している。	同上	同上
12	ポスト大交易時代の海	アユタヤ朝シャムは熱帯産物の対中交易に基礎をおきながら、チャオプラヤ水系、メコン水系、マレー半島に領域、支配圏を拡大していく。アユタヤはコンバウン朝ビルマによって一度、崩壊するが、トンブリ朝が再興し、これを継いだラタナコーシン朝が、港市バンコクを中心として、それぞれの陸域を結ぶ支配圏をつくりだした。この支配圏が現在のタイ領域の基盤になっている。１９世紀後半以降、米価が高騰し、米が重要な国際商品になるとともに、チャオプラヤデルタの米生産が拡大し、シャムの王権じはデルタの生産と海の交易が複合する。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
13	大国の形成	１８世紀末、オランダ東インド会社は解体し、オランダ領東インドが生まれた。１９世紀に入ると、オランダはジャワ戦争によって、ほぼジャワ全域を支配下におさめ、パドリ戦争によってスマトラ山地に介入する。１８３０年代からジャワを中心に強制栽培制度が施行され、全土が商品経済に組み込まれた。１９世紀を通じて、カリマンタン、バリ、アチェなどがオランダの支配下に入り、オランダ領東インドが完成した。オランダ領東インドの領域が現在のインドネシアの領域である。	桜井由躬雄（東京大学大学院教授）	桜井由躬雄（東京大学大学院教授）
14	海の植民地	中国インドルートの確保と、東南アジアの進出をはかるイギリスはベンガル湾の内海化をはかり、三次にわたる英緬戦争によってコンバウン朝ビルマを滅ぼし、インド帝国の１州に組み込む。このときの英領ビルマ州の領域がほぼ現在のミャンマーにあたる。折からの米価高騰はイラワジデルタを巨大な米生産地に変え、ヤンゴンは海の交易とデルタの生産を統合する拠点となった。	同上	同上
15	陸の植民地	一方、フランスは二度の戦争を通じてベトナム南部、北部を占領し、中部を保護国化した。ラオス、カンボジアも保護国化され、仏領インドシナ連邦が成立した。仏領インドシナ内部の諸国家・地域が現在のラオス、カンボジア、ベトナム三国の領域のもととなっている。折からの米価高騰は南部のメコンデルタを米生産地に変え、サイゴン（現ホーチミン）がデルタと海の交易を結んだ。	同上	同上

＝　中央アジアの歴史・社会・文化（‘０４）＝（Ｒ）

〔主任講師：　間野　英二（龍谷大学教授）〕
〔主任講師：　堀川　　徹（京都外国語大学教授）〕

全体のねらい

日本ではシルクロードなどの名で知られる中央アジアの歴史について、Ⅰ 中央アジアの歴史、Ⅱ 中央アジアの社会、Ⅲ 中央アジアの文化、という３つの大きな枠組みにそって概観し、中央アジア史の総合的な理解を深めたい。また最後に、Ⅳ 中央アジア史研究の課題について述べ、今後の研究の進むべき方向を探りたい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
Ⅰ 中央アジアの歴史		この放送の最初の５回は、中央アジアの歴史の大勢について概観する。		
1	中央アジアとは？	第１回は、この放送で取り上げる「歴史的中央アジア」の概念、その地理的特徴、民族、時代区分、研究方法などについて述べ、この放送全体への導論としたい。	間野　英二（龍谷大学教授）	間野　英二（龍谷大学教授）
2	アーリア時代（前イスラーム時代）の中央アジア	９世紀頃までの中央アジアでは、現在と異なりアーリア系の人々が活躍したので、この時代を「アーリア時代」とも呼ぶ。中央アジアの草原地帯における遊牧民の活動の開始、遊牧国家の誕生、農耕地帯におけるオアシス城郭都市国家の形成、ペルシア、中国など周辺諸勢力の進出などについて述べる。	同　上	同　上
3	テュルク・イスラーム時代の中央アジア テュルク化とイスラーム化	９世紀頃を境に、中央アジアは徐々に、主にテュルク人のイスラーム教徒が住む「テュルク・イスラーム世界」へと変貌して、そのまま現代を迎える。中央アジアに「テュルク・イスラーム時代」を出現させた「テュルク化」「イスラーム化」と呼ばれる現象について、天山ウイグル王国、カラ・ハーン朝の歴史、それに遊牧民の定住民化の問題とも関連づけて説明する。	同　上	同　上
4	中央アジアの隆盛 モンゴル帝国とティムール帝国	13 世紀にチンギス・ハーンに率いられたモンゴル遊牧民はモンゴル帝国を建国し、ユーラシア大陸の大半を支配した。また 14 世紀、テュルク化しイスラーム化したモンゴル人の子孫であるティムールは、東方イスラーム世界と北インド、南ロシアを支配した。これら２帝国およびその継承国家について述べ、このような強力な国家成立の要因と意義について考える。	堀川　徹（京都外国語大学教授）	堀川　徹（京都外国語大学教授）
5	「近代」への胎動 植民地（経験、革命、）（民族）	17-18 世紀以降停滞期を迎えた中央アジアは、やがて帝政ロシアおよび清朝の支配下に置かれることとなり、そのもとで「近代」に直面する。大国による中央アジア統治の実態とそれに対する中央アジアの人々の反応、大国の存在を前にして生じた民族的覚醒と社会的プロテスト、さらに 20 世紀のロシア革命がこの地域にもたらした影響、そして社会主義体制下における現在の民族と国家の原型の成立までを概説する。	帯谷　知可（京都大学准教授）	帯谷　知可（京都大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
Ⅱ	中央アジアの社会	この回から、5回にわたって中央アジアの社会について概観する。最初の3回では、中央アジアを特徴的づける草原の遊牧社会と砂漠のオアシス農耕社会、そして中央アジアにおける陸上交通路（シルクロード）の意義について述べる。		
6	遊牧社会	中央アジア北部の草原地帯に成立し、モンゴル帝国などの大帝国を建設して世界史上に大きな足跡を残した遊牧民の社会について解説する。遊牧という生活様式、部族制、遊牧国家の特徴などについて述べ、また口承文学など遊牧民独自の文化についても触れる。	堀川　徹	堀川　徹
7	オアシス農耕社会	中央アジア北部の草原地帯を本拠とした遊牧社会とは対照的に、南部の砂漠地帯には、オアシス（砂漠の中で水の得られる沃地）が造営され、そこでは定住民によって、農耕を中心に交易、産業が営まれた。ここでは、オアシスの種類、オアシスの住民、オアシス城郭都市の形態、オアシス国家の性格、遊牧社会との関係などについて述べる。	同　上	同　上
8	シルクロードと中央アジア	古来、中央アジアには「草原の道」「砂漠の道」などと呼ばれる陸上交通の幹線路（シルクロード）が存在し、東西文物の交流に大きな役割を果たした。これらの道の歴史的変遷と中央アジア社会との関わりについて、特にこの道を用いて旅を行ったのがどのような人々で、彼らが何を運んだのかという点に焦点をあてつつ検討する。	稲葉　穣（京都大学准教授）	稲葉　穣（京都大学准教授）
9	テュルク・イスラーム社会の成熟 ワクフ制度、タリーカ	9世紀頃から中央アジアは徐々にイスラーム世界に組み入れられた。そこではイスラーム法に基づいた生活が営まれ、その社会は、時代と共に、イスラーム的諸制度を成熟させてきた。本章では、王朝の交代に関わりなく、常に中央アジア・イスラーム社会の中で重要な位置を占め続けたワクフ制度（一種の寄進・喜捨の制度）とタリーカ（イスラーム神秘主義教団）を取り上げて説明する。	堀川　徹	堀川　徹
10	現代の中央アジア社会 社会主義時代からグローバル化時代へ	中央アジアにとって 20 世紀の社会主義時代とは何だったのか、その正負の遺産について検討する。そして、ソ連解体と中央アジア諸国の独立を経て、グローバル化の大きなうねりにもまれる中央アジアの市場経済化、そこに見られるイスラーム復興、新たなナショナリズムの高揚、カスピ海のエネルギー問題、環境問題など、重要な現代の諸問題について概観する。また9.11事件後の中央アジア情勢の変化にも言及する。	帯谷　知可	帯谷　知可
Ⅲ	中央アジアの文化	この回から、4回にわたって多彩な中央アジアの文化について述べる。		
11	アーリア時代中央アジアの文化 諸文化の伝播と融合	アーリア時代の中央アジアは、周辺文化圏の先進的文化を受け入れ、それらを融合し、さらにこの融合文化を周辺諸地域に伝える役割を果たした。仏教などの諸宗教、石窟寺院などの宗教芸術、製紙法などの科学技術などについて述べ、古代の中央アジアが東西文化交流の上で果たした重要な役割について考える。	稲葉　穣	稲葉　穣

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	テュルク・イスラーム文化	10世紀ころイスラームを受容した中央アジアのテュルク民族は、テュルク語とイスラームを核とする独自のテュルク・イスラーム文化を創出した。カラ・ハーン朝時代に出現したマフムード・アル・カーシュガリーによる世界最初のテュルク語・アラブ語辞典や大侍従ユースフによる君主のための道徳指南書を例に、この文化の成立について述べ、テュルク民族にとってのこの文化の意義について考える。	間野　英二	間野　英二
13	ティムール朝文化	中央アジアのイスラーム文化は、15世紀、ティムール帝国の2つの首都であるサマルカンド、ヘラートを中心に、中央アジア史上最高の水準に達した。建築、庭園、細密画、書道、製本技術、天文学などを例に、「ティムール朝文化」と呼ばれるその華麗な文化の諸相を探り、この文化の特徴と、この時代に何故このような高度の文化が誕生したかについて考える。	同　上	同　上
14	中央アジアの文学遺産 『バーブル・ナーマ』と『デデ・コルクトの書』	中央アジアの文学遺産の中から二つの代表的な作品について説明する。まず16世紀のバーブルが著した回想録『バーブル・ナーマ』を取り上げ、そこに見られる率直な記述や豊富な内容など、この書物の魅力について紹介する。次に遊牧民の間に語り伝えられた口承文学の一つである『デデ・コルクトの書』について紹介し、そこに反映された遊牧民の世界観や価値観などについて考える。	同　上	同　上
Ⅳ	中央アジア史研究の課題	この最終回では、中央アジア史研究の課題と今後の研究の進むべき方向について考えてみたい。		
15	中央アジア史研究の残された課題	以上、14回にわたって概観した中央アジアの歴史については、実はなお不明の点も多い。この放送でも紹介したイスラームの諸制度や現代の中央アジアに関する研究など、新しい研究も近年積み重ねられつつあるとはいえ、中央アジア社会史や文化史の面における研究の不足は否めない。このような中央アジア史研究の残された課題について考える。	堀川　徹	堀川　徹

＝　古代地中海世界の歴史（‘０４）＝（TV）

〔主任講師：　本村　凌二（東京大学大学院教授）〕
〔主任講師：　中村　るい（大妻女子大学非常勤講師）〕

全体のねらい

イデオロギーの対立が終焉し、それとともに文明の衝突が予告されている。事の当否はともかくとして、キリスト教文明とイスラム文明を生み出した母胎として古代地中海世界があったことは忘れるべきではない。そこには、オリエント、ギリシア、ローマを中心としながらも、多種多様な人々が人類史上最初の試みと創作を行った舞台でもあった。その壮大な文明の歴史をふりかえることによって、現代文明の源流をさかのぼるだけではなく、２１世紀の展望を開く機会にしたい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	地中海世界の古層（前４－３千年紀）	農耕や牧畜が広がり、灌漑農業が営まれるなかで都市が生まれ、そこに文明が誕生したと言われる。メソポタミアとエジプトにおいて、宗教と王権はいかなる関わりをもっていたか、また、文字の発明は人間の社会にどんな影響をおよぼしたか、などについて考えてみたい。	本村　凌二（東京大学大学院教授）	本村　凌二（東京大学大学院教授）
2	地中海世界の激流（前２千年紀）	鉄器と戦車の使用は、人類の歴史に多大の影響をおよぼした。それまでゆったりと流れていた歴史は急速に動きだし、諸民族の興亡がめまぐるしくなった。古バビロニア王国は崩壊し、エジプトの諸王朝も大きな動揺をくりかえしている。そうしたなかでも新しい文化が創造されていることに注目したい。	同　上	同　上
3	諸民族の波動（前２千年期末・前１千年紀初）	前２千年紀末には東地中海世界で民族移動が激しくなり、「海の民」の出現で広い地域で混乱がおこった。さらには、フェニキア人、アラム人、ヘブライ人などが姿を現し、なかには西地中海や中央アジアにまで進出する勢力もいた。地中海沿岸地域における諸民族の混迷の諸相をたどっておきたい。	同　上	同　上
4	世界帝国の出現（前１千年紀前半）	前１千年紀初頭における騎馬遊牧民の脅威と騎乗技術の普及は強大な権力を出現させることになる。アッシリア帝国は初めてオリエント全土を統合し、やがてペルシア帝国は東地中海からインダス川流域におよぶ広大な覇権を築いた。これら世界帝国の成立をめぐって、その世界史的意義を考えてみたい。	同　上	同　上
5	オリエント世界の美術	５回、９回、１３回は古代地中海世界が生みだした美術を、主に人間表現の観点から考察する。まず、ギリシア美術以前のオリエント世界では、人間の身体はどのように表現されたのだろうか。メソポタミアやエジプトの美術がアルカイック期のギリシアにどのように影響したのか。そこに見られる美意識の違いを検討する。	中村　るい（大妻女子大学非常勤講師）	中村　るい（大妻女子大学非常勤講師）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
6	都市国家の成立 (前1千年紀前半)	前1千年紀初頭の混迷は地中海沿岸地域に定着しつつあった人々に都市国家という集団を形成させた。とりわけギリシア人は、王政、貴族政、僭主政を経るなかで、民主政の基盤を築いていく。それとともに、オリエント文化の影響のなかで独自の高度なギリシア文化が生まれていく様に注目したい。	本村　凌二	本村　凌二
7	古典期ギリシア (前5・4世紀)	ギリシア・ポリスでは成年男子の市民団内部において民主政が築かれている。それは世界史上で最初の民主政であったが、女性、外人、奴隷は差別され、抑圧されていた。このような矛盾をかかえながらも、類稀なる文化活動が営まれ、人類文化のひとつの規範が誕生した。その功罪の現代的意義を考えたい。	同　上	同　上
8	地中海世界とヘレニズム (前4―前1世紀)	アレクサンドロスの大帝国はギリシア風文化を普遍性のあるものとして普及した。このヘレニズム文化はその後の地中海世界の土台となり、人々の交流や物資の交易を通じて、地中海沿岸地域がひとつの世界として意識される潜在力をほのめかすものであった。ヘレニズム文化の可能性と限界を考えてみよう。	同　上	同　上
9	ギリシア世界の美術	ギリシア古典期の美術、とくにパルテノン時代に、西洋美術における人間表現の理想的な型が確立したとされる。彫刻家フェイディアスが指揮をとったパルテノン神殿の建築と彫刻、ほぼ同時期に彫刻家ポリュクレイトスが完成した理想的男性立像を中心に考察する。	中村　るい	中村　るい
10	ローマ共和政 (前5－前1世紀)	前500年ころ、先住民のエトルリア人の勢力を駆逐してラテン人の一派が共和政の都市国家を樹立した。ローマ人とよばれた国家はイタリア半島に覇権を築き、やがてカルタゴ人の勢力をも斥け、地中海に並ぶ者なき大帝国を築くことになる。なぜローマは強大になったのか、その秘密を探ってみたい。	本村　凌二	本村　凌二
11	地中海世界帝国の形成 (1世紀)	カエサルの覇権はアウグストゥスの治世に揺るぎなき皇帝権として確立する。帝国の各地に道路網が整備され、度量衡も統一されて、ローマは地中海を内海とする大帝国となった。それはひとつの海域世界の成立でもあり、近代世界の到来を予知するものであったが、同時に古代的限界をもっていた。	同　上	同　上
12	「ローマの平和」と地中海世界の融和 (2世紀)	かくも広大な地域に長期にわたって強大な帝国が君臨したために、「ローマの平和」とよばれる繁栄期が実現する。オリエント文化、ギリシア文化、ラテン文化は融合し、まさしく地中海文明の満開をもたらした。文明の融和がいかにして可能であったのか、その好例としても興味深いところである。	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
13	ヘレニズム・ローマ世界の美術	古代地中海世界の美術は、ヘレニズム期からローマ期にかけて、ギリシア古典期の文化を継承し、変容しながら、その後における西洋の視覚文化の基礎となった。ヘレニズム以降の美術の展開を理解するために、まず、ペロポネソス戦争期の美術様式を検討し、前四世紀のリアリズム、官能的な女神像の系譜、ポンペイの美術へと考察を進める。合わせて都内のブリヂストン美術館の古代美術の展示室を訪ね、地中海世界の人間像を考える一助としたい。	中村　るい	中村　るい
14	地中海世界の混迷と再編 (3－4世紀)	「ローマの平和」にも混迷が萌し、「3世紀の危機」が訪れる。政治・経済・社会の全般における混迷のなかから、やがて新たに強大化した帝権が成立した。このような不安な時代にオリエントに生まれたキリスト教が地中海世界の全土に普及する。ここでは専制君主政の文明史的意義を考えてみたい。	本村　凌二	本村　凌二
15	古代末期と地中海文明の変質 (5－7世紀)	かつて古典古代文明の没落期ととらえられていた古代末期も、新たな価値と文化を胎動する時代として見直されている。カトリック世界、ギリシア正教世界、イスラム教世界の土台は形成されつつあった。古代地中海世界の文明はいかにして三つの文明圏に分裂したのか、文明の衝突の根源に迫ってみる。	同　上	同　上

＝　ヨーロッパの歴史（‘０５）＝（TV）

〔主任講師：江川　温（大阪大学大学院教授）〕

全体のねらい

17 世紀までのヨーロッパ世界（西ヨーロッパ世界および正教世界）の歴史を講義する。総合的な概説としてヨーロッパ文化の基層への理解を深めることが第一の目標である。しかしこれと並んで、現在研究者が関心を寄せる問題を平明に解説し、西洋史学の持つ魅力を伝えることをもうひとつの目標とする。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	ヨーロッパの風土と人々	まず地理的概念としてのヨーロッパを確認し、そこに見られる多様な風土を描く。ついでヨーロッパについて文化圏としてのまとまりと多様性を、都市景観、宗教、住民の身体的特徴、言語などから説明する。	江川　温（大阪大学大学院教授）	江川　温（大阪大学大学院教授）
2	ゲルマン民族大移動とローマ・カトリック圏の形成	まずローマ帝国全盛期のヨーロッパ地域の状況を説明し、ついで諸民族の大移動と建国、西ヨーロッパ文化圏形成期のヘゲモニーを握ったローマ教皇権の形成と、カトリック・キリスト教の西ヨーロッパ拡大について考える。	同　上	同　上
3	ビザンツ帝国の発展と正教世界の形成	7世紀以降，ビザンツ帝国が西方カトリック教会とたもとを分かちつつ，周辺のスラブ諸族・諸国家に正教のキリスト教を広め，10世紀末にかけてコンスタンティノープルを中心とした独自の世界を形成するプロセスをたどる。	中谷　功治（関西学院大学教授）	中谷　功治（関西学院大学教授）
4	フランク王国・外民族侵入・西欧諸国の誕生	ここでは西ヨーロッパにおける諸王国と王権の原型形成について考察する。最初に諸王国のモデルとなったフランク王国の盛衰について解説し、ついで外民族侵入時代を経て西ヨーロッパ諸国の原型が形成される過程を説明する。	江川　温	江川　温
5	西欧中世の社会（1）農民と領主	ここから3回は中世末期までを見通した中世社会の概観である。まず農民と領主を取り上げ、領主権力の発展、農業と村の発展、領主たちの種別と社会生活、中世末期における領主制の動揺と再編について説明する。	同　上	同　上
6	西欧中世の社会（2）都市と商工業	中世都市について今世紀に起きたパラダイム転換をふまえ、まず中世前期の都市と商工業について触れ、ついで中世盛期、末期について商工業の展開と都市発展を考察し、さらに都市社会の特質に触れる。	同　上	同　上
7	西欧中世の社会（3）カトリック教会と信徒	まずカトリック教会組織と一般信徒に対する管理体制を概観し、ついで中世人のキリスト教信仰の実態に迫る。民間信仰との関係、民衆の宗教運動と異端、中世末期の信仰のありかたなどが議論の焦点となる。	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
8	西欧世界の拡大	中世盛期、末期の西ヨーロッパ世界の膨張を、聖地十字軍と東地中海での覇権、北方十字軍とバルト海沿岸地域への進出、レコンキスタなどに絡めて説明する。そして 14,15 世紀の西ユーラシアの動向の中に西ヨーロッパ世界を位置づける。	江川　温	江川　温
9	西欧諸国の成長と教皇権の動揺	まず中世盛期・末期における王国や領邦の統治システムの成長を考察する。各国の政治史の細かい説明は省き、原理に関わる問題を考察の中心とする。そしてこのような発展の中で、教皇庁の威信が低下していったことを説明する。	同　上	同　上
10	西欧中世文化とイタリア・ルネサンス	中世の文化をとりあげる。まず中世前期の学問、12 世紀ルネサンスと中世後期の学問、中世前期から末期までの文学と造形芸術を概観する。そして 14,15 世紀のイタリア・ルネサンスについて、中世文化との関係を基軸に考察する。	同　上	同　上
11	ビザンツ帝国の衰亡と正教世界の分断	11 世紀末以降におけるビザンツ帝国の衰退は，周辺の正教諸国には独自の繁栄の時代を招来させることになったが，15 世紀以後になるとオスマン帝国の急速な勢力拡大によって東方の正教世界は分裂の時代を迎えることになる。	中谷　功治	中谷　功治
12	西欧の宗教改革と宗派体制	１６世紀に勃発した宗教改革は、キリスト教世界の一体性を崩し、その後の政治・社会の秩序を左右する要素となった。ここでは、プロテスタントの諸勢力とそれに対抗したカトリック改革派の運動の流れを考察する。	阿河雄二郎（関西学院大学教授）	阿河雄二郎（関西学院大学教授）
13	西欧の近世国家と国家系	近世には、「世界帝国」が機能しなくなる反面、領邦という枠組を超えて、より大きなまとまりをもつ国家群が成立した。「国王と臣民」という支配関係をもとに構築された初期的な主権国家の発展過程を辿りたい。	同　上	同　上
14	大航海時代と世界経済	コロンブスによる新大陸の発見以後、ヨーロッパ諸国はアジア、アメリカに植民地を広げた。ウォーラーステインが提起する「世界システム」論をふまえ、世界の中核をめざす列強のヘゲモニー抗争のさまを概観する。	同　上	同　上
15	エリート文化と民衆文化	近世社会の展開とともに、知的で洗練された文化を求めるエリートと伝統的な文化に固執する民衆との間に亀裂が生じた。その過程を、両者の二項対立的な図式で捉えるミュシャンブレドの研究を通して検証する。	同　上	同　上

＝　近代ヨーロッパ史（‘０５）＝（TV）

〔主任講師：福井　憲彦（学習院大学教授）〕

全体のねらい

近代とか近代化という言葉は、現代を生きる日本人にとって馴染み深いようでいて、じっくり考えてみると、果たしてどのような内容で捉えればよいのか、輪郭がいまひとつ明確にできない、そのような言葉ではないであろうか。近代的な政治体制、社会秩序、ものの考え方、あるいは学問研究や科学技術、これらを生み出したと見なされるヨーロッパの18・19世紀の歴史とは、いったいどのようなものとして捉えられるのか。その歴史は現在にいたるまで、どのような遺産を世界に伝えてきたのであろうか。地球世界の一体化という意味でのグローバリゼーションも、現代になって急に生じたわけではない。それは、すでに存在していた世界各地の地域的交易世界に、ヨーロッパが積極的に介入し始めたことによって、現代に向かう数世紀の展開を開始したのであった。近代ヨーロッパの歴史的展開を、世界史のなかでのヨーロッパの位置取りと役割とを見落とすことなく、その大きなポイントにおいて捉えてみようというのが、この講義の目標である。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	ヨーロッパによる海外進出の開始	15世紀後半からのポルトガル、ついでスペインを先駆けとして、ヨーロッパ各国が東方の富を目指して海外へと進出し始めた。インド洋から東アジアにいたる海域を中心として、すでに豊かに存在していたアジア交易の世界に介入を目指すと同時に、ヨーロッパは、大西洋を越えた南北アメリカへの直接支配を開始した。17世紀にいたるヨーロッパの海外進出について、その歴史的な位置づけを捉えてみよう。	福井　憲彦（学習院大学教授）	福井　憲彦（学習院大学教授）
2	世界交易における覇権争い	17世紀から18世紀にかけて、大西洋世界とアジアのいずれにおいても、おもにオランダとイギリス、およびフランスのあいだで、交易と植民地支配をめぐる熾烈な経済覇権競争が、直接的な戦闘を含めて展開された。その顛末と、大英帝国による覇権確立への歩み、それらが非ヨーロッパ地域にもたらしたものを考えてみる。	同　上	同　上
3	18世紀における社会経済と政治	18世紀には、イギリスやオランダなど北西ヨーロッパから、農業革命といわれる食糧生産の改善や人口の継続的増加が始まり、社会経済全体の近代化への胎動が明確になる。他方、経済的には古い型の農業経営を中心にしていたプロイセンやオーストリア、あるいはロシアのような国家では、啓蒙専制による上からの近代化の模索が困難に遭遇する。ヨーロッパ内の状況を整理して捉えてみる。	同　上	同　上
4	「啓蒙の光」と近代思想の誕生	18世紀の啓蒙思想といわれる思想潮流からは、三権分立の制度理念や人権思想も生まれてくるが、しかしそれはまた同時代の君主政を必ずしも否定するものではなかった。啓蒙専制という表現があるように、君主たちも啓蒙思想には一定の関心を示した。では、啓蒙思想の主要な特徴とは何であり、どのような点で近代思想の先駆けと見なせるのであろうか。	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	人口増加の開始から「移動の世紀」へ	18世紀から北西ヨーロッパを先頭に、人口の継続的な増加の動きが始まる。人口学上の旧体制は終わりを告げる。それは農業生産の向上とも一致した展開であった。20世紀にかけての人口動態の趨勢をおさえて、19世紀のヨーロッパがそれまでにはない「移動の世紀」となり、アメリカ合衆国をはじめ世界各地への移民がおこった状況を捉えてみよう。	福井　憲彦	福井　憲彦
6	革命に揺れる大西洋世界	18世紀末近くになると、大西洋の両岸では、アメリカ独立とフランス革命を代表格として、さまざまな革命運動や独立運動が生じた。その運動の波は、19世紀はじめにはラテンアメリカ諸国の独立として現実化していった。それらの運動の動向と特徴とを、そしてまたそこに賭けられていた課題とを、時代のなかで理解してみよう。	同　上	同　上
7	ウィーン体制と48年諸革命	フランス革命とナポレオン戦争による混乱からの収拾を実現したウィーン体制は、反動的な側面と勢力均衡の維持による平和維持という側面とを併せもっている。同時代において政治的自由と進歩を追求した人々は、この体制にどのように向きあったのか。48年にヨーロッパ各地で同時多発的に生じた諸革命までの変革運動を理解するとともに、ヨーロッパがこの時期抱えていた問題を明確にしてみよう。	同　上	同　上
8	工業化と社会の変容	ヨーロッパ資本主義の発展は、18世紀後半からのイギリス産業革命の開始とともに語られることが多かった。しかし近年、産業革命という捉え方に対する疑義も出されている。では、ヨーロッパにおける工業化のプロセスは、どのように理解できるのであろうか。それにともなう社会の変容は、19世紀を通じてどのようなものだったのであろうか。	同　上	同　上
9	農村のヨーロッパと都市のヨーロッパ	一口にヨーロッパといっても、地域による差は大きい。東と西、南と北というだけでなく、一国内においてもまたそうである。工業化と都市化が、19世紀には明確な動力になって社会経済と生活文化の変化を促していくが、各地の農村はその動きのなかに組み込まれて、しかしまた独自の文化を維持していたところが多い。こうした地域間の相違、農村と都市との相違について、要点を概観してみよう。	同　上	同　上
10	科学技術の実用化と産業文明の成立	17世紀のいわゆる科学革命以降、ヨーロッパでは科学的な実験や発見・発明が積み重ねられていたが、19世紀、とくにその後半には、科学技術の進歩は実験室を出て現実の社会や経済に大きく実用化され、産業文明の成立を促した。どのような側面でそれらが見られたのであろうか。それは、人々の生活や意識をどのように変化させていったのであろうか。	同　上	同　上
11	国民国家とナショナリズム	フランス革命で明示された国民国家の原則は、19世紀ヨーロッパにおいて重要な政治的位置を占めた。では、現実の政治過程においては、どのように機能したのであろうか。また、21世紀になるまで多くの人がその呪縛のなかにあるナショナリズムとは、もともとどのような脈絡のなかで、どのような性格を帯びたものとして形成されたのであろうか。	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	植民地帝国という野望の衝突	いわゆる大航海時代からすでに見られたヨーロッパによる植民地獲得の動きは、さらに19世紀に入って工業化が進展すると、原料の供給拡大や商品販売市場の拡大が求められ、いっそう激烈な様相を呈するようになった。19世紀後半にもなると、国民国家の体裁を整えた列強は、いずれも同時に国外では植民地帝国の形成を求めて衝突しだす。その展開と、それが世界にもたらしたものとを明確にしよう。	福井　憲彦	福井　憲彦
13	さまざまな帝国主義	帝国主義の定義はなかなか難しいが、ここでは19世紀後半から20世紀はじめにいたる時代における様相を、地政学的・軍事的な側面、経済的な側面、そして社会的・文化的な側面から、いくつかの事例を踏まえて考えてみる。同時にまた、同時代においてこうした帝国主義の諸側面に対する反対の動きがどのようにあったのか、それも考えてみよう。	同　上	同　上
14	第一次世界大戦という激震	20世紀はじめのヨーロッパは、科学技術の進歩や経済の発展をうけて物質的な豊かさを手にし、識字率の向上や教育の普及に示されるような社会的な制度の整備も確実に進みつつあった。だが、ヨーロッパが文明の先端にあるという確信を、大戦は長期にわたる総力戦の悲惨な現実でもって打ち砕いた。工業化以後の最初の本格的全面戦争であった大戦がもたらした結果を整理してみる。	同　上	同　上
15	歴史文化の継承と芸術的創造	国や社会によって時差はあるが、ヨーロッパの多くのところで19世紀からすでに、それぞれの歴史文化を学問的に解明し、歴史的遺産を保存し継承していこうとする動きが創られていく。多面にわたるそのあり方を捉えてみよう。また他方、いくつかの都市を中心にして各地で、豊かな芸術的創造の動きが更新されていった。その主要な特徴を整理して捉え、ヨーロッパの近代がきわめて複合的な性格をもって展開した点を理解したい。	同　上	同　上

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	専門科目	科目ｺｰﾄﾞ	1551302	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ アメリカの歴史と文化 （’０８）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：遠藤泰生（東京大学教授） 〕

講義概要

アメリカの歴史と文化を理解するにあたって最低限必要な基本的知識を15回にわたって講義する。抽象的な政治理念や争いの説明に終始することなく、人々の生活規範や民族集団の変成を具体的事例にそくして説明する。また、毎回の講義においては、歴史図像や時代の証人たちの声を数多く紹介し、アメリカ人の自己理解が多様で陰影に富むことをより深く理解する。

授業の目標

全15回の講義を通じて、世界の超大国となったアメリカ合衆国の歴史を、その光と影の両面から理解する。世界に類をみないその多元的文化の生成と変容をさまざまな角度から紹介し、アメリカ礼賛、アメリカ批判のいずれにも安易に組しない、均衡のとれたアメリカ理解の取得を目標とする。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	なぜアメリカ合衆国の歴史を学ぶのか？	アメリカ合衆国は植民地開闢以来400年の歴史を有する。世界の超大国として政治・経済・文化の各分野に圧倒的な力をもつにいたったアメリカの歴史を学ぶ意味は何なのか。多元国家の歴史に迫る意義を考える。 【キーワード】 北アメリカ大陸、多民族社会、アメリカニゼーション、グローバリゼーション	遠藤泰生（東京大学教授）	遠藤泰生（東京大学教授）
2	「新世界」の異文化接触	ヨーロッパ植民者と北米先住民（アメリカ・インディアン）は、異なる価値観や生活スタイルといった文化の接触と対立を経験した。両者の関係がアメリカ文化の形成にそののちどのように作用したのかを考える。 【キーワード】 北米先住民、植民者、インディアン戦争、野蛮と文明	白井洋子（日本女子大学教授）	白井洋子（日本女子大学教授）
3	「自由な社会」の光と影：南部奴隷制社会の成立	植民地時代から南北戦争まで続いた黒人奴隷制度は、アメリカ社会の拡大と発展に大きな影響を与えた。政治・社会・文化の幅広い側面からその歴史を振り返り、あわせて、現代のアメリカにおける「人種」の問題を考える手掛かりを探る。 【キーワード】 南部植民地、プランテーション農業、黒人奴隷制度、人種主義	中條献（桜美林大学教授）	中條献（桜美林大学教授）
4	独立戦争と建国の時代	アメリカ独立戦争は世界で初めての共和主義の革命であった。政治思想を共有した13の植民地が、新たに連邦国家を形成するまでの波乱の歴史を振り返り、あわせて、アメリカ建国の歴史が世界史に占める意味を考える。 【キーワード】 七年戦争、共和主義、独立宣言、合衆国憲法、啓蒙思想	遠藤泰生（東京大学教授）	遠藤泰生（東京大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	民主主義を可能にする社会	19世紀の南北戦争前の時代は、民主主義が本格的に実現した時代であった。その社会秩序実現に関して、第2次大覚醒と呼ばれた宗教運動、女性が主宰した家庭、及び、彼女たちが展開した様々な改革運動が互いに関連しつつ、どのような役割を果たしたかを考える。 【キーワード】 第2次大覚醒、近代家族、ヴィクトリアニズム、女性参政権運動	小檜山ルイ（東京女子大学教授）	小檜山ルイ（東京女子大学教授）
6	大陸国家の形成：光と影	19世紀は、アメリカが領土を太平洋岸に拡大した時代でもあった。先住民の強制移住を伴いながら展開した西漸運動が、アメリカの社会に与えた影響を、国内と国外の二つの視点から検討する。最後にC. ペリー来航の背景を探る。 【キーワード】 西漸運動、明白なる運命、カリフォルニア、C. ペリー	遠藤泰生（東京大学教授）	遠藤泰生（東京大学教授）
7	「アメリカ国民」の創造：南北戦争と再建の時代	南北戦争と再建の時代から、20世紀初頭までの歴史を扱い、奴隷制度の廃止と人種隔離制度の確立、インディアンの強制的同化、中国系移民の排斥だけでなく、連邦政府の権限の強化などを通して、「アメリカ国民」という存在が、政治的、文化的に規定されてゆくプロセスを描く。 【キーワード】 南北戦争、再建、ジムクロウ、国民国家	中條献（桜美林大学教授）	中條献（桜美林大学教授）
8	帝国の縁：ハワイとアメリカ史における「周縁」	ハワイは1898年の米西戦争を契機にアメリカへ併合された。独立国家であったハワイを、なぜアメリカは領土としたのか。ハワイの歴史をクローズアップしながら、世紀転換期のアメリカ社会について考える。 【キーワード】 太平洋、先住民、プエルトリコ、帝国主義	矢口祐人（東京大学准教授）	矢口祐人（東京大学准教授）
9	産業社会の到来：都市と農村	南北戦争後のアメリカでは、急激に資本主義的商工業が発達し、新移民が押し寄せ、民族・人種、文化的多様性に拍車をかけた。新たに出現した都市的アメリカと伝統的な農村的アメリカの相克、その間に立って、新しい社会秩序を構築しようとした革新主義の試みを紹介する。 【キーワード】 資本主義、新移民、ポピュリズム、革新主義	小檜山ルイ（東京女子大学教授）	小檜山ルイ（東京女子大学教授）
10	ジャズ・エイジ：繁栄から恐慌へ	第一次大戦への参戦によって世界の大国の一つとなったアメリカは、ジャズ・エイジとも呼ばれた20年代に、空前の経済的繁栄を謳歌した。だが、その繁栄は世界恐慌の到来とともにあっけなく崩壊し、連邦政府が主導する新たな福祉国家の導入を余儀なくされた。その時代の政治と文化を学ぶ。 【キーワード】 大衆消費社会、ヘンリーフォード、大恐慌、ニューディール	遠藤泰生（東京大学教授）	遠藤泰生（東京大学教授）
11	第二次世界大戦と日本	日米間の戦争が一般市民に与えた影響について学ぶ。とくに女性や人種・民族的マイノリティの人々にとって、この戦争がどのような意味を持ったのか、日系移民の運命などに焦点をあてながら考える。 【キーワード】 真珠湾、日系人、強制収容所、銃後の女性	矢口祐人（東京大学准教授）	矢口祐人（東京大学准教授）

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
12	シクシティーズ：社会抵抗運動と「新たな統合」の模索	第二次世界大戦後の「豊かな社会」から、公民権運動を主とする1960年代の社会抵抗運動を通じて、アメリカ合衆国が、国家的、社会的にあらたな統合を確立する過程を考える。 【キーワード】 公民権運動、M.L.キング、エスニック・リヴァイヴァル	中條献（桜美林大学教授）	中條献（桜美林大学教授）
13	ベトナム戦争とアメリカ社会	ベトナム戦争は、アメリカ社会に何をもたらしたのか。戦争評価をめぐる国論の分裂や反戦運動、帰還兵士の直面した問題、戦後建設された多様な戦没者記念碑などに触れながら、どのような価値観の変化があったのかを探る。 【キーワード】 ベトナム、反戦運動、帰還兵士、対抗文化、戦没者記念碑	白井洋子（日本女子大学教授）	白井洋子（日本女子大学教授）
14	アメリカ女性と20世紀	第一次世界大戦を境に、アメリカの女性の政治的立場と生活は大きく変わったが、女性たちがヴィクトリアニズム的近代の枠組みを最終的に打破したのは、1960年代以降の第2派フェミニズムを通じてであった。20世紀後半、アメリカの女性たちは何を求め、それはアメリカ社会をどのように変えてきたのかを考える。 【キーワード】 第2派フェミニズム、平等権修正、人工妊娠中絶、差異	小檜山ルイ（東京女子大学教授）	小檜山ルイ（東京女子大学教授）
15	9．11以後のアメリカと世界	冷戦の終焉を迎えたアメリカでは、1980年代以来、新たな保守主義の台頭が目立つ。21世紀における多元国家の行方をその象徴とも言えるニューヨークの歴史を取り上げながら、いま一度考える。 【キーワード】 9.11、ニューヨーク、多文化主義、保守主義、反米	遠藤泰生（東京大学教授）	遠藤泰生（東京大学教授）

＝　芸術の理論と歴史（‘０６）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：青山　昌文（放送大学教授）〕

全体のねらい

芸術は、人類の文明の深い意味での美的な結晶の一つですが、それは、一見すると天才的な芸術家が一人で生み出したように見えるものであっても、実は長大な文化的伝統と重層的な社会的諸関係のただなかで受胎し産み落とされたものにほかなりません。この講義では、芸術のこのような文化的・社会的な生成の構造に焦点を当てて、各時代の美学芸術理論を振り返り、各時代の芸術作品がいかにその時代の文化と社会に深く根ざしていたかを美学的・芸術学的に考察するものです。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	芸術の見方	1　全体への序論 2　芸術の豊かな意味の世界―ルネサンス美術やバロック美術などを例にして 3　原始美術・エジプト美術・ミュケナイ美術・ギリシアクラシック美術 4　建築芸術の政治的表象性	青山昌文（放送大学教授）	青山昌文（放送大学教授）
2	プラトンとギリシア文芸	1　ヨーロッパ美学の源流としてのプラトン美学 2　プラトンにおける美と芸術 3　ギリシア文芸とりわけホメロスの叙事詩の政治的・社会的役割 4　文学芸術の政治的表象性とプラトン美学	同上	同上
3	アリストテレスとギリシア演劇	1　ヨーロッパ芸術理論の源流としてのアリストテレス芸術学 2　アリストテレスにおける美と芸術 3　ギリシア演劇とりわけ悲劇の構造と上演の政治的・社会的機能 4　演劇芸術の政治的表象性とアリストテレス芸術学	同上	同上
4	修道院の神学者とロマネスク美術	1　クレルヴォーのベルナールの美学 2　ロマネスク建築芸術のプラトン的超越性 3　モワサックのサン・ピエール教会 4　建築芸術の宗教性と社会性	同上	同上
5	死と再生の連続的世界観とロマネスク美術	1　民衆的世界観と異形なるもの 2　ショーヴィニーのサン・ピエール教会 3　サン・サヴァン教会 4　建築芸術の宗教性と社会性	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
6	サン・ドニのシュジェールとゴシック美術	1 サン・ドニのシュジェールの美学と哲学 2 ゴシック建築芸術のアリストテレス的内在性 3 アミアン大聖堂 4 建築芸術の宗教性と社会性	青山昌文(放送大学教授)	青山昌文(放送大学教授)
7	ルネサンスの哲学とイタリア・ルネサンス美術	1 ルネサンスの新プラトン主義哲学 2 フィチーノの美学 3 ボッティチェリとミケランジェロ 4 絵画・彫刻芸術の哲学性と社会性	同上	同上
8	ルネサンスの政治とイタリア・ルネサンス美術	1 フィレンツェの共和制とメディチ家 2 ドナテッロとミケランジェロ 3 ミケランジェロの『ダヴィデ』の意味 4 絵画・彫刻芸術の政治性と社会性	同上	同上
9	宗教改革と北方ルネサンス美術	1 聖像破壊思想と宗教芸術 2 ルターの宗教思想と芸術思想 3 デューラーとクラーナハ 4 絵画芸術の宗教性と社会性	同上	同上
10	対抗宗教改革とバロック美術	1 トレント宗教会議の宗教思想と芸術思想 2 カトリックにおける芸術の意義 3 ベルニーニ 4 絵画・彫刻・建築芸術の宗教性と社会性	同上	同上
11	ディドロとロココ美術	1 ディドロの美学と芸術理論 2 美術批評の祖としてのディドロ 3 グルーズとシャルダン 4 絵画芸術の世俗性と社会性	同上	同上
12	革命の時代と19世紀美術	1 産業革命と芸術の変貌 2 芸術家と社会 3 クールベとマネ 4 絵画芸術の政治性と社会性	同上	同上
13	戦争の世紀と20世紀美術	1 芸術の理論化と時代批判 2 ピカソとシャガール 3 現代芸術の理論性と批判性	同上	同上
14	死の影と現代芸術	1 現代社会批判としての現代芸術 2 ウォーホル 3 キーファー 4 現代芸術の現代性	青山昌文(放送大学教授)	青山昌文(放送大学教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
15	環境芸術と現代社会	1　環境破壊問題と芸術 2　スミッソン・タレル・ロング 3　クリスト	同上	同上

＝　芸術・文化・社会（‘０６）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：　徳丸　吉彦（お茶の水女子大学名誉教授）〕
〔主任講師（現職名）：　青山　昌文（放送大学教授）　　〕

全体のねらい

芸術を文化・社会的脈絡において考察する。また、芸術の範囲を拡大し、現代の社会に焦点を合わせて論じる。個別的な芸術を扱う場合も、身体性、伝承、異文化との接触、グローバリゼーションといった大きな枠組みの中で考察する。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	文化・社会的脈絡における芸術	芸術を文化・社会から切り離すことなく考察する理由を提示し、さらに新しい課題として、身体性、伝承・伝播の過程、感覚間の関係、異文化との接触等を重視する必要を論じる。	徳丸吉彦（お茶の水女子大学名誉教授） 青山昌文（放送大学教授）	徳丸吉彦（お茶の水女子大学名誉教授） 青山昌文（放送大学教授）
2	イメージと表面	身体と文化、身体と芸術の関係を中心に考察するために、化粧文化を中心に、身体の表面に現れるイメージを手がかりとして論じる。	鷲田清一（大阪大学大学院教授）	鷲田清一（大阪大学大学院教授）
3	モード化される身体	身体と文化、身体と芸術の関係を、服飾におけるモードを手がかりに論じる。ここでも、服飾を孤立した作品としてではなく、文化・社会的脈絡に置き、その中にいる人間との関係で論じる。	同上	同上
4	音楽がつくる身体とテクノロジーの音楽	身体と文化、身体と芸術の関係を中心に考察する。具体的にはマレーシアの少数民族のプナンの人々にとって、排泄行為も歌をうたうことも、ともに身体から出すという行為であることを説明して、そこから現代の芸術行為の根源的な問題に進む。	卜田隆嗣（大阪教育大学准教授）	卜田隆嗣（大阪教育大学准教授）
5	諸感覚の共動とイエログリフ	芸術の創造と享受における、複数の感覚の共動性・同時性・重層性について考察する。具体的には、ディドロの「目で見るためのクラヴサン」についての美学論とイエログリフ論を詳しく見てゆく。	青山昌文（放送大学教授）	青山昌文（放送大学教授）
6	芸術としての料理	複数の感覚の共動性の典型的な例として、料理芸術を採り上げる。そもそも、料理を芸術として捉えることの妥当性を論じることから始めて、味覚・嗅覚の復権を論じる。また、日本料理とフランス料理の、芸術としての特質を対比的に明らかにする。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
7	道具と芸術経験	芸術としての料理を享受する道具である、器・箸・ナイフ・フォーク・ワイングラス等の意味について考察する。道具の違いが、芸術享受経験にどのような違いをもたらすのかを、具体的に考察する。	青山昌文(放送大学教授)	青山昌文(放送大学教授)
8	伝承のしかけ	芸術が文化・社会の中に置かれるための重要な契機として、伝承を考え、それが、どのように行われるかを論じる。記すことによる伝承とともに、口頭伝承を扱う。	徳丸吉彦(お茶の水女子大学名誉教授)	徳丸吉彦(お茶の水女子大学名誉教授)
9	伝播のしかけ	芸術を伝播の観点から考察する。その中で、特定の芸術を重視する正典化の役割とともに、具体的なしかけとしての録音・楽譜印刷・放送を扱い、アマチュアの役割を考察する。	同上	同上
10	伝統音楽における変化	音楽を例にして、伝統における変化と固定、内発的変化と異文化接触による文化触変を扱い、それらを近世邦楽を例にして説明する。	同上	同上
11	「境界」の音楽―近代日本における「日本音楽」―	明治から第二次大戦までの日本音楽のうち、伝統音楽とも西洋音楽ともいえない「境界的」な音楽の試みを、東儀鐵笛と近衛直麿を中心に考察する。	寺内直子(神戸大学教授)	寺内直子(神戸大学教授)
12	越境する文学	ある文化圏で生み出された文学作品が、別の文化圏に受容される際に生じる、様々な変容の芸術哲学的・比較文化論的諸問題を考察する。	青山昌文(放送大学教授)	青山昌文(放送大学教授)
13	映画にみるグローバリゼーションと地域性	映画芸術をグローバリゼーションと地域性の観点から考察する。グローバリゼーションという強い流れの中で、地域性がいかに発現しているかを考える。	加藤厚子(映画専門大学院大学准教授)	加藤厚子(映画専門大学院大学准教授)
14	音楽にみるグローバリゼーションと地域性	グローバリゼーションは音楽においても目立つ傾向であり、そこから新しい音楽様式も生まれている。インドネシアのスンダを例にして、インドネシア全体と地方の関係、伝統音楽とポピュラー音楽の交流を具体的に扱う。	福岡正太(国立民族学博物館准教授)	福岡正太(国立民族学博物館准教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
15	芸術概念の拡大	多様な感覚と身体性の重視を出発点にして、芸術概念を拡大する必要を論じ、また、芸術の受け手の創造的な役割を論じ、本講義全体の総括を行う。	徳丸吉彦（お茶の水女子大学名誉教授）	徳丸吉彦（お茶の水女子大学名誉教授） 青山昌文（放送大学教授）

＝　西洋音楽の諸問題（‘０５）＝（TV）

〔主任講師：　笠原　潔（放送大学教授）〕

全体のねらい

西洋音楽史を彩る様々な作品を取り上げながら、現在の西洋音楽研究では何が起こっているのか、どのようなことが問題になっているのかを、視覚メディアを駆使しつつ、紹介し、西洋音楽研究の最先端の状況を紹介する。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	西洋音楽の時代区分	全１５回の講義の総論として、西洋音楽の時代区分と時代様式の変遷を示し、第２回以降の講義で扱うテーマがどの時代に該当するものであるかを明らかにする。	笠原　潔（放送大学教授）	笠原　潔（放送大学教授）
2	《英雄（エロイカ）》はなぜ壮大か？	ベートーヴェンの交響曲第３番《英雄（エロイカ）》を題材に取り上げ、当時の時代様式を駆使してベートーヴェンがどのように壮大な「英雄」像を音楽的に描き出すのに成功したか、楽曲の構造と楽曲の印象はどのように結びつくか、また、その場合の「英雄」像とはどのようなものか、を明らかにする。	同　上	同　上
3	マーラーの「表現」世界	表題音楽と絶対音楽、純粋器楽音楽と声楽音楽、厳密な楽曲構成と下意識的衝動の爆発との間を揺れ動き、２０世紀音楽への道を開いたマーラーの「表現」世界を取り上げ、彼はどのように自らのうちなる「自然」を表現したか、その場合の「自然」とはどのようなものか、を明らかにする。	同　上	同　上
4	真のショパン演奏を求めて	ショパンのピアノ作品を題材に、自筆楽譜の問題、演奏様式の問題、演奏技法の問題、楽器の変遷、音楽に表現された民族性の問題と記譜法の問題など、西洋音楽の諸作品における様々な問題点を紹介する。	同　上	同　上
5	楽器の変遷	モーツァルト、ベートーヴェン、シューベルトらが用いたピアノは現在のピアノと大きく異なる。彼らは、どのような楽器を念頭に置いて作曲したかを、当時の楽器を紹介しながら、明らかにする。併せて、ペリー来航時に日本に持ち込まれた軍楽器を、それを描いた日本側絵図を通じて紹介する。	同　上	同　上
6	自筆楽譜をめぐる諸問題	自筆楽譜の研究は、資料研究の基礎となる作業である。そうした自筆楽譜の研究は、どのような成果をもたらすかを、日本でのメンデルスゾーンの自筆楽譜研究の第一人者である星野宏美とともに紹介する。	笠原　潔 星野　宏美（立教大学准教授）	笠原　潔 星野　宏美（立教大学准教授）
7	記譜法の問題	楽譜は、作品の形をそのまま表したものではなく、各時代の記譜習慣に基づいて書かれている。従って、時には、楽譜を読みかえるべき個所があるが、そうした読みかえは時に演奏解釈に大きな相違をもたらす。記譜法をめぐるそうした問題をバッハやシューベルトの作品を例に紹介する。	笠原　潔	笠原　潔

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
8	オペラの演技	オペラの舞台という虚構空間にリアルな作品世界を作り出すために、どのような表現が必要かを明らかにする。後半では、ヘンデル時代のオペラの表現様式の復原に取り組んでいる声楽家の原雅巳とともに、バロック時代のオペラの表現様式について学ぶ。	笠原　潔 原　雅巳 (声楽家)	笠原　潔 原　雅巳 (声楽家)
9	今生きるバッハのメッセージ—世俗を超えるまなざし	バッハの世俗音楽は教会音楽と対立するものではなく、むしろ同じ精神を共有していることが、最近の研究を通じて、ますます明らかになってきている。バッハのやわらかな宗教的感性は、世俗音楽にも、豊かに吹き込まれているのである。講義では、最近再評価されつつある世俗カンタータや器楽曲を例にとりながら、その中に蔵された世俗を超えるまなざしを探り、世俗曲の教会曲への転用（パロディ）の意味についても考えたいと思う。	礒山　雅 (国立音楽大学教授)	礒山　雅 (国立音楽大学教授)
10	今生きるバッハのメッセージ—やわらかな宗教的感性	バッハの音楽は、時代と国境を越えた真の宗教的メッセージを、今日に送り続けている。そのメッセージが一宗派の中から発せられながらもそれを超えた力を備えているのは、バッハがやわらかな宗教的感性の持ち主で、その教会音楽を、宗教的事柄を新たにとらえなおす場としていたからである。講義では、バッハが教会カンタータや受難曲を書き、演奏したプロセスをたどりながら、ドグマに偏らない、宗教的感性のやわらかさを発見したい。	同　上	同　上
11	キリシタン時代の音楽	日本が初めて西洋音楽に接したのはキリシタン時代であったが、その実相はどのようなものであったか、当時の文献に基づいて紹介する。併せて、この時代に日本に紹介されたルネサンス時代後期の聖歌がかくれキリシタンたちの間で伝承されている様子を紹介する。	笠原　潔	笠原　潔
12	江戸の洋楽史	江戸時代になると、新たな西洋音楽の波が日本に流入してきた。その音楽とはどのようなものであったか、それに関する史料にはどのようなものがあるか、また、そうした史料は西洋音楽の実相を明らかにする上でどのような価値を持っているか、を紹介する。	同　上	同　上
13	漂流民が伝えた西洋音楽情報	江戸時代の日本に伝えられた西洋音楽・西洋音楽情報は、長崎・出島を通じてだけのものではない。漂流して、ロシアなどに流れ着いた漂流民たちも、貴重な情報を持ち帰った。その中には、大黒屋光太夫が持ち帰ったロシア歌曲や、当時のピアノに関する貴重な証言もある。ここでは、漂流民たちが持ち帰ったそうした情報について紹介する。	同　上	同　上
14	幕末洋楽史	幕末になると、西洋各国の軍楽隊が日本を訪れるようになった。そこでは、どのような音楽が演奏されたのか、それに関する史料にはどのようなものがあるかを、現地を訪れながら、紹介する。	同　上	同　上
15	音楽図像学	過去の音楽状況を探る上で、図像の研究は大きな効力を発揮する。しかし、そこには注意しなければならない問題もある。音楽図像学をめぐるそうした問題を、幕末の日本で描かれた西洋音楽関係の図を材料に検討する。	同　上	同　上

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	専門科目	科目コード	1551108	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　現代日本社会における音楽　（’０８）＝　（R）

〔主任講師（現職名）：月溪　恒子　（大阪芸術大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：北川　純子　（大阪教育大学准教授）〕
〔主任講師（現職名）：小塩　さとみ（宮城教育大学准教授）〕

講義概要

こんにちの日本で実践されている多彩な音楽の姿を、全15回にわたって講義する。伝承と創造、声と楽器、地域や教育や産業、音楽を提供する側と実践する側といった複眼的な視座のもとに、新しく創作された作品を含むさまざまな伝統音楽、オーケストラや吹奏楽、各種のポピュラー音楽、世界の多様な音楽などの日本での在りかたを、史的経緯もふまえて解説する。講義は曲例を紹介しながら進め、音楽を考える手がかりとなる理論的な問題にも随所で触れる。

授業の目標

全15回の授業を通して、こんにちの日本の音楽状況を把握するさいに必要な用語や概念を理解できるようになることを目標とする。また、この講義を通じて、明治期以降さまざまな要因による変化を経験してきた日本社会において、人びとがどのように「音楽してきた」か・「音楽している」かについて、自分なりの思考ができるようになることを目標とする。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	「現代日本社会」への道程	全体への導入として、明治期から現代に至る日本社会での音楽状況の変化を歴史的に概観する。音楽状況に大きな転換をもたらした①明治維新と②第二次世界大戦終結を時代区分の主軸に捉え、②以後の「現代日本社会」における音楽実践の諸相を理解するための指針を示す。	月溪恒子（大阪芸術大学教授）	月溪恒子（大阪芸術大学教授）
2	学校教育のなかの音楽	明治期以降の学校における音楽教育の成果を、学校音楽文化の創出とその社会への影響力という観点から解説する。西洋音楽受容と伝統的な音楽性との相克を、これまでの教材と指導法のなかに探り、その融合をめざした新たな学校音楽文化の可能性を示す。	加藤富美子（東京学芸大学教授）	加藤富美子（東京学芸大学教授）
3	吹奏楽の広がり	日本において、西洋音楽の移入を先導する役割を担ってきた吹奏楽について、明治期からこんにちに至る史的経緯を概観する。吹奏楽を支えてきた人びと、レパートリー、演奏の場などの諸側面を、音楽的観点と社会的観点の両方から整理し、21世紀の新しい動向について解説する。	北川純子（大阪教育大学准教授）	北川純子（大阪教育大学准教授）
4	現代社会における伝統音楽	明治期以降の日本の社会における伝統音楽の状況を紹介する。古典曲の継承と、西洋音楽からの刺激を受けて生まれた新曲創作の動きの両面をとりあげ、現代社会での「伝統」のあり方を考える。	小塩さとみ（宮城教育大学准教授）	小塩さとみ（宮城教育大学准教授）
5	オーケストラとその音楽	西洋の産物であるオーケストラの日本でのあり方について、組織としての管弦楽団と、奏でられる管弦楽作品の両面から、史的概観をおこなう。レパートリーの傾向や、日本の作曲家による管弦楽作品の特徴についても考える。	北川純子（大阪教育大学准教授）	北川純子（大阪教育大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
6	楽器にみる音楽観	明治期以降の日本社会は、楽器を近代化の象徴と考えてきた。その結果、日本で作られた楽器には、日本人の創意工夫とともに、西洋の楽器を同化しようとする人々の営為が明確な形で現れている。明治から昭和前期における楽器開発の試行と、戦後、その反動として起こった和楽器における「伝統への回帰」などについて考える。	月溪恒子（大阪芸術大学教授）	月溪恒子（大阪芸術大学教授）
7	音楽産業と現代日本社会における音楽	音楽産業を研究する意味と音楽産業の全体像を概説したうえで、楽器産業を例にとり、日本独特の産業発展の経緯と音楽産業と現代日本の音楽文化とのかかわりについて扱う。	田中健次（茨城大学教授）	田中健次（茨城大学教授）
8	音楽を伝える	音楽の覚え方、教え方、楽譜や教習制度など、音楽を伝え広めるための方法を扱う。古くから行われている伝承方法、明治期以後に西洋音楽の影響を受けて生まれた変化、現代の日本社会における新たな動向について解説する。	月溪恒子（大阪芸術大学教授） 小塩さとみ（宮城教育大学准教授）	月溪恒子（大阪芸術大学教授） 小塩さとみ（宮城教育大学准教授）
9	音楽とジェンダー	音楽にまつわる視覚的要素、歌謡曲の歌詞、「男性が女歌を歌い、女性が男歌を歌う」ジェンダー交差歌唱、楽器と演奏者といった問題をとりあげ、音楽とジェンダーについて解説する。「ジェンダー」が就労や生活だけでなく、音楽にも深く浸み込んでいることの理解をめざす。	北川純子（大阪教育大学准教授）	北川純子（大阪教育大学准教授）
10	地域がつくる芸能	現代日本社会でも、地域がつくる芸能は大きな役割を果たしている。大阪の伝統芸能・民俗芸能や現代的な祭り文化を事例として、風土を含めた地域性が音楽に対して与える影響や、地域を越えて広がる音楽といった観点から考察する。また、行政や研究者の役割にも触れる。	月溪恒子（大阪芸術大学教授）	月溪恒子（大阪芸術大学教授）
11	声から考える日本の音楽	日本の音楽における声の多様性と、ジャンルを越えた声の共通点を紹介する。また、西洋音楽が日本の声に与えた影響など、時代による声の音楽の変化についても考える。	小塩さとみ（宮城教育大学准教授）	小塩さとみ（宮城教育大学准教授）
12	ポピュラー音楽の諸相	「ポピュラー音楽」概念を検討するとともに、日本のポピュラー音楽の史的概観をおこなう。海外からの影響とその消化、音楽的諸要素の変化、メディアなど、複数の側面から解説する。	北川純子（大阪教育大学准教授）	北川純子（大阪教育大学准教授）
13	映像を聴く・音を観る―日本映画と音楽―	サイレント期からの日本映画と音楽とのかかわりについて概観する。映像と音楽をめぐる理論、映画主題歌と映像とのかかわり、芸術音楽作曲家と映画、アニメーション映画の音楽などを素材に、「観る」ものである映画が「聴かれて」もきていることについて解説する。	北川純子（大阪教育大学准教授）	北川純子（大阪教育大学准教授）
14	日本で響く世界の音楽	「和洋」対概念では捉えきれない、こんにちの日本での多彩な音楽実践について紹介するとともに、世界のさまざまな地域の音楽が日本で鳴り響くようになった背景についても考える。	小塩さとみ（宮城教育大学准教授）	小塩さとみ（宮城教育大学准教授）
15	音楽からみる現代日本社会	明治期以降の日本の音楽状況の変化を概観し、音楽から現代日本社会を見たときに浮かび上がる諸相について、整理・解説する。	北川純子（大阪教育大学准教授）	北川純子（大阪教育大学准教授）

＝　演劇入門（‘０６）＝（TV）

－古典劇と現代劇－

〔主任講師（現職名）：　渡辺　保（演劇評論家）〕

全体のねらい

日本の四つの古典劇――能、狂言、人形浄瑠璃、歌舞伎を新しい視点から見るにはどうしたらいいか。そのためには第一にこの四つの古典劇を一つのものとして見ること。第二に他の現代演劇と比較しながら見ること。この二つの視点――つまり、デジタルとアナログの視点からみることが大切である。そうすれば容易に伝統演劇を理解できるだろう。そのために今回の番組はできるだけ、作品中心、俳優中心、一番組読みきりを原則とした。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	現代演劇の展望	新しい演劇の見方を提案する。提案の骨子は二点。第一に、能、狂言、文楽、歌舞伎の四つの古典劇を一つの流れとして捉え、これを現代劇と対比して日本演劇の全体像を捉えること。第二にこれらの日本演劇の流れを世界の演劇と対比すること。以上の二点によって現代演劇の生きた姿の全体を分析する。	渡辺　保（演劇評論家）	渡辺　保（演劇評論家）
2	能「自然居士」	能の「自然居士」の演劇的な構造を分析する。この作品は、これまで言われてきたような単なる芸尽くしのドラマではない。一人の青年宗教家が人買いに買われる少女を救うことによって、真の宗教家として目覚め成長していく過程を描くドラマである。この構造を捉えることが、能を現代に生きる演劇として捉えることであることを立証する。梅若六郎主演。	同上	同上
3	能「松風」	能は「自然居士」のように一つのドラマであると同時に一方ではきわめて舞踊的な、音楽的な要素の強い曲もある。その代表的な「松風」の分析。松風はなぜ行平の遺品の衣裳を着て男装して舞を舞うのか。その演劇的な構造、変身の意味を分析することによって能のドラマを考える。故後藤得三主演。	同上	同上
4	狂言「釣狐」	ある山里で起きた事件。猟師に狐狩りをやめさせようと、猟師の伯父伯蔵主に化けた老狐が猟師の家を訪れる。狐の物語は実は人間の物語なのだ。この物語の陰に隠されている世代交替、自然と対立して自然を破壊していく人間の世界観を分析する。狂言はおおらかな喜劇であると同時に、人間に対する風刺劇でもある。その演劇的な意味を分析する。野村万作主演。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	人形浄瑠璃（文楽）「道明寺」	文楽の代表的な作品「菅原伝授手習鑑」の二段目河内の国の郡領屋敷で起きる奇蹟劇を通して、文楽が人形劇として獲得した高い演劇的表現の意味を分析する。人形劇だからこそ表現される奇蹟、そして菅原道真が生きながら神に変身する神話の構造を問う。吉田玉男主演。	渡辺　保（演劇評論家）	渡辺　保（演劇評論家）
6	文楽と歌舞伎「すし屋」	文楽から歌舞伎に輸入された名作の一つ「義経千本桜」三段目「すし屋」を題材に、歌舞伎に輸入されることによってどういう演出上の工夫が施されたか。それによって歌舞伎の様式的な演技術の基礎がどのように作られたかを探る。いわゆる歌舞伎の「型」というものの面白さの研究である。中村富十郎主演。	同上	同上
7	歌舞伎「助六」	歌舞伎十八番の一つ「助六由縁江戸桜」を分析。「助六」は歌舞伎の歴史のなかでももっとも古い演目のひとつであり、それだけに多くの歌舞伎の本質を示している作品。たとえば江戸時代の二大「悪所場」であった芝居町と遊廓との関係もその一つである。市川団十郎主演。	同上	同上
8	歌舞伎「髪結新三」	河竹黙阿弥の代表作「梅雨小袖昔八丈（髪結新三）」を題材に歌舞伎の世話狂言の面白さ、その近代的な自然主義リアリズムに接近した世話物の芸の面白さを分析する。黙阿弥とチェーホフは年齢的に親子ほど違うが実は同時代人である。黙阿弥はチェーホフとどう違うのか。そこに歌舞伎の芸の秘密があり、限界もある。中村勘三郎主演。	同上	同上
9	歌舞伎舞踊「道成寺」と「鏡獅子」	歌舞伎全体の演目のなかでも舞踊は大きな比重を占める。そればかりではなく歌舞伎の芸あるいは歌舞伎役者の身体には舞踊の要素が強い。能の身体の伝統を含めて歌舞伎の身体とは何かを問う。歌舞伎舞踊の二大名曲「京鹿子娘道成寺」と「春興鏡獅子」を題材に、歌舞伎舞踊とは何かを分析する。故中村歌右衛門主演。	同上	同上
10	芸の構造――武原はんと井上八千代	能、狂言、文楽、歌舞伎の四つの古典劇に共通している芸の構造の背景には「素」という特別な思想がある。能の仕舞、文楽の素浄瑠璃、舞踏の素踊り。これらは演者が素顔で行うものであり、全ての芸の根底にはこの「素」の思想がある。素踊りに近い座敷舞の名人二人を題材にその思想の意味を問う。故武原はん、故四代目井上八千代主演。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
11	リアリズム演劇「炎の人――ゴッホ小伝」	近代劇は自然主義リアリズムをその出発点としている。その代表的な作品の一つである三好十郎作の画家ゴッホの伝記劇を扱う。この作品において名優滝沢修がそのリアリズム演技の頂点に立ったからである。その名演技を題材に近代劇の原点、それから発展した現代劇の一つリアリズム演劇の世界観、人間の捉え方、表現の仕方が古典劇とは方法論的に違うことを分析する。故滝沢修主演。	渡辺保(演劇評論家)	渡辺保(演劇評論家)
12	現代劇「別冊谷崎潤一郎」	現代劇の代表作の一つとして鈴木忠志構成演出の「別冊　谷崎潤一郎」を取り上げ、世界的な演出家の一人鈴木忠志独特の方法と思想、そして演劇的に極めてレベルの高いこの舞台の構造を分析する。そのことによって今日の演劇の持つ意味、対社会的な役割――いかに演劇が現代社会を写し出しているかを検証する。	同上	同上
13	現代喜劇「笑いの大学」	三谷幸喜の傑作であり、かつ現代喜劇の代表作でもある「笑いの大学」を題材に、演劇の基本構造、そして喜劇がどのようにして作られるかを分析する。さらにこの問題は人間にとって果たして笑いとは何か、笑いは人間が生きていく上に必要なものかにまで進展する。西村雅彦、近藤芳正主演。	同上	同上
14	ミュージカル「マイ・フェア・レディ」	「マイ・フェア・レディ」は日本ではじめて上演された翻訳ミュージカル。イギリスの劇作家バーナード・ショウが大正元年に書いた近代劇「ピグマリオン」を原作としている。近代劇がミュージカルになることによってなにを得、なにを失ったかを分析することによって、ミュージカルの特性を研究すると同時に日本の古典劇との違いを明らかにする。	同上	同上
15	２１世紀の演劇	古典劇と現代劇との比較を通して、演劇の本質を分析する。近代劇を超えるために東洋の古典劇に注目した三人――アルトー、ブレヒト、ヤン・コットの三人の業績を考えながら、彼等が東洋――とりわけ日本の古典劇に発見した演劇の構造こそが将来の２１世紀の演劇の指針になるのではないか。その可能性を探る。	同上	同上

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	専門科目	科目コード	1551507	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 文化人類学 （’０８）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：内堀　基光（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：本多　俊和（スチュアート　ヘンリ）（放送大学教授）〕

講義概要

専門科目としての文化人類学の基本的知識を全15回にわたって講義する。1章ごとにテーマに沿って学史から現代の課題まで含める。とりわけ人類が直面する現代的課題に対して、文化人類学的に考察することがどのような意味をもつのかを解き明かすことに重点を置く。

授業の目標

全15回の講義をとおして、文化人類学の諸概念と用語が理解できるようにする。それをとおして文化人類学に特有の調査法を学ぶ。それとともに、世界の諸地域に暮らす民族集団の生活の多様性を知り、地球大的な諸問題と地域的な諸問題の関わりを人類的視野で見る素養を養うことを目標とする。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	文化人類学の導入	本講義の導入では、文化人類学という学問に特有の現実を見る眼とはどういうものか、文化人類学が今日の世界のなかで実践的に果たしうる役割にはどのようなものがあるか、という問題から出発し、この学問の対象としてきた人類の文化と社会の研究法、共時態と通時態の関係、民族誌という報告の形態、フィールドワークの意義と実際について、学史の背景として概括的に見ていく。 【キーワード】 文化、社会、フィールドワーク、民族誌	本多俊和（スチュアート　ヘンリ）（放送大学教授） 内堀基光（放送大学教授）	本多俊和（スチュアート　ヘンリ）（放送大学教授） 内堀基光（放送大学教授）
2	人種、そして民族	この章では、概念として一義的にとらえることが難しい「人種」と「民族」を概観する。この2つの概念に関して次の輪郭が浮かんでくる。すなわち、生物学的な根拠に基づいて分類されると思われる「人種」は、19世紀の欧米において確立した、植民地支配と搾取、他者の差別を正当化する社会的に構築されたドグマであること。また民族も社会的に構築される概念であり、民族のあり方は状況次第に変わることを認識する必要がある。状況によって民族集団は生成・消滅・融合、分離するのである。 【キーワード】 人種、民族、民族集団、ネーション、エスニック・グループ	本多俊和（スチュアート　ヘンリ）（放送大学教授）	本多俊和（スチュアート　ヘンリ）（放送大学教授）
3	生態と文化	人類社会の基礎には、自然を利用して生存し、社会を再生産していくという過程がある。人類史をつうじて、自然をどのように認識し、またその資源をどのように利用するかは、文化の核ともいえるものであった。サブシステンス（自給的経済）における生業のあり方を見ることをつうじて、生態系の変化に適応しつつ生きる文化の様相を探る。 【キーワード】 生態、文化－生態系、資源、サブシステンス	内堀基光（放送大学教授）	内堀基光（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	世界の見方	私たちは、現実をそのままの形で見ていると思っているかもしれないが、けっしてそうではない。それぞれの社会文化には、自分たちを取り囲む世界をどのように認識しているか、という認識の仕方がそれぞれに存在する。ここでいう世界とは、人だけでなく、自然や宇宙、超自然的な神や霊、死後の世界、そして過去や未来など、あらゆるものを含み、それらをどのように意味づけるかが、「世界の見方」、すなわち世界観である。私たちは、この世界観をとおして、それぞれの現実を見ているのである。この世界観が最も凝縮した形で蓄積され表出されている領域が、宗教である。ゆえに本章は、宗教を足がかりにしながら、「世界の見方」という問題の一端を考えていくことにする。 【キーワード】 現実、世界観、宗教、自然と超自然	宇田川妙子（国立民族学博物館准教授）	宇田川妙子（国立民族学博物館准教授）
5	人間の見方	文化人類学では、人はそれぞれの社会文化によって多様であるという見方をしているが、この見方は、一つの社会文化の中でも通用する。一つの社会の中でも、民族が異なることは少なくない。また地域や階層による差もある。そして、男性と女性は、身体的に異なっているだけでなく、ものの見方や知識のあり方も違うことも多々ある。同様に年齢や世代によっても人は異なる。本章は、このように人は多様であるという立場から、その多様性の一端を、男性と女性という性の差異に着目しながら見ていくことにする。男性と女性という問題は、家族という領域に深くかかわっているため、今回の議論は、家族や性という問題にも展開していく。 【キーワード】 ジェンダー、セクシュアリティ、年齢、家族、階層	宇田川妙子（国立民族学博物館准教授）	宇田川妙子（国立民族学博物館准教授）
6	環境のなかでの人間	「環境」にはさまざまな側面があり、「環境」のとらえ方は民族によって、そして時代によってとらえ方が異なっている。また異なる環境において類似する文化と社会が営まれていることもある。グローバル化が進んでいる現在、環境への関心が地球的な規模で広がっている。最近の動向として、環境権が注目されている。環境権とは、公害に脅かされずに人間は健康的な生活を維持する権利である。一方、先住民族にとっての環境は大地を基盤に伝統文化を営み、自律的な自治を保障する包括的な概念である。環境をどのように利用し管理するのかは、グローバル的な視点が必要であると同時に、先住民族をはじめ少数民族の伝統文化と社会が保持され、環境に対する独自の利用と管理の仕方をどう保証するのかが現代の課題である。本講義では、こうした開発と環境問題、環境知識、開発に伴う資源管理など、人間と環境の関わり合いに関するトピックを扱う。 【キーワード】 環境権、自然、先住民、環境知識、社会環境	本多俊和（スチュアート ヘンリ）	本多俊和（スチュアート ヘンリ）
7	文化相対主義と他者を見る眼括弧以下削除	文化人類学の中心的な考え方である文化相対主義の意義、その歴史的背景と効果、現代におけるその語り方の問題と普遍主義的価値観との関係などを概観し、さらにポストコロニアルあるいはポストモダンと特徴づけられる現代人類学における「他者を見る眼」はどのようにして可能か、多文化共存の可能性をどこに見るか、民主主義と人権などのトピックを現代世界、とりわけ周辺社会の状況に照らして考察していく。 【キーワード】 文化相対主義、普遍主義、人権、民主主義	内堀基光	内堀基光

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
8	グローバリゼーションと文化括弧以下削除	人の移動が活発化するとともに、ものも情報も世界を巡るようになった。世界は次第にひとつに収斂していくようにも見える。その一方で、文化は容易に変化しない部分がある。グローバルな仕組を取り入れても、社会の中でそれが持つ意味にはしばしば独特なものがみられる。さらにナショナルな文化やローカルな文化を守り、新たな意味を付与することで差異を作りだす力学も存在している。本講義では、こうしたグローバリゼーション時代の文化のダイナミクスと行方を考察する。 【キーワード】 移動、グローバリゼーション、ナショナル文化、ローカル文化	山本真鳥（法政大学教授）	山本真鳥（法政大学教授）
9	人とモノ	私たちの身のまわりにあふれるモノのなかには、誰によって、どのような過程を経てつくられているのか、あるいはどのような仕組みによって動いているのか分からないものの、私たちの生活には不可欠だというモノも多々存在する。この講義では、人類史的な観点から、人間社会が生み出してきたモノをめぐる多様な文化（＝物質文化）と多様なモノづくりの技術（＝生産技術）について取り上げ、文化人類学の立場から現代社会における物質文化や生産技術にどのようにアプローチするのか、という点について論じる。 【キーワード】 ホモ・ファーベル（工作人）、労働／制作、ホモ・コンシュマンス（消費人）、近代世界システム、消費社会（高度消費社会）	原知章（静岡大学准教授）	原知章（静岡大学准教授）
10	人とメディア	多様なメディアがせめぎあい、融合しながら地球上の多くの人びとの生活のなかに深く浸透しつつあることは、現代世界の顕著な特徴である。個々のメディアは互いに錯綜した、そして重層的な関係にあることが分かる。この講義では、メディアとは何かをあらためて問うことからはじめて、近年、勃興しつつあるメディア人類学や隣接諸分野の知見にもとづいて、現代のメディア社会をマクロな視点とミクロな視点の双方から複眼的に捉えていく。 【キーワード】 メディア（口頭～、文字～、印刷～、電子～）、コミュニケーション、文化表象	同上	同上
11	人と人のやりとり	ものを買うときも、贈り物の贈答も、ものをやりとりするという意味では同じだが、そこにどんな違いがあるのだろうか。われわれの贈答慣習とともに、西太平洋トロブリアンド社会の贈答慣習としてのクラ交換をとりあげてみよう。クラ交換に用いられている贈り物は、人から人へと手渡されていくものであるが、それとわれわれの用いている貨幣とはどう異なるのだろうか。異なる社会での慣習をとりあげ、この主の交換の媒体について考察しよう。 【キーワード】 贈答（贈与）、クラ交換、貨幣、経済人類学、互酬性	山本真鳥	山本真鳥
12	社会の構成	社会は多様な集団や組織から構成され、特定の社会構造をなしている。社会構造は固定化され変化が乏しいものではなく、ときには集団や組織が既存の社会構造からはみでて反構造的な動きや、構造が流動性をみせる場合もある。また社会の反構造的な側面を特定の空間で表出させることもある。この回では、新居浜市の太鼓祭りと山形の高畠町の有機農業運動の2例をあげ、構造と反構造の相互作用の一端を考察する。 【キーワード】 構造、反構造、集団、祭り、有機農業、行政、近代化	足羽與志子（一橋大学大学院教授）	足羽與志子（一橋大学大学院教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
13	平和と戦争	20世紀は戦争の世紀でもある。その前半は世界を巻き込んだ戦争に明け暮れ、後半は数多くの部族戦争や民族対立、内戦が表面化した。人類学研究は対象のほとんどが「敵」や「支配すべき文化」であった事実を無視できず、その意味では暴力的対立とともに成長してきた他者理解の学ともいえる。こうした人類学研究と戦争の関係史をふまえたうえで、ウガンダとスリランカの現在の民族紛争を例に、人類学が追求可能な理論的関心と実践的貢献の両方を考える。 【キーワード】 戦争、平和、暴力、犠牲者、記憶	同上	同上
14	周辺からの声	現代世界において周辺とされる社会に生きる人びとのダイナミックな動きと声を、東アフリカを例に取り、地方から都市社会への移住者の生活、都市と地方との力関係、地方のなかでの新たな生計の確保への努力などを具体例として取りあげつつ、「抵抗」、「サバルタン」といった概念の有効性を検討する。 【キーワード】 都市、農村、移動、抵抗、共同性、生きる技法	松田素二(京都大学大学院教授)	松田素二(京都大学大学院教授)
15	人類の将来	最終回(章)では、本講義全体に関わるまとめと合わせて、進化と文化・社会、サステナビリティの射程など、人類史的観点から現代文化を総括する。21世紀という時代の文化と人類社会の将来を見据えるために、20世紀という時代の特性を見る。植民地、大戦争、ジェノサイドの時代であり、かつ世界平和希求の時代としての20世紀の総括から、グローバル化の意味するもの、人類社会における暴力とその克服の可能性などについて語る。 【キーワード】 20世紀、人類の将来、グローバル化、進化	内堀基光	内堀基光 本多俊和(スチュアート ヘンリ)

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	専門科目	科目コード	1857207	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　資源人類学（‘07）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：内堀　基光（放送大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：菅原　和孝（京都大学大学院教授）〕
〔主任講師（現職名）：印東　道子（国立民族学博物館教授）〕

講義概要

「資源」という語は日常的に使われているが、学問的概念としてはなかなか定義の難しい概念である。この科目では、人類学の視点から資源と人間社会、文化との関わりについてアプローチする。資源そのものよりも、「人間にとって」という観点に重点が置かれる。天然資源とならんで、通常では資源とは考えられていない知識や身体なども、これに含まれる。包括的な理論とともに、資源と人間の関わりの全地球的な多様性を、具体的な生活舞台にそくしながら探求することにしたい。

授業の目標

この科目は、学問的に新しい分野であるので、講義を通じて新しい見方の発見、知的なおどろきを経験できるものとしたい。受講生にも、既成の体系を求めるのではなく、人間と生態系、人間の文化について、新たな疑問をもち、みずから考えてゆくという態度を期待する。したがって、受講に関してとくに前提となる特殊な知識はない。資源を軸にして見ることにより、現代の人間のおかれた状況を相対化して考え、そこから喫緊の人類的課題に迫ろうとする態度を涵養することが目標となる。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	「資源人類学」の導入	「資源人類学」の可能性と基本的な視点を講義する。資源という語のさまざまな用語法。資源をめぐる諸学問、とくに経済学的視点との異同。人類学全体にとっての意義。講義の構成についての紹介。	内堀基光（放送大学教授）	内堀基光（放送大学教授）
2	資源の問題群の構成	象徴資源と生態資源の組み合わせで人間社会が成り立っていること、共有される資源と分配される資源の相違について論じる。また天然資源の分類と現代的グローバルな課題が生じてきた経緯、解決の可能性、およびサブシステンス経済について触れる。	内堀　基光	内堀　基光
3	生態資源と象徴資源	生態的資源が象徴資源として認識された過程を、歴史資料を用いて検討する。象徴資源の存在が社会構造の存立にいかに重要な役割を果たしたか、異なる環境条件にある社会を例にとって論じる。	印東道子（国立民族学博物館教授）	印東道子（国立民族学博物館教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	文化資源の考え方	文化が資源でありうるとはどういうことか。文化が資源化されるとき、社会はそれをどう活用するか。社会間および社会内の文化資源の分布をどう見るか。ブルデューのいう文化資本とはどう異なるか。	森山　工(東京大学大学院准教授)	森山　工(東京大学大学院准教授)
5	観光資源と知的資源	観光資源・知的資源に代表される文化資源の生成と消費、また現代国家におけるその蓄積などについて、主としてマダガスカルおよび、その対称軸としてのフランスを例に取り、具体的に分析する。	森山　工	森山　工
6	地域再生運動と資源	日本における地域再生運動の例を静岡県の一商店街に取る。そこでは運動のための活用資源の一つとして地域通貨を導入しているが、この講義ではその効果を計りつつ、地域限定的な資源利用、「通貨」の意味などを考える。	湖中真哉(静岡県立大学准教授)	湖中真哉(静岡県立大学准教授)
7	再生資源の活用	廃棄されたもののさまざまなかたちでの再利用のあり方を、東アフリカの牧畜民サンブルを主要例にとって見る。廃棄物の再資源化をめぐる現在的な在地の知恵をとおして、資源の再利用という課題に迫る。	湖中　真哉	湖中　真哉
8	資源の循環過程	資源の循環過程とは、あるものが資源として生成することからはじまり、資源として利用されつつ維持されることを経て、資源であることを終えるという過程である。これまでの講義を、この観点から中間的にまとめることで、人間社会と資源の関わりの全体像を見通す。	内堀　基光	内堀　基光
9	身体資源の考え方	人間が身体的存在であることを資源(リソース)の観点から論じる。人間が身体を用いて、他の人間と交渉し、また世界と関わるということは、この交渉のための資源として身体を見ることができるということである。このことを日常生活の基礎論として位置づける。	菅原和孝(京都大学大学院教授)	菅原和孝(京都大学大学院教授)
10	資源としての身体のふるまい	身体の具体的な振る舞い方、扱い方をとおして、身体がいかにコミュニケーションと表現のための資源となっているかを探る。具体例は舞踏における身体、過去語りにおける身体、および民俗的な医療における身体の扱いにとる。	菅原　和孝	菅原　和孝

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
11	人体の部品化	臓器移植や新生殖技術によってゆらぐ人格アイデンティティの問題を中心として、商品化を含み資源としての利用が進む人体部品と現代の人間観、生命観のあり方を考える。	出口　顯(島根大学教授)	出口　顯(島根大学教授)
12	生態資源の広がり	遊牧の民にとっての資源の意味を、モンゴルの牧草地とその利用の現状をもとに探る。季節的移牧のあり方、過放牧と呼ばれる事象の原因、現代モンゴル人の生活資源の領域拡大などを取りあげる。	小長谷有紀(国立民族学博物館教授)	小長谷有紀(国立民族学博物館教授)
13	資源のマネージメント	熱帯林の商業伐採や換金作物農地への転換によって、かつては更新可能だった資源の利用法が、更新不可能な資源に転じつつある。これによって共有と分配のあり方も変化する。ここでは適切な資源マネージメントについて、政治生態学の手法を導入しつつ論じる。	阿部健一(京都大学准教授)	阿部健一(京都大学准教授)
14	資源と環境	環境問題と資源問題は密接に関係している。この関係の多重なありようを、グローバルな全体像のなかでとらえる。歴史的には植民地の問題、現在的には南北問題が中心的な議論の対象となる。	阿部　健一 内堀　基光	阿部　健一 内堀　基光
15	資源の人間的意味	複数講師によるディスカッション形式により、象徴資源と生態資源の関係と比較、相互転換の論理などをまとめ、同時に新たな資源の可能性について考える。	内堀　基光	内堀　基光 菅原　和孝 印東　道子

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	専門科目	科目コード	1551701	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 博物館経営・情報論 （’０８）＝ （R）

〔主任講師（現職名）： 佐々木亨（北海道大学大学院文学研究科 准教授）〕

〔主任講師（現職名）： 亀井 修（国立科学博物館展示・学習部学習課ボランティア活動・人材育成推進室長）〕

〔主任講師（現職名）： 竹内有理（長崎歴史文化博物館教育・研究グループリーダー）〕

講義概要

この科目は，3つの内容から成り立っている。
①経営論：博物館の使命達成に向けて，資源をどのように活用していくかについて
②情報論：博物館が収集した1次・2次資料に関する情報，経営戦略を策定するために必要な情報などについて
③教育論：博物館展示とともに活動の重要な柱の1つとなる博物館教育の歴史，理論，動向などについて

授業の目標

博物館は建物と資料が存在するだけでは，十分な価値は生まれない。
博物館運営のソフトウエアである「経営」，「情報」，「教育活動」に関する基本的な知識を身につけることを目標とする。
また，自分の地域にある博物館の活動にいままで以上に関心を持ち，さらに積極的に利用・参加するようになることを目指す。

	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	＜はじめに＞ ミュージアムになぜ経営が必要か	「経営」というと一般的に，営利企業における概念と思われがちである。しかし，博物館を含めた非営利組織においても経営は極めて重要な概念である。ここでは，非営利組織の経営の特徴を説明し，博物館におけるさまざまな資源と経営の関係を考える。 【キーワード】 経営，非営利組織，使命，資源，サービス，ステークホルダー	佐々木亨（北海道大学大学院文学研究科准教授）	佐々木亨（北海道大学大学院文学研究科准教授）
2	博物館の人材・組織・財政・各種団体	館長や学芸員をはじめとするスタッフ，その組織化，運営予算，博物館関連の各種団体など，館種や規模に拠らない博物館経営に必須の要素について，博物館法をみながら，その現状と課題を考える。 【キーワード】 博物館法，学芸員，館長，ボランティア，組織，施設，財政	佐々木亨（北海道大学大学院文学研究科准教授）	佐々木亨（北海道大学大学院文学研究科准教授）
3	博物館経営の手法①：マーケティングと利用者調査	民間企業ではその導入が当たり前になっている「マーケティング」に関して概説を行う。それとともに，マーケティングを計画する際，重要な情報となる博物館利用者の実態やニーズ・期待を把握するための調査方法について，実際の事例を用いて紹介する。 【キーワード】 マーケティング，非営利組織，利用者調査，観察法，質問紙法	佐々木亨（北海道大学大学院文学研究科准教授）	佐々木亨（北海道大学大学院文学研究科准教授）
4	博物館経営の手法②： 事業評価の手法とシステム	最近では，公共サービスにおいて評価は必須の活動となっている。博物館に関しても多様な手法で評価が行われている。評価が必要となってきた背景を理解し，博物館の事業を評価する手法およびその全体システムについて具体的に紹介する。さらに，評価システム導入の際，必要となる環境についても検討する。 【キーワード】 評価，自己点検，外部評価，静岡県立美術館	佐々木亨（北海道大学大学院文学研究科准教授）	佐々木亨（北海道大学大学院文学研究科准教授） 泰井良（(財)地域創造総務部振興助成課副参事）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	公立博物館の経営形態： 直営と指定管理者	地方自治法第244条が2003（平成15）年に改正され，博物館にとってもさまざまな変化が生まれた。同法改正以前の博物館経営の実態を紹介したのち，改正で導入された指定管理者制度の現状を，具体的な博物館の事例を通して説明する。さらに，指定管理者制度の課題などについて考察する。 【キーワード】 指定管理者制度，直営，地方自治法，長崎歴史文化博物館，島根県立美術館	佐々木亨（北海道大学大学院文学研究科准教授）	佐々木亨（北海道大学大学院文学研究科准教授） 佐々木秀彦（（財）東京都歴史文化財団事務局 総務課企画広報係長）
6	博物館とそれを取り巻く人びと・社会	博物館における広報活動の現状をみた上で，広報の役割の一つである組織の目的と価値をどのように開示しているのかを，博物館の「年報」と企業の「CSRレポート」とを対比しながら考察する。また，博物館が地域と密接に関係し合い，地域を活性化している事例を紹介する。 【キーワード】 広報，CSR，ステークホルダー，公益性，博物館と地域，創造都市	佐々木亨（北海道大学大学院文学研究科准教授）	佐々木亨（北海道大学大学院文学研究科准教授）
7	博物館教育の歴史と今後の方向性	博物館教育に対する理解と関心が近年高まってきているが，日本の博物館の歴史の中で，博物館教育がどのように位置づけられ，実践されてきたかを，明治期の教育博物館の事例や博物館法における位置づけなどを通して紹介し，博物館教育の今後の方向性について展望する。 【キーワード】 利用者，市民，教育博物館，地域博物館，「対話と連携」	竹内有理（長崎歴史文化博物館教育・研究グループリーダー）	竹内有理（長崎歴史文化博物館教育・研究グループリーダー）
8	博物館教育の理論	特に欧米を中心に発達した、今日の博物館教育を理念面で支え、大きな影響を与えたとされる構成主義や学習スタイル、コミュニケーション論などの教育（学習）理論について、ポストモダンという大きな歴史の流れを前提として紹介する。 【キーワード】 ポストモダン，構成主義，ホリスティック，インフォーマルな学習，学習スタイル，コミュニケーション	竹内有理（長崎歴史文化博物館教育・研究グループリーダー）	竹内有理（長崎歴史文化博物館教育・研究グループリーダー）
9	博物館教育の実践1：展示へのアプローチ	展示が内包する問題について理解したうえで、それらを読み解くための方法として試みられている参加体験型（ハンズ・オン）展示やワークシート，ギャラリートーク、ワークショップなどの教育プログラムについて紹介する。また展示の作り手と受け手の間の意識や理解の差を埋めるための展示評価についても触れる。 【キーワード】 ハンズ・オン，ワークシート，ギャラリートーク，ワークショップ，展示評価	竹内有理（長崎歴史文化博物館教育・研究グループリーダー）	竹内有理（長崎歴史文化博物館教育・研究グループリーダー）
10	博物館教育の実践2：地域連携とボランティア	博物館教育の具体的な実践例として，学校と地域住民，ボランティアの3つの側面から地域社会と連携した様々な博物館活動について，具体的事例を交えながら紹介し、地域との連携がこれからの博物館にとっていかに重要かを考える。 【キーワード】 博学連携，ボランティア，地域連携，市民参加，生涯学習	竹内有理（長崎歴史文化博物館教育・研究グループリーダー）	竹内有理（長崎歴史文化博物館教育・研究グループリーダー）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	博物館における情報	博物館における情報というテーマを扱う場合，情報化という大きな流れの中での博物館の位置づけといった視点と，博物館で扱われる情報の編成といった視点との両方を視野に入れて扱う必要がある。博物館の機能の変遷の視点をもとに，博物館という場における情報の扱い，あるいは情報化時代における博物館の果たす役割について，実際の博物館での事例の紹介を交えながら扱う。 【キーワード】 情報，機能，コミュニケーション，情報の展示	亀井　修（国立科学博物館展示・学習部学習課ボランティア活動・人材育成推進室長）	亀井　修（国立科学博物館展示・学習部学習課ボランティア活動・人材育成推進室長）
12	博物館活動の情報化	博物館機能における情報化の進展とその今日的な状況を構造的に捉える。また，21世紀における博物館は，図書館や文書館とともにその意義を変えつつあり，情報の共有化と情報提供活動を中核とした博物館活動を考える。 【キーワード】 情報化，MAL，図書館，アーカイブズ，経営	亀井　修（国立科学博物館展示・学習部学習課ボランティア活動・人材育成推進室長）	亀井　修（国立科学博物館展示・学習部学習課ボランティア活動・人材育成推進室長）
13	情報技術と博物館	今日の日常生活にとっても欠かすことのできない情報技術の歩みと現状を，博物館や博物館の社会的営為の中での活用を通して，事例を交えて紹介し，博物館における情報技術の意義と可能性を考える。 【キーワード】 ICT，利用者，情報端末，デジタルアーカイブズ	亀井　修（国立科学博物館展示・学習部学習課ボランティア活動・人材育成推進室長）	亀井　修（国立科学博物館展示・学習部学習課ボランティア活動・人材育成推進室長）
14	博物館経営と情報論	かつては，博物館に求められていた社会的な役割は比較的明確であったし，また限定的でもあった。世の中が変わるにつれて，博物館が存続するために配慮しなければならない事項は急増してきている。博物館をめぐる情報の広がりと可能性について博物館経営の視座をとりいれて幅広に検討する。 【キーワード】 パブリックリレーション，コミュニケーションポリシー，人材育成	亀井　修（国立科学博物館展示・学習部学習課ボランティア活動・人材育成推進室長）	亀井　修（国立科学博物館展示・学習部学習課ボランティア活動・人材育成推進室長）
15	＜おわりに＞ 博物館にとって本当に必要なものは何か	博物館運営のソフトウエアである「経営」，「情報」，「教育活動」に関する学習をこれまでしてきた。ここでは，それぞれの領域においてキーワードとなる事柄はいったい何であるのかを，あらためて整理してみる。その上で，博物館にとって本当に必要なものは何であるかについて考える。 【キーワード】 経営，情報，教育活動	佐々木亨（北海道大学大学院文学研究科准教授） 亀井　修（国立科学博物館ボランティア活動・人材育成推進室長） 竹内有理（長崎歴史文化博物館教育・研究グループリーダー）	佐々木亨（北海道大学大学院文学研究科准教授） 亀井　修（国立科学博物館ボランティア活動・人材育成推進室長） 竹内有理（長崎歴史文化博物館教育・研究グループリーダー）

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	専門科目	科目コード	1560409	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 数学基礎論 （’０８）＝ （R）

〔主任講師（現職名）：隈部　正博（放送大学准教授）〕

講義概要

論理学の基礎を数学的立場から解説する。授業では予備知識は特に要求しない。自然の理解専攻以外の学生向けでもある。数学を初めて学ぶ人たちのための予備知識の解説から始める。数学には独特の言葉使いがある。これを一から学んでいく。例えるなら、外国語である英語を a,b,c から学ぶ姿勢である。その後は意味をなす英文を作るための英文法を学ぶように、数学的文章（論理式という）を作るための規則を学んでいき、「正しい文章」とは何かを学ぶ。また数学的推論あるいは証明がどのように行われるかを掘り下げて考える。その後自然数とはどういうものか、について体系的に学び、最終的にゲーテルの不完全性定理を理解する。またこの分野は情報科学の基礎理論との関わりも深い。従って情報科学への応用として論理回路（デジタル回路）やリレーショナルデータベースについて学ぶ。

授業の目標

数学を言語という観点から基本的立場に戻り、基本概念を掘り下げて理解する。数学は述語論理という言語の論理体系から成り立っているが、その一部である命題論理、から順次学んでいく。その後我々に最も身近な自然数について、その論理構造について学ぶ。数学の問題は、正しいとか誤りであるとかどちらか白黒つけることができるものなのか。そもそも正しいとか間違い、あるいは証明するとはどういうことであろうか。その他数学に関する基本事項に関する（幼い頃に抱く）素朴な疑問対する論理的根拠も見ていく。そんな中で日常言語と数学との違いや、また数学は論理的正確性を大切にするということを理解したい。最終目標はゲーデルの不完全性定理の理解である。数学のみならず、哲学や社会学にも大きな影響を与えたこの定理の意味することを理解していきたい。また、この分野と情報科学とがいかに関わっているかを見ていく。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	準備	これから学ぶにあたって必要な予備知識についてのべる。数学的帰納法とはどういうものか。集合とは何か、その基本演算。数学における「関係」とはどういうことか。これらについて学ぶ。 【キーワード】 数学的帰納法、集合、関係	隈部　正博（放送大学准教授）	隈部　正博（放送大学准教授）
2	命題論理	数学独特の言葉使いとして、「かつ、または、ならば、でない」というものがある。これらの言葉の、日常的な理解と数学的な理解との違いを強調しながら意味を考える。これらをまとめて命題論理というものがある。その命題論理とは何かについて考える。そして数学的な文章（論理式）を作るための手続きを定義し、その文章が正しいとか誤りであるといった真偽値について考える。 【キーワード】 命題論理、論理式、文章記号、真偽値	同上	同上
3	トートロジー	論理式の真偽値についてさらに考察し、命題論理におけるトートロジーの概念について考える。 【キーワード】 真偽値の代入、トートロジー	同上	同上
4	論理記号について	論理記号の完全性について述べる。 【キーワード】 論理記号の完全性	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	命題論理の情報科学への応用	命題論理の情報科学への応用として、論理回路（デジタル回路）について学ぶ。これはコンピューターの設計における基本的な概念の一つである。このとき命題論理の論理式がどのように関わっているかをみる。 【キーワード】 論理回路、基本ゲート、回路図	隈部　正博（放送大学准教授）	隈部　正博（放送大学准教授）
6	述語論理	命題論理にさらに「全ての、、、についてある事柄が成り立つ」や「ある、、、が存在してある事柄が成り立つ」といった言い回しなどを付け加えて拡張した、述語論理を定義する。そして述語論理のもとで、ある対象を指し示す対象式の定義をし、論理式の定義をする。 【キーワード】 述語論理、存在記号、対象式、論理式	同上	同上
7	構造	述語論理の論理式の真偽を決めるには、命題論理のようには行かない。そのため構造という概念が必要である。構造の定義をし、その上で論理式の真偽値を考える。 【キーワード】 構造、論理式の真偽値、	同上	同上
8	ロジカルな満足性と演繹計算	述語論理におけるロジカルな満足性という概念について考える。演繹計算とは数学的推論をする上で必要な概念である。これがどのようなものか概略を述べる。これに関連して、ゲーデルの完全性定理の持つ意味について述べる。 【キーワード】 ロジカルな満足性、演繹計算、完全性定理	同上	同上
9	論理公理	演繹計算についてさらに深く考える。公理とは証明する必要のないほど明らかなものである。論理公理とはどういうものか定義する。また証明とはどういうことか、について正確に考える。 【キーワード】 論理公理、証明図	同上	同上
10	述語論理の情報科学への応用	述語論理の情報科学への応用として、リレーショナルデータベースについて述べる。これはデータベース理論において最もインパクトを与えたものの一つである。このとき述語論理がどのように関わっているかをみる。 【キーワード】 リレーショナルデータベース、関係、論理式	同上	同上
11	自然数論	自然数とはどういうものか、自然数論を体系的に学ぶ。また1+1=2となることの論理的根拠についても述べたい。 【キーワード】 自然数論、モデル、ペアノの公理系	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
12	表現可能性と計算可能性	ある事柄が「計算可能」であるといった極めて一般的な概念について、どういうことか数学的定義を試みる。また、関数や関係の自然数論における表現可能性や計算可能性について述べる。 【キーワード】 表現可能性、計算可能性、帰納的関数、チャーチの提唱	隈部　正博（放送大学准教授）	隈部　正博（放送大学准教授）
13	ゲーデル数と証明の算術化	ゲーデル数とはどういうものかについて述べ、それを使って証明の算術化について述べる。この概念は不完全性定理の証明において重要である。 【キーワード】 ゲーデル数、算術化	同上	同上
14	不完全性定理その1	ゲーデルの第1不完全性定理とは（非常に簡単に言えば）、ある文章で、それが正しいとも誤りであるとも証明できないようなもの（白黒つけられないもの）があるということである。この文章を決定不能な文章という。まず、対角化定理というものを証明して、それを使って不完全性定理を証明する。 【キーワード】 対角化定理、第一不完全性定理	同上	同上
15	不完全性定理その2	第1不完全性定理を再考する。次に、我々がある体系（世界）のなかで物事を考えるとき、その体系が矛盾をはらんでいては何もならない。その意味で無矛盾性を確認することは重要である。そんな観点から第2不完全性定理について考える。 【キーワード】 無矛盾性、第2不完全性定理	同上	同上

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	専門科目	科目コード	1891901	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　自然と社会を貫く数学（‘07）＝（R）

〔主任講師（現職名）：岡本　和夫（東京大学教授）〕

講義概要

数学がどのように発展し、現在のような形を作ってきたのかを概観した上で、自然と社会を貫く数学について具体的な事例に沿って紹介する。題材としては簡単な数学史、微分方程式、暗号と符号の理論を扱う。対談形式なども導入して数学の新しい形の授業を組み立てていくが、予備知識として、共通科目から、数学の歴史、微分積分学、線型代数などを履修していることが望ましい。

授業の目標

微分方程式は自然を記述するために不可欠な数学的道具であるが、ここでは微分方程式そのものについて学ぶのではなく、これがどのように使われているか、その意味は何か、ということを理解してほしい。また、暗号と符号の理論はコンピュータ・ネットワークの安全性を保証する数学である。いずれもこの授業を契機として、さらに深く数学を学ぶ意欲と関心を持っていただくことを目標として選ばれた題材である。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	生活と数学	数学が誕生したきっかけを、「測ること」と「記録すること」をテーマに考えてみる。土地の面積の測定や暦の策定は古代の王達の義務であり、権力の象徴であった。	岡本和夫（東京大学教授）	岡本和夫（東京大学教授）
2	数学の形	数学には三つの形がある。「言葉としての数学」、「道具としての数学」、「対象としての数学」がそれである。具体的な事例を交えて数学の働きを見ながら数学がどのような学問であるのか考えてみたい。	岡本和夫（東京大学教授）	岡本和夫（東京大学教授）
3	自然の表現	微分方程式の意味をニュートンの運動法則や万有引力の法則を題材として学ぶ。微分積分学はむしろ微分方程式の理解から生まれてきたとも言える。微分積分学について一応の学習が済んでいることを期待する。	岡本和夫（東京大学教授）	岡本和夫（東京大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	振動の方程式	簡単な微分方程式として、調和振動の方程式を扱う。これは2階の線型常微分方程式で表される現象で、解は sin x、cos x、等の三角関数で表される。簡単な行列と行列式の知識があれば十分である。	岡本和夫(東京大学教授)	岡本和夫(東京大学教授)
5	自然と数学	現在の数学がどのような形で発展してきたのか考える。主任講師と、分担協力講師の薩摩順吉教授(青山学院大学)の対談で、これから授業で扱う課題の意味を整理して紹介する。「連続と離散」ということも一つのテーマとしたい。	岡本和夫(東京大学教授)	岡本和夫(東京大学教授)
6	現象の数理	自然を数学で表現するためには偏微分方程式が必要である。自然現象に沿って、偏微分方程式の意味を考えてみよう。ここから4回の授業は分担協力講師の薩摩順吉教授(青山学院大学)が担当する。	薩摩順吉(青山学院大学教授)	薩摩順吉(青山学院大学教授)
7	拡散方程式と調和方程式	熱は熱い部分から冷たい部分に流れる。決して逆の向きには伝わらない。これを記述するのが熱方程式である。これを題材にして簡単な偏微分方程式を数学的に扱ってみよう	薩摩順吉(青山学院大学教授)	薩摩順吉(青山学院大学教授)
8	波動方程式	波はあらゆる方向に均等に伝わっていく。波動方程式は線型偏微分方程式であり、数学的にきれいな構造を持っている。一方海流や気象は非線型の波である。	薩摩順吉(青山学院大学教授)	薩摩順吉(青山学院大学教授)
9	非線型現象	私達の身近にあるのは非線型微分方程式で記述される自然現象である。例えば大きな被害をもたらす津波は海のソリトンと呼ばれる非線型の波である。このような話題を紹介したい。	薩摩順吉(青山学院大学教授)	薩摩順吉(青山学院大学教授)
10	社会と数学	これまでの授業は自然を対象としてきたが、後半では社会の中にどのように数学が活かされているかを扱う。その初めとして、次回から4回の授業を担当する分担協力講師の桂利行教授(東京大学)と主任講師がいろいろな問題を対談形式で考える。	岡本和夫(東京大学教授)	岡本和夫(東京大学教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
11	数の世界	以下必要となる数学は整数、つまり1、2、3、・・・の世界である。大切な数学であるのになじみが少ないと思われるので、基本的な事柄をまとめることから始める。さらに一般に、数学の基礎である「数」にまつわる興味ある事柄を紹介する。	桂　利行（東京大学教授）	桂　利行（東京大学教授）
12	有限の世界	デジタルの世界の基礎となる有限を扱う数学についてお話しする。19世紀にガロアによって発見された「有限体」が中心的な役割を果たす。	桂　利行（東京大学教授）	桂　利行（東京大学教授）
13	セキュリティーと数学	暗号の歴史は古い。特定の二者がお互いに秘密の鍵を持って通信する手段としてギリシア時代から使われてきた。現在の暗号は不特定多数の間で、プライバシーの保護と通信の安全性の確保に使われている。公開鍵暗号をテーマに、私達の生活の中に活かされている数学を考える。	桂　利行（東京大学教授）	桂　利行（東京大学教授）
14	デジタルと数学	現在はデジタル機器の時代である。通信を初め、コンピュータ、CD、カメラ、DVD、テレビなど様々なところでデジタルが用いられている。そこで重要な役割を果たすのが「誤り訂正符号」である。ここではその数学的原理をお話しする。	桂　利行（東京大学教授）	桂　利行（東京大学教授）
15	文化と数学	全体のまとめとして、授業のテーマである「自然と社会を貫く数学」について、主任講師と、分担協力講師の薩摩順吉教授（青山学院大学）、桂利行教授（東京大学）の3者で話し合う。さらにこの先を学ぶための入門を目指す。	岡本和夫（東京大学教授）	岡本和夫（東京大学教授）

＝　数理モデルとカオス（‘０５）＝（TV）

〔主任講師：　丹羽　敏雄（津田塾大学教授）〕
〔主任講師：　長岡　亮介（放送大学教授）〕

全体のねらい

自然や社会などに見られる多様な現象を数理的概念や方法を用いて‘理想化’して得られるモデルを数理モデルという。数理モデルは、数学のことばを使って現象を精密に叙述するための必須の前提となるものでありながら、数理科学の専門家以外にはその意味が必ずしも十分に理解されていない。本講座は、古代の天文学から近年注目を浴びているカオスまでの数学史的な展開も考慮しつつ、様々な数理モデルとその解析を、伝統的な数学的方法やコンピュータを使った新しい方法を通して講じ、この手法の有用性や意義、そしてまたその限界を理解することを目的とするものである。

技術的な詳細までの理解を欲する学生諸君のために、印刷教材では、やや詳しい数学的展開まで扱うが、放送講義では、直感的な理解を目指した構成をとる。数学やコンピュータの応用に関心をもつ学生諸君の参加を期待する。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	数理モデルとは何か	数理モデルは、主として自然界の対象の数理的な側面を数学その他の数理的言語によってその本質を捉えモデル化する。ここでは、歴史的にも最も古く完成された数理モデルであるプトレマイオス・モデルを例に取り、数理モデルとは何かを考える。	丹羽　敏雄（津田塾大学教授） 長岡　亮介（放送大学教授）	丹羽　敏雄（津田塾大学教授）
2	プトレマイオスの天体運行モデル	数理モデルの典型でもあるプトレマイオスの惑星運行モデルは、離心円や周転円とその上の一様な回転という幾何学的な装置によって、複雑な惑星の運行をモデル化する。その基礎には三角関数の理論がある。ここでは、それらを簡単に紹介する。	同　上	丹羽　敏雄 長岡　亮介（放送大学教授）
3	運動の力学モデル	近代の数理モデルの主力は微分積分を用いる解析学的なモデルである。ここでは、こうしたモデルの出発点にもなった、ガリレイの落体運動のモデルと、ニュートン力学を基礎にする振動現象を取り上げる。	同　上	長岡　亮介
4	万有引力の法則と２体問題	ニュートンによる万有引力の法則と運動方程式の発見と、それによる惑星の運動に対するケプラーの法則の証明は、近代の機械的な自然観の確立に大きく寄与した。ここでは、力学的モデルの例として２体問題を取り上げ、そのエッセンスを紹介する。	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	多体問題とカオス	ニュートン力学の範囲内においても、惑星の運動を完全に調べようとすると大きな困難にぶつかる。3体問題がその典型である。ポアンカレに始まる現代の惑星運行理論はそこにカオスが内在することを発見した。ここでは、そのあらましを紹介する。	同上	丹羽　敏雄 長岡　亮介
6	数理モデルと力学系	現代の数理モデルの中で最も強力な方法の1つは力学系の方法である。ここでは、その基本的な概念と、その解析に最も有効な不動点の概念とその周りの線形化について紹介する。	丹羽　敏雄 長岡　亮介	丹羽　敏雄 長岡　亮介
7	分岐現象	モデルの力学系に、そのモデルの「環境」を表すパラメータが存在するとき、そのパラメータの変化に伴って、分岐現象という極めて興味深い現象が現れる。ここでは、この分岐現象の最も基礎的な事柄について解説する。	同上	同上
8	ローレンツモデルとカオス	現代の数理モデルにとってコンピュータは欠くことのできない道具である。ローレンツは気象現象をモデル化したローレンツモデルを、コンピュータを用いて研究する中で、一種の「予測不能性」を意味するカオスに遭遇した。ここでは、そのエッセンスを紹介する。これは分岐現象の1つでもある。	同上	同上
9	エルゴード問題と確率論的モデル	原子論をもとにマクロ世界の現象を調べようとするものに、統計物理学がある。 その数学的な基礎付けは今に至るも未解決の問題を含んでいる。その典型がエルゴード仮説の「証明」である。それに対する数学の努力の最高峰の1つがシナイのビリヤードモデルである。ここでは、そのモデルと、関連するパイコネ変換を中心に紹介する。	同上	長岡　亮介
10	ランダムウォークと拡散モデル	様々な現象に対する確率論的なモデルの基礎になるのがランダムウォークの概念である。ここでは、その概念と、それに関わる確率論の中心的な定理でもある中心極限定理と、拡散について説明する。	同上	同上
11	人口動態モデル	人口動態を初めてモデル化したのはマルサスである。ここでは、そのモデルの改良であるロジスティックモデルと害虫の大発生をモデル化したものを中心に、生態学における基礎的なモデルを説明する。	同上	丹羽　敏雄 長岡　亮介

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	ヴォルテラとメイの数理生態学モデル	数理生態学の出発点にもなった、ヴォルテラの捕食者－被捕食者モデルと競争モデル、および、離散的なモデルであるメイのモデルを中心に紹介する。後者はカオス理論の隆盛のきっかけとなった理論である。	同　上	同　上
13	チューリングモデル	「生命」は機械的プロセスとして理解可能かを問うたのがチューリングである。ここでは、そのチューリングモデルと、そこから発展した反応拡散モデルを中心に紹介する。後者は生物の体表模様など、より複雑な現象を数理化しようとする際の基礎となっている。	丹羽　敏雄 長岡　亮介	丹羽　敏雄 長岡　亮介
14	生命の形態と射影幾何学	巻貝の数学的な構造はよく知られているが、それを含み、卵の形も非常に厳密に、射影幾何学を通して理解することが可能であることをローレンス・エドワードは明らかにした。ここでは、こうした非常にユニークな幾何学的アプローチを紹介する。	同　上	同　上
15	数理モデルとコンピュータ	ここでは、最後のまとめとして、数理モデルの性格について考察を加えると共に、その解析に不可欠なコンピュータ使用にまつわる問題について考える。また、セル・オートマトンなど、これまで触れられなかった概念についても調べる。	同　上	同　上

＝　数学とコンピュータ（‘０６）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：岡本　久　（京都大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：長岡　亮介（放送大学教授）〕

全体のねらい

PC（パーソナル・コンピュータ）の能力は、つい一昔前の大型計算機の能力を超えるほど発展し、他方、価格の低下は限度を知らぬ勢いで進行し、それによって人々の間に爆発的に普及してきている。しかしこのようなPCの‘電子文房具’化や‘情報家電’化の進行とは逆に、“電子計算機の高速計算能力”が、十分に利用されなくなるという逆説も生まれている。

本講義は、身近になったPCの高速計算性能を活用することで拡がる数学の世界を入門的かつ包括的に講義するものである。

微積分と線型代数に関する基本的な知識を仮定して講義するが、その知識があやふやである諸君も本講義を通じて確実な理解へとつなげてもらえれば、と希っている。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	講義の概要と学生諸君の準備	本講義の趣旨と学習目標を、全体の講義を俯瞰する形で詳しく紹介し、あわせて講義の中で利用されるコンピュータソフトウエアについて、その入手方法や設定方法などについて簡単に紹介する。	長岡　亮介（放送大学教授）	長岡　亮介（放送大学教授） 平尾　淳一（大東文化大学教授）
2	ビジュアリゼーション(1) 可視化で見えること	グラフを描くことは数学的な理解の基本的手法の一つである。フリーのグラフ作成ツールGnuplotを利用して「正確なグラフ」を描くことで見えてくる様々な話題(重ね合わせ、極限値、曲線、軌跡、2変数の関数の性質）や、3Dのグラフの基本概念(等高線、濃淡グラフなど）について取り上げる。	平尾　淳一	長岡　亮介 平尾　淳一
3	ビジュアリゼーション(2) データの科学的処理	フィッティング(fitting）をはじめ、データの整理、統計分析において必須の可視化技法について、背景となる数学的な理論と実践的な利用法、限界について論ずる。	平尾　淳一	平尾　淳一
4	ビジュアリゼーション(3) 3Dグラフィクスとアニメーション	Ray Tracingやアニメーションを数学の立場から考える。	平尾　淳一	長岡　亮介 平尾　淳一

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	グラフィクスと数式の出版 TEX (1)	数学における文書作成の実際上の世界標準である TEX あるいは LATEX について、その基礎概念と基本的な利用法を紹介する。	奥村 晴彦(三重大学教授)	奥村 晴彦(三重大学教授) 長岡 亮介
6	グラフィクスと数式の出版 TEX (2)	LATEX を利用する上で必須の LATEX のマクロ機能の概念を実践的に理解し、さらに LATEX での表、図版の利用その他について述べる。	奥村 晴彦	奥村 晴彦
7	コンピュータ代数(1)	高機能な「コンピュータ代数システム」MuPAD を利用して煩雑な計算処理を要する数学の問題(微積分や線型代数の話題(級数展開、線型微分方程式行列のさまざまな計算) が簡単に処理できることを示す。	長岡 亮介	長岡 亮介
8	コンピュータ代数(2)	CAS の提供する高級言語を利用することで、プログラミングの効率があげられることを学ぶ。インターネット時代にますますその重要性を増している公開鍵式暗号への応用を視野におき、平方剰余など、初等整数論のやや進んだ話題を取り上げる。	長岡 亮介	長岡 亮介
9	プログラミングの基本概念	数学の複雑な計算を行うとき、プログラミングはしばしば不可欠である。BASIC, C ,C++, Perl, などいくつかのコンピュータ言語によるプログラミングの簡単で実際的な例を紹介する。図さえプログラム言語で表されることを Postscript 言語を例にとって学ぶ。	長岡 亮介	長岡 亮介 ゲスト: 渡辺 浩(日本医科大学准教授)
10	プログラミングの実際(1)	Java という近年話題のプログラミング言語を利用して、数学的な概念のインタラクティブな理解へのアプローチを試みる。	奥村 晴彦	奥村 晴彦 長岡 亮介
11	プログラミングの実際(2)	前回を踏まえて Java のより進んだ利用法を講ずる。	奥村 晴彦	奥村 晴彦 長岡 亮介

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	数値計算のサブルーチン(1)	科学や工学において実際に必要とされる問題を数値的に解くときには様々な小さい問題に分解し、それぞれを解いて最後にまとめ上げることをおこなう。ここで重要なのがサブルーティーン化の考え方である。たくさん存在する数値計算のサブルーティーンの中で、もっとも典型的な例として数値積分を取り上げる。具体的な言語を離れ、理論的な問題 — たとえば安直なアルゴリズムで計算をするとどれほどひどい失敗になるか — 例を使って説明する。	岡本　久 (京都大学教授)	岡本　久 (京都大学教授) 長岡　亮介
13	数値計算のサブルーチン(2)	前回に引き続き数値積分の具体例を考察する。特に精度を上げるためのさまざまな工夫について少し突っ込んだ議論を紹介する。そして、日本人によって発見され、「IMT 公式」や「DE 公式」の名で親しまれている高精度の数値積分アルゴリズムの数学的な原理のポイントとその実際をわかりやすく紹介する。	岡本　久	岡本　久 長岡　亮介
14	差分近似の数理	差分近似と呼ばれる微分方程式の数値解法はコンピュータ・シュミレーションでもっとも重要な分野であるが、「正しい近似解」を求めるのは意外に難しい。差分近似の方法とその問題について理解してもらうために、コンピュータの父と呼ばれているフォン・ノイマンが発見した“安定性” という概念を中心に、その重要性を具体例を使って示す。有限のコンピュータ資源のもとで、精度や安定性を向上させるための数学的な工夫についても紹介する。	岡本　久	岡本　久 長岡　亮介
15	数学研究にとってのコンピュータ	数学の研究においてコンピュータがどのように活用されているか、具体的な例を示す。	岡本　久	岡本　久 長岡　亮介 平尾　淳一 その他ゲスト

＝　統計学とその応用（‘０５）＝（Ｒ）

〔主任講師：　田栗　正章（千葉大学名誉教授）〕

全体のねらい

統計学における重要な理論・手法や、それらの現実問題への種々の応用例を学ぶことにより、統計的なものの考え方・推論方法を習得することをねらいとする。さらに実際の場においてデータが与えられたとき、知りたい情報を抽出するための統計的データ解析が行えるようになることを目標とする。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	統計学の概要	統計学を学ぶにあたって、まずその歴史を概観する。次に統計学の体系における標本抽出法、記述統計学、確率論、確率分布論、標本分布論、推測統計学等の位置付けについて、具体例に基づいて説明する。また統計の効用と限界等についても触れる。	田栗　正章（千葉大学名誉教授）	田栗　正章（千葉大学名誉教授）
2	標本データとその記述	まず、データの種類について説明する。次にデータから有効な情報を抽出するために用いられる、データ要約の方法である数値的記述法（標本平均，標本分散等）、および図的記述法（度数分布等）について解説する。さらに分類されたデータの具体的解析を行う。	同　上	同　上
3	データ解析の考え方	２次元データの解析例として、相関分析および単回帰分析について解説する。また、種々のデータ解析問題の例を与え、問題に応じた適切な統計モデルの設定、データの変換、はずれ値の除去等が必要であることを説明する。最後にデータ解析の手順をまとめる。	田栗　正章 汪　金芳（千葉大学准教授）	同　上
4	確率と確率分布	確率論について、確率の公理、加法定理、条件付き確率等について簡潔に説明した後、ベイズの定理とその応用例についての計算を行う。次に、離散型・連続型確率分布の一般論（確率密度関数、分布関数、期待値、積率母関数等）について解説する。	田栗　正章	同　上
5	主な確率分布とその応用	代表的な確率分布の例として、２項分布、ポアソン分布、超幾何分布、正規分布等を取り上げ、その性質と適用例（視聴率調査、抜き取り検査、偏差値の計算等）について解説する。また２項分布の正規近似や、中心極限定理を用いた正規乱数の生成法等についても説明を行う。	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
6	母集団からの標本抽出	まず、統計量の例やその標本分布の概念について解説する。次に正規母集団からの標本抽出を考え、代表的な統計量である標本平均や標本分散の分布、２つの標本分散の比の分布として、カイ２乗分布、t分布、F分布が導出されることを説明する。	田栗　正章	田栗　正章
7	点推定論	まず点推定量の構成方法を考え、モーメント法と最尤法について説明する。次に点推定量の良さについて考え、平均２乗誤差、不偏性、有効性、一致性、十分性等について解説を行う。フィッシャー情報量や種々の重要な定理についても触れる。	同　上	同　上
8	区間推定論	まず、ピボッタル量とその分布から区間推定を行う一般的方法について説明する。次に具体的な信頼区間の構成法の例として、母分散が既知／未知の場合の母平均の推定、母集団割合の推定、母分散の推定、平均と分散の同時推定、相関係数の推定について解説する。	同　上	同　上
9	仮説検定論	仮説検定の考え方と用語の定義を与えた後、最強力検定や尤度比検定等の一般的方法について解説する。次に具体的な検定の例として、母分散が既知／未知の場合の母平均の検定、母分散の検定、２つの平均の差の検定、２つの分散の比の検定等について説明を行う。	同　上	同　上
10	ノンパラメトリック検定法	分布形に依存しない検定の例として、分割表に関連する適合度検定、独立性の検定について説明する。また、位置の検定や散らばりの検定、２つの分布関数の同等性の検定についても解説を行い、分布のあてはめ問題への適用例を与える。	同　上	同　上
11	生存時間解析	生存時間（寿命）データの解析の問題を取り上げ、生存関数の確率モデル、ハザード関数、生存関数の推定法等について、種々の実際例を用いて説明を行う。また、コックスの比例ハザードモデル等についても解説する。	田栗　正章 汪　金芳	同　上
12	主成分分析	各種の多変量解析に際して必要となる、多次元データを把握する１つの方法として、主成分分析を取り上げる。主成分の推定方法、主成分や寄与率の意味等について、実際例を用いて説明を行う。またそれらの幾何学的解釈についても解説する。	田栗　正章	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
13	重回帰分析	最もよく使われるデータ解析の手法である重回帰分析を取り上げ、そのモデルや仮定について解説する。次に回帰係数の推定や検定、回帰の有意性の検定等の方法について、実際例を用いて説明を行う。またそれらの幾何学的解釈についても解説する。	同上	田栗　正章
14	判別分析	与えられたデータから、いくつかの群を判別する手法である判別分析を取り上げ、そのモデルや仮定について解説する。次に線形判別関数や2次の判別関数、判別関数の推定や検定の方法、誤判別率の推定等について、実際例を用いて説明を行う。	同上	同上
15	計算統計学	代表的な計算機指向型手法として、ブートストラップ法を取り上げる。ブートストラップ法による分散や偏りの推定、各種の信頼区間の構成や検定等のアルゴリズムについて、実際例を用いて説明を行う。またそれらの理論的裏付けについても簡単に解説する。	田栗　正章 汪　金芳	同上

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	専門科目	科目コード	1560204	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 現代物理 （’０８）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：生井澤　寛（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：吉岡　大二郎（東京大学大学院教授）〕

講義概要

現代物理は、物理に限らず生命や脳の働き、宇宙の進化など広い範囲で豊な自然観をもたらすだけでなく、技術・産業開発の基礎をなしている。ここではまず、力学、電磁気学、熱統計力学などの古典物理学を、現代物理の理解につながるように復習する。そして、現代物理の柱の一つである相対性理論に進み、時・空、エネルギー・運動量と電磁場の変換性を理解する。つづいて、もうひとつの柱である量子力学が、古典物理と矛盾する現象をどう克服して導かれたかを見ながら、量子の論理に焦点を当てて基礎的理解を深める。この理解のもとに、多様な物質の構造や振る舞いを解きほぐし、新しい物質の開発やナノメートルの世界を切り拓く論理を獲得するとともに、マクロな世界の相転移現象を支配した対称性の自発的破れが、素粒子の世界をも支配する論理であることを示して、現代の自然観の基礎を提示する。最後に、大きな世界へ目を転じて、宇宙を支配する重力と一般相対性理論について学ぶ。これらの世界にはまだまだ未解決の問題がたくさんある。それらの解決を目指して、研究が日々続けられているが、この講義を取る皆さんの中から、新しい道を見いだす人が出ること期待したい。

授業の目標

現代物理の理解を通して、これまでに得られた自然観を展望し、ミクロな世界から宇宙とその起源や元素の起源の理解をうるとともに、これから拓かれる新物質や新技術の開発への基礎を提示する。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	古典物理学のおさらいⅠ	古典物理学の2本の柱である力学と電磁気学を、復習をかねて、現代物理学を理解するために有効な形式に書き換える。これらは、量子力学と相対性理論を理解するための準備となる。また、光が、電磁波の仲間であり、真空中を伝わる波であることを見る。 【キーワード】 運動方程式、エネルギー・運動量・角運動量保存則、最小作用の原理、解析力学、電場・磁場、マックスウエル方程式、電磁波、エネルギー・運動量テンソル	生井澤　寛（放送大学教授）	生井澤　寛（放送大学教授）
2	古典物理学のおさらいⅡ	物質の姿＝相の理解には、温度と熱の理解が基礎となる。そして、物質は多数の原子・分子から出来ているから、統計的な理解が要る。そこで、熱の物理学と、統計力学を復習し物質の構造と性質を理解するための準備としよう。この際対称性の自発的破れという考え方が後の理解にも不可欠となる。さらに、場と波の理解は量子力学に欠かせないから、振動・波動の復習をしよう。 【キーワード】 温度、熱、比熱、熱力学基本法則、相、相転移、対称性の自発的破れ、統計力学、振動・波動、固有モード、フーリエ分解	生井澤　寛（放送大学教授）	生井澤　寛（放送大学教授）
3	真空と光：特殊相対性理論	相対論は、真空中の光速が、観測者の座標系の運動によらないという発見から始まり、古典物理の世界では互いに独立と考えられていた時間と空間が、互いに離れがたい関係にあることを示し、現代物理の柱のひとつとなった。光は媒質無しで真空中を伝わるが、ドップラー効果を示すことも相対論から示され、宇宙の構造や誕生の謎に強力な手がかりを与えた。 【キーワード】 ガリレイ相対性、慣性系、光速不変、ローレンツ変換、特殊相対性、エネルギー・運動量と電磁場の変換性、ドップラー効果、赤方偏移	生井澤　寛（放送大学教授）	生井澤　寛（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	深まる謎:古典物理学の限界	20世紀の変わり目に、電子や放射能の発見とともに、古典物理学で理解できない謎が相次いで出てきた。太陽や原子からの光が、とびとびである謎。熱放射の強さが、温度上昇とともに振動数の高い方に(赤から青へ)移る謎。絶対零度に近づくと、比熱がゼロになる謎。金属に光を当てると、光の強さによらず振動数が大きいときだけ電子が飛び出す謎。これらが古典物理とどう矛盾するかを見て行こう。 【キーワード】 電子、とびとびの光、低温比熱、温度と色、光電効果、放射能、原子核、原子の構造、電子の電荷	生井澤 寛(放送大学教授)	生井澤 寛(放送大学教授)
5	謎を解く手がかり:エネルギーの量子化	前講の謎は、熱放射の謎を解いたプランクによるエネルギーの量子の考え(光のエネルギーは連続でなく、とびとびとなる)により、光電効果(アインシュタイン)、低温比熱についても解けることを見よう。とびとびの光の謎も、原子にエネルギー量子の考えを当てはめると解決する(ボーア)。さらに、電子に角運動量とスピンという自由度を導入し、量子化すれば、原子の規則性を表す周期表も理解でき、磁石の起源もわかる。 【キーワード】 熱放射のスペクトル、プランクの放射式、エネルギー量子、光(量)子、定常状態、対応原理、ボーアの原子模型、スピン、周期表、磁石の起源	生井澤 寛(放送大学教授)	生井澤 寛(放送大学教授)
6	ミクロの論理:量子力学	謎の鍵が量子にあることを見た。では、量子として振る舞う光や電子はどういう論理に従うか。この基本的な謎を解くふたつの流れを見て行こう。ひとつは、物理量を、状態間を結ぶ行列として扱う(ハイゼンベルグ)。もうひとつは、光だけでなく電子も波のような存在と考え、すべての量子的存在を、波動関数として扱う(シュレーディンガー)。これらは同等であるだけでなく、量子力学という体系としてミクロの世界の基本論理をなすことを見る。さらに、物質のミクロな性質を理解するために、第2講で学んだ統計力学を量子の世界に拡張しよう。 【キーワード】 状態の遷移、行列力学、交換関係、正準量子化、固有状態、ドブロイ波、電子の波動性、波動方程式、確率振幅、不確定性関係、量子統計、フェルミ統計、ボース統計	生井澤 寛(放送大学教授)	生井澤 寛(放送大学教授)
7	固体の結晶構造と電子状態	固体には良く電流を流す導体即ち金属と、電流を流さない絶縁体がある。この違いはどこから来るのだろうか?この違いの理解には、固体中の電子がどう振る舞うかを量子力学を用いて調べなければならない。固体では原子が規則正しく並んで、結晶構造を作っている。この周期的な構造中での電子状態はエネルギーバンドという概念で理解され、これによって、導体である金属と絶縁体の違いが明らかになることを見よう。 【キーワード】 固体、導体、絶縁体、結晶構造、トンネリング、ブロッホの定理、フェルミ面、エネルギーバンド、伝導帯、価電子帯、ギャップ	吉岡 大二郎(東京大学大学院教授)	吉岡 大二郎(東京大学大学院教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
8	半導体：現代文明を支える石器	金属と絶縁体の中間の性質を示す半導体は、電子回路の素子として現代の生活を根底から支えている。半導体の電子構造を明らかにし、それによって半導体素子がどういう動作・特性を示すかを理解し、ダイオードがどのように電流を整流するか、トランジスターがどのように増幅作用をするかを見て行く。さらに、高密度集積回路においては2次元的な電子系が用いられ、そこでは量子ホール効果といわれる現象が観測されることを見る。これらの理解から、新しい素子や回路の開発も可能となる。 【キーワード】 半導体、不純物準位、正孔(ホール)、ドーピング,n型、p型、ダイオード、トランジスター、LSI、2次元電子系、量子ホール効果	吉岡　大二郎（東京大学大学院教授）	吉岡　大二郎（東京大学大学院教授）
9	磁性：永久磁石が解き明かす相互作用の効果	ビデオテープやハードディスクで情報を記録するのは、微小な磁石であり、ほかにも磁石の応用は広い。磁石の起源は電子にあることを見たが、量子力学により、まずなぜ原子に磁気モーメントが生ずるかを見て、次に結晶中で、それらがどの様に相互作用するのかをさぐると、原子間の磁気モーメントの方向をそろえようとする力が生ずることがわかる。全体の磁気モーメントが揃って永久磁石が出来るのである。温度が上がってこの相互作用のエネルギーを越すと、磁性が消えることも見る。 【キーワード】 磁石、電子スピン、交換相互作用、原子の磁気モーメント、磁気相互作用、強磁性、常磁性、キュリー温度、磁気相転移	吉岡　大二郎（東京大学大学院教授）	吉岡　大二郎（東京大学大学院教授）
10	相転移	前項で見た温度による永久磁石の性質の消滅は、第2講で見た相転移の一例である。ここでは、相転移にはどの様なものがあるかを詳しく見て行く。第1種と第2種の相転移について説明し、統計力学による理解を目指す。第2種の相転移では秩序変数という概念が重要であること、また、自発的な対称性の破れという概念について説明する。 【キーワード】 相転移、相図、第1種相転移、潜熱、第2種相転移、秩序変数、自発的な対称性の破れ、	吉岡　大二郎（東京大学大学院教授）	吉岡　大二郎（東京大学大学院教授）
11	超流動：凍らない液体の示す奇妙な現象	水などの普通の液体は冷やすことにより固化する。それは典型的な第一種の相転移である。ところが、ヘリウムの場合には普通の圧力下ではいくら冷やしても凍らない。それどころではなく、超流動という奇妙な液体になる。超流体は粘性のない流体であるが、それ以外にもおもしろい性質を示す。超流体が示す現象を見てそれがどの様に説明されるかを見てゆこう。 【キーワード】 液体ヘリウム、超流動、噴水効果、壁を登るヘリウム、ボースアインシュタイン凝縮、巨視的量子効果	吉岡　大二郎（東京大学大学院教授）	吉岡　大二郎（東京大学大学院教授）
12	超伝導	温度を下げてゆくと、電気抵抗が突然消失するものを超伝導体という。超伝導は超流動とともに20世紀初頭に発見されたが、その理論的解明には半世紀を要した。超伝導体は電気抵抗を示さないだけでなく、磁場を排除するマイスナー効果と呼ばれる性質を持つ。超伝導体による磁束の量子化、ジョセフソン効果、SQUID等について見て行き、これらの現象をもたらす電子状態がどの様なものであるかを解明する。 【キーワード】 超伝導体、マイスナー効果、完全反磁性、磁束の量子化、ジョセフソン効果、SQUID、クーパー対、フォノン	吉岡　大二郎（東京大学大学院教授）	吉岡　大二郎（東京大学大学院教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
13	メゾスコピック系:日常の世界と量子の世界をつなぐもの	日常手にする物質はアボガドロ数程度のマクロな数の粒子からなり、古典物理が主役をなす。一方、量子力学が支配するミクロな世界で扱うのは少数個の原子・分子である。この中間の世界(メゾスコピック世界)を支配するのはどういう論理だろう。そこでは、人工的に作った構造を用いて実験が行われ、原子分子より遥かに大きな系での量子効果やサイズ効果などが見える。ナノテクノロジーの舞台でもあるこの世界を探検しよう。 【キーワード】 メゾスコピック系、サイズ効果、ナノテクノロジー、人工原子、粒子性と波動性	吉岡　大二郎(東京大学大学院教授)	吉岡　大二郎(東京大学大学院教授)
14	ミクロの世界は何で出来ているか	量子力学により、電子が原子核に束縛されて、原子や分子を作ることを見た。では、原子核は何で出来ているか。そして、この世界の究極の構成要素は何であり、どうやって、この世界が出来るのかを見て行こう。この際に、場の考えと物性物理学で学んだ対称性の自発的破れという考えが重要となることを見るだろう。素粒子の研究は、まだ多くの謎に包まれている。それらの解決がこれからの物理の大きな課題でもある。 【キーワード】 原子核、素粒子、クォーク、レプトン、ゲージ粒子、基本相互作用、保存量、対称性の自発的破れ、大統一理論	生井澤　寛(放送大学教授)	生井澤　寛(放送大学教授)
15	時空が歪む:一般相対性理論	慣性系の間の基本法則の不変性は、特殊相対性理論で扱った。では、加速度運動する系の間での相対性はどうなるか。この疑問は一般相対性理論で解かれる(アインシュタイン)。加速度系の質量には力が働き、重力が作用したと考えることもできる。逆に重力場を、加速度の場で置き換えることもできる。重力場によって時間と空間が変化し座標軸が曲線となるのである。ここでは、一般相対性理論についてざっと見て行き、宇宙の中に現れるその効果に触れよう。最後にまとめとして、自然における階層性を、これまでに得た現代物理学のいくつかの切り口で眺める。 【キーワード】 慣性質量、重力質量、等価原理、重力場、曲がった空間、重力場方程式、重力波、ブラックホール、ハッブルの法則、宇宙の進化	生井澤　寛(放送大学教授)	生井澤　寛(放送大学教授)

＝　運動と力（‘０５）＝（TV）

〔主任講師：兵頭俊夫（東京大学教授）〕

全体のねらい

物体の運動と力の関係をニュートンの３法則に従って解析する方法を学び，それを身近な力学現象の理解に応用する。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	力のつりあい	・力とベクトル ・２力のつりあい ・３力のつりあい ・ベクトルのスカラー積 ・座標 ・地表付近の重力と万有引力	兵頭　俊夫（東京大学教授）	兵頭　俊夫（東京大学教授）
2	運動の法則	・ニュートンの３法則 ・微分 ・速度と加速度 ・近似式 ・積分 ・定積分と不定積分 ・ニュートンの第１法則，第２法則と慣性系 ・慣性質量 ・等速度運動 ・等加速度運動	同　上	同　上
3	放物運動	・重力質量と慣性質量 ・地表付近での物体の運動 ・重力とつりあう力を加えたときの運動 ・物理量の次元 ・物理量の単位	同　上	同　上
4	種々の力と運動	・弾性力 ・束縛力（張力・抗力） ・摩擦力 ・流体中を運動する物体が受ける力 ・単振動 ・作用と反作用	同　上	同　上
5	運動量と力積，運動エネルギーと仕事	・運動量 ・力積 ・仕事 ・合力がする仕事と一部の力がする仕事 ・運動エネルギー ・運動エネルギーと運動量	同　上	同　上
6	保存力とポテンシャル・エネルギー	・重力場 ・保存力 ・ポテンシャル・エネルギー（位置エネルギー） ・保存力の例 ・力学的エネルギー保存の法則 ・保存力以外の力がある場合 ・保存力とポテンシャル・エネルギーの微分関係 ・万有引力のポテンシャル・エネルギー	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
7	極座標による運動の記述	・角の単位ラジアン ・2次元極座標 ・等速円運動 ・2次元ベクトルの極座標成分 ・単振り子	兵頭　俊夫	兵頭　俊夫
8	角運動量	・ベクトルの外積（ベクトル積） ・角運動量 ・中心力と面積速度一定の法則 ・力のモーメントのつりあい ・てこの原理	同　上	同　上
9	座標系の相対運動	・座標系とその相対運動 ・慣性系に対して等速直線運動をしている座標系 ・運動の軌跡 ・慣性系に対して加速度運動をする座標系 ・慣性力 ・重力の不思議 ・角速度を表すベクトルとベクトルの回転 ・慣性系に対して回転している座標系 ・遠心力 ・コリオリ力 ・日常語の遠心力	同　上	同　上
10	2体の相互作用	・内力相互作用 ・全質量と質量中心 ・換算質量と相対位置ベクトル ・バネで互いにつながれたおもりの運動 ・衝突 ・実験室系と重心系 ・2個のコインの衝突 ・2個のコインの衝突の解析	同　上	同　上
11	質点系の運動	・質点系に対する運動方程式 ・質量中心 ・質点系の全運動量 ・質点系の全角運動量 ・質量中心のまわりの角運動量の和 ・質量中心のまわりの重力のモーメント ・質点系の全運動エネルギー	同　上	同　上
12	剛体の運動	・剛体の密度と質量 ・連続体剛体の扱い方 ・剛体の運動の自由度と運動方程式 ・剛体のつりあい ・偶力のモーメント ・固定軸を持つ剛体の運動	同　上	同　上
13	剛体の慣性モーメント	・密度と質量 ・慣性モーメントに関する定理 ・対称軸のまわりの慣性モーメントの例 ・対称軸に平行な軸のまわりの慣性モーメントの例	同　上	同　上
14	物体の運動の例	・実体振り子 ・メトロノーム ・打撃中心 ・斜面を転がる円柱（円筒）の運動	同　上	同　上
15	さまざまな運動	・基本となる方程式 ・静止している物体 ・バットを振る ・重力だけを受けるときの運動 ・回転体の運動 ・身体の運動	同　上	同　上

＝　光と電磁場（‘０５）＝（TV）

〔主任講師：中山　正敏（九州大学名誉教授）〕
〔主任講師：櫻井　捷海（東京大学名誉教授）〕

全体のねらい

現代文明は、光、電波、電流、磁気などによって支えられている。光は実は電気と磁気の波、すなわち電磁波の一種である。本講義では、光や電磁気現象を電場と磁場という２種類の場と、その基本法則によって理解することを目指す。身近な例から出発して電磁場のイメージを作り、さまざまな現象や応用例を体系的に説明する。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	現代社会と電磁気学	現代の豊かな高度情報化社会は、電磁気学と物性物理学の成果である電機技術・電子技術・コンピューター技術の上に成り立っている、と言っても過言ではないであろう。動力・輸送機関と情報・通信の発達史の視点から電磁気学の歴史をひも解いてみよう。この章では、電磁力、電気エネルギー、電波、光がわれわれの生活を支えていることを学ぶ。	櫻井　捷海（東京大学名誉教授）	櫻井　捷海（東京大学名誉教授）
2	波の性質	光や電波などを波として捉える準備として、波の一般的な性質を学ぶ。水面波を例として、波と振動の関係、位相、正弦波を説明する。波の重ね合わせの原理、干渉、回折格子について述べる。波の伝播についてのホイヘンスの原理を紹介する。	中山　正敏（九州大学名誉教授）	中山　正敏（九州大学名誉教授）
3	光の波	ＣＤが色づいて見えることから、光が波であることを理解する。回折格子により、光の色と波長の関係を知る。光の伝播について、光線の意味を知り、光線の直進、反射、屈折の諸法則をホイヘンスの原理によって説明する。レンズの原理と簡単な応用について述べる。	同　上	同　上
4	電波と光	はじめに電気振動を持続的に発生させる発振器について考える。アンテナを流れる振動電流からどのように電波が放射されるかについて定性的に説明する。原子のエネルギー準位ついて簡単に説明した後、原子からの発光やレーザーについても初歩的な説明を行う。	櫻井　捷海	櫻井　捷海
5	電荷と電場	静電気現象の基本概念を説明する。電荷間のクーロン力と、それを媒介する電場について述べる。電場を電気力線で表わし、それがガウスの法則にしたがうことを示す。ガウスの法則から、対称性のよい場合の電場を計算する。	中山　正敏	波田野　彰（神奈川大学教授）
6	電位と電気エネルギー	静電気現象を、エネルギーの観点から考える。電気力のなす仕事は、電位を用いて表わされる。電位と電場の関係を説明する。応用として、導体の静電誘導、コンデンサーについて述べる。静電気エネルギーが、電場によって担われていることを示す。	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
7	誘電体と電場	不導体である誘電体と電気現象の関係を述べる。微視的な電気双極子の集まりによる巨視的な電場が、分極電荷を用いて表わされることを説明する。電気分極の場、電束密度の場を導入し、それを用いて誘電体がある場合のガウスの法則を表わす。	中山　正敏	波田野　彰
8	電流	電流は電荷粒子の流れであることを説明する。オームの法則について述べる。ジュール熱、電池の起電力を、エネルギーの転換過程として説明する。空間に分布している電流を、電流密度の場で表わす。電荷の保存則から、電流密度の場の形が決まる場合があることを示す。	同　上	同　上
9	磁石と磁場	磁石による静磁気現象について述べる。磁石は単独の磁荷に分けられず、磁気双極子が要素となる。磁気のクーロンの法則、ガウスの法則が成立ち、誘電体の場合と平行した記述ができる。磁束線は源を持たず、閉曲線としてのみ存在することを示す。	同　上	同　上
10	電流と磁場	運動している荷電粒子は磁場から力（ローレンツの磁気力）を受けることから電流に働く力を導く。磁気力を用いた機械・器機について説明する。電流と磁場とを結ぶ「ビオ・サバールの法則」、「アンペールの法則」を導く。	櫻井　捷海	櫻井　捷海
11	電磁誘導	コイルを貫く磁束が時間的に変化すると、電磁誘導によりコイルに起電力が生ずる。このファラデーの電磁誘導の法則を数学的に表現する。電磁誘導を用いた器機・機械について説明する。コイルの自己インダクタンス、コイル流れる電流が蓄えるエネルギーや磁場のエネルギーについても触れる。	同　上	同　上
12	ベクトル解析と静電磁場の法則の微分形	はじめにベクトル解析について説明する。これまでに電磁場の法則を積分形式で説明してきた。同じ法則を各点での場の微分量の関係として記述できると、接近作用の立場からより理解が深まる。手始めとして、静電磁場の場合を考える。	同　上	同　上
13	マクスウェル方程式の導出	ポアソン方程式を解く。また、ベクトルポテンシャルを導入し、それについて考えてみる。変位電流の導入により拡張されたアンペールの法則の微分形式を説明し、これまで述べてきた電磁場の法則をマクスウェル方程式としてまとめる。	同　上	同　上
14	マクスウェル方程式と電磁場	波が伝わる様を記述した波動方程式について調べたあとで、マクスウェル方程式から電磁波の波動方程式を導く。導かれた波動方程式を解くとき必要な境界条件や電磁波の反射、屈折などにも触れる。	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
15	電磁波の発生と検出	電磁場のエネルギーの流れを表すポインティングベクトルを導入する。時間変化のある電流や電荷が波源となって電磁場が発生・伝搬することをマクスウェル方程式から波源のある波動方程式とその遅延ポテンシャルの解を導き出すことによって示す。電磁波の伝搬やケーブル中の電気信号の伝搬についても考える。	櫻井　捷海	櫻井　捷海

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	専門科目	科目コード	1560301	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 熱と温度 （’08）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：齋藤 一弥（筑波大学大学院教授）〕

〔主任講師（現職名）：堂寺 知成（京都大学大学院准教授）〕

講義概要

私たちの暮しの中で，熱を仕事に変える機械としてのエンジンを利用し，温度をコントロールするためにエアコンや冷蔵庫を利用している．また，環境問題や地球温暖化の問題で，熱と温度はキーワードである．この講義は，このような熱と温度の本性をミクロとマクロの立場から理解することを目的としている．

授業の目標

共通科目程度の準備を終えた学生のための統計力学と熱力学の入門講義を行う．物理と化学の両分野にわたるので，両分野にバランスのとれた内容になっている．身近な現象をとりあげたり，簡単な実験，シミュレーションなどを取り入れ，多様なバックグラウンドを持つ学生にも理解しやすい講義を目標としている．より進んだ物質科学．工学，情報科学，環境科学などの学習に必須の基礎教養を与える．

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	熱と温度	熱と温度という言葉は日常的にもよく使われるが，サイエンスの立場からそれらの概念を正確にとらえる必要がある．熱現象をミクロから説明する立場と，マクロな現象としてとらえる2つの立場の関連を理解する．さらに温度測定について詳しく学ぶ． 【キーワード】 熱，温度、ミクロ、マクロ	齋藤一弥（筑波大学大学院教授） 堂寺 知成（京都大学大学院准教授）	齋藤一弥（筑波大学大学院教授） 堂寺 知成（京都大学大学院准教授）
2	分子の熱運動	箱の中の気体はマクロには静止していても，ミクロには分子は絶え間なく運動している．それを分子の熱運動という．この章では，分子の熱運動の証拠であるブラウン運動と，分子の熱運動と温度の関係を学び，あなたが呼吸している酸素分子の速度を計算する． 【キーワード】 分子運動論、ブラウン運動	堂寺 知成（京都大学大学院准教授）	堂寺 知成（京都大学大学院准教授）
3	マクスウェルの速度分布	マクロな体系に含まれる分子は多数あり，それら全ての運動状態を把握することは不可能である．しかし，いかなる運動状態がどれほどあるかという統計集団として情報は知ることができる．分子運動が無秩序であることによって，かえって単純な統計法則が浮かび上がってくる．このことをシミュレーションによっても確かめる． 【キーワード】 マクスウェルの速度分布、確率分布	同上	同上
4	統計力学の考え方	多数の粒子から成る体系の熱的な性質をミクロな粒子の力学法則から出発して理解する統計力学の基本的な考え方を学ぶ．エルゴード仮説に基づき，エネルギー配分の確率について学習する．理解のために手作りボルツマン分布の実験を行う． 【キーワード】 統計力学、ボルツマン分布	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	マクスウェルーボルツマン分布と応用	前章で導いた統計力学の基本法則に基づいて，いくつかの系の統計力学的な性質を調べる．個々の粒子が2つのエネルギー値だけをとる2準位系，多数の調和振動子から成る系などを取り上げ，それらの系の温度を上げるのに必要な熱量である比熱を計算する． 【キーワード】 2準位系、調和振動子、比熱	堂寺 知成 (京都大学大学院准教授)	堂寺 知成 (京都大学大学院准教授)
6	相転移	水が固体，液体，気体の三態をとるような状態の変化を相転移という．統計力学的には相転移を多数のミクロな粒子の相互作用がもたらす協力現象として理解できる．具体的には，磁性の相転移を調べるイジング模型とよばれる模型を学び，シミュレーションを使って理解を深める． 【キーワード】 相転移，イジング模型	同上	同上
7	量子統計	電子や陽子などの同種の素粒子の集りを量子力学で考える場合には，粒子が区別できないことによる素粒子の統計性を考慮する必要がある．波動関数の対称性からボース粒子とフェルミ粒子に区別され，ボーズ分布とフェルミ分布という全く異なる分布が生ずる．具体例として，理想フェルミ気体の自由電子模型を学ぶ． 【キーワード】 量子統計，ボーズ分布，フェルミ分布	同上	同上
8	熱力学の法則	多数の粒子から成る系(巨視的系)の振る舞いは熱力学という現象論で整理できる．前章までで統計力学的に導いた性質を熱力学の法則としてまとめ，化学的な問題へ応用する準備を行う． 【キーワード】 熱力学，第1法則，第2法則	齋藤 一弥 (筑波大学大学院教授)	齋藤 一弥 (筑波大学大学院教授)
9	熱力学平衡の条件と変化の向き	状態を指定して長時間待つと，巨視的系はやがて変化の無い平衡状態に到達する．温度と圧力を指定した状態ではギブズエネルギーという熱力学量が最小になっている．これを理解することは，化学的な問題に熱力学を応用する上でのキーポイントである． 【キーワード】 ギブズエネルギー	同上	同上
10	物質の三態と相平衡	水は1気圧において固体，液体，気体の三態をとるが，二酸化炭素は気体と固体しかとらない．ギブズエネルギー最小の原理に基づいて純物質の相図(相安定図)を考え，様々な物質の性質の違いを理解する． 【キーワード】 相図	同上	同上
11	化学ポテンシャルと混合物のギブズエネルギー	混合物の平衡状態を議論するために，混合物中で各成分が持つモルあたりのギブズエネルギーである化学ポテンシャルについて学ぶ．混合物が平衡に共存するための条件を理解する． 【キーワード】 化学ポテンシャル，相律	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	溶液の性質	溶液について化学ポテンシャルを決める方法について学ぶ. このようにして決めた化学ポテンシャルを用いると, 溶液の示す凝固点降下, 沸点上昇, 蒸気圧降下, 浸透圧などの性質は前章で学んだ混合物の平衡の条件から説明できる. 【キーワード】 理想溶液, 束一的性質	齋藤 一弥(筑波大学大学院教授)	齋藤 一弥(筑波大学大学院教授)
13	化学反応への応用1:反応熱	化学反応に熱力学を応用するには, 物質が反応で変化した場合でも意味のある「基準の状態」を決めなければならない. これを決めれば化学反応に伴う熱の出入りを. 実際に実験することなく計算することができる. コンピュータの発達の意義についても考える. 【キーワード】 熱化学, 熱力学データベース	同上	同上
14	化学反応への応用2:化学平衡	ギブズエネルギー最小という平衡の条件を利用すると,「反応が進んだらどれだけ発熱するか」にとどまらず,「反応がどれだけ進むか」を予測することができる.「質量作用の法則」が混合系の化学ポテンシャルから導かれることを学ぶ. 【キーワード】 化学平衡, 平衡定数	同上	同上
15	熱伝導	断熱材の有無で冷暖房費が大きく異なり, 寒冷地などでは衣服の耐寒性が問題となってくる. このように熱伝導の問題は生活に関わりが深い. この章では, 環境問題を例としながら, 熱伝導, 対流, 放射など熱の伝わる仕組みと法則を学ぶ. 【キーワード】 熱伝導, 対流, 放射	堂寺 知成(京都大学大学院准教授)	堂寺 知成(京都大学大学院准教授)

＝　量子力学（‘０５）＝（TV）

〔主任講師：　市村　宗武（法政大学教授）〕
〔主任講師：　大西　直毅（東京国際大学教授）〕

全体のねらい

量子力学は自然現象や物質の性質・機能の理解，ナノテクノロジーの開発などに必須のものになった。量子力学はミクロの世界を司る法則で現代原子論の解明と相俟って確立された。光や電子が波動性と粒子性を兼ね備えた二重性をもつことが明らかとなり，それを統一的に記述する量子力学が完成された。完成に到る歴史を辿りながら，古典物理学にない量子力学の考え方を学んでいく。また，量子力学の数学的な枠組みの理解を基本的な問題を解きながら深めていく。さらに，原子より下の階層の原子核や素粒子についても学び現代物質観に迫る。なお、この講義を学ぶにあたっては、大学初年度級程度の物理学（古典力学、電磁気学など）と数学（微分、積分、線型代数など）を学んでいることが望ましい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	量子論は光から	ホイヘンスの光の波動説に対しニュートンは粒子説を唱えたが，19世紀初頭波動説が復活した。電気と磁気が統一的に理解され，光の電磁波説が提唱され，実験的にも確認された。光と波動の基本的な性質を学ぶとともに，平面波をもとに，電磁気学の基本方程式や波動方程式の解の性質を理解する。	大西　直毅（東京国際大学教授）	大西　直毅（東京国際大学教授）
2	量子の登場	輝線が暗線に反転する現象から熱放射に関する定理が示され，キルヒホッフの宿題がだされた。それにプランクが答え，作用量子の概念を提案したことによって量子論が生まれた。光電効果が光量子の概念で説明され，光は粒子性の片鱗を覗かせた。固体の比熱に量子効果が重要であることを学ぶ。	大西　直毅	大西　直毅
3	原子の構造がわかった	既知の元素の数が増え周期表が提唱された。陰極線の電荷と質量の比が測定され電子の存在と性質が明らかになった。輝線は原子からのメッセージで，電子がその主役を演じている。アルファ線の散乱実験から原子の中心に原子核が発見された。多くの研究結果をもとに原子の構造が明らかとなった。	大西　直毅	大西　直毅
4	量子力学への端緒	ボーアは定常状態と振動数条件を導入し水素原子のスペクトルを説明した。古典的量子化条件が定式化されたが，多くの実験と齟齬をきたした。遷移確率の考察と対応原理が橋渡しとなり，ハイゼンベルグは新しい力学を提案し，行列力学が定式化された。そこでは物理量の掛け算に交換則が成立たない。	大西　直毅	大西　直毅

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	光が粒子・電子も波動	コンプトンの実験で光の粒子性は確実なものになり，光が二重性をもつように電子もまた波動性を持つことが提唱された。この考えを基に電子の波動方程式（シュレーディンガー方程式）が導かれた。光や電子の二重性は因果律に反する確率解釈をもたらし，学会を賛否両論で二分した。	大西 直毅	大西 直毅
6	量子力学へ到達	量子状態をベクトルとし座標や運動量などの物理量がベクトルを変える演算子と考え，行列力学と波動力学を統一的に記述する数学的な枠組みを学ぶ。直交性定理，可換性と同時対角化可能定理など，量子力学の基本を紹介する。シュレーディンガーの描像とハイゼンベルグの描像の関係を紹介する。	大西 直毅	大西 直毅
7	粒子の不思議な振舞い	基本的な調和振動の問題を交換関係を使って代数的に状態を求め，その後波動関数を求める。井戸型ポテンシャルの問題を波動方程式を解いて束縛状態を求める。散乱状態の取扱いからトンネル効果を考え，アルファ線崩壊による放射性元素の寿命とエネルギーについて理解する。	大西 直毅	大西 直毅
8	粒子の波動像と不確定性原理	電子など通常は粒子ととらえているものを、量子力学では確率の波で表現する。この古典的粒子像が波動における波束の概念で理解されることを説明する。この見方から不確定性原理を理解するとともに、演算子の交換関係に基づく量子力学の理論の枠組みからも不確定性関係を一般的に導く。	市村　宗武（法政大学情報科学部教授）	市村　宗武（法政大学情報科学部教授）
9	３次元問題と角運動量	現実の問題の多くは３次元の問題であり、クーロン力のように力が球対称な場合(中心力)が特に重要である。このとき角運動量が保存し、極座標を用いると波動関数が半径部分と角度部分に分離できて解法が容易となる。角度部分の波動関数を求めることから“空間の量子化”の意味を理解する。こうした中心力の問題の解法の一般論を学ぶ。	市村　宗武	市村　宗武
10	水素原子	ボーア模型は水素原子の示す諸性質を見事に説明したが、ここでシュレーディンガー方程式から出発して第９章の方法を用いて水素原子の問題を解く。エネルギー準位と波動関数を求め、ボーア模型の成功の背景と問題点を明らかにするとともに、量子力学の立場から水素原子の構造を理解する。	市村　宗武	市村　宗武
11	スピンおよび多粒子系	静止した電子でもスピンという自転に擬せられる半整数の角運動量を持ち、磁石になっている。このような古典力学には現れない自由度の概念を学ぶ。ついで、複数の同じ種類の粒子は互いに区別できず、相互の置き換えに対して波動関数が符号を変えるか変えないかという“統計性”を持つことを学ぶ。これは排他原理を導き周期表の説明などに重要な役割を果たす。	市村　宗武	市村　宗武

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	原子と分子の構造	幾つか(多数)の粒子のなす系の取扱いの基本例として、まず２電子を持つヘリウム原子を考察する。次に周期表の理解を中心に、球対称な平均場近似を用いて原子の構造を定性的に考察する。終りに分子を形成する機構の１つとして水素分子イオンを考察する。取扱う方法として変分法という近似法を学ぶ。	市村　宗武	市村　宗武
13	摂動論—補正と遷移過程の取扱	考える系が完全に解ける本質的部分と小さな補正部分に分けられる場合に、補正を取り入れる摂動論という近似法を学ぶ。この手法をまず定常状態に応用し、補正によるエネルギーの変化などを求める。次に小さな補正が系への外的刺激であるとき、系が時間とともに変化していく様子(遷移過程)を摂動論で取扱い、現象の理解にも、実用にも極めて有用な黄金律と呼ばれる公式を導く。	市村　宗武	市村　宗武
14	原子核の世界	原子核も陽子・中性子という、より基本的な粒子でできていることを、その発見の歴史を踏みながら説明する。あわせて原子核の世界の基本的性質を学び、また、陽子と中性子を結びつけ原子核を作り上げる新たな力である核力の起源を学ぶ。	市村　宗武	市村　宗武
15	基本粒子と統一理論を求めて	ニュートリノやクォークの発見の道をたどり、物質を構成する基本粒子はクォークとレプトンであるという現在の描像を説明する。また、それらの基本粒子間にはゲージ粒子と呼ばれる粒子が交換されて相互に作用しあっているという現代の理論の展開を述べ、その先に期待される素粒子世界の統一理論など現代物理学の最先端を垣間見る。	市村　宗武	市村　宗武

＝　物質の科学・有機化学（‘０６）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：太田　博道（慶應義塾大学教授）〕

全体のねらい

私達の身の回りにある物質は多くが有機化合物であり，我々生き物の構成成分も水以外はほとんどが有機化合物である．私達は太陽のエネルギーがなければ生きていくことはできないが，そのエネルギーは二酸化炭素の還元に使われ，有機化合物が蓄積される．本講義では，これら有機化合物の基礎的性質を理解するとともに，どのような物質がどんな働きをしているか理解することを目的とする．

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	有機化学の歴史	有機化学は無機化学と対をなす言葉で，「生物がつくる化合物の化学」として始まった．やがて尿素が無機化合物から合成されて，この定義が意味を失い，以後「炭素化合物の化学」として発展して来た．現在では私達の生活を支えると共に再び生命科学と密接に関係していることを概観したい．	太田博道（慶應義塾大学教授）	太田博道（慶應義塾大学教授）
2	有機化合物はなぜ多いか	有機化合物（炭素を含む化合物）の数は他の元素を骨格に含む化合物に比べて極端に多い．分子の成り立ち，結合エネルギー，結合の極性，反応によるエネルギーの出入り，反応が進む条件等について学び，有機化合物が膨大な数存在し得ることを理解する．	太田博道（慶應義塾大学教授）	太田博道（慶應義塾大学教授）
3	有機化合物のかたち	有機化合物は結合の仕方によって様々な形をとる．そしてその形の違い故に同じ構造でも性質がまるで違うことがある．何故いろいろな形になるのか，どんな種類があるのか，性質としてどんな違いがあるのか，化合物の右手型と左手型とはどういうものなのかについて学ぶ．	太田博道（慶應義塾大学教授）	太田博道（慶應義塾大学教授）
4	有機化合物の反応の種類と駆動力	そもそも「化学反応」とは何か，有機化学反応と無機イオンの反応はどこが違うのか，何故反応が起こるのか，反応の方向を決めるものは何か，等々について学ぶ．また，反応溶媒という観点から見ると，私達が日常的に接している水が極めて変わった性質を有する物質であることも理解したい．	太田博道（慶應義塾大学教授）	太田博道（慶應義塾大学教授）
5	石油からエチレン，そして化学工業へ	我々の生活を支えている物質の多くは元をたどると石油と石炭からできている．中でも石油への依存は高いが，石油化学の基幹物質は原油から製造されるエチレン，プロピレン等の二重結合を有する化合物である．この章ではこのような不飽和結合への付加反応，付加重合について学ぶ．	太田博道（慶應義塾大学教授）	太田博道（慶應義塾大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
6	飽和化合物の反応−置換反応と脱離反応	5章の付加反応と並んで重要なのは，飽和炭化水素上で官能基が入れ替わる置換反応である．アルコールとハロゲン化物の相互変換，エポキシドの開環反応，反応に伴う形の変化等について学ぶ．	太田博道（慶應義塾大学教授）	太田博道（慶應義塾大学教授）
7	食物の代謝と酸化還元反応	我々も含めて動物は炭水化物や油脂を酸化してエネルギーや生体成分をつくっている．その意味で酸化反応とその逆反応である還元反応は極めて重要な反応である．また，自動車を走らせる等のエネルギーも酸化反応によって得られる．反応に伴うエネルギーの出入りについてもこの章で理解したい．	太田博道（慶應義塾大学教授）	太田博道（慶應義塾大学教授）
8	諸刃の剣−酸素と有機化合物そして生き物	7章で述べたように我々は酸素がなければ生きていけない．では，酸素濃度が高い程良いかと言うと決してそんなことはない．酸素は反応性が高いので，様々な有機化合物に対して「有害」でもある．酸素が原因である老化，物質の劣化，そして大気圏で重要なオゾン層の破壊とは何かについて学ぶ．	太田博道（慶應義塾大学教授）	太田博道（慶應義塾大学教授）
9	カルボン酸とアミン	カルボン酸は代表的酸であり，アミンは塩基性である．これらに関連する化合物は極めて多い．我々の体をつくるタンパク質，絹・ナイロン・ポリエステル等の繊維，界面活性剤，食品添加物等挙げればきりがない．これらについて学ぶと同時に，酸や塩基とは何かについても学ぶこととしたい．	太田博道（慶應義塾大学教授）	太田博道（慶應義塾大学教授）
10	石炭から染料の合成−芳香族化合物の化学	染料を天然の花の色素に頼っていた時代には，赤や紫の服は貴族や富裕階級だけのものであった．これを一変させたのが石炭を原料とする染料の合成である．他にも石炭の乾留でとれるベンゼン，トルエン，キシレンを原料とする工業製品は日常生活に欠かせない．どのようにつくられるか概観する．	太田博道（慶應義塾大学教授）	太田博道（慶應義塾大学教授）
11	光・電子機能材料−エレクトロニクスを支える有機機能材料	20世紀特に後半に入ってからは、実に多彩な新物質、特に機能材料がつくられ、それらが人類生活と社会文化の向上に果した役割は誠に目覚しい。今や人工物質を除いては人間の暮らしそのものが成立たなくなって来ている。最新の有機機能材料に焦点を絞り、分子設計と機能について学ぶ。	山元公寿（慶應義塾大学教授）	山元公寿（慶應義塾大学教授）
12	キラリティと医薬	分子の形には，結合軸のまわりの回転で変化するものと変化しないものがあることは既に学んだ．タンパク質は光学活性体であるため，これと相互作用する医薬品や農薬では形は決定的に重要である．どのような例があるか見てみたい．また一方の形の化合物だけつくるにはどうするか考えてみよう．	西山繁（慶應義塾大学教授）	西山繁（慶應義塾大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
13	天然有機化合物と生理活性	天然に得られる有機化合物は、それぞれを産生する動植物あるいは他の生体に対して特徴的な働きを示す。それらは、多岐にわたる化学構造をもち、微量でも大変強い活性を持つことが知られている。性ホルモンとして知られるステロイド類などをはじめ様々な天然有機化合物を学んでいく。	西山　繁(慶應義塾大学教授)	西山　繁(慶應義塾大学教授)
14	生体内の有機化学反応−神様の仕掛けを有機化学で種明かし	植物は二酸化炭素から炭水化物を合成し，動物は逆である．ここでは多くの炭素−炭素結合生成反応と開裂反応が活用されている．これらを中心に解糖系，ＴＣＡサイクル，脂肪酸の生合成と代謝，メバロン酸経路等生合成や代謝に重要な役割を果たしている反応を有機化学的観点から概観する．	太田博道(慶應義塾大学教授)	太田博道(慶應義塾大学教授)
15	生体の機能を利用する有機化学	これまでに光学活性体の重要性，生体内の反応の機構について学んだ．生体反応を触媒するものは酵素であるが，今日ではこの酵素が物質変換に利用され，生体触媒と呼ばれている．洗剤にも入っているし，酵素は決して細胞内だけで作用するものではないのである．この点を具体的に学びたい．	太田博道(慶應義塾大学教授)	太田博道(慶應義塾大学教授)

＝　生命と金属の世界（‘０５）＝（Ｒ）

〔　主　任　講　師：　原口　紘烋（名古屋大学名誉教授）　〕

全体のねらい

私たち人間の身体も、また動物、植物、微生物などすべての生物も元素から構成された化学物質でできている。生物の特徴は、生体を構成するアミノ酸、タンパク質、核酸、脂質、糖類などの生体有機物を含む約 100 兆個の細胞が、生命機能を維持するために生体物質の合成と分解を繰り返し、代謝を行っていることである。このような生体物質の構成成分としては有機物質がほとんどであるが、生命活動の維持には従来「ミネラル」と呼ばれた無機物質も欠かすことができない。最近の微量分析法の進歩によって、ミネラル成分の多くは金属元素であり、生体中には微量であるがほとんどの金属元素が含まれていることが明らかになってきた。そして、その多くはタンパク質と結合した金属酵素として、生体物質の合成と代謝に関与していることも分ってきた。本講義では、生命活動に関与する金属の役割について解説するとともに、私たちの健康と病気、食生活、さらには環境問題との関連について考えてみたい。

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
1	序論 - 人間と金属のかかわり	人間は生活の中で様々な金属を利用してきた。石器文明の後に鉄器文明、青銅器文明と呼ばれる金属を利用する文明が誕生し、武器や農耕器具、生活用品に利用した。また、金、銀、銅は装飾品に古くから用いられた。現代社会でも、多くの種類の金属が使われ、私達の生活を支えている。本章では、このような人間生活と金属のかかわりに加えて、私達の身体の中に存在する元素の種類と濃度について考える。また、地球上のすべての物質、すべての生物（人間を含む）にはすべての元素が存在すると考える「拡張元素普存説」について説明する。	原口　紘烋（名古屋大学名誉教授）	原口　紘烋（名古屋大学名誉教授）
2	生体中の金属 - 必須性と有害性	私達の身体も化学的に見れば元素で構成されていて、元素からつくられる化合物から成り立っている。多くの生物と同様に、人体も基本的には水と有機物から構成されているが、人体中には微量だが金属元素も含まれている。従来は「ミネラル」と総称されていた微量の金属元素が、人体中で重要な役割を果たしていることが分かってきた。本章では、人体中の微量金属の種類と、元素の必須性と有害性について説明する。	同　上	同　上
3	元素の化学的特性	現在は 110 種類を越える元素が知られている。本章では、元素の発見史とともに、元素（原子）の構造と化学的性質の関係について概説する。化学では物質の基本構成要素として元素（element）を定義するが、これは物理における原子（atom）と同じである。元素の化学的性質は原子核周囲の電子の種類と数によって周期的に変化することから、元素の周期表としてまとめられている。ここでは、元素の化学的性質の周期性とともに、金属元素の特徴について説明する。	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	地球における元素の分布	地球は半径約 6400 km の太陽系惑星の一つで、表面に豊富な海水が貯えられているので「水の惑星」とも呼ばれる。ここでは、地球の構造と元素の組成（分布）について学ぶ。地球の表層部分は「地殻」と呼ばれ、地殻の元素分布は「クラーク数」として有名である。地球全体及び地殻の元素分布と「元素の地球化学的分類」から、元素の化学的性質と地球の構造の関係について考察する。	原口　紘炁	原口　紘炁
5	海洋における元素の循環	地球の表層約 70 %は海洋で、その平均深さは約 4000 m にもなる。この海洋で約 38 億年前に原子生命が誕生し、進化してきた。また、現在でも海洋には多種多様な生物が生息し、人間にとっても食糧となる海洋生物資源として重要である。さらに、海洋の存在とその変化は、地球環境の保全にも大きな影響を与える。海洋における元素の分布とその循環が、生物の存在を可能にしていることを、「元素の海洋化学的分類」から考えてみる。	同　上	同　上
6	生体物質の種類と役割	人体の約 70 %は水であるが、そのほかにアミノ酸、タンパク質、核酸、脂質などの様々な生体物質が存在し、合成と代謝（排泄）を繰り返して生命を維持している。ここでは、タンパク質を構成する 20 種類のアミノ酸、生体機能を支えるタンパク質、タンパク質合成の遺伝情報をもつ核酸、細胞膜を構成する脂質の種類と構造、および生体における役割について解説する。	同　上	同　上
7	金属と生体物質の結合 - 金属錯体の生成	金属は生体物質であるアミノ酸やタンパク質と結合して、血液や細胞中に存在している。このように、金属がアミノ酸やタンパク質と結合した化合物は「金属錯体」と呼ばれ、様々な生体機能の発現に重要な役割を果す。ここでは、金属錯体を生成する錯形成平衡の概念とともに、金属錯体の基本構造について考察する。また、光合成を行うクロロフィル、造血作用に関与するビタミン B12 など、タンパク質以外の生体物質における金属結合についても言及する。	同　上	同　上
8	金属とタンパク質	前節で述べたように、様々な金属イオンはタンパク質と結合して生体中に存在している。このような金属イオンと結合したタンパク質は「金属タンパク質」と呼ばれる。その代表的なものが鉄を含むタンパク質であるヘモグロビンである。ここでは、様々な金属イオンが関与する金属タンパク質の種類と構造、またそれらの生理機能発現について学ぶ。その中でとくに、鉄タンパク質であるフェリチンによる鉄の貯蔵、トランスフェリンによる鉄の運搬、カタラーゼによる抗酸化作用について解説する。	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
9	金属酵素の働き	金属タンパク質の中で酵素（enzyme）として機能をもつものは「金属酵素」と呼ばれる。金属酵素は、タンパク質合成、遺伝子合成、生体物質の代謝などの重要な役割を果し、生命維持に欠かせないものである。ここでは、生体触媒である金属酵素の種類と働きについて解説する。その中でとくに、亜鉛を含む亜鉛酵素は、生体機能の維持に重要な数多くの生体物質の合成と代謝、機能維持に関与しているので、詳しく説明する。さらに、セレン、銅、マンガン、ニッケルなどを含む金属酵素の働きについても、生理機能との関連で考察する。	原口　紘炁	原口　紘炁
10	核酸と金属	核酸である DNA、RNA は生体の遺伝情報が塩基配列として保持され、遺伝情報の伝達、タンパク質の合成を行う生体物質である。核酸と金属の相互作用については、未解明なことが多いが、マグネシウムイオンが核酸の 3 次元構造の保持に必要なこと、金属イオンと核酸構成成分である塩基、ヌクレオシド、ヌクレオチドとの結合については詳しく研究されている。ここでは、このような核酸及び核酸構成成分と金属イオンの相互作用について説明する。さらに、核酸と結合する制がん剤であるシスプラチン（白金化合物）の制がん機構についても解説する。	同　上	同　上
11	生体中の微量金属を測る	生体中の微量金属を測る（定量）には、金属イオン濃度が 1 ppt (1×10-12 g/ml)~ 1 ppb (1×10-9 g/ml)の検出ができる分析装置が必要である。このような超微量レベルの金属を測定する分析法として利用されているICP-AES（誘導結合プラズマ発光分析法）、ICP-MS（誘導結合プラズマ質量分析法）の測定の原理について説明するとともに、ヒト血液、毛髪、尿、植物、海洋生物中の微量金属のデータについても示す。分析法の進歩は、生体中のほとんどすべての元素の測定を可能にし、「生命と金属の世界」の進歩に大きな貢献をしている。	同　上	同　上
12	環境問題と金属	わが国はメチル水銀による水俣病、カドミウムによるイタイイタイ病を悲惨な公害問題として経験してきた。このほかにも、鉛中毒やヒ素中毒、有機スズ化合物の海洋汚染、6 価クロムによる土壌汚染など、重金属が関与する環境問題がある。その結果、現在では人体および環境に被害を及ぼす恐れのある物質については、環境基準値や排水基準値等が決められ、生命および自然環境の保護が行われている。ここでは、金属が係わる環境問題について、実例を交えて解説する。	同　上	同　上
13	食物と金属	食品中の金属成分は従来「ミネラル」として表示され、ミネラルの摂取も大事であると言われてきた。ミネラルとは、食品を燃やした後の灰分のことである。ミネラルとしては、血液成分である鉄、骨の成分であるカルシウムの重要性が強調されてきたが、分析技術の進歩により食物中のほとんどの元素の測定が可能になり、多くの元素が生理作用や生命の維持に必要なことが分ってきた。そこで、植物性食品を中心に、元素とその健康維持・増進への効果について考えてみる。	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
14	健康と病気	私達は「健康でありたい、病気になりたくない」と常に考えている。このような健康状態や病気の診断や治療を行うために、「多元素相関病態診断法」が少しずつ進歩しつつある。病気になるのは、元素の立場からすると、過剰症または欠乏症の問題である。最近では、亜鉛欠乏症による味覚障害、アルミニウムの脳蓄積によるアルツハイマー病などがマスコミでも取り上げられている。血液(血清)の多元素分析による病態解析の現状を中心に、健康と病気について考えてみる。	原口　紘烋	原口　紘烋
15	メタロミクスの世界	これまで説明してきた「生命と金属の世界」を著者は「メタロミクス（Metallomics）」として新学問領域の構築を提唱している。メタロミクスでは、金属含有生体物質のことは「メタローム（Metallome）」と呼ぶ。ヒトの全遺伝子塩基配列解読がほぼ終ったとされているが、この遺伝子の世界はゲノミクス（Genomice）、遺伝子群は「ゲノム（Genome）」と呼ばれる。ゲノムはタンパク質のアミノ酸配列を決定することから、ポストゲノムとして「プロテオミクス（Proteomics）」、タンパク質群である「プロテオーム（Proteome）」の研究の重要性が注目されている。しかし、これまで述べてきたように、遺伝子もタンパク質も金属イオンの関与なしでは合成されない。ここでは、講義のまとめとして、「金属支援機能化学」としてのメタロミクスの現状と将来の発展について考えてみる。	同　上	同　上

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	専門科目	科目コード	1894218	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　分析によって知る世界（‘０７）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：中村　洋（東京理科大学教授）〕

講義概要

分析科学は、新しい分析・解析法を創造する学問分野である。その成果は、他の実験科学のブレイクスルーに不可欠の強力なツールを提供すると共に、豊かで円滑な人間社会を維持する要素として随所に活用されている。本講義では、分析科学で培われた知識と技術が、実社会でどのように活かされているかを紹介する。

授業の目標

毎回、冒頭に社会で話題となった事柄を取り挙げ、そこで中心的な役割を果たした分析法の原理と分析技術のポイントを平易に解説する。その際、可能な限り原理の異なる分析法を盛り込めるように内容を構成し、分析法の特徴を通じてその有効な活用法について考察する。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	分析で知るロマン① ～化石は語る～	古代人が何を食べ、どんな植物を栽培していたか、など古代人の生活の一端を明らかにする分析法について解説する。例えば、三内丸山遺跡の「クリの実」化石のDNAを分析することで、クリが栽培されていた可能性が分った。また、動物の体内脂肪酸は動物種によって異なるので、糞石中の脂肪酸を分析することにより肉食した動物種がある程度推定できる。（遺伝子解析法、GC-MS、分析化学の進化）	中村　洋（東京理科大学教授）	中村　洋（東京理科大学教授）
2	分析で知るロマン② ～金属は語る～	考古分析科学は考古学的な試料を研究する分析科学であり、各種の機器分析法を駆使して試料の年代定、目に見えない図形・文字情報の解明、材料の産地特定などが可能となる。稲荷山古墳から出土した鉄剣、銅鐸中の鉛分析などにつき解説する。（X線撮影法、鉛同位体比測定法）	中村　洋（東京理科大学教授）	中村　洋（東京理科大学教授）
3	分析で知るロマン③ ～美術品の鑑定～	古代人の絵に使われた絵の具は何か、有名な絵画が完成するまでに試行錯誤はあったのか、発掘品は本物か、などの疑問も分析手段の進歩で解明できる時代が来ている。高松塚古墳壁画の顔料分析、有名絵画の下絵などを例にとり考察する。（蛍光X線分析法、赤外線反射法）	中村　洋（東京理科大学教授）	中村　洋（東京理科大学教授）
4	分析で知るロマン④ ～人類のルーツ～	人類はアフリカで生まれ、世界各地に広がって色々な人種ができたとする説があり、日本人のルーツについても研究が進んでいる。アルプスで発見されたアイスマンの子孫探し、母系遺伝を示すミトコンドリアDNAの分析結果に基づく、ブライアン・サイクス教授（英国）の報告などを解説する。（放射性炭素年代測定法、加速器質量分析法、DNA配列解析法）	中村　洋（東京理科大学教授）	中村　洋（東京理科大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	分析で知る健康・病気 ① ～DNA 診断と遺伝子治療～	米国が中心になって進めたヒトゲノム計画の遂行に伴い、ヒトゲノムの DNA 解析技術の進歩は各方面に劇的な進展をもたらし、医学にも大きく貢献している。遺伝子検査、特定疾患の DNA 配列による診断、遺伝子治療を行うストラテジーを学習する。（遺伝子解析法、ゲル電気泳動法）	中村　洋（東京理科大学教授）	中村　洋（東京理科大学教授）
6	分析で知る健康・病気 ② ～乱用薬物の分析～	医薬品は健康の維持と疾病の治療に欠かせないが、悪用すると重篤な薬理作用を惹き起こし、社会問題となる。生体試料（毛髪、血液、尿など）中の覚醒剤、麻薬、LSD、脱法ドラッグ、シンナーなどの乱用薬物を正確に検出・定量する方法について学ぶ。（固相抽出、GC/MS）	中村　洋（東京理科大学教授）	中村　洋（東京理科大学教授）
7	分析で知る健康・病気 ③ ～バイオマーカー～	疾病の早期診断法として、疾病の前兆または初期に生体が発する情報（バイオマーカー）をいち早く検出する研究の一端を紹介する。この目的には、様々な物質からなる生体試料中に出現する疾病に特有の微量物質を高感度で選択的に検出できる方法が求められる。（二次元電気泳動法、等電点電気泳動法、SDS-PAGE、二次元 HPLC）	中村　洋（東京理科大学教授）	中村　洋（東京理科大学教授）
8	分析で知る健康・病気 ④ ～薬害事故～	医薬品は患者の症状に合わせて適正に使われることが重要である。用法・用量を誤ったり、予測できない副作用が現れた場合には、使用者は重篤な状態に陥る。前者の例として薬害キノホルム、後者の例としてサリドマイド被害を取り挙げ、その分析例を紹介する。（薄層クロマトグラフィー、キラル分離法）	中村　洋（東京理科大学教授）	中村　洋（東京理科大学教授）
9	分析で知る食の安全 ① ～残留農薬、遺伝子組み換え食品～	地球人口の増加に伴って、食料増産は世界的な課題となっているが、その半面では食品中に含まれる残留農薬、食品添加物、動物用医薬品、成長ホルモン、抗生物質、養殖うなぎ中の残留水銀、あるいは遺伝子組換え食品の流通などが社会的な問題となっている。その実情と対象物質の分析法を紹介する。（GC/MS、LC/MS、イムノアッセイ、原子吸光法）	中村　洋（東京理科大学教授）	中村　洋（東京理科大学教授）
10	分析で知る食の安全 ② ～環境ホルモン～	産業革命以降、人類は莫大な数の化学物質を合成し生活に役立ててきた半面、その一部が生態系を破壊している弊害が明らかになってきた。ここでは、所謂環境ホルモンとダイオキシンを中心に、それらがどのようにして分析されているかを学ぶ。(GC/MS、LC/MS)	中村　洋（東京理科大学教授）	中村　洋（東京理科大学教授）
11	分析で知る食の安全 ③ ～BSE（牛海綿状脳症）～	家畜や人間の脳神経系が侵される病気として、スクレイピー（ヒツジ）、BSE（牛海綿状脳症）（ウシ）、クロイツフェルト・ヤコブ病（ヒト）などが知られている。このうち、BSE の検査には異常プリオンタンパク質の検出が行われており、本講義でその概要を解説する。（ウエスタンブロッティング法、イムノアッセイ）	中村　洋（東京理科大学教授）	中村　洋（東京理科大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	分析で知る食の安全 ④ ～食中毒～	食中毒は腐敗した料理や食品を摂取することで起きる。多くの場合は、病原性細菌（大腸菌、サルモネラ菌、ボツリヌス菌、など）が消化管内で産生した毒素（O157ではベロ毒素）が原因となるが、生牡蠣などの二枚貝による食中毒ではノロウイルスが原因と考えられている。原因微生物・毒素の検出法を解説する。（微生物検査法、毒素検出法）	中村　洋（東京理科大学教授）	中村　洋（東京理科大学教授）
13	分析で知る犯罪捜査 ① ～鑑識科学～	鑑識科学では現場に残された繊維、塗料、着衣に付着した口紅、花粉など様々な物品が検査対象となるが、中心は体内の化学物質である。ここでは、地下鉄サリン事件、和歌山毒入りカレー事件などを取り挙げ、鑑識化学の基本を考える。（SPring-8での蛍光X線分析法、イオンクロマトグラフィー）	中村　洋（東京理科大学教授）	中村　洋（東京理科大学教授）
14	分析で知る犯罪捜査 ② ～DNA鑑定～	従来の化学操作は血液型、指紋などを大きな拠り所にしていたが、DNA解析による個人情報を採り入れたことにより、最近の犯罪捜査は著しく信頼性を増した。DNA鑑定は犯人の特定のみならず、親子鑑定、兄弟鑑定などにも有効である。現在、日本の警察で採用されている方法、研究段階にある方法などの原理と精度を解説する。（DNAによる個人識別法）	中村　洋（東京理科大学教授）	中村　洋（東京理科大学教授）
15	分析の現状と将来 ～課題と可能性～	分析化学は、物質の分離と検出に関わる学問であり、それぞれ高選択性化と高感度化を目標に掲げ発展してきた。その過程で、成果としての新規原理や方法論は他の分野に待望されるツールとなり、その発展を促進してきた。最終講では、分析科学・分析技術の最新動向を紹介すると共に、将来の課題を考える。（レーザー励起蛍光検出キャピラリー電気泳動法、マイクロチップ法、個人認証法、非分離多成分定量法）	中村　洋（東京理科大学教授）	中村　洋（東京理科大学教授）

＝ 植物の生理（‘０４）＝（TV）

〔主任講師：庄野　邦彦（東京大学名誉教授）〕
〔主任講師：菊山　宗弘（新潟大学教授）〕

全体のねらい

生き物の世界を構成する主役の一つが植物である。植物なくしては人類のみならず全動物の生存はあり得ない。この科目では植物の生存・生活の機構を解説することにより、植物に対する理解を深めることを目指す。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	植物の特徴	全ての生物に共通する姿の上に植物の特徴が上乗せされている。その共通の姿とは何か、植物の特徴とは何か、それらの研究手段にはどのようなものがあるか。これらのことを概説し、さらにこの授業の目標などを紹介する。	庄野　邦彦（東京大学名誉教授） 菊山　宗弘（新潟大学教授）	庄野　邦彦（東京大学名誉教授） 菊山　宗弘（新潟大学教授）
2	植物の細胞と体制	植物の体制を個体レベル、細胞レベルなどで説明すると共に、植物の特徴を指摘する。構成要素である細胞に注目し、細胞の機能をその構造との関係から概説する。	西村　いくこ（京都大学教授）	西村　いくこ（京都大学教授）
3	植物のいとなみ(1) 物理・化学的な基礎	生命現象とは物理的反応や化学的反応の複雑な組み合わせの結果である。そこで、酵素反応の機構を簡単に解説する。また、次の章の物質輸送の基礎として、物理化学の法則と物質移動の原理を概説する。	菊山　宗弘	菊山　宗弘
4	植物のいとなみ(2) 物質輸送	細胞レベルでの物質輸送機構を解説する。膜輸送（受動輸送、能動輸送）、膨圧の発生、膜電位の発生、および細胞内での能動的な物質輸送としての原形質流動を取り上げる。	同　上	同　上
5	植物のいとなみ(3) 光合成	植物の特徴の最たるものの一つが「独立栄養」を営むことである。独立栄養の実体である光合成は、光化学反応およびその関連反応と、それに続く生化学反応とからなる。 この章では、光化学反応とその関連反応について解説する。	中村　保典（秋田県立大学教授）	中村　保典（秋田県立大学教授）
6	植物のいとなみ(4) 光合成と関連代謝	光合成の生化学反応過程であるカルビン・ベンソン回路を解説する。植物の代謝全体における光合成の意義をまとめる。その中では特に糖および脂質代謝について解説する。また、遺伝子とはどういうものかの説明と、光合成関連遺伝子とその機能を解説する。	同　上	同　上
7	植物のいとなみ(5) アミノ酸合成と二次代謝系	タンパク質は 20 種類のアミノ酸から出来ている。独立栄養を営む植物はこのアミノ酸をすべて合成する。しかしヒトを含む動物はアミノ酸のいくつかは体内で合成できないため，植物が合成したアミノ酸を捕食により取り入れている。そこで，この植物におけるアミノ酸合成系について解説するとともに，そのアミノ酸などから植物の薬用成分や色素を合成する植物特有の二次代謝系について概説する。	菊山　宗弘	菊山　宗弘 ゲスト 小関　良宏（東京農工大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
8	植物の生育(1) 生活環とホルモン調節	植物の生活環は発芽、栄養成長、生殖成長、老化の各期から構成される。また、その進行は数種の植物ホルモンによって制御されている。植物ホルモンの種類、構造、代謝、機能、並びに作用機構を、生活環の制御と関係づけて解説する。	保尊　隆享 (大阪市立大学教授)	保尊　隆享 (大阪市立大学教授)
9	植物の生育(2) 生活環と環境要因	植物の生活環は、光、重力、温度などの環境要因によって調節される。生活環を構成する発芽、栄養成長、生殖成長、老化の各期が、これらの環境要因によってどのようなしくみで調節されるかを概説する。	同　上	同　上
10	植物の形作り(1) 細胞形成	細胞の成長の機構を解説する。その必然の帰着として、細胞・組織・器間の形態形成がどのようにして起こるのかを解説する。細胞の分化とそれにおよぼす環境要因についても簡単に説明する。	柴岡　弘郎 (大阪大学名誉教授)	柴岡　弘郎 (大阪大学名誉教授)
11	植物の形作り(2) 器官形成	形や機能の分化には、遺伝情報が書き込まれていることと、その書き込まれている情報がしかるべきときにしかるべく発現することが必要である。遺伝子とはどのようなものであり、どのように発現が調整され、どのように器官の機能・形態が決まるかを解説する。	岡田　清孝 (京都大学教授)	岡田　清孝 (京都大学教授)
12	植物の形作り(3) 個体形成・分化全能性	体のどの部分も同じ遺伝情報を持っているので、植物はどの部分からも体全体を再構成できる(分化全能性)。言い換えれば個体の形成過程とは、全遺伝子のうち特定のものが発現することによって各組織、器官へと分化することである。個体の形成過程を遺伝子発現の視点から解説する。	同　上	同　上
13	生態系の中の植物(1) 植物の防御と共生	独立栄養を営みはするが、植物は「独立」に生活するのではなく、多数の「環境要因」との相互作用のものに生活をしている。この章では微生物との相互作用に注目し、病原性とその対応、共生関係について解説する。併せて、微生物との関係が遺伝子操作にもつながることを紹介する。	庄野　邦彦 (東京大学名誉教授)	庄野　邦彦 (東京大学名誉教授)
14	生態系の中の植物(2) 植物と環境の関わり	植物の環境への適応について概説する。また，光，水，窒素栄養などの環境要因がどのように植物の生活に関わるのかを，細胞から生態系のレベルにまでスケールアップしながら考察する。	寺島　一郎 (東京大学大学院教授)	寺島　一郎 (東京大学大学院教授)
15	植物生理学の展望	植物生理学の発展の過程を、特に研究方法の発展と、その著しい成果を取り上げつつ、簡単に振り返る。これをふまえ、植物生理学の将来の展望を述べる。また、昨今の生命工学等の発達とその成果に接するに当たっての植物生理学学習の意義について考える。	菊山　宗弘	菊山　宗弘

＝　分子生物学（‘０５）＝（TV）

〔主任講師：　藤原　晴彦（東京大学大学院教授）〕
〔主任講師：　二河　成男（放送大学准教授）　〕

全体のねらい：
分子生物学のおもな目的は，さまざまな生物たちが共通に示す現象を，核酸とタンパク質という分子の挙動を通じて理解することである．本講義では，分子生物学のエキスパートがそれぞれの分野の基礎をわかりやすく説明する．

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	分子生物学とは何か	分子生物学の起源と歴史，生物科学全体に及ぼす分子生物学の影響，分子生物学の変貌，分子生物学は発展的に解消しつつあるという見解等々をテーマに，分子生物学全体を概観する	石川　統（元放送大学教授）	石川　統（元放送大学教授）
2	核酸とタンパク質の構造	生命現象は、さまざまな分子の働きによって営まれているが，分子生物学の対象として最も重要なのは，遺伝情報を担う核酸と，遺伝情報が翻訳された機能的分子のタンパク質である．核酸とタンパク質の構造と機能の全体像を概説する	藤原　晴彦（東京大学大学院教授）	藤原　晴彦（東京大学大学院教授）
3	遺伝と遺伝情報	メンデルの遺伝の法則を説明し，それらの法則性の基礎となっている分子生物学について説明する．さらに，その説明を通じて，遺伝情報とは何であるかを考察する	石川　統	石川　統
4	遺伝子と染色体	遺伝子はDNAでできているが，すべてのDNAが遺伝子ではないこと，遺伝子の座である染色体の構造，染色体を通じて遺伝子が子孫に伝えられるしくみなどを説明する	石川　統	石川　統
5	DNAの複製	生物が親から子に，種としての遺伝情報をつたえる分子機構を概観する．原核生物での理解をもとに真核生物での遺伝子複製もみる．複製反応とならび、校正反応についてものべる	渡辺雄一郎（東京大学大学院教授）	渡辺雄一郎（東京大学大学院教授）
6	遺伝情報の発現１．転写	遺伝情報が生体で利用されるためには，核内でDNAがいったんRNAにコピーされる必要がある．この過程は転写と呼ばれ，遺伝情報の発現量や発現時期を調節する重要なステップである．転写機構，転写に関わる酵素，転写を調節する因子などについて述べる	藤原　晴彦	藤原　晴彦

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
7	遺伝情報の発現 2．プロセシング	真核細胞では，転写されたRNAがそのまま働くことは少なく，核の中で様々な修飾・加工（プロセシング）を受ける．スプライシングやキャッピングなどの真核細胞のmRNAに特有なプロセシング，さらにrRNAやtRNAのプロセシングのしくみについて解説する	藤原　晴彦	藤原　晴彦
8	遺伝情報の発現 3．翻訳と翻訳後修飾	遺伝情報がタンパク質に変換される最後の過程が翻訳である。mRNAを鋳型にして正しくタンパク質が作られるしくみを学ぶ．またその後，翻訳されたタンパク質が機能を持つように修飾される機構や，翻訳を阻害することによって働く抗生物質の働きも付け加える	石浦　章一 （東京大学大学院教授）	石浦　章一 （東京大学大学院教授）
9	ゲノムとプロテオーム	多くの生物の遺伝子情報があきらかとなってきた．ゲノムとはなにか．そこから何がわかるか．プロテオームとはなにか．そこから何がわかるかについて解説する	渡辺雄一郎 （東京大学大学院教授）	渡辺雄一郎 （東京大学大学院教授）
10	タンパク質の機能 1．酵素と膜タンパク質	生体内触媒である酵素反応のしくみを学ぶ．また，酵素阻害のメカニズムを調べ，阻害反応の実際の応用例としての薬剤の働きを検討する．さらに，生体膜に埋め込まれたタンパク質の特殊な機能（受容体，チャネル等）についてもまとめる	石浦　章一	石浦　章一
11	タンパク質の機能 2．免疫のしくみ	哺乳類で高度に発達している，自己と非自己を識別するしくみについて説明し，そのしくみの基礎にある抗体の多様性を生みだす機構を考察する．また，液性免疫と細胞性免疫の間の役割分担についてのべる．	石川　統	石川　統
12	突然変異と分子進化	個々の個体に生じた突然変異が集団全体に広まること，これが進化である．分子生物学の発展により，分子レベルで進化を理解できるようになった．ここでは，分子レベルの進化のしくみとその特徴について解説する	二河　成男 （放送大学准教授）	二河　成男 （放送大学准教授）
13	RNAの多様な機能	RNAは，単に遺伝情報の仲介物質と思われがちである．しかし，現在では，触媒や制御因子といった多様な活性をもつ機能性高分子であることが明らかになってきた．これらの機能性RNAの構造と反応のしくみについて解説する	二河　成男	二河　成男
14	遺伝子操作	遺伝子操作とはどのような技術か．可能になった実例，将来の可能性を紹介し，研究を行うための法律的な基準についても紹介する．	渡辺雄一郎	渡辺雄一郎

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
15	今後の社会と分子生物学	21世紀は生命科学の時代であり，分子生物学はその基礎として重要性を増すにいたっている．ここでは，ゲノムから明らかになった生命のしくみ，病気の治療法の開発，遺伝子改変食品，など私たちのまわりの問題と，それにまつわる生命倫理について講義する	石浦　章一	石浦　章一

＝　生物界の変遷（‘０６）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：　松本　忠夫（放送大学教授）　〕
〔主任講師（現職名）：　西田　治文（中央大学教授）　〕
〔主任講師（現職名）：　二河　成男（放送大学准教授）〕

全体のねらい

生命体は様々な地球環境のもとで、４０億年近くかけて進化してきたが、その結果として、今日の大きな生物多様性が見られる。そもそも生命はどのようにして誕生したのであろうか。そして、いかにして進化し変遷していったのであろうか。また、生物体の姿はゲノムの中の遺伝情報が、発生過程を経て表現型として現れたものであるが、その仕組みは進化とどのように関係しているであろうか。さらに、分子レベルの進化はどのようであろうか。本講義では、多様な生物界の変遷を、総合的にみることにする。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	「生物界の変遷」のねらい	地球上に生命体が誕生して約４０億年、その間に実に様々な生物が進化し、今日に至っている。 この回ではそれらの様相を概観し、本講義全体のねらいを解説する。また、生物の進化はどのようにして調べられてきたのかの方法、さらに、生物が進化するに至った原動力などを説明する理論を紹介する。さらに、生物界の分類の方法についても考察する。	松本　忠夫（放送大学教授）	松本　忠夫（放送大学教授）
2	生命の誕生、そのメカニズム	今から約40億年前に、地球上で生命は誕生した。現在の最も複雑な細胞であっても非常に複雑である。どのように生命は準備され、誕生したのであろうか。まず生体を構成する物質が無生物的に合成され、地球上に蓄積した。それが集合して、やがて最初の細胞が誕生した。それが誕生するまでの過程を概観する。	山岸　明彦（東京薬科大学教授）	山岸　明彦（東京薬科大学教授）
3	単細胞生物の進化	地球上の生物は、細胞構造に着目すると原核生物と真核生物に分けることができる。細胞内に細胞小器官を持たない単純な構造の原核生物から、どのように真核生物が誕生してきたかについて解説する。	伊藤　元己（東京大学大学院教授）	伊藤　元己（東京大学大学院教授）
4	藻類と菌類の進化	真核生物の誕生後、水中では単細胞の生物群―いわゆる原生生物の爆発的な多様化が起きた。その結果、光合成を行う藻類、おもに捕食をして生活する原生動物、有機物を分解して生活する菌類などが生まれてきた。ここでは原生生物界での多様化を、真核生物間の細胞内共生に関連させて解説する。	伊藤　元己（東京大学大学院教授）	伊藤　元己（東京大学大学院教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	多細胞生物の進化	真核生物の誕生後、水中では多細胞生物が現れ、先カンブリア紀末からカンブリア紀初期には動物の爆発的な多様化がみられた。地球環境にもその間に様々な変動があった。動物の多様化を中心に、このような時代の生物界を概観する。	西田　治文（中央大学教授）	西田　治文（中央大学教授）
6	植物の上陸と多様化	最初に陸上に進出した生物は何か、現在の陸上生態系を支える生産者である植物はいつどのようにして上陸したのか、祖先は何か、上陸によって地球はどのように変化したのかなどについて解説する。	西田　治文（中央大学教授）	西田　治文（中央大学教授）
7	動物の上陸と多様化	植物による陸上での物質生産が始まり、動物が成育する空間も地上に拡大した。動物はどのようにして陸上に進出したのか、初期の多様化はどのようであったかについて解説する。	西田　治文（中央大学教授）	西田　治文（中央大学教授）
8	昆虫類の適応放散	昆虫類は現在の地球の陸上においてもっとも種類数が多く、特に熱帯域において種数、現存量ともに大繁栄している。その昆虫類の起源は古生代にさかのぼるが、現生の昆虫類は被子植物の進化と共に適応放散した系統が大勢を占めている。この回では、昆虫類の特徴を見ると共に、その適応放散の様相を解説する。	松本　忠夫（放送大学教授）	松本　忠夫（放送大学教授）
9	脊椎動物の適応放散	現在の陸上における脊椎動物は、生活型の歩行型として哺乳類が、飛翔型として鳥類が、そして海洋などの水界においては、遊泳型の硬骨魚類が大勢を占めている。しかし、哺乳類にも飛翔型のコウモリ類そして遊泳型のクジラ類がいるし、鳥類には歩行型のダチョウ類、遊泳型のペンギン類などがいるように脊椎動物は多様である。この回ではその適応放散の様相を解説する。	松本　忠夫（放送大学教授）	松本　忠夫（放送大学教授）
10	分子レベルの進化	分子生物学の進展により、生命現象をDNAやタンパク質といった分子から説明できるようになった。この結果、生命の進化における形や性質の変化や多様化を分子レベルで説明する試みが注目を集めている。この回ではDNAやタンパク質の進化と多様化のしくみについて解説する。	二河　成男（放送大学助教授）	二河　成男（放送大学助教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
11	分子で探る生物の系統関係	約４０億年前に地球上に現れた祖先生物が種分化を繰り返してきた結果、多種多様な生物種が進化してきた。この生物進化の歴史は系統樹として表現される。系統樹とは何か、分子データから系統樹をどのように推定するかについて説明する。	二河　成男（放送大学准教授）	二河　成男（放送大学准教授）
12	ゲノムの進化	多数の生物種においてそのゲノム情報が解読されたことにより、生物進化に伴いゲノム自身も大きく変化してきたことが明らかになってきた。様々なゲノム進化の様式について説明する。	二河　成男（放送大学准教授）	二河　成男（放送大学准教授）
13	発生と進化（植物）	生物の多様な形はどのように進化したのだろうか。形は多くの遺伝子によって制御される発生過程の結果できあがる。従って、発生過程に関わる遺伝子の進化が生物の多様な形を生み出す原因である。植物の生殖器官である「花」の進化を題材に、生物の形の多様性がどんな遺伝子の変化によって引き起こされるのかを探求する。	長谷部光泰（基礎生物学研究所教授）	長谷部光泰（基礎生物学研究所教授）
14	発生と進化（動物）	動物が植物と異なる点は、なんと言っても「行動」を行えることであろう。その行動を可能にするためには、筋肉や神経などを用いて機能的な運動を可能とするためのボディプランの構築が必須である。そのような精巧なボディプランがどのようなメカニズムの上に成り立ち、そしてそれがいかにして進化してきたかについて概説する。	三浦　徹（北海道大学大学院准教授）	三浦　徹（北海道大学大学院准教授）
15	生物界の変遷と人類	人類は約５百万年前に誕生し、つい数万年前から地球上に大きく拡散した。そして、現在では地球上において極めて大きな影響力を持つに至った。類人猿の祖先から人類が誕生した道筋、そして他の生物に与える影響の大きさを様々な側面から説明する。	松本　忠夫（放送大学教授）	松本　忠夫（放送大学教授）

＝　動物の行動と生態（‘０４）＝（TV）

〔主任講師：　長谷川眞理子（総合研究大学院大学教授）〕

全体のねらい

本講義では、動物が見せるさまざまな行動が、その動物の暮らす生態環境との関係においてどのようにして進化してきたかを探る、行動生態学、動物行動学のおもな研究成果を紹介し、動物の行動の機能とその進化について考察する。動物の生理学的、生化学的な仕組みの細部ではなく、個体としての動物が環境との関係を通してどのように行動するか、マクロな生物学のおもしろさを伝えたい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	動物の行動と生態：研究の目的と歴史	動物は、採食、捕食の回避、配偶、子育てなど、さまざまな行動を行なって生きている。動物がある行動をとるのは「なぜ」なのだろうか？　この疑問には、４つの答え方、アプローチの仕方が存在する。初回は、その４つの「なぜ」の問い方を説明するとともに、動物行動研究の歴史をたどる。	長谷川眞理子（総合研究大学院大学教授）	長谷川眞理子（総合研究大学院大学教授）
2	自然淘汰と適応：理論的枠組み	行動の研究で中心となる概念は適応である。生物がその生態環境との関係において、生存と繁殖に役立つ形質を備えていることを適応と呼ぶ。適応が生じるプロセスを説明するのが自然淘汰の理論である。動物行動の進化を分析する重要な理論的枠組みである自然淘汰について、実例をあげて説明する。	同　上	同　上
3	行動と進化	行動は、生物のなんらかの欲求を満たすという点で利益をもたらすとともに、なんらかのコストも伴うものである。行動生態学では、そのような行動のコストと利益を多角的に分析する。ある一つの行動パターンが最適な解をもたらす場合、行動は自然淘汰によって最適化される。その過程を、おもに採食行動を例にあげて説明する。	同　上	同　上
4	社会行動とゲーム理論	前回は、最適化について説明したが、行動によっては、最適な行動が一つに決まらない場合も生じる。とくに、互いに相手の出方によってこちらが何をしたらよいかが変化するような社会行動においてはそうであることが多く、そのような場合にどのような行動が進化するかは、ゲーム理論を用いて分析されている。その過程を、主に闘争行動を例にあげて説明する。	同　上	同　上
5	血縁淘汰と包括適応度	第２回目の講義で、自然淘汰は個体の最適度を最大化するように働くと述べた。それでは、いわゆる利己的行動のみが進化し、利他的行動は進化しえないのだろうか？そんなことはない。その一つの過程が、血縁淘汰と呼ばれるものである。それは、自分と同じ遺伝子を共有する個体に対しては、その血縁度に応じて利他的な行動が進化することを説明する理論である。	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
6	互恵的利他行動と相互扶助	前回は、血縁者間に生じる利他行動の進化を扱った。では、非血縁者間では、利他行動は進化するのだろうか？それには、互恵的利他行動と相互扶助の２つのシナリオが考えられる。それぞれの例を紹介するとともに、非血縁者間の利他行動の進化研究のこれまでの成果を振り返る。	長谷川眞理子	長谷川眞理子
7	親による子の世話	親による子の世話の形態は、まったく世話をしないもの、両親そろって世話するもの、雌親だけが世話するもの、雄親だけが世話するもの、両親以外の個体も参加して世話するものと、実にさまざまである。昆虫から哺乳類まで、さまざまな親の世話の形態を紹介するとともに、なぜこのような変異が存在するのか、理論的な分析を試みる。	同　上	同　上
8	性淘汰と配偶の機会をめぐる競争	雄と雌はとは、さまざまな形質において異なることが多い。このような性差が存在する理由は、自然淘汰の理論では十分に説明できない。それは、たとえ同じ種に属していても、雄と雌では、繁殖の機会をめぐる競争のあり方が異なるために生じる。それを説明するのが性淘汰の理論である。さまざまな動物における性差と配偶をめぐる競争の関係を紹介する。	同　上	同　上
9	配偶者選択	多くの場合、配偶者の獲得をめぐる同性間の競争は、雌どうしよりも雄どうしにおいて強いため、雌は配偶者選択をすることができる。その結果、雄の美しい飾り羽根やさえずり声などが進化したと考えられる。では、雌は、なにを目安にして配偶者選択をしているのだろうか？さまざまな動物における配偶者選択の実例を紹介するとともに、配偶者の進化を分析する理論を説明する。	同　上	同　上
10	配偶者防衛と雌雄の対立	性淘汰はこれまで、配偶者の獲得をめぐる同性間の競争と、配偶者選択をめぐる異性間のやりとりとの２本柱で論じられてきた。しかし、雄にとって有利な行動と雌にとって有利な行動とが一致するとは限らず、雌雄の対立がさまざまな場面で見られる。雄が、自分の配偶相手として獲得した雌を他の雄にとられないように雌の行動を制限する配偶者防衛も、そのような現れの一つである。	同　上	同　上
11	鳥のさえずりの進化をめぐって	美しい鳥のさえずりは、配偶者選択の結果として進化してきた。今回は、ジュウシマツのさえずりをめぐって、さえずりの生成をつかさどっている脳の働きやさえずりの学習のメカニズム、さえずりと配偶者選択、さえずりの系統進化と、さえずりについて「４つのなぜ」のすべての面を取り上げてみたい。	同　上	長谷川眞理子 岡ノ谷　一夫（理化学研究所脳科学総合研究センター研究員）
12	配偶システム	一夫一妻、一夫多妻など、配偶システムを表す呼び名はたくさんある。しかし、動物の配偶システムは、その種に固有のものとして備わっているのではなく、雄の配偶戦略と雌の配偶戦略の妥協点として生じると考える方が真実に近い。どんなときにどのような配偶システムが生じるのか、いくつかの動物群について解説するとともに、配偶システムが、生態環境の変化に応じてどのように変化するかも検討する。	同　上	長谷川眞理子

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
13	鳥類と哺乳類の配偶システムをめぐって	前回は、配偶システムの進化について述べたが、哺乳類と鳥類とでは、生理学的な特徴の違いから、配偶システムに関して、いくつかの大きな違いが見られる。それが何であるか、鳥類に固有の条件、哺乳類に固有の条件について、そして両者に共通する点について、論じてみたい。	長谷川眞理子	長谷川眞理子 上田　恵介(立教大学教授)
14	共進化と進化的軍拡競争	動物は、他種の動物や植物とさまざまな関係を持ちながら暮らしている。他の種は、捕食者であったり、餌であったり、競争者であったりする。それらに対して、ある種が行動を進化させると、相手の種は、それに応じて自らの適応度を上げるように、自分たちも行動や形態を変化させる。こうして、密接な関係を持っている種どうしは、互いに影響を及ぼしあいながら共進化していく。その様子を解説する。	同　上	長谷川眞理子
15	保全生態学に向けて	これまで、動物の行動と生態の関係を、さまざまな点から概観してきた。しかし、近年、地球環境の破壊によって、多くの生物が絶滅の危機に瀕しており、それらの保全のための緊急策が講じられている。行動生態学は、生物の保全の問題にどのように貢献できるのだろうか？これまでの成果とこれからの展望を考えてみよう。	同　上	同　上

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	専門科目	科目コード	1564404	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア）＝　細胞生物学（‘０７）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：森　　正敬（崇城大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：永田　和宏（京都大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：河野　憲二（奈良先端科学技術大学院大学教授）〕

講義概要

生命の基本単位である細胞は、それ自体ひとつのミクロコスモスである。おどろくべき巧妙な仕組みで、生命維持に必要なすべての装置を備えている。細胞の内部のさまざまの装置と、それらがいかに連絡しながら細胞の働きを支え、細胞社会を形成し、一個の個体を作っているか。また、細胞は分裂し、移動し、分化し、さらにがん化したり、細胞死さえプログラムされている。そのようなダイナミックで美しい細胞の世界をかたちや分子のレベルで覗いてみよう。

授業の目標

真核細胞の生命活動を細胞レベルで理解するために、細胞内部の構築、生体分子、タンパク質の合成と翻訳後修飾、生体膜、エネルギー変換、細胞の増殖・分化・死の制御などに関する基本的知識を習得する。

回	テーマ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	細胞とは何か	細胞には大きくわけて、原核細胞、真核細胞の区別がある。我々人間には、200 種類以上の細胞がそれぞれの組織や器官を形作っている。植物にはまた植物特有の細胞が存在する。それらの細胞の起源は何だったのか、どのように進化してきたのか、またどのようにして遺伝というメカニズムを獲得してきたのか。主として、細胞の種類と構造、そして進化について学ぶ。	永田和宏（京都大学教授）	永田和宏（京都大学教授）
2	細胞内部の構築	真核細胞の内部には細胞膜と同じような膜が種々の構造をつくり、動物の器官のようにいろいろな働きをしている。これらは細胞小器官またはオルガネラとよばれ、お互い助け合いながら細胞の見事な生命活動が営まれている。これらの細胞小器官の構造と働きについて学ぶ。	森　正敬（崇城大学教授）	森　正敬（崇城大学教授）
3	細胞で働く分子たち	細胞の中には多くの分子が存在し、細胞の働きはもとをただせばこれらの分子の働きによる。主要な生体高分子であるタンパク質や核酸(DNA と RNA)、多糖類や低分子物質（グルコースやアミノ酸、脂肪酸、リン脂質、ATP、無機イオンなど）の構造と働きについて学ぶ。	同　上	同　上

回	テーマ	内　　容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	タンパク質の合成	生命活動の基本はタンパク質である。一個の細胞内には数万種類のタンパク質が全部で百万個程度存在して、それぞれの働きをしている。遺伝子に組み込まれたタンパク質の情報が、いかに読み出されてタンパク質という分子が作られるのか。DNAに書き込まれた情報はRNAに変換されて読み出され、それは最終的にアミノ酸の鎖であるポリペプチド（タンパク質の前駆体）に翻訳される。これらのタンパク質誕生までの過程を、細胞という場の中でリアルに体験してみよう。	永田和宏	永田和宏
5	タンパク質の構造・機能と品質管理	タンパク質は、遺伝情報に従って、ポリペプチドに翻訳されただけでは機能を持つことができない。ポリペプチドは、正しく折り畳まれて正しい構造をとる。そして正しい場に運ばれて初めて、本来の機能を発揮する。細胞は、もしタンパク質が正しい構造をとりえなかった場合に、それらを処分したり、再生したりするような品質管理の機構を備えていることが明らかになってきた。	同上	同上
6	膜の構造と膜透過	細胞は細胞膜に囲まれることによって一個の生命を維持している。細胞内部においてもさまざまな細胞小器官が膜によって区画されている。細胞が生き続けるためには膜を通して種々の物質を出し入れせねばならない。これらの生体膜の構造と、膜を通して分子の透過のしくみについて学ぶ。	森　正敬	森　正敬
7	タンパク質の細胞内輸送と局在	タンパク質は合成されたのち、機能する場へと輸送される。個々のタンパク質にはタグ（荷札）が付けられており、輸送先は指定され、細胞内の各オルガネラや細胞膜へと輸送される。また細胞はこれらのタンパク質輸送を担う配達システムも持っている。このようなタンパク質の輸送と輸送に関わる細胞側の装置について学ぶ。	河野憲二（奈良先端科学技術大学院大学教授）	河野憲二（奈良先端科学技術大学院大学教授）
8	エネルギー変換とミトコンドリア	生物が生命活動を営むためにはエネルギーが必要である。細胞は外部から栄養物質を取り入れ、これを酸化して生体の“エネルギー通貨”であるアデノシン三リン酸（ATP）を合成するが、その主要な部分はミトコンドリアで行われる。このエネルギー変換のしくみをミトコンドリアの構造と関連させつつ学ぶ。またミトコンドリアDNAについても学ぶ。	森　正敬	森　正敬
9	細胞骨格と細胞運動	細胞内には複雑な繊維状骨格のネットワークが張りめぐらされている。これらを細胞骨格と呼ぶ。細胞には3種類の太さの異なる繊維があり微細繊維、中間径繊維、微小管と呼ばれている。これらは細胞の形を維持するだけでなく、細胞同士の接着や、細胞の移動や貪食など、さまざまの機能を分担している。また、筋肉細胞においては筋収縮などを行っている。これらのしくみを学んでみよう。	永田和宏	永田和宏

回	テーマ	内　　容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
10	細胞のシグナル伝達	細胞は、増殖、分化、がん化、細胞死など様々なシグナルを受け取り、それに応答する。シグナルは何段階ものカスケードを経て、最終的には遺伝子の発現を制御する。これらのシグナル伝達には、GTP結合タンパク質やタンパク質のリン酸化が大きな役割を果たしている。このシグナル伝達のプロセスについて学ぶ。	河野憲二	河野憲二
11	細胞周期	生体中の細胞には、盛んに分裂している細胞と休止している細胞がある。分裂細胞では、DNA合成と細胞分裂が繰り返され、その周期は厳密に調節されている。細胞周期は、それに関わるタンパク質のリン酸化や分解により極めて巧妙に制御されていることがわかってきた。その調節機構について学ぶ。	同　上	同　上
12	細胞分裂	細胞分裂は、細胞増殖時におこる体細胞分裂と、2倍体の生殖細胞から1倍体の配偶子を生ずる減数分裂がある。これらの違いを学ぶと共に、分裂時の染色体の分配機構や細胞質分裂の分子機構について学ぶ。	同　上	同　上
13	細胞間のコミュニケーション	我々の体内では、多くの細胞が集まって組織や器官を作り生理機能が発揮される。細胞は隣接する細胞とさまざまなコミュニケーションを交わしている。ここでは主に、細胞間接着因子や細胞-基質接着因子などを中心に、それらの分子の機能について学ぶ。	高橋淑子（奈良先端科学技術大学院大学教授）	高橋淑子（奈良先端科学技術大学院大学教授）
14	発生と分化	受精卵からさまざまな形が作られる際、細胞は実にさまざまなふるまいをみせる。ここでは主に脊椎動物の発生現象のあらましについて学び、かたちづくりにおける細胞の挙動の基礎を理解する。	高橋淑子	高橋淑子
15	がんと細胞死	細胞の増殖・分化の制御機構に乱れが生じ、細胞が異常な分裂を示すようになったものががんである。一方、細胞はその役割を終えた時、またある種の刺激が加わったとき、自らを殺すアポトーシスとよばれるしくみを持っている。あるいは、発生の途中で不要になった細胞は死ぬようにあらかじめプログラムされている。がんと細胞死という細胞の生死に関わるふたつの側面について学ぶ。	森　正敬	森　正敬

＝　進化する宇宙（‘０５）＝（TV）

〔主任講師：　杉本　大一郎（放送大学名誉教授）〕
〔主任講師：　吉岡　一男（放送大学准教授）〕

全体のねらい

宇宙とその進化について、最新の知見に重点をおきながら論じる専門科目。宇宙がどのようにして始まり、進化して現在の多様性に富む宇宙になったかについて、その概要は共通科目の「宇宙とその歴史('04)」で述べられている。そこでは、そのような事柄を研究し解明することの意味と意義に重点がおかれているのに対し、この専門科目では宇宙の進化過程に現われるいろいろな天文現象についてその本性を解明すること、そこで起こっている物理過程を考慮しながら進化のドラマを構成することに重点をおく。そのため、全体の構成を星、銀河、宇宙の３つの階層に分け、それぞれの最先端における研究者が分担して講義する。天文現象を観測してそこから情報を読み取ることについては、これと並行して開設される「宇宙からの情報('05)」で詳しく議論される。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	進化する宇宙	宇宙がどのように始まり、進化してきたかを時間経過に沿って考える。それは宇宙に天体の階層構造が形成されてくる過程である。それをとおして、宇宙の構成について描像をつくり、それぞれの過程において何が問題になるかを述べ、この講義全体のための導入とする。	杉本大一郎（放送大学名誉教授）	杉本大一郎（放送大学名誉教授）
2	宇宙の進化を論ずるための基礎法則	宇宙の進化を論ずるための基礎的な法則のうち、放射とミクロの世界に関する法則、運動に関わる法則等を解説する。また観測結果の整理によく使われる図表についても解説する。	吉岡　一男（放送大学准教授）	吉岡　一男（放送大学准教授）
3	星の誕生と主系列星	恒星はどのようにして誕生するのか。また、太陽系のような惑星系や２つの星からなる連星系がどのようにして生まれるのかを解説し、恒星の光り輝く原因が水素の核融合反応によることを示す。見えない恒星の内部をどのようにして理解することができるかについても触れる。	蜂巣　泉（東京大学大学院准教授）	蜂巣　泉（東京大学大学院准教授）
4	恒星の進化と終末	恒星は時間が経つにつれてどのように進化するのか、その基礎を解説する。とくに、質量の比較的小さい中小質量星が赤色巨星へと進化し、ガスの一部を放出し、最終的に白色わい星になることが、散開星団や球状星団などの観測によって検証されることを示す。赤色巨星や白色わい星がどのような構造を持つかについても解説する。	同上	同上
5	超新星爆発と元素の進化	質量の大きい大質量星の進化とその最終段階としての超新星爆発について解説する。恒星の進化の過程をとおして恒星内部で合成された重元素が、超新星爆発をとおして宇宙空間に供給される。それが新しい星に取り込まれて現在の地球などで見られる元素組成になった。このような元素の化学進化について解説する。	同上	同上
6	連星の進化と終末	連星系は、その進化の途中で相手の星へガスを供給したり、また、相手の星からガスを受け取ったりすることで、単独星とは異なる進化の道を歩む。連星系における質量の交換を説明し、それが連星系の進化にどのような影響を及ぼすかを解説する。その結果、活動的な天体の多くが、ガスをやりとりする連星系であるとして説明可能なことを示す。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
7	われわれの銀河系	私たちの住んでいる天の川銀河がどのような天体なのかをまず理解する。天の川銀河に存在する星やガス星雲、星団などの性質を合わせて理解する。銀河系の中心部に何があるかについても考える。近傍の銀河と比較して、天の川銀河の理解を深める。銀河までの距離測定の方法を理解する。	谷口 義明（愛媛大学大学院教授）	谷口 義明（愛媛大学大学院教授）
8	一般の銀河	いろいろな形を持つ銀河の世界を探訪し、宇宙に存在する多様な銀河を理解する。銀河の力学的性質を理解し、銀河の構造の多様性について理解する。銀河の年齢について考え、銀河の進化について理解する。	同上	同上
9	活動銀河	銀河の中で起こる高エネルギー現象の現場を調べる。大質量星がバースト的に生まれている銀河を調べ、それが銀河の進化に与える影響について考える。銀河中心核に何があるかを考え、超大質量ブラックホールの存在を理解する。超大質量ブラックホールを起源とするさまざまな高エネルギー現象を概観する。	同上	同上
10	銀河団	銀河が集団になって存在している様子を調べる。連銀河（バイナリ銀河）、銀河群、銀河団などを例にとり、銀河の集団としての特性について理解する。また、銀河の性質がどのような影響を受けるかについて考える。さらに、宇宙における銀河の空間分布の様子を一般的に調べ、宇宙における構造形成について考える。	同上	同上
11	膨張宇宙	1915年の一般相対性理論の誕生によって、宇宙全体の進化を数式によって記述することが初めて可能になった。一般相対性理論に基づくフリードマン宇宙モデルについて解説し、その進化が宇宙の物質の量などによって、どのように異なることになるかを見る。併せて、膨張宇宙の特徴である赤方偏移やハッブルの法則などについても述べ、宇宙膨張の観測的証拠についても紹介する。	杉山 直（名古屋大学大学院教授）	杉山 直（名古屋大学大学院教授）
12	ビッグバン	膨張宇宙を逆に辿っていくと、非常に高密度な初期宇宙であったことが想像される。ガモフによって考え出された高温、高密度であった宇宙初期の状態こそビッグバンである。ビッグバンとその観測的証拠である宇宙マイクロ波背景放射について解説し、宇宙の辿ってきた熱史を紹介する。	同上	同上
13	宇宙の階層構造	現在の宇宙は、惑星、星、銀河、銀河群、銀河団、そして宇宙の大規模構造と、非常に多様かつ階層的な構造を示している。ここでは、銀河より大きいスケールの構造がいつ、どのように膨張宇宙の中で形成されてきたかについて、数値シミュレーションの結果も交えて解説する。それらを、最新の観測成果と比較する。	同上	同上
14	宇宙の進化と運命	膨張宇宙の進化を決定づける物質密度、空間曲率、宇宙項などがどのように決められてきたかを解説する。とくに、宇宙マイクロ波背景放射の温度揺らぎや、遠方の超新星の探査などについて述べる。その結果、私たちの宇宙が今後どのような運命をたどるのかについて、見ていく。	同上	同上
15	宇宙はなぜ進化する	これまでの講義では、宇宙がどのように進化し、現在の宇宙にどのような階層構造と多様性が実現されているかを見てきた。いっぽう物理学の一般的な理論によると、閉じたシステムのエントロピーは増大し、構造や多様性は消失する、すなわち物事は「進化」とは逆の方向に進むことになる。それにも関わらず宇宙が進化してきたのは何故であろうか、そこでどういうメカニズムが役割を果たしているのであろうか。このことに関する反省をとおして、非線形・非平衡の世界観に至る。	杉本大一郎	杉本大一郎

＝　宇宙からの情報（‘０５）＝（TV）

〔主任講師：　吉岡　一男（放送大学准教授）〕
〔主任講師：　杉本　大一郎（放送大学名誉教授）〕

全体のねらい

宇宙に関する科学は実証科学であるから、現実世界としての宇宙を対象とする。そのためには、宇宙と天体から微弱なシグナルとしてもたらされる情報を、観測をとおして読み取らなければならない。それには広く物理系分野にわたる高度な技術と科学が用いられる。情報を担ってくる電磁波や粒子は、最近ではあらゆる波長帯や特性にわたって観測され、それぞれに固有な側面に対応して、広くかつ深く情報が取得される。この講義ではそれらに関する最新の手段と方法、それによって得られた知見について、それぞれの最先端における研究者に論じてもらう。ここで取り上げられる天体現象が宇宙の進化という文脈において持つ位置と意味については、これと並行して開設される「進化する宇宙('05)」の講義を参照されたい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	宇宙の観測	宇宙を観測する際に、どのように広い物理パラメターの範囲と広いアスペクトから情報を得ようとしているか、また得られているかについて概観する。またそれらの特質について実験室科学の方法とも対比しながら論じ、この講義全体への導入とする。	杉本大一郎（放送大学名誉教授）	杉本大一郎（放送大学名誉教授）
2	観測のエネルギーバンド	宇宙からの情報を得るために、可視光だけではなく、電波からX線・ガンマ線に至る広範囲の電磁波が観測される。それは異なる波長が異なるエネルギーの光子に対応し、宇宙の異なる側面を示しているからである。ここでは、それぞれの波長の観測が宇宙のどのような側面について情報をもたらすかを、黒体放射の場合について解説する。	吉岡　一男（放送大学准教授）	吉岡　一男（放送大学准教授）
3	観測の分解能	宇宙の観測は、空間・時間・波長等のいろいろな分解能のもとで行なわれる。本章では、それぞれの分解能がどのような意味をもち、また、観測装置のどのような性能によって決定されるかを解説する。さらに、分解能とＳＮ比等との関係についても述べる。	同上	同上
4	光と赤外線で宇宙を見る	可視光から赤外線で宇宙からの情報を得るのに必要な基本的な概念として、望遠鏡の集光力や分解能、赤道儀や経緯儀、シーイングなど説明する。光の検出等について、眼視から写真へ、さらに２次元半導体検出器への発展を振り返り、現在の大型光学望遠鏡で使用されている最先端技術について、すばる望遠鏡の例をふんだんに取り入れて解説する。	林　正彦（自然科学研究機構国立天文台教授）	林　正彦（自然科学研究機構国立天文台教授）
5	天体物理学の発展	星の色とスペクトル線など分光学的性質を述べ、スペクトル分類、ＨＲ図などを解説する。続いて銀河の説明に入り、ハッブルによる銀河の「発見」、銀河の分類、活動する銀河について解説する。具体的な観測例をもとに、銀河の色、渦巻と星の形成など、基本的事項を解説し、そこで新しい観測技術が果たす役割を強調する。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
6	星と惑星系	星の物理的性質がその質量によって決まることから始めて、星の質量分布、最大質量、最小質量、褐色矮星について説明し、観測の視点から重要となるパラメータについて検討する。星と惑星系の形成に関するさまざまな現象とその観測について紹介して解説し、最後に太陽系外惑星の探査に触れる。	林　正彦	林　正彦
7	宇宙の構造	ハーシェルの銀河系宇宙モデルから、銀河が遠方の星の集団だと認識され、宇宙の大規模構造の発見に至るまでの、人類の宇宙認識の発展について、すばる望遠鏡の成果を交えて解説する。その際、それぞれの段階で新しい観測と観測技術がもたらした役割を強調する。ハッブルによる宇宙膨張の発見と、ビッグバン宇宙論への発展について解説し、最近の新しい技術による超遠方銀河の探索から分かってきた成果を紹介する。	同上	同上
8	電波を見る宇宙	電波による宇宙の観測が始まってから70年が経過した。この間の電波の観測によって数多くの発見がなされ、宇宙の新たな描像が明らかになり、認識が格段に深まった。この歴史を振り返りながら、電波による観測の特長や、観測の原理について解説する。	川辺　良平（自然科学研究機構国立天文台教授）	川辺　良平（自然科学研究機構国立天文台教授）
9	電波で探る宇宙の爆発・活動現象	電波の観測により、宇宙におけるさまざまな爆発現象、活動的な現象が明らかにされ、ダイナミックな宇宙の姿が解明されてきた。ビッグバン宇宙の証拠となる宇宙背景放射や、巨大ブッラックホールの電波観測や、電波銀河、超新星残骸、さらには、太陽活動などについて解説する。	同上	同上
10	電波で探る星間物質	星間物質の中でも低温ガス雲の構造や進化について概観する。とくに、星や惑星の材料となる、塵や分子ガスからなる低温の分子雲やその化学的な性質、分子雲の銀河系内部での分布などについて得られている知見を述べる。このような知見は高分解能による電波スペクトルの観測をとおして得られたものであることを強調する。	同上	同上
11	電波で探る天体の形成史	最近の電波観測により、星・惑星系の形成領域の観測や原始銀河の観測が飛躍的に発展してきた。ここでは、電波観測によって得られた天体形成の描像について解説する。このように比較的密度の高いガス雲の内部までの観測は同位元素を含む分子の電波スペクトル観測によって可能になった。	同上	同上
12	X線で宇宙を見る	可視光の千分の1以下の波長のX線は、高いエネルギーを持った粒子や1千万度を超える高温の領域から放射される。X線は地球大気に遮られるため、こうした高エネルギー天体からのX線放射が発見されてから、まだ40年間である。その間のX線観測の歴史を観測技術の進歩とともに辿る。	國枝　秀世（名古屋大学大学院教授）	國枝　秀世（名古屋大学大学院教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
13	X線で輝く激動する宇宙Ⅰ	X線で見た太陽は可視光では想像もできないもので、高温のコロナが激しく吹き出すものである。一般の恒星でも超新星爆発でできた高温ガスや、中性子星／ブラックホールに落ちていくガスがX線で光り輝くことが知られてきた。われわれの近傍にある天体で、X線というバンドからの観測によって初めて見えてきた激しい現象と、それを可能にした技術について解説する。	國枝　秀世	國枝　秀世
14	X線で輝く激動する宇宙Ⅱ	銀河や銀河団などという大きいスケールの天体を考える。個々の銀河ではその中心核にある巨大なブラックホールから、また銀河の集団では銀河間空間を埋める高温のガスから、強烈なX線が放射されている。その観測ではX線による画像を得ることが重要である。X線よりもエネルギーの高いガンマ線についても、きわめてエネルギーの大きい爆発現象が知られており、これらについても言及する。	同　上	同　上
15	光（電磁波）以外の宇宙からの情報	宇宙を知る手がかりは電磁波だけとは限らない。宇宙のどこかで加速された高エネルギーの粒子が地上にも降り注いでいる。また、物質とほとんど相互作用しないニュートリノを直接に観測することも可能になってきた。ブラックホールが生まれる時などに現れる、強い重力場の変化に伴う重力波についても、その観測を目ざした計画も紹介する。	同　上	同　上

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	総合科目	科目コード	1560808	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 数理ファイナンス （’０８）＝ （R）

〔主任講師（現職名）：津野　義道（上智大学教授）〕

講義概要

数理ファイナンスの分野から、2 つの話題をとりあげる。1 つは「効率的な株式投資の手法」である。これは多くの証券へ分散投資をする事により、投資に伴う「リスク」を小さくする方法である。他の1つは「証券市場の構造」である。証券価格が多くの投資家による均衡価格で決定されるならば、株式投資で「ただ儲け（自己資金なしである収益を得る事）」の機会は存在しない。この事を基礎にして、各種の金融派生商品(デリバティブ)の価格評価を考える。

授業の目標

前半(8回)で「分散投資によるリスク軽減効果」を学ぶ。リスクの最小化問題では、多変数の2次関数の極値問題を用いる。‘‘微積分’’を修得している事を期待するが、並行して微積分を学んでもよい。後半(7回)で、「ただ儲けの無い証券市場(無裁定証券市場)」の基本的な性質を学ぶ。ここでは、「ベクトルと行列」の知識が活用される。未修の人は、並行して学ぶ事を薦める。最終目標は「デリバティブの価格評価」である。

	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
1	株価データの収集と統計的処理	ある証券へ投資した場合の「収益率」を定式化する。収益率は‘‘直近の株価データ’’を用いて導入される。それらの収益率の平均値をとることで、近い将来の「期待収益率」が決定される。さらに、株価変動の大きさを測る「収益率の分散値」を求める。 【キーワード】 株価データの収集、 収益率、 収益率の平均値、収益率の分散値	津野　義道（上智大学教授）	津野　義道（上智大学教授）
2	単独銘柄への投資 ---- リスクの指標	株式投資における「リスク」を、どのように定式化すればよいのか という問題を考える。‘‘リスクの大小’’を、感覚ではなく数値で評価する問題である。リスクの指標として、収益率の分散値を採用する。「期待収益率」と「収益率の分散値」を基準にして、投資の効率性を判定する。 【キーワード】 リスクの指標、投資の効率性、リスク回避性	津野　義道（上智大学教授）	津野　義道（上智大学教授）
3	2 銘柄への分散投資	2つの銘柄への分散投資における「期待収益率」と、「収益率の分散値」を求める。分散投資における「リスク軽減効果」を学ぶ。 【キーワード】 多次元データにおける共分散、 相関係数	津野　義道（上智大学教授）	津野　義道（上智大学教授）
4	3 銘柄への分散投資	一般に、多証券への分散投資を考える。考え方は2証券の場合と同様である。期待収益率(平均値)と収益率の分散値を求める事になる。線形代数学(行列とベクトルの理論)が活用される。 【キーワード】 分散共分散行列、 対称行列、 多変数の2次形式(2次の斉次多項式)	津野　義道（上智大学教授）	津野　義道（上智大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	最小分散ポートフォリオ --- 効率的な境界	問題の定式化と、その解決方針を説明する。解決方針は、期待収益率が一定になるように「条件を付けたポートフォリオ」のなかで、リスクが最小になるものを決定する事である。ここでは、解析学で学ぶ「条件付極値問題」が応用される。 【キーワード】 条件付極値問題（Lagrange の未定乗数法）	津野　義道（上智大学教授）	津野　義道（上智大学教授）
6	最小分散ポートフォリオ（一般的な解法 I）	3銘柄への分散投資における問題点は、第 5 回で学んだ。今回は、『期待収益率が与えられた場合』に、リスクを最小化するようなポートフォリオを求める。2回に分ける。今回は、次回（第7回）の準備である。 【キーワード】 条件付極値問題、 Lagrange の未定乗数法	津野　義道（上智大学教授）	津野　義道（上智大学教授）
7	最小分散ポートフォリオ（一般的な解法 II）	今回で、『3 証券（多証券）への分散投資によるリスク軽減効果』の問題の結論が得られる。 【キーワード】 クラーメルの公式、 2次方程式の判別式、2ファンド分離定理	津野　義道（上智大学教授）	津野　義道（上智大学教授）
8	銀行預金と株式投資の効率な比率	手持ちの投資資金を、銀行預金と株式投資に分散して運用する場合を考える。このとき、ある特別なポートフォリオ（接点ポートフォリオ）が出現して、効率的な資金運用は『銀行預金と接点ポートフォリオへの投資比率を決めること』になる。 【キーワード】 標準偏差、接点ポートフォリオ、2ファンド分離定理	津野　義道（上智大学教授）	津野　義道（上智大学教授）
9	1期間モデルにおける不確実性の表現	明日の株価を「確率変数」として捉える。すなわち、k 個の‘‘経済状態’’からなる「状態空間」を導入し、明日の株価は、そのときの経済状態で決まる仮定とする。1個の証券の現在値 S_0 は確定値であるが、明日の価格 S_1 は k 次元の数ベクトルになる。証券数が N ならば、S_0 は数ベクトルになり、S_1 は行列で表示される。 【キーワード】 確率変数、状態空間、価格ベクトル、配当行列	津野　義道（上智大学教授）	津野　義道（上智大学教授）
10	証券市場の無裁定条件	株式投資における「ただ儲け（Arbitrage）」の定義を解説する。単独の商品に関しては「一物一価の法則」がある。保有する株数の組み合わせ（ポートフォリオ）では、t=0 での投資資金と t=1 での「投資成果」を比較する問題になる。 【キーワード】 一物一価の法則、取引戦略、グラフによる解法、ベクトル不等号	津野　義道（上智大学教授）	津野　義道（上智大学教授）
11	無裁定条件と状態価格 --- Stiemke の補題	「無裁定条件」のグラフによる解法は、2証券の場合しか役に立たない。今回で、n 証券からなる証券市場が「無裁定」であるための必要十分条件（状態価格の存在）を求める。「状態価格の存在」は、数理ファイナンス理論における『基本定理』である。 【キーワード】 状態価格、 Stiemke の補題（凸解析の分離定理）	津野　義道（上智大学教授）	津野　義道（上智大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	無裁定条件の応用問題	「状態価格の存在」で、証券市場の無裁定条件が判明した。状態価格は、各種のデリバティブの価格評価で中心的な役割を演ずる。今回は、「状態価格の存在」に関する応用問題を取り上げる。状態価格は、連立一次方程式の解である。連立一次方程式を解く手法も重要になる。 【キーワード】 無裁定条件と状態価格の存在(証券市場の基本定理)、連立一次方程式の解法	津野　義道(上智大学教授)	津野　義道(上智大学教授)
13	証券市場の完備性 ―― 状態価格の一意性	連立一次方程式における一般論を活用する。連立一次方程式に解が存在するとき、解に含まれる任意定数の個数(解の自由度)は、「線形代数学」の理論で得られていた。それを応用すれば、「状態価格」の一意性と、「証券市場の完備性」との関係が求まる。 【キーワード】 行列の階数(rank)、 複製可能性、証券市場の完備性	津野　義道(上智大学教授)	津野　義道(上智大学教授)
14	リスク中立確率測度	債券(銀行預金)を導入すれば、現在割引率を考えることにより、‘‘状態価格の和’’が 1 に基準化できる。この基準化で得られる状態価格は、状態空間における確率測度とみなせる。これを「リスク中立確率測度」という。 【キーワード】 無リスク債券、証券市場の利子率、リスク中立的な確率測度	津野　義道(上智大学教授)	津野　義道(上智大学教授)
15	金融派生商品の適正な価格評価	1 期間の離散的な証券市場における「金融派生商品(デリバティブ)」の‘‘現在価格’’を決める問題を考える。その手法の本質は、デリバティブを‘‘複製(replicate)’’するような取引戦略を考える事である。デリバティブの価格評価では、‘‘証券市場の完備性’’が重要な意味をもつ。 【キーワード】 金融派生商品、コール・オプション、プット・オプション、プット/コール・オプションの関係式	津野　義道(上智大学教授)	津野　義道(上智大学教授)

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	総合科目	科目コード	1560603	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　技術革新を支える物質の科学　（’０８）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：東　千秋（放送大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：飯田　汎（放送大学客員教授）〕
〔主任講師（現職名）：雀部博之（千歳科学技術大学学長）〕

講義概要

人的資源によって成り立つ以外にない日本は、「ものつくり」を一つの基盤とする科学技術立国を標榜している。科学技術の飛躍的な進歩による技術革新は新たな物質と材料の出現によってもたらされる。この技術革新をもたらす先端材料はそのもととなる物質の科学から生まれる。この科目では、そのような視点のもとに物質の科学がどのように技術革新を支えているのか、多分野の科学技術の課題を新しい時代を形成する知識社会、環境調和社会、生活文化社会という3つの社会的側面から理解できるよう講義を進める。

授業の目標

持続可能な未来社会の構築のために、技術革新につながる物質の科学が支える先端技術に焦点を絞り、「技術革新を支える物質の科学」について、豊富な具体例を映像で表現する。それは、科学技術立国日本の知的基盤を強化するために、広い世代を対象とする「技術と経営」の総合科目として、活用されることを期待するからである。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	I. 技術革新 1. 物質の科学と技術革新	科学技術の飛躍的な進歩による技術革新は新たな物質と材料の出現によりもたらされ、それは、また物質の科学から生まれる。技術革新のための新知識をどう創造するか、生活文化と環境調和のための科学技術の役割、科学技術をイノベーションに結びつけるための技術経営を背景に物質の科学と技術革新の関係を学習する。 【キーワード】 技術革新、物質の科学、新知識の創造、生活文化、環境調和、技術経営	東　千秋（放送大学教授）	東　千秋（放送大学教授） 飯田　汎（放送大学客員教授） 雀部博之（千歳科学技術大学・学長）
2	I. 技術革新 2. イノベーションとパラダイムの転換	歴史的な転換期にある現代社会では科学技術のみならず、経済、産業を巡り大きな変革に迫られている。多くのパラダイムの転換を経て進歩発展してきた現代社会における物質観から、未来に向けた科学技術の進化発展の様子を探り、イノベーションの役割とパラダイム転換の意義について学習する。 【キーワード】 パラダイムの転換、イノベーション、物質・エネルギー、科学技術、経済、産業	飯田　汎（放送大学客員教授）	飯田　汎（放送大学客員教授）
3	I. 技術革新 3. 科学技術のシーズと産業展開	「電気を通すプラスチックス」すなわち導電性高分子を例にとり、発明・発見を生む精神と背景、基礎的なサイエンスからデバイスへの展開、さらには産業化への道程を辿る。ノーベル化学賞受賞のヒーガー教授、マクダーミッド教授のインタビューを交えながら具体的に解説する。 【キーワード】 導電性高分子、二次電池、有機EL、ソフトマテリアル	雀部博之（千歳科学技術大学・学長）	雀部博之（千歳科学技術大学・学長） 飯田　汎（放送大学客員教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	II. 知識社会の創造 1. 知識社会を支える記録・記憶技術	記録技術は記録の高速化、記録密度の大容量化を目指して半導体デバイス開発、さらには分子メモリ・光メモリへの取組みが盛んに行なわれている。また複雑にネットワーク化された記録の検索の高速化が求められ、脳機能の模倣が重要視されている。これらの経緯を踏まえながら物質の果たす役割を解説する。 【キーワード】 DRAM、フラッシュメモリ、分子メモリ、光記録、パターン記録	雀部博之（千歳科学技術大学・学長）	雀部博之（千歳科学技術大学・学長） 飯田 汎（放送大学客員教授）
5	II. 知識社会の創造 2. バイオ・ゲノム科学とイノベーション	進化発展するライフサイエンスの中で、21世紀社会を支える一つの中心的な課題であるゲノム科学の進歩の様子を知り、その応用分野が医薬、食料、工業へと拡大発展している様子を学習することで、研究から産業発展の道につながる知識主導型の産業分野の例を通じてイノベーションのあり方を学習する。 【キーワード】 ゲノム、DNA、遺伝子操作、細胞、医療、食料、工業	飯田 汎（放送大学客員教授）	飯田 汎（放送大学客員教授）
6	II. 知識社会の創造 3. 科学の統合で開くナノテクノロジー	ナノサイズの物質がもたらすナノテクノロジーは、電子情報、化学素材、マシーン、バイオテクノロジーなど多岐の分野にわたる21世紀の基幹技術と考えられる。そこでは多分野の科学の統合が必要である。そのような統合で開かれるナノテクノロジーについて展望し、このテクノロジーのビジネス展開に何が必要かを考える。 【キーワード】 ナノテクノロジー、ナノマテリアル、科学の統合、ビジネス展開	東 千秋（放送大学教授）	東 千秋（放送大学教授） 飯田 汎（放送大学客員教授）
7	III. 環境調和社会 1. 物質の循環とプロセス・イノベーション	環境調和社会を形成する要素である物質・エネルギーの循環を通して、地球資源の有効活用の意義を循環社会の骨組みから理解し、プロセスイノベーションが世界規模で不可欠な課題であることを学習する。 【キーワード】 循環型社会、プロセスイノベーション、ゼロエミッション、地球資源、インバース・マニュファクチャリング	飯田 汎（放送大学客員教授）	飯田 汎（放送大学客員教授）
8	III. 環境調和社会 2. 未来のエネルギー資源とその利用	再生不可能なエネルギー資源の枯渇と地球温暖化が深刻な問題となっている。未来のエネルギー資源をどう利用すべきか、太陽電池、バイオマス、水素エネルギー、核融合エネルギーなどの利用の可能性などについて学ぶ。さらに、これらのエネルギー技術が市場の制約とどう関係しているのかを理解する。 【キーワード】 有限な地球の資源の枯渇、地球温暖化、未来のエネルギー資源、エネルギー技術と市場	東 千秋（放送大学教授）	東 千秋（放送大学教授） 飯田 汎（放送大学客員教授）
9	III. 環境調和社会 3. 社会基盤を支える高分子材料の高性能・高機能化	現代社会の基盤をになう材料を、高分子材料、複合材料の性能と機能で理解する。また、これら高性能・機能材料の産業的利用を通じて、地球資源の視点から物質を理解しながら、技術と市場を通じてプロダクトイノベーションの意義を学習する。 【キーワード】 高分子材料、複合材料、機能性材料、高性能材料、プロダクト・イノベーション	飯田 汎（放送大学客員教授）	飯田 汎（放送大学客員教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	III. 環境調和社会 4. 社会基盤を支える金属・無機材料の高性能・高機能化	現代社会の基盤をになう材料を、金属材料およびセラミックスなど無機材料を通じて、高性能・高機能材料の物質としての理解と機能の価値を学習し、あわせて技術と市場からプロダクト・イノベーションへの理解を深める。 【キーワード】 金属材料、セラミックス材料、無機材料、プロダクト・イノベーション	飯田 汎 （放送大学客員教授）	飯田 汎 （放送大学客員教授）
11	IV. 生活文化社会 1. ユビキタス社会と光ネットワーク	「いつでも、どこでも」情報を入手・発信できるユビキタス社会において光通信技術の高度化及び光ネットワークの充実は不可欠であり、携帯文化を作り上げている。またICタグがいたるところで活用される社会となり、生活様式にも影響を与えている。物質の側面からこの現状を眺める。 【キーワード】 光ネットワーク、携帯文化、U-City、ICタグ	雀部博之 （千歳科学技術大学・学長）	雀部博之 （千歳科学技術大学・学長） 飯田 汎 （放送大学客員教授）
12	IV. 生活文化社会 2. 安心・安全社会を支えるロボットの科学技術	鉄腕アトムを理想とするロボットが人間社会と共存するために求められる機能とは何かを念頭において、ロボットの機能を制御するためのセンサ技術、人にやさしいロボットの動きとソフトマテリアルの役割について解説する。 【キーワード】 ロボット制御技術、センサ技術、ソフトマテリアル	雀部博之 （千歳科学技術大学・学長）	雀部博之 （千歳科学技術大学・学長） 飯田 汎 （放送大学客員教授）
13	IV. 生活文化社会 3. 先進医療を支えるライフサイエンス	学際領域に広がるライフサイエンスが支える先進医療の現状と展望を再生医療と人工血液を例に知る。そして、そこでの物質の科学の役割とイノベーションがどのように展開しているのかを理解する。 【キーワード】 先進医療の現状と展望、再生医療、人工血液、物質の科学の役割とイノベーション	東 千秋 （放送大学教授）	東 千秋 （放送大学教授） 飯田 汎 （放送大学客員教授）
14	IV. 生活文化社会 4. 映像の文化とディスプレイの科学	フラットパネルディスプレイ（FPD）開発の歴史を振り返り、現状分析と将来について解説。また、CCDカメラの技術展開から生まれたデジカメが銀塩写真とどう棲み分けするのかという観点で映像・画像文化のあり方について考える。映像・画像技術の進化発展を通じてパラダイムの転換について考察する。 【キーワード】 フラットパネルディスプレイ、デジカメ、CCDカメラ、銀塩写真、映像・画像文化、パラダイムの転換	飯田汎 （放送大学客員教授） 雀部博之 （千歳科学技術大学学長）	飯田汎 （放送大学客員教授） 雀部博之 （千歳科学技術大学学長）
15	V. 物質の科学と未来の展望	物質の特性解析や機能設計にコンピュータ・シミュレーションが活用され、研究の効率化や環境調和の観点から重要な手段になっている。また、実験が不可能な現象を予測する上でもそれは有効な手段となっている。物質の科学と未来の展望では、物質の科学とその関わりについて学ぶとともに物質の科学の未来を展望する。 【キーワード】 コンピュータ・シミュレーション、物質の特性解析、物質の機能設計、環境調和、未来の展望	東 千秋 （放送大学教授）	東 千秋 （放送大学教授） 飯田 汎 （放送大学客員教授） 雀部博之 （千歳科学技術大学・学長）

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	総合科目	科目コード	1560506	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ バイオサイエンスで豊かな暮らし （’０８）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：冨田房男（放送大学特任教授）〕

〔主任講師（現職名）：塚越規弘（放送大学特任教授）〕

講義概要

有史以前より人類はいわゆる”バイオサイエンス”を利用して生活を豊かにしてきた。20世紀後半にその本質がわかり、意図的に利用されだし21世紀はバイオサイエンスの時代と言われるようになった。バイオサイエンスの主役を演じてきた微生物とその優れた潜在能力の開発・利用について暮らしの観点から講義する。また、バイオサイエンスを基礎・応用の両面から講義し、バイオサイエンスの大いなる可能性を述べ、21世紀のバイオサイエンスを展望する。

授業の目標

我々の身の回りには、空気中にも、水中にも、土中にも無数の微生物が生息し、我々は食生活をはじめとして多方面で多様な微生物の恩恵に浴して暮らしていることを理解する。また、微生物がバイオサイエンスの根幹となり、如何に重要な役割を演じ、暮らしの中で生か(利用)されてるかを理解できるようにする。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
1	バイオサイエンスの世紀	微生物は醸造、発酵工業、医薬品工業など多方面で利用され暮しを豊かにしている。一方、分子生物学的研究の材料としても多用され、今日のバイオサイエンスの時代を築いた。暮しの中で微生物が如何に利用されいるか全般的な解説を行うとともにバイオサイエンスの現状を理解する。 【キーワード】 微生物機能、遺伝子組換え技術、バイオサイエンス	冨田房男(放送大学特任教授)、塚越規弘(放送大学特任教授)	冨田房男(放送大学特任教授)、塚越規弘(放送大学特任教授)
2	微生物とはどんな生物か	微生物は肉眼で見えない微小な生物の総称であり、あらゆる地球環境に棲息し生態系を維持している。その数は無限に近く系統的に分類することが必須である。これからの授業との関連で暮しを豊かにする微生物に焦点を当て、その分類学的特徴を解説する。 【キーワード】 原核生物、真核生物、大腸菌、枯草菌、放線菌、酵母、こうじ菌、バクテリオファージ(細菌ウィルス)	塚越規弘(放送大学特任教授)	塚越規弘(放送大学特任教授)
3	微生物の利用<I> 伝統的発酵食品と酵素生産	伝統的な発酵食品工業における微生物の役割の解明、その機能を利用した発酵食品や有機酸の生産への応用、さらに食品用、工業用の酵素生産への応用を解説する。 【キーワード】 発酵食品、有機酸、酵素	冨田房男(放送大学特任教授)、塚越規弘(放送大学特任教授)	冨田房男(放送大学特任教授)、塚越規弘(放送大学特任教授)
4	微生物の利用<II> アミノ酸の生産(1)	アミノ酸発酵工業を拓いたグルタミン酸生産菌の発見と工業化について、発見と時代背景を解説する。また、アミノ酸の代謝制御の研究を基盤に開発された代謝制御発酵の成功例であるリジンとスレオニンの発酵生産についても解説する。 【キーワード】 アミノ酸発酵、グルタミン酸、リジン、スレオニン	冨田房男(放送大学特任教授)	〃 冨田房男(放送大学特任教授)

専門科目 自然の理解

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	微生物の利用<III> アミノ酸の生産(2)	グルタミン酸、リジン、スレオニン以外のアミノ酸の発酵生産について説明するとともに、酵素を利用したアミノ酸生産(酵素法)についても解説する。最後にアミノ酸生産についてまとめ、わが国で発展した優れた発酵技術を解説する。 【キーワード】 発酵法(バリン、ロイシン、イソロイシン、トリプトファン、チロシン、フェニールアラニン)、酵素法(アスパラギン酸)、低カロリー甘味料アスパラテーム	塚越規弘(放送大学特任教授)	塚越規弘(放送大学特任教授)
6	微生物の利用<IV> 核酸関連物質の生産	アミノ酸発酵の成功に刺激されて、うま味調味料や化学品として重要な核酸関連物質も酵素分解法、直接発酵法、半合成法などで生産することに成功した。さらにはATPやNAD(P)Hの発酵生産について解説する。 【キーワード】 イノシン酸、グアニル酸、ATP、NAD(P)H	冨田房男(放送大学特任教授)	冨田房男(放送大学特任教授)
7	微生物の利用<V> 化学品の生産	微生物による物質生産は、リサイクル可能な資源を用いる利点から様々な化学品が製造されている。アルコール類、脂質、化学品(アクリルアミド、光学異性体等)の発酵生産と今後の展開について解説する。 【キーワード】 アルコール類、アクリルアミド、光学異性体、PUFA	冨田房男(放送大学特任教授)、塚越規弘(放送大学特任教授)	冨田房男(放送大学特任教授)、塚越規弘(放送大学特任教授)
8	微生物の利用<VI> 抗生物質と医薬品の生産	ペニシリン、ストレプトマイシンを始めとする抗生物質は、人類に大きな福音をもたらした。その他抗ガン剤などが微生物で多数生産されている。これら医薬品生産菌の探索方法、生産方法の今後の展開について解説する。 【キーワード】 ペニシリン、ストレプトマイシン、抗癌抗生物質、免疫調節物質	冨田房男(放送大学特任教授)	冨田房男(放送大学特任教授)
9	バイオサイエンス<I> 遺伝子組換え技術の誕生	遺伝子組換え技術とは、自律複製能を有するプラスミドと種々の生物に由来するDNA断片を連結させて組換え体DNAを作製し、宿主細胞に導入し複製させる技術である。組換え体DNA作製には、アーバーの発見した制限酵素により初めて可能となり、今日のバイオサイエンスの根幹となった。この極めて重要な発見の経緯についてアーバー先生から直接話して頂く。 【キーワード】 アーバー博士、制限酵素、プラスミド、DNA連結酵素、形質転換	塚越規弘(放送大学特任教授)	塚越規弘(放送大学特任教授)
10	バイオサイエンス<II> 遺伝子のクローニング	異種遺伝子産物の生産には異種遺伝子をクローニング(単離)して生産宿主細胞中で発現させなければならない。大腸菌を宿主にした遺伝子のクローン化方法を解説する。cDNA(相補的DNA)の合成とクローン化ならびにPCR法についても解説する。 【キーワード】 クローニング、イントロン、エキソン、逆転写酵素、cDNA、PCR	塚越規弘(放送大学特任教授)	塚越規弘(放送大学特任教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
11	バイオサイエンス〈III〉組換えタンパク質の生産	効率の良い異種遺伝子発現とタンパク質の分泌生産には、最適なプロモーターとシグナルペプチドの利用が必須である。遺伝子の発現調節、タンパク質分泌機構および組換えタンパク質生産について解説する。 【キーワード】 遺伝子発現制御、プロモーター、シグナルペプチド、各種宿主と異種タンパク質生産	塚越規弘(放送大学特任教授)	塚越規弘(放送大学特任教授)
12	バイオサイエンス〈IV〉食糧への応用	組換えDNA技術の進歩によって、大豆、トウモロコシ、ナタネなどを意図的でしかも短時間に育種できるようになった。これらを利用した組換え食品の生産はもとより、バイオマスエネルギーへの利用も可能になりつつあることを解説する。 【キーワード】 作物育種、組換え食品、機能性食品、エネルギー作物	冨田房男(放送大学特任教授)	冨田房男(放送大学特任教授)
13	バイオサイエンス〈V〉医薬品への応用	ヒトの希少タンパク質(インシュリン、インターフェロンなど)を組換えDNA技術を用いて微生物で大量生産することができるようになった。また、タンパク質工学技術で既存のタンパク質を改良し、これまでにない治療が可能となった。具体例をあげて解説する。 【キーワード】 タンパク質工学、インシュリン、ヒト成長ホルモン、インターフェロン、ワクチン	冨田房男(放送大学特任教授)	冨田房男(放送大学特任教授)
14	バイオサイエンス〈VI〉エコシステムの保全と環境浄化	微生物は地球上における元素の循環を行っている。環境浄化(廃棄物処理、廃水処理など)、タンカー事故による原油汚染の処理にも微生物が利用されている。また、非天然難分解物(合成樹脂、ポリ塩化物など)の浄化にも役立っていることを解説する。 【キーワード】 物質循環、金属処理(回収)、廃水処理、コンポスト、バイオレメディエーション	冨田房男(放送大学特任教授)	冨田房男(放送大学特任教授)
15	バイオサイエンスの新たな可能性	バイオサイエンスに基づいた新しい技術が色々な分野で開発されている。これまでにヒトの活動で引き起こされた環境破壊などの問題解決、食糧確保や新しい医療法の開発などによって、「生活の質」(クオリティオブライフ)を持続することへのバイオサイエンスの可能性を展望する。 また、外国の有識者の考え方もインタビュー形式で紹介する。 【キーワード】 バイオサイエンスの未来像	冨田房男(放送大学特任教授)、塚越規弘(放送大学特任教授)	冨田房男(放送大学特任教授)、塚越規弘(放送大学特任教授)

＝　学校経営と学校図書館（‘０４）＝（Ｒ）

〔主任講師：　渡辺　信一（元　同志社大学教授）〕
〔主任講師：　天道　佐津子（（社）全国学校図書館協議会参与）〕

全体のねらい

学校図書館にかかわる基本的な事柄について理解をはかる。司書教諭の資格取得に資する科目、５科目のうちで最初に履修すべき、入門的で幅広い内容をめざす。すなわち、学校図書館のもつ理念を明らかにし、その沿革の流れの中で学校図書館法の制定と改正の意義を取り上げ、さらに教育行政と学校図書館、管理と運営、図書館活動、学校図書館メディアとその選択・提供、施設・設備と備品、そして学校図書館経営の責任者としての司書教諭の任務と役割、養成と研修などについて概観し、全般的な理解を深める。また、倫理綱領や知的自由、学校司書、公共図書館との連携協力やネットワーク、学校図書館とコンピュータ、評価と改善などにも言及する。同時に今日的な課題にも触れ、将来への展望から発展へと導きたい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	学校図書館の理念と教育的意義	学校教育における学校図書館の果たす役割を明らかにし、学校図書館の教育的意義と理念など、学校図書館に関する基本的な理解を深める。	渡辺　信一（元同志社大学教授）	渡辺　信一（元同志社大学教授）
2	わが国の学校図書館：その歴史的経緯	わが国の学校図書館について、その沿革と歴史的経緯について述べる。特に戦後における学校図書館法について、その成立と改正に言及する。	同　上	同　上
3	教育行政と学校図書館	学校教育法と学校図書館法、社会教育法・図書館法と学校図書館、教育サービスとしての学校図書館施策（国・地方自治体）など、学校経営と学校図書館を取り巻く行政上、法制上のかかわりや仕組みについて、またその基本的な理念や法解釈、そして現実の課題もとりあげて論じる。	大場　滋（日本体育大学講師）	大場　滋（日本体育大学講師）
4	学校図書館の経営	校内組織の中の学校図書館の位置づけ、学校図書館経営のための組織及び方針、経営計画の立案と実施、学校図書館担当の教職員、予算、施設と設備、メディアサービス、学校図書館環境の設備、情報ネットワークの中の学校図書館経営などについて論じる。	天道佐津子（（社）全国学校図書館協議会参与）	天道佐津子（（社）全国学校図書館協議会参与）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	学校図書館の施設、設備および備品	施設、設備、備品の重要性について述べる。児童・生徒にとって学校図書館が快適に学べる環境であるよう、基本的理念の裏打ちと利用する立場からの視点を重視して、楽しく読書し、心地よく効果的な学習スペースを取り上げる。	岩崎　れい（京都ノートルダム女子大学准教授）	岩崎　れい（京都ノートルダム女子大学准教授）
6	学校図書館メディアの選択と管理、提供（1）	学校図書館におけるメディアとは何か、をまず取り上げ、学校図書館メディアの教育的意義、学校図書館メディアの内容と構成、学校図書館メディアの選択と収集、学校図書館メディアの管理と提供など、学校図書館の経営的視点からも論じる。なお、ここでは印刷メディアを中心に論じる。	天道佐津子	天道佐津子
7	学校図書館メディアの選択と管理、提供（2）	上記（1）に加えて、ここでは非印刷メディアを中心に論じる。	天道佐津子 戸田久美子（同志社国際中学・高等学校司書教諭）	天道佐津子 戸田久美子（同志社国際中学・高等学校司書教諭）
8	司書教諭の任務と役割	司書教諭は、メディアの専門家、学校図書館活動の推進者、学校図書館経営の中核としての活動が求められる。そのための司書教諭の任務と役割について、広い視野から論じる。	天道佐津子	天道佐津子
9	司書教諭の養成と研修	学校図書館においては、とりわけ人とその栄養が大切な基盤となる。そのような観点で養成と研修、その現状と課題、そして学校図書館事務職員の使命とその倫理について論じる。	渡辺　信一	渡辺　信一
10	学校図書館の活動	学校図書館活動は教職員、児童・生徒を主な対象とする。ここでは教育計画と学校図書館、学校図書館活動の内容と方法、学校図書館活動の拡大などを論じる。併せて学校図書館の地域開放や著作権問題にも触れる。	天道佐津子	天道佐津子
11	司書教諭／図書館担当職員の活動（小学校）	学校図書館スタッフの構成と分担、学習指導的な活動、読書指導的な活動、図書館が学校全体に働きかける活動、読書指導的な活動、図書館が学校全体に働きかける活動、調べ学習、ストーリーテリング・絵本の読み聞かせ・ブックトークなどのほか、小学校特有の活動や課題について論じる。	天道佐津子 林　容子（浜松市立上島小学校司書教諭）	天道佐津子 林　容子（浜松市立上島小学校司書教諭）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	司書教諭／図書館担当職員の活動（中学校・高等学校）	学校図書館の授業に対する支援を中心に中学・高等学校における学校図書館活動を紹介する。問題解決学習の導入により学校図書館が重要性を増す課程をたどり、司書教諭の役割や司書教諭によって行われる活動内容の変容を中心に論じる。	渡辺　信一 家城　清美（同志社女子中学・高等学校司書教諭）	渡辺　信一 家城　清美（同志社女子中学・高等学校司書教諭）
13	図書館協力とネットワーク	高度情報通信社会においては、情報ネットワークを組んだ図書館間の相互協力による資料や情報の提供が重視される。図書館相互協力／ネットワークの理念と学校図書館；情報ネットワークの形成とリソースシェアリングの重要性、そして学校図書館と公共図書館との連携・協力について論じる。	柴田　正美（帝塚山大学教授）	柴田　正美（帝塚山大学教授）
14	学校図書館の評価と改善	学校図書館の評価の意義とその方法、経営・活動・管理・調査・統計などの評価の実際、および改善計画など、学校図書館経営全般の評価と改善について論じる。	天道佐津子	天道佐津子
15	研究および課題と展望	学校図書館の研究の領域や方法、そして、専門職として社会的評価につながるという観点からも不断の研修や研究の必要性、そして課題と展望、研究に必要な基本的文献についても言及する。	渡辺　信一	渡辺　信一

＝学校図書館メディアの構成（‘０５）＝（Ｒ）

〔主任講師：　高鷲　忠美（八洲学園大学教授）〕
〔主任講師：　志保田　務（桃山学院大学教授）〕
〔主任講師：　北　　克一（大阪市立大学教授）〕

全体のねらい

学校図書館の「読書センター」機能、「学習情報センター」機能を十分に発揮するためには、図書を初めとする印刷メディア、CD,ビデオなどの視聴覚メディア、電子メディアなどが十分に備えられ、検索可能な状況であることが不可欠である。このために、世の中に存在するメディアの中から学校図書館活動にとって必要なものを選択、収集し、これらを有効・適切に利用者（児童生徒、教職員）に利用してもらうための資料・メディア組織の活動を行う。本科目では、この活動をなるべく具体的に述べる。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	学校図書館メディアの構成：資料の選択・収集・組織化	学校図書館の活動が十分に行われるためには、十分な数の質の良いメディアの存在が不可欠である。構築のための様々な作業や、メディアを生かすメディア組織化の業務を図書館活動全体の視点から概説する。	高鷲　忠美（八洲学園大学教授） 志保田　務（桃山学院大学教授）	高鷲　忠美（八洲学園大学教授） 志保田　務（桃山学院大学教授）
2	学校図書館メディアの種類と特性	学校図書館メディアの種類と、それぞれの特性およびそれらを学習にどう生かすかを述べる。	平井　尊士（兵庫大学情報科学センター専任講師） 志保田　務	平井　尊士（兵庫大学情報科学センター専任講師） 志保田　務
3	学校図書館メディアの選択と収集	学校図書館メディアの選択と選択のための情報源の種別とその活用について述べる。続けて、学校図書館におけるその収集方針と選択方針について述べる。	志保田　務 平井　尊士	志保田　務 平井　尊士
4	メディアの配列１：書架（配架）への案内	学校図書館でのサイン計画や所在記号や別置記号の役割と実際を取り上げる。図書館入り口には館内各コーナーへの案内が掲示される。また、書架ごとに、配架されているメディアの分野などが表示される。各メディアには保管されている書架などを示す記号（所在記号，別置記号）をラベルなどを添付して表示する。	志保田　務	志保田　務

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	メディアの配列2：主題別配架：分類配架	通常の図書に対して採用の主題別配架、分類別配架の意義を考え、図書分類表の各種について概観する。その上で現在日本の分類作業で標準的に使用されている『日本十進分類法』（NDC 新訂9版、1995）について詳しく説明する。	志保田　務	志保田　務
6	メディアの配列3：日本十進分類法	NDC新訂9版における第一次区分（類）、第二次区分（綱）の全部と第三次区分（目）の一部を示し、簡略な分類作業の演習を行う。学校図書館での分類の精粗についても検討する。	志保田　務	志保田　務
7	メディアの配列4：所在記号の表示から配架作業へ	分類記号、図書記号などから構成される所在記号の決定と資料・メディアおよび目録記入への表示の実際を説明し、利用しやすい配架作業の実際を検討する。	志保田　務	志保田　務
8	目録の意義・種類と機能	学校図書館活動において「目録」がどのような意義を有しているのか、また物理的形態、アクセス・ポイントからみた目録の種類を説明する。さらに、現在図書館の多くは、目録作業に使用するデータを図書館外の機関に依存しているが、その実態について概説する。	高鷲　忠美	高鷲　忠美
9	目録規則と記述、アクセス・ポイントの実際	目録作業の基礎となる目録規則の歴史などを簡略に説明し、日本の代表的な目録規則である『日本目録規則1987年版改訂2版』(NCR1987R2)による記述の作成、アクセス・ポイント（標目）の選択について説明する。また、目録の配列の原則を簡単に説明する。	高鷲　忠美	高鷲　忠美
10	コンピュータ目録1：書誌レコードの作成	コンピュータ目録における書誌レコード(目録記入)の内容とその実際を取り上げる。併せて、書誌レコードから用意される検索用索引について取り上げる。	志保田　務 北　克一(大阪市立大学教授)	志保田　務 北　克一(大阪市立大学教授)
11	コンピュータ目録2:コンピュータ目録の検索	コンピュータ目録検索法を解説する。一般にコンピュータ目録が提供する「簡易検索」と「詳細検索」について述べる。併せて、検索結果の表示方法や結果の加工などの機能についても述べる。	志保田　務 北　克一	志保田　務 北　克一

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	主題からの目録検索1：分類目録	主題からメディアを検索することの意義を説明し、分類記号からの検索の特徴と限界を述べる。	北　克一	北　克一
13	主題からの目録検索2：件名目録作成作業	主題を言葉から検索する手段としての件名目録の意義、特性を「調べ学習」などと関連づけて概説する。件名作業には『基本件名標目表』(BSH 第4版、1999)を用いるので、この表の適用法について述べる。	北　克一	北　克一
14	コンピュータ目録と地域の図書館の連携	公共図書館と学校図書館の連携による地域総合目録の構築や資料の物流体制も整ってきた。現状と将来のあり方を展望する。	北　克一	北　克一
15	学校図書館の機能を支えるメディア組織化の役割	現代の学校図書館メディアおよびメディア組織化について総合的に考察する。以上によって、学校教育に活用される図書館メディアの選択・収集・組織化についてまとめる。	高鷲　忠美 志保田　務 北　克一	高鷲　忠美 志保田　務 北　克一

＝学習指導と学校図書館（‘０５）＝（TV）

〔主任講師：　髙橋　元夫　（慶應義塾大学非常勤講師）〕
〔主任講師：　堀川　照代　（島根県立大学短期大学部教授）〕
〔主任講師：　平久江　祐司（筑　波　大　学　准　教　授）〕

全体のねらい

教育課程の展開に寄与し、児童生徒が学ぶ力を育むことが学校図書館の重要な目的であることを認識し、そのために学校図書館が実施しなければならないことを具体的に把握する。

本科目では、まず、教育課程と学校図書館のかかわりを縦覧し、図書館活用教育のあるべき姿を検証する。次に、図書館と図書館メディア活用能力育成の意義を知り、指導内容、指導方法を学習する。

さらに、総合的な学習、および、特別支援教育における学校図書館メディアの活用や、教授・学習活動を支援する情報サービスについて、多くの事例を通して理解を深める。

回	テーマ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	教育課程と学校図書館	学校図書館の意義、目的を確認し、学校図書館の教育課程の編成へのかかわり、学校指導の展開に寄与する姿を明らかにする。また、学校図書館メディアの選択に際し留意すべきことを検討する。	高鷲　忠美（八洲学園大学非常勤講師）	高鷲　忠美（八洲学園大学非常勤講師）
2	図書館活用教育と学校図書館	主体的な学習者を育てるためには、図書館活用教育が必要である。では、図書館活用教育はどのように実施されるのか。そのありようを検証し、学校図書館の果たす役割を把握する。	同　上	同　上
3	学校図書館メディア活用能力の育成	図書館活用教育の核となるのは、メディア活用能力の育成である。では、メディア活用能力とは何か。その育成はどのように行われるのか。実践を踏まえてメディア活用能力の育成過程を検証する。	平久江　祐司（筑波大学准教授）	平久江　祐司（筑波大学准教授）
4	学校図書館メディア活用能力の育成計画	学校図書館メディア活用能力の育成は、学校の教育目標に基づいて計画的に進められる。その計画は、学校全体の計画として作成され実行される。ここでは計画立案の具体的過程を学習する。	同　上	同　上
5	学校図書館メディア活用能力育成計画の実施	できあがった計画案は、どのように実施されるか。ここでは実施の機会、時間のとり方、指導方法や手段、などについて学習する。また実施にあたっては、多くの人々の協力が必要である。その協働のようすも見てもらう。	髙橋　元夫（慶應義塾大学非常勤講師）	髙橋　元夫（慶應義塾大学非常勤講師）
6	図書館および図書館メディアの使い方とその指導	児童生徒には図書館になれてもらうとともに、図書館のしくみや使い方を指導することになる。そこで、図書館や図書館メディアを上手に使ってもらうために指導すべきこととその方法を学習する。	同　上	同　上
7	情報メディアの探索と収集	情報・資料を効率よく探索するためには、テーマの絞込みやキーワードの設定の仕方を学ぶことが必要である。ここでは、それらの指導方法に触れ、情報・資料を探すためのいろいろな道具（書誌や索引）について学ぶ。	堀川　照代（島根県立大学短期大学部教授）	堀川　照代（島根県立大学短期大学部教授）

回	テーマ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
8	情報メディアの利用	入手した情報・資料のなかから、必要な情報を取り出す方法（要約、抜き書き、引用）の指導について考え、辞書、事典、図鑑、年鑑などの参考図書の使い方、インタビューの仕方やインターネットの利用法について学ぶ。	堀川　照代	堀川　照代
9	情報のまとめ方および伝達と評価	取り出した情報を整理・分析して組み合わせ、自分の考えを加えて新たな情報として発信するという、情報活用の最終段階について考える。さらに、情報活用のプロセスとその成果を評価することを学ぶ。	同　上	同　上
10	学習指導における学校図書館の活用	実際の学習指導の中での学校図書館の活用法を学習する。まず、図書館メディアと学習指導のかかわりを検証する。そのあとで、学習指導における支援活動を紹介する。	平久江　祐司	平久江　祐司
11	小学校における総合的な学習と情報メディア	小学校における総合的な学習と学校図書館のかかわりを検証する。学校図書館は総合的な学習の展開に欠くことのできないサービス機関である。一方学校図書館メディア活用能力育成指導の立場からしても、学校図書館は重要な役割を果たす場となる。低学年の場合は、生活科として取り上げる。	高橋　元夫	高橋　元夫
12	中学・高等学校における総合的な学習と情報メディア	中学校と高等学校における総合的な学習と学校図書館のかかわりを検証する。	同　上	同　上
13	特別支援教育と学校図書館	特別な支援を必要とする児童生徒への学習支援も学校図書館の重要な役割である。ここでは、特別支援教育における学校図書館の役割、意義を把握する。そして、優れた実践例を検証し、その全体像を理解できるようにする。	野口　武悟（川村学園女子大学非常勤講師） 平久江　祐司	平久江　祐司
14	教授・学習活動を支援する情報サービス	学校図書館は、児童生徒の学習活動に対しても、教職員の教育活動に対しても、必要な情報を提供している。レファレンスサービスをはじめ、どのような情報サービスが行なわれているかを検証し、児童生徒に対する情報提供で留意すべき点について考える。	堀川　照代	堀川　照代
15	図書館活用教育の課題と展望	印刷教材では、14回の講義を振り返り、学習指導と学校図書館にかかわる課題をとり出してみることにする。 放送教材では、本講義にかかわった4人の教員でそれらの課題について映像資料を見ながら話し合うことにする。	高橋　元夫	高橋　元夫 堀川　照代 平久江　祐司 高鷲　忠美

＝読書と豊かな人間性（‘０４）＝（TV）

〔主任講師：　増田　信一（放送大学客員教授）〕
〔主任講師：　朝比奈　大作（横浜市立大学教授）〕
〔主任講師：　米谷　茂則（明治大学非常勤講師）〕

全体のねらい

学校図書館法の改正に伴い、司書教諭の配置が制度化されたのに対応して、司書教諭の職務内容について解説し指導して、司書教諭の資格を与えるために設定された五つの科目の一つ。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	読書活動の意義と目的	読書活動が豊かな人間性を形成する上で重要な意義を持つということを前提に、読書指導の本質を考察する。教科教育と読書指導との違いを意識しながら、適書に出会う機会を作ること、良好な読書環境を作ることなど、具体的な読書指導を行うために必要な学校図書館のあり方を解説する。	朝比奈大作（横浜市立大学教授）	朝比奈大作（横浜市立大学教授）
2	読書能力の発達	読書能力とは言葉（書かれた言葉）から具体的なイメージを喚起する想像力のことで、一定の段階を追って発達していくと考えられる。膨大な統計調査から得られたデータを元に、具体的な読書能力の発達段階について解説し、その発達を刺激しうる指導のあり方を考察する。	同上	同上
3	読書興味の発達	読書能力の発達と相関しながら、読書興味もまた段階を追って発達していく。子どもの読書興味はある年齢までは共通性が高いことも知られている。読書指導の中心が、子どもの読書興味の発達に応じて、読書への動機付けをすることにあるということを前提に、この読書興味の発達段階について解説する。	同上	同上
4	読書の導入的な指導	健全な読書活動を始めさせるために、学校図書館を中心とした読書環境を整え、読書活動の効果的な指導法を考えて、読書することを楽しめるように指導していく具体策を解説する。	米谷　茂則（明治大学非常勤講師）	米谷　茂則（明治大学非常勤講師）
5	読書の展開的な指導	各教科や総合的な学習での調べ学習は、学校図書館における学習の中心的な活動である。児童生徒の自主的な活動を支援するための指導技術の具体的な方法を解説する。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
6	読書の発展的な指導	主体的な読書活動を展開するためには、児童生徒自身の読書目標や読書計画が育っていくことが必要になる。読書によって考える習慣を養う具体的な方法について解説する。	米谷　茂則	米谷　茂則
7	読書の治療的な指導－個人読書を中心に	読書主体である個人に対する適切な指導はどうあればよいのだろうか。特に、不読者や不適応な態度を示す者に対して、それぞれの問題点がどこにあるのか明らかにし、望ましい読書活動を営ませるにはどのようにすればよいのか考察する。	増田　信一（放送大学客員教授）	増田　信一（放送大学客員教授）
8	集団読書と個人別読書	集団読書の方法を身につけ、集団で読書し、集団で思考力を高めていくことによって、各個人が読書することに興味を増し、自分から進んで読書しようとする態度を養い、目的をもって読書に励んでいこうとする習慣を身につける。	増田　信一	増田　信一
9	読書資料の多様化と活用	読書活動の本質は想像力を駆使して感動を求めるというところにあるのだが、現代においてはさまざまなメディアが発達し、子どもたちが感動を求める手だてもさまざまに多様化している。日本人の読書観を再検討し、新しい時代における読書文化の形成について考察する。	朝比奈大作	朝比奈大作
10	図書資料の選択	司書教諭の重要な職務の一つは、読書資料の選択収集である。出版界の実情や問題点を十分に把握し、地域の実態や児童生徒の要望をも踏まえた選択・収集について解説する。	米谷　茂則	米谷　茂則
11	読書体験の表現	読書して感動したことや考えたことをそのままにしておかないで、「自分自身の読み聞かせ」、「読書感想画作り」「ブックディベート」「読書発表会」などをすることによって、読書意欲を高めることによって、読書に対する積極性が高まっていく。	増田　信一	増田　信一
12	読書体験の交流	読書活動を活発にするためには、各種の読書体験の交流の機会を多くして、お互いの発表を認め合うことが大切である。「読書週間」「読書集会」「読書クラブ」「調べ学習の発表」などの発表の機会を、全校的な視野に立って計画的に実施する。	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
13	家庭読書との連携	児童生徒の読書活動を発展させ、豊かな人間形成を図っていくためには、家庭や地域との連携が欠かせない。日頃から積極的・継続的な協力関係を築いていく具体的な方法について解説する。	米谷　茂則	米谷　茂則
14	公共図書館などの活用	子どもの読書活動を学校の中だけで豊かにすることはできない。学校外の社会教育施設である公共図書館との連携を図り、卒業後も豊かな読書活動を継続させていく、いわゆる生涯学習活動をも視野に入れて、学校図書館における読書指導のあり方を社会教育との統合という視点で考察する。	朝比奈大作	朝比奈大作
15	環境としての司書教諭	教師主導型の学校教育を、学習者の学習意欲を最優先する教育に変えていくためには、環境としての司書教諭の役割が重要である。物的・人的両面の読書環境面の整備に努め、読書指導や読書相談に取り組まなくてはならない。	増田　信一	増田　信一

＝　情報メディアの活用（‘０５）＝（TV）

〔主任講師：　山本　順一（筑波大学教授）　〕
〔主任講師：　村山　　功（静岡大学教授）　〕
〔主任講師：　岸田　和明（慶應義塾大学教授）〕

全体のねらい

学校図書館は、主体的に学習する児童生徒に対して、伝統的な紙媒体資料からデジタル・コンテンツにいたるまで、多種多様な情報メディアに関して、その歴史を踏まえたうえで、それぞれのメディアの特性を認識し、一定の自律的ルールに則り、効果的に利用する技法を身につけさせなければならない。本講義のねらいは、まさにそのような知識と技術の基礎を与えようとするところにある。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	現代生活と情報メディア	わたしたちは、デジカメ機能まで付加されたケータイ（携帯電話）がなければ一日として生きていけないかのような錯覚を持たされている。ケータイが開く情報環境はサイバー・スペースにつながり、生活構造全体が従来とはまったく異なるものに変貌しつつあるとの強迫観念にとりつかれている。	山本　順一（筑波大学教授）	山本　順一（筑波大学教授）
2	情報メディアの歴史	人類社会は言葉と文字を作り出し、様々なコミュニケーション手段を編み出し、科学技術の進展を通じ多様な記録媒体を活用し、情報知識の伝達、共有の仕組みを整備してきた。古代から21世紀の現代にいたるまでの情報メディアの歴史を振り返り、またデジタル情報が飛び交う近未来を展望したい。	山本　順一	山本　順一
3	伝統的情報メディアとデジタルメディア	伝統的情報メディアである書籍は、利便性の向上のために、目次・索引・脚注など、様々な仕組みを作り上げてきた。しかし、デジタルメディアは、それらの工夫を越える利便性を持っている。情報の利用という観点から、伝統的情報メディアとデジタルメディアについて考える。	村山　功（静岡大学教授）	村山　功（静岡大学教授）
4	学習メディアとしての利点と選択	これまでの学校教育では、教科書とわずかな資料を除いて、メディアはあまり利用されてこなかった。しかし、様々なメディアを適切に利用することで、よりよい学習を実現することができる。学習メディアを選択するために必要な、メディアの特性とその利用方法、指導方法について考える。	村山　功	村山　功
5	インターネットのしくみと活用	1990年代に急速に普及したインターネットは、情報資源の検索・利用に欠かせない存在となっている。学校図書館においても、インターネットを活用した、情報の収集・提供が重要である。このようなインターネットの発達の歴史や基本的なしくみ、図書館における活用法について学ぶ。	岸田　和明（慶應義塾大学教授）	岸田　和明（慶應義塾大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
6	データベースの検索と利用	現在、さまざまなデータベースが開発・作成されており、そこから有用な情報を検索・入手することができる。データベースの種類とそれぞれの特徴について整理する。また、データベースを検索するための基本的な原理としくみ、および、検索のプロセスや評価方法を学ぶ。	岸田　和明	岸田　和明
7	ソフトウェアとその利用	コンピュータ上でプログラムやソフトウェアが動作するしくみについて学ぶ。また、学校図書館の場面でよく活用される、ワープロ、表計算、データベース管理、プレゼンテーションのための各ソフトウェアについて、基本的な特徴・使い方を、具体例を交えて説明する。	岸田　和明	岸田　和明
8	個別学習のための教育用ソフトウェア	学習情報センターとしての学校図書館は、児童・生徒一人一人の学習進度に応じた個別学習の場でもある。個別学習のための教育用ソフトウェアとして、ドリル、チュートリアル、インタラクティブな学習環境を取り上げ、それがどのような学習を支援するかを示し、その効果的な利用方法を論じる。	村山　功	村山　功
9	問題解決学習のための情報探索	いわゆる「調べ学習」のような、児童・生徒が自ら課題を設定・解決していくタイプの学習においては、学校図書館やインターネット等を駆使して、必要な情報を探索することが重要である。そのための方法や、児童・生徒の情報探索行動の性質についての理解を深める。	岸田　和明	岸田　和明
10	学びの共同体と協調学習支援環境	個人がメディアから知識を獲得するのは、学習の一つの側面にすぎない。人は仲間との情報交換や討論を繰り返しつつ、自分たちの理解を作り上げていく。このような学習共同体を作り、よりよい学習を支援していくための、協調学習支援環境について紹介する。	村山　功	村山　功
11	校内における学校図書館メディアの選択と構成	学習者を取り巻くメディア環境と比較して、学校図書館にはデジタル・メディアが十分に整備されているとは言えない。これまでの講義で紹介されてきた学習とメディアの関係を踏まえて、これからの社会を生きる児童・生徒にふさわしい学校図書館メディアの選択と構成について考える。	村山　功	村山　功
12	学校図書館と情報技術	情報化社会の進展に伴って、コンピュータおよびそのネットワークを経由して入手可能な情報の種類と量はますます増加することが予想される。このような状況において、学校図書館が情報技術をいかに取り込んで、高度化していくべきかを、情報技術の発展動向を踏まえて考えてみる。	岸田　和明	岸田　和明

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
13	知的財産権と著作権制度の概要	モノの生産が中進国、発展途上国にシフトし、先進諸国は付加価値の源泉である知的財産権に依存する産業構造の高度化に向かう。学校教育においても、知的財産権ルールに対する意識を啓発することが期待され、情報資料とのかかわりでとくに著作権制度の基本的構造について理解する必要がある。	山本　順一	山本　順一
14	デジタル・ネットワーク社会の陥穽	高度情報通信社会は、デジタル・コンテンツのコピーが地球規模で拡散増殖する社会にほかならない。匿名性を備えた非接触型のサイバー・コミュニティには様々な反社会的行為が蔓延し、しかも拡大の様相を呈している。児童生徒はサイバー・スペースにおける人権の意義を認識しなければならない。	山本　順一	山本　順一
15	学校図書館と情報メディアーこれまで、そしてこれから	伝統的メディア、デジタルメディアと拡散する多種多様な情報メディアを一定の自律的なルールに則り、効果的に利用する技法を小学校低学年・中学年・高学年、中学校、高等学校の学習の場でどのように身につけ活用し生かしていくか、その指導体系を考察し、情報の的確な取り扱い方について検討する。	渡部　満彦（大妻女子大学短期大学部教授）	渡部　満彦（大妻女子大学短期大学部教授）

＝　成人看護学（‘０５）＝（Ｒ）

〔主任講師：　佐藤　禮子（兵庫医療大学副学長）〕

全体のねらい

青年期以降およそ50年間に渡る成人期にある人々の、特徴的な健康障害や突発的な危機をもたらす状況についての理解を深め、成人の健康回復・維持の具体的方法ならびに人生途上の死に直面して人生の終末段階を生きる人々への看護について学ぶ。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	成人期の特徴と生じやすい健康問題	人の生涯発達過程における成人期は、思春期から向老期に至る、特徴的な各期から成る。個々に営む生活は、成人期に特有の健康問題と密接に関係している。これらを充分踏まえた上で、成人個別の援助を行うことが重要であり、成人看護の役割・機能や目的にわたって説明する。	佐藤　禮子（兵庫医療大学副学長）	佐藤　禮子（兵庫医療大学副学長）
2	手術を受ける患者の治療過程と生活過程での援助	手術療法を受ける患者は、その選択までの意思決定、術前の心身の準備や術後の侵襲からの回復、さらには家庭や社会への復帰、術後の自己管理や定期受診など、治療や生活の過程で多くの課題に直面する。それぞれの時期や患者の状態に応じた援助の内容と方法は多岐にわたるが、これらについて説明する。	井上　智子（東京医科歯科大学教授）	井上　智子（東京医科歯科大学教授）
3	慢性的な経過をたどる健康障害とセルフケア	成人期に発症する病気や受傷による健康障害は、多くの場合慢性に経過する。慢性疾患や障害を受けた患者は、自分で生命の危機を予防したり、療養法を身につけたり、社会資源を求めたり、生活上の調整をしながら病気に対処している。そこで、障害受容、社会復帰、自己管理などのセルフケアについて説明する。	野並　葉子（兵庫県立大学教授）	野並　葉子（兵庫県立大学教授）
4	呼吸機能障害に伴う成人への援助	呼吸機能障害を引き起こす要因および日常生活に及ぼす影響について説明する。また、呼吸機能の検査や呼吸機能障害の治療に伴う看護援助および機能障害によって生じる症状と援助について説明する。さらに、呼吸機能障害が現れる疾患をもつ患者の看護問題と、セルフケアについて説明する。	林　優子（京都大学教授）	林　優子（京都大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	循環機能障害に伴う成人への援助	循環機能障害は、生命の危機的状態から日常生活における生活調整の必要性といった様々な健康問題に影響を及ぼす。そこで、循環機能障害に伴う症状や検査・治療に関連する健康問題と合併症の予防のための生活調整に向けた援助について説明する。	野澤　明子（浜松医科大学教授）	野澤　明子（浜松医科大学教授）
6	栄養摂取障害に伴う成人への援助	消化器疾患に伴う栄養摂取障害は、身体の諸機能や心理的側面に影響をもたらし、また「食べる」という生活の営みにも大きな影響を与える。そこで、栄養摂取障害によって生じる症状、必要とされる検査について説明し、さらに消化器外科治療を受ける成人に特有の看護問題とアセスメント方法および患者の取り組みを支援する方法を説明する。	眞嶋　朋子（千葉大学教授）	眞嶋　朋子（千葉大学教授）
7	生体防御機能障害に伴う成人への援助	生体防御機能は、免疫応答に関わる機能と感染・炎症に関わる機能の 2 つに分かれる。この機能障害として、免疫機能低下と感染症に伴う成人への援助を説明する。免疫機能低下に伴う成人への援助では、造血幹細胞移植術時の看護とその倫理的配慮、膠原病などの生活指導を述べる。また、感染症に伴う成人への援助では、疾患と治療の特性を踏まえた感染防御を説明する。	稲吉　光子（北里大学教授）	稲吉　光子（北里大学教授）
8	感覚機能障害に伴う成人への援助	感覚機能の障害は、人間の身体面、心理面に大きな影響をもたらす。また、感覚機能の障害は一見して他者からはわかりにくく、このため様々な心理社会的問題を引き起こす。感覚機能障害がもたらす様々な影響を概説し、機能障害を抱える人々に対するアセスメント方法を説明する。さらに、治療に取り組む人々を援助する方法、および、機能障害と共存する人々を支援する方法を説明する。	佐藤まゆみ（千葉大学准教授）	佐藤まゆみ（千葉大学准教授）
9	糖・脂質代謝障害に伴う成人への療養支援	糖・脂質代謝障害は、生活習慣に起因する疾患の発症や糖尿病や心疾患などの増悪・合併症の出現に大きく関連している。そこで、食生活、喫煙、飲酒、運動、休息といった生活習慣の変容を支援するための生活指導やインスリン自己注射や血糖測定法など療養支援技術について説明する。	野並　葉子（兵庫県立大学教授）	野並　葉子（兵庫県立大学教授）
10	内部環境調節障害に伴う成人への援助	水・電解質の調整やホルモンの分泌調節など内部環境調節障害を引き起こす要因および日常生活に及ぼす影響について説明する。また、水・電解質の調整や調節障害の治療に伴う援助および調節障害によって生じる症状と援助について説明する。さらに内部環境調節障害が現れる疾患を持つ患者の看護問題とセルフケアについて説明する。	林　優子（京都大学教授）	林　優子（京都大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
11	認知機能・コミュニケーション障害に伴う成人への援助	認知機能やコミュニケーション障害は、日常生活上の困難性や、意欲の低下ならびに社会生活における不安や孤立といった影響をもたらす。そこで、機能障害の原因、機能や能力の評価方法、心理社会的特徴、ならびに患者の能力を最大限に生かす援助について説明する。	野澤　明子（浜松医科大学教授）	野澤　明子（浜松医科大学教授）
12	運動機能障害に伴う成人への援助	運動機能障害は、骨折や先天性異常など様々な原因から発症し、人の「活動と休息」に影響を与える。人の活動性が低下すると心肺機能の低下をはじめ、身体の諸機能に悪影響をもたらす、そこで運動機能障害を抱える人の検査、治療、日常生活上の問題について述べ、これらの人々への援助方法について説明する。	眞嶋　朋子（千葉大学教授）	眞嶋　朋子（千葉大学教授）
13	排便機能障害に伴う成人への援助	日常生活行動としての排便に焦点を当て、消化器疾患、脳卒中、脊髄損傷による排便機能障害に伴う成人への援助について説明する。大腸ファイバースコープによる検査・治療時の援助、人工肛門造設術後の合併症予防と生活指導、および脳卒中や脊髄損傷による排便機能への対応について述べる。また、機能障害の原因となるイレウスの予防と改善についても説明する。	稲吉　光子（北里大学教授）	稲吉　光子（北里大学教授）
14	生殖器疾患と性機能障害に伴う成人への援助	前立腺や精巣、子宮・卵巣などの生殖器の疾患を持つ人々は、その治療過程のみならず治療終了後にも様々な心身の苦痛や生活上の困難に遭遇する。特に生殖器は性行動・性機能を司る重要な機能を有し、その障害はセクシュアリティの障害として広く人々の生活や人生に影響を及ぼす。そこでこれらの人々への援助について説明する。	井上　智子（東京医科歯科大学教授）	井上　智子（東京医科歯科大学教授）
15	がん罹患及び人生の終末期を生きる人への援助	がんに罹患した人は、発生部位や種類などによって異なるが、概ね病名と予後の告知、がん治療、癌と共に生きるといった問題を抱え、援助を必要とする。また、人生途上で死に直面し、終末段階を生きる人には、家族を含んで特別な援助を行う必要がある。以上について説明する。	佐藤　禮子（兵庫医療大学副学長）	佐藤　禮子（兵庫医療大学副学長）

＝　老年看護学　（‘０４）＝（Ｒ）

〔主任講師：　正木　治恵（千葉大学教授）〕

全体のねらい

人は老年期までの長い人生を生き抜くものであること、老化により体力、気力が衰えてなお、人間的に豊かに暮らすことができること、看護はそれにいかに応えることができるか、という視点に立ち、高齢者の生命と健康生活を支える看護を実践していくための基本的知識・技術を習得することをねらいとする。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	老年期を生きる人々の特徴と老年看護の目標	社会の変化の中で高齢者を捉え、看護する立場から、老年期を生きる人々とその生活を理解する方法について解説する。また、老年看護における対象の特性、ならびに老年看護の目標と基本姿勢について述べる。	正木治恵（千葉大学教授）	正木治恵（千葉大学教授）
2	高齢者保健施策と高齢者ケア施設	高齢者ケアを方向付ける法規として老人福祉法、老人保健法、ゴールドプランを概説する。高齢者ケアを支える諸施設および職種とその役割について述べる。また、高齢者をとりまく社会の変化とそれに対応した看護師の役割を考察する。	勝野とわ子（東京都立保健科学大学教授）	勝野とわ子（東京都立保健科学大学教授）
3	加齢に伴う諸機能の変化と健康生活への支援	高齢者の身体的機能、精神的機能、社会的機能について、加齢に伴う変化の特徴を概説する。高齢者看護の目標とそれを達成するためのヘルスアセスメント方法の原則とポイントを述べる。また、高齢者への効果的なコミュニケーション技術と感覚器（聴覚、視覚など）のアセスメントの重要性について解説する。	同　上	同　上
4	健康生活維持のためのマネジメント	高齢者の健康生活を維持するために必要な事項として、活動と休息のバランス、運動の取り入れ方、高齢者の睡眠の特徴と支援などについて述べる。さらに引きこもりの誘引と弊害、転居の高齢者に及ぼす影響、また、事故を予防する生活環境の調整について説明する。高齢者が安全に生きがいをもって日常生活を営むための支援について説明する。	同　上	同　上
5	生命維持のためのマネジメント１－呼吸・感染管理	高齢者の呼吸機能はどのように低下していくのか、その影響要因は何かについて解説し、呼吸機能のアセスメント方法について述べる。また、高齢者に起こりやすい呼吸障害や感染症、ならびに予防のための方法について述べる。	正木治恵（千葉大学教授）	正木治恵（千葉大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
6	生命維持のためのマネジメント２－摂食・栄養管理	高齢者の食事摂取がどのように障害されていくか、その影響要因は何かについて解説し、栄養状態、摂食のアセスメント方法について述べる。嚥下障害等障害に応じた栄養摂取と食にまつわる心理・社会的側面を考慮した援助方法について述べる。	清水安子（大阪大学大学院教授）	清水安子（大阪大学大学院教授）
7	生命維持のためのマネジメント３－排泄・皮膚管理	高齢者の排泄（排便・排尿）能力がどのように障害されていくか、その影響要因は何かについて解説し、アセスメント方法と薬物管理を含めた援助方法について述べる。また、高齢者の皮膚とその特徴について解説し、スキンケアの方法について述べる。	同上	同上
8	老年期の疾病・治療とリハビリテーション１－身体運動機能	老年期に生じがちな身体運動機能の障害について説明する。またその影響として現れる行動範囲の縮小および、活動性の低下、廃用性変化、転倒・骨折の危険性等に関するアセスメントと看護、および予防について説明する。	酒井郁子（千葉大学大学院准教授）	酒井郁子（千葉大学大学院准教授）
9	老年期の疾病・治療とリハビリテーション２－ADL（日常生活動作）	老年期における ADL と生活意欲の捉え方について述べる。次にいきいきとリハビリテーション取り組むために必要な看護の方法について説明する。	同上	同上
10	老年期の疾病・治療とリハビリテーション３－周手術期	手術を受ける高齢者に特有の、痛みや睡眠障害、せん妄状態などの身体的、精神的課題、ならびにアセスメント方法を説明する。また手術に伴う苦痛を軽減し周手術期を高齢者が乗り越えるための看護の方法について述べる。	同上	同上
11	痴呆性高齢者の理解とケアの変遷	痴呆性高齢者のケアの変遷を説明し、痴呆性高齢者が急増する時代の中で看護師が果たす役割とあるべきケアの方向性を確認する。痴呆性高齢者の全人的ケアを展開していくための基礎として、当事者体験をベースにしながら複合的な障害と潜在力の理解、それらを活かした先進的なケアの実例を紹介する。	永田久美子（高齢者痴呆介護研究研修東京センター主任研究主幹）	永田久美子（高齢者痴呆介護研究研修東京センター主任研究主幹）
12	痴呆性高齢者のケア実践とチームアプローチ	痴呆性高齢者のケアの基盤となる環境作りとコミュニケーション、日常生活支援に関する考え方と技術を説明しながら、現場で遭遇する痴呆性高齢者の課題への取り組み方を示す。あわせて痴呆性高齢者のケアで不可欠なチームアプローチを説明し看護師の活躍例を紹介する。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
13	要介護高齢者と家族の生活支援	要介護高齢者と家族の生活や心情について概説する。そして高齢者と家族を理解することの難しさと重要性を知り、他機関、他職種と協働しながら支援していく援助方法について述べる。	上野まり（神奈川県立保健福祉大学講師）	上野まり（神奈川県立保健福祉大学講師）
14	終末期を迎える高齢者と家族への支援	人生の最終段階を生きる高齢者と看とる家族のQOLや、個々の高齢者やその家族が人生をより豊かに終えることを支援する方法について述べる。また、事例を通して、「老いて死ぬこと」を身近に感じることの意味についても考察する。	同上	同上
15	老年看護学の課題	保健医療制度の変革の中にある高齢者ケアについて、看護師の果たす役割の変化をとらえ、倫理的課題を含む老年看護学の今後の展望について考察する。	正木治恵（千葉大学教授）	正木治恵（千葉大学教授）

＝　小児看護学（‘０５）＝（TV）

〔主任講師：筒井　真優美（日本赤十字看護大学教授）〕

全体のねらい

近年の子どもと家族を取り巻く社会環境の変化は子どもの心身の健康状態に影響を及ぼし、また医療技術の進歩は多くの子どもの命を救うこととなったが、一方で入院している子ども達の病気は重症化している。

こうした状況の中で、21 世紀をになう子ども達が最善の利益を守られ、健やかに成長発達することができるようにそれぞれの健康レベルに応じた援助について学び、さらに、子どもと家族に対する今後の課題や私達の役割について考える。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	小児看護の動向と看護の役割	子どもと家族が置かれている状況を、社会環境と医療環境から考える。子どもと家族の最善の利益を守るための、小児看護における看護の役割を説明する。	筒井真優美（日本赤十字看護大学講師）	筒井真優美（日本赤十字看護大学講師）
2	乳児と家族	乳児は生理的適応過程にあり、身体機能が著しく成長発達しながら栄養・睡眠・排泄リズムや言語を獲得し、基本的信頼関係を築く過程でもある。この成長発達を育む家族の役割、子どもと家族への支援について説明する。	江本リナ（日本赤十字看護大学講師）	江本リナ（日本赤十字看護大学講師）
3	幼児と家族	幼児期は心身の発達が著しく、基本的生活習慣を習得していくプロセスでもある。運動機能の発達により行動範囲が広がり、認知や言語の発達によりコミュニケーション能力が向上する。この発達プロセスと子どもを育むための家族の役割、子どもと家族への支援について説明する。	筒井真優美	筒井真優美
4	学童期・思春期の子どもと家族	学童期は学校生活を中心として友達との関わりの中で達成感や有能感を獲得していく時期である。また、思春期は身体の劇的な成長や性的な変化を体験し、精神的な動揺の大きい時期であるが、その中で自我同一性を模索し、獲得していく。こうした子どもの成長発達の特徴と家族関係の変化について述べる。	飯村直子（日本赤十字看護大学准教授）	飯村直子（日本赤十字看護大学准教授）
5	病気や入院が子どもと家族に与える影響とその看護	病気や入院が子どもと家族に与える影響は大きく、様々な因子によって変化する。子どもの発達段階別、入院形態別などによる援助、および面会や付き添いについて説明する。	筒井真優美	筒井真優美

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
6	急性期にある子どもと家族 その①	急性期疾患を抱える子どもの場合、症状の悪化を防ぎ、安定した状態になることを目指す。そこで、発熱・脱水・呼吸困難・けいれんなど急性期の主な症状とその病態、観察ポイント、症状緩和に対する援助、家族への支援について説明する。また、乳幼児に多くみられる乳幼児突然死症候群についても触れる。	江本　リナ	江本　リナ
7	急性期にある子どもと家族 その②	小児期に発症する主な感染症の特徴、観察ポイント、発症と伝播を防ぐ予防接種について説明し、感染症の子どもと家族への援助について述べる。また、緊急度の把握、受診時の子どもと家族の緊張と不安の軽減に対する援助についても説明する。	江本　リナ	江本　リナ
8	慢性期にある子どもと家族／外来における看護	現在、小児特定慢性疾患治療研究事業の対象となっている疾患群は11疾患群である。慢性疾患を抱えながら学校や幼稚園・保育園に通い、地域で生活している子どもと家族に対して必要とされる継続的な援助について説明する。さらに、外来の3つの役割(日常的な疾患への対応、継続的なケアを必要とする子どもへの援助、健康増進活動)について述べる。	飯村　直子	飯村　直子
9	子どもへの説明	子どもが医療を受ける際、説明を受けることで自ら取り組むことが出来るようになる。そのためには、子ども自身が納得して同意すること（ｲﾝﾌｫｰﾑﾄﾞ・ｱｾﾝﾄ）が重要である。ｲﾝﾌｫｰﾑﾄﾞ・ｱｾﾝﾄに必要な子どもの能力、ｱｾﾝﾄの要素、家族や医療者の役割について、説明する。	筒井真優美	筒井真優美
10	先天性の疾患を持つ子どもと家族	子どもの先天性の疾患は、その発生機序にしたがって遺伝子病、染色体異常、胎芽病、胎児病に分けられる。それぞれの代表的な疾患を挙げ、その治療、予後、また、子どもと家族への援助について述べる。	飯村　直子	飯村　直子
11	手術を受ける子どもと家族の看護	子どもの手術の特徴と手術を受ける子どもと家族への援助について述べる。また、近年増加している日帰り手術について説明する。	飯村　直子	飯村　直子
12	子どもの事故と救急	不慮の事故は常に乳幼児死亡の原因の上位を占めている。発達段階別に子どもの事故の特徴を概観し、その予防策について述べる。また、気管内異物、誤飲、溺水、熱傷などの際の救急法について説明する。	飯村　直子	飯村　直子

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
13	障害を持つ子どもと家族／在宅ケア	障害児のなかでも特に、医療的ケアを必要とする長期入院児とその家族が置かれている状況を考え、生活場所の意思決定、在宅に移行するための準備など、退院に向けた支援について説明する。さらに、子どもが成長発達に応じた通常の生活をするために、在宅ケアにおける看護師の役割を説明する。	鈴木真知子（京都大学教授）	鈴木真知子（京都大学教授）
14	隔離・活動制限／痛み	子ども自身や周囲の人を感染から防ぐために隔離が必要な場合や、治療・検査のために一時的に体動が制限される場合の子どもへの影響と、子どもと家族への支援について説明する。また、子どもが体験する痛み、影響する要因、痛みの客観的評価、痛みの緩和への援助について説明する。	江本　リナ	江本　リナ
15	子どもの死と家族への看護	死にゆく子どもとその子どもを看取る家族にどのような援助が必要かを考える。死に対する子どもの反応や、他人の死を子どもにどのように伝えるかなど、死をめぐる課題を説明する。また、災害（自然災害及び人為的災害）時の子どもと家族への援助について考える。	筒井真優美	筒井真優美

＝　母性看護学（‘０５）＝（TV）

〔主任講師：　小松　美穂子（茨城キリスト教大学教授）〕

全体のねらい

女性の健康について思春期から老年期までの身体的、心理・社会的変化プロセスからとり上げ、それらの変化にスムーズに適応するための支援について理解を深める。さらに焦点を子どもを生み、育てる時期にある女性と男性・家族に置き、かれらが安全で満足する生活をおくるための健康支援について学ぶ。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	母性看護学の概要	母性看護学を支える主なる概念として母性（女性）の健康観、関連する諸理論を説明し、母性看護の役割とこれからの方向性について考える。具体的にはリプロダクティブ・ヘルス／ライツ、セクシュアリテイ、セルフケア、家族発達などが主要概念となる。また女性ライフサイクルからみた健康問題や母子の健康上のニーズについて統計指標から説明し、現状の課題について考える。	小松　美穂子（茨城キリスト教大学教授）	小松　美穂子（茨城キリスト教大学教授）
2	女性の健康と保健医療システム	ウィメンズヘルスという概念がどのような経緯で生まれてきたのか、さらにジェンダー概念の導入で、性差医療がクローズアップされようしているが、その中で女性の健康をどのように考えていくべきかを学習する。さらに現在の保健医療システムが女性の健康をカバーするものになっているかを検証しながら、今後の女性特有の保健医療システムあり方を考察する。	吉沢　豊予子（東北大学教授）	吉沢　豊予子（東北大学教授）
3	女性の健康に関する意思決定	インフォームドコンセント等の普及で様々な健康にかかわる場面で、女性たちは意思決定が迫られている。 最初に女性たちの意思決定の特徴について解説する。次に女性たちはどのような場面で意思決定をするのかについて、例えば、子どもを産む、産まないの選択、どのような避妊方法を用いるのかの選択、治療の選択など多々ある。これらを取り上げ女性の意思決定の方法とそれを看護者はどのように支えるか、さらに自ら意思決定する重要性について説明する。	吉沢　豊予子	吉沢　豊予子
4	性と生殖のメカニズム	「性とは何か？」と問われれば、返答に苦慮するほどの意味が含まれているだろう。今回はその「性」に含まれる意味や、ヒトの発生、さらには妊娠成立の前提となる卵子と精子の成熟（いわゆる性周期とホルモン動態）、並びに受胎のメカニズムについて説明する。	佐藤　喜根子（東北大学教授）	佐藤　喜根子（東北大学教授）
5	妊娠期の看護　I 妊婦と家族のアセスメント	妊娠は、生理的かつ健康的な現象であるが、妊娠により生じる様々な変化への適応がうまくいかない場合には心身の異常や生活障害、あるいは家族の危機を引き起こす可能性がある。いわば「半健康状態」と捉えられる。妊娠経過は順調か、快適な日常生活を過ごせているか、新たに子どもを迎える家族としての準備は進んでいるか等、妊婦とその家族を理解する上で必要な身体的・社会的アセスメントの視点と具体的方法について説明する。	坂間　伊津美（茨城キリスト教大学准教授） 小松　美穂子	坂間　伊津美（茨城キリスト教大学准教授） 小松　美穂子

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
6	妊娠期の看護 Ⅱ 妊婦と家族のケア	妊娠期には、妊婦の多くが家庭で生活している。したがって、外来での健康診査や健康教育は、看護職が妊婦や家族に出会える重要な機会であり、そこでなされる看護は妊婦の健康を方向付けるという意味合いをもつ。「セルフケア」「主体性」をキーワードとしながら、母子と家族が、安全に快適に妊娠期を過ごし、分娩・育児に向けての準備を行えるための看護ケアについて説明する。	坂間　伊津美 小松　美穂子	坂間　伊津美 小松　美穂子
7	分娩期の看護 産婦と家族のアセスメントとケア	現在の出産を取り巻く環境は、非常に多岐にわたり、それゆえに出産する産婦のみならず家族の出産に対するニーズも多様化している。出産場所も病院のみならず助産所や自宅へと拡大している。また、高度医療化に伴う分娩管理も行われている。今回は、このような日本の出産事情について広く理解を深めながら、産婦と家族が自分の分娩に満足しながら新しい家族を迎えていくための分娩期の看護について説明する。	跡上　富美 (東北大学大学院准教授)	跡上　富美 (東北大学大学院准教授)
8	産褥期の看護 Ⅰ 産褥早期（入院中）の褥婦と家族のアセスメントとそのケア	産褥早期の褥婦は、妊娠・出産の経過からの回復過程にあると同時に、新生児に慣れ授乳など育児の方法を獲得するなど多くの項目を学習する過程にある。初産・経産の別や妊娠・出産の経過などの相違から産褥期の褥婦の状況は個々に大きく異なっており、産褥早期の褥婦のケアにあたってはこのような個人差を踏まえた丁寧なアセスメントが必要である。本章では、このような産褥早期の褥婦のアセスメントとケアについて説明する。	成田　伸 (自治医科大学教授)	成田　伸 (自治医科大学教授)
9	産褥期の看護 Ⅱ 家庭での褥婦と家族のアセスメントとそのケア	出産で入院していた施設から退院した子どもと共に退院した褥婦は、家族の協力を得ながら、子どもの育児を自力で行うまでに自立していく。家庭での褥婦と家族のアセスメントにあたっては、褥婦と家族のセルフケア能力を十分アセスメントし、必要なケア計画を立てていく必要がある。また家族の関係性をアセスメントし、母子が家族に十分サポートされているかどうか判断することが必要となる。本章では、このような家庭での褥婦と家族のアセスメントとケアについて説明する。	成田　伸	成田　伸
10	新生児期の看護Ⅰ 新生児のアセスメント	新生児は、出生直後から子宮外生活への適応に向けた複雑な過程を開始する。新生児のアセスメントは、看護の重要な機能である。アセスメントの目的は、①健康状態に関する出生前の影響を明らかにし、リスク状態を確認すること、②新生児の基本情報を提供すること、③異常や現在の健康問題または潜在的健康問題を明らかにすること、④新生児への適切な看護ケアを立案し、両親の教育ニーズを明確にすることである。また、アセスメントには、母親の既往歴や妊娠・分娩歴、身体的・行動学的評価が含まれる。ここでは、アセスメントの視点について説明する。	近藤　好枝 (慶應義塾大学教授)	近藤　好枝 (慶應義塾大学教授)
11	新生児期の看護Ⅱ 新生児のケア	正常新生児のケアの目標は、①子宮内生活から子宮外生活への生理学的適応を支援する、②感染を避けることによって安全な環境を提供する、③両親とのアタッチメントを促進するための機会を提供する、④両親が知識や技術を修得し、新生児のケアに自信がもてるように支援することなどである。ここではそれに加えて、新生児の健康を維持促進するための介入および低出生体重児のケアについても概説する。	近藤　好枝	近藤　好枝

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	健康障害のある妊産婦へのケア	かつては母体管理を第一に考え、如何に無事に妊産褥期を過ごさせるかが優先された。しかし最近の医療現場は、超音波診断技術等の進歩により、母体の安全を確保しつつ、胎児に生存のチャンスと可能な限りの Quality of Life を与えようと日々努力している。 今回は妊娠期に健康障害として多い切迫流早産を中心に、その他の合併疾患も交えつつ、妊娠初期・中期・末期それぞれに健康障害としてチェックすべき観察ポイントを挙げながら、いかに看護ケアを実施していけばよいかを、具体的に症例を示しながら展開していく。	佐藤　喜根子	佐藤　喜根子
13	不妊と看護	「不妊」は、リプロダクティブヘルスの問題であり、女性だけの問題ではない。しかし、女性は不妊であることや不妊治療に伴い、身体的・心理社会的に多くのストレスを受けているとされる。不妊症の原因、不妊治療の種類を概観し、不妊治療を受ける夫婦の心理および看護の役割について、生殖をめぐる倫理も含め説明する。	森　恵美（千葉大学教授）	森　恵美（千葉大学教授）
14	女性のライフサイクルと健康　I －思春期・成熟期の健康－	14回、15回では一生涯を通じた女性の健康について、各ライフステージにある女性たちの身体的、心理社会的、そして文化的背景を考慮した健康のあり方を考える。思春期は初経から始まり、月経に関する健康問題、栄養に関する健康問題、性に関する健康問題、メンタルな健康問題について、成熟期では月経にまつわる PMS、女性特有の生殖器系の健康問題、性感染症、DV に関する問題、さらに健康問題に女性たちはどのように取り組み、セルフケア力をつけていくのか、看護職はそれをどのように援助するかについて説明する。	吉沢　豊予子	吉沢　豊予子
15	女性のライフサイクルと健康　II －更年期・老年期の健康－	更年期にある女性は身体的に閉経という体験をする。これに伴い今後どのような身体的健康問題を抱えるようになるのか、心理社会的にどのような変化が出てくるのかを学習する。また、それに対し女性たちはどのように対処すべきであるのか、看護職はどのように援助するかについても学習する。次に老年期にある女性の特徴を身体的、心理社会的な側面から学習する。さらに中高年女性の特徴的な健康問題として、骨粗鬆症、尿失禁、生殖系の健康問題、乳がん、メンタルな健康問題についても説明する。	吉沢　豊予子	吉沢　豊予子

＝ 精神看護学（‘０４）＝（Ｒ）

〔主任講師：　大西　香代子　（三重大学教授）〕

全体のねらい

精神看護学とは、対人関係技術を用いて精神を病む人への看護を提供し、また、人々の精神健康の保持増進にかかわる実践分野の学問である。
人々の生活が複雑になるにつれ、精神の病み方も多様な現われをするが、各疾患に共通した看護のあり方を主に理解する。また、精神科医療・保健・福祉の分野は、歴史的な変遷と社会のありように大きく左右される分野であり、最近の動向を踏まえて看護のあり方を探求し、実践能力の向上をはかる。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	精神看護学の基本概念	精神看護の実践に際して、患者の回復・成長発達にとって人と人との関係性が持つ意味を理解する。 対人関係技術としての観察、コミュニケーション、治療的自己活用、自己概念、防衛／適応機制にについて理解する。	羽山　由美子（大阪府立大学教授）	羽山　由美子（大阪府立大学教授）
2	精神科医療の歴史と現在の状況	精神科医療・保健・福祉の現状を理解するにあたり、その歴史的変遷を踏まえて、現在の特徴を知る。 看護は、そうした社会状況の中にあって実践されており、患者（障害者）が直面する偏見・スティグマ・苦難への共感とともに、それらの改善を目指す必要性を理解する。	同　上	同　上
3	精神保健福祉法と患者人権擁護	精神科医療・保健・福祉の実践は精神保健福祉法に基づいていることを理解する。法の理念と、それによって医療・看護の提供がどのようになされるのかを学ぶ。とくに、患者の人権保障の精神について理解を深め、看護がはたす人権擁護の役割を学ぶ。	大西　香代子（三重大学教授）	大西　香代子（三重大学教授）
4	統合失調症を病む患者の看護	統合失調症の病理と治療について概観し、病いの経過に応じた各時期の看護ケアについて学ぶ。入院時の看護ケアの特徴を理解するとともに、インフォームド・コンセントのあり方も含む。	羽山　由美子	羽山　由美子
5	精神科急性期状態にある患者の看護の特徴	統合失調症を中心に、精神症状が活発な時期の看護ケアについて、ケアプランの各過程の特徴と関わり方、および服薬心理教育と薬物治療の意味について学ぶ。 また、人格障害・神経症性障害についても学ぶ。	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
6	慢性期精神障害者のリハビリテーション看護の特徴	長期入院者（6-7割が統合失調症）の退院・社会復帰にむけての看護支援のあり方について、社会参加、自己決定やノーマライゼーションの概念を手がかりに、病院から地域へのケアを考える。SSTをはじめ、リハビリテーション看護を含む。	上野　恭子（順天堂大学准教授）	上野　恭子（順天堂大学准教授）
7	気分障害を病む患者の看護	喪失体験やストレスが重なり、職場や学校でうつ状態が続く人への支援について、また、状態が悪化しうつ病を発症して入院した患者への看護について、とくに薬物治療を支えるうつ病の看護について学ぶ。また、躁うつ病についても含む。	同　上	同　上
8	事例検討による看護ケアの振り返り	事例検討をとおして病棟での看護を振り返り、患者とのどのような関わりが、患者の成長につながるか、また、どのような医療チームの組み方が有効かを考える。（看護職の支えあい方についてを含む。）	伊藤　ひろ子（宮城大学教授）	伊藤　ひろ子（宮城大学教授）
9	エスノグラフィーを通してみた看護の実践	入院患者と看護者との日々の実践におけるかかわりを、エスノグラフィーによる記述をとおして描出し、それによって得られた精神看護の特徴を理解する。	松澤　和正（国際医療福祉大学准教授） 羽山由美子	松澤　和正（国際医療福祉大学准教授） 羽山由美子
10	精神障害者当事者活動と看護のかかわり方	精神障害者の社会復帰と地域ケアにおいて、当事者活動を理解することは支援のまずは第一歩である。1960年代より家族会をはじめとする家族当事者活動、そして80年代後半以降の障害者自身による当事者活動が発展してきた経緯を学び、看護者は当事者とどのようにかかわることが求められているかを学ぶ。	羽山　由美子	羽山　由美子 ｹﾞｽﾄ: 小金沢　正治（東京都精神障害者連合会）
11	地域ケアの場における看護者と当事者の向き合い方	地域の社会復帰施設で,看護者はどのような役割を担っているか、とくに当事者との向き合い方の実践例をとおして、看護が担う地域ケアの特徴を理解する。 生活支援センター、クラブハウスなどでの看護の役割についてを含む。	伊藤　ひろ子	伊藤　ひろ子
12	地域ケアのあり方と精神科訪問看護	保健所からの訪問、退院後アフターケアとしての病院からの訪問看護、また看護職・介護職が提供する訪問活動など、さまざまな精神科訪問看護のあり方を理解し、その実践例について学ぶ。	羽山由美子	羽山　由美子 ｹﾞｽﾄ: 千葉　信子（訪問介護ｽﾃｰｼｮﾝたんぽぽ所長）

夏季集中科目

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
13	精神看護の新たなる分野:リエゾン精神看護	精神看護の知識・技術を応用して、総合病院に入院する患者のさまざまな心理的問題を扱うリエゾン精神看護の役割について学ぶ。また、がんなどの慢性疾患およびターミナル期の患者へのケアについても含む。	羽山　由美子	羽山　由美子
14	精神看護の新たなる分野:司法精神看護	2003年度に法案が成立し、いよいよわが国でも本格的に司法精神医療が実践の緒に就く。専門病棟の看護管理と看護ケア、退院にむけての準備や退院後のフォローアップなど,欧米での知見を活用しながら日本での実践のあり方について学ぶ。	同　上	同　上
15	諸外国の精神看護事情と最近の研究動向	英米を中心に、北欧やその他アジアの国々の精神科医療と看護を概観し、日本における今後の課題について考える。精神看護学の理論・研究動向について含む。	同　上	同　上

この冊子に掲載した平成19年度新規開設科目の講義内容は、教材の原稿等を作成する時点で主任講師等が執筆しており、実際に印刷教材及び放送教材を制作する時点で内容等を組み替えていることもあり、必ずしも最終的な印刷教材・放送教材と一致していない部分がありますので、ご容赦ください。

なお、放送大学ホームページに掲載されている講義内容については、最新の内容にリアルタイムで更新しております。

授業科目案内：http://www.u-air.ac.jp/hp/kamoku/index.html

R100
古紙配合率100%再生紙を使用しています